

國譯大藏經

經部

第六巻

目次

以上

國譯大方廣佛華嚴經

巻の第十七

金剛幢菩薩囘向品第二十一の三

〔一〕「佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第六の隨順一切堅固善根囘向と爲す。

〔二〕此の菩薩摩訶薩は若し王たらん時は、勝れたる國土を得、安隱豐樂にして、怨敵を降伏し、治むるに正道を以てし、法の如く敎化して、功天下を葢ひ、德十方を覆ひ、萬國歸順して敢て命に違ふもの無く、兵杖を用ひずして、自然に泰平に、四攝の法を以て善く衆生を攝し、轉輪聖王の七寶成就す。此の菩薩摩訶薩は、堅固にして自在の功德に安住し、眷屬和睦して沮壞す可からず、端正なること第一にして、觀る者厭くこと無く、一切の惡を離れて、功德具足し、相好成滿して顏容殊特に、身體支節は、端嚴にして周備し、鮮潔明淨にして見る者歡喜す。體力堅固にして毀壞す可からず、天帝那羅延の身を攝取す。

【一】第六、隨順一切堅固善根囘向。

【二】初めに行所依の身を擧ぐ。

(三)諸の業障を離れて清淨の業を得、一切の布施を具足し修行す。若しくは飮、食、種種の美味、諸の乘、衣服、衆の妙華鬘、雜香、塗香、牀座、住處、房舍、燈明、湯藥、寶器、莊嚴せる寶車、象馬法王、衆の妙寶座、諸の蓋、幢旛、種種の雜寶、妙莊嚴具、清淨の天冠、髻中の明珠を施し。若しくは獄囚の諸の楚毒を受くるを見ては大悲心を起し、諸の庫藏、妻子、眷屬を捨て、身を以て獄に處し、苦の衆生を救ふ。獄囚に送られ死地に趣くを見ては、自ら己が身を捨てて、以て彼の命に代り。若しくは人有り乞はんには、連膚、頂髮、髻中の明珠、眼耳鼻根、牙齒舌根、頭頂、手足、身を壞りて血を出だし、髓肉、及び心、腸腎肝肺、支節諸骨、厚皮薄皮、或は手足の指、連肉指爪をも(皆悉く與へ)。正法を求めんが爲めには、身を火坑に投じ。法を求めんが爲めの故に、身を擧げて具さに無量の衆苦を受け。法得難きが爲めの故に、能く大地、四海の國土、大小の諸城、村邑丘聚、國土の豐樂なる、人民の熾盛なる、園林浴池、華果の繁茂せる、無量の莊嚴、天下の太平にして諸の怨敵無き、金銀の寶藏、妻子眷屬を捨て、自在の法王として。一切の屠殺惡業を斷除せしめ、普く無畏を施す。若し人有りて畜類及以人根を毀壞し、身を殘闕せしむるを見ば、大悲心を起こして之を救度し。大音聲を以て普く一切に告げて佛の名を聞かしむ。或は大地を施して佛の殿堂を起し、僧の房舍を造り、菩薩聖衆の福田を安處し、或は尊廟を建てて一切に隨應し。或は僮使を施して、三尊なる父母と知識と一切の

【三】次に身に依りて行を起す、卽ち是れ菩提及び衆生回向なり。初に略して行事を標するに七十事あり。

福田とに供給し。身を以て布施して一切に給使し。復た自身を以て普く諸佛を覆ひ。自身を以て一切の衆生に施し。常に己が身を以て諸佛に奉給し。國土及び王の京都、嚴飾せる大城を布施し。又寳女侍人、眷屬、妻妾、男女を施し。或は施すに家の種種の莊嚴、遊戲の園林を以てし。或は無數の大衆の施會を設けて、諸惡を遠離す、衆生を淨くせんが故なり。悉く一切の資生の具を捨て、心に貪著せず、果報を求めず、悉く能く捨離す。

若し諸の衆生の、人と非人と、貧賤と富貴と、或は善、或は惡、種種の福田、遠近の諸方より一切悉く來り、或は自ら來りて求め、或は來らずして求むるに、一切悉く施して慳吝する所無く、是の如きの念を作さく、「攝取して一切の堅固なる善根の回向に隨順し、善色を攝取して、一切の堅固なる善根回向に隨順し。善の受想行識を攝取して、一切の堅固なる善根回向に隨順し、國土を攝取して、一切の堅固なる善根回向に隨順し。勝れたる人を攝取して、一切の堅固なる善根回向に隨順し。眷屬を攝取して、一切の堅固なる善根回向に隨順し。財利を攝取して、一切の堅固なる善根回向に隨順し。一切の惠施を攝取して、一切の堅固なる善根回向に隨順せん」と。

【四】以下、廣く行相を明かす。（前の七十門の大施の行を顯はす）

(四)菩薩摩訶薩は是の如きの諸の善根を回向し已りて、是の如きの念を作さく、「我行ずる所の施は無貪無著無染にして解脫し、其の心眞直にして慳惜する所無く。此の惠施の功德の力を以て、一切の

衆生をして大智慧を得、心に障礙無く、食を知り食を見て、食著する所無く、但(五)法食を以て永く(六)摶食を離れ、智慧充滿して善根を攝取し、法身智身、清淨に遊行して、衆生を化せんが爲めに摶食を受くることを現ぜしめん」と。

菩薩摩訶薩、若し飲を施す時は、是の如く回向すらく、「此の善根を以て一切の衆生をして、法の甘露を飲みて、菩薩の道を成じ、渇愛を除滅して、常に大乘を樂ひ、五欲の愛を離れて淨法の愛を得しめ、法身柔輭となり、三昧を以て心を調へ未だ曾て散亂せず、智慧の海に入りて、大法の雲を興し、法の甘露を雨らしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の飲を布施する時の善根回向なり。

菩薩摩訶薩、若し衆味を施さば、所謂、辛酸鹹淡甘苦、是の如きの無量の餚饍香味は、之を食ふに厭くこと無く、能く四大をして柔輭にして安樂ならしめ、身體を充滿し、氣力を康强ならしめ、歡喜の心を發して諸根を明淨にし、內身を嚴持し長育し柔輭にし、肌色光潤ありて、一切の毒害も壞すること能はざる所、衆の疾を消滅して、無患の法を得しむ。菩薩摩訶薩は是の如き等の無量無數の諸の美味を施す時には、是の如く回向すらく、「此の善根を以て一切の衆生をして上味の相を得て甘露を充滿せしめ、一切の衆生をして心に法味の深智に安住することを得て、悉く一切衆味の業を知らしめ。一切の衆生をして悉

【五】法食。禪悅食、法喜食等の如き、法味に依りて慧命を長養するをいふ。

【六】摶食。又は揣食ともいふ、五穀肉菜等の有形の食物のこと、四種食の中の段食なり。

く無量なる深妙の法味、了法界智を得て、實際に安住し、法城に到ることを得しめ。一切の衆生をして法雲普く雨らして法界に充滿し、悉く能く衆生を調伏し成就せしめ。一切の衆生をして勝れたる智味、無上の法愛を得て、身心を柔輭ならしめ。一切の衆生をして上味の相を得て、衆味に著せず、一切の佛法の諸願を修習せしめ。一切の衆生をして皆善く和合して一味の法を得て、諸佛の無二の法を出生せしめ。一切の衆生をして、無礙の味を得、一切智の乘に於て、不退轉を得しめ。一切の衆生をして一切の佛の無雜の法味を得て、善能く一切の諸根を分別せしめ。一切の衆生をして法味充滿して、無礙の佛法に具足し安住せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の衆味を施す時の善根回向にして、一切の衆生をして無礙の智身を具足することを得しむ。

菩薩摩訶薩は乘を布施する時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切衆生をして一切智の乘に乘じ、大乘、不可壞の乘、勝乘、上乘、速疾乘、大力乘、功德成就乘、出世間乘、無量の諸の菩薩を出生する乘を具足し、功德を滿足せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の乘を布施する時の善根回向なり。

菩薩摩訶薩、衣を布施する時には、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして慚愧の法服を得て、以て其の身を覆ひ、諸の陋形を離れて端嚴殊妙となり、顏容鮮澤に、膚體柔輭にして、身上の樂、諸佛の樂を得、無量の法身の普く一切に應ずる無上淸淨なる一切種智を得しめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の衣を布施する時の善根回向なり。

菩薩摩訶薩は、衆華、鮮明の香華、種種色の華、無量樂の華、善現の華、樂無厭の華、一切時の華、天華、人華、世の樂ふ所の華、無上の香華、是の如き等の無量の衆華を布施せんに。菩薩摩訶薩は、悉く以て現在の十方一切の諸佛を供養し、及び滅度の後は塔廟、諸の法施の者、比丘僧寶、一切の菩薩、諸の善知識、聲聞緣覺、父母親族、乃至自身より下のもの、及び貧賤なるものに供養す。菩薩摩訶薩は華を布施する時には、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして悉く諸佛の三昧華を得て、清淨に開敷し、妙法の衆華を其の心より出さしめ。一切の衆生をして觀るに厭足無くして佛法の愛を得しめ。一切衆生をして、常に妙色を見て身相端嚴にして見る者厭くこと無からしめ。一切衆生をして未だ曾て散亂せずして、一切の清淨なる行業を具足せしめ。一切衆生をして常に善知識を念じて、心に變異無からしめ。一切衆生をして阿伽陀藥の如く、悉く一切煩惱の衆毒を除かしめ。一切衆生をして大願を滿足し、決定して無上の智王に安住せしめ。一切の衆生をして智慧日を出し、一切の愚癡闇冥を除滅せしめ。一切の衆生をして淨滿月の如く、菩提の月を長じ、功德の華を開かしめ。一切衆生をして大寶の海に入りて、善知識を見、一切の善根を具足し成就せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の華を布施する時の、善根回向にして、一切の衆生をして悉く無礙清淨の妙智を得しむ。

菩薩摩訶薩は鬘を布施する時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして人の樂見する所、見て忻ばざること無く、見て輒ち親善し、見て愛せざる無く、見て憂惱を離れて必ず諸

佛を見たてまつり、一切の淨智を得しめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の鬘を布施する時の善根回向なり。

菩薩摩訶薩は、香を布施する時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て一切の衆生をして戒香を具足して、不壞の戒、不雜の戒、離垢の戒、離疑の戒、離纏の戒、淸涼の戒、不犯の戒、無量の戒、無上の戒、離世閒の戒、菩薩の究竟じて彼岸に至るの戒を得しめ。一切の衆生をして諸佛の戒身を具足し成就せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の香を布施する時の善根回向にして、一切の衆生をして無礙の戒身を具足し成就せしむ。

菩薩摩訶薩塗香を施す時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て一切の衆生をして施香普く熏じて悉く所有を捨てしめ。一切の衆生をして戒香普く熏じて、佛の淨戒を得しめ。一切の衆生をして忍香普く熏じて、毒害の心を離れしめ。一切の衆生をして精進の香具足して普く熏じ、大乘を勤修し弘誓をもて莊嚴せしめ。一切の衆生をして定香普く熏じて、諸佛現前の三昧を具足せしめ。一切の衆生をして慧香普く熏じて、一念の中に於て無上の智王を得しめ。一切の衆生をして法香普く熏じて、無上なる無畏の法を成就せしめ。一切の衆生をして德香普く熏じて、一切の功德智慧を成就せしめ。一切の衆生をして無上菩提の妙香普く熏じて、佛の十力を得て彼岸を究竟せしめ。一切の衆生をして白淨の法香具足して普く熏じ、一切諸の不善の法を斷除せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の塗香を施す時の善根回向なり。

菩薩摩訶薩は、牀座を施す時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして天の寶座を得て慧牀に安處せしめ。一切の衆生をして賢聖の座を得て、凡夫の意を捨て菩提の心を修めしめ、一切の衆生をして安樂の座を得て、生死の苦を離れしめ。一切の衆生をして最上の座を得て、諸の如來の自在神力を見たてまつらしめ。一切の衆生をして平等の座を得て、等心に普く一切の諸法を照らさしめ。一切の衆生をして最勝の座を得て、無上の業を得、永く世間を離れしめ。一切の衆生をして安隱の座を得て、身に一切諸の深妙の法を證らしめ。一切の衆生をして清淨の座を得て、如來の淨智の境界を修習せしめ。一切衆生をして安住の座を得て、善知識常に隨ひて覆護することを得しめ。一切の衆生をして師子の座を得て、如來の無畏の座を具足せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の牀座を施す時の善根回向にして、一切の衆生をして念慧を修習して諸根を調伏せしむ。

菩薩摩訶薩は住處を施す時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして悉く如來の嚴淨せる佛刹を得て、功德を修習して佛刹を莊嚴し、甚深なる三昧の境界に安住し、彼の住處に於て而も所著無く、善能く一切の住處を分別して、世間の住を離れ、佛住に安住し、一切諸佛の所住を攝取して、大道を究竟し、安樂にして善住し、無量なる清淨の善根を修習して、未だ嘗て佛の無上の住を捨離せざらしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の住處を施す時の善根回向にして、一切の衆生をして、一切を安樂にし饒益し救護せしむ。

菩薩摩訶薩は、房舍を施す時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして饒益安樂にして、正念し思惟せしめ。一切の衆生をして如來の住に依り、大智の住に依り、善知識の住に依り、尊重の住に依り、善行の住に依り、大慈の住に依り、大悲の住に依り、六波羅蜜の住に依り、無量なる菩提心の住に依り、一切の菩薩道の住に依らしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の房舍を施す時の善根回向にして、一切の衆生をして淸淨の智慧、諸通の功德を具足し成就せしむ。

菩薩摩訶薩は燈明を惠施す、所謂、酥燈、油燈、寶燈、摩尼燈、漆燈、火燈、沈水香の燈、栴檀香の燈、一切香王の燈、無量色の光炎の燈なり。是の如き等の無量の燈明を以て施す時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生を饒益し、一切の衆生を攝取し、一切の衆生をして無量の光を得て、普く一切諸の如來の法を照らさしめ。一切の衆生をして明淨の光を得て、普く一切諸の微細の色を照らさしめ。一切の衆生をして離癡の光を得て、善能く衆生界無きことを了知せしめ。一切の衆生をして無量の光を得て、法身の淨光普く一切を照らさしめ。一切の衆生をして普光明を得て、諸佛の法に於て不退轉を得しめ。一切の衆生をして佛の光明を得て、普く一切無量の佛刹を照らさしめ。一切の衆生をして無礙の光を得て、一光明を以て普く能く一切の法界を徧照せしめ。一切の衆生をして無量の光を得、普く佛刹を照らして光明斷ぜざらしめ。一切の衆生をして光明幢王、慧光幢の燈を得て普く世閒を照らさしめ。一切の衆生をして無量色の光を得、自在の光を放ちて一切の刹を

照らさしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の燈明を施す時の、善根回向にして悉く能く一切の衆生を饒益し、悉く能く一切の衆生を安樂にし善根に隨順す。衆生に隨順する善根は善く一切の衆生を攝し、等施の善根は等しく衆生に施し、慈愍の善根は衆生を愍念し、普覆の善根は普く衆生を蔭ひ、布施の善根は衆生を滿足せしめ、普く一切の善根の境界に入り、平等の善根は衆生を平等にし、智慧の善根は一切を分別す。是は爲菩薩摩訶薩の燈明を施す時の善根回向にして、一切の衆生をして無礙の回向を得て、一切の明淨なる善根に安住せしむ。

菩薩摩訶薩は、湯藥を施す時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切衆生をして諸の障礙を離れしめ。一切衆生をして病身を捨離して、悉く如來の清淨なる法身を得しめ。一切衆生をして皆藥性を成じて、悉く能く一切衆生の不善の病を除滅せしめ。一切衆生をして阿伽陀藥を成じて、菩薩の不退轉地に安住せしめ。一切衆生をして如來の藥を成じて、一切の煩惱の毒刺を拔出せしめ。一切衆生をして賢聖に習近し、煩惱を除滅して清淨の行を得しめ。一切衆生をして、藥王の意を得て、未だ曾て一切の善法を遠離せざらしめ。一切衆生をして不壞の藥樹を具足し成就して、一切諸の不善の病を對治せしめ。一切衆生をして諸の病刺を除きて、悉く一切の智慧の光明を得しめ。一切衆生をして世間の諸の對治法を解了して、群生に隨應して衆病を對治せしめん」と。菩薩摩訶薩は施藥の善根を、是の如く回向し已りて、此の善根に因りて、一切の衆生をして諸病を捨離し、安隱にして患

無く、具足清淨にして、諸の如來の無病の法を得しむ。一切の衆生をして諸の病刺を出して、無量の身を得、金剛圍山も壞すること能はざる所、堅固なる一切の諸力を具足して、諸佛の無上なる法藥を成滿し、佛の神力自在の法身を得しむ。是は爲菩薩摩訶薩の湯藥を施す時の善根回向なり。

菩薩摩訶薩は、悉く能く一切の諸器を惠施す、所謂、眞金の器を以て雜寶を盛り滿し、白銀の器を以て雜寶を盛滿し、瑠璃の器を以て雜寶を盛滿し、玻瓈の器を以て雜種の寶莊嚴具を盛滿し、硨磲の器を以て赤珠寶を盛り、瑪瑙の器を以て珊瑚夜光の衆寶を盛滿し、又玉器を以て諸の美饍を盛り、栴檀の器を以て衆の寶衣を盛り。金剛の器を以て衆香を盛滿し、是の如き等の無量無數の諸の妙寶器は、盛るに無量無數の妙寶を以てし。或は諸佛に施す。佛の福田の不思議なるを信ずるが故なり。或は菩薩に施す。菩提心を發せる諸の善知識には値遇すること難きが故なり。或は衆僧に施す。佛法を長養するが故なり。或は福伽羅、聲聞、緣覺に施す。聖法を愛するが故なり。或は父母に施す。尊重の爲めの故なり。或は師長に施す。教へて法の如く功德を修せしむるが故なり。乃至下品の凡劣に布施す。大慈大悲の愛眼を以て等心に衆生を觀ずるが故に、三世一切の菩薩の滿足せる檀波羅蜜を捨てざるが故に、一向に專ら無上の菩提を求むるが故に、悉く一切內外の所有を捨て、一切衆生の類を捨てざるが故に、福田及び財物に著せざるが故なり、菩薩摩訶薩は是の如き等の無量の寶器を以て、盛るに無量の雜寶を以てし、これを施す時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て一切の

衆生をして廣大の藏器を成じて、虚空に等しき廣大の念根を成じ、世間出世間の一切の經書を、悉く能く受持して忘失せざらしめんが故に。一切の衆生をして清淨の器を成じ、普く能く佛の深法を受持せしめんが故に。一切の衆生をして無上の寶器を成じて、悉く能く去來今佛の一切の法を受持せしめんが故に。一切の衆生をして、普く如來の勝法の寶器を成じて、悉く能く三世の諸佛の無壞の法を受持せしめんが故に。一切の衆生をして莊嚴せる寶器を成じて、極まり無き菩提心を受持せしめんが故に。一切衆生をして悉く一切の功德の器を成じて、如來の無量なる淨智を志樂せしめんが故に。一切の衆生をして一切智の內法の器を成じて、如來の無礙の解脫、一切智を究竟せしめんが故に。一切衆生をして未來際劫の一切の菩薩の所行の器を成じて、一切の衆生を堅固に一切智力に安住せしめんが故に。一切衆生をして、三世の佛の勝妙なる法器を成じて、一切諸佛の梵音の說法を悉く受持せしめんが故に。一切の衆生をして、悉く內器を成じて、其の身に一切世界の虚空界法界の諸佛の眷屬を容受し、諸佛を勸請して大法輪を轉じ、悉く能く受けしめんが故に」と。是は爲菩薩摩訶薩の器を布施する時の善根回向にして、一切の衆生をして諸法の器を成じて、皆能く普賢菩薩の一切の願行を受持せしむ。

菩薩摩訶薩は、無量なる種種に莊嚴せる寶車を以て、諸佛菩薩、及び善知識、如來の大衆、聲聞緣覺、一切の福田に奉施す。種種の衆生は餘方より來り、或は菩薩の名聞を承るが故に來り、或は是の菩薩の因緣の故に來り、或は菩薩の施願を發すを聞くが故に來り、或は是の菩薩の心願に請せられて

來る。菩薩摩訶薩は或は種種に莊嚴せる妙寶の金車を施す、金鈴の網にて覆ひ、微動すれば相扣ちて和雅の音を出し、寶瓔珞を垂れ、種種に莊嚴せり。或は清淨なる瑠璃の寶車を施す、無量の珍妙なるを以て嚴飾と爲せり。或は復た衆の妙寶車を施與す、白銀にて莊嚴し、白網にて羅覆せり。或は復た神馬の寶車を施與す、無量億の寶を以て莊嚴と爲せり。或は復た大象の寶車を施與す、無量億の寶を以て莊嚴と爲し、一切の寶網は其の上に交絡せり。或は復た栴檀の香車を施與す、種種の寶輪を以て莊嚴と爲し、寶師子の座を以て其の上に敷き、百千の婇女其の内に列侍せるは、みな人相具足して顏容殊妙なり、衆寶の華蓋は其の上に彌覆し、十萬の壯士をもつて之を牽御せり。或は復た玻瓈の寶車を施與す、無量なる雜色の妙寶にて莊嚴し、載するに無數の端嚴なる婇女を以てし、衆の雜寶の帳を以て其の上に覆ひ、寶繒幢旛は周帀して莊嚴せり。或は復た瑪瑙の寶車を施與す、飾るに衆寶を以てし、熏ずるに雜香を以てし、摩るに塗香を以てし、散ずるに妙華を以てし、百千の婇女は金の瓔珞を以て平正にして安祥なるも、其の疾きこと風の如し。或は復た堅固の香車を施與す、敷くに種種の柔輭なる寶衣を以てし、衆の妙寶網を其の上に羅覆し、清淨なる妙香を以て之に熏じ、其の香の殊妙なる、能く人心を悅ばしめ、逆風に遠く熏じて聞ぐ者厭くこと無く、諸の天子等は前に在りて牽御せり。或は復た一切の寶車を施與す、種種の雜色を以て交飾と爲し、衆の妙寶網を其の上に羅覆し、諸の雜寶の帶は周帀して垂れ下り、敷くに寶衣を以てし、散ずるに粖香を以てし、愛らしき所の男女を

悉く其の上に載せたり。

菩薩摩訶薩は是の如き等の衆の妙寶車を以て、諸佛に施す時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして、悉く皆無上の福田を樂ひ求めて、深く信じて佛に施し、無量の報有らしめ。一切の衆生をして、一心に佛に向ひて無量なる清淨の果報を逮得せしめ。一切の衆生をして、諸佛の所に於て慳吝の心無く、大施を具足して愛惜する所無からしめ。一切の衆生をして、諸佛の所に於て上福田を修し、二乘の願を離れて、諸の如來の無礙の解脫、一切種智を得しめ。一切衆生をして、諸佛の所に於て無盡の善根を種ゑ、佛の無量なる功德智慧を得しめ。一切衆生をして深慧を攝取して、清淨なる無上の智王を具足せしめ。一切の衆生をして、所遊自在にして、諸の如來の一切處に至る無礙の神力を得しめ、一切の衆生をして、大乘を攝取して、無量の種智を得、安住して動せざらしめ。一切の衆生をして、第一の福田を具足し成就して、皆能く一切智地を出生せしめ。一切の衆生をして、一切の佛に於て嫌恨の心無く、諸の善根を種ゑて佛智を樂ひ求めしめ。一切の衆生をして、少しの方便を以て一切の莊嚴せる佛刹に往詣し、一念の中に於て深く法界に入りて疲倦無からしめ。一切の衆生をして、虛空に等しき菩薩の神通に入りて、悉く能く徧く一切の佛の所に至らしめ。一切の衆生をして、無比の身を得て、盡く能く徧く十方の世界に遊びて疲倦無からしめ。一切の衆生をして廣大の身を成じて隨意の行を得しめ。一切の衆生をして、一切の佛の神力莊嚴を得て、彼岸を究竟

し、一念の中に於て如來の自在神力を顯現して、虛空界に徧からしめ。一切の衆生をして、安隱の行を修して一切諸の菩薩の行に隨順せしめ。一切の衆生をして、行疾無礙にして、十力智慧の彼岸を究竟せしめ。一切の衆生をして、一切の世界を轉ずる力波羅蜜を得て、普く一切不壞の法界に入らしめ。一切の衆生をして普賢の行を行じて彼岸に到り、一切種智を退轉せざることを得しめ。一切の衆生をして、無比の智乘に乘じて、一切の法界に隨順し修行して眞實の性を見しめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の諸の寶乘を以て、現在の諸佛、及び滅度の後には舍利塔廟に奉施する善根の回向にして、一切の衆生をして諸佛の無礙の大乘を究竟せしむ。菩薩摩訶薩は諸の菩薩及び善知識に淸淨の乘を施す時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして菩薩と諸の善知識とを捨てず、恩を知り恩に報いしめん。一切衆生をして、善知識の義に同じて、同性の善根を攝取せしめんが故に。一切衆生をして、諸の善知識に親近し、尊重し、恭敬し、供養して、悉く一切を捨てて善知識を攝せしめ。一切の衆生をして、正直心を得て、善知識に隨ひ未だ曾て遠離せざらしめ。一切の衆生をして、常に善知識に見えて其の教に違はざらしめ。一切衆生をして正直心を得て、善知識を捨てず、一切の垢を離れて心を不可壞ならしめ。一切の衆生をして、善知識の爲めに身命をも惜まず、悉く一切を捨てて、其の教に違はざらしめ。一切の衆生をして、善知識の爲めに攝取せられ、大慈を修習して、諸惡を遠離せしめ。一切の衆生をして善知識に隨ひて佛の正法を聞きて悉く能く受持せしめ。一切衆生をして、

善知識の善根業報に同じ、菩薩の行願を究竟じて、清淨に平等に滿足せしめ。一切の衆生をして、正法を出生して善く一切の三昧の境界を知り、智慧具足して神通自在ならしめ。一切衆生をして諸趣を遠離し、一切の法を受持し、究竟じて彼岸に到らしめ。一切衆生をして大乘に乘じてより、乃し一切種智を究竟するに至るまで、其の中間に於て懈怠有ること無からしめ。一切の衆生をして、智慧の乘に乘じて、安隱の處に至り、退轉有ること無からしめ。一切の衆生をして、眞如の行を知りて愚癡を遠離し、一切諸佛の正法を聞持せしめ。一切の衆生をして、皆一切の諸佛の爲めに攝せられて無礙智を得、諸法を究竟せしめ。一切の衆生をして、不死の神足を得て妙速無礙ならしめ。一切の衆生をして、遊行すること自在にして衆生を調伏し、摩訶衍を成ぜしめ。一切の衆生をして、所行虛しからず、皆悉く究竟じて智慧の乘を得しめ。一切の衆生をして無礙の乘を得て、無礙智を以て一切處に至らしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の、善知識に種種の乘を施す時の、善根回向にして、一切の衆生をして功德具足して、佛菩薩と等しくして差別無く、悉く能く一切の賢聖を悅可せしむ。

菩薩摩訶薩、如來に衆の種種なる寶乘を施す時に、善く施の心、慧分別の心、功德を淨むる心、施に隨順する心、僧寶に遇ひ難きの心、深く僧寶を信ずる心、正教を攝取する心、正直に安住する心を學し、善能く大施の會を究竟じて、無量無邊の功德を出生し、佛の正教に於て信心清淨にして、沮壞す可からず。菩薩摩訶薩は、種種の乘を以て僧寶に施す時に、是の如く回向すらく。「此の善根を

以て、一切の衆生をして佛の正法に向ひ、正教を攝取せしめ。一切の衆生をして、專心に内觀して邪心を除滅し、聖處を成就せしめ。一切の衆生をして賢聖の地を得て、如來の法を以て展轉して相敎へしめ。一切の衆生をして世を擧げて宗重し、言必ず信用せられしめ。一切の衆生をして一切法に入りて、善能く無二の法界を分別せしめ。一切の衆生をして人寶に圍繞せられ、如來の智境界より出生せしめ。一切衆生をして離垢の法に住して、皆能く煩惱塵垢を除滅せしめ。一切の衆生をして、悉く無上の僧寶より出生して凡夫の法を離れ、聖僧の地を得しめ。一切衆生をして聖法を具足して無礙智を修めしめ。一切の衆生をして、大衆の主と爲り、智慧莊嚴して世間に染まざらしめ。一切の衆生をして、善方便を以て慧の法輪を轉せしめ。一切の衆生をして、一念の神力を得て悉く能く不可説不可説の世界に周徧せしめ。一切の衆生をして、虛空身に乘じて、一切の世間に於て智慧無礙ならしめ。一切の衆生をして、虛空法界に等しき如來の大衆の所に往詣せしめ。一切の衆生をして、輕擧の身と勝妙の智慧とを得て、悉く能く徧く諸佛の世界に遊ばしめ。一切の衆生をして、無礙の神足を得て、一切の刹に於て普く能く身を現せしめ。一切の衆生をして、大自在神足の彼岸を得て、一座を起たずして悉く普く一切の世界に應現せしめ。一切の衆生をして、淨法身を得て諸の世界に於て所著無く、神力を出生して、行くことの疾きこと電の如くならしめ。一切の衆生をして不思議なる神足の境界を現じて、善能く隨順して一切の衆生を敎化し、調伏して、其の宜しきを失はざらしめ。一切の衆

生をして妙神足を得て、一念に徧く十方の世界に遊び、一念に一切の法界を超度して罣礙する所無からしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の、如來衆に種種の乘を施す時の善根囘向にして、一切の衆生をして普く清淨なる無上智の乘に乘じて、一切の世界に於て無礙の法輪智輪を轉せしむ。

復た次に菩薩摩訶薩、聲聞緣覺に種種の乘を施す時に、恭敬の心、尊重の心、福田の心、功德海の心、功德智慧を出生する心、深く如來の功德を信ずる心、無量の億那由他の清淨なる善根を修習する心、不可說の劫に於て菩薩の清淨行を修習する心、一切の魔の繫縛を解脫する心、一切の魔軍の衆を摧滅する心を發し、稱量す可からざる明淨の智慧をもつて、善能く一切の諸法を分別し、一切の衆生をして、皆信ず可き第一の福田を成じて、無上なる檀波羅蜜を具足せしめ、一切の衆生をして、無益の言を離れて、獨閑の靜かなるを樂ひ、心に二念無からしめ。一切の衆生をして、最勝清淨なる第一の福田を成じて功德を修習し、衆生を攝取せしめ。一切の衆生をして、智慧地を成じて能く衆生に無數の善果を與へしめ。一切の衆生をして、無礙の趣に至りて最勝の福田を清淨圓滿ならしめ。一切衆生をして、其の心無諍三昧に安住して、一切の法は無性を性と爲すことを解らしめ。一切の衆生をして、無量の功德を具足し長養して、常に最勝第一の福田に遇ひたてまつらしめ。一切の衆生をして、無量なる自在神力を示現して、隨順して清淨の福田を攝取せしめ。一切の衆生をして、無量なる功德の福田を成就して、能く一切の十力乘の果を與へしめ。一切の衆生をして、眞實の福田を成

じて無盡の功德の藏を具足し、一切智を究竟せしめ。一切の衆生をして、諸の惡法を滅し、佛の正法の句身味身を聞きて、悉く能く受持せしめ。一切の衆生をして、普く佛法を聞きて、聞解する所に隨ひて、其の德虛しからざらしめ。一切の衆生をして、佛の說法を聞きて彼岸に到ることを得、聞く所の佛法を能く衆生の爲めに隨順して演說せしめ。一切の衆生をして、常に如來の正敎の法を樂ひ、一切の九十六種の外道の邪見を除滅せしめ。一切の衆生をして、常に賢聖に見えて、一切の最勝なる善根を長養せしめ。一切の衆生をして、(七)明行足の者を樂聞して常に瞻對することを得、與に共に同止して、永く安樂に處らしめ。一切の衆生をして、聞く所虛しからずして、聲の響の如きを解り、佛の出生を見しめ。一切の衆生をして、善く分別して諸佛の正敎を知り、悉く能く佛法を持する者を守護せしめ。一切の衆生をして、心常に樂向して佛法を聞持し、能く照して如來の法敎を顯現せしめ。一切の衆生をして、深心に如來の正敎、一切の功德を信解せしめ。佛を歡喜せしめ、善く眞諦を解り、悉く內外を捨てて、大施を究竟せしむ。是は爲菩薩摩訶薩の、聲聞緣覺に種種の乘を施す時の善根回向にして、一切の衆生をして無上智を得、諸の神通を淨め、精勤し、修習して、懈怠有ること無く、佛の智力と無所畏とを究竟せしむ。

菩薩摩訶薩、若し諸方より來る一切の福田は、或は菩薩の名聞を承はるが故に來り、或は菩薩の因緣

【七】明行足。佛の十號の一にして、明は法を證ることの明かなるの義、行は三學の行をいふ、佛は明行を具足して缺くることなきが故に明行足と號く。

の與の故に來り、或は菩薩の本願を聞くが故に來り、或は復た菩薩の心願に請せられて來る。菩薩は彼に於て悉く惠施せんことを樂ひて厭倦無し。爾の時に菩薩は、來り求る者に於て、悔過の心を發し、是の如きの言を作さく、「諸人、當に知るべし、我應に彼に詣りて禮拜し供養して種種に惠施すべし。而も今我が爲めの故に遠くより來れり」と。菩薩は即時に敬禮して過を悔い、愛言をもつて慰諭し、遠來を屈辱して疲倦無きことを得、處を安隱ならしめ、須むる所を供給す。或は摩尼の寶車を施し、載するに閻浮提の內の第一の女寶を以てし。或は金車を施し、載するに己が國の最勝なる寶女を以てし。或は清淨なる瑠璃の寶車を施し、載するに內妓を以てし。或は樂車を施し、載するに童女の容貌は天の如きを以てし。或は無量無數の寶をもつて莊嚴せる車を施し、載するに寶女の種種に莊嚴せるを以てし。或は菩薩の乘る所の栴檀香の車を施し、或は玻瓈の寶車を施し、載するに寶女を以てし、端正殊特にして顏容倫無く、威儀具足し、進止安詳にして、神珠名寶を其の身に瓔珞して、善法を樂修す。或は瑪瑙の寶車を施し、載するに太子を以てし。或は堅固の香車を施し、載するに男女を以てし。或は種種の寶をもつて莊嚴せる車を施し、載するに壞し難き親愛の眷屬を以てす。是の如き等の種種の寶車を以て、其の求むる所に隨ひて皆之を給施して、彼の願を滿足せしめ、歡喜すること無量ならしむ。菩薩摩訶薩は諸乘を施す時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして、不退轉の摩訶衍乘に乘じて、不思議なる菩提樹の下に詣らしめ。一切の衆生をして、大智の乘に

乘じて、盡未來劫に一切菩薩の諸行の法を皆能く修習せしめ。一切衆生をして、無所有の乘に乘じて、一切の法に於て心に所著無く、虛妄を捨離して、一切の智道を具足し修習せしめ。一切の衆生をして、悉く離垢寂靜の乘に乘じて、無礙の神力をもつて諸佛の刹に詣らしめ。一切の衆生をして、決定して一切智の乘に安住し、常に諸佛の法樂を以て自ら娛ましめ。一切の衆生をして、諸の菩薩の淸淨行の乘に乘じて、菩薩の十種の道を出生し、菩薩の一切の三昧を樂修せしめ。一切の衆生をして、(八)四輪の乘なる(九)住正國輪、(一〇)依正士輪、(一一)本功德輪、(一二)平等願輪に乘じて、菩薩の淨行斯に由りて滿足せしめ。一切の衆生をして、明法の乘に乘じて徧く十方に遊び、佛の智力を修せしめ。一切の衆生をして、佛法の乘に乘じて、一切の法に於て彼岸を究竟せしめ。一切の衆生をして、一切の功德善根の不可思議なる法乘に乘じて、十方の衆生の爲めに、安隱の道を現せしめ。一切の衆生をして、一切施の乘に乘じて、慳悋を斷除せしめ。一切の衆生をして淸淨なる尸波羅蜜の乘に乘じて、無量無邊の法界に等しき一切の淨戒を具足せしめ。一切の衆生をして、羼提波羅蜜の乘に乘じて、瞋恚の心を離

【八】四輪乘。又は四種不放逸輪と名く、八難を摧破して佛法を見聞することを得しむるなり。

【九】正國輪。又は勝土輪と名く、住する所の國土の善く治まりて安樂無爲なるをいふ、三惡道と北洲と長壽天の五惡處の難を除く。

【一〇】依正士輪。又は善人輪と名く、佛菩薩等の善知識の出世に遇うて化益を被ることをいふ、佛前佛後の惡時の難を除く。

【一一】本功德輪。又は先福輪と名く、宿殖の善根力に因りて勝れたる果報を受くることをいふ、生盲聾啞の惡果の難を除く。

【一二】平等願輪。又は自正輪と名く、自ら正願を發して、佛道を修行し、正見を得て、佛果を證せんと願ふをいふ、世智辯聰の惡因の難を除く。

れて、諸の衆生に於て惱害を起さざらしめ。一切の衆生をして、不退轉の毗梨耶波羅蜜の乘に乘じて、菩薩の行を具へ、道場に往詣せしめ。一切の衆生をして、禪波羅蜜の乘に乘じて、速かに道場に赴かしめ。一切の衆生をして、般若波羅蜜の乘に乘じて、化身一切の法界。及び佛の境界に充滿せしめ。一切の衆生をして、法王の乘に乘じて、無畏の施、一切智の微妙の法を成就せしめ。一切の衆生をして、所著無き智慧願の乘に乘じて、悉く能く徧く一切の諸方に入り、眞の法性に於ては而も所入無からしめ。一切の衆生をして、諸佛の法乘に乘じて、一切の刹に於て受生を示現して、摩訶衍を毀壞せざらしめ。一切の衆生をして、一切智の乘に乘じて、菩薩の平等なる大願を滿足して、懈怠無からしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の種種の乘を施して、普く衆生に無量の福田を施し、歡喜の心を以て善根を回向し、一切の衆生をして無量の種智を皆悉く具足し、一切の成滿智の乘に乘ぜしむるなり。

菩薩摩訶薩は、象寶を布施す、七支具足し、六瘤成滿し、六牙雪の如く、口淨きこと華の如く、身體平正に、毛色は鮮白に、珍麗奇飾して、其の身を莊嚴し、淨き妙寶の網を以て其の上に覆ひ、種種の雜寶にて其の首を莊嚴し、光色光曜し、儀體安雅にして、瞬息の頃に萬里を超步し、猛氣奔勇にして、疲倦すること無し。菩薩摩訶薩は、寶馬を布施す、形體殊妙にして、毛色光澤あり、馬相具足して、天の寶馬の如く、無量の珍寶にて其の身を莊嚴し、明月のごとき神珠を以て光曜と爲し、金鈴の寶網を以て其の上に覆ひ、行くに奔驟せずして、迅かなること疾風に踰え、遠を致して疲れず、

乗る者（三）安豫にして、四方に巡遊して、主の意を失はず。此の寶乘を以て意に隨ひて施與す。或は福田に施し、或は尊重に獻じ、或は智識に貢ぎ、或は父母に奉じ、或は貧匱に給し、其の須むる有る者は、皆悉く之を與へ、大心に惠み施して、吝惜する所無く、心常に歡喜して、悔恨有ること無し。大悲充滿して、能く大施を行じ、一向に專ら菩薩の功德の最勝なる生地を求め、直心清淨なり。是の如きの心を以て善根を回向すらく、「一切の衆生をして人寶を成就して、菩薩の功德を生じ、大乘を莊嚴せしめ。一切の衆生をして善法の乘に乘じて、隨順して能く一切の佛法に至らしめ。一切の衆生をして、常に大乘を樂ひ、佛の無礙の智慧力の乘を得て、光明普く照さしめ。一切の衆生をして勇猛の大乘に乘じて、精進して諸願を滿足せしめ。一切の衆生をして平等なる波羅蜜の乘を具足して、一切の善根を成就し滿足せしめ。一切の衆生をして寶乘を成就して、佛法の無上なる智寶を出生せしめ。一切の衆生をして、菩薩の莊嚴の行を分別し、是の妙乘を得て三界を出で、悉く菩薩の諸の三昧の華を開かしめ。一切の衆生をして、無量の阿僧祇劫に、清淨に菩薩の所行を修習して、無量の乘に乘じ、疾かに諸法を解らしめ。一切の衆生をして、大乘の寶乘を施し、善方便を以て、菩薩地を具へしめ。一切の衆生をして、最も高廣にして安隱なる大乘を成じて、悉く能く一切衆生を運載して無上の道に至らしめん」と。是に爲菩薩摩訶薩の無量阿僧祇那由他劫に、象馬の寶を施して、善根を回向し、一切の衆生をして、無礙智の乘に乘じて、

【三】安豫。豫は樂しみ悅ぶの義なり。

如來の究竟の寶乘に至ることを得しむるなり。

菩薩摩訶薩は種種の座を施す。或は聖王師子の座を施す、瑠璃を足と爲し、金縷にて織り成せる柔輭なる妙衣を以て其の上に敷き、熏ずるに一切の堅固の香を以てし、種種なる上妙の寶幢を建立し、無量億の寶を以て莊嚴と爲し、白淨の寶網を其上に彌覆し、金鈴の羅網動きて妙音を發し、百萬億那由他の淨妙なる寶像は周帀圍繞し、其座は高廣にして、淸淨に嚴飾し、無量阿僧祇の衆生、樂觀して厭くこと無く、功天下を蓋ふ自在の大王の、所坐の處なり。彼の座に處して、正法を以て國を治め、敢て違逆するもの無く、種種の妙寶にて其身を莊嚴し、靑寶珠王、大靑寶珠王、勝藏寶珠を以て莊嚴と爲し、明淨なること猶ほ日のごとく、淸涼なること月の如く、衆星莊嚴して海の勝寶、海の堅固幢の如く、離垢明淨なる閻浮檀金の、妙色の寶繒を以て其の首に冠むり、一切の閻浮提の內の大力灌頂王の法を以て其の頂に灌ぎ、功德力を具へ、大慈悲の主となりて、怨敵を降伏し、敢て命に違ふ無し。菩薩摩訶薩は、是の如き無量無數の轉輪王と爲りて法自在を得、正く國を治むる時、是の如き等の種種の衆寶にて嚴飾せる座を以て、或は正覺の諸の善知識、及び賢聖の僧に施し、法を聞きて歡喜し、法師に奉施し、父母、諸の尊重する者、聲聞緣覺、一切の菩薩、乃至初めて大乘の心を發せる者、及以一切諸佛の塔廟に供養し、或は無量の貧窮下劣のものに施し、須め欲する所有れば皆之を給與す。座を布施する時に是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして菩提の座を得て、自然に

佛の正法を覺悟せしめ。一切の衆生をして、自在の座を得て、法の自在を具足し成就して、諸の金剛山も、壞すること能はざる所にして、悉く能く一切の諸魔を降伏せしめ。一切の衆生をして、佛の自在なる師子の座を得て、一切の衆生樂觀して厭くこと無からしめ。一切の衆生をして、不可說不可說の淸淨に莊嚴せる殊妙の座を得て、法自在を成じ、普く衆生を化せしめ。一切衆生をして殊勝の座を得て（四）三種の世間も壞すること能はざる所、廣大の善根、及び善根の具を、皆悉く淸淨ならしめ。一切の衆生をして、高廣の座を得て、不可說不可說の世界に充滿せる諸佛如來を、阿僧祇劫に於て歎ずるも盡すこと能はざらしめ。一切の衆生をして、大智人の座に處して、一身を一切の法界に充滿せしめ。一切の衆生をして、不可思議の寶にて莊嚴せる座を得て、其の本願に隨ひ、請ふ所の衆生に廣く法施を開かしめ。一切の衆生をして、皆悉く淨妙の法座に坐することを得て、不可說の諸の世界の中に於て、如來の自在神力を顯現せしめ。一切の衆生をして、一切寶の座、一切香の座、一切華の座、一切衣の座、一切蓋の座、一切摩尼寶の座、不可思議なる淨き瑠璃の座、無量不可說の世界の座、一切衆生を淨むる莊嚴の座、離諍の座に坐し、此の座上に處して、如來の一切種智を覺悟し、諸佛の功德の境界を示現せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の種種の座を施す時の善根回向にして、一切の衆生をして所著無き菩提の座を得、自然に一切の佛法を覺悟せしむるなり。

【四】三種世間。過現未の三世、又は生異滅の三相に遷壞せられざる義なり、或は云ふ、龍修羅等の地下世間と人中世間と天上世間なりと。

卷の第十八

金剛幢菩薩回向品第二十一の四

菩薩摩訶薩は種種の蓋を施す。所謂る尊重人の蓋は、種種の妙寶をもつて之を莊嚴し、無量無邊の嚴飾せる蓋の中に於て、最も爲第一にして、衆寶を竿と爲し、金網にて羅覆し、雜寶の瓔珞周帀して垂下し、衆寶の鈴を懸け、淨き瑠璃の珠は、微動し相扣ちて和雅の音を出し、白淨の寶網をもつて之を交絡し、百千の清淨なる衆の雜寶網を其上に羅覆し、無量百千億の雜寶にて莊嚴し、無量億那由他の沈水旃檀堅固の香を熏じ、閻浮檀金にて清淨に莊嚴せり。是の如き等の無量阿僧祇那由他の蓋を、離惡の心、廣大の心、放捨の心を以て布施を行じ、或は以て現在の諸佛に奉獻し、及び涅槃の後には塔廟に供養す。法を求めんが爲の故なり。菩薩と、諸の善知識とに奉施し、或は法師に施し、或は父母に施し、或は衆僧に施し、或は復た一切の佛法に奉施し、或は種種の福伽羅の福田に施し、或は師長及び諸の尊重に施し、或は初めて菩提心を發せるものに施し、或は一切の貧窮下劣のものに施し、諸の求むる所有れば皆悉く施與す。菩薩摩訶薩は蓋を布施する時に、是の如く回向すらく、此の善根を以て、一切の衆生をして善根の爲に覆はれ、又一切諸佛の爲に蔭護せられしめ。一切の衆生をして、智慧

功德の爲めに覆護せられて、世間の諸の煩惱垢を除滅せしめ。一切の衆生をして、覆ふに淨法を以てして、一切の塵勞熱惱を除滅せしめ。一切の衆生をして、悉く如來の內智慧藏を得て、一切の衆生樂觀して厭くこと無からしめ。一切の衆生をして、寂靜なる白法を以て、自ら覆護し、悉く不壞の佛法を究竟することを得しめ。一切の衆生をして、善覆の身を得て、如來の清淨法身を究竟せしめ。一切衆生をして、悉く一切の爲めに覆蓋と作りて、十力の智慧をもつて善く世間を覆はしめ。一切の衆生をして、隨樂の智慧を得て、皆悉く一切の世間を出過し、清淨に明達して染著する所無からしめ。一切の衆生をして、應供の蓋を得、勝れたる福田を成じて、一切の供を受けしめ。一切の衆生をして、最上の蓋を得て、自然に無上智の蓋を覺悟せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の蓋を布施する時の善根回向なり。一切の衆生をして法自在の蓋を受持して、一功德の蓋を以て、普く一切の法界虛空界に等しき一切の世界を覆ひ、諸佛の神力自在を示現して、一功德の蓋を以て法界を莊嚴し、諸佛に妙旛幢蓋を供養して、普く十方の一切如來を覆はしめ。一切の佛刹をして種種の寶蓋を以て莊嚴せしめ。一切の衆生をして、皆悉く無上菩提を樂ひ求めて、無上の蓋を以て普く衆生を蓋はしめ。一切の衆生をして、不可說不可說の一切の衆寶にて莊嚴せる妙蓋を以て、一佛に供養し、一切の諸佛に供養することも亦復た是の如くならしめ。一切の衆生をして自然に覺悟して、最正覺の功德の高廣微妙の蓋を得て、普く諸佛を覆はしめ。一切の衆生をして、種種の寶蓋を以て法界虛空に等しき界の一切世界の

諸佛を供養せしめ。一切衆生をして、種種の摩尼寶の蓋の、諸寶の瓔珞周帀して垂れ下り、以て莊嚴を爲せる、一切の堅固香の蓋の、清淨なる雜寶を以て莊嚴し、極大高廣にして、白淨の寶網を以て其の上に羅覆し、金鈴の網を以て周帀して之に懸け、自然に微妙の音聲を演出する、是の如き等の無量不可數の蓋を以て諸佛に供養せしめ。一切の衆生をして、無礙智の蓋を得て、普く十方の一切諸佛を覆はしめ。一切の衆生をして、最勝智の蓋を得て、普く衆生を覆はしめ。一切の衆生をして、佛の功德をもて莊嚴せる寶蓋を得て、普く衆生を覆はしめ。一切の衆生をして、皆悉く清淨の大願と諸佛の功德とを具足せしめ。一切の衆生をして、不思議なる清淨の心寶を得しめ。一切の衆生をして、諸法の自在の智を滿足せしめ。一切の衆生をして、諸の善根を以て普く衆生を覆はしめ。一切の衆生をして、無上智の蓋を得て、普く衆生を覆はしめ。一切の衆生をして、十力の蓋を得て、普く衆生を覆はしめ。一切の衆生をして、一佛刹を以て、悉く能く普く一切の法界を覆はしめ。一切の衆生をして、悉く諸法に於て自在を得しめ。一切の衆生をして、心の自在を得しめ。一切の衆生をして智慧勝廣ならしめ。一切の衆生をして、無量の功德を以て、悉く能く普く一切の衆生を覆はしめ。一切の衆生をして、諸の功德を以て其の心を覆はしめ。一切の衆生をして、平等の心を以て普く一切を覆はしめ。一切の衆生をして、大智慧を以て等しく一切を覆はしめ。一切の衆生をして、大回向を具へしめ。一切の衆生をして、清淨なる正直の心を滿足せしめ。一切の衆生をして意根を清淨ならしむ。是は爲菩薩摩訶薩

の種種の蓋を施す時の善根囘向にして、一切の衆生をして、皆悉く最大の囘向を成就して、普く覆ひて一切の衆生を攝取せしむるなり。

菩薩摩訶薩は種種の淸淨なる幢旛を布施す。無量の雜寶を以て其竿と爲し、種種の寶繒を以て垂旛と爲し、種種の雜采は周帀して垂れ下り、白淨の寶網を其上に羅覆し、金鈴の寶網を以て莊嚴と爲し、微風に吹動せられて和雅の音を出す。無量無數億那由他の諸の妙幢旛を以て眷屬と爲し、雜寶の繒采を懸けて以て飾と爲し、半月の寶像の閻浮檀金は、大光明を出して日の普く照すが如く、嚴飾せる寶幢は大地に周徧し、一切の世界の隨樂の業報を以て彼の幢を莊嚴し、一切の虛空法界に等しき諸の如來の刹に安住せり。菩薩摩訶薩は諸の世界に於て、其の樂ふ所に隨ひ普く妙幢を施して、正直菩提の心を發さしむ。或は現在の一切の諸佛に施し、或は塔廟に施し、或は法寶に施し、或は僧寶に施し、或は善知識に施し、或は菩薩に施し、或は聲聞に施し、或は緣覺に施し、或は大衆に施し、或は福伽羅に施し、或は貧人に施し、諸の來り求むる者には普く施して遺すこと無し。菩薩摩訶薩は幢旛を施す時に是の如く囘向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして一切の善根功德の幢旛を建立して、毀壞す可からざらしめ。一切の衆生をして、一切諸法の自在なる幢旛を建立して正法を守護せしめ。一切の衆生をして、正法の寶を護りて、諸佛菩薩の深法を守持せしめ。一切の衆生をして、高顯なる功德の寶幢を建立し、智慧の燈を然して、普く衆生を照らさしめ。一切の衆生をして、不壞の幢旛を

成じて、一切諸魔の惡業を降伏せしめ。一切の衆生をして、皆悉く智力の幢旛を建立して、一切の諸魔も壞することを能はざる所ならしめ。一切の衆生をして、大智慧那羅延の殊勝の幢旛を得て、一切世間の幢旛を摧滅せしめ。一切の衆生をして、解脫の慧光の圓滿なる日幢を建立し、智慧具足して普く法界を照さしめ。一切の衆生をして、智慧莊嚴の幢旛を得て、一切諸佛の世界に充滿し、不可說の勝妙なる幢旛を建て、十方の一切諸佛を供養せしめ。一切の衆生をして、如來の幢を得て、一切の九十六種の諸の邪見の幢を摧滅せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の幢旛を施す時の善根回向にして、一切衆生をして高廣にして甚深なる菩薩の行幢を建立し、一切の菩薩の自在行の幢を建て、清淨の道を得しむるなり。

菩薩摩訶薩は衆の寶藏を開きて布施を行ずる時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして常に佛寶を見たてまつり、愚癡を捨離して正念を修行せしめ。一切の衆生をして法寶を得て明かに照し、一切諸佛の寶藏を護持せしめ。一切の衆生をして僧寶を攝取して、慳を離れ施を行じて、其意を充滿せしめ。一切の衆生をして薩婆若の心寶を得て、淸淨なる菩提心に於て退轉せざらしめ。一切の衆生をして、智慧の寶を得て、永く愚癡を離れて佛法を究竟せしめ。一切の衆生をして、菩薩の諸の功德の寶を成就して、無量なる智慧の妙寶を演說せしめ。一切の衆生をして、無量なる功德の寶を讚歎し、十力智を修して、正覺の寶を得しめ、一切の衆生をして(三)十六智の寶を得て三昧正

受し、究竟じて智慧の寶を增廣せしめ。一切の衆生をして、第一の福田の寶を成就して、如來の無上智の寶を覺悟せしめ。一切の衆生をして、增上の寶を成じて無盡の辯藏をもつて法寶を演說せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の衆寶を施す時の善根回向にして、一切の衆生をして、無上智の寶を具足し究竟じて、佛の無礙なる淸淨眼の寶を得しむ。

菩薩摩訶薩は莊嚴具を捨てて衆生に惠み施す。所謂る一切の身の莊嚴具、支節の莊嚴具、身を淸淨ならしむる莊嚴具。厭足無き莊嚴具、雜寶交飾の莊嚴具なり。是の如き等の種種の無量億那由他の莊嚴の具を一切に布施して、善根を回向すらく、「一切衆生の身を淨く莊嚴し、一切を等觀して、猶ほ一子の如くし、世間を超出して佛智の樂を得、衆生を調伏して深法を樂はしめ、一切諸佛の法の中に安住せしめ。一切の衆生をして人天を莊嚴し、悉く淸淨の智慧を以て自ら嚴飾せしめ。一切の衆生をして、身を淨く莊嚴して功德相の門を淸淨に具足せしめ。一切の衆生をして、妙相をもつて身を嚴り、(二)百福の具好を以て自ら莊嚴せしめ。一切の衆生をして身相具足して、諸の相好を以て自ら莊嚴せしめ。一切の衆生をして、言辭をもつて莊嚴して皆悉く無盡の辯藏を具足せしめ。一切の衆生をして、諸の功德を以て音聲を莊嚴し、梵音淸淨微妙に

【一】十六智。地前に光得、明增、印順、無間の四定あり、地上に光明、集福王、賢首、健行の四定あり、各自分と勝進とに分つが故に十六定と爲す。此の定に依りて得たる智を十六智といふ。或は云ふ八忍八智を十六と爲すと。

【二】百福具好。三十二相のことなり、百福とは十善に各五種の心ありて五十心となり更に初發心と終成とあるが故に百種の善心となる、此の百福を積む功德に因りて一相好の果を得、故に三十二相を百福具好と名くるなり。

して具足せしめ。一切の衆生をして、皆悉く佛法の莊嚴を志樂して、正法を聽受し、諸佛を歡喜せしめ。一切の衆生をして、心の莊嚴を以て自ら莊嚴し、念佛三昧をもつて普く諸佛を見たてまつらしめ。一切の衆生をして、諸の陀羅尼の莊嚴を以て自ら莊嚴し、佛の法明を得て、諸佛の法を見しめ。一切の衆生をして、平等智を以て其の心を莊嚴し、如來智を以て法身を莊嚴せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩、一切の莊嚴具を惠施する時の善根囘向にして、一切の衆生をして、無量の佛法の功德、智慧の莊嚴に於て滿足せしめ。一切の衆生をして、自の大憍慢と放逸とを捨離せしむるなり。

菩薩摩訶薩、灌頂の大王と爲り、威力自在にして、天冠と髻中の明珠とを布施して、一切に給施し、衆生を攝取して施心を長養し、施を以て心を熏じて、增上の施に向ひ、施を以て慧を修し、施して捨根を修し、施して廣覺を修す。菩薩摩訶薩、髻中の明珠を施す時に、是の如く囘向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして、善く一切智の灌頂の法王を受けしめ。一切の衆生をして、頂相を具足して勝智の頂を獲、彼岸に到ることを得しめ。一切の衆生をして、勝智の寶を得て、一切功德の頂を究竟せしめ。一切の衆生をして、悉く智慧の寶頂に安住することを得て、一切の敬心頂禮を堪受せしめ。一切の衆生をして、皆悉く智慧の天冠を冠冕して、一切の法に於て自在を得しめ。一切の衆生をして、智慧の明珠を以て其の頂に繫け、一切世間能く頂を見ること無からしめ。一切の衆生をして、皆敬心の頂禮を堪受し、慧頂を具足して佛法を照明せしめ。一切の衆生をして、十力の冠

を成じて、以て其の頂に冠むり、智慧海藏清淨に具足せしめ。一切の衆生をして、最上の大地帝王に安住して、諸魔の頂を摧き、最正覺を成じて、究竟じて如來の十力を具足せしめ、一切の衆生をして勝頂王を成じて、一切智の頂の最勝の光明を得しめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の天冠の明珠を捨つる善根回向にして、一切の衆生をして、勝妙の智慧を皆悉く清淨ならしめ、淨智慧の摩尼寶の冠を得しむるなり。

菩薩摩訶薩。牢獄の衆生の諸の楚毒を受くるを見るに、或は縛せられ、或は打たれ、幽冥に閉在し、(三)杻械枷鎖に拷掠せられて血を流し、饑渴忍び難く、裸形にて羸痩し、被髮に身を覆ひて、無量の苦を受くるも、能く救ふ者無し。菩薩摩訶薩は是の如き等の苦の衆生を見已りて、或は財寶、妻子眷屬を捨て、或は己が身を捨てて、彼の獄中に於ける苦の衆生を救ふこと、大悲菩薩、善眼王菩薩摩訶薩の如し。彼の獄中より衆生を出し已りて、其の須むる所に隨ひて之を給施す。或は醫藥呪術を以て彼を安隱ならしめ、先づ歡喜せしめ、復た爲めに法を說きて、皆悉く不放逸の善根に安立し、正覺の法に於て、心退轉せざらしむ。菩薩摩訶薩は獄人を救ふ時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て。一切の衆生をして愛縛を解脫せしめ。一切の衆生をして、生死の流を斷ちて智慧の彼岸に到らしめ。一切の衆生をして、癡冥を滅除して明淨の智を得、衆の使根を拔きて諸の塵垢を離れしめ。一切の衆生をして、三界の

【三】杻械枷鎖。杻は手かせ、械は足かせ、枷は頸かせ、鎖はくさり。

縛を斷ちて一切智を得しめ。一切の衆生をして、永く結漏を滅して、煩惱地を離れたる無礙の智慧を得、皆悉く究竟じて彼岸に到らしめ。一切の衆生をして、愛慢の縛を離れ、究竟じて愛慢を離れたる慧を成就せしめ。一切の衆生をして、諸欲の縛を脱して、永く一切世間の貪欲を離れ、諸の世間に住して染著する所無からしめ。一切の衆生をして、清淨の深心を得て、常に諸佛に守護せらるることを爲しめ。一切の衆生をして、無著無縛の心を得て、廣大なること法界の如く、究竟すること虛空の如くならしめ。一切の衆生をして、菩薩の神足を得て徧く諸刹に遊び衆生を調伏し、世間を捨離し、大乘に安住せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の、苦の衆生を救ふ、善根回向にして、一切の衆生をして、如來の智慧の地を究竟せしむるなり。

菩薩摩訶薩は、獄囚に送られ死地に趣くを見るに、㊃五種に繫縛せられ、憂惱心に切り、命須臾に在り、衆人に圍繞せられ、閻浮提の一切の樂具を捨て、永く親愛を離れて、漸く死地に之く、或は木を以て貫きて㊄高標の上に置き、或は刀を以て割き、或は火を以て焚き、或は身に油を灌げるものを纏ひ、火を以て之を燒く。是の如き等の無量の諸苦を受く。菩薩摩訶薩は是の如きを見已りて、自ら身命を捨てて彼の苦難を救ふこと、猶ほ持來菩薩、勝進王菩薩等の諸の大菩薩の如し。自ら己が身を捨てて衆の楚毒を受け、以て衆生を救ひ、是の如きの言を作さく、「我當に身を捨てて以て彼の命に代るべし。設使、苦痛彼に過ぐること無量なりとも、悉

【四】五種繫縛。手足と頸の五處を縛すること。
【五】高標。處刑臺のこと。

く當に代つて受け、其をして解脫せしむべし」と。復た是の念を作さく、「是の如きの苦を見て、而も代つて受けざるは、爲大利を失ふなり。何を以ての故に。我、衆生を救護せんが故に、一切智、菩提の心を發せばなり。是の故に身を捨てて以て彼に代らん」と。菩薩摩訶薩は苦める人を救ふ時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして、無盡の身命を得て、永く熾然、憂悲、苦惱を離れしめ。一切の衆生をして、諸佛の住に依りて、一切智の力と、菩提の記莂とを受けしめ。一切の衆生をして、諸の怖畏を救ひ、永く惡道を離れしめ。一切の衆生をして、一切の命を得て永く不死の智慧の境界に入らしめ。一切の衆生をして、怨敵を遠離して、善知識に値ひ、常に共に攝護せしめ。一切の衆生をして、刀杖を捨離して淨業を修行せしめ。一切の衆生をして、諸の恐怖を離れ、菩提樹下に坐して魔軍を降伏せしめ。一切の衆生をして、大衆の恐怖を離れ、無上の法の中に於て、淨無畏の大師子吼を得しめ。一切の衆生をして、無障礙の師子の智慧を得て、淸淨の業を行ぜしめ。一切の衆生をして、無畏の處に到りて、一切の苦惱の衆生を救護せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩、自ら身命を捨てて彼の死因を救ひ、善根を回向して、一切の衆生をして、生死の苦を離れ、佛の樂を究竟せしむるなり。

菩薩摩訶薩は、人の來りて連膚、頂髮、及び髻中の明珠を乞ふものを見ば、菩薩是の時に歡喜して施與すること、周羅寶王菩薩、勝趣菩薩等の諸の大菩薩の如し。人有り從つて連膚、頂髮、及び明珠を

乞ふ時に、正心に思惟して餘業を念はず、諸の世間を離れて專ら寂靜を樂ひ、清淨正念にして、一切種智正直心を修す。菩薩剃の時に、手に利刀を執りて、即ち(六)膚髮及び髻の明珠を割き、右膝を地に著け、敬心に合掌して、三世の諸佛菩薩の所行を正念し、大歡喜を發し直心清淨にして、一切の正法を意根に充滿し、心に苦を計せず。「苦は是れ生滅の法、是れ無常の法なり」と。是の念を作し已りて衆苦を除滅し、歡喜して布施し、善根を回向し、一切の衆生をして(七)無見頂相を得て、菩薩の(八)周羅の尊塔を成就せしめ。一切の衆生をして紺青の髮を得、金剛の髮を得、柔輭の髮を得て、悉く能く諸の煩惱の患を除滅せしめ。一切の衆生をして不亂の髮を得、光澤の髮を得しめ。一切の衆生をして、柔輭なる旋螺の髮を得しめ。一切の衆生をして、右旋の髮を得しめ。一切の衆生をして、佛相の髮を得て煩惱結習を皆悉く除滅せしめ。一切の衆生をして、髮より大光明を出して、普く十方を照さしめ。一切の衆生をして、佛の清淨なる不亂の髮を得しめ。一切の衆生をして、應供塔の髮を得て、惡心を除滅し、如來の髮を見たてまつらしめ。一切衆生の髮をして、諸の塵垢を離れて、悉く如來の染著無き髮を得しむ。是は爲菩薩摩訶薩の、頂髮及び髻中の明珠を布施する善根の回向にして、一切の衆生をして、悉く一切の陀羅尼、諸の三昧門、一切種智

【六】印度の貴族は生れし時、刀を以て頂の皮を開き內に一の神珠を入れ、藥を以て復た其の皮を封じ著くるが故に、刀を執りて頂皮を割き珠を取り出すなり。

【七】無見頂相。三十二相の一にして又は頂肉髻成相と名く、頂上の肉の隆起して髻の形をなすをいふ、一切の人天、二乘の菩薩は見ること能はざるが故に無見頂相といふ。

【八】周羅(Sūrya)頂髮と譯す。

及び佛の十力を究竟することを得しむるなり。

菩薩摩訶薩、眼を布施する時は、歡喜菩薩、滿月王菩薩等の無量なる諸の大菩薩の如し。眼を布施する時、施眼の心を修し、慧眼の心を修して、佛の法眼の心、無上道に向ふ心、諸通を究竟する心、專ら智慧を求むる心を得、三世の菩薩の惠施を修する心に等し。眼を乞ふ者に於て愛眼を以て觀、無壞の信心を以て彼に眼を施す。因りて佛眼を生じ、菩提の摩訶衍心を增廣し、大慈大悲をもつて六根を調伏す。菩薩摩訶薩は、是の如きの心を修して、眼を以て惠施し、常に樂ひて施與して、正法を建立し、世閒の歡樂と放逸とを捨離し、五欲を遠離して菩提心を樂ひ、彼の求むる所に隨ひて悉く其の願を滿じ、平等無二の布施を長養し、彼の須むる所に隨ひて悉く能く施與して、善根を回向し、一切の衆生をして、眼開明なるを得て、世の爲めに眼と作らしめ。一切の衆生をして、無障の眼を得て智藏を開廣せしめ。一切の衆生をして、淨き肉眼を得て、一切世閒に能く壞する者無からしめ。一切の衆生をして、淨き天眼を得て、悉く衆生の此に死し彼に生るることを見しめ。一切の衆生をして、淨き法眼を得て、能く隨順して如來の境界に入らしめ。一切の衆生をして、淨き慧眼を得て、一切の世閒を分別し了知せしめ。一切の衆生をして、淨き佛眼を得て、悉く能く一切諸法を覺悟せしめ。一切衆生をして、普淨眼を得て境界を究竟し、障礙する所無からしめ。一切衆生をして癡翳を除滅して清淨眼を得、衆生界の空にして所有無きことを了らしめ。一切衆生をして無障眼を得て、如來の十力の

勝處に到ることを得しむ。是は爲菩薩摩訶薩の、眼を布施する時の善根回向にして、一切の衆生をして、一切智の眼を得しむるなり。

菩薩摩訶薩、耳を布施する時は、勝王菩薩、勝無怨菩薩の如し。耳を布施する時、菩薩の行を修して如來の家に生れ、諸佛の行ずる所の布施を修習し、一切の菩薩の淨行を正念し、諸佛の菩提に隨順して、淸淨なる諸根の智慧の功德を出生し、世間に堅固の者無きことを觀察して、一切の衆生をして、常に一切の諸佛菩薩を見たてまつり、自ら己が身に於て染著する所無く、隨順して、一切の佛法を正念す。菩薩摩訶薩は耳を布施する時、其の心寂靜にして、諸根を調伏し、衆生を險難曠野より免濟し、智慧の燈の功德を生じ、檀波羅蜜海を成就し、施心成滿して、義を知り、法を知り、明かに諸道を識り、智慧の行を得、法に於て自在にして、不堅固の身を以て堅固の身に易ふ。菩薩摩訶薩耳を施す時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして、無礙の耳を得、悉く能く普く無量の法音を聞きて、了達無礙ならしめ。一切の衆生をして、無礙の耳を得て、無量の音聲を分別し了知せしめ。一切の衆生をして、無對の耳を得て佛の淨耳を得しめ。一切の衆生をして、淸淨の耳を得て、耳根は空にして所有無きことを解了せしめ。一切の衆生をして、廣大の耳を得て、皆悉く寂靜にして所起無きことを識らしめ。一切の衆生をして、法界に等しき耳を得て、能善く一切の佛法を聞持せしめ。一切の衆生をして、無著の耳を得て、悉く能く無礙の諸法を分別せしめ。一切の衆生を

して、無壞の耳を得て、一切の異論も能く壞する者無からしめ。一切の衆生をして、周普の耳を得て、廣大にして清淨ならしめ。一切の衆生をして天耳佛耳を得しめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の耳を布施する時の善根回向にして、一切衆生をして、清淨の耳を得しむるなり。

菩薩摩訶薩、鼻を布施する時、清淨に是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして、如來の鼻相を得、善相の鼻を得、愛樂の鼻を得、清淨の鼻を得、隨順の鼻を得、高好の鼻を得、伏怨の鼻を得、如來の鼻を得しめ。一切の衆生をして、端正の面門を得、一切の法門を得、無礙門を得、善現門を得、無厭門を得、清淨門を得、離惡門を得、諸の如來の圓滿なる面門を得、一切の門を得、善樂無量の門を得しめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の鼻を布施する時の、善根回向なり。一切の衆生をして究竟じて諸佛の法の中に入ることを得しめ。一切の衆生をして十方の諸佛の正法を攝取せしめ。一切の衆生をして分別して深く諸佛の妙法を解らしめ。一切の衆生をして諸佛の法に於て彼岸に到ることを得しめ。一切の衆生をして、常に諸佛を見たてまつらしめ。一切の衆生をして、諸の如來の無量の法門を得しめ。一切の衆生をして究竟清淨を得しめ。一切の衆生をして、佛法の明を得て普く諸法を照さしめ、一切の衆生をして、嚴淨の佛刹を得しめ。一切の衆生をして、佛の堅固不可壞の鼻を得しむ。是は爲菩薩摩訶薩の、鼻を布施する時の善根回向なり。

菩薩摩訶薩、自在の大王地に安住する時、能く牙齒を以て衆生に布施すること、華齒王菩薩、六牙白

象王菩薩の如し。齒を布施する時、得難きの心を獲て優曇華の如し、清淨施の心、無盡施の心、不濁施の心、無著施の心、無量施の心、調伏して諸根を捨するの心、一切施の心、一切智願の心、衆生を安隱にする心、施を成就する心、大施の心、勝施の心なり。身の要用なるは牙齒を最と爲す。己の重寶とする所、衆の歎惜する所にして、而も能く諸の乞ひ求むるものに惠み施す。菩薩摩訶薩は此の法に安住して、牙齒を捨つる時、是の如く迴向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして、(九)白淨の利牙を得て最勝の塔を成じ、天人の供を受けしめ。一切の衆生をして、佛の(一〇)齊密無閒の齒相を得、一切の衆生をして調伏の心を行ぜしめ。菩薩の諸波羅蜜に進趣せしめ。一切の衆生をして口齒清淨にして顯現明白ならしめ。一切の衆生をして、莊嚴の口を念じ、牙相成就して開現鮮潔ならしめ。一切の衆生をして(一一)含齒四十にして、常に無量清淨なる妙智の香を出さしめ。一切の衆生をして、安住旋牙を得、華色莊嚴して能く心を調伏せしめ。一切の衆生をして清淨の牙を得て、能く無量億千の光明を放ち、鮮潔圓滿にして普く十方を照さしめ。一切の衆生をして(一二)徐嚥の牙を得て、飯口に入りて過ぐれば粒粒皆碎けて、味著する所無く上福田と爲さしめ。一切の衆生をして勝妙の牙を得て、無量の色光を放ち、菩提の記を授けしめん」と。是は爲菩薩摩訶

【九】白淨利牙。三十二相の一なる牙白淨相にして、四大齒の白色清淨なること。

【一〇】齊密無閒。三十二相の一、齒白淨にして齊密なること。

【一一】含齒四十。三十二相の一なる四十齒相にして常人は三十二齒なるも佛のみは四十齒なり。

【一二】徐嚥。嚥は嚼みこなすの意。

薩、牙齒を施す時の善根回向にして、一切の衆生をして、無礙嚴淨なる諸法の智慧を得しむるなり。

菩薩摩訶薩、若し人有り來り從ひて舌を乞ふ時、乞ひ求むる者に於て、柔輭語、愛語、慈愍心の語をもつてし、撫慰の心を生ずること、善口王菩薩、不退轉菩薩、及び餘の無量なる菩薩摩訶薩等の如し。諸趣の中に於て無量の生を受くる時、舌を乞ふ者有らば、先づ乞ふ人を安んじて師子の座に處らしめ、己が舌を捨つる時、歡喜の心、不壞の心、嫌恨無き心、大心、佛家に生ずる心、菩薩の家を建立する心、不濁の心、勇猛精進の心、自身に著せざる心、怨敵無き心を以て、右膝を以て地に著け、舌を出し示し已りて、柔輭の語、愛語、慈愍心の語を作して、乞ふ者に謂ひて言はく、「汝我が舌を取り、意の所用に隨ひて汝が意を充滿せしめよ」と。菩薩摩訶薩は舌を布施する時、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして(三)廣長舌の相を得て、能く一切の具足せる音聲を出さしめ。一切の衆生をして覆面舌の相を得て、言ふ所二無く皆悉く誠實ならしめ。一切の衆生をして舌能く徧く一切の佛刹を覆ひ、諸佛の自在神力を示現せしめ。一切の衆生をして柔輭の薄舌を得て清淨第一の上味を宣通せしめ。一切の衆生をして正語舌を得て、言說する所有れば一切歡喜して疑網悉く除かしめ。一切の衆生をして淨光舌を得て、能く不可說の百千億那由他の光明を放たしめ。一切の衆生をして決定語を得て善能く無盡の法藏を分別せしめ。一切の衆生をして淨勝舌を得、衆の言音を善くし、究竟じて敎化せしめ。一切の衆生を

【三】**廣長舌相**。三十二相の一、舌葉廣くして長きこと。

して音聲の智を得、善能く隨順して語言海に入らしめ。一切の衆生をして善能く一切の諸法を演說し、諸の語言に於て智慧を出生し、彼岸に到ることを得しめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の、舌を布施する時の善根回向にして、一切の衆生をして、無礙智を得、諸願を滿足せしむるなり。

菩薩摩訶薩、若し衆生有りて來りて頭を乞ふ時は、無上智菩薩・善男子迦葉王菩薩の如し。是の如き等の無量の諸の大菩薩は頭を布施する時、一切の妙智慧の首を得んと欲し、無上菩提の首を得て衆生を救護せんと欲し、一切諸の妙法の首を見んと欲し、一切淨智慧の首を具へんと欲し、一切無礙法の首を具へんと欲し、最勝妙首の地を見んと欲し、勝智慧の首を得て、一切衆生を皆悉く愛念せんと欲し、智慧正法藏の首を具へんと欲す、一切の衆生視ること能はざる所なり。十力の大智慧王を得んと欲し、一切諸法の自在の首を滿足することを得んと欲す。一切世間の壞ること能はざる所なり。

菩薩摩訶薩、是の法住に住すれば、則ち一切諸佛の所學を學び、深く諸佛を信じて善根を長養し、來り求むる者有れば、其の意を充滿して悉く歡喜せしむ。菩薩は心淨くして歡喜して施與し、佛法を愛樂し、清淨の明を得、菩提心に安住して退轉せず、能く大捨を行じ、諸根歡悅して妙法を增長し、正直の善心をもつて能く廣く大施す。菩薩頭を布施する時、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして如來の首を得て、一切世間能く頂を見ること無く、一切處に於て壞ること能はざる所、一切諸の世界の上に出過し、頂相具足して、施髮莊嚴し、一切世間に未だ曾て有らざる所、佛

の首相の嚴勝殊特なるを得しめ。一切の衆生をして智慧の首、最勝の首、清淨の首、具智慧の首を得しめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の、頭を布施する時の善根回向にして、一切の衆生をして勝法を具足して、無上大智慧の首を逮得せしむ。

〝菩薩摩訶薩は衆生に手足を施すこと勇猛王菩薩、無畏王菩薩の如し。是の如き等の無量の菩薩摩訶薩は、諸趣の中の無量の生所に於て、手足を布施し、信心の手を修して常に正法を行じ、衆生を饒益し、威儀庠序にして、寶手を手と爲し、著すること無くして手を施す。菩薩の所行は眞實にして虚しからず、施心廣大にして善根を建立し、慳貪を遠離し、菩薩の行を具へ、如來の所に於て不壞の信を得、惡道を除滅して菩提を成就す。菩薩摩訶薩は手足を施す時、無量無邊の曠大の心を以て、淨法門を開きて、諸佛の海に入り、一切の佛を見たてまつりて、施手を成就し、衆生の意を滿じ、悉く能く一切種智と、菩提の諸願とを受持し、清淨の心を修して煩惱の纏を離れ、智身法身を得て、斷つこと無く、壞ること無く、磨滅す可からず、一切魔業も傾動すること能はず、善知識に親近して、一切の菩薩の布施の出生する所の、菩薩摩訶薩の一切智の境界を修習す。手足を施す時、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして、悉く寶手を得て神通力を具へ、寶手を成じ已りて、各相敬重して福田の心を生じ、種種の寶を以て更に相供養し、又衆寶の莊嚴を以て一切の佛に供へ、妙寶の雲を興して諸佛の刹に徧からしめ。一切の衆生をして慈悲を修習して、相惱害せず、諸佛の刹に遊びて無

畏に安住し、少方便を以て神足を究竟し、寶手、香手、衣手、蓋手、鬘手、華手、末香手、莊嚴具手、無量華手、無量香手、普手を以て、神通力を以て諸佛の刹に詣り、諸佛を供養し、能く一手を以て徧く一切諸佛の世界を摩し、能く神足自在の手を以て一切の衆生を持し、手相成就して無量の光を放ち、能く一手を以て普く衆生を覆ひ、佛の（四）縵網、手足の相好を得しめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の大回向の手にして、普く衆生を覆ひ、一切の衆生をして志常に無上菩提を樂求せしめ。一切の衆生をして、無量の功德の大海を出生して、忍辱の心を得、來り求むる者を見ば、皆大いに歡喜し、觀て厭き足ること無く、深法の海に入り、諸佛所共の善根を逮得せしむ。是は爲菩薩摩訶薩の、手足を施す時の善根回向なり。

菩薩摩訶薩は身を壞り血を出して、衆生に布施すること法手菩薩、喜心王菩薩等の如し。無量の菩薩摩訶薩は諸趣の中の無量の生處に於て、乞ひ求むる者に於ては身を壞り血を出して之を布施し、薩婆若の心を以て施し、菩提を喜ぶ心を以て施し、菩薩の行を樂修する心をもつて施し、苦痛を計せざる心をもつて施し、來り乞ふ者に於て嫌恨無き心をもつて施し、一切の菩薩に趣向する心をもつて施し、一切の菩薩を長養する心をもつて施し、菩薩の善を增廣する心をもつて施し、不退轉の心を以て施し、休息せざる心をもつて施し、己を惜まざる心をもつて施す。菩薩摩訶薩は、身を壞り、血を出して布施する時、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして

【四】縵網。三十二相の一なる手足縵網相にして、指間に縵網交合の文ありて恰も鵞鳥等の足の如き相をいふ。

菩薩の法身智身を具足せしめ。一切の衆生をして、微密なる金剛の身を成就せしめ。一切の衆生をして、無盡の身を得て、清淨不壞ならしめ。一切の衆生をして現化の身を得て、十方一切の世界に徧滿せしめ。一切の衆生をして可樂の身を得て、明淨鮮潔にして沮壞す可からざらしめ。一切の衆生をして法界生身を得て如來の身に於て染著する所無からしめ。一切の衆生をして寶光明の身を得て、能く壞る者無からしめ。一切の衆生をして智藏の身を得て、不死の法に於て自在を得しめ。一切の衆生をして寶海の身を得て、一切の衆生の所見虛しからざらしめ。一切の衆生をして虛空に等しき身を得て、諸の世閒に於て染著する所無からしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の、身を壞り血を出して布施する善根にして、大乘の心をもつて回向し、清淨の心をもつて回向し、大心をもつて回向し、歡喜の心をもつて回向し。大歡喜の心をもつて回向し、厭足無き心をもつて回向し、安樂の心を以て回向し、不濁の心をもつて善根を回向す。

菩薩摩訶薩は、人有り來りて髓肉を乞ふものを見る時、歡喜し、輭語して、乞ふ者に謂ひて言はく、「我が身の髓肉は、意に隨ひて取用せよ」と。饒益菩薩、一切施王菩薩等の無量の菩薩摩訶薩の如く、諸趣の中の無量の生處に於て、髓肉を捨つる時、心大いに歡喜し、施心深廣にして測量すべからず。一切の菩薩の修習する所の心、無上なる大乘妙善根の心、塵垢を捨離したる正直の勝心、來り求むる者に於て施して盡くること無き心、能く自己の愛重する身を捨つる心、一向に專ら無量の善根を求め

て妙功德の寶の覆ふ所の心、菩薩の所行に厭き足ること無き心、大布施の心、疑惑を離れたる心、來り乞ふ者に於て布施する所の物は中に悔ゆること無き心、分別して布施し報を求めざる心、平等に布施して選擇すること無き心なり。菩薩摩訶薩は髓肉を施す時、諸佛の所に於て尊父の心を生じ、一切衆生をして淸淨に安住せしめ、現在の諸の世界の中の一切の佛刹を嚴淨し、大悲現前して衆生を救護し、菩提現前して十力明をもつて三世を觀じ、菩薩現前して善根を滿足し、無畏現前して大師子吼し、三世現前して智慧平等に、一切の世間現前して未來際を盡して菩薩の願を修し、無憂現前して無數の諸の菩薩行を修習す。菩薩摩訶薩は髓肉を施す時に、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして金剛藏不可壞の身を得しめ。一切の衆生をして微密の身を得て、疏漏有ること無からしめ。一切の衆生をして、佛の淸淨に莊嚴せる如意法身を得しめ。一切の衆生をして百福の德身を得て、三十二相をもつて自ら莊嚴せしめ。一切の衆生をして八十種好の妙莊嚴身を得て、十力を具足して斷壞す可からざらしめ。一切の衆生をして如來の常住なる妙身を逮得して測量す可からざらしめ。一切の衆生をして最勝の身を得て、一切の諸魔も壞すること能はざる所ならしめ。一切の衆生をして悉く一身を得て、三世の佛に等しからしめ。一切の衆生をして無礙の心を得て、微妙淸淨にして虛空界に滿たしめ。一切の衆生をして菩薩の藏身を得て、悉く能く一切の衆生を含受せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の、髓肉を布施し、一切智の境界の心をもつて、善根を回向して一切衆生をして佛

の常住なる無量の法身を得しむるなり。
菩薩摩訶薩は衆生有り來り從ひて心を乞ふものを見れば、無憂厭菩薩、不動王菩薩の如し。是の如き等の無量の菩薩摩訶薩は、人有り來り從ひて心を乞ふものを見る時は、歡喜して施與し、不斷の施を學するの心、一切無盡施の心、大檀波羅蜜の心、檀波羅蜜の彼岸に到る心、一切菩薩の布施を行ずる事を學する心、一切の施に於て無盡を得る心、一切の大布施を修習する心、一切の菩薩の施を建立する心、現前に諸佛の施を正念する心、一切の來り求むるものを充滿せしむる施心なり。菩薩摩訶薩は心を布施する時、淸淨の心を以て施し、一切の衆生を度脫する心を以て施し、十力菩提の境界の心を以て施し、大願を滿足する心を以て施し、菩薩の行を修習する心を以て施し、薩婆若を得る心を以て施し、本願を捨てざる心を以て施す。此の善根を以て衆生に回向して、一切の衆生をして金剛藏の心を得て、一切の金剛圍山も壞すること能はざる所、金剛莊嚴の心、恐怖を離れたる心、不可勝の心、一切世間も能く盡すこと無き心、勇健なる勝幢智慧藏の心、大那羅延高勝幢の心、衆生の大海の盡す可からざる心、沮壞す可からざる那羅延藏の心、悉く能く諸魔、魔業、魔の軍衆を壞散する心、威武勇健なる大丈夫の心、恐怖無き心、大誓をもつて莊嚴せる勝堅固の心、最勝生の菩薩の心、諸佛の法菩提の莊嚴を具する心、菩提樹に坐して一切如來の正法を成就し諸の愚癡を離れたる一切種智正覺の心、十力を具へたる心を得しむ。是は爲菩薩摩訶薩の、心を施し、善根を衆生に回向して、一切の衆

生をして無著の十力心を具足せしむるなり。

菩薩摩訶薩は人有り來りて腸腎肝肺を乞ふものを見る時は、難事菩薩、滅惡自在王菩薩の如し。是の如き等の無量の菩薩摩訶薩は、人有り來りて腸腎肝肺を乞ふものを見れば、見已りて歡喜し、愛眼を以て觀じ、菩提の愛を起して、彼の樂ふ所に隨ひ、悉く其の意を滿たし、歡喜して施與し、心に中悔せず、正念に觀察すらく、「不堅固の身を捨てて堅固の身を取り、我が此の穢身は、虎狼狐狗、諸の獸の食ふ所、此の身は無常にして棄捨す可き物なり」と。菩薩摩訶薩は是の如く觀じ已りて、敬心に來り乞ひ求むる者を諦觀し、復た是の念を作さく、「我若し施さずんば、不堅固の中に堅固を、無常の中に常を、不淨の中に淨を得ざらん」と。菩薩摩訶薩は是の如く正念すれば、則ち能く清淨の直心を開發して、眞實の法を解り、來り乞ふ者に於て善知識の心を生ずらく、「能く我を教化して、不堅固の中に而も堅固を取らしむ」と。菩薩摩訶薩は、是の念を作し已りて、此の善根を以て衆生に回向し、一切の衆生をして內外清淨なる智慧藏の身を得しめ。一切の衆生をして智慧藏の腹を得て、悉く能く一切の智願を受持せしめ、一切の衆生をして清淨の身を得て、見る者厭くこと無く、堅固なる妙香の光明を演放して、普く十方に熏せしめ。一切の衆生をして如來の（一五）腹不現の相を逮得して、身宜相稱ひ支節を具足せしめ。一切の衆生をして法味の食を得て智身を長養し、佛法の愛を具へて柔軟に

【一五】腹不現相　八十種好の一にして、腹の形は方正にして缺くること無く、柔軟にして現はれず、衆相莊嚴せり。

充滿ならしめ。一切の衆生をして無盡の身を得て、法身に安住せしめ。一切の衆生をして内淸淨なる總持藏の身を得て、一切の辯明普く諸法を照さしめ。一切の衆生をして淸淨の身を得て内外悉く淨からしめ。一切の衆生をして如來智を得て、行身を修習し、普く甘露智慧の法雨を雨らしめ。一切の衆生をして悉く内身は淸淨にして寂靜、外身は能く衆生の爲めに智慧幢王と作ることを得て、一切を照明せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の。腸腎肝肺を施して、善根を衆生に回向し、一切の衆生をして悉く内外淸淨の身を得て、堅固なる無障礙の智に安住せしむるなり。

卷の第十九

金剛幢菩薩回向品第二十一の五

菩薩摩訶薩は來りて支節諸骨を乞ふもの有るを見れば、法藏菩薩、夜光菩薩の如し。是の如き等の無量の菩薩摩訶薩は、支節骨を施す。來り求むる者を見れば、大歡喜の心、明淨の心、寂靜の心、慈心、安樂の心、所著無き心、清淨の心を生じ、來り乞ふ者に於て願を滿たさしめんとの心を生ず。菩薩摩訶薩は支節を施し、攝むる所の善根を以て衆生に回向すらく、「一切の衆生をして如化の身を得て、永く世間の骨血肉の身を離れしめ。一切の衆生をして金剛力の身を得て、能く壞する者無く、能く勝る者無からしめ。一切の衆生をして薩婆若力の具足せる法身を得て、無縛無著の法界より出生せしめ。一切の衆生をして智力の身を得て、諸根堅固にして斷壞す可からざらしめ。一切衆生をして法力の身を得て、智力自在にして、彼岸に到らしめ。一切の衆生をして堅固の身を得て、壞散すべからざらしめ。一切の衆生をして隨應化の身を得て、善能く衆生を調伏し成就せしめ。一切の衆生をして智熏の身を得て、那羅延の支節莊嚴を具へしめ。一切の衆生をして堅固にして流注不斷絕の身を得て、究竟じて永く一切の疲倦を離れしめ。一切の衆生をして安住力の身を得て、悉く皆勇猛精進を具足せしめ。

一切の衆生をして淨法の身を得て、悉く能く一切衆生を分別して、無量なる智身の境界に入らしめ。一切の衆生をして功德力の身を得て、衆惡を除滅し、見る者を虛しからざらしめ。一切の衆生をして無礙の身を得て、皆悉く無染著の智を究竟せしめ。一切の衆生をして佛所攝の身を得て、常に一切の佛の守護する所と爲らしめ。一切の衆生をして普く衆生を饒益する身を得て、悉く能く徧く一切の諸道に入らしめ。一切の衆生をして圓應の身を得て、十方の衆生悉く其の面を見て佛法に背くこと無く、淸淨の照明常に現じて前に在らしめ。一切の衆生をして具足精進の身を得て、究竟大乘の智慧を修習せしめ。一切の衆生をして我慢、自大、放逸の身を捨離して、淸淨の身を得、智慧安住して傾動す可からざらしめ。一切の衆生をして堅く戒を持つ身を得て、大乘の一切智業を成就せしめ。一切衆生をして佛家に生ずるの身を得て、永く世間の生死の穢身を離れしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩、支節諸骨を施す善根回向にして、一切の衆生をして皆悉く淸淨にして薩婆若を得しむるなり。

菩薩摩訶薩は、人有り來りて手に利刀を執り、厚薄の皮を乞ふものを見れば、愛眼を以て視、歡喜し恭敬して、爲めに座處を敷き、卽ち是の念を作さく、「福田には遇ひ難し、而も自ら來りて我が本願を滿し、決定して一切種智を究竟せしむ」と。是の如きの言を作さく、「我が身の皮を取り、汝が意に隨ひて用ひよ」と。淸淨藏菩薩、金剛脇鹿王菩薩の如し。是の如き等の無量の菩薩摩訶薩は乞人に厚薄の皮を布施する時、是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして如來の薄皮の

相を得て、金色清淨ならしめ。一切の衆生をして金剛のごとく堅固なる不壞の薄皮を得しめ。一切の衆生をして㈠金色の皮を得て、閻浮檀金の藏の如くならしめ。一切の衆生をして無量色の皮を得、應に隨ひて色を現じ悉く清淨ならしめ。一切の衆生をして㈡明淨の皮を得て、塵垢を受けず、沙門如來の淨色を樂はしめ。一切の衆生をして第一色の皮を得て、自然に清淨ならしめ。一切の衆生をして如來の清淨色の皮を逮得して、微妙の相好をもつて自ら莊嚴せしめ。一切の衆生をして明淨の皮を得、大光明を放ちて普く一切を覆はしめ。一切の衆生をして明網の皮を得て、無量の光明圓滿し、具足して普く世間を覆はしめ。一切の衆生をして潤澤の皮を得て衆色清淨ならしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩、自身の厚薄の皮を布施する時の善根回向にして、一切の衆生をして無上最勝の菩提を逮得して、皆悉く如來の功德を具足せしむるなり。

菩薩摩訶薩は、人有り來りて手足の指を乞ふものを見れば、堅固精進菩薩、閻浮提自在王金光菩薩等の無量の菩薩摩訶薩の如し。手足の指を施す時、心大いに歡喜して、顏色異ること無く、大乘に乘じて施し、五欲を求めずして施し、名聞を求めずして施し、檀波羅蜜を建立して施し、大施の心をもつて施し、慳垢を離れて施し、嫉妬を離れて施し、佛に隨順して施す。是の手足の指を施して攝むる所の善根を以て衆生に回向すらく、一切の衆生

【一】金色皮。三十二相の一に身金色相あり、皮色紫金の如く光耀く相なり。

【二】明淨皮。三十二相の一に皮膚細滑相あり、皮膚細膩滑澤にして塵垢を受けざる相なり。

をして佛の長指の相を得しめ。一切の衆生をして指の密相を得て圓傭纖直ならしめ。一切の衆生をして（三）赤銅甲の相を得て節密清淨ならしめ。一切の衆生をして（四）大人の指相を得て、悉く能く一切の諸法を攝持せしめ。一切の衆生をして隨好十力相を具足せる指を得しめ。一切の衆生をして大人の指相を得て、纖傭堅密ならしめ。一切の衆生をして手足の指端は輪相をもつて莊嚴し、指節平滿にして文相明顯ならしめ。一切の衆生をして蓮華色の相を得て、十力の業報、相好莊嚴ならしめ。一切の衆生をして光明の指を得、光明網を放ちて、普く十方諸佛の世界を照さしめ。一切の衆生をして淨妙の指を得て、諸の相好を以て、具足莊嚴せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩、指を施す善根を衆生に回向し、一切の衆生の心をして皆清淨ならしむるなり。

復た次に菩薩摩訶薩は法を請ひ求むる時、若し人有り言はん、「汝能く我に連肉の爪を施さば、當に汝に法を與ふべし」と。菩薩答へて言はく、「但我に法を與へば、汝が須むる所に隨ひて、意の恣に取り用ひよ」と。求法王菩薩、無盡菩薩の如し。是の如き等の無量の菩薩摩訶薩は法を求めんが爲めの故に、一切の衆生をして正法を具へしめんと欲するが故に、是の善根を以て衆生に回向すらく、「一切の衆生をして悉く赤銅如來相の爪を得しめ。一切の衆生をして潤澤の爪を得しめ。一切の衆生をして佛の具足清淨光の爪を得しめ。一切の衆生をして具足せる大人の一切

【三】赤銅甲。指の爪は狹長にして薄く、鮮淨なること花の如く、赤銅の色をなす、八十種好の一なり。

【四】三十二相の一に手指纖長相あり、手指纖細にして圓く長く端直傭好にして指節參差し光潤愛すべきあるをいふ。

智の爪を得しめ、一切の衆生をして無比の爪を得て、諸の世間に於て染著する所無からしめ。一切の衆生をして莊嚴の爪を得て、普く衆生を照さしめ。一切の衆生をして細妙の爪を得て、微密清淨にして破壞す可からざらしめ。一切の衆生をして佛の具足せる方便相好を得て、大智清淨ならしめ。一切の衆生をして善生の爪を得て、菩薩の清淨なる行業の果報ならしめ。一切の衆生をして薩婆若の善方便の爪を得て、無量色の妙光明藏を放たしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の、肉爪を施す善根を衆生に回向し、一切の衆生をして一切智の爪を得て、如來の法身を具足し莊嚴し、皆悉く無障礙の力を滿足せしむるなり。

菩薩摩訶薩は法を求めんが爲めの故に、得難きの法の爲めの故に、能く法を施す者ありて、是の如きの言を作さんに、「若し能く身を七仞の火坑に投せば、當に汝に法を與ふべし」と。菩薩は此を聞きて歡喜すること量り無く、是の思惟を作さく、「我法の爲めの故には、尙ほ阿鼻地獄、諸の惡趣の中に於てさへ無量の苦をも受けん、況んや人間の微少なる火坑に入りて法を聞くことを得んをや。奇なる哉、正法は甚だ爲得易し。地獄の無量の楚毒を免れ、小火坑に入りて正法を聞かんとは。汝但だ法を說け、我火坑に入らん」と。求善法王菩薩、金剛思惟菩薩の如し。法の爲めに歡喜して火に入り、善根を衆生に回向すらく、「一切の衆生をして佛の所住の一切智の法を得て、無上道に於て堅固不退ならしめ。一切衆生をして皆悉く惡趣の火坑を除滅して、如來の樂を受けしめ。一切の衆生をして無

畏の心を得て、諸の恐怖を離れしめ。一切の衆生をして常に法を樂ひ求め、皆歡喜を得て佛法を莊嚴せしめ。一切の衆生をして諸の惡道を離れ、悉く能く三毒の熾火を除滅せしめ。一切の衆生をして悉く快樂を得て、如來の最勝なる妙樂を成就せしめ。一切の衆生をして菩薩の心を得て、悉く能く貪恚癡の火を除滅せしめ。一切の衆生をして悉く菩薩の諸の三昧の樂を得て、普く諸佛を見たてまつり、心大いに歡喜せしめ。一切の衆生をして常に正法を聞き、佛道を究竟じて未だ曾て忘失せざらしめ。一切の衆生をして悉く菩薩の自在なる諸通の快樂を得、究竟じて、薩婆若の智を具足せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩、法を求めんが爲めの故に火に赴き、善根を衆生に回向して、一切の衆生をして智慧の火を具へ、一切諸の不善の業を遠離せしむるなり。

菩薩摩訶薩は、法を求めんが爲めの故に、身を擧げて具さに無量の諸苦を受く。正法の爲めの故に、廣く正法を說かんが爲めの故に、菩薩の道を建立せんが故に、無上菩提を開かんが故に、無上智を具足せんが故に、十力を修習せんが故に、一切智の心を增廣せんが故に、無礙智を得んが故に、一切の衆生をして清淨ならしめんが故に、一切の菩薩の境界に入らんが故に、大乘の佛菩提を守護せんが故に。求正法菩薩、勇健王菩薩の如し。是の如き等の無量の菩薩摩訶薩は法を求めんが爲めの故に、無量の苦を受け、乃至正法を謗る人、極大の惡人、惡業障の人、魔業を持する人、正法の爲めの故に彼の惡人に代りて具さに諸苦を受く。菩薩摩訶薩は法を求めんが爲めの故に、諸の衆生に代りて苦を受

け、善根を衆生に回向すらく、「一切の衆生をして一切の苦を離れ、安樂利益を得しめ。一切の衆生をして諸の苦受を離れ、妙樂を成就せしめ。一切の衆生をして永く苦陰を滅して、電光の如き樂を得しめ。一切の衆生をして苦獄を超出して、智慧の行を具足し究竟せしめ。一切の衆生をして、安隱の道を見て苦惱の趣を離れしめ。一切の衆生をして法喜の樂を得て、充滿し具足し、究竟じて一切の衆苦を寂滅ならしめ。一切の衆生をして大悲心を發して、悉く一切の苦海を濟度せんと欲せしめ。一切の衆生をして諸佛の樂を得て、生死の苦を斷せしめ。一切の衆生をして無比の淨樂を得て、其の身は永く一切の苦受を離れしめ。一切の衆生をして一切の勝樂を得、究竟じて佛の無礙の樂を具足せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩。法を求めんが爲めの故に、悉く衆苦を受け、善根を回向して衆生を救護し、一切の衆生をして薩婆若の無礙の解脫に安住せしむるなり。

菩薩摩訶薩は法を求めんが爲めの故に、法得難きが爲めの故に、能く大地、四海、國土を捨て、大小の諸城、林邑丘聚、國土の豐樂なる、人民の熾盛なる、園林、浴地、華果の繁茂せる、是の如きの種種無量の莊嚴、天下太平にして怨敵有ること無き、金銀の寶藏、妻子眷屬を、皆悉く能く捨て、不堅固の中に於て堅固の法を求め、一切諸の衆生を饒益せんが故に。一切の衆生をして佛の無礙清淨の解脫、薩婆若の道を得しむること、大勢妙德菩薩、勝趣王菩薩の如し。是の如き等の無量の菩薩摩訶薩は正法を求めんが爲めの故に、乃至一句一味をも、五體を地に投じて、敬禮し頂受して、三世の

諸佛を正念し、正法を勤求して、正法の中に於て心常に欣樂して諸願を修習し、離貪の法を求めて世間の帝王の自在の法を捨離し、無上なる法王の自在の勝法を樂ひ求め、一切の世間を念せず、著せず、以て世法を離れて自ら心を長養し、一切世間の惡語を遠離し、寂靜にして諸佛の所住に安立す　菩薩摩訶薩は正法を求めんが爲めに、四天下の大地國土を施し、攝むる所の善根を以て衆生に回向すらく、「一切の衆生をして悉く能く内外の所有を捨離せしめ。一切の衆生をして能く一切を捨てて、心中に悔無からしめ。一切の衆生をして身命資生の具を惜まず、常に正法を求めしめ。一切の衆生をして悉く法利を得て、無量の衆生の疑惑を斷除せしめ。一切の衆生をして常に正法を樂ひ、諸佛の法に於て深き法愛を得しめ。一切の衆生をして能く身命と世間の自在とを捨て、佛法の大心を樂ひ求めて、無上菩提を修習せしめ。一切の衆生をして諸佛の正法を恭敬し尊重して、能く身命を捨てて正法を究竟せしめ。一切の衆生をして佛法を護持して、如來の聞くことを得難きの法を修習せしめ。一切の衆生をして悉く諸佛の菩提の明照を得て、菩薩の行を畢り、他に由りて悟らざらしめ。一切の衆生をして諸佛の法に於て自在を得、疑刺を拔出して心常に淸淨ならしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩、得難きの法を求めんが爲めの故に、國土を布施して善根を回向し、一切の衆生の知見を滿足せしむるなり。

復た次に菩薩摩訶薩は行法自在の時、悉く閻浮提の内の城邑聚落をして、一切の屠殺を斷除せしめ、

(五) 二足四足に普く無畏を施し、怨敵の心を離れ、菩薩の行を修し、政を以て國を治め。衆生の一切の

苦難を滅除し、一切の衆生の安隱なる心寶を發起し、正直勝妙の心寶を具足して、能く自ら(六)三種の戒法を具足し、亦衆生をして三種の戒を具へしむ。菩薩摩訶薩は不殺等の五戒の善根を以て衆生に回向すらく、「一切の衆生をして長壽の慧を得て、菩提の心を具へ、命根盡くること無からしめ。一切の衆生をして無量壽を得て、一切の諸佛を恭敬し供養せしめ。一切の衆生をして老死を離れたる法を具足し修習して、一切の衆難も命を害すること能はざらしめ。一切の衆生をして無量の病苦を離れたる身を逮得して、命根自在にして能く意に隨ひて住せしめ。一切の衆生をして無盡の命を得て、未來劫を盡して悉く具さに菩薩の所行を修習し、一切の衆生を調伏し化度せしめ。一切の衆生をして淨命門を得て、十力の善根皆悉く來り入らしめ。一切の衆生をして善根具足し、壽命無量にして諸願を成滿せしめ。一切の衆生をして悉く諸佛を見たてまつり、無盡長壽の善根を修習せしめ。一切の衆生をして如來の家に於て諸の所學を學び、無盡の命根を具足し、成就して、聖法の中に於て歡喜の心を得しめ。一切の衆生をして老病無き不死の命根を得て、無盡の精進をもつて佛智に安住せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩、離殺等の五戒の善根を以て、衆生に回向し、一切の衆生をして如來の三種の淨戒に安住し具足して、十力の智慧を究竟せしむるなり。

菩薩摩訶薩、若し衆生殘害不仁にして、若しくは人、若しくは獸、其の男形を毀り、身を殘闕して

【五】二足四足 譯して云はば二足とは人類、四足とは畜類のことなり。

【六】三種の戒。三聚淨戒のこと。

諸の楚毒を受けしむるを見れば、此の苦を見已りて、大慈悲を起して之を救度し、悉く貴樂珍寶を具足せしむ。菩薩摩訶薩は惡人に謂ひて言はく、「汝何の利の爲めに此の惡業を造るや、汝が須むる所に隨ひて盡く相資給せん。汝今便ち是の惡業を捨つ可し。正念すること能はずして其の貪欲を肆にし、彼を害して自ら利し、以て己が樂を求めんは、是の處有ること無し。此の如きの惡行と諸の不善の法とは、一切の如來の讃歎したまはざる所なり」と。菩薩摩訶薩は悉く能く一切の所有を捨離して、彼の衆生をして惡業を行ぜざらしむ。又彼の人の爲めに微妙の法を說く。謂ゆる、寂靜の法は淨業を長養し、不善を除滅す、慈心を修習して衆生を惱まさざれと。時に彼の惡人此の法言を聞き、即ち惡行を捨てて淸淨の業を修す。菩薩摩訶薩は慈救の善根を以て衆生に回向すらく、「一切の衆生をして佛の大人(七)陰藏の相を得しめ。一切の衆生をして男形を具足して(八)丈夫の意を得、梵行を淸淨ならしめ。一切の衆生をして丈夫無欲の身を成就して無礙の智に乘じ、不退を究竟せしめ。一切の衆生をして大人の身を得、永く欲心を離れて、染著する所無からしめ。一切の衆生をして皆悉く善男子の法を成就して、諸佛讃歎し智慧具足せしめ。一切の衆生をして大人の力を得て、十力の善根を具足し成就せしめ。一切の衆生をして常に男子の形を成就する

【七】陰藏。三十二相の一に馬陰藏の相あり、陰部藏くれて見えざること馬の陰部の如きをいふ。

【八】丈夫。丈夫たるに四法あり、一に心自ら正しく、二に他を正しくし、三に問に隨つて能く答へ、四に善く因緣の義を解するなり、男子と雖も此の四法具へざれば丈夫と名けず、女子と雖も此の四法を具すれば是れ丈夫なり。

ことを得て、堅固にして未曾有の法に安住せしめ。一切の衆生をして五欲の中に於て無著無縛にして、心に解脱を得、三界を遠離して菩薩の行を修せしめ、一切の衆生をして皆第一智人を成就することを得て、一切信伏し、皆道化を受けしめ。一切衆生をして菩薩の丈夫たる深智を成就して、一切の大乘の佛趣を究竟せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の毀形の者を救ひて、善根を回向し、一切の衆生をして皆悉く諸の善男子を救護し、賢聖の家に生れ、智慧具足して、男子の勝智を修習し、履行して、善能く(九)七丈夫の趣を示現し、無上の丈夫の正法を具足し、常に能く一切の衆生を化度して善根を回向し、一切の衆生をして、佛の清淨なる丈夫の勝法を得しむるなり。

復た次に菩薩摩訶薩、若し如來世に出興したまふ有れば、大音聲を以て普く一切に告ぐらく、「如來出世したまふ、如來出世したまふ」と。一切の衆生をして佛音を聞くことを得しめ、佛音を聞き已りて、自の大憍慢と放逸とを捨離し、諸佛を見たてまつることを得て、堅固に念佛三昧に安住し、佛の境界を修して未だ曾て廢忘せず。一切の諸佛を恭敬し供養して、常に佛を見たてまつらんことを樂ひ、百千劫にも値遇すること難きを以ての故に、廣く衆生の爲めに佛の遇ひ難きことを說く。衆生聞き已りて、常に一切の諸佛を樂見せんと欲し、心大いに歡喜して、恭敬供養し、尊重讚歎し、如來の所に於て諸佛の名を聞き、無量の佛の所に於て諸の

【九】　七丈夫。小乘に依れば七賢聖をいひ、大乘に依れば一說に十信、十住、十行、十回向、十地、等覺、妙覺、の七位なりといふ、是れ賢聖丈夫の履行する所なるが故に丈夫の趣と名く。

善根を種ゑ、修習し增長し、無量の衆生は如來に因るが故に、悉く皆清淨となり、無量の衆生は如來に因るが故に、悉く淨く調伏せらる。彼の諸の衆生は菩薩の所に於て、善知識の心を生じ、菩薩に因るが故に、諸の衆生に等しく悉く佛法を具へ、彼の諸の衆生は無量劫の中に修する所の善根をもつて悉く佛事を作す。菩薩摩訶薩は佛を歎ずる善根を以て、衆生に回向すらく、「一切の衆生をして常に諸佛を見たてまつり、初めより時を失はずして、應の如く化を受け、佛を歡喜せしめ。一切の衆生をして常に佛を樂見して、未だ曾て廢忘せざらしめ。一切の衆生をして智慧を修習して、能く一切諸佛の法藏を持せしめ。一切の衆生をして佛法を離れず、無量劫に於て菩薩の行を修し、常に正法を聞かしめ。一切衆生をして不忘念を得て、悉く一切諸の如來智を持せしめ。一切の衆生をして異業を念せず、諸佛を正念して十力を修習せしめ。一切の衆生をして方に隨ひて佛を見たてまつり、盡虚空界の一切の如來を悉く見奉ることを得しめ。一切の衆生をして佛身の自在を得て、一切の世界に於て佛道を現成せしめ。一切の衆生をして善知識の所に於て佛の正法を聞き、諸の如來に於て不壞の信を得しめ。一切の衆生をして佛の出世は皆悉く虚しからざることを讃せしめ。衆生を化度して普く清淨ならしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩、佛の出世を歎ずる善根の回向にして、一切の衆生をして悉く諸佛を見たてまつり、應の如く化を受け、無上の道、一切の佛法に於て究竟清淨ならしむるなり。

復た次に、菩薩摩訶薩は大地を布施す。或は佛に布施して殿堂を起立し、或は菩薩、及び善知識に

施し意に隨ひて用ひられ、或は聖僧に施して坊舍を造立し、或は父母に奉じて屋宅を興建し、或は餘人、聲聞緣覺、一切の福田、諸の乞ひ求むる者に施し、或は【一〇】四衆に施し、隨意に受用して乏くる所無からしめ、或は如來に奉じて塔廟を造立す。是の如き等の施は彼の受用に隨ひて、悉く怨敵一切の恐怖を離る。菩薩摩訶薩、大地を施す善根を以て回向して、一切の衆生をして、薩婆若の清淨の佛地を得、究竟して普賢菩薩の所行の彼岸に到ることを得しめ。一切の衆生をして大地陀羅尼を得て、癡を離れ正念し、悉く能く諸佛の妙法を受持せしめ。一切の衆生をして一切の法を持して佛法を守護せしめ。一切の衆生をして大地に等しき心を得て、衆生の所に於て清淨正直にして、惡念を生ぜざらしめ。一切の衆生をして佛の族姓を持して佛種を斷ぜず、次第に一切の菩薩の諸地の善根を成立せしめ。一切の衆生をして普く一切の爲めに安隱の依と作りて、悉く調伏せしめ、清淨なることを成就せしめ。一切の衆生をして如來と等しく衆生を饒益し、佛力に安立せしめ。一切の衆生をして悉く一切の愛樂する所と爲りて、諸佛の所愛樂の處に安住せしめ。一切の衆生をして堅固に如來の諸力、無畏法の中に安住せしめ。一切の衆生をして薩婆若の地を得て、諸佛の法に於て自在究竟ならしむ。是は爲菩薩摩訶薩の、大地を布施する善根回向にして、一切の衆生界をして如來の清淨道の地を究竟せしむるなり。

復た次に、菩薩摩訶薩は僮僕を布施す。或は諸佛、菩薩、善知識に奉ず、如來の法を增長せんと欲

【一〇】四衆。佛の四部の弟子。比丘、比丘尼、優婆塞（清信士）、優婆夷（清信女）をいふ。

するが爲めの故なり。或は僧寶に施し、或は父母尊重の福田に奉給し、或は復た諸の病瘦者に給施して其の命を全濟し、一切の貧窮にして諸の乞ひ求むる者に、皆悉く施與し、或は塔廟に施して灑掃を供給す。若し人有りて能く佛經を書寫せば、法を護らんが爲めの故に、無量億の僮僕淨人を以て其の使命に給す。此の諸の給使は皆悉く聰達明了にして黠慧あり、柔輭調伏にして常に勤め精進して、未だ曾て懈怠せず。正直の心、饒益の心、安樂の心、慈心、怨敵を離れたる心を成ず。此の諸の僮僕は是の如きの心を以て彼に奉給す。菩薩摩訶薩は彼の受者の方俗の宜しき所の才能技術に隨ひて、此の僮僕を以て之に施與す。悉く是れ菩薩の淨業の起す所にして、能く僮僕をして彼の意を悅可せしむ。
菩薩摩訶薩は僮僕を施す善根を以て囘向すらく、「一切の衆生をして調伏の心を得、諸佛に奉給して、善根を修習せしめ。一切の衆生をして一切の諸佛に隨順し奉給して、悉く諸佛の說きたまふ所を聞持せしめ。一切の衆生をして意に隨ひて自在に進んで如來を覲たてまつり、常に正念を修して餘の惡心無からしめ。一切の衆生をして佛種を紹繼して、如來の攝したまふ所の善根に隨順せしめ。一切の衆生をして如來に奉給して、常に時を失はず、見たてまつる所の諸佛は皆悉く虛しからざらしめ。一切の衆生をして悉く一切諸佛の妙義を攝して、言辭淸淨に、遊行無畏ならしめ。一切の衆生をして悉く諸佛を覲たてまつり、樂觀して厭くこと無く、諸の如來に於て身命を惜まざらしめ。一切の衆生をして諸佛を見たてまつることを得て、心に染著無く、世の所依を離れしめ。一切の衆生をして諸佛に依

止して、一切世間の吉祥を遠離せしめ。一切の衆生をして佛趣に隨順して、一向に無上菩提を樂ひ求めしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の、僮僕を布施する善根回向にして、一切の衆生をして永く垢染を離れて、佛の淨地、如來の法身の自在無礙を得しむるなり。

菩薩摩訶薩は身を以て布施して給使を爲す時、憍慢を捨離し、謙下の心、給使の心、大地の如き心、一切の苦を忍ぶ心、一切に供給して厭足無き心、懈怠無き心、一切の貧賤なる衆生に諸の善根を與ふる心、一切の尊貴、富樂、乃至童蒙、愚小をも皆悉く恭敬し供養する心、堅固に最勝の法門に安住して、一切の善根を正念し修習する心をもつてす。菩薩摩訶薩は身を以て布施し、善根を回向すらく、「一切衆生をし僮僕乏くること無く、菩薩の行を修して心退轉せず、未だ曾て菩薩の正義に違失せず、一心に專ら菩薩の道を求めて、菩薩の平等の正法を了達し、如來種姓の數に在ることを得て、眞實の法を修し、菩薩の行を增さしめ。諸の世間をして淨き佛法を得、深心に解脫して菩提を究竟せしめ。一切の衆生をして淸淨なる勝大の善根を增長せしめ。一切の衆生をして大功德に向ひ、一切智を究竟せしめん」と。菩薩摩訶薩は復た是の念を作さく、「身をもつて供養し、攝むる所の善根を以て、一切の衆生をして善能く一切の諸佛に給侍し、其の心柔輭にして常に正法を聞き、法を受持し、法を守護し、法を忘れず、法を壞せず、法を選擇せず、法を離れず、善く法を調伏し、善能く不調伏の法を調伏し、寂滅の法を調伏せしめ、彼の衆生をして諸佛の所に於て善能く隨順ならしめ。隨順の功德を以

て、一切の衆生をして第一の塔と作り、悉く能く衆生の供養を受くるに堪へしめ。一切の衆生をして第一の福田と作り、自然に無上菩提を正覺せしめ。一切の衆生をして最勝の福田と作り、普く能く一切の衆生を饒益せしめ。一切の衆生をして悉く殊勝なる功德の義藏と作り、皆能く善根の源底を窮盡せしめ。一切の衆生をして淨明の福田と作り、悉く能く果報を出生して量り無からしめ。一切の衆生をして勝れたる出道を得て、悉く能く一切の世間を超出せしめ。一切の衆生をして第一の調御と作り、其の所應に隨ひて悉く能く示導せしめ。一切の衆生をして最勝の陀羅尼を得て、悉く能く諸の如來の法を受持せしめ。一切の衆生をして無量なる最勝の法界を逮得して、虛空無礙の正道を具足せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の、己身を布施する善根回向にして、一切の衆生をして如來の應供智身を逮得せしむるなり。

菩薩摩訶薩は悉く法愛淸淨の喜心を得て、能く自身を以て普く諸佛を覆ひ、常に樂ひて無上の法寶を修習し、諸佛の所に於て父母の心を生じ、究竟無礙道の法を得んと欲し、無數の那由他の智慧の妙寶、諸の善根門を成就し、諸の如來の無量の法門に於て正念して忘れず、深く如來の諸の境界の義を解り、能く如來の微密なる梵音を以て、普く一切諸佛の法雲を雨らし、如來の法雲は徧く一切を覆ひて畏るる所無く、能く分別して一切智人の地を說き、究竟の薩婆若乘を具足し、無量無邊の大法を以て諸根を成滿す。菩薩摩訶薩は諸佛の所に於て甚深の法を聞き、歡喜すること無量にして、正道を

修習して自ら能く一切の疑惑を除滅し。又衆生をして歡喜すること無量にして疑網悉く除かしめ、功德成滿して善根具足し、無量の法門を修習して、普く大願を行じ、衆生を饒益して不動なる金剛藏の智に安住せしめ、正心に專ら無上菩提を求め、悉く能く一切の佛刹を嚴淨し、無量の如來を恭敬し親近したてまつる。菩薩摩訶薩は此の法に安住して、自身普く一切の諸佛を覆ひ、此の善根を以て衆生に回向すらく、「一切の衆生をして妙身具足して、悉く能く普く一切の諸佛を覆はしめ。一切の衆生をして如來の住に依りて、常に諸佛を見たてまつり、未だ曾て遠離せざらしめ。一切の衆生をして最勝の身を得て、一切の功德智慧を具足せしめ。一切の衆生をして離有の梵行を行ぜしめ、能く一切の諸佛を歡喜せしめ。一切の衆生をして無我所の身を得て、我我所に於て心に所著無からしめ。一切の衆生をして悉く能く分身して一切の刹に徧く、諸の世界に於て而も來去無からしめ。一切の衆生をして自在身を得、我我所を離れて自在に遊方せしめ。一切の衆生をして佛身を出生して、如來の無上身の家に處在せしめ。一切の衆生をして法力身を得て、法座に安住し、忍力成就して心壞す可からざらしめ。一切の衆生をして無比の身を得て、如來の淸淨法身を具足せしめ。一切の衆生をして出世間功德の身を得て、空法界に於て出生することを得しめん」と。是は爲菩薩摩訶薩、自身佛を覆ひ、攝むる所の善根を衆生に回向して、一切の衆生をして三世佛の勝妙の功德を成せしむるなり。

菩薩摩訶薩は、身を以て一切の衆生に布施する時、是の如きの念を作さく、「一切の衆生をして善根

を成就せしめ。一切の衆生をして常に善根を念ぜしめ。一切の衆生をして能く明燈と爲らしめ。一切の衆生をして安隱に樂住せしめ。一切の衆生をして法藏の腹を得て、悉く能く一切の衆生を含受せしめ。一切の衆生をして世間の明と作りて、衆闇を滅除せしめ。一切の衆生をして悉く一切の善根の因緣と作りて、善知識の爲めに展轉相成して、正道を開示し、無上の樂を得しめ。一切の衆生をして明淨の日と作らしめん」と。菩薩摩訶薩は身を以て一切の衆生に布施し、攝むる所の善根を衆生に回向すらく、「一切の衆生をして諸佛の智慧道の地を究竟せしめ。一切の衆生をして正道に隨順して、悉く無上の菩提を究竟せしめ。一切の衆生をして常に佛會に處して、悉く正化を受けしめ。一切の衆生をして威儀具足して、諸佛の清淨なる威儀を成就せしめ。一切の衆生をして悉く涅槃を得て、深く法義を解らしめ。一切の衆生をして悉く正法を得て厭き足ること無く、常に勝法に遇ひ、如來の家に生れしめ。一切の衆生をして世の悕望を捨て、如來の眞實の悕望を逮得せしめ。一切の衆生をして菩提樹に坐して、無量の清淨なる善根を出生せしめ。一切の衆生をして一切の煩惱怨敵を摧滅して、無害の心を發さしめ。一切の衆生をして無畏法を得て、悉く能く一切の佛法を護持せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩、自身を布施する善根回向にして、一切の衆生をして饒益し安隱にして、無上の法を得しむるなり。

菩薩摩訶薩は自ら己身を以て諸佛に奉給し、一切の如來に於て報恩の心を生じ、父母の心を生じ、

諸佛の所に於て清淨の深心を生じ、明淨の心を以て菩提を受持し、諸佛の法を得て、世間の法を捨て、如來の家に生れ、諸佛に隨順して、正法を守護し、一切衆魔の境界を遠離して佛の境界を修し、自ら己身を以て一切諸佛の法器を成就す。菩薩摩訶薩は是の如きの法を修して、自身に一切の諸佛に奉給し攝むる所の善根を衆生に回向すらく、「一切の衆生をして淨心に安住し、一切智の寶をもつて自ら莊嚴せしめ。一切の衆生をして衆生を調伏することを得、其と與に事を同じくして、一切諸の不善の業を遠離せしめ。一切の衆生をして不壞の眷屬を得て、悉く能く諸佛の正法を攝持せしめ。一切の衆生をして悉く如來の清淨の弟子と爲り、灌頂の菩薩の地を成就せしめ。一切の衆生をして悉く諸佛の攝護したまふ所と爲りて、一切諸の惡知識を遠離せしめ。一切の衆生をして諸佛に隨順して、最勝の生地菩薩の法行を修習せしめ。一切の衆生をして佛の境界に入りて、悉く皆一切智の記を受くることを得しめ。一切の衆生をして如來と等しく、諸佛の法に於て自在を得しめ。一切の衆生をして悉く諸佛の攝取する所と爲りて、無著の業を行ぜしめ。一切の衆生をして悉く諸佛の第一の侍者と爲り、智慧具足して、諸佛を悅可せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩身をもつて佛に奉事し、善根を無上菩提に回向するなり。一切の衆生を救護せんと回向し、衆生をして三界を超出せしめんと回向し、自心悉く清淨ならしめんと回向し、無量廣大の菩提に回向し、諸佛の照明なる智慧に回向し、己身佛の攝したまふ所と爲らんと回向し、一切の佛法を受持せんと回向し、一切の佛法を樂ひ求めんと回向し、

善根悉く三世の諸の如來と等しからんと回向し、清涼の心をもつて一切の佛法を得んと回向するなり。

菩薩摩訶薩は國土を布施する時、帝王自在の心を捨て、無著無縛にして自在を求めず、惡業を遠離して、普く衆生に於て悉く饒益安樂の心を起す。菩薩摩訶薩は國土を施す善根を以て回向すらく、「一切の衆生をして愚癡を遠離して、明かに業報を識らしめ。一切の衆生をして世法を樂はざらしめ。一切の衆生をして一切世間の生處に著せざらしめ。一切の衆生をして世界の堅固の相を取らざらしめ。一切衆生の心をして陰界諸入に染著せざらしめ。一切衆生の心をして我我所の法に染著せざらしめ。一切衆生の心をして諸の菩薩の行を忘失せざらしめ。一切の衆生をして未だ曾て諸の善知識を捨離せざらしめ。一切の衆生をして能く悉く菩薩の願行を受持せしめ。一切の衆生をして諸の善知識を皆悉く歡喜せしめん」と。菩薩摩訶薩は國土を施す善根を以て回向すらく、「一切の衆生をして法王の處を得て、自在の法に於て彼岸に到ることを得しめ。一切の衆生をして法王の法を得て、一切の結王怨敵を調伏せしめ。一切の衆生をして法王と同止して、佛の法と如來の智慧とを讃歎せしめ。一切の衆生をして佛の境界、法王の家に住して、能く自在に無上の法輪を轉ぜしめ。一切の衆生をして如來の巧妙なる方便を出生して、法の自在を得、佛法を護持して永く絶えざらしめ。一切の衆生をして無量の法王の正法を護持して、皆悉く勝大の菩薩を成就せしめ。一切の衆生をして淨法界に於て法王と爲ることを得て。世に出興し、相繼ぎて絶えざらしめ。一切の衆生をして諸の世界に於て智慧王と作り

て一切の衆生を調伏し成就せしめ。一切の衆生をして普く法界虚空界に等しき世界の衆生の爲めに、法施の主と作りて、一切諸の衆生界を摩訶衍に建立せしめ。一切の衆生をして法王の法を得て、三世の佛の善根と齊等からしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の、王位を布施する善根回向にして、一切の衆生をして、皆悉く安隱の處を究竟せしむるなり。

菩薩摩訶薩は、人有り來りて王の京都嚴飾せる大城を乞ふものを見れば、歡喜の心を以て施し、不亂の心を以て施し、一向に正しく菩提を求むるの心をもつて施し、無量の願心をもつて施し、大慈心をもつて施し、大悲心をもつて施し、清淨心をもつて施し、一切の衆生を利せんが爲めの故に施し、自ら摩訶衍に安立せんが故に施し、諸佛の法平等の心を以て施し、善法を行ずる心をもつて施し、一切智王を欲する心をもつて施し、法王の自在の意を求めんが故に施し、智慧を増上せんと欲する心をもつての故に施し、一切の清淨の功德を欲する心をもつて施し、堅固にして廣大なる心をもつて施し、一切の善根を長養せんが故に施し、衆魔の恐怖を遠離して佛智を具足せんが故に施し、菩薩の心力に安住せんが故に施し、一切の境界、一切の智、菩薩の所行、及び諸の大願を究竟せんが故に施す。菩薩摩訶薩は京都嚴飾せる大城を布施し、攝むる所の善根を衆生に回向すらく、「一切の衆生をして一切の刹を淨めしめ、佛に施して住せしめ。一切の衆生をして常に（二）阿蘭若の處を樂ひて、寂靜に安住せしめ。一切の衆生をして一切の國土、都邑、聚落、大小の諸城に著せず、究竟じて欲を離れて

上寂靜を得しめ。一切の衆生をして心一切の世間に親近せず、悉く皆永く世間の語言を離れしめ。一切の衆生をして離欲の心を得て、所有を布施し、心に中悔なからしめ。一切の衆生をして家業に著せず、淨直の心を得しめ。一切の衆生をして悉く一切を捨てて縛著する所無く、善施を成就せしめ。一切の衆生をして住處に著せず、一切の居家の貪著を捨離せしめ。一切の衆生をして諸の苦惱を捨てて、一切の恐怖憂慼を除滅せしめ。一切の衆生をして一切の世界を以て嚴淨の刹と爲し、諸佛に奉施せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩、京都嚴飾の大城を布施する善根回向にして、一切の衆生をして佛住を嚴淨せしむるなり。

【二】阿蘭若（Araṇya）。遠離處、寂淸處等と譯す、俗塵を離れ淸閑にして修道に適當なる地をいふ。

菩薩摩訶薩は寶女、侍人、眷屬を布施す。技術悉く備り、才能巧妙にして、言戲を善くし、威儀具足し、奉給すること恭順に、能く人心を感ぜしめ、世間の功德は備り擧くさざる無く、莊嚴綺麗にして天人を回動し、言音和雅にして麤陋無く、主に侍して禮を盡し、其の意を失はず、姿容殊妙にして見るもの厭くこと無き、千億の拔直供侍の寶女は、皆是れ菩薩の淨業の果報なり、而も用ひて布施す。無著の心を以て施し、虛妄を離れたる心をもつて施し、一切の欲に縛せられずして施し、一切の色に於て所著無くして施し、欲樂を貪らずして施し、欲の覺觀を離れて施し、寶女の形色に於て想を生せずして施す。菩薩摩訶薩は寶女眷屬を布施して善根を回向す。一切衆生生死を出離せんと回向し、

悉く諸佛の喜樂を得んと回向し、不堅固の中に堅固を得んと回向し、金剛界の智・不可壞の心に回向し、如來の圓滿なる大衆に回向し、堅固なる眞實を攝取せんと回向し、無上菩提の心に回向し、智慧をもつて諸法を分別せんと回向し、一切の善根を出生せんと回向し、三世の佛敎に違はざらんと回向す。菩薩摩訶薩は是の如きの法に住し、如來の家に生れ、一切智道を出生し、深く一切の菩薩の智業に入り、一切世間の塵垢を捨離し、寶心を調伏し、功德圓滿にして、無上の福田となり、廣く妙法を說きて衆生を安立し、一切の衆生をして皆悉く淸淨にして一切の善根を修習し攝取せしむるなり。

菩薩摩訶薩は寶女眷屬を布施し、攝むる所の善根を衆生に回向すらく、「一切の衆生をして無量の三昧の眷屬を逮得し。又菩薩の不壞の三昧を得しめ。一切の衆生をして悉く諸佛の莊嚴三昧に入り、常に佛を樂觀せしめ。一切の衆生をして悉く菩薩の不可思議なる自在遊戲の三昧を行じて、無量の自在三昧に安住せしめ。一切の衆生をして如實の三昧に入りて、其の心を壞らざらしめ。一切の衆生をして悉く菩薩の甚深三昧を得て、一切の三昧に於て皆自在を得しめ。一切の衆生をして皆悉く三昧の眷屬を成就して、心に解脫を得しめ。一切の衆生をして善能く種種の三昧を分別して、悉く善能く諸の三昧の相を取らしめ。一切の衆生をして勝智三昧を得て、一切諸の三昧門を修習せしめ。一切の衆生をして無礙の三昧を得て、能く決定して不壞の正受に入らしめ。一切の衆生をして無著の三昧を得て、心常に念じて不二の三昧を行せしめ。一切の衆生をして不可壞の淸淨の眷屬・菩薩の眷屬を得

しめ。一切の衆生をして普く清淨なる菩提の心を發して、佛法を滿足せしめ。一切の衆生をして薩婆若の力清淨に滿足して、無上智を得しめ。一切の衆生をして隨順の眷屬を得て、悉く衆生と意を同じくして安住せしめ。一切智の功德を滿足することを得て、一切の勝妙の善根を成就せしめ。一切の衆生をして眞實の眷屬を得て、如來の清淨なる法身を成就せしめ。一切の衆生をして諸辯を成就して、無縛無著にして廣く諸佛の無盡の法藏を說かしめ。一切の衆生をして各一切の爲めに善知識と作りて、一切の勝妙なる善根を成就せしめ。一切の衆生をして淨業滿足して、一切諸の清淨法を成就せしめ。一切の衆生をして諸佛の淨妙の法門を滿足して、諸の淨法を以て世間を莊嚴せしめん」と。

是は爲菩薩摩訶薩、寶女眷屬を布施する善根の回向なり。

復た次に、菩薩摩訶薩は妻妾男女を布施すること、須達拏太子、現莊嚴王菩薩の如し。是の如き等の無量の菩薩摩訶薩は、薩婆若乘に乘じて一切の施を行じ、檀波羅蜜を具足し成滿して、菩薩の布施の道を嚴淨し、清淨なる不悔施の心を長養し、一切の施寶薩婆若の心に入り、一切の衆生をして皆悉く清淨にして正直の心を具へしむ。清淨の正直心を具足し已りて、一切の菩提は皆悉く滿足し、志常に菩薩の淨道を樂ひ求め、諸佛の菩提願門を受持し、一切の如來家の心を修習す。是の如く菩薩摩訶薩の意力成就して、如來の處を求むれば、自ら己身は一切に繫屬して自在を得ず彼に隨ひて走使することを知り、普く衆生に於て一切の施を行じ、未だ滿足せざるものに於て悉く滿足せしめ、一

切の衆生を護持し安慰して、自身をして普く世間の爲めに第一の塔と作らしめ、一切の衆生をして皆悉く歡喜せしめんと欲し、一切に於て平等の心を具へんと欲し、世間の爲めに清涼池と作らんと欲し、世間の爲めに施樂の主と作らんと欲し、一切の爲めに大施主と作らんと欲し、智慧を首と爲して、菩薩の行を習し、説の如く修行し、一切種智をもつて大誓莊嚴を成せんと欲し、常に專ら智慧の福田を求めんと欲し、悉く衆生に請うて善根を長養し、己身を建立し、正敎を崇順して普く一切の爲めに智慧の明と作り、菩薩の一切の施心を正念し、一切の諸佛常に現じて前に在り。菩薩摩訶薩は妻妾男女を布施し、攝むる所の善根を以て、無著無縛の解脫の心にて衆生に回向すらく、「一切の衆生をして普く無量なる變化の身を出し、十方一切の世界に充滿して、不退の法輪を轉じ、一切の衆生を無上道に安立せしめ。一切の衆生をして身に貪著せず、諸願具足して、悉く十方諸佛の世界に詣らしめ。一切の衆生をして憎愛の心を離れて、愛恚の結を斷ずることを得しめ。一切の衆生をして佛の眞子と爲りて、如來の家に行かしめ。一切の衆生をして諸佛の所に於て、自己の心を生じて、沮壞す可からざらしめ。一切の衆生をして常に佛子と爲りて法化より生ぜしめ。一切の衆生をして正希望を得て薩婆若を成ぜしめ。一切の衆生をして善根を修習して、究竟じて無上菩提を具足せしめ。一切の衆生をして諸佛の菩提と解脫とを成就して無上の法を施さしめ。一切の衆生をして無生の心を得て、因緣を壞らざらしめ。一切の衆生をして、菩提樹に坐して最正覺を得、無上の道を成じて、無量の眞法より男女を

化生せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩、妻妾男女を布施する善根回向にして、一切の衆生をして無著の解脱、無礙の智慧を得しむるなり。

菩薩摩訶薩は、人有り來り從ひて家を乞ふ者を見れば、家の莊嚴具を以て具足し莊嚴して之を布施し、威儀を修習して家に於て著すること無く、居家の一切の覺觀を遠離し、惡家の業、資生の具を厭ひ、家の珍妙玩好の物に於て貪心を生ぜず、味著する所無く、家の衆具に於て染縛の心無く、家の磨滅して須臾に變易することを解り、出家して道を求め、佛法を究竟し、菩薩の住に安住して、佛法をもつて莊嚴し、心能く一切を捨てて中悔せず、常に諸佛の爲めに稱歎せられ、資生の物と、一切の住處とに於て、心染著無し。來り求むる者を見れば歡喜すること無量にして、能く決定して施す。菩薩摩訶薩は家を布施し、攝むる所の善根を以て是の如く衆生に回向すらく、「一切の衆生をして妻子を捨離して、常に出家を樂はしめ。一切の衆生をして家も家に非ずと信じて、家を捨て道を求め、佛法の中に於て梵行を淨修せしめ。一切の衆生をして一切の施を樂ひ、心に中退せずして離慳に安住せしめ。一切の衆生をして永く家法を離れて、少欲知足にして藏積する所無からしめ。一切の衆生をして俗家を樂はずして常に佛家を樂はしめ。一切の衆生をして悉く皆永く障礙の法を離れ、一切諸の障礙の道を滅除せしめ。一切の衆生をして家屬に染せられず、現じて家に在りと雖も心に所著無からしめ。一切の衆生をして能く一切を化して、現じて家に在りと雖も正覺の智を說かしめ。一切の衆生

をして在家を示現して佛の所住に住し、心常に如來の智慧に隨順せしめ。一切の衆生をして家に在りて悉く能く衆生を悅喜し、佛の所住に住せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩、家を施す善根を以て囘向し、一切の衆生をして悉く菩薩の種種の諸行を行じ、諸願を滿足し、智慧自在ならしむるなり。

卷の第二十

金剛幢菩薩囘向品第二十一の六

菩薩摩訶薩は莊嚴せる遊戲の園林を布施する時、是の如きの念を作さく、「我當に一切の衆生の爲に愛樂の法林と作るべし。我當に一切の衆生の爲めに、悅樂の處を示現すべし。我當に一切の衆生に無量の歡喜を與ふべし。我當に一切の衆生の爲めに、淨き法門を開きて三界を超出せしむべし。我當に一切の衆生に無上の菩提を與へて、諸願を滿足せしむべし。我當に一切の衆生の爲めに慈父と作り、智慧をもつて一切の三界を觀察すべし。我當に一切の衆生に資生の具を惠み施して、乏くる所無からしむべし。我當に一切の衆生の爲めに慈母と作り、善根を出生して諸願を滿足せしむべし」と。菩薩摩訶薩は善根を回向し、厭足無き心をもつて、一切の衆生の諸惡を遠離せんと回向し、正心に一切の衆生を安隱にせんと回向し、報恩を求めざらんと回向し、衆生の利養を求めざらんと回向し、讃歎を求めざらんと回向し。一切衆生の無量の苦惱を除滅せんと回向し、一切の衆生は其の心清淨なること猶は虛空の如くならんと回向し、一切の衆生は善根を首と爲し一切諸法の眞實を觀察せんと回向し、一切の衆生は大莊嚴を以て自ら莊嚴し、永く苦陰を離れんと回向し、摩訶衍の願に於て厭き足ること

無く、永く邪見を離れ、菩薩の所行、及び諸の大願を具足し修習せんと回向す。菩薩摩訶薩は莊嚴せる遊戲の園林を施し。攝むる所の善根を以て、衆生に回向すらく、「一切の衆生をして轉た勝れたる善根を得、究竟じて無上菩提の園林の心を成就せしめ。一切の衆生をして不動の法を得て、普く諸佛を見たてまつりて、皆悉く歡喜せしめ。一切の衆生をして常に法林を樂ひ、佛刹の娛樂の園林を逮得せしめ。一切の衆生をして淨妙の心を得て、常に如來の大神足の林を見たてまつらしめ。一切の衆生をして如來の自在なる遊戲を樂ひ、智慧自在にして徧く十方に遊ばしめ。一切の衆生をして法戲を修習して諸の佛刹に詣り、道化を諮受せしめ。一切の衆生をして菩薩の戲を樂ひ、盡未來劫に菩薩の行を修して、心に疲倦無く、清淨の解脫に安住せしめ。一切の衆生をして一切の佛の充滿せる法界を見て、佛の大心を樂ひ園林を清淨ならしめ。一切の衆生をして諸佛の刹に詣り、其の心忻樂して諸佛を供養せしめ。一切の衆生をして離欲の心を樂ひ、清淨に一切の佛刹を莊嚴せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の、莊嚴せる遊戲の園林を布施する善根回向にして、一切の衆生をして一切の諸佛の園林に遊戲し、一切の佛を見たてまつらしむるなり。

復た次に菩薩摩訶薩は無量億那由他の阿僧祇の大衆の施會を作して、惡を離れ清淨にして、諸佛に歎ぜられ、普く衆生を淨め、永く衆惡を離れ、三業の迹を淨めて薩婆若の心を生じ、無量の境界は皆悉く清淨にして、無量百千萬億那由他の布施の具は、皆悉く莊嚴して以て惠み施す。菩薩摩訶薩は

大施會の攝むる所の善根を以て、衆生に回向すらく、「一切の衆生をして悉く無上菩提の心を得て、無量の施を行じ、皆悉く清淨ならしめ。一切の衆生をして皆悉く無量無邊の清淨の道を究竟せしめ。一切の衆生をして無量の慈を行ぜしめ、衆の須むる所に隨ひて悉く滿足せしめ。一切の衆生をして無量の悲を行じ悉く能く一切の衆生を救護せしめ。一切の衆生をして三世の如來の正教に隨順せしめて、佛を歡喜せしめ。一切の衆生をして諸佛の所に於て布施を修行し、心に中悔なからしめ。一切の衆生をして皆悉く勝妙の信根を長養して念念の中に於て無量の布施を修行し增進せしめ。一切の衆生をして摩訶衍の心を得て、皆悉く大乘の施會を成就せしめ。一切の衆生をして大善會の施、究竟施、善施、勝施、隨願施、第一施、上施、無上施、無等施、出世間施、一切諸佛の讚歎する所の施を成ぜしめ。一切の衆生をして第一施の主と成り、諸の惡道に於て衆生を拔出して、無礙清淨の智道に安置し、平等の願、眞實の善根を修し、無等等の如來の智慧を得しめ。一切の衆生をして寂靜なる諸の禪定智に安住して、不死の道に趣き、一切の通明智慧を究竟し、勇猛精進して諸施を具足し、佛法を莊嚴し、彼岸を究竟して永く退轉せざらしめ。一切の衆生をして大乘の會を退轉せざることを得て、衆生に給施して休息すること無く、無上の一切種智を究竟せしめ。一切の衆生をして諸の善根を種ゑ、悉く無量なる功德の彼岸に到らしめ。一切の衆生をして諸佛に歎ぜられ、普く一切の爲めに大施主と作りて、功德具足して法界に充滿し、普く十方を照し、無上の樂を施さしめ。一切の衆生をして悉

く平等大布施の主と爲りて、善根を究竟し等しく衆生を攝せしめ。一切の衆生をして勝施の主と爲りて、一切を無上の乘に建立せしめ。一切の衆生をして應時施の主と爲りて、悉く非時を離れて時會を究竟せしめ。一切の衆生をして善施の主と爲り、大人の施法を具へて、彼岸に到らしめ。一切の衆生をして嚴淨施の主と爲りて、一切の佛の薩婆若の處に至らしめ。一切の衆生をして一切の淨施の主と爲りて、法界に等しき功德を出生し積聚せしめ。一切の衆生をして一切を出過せる施主と爲りて、大願を滿足し、衆生を度脫して、如來の處非處の力に安住せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の大施の善根回向にして、一切の衆生をして無上の捨を行じ、究竟の佛施、善を成就する施、不可壞の施、諸佛の法施、愛眼心の施、衆生を救ふ施、薩婆若の施、諸佛を見たてまつる施、威儀を具する施、菩薩の所行の功德と佛の智慧とを具足する施をなさしむるなり。

復た次に菩薩摩訶薩は悉く一切の資生の具を捨て、心に貪著無く、果報を求めず、世間の富樂も希望する所無く、愚癡を捨離して深く諸法を解り、一切の衆生を饒益し安立し、眞實相の心をもつて一切の法を解り、種種の莊嚴諸の資生の具、無量の境界、種種なる莊嚴資生の具をもつて衆生を饒益し、究竟施、一切施、內外施をもつて直心を增長す。一切の衆生をして功德の寶心を具へ、善能く無量の衆生を饒益せしめ。一切の衆生をして寶心を成就せしめ。一切の衆生をして淸淨の善根、三世の佛に等しくして、一切智を具へしむ。菩薩摩訶薩は資生の具を施し、攝むる所の善根を以て衆生に

回向すらく、「一切の衆生をして淸淨に調伏せしめ。一切の衆生をして皆悉く一切の佛刹を嚴淨して煩惱を除滅せしめ。一切の衆生をして淸淨の心を以て、念念の中に於て、法界に充滿せしめ。一切の衆生をして智慧を虛空法界に充滿せしめ。一切の衆生をして一切智を得て三世に了達し、一切時に於て不退の法輪を轉ぜしめ。一切の衆生をして悉く皆一切種智を示現し、巧妙の方便をもつて衆生を饒益せしめ。一切の衆生をして悉く一切諸の如來の道を悟りて、未來劫を盡して一切の刹に於て廣く佛法を說き未だ曾て休息せざらしめ。一切の衆生をして無量劫に於て菩薩の行を修し、心に厭倦無からしめ。一切の衆生をして一切の世界、淨世界、不淨世界、小世界、中世界、大世界、微細世界、廣世界、翻覆世界、伏世界、是の如き等の一切の世界に於て、皆悉く嚴淨し、菩薩充滿して大乘の行を行ぜしめ。一切の衆生をして念念の中に於て、悉く三世の一切の佛事を作し、衆生を調伏して薩婆若を立てしめん」と。

(二)是の菩薩摩訶薩は是の如き等の無量の阿僧祇劫を以て、衆生を饒益し、佛法を斷ぜざらしめ、大悲心を以て衆生を救護し、大慈を修習して菩薩の行を具へ、一切諸の如來の論を建立し、一切の衆生をして皆悉く諸佛の善根を斷ぜざらしむ。來り求むる者有れば、悉く其の意を滿じて患厭無く、能く一切を施して心に悔有ること無く、一切の物、資生の具を捨て、來る所の方に隨ひて忻悅せしめざること無く、諸の衆生に於て一子の想の如くし、來

【二】以上、七十門の布施の善根を回向することを明かし竟り、次に所爲に於て歡喜の心を生じて回向することを明かし、總じて前說を結す。

り求むる者を見れば、心大いに歡喜し、是の念を作して言はく、「是れ我が善知識なり」と。爾の時に菩薩大悲の心、歡喜の心、不可壞の心、大施の心を長養す。菩薩摩訶薩は來り求むる者を見れば、其の須むる所に隨ひて、悉く之を資給し、其の意を充滿して、乏くる所無からしめ、皆歡喜せしめ、其の貧苦を斷ちて、富樂を具足し、同聲に稱美し、歎德して歸らしむ。菩薩爾の時に心大いに歡喜し、百千億那由他劫に於て、帝釋の受くる樂も及ぶこと能はざる所、須夜摩天王、兜率陀天王、化自在天王、他化自在天王の、百千億那由他劫に受くる所の喜樂も及ぶこと能はざる所、梵天王の樂、乃至淨居天の無量無邊の阿僧祇劫の禪定の快樂も亦及ばざる所、無量無數の稱說す可からざる阿僧祇劫の轉輪王の樂も亦及ぶこと能はざるなり。菩薩摩訶薩は是の如く大喜無量にして、信心增長し、直心清淨にして諸根柔輭に、定心增廣して菩提心を生じ、堅固にして轉せず。菩薩摩訶薩は善根を回向して、一切の衆生をして、毒害の心を離れしめ、一切の衆生をして安隱快樂ならしめ。一切の衆生をして眞實の義を得しめ。一切の衆生をして悉く清淨なる無上菩提を得しめ。一切の衆生をして悉く平等を得しめ。一切の衆生をして賢善の心を得しめ。一切の衆生をして普賢菩薩の摩訶衍の心を逮得せしめ。一切の衆生をして所行悉く善ならしめ。一切の衆生をして普賢菩薩の修する所の願行を具へしめ、一切の衆生をして十力の乘を覺せしむ。

㊂菩薩摩訶薩は此の善根を以て回向する時、身口意の業に於て無著無縛にして、解脫の心をもつて

回向す。無衆生の想をもつて回向し、命の想無く、人の想無く、福伽羅の想無く、男子の想無く、年少の想無く、〔三〕禪頭の想無く、造の想無く、受の想無く、有の想無く、無の想無く、今世後世の想無く、此に死し彼に生るるの想無く、有常の想無く、無常の想無く、三有の想に非ず、三有無きの想に非ず、想に非ず、無の想に非ず、無縛無著の解脱の心をもつて回向し、無業にして回向し、無業報にして回向し、無虚妄にして回向し、無眞實にして回向し、無思にして回向し、無思報にして回向し、無心にして回向し、無心無くして回向す。

菩薩摩訶薩は是の如く回向する時、内に著せず、外に著せず、緣に著せず、境界に著せず、因に著せず、因緣和合に著せず、法に著せず、非法に著せず、思に著せず、思果に著せず、色に著せず、色取に著せず、色滅に著せず、受想行識に著せず、受想行識取に著せず、受想行識滅に著せず。菩薩摩訶薩若し此の法の中に於て心著せざる者は、則ち色に縛せられず、色取に縛せられず、色滅に縛せられず。受想行識に縛せられず、受想行識取に縛せられず、受想行識滅に縛せられず。若し此の法に於て縛せられざる者は、則ち諸法に於て亦解有ること無し。何を以ての故に。一切の諸法は不生不滅にして自性有ること無く、一無く二無く、多無く少無く、有量無く無量無く、善無く惡無く、深無く淺無く、靜無く亂無く、著無く離無く、法無く非法無く、性無く非性無く、有無く無無きが故な

【二】以上廣く行相を顯はし、衆生と菩提とに回向することを明かし竟り、次に行極まりて眞に契ふことを明かす、即ち是れ實際回向なり。

【三】禪頭。又は禪豆、縛都ギャーナイ(jñāti)生者と譯す。

り。菩薩は是の如く法を見れば則ち是れ法に非るなり。言語の道斷ゆるが故に。非法を法と爲し、而も亦一切の業迹を壞せず、具さに菩薩の行を修して一切智を退せず、業緣は夢の如く響の如く、鏡中の像の如しと解知し。一切の法は幻の如くにして而も亦因緣業報に違はず、甚深の業に入りて法の眞實を解れば、無行無作にして、亦復た業行の道に違はず。菩薩摩訶薩は一切の善根を以て是の如く一切種智に回向し、普く十方に遊びて衆生を教化す。回向とは何の義ぞや。永く世間生死の彼岸に度るが故に回向と說き、諸陰の彼岸に度るが故に回向と說き、語言道の彼岸に度るが故に回向と說き、衆生相の彼岸に度るが故に回向と說き、身見の彼岸に度るが故に回向と說き、不堅固の彼岸に度るが故に回向と說き、諸行の彼岸に度るが故に回向と說き、諸有の彼岸に度るが故に回向と說き、諸取の彼岸に度るが故に回向と說き、諸の世間法の彼岸に度るが故に回向と說く。

【四】第三行所成の益を辨す。

㊃菩薩摩訶薩、若し能く此善根を以て回向すれば、則ち皆一切の諸佛に隨順し、法に隨順し、智に隨順し、菩提に隨順し、義に隨順し、回向に隨順し、行に隨順し、眞實に隨順し、清淨に隨順す。菩薩摩訶薩は是の如く回向し已りて、一切の衆生をして如來の法を得しめて諸佛を歡喜し、佛として値ひたてまつらざること無く、法として了らざること無く、一切の法に於て違無く失無く、悉く能く一切の佛法を分別して、正法を捨てず、因緣內外の諸法に違はず、法力具足して休息有ること無し。佛子、是を菩薩摩訶薩の第六の隨順一切堅固善根

回向と爲す。

(五)菩薩摩訶薩此の回向に住すれば、無量の諸佛皆悉く守護して、堅固の法を得、一切智を修し、隨順の義を解り、一切の法を解り、眞性に隨順して一切法を得、堅固なる善根に隨順し・隨順して諸願を滿足し、堅固の法に隨順することを得て、一切の金剛も壞ること能はざる所、堅固の願に隨順することを得、一切法の中に於て自在を得。』

(六)爾の時金剛幢菩薩、佛の神力を承けて十方を觀察し、一切の大衆を觀察し、法界を觀察し、深く諸法の句味の義に入り、無量の心を修して、大悲普く一切の衆生を覆ひ、三世の如來の家法を覺悟し、一切諸佛の功德に入り、諸佛の自在の身を逮得し、一切諸の衆生の心を分別し、種うる所の善根に隨ひて、受化の時に應じ、法身に隨順して色身を示現し、偈を以て頌して曰はく、

『(七)一切世間の諸の大王、菩薩は身を現じて彼に於て生れ、彼の尊豪なる大王の位に處して、悉く能く諸の群生を調伏す。
其の心柔軟にして常に淸淨、一切衆に於て自在を得・常に正法を以て天下を治め、方便隨順して世間を樂しむ。
菩薩は淸淨の王家に生れ、常に能く應の如く法輪を轉じ、諸惡を遠離して正しく國を治め、十方

【五】後、當位所成の果を明かす。
【六】重頌、四十一偈あり、但位行のみを頌す。先づ偈を說く因緣を序す。
【七】初の五偈は前の行所依の身を頌す。

の衆生教に違ふこと無し。

菩薩は色相功德滿ちて、甚深の妙智慧を具足し、堅固に安住して退轉せず、悉く能く一切の魔を降伏す。

常に能く具さに清淨の戒を持ち、決定して忍辱力に安住し。一切の瞋恚の毒を除滅して、常に能く最勝の法を修習す。

〔八〕菩薩は具さに布施の法を行じ、飲食・華鬘・乘・衣服・塗香・房舍・明淨の燈、是の如き等の施に量有ること無し。

菩薩の施す所は衆生を益し、常に能く廣大の心を開發し、其の意清淨にして大いに歡喜し、尊勝及び世間に布施す。

菩薩は悉く能く無量なる、內外有する所の一切の物を捨てて、行ずる所の布施を常に歡喜し、未だ曾て暫らくも中悔の心有らず。

菩薩は悉く能く頭目、手足・肌肉・及び骨髓を施し、一切の身分を悉く惠み施して、其の心に未だ曾て中悔を生ぜず。

菩薩は大王の位に處在し、清淨にして富貴なる人中の尊、大悲をたれ舌を以て群生に施し、楚毒無量なるも中悔せず。

【八】次の三十偈半は依身所起の行を頌す。中に於て初の十九頌は衆生及び菩提回向なり。

菩薩は舌を施す淨き善根を、一切諸の群生に回向し、悉く此等の衆生類をして、具足して廣長舌を成就せしむ。
菩薩は歡喜して妻子を施し、其の心に未だ曾て憂悔を生ぜず、又復た忻悅して國土を施し、亦能く身を捨てて吝む所無し。
樂ひ求むる所に隨ひて盡く施與し、時に應じて惠み施して嫌恨無く、一切の所有を能く悉く捨てて、諸の來り求むる者皆滿足せしむ。
法の爲めに身を捨つること央數無く、諸の苦行を修して菩提を求め、又衆生の爲めに諸苦を受け、無上智を求めて退轉せず。
如來の正法を聽受せんが故に、身を以て布施して疲厭無く、內心に歡喜すること量有ること無し、一切の衆生を救護せんが故なり。
菩薩は諸佛を見たてまつることを得已りて、慈心に恭敬して供養を設け、饒益し歡喜して悉く滿足し、皆能く諸佛の法を聞持す。
一切の衆生類に回向して、悉く世閒をして安樂を得しめ、普く能く一切の衆を救護して、永く究竟じて解脫を得しむ。
菩薩は諸の眷屬を具足し、色身端嚴にして敎命に順ひ、妙莊嚴の具を校飾と爲し、聰叡仁賢にし

て巧智慧あり。

饒益を以ての故に悉く布施して、未だ曾て微しも吝む心有らず、世閒の資生の利を爲さず、衆生を饒益して菩提を求む。

淨功德を具足し修習して、無量なる諸の勝業を履行し、一切の衆生類に囘向して、亦業の堅固の相を取らず。

菩薩は能く大王の位、嚴飾せる京都・諸の城邑、宮殿・內外の一切の物、遊觀の園林・諸の池流を捨つ。

無量無數の百千劫に、無上の心を以て布施を行じ、世閒を開悟して彼岸を示し、隨順して群生の類を化導す。

菩薩は來り求むる者有りて、悉く他方の世界より至るを見れば、彼の須むる所に隨ひて其の願を滿せしめ、菩薩は大喜身に充徧す。

菩薩は施の功德を囘向して、三世一切の諸の如來の、所學を究竟じて彼岸に到る、無上なる導師の境界なり。◎

㊈菩薩は一切の法を觀察するに、誰か爲衆生を度脱する者ぞ、誰か度脱せんが爲めに何の處にか至る、空なるを解りて布施の心を捨てず。

【九】次の十一偈半は實際囘向なり。

菩薩は智慧に回向せんが故に、菩薩は回向して正法を求め、菩薩は甚深の義に回向し、一切の法に於て所著無し。

心に一切の業を分別せず、諸の業報に於て染著せず、菩提は縁より起ると了達し、法の眞性に於て壞する所無し。

己身を解了して染著せず、其の心寂滅にして所依無く、智慧をもつて分別するに業性無く、善く因緣を解れば業無きに非ず。

虛妄に過去の法を取らず、亦復未來の法を取らず、現在に了達するに所有無く、三世を觀察するに悉く空寂なり。

菩薩は色の彼岸を究竟し、受想行識も亦是の如く、永く一切を度して彼岸に到り、其の心謙順にして常に淸淨なり。

五陰十八界を觀察し、諸入及び己身を分別し、此の諸法に於て菩提を求むるに、皆悉く空寂にして不可得なり。

諸法の常住の相を取らず、斷滅の相に於ても亦受けず、一切の諸法は有無に非ず、諸業は因緣の和合より生ず。

衆生の菩提を得ること有る無く、一切の諸法は悉く寂滅にして、心諸佛の剎に染著せず、三世に

了達するに所有無し。若し能く是の如く正法を解らば、亦一切諸の最勝の如くならん。

復た推求すと雖も所得無く、菩薩の所行も亦虚しからず、是の故に縁の中に諸法を求めて、一切の因縁の道に違はず。

諸の業迹を分別し解說して、衆生をして悉く淸淨ならしめんと欲す、是は爲智者の修行する所にして、一切の諸佛の說きたまふ所なり。◎

(10)隨順し思惟して正義に入り、自然に無上の道を覺悟す。

諸法は生無く亦滅も無し、亦復た來ること無く去ることも無く、此に於て死せず彼に生ぜず、深く一切諸佛の法を解す。

諸法の眞實性を了達すれば、法性の中に於て所著無く、永く諸法の虚妄の相を離る。彼の人は諸佛の智を見たてまつることを得。

諸法の趣・衆生の諸趣、佛國の趣を分別し解了し、一切三世の所有る法を、皆悉く了知して餘り有ること無し。

三世諸佛の所覺の法を、悉く能く具足して聞きて受持し、說く所の三世の一切法、是の如き等の法は悉く法に非ず。

隨順して一切の法を修行し、而も亦諸法の相を壞せず、菩薩は諸の衆生に回向して、彼をして疾

【一〇】後の五偈半は行所成の益を頌す。

かに一切智を得しむ。』

(一)「佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第七の等心隨順一切衆生回向と爲す。

(二)佛子よ、此の菩薩摩訶薩は、下品の善根、中品の善根、上品の善根、無量の善根、廣善根、種種の善根、測量す可からざる善根、不可思議の善根、阿僧祇の善根、無邊の善根、佛境界の善根、法境界の善根、僧境界の善根、善知識の境界の善根、一切衆生の境界の善根、方便の境界の善根、微妙の境界を修習する善根、(三)內境界の善根、(四)外境界の善根、無量の別異なる功德の境界の善根、一切施を修習する境界の善根、淸淨戒の境界の善根、菩薩の內自ら專正にして一切の捨に於て忍辱する境界の善根、精進して退轉せざる境界の善根、種種の禪定に入る境界の善根、諸地の智慧を修行する境界の善根、一切の衆生の心心を分別する境界の善根、無量なる淸淨の功德を積集する善根、正念に菩薩の業を修習する境界の善根、普く一切の衆生を覆ふ境界の善根を增長す。

(五)菩薩摩訶薩は是の如き等の無量の善根を行じ、修習し、究竟し、積集し、長養して、廣く開解し已れば、則ち能く忍力に安住して惡趣の門を閉ぢ、善く諸根を調へ、威儀具足して、永く顚倒を離れ、正趣を決定して、一切諸佛の法器と爲るに堪ふ。普く衆生の爲めに無上の福田と作り、常に諸佛の爲

(一) 第七、等心隨順一切衆生回向を明かす。
(二) 初に修する所の行相を明かす。中に於て先づ行體を擧ぐ。
(三) 內境界。自利の善をいふ。
(四) 外境界。利他の善をいふ。
(五) 後に修行に因りて德を成ずること、卽ち行用を明かす。

めに守護せられ、一切諸佛の清淨の善根を出生し、長養し、隨順して如來の大願を具滿し、深く佛業を樂ひ、心に自在を得て、悉く三世の諸の如來と等しく、普く能く一切の諸佛を供養したてまつり、一切諸の如來力を究竟し、常に諸佛の爲めに讚歎せられ、天に生ずることを求めず、利養を貪らず、諸行に著せず、一切の善根を皆悉く回向して一切の衆生の爲めに功德藏と作り、諸道を具足して普く一切の衆生を覆ひ、生死の中より衆生を拔出し、敎へて一切の善根を修習せしめ、一切の境界に回向して斷絕せず、一切智菩提の門を開きて智幢を建立し、大道を嚴淨せしめ、普く衆生に示して、一切世閒の塵垢を捨離し、施心の功德にて如來の家に生れ、清淨の功德皆悉く滿足して無上の福田となり、衆生に著せず、世閒に依らず、一切の衆生をして皆悉く清淨ならしめ、一切の善根を修習し攝取せしむ。

(二六)菩薩摩訶薩は、離垢清淨の菩提心をもつて善根を攝取し、是の如きの念を作さく、「此れ菩提心の起す所の善根、菩提心の思惟せる善根、菩提心の得る所の善根、菩提心の正しく悕望する善根、一向菩提心の善根、一切の衆生を憐愍し、一切種智の境界を攝取し、十力の境界を究竟し、十力の境界を積集し、法界を壞せざる善根、退轉せざる善根なり」と。

(二七)菩薩摩訶薩は復た是の念を作さく、「此の如きの善根に若し果報有らば、我當に未來際を盡して

【二六】第二、攝して將て回向することを明かす、中に四段あり、初に菩提心收攝の善根を擧ぐ。

【二七】次に前の善根を回向して行具はることを成す。

菩薩の行を行ずべし。衆生を捨てざるが故に、大捨を修行し、一切衆生に回向して悉く餘り有ること無けん」と。無數の世界に珍寶を充滿せしめ、無數の世界に寶衣を充滿せしめ、無數の世界に妙香を充滿せしめ、無數の世界に莊嚴具を充滿せしめ、無數の世界に摩尼寶を充滿せしめ、無數の世界に勝摩尼寶を充滿せしめ、無數の世界に妙色の雜華を充滿せしめ、無數の世界に上味を充滿せしめ、無數の世界に金銀を充滿せしめ、無數の世界に天牀を充滿せしめ、妙寶をもつて莊嚴し、敷くに天衣を以てし、無數の世界に雜寶をもつて莊嚴せる天冠を充滿せしめん。若し一人有り、未來劫を盡して常に來りて求索すとも、此の寶物を以て之に惠み施して、未だ曾て厭倦せず。一りの衆生の如く一切の衆生も亦復た是の如し。菩薩摩訶薩は是の如く施す時、平等の心、偏愛無き心、名を求めざる心、熱惱無き心、中悔無き心、專ら一切智を求むる心、淸淨道の心、一向施の心、憐愍の心、調伏の心、一切智に安住するの心を以てす。菩薩摩訶薩は善根を是の如く回向し、未來劫を盡して常に布施を行ず。復た次に菩薩摩訶薩は善根を是の如く一切の衆生に回向して悉く餘り有ること無し。「我當に寶象を以て無數の世界に充滿し、七支具足し、六瘤成滿し、大寶幢を建て、眞金にて莊嚴し、白寶の網を覆ひ、一切の雜寶をもつて之を莊嚴して以用て布施すべし。我當に淸淨の寶馬、（一八）婆羅馬王等を以て無數の世界に充滿し、一切の馬寶の莊嚴具を以て之を莊嚴して以用て布施すべし。無數の世界に寶

【一八】婆羅。具さに婆羅訶（Balāha）雲馬と譯す、空中に遊行し疾速にして礙ふることなしといふ。

女を充滿し、娛樂を具足して以用て布施し。無數の世界に男女を充滿して以用て布施し。無數の世界に己身充滿して以用て布施し。無數の世界に己身の頭目を充滿して、不放逸の心を以用て布施し。無數の世界に己が目を充滿して、以用て布施し。無數の世界に己身充滿し、楚毒破骨出髓を堪忍して、以用て布施し。無數の世界に大王の座處を皆悉く充滿して以用て布施し。無數の世界に給使僮僕を皆悉く充滿して以用て布施すべし。平等なる一切施の心を修習し、一世界の中に於て未來劫を盡して菩薩の行を修し、一りの衆生の爲めに一切世界の中に於て未來劫を盡して菩薩の行を修し、一りの衆生の爲めのごとく、一切衆生の爲めにも亦復た是の如し。大悲を具足して衆惡を遠離し、普く一切を念じ、我が布施をして究竟じて不退ならしめ、布施を行ずる時、乃至一念憂悔の心をも生せざらん」と。菩薩摩訶薩復た是の念を作さく、「我是の如く無量の布施を行ずるに、無著の心、無縛の心、解脫の心、大心、甚深の心、攝取の心、憎愛を離れたる心、壽命を離れたる心、善調伏の心、不亂の心、無害の心、一切智に安住する心、慧光普く一切法を照す心、一切智に入る心を以てせん」と。

(一九)菩薩摩訶薩は此の善根を以て念念に回向すらく、(二〇)「一切の衆生をして財寶を充足せしめ。一切の衆生をして無盡の大功德藏を具足せしめ。一切の衆生をして安隱の樂を得しめ。一切の衆生をして菩薩の摩訶衍業を長養せしめ。一切の衆生をして深法を滿足せしめ。一切の衆生をして一切智乘を

【一九】三に衆生に回向して菩提を得しむることを明かす。

【二〇】以下八十句は因を修して果に趣かしむることを說く、即ち自分なり。

退轉せざることを得しめ。一切の衆生をして一切の佛を見たてまつらしめ。一切の衆生をして普く衆生に於て選擇する所無からしめ。一切の衆生をして悉く清淨なる平等の心を得しめ。一切の衆生をして諸の難處を離れて一切智を得しめ。一切の衆生をして無量の衆生を饒益し安樂ならしめ。一切の衆生をして普く一切に於て平等心を得しめ。一切の衆生をして柔輭の施心を得しめ。一切の衆生をして眞實惠施の心を攝取せしめ。一切の衆生をして施心を失はざらしめ。一切の衆生をして施心を具足して永く貧窮を滅せしめ。一切の衆生をして悉く世間の諸の妙財寶を攝して乏短する所無からしめ。一切の衆生をして一切施を行せしめ。一切の衆生をして未來劫を盡して布施を修行し、心に退轉無からしめ。一切の衆生をして悉く一切を捨てて、心に中悔なからしめ。一切の衆生をして隨順して施を行じ衆生を饒益せしめ。一切の衆生をして勝廣の施を行せしめ。一切の衆生をして種種莊嚴の施を行せしめ。一切の衆生をして無著の施を行せしめ。一切の衆生をして平等の施を行せしめ。一切の衆生をして大力金剛の施を行せしめ。一切の衆生をして日の光明の如き施を行せしめ。一切の衆生をして如來の智を得しめ。一切の衆生をして善根の眷屬具足し成滿せしめ。一切の衆生をして善根智慧悉く現じて前に在らしめ。一切の衆生をして不可壞の正直の心を得しめ。一切の衆生をして清淨の善根を具足し成就せしめ。一切の衆生をして煩惱の睡眠に於て智慧覺悟せしめ。一切の衆生をして疑惑を悉く除かしめ。一切の衆生をして平等の智慧と、清淨の功德とを得しめ。一切の衆生をして功德悉く備

りて能く壞る者無からしめ。一切の衆生をして清淨なる不動三昧を具足せしめ。一切の衆生をして不可壞の薩婆若智を具へしめ。一切の衆生をして菩薩の無量なる清淨自在の正行を具足せしめ。一切の衆生をして無著の清淨の善根を修習せしめ。一切の衆生をして淨修して三世の諸佛を正念せしめ。一切の衆生をして勝妙なる清淨の善根を出生せしめ。一切の衆生をして一切の諸魔、魔業、障礙道の法を除滅せしめ。一切の衆生をして皆悉く無量の功德を履行し、諸の三昧を生じ、清淨滿足ならしめ。一切の衆生をして常に諸佛を念じて、未だ曾て廢忘せざらしめ。一切の衆生をして常に諸佛を見たてまつらしめ。悉く歡喜して初より遠離せざらしめ。一切の衆生をして淨法門を開きて、善根を出生し諸の白淨法を平等に具足せしめ。一切の衆生をして悉く無量なる平等正直の心を得しめ。一切の衆生をして清淨なる平等の施心を成就せしめ。一切の衆生をして諸佛の尸波羅蜜を滿足して、平等清淨ならしめ。一切の衆生をして大精進波羅蜜を具へて、未だ曾て懈怠せざらしめ。一切の衆生をして大羼提波羅蜜を得しめ。一切の衆生をして無量の禪波羅蜜を得て、智慧をもつて分別し、諸通を滿足せしめ。一切の衆生をして一切法に於て、離身般若波羅蜜を得て、平等に滿足せしめ。一切の衆生をして清淨の法界を得て、平等に滿足せしめ。一切の衆生をして悉く淨妙の諸通善根を具へしめ。一切の衆生をして平等の行を修め、諸の善法を具へしめ。一切の衆生をして究竟じて永く諸佛の境界に度らしめ。一切の衆生をして身口意の業を平等清淨ならしめ。一切の衆生をして諸の業行の報を平等

清淨ならしめ。一切の衆生をして悉く諸法の平等清淨なることを得しめ。一切の衆生をして悉く諸法の清淨なる平等の實義を得しめ。一切の衆生をして悉く清淨なる諸の勝妙行を得しめ。一切の衆生をして悉く菩薩の諸の清淨願を得しめ。一切の衆生をして普く平等なる淨功德の智を得しめ。一切の衆生をして諸の善根を以て薩婆若乘に回向して、平等に滿足せしめ。一切の衆生をして一切の嚴淨なる佛刹を顯現して、平等に滿足せしめ。一切の衆生をして諸佛を見たてまつることを得て、一切諸の煩惱の患を除滅せしめ。一切の衆生をして諸の相好功德の莊嚴を具へて、平等に滿足せしめ。一切の衆生をして八種の聲、百千の妙聲を得て之を莊嚴し、如來の無量の功德、清淨の梵音を皆悉く具足せしめ。一切の衆生をして十力をもつて莊嚴して、無礙平等の心を成就せしめ。一切の衆生をして一切の佛の無盡の法明を得て無量の諸辯を平等に滿足せしめ。一切の衆生をして無上無畏の人中の雄の大師子吼を得しめ。一切の衆生をして一切智を得て、不退轉の法輪を轉ぜしめ。一切の衆生をして諸法を出生して平等に滿足せしめ。一切の衆生をして善根清淨にして應じて時を失はず、平等に滿足せしめ。一切の衆生をして清淨なる調御師の法を成就して、平等に滿足せしめ。一切の衆生をして淳一の莊嚴、無量の莊嚴、大莊嚴、諸佛の莊嚴に於て平等に滿足せしめ。一切の衆生をして三世を觀察して、分別平等ならしめ。〔三〕一切の衆生をして諸佛の所に詣り法を聞きて受持し、解了平等にして圓滿に具足せしめ。一

〔三〕以下三十七句は因圓果滿ならしむることを說く、卽ち勝進分なり。

切の衆生をして慚愧智慧を諸佛と等しからしめ。一切の衆生をして平等の智慧を得て、諸法を觀察せしめ。一切の衆生をして不動の業報を得て諸の障礙を離れ、平等に滿足せしめ。一切の衆生をして甚深の智に入りて悉く分別し、衆生の諸根を知りて平等に滿足せしめ。一切の衆生をして無分別の平等智慧を得て、皆悉く等一にして淸淨に滿足せしめ。一切の衆生をして隨順して厭くこと無く、善根を平等に分別して、皆悉く滿足せしめ。一切の衆生をして大神足に於て自在を得、菩薩の神力を平等に滿足せしめ。一切の衆生をして悉く諸佛の無盡の功德と智慧の藏とを得、究竟の功德を皆悉く等一ならしめ。一切の衆生をして諸法の中に於て虛妄を離るることを得、平等に隨順して一切法に入りて、菩提心を知らしめ。一切の衆生をして勝妙の福田を平等に滿足せしめ。一切の衆生をして淸淨の大悲を得て、普く世間の最上の福田と爲らしめ。一切の衆生をして堅固にして壞すること無く、平等に滿足せしめ。一切の衆生をして眞實の法を見て破壞す可からず。平等に滿足せしめ。一切の衆生をして最勝の心を得て、思惟し正觀して平等に滿足せしめ。一切の衆生をして諸の恐怖を離れ、甚深の法に入りて彼岸に到らしめ。一切の衆生をして一光明を放ちて普く十方を照し、等しく一切を度せしめ。一切の衆生をして悉く菩薩の不退の精進を得て、行を同じくし願を同じくして、平等に滿足せしめ。一切の衆生をして一言音を出して平等に滿足せしめ。一切の衆生をして菩薩の直心に於て平等に滿足せしめ。一切の衆生をして悉く諸の善知識を親見することを得て、心大いに歡喜せしめ。一切の

衆生をして皆悉く菩薩の諸行を具足し、衆生を調伏し、未だ曾て休息せずして平等に滿足せしめ。一切の衆生をして不斷の辯を得、普く諸音に入りて、平等に滿足せしめ。一切の衆生をして能く一心を以て一切心を知り、一切の善根を平等に滿足せしめ。一切の衆生をして諸の善根を修して退轉せず、衆生を清淨智に安立せしめ。一切の衆生をして一切智、平等の功德、清淨の法身を得しめ。一切の衆生をして悉く愚癡を捨て、善根を觀察して、平等に滿足せしめ。一切の衆生をして一薩婆若を得、等正覺を成じて平等に滿足せしめ。一切の衆生をして諸の惡趣を離れ、一道に一切種智を出生して平等に滿足せしめ。一切の衆生をして一衆清淨なることを得て、悉く能く普く一切の大衆を淨くし、平等智慧をもつて之を莊嚴せしめ。一切の衆生をして一佛刹に於て、普く一切諸の如來の刹を見て平等に滿足せしめ。一切の衆生をして一切の莊嚴、不可說の莊嚴、不可量の莊嚴、無盡の莊嚴をもつて、一切の佛刹を莊嚴して平等に滿足せしめ。一切の衆生をして無量の諸法を分別し解了して、甚深の義を見り平等に滿足せしめ。一切の衆生をして諸の聖行、諸佛の自在を得て平等に滿足せしめ。一切の衆生をして非一非異の諸の神通力を平等に滿足せしめ。一切の衆生をして善根に隨順して、普く諸佛の甘露の灌頂を爲さしめ。一切の衆生をして清淨の智身を平等に具足せしめん」と。

(三二)是の如く菩薩摩訶薩は衆生を憐愍し饒益し、大悲をもつて衆生を哀念し、一切の衆生をして皆悉く清淨にして慳嫉の結を離れ、無量無邊

【三二】以上は悲心の回向にして以下は慈心の回向なり。

の善妙の功德を具足し、常に勝法を樂ひ、瞋恚の濁及び諸の障礙を離れ、其の心柔軟にして癡を離れ、正直にして邪曲無く、行ずる所堅實にして沮壞す可からず、不退轉の平等の心を得て、白淨の法力皆悉く成就して、惱まず、失はず、能く回向を解りて功德を修習し、衆生を調伏して一切諸の不善の業を除滅し、專精に苦行して普く一切の苦行の善根を具足し、修習せんことを敎へ、諸の衆生の爲めに具さに衆苦を受け、慧眼淸淨にして善根を觀察し、智慧聖行の善根を一切の衆生に回向せしめ。一切の衆生をして淸淨なる微妙の功德に安住し、熾然を遠離し等心を成就して善根を回向し、一切の衆生をして薩婆若を得て回向を修習し、衆生の一切の善根を攝取して平等に具足し、等心の回向を具足し成就せしむ。是の如き等の無量の善根を以て衆生に回向して、一切の衆生をして常に安穩を得しめ、一切の衆生をして常に淸淨を得しめ、一切の衆生をして常に安樂を得しめ、一切の衆生をして究竟の解脫を得しめ、一切の衆生をして究竟の平等を得しめ、一切の衆生をして自在神力を得しめ、一切の衆生をして白法に安住せしめ、一切の衆生をして無障の眼を得しめ、一切の衆生をして諸根を調伏せしめ、一切の衆生をして十力を具足して衆生を敎化せしむ。

(三)菩薩摩訶薩は是の如き善根回向を修行する時、業に著せずして回向し、報に著せずして回向し、身に著せずして回向し、利養に著せずして回向し、諸剎に著せずして回向し、諸方に著せずして回向し、衆生に著せずして回向し、亦衆生を離れ

【三】四、行極まりて眞理に契ひ、行に所行なく回に所回なき甚深の實際回向を明かす。

ずして回向し、一切に著せずして回向し、法に著せずして回向す。菩薩摩訶薩は是の如く回向する時に、是の如きの念を作さく、「一切の衆生をして佛智を滿足し、清淨身を得、智慧をもつて分別し、內心寂靜にして外緣亂れず、三世諸佛の家に在りて生るることを得しめん」と。

菩薩摩訶薩は是の如きの回向を行じて、(二四)一切を勝出して、能く壞する者無く、一切の衆生悉く共に讃歎すとも盡すこと能はざる所にして。普く一切諸の菩薩の行を行じ、小方便を以て徧く諸刹に詣り、悉く諸佛を見たてまつりて障礙する所無く、又諸刹の一切の菩薩の修習する諸の行を見、悉く一切の巧妙なる方便を得、一切の法陀羅尼を分別し、妙法を演說して衆生を教化し、未來劫を盡して未だ曾て斷絶せず。念念の中に於て不可說不可說の諸佛の世界に、悉く現じて生を受くるも、猶ほ電光の如く。念念の中に於て悉く不可說不可說の諸佛の世界を嚴淨し、佛刹を嚴淨する智慧を修行して厭き足ること無く。不可說不可說の衆生をして清淨に成就し、平等に滿足せしめ、其の所住の善根に隨ひて、悉く能く諸の波羅蜜を具足して衆生を攝取し、垢穢を除滅して淨業を成就し。無礙の淨耳を得て、不可說不可說の世界に於て、佛の法輪を轉じたまふを、悉く聞きて受持し、彼の諸佛に於て遠想を生ぜず、乃至未だ曾て一彈指の頃も正法を聞かざることあらず。無所有に住して依無く、染無く、著無く、行無く、堅固不壞の菩薩の神力にて、念念の中に於て不可說不可說の一切の佛刹に、其所應に隨ひて悉く其身を

【二四】第三、回向の行の成ずる所の益を明かす、中に四段あり。初に因德の廣大。

現じて菩薩の行を修し、常に與に同見して事に從ひ、相違背せず。(二五)菩薩摩訶薩は菩薩の行を修する時、是の如き無量無邊の淸淨の功德を成就して説くとも盡す可からず。況んや無上菩提を成じて最正覺を得るをや。所謂る、一切の佛刹、淸淨にして平等。一切の衆生、淸淨にして平等。一切の身、淸淨にして平等。一切の根、淸淨にして平等。一切の業報、淸淨にして平等。一切の眷屬、淸淨にして平等。諸行を滿足し、淸淨にして平等。方便をもつて一切法に入り、淸淨にして平等。一切如來の諸願を滿足する囘向、淸淨にして平等。一切諸佛の境界の自在を示現し、淸淨にして平等なり。菩薩摩訶薩は是の如く善根を囘向し已りて、一切の淸淨なる功德の法門を得、諸の功德を以て之を莊嚴す。(二六)菩薩摩訶薩は是の如く囘向を行じて一切の刹に違はず、刹は衆生に違はず。刹は衆生の業に違はず、衆生の業は刹に違はず。(二七)思は心に違はず、心は思に違はず。思は心の境界に違はず、心の境界は思に違はず。業緣は報に違はず、報は業緣に違はず。(二八)業は業迹に違はず、業迹は業に違はず。法は相に違はず、相は法に違はず。(二九)法生は性に違はず、性は法生に違はず。(三〇)刹の平等は衆生の平等に違はず、衆生の平等は刹の平等に違はず。一切衆生

【二五】次に果德の淸淨を明す。
【二六】三に違相を融會する自在の德を明かす。
【二七】思は動作を爲さしむる心所にして業の體なり。心は本識なり。
【二八】業は身口に依りて爲されたる動作にして、業迹は思の起す所の行即ち意志の決定せるをいふ。
【二九】前の七對の說は緣起の事相の上に就て融會を明かし、今此の一對の說は理事互に融じて無礙なることを明かす。法生とは因緣所生の萬有なり、性とは萬有の實體なり。
【三〇】次の七對の說は實體の立場より事相の上の融會を明かす。

の平等は一切法の平等に違はず、一切法の平等は一切衆生の平等に違はず。離欲際の平等は一切衆生の安住平等に違はず、一切衆生の安住平等は離欲際の平等に違はず。過去は未來に違はず、未來は過去に違はず。過去は未來現在に違はず、未來現在は過去に違はず。世の平等は佛の平等に違はず、佛の平等は世の平等に違はず。菩薩の行は薩婆若に違はず、薩婆若は菩薩の行に違はず。(三二)菩薩摩訶薩は是の如く回向を行じて平等の業を得、平等の報を得、平等の身を得、平等の道を得、平等の願を得、平等の一切衆生心を得、平等の一切刹を得、平等の一切行を得、平等の一切智を得、三世の諸佛の平等を得、諸佛及び諸の菩薩を見ることを得、一切の善根を得、一切の願を滿足することを得、一切の衆生を成就することを得、能く一切の諸業を分別することを得、一切諸の善知識に見えて悉く歡喜せしむることを得、清淨の大衆を得、諸佛の正敎を究竟することを得、一切の白淨法の回向を究竟することを得。佛子、是を菩薩摩訶薩の第七の等心隨順一切衆生回向と爲す。

(三三)菩薩摩訶薩、此の回向を成就し已れば、則ち能く一切の怨敵を摧伏し、悉く能く一切の欲刺を拔出し。無生の道を得て、無二の處に到り。無量の自在功德の王たることを得て、衆生を救護し、神足無礙にして、徧く諸刹に遊び、常に寂靜を樂ひて、一切の身に於て自在を得。悉く能く菩薩の大行を出生して、諸の行願に於て自在智を得。一切の諸法を分別し了知して、悉く能く徧く一切の佛刹

【三二】四に、違相盡きて平等なることを明かし、行位の究竟を示す。

【三三】後に位果を明かす。

に生じ。無礙の耳を得て、一切刹の所有る音聲を聞き。淨慧眼を得て、一切の佛を見たてまつり。諸の善根を修して未だ曾て休息せず、一切の諸法を具足し成就す。菩薩摩訶薩は此の等心隨順一切衆生回向を以て諸の善根を回向す。』

爾の時、金剛幢菩薩、佛の神力を承けて普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

『(三三)菩薩は具さに諸の功德を行じ、深遠清淨にして甚だ微妙なり。

(三四)所行の功德は微少なりと雖も、悉く能く回向し廣きこと量無し。

菩薩は一切の資生の具、珍妙奇特貴くして無價なる、

象馬寶王諸の輦輿、種種の寶衣及び衆珍、己身頭目幷びに手足、骨を破り髓を出し肌肉を割き、

無量なる諸の世界に充滿して、悉く以て惠施して貪吝無し、是の如く無量無邊の劫に、一切普く施して退轉せず。

(三五)此の功德を以て悉く回向す。無量の衆生を救度せんが故なり。菩薩は一切の衆を饒益し、清淨の功德諸の妙願あり。

三有の群生の類を安樂にし、悉く究竟じて菩提を證せしめ、菩薩は平等に大願を發し、隨順して清淨の業を修習す。

【三三】重頌。二十一偈あり、初の半偈は行相を頌す。
【三四】次の三偈は前の行具はることを頌す。
【三五】次の六偈は衆生に回向して菩提を得しむることを頌す。

一切の衆をして平等なることを得しめ、彼の願の中に於て所著無く、普く世間に於て嫌恨無く、
悉く能く隨順して諸願を行ず。
悉く能く群生の類に回向して、一切諸の賢聖に違はず、一切世間の智慧日は、斯布施淨戒より生ず。
勤修し精進して懈怠無ければ、一切の願に於て退轉せず、菩薩は回向して彼岸に到り、能く清淨なる妙法の門を開く。
兩足尊の勝智慧を得て、實義を分別して彼岸に到る、菩薩は梵音を悉く究竟し、堅固なる妙智慧を具足す。◎

【三六】深く正法に入りて障礙を離れ、菩薩彼に於て意に著すること無し。

【三七】次の十偈半は實際回向を頌す。

菩薩の心淨くして二と作らず、亦復た不二の法と作らず、二法と不二法とを捨離して、衆生の語言の道を覺悟す。
菩薩は世の平等なることを覺悟し、諸心・音聲・一切の業、一切の衆生は猶ほ化の如く、悉く因緣業報より轉ずとしる。
一切世間の造作する所と、十方無量の業音聲とは、悉く業緣に從うて起る所、應に彼の業を滅して餘り無からしむべし。
菩薩は一切の衆を觀察するに、身口意の業悉く平等なり。普く衆生をして平等を得て、猶ほ一切

の無等等の如くならしむ。
菩薩は善根を悉く回向して、普く衆生の色をして淸淨ならしめ、一切諸の功德を具足して、悉く無上の調御士に同ぜしむ。
一切衆の中に最も殊勝にして、功德の妙法身を具足し、功德の大海を悉く回向して、諸の群生を饒益し安樂にす。
我が修行する所の諸の功德は、普く一切をして悉く淸淨ならしめ、諸佛は淸淨にして倫匹無く、普く世間をして亦是の如くならしむ。
平等に善根を悉く回向して、一切の衆をして實義を知らしめ、微妙の智慧・功德滿ちて、悉く一切の如來と等し。
菩薩は一切の法を觀察するに、世間は寂滅空にして餘り無く、造作有ること無く造者無く、亦復た諸の業報を壞せず。
彼の靜亂に於て二有ること無く、悉く等心を以て正しく觀察し、菩薩は眞實に世間を解り、一切諸の虛妄を遠離す。◎
(三七)是の如きの眞實の佛子等は、諸の如來の法化より生じ、無量の功德を悉く回向して、一切の疑惑悉く除滅す。」

【三七】後一偈は成益を歎す。

卷の第二十一

金剛幢菩薩回向品第二十一の七

『佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第八の如相回向と爲す。

(一)佛子よ、此の菩薩摩訶薩は、念智を成就して不動に安住す。癡を離れて正念し、直心不動にして、堅固なる不可壞の業を成就し、一切智の境界に不退轉を得、大乘の勇猛無畏の心を得、無盡の善根を修習し、勝妙の善根を積集し、白淨の法を修して大悲を增長し、正直の寶を得て常に能く一切の諸佛の白淨の法を正念し、回向の心退轉せず、菩薩の道を樂ひ求め、巧妙の方便をもつて清淨なる堅固の善根を出生し、正念に智慧功德を修習して調御師と爲り、一切の善根を具足し出生して、智慧方便をもつて衆生に回向す。慧眼清淨にして悉く能く一切の善根を觀察し、無量なる種種の善根を長養す。(二)分別の境界の善根、具足の善根、清淨の善根、(三)一向の善根、修習の善根、行の善根、思惟の善根、平等廣說の善根なり。菩薩摩訶薩は是の如きの善根に種種の門、種種の境界、種種の相、種種の事、種種の分別、無量の行、無量の語言道

【一】第八、如相回向、初に行體を擧ぐ。

【二】分別とは、差別の義にして、善根の分齊に不同あることを顯はす。

【三】一向とは、專ら菩提に住して凡小に同ぜざるの義。

有り、無量の分別を出生し、種種に莊嚴せる善根を修行し、悉く能く十力の諸乘を正持す。菩薩摩訶薩は是の如き種種の善根を修習して、一ら無二の一切智の境界を觀ず。

㊃菩薩摩訶薩は是の如き等の善根を以て回向し、無礙の身を具滿して菩薩の行を修せしめんと欲し。口業を清淨無礙にして菩薩の行を修せしめんと欲し。無礙の心業を具足して大乘に安住せしめんと欲し。無礙の心を具へて、菩薩の行を皆悉く清淨ならしめ。無量なる大施の心を得て、一切の衆生を充滿せしめ。法自在の心を得て、一切の法を照して普く世間に示し。最勝不可壞の心を得て、清淨の一切種智を得。菩薩の心を發して、普く一切を照し。三世の一切諸佛を正念して念佛三昧悉く具足することを得。害を離れたる正直の心を滿足して、怨敵を遠離す。衆生を任持し、一切に充滿して休息無く。十力智に於て悉く安住することを得て、深三昧を得。悉く能く徧く一切の世界に遊びて、染著する所無く。悉く一切の刹に住して、厭き足ること無く。衆生を化度して、未だ曾て休息せず。無量の巧便思慧を出生し。一切の菩薩の不思議慧を具足し成就す。離癡の智を得て、悉く能く一切の世界を分別し。一念の中に於て悉く能く一切の佛刹を嚴淨し、諸の通慧に於て自在を得。一切法の眞實の相に入りて、嚴淨せる一切の世間を示現し。一刹の中に於て一切の刹を見、不壞の智を究竟して、能く一切の刹を持す。菩薩の莊嚴具を以て之を莊嚴して、一切に應現し、悉く能く無量の衆生

【四】以下第二に正しく回向することを明かすに四段あり。初に自行を成ずるに由りて以て回向を修することを說く。

を調伏す。一佛世界の廣大なること法界の如く、一切の世界を亦復た是の如くして、究竟智を得、一切の刹に詣りて一切普く持す。菩薩摩訶薩は此の善根を以て佛刹に回向し、一切の衆生を充滿せしめ。回向分別して智慧を受持す。己身の爲めの如く、衆生の爲めに回向することも、亦復た是の如く、一切の衆生をして永く地獄、餓鬼、畜生、閻羅王の處を離れしめ。一切の衆生をして悉く能く諸の障礙の業を除滅せしめ。一切の衆生をして悉く等心なる平等智慧を得しめ。諸の怨敵をして慈心を具へ、清淨の智慧を樂はしめ。一切の衆生をして智慧現前して圓滿具足し、普く一切を照さしめ。一切の衆生をして眞實智と、離垢正直の菩提心とを具へ、無量の智慧を滿足せしめ。一切の衆生をして平等安穩の善趣に示現せしむ。菩薩摩訶薩は是の如く回向すらく、「善根及び一切の願を修習して、大雲雨の如く。一切の衆生をして皆悉く清淨ならしめ。一切の衆生をして功德の福田と爲らしめ。一切の衆生をして菩提の內藏を守護し受持せしめ。一切の衆生をして諸の障礙を離れて無礙の清淨法界に安住せしめ。一切の衆生をして無礙の諸通智慧を滿足せしめ。一切の衆生をして自在の身を得、十方に遊行して、應の如く示現せしめ。一切の衆生をして無礙の善根と一切種智とを得しめ。一切の衆生をして一切を攝取して、悉く清淨ならしめ。一切の衆生をして障礙瞋恚の心を遠離し、究竟じて一切種智を成就せしめん」と。

【五】次に事に因りて行を起し、復た回向を修することを說く。

㊄復た次に菩薩摩訶薩、若しくは樂ふ可き國土、林樹、華果を見、或は樂ふ可き名香、上服、珍寶、

財物、諸の莊嚴具を見、或は樂ふ可き園觀、村邑、聚落、王都を見、或は樂ふ可き自在なる帝王を見、或は樂ふ可き阿練若處を見ば、菩薩摩訶薩は是の如きを見已りて、巧方便を修して、無量の淨妙の功德を出生し、實義を樂ひ求め、衆生の爲めの故に而も放逸ならず、善能く一切の善根を修習すること、猶は大海の測量す可きこと難きが如く、善根を具足して窮盡す可からず、一切の功德皆悉く滿足し、亦種種の善根を分別せず。巧妙の方便をもつて清淨に回向して、無量なる諸行の善根を示現し、常に一切を念じて、未だ曾て衆生の境界を忘失せず。如の善根、平等の善根なり。菩薩摩訶薩は善根を是の如く回向すらく、一切の衆生をして志常に無量の諸佛を樂見して、如法に法性を取らざらしめ。無數の衆生の平等清淨なることも、亦復た是の如くならしめ。一切の衆生をして悉く諸佛隨意の愛樂を得て、供給の侍者たらしめ。一切の佛國をして煩惱を除滅し、清淨にして樂ふ可からしめ。一切の衆生をして悉く無量の佛法を見聞することを得て、心常に愛樂し、常に樂ひて諸の菩薩の行を守護し、樂ひて愛眼を以て善知識を觀ぜしめ。一切の衆生をして可樂の法を見しめ。一切の衆生をして正法を樂持せしめ。一切の衆生をして佛法の中に於て可樂の明を得しめ。一切の菩薩をして悉く可樂の大施心を得て、諸法の中に於て無所畏を得、樂つて衆生の爲めに分別し廣說せしめ。菩薩の可樂三昧、諸の陀羅尼を得。一切の菩薩の受記の智慧を得。一切の菩薩の甚だ愛樂す可き自在の示現を得。諸佛の圓滿なる說法を具足し。樂ふ可き方便を得て分別して法を說き。可樂の大悲を得、菩薩の心を發して、

諸根悅豫し。愛樂す可き諸の如來の家を得、衆生を敎化して心休息せず。菩薩の樂ふ可き無盡の法藏を得て、無量劫に於て、一一の世界に衆生を化度し。現在の佛の所に於て愛樂す可き巧妙の方便を得。愛樂す可き深妙の方便を得て、障礙する所無く。永く愚癡を離れて樂ふ可き平等離欲を具足し、一切の諸法に諸の障礙を斷じ、決定して深く不二の法界を解り。可樂の離欲際等の一切諸法を具足して、眞實際に入り、菩薩の樂ふ可き無諍滿足の法を得。可樂の金剛藏心、一切種智を具足し、勇猛精進して清淨に成滿し。樂ふ可き清淨の善根を具足し、怨敵を摧伏して障道の法を滅し。樂ふ可き無上菩提を具足し、一切種智常に現在前して衆生に充滿せしめん」と。是の如く菩薩摩訶薩は善根を長養して、淨慧明を得、常に善知識の爲めに攝護せられ、如來の慧日は明かに其の心を照して癡闇を滅除し、正法を淨修して諸の智業に入り、善く智地を學して法界を分別し、一切の善根を善能く回向し。一切の菩薩の諸の善根海は其の源底を盡し、智慧を成就して深く堅固に入り、明かに善根を解りて諸度に了達す。

【六】三に、前の二回向に回向の相なきことを明かす、即ち實際回向なり。

㈥菩薩摩訶薩は、善根を是の如く回向して世界に著せず、衆生界に著せず、心に所依無く、寂然として亂れず、諸法を正念し。諸佛の選擇無き智を具足し、三世一切の諸佛の正回向門に違はず、一切の平等正法に違はず。佛の相を壞せずして三世を等觀し、衆生の空なることを了りて、依住する所無し。如來の道に順じて普く諸法を照し、眞實の義を解りて漸く諸地に至り。實の如く一切の諸法を分

別して智慧周滿し、具足堅固なり。未だ曾て正業を修習することを忘失せず、常に寂靜を樂ひ、正しく離生に趣き、一切の法は猶ほ幻化の如しと了り、一切の法は自體有ること無しと解了し、一切の義、及び種種の行を觀じて、語言道に於て而も所著無く、所有る諸法は皆緣より起るとしる。甚深の法を觀じ實智を生じて回向し、寂滅を觀察して一切の諸法皆一觀に入りて、諸法の種種の異相に違はず、善く回向を解し、菩薩の道を修して、善根を回向し。衆生を攝取して、三世の菩薩の一切の回向を長養す。是の如く菩薩摩訶薩は恐怖無き心を以て善根を一切の佛法に回向し。無量の心を以て善根を一切の佛法に回向して、皆悉く清淨ならしめ。我無く我所無き心を以て善根を十方界に回向して染著する所無く。無餘の心を以て善根を一切の境界世界に回向して染著する所無く。離世間の法を行じて善根を回向して出世の法を得。衆生に著せずして善根を回向し。諸の勝道を見て善根を回向し。虛妄の法を離れ眞實の善根を出生して回向す。

(七)如の法門の一切の道に至る無量無邊の善根をもつて回向す。(八)如の如く善根も亦爾り、衆生をして諸法を解了せしめんと回向し。性如の如く善

【七】四に、純熟せる自在深廣の回向を明かす。この中眞如は萬有諸法の理體なれば一切の諸法に偏在す、故に如の法門云云といふ。眞如の理體に契同する普偏の善根を以て、種種無量の異門に回向を成ずるが故に、無量無邊の善根を以て回向すといふ。此の句は一段の總標にして以下百門に就いて別釋す。

【八】以下各句初めに眞如の理を標擧し、次に善根を擧げて眞如に同ぜしめ、後に眞如と同等なる善根を回向して、益を成ずることを明かす。是の故に所回の善根と所向の衆生と、幷びに所成の益相とは、倶に是れ眞如にして自在深廣の回向を成ずるなり。

根も亦爾り、一切法の自性は自性有ること無しと回向し。相如の如く善根も亦爾り。一切の法は無相の眞實相なりと回向し。法如の如く善根も亦爾り、佛法を退轉せざらんと回向し。行如の如く善根も亦爾り、一切如來の所行に回向し。境界如の如く善根も亦爾り、三世の諸佛の滿足せる境界に回向し。安立如の如く善根も亦爾り、一切の衆生を安立せんと回向し。隨順如の如く善根も亦爾り、盡未來劫に隨順して斷せざらんと回向し。量如の如く善根も亦爾り、衆生心は虚空と等しからんと回向し。充滿如の如く善根も亦爾り、一念に一切の世界に滿てんと回向し。久住如の如く善根も亦爾り、一切世間の住を離れて究竟住に住せんと回向し。不生如の如く善根も亦爾り、不生にして一切の佛法を滿足せんと回向し。堅固如の如く善根も亦爾り、一切の煩惱を壞散せんと回向し。不壞如の如く善根も亦爾り、一切の衆生は破壞す可からじと回向し。明如の如く善根も亦爾り、普く一切を照さんと回向し。一切處如の如く善根も亦爾り、一切處に至る道に回向し。一切時如の如く善根も亦爾り、一切時に隨順せんと回向し。一切如の如く善根も亦爾り、一切の衆生をして隨順清淨ならしめんと回向し、一切平等如の如く善根も亦爾り、一切の行は平等ならんと回向し。一切法眼如の如く善根も亦爾り、一切の衆生悉く法眼を得んと回向し。不倦如の如く善根も亦爾り、一切の菩薩道を行じて疲倦無からんと回向し。甚深如の如く善根も亦爾り、一切の第一深法に回向し。無所有如の如く善根も亦爾り、一切所有無きを知らんと回向し。不出如の如く善根も亦爾り、一切顯現する所無からんと回向し。離瞖如の如く

善根も亦爾り、明眼は瞖を離れて清淨ならんと回向し。無比如の如く善根も亦爾り、菩薩の無比の行に回向し。寂靜如の如く善根も亦爾り、一切常に寂靜を樂はんと回向し。(九)無根如の如く善根も亦爾り、無根の法を究竟せんと回向し。無量無邊如の如く善根も亦爾り、一切の無量無邊の衆生皆悉く清淨ならんと回向し。無著如の如く善根も亦爾り、無所著の際を究竟せんと回向し。無礙如の如く善根も亦爾り、一切の障礙を滅除せんと回向し。(一〇)非世間行如の如く善根も亦爾り、一切世間の行法を遠離せんと回向し。不繫如の如く善根も亦爾り、一切の生死に繫がれざらんと回向し。無行法如の如く善根も亦爾り、一切諸行を遠離せんと回向し。住如の如く善根も亦爾り、一切如住に住せんと回向し。一切法成如の如く善根も亦爾り。衆生の學ぶ所成就せんと回向し。一切法平等如の如く善根も亦爾り、一切平等の行を具へんと回向し。一切法不捨如の如く善根も亦爾り、未來際を盡して一切の衆生を捨てじと回向し。一切法不盡如の如く善根も亦爾り、一切無盡の衆生に回向し。不違一切法如の如く善根も亦爾り、一切の衆生三世の諸佛に違はじと回向し。攝一切法如の如く善根も亦爾り、一切衆生悉く善根を攝して餘り有ること無からしめんと回向し。(一一)一切法同如の如く善根も亦爾り、悉く三世の諸佛に同うせんと回向し。一切法不離如の如く善根も亦爾り、悉く世間及び離世間を攝せんと回向し。不可壞如の如く善根も亦爾り、一切衆生をして沮壞す可からざ

【九】眞如は所依なきが故に其の根本なきを無根如といふ。

【一〇】眞如は世間の所行に非ざるの義なり。

【一一】眞如は一切法と其の體性を同じうするの義なり。

らしめんと回向し。無恚如の如く善根も亦爾り、一切の衆生をして一切の魔業も動かす能はざる所ならしめんと回向し。不濁如の如く善根も亦爾り、一切の菩薩の行に垢濁有ること無けんと回向し。不亂如の如く善根も亦爾り、一切衆生をして諸の塵亂を離れしめんと回向し。不可盡如の如く善根も亦爾り、一切世間の法は盡すこと能はざる所なりと回向し。菩提如の如く善根も亦爾り、一切の諸法を覺悟せんと回向し。不失如の如く善根も亦爾り、一切の衆生をして直心を失はざらしめんと回向し。照如の如く善根も亦爾り、一切の衆生をして悉く大智の光明を以て普く一切を照さしめんと回向し。不可說如の如く善根も亦爾り、一切の不可說の智に回向し。持一切衆生如の如く善根も亦爾り、一切菩薩の行を持せんと回向し。隨順一切語言如の如く善根も亦爾り、一切無言の智慧に回向し、離一切種種法如の如く善根も亦爾り、一切の佛刹に示現し、及び諸の如來の最正覺を成じ、無量無邊の神力自在を示現せんと回向し。離虛妄如の如く善根も亦爾り、世間は悉く虛妄を離れんと回向し。一切身徧至如の如く善根も亦爾り、無量の身を一切の刹に徧せしめんと回向し。不受生如の如く善根も亦爾り、無生の巧妙なる方便をもつて受生を示現せんと回向し。（三）無不有如の如く善根も亦爾り、三世一切の諸佛の自在神力、及び一切の刹は身内に在りて現ぜんと回向し。（三）夜如の如く善根も亦爾り、一切の夜に佛事を施作して、無上の明を得んと回向し。晝如の如く善根も亦爾り、

【三】眞如は處として有らざると無し、故に無不有如といふ。

【三】晝夜乃至盡未來といふは一念乃至無量劫は各々眞如に依るが故に、晝夜月歲より世界の成壞に至る迄眞如を離れざることを明かす。

一切のもの晝に在りて衆生は悉く善く覺して、諸の如來の自在神力を見たてまつり、不退の法輪に住し、離癡清淨ならしめんと回向し。半月及び一月如の如く善根も亦爾り、一切の衆生一切時に住して、巧妙の方便をもつて一念の中に於て悉く能く一切の時節を分別せんと回向し。年歲如の如く善根も亦爾り、種種の諸劫を受持し、諸根を嚴淨し、諸根に了達せんと回向し。一切劫成敗如の如く善根も亦爾り、一切の劫淨くして無染に住し、一切の衆生清淨にして衆生を調伏せんと回向し。未來如の如く善根も亦爾り、一切の未來際を盡して、菩薩の清淨なる妙行を修習し、悉く能く無量の大願を滿足せんと回向し。世如の如く善根も亦爾り、一切の衆生一念の中に於て、一切の佛を見たてまつり、乃至未だ曾て一念にも遠離せじと回向し。至一切處道如の如く善根も亦爾り、一切の衆生不壞の道を得て、三界を超出せんと回向し。(四)有無如の如く善根も亦爾り、一切の諸有清淨にして諸有無しと知らんと回向し。淨如の如く善根も亦爾り、一切の菩薩の淨行は無上菩提の具を出生せんと回向し。明淨如の如く善根も亦爾り、菩薩の一切の三昧、明淨の心を得んと回向し。離垢如の如く善根も亦爾り、一切の垢を離れ淨心滿足せんと回向し。無我所如の如く善根も亦爾り、我我所無き清淨の心を攝取して、十方一切の佛刹に充滿せんと回向し。平等如の如く善根も亦爾り、無盡の一切智を得て永く癡愛を離れ、普く一切を照さんと回向し。無數如の如く善根も亦爾り、一切智の乘力巧方便に住して、法雲普く一切の世界を覆はんと回向し。平等住如の如く善

【四】眞如は有無の法に住するの義なり。

根も亦爾り、一切の衆生をして菩薩の行を具して一切智に住せしめんと回向し。分別一切衆生界如の如く善根も亦爾り、一切の善根現前して無礙智を滿ぜんと回向し。一切衆生語言如の如く善根も亦爾り、一切諸の語言の法を解了せんと回向し。不離一切衆生如の如く善根も亦爾り、一切の衆生を攝取して、善根を具足し、生死を遣離せんと回向し。廣如の如く善根も亦爾り、三世の佛の說きたまふ所の法を受持して、菩薩の離癡の行を修習せんと回向し。不休息如の如く善根も亦爾り、一切劫に菩薩の行を修して未だ曾て休息せず、衆生を摩訶衍に安處せしめんと回向し。一切法第一如の如く善根も亦爾り、淨き法門を開き、無礙の淨念をもつて一切の法を攝せんと回向し。無量讃歎如の如く善根も亦爾り、無量の讃歎の智慧、菩薩の實行を得んと回向し。離熾然如の如く善根も亦爾り。熾然を離れたる法は、衆生の熾然を滅除して清淨なることを得しめんと回向し。不動如の如く善根も亦爾り、善根安住して動ぜず、普賢菩薩の願行を滿足せんと回向し。諸佛境界如の如く善根も亦爾り、一切衆生の智慧の境界は皆悉く滿足して、一切の煩惱の境界を除滅せんと回向し。不可壞如の如く善根も亦爾り、善根は一切の魔業も壞ること能はざる所にして、悉く能く衆邪外道を調伏せんと回向し。(三五)非可修非不可修如の如く善根も亦爾り、一切の修非修の虛妄を離れ、一切の虛妄を斷ぜんと回向し。不退如の如く善根も亦爾り、常に一切の諸佛を見たてまつりて未だ曾て中退せず、菩提を莊嚴する心を

【三五】眞如は所得無きが故に修行して得べきに非らず、而も聖者の境界にして凡夫は之を證せざるが故に修す可らざる者に非ざるなり。

修習せんと回向し。不著一切法如の如く善根も亦爾り、一切の衆生悉く所著無く、一切の衆生をして普賢の行を行ぜしめんと回向し。一切地如の如く善根も亦爾り、一切の善根をして悉く智慧の地に隨順して、普賢の莊嚴を得しめんと回向し。不可斷如の如く善根も亦爾り、一切の法の中に無畏無斷の一切の語言を得て、周滿し具足して能く廣く演說せんと回向し。無漏如の如く善根も亦爾り、一切の衆生は皆無漏の善根菩提の心を具足し、法智を逮得して解了し分別せんと回向し。無有覺法無有滅法如の如く善根も亦爾り、一切の諸法を覺悟して、一念の頃に於て皆悉く無量の法界に充滿せんと回向し。（一六）過去非同未來非故現在非異如の如く善根も亦爾り、（一七）新新の菩提心を發起し、願はくは生死を除滅して衆生を淸淨にせんと回向し。三世中不取虛妄如の如く善根も亦爾り、過去未來皆悉く淸淨にして、現在の念念に正覺を現成せんと回向し。一切諸佛菩薩具足如の如く善根も亦爾り、一切の衆生をして佛智の大願方便を具足せしめんと回向し。常淨無染汚如の如く善根も亦爾り、一切の衆生をして悉く煩惱を除きて、一切種智を淸淨に滿足せしめんと回向す。

（一八）菩薩摩訶薩は是の如く回向する時、一切の佛刹を等しうす、一切の世界を淨むるが故に。一切の

【一六】過去の法は過去に滅して後念の法を引起するが故に過去は同一法に非ずして斷滅す、前念滅して後念を生ずと雖も前念の法が傳はりて後念に至るに非ざるが故に未來は故舊の法に非ず、現在の法は前念に望むれば未來に同じ、後念に望むれば過去に同じきが故に異に非ずといふ。

【一七】三世は相續して斷ぜずと雖、法は新にして舊に非ざるが故に念念新なり、此の故に新新の菩提心といふ。

【一八】第三、回向の成ずる所の德を擧げて結す。

世間を等しくす、不可壞の淸淨の法輪を轉ずるが故に。一切の菩薩を等しくす、一切の智願を出生するが故に。諸佛を等觀す、二有ること無きが故に。諸法を等觀す、自性を壞せざるが故に。三世を等觀す、巧方便智をもつて語言の道を解るが故に。一切の菩薩の行等し、種うる所の善根を悉く能く回向するが故に。一切時を知る、隨時に修習して佛事を捨てざるが故に。一切の業報平等なり、世間に著せず離世の善根を出生するが故に。神力自在なること諸佛と等し。世間に隨順して等しく佛事を現ずるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の第八の如相回向と名く。

(一九)菩薩摩訶薩は此の回向に安住すれば、無量無邊の淸淨の法門を得、人中の雄と爲りて畏るる所無く、大師子吼し、無量無數の菩薩を成就し、一切時に於て未だ甞て休息せず。佛の無量無邊の滿足身を得て、一身一切の世界に充滿し。佛の無量無邊の滿足の音聲を得、音聲を發して一切の衆生聞かざる者無く。佛の無量無邊の滿足力を得て、一毛道に於て一切の世界を安置し。佛の無量無邊の滿足せる勝れたる衆生法を得て、一切に示現し、佛の無量無邊の滿足せる自在神力を得て、一切の衆生を一微塵に置き。一切の佛の無量無邊の滿足せる解脱を得て、一りの衆生の身中に於て一切の佛刹を現じ、一切の如來最正覺を成じ。一切の佛の無量無數の滿足せる三昧正受を得て、善方便の力をもつて、一三昧の中に於て悉く能く一切の三昧を出生し。一切の佛の無量無邊の滿足せる辯才を得て、一句の法を說くに、未來劫を盡すも而も窮盡せずして、一

【一九】後に位果を明かす。

悉く一切衆生の疑惑を除き。一切の佛の無量無邊の滿足せる勝衆生法を得て、一切の衆生に薩婆若十力の等覺を示現す。佛子よ、是は爲菩薩摩訶薩、一切の善根を以て如相に隨順して回向するなり。』

〔二〇〕爾の時に金剛幢菩薩、佛の神力を承けて普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰く、

『〔二一〕菩薩の心安住し、癡を離れて常に正念し、忍辱にして惱害を離れ、無量の德を修集す。

其の心嫌恨無く、正直にして常に淸淨、諸業は世を莊嚴し、悉く能く分別す。

〔二二〕菩薩の思惟の業は、種種にして量有ること無し。若し衆生を益する業なれば、修習して常に履行す。

善能く世間に順じ、普く一切を喜ばしめ、衆生の業に隨應して、菩薩は分別して行ず。

永く諸の恚癡を離れ、法を知り亦義を知り、調伏地に安住して、一切の衆を饒益す。

諸の善法を覺悟するに、無量にして數ふ可からず、悉く能く分別して知り、回向して衆生を益す。

〔二三〕此の深方便を以て、諸地の智を具足し、衆の煩惱を滅除して、如の如く善を回向す。

普く一切の趣を攝して、如實の法に安住し、是の如き業を回向して、悉く所著無からしむ。

〔二四〕深く至處の道を樂ひ、眞如の法を修習するに、無性にして所有無く、明德の者回向す。

【二〇】重頌廿九偈あり。
【二一】初の二偈は行體を頌す。
【二二】次の四偈は衆生及び菩提に回向することを頌す。
【二三】次の二偈は實際回向を頌す。
【二四】次の十六偈は純熟無礙自在の回向を頌す。

日夜及び半月、一月・年・數劫は、一切皆悉く如なり、功德も亦是の如し。
世及び諸刹と、衆生と一切法と、趣と非趣との如きを如實に、回向して悉く餘すこと無し。
如性の如實の如く、是の如きの性を思惟し、諸の功德を回向して、悉く皆眞如に順ず。
如の性の如く是の如く、諸法は所有無し、如の自性を離るるが如く、知者は業を回向す。
諸相の如實なるが如く、諸生も亦是の如し、如の自性は實なるが如く、諸業も亦是の如し。
如の量有ること無きが如く、一切の業も是の如く、縛も無く亦解も無く、諸業は悉く清淨なり。
是の如く眞の佛子は、安住して動ず可からず、智慧力を成就して、佛の方便藏に入る。
法王の法を覺悟するに、縛も無く亦著も無く、無礙にして轉心無く、亦復た所轉も無し。
法身所攝の業は、衆生の相に隨順して、深く眞實の相に入り、相も亦是れ相に非ず。
是の如く不思議にして、思議すとも盡す可からず、深く不思議に入りて、思も非思も寂滅す。
是の如く法を思惟して、一切の業を分別し、諸の煩惱を除滅す、是を功德の王と名く。
菩薩の一切の報は、無盡智の印する所、盡法は無盡の性にして、無盡の方便滅す。
心は內外に在らず、心亦所有無し、妄取するが故に法有り、取せざれば則ち寂滅なり。
佛子是の如く知れば、法は空にして自性無く、諸法に自性無ければ、最勝は無我を覺る。
如の衆生に等しきが如く、法性を覺るも是の如し、彼不思議を見れば、無相の智惑はず。

〔二五〕是の如く深く修習して、一向に菩提を求むれば、願ふ所退轉せず、衆生を饒益せんが故なり。
菩薩は此の身を捨てて、死の虛妄の相無く、心は化の如しと解了して、一切の衆を調伏す。
彼を觀じて正念に順ずれば、世閒は業報より起る、菩薩は悉く救護して、三界に餘り有ること無し。
衆の想行を了知するに、皆悉く是れ虛妄なり。菩薩は非實なりと知りて、亦法性を壞せず。
彼是の如く、智慧の妙善根を回向し、一切の衆を憐愍して、深方便に入らしむ。』

〔二六〕『佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第九の無縛無著解脫心回向と爲す。

〔二七〕此の菩薩摩訶薩は、一切の善根に於て輕心を生ぜず。生死を出づることを輕ぜざる心、善根を攝することを輕ぜざる心、專ら一切の善根を求むることを輕ぜざる心、悔過を輕ぜざる心、善根に隨喜することを輕ぜざる心、他方の佛を禮することを輕ぜざる心、恭敬合掌の業を輕ぜざる心、塔廟を禮拜し尊重する業を輕ぜざる心、他方の諸佛を勸請して法輪を轉ずる業を輕ぜざる心なり。菩薩摩訶薩は常に樂うて彼の諸の善根を攝受し、堅固にして彼の善根を壞せず、彼の善根に安住し、彼の善根を思惟し、彼の善根を長養し、彼の善根に著せず、正直の心を具へて彼の善根を具し、彼の善根を選擇せず、彼の諸佛の境界の善根に隨順し、彼の善根の自在力を得ることを見るなり。

【二五】後の五偈は所成の德を頌す。
【二六】第九、無縛無著解脫心回向を明かす。
【二七】初に二十門あり、能回の行體を辨ず。
【二八】以下第二正しく回向することを明かす、中に於て八十門あり、初の六十門は廣大回向を明かす、即ち是れ菩提及び衆生回向なり。

（二八）菩薩摩訶薩は、無縛無著の解脱の心を以て、彼の諸の善根を回向し、普賢の身口意業を具足す。無縛無著の解脱の心を以て、普賢の勇猛精進を修習す。無縛無著の解脱の心を以て、普賢の無礙の音聲陀羅尼門を具足して、十方に充滿し。無縛無著の解脱の心を以て、普賢の一切の佛を見たてまつることを得る諸の陀羅尼を具足す。無縛無著の解脱の心を以て、普賢の妙音陀羅尼を具足して、一切の音聲を分別し、悉く能く無量の法雲を演説す。無縛無著の解脱の心を以て、普賢の一切劫の行を持する陀羅尼を得て、一切の世界に於て諸の菩薩行を具足し修習す。無縛無著の解脱の心を以て、一衆生身に於て、未來劫を盡して普賢菩薩の一切の自在神力を示現す。一衆生身の如く、一切の衆生身も亦復た是の如し。無縛無著の解脱の心を以て、悉く普賢の自在神力を得て、現在の一切の諸佛菩薩の衆中に示現して、菩薩の行を修し。無縛無著の解脱の心を以て、普賢の一法門を得て、無量無數劫に於て、諸佛の無盡の自在を示現して、悉く能く一切の衆生を度脱す。無縛無著の解脱の心を以て、普賢の種種の法門自在を得・無量無數劫に諸佛の無盡の自在を示現して、悉く能く一切の衆生を度脱す。無縛無著の解脱の心を以て、普賢の自在を得、念念の中に於て無量の衆生をして十力に安住せしめ、心に厭足無し。無縛無著の解脱の心を以て、普賢菩薩の自在を得、一切の衆生身中に於て、皆悉く諸佛の自在を見ることを得て、普賢の行を修す。無縛無著の解脱の心を以て、普賢の自在を得、一言の中に於て悉く能く一切衆生の音聲語言を分別し、一切の衆生を調伏して、薩婆若地に安住せしむ。

無縛無著の解脫の心を以て、普賢の自在を得、一衆生身の中に於て悉く能く一切の衆生を容受し、彼悉く自ら佛身を逮得すと謂へり。無縛無著の解脫の心を以て普賢の自在を得、一華の中に於て一切の嚴淨せる世界をして皆悉く安住せしむ。

(二九)菩薩摩訶薩復た是の念を作さく、「此の無縛無著の解脫心の善根を以て、普賢の微妙なる音聲を出生して法界に充滿し、十方の佛刹は其の所應に隨ひて皆悉く聞くことを得。此の普賢の無縛無著の解脫心の善根を以て、普賢の如く念念の中に於て、過去際を盡して無量無邊の世界の諸佛を見たてまつり、所說の法を聞きて、受持して忘れず、佛家を莊嚴す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、普賢の如く未來劫を盡して、一切の世界の中に於て諸法を演說し、皆悉く究竟す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、一切の世界に於て最正覺を成じて、世に出興す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、能く一光を以て普く虛空に等しき一切の世界を照し、普賢菩薩の所行を修習す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、無量無邊の智慧を得、皆能く諸地の神通に隨順して、普賢菩薩の所行を成就す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、悉く如來の智慧を究竟することを得、一切劫に於て如來智を說き、諸劫は悉く盡くるとも、而も智は窮盡すること無く、普賢菩薩の所行を具足す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て法界に等しき一切の如來、菩薩の所行に於て、悉く能く身口意の業を修習して、而も懈怠無きこと猶

【二九】以上は普賢の自在の三業を明かし、以下は廣大の三業を明かす。

ほ普賢の如し。此の無縛無著の解脱心の善根を以て、一切の佛の無上菩提を得て、義身法身に違はず、辭辯淨地にして壞す可からず、樂說辯才無盡の藏は一切の衆生を調伏して普賢の願を具ふ。此の無縛無著の解脱心の善根を以て、一一の法門に入りて、普く無量不可思議の世界を照し、一切の法門に於て其の源底を盡し、普賢菩薩の所行を修習し、究竟の薩婆若地を逮得す。

【三〇】此の無縛無著の解脱心の善根を以て、一一の境界の中に於て、悉く一切種智を以て一切種智を分別し了知して、猶ほ窮盡すること無く、普賢の莊嚴せる彼岸を究竟し、菩薩の行を修し、方便大王を具足し成就す。此の無縛無著の解脱心の善根を以て、此の生より未來際の生を盡して、普賢菩薩の所行、及び一切種智の離癡の法王を具足す。此の無縛無著の解脱心の善根を以て、無礙の法明を得て普く一切諸の菩薩の行を照し、常に正業を修して、普賢の自在方便を具足す。此の無縛無著の解脱心の善根を以て、悉く無量の方便、不可思議の方便、菩薩の方便、一切智の方便、調伏菩薩の方便、無量の法輪を轉ずる方便、不可說不可說時の方便、種種の說法の方便、分際無き無畏の方便、一切の法を說く無餘の方便を得、是の如き等の一切の隨順方便智を得て、普賢菩薩の所行を修習す。此の無縛無著の解脱心の善根を以て、身業を具足し、一切の衆生をして皆悉く歡喜し、菩薩の不退の清淨の善根を得て、究竟じて普賢の諸業に安住せしむ。此の無縛無著の解脱心

【三〇】上來は普賢の因を明かし、以下三十五門は普賢の果德を明かす、中に於て初の十門は普賢の攝法廣大の德を得ることを明かし、次の十五門は普賢の攝法自在を明かす。

の善根を以て、清淨の智を得て、悉く能く衆生の語言を分別し、一切の口業を清淨に莊嚴し、音辭微妙にして言の能く及ぶ無く、普賢の所行を修習し受持す。此の無縛無著の解脫心の善根を得て、悉く能く一切の佛刹、一切の衆生、一切の諸法、一切の莊嚴を分別し、其の心清淨にして一切如來の法藏を出生し、一切智を究竟じて善能く普賢の所行に隨順す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、清淨の直心一切の佛の無礙の法身を得て、解脫を具足して如來の法を修し、佛の功德を攝して佛の境界に住し、大智普く照し、菩薩の清淨の行を修習し、方便に隨順して、悉く能く一切の法藏を分別し、無量なる大乘の自在を出生して、悉く能く無量無邊の一切の衆生に無上の大道を示現し、普賢の行願を具足して回向す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、明利の根、善く調伏する根、一切の法に於て自在なる根、窮盡無き根、一切の諸善を修習する根、一切の佛の境界に住する平等根、一切の菩薩に不退轉の記を授くる大精進の根、一切の佛法を分別する金剛界の根、一切如來の智慧の光照金剛燄の根、一切の諸根を分別する自在の根力、一切の衆生をして一切智に安住せしむる根、無量の根、一切を滿足する根、無礙清淨の根、平等に諸願を修習する根を得。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、一切の菩薩の神力、無量の身を住持する神力、無量の智慧境界の神力、一處を離れずして悉く能く一切の佛刹に示現する神力、菩薩の無礙にして制持す可からざる自在神力、一切の佛刹を示現し攝取して一處に安置する自在神力、一身一切の佛刹に充滿する自在神力、菩薩の無礙解脫の自在神力、少方便を

もつて一念自在の神力、所有無きに依る自在の神力、一毛を以て悉く無量の世界を縛し、悉く持して法界に等しき佛刹に遊行し、衆生に示現して究竟の妙智慧門を得しむる自在神力を得て、普賢菩薩の所行を修習す。

〔三〕此の無縛無著の解脱心の善根を得て、一念の頃に於て悉く能く無量の佛刹に往詣し、一身の中に於て悉く能く無量の佛刹を容受し、甚深微妙の智地を逮得して、善能く諸佛の世界を分別し、無生の心を得て悉く普賢菩薩の法門に入り、菩薩の行を生ず。此の無縛無著の解脱心の善根を得て、如來の家に生れて菩薩の行を修し、無量無數なる不可思議の法を具足し、無量の大願は皆悉く成滿し、一切の法界及び三世の法界を分別して懈怠無く、普賢菩薩の諸行に隨順して智界を究竟す。此の無縛無著の解脱心の善根を以て、一毛道に於て、無量無數の佛刹を分別し、悉く能く一切の法界を包容して空界を究竟し、一毛道の如く一切の法界虚空界に等しき一切の毛道も、亦復た是の如く、普賢菩薩の清淨の法門を以て、智慧の眼を開く。此の無縛無著の解脱心の善根を以て、能く無量無數の阿僧祇劫を以て、以て一念と爲し、能く一切衆生の諸念を以て、以て一念と爲し、此の諸の方便は皆普賢菩薩の深心究竟に由る。此の無縛無著の解脱心の善根を以て、一身の内に於て悉く能く無量の諸身を容受し、一身の如く一切身も亦復た是の如くして、普賢菩薩の回向を具足す。此の無縛無著の解脱心の善根を以て、悉く一切諸佛の境界に入り、常に諸佛

【三】次の十五門は普賢の攝法自在を明かす。

の虛空界に等しき淸淨の法身を見たてまつり、相好莊嚴し、神力自在に、梵音微妙にして、具足して廣く無礙の正法を說き、彼の佛の法を聞きて悉く能く受持し、彼の佛身に於て所有無しと了り、悉く普賢菩薩の無量の大願を得て、永く衆生の心想見倒を離る。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、一切の世界に入り、翻覆世界に入り、伏世界に入り。一念の中に於て悉く能く徧く十方世界の一切の佛刹に入り、因陀羅網の世界を分別し、一切平等の法界を分別し、雜世界をして悉く一形と爲さしめ、無量の種種の世界は無量の方便をもつて、深法界に入り、皆虛空の如くして而も亦世界の性を壞せず、普賢の行を修し菩薩の地に住す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、悉く能く一切の諸想を分別す、衆生の想、法の想、佛刹の想、方想、佛想、世想、業想、行想、解脫の想、根想、時想、受持の想、煩惱の想、淸淨の想、成熟の想、諸佛を見たてまつる想、法輪を轉ずる想、法を聞きて解する想、調伏の想、種種の方便出生の想、種種の地想、菩薩に入るの想、菩薩の功德を修習する想、菩薩の三昧正受の想、菩薩の三昧起の想、菩薩の境界想、劫の成壞の想、明想、闇想、晝想、夜想、半月一月、年歲、時變の想、去想、來想、坐想、立想、覺想、睡想、是の如き等の一切の諸想を、一念の中に於て悉く能く了知し、心虛妄無くして悉く諸想を離れ、心所著無くして障礙を遠離し、一切如來の智慧充滿し、一切の佛法は善根を長養し、一切の佛身を以て、以て其の身に熏じ、常に諸佛の爲めに攝取せられ、白淨の法に於て未だ曾て退失せず、善能く等正覺の法を修學して彼岸を究竟し、諸佛普賢

の所行を修行して諸願を具足し、如來の記を受けて、一念の中に於て方便地に入ることを得て、究竟の智滿足し安住す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、一一の心を以て無量の心を觀じ、諸の虛妄を離れて所依無く、心一ならざるが故に。所行各異りて、業相同じからず、一切の衆生をして勇猛精進して普賢の智慧の寶を出生せしむること猶ほ普賢の如し。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、一處に於て悉く能く無量の諸處を分別し、一處の如く一切處も亦復た是の如くして、悉く決定して知り、普賢の大願智寶を滿足す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、一業に於て無量の諸業と、種種の緣造とを分別して知り、一業の如く一切の諸業も亦復た是の如くして、普賢菩薩の行業智地を修習す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、一法の中に於て悉く一切の諸法を分別して知り、一切法の中に於て亦一法を知り、諸法を分別して違せず著せず。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、一語の中に於て悉く分別して無量の言音は猶ほ呼響の如しと知り、一語の中の如く一切の語言も亦復た是の如くして、彼の言音に於て依著する所無く、菩薩の行に住し、智慧成就して普賢の無礙の淨耳を逮得す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、一一の法の中に於て、悉く能く不可說不可說の諸法を演說し、善根を長養して思議す可からず、時に應じて法を說き、一切時に解脫し、決定して衆生の諸根を了知し、其の所應に隨ひて佛の音聲を聞き、佛の一妙音は無量の衆を悅ばし、一如來の所の菩薩の大衆は法界に充滿し、究竟じて一切の諸行を了知し、普賢の地に住し、念念の中に於て、說の如く法に

入りて、不可說の妙智慧の身を長養し、未來劫を盡して、一切の世界の一切の佛の所に於て、悉く能く虛空に等しき行を修習し、勇猛なること普賢の如くにして大智慧を修習し、一切の行を具足して普賢地に安住す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、一一の根の中に於て、皆悉く無量の諸根と、不可數の意と、不思議の境界とを了知して、普賢の行法門の諸根を修習す。

巻の第二十二

金剛幢菩薩囘向品第二十一の八

(一)此の無縛無著の解脱心の善根を以て、菩薩の行を具し、眞實の妙智を生じて、色の(二)微細を知り、身の微細を知り、刹の微細を知り、劫の微細を知り、世間の微細を知り、方の微細を知り、時の微細を知り、數法の微細を知り、業の微細を知り、報の微細を知り、清淨の微細を知る。是の如き等の一切の微細なるを、一念の中に於て皆悉く了知し、普賢菩薩の所行に隨順して、普賢の眞實の智慧を成就す。恐怖を離れたる心、愚癡を離れたる心、離散の心、離亂の心、諸根を調伏する心、一心正受の心、善く諸法を分別する心、善く智慧に安住する心、普賢の行を行じ普賢菩薩の囘向に隨順する心なり。(三)此の無縛無著の解脱心の善根を以て、衆生趣の微細を知り、衆生死の微細を知り、衆生生の微細を知り、衆生處の微細を知り、衆生性の微細を知り、衆生の種類の微細を知り、衆生界の微細を知り、衆生行の微細を知り、衆生取の微細を知り、衆生の境界の微細を知る。是の如き等の一切の微細を、一念の境の中に於て悉く能く了

【一】以下十門は普賢の微細智の自在を明かす。

【二】微細。所知の事幽微なるを以て能知の智も微細なり、又凡夫二乘等の淺智を以て知ること能はざるが故に深妙にして知り難きの意なり。

知し、普賢の行を修して懈倦無し。此の無縛無著の解脱心の善根を以て、悉く分別して初發意の菩薩等の一切の菩薩の諸行の微細を知る。菩薩處の微細、菩薩自在の微細、菩薩の遊行する無量の佛刹の微細、菩薩の法明の微細、菩薩の淨眼の微細、菩薩の具足する深心の微細、菩薩の往詣する諸の如來大衆の微細、菩薩の諸の陀羅尼智門の微細、菩薩の無量無邊の無所畏地、一切の諸の辯才、方便演説の微細、菩薩の無量無邊の三昧相の微細、菩薩の一切の佛を見たてまつる三昧の微細、菩薩の莊嚴三昧の微細、菩薩の法界三昧の智慧微細、菩薩の自在三昧の智慧微細、菩薩の三昧の智慧微細、菩薩の受持する盡未來際の三昧の智慧微細、菩薩の勝妙の智慧をもつて一切を分別する菩薩の三昧の微細、菩薩の無量無邊の一切菩薩の三昧を出生して分別了知する微細、菩薩の三昧智慧を出生して、一切諸の如來の所に往詣する微細、一切の菩薩の廣大なる甚深無礙の三昧を修習し一切種智を究竟して方便地、一切通地、分別實義、菩薩の離癡の智を得、普賢の無量の諸行を修習する微細なり。此の無縛無著の解脱心の善根を以て、一念の中に於て悉く菩薩の一切住の微細を知り、悉く菩薩地の微細を知り、菩薩の種種の行の微細、菩薩の出生する囘向の微細、菩薩の一切諸佛の藏を得る微細、菩薩の分別智慧の微細、菩薩の大願神力自在の微細、演説菩薩三昧の微細、菩薩の神力方便の微細、菩薩の印の微細、菩薩の一生補處の微細、菩薩の兜率天に生ずる微細、菩薩の天宮に處する微細、菩薩の佛刹を嚴淨する微細、菩薩の人中を觀察する微細、菩薩の大光明を放つ微細、菩薩の家法に了達する微細、菩薩

の眷屬法の微細、菩薩の一切世界受生の法微細、菩薩の一身に一切身の命終を示す微細、菩薩身の母胎に入る微細、菩薩の母胎に處する微細、菩薩の胎中に在りて法界に等しき大衆を顯現する自在神力の微細、菩薩の母胎に在りて一切の佛を顯現する自在の微細、菩薩の正法の微細、菩薩の遊行七歩無畏智の微細、菩薩の王宮に現在する方便法の微細、菩薩の出家求道して諸根を調伏し、法を修する微細、菩薩の菩提樹下に道場に坐する法の微細、菩薩の魔を降して最正覺を成ずる法の微細、如來の道場に端坐して光明網を放つ微細、普く十方一切の世界を照す微細、如來の無量無邊の自在神力を顯現する微細、如來の師子吼大般涅槃の微細、如來の一切衆生を教化して未だ會て失ふこと有らざる微細、如來の金剛菩提心を知る微細、如來の一切世界を住持することを顯現する微細、一切の世界に於て盡未來劫に佛事を施作して休息無き微細、究竟じて一切の法界を受持する微細、虛空界に等しき一切の世界に衆生を化せんが爲めの故に普く佛身を現じて世に出興する微細、一如來の身無量の身を現ずる微細、去來現在の一切の諸佛の智慧眷屬の微細を知る。是の如きの一切の功德の微細を、我當に悉く知り、具足し究竟じて彼岸に到ることを得、清淨に一切の衆生に示現して、念念の中に於て智慧周滿し、不退轉を得て菩薩の行を修し、普賢の回向の功德の地を具へ、一切の如來菩薩の所行を受持し、菩薩の諸の智慧門を離れず、一切の方便は皆悉く清淨にして普く能く一切の衆生を安隱にし、菩薩の行を修し、菩薩の諸地の功德を具足して、金剛幢回向の門を得、無量の法界の諸の功德藏を出生

し、常に諸佛の爲めに護念せられ、諸の菩薩の深淨の法門に入り、一切の微妙の法義を演說して違失する所無く、悉く能く一切の衆生を慈愍し、念念の中に於て究竟して思議、不思議地の諸の功德藏を了知し、不思議に於て思議を出生して諸の法門を示し、語言の道を離れて智慧地を得、一切の菩薩皆悉く同等にして、未來際を盡して菩薩の行を修し、未だ曾て休息せず、普賢の行を具へて、世間の一切の妄想、及び、語言の道を遠離し、大願自在を具足し受持して、菩薩の行を修して未だ曾て斷絕せざるべし。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、一切衆生の性に入る智の微細、衆生の性を分別する智の微細、衆生の性を具足し演說する智の微細、衆生の性に染著する智の微細、衆生の不動性の智の微細、衆生の動性の智の微細、無量無邊の趣趣の衆生性智の微細、不可思議なる衆生の種種の行性智の微細、衆生の無量煩惱性の智の微細、衆生の無量なる清淨性の智の微細、是の如き等の一切衆生の性境界の智微細を、一念の中に於て如實に了知し、一切の衆生を調伏し安隱にして、應の如く說法して時を失はず、常に法輪を轉じて衆生を攝取し、諸の法門を說き、菩薩の道を修して智慧具足し、化身無量にして衆生を安隱にし、悉く歡喜せしめ、慧日普く照し、深く菩提心に入りて、菩薩の自在智を得、菩薩の智境界を覺悟し、安住して、大乘の智を修習し、普賢の行を究竟す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、悉く能く虛空法界に等しき一切の世界を分別する智の微細、小世界智の微細、中世界智の微細、不淨世界智の微細、清淨世界智の微細、無比世界智の微細、雜世界智の微

細、廣世界智の微細、狹世界智の微細、無礙莊嚴世界智の微細、一切の世界に諸佛出世し示現する一切智の微細、演說一切世界智の微細、一身一切の世界に充滿する智の微細、無量の光を放ちて普く一切の世界を照す智の微細、一切の世界の一切の諸佛自在神力を顯現する智の微細、一切の妙音聲普く十方一切の世界に聞ゆる智の微細、一切の世界に現在する諸佛の大衆に圍繞せらるる智の微細、一切の法界一佛刹と作る智の微細、一佛刹一切の佛刹と作る智の微細、一切世界の如夢智の微細、一切世界の如電智の微細、是の如き等の一切世界の智の微細を、悉く分別して知り、究竟じて菩薩の願行は皆悉く幻の如しと了達し、普賢菩薩の行自在の智を究竟じて、普賢菩薩の明觀を得、一切菩薩の行を行じて休息有ること無く、悉く顚倒を離れて一切の佛及び佛の自在を見たてまつり、無礙の身を得て智に所依無く、諸の善根の法に染著する所無く、心の所行には悉く所有無く、諸方の堅固の相を捨離して、菩薩の所行の相を嚴淨し、而も未だ曾て一切智の相を取らず、衆生に著せざる三昧をもつて智慧を莊嚴し、一切の法界に隨順し、一切の世界に於て菩薩の行を修す◎此の無縛無著の解脫心の善根を以て、深く無量の法界に入る智の微細、一切の法界を演說する智の微細、廣き法界に度る智の微細、不思議の法界を分別する智の微細、一切の法界を分別する智の微細、一念の中に於て一切の法界に充滿する智の微細、一切の法界を等觀する智の微細、一切の法界の境界は所有無き智の微細、一切の法界を觀察する無礙智の微細、一切の法界を解る不生智の微細、身に一切の法界を保つ自

在智の微細、是の如き等の一切の法界智の微細を皆悉く究竟じて、普賢の行を成じ、智慧を受持して法の自在を得、衆生を歡喜せしめ、義身を捨てず。法身を見ず、無礙平等の智を出生して無礙の行を得、諸法に著せず、一切の有を離れて眞實にして染無く、世間に隨順して語言の法を行じ、常に寂靜を樂ひ、實義を捨てず、智慧清淨にして虛妄を滅除し、一切の所有は悉く堅固に非ず、無量の一切の法界を覺悟するに、一切の世間は平等にして不二なり、一切の諸法も復亦た不二にして依止する所無く、普賢菩薩の行門に入ることを得て、平等の智慧を究竟し成就す。此の無縛無著の解脫心の善根を以て、悉く能く一切の諸劫を分別する智の微細、無量劫は即ち是れ一念の智の微細、一念は即ち無量劫の智の微細、阿僧祇劫は即ち是れ一劫の智の微細、一劫は即ち是れ阿僧祇劫の智の微細、長劫は即ち是れ短劫の智の微細、短劫は即ち是れ長劫の智の微細、有佛の劫無佛の劫に入る智の微細、一切の劫を數知して餘り無き智の微細、一切劫非劫を說く智の微細、一念の中に過去未來現在際の一切の諸劫を覺りて餘り無き智の微細、是の如き等の一切の諸劫を、一念の中に如來智を以て知り、一切の菩薩の行、圓滿なる正心を得て、普賢菩薩の究竟の行心を得、一切の虛妄を離れたる心を得、大願を退せざる心を得、無量無邊の世界の微細の中に示現して一切の如來徧く充滿する心を得、諸佛の善根と菩薩の行とを聞持する心を得、一切の衆生に大無畏を與ふる心を得、一切の劫の中に諸佛の世に出興することを示現する心を得、一一の世界の中に、未來際を盡して菩薩の道を行じ休息無き心を得、

一切の世界の中に如來の身業、菩薩の心に充滿する心を得。此の無縛無著の解脱心の善根を以て、無量の甚深の法を知る智の微細、勝法の智の微細、雜法の智の微細、莊嚴法の智の微細、廣く一切の諸法を說く智の微細、一切の法は卽ち是れ一法の智の微細、一法は卽ち是一切法の智の微細、一切法悉く非法に入る智の微細、非法一切法に入るも亦法に違はざる智の微細、一切の佛法の方便に入りて餘り有ること無き智の微細、是の如きの一切諸法の微細を、無礙の智を以て悉く能く了知し、一切行一行に同ずるの心を得、無量無邊の法界を究竟する心を得、無畏の力法を分別する心を得、決定して諸の無礙の行に安住し、一切智を以て諸根に充滿し、一切の佛智と、正念の方便とは皆悉く現前して、諸佛の廣大なる功德を成就し、世界に充滿して普く一切諸の如來身に入り、一切の菩薩の身業を示現し、妙音聲を出して普く世界に徧じ、一切の佛の所にて威神力の智慧意業を得、無量の分別方便と一切種智とを出生し、普賢の行を修して不退轉の智を得。此の無縛無著の解脱心の善根を以て出生する一切の佛刹の無餘智の微細、出生する一切衆生の諸通智慧の無餘智の微細、出生する諸法の業報の無餘智の微細、出生する一切衆生心の無餘智の微細、出生する隨時の說法の無餘智の微細、出生する分別一切法界の無餘智の微細、出生する虛空界に等しき三世の智慧の無餘智の微細、出生する一切語言道の法の無餘智の微細、出生する一切世閒の諸法の無餘智の微細、出生する離世閒の行法の無餘智の微細を知る。是の如き等の一切の出生智の微細、一切の如來道、一切の菩薩道、一切の衆生道の

出生智の微細をもつて、菩薩の行を修し、普賢の行に安住し、義に隨ひ、味に隨ひて皆實の如く知るに、夢の如く、電の如く、幻の如く、響の如く、化の如く寂滅にして、一切の法界は眞實有ること無く、染著する所無く、諸佛の平等智慧を出生し、皆悉く究竟じて普賢の行を修し、微細智を出生す。

(三)菩薩摩訶薩は、此の如き無縛無著の解脫心の善根を以て、皆悉く回向して、世間、及び世間の法を妄取せず。菩提、及び菩薩を妄取せず。菩薩の行、及び出生死の道を妄取せず。一切の佛、及び佛法を妄取せず。調伏、不調伏の衆生を妄取せず。善根、及び回向を妄取せず。自己、及び他人を妄取せず。施物、及び受者を妄取せず。菩薩の行、及び菩提を妄取せず。法、及び解法の者を妄取せず。

(四)是の如く菩薩摩訶薩は無縛無著の解脫心の善根を以て回向す。無縛無著の解脫の身、無縛無著の解脫の口、無縛無著の解脫の業、無縛無著の解脫の報、無縛無著の解脫の世間、無縛無著の解脫の佛刹、無縛無著の解脫の衆生、無縛無著の解脫の法、無縛無著の解脫の智(も亦爾り)。

(五)菩薩摩訶薩は是の如く回向する時、則ち三世の諸佛一切の菩薩の回向と同等にして、三世の諸佛一切の菩薩の回向を成就し定住し、三世の諸佛菩薩の回向に於て不退轉を得、過去の一切の佛の敎に隨順し、未來の一切の佛の敎を具足し、現在の一切の佛の敎を得、過去の諸佛の平等の正法を滿足し、

【三】次の二十門は甚深回向を明かす、是れ實際回向なり。

【四】上來百門を竟り、次に餘の九百門を類顯し、總じて千門の大回向を成す。

【五】後に行果と位果とを明かす。

未來の諸佛の平等の正法を成じ、現在の諸佛の平等の正法に回向し、與に過去の一切の佛の境界を行じ、未來の一切の佛の境界に住し、現在の一切の佛の境界に等しく、三世の諸佛の善根と異ること無く、三世諸佛の所住に住し、三世の諸佛と同一の境界にして、三世の諸佛に違はず。佛子よ、是を菩薩摩訶薩の第九の無縛無著の解脱心の善根回向と爲す。菩薩摩訶薩は此の回向に安住して、一切の善根を回向すれば、一切の金剛山も壞すること能はざる所、一切の衆生に於て第一殊勝にして、一切の衆魔邪業も壞すること能はざる所にして、悉く能く衆魔邪業を摧滅し、普く一切の世界に現じて菩薩の行を行じ、善方便を以て廣く衆生の爲めに諸佛の法を説き、愚癡を捨離して一切の佛法智慧に隨順す。菩薩摩訶薩は所生の處に隨ひて行住坐臥、一切常に不壞の眷屬を得、清淨の念を得、悉く能く三世の一切諸の如來の法を聞持して、盡未來際の劫に、菩薩の行を行じて、未だ曾て休息せず、而も染著無く、普賢の行を得て諸願滿足し、一切智地を得て佛事を施作し、悉く諸佛菩薩の無量の自在を得。』

(六)爾の時に金剛幢菩薩、佛の神力を承けて、普く十方を觀じ、偈を以て頌して曰はく、

(七)『菩薩は未だ曾て慢心有らず、一切諸方に無比の尊、本修せし所の功德の業に隨ひて、亦復た輕慢の心を起さず。

修する所の一切諸の功德は、自己及び他人の爲めにせず、縛著無き解脱の心を以て、回向して一

【六】重頌。五十一偈あり。
【七】初の三偈は行體を頌す。

切の衆を饒益す。
永く一切の自の高顯を離れ、亦復た憍慢の心を棄捨し、最勝の所に於て身業を起し、說法を勸請して種種に行ず。
(八)作す所の無量なる諸の功德は、一切衆生の類を饒益し、無著の解脫心に安住して、一切諸の如來に回向す。
世間の無量なる群生の類と、種種の方便と諸の技術と、勝妙にして甚深なる微細の事とを、悉く能く具足し分別して知る。
世間の所有る種種の身は、斯れ身業に由りて得る所、無量の生死の行を覺悟して、不退の智慧門を逮得す。
十方一切の無量の剎と、微細勝妙の伏世界とを、菩薩は深く智慧門に入りて、一毛孔に於て悉く了知す。
一切衆生の無量の心を、明者了知するに卽ち一心なり、菩薩は智慧門を覺悟して、諸業を增長する行を捨てず。
一切衆生の種種の根は、上中下品各同じからず、所有る甚深の諸の功德を、菩薩は性に隨ひて悉く了知す。

【八】次の四十四偈は廣大回向を頌す。

一切衆生の種種の業と、上中下品の差別の相とを、菩薩は深く如來力に入りて、悉く能く具足し分別して知る。

不可思議の無量劫も、悉く能く了知するに即ち一念なり、一切十方の所行の業を、菩薩は覺悟して清淨に知る。

悉く能く逆順に三世を知り、其の相を分別するに各同じからず、而も亦平等の相に違はず、是れ即ち離癡の菩薩行なり。

一切衆生の無量の行は、愛慢諸結各同じからず、菩薩は別相を分別して知り、亦復た無相の觀を捨てず。

(九)十方世界の諸の如來は、具足して大自在を示現し、見難く得難く思議し難きも、菩薩は悉く能く分別して知る。

【九】次の廿七偈は菩薩の行位は大用を成滿することを頌す。

兜率陀天の大導師は、無比最勝の人師子、功徳甚深にして廣くして清淨なり。一切實の如く其の性を見る。

降神して母胎に處することを示現し、無量の自在大神變をもつて、成佛し涅槃し法輪を轉じ、一切の世間能く轉ずる莫し。

人中の師子初生の時、一切の諸の勝れたるもの悉く奉敬し、天王・帝釋・梵天王、諸の智有る者

悉く敬侍す、

十方一切餘り有ること無く、無量無數の諸の法界は、始無く末無く中間無く、無量の自在力を示現す。

人中の尊導生を現じ已りて、諸方に遊行すること各七步にして、一切衆生の類を觀察し、無礙の法門をもつて一切を覺らしむ。

衆生の五欲に沒することを觀見たまひて、人中の師子は微笑を現じ、「衆生は盲冥にして愚癡に覆はるるも、我當に三有の苦を度脫せしむべし」と。

大師子吼して妙音を出し。「我世間の第一尊と爲り、明淨の智慧の燈を顯現して、永く生死の愚癡の闇を滅せん」と。

人中の師子世間に出でたまひ、大光明を放ちて量有ること無く、一切諸の惡道を斷除し、無量の衆苦究竟じて滅す。

或時は宮殿に處することを示現し、或は家を捨て學道を行ずることを現ず、人中の師子の自在を現ずるは、一切の衆生を饒益せんが故なり。

菩薩初め道場に坐する時、六反に諸の大地を震動し、普く無量の大光明を放ち、徧く五道の衆生類を照す。

一切の魔の宮殿を震動して、十方の衆生心を開發し、昔菩薩に於て緣有りし者は、皆悉く眞實の義を覺悟す。

一毛道の中に無量乘、十方一切の諸の佛刹あり。衆生道の乘は量有ること無く。彼最勝の大神變を現じたまふ。

是の如く方便隨順して覺るに、一切の佛の演說したまふ所の如し。若しくは諸の如來の說きたまはざる所も、亦悉く解了し分別して知る。

一切衆の魔怨を除滅して、普く三千大千界を覆ひ、深く一切の無礙門に入りて、能く一切諸の魔道を壞る。

如來或は諸佛の刹に在り、或は復た諸の天宮に現處し、或は復た身を梵の宮殿に現じたまふも、菩薩は悉く見たてまつりて障礙無し。

清淨の妙法輪を轉じて、如來の法身に邊際無し。悉く三世の一切劫に於て、最勝は演說したまひて窮盡無し。

諸佛の無等なる師子の座は、悉く皆十方界に充滿し、種種の妙相をもつて莊嚴し、佛彼の座に處したまひて難思議なり。

眞の佛子等は悉く圍繞し、法界に充滿して餘り有ること無く、菩薩の行を說きて邊際無く、諸佛

の出要の道に隨順す。

智者は能く一方便を以て、諸佛の法を攝して餘り有ること無く、種種に莊嚴せる最勝の法は、皆悉く法界に充滿す。

無等の無量なる妙自在をもつて、一切種種の身を示現し、又諸趣の無量の生を現じ、或は綵女衆に圍繞せらるることを現ず。

出家して學道を行ずることを示現し、衆生の諸根を利からしめんと欲し、乃至般涅槃を示現して、舍利を分布し塔廟を起す。

是の如きの種種無量行と、如來の演說と佛の所住と、一切如來の諸の功德とを、究竟じて徧く知りて彼岸に到る。

是の如きの種種無量の行は、一切劫に於て休息無く、亦未だ曾て憂慼の心を生ぜず、菩薩は皆悉く善く囘向す。

一切諸佛の自在力と、及び佛の無量なる諸の功德とを、菩薩は隨順して悉く了知し、普く一切衆生の爲めに說く。

是の如きの一切諸の法王は、彼の無量なる諸の境界に隨ひて、一念の中に於て悉く覺悟し、而も亦菩薩の行を捨てず。

一切最勝の甚深の法と、及び諸の佛刹の正法道とに、隨順して殊勝の行を覺悟し、究竟回向して彼岸に到る。

有數無數の一切劫を、菩薩は深く解るに卽ち一念なり、菩薩の行を具足し修習して、彼の勝道に於て退轉せず。

十方無量の一切の刹は、或は淨妙有り或は垢穢あり、及び彼の一切諸の如來を、菩薩は皆悉く分別して知る。

念念の中に於て悉く、不可思議の無量劫を明了し、是の如く三世の劫を了知し、具足して究竟の行に安住す。

深く入りて心の所行を了達し、善方便をもつて一切の法を行じ、一切の佛刹の菩薩の行を、悉く能く明了に分別して知る。

智慧を出生して量有ること無く、衆生及び諸法を出生し、菩提力の自在を出生して、一切皆悉く邊際無し。

深く一切に入りて餘り有ること無く、一切諸の妙法を分別し、悉く分別して同異の相を知り、具足して廣く菩薩の行を修す。

十方一切の諸佛の刹、彼に無量無數の衆有り、彼彼の諸性は各同じからず、菩薩は皆悉く分別

して知る。

〔一〇〕過去の一切諸の如來と、未來現在の諸の導師とを、若し能く是の如く知りて回向すれば、則ち三世の諸佛と等し。

若し能く是の如く知りて回向すれば、最勝の功德と等しく、最勝の智慧と等しく、最勝の所行と等し。

一切の世間能く壞する莫く、諸の學ぶ所の者は悉く成就し、一切諸の最勝に隨順して、善能く世間を觀察す。

菩薩の所行は量る可からず。無量の功德悉く具足し、堅固にして如來の行に安住し、自在力を具足し分別す。』

〔一一〕『佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第十の法界等無量回向と爲す。

〔一二〕佛子よ、此の菩薩摩訶薩は、離垢の繒を受けて頂に繫け、大法師の記を受け、能く廣く法施して、大慈悲を成じ、衆生を菩提心に安立し。衆生を饒益して未だ曾て休息せず、菩提心を以て善根を長養し。一切の衆生の爲めに調御師と作りて、諸の衆生に一切智の道を示し。一切の衆生の爲めに法藏の日と作りて、善根の淨光普く一切を照し。等心に普く一切の衆生を觀じて、衆生をして常に善根を行じ未だ曾て休息せざらしめんと欲し。清淨微妙の智慧を增長して、一切の善根道業を捨てず、

【一〇】後の四偈は所成の果を頌す。
【一一】第十、法界等無量回向。
【一二】初に行體を明かす。

一切衆生の爲めに大智慧の採寶導師と作りて、一切安隱の正道を開示し。一切の衆生を以て首と爲して、諸法を修行し。一切の衆生をして壞す可からざる眞の善知識を得て、善根を長養せしむ。菩薩摩訶薩は法施等の一切善根を行じて、薩婆若の心を攝取し。正力を究竟して彼岸に到り。堅固にして壞し難き菩提の心を修行し。常に大願を樂ひて菩提を修習し。善知識に依りて諂曲の心を離れ。專ら菩提を求めて無量の一切智門の境界を分別す。

〔三〕菩薩摩訶薩は、彼の善根に於て、廣大にして限礙無しと回向し、乃至一句一味をも、佛の說きたまふ所の法を、若しくは聞き、若しは持し。若しは說き、此善根を以て是の如く回向すらく、「一心に無量無邊の虛空に等しき世界の中の三世の諸佛を正念して、菩薩の行を行ぜん。此善根を以て回向して一切の佛を常に守護し念せしめ、一世界に於て未來劫を盡して一りの衆生の爲めに、菩薩の行を修し、一世界の如く、乃至虛空法界に等しき一切の世界に、未來劫を盡して一りの衆生の爲めに、菩薩の行を修せん。一切衆生の爲めにも亦復た是の如く、一切衆生の爲めに大莊嚴を以て自ら莊嚴し、佛と善知識とを離るるの想を生ぜざらん」と。◎是の想を得るが故に、常に現在の一切の諸佛を見たてまつり、乃至未だ曾て一佛にも違離せず。◎諸佛菩薩の讚めたまふ所の梵行は皆悉く滿足す。行不缺の梵行、具足不破の梵行、不濁の梵行、無垢の梵行、不退の梵行、不壞の梵行、諸佛の讚めたまふ

【三】以下第二に正しく回向を明かす。中に於て初に廣大回向、十五門あり、初に佛を見て自他の梵行を修することを明かす。

所の梵行、無依の梵行、無所有の梵行、離倒清淨にして三世の諸佛菩薩に順行する梵行、無礙の梵行、無取の梵行、無諍の梵行、無擇の梵行、安住の梵行、無比の梵行、不動の梵行、不亂の梵行、無恚の梵行なり。我梵行を行ずるが如く一切の衆生をして皆悉く此の諸の梵行に安住せしむ。修習の梵行、具足の梵行、清淨の梵行、離垢の梵行、明照の梵行、離塵の梵行、離翳の梵行、離熱の梵行、離纏の梵行、一切の疑を離れたる梵行、一切の惱害を離れたる梵行をもつて彼岸に到ることを得しむ。何を以ての故に。菩薩若し自ら梵行を修せずして、他をして梵行を淨修せしめんは、是の處有ること無し。菩薩自ら梵行を退きて、他をして梵行を具足せしめんは、是の處有ること無し。菩薩自ら梵行を破り、他をして梵行を安立せしめんは、是の處有ること無し。菩薩自ら梵行を離れ、他をして梵行の道を立てしめんは、是の處有ること無し。菩薩自ら梵行を滅して、他をして梵行を修習せしめんは、是の處有ること無し。菩薩梵行を樂はずして、他をして梵行を樂修せしめんは、是の處有ること無し。菩薩梵行に住せずして、他をして梵行に安住せしめんは、是の處有ること無し。菩薩自ら梵行を捨てて、他をして梵行を究竟せしめんは、是の處有ること無し。菩薩梵行を究竟せずして、他をして梵行に安住することを捨てざらしめんは、是の處有ること無し。菩薩梵行を壞散して、他をして梵行を攝取せしめんは、是の處有ること無し。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は說の如く修行して、顚倒を遠離し、又能く廣く顚倒を離れたる法を說き、實語し實行して、清淨の身口意業を修習し、諸の染汚を離れ、無礙處を行じて、一

切の障を滅すればなり。菩薩摩訶薩は自ら正直心にして、他をして正直の心法たらしめ。菩薩は忍辱を修習して、諸の善根を以て其心を調伏し、他をして忍を修し諸の善根を以て其心を調伏せしめ。菩薩は自ら疑悔を離れ、他をして諸の疑悔を離れしめ。菩薩は自ら歡喜の信心を得て、他をして不壞の信を得しめ。菩薩は自ら堅法を行じて、他をして堅法を行せしむ。菩薩摩訶薩は善根を是の如く回向す。

(四)復た次に菩薩摩訶薩は、法施等の諸の善根門を以て是の如く回向すらく、「此の善根を以て、一切の衆生をして悉く諸佛の無盡の法門を得しめ。諸佛の法門を分別し解說して、一切の外道の邪論を摧滅し、辭理窮屈ならしめ。悉く三世一切の諸佛の說きたまふ所の法海を得。一一の生法、一一の方便法、一一の語言法、一一の施設法、一一の教法、一一の說法、一一の法門、一一の入法、一一の決定法、一一の住法に於て、悉く無量無邊の無盡の法藏を得しめ。無畏の法を得て深く四辯に入り、廣く衆生の爲めに微妙の法を說き、未來際を盡して而も窮盡すること無く、正直の心を成じて、諸の顚倒を離れ、無礙の道を生じて言に謬失無く、衆生は法を聞きて悉く皆歡喜し、衆生の一切の言音を解了せしめ。一切の法明を退轉せざることを得て一切の衆生歡喜すること量り無く、悉く皆一切種智に安住し、離癡の明淨の法辯を具足して、諸法を聞持し、悉く能く一切の世界を分別し。法界に等しき無量の心を得て、一念の中に於て悉く能く一切の法界に充滿し、微妙の音聲は無量無邊の法界に徧滿し、眷屬を示現して法界に充滿し。法界に等し

【四】次に回向して諸法を得しむることを明かす。

き菩薩の淨業を修し。法界に等しき無量の菩薩の所住を得。法界に等しき無量の決定法を得。法界に等しき無量の諸法の究竟を學し。法界に等しき無量の菩薩行に住し。法界に等しき無量の菩薩の內法を回向せん」と。菩薩摩訶薩は善根を是の如く回向して、一切の衆生をして薩婆若を具足し、薩婆若に安住せしむ。

(一五)復た次に菩薩摩訶薩は善根を是の如く回向すらく、「法界に等しき無量の一切の佛を見たてまつり、法界に等しき無量の衆生を調伏し、法界に等しき無量の佛刹を嚴淨し、法界に等しき無量の菩薩智を得、法界に等しき無量の無所畏を得、法界に等しき無量の深妙辯を得、法界に等しき無量の一切菩薩の諸の陀羅尼を得、法界に等しき無量の不可思議なる菩薩住を得、法界に等しき無量の功德藏を具足し、法界に等しき無量の實義善根を具足せん」と。菩薩摩訶薩は復た是の念を作さく、「此の善根を以て、一切の衆生をして悉く是の法を得、具足し成滿して我の如く異ること無からしめ。一切の行等しく、功德等しく、智慧等しく、力等しく、無畏等しく、自在等しく、正覺等しく、說法等しく、如實の義等しく、論義等しく、諸通等しからしめん」と。菩薩摩訶薩は善根を是の如く回向す。

(一六)復た次に菩薩摩訶薩は、此の善根を以て是の如く回向すらく、「法界の無量なる如く、智慧を出生するも亦復た是の如し。法界の無量なるが如く、見る所の諸佛も亦復た是の如し。法界の無量なる

【一五】三に二利の行圓かなることを明かす。
【一六】四に行の法界に稱ふことを明かす。

が如く、佛刹に往詣することも亦復た是の如し。法界の無量なるが如く、菩薩の所行も亦復た是の如し。法界の不可斷なるが如く、一切智を得ることも亦復た是の如し。法界の等一なるが如く、一切智を得ることも亦復た是の如し。法界の自然に淸淨なるが如く、一切の衆生をして淸淨ならしむることも亦復た是の如し。法界の隨順して悉く一切に至るが如く、一切の衆生をして普賢菩薩の行を行ぜしむることも亦復た是の如し。法界の一切衆生を莊嚴するが如く、一切衆生をして普賢菩薩の莊嚴を得しむることも亦復た是の如し。法界の不可壞なるが如く、一切の衆生をして不壞の善根を得しむることも亦復た是の如くならん」と。

【一七】五に佛を見、法を解することを明かす。

(一七)復た次に菩薩摩訶薩は此の善根を以て是の如く回向すらく、「一切の諸佛菩薩をして皆悉く歡喜せしめ、諸の善根をして薩婆若に趣かしめ、諸の善根をして一切智に趣き一切道に至らしめ、一切の衆生をして常に諸佛を見たてまつらしめん」と。菩薩摩訶薩は此の善根を以て是の如く回向すらく、「一切の佛を見たてまつりて、能く佛事を作すが故に回向し。一切の佛を見たてまつりて、佛事に於て住著の心を生ぜざるが故に回向し。一切の佛を見たてまつりて、悉く衆生をして普く淸淨なることを得しむるが故に回向し。一切の佛を見たてまつりて、悉く能く了知するが故に回向し。一切の佛を見たてまつりて、悉く所著無きが故に回向し。一切の佛を見たてまつりて、悉く能く無礙の法を分別するが故に回向し。一切の佛を見たてまつりて、

普賢の行を具するが故に回向し。一切の佛を見たてまつりて、未だ曾て時を失はざるが故に回向し。一切の佛を見たてまつりて、菩薩の無量の諸力を出生するが故に回向し。一切の佛を見たてまつりて、其の法を忘れざるが故に回向す」と。◎此の善根を以て是の如く回向して法界の主無きことを解り、法界の自性無きことを解り、法界の如如なることを解り、法界の依無きことを解り、法界の妄無きことを解り、法界の相を離るることを解り、法界の寂靜なることを解り、法界の處所無きことを解り、法界の無去無集なることを解り、法界の無壞なることを解る。

(六)復た次に菩薩摩訶薩は善根を是の如く回向すらく、「此の法施の攝むる所の善根を以て、一切の衆生をして大法師を成じて、一切の佛の無量なる自在に住せしめ。一切の衆生をして無上の法師と作りて衆生を一切智に安立せしめ。一切の衆生をして無壞の法師を成じて、一切の問難も能く窮盡すること無からしめ。一切の衆生をして無礙の法師と作りて、諸法の無礙照明を具足せしむ。一切の衆生をして智藏の法師と作りて、巧方便をもつて一切の佛法を說かしめ。一切の衆生をして如來の自在の法師を成就して、能く善巧に諸の如來智を說かしめ。一切の衆生をして淨眼の法師と作りて、廣く實法を說き他教に由らざらしめ。一切の衆生をして佛法を正持する法師と作りて、說法を具足して一味をも失はざらしめ。一切の衆生をして離相の法師と作りて、諸の妙相を以て自ら莊嚴し、無量の光を放ちて廣く諸法を說かしめ。一切の衆生をして大身の法

【六】六に衆生をして法師とならしむることを明かす。

師と作りて、一身無數の佛刹に充滿し、大法の雲を興して普く法雨を雨らしめ。一切の衆生をして佛法の大海を失はざる法師と作りて、一切の世間能く壞る者無からしめ。一切の衆生をして具足圓滿の日光法師と作りて、佛の慧光を放ち、悉く能く一切の諸法を顯照せしめ。一切の衆生をして隨順問答の法師と作りて、善巧の方便をもつて廣く諸法を說かしめ。一切の衆生をして修行を究竟して彼岸に到る法師と作りて、善巧の方便をもつて無量の法藏を開かしめ。一切の衆生をして正法を建立する法師と作りて、如來の道智を分別し演說せしめ。一切の衆生をして諸法に了達する法師と作りて功德を讚歎して窮盡す可からざらしめ。一切の衆生をして虛誑せざる法師と作りて、深眞妙の諸の方便際に入らしめ。一切の衆生をして善く魔事を覺る法師と作りて、悉く能く一切の諸魔を壞散せしめ。一切の衆生をして諸佛攝護の法師と作りて、未だ曾て暫くも我我所の心を起さざらしめ。一切の衆生をして安隱正法の法師と作りて、悉く菩薩の一切の願力を得しめん」と。

(一九)菩薩摩訶薩は是の善根を以て是の如く回向すらく、業を選擇せざるが故に回向し。報を選擇せざるが故に回向し。願を選擇せざるが故に回向し、法を選擇せざるが故に回向し。事を選擇せざるが故に回向し。因を選擇せざるが故に回向し。成法を選擇せざるが故に回向し。名身味身句身を選擇せざるが故に回向し。回向を選擇せざるが故に回向し。義を選擇せざるが故に回向す。

【一九】 七に選擇なき行を明かす。

【三〇】八に無著の大行を成ずることを明かす。

〔三〇〕菩薩摩訶薩は此の善根を以て是の如く回向すらく、色に著せざるが故に回向し。聲香味觸法に著せざるが故に回向し。生天を求めざるが故に回向し。欲樂を求めざるが故に回向し。欲の境界に著せざるが故に回向し。眷屬を求めざるが故に回向し。自在を求めざるが故に回向し。生死の樂を求めざるが故に回向し。生死に著せざるが故に回向し。此に死し彼に生ずることに著せざるが故に回向し。三有の樂を求めざるが故に回向し。欲の相應を求めざるが故に回向し。樂處を求めざるが故に回向し。心を毒せざるが故に回向し。善根を壞せざるが故に回向し。三界に依らざるが故に回向し。諸禪の解脱三昧正受に味著せざるが故に回向し。聲聞緣覺の乘に住することを求めざるが故に回向し。但一切の衆生を調伏し、薩婆若を滿足して無礙智を究竟せんと欲するが故に回向し。一切の善根をして清淨無礙ならしめんと欲するが故に回向し。一切の衆生をして生死を超出して、大乘智を得しめんと欲するが故に回向し。金剛の菩提心を滿足せんと欲するが故に回向し。究竟じて不死の法を成就せんと欲するが故に回向し。無量に莊嚴せる諸佛の種性、一切智の自在を示現せんと欲するが故に回向し。菩薩の一切法明の神力自在を具足せんと欲するが故に回向し。法界虛空界に等しき一切の佛剎に於て、普賢の行を行じて退轉せず、癡を離れたる金剛の大莊嚴を以て自ら莊嚴し、普賢菩薩の地に安住せんと欲するが故に回向し、未來劫を盡して菩薩の行を行じ、衆生を度脱して一切諸佛の莊嚴せる行地に示現し、安住不斷ならんと欲するが故に回向す。

〔二〕菩薩摩訶薩は是の如く平等の心をもつて回向し。平等法の心をもつて回向し。一切衆生の無量の心をもつて回向し。無諍の心をもつて回向し。無所有の心をもつて回向し。不亂の心をもつて回向し。等しく三世に入るの心をもつて回向し。三世に於ける諸佛の種性の心をもつて回向し。不死の神通を得る心をもつて回向し。如來の涅槃を得る心をもつて回向す。一切の衆生をして、地獄、餓鬼、畜生、閻羅王の處を離れしめんが故に回向し。一切の衆生をして障道の法を除滅せしめんが故に回向し。一切の衆生をして悉く善根を具へ、歡喜せしめんが故に回向し。法輪を轉ずるの時を失はざらんと欲するが故に回向し。一切の衆生をして十力の輪を成じて、彼岸に到らしめんと欲するが故に回向し。無量無邊の菩薩の清淨なる法願を滿足せしめんと欲するが故に回向し。善知識の器を成就して一切の善知識の敎に隨順し、菩提心の寶を具へしめんと欲するが故に回向し。一切をして佛の深法に住し、正直にして一切の佛法を修習し、無上の智慧光明を具足せしめんと欲するが故に回向し。一切の菩薩をして無礙の慧明常に現在前せしめんと欲するが故に回向し。一切をして常に諸佛の現在前したまふを見たてまつらしめんと欲するが故に回向し。一切をして明淨の法門を得しめんと欲するが故に回向し。一切をして諸の恐怖を離れ、無所畏の菩提心門を具へしめんと欲するが故に回向し。一切をして菩薩の不可思議なる諸住の智門を得しめんと欲するが故に回向し。一切をして大悲をもつて救護し、悉く清淨なることを得しめんと欲するが故に回向

〔三〕九に正しく大行を悕望することを明かす。

し。一切無餘の佛刹をして皆悉く莊嚴せしめんと欲するが故に回向し。一切をして一切の魔業の鉤餌、及び魔の巧術を除滅せしめんと欲するが故に回向し。一切をして菩薩の行を修し、一切の佛刹に著せざらしめんと欲するが故に回向し。一切をして一切の佛法に度り、一切智の廣大の心を得しめんと欲するが故に回向す。菩薩摩訶薩は此の善根を以て、正念清淨ならしめんと欲するが故に回向し。決定せんと欲するが故に回向し。一切の佛法を攝取して分別了知せんと欲するが故に回向し。無量無邊の無礙智を得んと欲するが故に回向し。清淨の正直心を得んと欲するが故に回向し。一切の衆生をして大慈心を修習せしめんと欲するが故に回向し。大悲心を修習せんが故に回向し。喜心を修習せんが故に回向し。捨心を修習せんが故に回向し。二種の無礙解脱を得て、善根に安住せんが故に回向し。一切の緣起の法を分別せんと欲するが故に回向し。緣起の法を分別して法化より生ずる心を得んと欲するが故に回向し。勇猛なる幢心を得んと欲するが故に回向し。不壞の幢藏を得んと欲するが故に回向し。一切の魔を壞らんと欲するが故に回向し。一切の清淨無礙法の心を得んと欲するが故に回向し。一切の菩薩の行を行じて、不退轉の心を得んと欲するが故に回向し。勝妙心を樂求することを得んと欲するが故に回向し。一切の功德法自在智を得て、一切智を樂求せんと欲するが故に回向し。一切の願を滿じて一切の惡を滅し、離垢の記を受けて佛の自在を得、一切の衆生の爲めに不退の法輪を轉せんと欲するが故に回向し。如來の諸の妙勝法、無量智慧の日光、莊嚴大智の光明をして普く一切衆生

の法界を照さしめんと欲するが故に回向し。一切の衆生を調伏して皆悉く歡喜して大願を成就し、未來劫を盡して菩薩の行を行じ、諸の煩惱を滅して離垢清淨となり、愛網を壞裂し、愚癡の闇を除き、垢を離れたる無礙の法を具足して、菩薩の不退轉の行を修行し、一切種智を得んと欲するが故に回向し、一切の衆生をして無礙にして無上なる妙智慧の身を得て、無量の諸佛の身を示現せしめんと欲するが故に回向す。◎菩薩摩訶薩は善根を是の如く回向して、五欲に著せず三界に依らず。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は無染汚の善根を以て回向し。瞋恚を遠離したる善根をもつて回向し。愚癡を捨離したる善根をもつて回向し。沮壞す可からざる善根をもつて回向し。憍慢を遠離したる善根をもつて回向し。諂曲を除滅せる善根をもつて回向し。正直心の善根を以て回向し。精勤修習の善根をもつて回向す。◎菩薩摩訶薩は是の如く回向する時、大歡喜を得、菩薩の行に於て正希望を得、摩訶薩の道に趣き、佛の種性を具へ、佛の智慧を得て、一切の惡を離れ、衆魔を降伏し、悉く能く一切の衆生を調伏し、善知識をして皆悉く歡喜せしめ、已に修せし所の願は皆悉く成滿し、一切の衆生を請して大施會を設く。

卷の第二十三

金剛幢菩薩回向品第二十一の九

㈡復た次に菩薩摩訶薩は、此の法施の善根を以て是の如く回向すらく、「一切の衆生をして皆悉く清淨の法音を具足して、柔軟の音を得、和悅の音を得、不可思議の音を得、愛樂す可き音を得、一切の佛刹に充滿する音を得、不可思議なる功德にて莊嚴せる音を得、高大散亂を滅する音を得、法界に充滿する淨妙の音を得、一切の衆生を攝する音を得しめ。一切の衆生をして無量智の音を得しめ。一切の衆生をして清淨の妙音を得しめ。一切の衆生をして悉く音聲妙にして自在の音を得しめ。一切の衆生をして一切莊嚴の音を得しめ。一切の衆生をして悉く妙音を得て、衆生樂聞して厭足有ること無からしめ。一切の衆生をして解脫の音を得て、悉く彼岸に到らしめ。一切の衆生をして歡喜の音を得しめ。一切の衆生をして佛の清淨なる語言の音を得しめ。一切の衆生をして、佛の音聲を得、妙辭辯を具へて、愚癡を遠離せしめ。一切の衆生をして諸法を莊嚴する妙陀羅尼を得しめ。一一の法に於て無量の行を說き、眷屬無數にして法界に充滿し、悉く能く不可思議なる金剛の正法を聞持して、廣く分別して說き、能く無量の句身味身を以て、具

【二】十に法音の語業を得しむることを明かす。

足して無量の法藏と、種種の法相とを演說し、無著の處に住して諸の法明を得しめ。一切の衆生をして薩婆若を究竟し、一切法を攝するに句身味身を以てし、諸法の義に於て自在の音を得、無礙の音に於て自在を具足し、彼岸に到ることを得、一切の衆生をして無憂の音聲を得、無畏の音聲を得、無染汚の音聲を得、功德の音聲を得、眷屬を歡喜せしめる音聲を得、如法の音聲を得、諸佛の法語言の音聲を得、疾かに一切衆生の疑網を除滅する音聲を得、辯才を具足せる不斷の音聲を得、勝れて衆生を覺悟する音聲を得しめん」と。

㈡復た次に菩薩摩訶薩は、此の善根を以て是の如く回向すらく、「一切の衆生をして淨法身を得しめ。一切の衆生をして淨妙の功德を得しめ。一切の衆生をして諸の相好を具へしめ。一切の衆生をして淨き業報を得しめ。一切の衆生をして清淨なる薩婆若の心を得しめ。一切の衆生をして無量清淨なる菩提の心を得しめ。一切の衆生をして淨方便を得て悉く能く衆生の諸根を分別せしめ。一切の衆生をして清淨の性を得しめ。一切の衆生をして清淨なる無礙の行を得て、諸願を滿足せしめ。一切の衆生をして清淨なる正念智慧不斷の辯才を得しめん」と。㈢菩薩摩訶薩は此の善根を以て是の如く回向すらく、「一切の衆生をして是の如き等の清淨の妙身を得しめん」と。所謂、明淨の身、離濁の身、究竟淨の身、清淨の身、離塵の身、種種の塵を離れたる身、離垢の身、光明の身、愛樂す可き身、無礙の身なり。是の如きの身を以て、普く

【二】十一に法身を得しむることを明かす。

十方一切の世界に應じて一切の業を示し、衆生に示現して、普く一切を照し、一切に示現するも猶ほ鏡像、淨水の月の如く、一切の衆生をして悉く是の如きの淨妙の身を得しむ。衆生に菩薩の諸行を示現し、衆生に諸の深妙の法を示現し、衆生に無量の功德を示現し、衆生に眞實の正道を示現し、衆生に具足の諸法を示現し、衆生に一切の大願を示現し、一刹に住して一切の世界に如來の出世したまふことを示現し。一切諸佛の神足自在なることを示現し、菩薩の不思議の解脫を示現し受持して、普賢の諸行一切の願智を示現す。菩薩摩訶薩は善根を是の如く回向して、一切の功德智身を成就せしむ。

(三)復た次に菩薩摩訶薩は此の法施の攝むる所の善根を以て、是の如く回向すらく、「一身一切の世界に徧じて菩薩の行を行ぜしめ。衆生の見る者皆悉く空しからずして、不退轉の菩提の心を得、一切の衆生をして眞實に隨順して不壞の心を得、一切の世界に於て未來劫を盡して菩薩の行を行じて而も厭足無からしめ。法界に等しき大慈悲心を具へ衆生を教化して未だ曾て時を失はず、諸根を分別し、善知識を念じ、一念の中に於て悉く現在一切の諸佛を見たてまつり、如來を正念して未だ曾て暫くも捨てず、諸の善根を修して虛欺有ること無く、衆生を一切智に安立して、悉く不退の清淨の法輪を得、悉く一切諸佛の法明を得、一切諸佛の法雨を受持して菩薩の行を行じ、一切の衆生に入り、一切の刹に入り、一切の法に入り、一切の世間に入り、一切の三世に入り、一切衆生の諸の業報智に入り、一切の菩薩の巧方便智に入り、一切の菩薩の出

【三】十二に無邊の大行を成ずることを明かす。

生智に入り、一切の菩薩の淨境界智に入り、一切の佛の住持境界に入り、一切の無量無邊の法界に入り、菩薩の行を修して諸住に安住せしめん」と。是は爲菩薩摩訶薩の法施の善根回向なり。

㊃復た次に菩薩摩訶薩は善根の業を修して是の如く回向すらく、「一切の佛刹をして皆悉く清淨ならしめ、無量の莊嚴具を以て之を莊嚴し、一佛刹をして廣大なること法界の如くならしめ、一佛刹の如く一切の佛刹も亦復た是の如くして、最正覺を得。一佛刹に於て悉く皆一切の佛刹を顯現せん。一佛刹の如く一切の佛刹も亦復た是の如くならん」と。◎彼の一一の刹は、法界に等しき諸の莊嚴具を以て之を莊嚴し。無量阿僧祇の衆寶をもつて莊嚴し。無量阿僧祇の清淨なる衆寶の高座は、諸の妙寶衣を以て其の上に敷き。無量阿僧祇の衆妙の寶帳、一切の寶鈴、諸寶の垂帶を以て莊嚴と爲し。無量の寶蓋を以て其の上に懸け、無量の寶雲は一切の寶を雨らし、衆の寶華を散じて見る者厭くこと無く、無量の妙寶を以て欄楯と爲し、妙寶の樓閣をもつて之を莊嚴し。無量の寶鈴は自然に諸佛の妙法を演暢し、無量の寶華は周徧して充滿し、衆の妙寶色を以て莊嚴と爲し、無量の寶樹其の刹に充滿して、無量の妙寶華果を出生し、無量の妙寶を以て宮殿と爲し、妙寶の樓觀諸刹に徧遊し、無量の妙寶を以て欄楯と爲し、大寶をもつて莊嚴し、無量の妙寶を徧樓閣と爲し。一切の淨寶をもつて之を莊嚴し、無量の寶門は、種種の寶鬘をもつて之を嚴飾し、無量の珍寶、半月の形像は、悉く衆寶を以て之を莊嚴し。無量無數にして思議す可からざる珍寶の莊

【四】十三に佛刹を莊嚴せしむることを明かす。

嚴は、諸佛の淨業善根の起す所にして、無量の寶藏をもつて莊嚴す。又衆寶を以て之を莊嚴し、無量清淨の寶河を流出し、常に正法を流して未だ曾て斷絕せず、無量の法海は其の刹に周徧し、正法の淨水湛然として充滿し。無量阿僧祇の寶分陀利華は皆悉く充滿して自然に正法華の音を演出し。無量阿僧祇の須彌寶山をもつて莊嚴し、智慧の須彌皆悉く具足し。無量阿僧祇の八楞の妙寶をもつて莊嚴し、諸の寶瓔珞を以て垂帶と爲し。無量阿僧祇の明淨寶をもつて莊嚴し、大慧の光を放ちて普く法界を照し。無量阿僧祇の寶鈴をもつて莊嚴し、自然に微妙の音聲を演出し。無量阿僧祇の衆寶の階道を以て莊嚴と爲し、菩薩の妙寶は皆悉く充滿し。無量阿僧祇の寶繒をもつて莊嚴し、不可思議の寶色清淨にして、無量阿僧祇の寶幢を建立して莊嚴し、半月の寶像をもつて之を莊嚴し。無量阿僧祇の寶旛をもつて莊嚴し、悉く能く普く無量の寶旛を雨らし。無量阿僧祇の寶繒をもつて莊嚴し、世界に充滿して虛空を莊嚴し。無量阿僧祇の細輭の寶衣を敷きて以て莊嚴と爲し。無量阿僧祇の衆寶旋流して以て莊嚴と爲し、菩薩の清淨なる一切智眼を示現し。無量阿僧祇の寶鬘をもつて莊嚴し、一一の寶鬘は百千の菩薩を以て嚴飾と爲し。無量阿僧祇の衆寶の宮殿をもつて莊嚴し、悉く能く諸處の所愛を除滅し。無量阿僧祇の衆寶をもつて莊嚴し、金剛摩尼を以て嚴飾と爲し。無量阿僧祇の雜寶をもつて莊嚴し、無量の清淨なる妙色を示現し。無量阿僧祇の金剛圍山をもつて莊嚴し、清淨明徹にして障礙する所無く。無量阿僧祇の妙香をもつて莊嚴し、其の香は普く一切の世界に熏じ。無量阿僧

祇の諸の變化身を出生して、一一の化身は法界と等しく、各無量阿僧祇の妙寶光明を放ち、一一の光明は一切の光を出し。無量阿僧祇の明淨の寶光を以て照曜と爲し、能く衆生の淨き智慧の光を發し。無量阿僧祇の無礙の寶光を放ちて、一一の光明は普く法界を照し。無量阿僧祇の衆寶をもつて莊嚴し、一一の寶の中に一切の寶を具へ。無量阿僧祇の寶藏をもつて莊嚴し、自然に諸法の法藏を演說し。無量阿僧祇の寶幢をもつて莊嚴し、如來の妙智慧の幢を建立し。無量阿僧祇の賢寶をもつて莊嚴し、淸淨なる大乘の賢寶を具足し。無量阿僧祇の寶園をもつて莊嚴し、菩薩の三昧、淸凉の悅樂あり。無量阿僧祇の諸の妙寶の音は、自然に演出して、一一の音の中に如來の音を出し、十方に充滿して聞かざる者無く。無量阿僧祇の寶像をもつて莊嚴し、一一の像身は普く無量の法寶の光明を放ち。無量阿僧祇の衆相をもつて莊嚴し、一切の衆相は無相にして莊嚴し。無量阿僧祇の寶威儀をもつて莊嚴し、見る者菩薩の威儀を樂ひ求め。無量阿僧祇の長養衆寶をもつて莊嚴し、一切の妙寶の庫藏を出生し。無量阿僧祇の衆寶をもつて安住莊嚴し、一切の衆寶をもつて之を嚴飾す。無量阿僧祇の寶衣をもつて莊嚴し。皆悉く普く覆ひて菩薩の無量三昧を具足し。無量阿僧祇の妙衣をもつて莊嚴し、其の發心する者は、卽ち菩薩の善現等の諸の陀羅尼を得。無量阿僧祇の修寶をもつて莊嚴し、悉く能く業寶報應を分別して決定淸淨なり。無量阿僧祇の無礙知見の妙寶をもつて莊嚴す。若し見る者有らば悉く諸法の淸淨なる法眼を得ん。無量阿僧祇の寶天冠をもつて莊嚴し、智慧の天冠を具足し成就

す。無量阿僧祇の寶座をもつて莊嚴し、佛の淸淨なる寶師子の座を成ず。無量阿僧祇の明淨の寶燈を然し、明淨なる妙智慧の燈を具足し。無量阿僧祇の寶多羅樹をもつて莊嚴し、一一の多羅樹は寶瓔珞を以て之を嚴飾し。無量阿僧祇の衆寶の涼臺を以て莊嚴と爲し、無量阿僧祇の寶樹をもつて莊嚴し、不思議の鳥、其の上に棲集して妙音聲を出し。無量阿僧祇の妙寶の化華をもつて莊嚴し、一一の華上に無量の菩薩結跏趺坐して徧く法界に遊ぶ。無量阿僧祇の果實をもつて莊嚴し、薩婆若の大智慧の果を具へ。無量阿僧祇の衆寶の聚落をもつて莊嚴し、皆悉く淸淨の正法を修習し。無量阿僧祇の寶宅をもつて莊嚴し、衆寶の街巷に人民充滿し。無量阿僧祇の大王の寶都をもつて莊嚴し、彼の諸の大王は勇猛精進にして、大法の鎧を被り、無上道に於て堅固にして不退なり。無量阿僧祇の寶舍をもつて莊嚴し、一切の房室の貪愛を除滅し。無量阿僧祇の寶衣をもつて莊嚴し、隨意に受用して貪著する所無く。無量阿僧祇の寶家をもつて莊嚴し、家を捨てて出家せる菩薩は其の中に充滿し。無量阿僧祇の無厭足の寶をもつて莊嚴し、見る者能く無量の歡喜を生じ、無量阿僧祇の寶輪をもつて莊嚴し、不思議の智慧の光明を放ちて不退の輪を轉ず。無量阿僧祇の妙寶の行樹をもつて莊嚴し、淸淨の因那尼羅寶を以て之を莊校し。無量阿僧祇の寶地をもつて莊嚴し、不思議の寶を分別し示現す。無量阿僧祇の樂器をもつて莊嚴し、自然の音を出して法界に充滿し。無量阿僧祇の樂器をもつて莊嚴し、未來際を盡して常に法音を出し未だ曾て斷絕せず。無量阿僧祇の寶身をもつて莊嚴し、其の刹に充滿して悉

く能く一切の法寶を受持す。無量阿僧祇の清淨の寶口をもつて莊嚴し、一切の功德の藏寶を具足し。無量阿僧祇の淨寶の言音を出し、常に無量淨妙の法寶を說き。無量阿僧祇の清淨の寶心をもつて莊嚴し、正直寶を得て一切の智願皆悉く充滿し。無量阿僧祇の清淨の寶念をもつて莊嚴し、愚癡を除滅して一切智の無上の寶王を得。無量阿僧祇の清淨の寶趣をもつて莊嚴し、悉く能く一切諸佛の正法の寶を攝受し。無量阿僧祇の菩薩の寶慧をもつて莊嚴し、決定して善く一切の佛法を知り。無量阿僧祇の不放逸の寶智慧をもつて莊嚴し、一切の智寶皆悉く充滿し。無量阿僧祇の清淨の寶眼をもつて莊嚴し、一切の十力寶に於て障礙する所無く。無量阿僧祇の清淨の寶耳をもつて莊嚴し、善能く一切の法界の微妙の音聲を聽聞して障礙無く。無量阿僧祇の清淨の寶鼻をもつて莊嚴し、淨寶の香を聞ぎて厭き足ること無く。無量阿僧祇の清淨の寶廣長舌をもつて莊嚴し、善く一切の諸の語言法を說き。無量阿僧祇の清淨の寶身をもつて莊嚴し、十方に遊行して罣礙無く。無量阿僧祇の清淨の寶意をもつて莊嚴し、悉く能く普賢菩薩の一切の大願を修習し。無量阿僧祇の清淨の寶音をもつて莊嚴し、微妙の音聲は皆悉く一切の世界に充滿し。無量阿僧祇の寶身業をもつて莊嚴し、一切智慧の寶業を具足し。無量阿僧祇の寶口業をもつて莊嚴し、廣く無量の智慧妙寶を說き。無量阿僧祇の清淨の寶意業をもつて莊嚴し、一切の無礙の寶智を究竟せん。菩薩摩訶薩は復た次に是の如く念へらく、「彼の一切諸の如來の刹に於て、一佛刹の一方の一毛道の中に於て、無量無數の不可思議なる清淨の智慧を成就し、

諸の大菩薩皆悉く充滿せん。一佛刹の一方の一毛道の如く、盡虛空法界に等しき一切の佛刹の一切の方の一切の毛道も、亦復た是の如くならん」と。◎是は爲菩薩摩訶薩の妙寶を回向して一切の佛刹を莊嚴するなり。◎寶をもつて一切の佛刹を莊嚴するが如く、廣く說かば香莊嚴、乃至究竟の無量淸淨なる妙香の意業、無礙寶の智も亦復た是の如し。廣く說かば華の莊嚴、乃至究竟の淸淨華の意業、無礙寶の智も亦復た是の如し。廣く說かば鬘、塗香、抹香、衣蓋、幢旛、乃至百事の莊嚴も亦復た是の如し。

(五) 是の如く菩薩摩訶薩は、是の法施等の攝むる所の善根を以て回向すらく、善根を長養せんが故に回向し。佛刹を嚴淨せんが故に回向し。一切衆生をして淸淨平等ならしめんが故に回向し。一切の衆生をして瞋恚を除滅せしめんが故に回向し。一切の衆生をして平等なる甚深の佛法を具足せしめんが故に回向し。一切の衆生をして平等不可壞の淸淨の功德を具足せしめんが故に回向し。一切の衆生をして力壞す可からざらしめんが故に回向し。一切の衆生をして悉く平等なる無盡の智慧を得て、諸佛の法に度らしめ。一切の衆生をして悉く平等なる淸淨の梵音を得しめ。一切の衆生をして悉く平等なる無礙の淨眼を得て、虛空法界に等しき無礙智を究竟せしめ。一切の衆生をして悉く淸淨なる平等の正念を得て過去の劫を盡さしめ。一切の衆生をして悉く平等なる無礙智を得て、決定して一切の諸法を了知せしめ。一切の衆生をして悉く平等の菩提を得、法界に充滿して障礙する所無からしめ。一切の衆生をして悉く平等なる諸の妙善根を得しめ

【五】十四に回向の大意を結することを明かす。

一切の衆生をして悉く平等なる身口意の業を得て、功徳を具足し、莊嚴清淨ならしめ。一切の衆生をして悉く平等なる普賢菩薩の一切の所行を得しめ。一切の衆生をして悉く平等なる清淨の佛刹を得しめ。一切の衆生をして悉く平等の具足を得て、深く一切智の行に入らしめ。一切の衆生をして一切の惡を離れ、悉く平等の善根囘向を得しめ。一切の衆生をして悉く平等なる一切の智見を得て、皆能く他人の心念を分別せしめ。一切の衆生をして悉く平等を得て、白法に安住せしめ。一切の衆生をして悉く平等を得て、一念の中に於て一切智を具へ、究竟じて無上菩提を滿足せしめ。一切の衆生をして一切の平等の道行を成就して、清淨に具足せしむ◎菩薩摩訶薩は此の善根を以て、普く一切の爲に平等に囘向して、一切の衆生をして悉く清淨なる諸法を分別する力を得て、廣く衆生の爲めに解説し囘向せしむ。

【六】十五に法を證り説を起さしむることを明かす。

(六) 菩薩摩訶薩は復た是の念を作さく、「此の善根を以て、一切の衆生をして菩薩の淨行を修して、無量の法海を得しめ。一一の法海に於て無量の法界に等しき清淨の智慧普く法界を照さしめ。一切の衆生をして一切の句義を分別し解説せしめ。一切の衆生をして悉く一切の法明三昧を得て、普く諸法を照さしめ。一切の衆生をして皆悉く具足して三世の諸佛の辯才に隨順せしめ。一切の衆生をして三世の佛の自在の身を得しめ。一切の衆生をして無礙の善根を得て、佛法の愛を起し、大悲を退かずして衆生を救護せしめ。一切の衆生をして無礙の智、不思議の法を得て、

能く淨く一切の衆會を歡喜せしめ。一切の衆生をして一切の佛刹に於て、翻覆の佛刹、俯伏の佛刹、微細の佛刹、廣大の佛刹、淸淨の佛刹、穢濁の佛刹、是の如き等の諸の佛刹の中に於て悉く淸淨なる不退の法輪を轉せしめ。一切の衆生をして念念の中に於て、悉く無盡の無所畏の辯を得て、廣く佛法を說きて窮盡す可からざらしめ。一切の衆生をして常に樂ひて一向に專ら勝法を求め、一切の法に於て智慧自在なることを得しめ。一切の衆生をして皆悉く歡喜し廣く一切の法を說かしめん」と。

(七)復た次に菩薩摩訶薩は法界に安住する無量の善根を法界に回向し、無量の身業を法界に回向し、無量の口業を法界に回向し、無量の意業を法界に回向し、無量の妙色を法界に回向し、無量の妙受想行識を法界に回向し、無量の平等陰を法界に回向し、無量の平等界を法界に回向し、無量の平等入を法界に回向し、無量の(八)內平等を法界に回向し、無量の外平等を法界に回向し、無量の勇猛精進平等を法界に回向し、無量の正直心平等を法界に回向し、無量の方便平等を法界に回向し、無量の性平等を法界に回向し、無量の諸根平等を法界に回向し、無量の三世平等を法界に回向し、無量の業報平等を法界に回向し、無量の諸の煩惱を離れたる淸淨の平等を法界に回向し、無量の一切衆生の平等を法界に回向し、無量の一切佛刹の平等を法界に回向し、無量の一切諸法の平等を法界に回向し、無量の一切世間の平等を法界に回向し、無量の一切諸佛菩薩の平等を法界に回向し、無量の一切菩薩

【七】次に甚深の實際回向を明かす。

【八】內とは正報。外とは依報なり。

の行願の平等を法界に回向し、無量の一切菩薩の平等の道を法界に回向し、無量の一切菩薩の成就する一切の善根を法界に回向し、無量の一切諸法の平等無二なるを法界に回向し、無量の一切如來の眷屬圓滿平等を法界に回向す。

(九)菩薩摩訶薩は是の如く回向する時、法界に等しき無量清淨の身業に安住し、法界に等しき無量清淨の口業に安住し、法界に等しき無量清淨の意業に安住し、法界に等しき無量清淨の行願に安住し、法界に等しき無量清淨の眷屬に安住し、法界に等しき無量の一切菩薩の清淨智慧廣說諸法に安住し、法界に等しき無量清淨身の一切の世界に充滿せる法界に安住し。一切の法明、清淨の無畏を得。一言音を以て、悉く一切衆生の疑惑を除きて、皆歡喜せしめ。諸根を調伏して無上の智、諸力の無畏、一切自在の力、佛の無量の功德、上妙の法中に安住す。佛子、是を菩薩摩訶薩の第十の法界等無量回向と爲す。

【九】第三、所成の益を明かす。
【一〇】後に位果を明かす。

(一〇)菩薩摩訶薩は、此の法施等の一切の善根を以て悉く回向し已りて、普賢菩薩の無量無邊の一切の行願を成就し。悉く能く無量無邊の虛空法界に等しき、一切の佛刹を嚴淨し。一切の衆生をして亦復た是の如くならしめ。無量無邊の智慧を具足し成就して、深く一切の法に入り、念念の中に於て無量無數の一切の世界の諸佛の出世を示現し、悉く無量無邊の諸佛の自在を得、悉く無量無邊の如來の自在を得、悉く無量無邊の廣大の自在を得、悉く無量無邊の無礙の自在を得、悉く無量無邊の無障の

自在を得、悉く無量無邊の不可思議の自在を得、悉く無量無邊の一切の衆生をして清淨ならしむる自在を得、悉く無量無邊の一切の世界を住持する自在を得。悉く無量無邊の一切の言說す可からざる自在を得、悉く無量無邊の一切時の自在を得、悉く無量無邊の一切の諸通無礙智の自在を得、悉く無量無邊の廣く諸法を說きて法界に充滿する自在を得〔一〕。悉く無量無邊の滿足せる普賢菩薩の淨眼を得。悉く菩薩の無量無邊の淨耳を得て、諸佛の說きたまふ所の正法を聞持し、能く一身を以て結跏趺坐して、十方一切の世界に充滿して而も迫迮せず。一切の衆生は悉く無量無邊の具足して深く三世に入る智慧を得。悉く無量無邊の清淨の菩提、清淨の衆生、清淨の佛刹、清淨の諸法、清淨の諸入を得。悉く無量無邊の虛空法界に等しき清淨の智慧を得。悉く無量無邊の衆生の語言音聲、清淨の智慧を得。大光明を放ちて、普く十方一切の世界を照し。三世の諸の菩薩行、清淨の智慧を出生し。一念の中に於て皆悉く三世の如來の清淨の智慧を究竟し、一切の衆生をして皆悉く清淨ならしめ。平等の正觀を具足し成就して、決定の智慧をもつて究竟じて彼岸に到る。」

〔二〕爾の時に佛の神力の故に、十方各百萬の佛刹、微塵に等しき世界は六種に震動せり。佛の神力の故に、法是の如くなるが故に、天の華雲を雨らし、天の鬘、天の粖香、天の寶衣、天の莊嚴、天香、天の摩尼寶、天の沈水香、天の〔三〕阿伽樓香、天の婆羅乾駄香、天の堅固香、天の栴檀香、天の雜色

【二】 以下、本會の說法の益を明かす。

【三】 阿伽樓(aguru) 沈香と譯す。

旛蓋、無量阿僧祇の天身、不可思議なる微妙の法音、不可思議なる諸天の妙音、如來を讃歎したてまつり、無量阿僧祇の諸天の讃歎善哉の雲雨を雨らし。無量阿僧祇の那由他の諸天は恭敬し禮拜し、無量阿僧祇の那由他の諸天は歡喜して佛を念じ、不可思議なる諸佛の功德を修習し、無量阿僧祇の諸天は娯樂の音を出して如來を供養したてまつり、無量阿僧祇の廣大の光明を放ちて、諸天に出過し、普く虚空法界に等しき一切の佛刹を照し、無量阿僧祇の如來の化身を示現し、自在の威力は諸天に出過せり。此の世界の、一切の四天下の兜率陀天、刪兜率陀天の王宮にて、是の如きの法を説きしが如く、一切十方の世界の刪兜率陀天の王宮にも、亦復た是の如し。

（三）爾の時に佛の神力の故に、十方各百萬の佛刹微塵に等しき世界を過ぎて、各百萬の佛刹微塵に等しき菩薩有り、悉く來りて雲の如く集まり、咸是の言を作さく、『善い哉、善い哉。佛子よ。乃ち能く此の諸の大回向を説けり。我等は悉く同一の號にして金剛幢と名け、金剛光世界の金剛幢佛の所より、此の土に來詣せり。彼の諸の世界にも、佛の神力の故に亦此の法を説き、大會、眷屬、説法、句味皆悉く同等なり。我等は佛の神力を承けて、彼の土より來りて汝が爲めに證を作す。我此の世界に來り汝が爲めに證を作すが如く、一切十方の一切の四天下の刪兜率陀天の王宮の、摩尼寶の殿上にも、是の如きの法を説き、往きて爲めに證を作すことも亦復た是の如し』と。

【三】以下、本會の證成を明かす。

【二四】爾の時に金剛幢菩薩、佛の神力を承けて、十方及び諸の眷屬、一切の法界、諸の義句味を觀察して、無量廣大の心を修習し、無上の大悲をもつて普く一切を覆ひ、其の心三世一切の諸佛の種性に安住して、悉く究竟じて諸佛の功德に到り、諸佛の自在の寶身を成就して、悉く能く一切衆生の悕望の心行を分別し、彼の種ゑし所の善根に隨ひて、悉く皆時を知り、法身に隨順して色身を示現す。是の如く觀じ已りて、偈を以て頌して曰はく、

【二五】『菩薩は此の無量の法寶を。自然に正覺して。大法師の記を受く。
調御師となりて、普く諸法を照し。善く悟りて。最正覺の道を疑ふこと無し。
菩薩は法の爲めに、調御の大師となり、能く廣く、難得の深法を演說し、
十方一切の、無量の大衆を、皆悉く、諸の正法門に安立す。
菩薩は悉く、無量の法海を飲み、大法の雲を興して、普く法雨を雨らす。
曜明なる法日は、普く世間を照し、微妙の法を說きて、衆生を饒益す。
此の法施の主は、甚だ値ひ遇ふこと難く、諸法の方便を、具足し成就す。
智慧の明を以て、普く其の心を照し、世の無畏と爲りて、廣く深法を說く。
善能く、變化の心を修習して、廣く能く、諸の正法門を開發す。

【二四】重頌。九十四偈あり。
【二五】初の十四偈は行體を頌す。

諸門の、最勝の法海を成就して、普く世間の爲めに、甘露の鼓を撃つ。
能く具足して、得難きの妙法を說き。法を以て、一切の功德を長養す。
淸淨の正法と、眞直の法とは、衆生に、甚深の法藏を示現す。
最勝は、彼に灌頂の法王を授け、智慧藏の身を、具足し成就す。
無相の妙智をもつて、法の眞相を觀じ、菩薩は善法に、而も安住することを得。◎

(一六) 菩薩の法施は、最も爲殊勝にして、一切の諸佛は、咸共に讚歎したまふ。
一切の、天中の天に隨順し、彼能く、一切の諸佛を出生す。
菩薩の淸淨なる、微妙の法身は、悉く諸佛の、眞の法化より生ず。
明淨の法燈は、衆生を饒益し、無量の法を說きて、憂惱を除滅す。
菩薩の布施は、淸淨の妙法にして、隨順して、一切の善根を思惟す。
無量の世界に、作す所の功德は、淸淨の智慧をもつて、皆悉く囘向す。
一切の諸佛の、得たまふ所の功德は、悉く衆生をして、具足し成就せしむ。
一切の、淸淨の功德を分別し、諸佛の、莊嚴せる彼岸を究竟す。

(一七) 十方一切の、無量無數の、諸の如來等は、佛刹を嚴淨したまふ。
是の如きの一切、無餘の佛土の、衆生の莊嚴は、思議す可からず。

【一六】次の六十八頌は廣大囘向、中に於て初の八偈は菩薩の自行殊勝を頌す。
【一七】次の八偈は嚴土攝生の行を頌す。

一切の如來の、所有る智慧は、悉く衆生をして、淸淨に具足せしむ。
猶ほ普賢、菩薩の莊嚴の如く、悉く衆生をして、亦復た是の如くならしむ。
無量の自在を、具足し成就して、無餘の、一切世界に充滿す。
一切十方の、無餘の衆生は、皆悉く、彼の淸淨行に安住す。
十方無量の、一切の佛刹、彼の諸の如來は、菩薩の行を行ず。
悉く十方、一切の衆生をして、究竟じて、無上の勝行を成就せしむ。

(一八) 一切の佛子は、佛の功德を行じ、無量無邊にして、稱り數ふ可からず。
諸佛如來は、悉く分別して知り、皆衆生をして、具足し成就せしむ。
菩薩は、諸の神通力を具足して、悉く能善く、一切の所學を學ぶ。
十方、一切の世界に遊行して、無量の、自在神力を示現す。

(一九) 菩薩は能く、一念の中に於て、悉く諸佛を見たてまつりて、衆生と等し。
菩薩は能く、一毛道の中に於て、悉く一切の、諸佛の正法を見たてまつる。
一切衆生の、無量の諸行を、一切の最勝は、悉く分別して知りたまふ。
常に平等の心をもつて、一切十方の、無量の諸佛を、恭敬し供養したてまつる。

【一八】次の四偈は佛の自在の果を得ることを頌す。
【一九】次の十二偈は一切處に一切の佛を供養することを頌す。

種種の衆香、諸の雜寶華、無量の寶衣、及び諸の旛蓋、
悉く皆、無量の法界に充滿せるを、以用て、一切の諸佛を供養したてまつる。
菩薩は能く、一毛道の中に於て、悉く諸佛を見たてまつり、その數識る可からず。
普く能く、世閒の明燈を供養し、其の聞く所の法を、悉く能く受持す。
恭敬し禮拜して、五體を地に投じ、身を擧げて自ら、一切の最勝に歸す。
未來際を盡して、無量の諸劫に、十方の、一切最勝を讚歎したてまつる。
一佛の所に於ける、諸の供養具は、その數一切の、衆生類と等し。
一佛の所の、諸の供養具の如く、一切の佛の所も、亦復た是の如し。

(三〇) 無量無邊の、一切の諸劫に、菩薩は、一切の導師を恭敬したてまつる。
一切無量の、諸劫を窮盡して、恭敬し供養したてまつりて、而も厭き足ること無し。

【三〇】 次の七偈は一切時に一切佛を供養することを頌す。

一切の衆生は、無量の諸劫に、此の劫の中に於て、菩薩の行を修す。
一一の如來を、恭敬し供養したてまつりて、一切劫を盡して、而も厭き足ること無し。
一切の最勝の、說きたまふ所の大劫は、悉く能く、數を稱量する者有ること無し。
爾所の一切、諸の大劫の中に、菩薩の行を修して、而も厭き足ること無し。

〔二二〕悉く能く、一切の法界を覺悟し、廣大無邊にして、分際有ること無し。
衆妙の寶華、其の中に充滿せるを、以用て、衆生に等しき佛を供養したてまつる。
諸の妙寶華は、色香具足し、淸淨にして鮮潔なるを、無量に莊嚴す。
一切の世間に、譬と爲す可き無し、而も以て、一切の最勝を供養したてまつる。
衆生の數に等しき、無量の佛刹に、諸の妙寶蓋、其の中に彌滿す。
悉く此の蓋を以て、一如來に奉り、一切の佛に供ふることも、亦復た是の如し。
微妙最勝にして、奇特の塗香は、一切の世間に、倫匹有ること無し。
此の塗香を以て、衆生の劫を盡し、一切の諸佛如來を供養したてまつる。

【二二】次の十五偈は一切の供具を以て一切の佛を供養することを頌す。

是の如きの粖香、種種の雜華、微妙の香熏、無量の寶衣、
無數の妙寶、諸の莊嚴具を、以て如來に供へたてまつりて、而も厭き足ること無し。
衆生の數に等しき、一切の諸佛は、一念の中に於て、悉く正覺を成じたまふ。
無量の偈を以て、讚歎し宣揚して、天人の導師を、恭敬し供養したてまつる。
衆生の數に等しき、世間の明智を、菩薩は無上なる、殊勝に供養す。
衆生の數に等しき、一切の諸劫に、如來は德を歎じたまふとも、猶ほ盡すこと能はず。

是の如く、一切の諸佛を供養したてまつりて、如來の自在を、具足し成就す。

〔三〕普賢菩薩の、所行に安住して、悉く能く、一切の諸佛を視見したてまつる。
已作と未作と、及び現に作す所の、無量無數の、一切の善根は、
普賢菩薩の、所行を修習して、普賢菩薩の、諸地に安住せしむ。
一切の世間、悉く餘り有ること無く、諸佛の知りたまふ所の、衆生の種類に、
悉く、智慧明達を成就せしむること、猶ほ、普賢菩薩の所得の如し。
佛の說きたまふ所の如く、一切の諸行を、菩薩は悉く能く、具足し修習す。
悉く以て、一切の衆生に囘向し、普く、無上の囘向を成就せしむ。
一切十方の、諸の如來の刹を、悉く能く覺悟して、其の因に了達す。
悉く一切、無餘の衆生をして、皆、普賢菩薩と齊等ならしむ。
布施を成就すること、悉く囘向の如くし、持戒具足すること、普賢の力の如し。
勇猛精進して、退轉せず、忍辱を成就して、沮壞す可からす。
善く甚深の、諸禪正受に入りて、一切の三昧を、分別し了知す。
淸淨の智慧をもつて、三世に了達し、一切の世間は、知ること能はざる所なり。

【三】次の十三偈は普賢の行を攝して悉く囘向することを頌す。

(二三)身口の諸業と、及び意業と、音聲語言とは、皆悉く清淨にして、
究竟して、菩薩の諸行を成就し、悉く普賢、菩薩と齊等なり。
(二四)譬へば如如の如く、一切の法界は、憍慢と、諸の散亂心とを捨離す。
永く障礙を滅して、普く皆清淨となり、悉く衆生をして、亦復た是の如くならしむ。
(二五)是の如く殊妙にして、最勝なる回向は、一切の如來の、演說したまふ所なり。
此の無量の、善根回向を以て、菩薩の所行を、具足し成就す。
一切無餘の、諸佛の眞子は、普く此の、深き回向の法を修行す。
一切の、微妙の法界を攝取して、深く入りて、諸の善逝の力に安住す。
若し、此の殊勝の行を樂ひ求むる有らば、如來の說きたまふ所、甚だ深くして彌廣し。
此の諸の佛子は、皆悉く安住し、具足し成就すること、猶ほ普賢の如し。
一切の衆生は、尚ほ數を知る可く、一切の三世は、心猶ほ知る可くとも、
普賢菩薩の、功德の深廣にして、無量無邊なるは、了知す可からず。
一毛は量る可く、十方の虛空の、一切の刹塵は、悉く數を知る可くとも、
殊勝の大仙、眞の佛子等の、住する所の功德は、稱量す可からず。』

【二三】次の二偈は所成の德を頌す。
【二四】次の二偈は甚深回向を頌す。
【二五】後の十偈は結歎顯勝。

十地品第二十二の一

(一)爾の時に世尊、他化自在天王宮の、摩尼寶殿の上に在して大菩薩衆と倶なりき。阿耨多羅三藐三菩提に於て皆退轉せず、他方の世界より倶に來りて集會せり。

(二)此の諸の菩薩は一切の菩薩の智慧行處に、悉く自在を得、諸佛如來の智慧入處に、悉く皆入ることを得たり。善能く一切の世間を敎化して、念念の中に於て普く能く神通等の事を示現し、一切の菩薩の所願を具足し、一切の世、一切の劫、一切の國土に於て、常に一切諸の菩薩行を修し、菩薩の福德智慧を具足して窮盡すること無く。能く一切の爲めに饒益を作し、能く一切の菩薩の智慧方便の彼岸に到り。能く衆生をして生死の道に背き、涅槃の門に向はしめ、一切の菩薩の所行を斷ぜず。善く一切の菩薩の禪定、解脫三昧、神通明慧に遊び、諸の施爲する所善能く示現す。◎一切の菩薩の無作の神足を皆悉く已に得て、一念の頃に於て、能く十方の諸佛の大會に至り、法輪を勸發し、諮請し、受持して、常に大心を以て諸佛を供養し、常に能く諸の大菩薩の行ずる所の事業を修習し、其の身は普く無量の世界に現じ、其の音は徧く聞えて至らざる所無く、其の心は通達して明かに三世を見。一切の菩薩の所有る功德を具足し修習せり◎是の如きの諸の菩薩摩訶薩の功德は、無量無邊にして、無數劫に於て說くとも盡す

【一】第六會、序說。
【二】初に菩薩の德を歎し、名を列擧す。

可からず。其の名を金剛藏菩薩、寶藏菩薩、蓮華藏菩薩、德藏菩薩、蓮華德藏菩薩、日藏菩薩、月藏菩薩、淨月藏菩薩、照一切世間莊嚴藏菩薩、智慧照明藏菩薩、妙德藏菩薩、旃檀德藏菩薩、華德藏菩薩、優鉢羅華德藏菩薩、天德藏菩薩、福德藏菩薩、無礙淸淨智德藏菩薩、功德藏菩薩、那羅延德藏菩薩、無垢藏菩薩、離垢藏菩薩、種種樂說莊嚴藏菩薩、大光明網藏菩薩、淨明威德王藏菩薩、大金山光明威德王藏菩薩、一切相莊嚴淨德藏菩薩、金剛炎德相莊嚴藏菩薩、炎熾藏菩薩、宿王光照藏菩薩、虛空無礙妙音藏菩薩、陀羅尼功德持一切世間願藏菩薩、海莊嚴藏菩薩、須彌德藏菩薩、淨一切功德藏菩薩、如來藏菩薩、佛德藏菩薩、解脫月菩薩と曰ひき。是の如き等の菩薩摩訶薩は、無量無邊にして思議す可からず、稱說す可からざるなり。金剛藏菩薩を而も上首と爲せり。

【三】爾の時に金剛藏菩薩摩訶薩・佛の威神を承けて、菩薩の大智慧光明三昧に入り、卽時に十方世界の一方の十億の佛土に過ぎたる微塵數の世界に於て、十億の佛土有り、微塵數の諸佛は皆其の身を現じて金剛藏と名く。十方の世界も亦復た是の如し。同聲に讃して言はく、『善い哉、善い哉、金剛藏、乃ち能く是の菩薩の大智慧光明三昧に入れり。是の如く十方世界の微塵數に等しき諸佛も、皆同一號にして、汝に威神を加したまふ。所謂盧舍那佛の本願力の故に、大威神力の故に、汝大智慧力を有するが故に、一切の菩薩の不可思議なる諸佛の法明を宣べんと欲するが故に、所謂る智慧地に入らしめんが故に、一切の善根を攝せしめんが故に、善

【三】次は入定と加持とを明かす。

く一切の佛法を分別せしめんが故に、廣法智の故に、決定して諸法を說かしめんが故に、無分別智をもつて善く分別せしめんが故に、一切世閒の法も染むること能はざらしめんが故に、出世閒の善根淸淨ならしめんが故に、不可思議なる智力を得しめんが故に、一切智人の智の境界を得しめんが故に。所謂る如實に菩薩の十地の差別を說かしめんが故に、菩薩の十地に安住せしめんが故に、分別して無漏の法を說かしめんが故に、大智慧の光明は善く分別して以て自ら莊嚴せしめんが故に、具足の智門に入らしめんが故に、應に住すべき所に隨ひて次第に說かしめんが故に、無礙の樂說光明を得しめんが故に、大無礙の智地を具足せしめんが故に、菩薩の心を忘失せざらしめんが故に、一切の衆生界を教化し成就せしめんが故に、一切處に至る決定智を得しめんが故なり。◎金剛藏、汝當に此の法門の差別を說くべし。所謂る諸佛の神力の故に、汝能く如來の智慧神力を受くるに堪ふるが故に、自の善根淸淨なるが故に、淸淨法界の故に、衆生を饒益するが故に、法身智身に入るが故に、一切の佛に於て受記を得るが故に、一切世閒の高大身を得るが故に、一切世閒の道に過ぎたるが故に、淨き出世閒の善根の故なり。◎』即時に十方の諸佛は金剛藏に眞實の無上身を與へ、無障礙の樂說辯才を與へ、善く分別する淸淨の智慧を與へ、善く憶念する不忘を與へ、善く決定する慧を與へ、一切智に至るの處を與へ、諸佛の無壞力を與へ、諸佛の無所畏を與へ、諸佛の無礙智をもつて諸法を分別して善く法門を開くことを與へ、一切諸佛の上妙なる身口意業を與へたまひぬ。何を以ての故に。菩薩の大智慧光

明三昧を得たるを以ての故に、亦是れ菩薩の本願力の故に、直心清淨なるが故に、智慧明白なるが故に、善く助道の法を集むるが故に、善く本業を修するが故に、無量の法を念持するが故に、清淨なる光明法を信解するが故に、善く陀羅尼門を得て壞す可からざるが故に、法界智印善く印するが故なり。

爾の時に十方の諸佛は皆右の手を伸べて、金剛藏菩薩の頂を摩でたまひぬ。金剛藏菩薩即ち三昧より起ち、諸の菩薩に告げて言はく、

【四】「諸の佛子よ、是の諸の菩薩の願は、決定して過ぐること有る無く、壞す可からず、廣大なること法界の如く、究竟すること虛空の如く、徧く一切十方諸佛の世界の衆生を覆ひ、一切の世間を救度せんが爲めに、一切諸佛の神力の護る所と爲る。何を以ての故に。諸の菩薩摩訶薩は過去の諸佛の智地に入り、亦未來現在の諸佛の智地に入ればなり。何等か是れ諸の菩薩摩訶薩の智地なる。菩薩摩訶薩の智地に十有り。過去未來現在の諸佛は、已に說き、今說き、當に說きたまふべし。是の地の爲の故に我是の如く說かん。何等をか十と爲す。一に曰はく歡喜、二に曰はく離垢、三に曰はく明、四に曰はく燄、五に曰はく難勝、六に曰はく現前、七に曰はく遠行、八に曰はく不動、九に曰はく善慧、十に曰はく法雲。是の十地は三世の諸佛已に說き、今說き、當に說きたまふべし。我諸佛の國土として、是の地を說かざる者有るを見ず。何を以ての故に。此の十地は是れ菩薩の最上の妙道、最上の明淨法門なればなり。所謂、十地の事を分別せ

【四】以下、略して十地を說く。

んは、諸の佛子よ、是の事思議す可からず。所謂、菩薩の諸地の智慧に隨順するなり。』

金剛藏菩薩は、諸の菩薩の十地の名を說き已りて、默然として住し、復た分別せざりき。

㊄爾の時に一切の菩薩は、菩薩の十地の名を說くを聞き已りて、咸く皆渴仰して、解釋を聞かんと欲し、各是の念を作さく、『何の因何の緣ありてか、金剛藏菩薩は、十地の名を說き已りて默然として住するや』と。

㊅時に大菩薩衆の中に、菩薩有り解脫月と名く、諸の菩薩の心に念ふ所を知りて、偈を以て問うて曰はく、

『淨念智慧の人、何が故に菩薩の、諸地の名號を說き已りて、默然として解釋せざるや。

今諸の大菩薩は、心に皆猶豫を懷く、「何が故に是を說きて、而も其の義を演べざるや」と。

大智の諸の菩薩は、咸く皆、是の如きの諸地の義を聽聞せんと欲す、願はくは爲めに分別して說きたまへ。

是の諸の菩薩衆は、淸淨にして瑕穢無く、堅實の中に安住して、智功德を具足す。

皆恭敬の心を以て、仁者を瞻仰し、所說を聞かんと願ひ欲すること、渴の甘露を思ふが如し。』

【五】次に廣く十地を說かんことを請ふ。

【六】三段あり、初に解脫月菩薩の請問を叙す、三請三答あり。

爾の時に金剛藏菩薩、是を説くことを聞き已りて、衆をして悦ばしめんと欲し、偈を以て答へて曰はく、

『諸の菩薩の所行は、第一にして思議し難く、是の十地を分別するは、諸佛の根本なり。

微妙にして甚だ見難く、心の能く及ぶ所に非ず、佛の智慧より出づ、若し聞かば則ち迷悶せん。

心を持すること金剛の如く、深く佛の智慧を信じ、以て第一の妙と爲さば、心に疑難有ること無けん。

我を計する心と、及び心所行の地とを遠離せる、是の如き諸の菩薩は、爾乃ち能く聽聞せん。

寂滅の無漏智をもつて、分別して説くとも甚だ難く、虚空に畫くが如く、疾風を執ふるが如し。

我佛の智慧を念ずるに、第一にして思議し難し、衆生能く信ずるもの少し、是の故に我默然たり。』

解脱月菩薩、此を説くを聞き已りて、金剛藏菩薩に語りて言はく、

「佛子よ、是の大菩薩衆は、直心清淨にして、善く菩薩の道を行じ、善く助道法を集め、善能く諸佛を恭敬し供養し、無量佛に於て多く善根を種ゑ、無量の深厚なる功徳を成就し、癡と疑悔とを離れ、貪著及び諸の結礙有ること無く、深心に信解し、安住して動せず、是の法の中に於て、他の教に隨はず。是の故に佛子よ、當に佛の神力を受けて此の義を敷演したまふべし。是の諸の菩薩は、是の深法に於て、皆能く證知せん。』

時に解脱月菩薩、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を以て頌して曰はく、

『願はくは安隱の法なる、菩薩の無上の行を說き、諸地を分別して、智慧をして淸淨ならしめたまへ。

衆の智は淨くして垢無く、安住して深く信解し、諸の無量佛に於て、十地の義を證知せん。』

金剛藏菩薩の言はく、

『佛子よ、是の諸の大衆は、皆淸淨にして癡と疑悔とを離れ、是の法の中に於て他の敎に隨はずと雖も、其の餘の小法を樂ふ者は、是の甚深にして思議し難き事を聞きて、或は疑悔を生せん。是の人は長夜に諸の衰惱を受く。我此等を愍む、是の故に默然たり。』

時に金剛藏菩薩、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を以て頌して曰はく、

『是の衆は淸淨にして、深智疑悔を離れ、其の心已に決定して、復た他の敎に隨はず。動かざること須彌の如く、亂れざること大海の如しと雖も、其の餘は久しく行せず、智慧未だ明了ならず。

識に隨ひて智に隨はざれば、聞き已りて疑悔を生じ、彼將に惡趣に墜ちんとす、之を愍念するが故に說かず。』

解脫月菩薩の言はく、

『佛子よ、願はくは佛の神力を承けて、善く此の不可思議の法、佛所護念の事を分別して、信解し易からしめたまへ。所以は何ん。善く十地の義を說かば、十方の諸佛は法として應に護念したまふべければなり。一切の菩薩は、是の事を護るが故に勤行精進す。何を以ての故に。是れ菩薩の最上の所行にして、一切諸佛の法に至ることを得るが故なり。譬へば一切の文字は皆（七）初章に攝せられ、初章を本と爲し、一字として初章に入らざる者有ること無きが如し。是の如く、佛子よ、十地は是れ一切の佛法の根本にして、菩薩具足して此の十地を行ぜば、能く一切の智慧を得ん。是の故に佛子、願はくは此の義を說きて諸佛に護念せられ、加するに神力を以てし、人をして信受し破壞す可からざらしめたまへ。』

時に解脫月菩薩、此の義を明顯せんと欲して、偈を以て頌して曰はく、

『善い哉智慧の人、清淨の行具足せり。願はくは十地の行と、所入の
十地の法とを說きたまへ。智慧を具足し、以て菩提を成ずることを得ん。
所有る十方の佛、最勝なる人中の尊は、皆共に汝を護念して、是の十地の義を說かしめん。
十地を根本と爲し、是を智の行處と名け、亦究竟道と爲す、佛の無量の法聚なり。
譬へば諸の文字の、皆攝して初章に在るが如く、諸佛の功德智も、十地を根本と爲す。』

（八）爾の時に諸の菩薩は、一時に同聲に、偈を以て金剛藏菩薩に請ひて言はく、

【七】初章とは母音のことなり、母音は一切の文字の根本なるが故に此の譬をなす。
【八】次に大衆一同に請す。

『上妙なる智慧の人は、樂說して量有ること無く、德の重きこと山王の如し、哀愍をもつて十地を說きたまへ。

戒念慧淸淨にして、是の十地の義を說くは、十力の根本にして、無礙智の本行なり。

戒定慧の功德は、集りて仁者の心に在り、憍慢諸の邪見は、皆悉く已に滅盡し、是の衆には疑心無し、唯願はくは善說を聞かん。

譬へば病めるものの良醫を思ひ、饑ゑたるものの美膳を思ふが如し、我等も亦是の如く、甘露の法味を聞かんとす。

是の故に曠大の意をもつて、願はくは初地の門、乃至第十地を開き、次第して我が爲めに說きたまへ。』

【九】三に、佛の加請を敍す。

(九)爾の時に釋迦牟尼佛、眉閒の白毫相より、菩薩力の光明を放ち、百千阿僧祇の光を以て眷屬と爲し、普く十方の諸佛の世界を照したまひて、周偏せざるなく、三惡道の苦も皆休息することを得たり。悉く十方諸佛の大會の說法の衆を照し、如來の不思議力を顯現したまへり。是の光明徧く十方諸佛の大會の諸の菩薩の心を照し已りて、上の虛空の中に於て、大光明の雲臺と成れり。十方の諸佛も亦復た是の如く、眉閒の白毫より倶に菩薩力の光明を放ち、百千阿僧祇の光を以て眷屬と爲し、普く如來の不思議力を現じ、悉く一切諸佛の

大會、及び娑婆世界の釋迦牟尼佛の一切の大衆、幷びに金剛藏菩薩、及び師子の座を照したまへり。照し已りて上の虚空の中に於て、大光明の雲臺と成れり。時に諸の大光明の雲臺の中に、諸佛の神力の故に、而も偈を說きて曰はく、

『無等等の諸佛は、功德虚空の如く、十力無畏等なる、最尊なる世間の主にして、釋迦佛の前に於て、此の神力を現じたまひ、

佛力を以て、法王の無畏藏を開現し、諸地の所行と、諸地の義の差別とを說きたまふ。

諸佛の神力を承けて、能く壞する者有ること無く、若し人法寶を開かば、則ち諸佛の爲めに護られ、漸次に諸地を具して、以て佛道を成ずることを得ん。

若し人聞くに堪任せば、大海、及び劫盡火の中に在りと雖も、必ず此の經を聞くことを得ん。

若し人癡と疑悔とあらば、終に聞くことを得る能はじ。

是の故に今佛子、諸地の智道を說き、勢力觀法に入り、次第に修行して、

餘地に至ることを得、各利益する所を得て、一切の世間を利す、願はくは說きて斷えしむること勿れ。』

卷の第二十四

十地品第二十二の二

（一）爾の時に金剛藏菩薩、十方を觀察して、大衆をして信敬を增益せしめんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

（二）諸佛聖主の道は、微妙にして甚だ解し難く、思量の得る所に非ず、唯知者のみの行處なり。
其の性は本來、寂然として生滅無し、本より已來空にして、諸の苦惱を滅除す。
諸趣を遠離して、涅槃の相に等同に、
中も無く亦後も無く、言辭の所說に非ず、三世を出過して、其の相は
虛空の如し。
諸佛所行の處は、淸淨にして深く寂滅し、言說の及び難き所なり、
地行も亦是の如く、之を說くすら猶尙難し、何に況んや以て人に示す
をや。
諸佛の智慧は、諸の（三）心數と道とを離れ、思議することを得可から

【一】以下、說を許し其の分齊を顯はす。
【二】十三頌半あり、初の七偈半は義大、後の六偈は說大を頌す。
【三】心數。思慧のこと。道とは心道の義にして、報生の識智を云ふ。

す、陰界入有るに非ず、但(四)智を以てのみ知る可く、(五)識の及ぶ所に非ず。
空迹の如く說き難し、何ぞ其の相を示す可き、十地の義も是の如く、心意の所行に非ず。
是の事爲難しと雖も、發願して慈悲を行せば、漸次に諸地を具して、智者の能く及ぶ所なり。
是の如き諸地の行は、微妙にして甚だ見難く、心を以て知る可からず、當に佛力を承けて說くべし。
汝等當に恭敬して、咸共に一心に聽くべし。
智慧の隨順する所の、諸地の相に入る行は、無量億劫に於て、之を說くとも盡す可からず、今如實に略說せんに、其義餘り有ること無し。
一心に恭敬して待て、今佛力を承けて說き、大音に(六)因喩を唱へ、(七)義と名と相違せじ。
佛の神力は無量なり、今皆我が身に在り、我の說く所の者は、大海の一渧の如し。』

(八)金剛藏菩薩、此の偈を說き已りて、大衆に告げたまはく、

(九)『諸の佛子よ、若し衆生厚く善根を集め、諸の善行を修し、善く助道法を集め、諸佛を供養し、諸の淸白法を集め、善知識の爲めに護られ、深廣の心に入り、大法を信樂し、心多く慈悲に向

【四】智とは無分別の證智なり。
【五】識とは妄情分別の識なり。
【六】因喩とは因故を擧げ譬喩を引きて說くこと。
【七】義とは道理なり、名とは言語文字なり。
【八】以下本說。十段あり初に初地を說く、中に四段あり。
【九】第一、始めて初地に住する相を明かす。

ひ、好んで佛の智慧を求めなば、是の如きの衆生は乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發さん。一切種智を得んが爲めの故、十力を得んが爲めの故に、大無畏を得んが爲めの故に、佛法を具足することを得んが爲めの故に、一切の世間を救はんが爲めの故に、大慈悲心を淨めんが爲めの故に、十方無餘の無礙智に向はんが爲めの故に、一切の佛國を淨めて餘り無からしめんが爲めの故に、一念の中に於て三世の事を知らんが爲めの故に、自在に大法輪を轉じて廣く佛の神力を示現せんが爲めの故に、菩薩摩訶薩は是の如きの心を生ず。諸の佛子よ、是の心は大悲を以て首と爲す。智慧增上の方便に護られ、直心深心淳至にして量は佛力に同じく、善く衆生力と、佛力とを決定して無礙智に趣向し、自然智に隨順して能く一切の佛法を受け、智慧を以て敎化し、廣大なること法界の如く、究竟すること虛空の如くにして未來際を盡す。菩薩是の如きの心を發さば、卽時に凡夫地を過ぎて菩薩の位に入り、佛家に生在し、種性尊貴にして譏嫌す可き無く、一切世間の道を過ぎて、出世間の道に入り、菩薩法の中に住し、諸の菩薩の數に在りて等しく三世の如來種の中に入り、畢定して阿耨多羅三藐三菩提を究竟せん。菩薩是の如きの法に住するを歡喜地に住すと名く、不動の法を以ての故なり。

(10) 諸の佛子よ、菩薩摩訶薩は歡喜地に住すれば、多くの喜、多くの信、多くの淸淨、多くの踊悅、多くの調柔、多くの堪受あり、鬪諍を好まず、衆生を惱亂することを好まず、瞋恨を好まず。◎諸の佛子よ、諸の菩薩此の歡喜地に住すれば、諸佛を

【一〇】第二、歡喜地の名を釋す。

念ずるが故に、歡喜の心を生ず。諸佛の法を念ずるが故に、歡喜の心を生ず。諸の菩薩摩訶薩を念ずるが故に、歡喜の心を生ず。諸の菩薩の所行を念ずるが故に、歡喜の心を生ず。諸の波羅蜜の清淨なる相を念ずるが故に、歡喜の心を生ず。諸の菩薩と諸の殊勝とを念ずるが故に、歡喜の心を生ず。諸の菩薩力の壞す可からざることを念ずるが故に歡喜の心を生ず。諸の如來の敎化の法を念ずるが故に、歡喜の心を生ず。能く衆生を利益することを爲さんと念ずるが故に、歡喜の心を生ず。一切の佛、一切の菩薩の入る所の智慧方便門を念ずるが故に、歡喜の心を生ず。菩薩は復た是の念を作さく、「我轉じて一切世間の境界を離れて歡喜の心を生じ。一切の佛の平等の中に入りて歡喜の心を生じ。凡夫地を遠離して歡喜の心を生じ。智慧地に近きて歡喜の心を生じ。一切の惡道を斷じて歡喜の心を生じ。一切衆生の爲めに依止と作りて歡喜の心を生じ。近く一切の諸佛を見たてまつりて歡喜の心を生じ。諸佛の境界を生じて歡喜の心を生じ。一切諸の菩薩の數に入りて歡喜の心を生じ。一切の恐怖を離れて歡喜の心を生ぜん」と。所以は何ん。是の菩薩歡喜地を得れば、所有る怖畏は、卽ち皆遠離す。所謂る不活の畏、惡名の畏、死の畏、惡道に墮する畏、大衆威德の畏なり。是の如き等の一切諸の畏を離る。何を以ての故に。是の菩薩は我相を離るるが故に、尙ほ身をも貪らず、況んや所用の物をや。是の故に菩薩には不活の畏無し。心に恭敬し供養せらるることを悕望せず、「我應に衆生に供養して須むる所を供給すべし」と、是の故に菩薩には惡名の畏無し。我見を遠離して我相無きが故に、死

の畏有ること無し。又是の念を作さく、「我若し死し已らば、生ずる所に必ず諸佛菩薩を見たてまつらん」と、是の故に惡道に墮するの畏有ること無し。「我が志樂する所は與に等しき者無し、何に況んや勝れたるもの有らんや」と、是の故に大衆威德の畏有ること無し。是の如く菩薩は永く一切諸の恐怖の事を離る。

(一)諸の佛子よ、是の菩薩は大悲を以て首と爲し、一切の衆生に於て心に嫌恨無く、直心堅固にして、自然に清淨に、轉じて復た一切の善根を勤修す。所謂る信心(二)增上し、多く淨心を行じ、解心清淨にして、多く信心を以て(三)分別し、大悲を出生し、大慈を成就して、心疲倦せず、慚愧を以て莊嚴して、忍辱柔和を成就し、諸佛の教法に敬順し、善知識を信重して、日夜常に一切の善根を修し、常に法を愛樂し、多聞を求めて厭くこと無く、所聞の法の如く正念し觀察して、心に貪著せず、名聞を求めず、利養資生の物を求めず、常に寶心を生じて、厭足有ること無し。一切智地を樂ひ、諸佛の力と無所畏と不共の法とを得んと欲し、助の諸波羅蜜を求め、諸の諂曲を離れ、說の如く能く行じ、常に實語を行じて、諸佛の家を汚さず、菩薩の戒を捨てず、薩婆若を生じて心動ぜざること山王の如く、世間の事を樂はずして出世間の善根を成就し、助菩提の法を集めて、厭足有ること無く、常に勝中の勝道を求む。菩薩は是の如き淨地の法を成

【一】第三、此の地に安住する相を明かす。
【二】增上。所有る事に於て深信決定するをいふ。
【三】分別。己が證する所を衆生に授くるをいふ、即ち化他の行なり。

就するを、名けて歡喜地に安住すと爲す。

(一四)菩薩は是の如く歡喜地に安住すれば、諸の大願を發して、是の如きの定心を生ぜん。所謂る「我當に淸淨の心を以て一切の諸佛を供養したてまつりて、皆餘り有ること無く、一切の供具は意に隨ひて供養すべし」と。是の如き大願を發して、廣大なること法界の如く、究竟せること虛空の如く、未來際を盡して、盡く一切劫の中の所有る諸佛を供養したてまつり、大供養を以て具足して、休息有ること無し。又、「一切諸佛の說きたまふ所の經法は皆悉く受持して、一切諸佛の阿耨多羅三藐三菩提を攝し、一切諸佛の敎化する所の法には、悉く皆隨順し、一切諸佛の法は皆能く守護せん」と。是の如き大願を發して、廣大なること法界の如く、究竟せること虛空の如く、未來際を盡して、盡く皆一切劫の中の一切の佛法を守護して休息有ること無し。又、「一切世界の一切の諸佛は、兜率天より下りて入胎し、處胎し、初生し出家して佛道を成せし時、大法輪を轉ぜんことを勸請し、大涅槃に入ることを示したまふ。我爾の時に於て、盡く往きて供養したてまつり、(一五)法を攝することを首と爲さん、(一六)三時に轉ずるが故に」と。是の如き大願を發して、廣大なること法界の如く、究竟せること虛空の如く、未來際を盡し、一切劫を盡して一切諸佛を奉迎

【一四】第四、校量して勝れたることを顯はす。中に於て三、初は大願校量なり、供養の願、受持の願、轉法輪の願、衆生の心行を知る願(修行願)、衆生を敎化する願、承事の願、淨土を知る願、不離の願、利益の願、成菩提の願、の十大願を顯はす。

【一五】法を攝すとは、衆生の爲めに說法を啓請するの義。

【一六】三時轉。三たび請して法を轉するが故に三時轉といふ。

し、供養したてまつりて休息有ること無し。又、「一切の菩薩の所行は廣大無量にして、壞す可からず分別無く、諸の波羅蜜の攝する所、諸地を淨めて生ずる所の諸の助道法、總相・別相・有相・無相・有成・有壞なり。一切の菩薩の所行の諸地の道、及び諸の波羅蜜と本行とをもつて、一切を敎化して其の受行の心をして增長することを得しめん」と。是の如き大願を發して、廣大なること法界の如く、究竟せること虛空の如く、未來際を盡して、盡一切劫の中の菩薩の所行は、諸の敎化を以て衆生を成就して、休息有ること無し。又、「一切の衆生、若しは有色、若しは無色、有想、(一七)無想、(一八)有非想、非無想、卵生、胎生、(一九)濕生、(二〇)化生にて、三界に繫がれ、六道の一切生處に入り、名色に攝せらるるものは、敎化し成就して、一切世間の道を斷ち、佛法に住せしめて、一切の智慧餘り有ること無からしめん」と。是の如き大願を發して廣大なること法界の如く、究竟せること虛空の如く、未來際を盡し一切劫を盡して、一切衆生を敎化して休息有ること無し。又、「一切世界の廣狹、及びその中の無數無量にして分別す可からず、壞す可らず、動ず可からず、說く可からざる麤細、(二一)正住、(二二)倒住、平坦、方圓なる、隨ひて是の如き世界に入る智は、因陀羅網の如く差別せり、

【一七】無想。無想天のこと、色界第四禪に在り、外道は之を涅槃となし、無想定を修して此の天に生れ、五百大劫の間無心の報を得、其の他は有想なり。

【一八】非無想は無色界の前三處、非有想は第四の非想非非想處なり。

【一九】濕生。蚊蟲等の如く、濕氣によりて生ずる者をいふ。

【二〇】化生。母胎等の緣によらずして忽爾として生ずるものをいふ。

【二一】正住。上に向へる世界にして仰世界のこと。

【二二】倒住。蜂の巢の如く下に向へる世界にして、伏世界のこと。

是の如き十方世界の差別を皆現前に知らん」と。是の如き大願を發して廣大なること法界の如く、究竟せること虚空の如く、未來際を盡くし、一切劫を盡して、是の如きの世界を皆現前に知りて休息有ること無し。又、「一切の佛土一佛土に入り、一佛土一切の佛土に入り、一一の佛土は無量に莊嚴せられて、諸の垢穢を離れ、清淨を具足し、智慧の衆生は悉く其の中に滿ち、常に諸佛の大神通力有りて、衆生の心に隨ひて爲めに示現せん」と。是の如き大願を發して廣大なること法界の如く、究竟せること虚空の如く、未來際を盡し、一切劫を盡して、是の如きの國土を淨めて休息有ること無し。又、「一切の菩薩は同心同學して、共に諸善を集めて怨嫉有ること無く、同一の境界に等心に和合して、常に相離れず、其の所應に隨ひて能く佛身を現じ、自ら心中に於て悉く能く諸佛の境界と、神通の智力とを解知し、常に隨意の神通を得て、悉く能く一切の國土に遊行し、一切の佛會に皆身相を現じ、一切の生處に普く其の中に生じ、是の如きの不可思議なる大智慧を有して菩薩の行を具足せん」と。是の如き大願を發して廣大なること法界の如く、究竟せること虚空の如く、未來際を盡し、一切劫を盡して、是の如きの大智慧の道を行じて休息有ること無し。又、「不退の輪に乘じて菩薩の道を行じ、身口意業の作す所空しからず、衆生の見る者は卽ち佛法を必定し、我が音聲を聞かば卽ち眞實の智慧を得、我を見る者有らば心卽ち歡喜し、諸の煩惱を離るること藥樹王の如くならん。是の如きを得んが爲めに菩薩の道を行ぜん」と。是の如き大願を發して、廣大なること法界の如く、究竟せること虚空の如く、未來際を盡し、一切劫を盡し

て不退の道を行じ、作す所空しからずして休息有ること無し。又、「一切の世界に於て皆阿耨多羅三藐三菩提を得、一毛端に於て、入胎し、出家し、道場に坐して佛道を成じ、法輪を轉じて衆生を度することを示現し、大涅槃を示し、諸の如來の大神通智力を現じ、一切衆生の度すべき所の者に隨ひて、念念の中に佛道を得、一切の法は涅槃の相の如しと知り、一音聲を以て、一切の衆生をして皆歡喜を發さしめ、大涅槃を示して而も菩薩の所行を斷ぜず、衆生に大智地を示して、一切の法は皆是れ假僞なることを知らしめ、大智慧の神通自在を以て、變化を出生して法界に充滿せん」と。是の如き大願を發して廣大なること法界の如く、究竟せること虛空の如く、未來際を盡し、一切劫を盡して、佛道の事を得、大智慧大神通等を求めて休息有ること無し。諸の佛子よ、菩薩摩訶薩は歡喜地に住するに十願を以て首と爲し、是の如き等の百萬阿僧祇の大願を生じ、十の不可盡の法を以て是の願を生じ、此の願を滿せんが爲めに精進を勤行す。◎何等をか十と爲す。一に衆生不可盡、二に世界不可盡、三に虛空不可盡、四に法界不可盡、五に涅槃不可盡、六に佛出世不可盡、七に諸佛智慧不可盡、八に〔二三〕心所緣不可盡、九に〔二四〕起智不可盡、十に〔二五〕世間轉・法輪・智轉不可盡なり。若し衆生盡きなば我が願も乃ち盡きん。若し世界、虛空、法界、涅槃、佛の出世、諸佛の智慧、心の所緣、起智、諸轉盡き

【二三】心所緣。所化の衆生の心器に隨ふは心の所緣なればなり。

【二四】起智。佛智所入の境に、即是れ眞性なるが故に、之を起智といふ、眞性の理より起る智の義なり。

【二五】世間轉とは、前の衆生世界、虛空を云ひ、法輪とは、前の世界、涅槃、佛出世をいひ、智轉とは後の三を指す。

なば我が願も乃ち盡きん。而も衆生は實に盡く可からず。世界、虛空、法界、涅槃、佛の出世　諸佛の智慧、心の所緣、起智、諸轉は實に盡く可からず。我が諸願の善根も亦盡く可からず。

〔二六〕諸の佛子よ、菩薩決定して是の大願を發さば則ち利安の心、柔輭の心、調順の心、寂靜の心、不放逸の心、寂滅の心、直心、和潤の心、不恚の心、不濁の心を得。是の如くして則ち信を成ずる者は、樂ひて信を以て功德を分別し、諸佛の本所行の道を信じ。諸の波羅蜜を行じて增長を得ることを信じ。善く諸地に入りて殊勝の功德を得ることを信じ。佛の十力を成ずることを得るを信じ。四無所畏を具足することを信じ。不共の法は壞す可からざることを信じ。諸佛の法は不可思議なることを信じ。諸佛の自在神力は無量無邊なることを信じ。諸の如來の無量の行門を信じ。因緣に從ひて以て果報を成ずることを信ず。要を擧げて之を言はば、諸の菩薩の善行、諸佛の功德、智慧、威神力等を信ず。諸の佛子よ、菩薩は是の念を作さく、「諸佛の正法は是の如く甚深、是の如く相を離れ、是の如く寂滅、是の如く空、是の如く無相、是の如く無作、是の如く無染、是の如く無量、是の如く廣大、是の如く壞し難し。而も諸の凡夫の心は邪見に墮し、無明癡冥、其の慧眼を蔽ひ、常に憍慢の幢を立て、渴愛の網に墮在し。諂曲に隨順して、常に慳嫉を懷き、後身の生ずる處の因緣を作り、多く貪欲、瞋恚、愚癡を集め、諸の重業を起し、嫌恨の猛風は罪

【二六】次に行の校量を明かす、中に十行を說く、十行とは信行、慈行、悲行、施行、疲倦なき行、經書を知る行、世智行、慚愧行、堪受行、供養修行是れなり。

心の火を吹きて常に熾然ならしめ、施作する所有れば皆顚倒と相應し、(二七)欲流、(二八)有流、(二九)見流、無明流相續して、(三〇)心意識の種子を起し、三界の地に於て苦惱の芽を生ず。所謂る名色なり。名色和合して六入を増長し、根塵相對して觸を生じ、觸の故に受を生じ、受を貪り樂ふが故に愛を生じ、愛増長するが故に取を生じ、取の因緣の故に復た後有を起す。有の因緣の故に生老病死の憂悲苦惱有り。是の如き因緣は諸の苦聚を集め、諸の苦惱を受く。是の中に我無く、我所無く、作者無く、受者無く、知者無く、草木瓦石無く、又影響の如し。凡夫は愍む可し、知らず覺らずして苦惱を受く。」菩薩此に於て、諸の衆生の諸苦を免れざるを見て、卽ち大悲の智慧を生じ、「是の諸の衆生をば我應に救護して、畢竟佛道の樂に住せしむべし」と、卽ち大慈の智慧を生ず。菩薩摩訶薩は是の如き大慈悲の法に隨順し、深妙の心を以て初地に住在し、一切の物に於て貪惜する所無し。諸佛の大妙智慧を尊重するが故なり。大施を擧行して卽時に有つ所を盡く能く施與し、金・銀・摩尼・硨磲・瑪瑙・瑠璃・珊瑚・琥珀・珂貝・珍寶・瓔珞・嚴身の具・及び、象馬・輦輿・人民奴婢・國土・城邑・園林・遊觀・妻妾男女・一切の愛する所を皆悉く施與し、頭目耳鼻、支節手足をも、深く佛を重んずるが故に、而も貪惜せず。菩薩摩訶薩は初地に住して、能く大

【二七】欲流。欲と有と見と無明とを合して四流と名く。流とは流注不斷の義なり、欲流とは欲界の中の見と無明とを除きたる一切の煩惱をいふ。

【二八】有流。色無色界の中の見と無明とを除きたる一切の煩惱をいふ。

【二九】見流と無明流とは、三界の無明と見とを總稱す。

【三〇】心意識。通名の時は、共に諸識の總稱なるも、別名の時は、心は第八識、意は第七識、識は前六識なり。

施を行ず。是の菩薩は大悲心と大施心とを以つて一切衆生を救ふが故に、世間出世間の利益の事を勤求して心に疲懈無し。是の故に菩薩は疲倦無きの功德を生じ、諸の經書に於て能く自ら開解す、是の故に經書を知るの功德を生ず。是の如く經書を知るの智慧を得て、善能く作すべきことと、作すべからざることとを籌量し、上中下の衆生に於て隨宜に利益す。是の故に菩薩は、世智の功德を生ず。世智の功德を得ば則ち時を知り量を知り、慚愧の莊嚴をもつて、自利利彼の道を修習す。是の故に則ち慚愧の功德を生ず。是の如きの功德を、精勤し修行して、心に懈退せず。是の精進不退の功德は、卽ち堪受の力を得。勘受の力を得已りて、勤行して一切の諸佛を供養したてまつり、佛の所說に隨ひ、說の如く修行す。諸の佛子よ、是の菩薩は悉く是の如きの淨地の法を生起することを知れり。所謂る信と慈と悲と施とに、疲倦有ること無く、諸の經書を知り、善く世法を解し、慚愧し、堪受し、諸佛を供養し、所說の如く行ず。

(三)又此の菩薩歡喜地に住して、少しく諸佛を見たてまつるも、願力を以ての故に、廣く數百千萬億那由他の諸佛世尊を見たてまつりて、心大いに歡喜し、深心に愛敬し、上樂具を以て、諸佛及び一切の僧に供養す。是の福德を以て皆阿耨多羅三藐三菩提に回向す。是の菩薩は諸佛を供養するに因るが故に、衆生を敎化する法を生じ、多く二攝を以て衆生を攝取す。所謂る布施と愛語となり。(三)後

【三】三に、果の校量を明かす、中に調柔果、發趣果、攝報果、願智果の四を擧ぐ。

【三】利益と同事とをさす。

の二攝法は信解力を以て行ずれども、未だ善く通達せず。是の菩薩は隨所に諸佛を供養して、衆生を敎化し、皆能く諸の淨地の法を受行す。是の如き諸の功德を、皆薩婆若に回向して、轉た益明顯となり、有用に堪任す。譬へば金師の金を錬るに、隨ひて火力を以てすれば調柔にして用ふ可く、光色を增益するが如し。是の如く菩薩は諸佛を供養し、衆生を敎化し、淨地の法を行じ、此の諸の功德を皆薩婆若に回向すれば、轉た益明顯となり、意に隨ひて用ひらる。諸の佛子よ、是の菩薩摩訶薩は初地の中の行果の相貌に於て、諸佛、菩薩、善知識の所に從ひて、成地の法を諮受し請問して、厭廢有ること無し。是の菩薩は初地の中に住して、諸佛菩薩善知識の所に於て、第二地の中の行果の相貌を諮受し請問して厭足有ること無し。是の如く第三、第四、第五、第六、第七、第八、第九、第十地の中の行果の相貌を、諸佛菩薩善知識の所に從ひて、諮受し請問して十地の法を成じ厭廢有ること無し。是の菩薩は、善く諸地の對治法を知り、善く諸地の成壞を知り、善く諸地の行果を知り、善く分別して諸地を得ることを知り、善く諸地の清淨行を知り、善く諸地の一地より一地に至る行を知り、善く諸地の(三三)是處・非是處を知り、善く諸地の(三四)轉じて所住の所を知り、善く諸地の勝進業を知り、善く諸地の不退轉を得ることを知り、乃至、善く一切の菩薩の淨地の法は、如來の智地に入ることを知る。◎諸の佛子よ、是の如く菩薩は善く諸地の行を知り、未だ諸地を發さざるに乃ち十

【三三】 非是處とは所斷の二執、是處とは所證の理なり。

【三四】 自地の行成滿して滯住せざるをいふ。

地に至りて障礙有ること無く、諸地の智慧光明を得、乃至諸佛の智慧光明を知る。大商主の多く賈人を將ゐて大城に至らんと欲するに、先づ道路の退還、過咎、道に在るの利害を問ひ、未だ初めの處を發せざるに、道の宿時を知り、乃至善く彼の城に到る事を知り、能く智慧を以て思惟し籌量し、諸の資用を具へて乏くる所無からしめ、正しく人衆を導きて大城に至ることを得て、險道の中に於て、諸の患難を免れ、身及び衆人も、皆憂惱無きが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。初地に住して、善く諸地の對治法を知り、乃至善く一切の菩薩の淨地の法を知りて、如來の智地に入る。爾の時に菩薩は大福德智慧の資糧を集めて、衆生の商主の爲めに、隨宜に教化して、生死の險難惡處を出でしめ、安隱の道を示し、乃至薩婆若の智慧の大城に住し、諸の衰惱無からしむ。是の故に菩薩は常に應に心疲倦せざるべく、諸地の本行を勤修し、乃至善く如來の智地に入ることを知る。◎諸の佛子よ、是を略して菩薩の歡喜地に入ることを說くと名く。廣く說かば則ち無量百千萬億阿僧祇の事有り。◎菩薩歡喜地に住すれば多く閻浮提王と作り、豪貴自在にして、常に正法を護り、能く大施を以て衆生を攝取し、善く衆生の慳貪の垢を除き、常に大施を行じて窮盡すること無く、作す所の善業は布施、愛語、利益、同事なり。是の諸の福德は、皆佛を念ずることを離れず、法を念ずることを離れず、諸の同行の菩薩を念ずることを離れず、菩薩の所行の道を念ずることを離れず、諸の波羅蜜を念ずることを離れず、十地を念ずることを離れず、諸力・無畏・不共法を念ずることを離れず、乃至具足一切種智を念ずるこ

とを離れず。常に是の心を生ずらく、「我當に一切衆生の中に於て首と爲り、勝と爲り、大と爲り、妙と爲り、上と爲り、無上と爲り、導と爲り、將と爲り、師と爲り、尊と爲り、乃至一切衆生の中に於て依止者と爲るべし」と。諸の佛子よ、是の菩薩は、若し家を捨てて勤行精進せんと欲せば、佛法の中に於て、便ち能く家・妻子・五欲を捨てん。出家することを得已りて勤行精進せば、須臾の間にして、百の三昧を得、百の佛を見ることを得、百佛の神力を知り、能く百佛の世界を動かし、能く百佛の世界を飛び過ぎ、能く百佛の世界を照し、能く百佛の世界の衆生を敎化し、能く住すること壽百劫にして、能く過去未來世の各百劫の事を知り、能善く百の法門に入り、能く身を變じて百と爲し、一一の身に於て能く百の菩薩を示し、以て眷屬と爲さん。若し願力を以てせば、自在に示現すること、此の數に過ぎて、百千萬億那由他劫にも計り知る可からず。」

(三五) 時に金剛藏菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

(三六)『若し諸の衆生有りて、厚く善根を修集して、淸白の法を成就し、
諸佛に親近し、
淸淨なる信樂の力をもつて、慈悲心に隨順せん、是の如き人は能く、
無量の佛智を發す。
諸佛の一切智あり、無量力淸淨に、堪受の力堅牢にして、諸佛の法を成就す。

【三五】重頌、四十五偈半あり。
【三六】初の二十二偈は正說を頌す。

悲心をもつて世間を救ひ、諸佛の國を淨修し、敷演して法輪を轉せんとて、此の無上の願を發す。
一念に三世を知りて、而も別異有ること無く、種種の時に差別して、以て世間に示す。
略して說かば則ち盡く、諸佛の功德を求めて、廣大の心を發すこと、猶ほ虛空の若如し。
悲心は智慧の首にして、方便は修行に合し、深き直心は淳至にして、其の力量有ること無し。
心の向ふところ障礙無く、而も他教に隨はず、諸佛の平等に同じて、大心を生ず。
諸の佛子は、是の如きの寶心を發生すれば、卽ち凡夫地を離れて、佛の所行に入り、
卽ち如來の家に生れて、譏嫌す可きこと有ること無ければ、諸佛に同じく、必ず無上道を成せん。
是の如き心を生ずる時は、卽便ち初地を得て、其の心動ず可からざること、猶ほ大山王の如し。
是の菩薩は便ち、大喜の相有りて顯現し、其の心常に淸淨にして、大事を受くるに堪ふ。
心闘諍を樂はず、衆生を惱ますことを好まず、瞋恨の心有ること無く、慚愧恭敬を樂ふ、又直心を習行し、諸根を守護す。
常に世間を救はんことを念ひ、諸佛の智を求めんことを念ひて、心に歡喜を生ぜば、我當に此の事を得べし。
歡喜地を得ば、卽ち五の恐怖を過ぐ、不活と死と惡名と、惡道と衆の威德となり。
我、及び我所に貪著せざるを以ての故に、是の諸の佛子等は、諸の怖畏を遠離す。

常に慈悲心を行じ、恒に信有りて恭敬し、慚愧の功德備はり、晝夜に善法を增し、功德の實利を樂ひて、諸欲を樂はず。

所聞の法有るが如きは、能く常に善く思惟し、身を貪著すること有ること無く、諸の利養の心を斷つ。

常に菩提を樂ひ、一心に佛智を求め、諸の波羅蜜を行じて、諂曲の心を離る。

說に隨ひて能く行じ、實語の中に安住して、諸佛の家を汚さず、菩薩の學を捨てず。

世間の事願を遠け、世間を出づることを樂ひ、善法を求めて厭くこと無く、精進轉た增益す。◎

（三七）諸の菩薩は是の如く、好んで諸の功德を樂ひ、而も大願を發し、求めて諸佛を見たてまつらんと欲す。

【三七】以下二十一偈半は校量顯勝を頌す。

法を護りて佛の所に至り、菩薩の妙行を行じて、一切の衆生を化し、一切の佛土を淨む。

我が佛國土の中に、滿てる諸の大菩薩は、諸の菩薩同心にして、見聞皆空しからず。

一切の微塵の中にて、諸佛は佛道を成じ、是の如き等の、無量無邊の願を發せり。

是の願は窮盡すること無く、虛空、衆生、法界、世、涅槃、諸佛の出、智慧、心緣、起、智轉の如く、我が願は是の如く住す。

是の如く大願を發して、心柔軟にして調順し、能く佛の功德を信じ、而も衆生を觀ず。

因縁より起ることを知れば、則ち慈悲の心を生じ、卽ち苦の衆生に於て、我當に之を救度すべし。
是の衆生の爲めの故に、而も種種の施を行ず、所謂る妙國土、一切諸の珍寶、
象馬及び車乘、眷屬と人民と、頭目及び手足と、肌肉とを施して悔ゆること無く、
種種の經書を求めて、心に疲倦有ること無く、其義趣を解することを得て、能く世の所行に隨ふ。
慚愧堪受の力、漸く增長することを得しめ、能く恭敬の心を以て、無量の佛を供養したてまつる。
智者は日夜に於て、是の如く常に修行して、善根轉た明淨なること、猶ほ錬金を成ずるが如し。
菩薩是の地に住すれば、能く十住を了知し、展轉して修行する時、諸の障礙有ること無し。
譬へば賈客の主、諸の商人を利せんと欲して、先づ道路の中の、諸險艱難の事を問ふが如し。
菩薩初地に住すれば、善く諸地の行を知り、而も障礙有ること無く、能く佛地に至る。
是の初地の中に住すれば、多く閻浮の王と作り、善く諸法を知りて、常に慈悲心を行じ、
法の如く化導して、一切皆信敬し、勸めて布施を行せしめ、以て佛の智慧を求む。
菩薩若し國を捨てて、佛法の中に出家し、精進を勤行せば、卽ち百の三昧を得、
能く百の諸佛を見たてまつり、百の國土を震動し、光明百國を照し、飛行も亦是の如くならん。
百土の衆生を化し、百の法門に入り、百劫の事を念知し、百身を示現し、能く百の菩薩を以て、
眷屬となして示現せん。

若し其れ願力を以てせば、是の數に過ぐること無量ならん。◎

〔三八〕今初地の義を明すに、但略を以て解說せり。若し廣說を欲せん者には、億劫にも盡すこと能はじ。

是れ初めの菩薩地にして、之を名けて歡喜と爲す。衆生を利益する者に、今已に分別し竟る。』

第二離垢地

〔三九〕一切の菩薩衆は、上地の義を說くを聞きて、其心皆淸淨にして、歡喜すること量有ること無く、各所坐の處に於て、踊りて虛空の中に住し、諸の上妙の華を以て、

金剛藏に散じ、

咸く皆稱讚して言はく、『善い哉金剛藏、大智無所畏にして、善く菩薩の地を說きたまふ』と。

解脫月大士、衆の心淸淨にして、第二地の、行相の所說を聞かんと欲するを知りて、即ち金剛藏に請ひたまはく、『大智よ願はくは、第二地の行相を解說したまへ、一切皆聞かんと欲す。』

〔四〇〕金剛藏菩薩、解脫月菩薩に語りて言はく、

〔四一〕『佛子よ、菩薩摩訶薩、已に初地を具足して第二地を得んと欲せば、當に十種の直心を生ずべし。何等をか十と爲す。一に柔輭心、二に調和心、三に堪受心、四に不放逸心、五に寂滅心、六に直心。

【三八】後の二偈は說を結ぶ。
【三九】第二離垢地、讚請の頌。
【四〇】正しく本地を說く、三段あり。
【四一】第一、發起淨を明かす。

七に不雜心、八に貪吝無き心、九に勝心、十に大心なり。菩薩は是の十心を以て第二地に入ることを得。

（四二）菩薩、離垢地に住すれば、自然に一切の殺生を遠離し、刀杖を捨棄し、瞋恨の心無く、慚有り愧有り。一切衆生に於て慈悲心を起し、常に樂事を求め、尙ほ惡心をもつてすら衆生を惱まさず、何に況んや害を加へんをや。諸の劫盜を離れ、資生の物は常に止足を知り、若し物の他に屬し、他の受用する所は、是の物の中に於て與へざれば取らず。邪婬を離れて自ら妻色に足り、他の女人に於て一念をも生ぜず。妄語を離れ、常に眞實語し、諦語し、（四三）隨語し、乃至夢中にすら尙ほ妄語せず、何に況んや故に作さんをや。兩舌を離れて（四四）破壞の心無く、鬪諍に於て離散したる人の中に於て常に好んで和合せしめ。惡口を離れ、所有る言語の麤獷にして苦惡なるは、自ら其の身を壞り、亦他を壞る。是の如き等の語は、皆悉く捨離し。（四五）無義の語を離れて常に自ら言說す可き所の、應作と不作とを守護し、常に時語、利益語、順法語、籌量語を知り、乃至戲笑すら尙ほ犯す所無し、何に況んや故に作さんをや。他物を貪らず、若し物の他に屬し、他の攝用する所には、是の念を作さず、「我當に之を取るべし」と。瞋害の心を離れて、常に衆生に於て愛潤の心、慈悲の心を求め、占相を離れて正見を習行し、決定して深く罪福の因緣を信じ、諂曲を離れて誠に三寶を信じ、決定の心を生ず。

【四二】第二、自體淨を明かす、中に於て初に攝律儀戒を說く。

【四三】隨語。隨時語の義にして、時機に應ずる語なり。

【四四】破壞の心無く。人を離間せしむる心なきをいふ。

【四五】無義語。又は綺語雜穢ともいふ、眞實の義なく巧みに飾りたる語なり。

（四六）菩薩は是の如く常に善道を護りて、是の思惟を作さく、「一切衆生の惡道に墮する者は、皆十不善の道に由る。我當に自ら善法に住すべし。亦當に人の爲めに諸の善法を説き、正行の處を示すべし。何を以ての故に。若し人自ら善を行ぜずして、他の爲めに法を説き善に住せしめんは、是の處有ること無し」と。又深く思惟すらく、「十不善の道を行ぜば、則ち地獄、畜生、餓鬼に墮ち、十善の道を行ぜば、則ち人處、乃至有頂に生ぜん。又是の十善道は智慧と和合して修行す。若し心劣弱にして少功德を樂ひ、三界を厭ひ畏れ、大悲の心薄く、他に隨ひて法を聞かば、聲聞乘に至らん。若し是の十善道を行じ、他に從ひて聞かずして自然に知ることを得、大悲の方便を具足すること能はざるも、而も能く深く衆の因緣法に入らば、辟支佛乘に至らん。若し是の十善道を行じて清淨に具足し、其の心廣大なること無量無邊にして、衆生の中に於て大慈悲を起し、方便力を有し、志願堅固にして、一切の衆生を捨てず、佛の大智慧を求め、菩薩の諸地を淨め、諸の波羅蜜を淨め、深廣の大行に入らば、則ち能く佛の十力、四無所畏、四無礙智、大慈大悲を得、乃至一切種智を具足し、諸佛の法を集めん。是の故に我應に十善道を行じて一切智を求むべし」と。

【四六】次に攝善法戒を明かす。
【四七】次に攝衆生戒を明かす。

（四七）是の菩薩は復た是の思惟を作さく、「此の十不善道は、上なる者は、地獄の因緣、中なる者は畜生の因緣、下なる者は餓鬼の因緣なり。中に於て殺生の罪は能く衆生をして地獄、畜生、餓鬼に墮せしむ。

若し人中に生せば二種の果報を得ん、一には短命、二には多病なり。劫盜の罪も亦衆生をして三惡道に墮せしむ。若し人中に生せば二種の果報を得ん。一には貧窮、二には共財自在を得ず。邪婬の罪も亦衆生をして三惡道に墮せしむ。若し人中に生せば二種の果報を得ん、一には婦貞潔ならず、二には意に隨はざる眷屬を得。妄語の罪も亦衆生をして三惡道に墮せしむ。若し人中に生せば二種の果報を得ん、一には多く誹謗せられ、二には人の爲めに誑かさる。兩舌の罪も亦衆生をして三惡道に墮せしむ。若し人中に生せば、二種の果報を得ん、一には弊惡の眷屬を得、二には不和の眷屬を得。惡口の罪も亦衆生をして三惡道に墮せしむ。若し人中に生せば二種の果報を得ん。一には常に惡音を聞き、二には言說す可き所恒に諍訟有り。無義語の罪も亦衆生をして三惡道に墮せしむ。若し人中に生せば二種の果報を得ん、一には所有る語言を人信受せず、二には所有る言說は明了なる能はず。貪欲の罪も亦衆生をして三惡道に墮せしむ。若し人中に生せば二種の果報を得ん、一には多欲、二には厭足有ること無し。瞋惱の罪も亦衆生をして三惡道に墮せしむ。若し人中に生せば二種の果報を得ん、一には常に一切の爲めに其の長短を求められ、二には常に衆人の爲めに惱害せらる。邪見の罪も亦衆生をして三惡道に墮せしむ　若し人中に生せば二種の果報を得ん、一には邪見の家に生れ、二には其の心諂曲なり。諸の佛子、是の如く十不善道は皆是れ衆苦大聚の因緣なり。」

菩薩は復た是の念を作さく、「我何の故に是の十不善の道を離れて十善道を行じ、亦他人をして此の

善道を行ぜしめざる」と。是の如く念じ已りて、即ち十不善の道を離れて十善道に安住し、亦他人をして善道に住せしむ。是の菩薩は、爾の時に一切衆生に於て、安隱心・樂心・慈心・悲心・哀愍心・利益心・守護心・師心・大師心・自己心を生じ。是の念を作さく、「是の諸の衆生は邪見に墮し、邪心に隨逐し、邪險の道を行ず、甚だ哀愍す可し。我應に彼をして正見の道、如實の法の中に住せしむべし。是の諸の衆生は常に共に鬪諍して彼我を分別す。我應に彼をして大慈に住せしむべし。是の諸の衆生は常に財物を貪りて厭足有ること無く、恒に邪命を以て自ら生活せり。我應に彼をして清淨の身口意業に住せしむべし。是の諸の衆生は貪欲瞋恚愚癡に隨逐して、常に種種の煩惱の大火の爲めに燒然せられて、出要の方便を志求すること能はず。我應に彼をして煩惱の火を滅し、清涼の處に置かしむべし。是の諸の衆生は常に無明の爲めに覆はれて大黑闇に入り、慧の光明を離れ、生死の大險道の中に入りて、種種無量の邪見に隨逐せり。我應に彼をして無障礙の清淨なる慧眼を得しむべし。是の眼を以ての故に、一切法の如實の相を知り、他に隨はずして一切如實の無障礙智を得。是の諸の衆生は、生死の道に墮し、將に地獄、畜生、餓鬼に墮せんとす、邪見の網に入り、種種の愚癡の叢林の爲めに覆はれ、虛妄邪道の徑路に隨逐して、常に愚癡の爲めに盲冥せられ、導師を遠離し、出要の道に非ざるを出要なりと謂ひ、魔心に隨順して佛意を遠離せり。我應に彼をして生死の險道艱難を度りて安處せしめ、一切智人の無畏の大城に住し、諸の衰惱無からしむべし。是の諸の衆生は諸の煩惱の瀑

水の爲めに沒せられ、欲と有と見と無明との四流に漂はされ、生死の流に隨ひて、大愛の河に入り、諸の煩惱の勢力の爲めに食はれ、出要の道を求むることを得る能はず、常に欲覺、恚覺、惱覺の惡蟲の爲めに害せられ、又水中にて身見の羅刹の爲めに執へられ、五欲の深流に入りて洄澓し、喜愛の淤泥の沒溺する所、我慢の陸地の燋枯する所となりて、歸趣する所無く、十二入の怨賊の聚落に於て出づることを得る能はず、導師の能く正しく度する者に遇はず。我應に彼に於て大慈悲を生じ、善根の力を以て之を拔濟し、安隱の處を得、諸の恐怖を離れ、一切智慧の寶洲に住せしむべし◎。是の諸の衆生は深く心に貪著し、多く憂悲苦惱の患難有り、憎愛に縛せられ、欲の械に繫がれ、三界の無明の稠林に入れり。我應に彼をして一切の三界の所著を遠離せしめ、離相無礙の涅槃に住せしむべし◎。是の諸の衆生は、深く我我所に著し、五陰の巢窟に於て、自ら出づること能はず、常に（四八）四倒に隨ひ、六入の空聚に依り、四大の毒蛇の爲めに侵害せられ、諸の煩惱の衆賊の爲めに殺されて、此の一切無量の苦惱を受く。我應に彼をして諸の貪著を離れ、寂靜に住せしむべし。所謂る一切の障礙を斷ちたる安隱の涅槃なり◎。是の諸の衆生は其の心狹劣にして、小法を樂ひ、無上なる一切智慧を遠離し、小乘に貪著し、大乘の（四九）出法を志求すること能はず。我應に彼をして廣大の心、無量無邊の諸佛の道法に住せしむべし、所謂る無上の大乘なり◎。諸の佛子よ、是の菩薩は是の如く持戒力に隨順し

【四八】四倒。身は不淨、受は苦、心は無常、法は無我なるも顚倒の見を起して淨樂我常なりと執するを四倒といふ。

【四九】出法。出離の法の義。

て能く廣く大慈悲心を生ず。

〔三〇〕是の菩薩は離垢地に住すれば、數百千萬億那由他の諸佛世尊を見たてまつることを得、衣被、飲食、臥具、醫藥、資生の物を以て之を供養し、諸佛の所に於て恭敬の心を生ぜり。復た十善道を受け、乃至阿耨多羅三藐三菩提を得て、終に中失せず。是の菩薩は若干百千萬億劫においても、慳貪破戒の垢を遠離するが故に、布施、持戒の功德を淨修す。譬へば眞金の之を錬るに火を以てすれば、一切の垢盡き、轉じて復た明淨なるが如し◎菩薩も亦復た是の如く、離垢地に住して、若しは千、百千、乃至無量百千萬劫にも、慳貪破戒の垢を遠離するが故に、布施、持戒の功德を淨修す。菩薩爾の時に四攝法に於て、愛語偏に多く、十波羅蜜には戒波羅蜜偏に勝り、餘の波羅蜜も亦皆修集し、地に隨ひて增長す。佛子よ、是を菩薩摩訶薩の第二離垢地と名く◎菩薩是の地に住すれば、多く轉輪聖王と作り、大法王と爲りて、廣く法力を得、七寶成就し、力自在有りて、能く一切衆生の慳貪破戒の垢を除き、善方便を以て、衆生をして十善道に住せしめ、大布施を爲して而も窮盡せず、作す所の善業は布施、愛語、利益、同事なり。是の諸の福德は皆佛を念ずることを離れず、法を念ずることを離れず、乃至具足一切種智を念ずることを離れず。常に是の心を生ずらく、「我當に一切衆生の中に於て、首と爲り、勝と爲り、乃至一切衆生の中に於て依止者と爲るべし」と。佛子よ、是の菩薩若し家を捨てて勤行精進せんと欲せば、佛法の中に於て便ち能く家・

【三〇】第三本地の果を明かす。

妻子・五欲を捨てん。出家することを得已りて、勤行精進せば、須臾の間に、千の三昧を得、千佛を見ることを得、千佛の神力を知り、能く千佛の世界を動じ、能く千佛の世界を飛び過ぎ、能く千佛の世界を照し、能く千世界の衆生を敎化し、能く住すること壽千劫にして、能く過去未來世の各千劫の事を知り、能善く千の法門に入り、能く身を變じて千と爲し、一一の身に於て能く千の菩薩を示し、以て眷屬と爲さん。若し願力を以てせば自在に示現し、此の數を過ぐること、百千萬億那由他劫にも計り知る可からず。』

【五一】爾の時に金剛藏菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

【五二】『菩薩二地に入らんには、柔輭と調和との心、堪受と不放逸と、寂滅と眞と不雜と、
亦貪吝有ること無く、勝と大とを悉く具足せよ、是の十心を得已れば、第二地に入る。

【五三】菩薩是の地に住すれば、諸の功德を成就し、常に殺生を離れ、一切を惱害せず。
常に劫盜を離れ、亦邪婬有ること無く、兩舌妄語せず、惡口無義の言なし。
他の所有の財物に、貪著を生ぜず、衆生を惱まさず、直心にして正見を行じ、
憍慢の心有ること無く、亦諂曲の意無く、柔輭にして放逸ならず、諸佛の敎を護持す。

【五一】重頌、二十六偈あり。
【五二】初の二偈は前の十種の直心を頌す。
【五三】次の四偈は攝律儀戒を頌す。
【五四】次の四偈は攝善法戒を頌す。

〔五四〕所有る劇しき苦惱も、地獄・畜生も・餓鬼の熾然の身も、皆惡心より有り。
我今已に永く、是の如き諸の惡事を離れ、眞實の道、寂滅の善法を行ず。
人より有頂に至るまで、所有る受樂の處と、禪定三乘の樂とは、皆十善より生ず。
是の如く思惟し已りて、心常に不放逸にして、身自ら淨戒を持ち、亦人を敎へて持たしむ。

〔五五〕徧く諸の衆生の、種種に苦惱を受くることを觀じ、是の如く愍念し已りて、轉た深き悲心を生ず。

【五五】次の八偈は攝衆生戒を頌す。

凡夫は甚だ愍む可し、諸の邪見に墮在し、心に多く瞋恨を懷き、常に好んで諍訟を起し、
常に五欲を樂ひ、貪り求めて厭くこと有る無く、三毒の因緣を起す、我應に此等を度すべし。
深く愚癡の闇に覆はれて、生死の險道に墮ち、大邪見の網に入りて、世の籠檻に墮つ。
常に諸魔の賊、煩惱の爲めに壞らる、此等は甚だ愍むべし、我應に之を度脫すべし。
深き煩惱の水に沒し、四流に漂轉せられ、具さに三界の、無量諸の苦毒を受け、
五陰の深巢に住して、我我所の心を生ず、我此の苦を度せんが爲めに、當に勤めて道を修行すべし。
無上の佛慧を捨てて、下劣の心を生せんには、佛の大智に住して、無量の精進を發さしめん。

〔五六〕菩薩此の地に住すれば、無量の功德を集め、諸佛に値遇することを得て、承事し供養せり。

是の因縁を以ての故に、善根轉た明淨となる、猶ほ好眞金の、之を鍊るに火力を以てするが如し。
佛子此の地に住すれば、多く轉輪王と作り、諸の衆生等をして、十善道に住せしめ、
初始の發心より、諸の福德を修集し、願はくは以て世間を救ひ、佛の十力を得しめんと。
若し王位を捨て、出家して學道を行ぜんと欲せば、勤心に精進を行じて、千の三昧に入ることを得ん。

【五六】 次の七偈は本地の果を頌す。

千佛を見ることを得て、供養し法を聽受せん、菩薩此の地に住すれば、能く是の如きの事を示す。
若し其れ願力を以てせば、諸の神通の事を示し、衆生を度脱すること、此の數に過ぐること無量ならん。
常に諸の世間の爲めに、勤めて好事を求むる者に、具足して此を解説せり、第二地已に竟る。」

巻の第二十五

十地品第二十二の三

第三明地

(一) 諸の菩薩は、是の不可思議の行を聞きて、心皆大いに歡喜し、恭敬すること量有る無し。
卽時に虛空の中に、衆の名華香を雨らし、雲の如く散下して、金剛藏を供養し、
咸く讃めて言はく『善い哉、善い哉金剛藏、善く諸の大人の、淨戒を護持する行を說きたまへり。

【一】第三地。讃請の頌。

一切の衆生に於て、深く哀愍の心有りて、是の、二地の行相を敷演し解說したまへり。
菩薩の微妙なる行は、眞實にして異り有ること無し、是れ諸の菩薩等の、淸淨の行足なり。
一切衆生の、常に好事を求むる者の爲めに、已に爲めに具さに、第二離垢地を演說したまへり。
天人の恭敬する者よ、願はくは第三地を說きて、善く智の所作と、菩薩の所行とを示したまへ。
願はくは諸の大人の、行ずる所の布施の德と、持戒及び忍辱と、精進の行と禪定と、
智慧の巧方便と、并及び慈悲心とを說きたまへ、云何んが是の法を行じて、諸佛の行を淨むるや。』

解脫月菩薩、金剛藏に請ひて言はく、『菩薩三地に入るには、當に何等の心を以てすべきや。』

(二)金剛藏菩薩、解脫月菩薩に語りて言はく、

(三)『佛子よ、諸の菩薩摩訶薩は第二地を淨め已りて、第三地を得んと欲せば、當に十種の深心を以てすべし。何等をか十と爲す。一に淨心、二に猛利心、三に厭心、四に離欲心、五に不退心、六に堅心、七に明盛心、八に無足心、九に勝心、十に大心なり、菩薩は是の十心を以て第三地に入ることを得。

(四)菩薩明地に住すれば、能く一切有爲法の如實の相を觀ず。所謂る無常、苦、無我、不淨なること、久しからざること、敗壞すること、信ず可き相にあらざること、不生不滅なること、前際より來らず、去りて後際に至らず、現在にも住せざることとなり。菩薩は是の如く一切有爲法の眞實相を觀じて、諸法の無作、無起、無來、無去なるを知る。而も諸の衆生は、憂悲、苦惱、憎愛に繫がれ、停積有ること無く、定生の處無く、但貪恚癡の火の爲めに然かれて、後世の苦惱の大聚を增長し、實性有ること無きは猶ほ幻化の如し。是の如きを見已りて、一切有爲の法に於て、轉じて復た厭離し、佛の智慧に趣く。是の菩薩は如來の智慧の思議す可からず、稱量す可からざるを知り、大勢力有りて、能く勝る者無く、雜相有ること無く、衰惱有ること無く、能く無畏安隱の大城に至り、能く無量の苦惱の衆生を救ふ、是の如く佛智の無量なるを見知し、有爲法の無量の苦惱を見て、一

【二】以下正說、四段あり。
【三】第一、起厭行（十種の深心）を明かす。
【四】第二、厭行（煩惱小心を厭離し廣く大心を求むること）を明かす。

切の衆生に於て轉じて殊勝の十心を生ず。何等をか十と爲す。衆生は愍む可し、孤獨にして救ふ無く、貧にして依止無く、三毒の火は熾然として息まず、三有の牢固なる獄に閉在し、常に煩惱諸惡の稠林に住し、正觀の力無く、善法の中に於て欲樂するの心薄く、佛の妙法を失ひ、而も常に生死の水流に隨順し、涅槃を怖畏す。是の菩薩は諸の衆生の是の如きの衰惱を見て、大精進を發すらく、「是の衆生等を我應に救ふべし、我應に解くべし、應に清淨ならしむべし、應に脫せしむべし、應に善處に著かしむべし、應に安住せしむべし、應に歡喜せしむべし、應に所宜を知らしむべし、應に得度せしむべし、應に苦を滅せしむべし」と。

（五）菩薩は是の如く一切有爲の法を厭離して、深く衆生を念ひ、一切智の無量の利益を見。卽時に佛の智慧を具へて、衆生を救度せんと欲して菩薩の道を勤行す。◎是の思惟を作さく、「此の諸の衆生は、大苦諸の煩惱の中に墮在す、何の方便を以てか之を拔濟し、永く畢竟の樂に住することを得しむべき」と。卽時に無礙解脫の智慧の中に住すと知る者は、乃ち此を得可し。是の無礙解脫の智慧は、諸法に通達する如實智、無行の行慧を離れず。是の如きの慧明は何れよりか得べき。當に知るべし、多聞決定の智慧を離れず。復た是の念を作さく、「一切の佛法は何を以て本と爲すや。聞法を離れざるを本と爲す」と。◎菩薩は是の如く知り已りて、一切の求法は、轉た精勤を加へ。日夜に聽受して厭足有ること無し。法を喜び、法を愛し、法に依り、

【五】以下方便攝生の行を明かす。

法に順じ、法を滿じ、法を辯じ、法を究竟し、法に歸し、法を救ひ、隨順して法を行ず。菩薩は是の如く方便して法を求め、所有る珍寶も遺惜する所無く、此の物の中に於て難想を生ぜず、但法を說く者に於てのみ難遭の想を生ず。法を求めんが爲めの故に、內外の物に於て捨つる能はざる無く、國土人民・摩尼七寶・象馬輦輿・象寶瓔珞・嚴身の具・妻妾男女・支節手足・身を擧げて施與して、愛惜する所無し。又法を求めんが爲めの故に、法を說く者に於て、盡心に恭敬し、供養し給侍して、憍慢、我慢、大慢を破除し、諸惡苦惱も悉く能く忍受す。深く法を求むるが故なり。若し一句の未だ曾て聞かざる法を得ば、三千大千世界の中に滿てる珍寶を得るにも勝らん。一偈を聞くことを得ば、轉輪聖王、釋提桓因、梵天王の處に、無量劫に住することを得るにも勝らん。是の菩薩は若し人有り來りて、是の如きの言を作さん、「我に佛の說きたまひし所の法一句有りて、能く菩薩の道を淨む。汝今若し能く大火坑に入りて大苦を受けなば、當に以て相與ふべし」と、是の菩薩是の念を作さく、「我一句の法を受けんが故に、設ひ三千大千世界の大火を中に滿たしむとも、尙ほ梵天より自ら投下せん、何に況んや小火をや。我盡く一切諸の地獄の苦を受けんも、猶ほ應に法を求むべし、何に況んや人中の諸の小苦惱をや」と。法を求めんが爲めの故に是の如き心を發せり。又所聞の法の如く心常に喜樂して悉く能く正觀す。

(六)是の菩薩は諸法を聞き已りて、其の心を降伏し、空閑の處に於て、心に是の念を作さく、「說の

【六】第三、禪定を修することを明かす。

如く行ずる者は、乃ち佛法を得ん。但口言のみを以ては是の處有ること無し」と。◎菩薩は是の如くにして卽ち欲惡不善の法を離れ、(七)覺有り觀有り、(八)離は喜樂を生じて初禪に入る。覺觀を滅し内淸淨にして、心一處に、覺無く、觀無く、(九)定は喜樂を生じて、二禪に入る。喜を離れ捨を行じて、念慧を成就し、身に樂を受け、諸の賢聖能く說き能く捨し、常に念じて(一〇)樂を受け、三禪に入る。苦樂を斷棄して、憂喜已に滅し、苦ならず樂ならず、(一一)捨を行じ淨を念じて四禪に入る。◎是の菩薩は一切の色相を過ぎ、一切の(一二)有對の相を滅し、一切の別異の相を念ぜざるが故に、無邊の虛空を知りて、卽ち虛空無色定處に入る。一切虛空の相を過ぎて無邊の識を知り、卽ち識無色定處に入る。一切の識相を過ぎて無所有を知り、卽ち無所有の無色定處に入る。一切の無所有處を過ぎて、非有想非無想の安隱を知り、卽ち非有想非無想の無色定處に入る。諸法の行に順じて而も樂著せず。

(一三)是の菩薩は慈心廣大にして無量なるを以て瞋恨無く、惱害無く、信解力を以て、徧く十方に滿つ。非喜捨の心も亦復た是の如し。◎菩薩は神通力を有して、能く大地を動かし、一身を多身と爲し、多身を一身と爲し、現沒し還出して石壁皆過ぐること、虛空を行くが如く、

【七】覺、觀とは、尋求伺察の定心なり。

【八】離とは總じて欲界の諸惡不善を離るること。

【九】定。既に尋伺なく心一處に住して淨水の波動なきが如くなれば定といふ。

【一〇】第三禪を離喜妙樂地といふ、第二禪の喜心踊動を離れて勝妙の樂を受く。

【一一】第四禪を捨念淸淨地といふ、前三禪の喜も樂も共に捨して心に憎愛なく一念平等にして淸淨無雜なり。

【一二】有對とは形質ある者の義なり。

【一三】第四、末地の果を明かす、中に二あり。初は行果。

虚空の中に於て跏趺して去ること、猶ほ飛鳥の如く、水を履むこと地の如く、地に入ること水の如く、身より煙燄を出すこと大火聚の如く、日月の威德も能く手を以て（三）捫摸して之を摩し、身力自在にして、乃し梵世に至る。是の菩薩の天耳は淸淨にして天人の耳に過ぎ、悉く人天の音聲の遠近なるを聞く。是の菩薩は他心智を以て、實の如く他心の欲心を知り、實の如く欲心と離欲心とを知り、實の如く離欲心・瞋心・離瞋心・癡心・離癡心・垢心・離垢心・小心・大心・廣心・狹心・亂心・無亂心・定心・不定心・縛心・解心・有上心・無上心を知り、實の如く有上心と無上心とを知る。是の菩薩は、宿命の諸の所生の處を念知す、一世二世、乃至百千萬億那由他世、一劫二劫、乃至百千萬億那由他劫、其の中の諸劫の無量の成壞、諸劫の中に於て經し所の因緣を、悉く能く念知す。我彼の處に生じ、是の如き種族、是の如き姓名、是の如き飮食、是の如き苦樂、是の如く久住し、我彼に於て死して此の間に生れ、此の間に於て死して、彼の間に生ると是の如きの種種なることを、悉く能く念知す。是の菩薩の天眼は、淸淨にして天人の眼に過ぎ、諸の衆生の此に死し彼に生ずるを見る。形色の好惡と、貧賤なると富貴なると、善惡の道に趣くことと、業に隨ひて報を受くることとを皆實の如く知る。所謂る是の諸の衆生は身の惡業、口の惡業、意の惡業を成就し、賢聖に拒み逆ひて、邪見の敎を受け、罪業の因緣を起すが故に、身壞し命終りて惡道に墮つ。是の諸の衆生は身の善業、口の善業、意の善業を成就して、賢聖

【三】捫摸、捫は撫で持つの意、摸は手にて索め捉るの意なり。

に逆はず、正見を信受し、善業の因縁を行ずるが故に、身壞し命終りて善處に生ぜんと。是の菩薩は諸の禪定解脫の三昧に於て、能く入り、能く出でて而も隨生せず、助菩提の法有る處には、願力を以ての故に、能く其の中に生ず。

(一五)是の菩薩は明地に住すれば、數百千萬億那由他の諸佛世尊を見たてまつり、恭敬供養し、尊重讃歎して、衣服、飮食、臥具醫藥をたてまつり、諸佛に親近して經法を聽受し、說の如く修行す。是の菩薩は諸法は不生不滅なるも衆緣をもつて有ることを觀じ、萬百千億劫に於て、集めし所の欲縛、有縛、無明縛は、皆悉く微薄となりて復た積集せず。積集せざるが故に、邪貪、邪瞋、邪癡を斷ず。譬へば眞金を巧師鍊治すれば轉た更に精好となり、光明倍勝るが如し。

【一五】後に位果を明かす。

菩薩も亦是の如く明地に住在すれば、三縛を集めざるが故に、邪貪、邪瞋、邪癡を斷じ、一切の善根は轉た增して明淨となる。是の菩薩の忍辱の心、美妙の心、不壞の心、不動の心、不濁の心、不高下の心、一切の所作に報を望まざるの心、他の少しく所作有るにも當に報を生ずべきの心、諂曲せざるの心、染亂せざるの心は轉た勝れて明淨となる。◎菩薩爾の時に四攝法に於て、愛語・利益偏に多く、十波羅蜜には忍辱波羅蜜と精進波羅蜜と偏に勝れて、餘の助菩提の法も皆轉た明淨となる。諸の佛子よ、是を菩薩の第三地を略說すと名く。◎菩薩是の地の中に住すれば、多く釋提桓因と作り、智慧猛利にして、能く方便を以て諸の衆生を轉じ、婬欲を離れしめ、作す所の善業は布施・

愛語・利益・同事にして、皆佛を念ずることを離れず、法を念ずることを離れず、乃至具足一切種智を念ずることを離れず、常に是の心を生ずらく、「我當に一切衆生に於て、首と爲り、勝となり、乃至一切衆生に於て依止者と爲るべし」と。是の菩薩若し勤行精進せんと欲せば、須臾の間に於て能く十萬の三昧を得、乃至能く十萬の菩薩を示し、以て眷屬と爲さん。若し願力を以てせば、神通自在にして此數に過ぐること、若干百千萬億那由他劫にも計り知る可からず。』

(一六)時に金剛藏菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

(一七)『菩薩の深信の心は、能く第三地を得、清淨猛利の心は、欲を厭離して退かず。

堅く堪受して厭くこと無く、勝大悉く具足す、是の如き等の心を以て、三地に入ることを得。

(一八)智者は明地に住して、有爲作の法を觀ずるに、不淨・無常・苦、無我・壞敗の相にして、牢固の性有ること無く、久しからずして念念に滅す。是の如く思惟して、來去の相有ること無しと知る。

諸の有爲法を見るに、病の如く癰瘡の如し、愛心に纏縛せられ、諸の憂悲の苦を生ず。

但貪恚癡の、猛火の爲めに焚燒せられて、無始世より來、熾んに然えて常に息まず。

【一六】重頌、三十五偈あり。

【一七】初の二偈は起厭行を頌す。

【一八】次の二十四偈は厭行を頌す。

即時に一切の、三界に於て厭離を生じ、惡賤なる有爲の法は、心に貪著する所無し。
但諸佛の智をのみ求むるに、無量にして邊限無く、甚深にして思議し難く、淸淨にして諸の苦無し。
是の如く佛智を見て、諸の苦惱を無くし已り、諸の衆生を哀愍すらく、「貧窮にして福慧無く、
三毒の火常に然え、救護する者有ること無く、地獄の中に墮在して、無量の苦に切られ、
放逸なる凡夫人は、諸の煩惱の海に沒し、盲冥にして所見無く、諸佛の法寶を失ひ、
常に生死の流に隨ひ、怖るる無きに空しく怖畏す、我是の衆生に於て、當に勤めて之を度脫せしむべし」と。

精進して智慧を求め、饒益を作さんと爲す者は、思惟すらく「何の方便をもつてか、以て救護することを得可き。
唯諸の如來の、深妙なる無礙智あるのみ。此の智は何をか因と爲す、無行の行慧より生ず。
思惟は是れ智慧にして、多聞より起る」と。是の如く籌量し已りて、勤めて多く法を聞かんことを求む。

日夜常に精進し、聽受して厭ひ倦むこと無く、讀誦して法を愛樂し、唯法のみを以て貴しと爲す。
法を求めんと欲するが爲めの故に、諸の珍寶等、親愛する所の妻子、意に隨ふ諸の眷屬、
國土及び城邑、資生の諸の寶物を以て、歡喜して施し與へ、心に戀著する所無し。

頭目耳鼻舌、牙齒及び手足、支節身血肉、心肝及び髓腦、
此等を以て人に施すも、猶ほ以て難しと爲さず、若し正法を聞くことを得んは、是は爲甚だ希有なり。

假令一人有り、此の菩薩に語りて言はん、「汝今若し能く、是の大いなる猛火聚に入らば、然る後に當に汝に、諸佛の說きたまひし所の法を與ふべし」と、聞き已りて卽ち歡喜し、自ら投じて疑ひ有ること無し。

設ひ三千界の、大火を其の中に滿てしめ、須彌梵世より下るとも、以て難しと爲すに足らず。

若し一句の、諸佛所說の法を求めて、諸の苦惱を救はんと爲す者は、之を得ること甚だ難しと爲す。

【一九】次の二偈は得定及び行果を頌す。

初始の發心より、乃し佛道を成ずるに至るまで、我其の中間に於て、此の諸劫の數を盡して、法を求めんと欲するが爲めの故に、備さに阿鼻の苦をも受けん、何に況んや人間の、小小なる諸の苦惱に於てをや。

〔一九〕聽法の因緣を以て、能く正憶念を得、正憶念の因緣をもつて、能く諸の禪定を生じ、
深妙の等三昧、及び五神通の事は、次第に皆能く起り、自在にして隨生せず。

〔二〇〕菩薩是の地に住せば、能く決定の心を以て、多く諸佛を供養したてまつり、所說の法を聽受し、
邪なる愛と恚と癡とを斷ち、諸縛悉く微薄となり、猶ほ錬金を成すが如く、調和して其の所を得ん。
菩薩是の地に住せば、福德藏充滿して、多く忉利王と作り、自在に婬欲を化せん。
佛の功德を愛するが故に、無量の衆を化導して、悉く能く、無上の佛道の中に住することを得しめん。
菩薩是の地に住して、能く柔輭の心を以て、勤行精進せば、百千の三昧を得、
百千の諸佛の、相好莊嚴の身を見たてまつり、其の心は轉た猛利にして、願力なれば殊に勝れん。
常に諸の衆生の、好事を勤求する者の爲めに、此の第三明地を、分別し解說し竟る。』

【二〇】次の六偈は位果を頌す。
【二一】第四燄慧地。讚請の頌。

第四燄慧地。

〔二一〕諸の佛子は、是の如き地行の義を說くを聞き、深妙にして量有ること無く、心皆大いに歡喜し、
衆の名華香を散じて、如來を供養したてまつり、地及び大海の水は、悉く皆大いに震動せり。
天の諸の婇女等は、上の虛空中に於て、同じく微妙の音を以て、此の正法を歌頌せり。
他化自在王は、聞き已りて大いに歡喜し、摩尼の寶珠を雨らし、以て佛の上に散じ、
踊躍し稱讚して言はく、『善い哉佛出世したまひて、功德藏を流布し、我等を利益したまふ。

我今此の、菩薩の地行の義を說くを聞けり、是の事は百千劫にも、聞き難きを而も聞くことを得たり。

願はくは更に後地を說きて、諸の天人を利益したまへ、僉く皆喜んで、地を得る諸行の義を聞かんと欲す』と。

解脫月菩薩、重ねて金剛藏に請ひたまはく、『願はくは諸の菩薩の爲めに、四地に至るの行を說きたまへ。』

(二二)金剛藏菩薩、解脫月菩薩に語りて言はく。

(二三)『佛子よ、諸の菩薩摩訶薩は三地を淨め已りて、第四地を得んと欲せば、當に十の法明門を以てすべし。何等をか十と爲す。一に衆生界を觀察し、二に法界を觀察し。三に世界を觀察し。四に虛空界を觀察し、五に識界を觀察し、六に欲界を觀察し。七に色界を觀察し、八に無色界を觀察し。九に勝信解界を觀察し、十に(二四)大心界を觀察す、菩薩は此の十の法明門を以て第四地に入ることを得。

(二五)菩薩燄地に住すれば、卽ち如來の家に於て轉た勢力有り、內法を得るが故に十種の智有り。何等をか十と爲す。一に心退轉せず。二に三寶の中に於て不壞の信を得。淸淨にして畢竟す。三に修習

【二二】正しく本地を說く、四段あり。

【二三】第一、入地の方便を明かす。

【二四】大心界。二乘の小心と異りて普く一切の衆生を攝取して捨てざるが故に大心界といふ。

【二五】第二、初めて此の地に入る出障の行を明かす。

して生滅を觀ず。四に諸法は本來不生なることを修習す。五に常に世間の成壞を修習す。六に業の因緣の故に生有ることを修習す。七に生死と涅槃門との差別を分別することを修習す。八に衆生の業の差別を修習す。九に前際後際の差別を修習す。十に現在は常に滅して住せざることを修習す。是の十智の心を行ずれば、則ち佛家に生じて轉た勢力を得。

(二六)佛子よ、菩薩摩訶薩、是の第四地に住すれば、(二七)內身循身觀を觀じ、精勤して一心に世間の貪憂を除く。(二八)外身循身觀を觀じ、精勤して一心に世間の貪憂を除く。內外身循身觀を觀じて、精勤して一心に世間の貪憂を除く。(二九)內受外受、內外受、內心、外心、內外心、內法、外法、內外法の循法觀を觀じ、精勤して一心に世間の貪憂を除く。◎(三〇)是の菩薩は未だ生ぜざる惡不善の法を、生ぜざらしめんが爲めの故に、勤めて精進して、發心し正斷す。已に生じたる諸の惡不善の法を斷せんが爲めの故に、勤めて精進して、發心し正斷す。未だ生ぜざる諸の善法を生ぜんが爲めの故に、勤めて精進して、發心し正行す。已に生じたる諸の善法を住して失はず、修滿し增廣せんが爲めの故に、勤めて精進して、發心し正行す。◎是の菩薩は四如意足を修行す。

【二六】第三、對治の修行增長することを明かす。

【二七】內身循身觀、內身とは有情の色身をいふ、循は巡歷の義にして四肢五體を次第に觀察して不淨なるを知り、貪愛の執を離るるなり。

【二八】外身。自身の外に在るもの卽ち非情物なり、內身は我愛、外身は我所の愛を離るるなり。

【二九】受は苦なり、次の心は無常なり、次の法は無我なりと觀ず。此の身受心法の觀を四念處觀と名く。

【三〇】次に四正勤（又は四正斷）を明かす。

(二一)欲定にて斷の行を成就して、如意足を修し、厭に依止し、離に依止し、滅に依止し、涅槃に回向す。精進定、(二二)心定、慧定にて斷の行を成就して、如意足を修し、厭離滅に依止し、涅槃に回向す。◎是の菩薩は(二三)信根、精進根、念根、定根、慧根を修行して、厭離滅に依止し、涅槃に回向す。◎是の菩薩は(二四)信力、精進力、念力、定力、慧力を修行して、厭離滅に依止し、涅槃に回向す。◎是の菩薩は、(二五)念覺分、擇法覺分、精進覺分、喜覺分、猗覺分、定覺分、捨覺分を修行して、厭離滅に依止し、涅槃に回向す。◎是の菩薩は(二六)正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定を修行して、厭離滅に依止し、涅槃に回向す。◎是の菩薩は衆生を捨てざる心を以ての故に行じ、本願の助を以ての故に、大悲を首と爲すが故に、大慈念の故に行ず。一切智を攝せんが爲めに、佛國を莊嚴せんが爲めに、佛の諸の力無畏と不共の法と、三十二相と、八十種好とを具へんが爲めに、音聲を具足せんが爲めに、佛の深解脱に隨順せんが爲めに、大智慧方便を思惟せんが爲めの故に行ず。

(二七)諸の佛子よ、菩薩燄地に住すれば、所有る身見等の著、我著、衆生著、人壽者、知者、見者の著、五陰、十二入、十八界に起す所の、屈伸卷舒出沒、推求心の所行、

【二一】欲定。欲は樂欲の義にして、不善を對治せんと樂欲して心を一境に住せしむるが故に欲定といふ。此の定力に因りて能く煩惱を斷ずるが故に斷の行といふ。

【二二】心定。又は意定といひ、專心に一境を守るをいふ。

【二三】次の五を五根といふ、此の五行によりて善の萌芽を生じ、能く見道を生ずるが故なり。

【二四】次の五を五力と稱す、惡を斷破する力強きが故なり。

【二五】次の七を七覺分又は七覺支と稱す。

【二六】次の八を八正道と稱す。

【二七】第四、本地の果を明かす、初に行果。

愛著の寶重、所見を歸と爲し洲と爲すを皆悉く斷滅す。是の菩薩は轉た倍精進し、智慧の方便の生ずる所の助道法は、修行する所に隨ひ、心轉た柔和にして有用に堪忍し、疲倦有ること無く、轉た上法を求めて智慧を增益し、一切の世閒を救ひ、諸師に隨順し、恭敬して教を受け、所說の如く行ず。是の菩薩は、爾の時に恩を知り、報恩を知り、心轉た和善にして、同止し安樂なり、直心、柔輭心にして、邪曲有ること無く、正定の行を行じて、憍慢有ること無く、教誨に隨順して說者の意を得、是の如くして、善心、輭心、寂滅心、忍辱心を具足し、地の諸法を淨め、思惟し修行す。是の菩薩は、爾の時に不轉の精進、不捨の精進、不染の精進、不壞の精進、不厭倦の精進、廣大の精進、無邊の精進、猛利の精進、無等等の精進、救一切衆生の精進を成ず。是の菩薩は是の如き精進を修習し、直心淸淨にして深心を失はず、信解明利にして、善根增長し、世閒の垢濁不信を遠離し、皆已に滅盡して疑ふこと無く、悔ゆること無く、現前に具足して、一切の佛の大信解の事に於て厭はず捨てず、自然に習樂して、無量の心常に現在前せり。

〔三八〕菩薩第四燄地に住すれば、能く數百千萬億那由他の諸佛世尊を見たてまつりて、恭敬供養し、尊重讚歎して、衣服飮食、臥具醫藥をたてまつり、諸佛に親近し、一心に法を聽き、能く信じて奉持し、多くは佛の所に於て出家して道を修む。是の菩薩の樂心、深心は淸淨となり、信解平等にして、轉た更に明了となり、住壽多劫なり。若干百千萬

【三八】後に位果を明かす。

億那由他劫に善根轉た勝れたり。上眞金を莊嚴具と爲せば、餘金の及ばざるが如し。是の如く菩薩は此の燄地に住すれば、善根轉た增して、下地の菩薩の及ぶこと能はざる所なり。譬へば摩尼珠の、光明淸淨にして能く四方を照し、餘寶は及ばず、水雨漬澆するも、光明滅せざるが如し。菩薩燄地の中に住すれば、下地の菩薩の及ぶ能はざる所なり。一切の諸魔及び諸の煩惱も、皆壞すること能はず。諸の佛子よ、是を菩薩の第四燄地を略說すと名く。菩薩是の地の中に住すれば、多く須夜摩天王と作りて衆生を敎化し、我心を破り、作す所の善業は布施・愛語・利益・同事にして、皆佛を念ずることを離れず、法を念ずることを離れず、乃至具足一切種智を離れず。常に是の心を生ずらく、「我當に一切衆生に於て、首と爲り、勝と爲り、乃至一切衆生に於て依止者と爲るべし」と。是の菩薩、若し勤行精進せんと欲せば、須臾の間に百億の三昧を得、乃至百億の菩薩を示現して、以て眷屬と爲さん。若し願力を以てせば、自在に示現し此の數に過ぐること、若干百千萬億那由他劫にも計り知る可からず。」

(三九)爾の時に金剛藏菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

(四〇)『諸の菩薩具足して、明地を修治し已りて、諸の衆生と、法と及び世界と、
虛空と識と欲と色と、無色と勝信解と、大心とを觀察して淸淨なるが故に、第四地に入ることを得。

【三九】重頌、二十九偈あり。
【四〇】初の二偈は入地の方便を頌す。

（四一）即ち如來の家に於て、增長して勢力を得、佛道を退かず、三寶において信を壞らず。
諸法は生滅し、一切は本來空なりと觀じ、世間の成敗を知り、業に隨ひて生ずること有り。
衆生の業の差別せると、生死涅槃の異ると、法の先後際と、常に滅して住せざるの相とを觀ず。

（四二）諸の大菩薩等は、是の如き法を得已りて、諸の衆生を哀愍し、身受心法、
內外の四念處を習し、厭離に依止し、亦寂滅に依止し、涅槃に回向す。
惡法を除滅するが故に、善法增長することを得、四正勤を習行し、四如意足を修し、
五根を習行し、及以五力を修し、七覺意を修習し、八聖道を行ず。
是の如き法を修習するは、皆衆生の爲めの故にして、本願に助けられ、
慈悲心を首と爲す。
一切智を攝して、諸の佛土を莊嚴し、十種の力と、無畏と不共の法と、
諸の音聲言說と、甚深なる妙道の法と、及び無礙の解脫と、大智慧
方便とを成就せんが爲めなり。

（四三）身見に從ふを首と爲し、六十二見等、衆生及び我人、壽命・智・見者、
諸の陰界入の、所貪著の處に於て、是の第四地を得れば、皆悉く已に滅離す。
諸の煩惱業を斷ち、其の心轉た明淨となりて、諸の作す所の善業は、皆世間を救はんが爲めなり。

【四一】次の三偈は出障の行を頌す。
【四二】次の七偈は對治の修行增長することを頌す。
【四三】次の九偈は行果を頌す。

菩薩の柔輭心は、常に放逸と爲らず、正直の意を用ふるに堪へ、衆生を利せんことを求む。
此の如く求むる所の事は、皆無上道の爲めにして、大智慧の職位も、世閒を利益せんが故なり。
深心に師を敬養し、說の如く修行せんことを樂ひ、恩を知り恩に報ゆる者は、化し易くして瞋恨無し。
邪曲の心有ること無く、柔和にして同止し樂しむ、是の如き法を修習し、精進して退轉せず。
菩薩是の地に住すれば、深き直心を失はず、淨心と信解とは、諸の善根を增長す。
世閒の諸の垢濁、不信疑悔の事、是の如き等の諸法は、皆悉く除滅することを得。

(四四)諸の菩薩是の、第四燄地の中に住すれば、無量の佛に値ひたてまつることを得、所說の法を諦受し、
是の諸佛の所に於て、出家して沮壞すること難し、眞金の莊嚴は、餘金の及ばざる所なるが如し。
菩薩是の地に住すれば、諸の功德・深心、智慧及び方便、行ずる所の淸淨道は、
乃至千億の魔も、皆壞すること能はざる所なり、眞妙の明珠の、水雨の爲めに敗られざるが如し。
菩薩是の地に住すれば、天人に供養せられ、多く夜摩王と作りて、能く諸の邪見を轉ず。
作す所の諸の善業は、皆佛の智慧の爲めにして、其の心は常に堅固にして、動轉することを得可からず。

【四四】次の七偈は位果を頌す。

若し勤行精進せば、百億の三昧を得、能く百億の佛を見たてまつらん、願力なれば則ち是に過ぎん。
是の如き第四地の、清淨なるを名けて燄と爲す、無量の福慧の者に、今已に解說し竟る。』

第五難勝地。

（四四）諸の菩薩は、是の第四地の行法を聞きて、心に皆喜悅を懷き、踊躍すること量有ること無し。
天の衆の寶華を雨らし、雰雰として雪の下るが如し、咸く讚めて言はく『善い哉、金剛藏大士』と。

他化自在の王は、諸の眷屬等と、上の虛空の中に於て、心皆大いに歡喜し、衆の妙光明を放ち、天の諸の妓樂を作し、佛の功德と、及び諸の菩薩衆とを歌歎したてまつる。

【四五】第五難勝地。讚請頌。

天の諸の婇女等は、各淸妙なる音を以て、同聲に佛を稱讚したてまつりて、是の如きの言を說り。
『世尊の久遠より來、勤苦して求め願ひたまふ所は、無上の正眞道にして、今に於て始めて乃ち得たまへり。
天人を利益する者は、久しくして乃ち、釋迦牟尼佛を見奉ることを得ん、今天の宮に至りたまふ。
久遠より已來、大海の相始めて動き、久遠の無量の世より、今に乃ち妙光を放ちたまふ。
衆生久遠よりして、今始めて安樂を得、久しくして乃し方に、大慈悲の德音を聞くことを得たり。

諸の功德の岸に度り、久遠にして今乃ち、聖王に値ひたてまつり能く悉く、憍慢我心等を破る。無比にして恭敬す可く、而も今供養したてまつることを得、能く諸天の道を開き、一切智を得しめたまふ。

世尊は甚だ淸淨にして、無量なること虛空の如く、世法に染まざること、蓮華の水に在るが如し。世に處して最も高大なるは、猶ほ巨海の中の、須彌大山王の如し、是の故に歡喜して禮したてまつる』と。

是の如く諸の天女は、各衆妙の音を以て、敬心に歌頌し已り、默然として佛を觀たてまつる。解脫月菩薩、金剛藏に請うて言はく、『願はくは五地の、行相を得るの因緣を說きたまへ。』

(四六)金剛藏菩薩、解脫月菩薩に語りて言はく、

(四七)『佛子よ、菩薩摩訶薩は、已に第四地を具足して第五地を得んと欲せば當に十の平等心を以てすべし。何等をか十と爲す。一に過去佛の法平等、二に未來佛の法平等、三に現在佛の法平等、四に戒淨平等、五に心淨平等、六に除見疑悔淨平等、七に道非道淨平等、八に行知見淨平等、九に諸の菩提分法轉勝淨平等、十に化衆生淨平等なり。菩薩は是の十の平等心を以て、第五地に入ることを得。菩薩難勝地に住すれば、善く菩提の法を修するが故に、深心淸淨なるが故に、轉た勝道を求むるが故に、則ち能く佛を

【四六】以下正しく本地を說く、三段あり。
【四七】第一、勝慢を對治することを明かす。

得。是の菩薩は大願力を得るが故に、慈悲心一切を捨てざるが故に、念慧の道力を得るが故に、福慧を修習して捨てざるが故に、方便を出生するが故に、轉た勝れたる道、上地の明觀法を得んと欲するが故に、諸佛の神力の所護を受くるが故に、定不退の心を生ずるが故なり。

〔四八〕實の如く是れ苦聖諦、是れ苦集諦、是れ苦滅諦、是れ苦滅道諦なりと知る。是の菩薩は善く世諦を知り、善く第一義諦を知り、善く相諦を知り、善く差別諦を知り、善く說諦を知り、善く事諦を知り、善く生起諦を知り、善く盡無生諦を知り、善く入道諦を知り、善く一切の菩薩の次第に諸地を成就して起す如來の智諦を知る。菩薩は衆生の意に隨ひて歡喜せしむるが故に世諦を知る。一乘を究竟するが故に第一義諦を知る。諸法の自相を分別するが故に相諦を知る。諸法各異なるが故に差別諦を知る。陰界入を分別するが故に說諦を知る。身心の苦惱を以ての故に苦諦を知る。諸の趣生相續するが故に集諦を知る。畢竟じて一切の惱を滅するが故に滅諦を知る。不二の法に至るが故に道諦を知る。一切種智を以て、一切の法は次第に一切の菩薩地を成ずることを知るが故に、如來の智諦を知る。信解力を以ての故に知る。無盡諦智を得るに非ず。菩薩は是の如く此の諸の諦智を以て、實の如く一切有爲の法は虛僞誑詐にして、假りに住すること須臾にして、凡夫を誑惑することを知る。菩薩爾の時に衆生の中に於て大悲轉た勝れ、大慈の光明を生ず。是の如き智慧力を得て、一切衆生を捨てず、常に佛の智慧を求めて、實の如く一切有爲の法

【四八】第二、不住道の行勝れたることを明かす。

の先際と後際とを觀じ、衆生は先際の無明有愛に從ふが故に、生れて生死に流轉し、五陰の歸處に於て、動發すること能はずして、苦惱の聚を增すことを知る。是の中に我無く、我所無く、衆生無く、人無く、知者無く、壽命の者無く、後際も亦復た是の如し。是の如く所有無きに、而も愚癡のものは貪著して、究竟じて出づること有ると、出づること無きとを知らず。又是の念を作さく、「凡夫衆生は甚だ爲（四九）怪む可し。無明癡の故に、無量の身有り、已に滅し今滅し當に滅すべし。是の如く生死して身に於て厭離の相を生ずること能はず、轉た更に五道の苦輪を增長し、生死の水に漂ひ、反ることを得る能はず。五陰の舍に歸りて捨離すること能はず。四大の毒蛇を知らず畏れず。憍慢見の箭を拔出すること能はず。貪恚癡の火を滅除すること能はず。無明愚癡を破壞すること能はず。愛著の大海を乾し竭すこと能はず。十力の大聖導師を求めず。常に魔の意に隨ひて、生死の城に於て、常に諸の惡覺觀の爲めに轉ぜらる。是の如き苦惱孤窮の衆生は救ふ者有ること無く、舍す者有ること無く、究竟じて道く者有ること無し。唯我一人のみ、獨り等侶無く、福慧を修習し、是の資糧を以て、此の衆生をして、畢竟淨に住し、乃至一切法の中に、無礙の智力を得しむべし」と。是の如く思惟して正觀に從つて智力を生じ、發願すらく、「作す所の一切の善根は、皆衆生を度せんが爲めの故に、一切衆生の爲めに安樂を求めんが故に、一切衆生を利益せんが爲めの故に、一切衆生を解脫せしめんが

【四九】怪む可しとは衆生は苦を受けて而も厭離せず、又無所有の中に於て貪著を生ずるが故に怪む可しといふ。

爲めの故に、一切衆生の苦惱を無くせんが爲めの故に、一切衆生の麤惡を無くせんが爲めの故に、一切衆生の心を淸淨にせんが爲めの故に、一切衆生を調伏せんが爲めの故に、一切衆生の諸の憂惱苦を滅して、其の願を滿せしめんが爲めの故に」と。

〔五〇〕「是の菩薩難勝地に住すれば、諸法を忘れざるが故に、名けて念者と爲す。決定智慧の故に、名けて智者と爲す。經書の意の次第を知るが故に、名けて有道の者と爲す。自ら護り彼を護るが故に、名けて有慚愧の者と爲す。持戒を捨てざるが故に、名けて堅心の者と爲す。善く是處と非處とを思惟するが故に、名けて覺者と爲す。他に隨はざるが故に、名けて隨智の者と爲す。善く諸法の章句義を分別するが故に、名けて隨慧の者と爲す。善く禪定を修するが故に、名けて得神通の者と爲す。世閒法に隨ひて行ずるが故に、名けて方便の者と爲す。善く福德の資糧を集むるが故に、名けて無厭足の者と爲す。常に智慧の因緣を求むるが故に、名けて不捨の者と爲す。大慈大悲の因緣を集むるが故に、名けて疲倦無き者と爲す。常に正しく憶念するが故に、名けて破戒を遠離する者と爲す。深心に佛の十力、四無所畏、十八不共法を求むるが故に、名けて常に佛法を念ずる者と爲す。常に衆生の惡を離れ善を修することを念ふが故に、名けて佛國を莊嚴する者と爲す。諸の福德莊嚴、三十二相、八十種好を種うるが故に、名けて種種の善業を行ずる者と爲す。佛の身口意を莊嚴せんことを求むるが故に、名けて常に精進を行ずる者と爲す。一切法を說

【五〇】第三、果の勝れたることを明かす、初は行果。

く菩薩を供養するが故に、名けて大恭敬を樂ふ者と爲す。一切菩薩の方便の中に心癡ふること無きが故に、名けて心無癡の者と爲す。常に衆生を教化せんことを樂ふが故に、名けて晝夜餘心を遠離する者と爲す。菩薩は是の如く行ずる時、布施を以て衆生を教化し、愛語・利益・同事をもつても亦衆生を教化し、又色身を以て示現して衆生を教化し、亦說法を以て衆生を教化し、亦諸の菩薩の行事を示して衆生を教化し、亦諸佛の大事を示して衆生を教化し、亦生死の過惡を示して衆生を教化し、亦諸佛の智慧の利益を示して衆生を教化す。菩薩は是の如く修習して、大神力と種種の因緣の方便道とを以て衆生を教化す。是の菩薩は種種の因緣をもつて方便すと雖も、心常に佛に在りて善根を失はず。又復た常に轉た勝れたる衆生を利益するの法を求む。是の菩薩は衆生を利益せんが故に、世間の所有る經書、技藝、文章、算數、金石の諸性、病を治する醫方、〔五一〕乾消、癲病、〔五二〕鬼著、蠱毒等、妓樂、歌舞、戲笑、歡娛、國土、城郭、聚落、室宅、園林、池觀、華果、藥草、金銀、瑠璃、珊瑚、琥珀、硨磲、碼碯、諸の寶聚を知り。日月五星、二十八宿、吉凶を占相すること、地動、夢怪、身中の諸相を示す。布施持戒をもつて其の心を攝伏し、禪定、神通、四無量心、四無色定、諸の衆生を安んじ、惱亂せざる事を知る。衆生を哀愍するが故に、此の如き法を出して諸佛の無上の法に入らしむ。

【五一】乾消。身體の四大調はざる狀態にして、諸種の疾病なり。

【五二】鬼著。狐狸、死靈等に魅せらるること。

〔五三〕菩薩、難勝地に住すれば、數百千萬億の佛に値ひたてまつり、恭敬供養し、尊重讃歎し、衣服飲食、臥具醫藥をたてまつり、親近して法を聽き、法を聞きて出家し、法師と爲り、法を說きて利益し、轉た勝れたる多聞の三昧を得、乃至百千萬億劫を過ぐるも、而も忘失せず、一切の福德善根は、轉た勝れて明淨となる。譬へば眞金を成鍊し、硨磲をもつて磨瑩すれば、其の光轉た勝るが如し。菩薩、是の地の中に住すれば、方便智慧の力の故に、功德善根轉た淨明にして勝れ、下地は及ばざるなり。又日月星宿、諸天宮殿は風持して去らしめず、法度を失はざるが如く、是の如く菩薩難勝地に住すれば、方便を以て思惟するが故に、福德善根は轉た倍明淨にして而も證を取らず、亦疾かに無上道を成ぜず。佛子よ、是を菩薩の難勝地を略說すと名く。菩薩是の地の中に住すれば、多く兜率陀天王と作り、諸根猛利にして悉く能く一切の外道を摧伏し、所作の業有るは、布施・愛語・利益・同事にして、皆佛を念ずることを離れず、法を念ずることを離れず、乃至具足一切種智を念ずることを離れず、常に是の心を生ずらく、「我當に一切衆生に於て首と爲り勝と爲り、乃至一切衆生に於て依止者と爲るべし」と。佛子、是の菩薩、若し勤行精進せんと欲せば、須臾の間に能く千億の三昧を得、乃至能く千億の菩薩を示して以て眷屬と爲さん。若し願力を以てせば神通自在にして、復た是の數に過ぐること、若干百千萬億劫にも計り知る可からず。」

〔五四〕時に金剛藏菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰く、

【五三】後に位果を明かす。
【五四】重頌三十九偈あり。

〔五五〕「諸の菩薩は、四地の行法を具足し已りて、三世の佛を思惟し、戒と心と疑悔を除くと、
道非道と知見と、菩提と化衆生と、是の如きを平等に觀じて、第五地に入ることを得。
五念處を弓と爲し、信五根を箭と爲し、四正勤を馬と爲し、四如意を車と爲し、
五力を以て鎧と爲し、諸の煩惱の賊を破り、勇健にして退轉せざれば、直に第五地に入る。
慚愧を無垢の衣とし、淨戒を以て香と爲し、七覺を華鬘と爲し、禪定を塗香と爲し、
智慧と方便とをもつて、種種に念じて莊嚴す、是の如くなれば則ち、陀羅尼の園林に入ることを得。
四如意を足と爲し、正念を頭項と爲し、慈悲は明淨の眼、利き智慧を牙と爲し、
空無我を以て吼え、諸の煩惱の賊を破る、是の如きの人師子は、能く第五地に入る。
是の菩薩已に、第五地に住することを得て、轉た勝淨の法を修するは、皆佛道の爲めの故なり。
常に慈悲心を行じて、未だ曾て厭倦有らず、常に此の、第五地の行法を修習せんが爲めなり。
深く二の資糧なる、福德と及び智慧とを集め、種種の方便力をもつて、
上地の觀法を明む。◎

〔五六〕常に佛の爲めに護られ、念慧を成ずることを得て、次第に能善く觀じ、實の如く諸諦を知る。苦集滅と正道と、世相と第一の事と、說と生起と差別と、無生と如來智となり。是の如く諸諦を觀ずれば、心は微妙清淨となりて、未だ能く無障礙の解脫を、逮得す

【五五】初の十一偈は勝慢對治を頌す。
【五六】次の十三偈は不住の道を頌す。

ること能はずと雖も、
能く智慧と、及與信力と有るを以ての故に、一切世間の諸の智慧に、勝ることを得たり。
是の如く諸諦を觀じて、悉く有爲の法は、虚僞にして眞實ならず、一として堅固なる相無しと知り、
能く諸佛の、慈悲光明の分を得、諸の衆生の爲めの故に、專心に佛慧を求め、
有爲の先後を知るに、衆生は甚だ愍む可し、無明の闇に墮在し、愛の因緣に繋がる。
是の菩薩は能く、世間の苦惱を滅し、法の壽者無きこと、猶ほ草木等の如しと知る。
衆生は常に二の、煩惱の因緣を以ての故に、先世より來る、後世も亦是の如し。
相續して斷絶せず、苦の邊を盡すこと能はず、此に於て愍傷を生ずらく、「我當に之を度脱すべし。
五陰を出づること能はず、四大の害を畏れず、諸の邪箭を拔かず、三毒の火を滅せず。
無明の闇を除かずして、大愛の海に墮在し、智慧の眼有ること無し、大導師を離るるが故に」と。
是の如き事を知り已りて、轉た勤精進を加へ、所作の起業有るは、皆衆生を度せんが爲めにす。

【五七】 次の七偈は地果を頌す。

【五七】常に正念慧に住し、道有り慚愧有り、堅心にして覺は智に從ひ、
轉た更に增益せしむ。
福慧を修して厭くこと無く、戒を保ちて羸弱ならず、多聞を求めて倦むこと無く、正しく修して
佛土を淨め、

種・相好・音聲、因緣厭足無し、作す所の諸の善業は、皆衆生を利せんが爲めにす。
世間を利せんが爲めの故に、經書等を造立し、金石の性・醫方、歌舞戲笑の事、
堂閣及び園林、衣服諸の飲食、種種の寶聚を示し、衆をして歡喜を得しめ、
日月五星、及び二十八宿、地動・吉凶の相を占ひ、夢書諸の怪事をしり、
布施淨戒等、欲を離れ禪定を修し、四無量・神通は、世間を安樂にせんが故なり。

(五八) 大智慧の菩薩、此の難勝地を得れば、萬億の佛を供養したてまつり、佛に從ひて法を聞き、

【五八】 次の七偈は果勝を頌す。

修する所の諸の善根は、悉く皆明淨なることを得、猶ほ硨磲の寶をもつて、眞金を瑩磨するが如し。
譬へば寶宮殿の、風持して法を失はざるが如く、世法も染せざる所、蓮華の水に在るが如し。
菩薩是の地に住すれば、多く兜率王と作り、諸根轉た猛利となり、諸の外道の見を破る。
作す所の諸の善根は、皆佛智慧の爲めにし、佛力と無畏とを得て、能く諸の衆生を度す。
是の菩薩は、轉た勝れたる精進力を勤修し、卽ち能く千億の、深妙なる諸の三昧を得、
千億の佛を供養したてまつり、千億の世界を動かす、其の所願の力に隨はば、是の數に過ぐること無量ならん。◎
是の如き第五地の、種種諸の方便は、上智慧の大人に、法の如く解說し竟れり。』

卷の第二十六

十地品第二十二の四

【一】第六現前地。讃請の頌。

第六現前地。

(一)諸の菩薩は、上地の行相を說くを聞き、虛空の中に在りて、衆の妙珍寶を雨らし、清淨なる光明を放ちて、世尊を供養したてまつり、咸讃めて言はく、『善い哉、善い哉金剛藏』と。無量億の諸天、心皆大いに歡喜し、上の虛空の中に於て、種種の珍寶を雨らし、光明相ひ綺錯し、微妙にして甚だ樂しむ可く、香華と諸の瓔珞と、旛蓋とを佛の上に散せり。他化自在王は、諸の眷屬等と與に、衆の妙寶物を雨らし、雰雰として雪の下るが如し、佛を歌頌し供養したてまつり、金剛藏を稱歎し、咸讃めて言はく『善い哉、快く諸地の行を說きたまへり』と。千萬億の天女は、上の虛空の中に於て、天の衆の妓樂を作して、佛の功德を歌歎し、咸是の如きの言を作さく、『如來の說きたまふ所は、微妙にして量有ること無く、能く諸の煩惱

を滅す。

諸法の本性は空にして、毫末の相有ること無く、空は分別有ること無く、同なること虚空の若如し。

去住の相有ること無く、亦戯論有ること無く、本來常に清淨にして、如如無分別なり。

若し人能く、一切諸の法性に通達せば、有に於ても無の中に於ても、其の心動搖せじ。

但大悲の心を以て、諸の衆生を度せんが爲めなり、是を諸佛の子と名け、佛口の法より生ず。

常に布施を行じて、諸の衆生を利益し、本來清淨なりと雖も、戒を持ちて心を堅くす。

本より心は無傷なりと雖も、而も忍辱を行じ、法性の離を知ると雖も、而も精進を行じ、

先に煩惱を滅すと雖も、而も諸禪に入り、先に法空を解ると雖も、而も諸法を分別し、

寂滅の智多しと雖も、而も世間を利せんことを求め、能く諸の惡を滅する者は、之を名けて大人と爲す』と。

是の如く諸の天女は、百千種の妙音をもつて、稱讃し歌頌し已りて、默然として佛を觀たてまつる。

解脱月菩薩、金剛藏に請ひて言はく、『當に何の行相を以てか、第六地を成ずることを得べき』と。

【二】正しく本地を説く。三段あり。

(三)金剛藏菩薩の言はく、

㊂「佛子よ、菩薩摩訶薩は已に五地を具足して第六地に入らんと欲せば、當に十の平等法を以てすべし。何等をか十と爲す。一に無性を以ての故に、一切の法は平等なり。二に無相を以ての故に、一切の法は平等なり。三に無生を以ての故に、一切の法は平等なり。四に無滅を以ての故に、一切の法は平等なり。五に本來淸淨なるを以ての故に、一切の法は平等なり。六に戲論無きを以ての故に、一切の法は平等なり。七に不取不捨なるを以ての故に、一切の法は平等なり。八に離を以ての故に、一切の法は平等なり。九に幻、夢、影、響、水中の月なるを以ての故に、一切の法は平等なり。十に有無は不二なるを以ての故に、一切の法は平等なり」。菩薩は是の十の平等法を以て第六地に入ることを得。菩薩は是の如く一切法の性を觀じて、能く忍し隨順して、第六地を得。無生法忍は未だ現前せずと雖も、心已に明利の順忍を成就す。

㊃是の菩薩は一切法の是の如き相を觀じて、大悲を首と爲し、大悲を增長するが故に、世間の生滅の相を觀じ、㊄是の念を作さく、「世間の所有る受身生處は、皆我に貪著するを以ての故なり。若し我に著することを離れなば、則ち生處無し。一切の凡夫は常に邪念に隨ひ、邪妄の道を行じ、愚癡に盲ひられ、我に貪著して三行を習起す。罪行と、福行と、不動行となり。是の行を以ての故に、有漏心の種子を起す。有漏有取の心の故に、生死の身を起す。所謂る業を田と爲

【三】第一、勝慢對治を明かす、中に十平等を顯はす、初の八は無を以て有を破し、次の一は有を以て無を破し、後の一は有無雙破す。

【四】第二、不住道行の勝れたることを明かす、中に二あり、初に初住地に就て明かす

【五】以下正住地に就て不住行を明かす、十門あり

し、識を種子と爲し、無明覆蔽し、愛水を潤と爲し、我心漑灌して、種種の諸見增長することを得しめ、名色の芽を生ず。名色に因るが故に諸根を生ず。諸根合するが故に觸有り。觸より受を生ず。受を樂ふが故に愛を生ず。愛增長するが故に取有り。取の因緣の故に有有り。有に於て五陰の身を起すを名けて生と爲す。五陰の衰變するを名けて老と爲す。五陰の滅するを名けて死と爲す。老死の因緣には、憂悲熱惱、衆苦の聚集すること有り。是の十二因緣には集むる者有ること無く、散ずる者有ること無し。緣合すれば則ち有り、緣散ずれば則ち無し」と。菩薩は是の如く六地の中に於て、隨順して、十二因緣を觀ず◎又是の念を作さく、「實の如く第一義を知らざるが故に無明有り。無明は業を起す、是を行と名く。行に依りて初識有り。識と共に生じて四取陰有り。取陰に依止して、名色有り。名色成就して六入有り。根塵合するが故に觸有り。觸の因緣にて受を生ず。受を貪樂するを名けて愛と爲す。愛の增長するを名けて取と爲す。取より業を起すを名けて有と爲す。業の報たる五陰を名けて生と爲す。五陰の變ずるを名けて老と爲す。五陰の壞するを名けて死と爲す。死して別離する時、貪著し心熱するを名けて悲と爲す。聲を發して啼哭する五識を苦と爲す。意識を憂と爲す。憂苦轉た多きを名けて惱と爲す。是の如くして但大苦の積聚を生ずるのみ。是の十二因緣には我無く、我所無く、作る者無く、作らしむる者無し。若し作者有れば則ち作事有り。若し作者無ければ則ち作事無し。第一義の中には作者無く作事無し」と◎又是の念を作さく、「三界は虛妄にして、但是れ一心の作なり。

十二緣分は是れ皆心に依る。所以は何ん。事に隨ひて欲心を生ず。是の心は卽ち是れ識なり、事は是れ行なり。行は心を誑すが故に無明と名く。識の所依の處を名色と名け、名色の增長するを六入と名く。㈥三事和合して觸有り。觸の共生するを受と名く。所受に貪著するを名けて愛と爲す。愛して捨てざるを名けて取と爲す。彼和合するが故に、名けて有と爲す。有の起す所を名けて生と爲す。生の變ずるを名けて老と爲す。老の壞するを名けて死と爲す。又無明に二種の作有り、一には緣中の癡なり、二には行の爲めに因と作るなり。行にも亦二種の作有り、一には未來世の果報を生ず、二には識の與めに因と作る。識にも亦二種の作有り、一には能く生を受けしむ、二には名色の與めに因と作る。名色にも亦二種の作有り、一には諸趣をして相續せしめ、二には六入の與めに因と作る。六入にも亦二種の作有り、一には能く六塵を緣ず、二には能く觸の與めに因と作る。觸にも亦二種の作有り、一には能く所緣に觸れしめ、二には能く受の爲めに因と作る。受にも亦二種の作有り、一には憎愛の事を覺り、二には愛の與めに因と作る。愛にも亦二種の作有り、一には可染の中に於て貪心を生ず、二には取の與めに因と作る。取にも亦二種の作有り、一には能く煩惱を增長す、二には有の與めに因と作る。有にも亦二種の作有り、一には能く餘道の中に於て生ぜしめ、二には生の與めに因と作る。生にも亦二種の作有り、一には能く五陰を起す、二には老の與めに因と作る。老にも亦二種の作有り、一には諸根をして熟せしめ、二には死の與めに因と作る。

【六】三事、根と境と識となり。

死にも亦二種の作有り、一には五陰の身を壞し、一には見知せざるを以ての故に而も相續して絶えざらしむ。又無明は諸行に緣るとは、無明に行をして斷せざらしめ、助けて行を成ずるが故なり。行は識に緣るとは、識をして斷せざらしめ、助けて識を成ずるが故なり。識は名色に緣るとは、名色をして斷ぜざらしめ、助けて名色を成ずるが故なり。乃至生は老死憂悲苦惱に緣るとは、死をして斷せざらしめ、助けて死を成ずるが故なり。無明滅するが故に則ち諸行も滅す。乃至生滅するが故に老死憂悲苦惱も滅す。因滅するが故に果も亦滅す。又無明と愛と取と、是の三分の斷ぜざるは煩惱道なり。行・有の二分の斷ぜざるは業道なり。餘の因緣分の斷ぜざるは苦道なり。先後際相續するが故に、是の三道斷ぜず。是の三道は我我所を離れて、而も生滅有り。又無明及び行は是れ過去世の事なり。識・名色・六入・觸・受は是れ現在世の事なり。愛・取・有・生・老死は是れ未來世の事なり。是に於て、三世の轉ずる有り。無明滅するが故に、諸行も滅するを、名けて三世の相續を斷ずる說と爲す。又十二因緣を說きて三苦と名く。無明・行・識・名色・六入を名けて行苦と爲す。觸・受を名けて苦苦と爲す。愛・取・有・生・老死・憂悲苦惱を名けて壞苦と爲す。無明滅するが故に諸行も滅す、乃至、生滅するが故に老死も滅するを、名けて三苦の相續を斷ずる說と爲す。又無明に依りて諸行を生ず。無明滅すれば諸行も滅す。諸行の性は空なるを以ての故なり。餘も亦是の如し。無明の因緣にて諸行生ずとは、生縛を以て說く。無明滅するが故に諸行滅すとは、滅縛を以て說く。餘も亦是の如し。又無明の因緣にて諸行生ずとは、

是れ隨順無所有觀の說なり。無明滅すれば諸行滅すとは、是れ隨順盡觀の說なり。餘も亦是の如し。
是の如く逆順に十種をもつて十二因緣の法を觀ず。所謂る因緣分の次第と、心の所攝と、自助成の法と、相捨離せざると、三道に隨ひて行ずると、先後際を分別すると、三苦差別すると、因緣より起ると、生滅の縛と、無所有盡觀となり。

(七)是の菩薩は十二因緣に隨ひて、我無く、人無く、衆生無く、壽命者無く、作者と使作者とを離れ、主無くして衆の因緣に屬す。是の如く觀ずる時に、空解脫門現じて前に在り。此の事を滅すれば、餘は相續せざるが故に、無相解脫門現じて前に在り。此の二種を知りて更に有を樂はず、唯大悲の心をもつて、衆生を敎化すれば、無願解脫門現じて前に在り。菩薩は三解脫門を修行すれば、彼我の相を離れ、作者受者の相を離れ、有無の相を離る。悲心轉た增し、悲心を以ての故に、勤行精進して、未だ滿せざる菩提の法を滿足せんと欲す。菩薩は是の念を作さく、「有爲の法は和合の故に增し、離散すれば則ち滅す。緣具はるが故に增し、具はらざれば則ち滅す。我有爲法の過を知るが故に、應に和合すべからず。諸の因緣を具して衆生を化するが故に、亦畢竟じて有爲法を滅せず」と。菩薩は是の如く有爲の法は無性にして、堅固の相を離れ、生無く滅無しと知り、大慈悲と和合して、衆生を捨てず、卽ち無障礙の般若波羅蜜を得て、光明は現じて前に在り。是の智慧を得、具足して阿耨多羅三藐三菩提の因緣を修習し、而も有爲法に住せず、有

【七】第三、果の勝れたることを明かす、初は行果、後は位果。

爲法の性は寂滅の相なりと觀じ、亦其の中にも住せず。無上菩提の法を具足せんと欲するが故なり。菩薩現前地に住すれば、勝空三昧・性空三昧・第一義空三昧・究竟空三昧・大空三昧・合空三昧・生空三昧・如實離虛妄空三昧。略空三昧・離分別不分別空三昧を得、是の如き等の萬の空三昧門現じて前に在り。無相・無願三昧も亦是の如し。是の菩薩、現前地に住すれば、深心・決定心・眞心・甚深心・不轉心・不捨心・廣心・無邊心・樂智心・慧方便和合心、是の如き等の心轉た勝れて増長し、阿耨多羅三藐三菩提に隨順して、一切の論師も、傾動すること能はず。智地に入りて、聲聞・辟支佛地を轉じ、決定して佛智に向ひ、一切の衆魔及び諸の煩惱の、壞ること能はざる所なり。菩薩の智慧明の中に安住して、空・無相・無願の解脫門を修し、專ら智慧の方便を以て、助菩提の法を行ず。是の菩薩、現前地に住すれば、般若波羅蜜に於て偏に勝れ、明上の順忍を得。是の法に順ずるを以て違逆有ること無し。

(八)菩薩現前地に住すれば、數百千萬億の佛を見たてまつることを得、恭敬し供養し、尊重し讃歎して、衣服飲食、臥具醫藥をたてまつり、諸佛に親近し、諸佛の所に於て正法を聽受し、說の如く修行し、佛を歡喜せしむ。是の人は轉た勝れて佛の法藏を知り、乃至無量百千萬億劫に一切の善根轉た妙にして明淨となる。譬へば眞金の瑠璃を以て磨瑩するに、光色轉た勝るるが如く、菩薩現前地に住すれば、慧方便を以ての故に、一切の善根轉た勝れて明淨となり、餘地は及ばざるなり。譬へば月明かにして、能く衆生の身をして清涼なるを得しめ、

【八】次に位果を明かす。

（九）四種の風吹くとも能く遏絶すること能はざるが如く、菩薩現前地に住すれば、善根轉た勝れて、能く衆生の煩惱の火を滅し、四種の惡魔も壞すること能はざる所なり。諸の佛子よ、是を菩薩の現前地を略說すと名く。菩薩是の地に住すれば、多く善化自在天王と作り、智慧猛利にして、能く一切の增上慢の者を破り、聲聞の問難は窮盡すること能はず。施作する所有るは、布施、愛語、利益、同事にして、皆佛を念ずることを離れず、法を念ずることを離れず、乃至一切種智を念ずることを離れず。常に是の心を生ずらく、「我當に一切衆生の中に於て首と爲り、勝と爲り、乃至一切衆生に於て、依止者と爲るべし」と。是の菩薩、若し勤行精進せんと欲せば、須臾の間に於て、百千億の三昧を得、乃至能く百千億の菩薩を示して以て眷屬と爲さん。若し願力を以てせば、能く是の數に過ぎて若干百千萬億劫にも計り知る可からず。』

（一〇）時に金剛藏菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰く、

（一一）『諸の菩薩は已に、五地の行を具足することを得て、諸法は無性にして、相も無く生滅も無く、
本來常に清淨にして、諸の戲論有ること無く、諸法は常に相を離れ、取らず亦捨てず、
性の空なること猶ほ幻の如く、二を離れて分別無しと知り、是の如きの行に隨順すれば、第六地に入ることを得◎

【九】四種風。四時の風を次の四魔に喩ふ、春の和風（煩惱魔）夏の炎風（蘊魔）秋の金風（死魔）冬の寒風（天魔）なり。
【一〇】重頌、三十九偈あり。
【一一】初の三頌は勝慢對治を頌す。

（三）明利の順忍に住すれば、智慧の力を以ての故に、一切の、世間の生滅の相を觀察す。
悉く諸の世間は、皆無明に從つて有り、無明若し滅すれば、則ち世間有ること無しと知り、
因緣の法を觀察し、第一義に隨順して、而も緣の報たる、所作及び假名を壞せず。
如實には作者無く、亦受者有ること無し、是の如く有無を觀ずるに、雲の如く實の事無し。
眞諦の義を知らざる、之を名けて無明と爲す、事に從へば則ち思を生じ、身口の業は行の果なり。
行に從ふが故に識有り、即ち名色を生ず、是の如く次第して、生死の苦惱の聚を起す。

【三】次の二十偈に不住道を頌す。

三界は、但貪心に從つて有りと了達し、十二因緣は、一心の中に有りと知る。
是の如くなれば則ち生死は、但心より起る、心若し滅することを得ば、生死も則ち亦盡きん。
無明に二種の作あり、癡に緣りて業を作す、乃至老死に於て、五陰の聚を壞散す、
此の事邊に從はば、具さに苦惱を生じ、是の事若し盡きなば、苦惱も則ち亦滅せん。
無明若し具足せば、相續は則ち滅せず、因緣若し盡きなば、相續も則ち亦斷えん。
無明及び愛取は、即ち是れ煩惱の道なり、行及び有は是れ業なり、餘の分は則ち是れ苦なり。
癡と行とを過去と爲し、識・名色・六入と、觸と受とは是れ現在なり、餘は則ち未來世なり。
癡・業・識・名色と、六入とを名けて行と爲し、觸・受は是れ苦苦にして、餘の分は則ち是れ壞なり。

癡は衆緣より生じ、則ち餘の諸の縛有り、衆緣若し滅せば、諸の縛も則ち亦斷えん。
因よりして果を生ず、因滅すれば則ち果も滅す、是の如く諸法を觀ずるに、自性は則ち皆空なり。
無明に隨順すれば、則ち諸の世間有り、若し能く隨順せざれば、是れ則ち有を斷つ、是れに從へば則ち是れ有り、是れ無ければ則ち是れ無し。
是の如きの十種の觀は、甚深の因緣の法なり。
因緣分は次第し、去來及び現在に、作は一心を捨てず、分別するに三道有り。
三種の苦差別し、生滅は縛法に於てし、無所有と及び盡とは、能く逆順の觀を行ず。

【三】菩薩は是の如く、十二因緣の法を入れば、空の如く夢幻の如く、作者も受者も無し。

【三】次の六偈半に行果を頌す。

是の如く因緣を觀じて、智者は空を修し、事滅して相續せず、無相の行に入る。
此の二の虛假なるを知り、中に於て所願無く、但大悲の心を以て、愍んで衆生を度す。
是の如き諸の大士は、解脫門を修習して、悲心をもつて佛を愛樂し、無量なる諸の功德あり。
諸の有爲の法は、皆和合によりて有りと知り、萬の空三昧と、無相・無願の定とを得て、智慧轉た增進し、上の順忍に入り、
諸の菩薩の、無癡の智解脫を得て、是の如き諸の善根は、轉た勝利明淨となる。

(一四)無量の佛を供養したてまつり、諸佛に稱讚せられ、諸の如來の所に於て、出家して佛道を學び、諸佛の法藏に入り、善根轉た增長す。猶ほ瑠璃の寶をもつて、眞金を瑩磨するに、光明轉た清淨となり、餘の及ぶ能はざる所なるが如し。

月の虛空を行くに、清涼一切に被り、四種の風に吹かるるも、能く遏絕せしめざるが如し。菩薩の智慧の光も、諸の煩惱の火を滅し、四魔も壞すること能はず、其の義も亦是の如し。

菩薩是の地に住すれば、多く善化王と作り、諸根悉く猛利にして、能く增上慢を破り、作す所の諸の善業は、皆悉く智慧に隨ひ、聲聞の諸の問難も、窮盡することを得る能はず。

是の佛子若し、是の如く勤めて精進せんと欲せば、須臾にして卽ち能く、百千億の三昧を得ん。百千億の、十方の世界の佛を見たてまつること、秋の清涼の時に、月の光明淨好なるが如し。◎

是の如き第六地は、深妙にして知見し難く、聲聞の了らざる所なり、大士に略して說き竟れり』

第七遠行地

(一五)爾の時に諸の天衆は、虛空の中に在りて、香華珍寶を雨らし、雲の如く佛の上に散じ、

【一四】次の八偈半は位果を頌す。
【一五】第七遠行地・讚請の頌。

踊躍して妙音を發し、咸讃めて言はく『善い哉、善い哉金剛藏、善く第一義を知りたまふ。
無量の功德聚なる、人中の蓮華は、此の上妙の行を説きて、諸の世間を利益したまふ。』
他化自在王は、光明寶華を雨らし、雰雰として、憂と煩惱とを除きたまへる者を供養したてまつる。
諸天及び天王は、咸是の如きの言を發すらく、『若し此地の義を聞かば、則ち爲大利を得ん』と。
時に百千種の、上妙なる諸の妓樂を作せり。
諸の天女は稱讃すらく、『佛の神力を承くるが故に、諸佛は最も寂滅にして、能く惡を轉じて善と爲したまふ。
一切諸の世間の、皆共に恭敬する所、世間を出過すと雖も、而も世間の法を示し、身は實相に同じと知りて、而も種種の身を示したまふ。
諸の言音を以て、寂滅の法を演説すと雖も、而も語言に於て、音聲の相有ること無しと知りたまふ。
能く百千の土を過ぎて、上妙をもつて諸佛に供へ、智身と佛の國土とは、相を離れて智自在なり。
衆生を敎化すと雖も、而も彼我の想無く、廣く大功德を集め、中に於て著を起さず。
見相を取るを以ての故に、三毒の火世を然くも、一切の相を取らざれば、慈悲精進を起したまふ。』
諸天及び天女は、歡喜して供養を設け、是の如く讃歎し已りて、默然として佛を觀たてまつる。
解脱月菩薩、金剛藏に請うて言はく、『大衆は皆清淨なり、願はくは七地の行を説きたまへ。』

(二六)金剛藏菩薩の言はく、

(二七)『佛子よ、菩薩摩訶薩は、已に第六地を具足して、第七地に入らんと欲せば、方便慧に從ひて、十の妙行を起すべし。何等をか十と爲す。善く空・無相・無願を修して、而も慈悲心を以て、衆生に處在し。諸佛の平等法に隨ひて、而も諸佛を供養することを捨てず、常に樂ひて空智門を思惟して、而も廣く福德の資糧を修習し。三界を遠離して、而も三界を莊嚴し、畢竟じて諸の煩惱の燄を寂滅して、而も衆生の爲めに貪恚癡の煩惱の燄を滅する法を起し、諸法の幻の如く、夢の如く、水中の月の如き。不二の相に隨順して、而も分別の種種の煩惱を起し、及び業の果報を失はず、一切の佛の國土は、空なること虛空の如く、皆是れ相を離ると知りて、而も國土を淨むる行を起し、一切の佛の法身は、身無しと知りて、而も色身の三十二相、八十種好を起し、以て自ら莊嚴し。諸佛の音聲は不可說にして、寂滅の相なることを知りて、而も一切に隨ひて、種種の莊嚴の音聲を起し。諸佛は一念の中に於て、三世に通達したまふと知りて、而も種種の相、種種の時、種種の劫に、阿耨多羅三藐三菩提を得、衆生の信解に隨ひて、是の如きの說を作したまふと知る、是を慧方便より十の妙行を生ずと名く。菩薩摩訶薩、此の妙行を修すれば、是の如き方便慧現前するが故に、名けて七地に入ると爲す。

(二八)是の菩薩七地に住すれば、無量の衆生界に入り、無量なる諸佛の衆生を敎化する法に入り。無

【二六】以下正しく本地を說く、五段あり。

【二七】第一、趣地の方便を明かす。

【二八】第二、障對治を明かす。

量の世界に入り。諸佛の無量なる清淨の國土に入り。無量なる諸法の差別に入り。無量なる諸佛の智の無上道を得るに入り。無量なる諸劫の數に入り。無量なる諸佛の三世に通達するに入り。無量なる衆生の欲樂の差別に入り。無量なる諸佛の色身の別異に入り。無量なる諸佛の衆生の志行、諸根の差別を知るに入り。無量なる諸佛の音聲、語言、衆生をして歡喜せしむるに入り。無量なる衆生の心心の所行の差別に入り。無量の諸佛の智意に隨ふ行に入り。無量の聲聞乘を示す信解に入り。諸佛の無量に道の因緣を說きて、衆生をして信解せしむるに入り。無量の辟支佛の智慧習成するに入り。諸佛の無量なる甚深の智慧の所說に入り。諸の菩薩の無量なる諸行の道に入り。諸佛の無量なる所說の大乘は、事を習成して衆生をして得入せしむるに入る。菩薩は是の念を作さく、「是の如く諸佛は、無量無邊の大勢力を有ちたまふ。是の如きの勢力を我應に修習すべし。此の勢力を得るは分別を以てせず」と。菩薩は是の如く智慧をもつて思惟し、大方便の慧を修習して、佛智に安住す。不動の法を以ての故なり。

【一九】第三、雙行の勝を明かす。

(一九)常に種種に衆生を度する道を起して、障礙有ること無し。行住坐臥皆悉く能く衆生を度する法を起し、諸陰の蓋を離れ、諸の威儀に住し、常に是の如き想念を遠離せず。是の菩薩は念念の中に於て、十波羅蜜、及び十地の行を具足す。何を以ての故に。是の菩薩は念念の中に於て、大悲を首と爲して佛法を修習し、一切を大智慧に回向するが故なり。十波羅蜜とは、菩薩は佛道を求めて修する所の善根を以て、一切の衆生に與ふ。是れ檀波

羅蜜なり。能く一切の煩惱の熱を滅す。是れ尸波羅蜜なり。慈悲を首と爲し一切衆生の心に於て、傷くる所無し、是れ羼提波羅蜜なり。善根を求めて厭足無し、是れ毗梨耶波羅蜜なり。道を修するの心散せず、常に一切智に向ふ、是れ禪波羅蜜なり。諸法の不生門を忍む、是れ般若波羅蜜なり。能く無量の智門を起す、是れ方便波羅蜜なり。轉た勝れたる智慧を求む、是れ願波羅蜜なり。諸魔外道も沮壞すること能はず、是れ力波羅蜜なり。一切の法相に於て實の如く說く、是れ智波羅蜜なり。是の如く念念の中に十波羅蜜を具足す。是の菩薩は十波羅蜜を具足する時、四攝法、〔二〇〕三十七品、三解脫門、一切の阿耨多羅三藐三菩提を助くる法を、念念の中に於て、皆悉く具足す。』

〔二一〕解脫月菩薩、金剛藏菩薩に問うて言はく、

『佛子よ、菩薩摩訶薩は、但七地にのみ助菩提の法を具足するや。一切の諸地にも、亦能く具足するや。』

金剛藏の言はく、

『佛子よ、菩薩摩訶薩は、諸地の中に於て皆悉く助菩提の法を具足す。遠行は勝れたるが故に、此の地に於て說く。何を以ての故に。諸の菩薩摩訶薩は、七地の中に於て一切の行具足して、智慧神通の道に入るが故なり。佛子よ、菩薩は初地に於ては發願して一切の佛法を緣ずるが故に、助菩提の法

〔二〇〕三十七品とは前に說ける四念處、四正勤、四如意足、五根、五力、七覺支、八正道支をいふ、皆是れ菩提に順趣する品類なるが故に道品と名く。

〔二一〕第四、諸地と相望して殊勝なることを明かす。

を具足す。二地には心の悪垢を除くが故に、助菩提の法を具足す。三地には願轉た增長して法明を得るが故に、助菩提の法を具足す。四地には道に入るが故に、助菩提の法を具足す。五地には隨順して世間の法を行ずるが故に、助菩提の法を具足す。六地には甚深の法門に入るが故に、助菩提の法を具足す。此の第七地には一切の佛法を起すが故に、助菩提の法を具足す。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は此の地の中に於て、諸の智慧の行ずる所の道を得ればなり。是の力を以ての故に、第八地は自然に成ずることを得。佛子よ、譬へば二の世界の如し。一は定めて垢穢なり。一は定めて淸淨にして、是の二の中間は、得て過ぐ可きこと難し。此の世界を過ぎんと欲せば、當に神通及び大願力を以てすべし。菩薩も亦是の如し。雜道を行ずるは、得て過ぐ可きこと難し。大願力と大智慧力と大方便力とを以ての故に、爾の時乃ち過ぐることを得。』

解脫月の言はく、

『第七地の菩薩は是れ淨行と爲すや、是れ垢行と爲すや。』

金剛藏の言はく、

「歡喜地より菩薩の行ずる所は、皆罪業を離れたり。何を以ての故に。阿耨多羅三藐三菩提に回向するが故なり。地に隨ひて行ずる所は淸淨なるも、名けて過ぎたりと爲さず。佛子よ、譬へば轉輪聖王の、大寶の象に乘りて、四天下に遊び、諸の衆生の貧窮困苦を見るが如し。王に苦無しと雖も、而も未だ

人を離れず。若し王身を捨てて梵世に生れ、千世界に遊びて、大威力を現さば、爾の時に乃ち人身を離れたりと名く。菩薩も亦是の如し。初地より諸の波羅蜜乘に在りて、一切衆生の心の行ずる所の事、及び煩惱の垢を知り、煩惱垢の爲めに汚されずして、善道に乘ずと雖も、名けて過ぎたりと爲さず。若し一切の修する所の功行を捨てて八地に入らば、爾の時に名けて清淨の乘に乘ずと爲す。悉く一切諸の煩惱垢を知り、煩惱垢の爲めに汚されざれば、乃ち名けて過ぎたりと爲す。諸の佛子よ、菩薩七地に住すれば、貪欲等の諸の煩惱垢を過ぐ。此の七地に在るを有煩惱と名けず、無煩惱と名けず。何を以ての故に。一切の煩惱起らざるが故に、有煩惱と名けず。如來の智慧を貪り求めて、未だ願を滿せざるが故に、無煩惱と名けず。

(三)菩薩七地に住すれば、深淨なる身口意の業を成就す。是の菩薩の所有る不善の業、煩惱に隨ふ者は、悉く已に捨離し、所有る善業は、常に修習して行ず。又世間の經書の五地に說く如きは自然に得、三千大千世界に於て最も爲希有にして、大師たることを得。唯如來と八地の菩薩とを除きては、衆生の深心妙行も、能く與に等しき者有ること無し。

【三】第五、行位の二果を明かす。

是の菩薩の所有る禪定、神通、解脫三昧は禪に隨はずして生じ、欲する所自在なり。菩薩遠行地に住すれば、念念の中に於て方便慧力、及び一切の助菩提の法を具足し修習して、轉た勝れて具足し、能く菩提善伏三昧・善思義三昧・進慧三昧・分別義藏三昧・如實分別法三昧・堅固安住三昧・知神通門三昧・

淨法界三昧・順佛教三昧・種種義藏三昧・背生死向涅槃三昧に入る。是の如き百萬の三昧を具足して此の地を淨治す。◎是の菩薩是の三昧を得れば、智慧方便善く清淨なるが故に、深く大悲の力を得るが故に、名けて聲聞辟支佛地を過ぎ、佛智地に趣くと爲す。◎是の菩薩是の地に住すれば、無量の身業は無相の行なり、無量の口意業は無相の行なり。是の菩薩は清淨行の故に、無生法忍を得て、諸法を照明す。』

解脱月菩薩の言はく、

『佛子よ、菩薩初地に住すれば、無量の身業、無量の口意業有りて已に能く聲聞辟支佛地を過ぎずや。』

金剛藏菩薩の言はく、

『大法に縁るが故に過ぎたり、實行の力には非ず。第七地は實行の力の故に、一切の聲聞辟支佛も壞すること能はざる所なり。譬へば生れて王家に在れば、卽ち一切に勝れたるが如し。何を以ての故に。地尊貴なるが故なり。其の身長大にして、智慧成就すれば、爾の時に乃ち眞實に一切に勝れたるなり。菩薩も亦是の如し。初發心の時、二乘に勝れたるは、大願を起して深心清淨なるを以ての故なり。今此の地に住すれば、智慧の力を以て、聲聞、及び辟支佛に勝るるなり。佛子よ、菩薩七地に住すれば、甚深なる遠離無行の身口意の業を得・轉た勝れたる法を求めて而も捨離せず、轉た勝れたる心を以ての故に、實際を行ずと雖も而も實際を證せず。』

解脱月の言はく、

『佛子よ、菩薩は何の地より來りて、能く寂滅に入るや。』

金剛藏の言はく。

『六地より來りて能く、寂滅に入る。今此の地に住すれば、念念の中に於て、能く寂滅に入り、而も寂滅を證せず。是の菩薩は不可思議なる身口意の業を成就して、實際を行じ、而も實際を證せず。譬へば人有り船に乘りて海に入り、善く行法を爲すも、善く水相を知るをもつて、水害の爲めに淪沒せられざるが如し。是の如く菩薩此の七地に住すれば、諸の波羅蜜の船に乘り、能く實際を行じて、而も實際を證せず。菩薩は是の如く大願力を以ての故に、智慧の力を得るが故に、禪定智慧より大方便の力を生ずるが故に、深く涅槃を愛すと雖も而も身を生死に現じ。眷屬に圍繞せらると雖も、而も心は常に遠離し。願力を以ての故に三界に受生するも、世法の爲めに汚染せられず。心は常に善寂なるも、方便の力を以ての故に、而も還つて熾然たり。佛智に隨行し、聲聞辟支佛地を轉じて、佛の法藏に至るも、而も魔界を現ず。四魔を過ぐと雖も、而も魔行を現ず。外道の行を現ずと雖も而も佛法を捨てず。身を一切の世間に現ずと雖も、而も心は常に出世間の法に在り。一切所有る莊嚴の事は、諸の天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・非人等・四天王・釋提桓因・梵天王に勝れたるも、而も法を樂ひ、法を愛することを捨てず。

(三)菩薩は是の如き智慧を成就して、遠行地に住すれば、百千萬億那由

【三】以下位果を明かす。

他の佛に値ひたてまつり、恭敬供養し、尊重讃歎して、衣服飲食、臥具醫藥をもつて、諸佛を供養し、佛の法を護持し、諸の聲聞、辟支佛の智慧の問難も壞すること能はざる所なり。是の菩薩は衆生を哀愍するが故に、法忍轉た淸し。是の菩薩は無量百千萬億那由他劫に、善根轉た勝る。譬へば眞金の諸の妙寶を以て莊飾し閒錯すれば、轉た勝れて明淨となり、餘金の及ばざるが如し。菩薩も亦是の如く、遠行地に住すれば、一切の善根は、方便智慧より生じ、轉た勝れて明淨となり、能く壞る者無し。譬へば日光は、星宿月の光の及ぶこと能はざる所にして、一切の泥水を悉く能く乾し竭すが如し。菩薩も亦是の如く、遠行地に住すれば善根轉た勝れ、一切の聲聞辟支佛の及ぶこと能はざる所、又能く煩惱の淤泥を乾し竭す。諸の佛子、是を菩薩摩訶薩の遠行地を略說すと名く。菩薩此の地に住すれば多く他化自在天王と作り、諸根猛利にして、能く衆生に悟道の因緣を發し、作す所の善業は、布施愛語利益同事にして、皆佛を念ずることを離れず、法を念ずることを離れず、乃至具足一切種智を念ずることを離れず、常に是の心を生ずらく、「我當に一切衆生に於て首と爲り勝と爲り、乃至一切衆生に於て依止者と爲るべし」と。是の菩薩若し是の如く勤行精進せんと欲せば、須臾の閒に於て、百千萬億那由他の三昧を得、乃至能く百千億那由他の菩薩を現じて、以て眷屬と爲さん。若し願力を以てせば、自在に示現して、此の數に過ぎ百千萬億那由他劫にも計り知る可からず。』

(二四)爾の時に金剛藏菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

〔二四〕〔二五〕深智慧定心のもの、具さに六地を行じ已り、一時に方便、智慧を生じて七地に入る。空無相の願を行じて、慈悲の心を修し、佛の平等法に順じて。諸佛を供養したてまつる。智を以て空を觀ずと雖も、而も福を修して厭くこと無く、能く三界を嚴ると雖も、而も心に遠離を樂ふ。

心常に寂滅なりと雖も、而も惡を滅する法を起し、空不二の相を行ずるも、而も慈悲心を行ず。一切の土は、空なること虛空の若如しと觀ずと雖も、而も能善く莊嚴して、諸佛の土を淸淨にす。

諸佛の身は、法相の無相なるに同じと知ると雖も、而も三十二、八十の諸の相好を種う。

音聲の法は、言說す可からざる相なりと知ると雖も、而も佛の音聲を歎じて、一切をして歡喜せしむ。

諸佛は、一念の中に成道したまふと知ると雖も、而も時劫と刹とを示して、諸の衆生を引導す。是の如く諸法を知れば、則ち法の照明を得、菩薩の是の如き者は、卽ち第七地に入る。

〔二六〕是の地に住すれば能く、無量なる衆生の行を觀じ、亦諸佛の、衆生を敎化したまふ法と、世界及び劫數と、諸法の差別の相とを知り、又諸の衆生の、種種の欲樂を知り、

〔二四〕重頌、四十四偈あり。

〔二五〕初の九偈は趣地の方便十妙行を頌す。

〔二六〕次の三偈は障對治を頌す。

三乘の法を說きて、衆生をして信解せしむることを知り、我應に敎化を修して、是の衆生を成就せしむべしと。

(二七)是の如き思惟を以て、方便と慧と和合して、四威儀の中に於て、常に是の如き道を行ず。

一一の念の中に於て、能く菩提の法を具す、所謂る施戒等の、十種の波羅蜜なり。

是の如き諸の菩薩の、修する所の福德を、皆諸の衆生に與ふるを、檀波羅蜜と名け、

心の惡垢を滅除するを、尸波羅蜜と名け、六塵の爲めに傷けられざるは、羼提波羅蜜なり。

能く轉勝の法を起すは、精進波羅蜜にして、是の道に於て動せざるを、

禪波羅蜜と名け、

無生忍の照明なるは、般若波羅蜜にして、佛道に囘向するは、方便波羅蜜なり。

【二七】次の八偈は雙行無間を頌す。

【二八】次の十一偈は前の上地の勝れたることを頌す。

轉た勝れたる法を求むるを、願波羅蜜と名け、能く壞る者有ること無きを、力波羅蜜と名け、

能く解して如實に說くを、智波羅蜜と名く、是れ菩提を助くるの法にして、念念に皆能く攝す。

(二八)廣大の願を發すは、大法に緣るが故なり、初地の中の功德は、之を名けて具足と爲す。

第二地を名けて、諸の心の垢惡を除くと爲し、第三は願增明し、第四地は道に入る。

第五は世に隨ひて行じ、第六は深法に入りて、無生の相分を得、漸漸に而も增長す。

第七は一切を集めて、菩提分の法を具へ、能く諸の功德、及以一切の願を起す。
是の如き諸の功德は、後の八地の中の、一切の諸の所行をして、自然に淸淨なることを得しむ。
遠行地は過ぎ難く、大智力の能くする所なり、二國の中閒の、得て過度す可きこと難きが如し。
七地の中に在れば、汚れざること聖王の如く、此の道に住すと雖も、一切を過ぎたりとは名けず。
若し第八の、菩薩の智慧地に到らば、爾の時に意界を過ぎて、智業の中に住せん。
梵王の世を觀るが如く、名けて人と爲すことを得ず、菩薩の罪に汚されざるは、蓮華の水に在るが如し。
菩薩是の地に住すれば、諸の貪欲等を過ぎたるをもつて、有煩惱と名けず、亦滅盡とも名けず。
是の正道の中に入れば、諸の煩惱有ること無く、佛道を願ひ求むるが故に、盡者と名くることを得ず。

(二九)諸の世閒の中の、經書技藝の事、文頌呪術等に於て、自然に能く明了す。

【二九】次の八偈は雙行の果を頌す。

諸の禪定、及び諸の神通等を修習して、無量の心をもつて世を利す、是の事皆能く起る。
爾の時に此の菩薩は、二乘の行を過ぎて、第七地の、菩薩の諸行の中に安住す。
初發心の時を以ては、大願力の故に勝る、今此の地の中に於ては、自ら智慧の力を以てす。

猶ほ國王の子は、生れし時に姓尊貴にして、後に功行成ずるを以て、諸人の中に於て尊きが如し。

此に住すれば深智を得、轉た勝れたる精進を發し、念念に寂滅に入るも、而も亦證を取らず。

人の善く船に乗りて、大海の中に入るに、深水の難きに行くと雖も、而も爲めに害せられざるが如し。

菩薩の行は轉た勝れて、方便智慧の故に、功德悉く備さに足りて、世の能く知る所に非ず。

(三〇)無量の佛を供養したてまつりて、其の心轉た清淨となり、眞金の雜寶をもつて、閒錯して莊嚴せるが如し。

佛の智慧光を得て、諸の愛潤の水を乾かすこと、猶ほ日の光明の、泥潦を消涸するが如し。

是の地に住すれば多く、他化自在王と作り、諸根悉く猛利にして、諸の道果に通達す。

若し勤めて精進せんと欲せば、百千億那由他の、願力をもつてせば復た是に過ぎん。

七地は智慧淨くして、人天及び二乘は、皆其の境界に非ず、今已に畧して說き竟れり。』

第八不動地。

(三一)「他化自在王と、諸天及び菩薩とは、此の上行を說くを聞きて、心皆大いに歡喜し、

上妙の華香、旛蓋寶瓔珞、眞珠・摩尼珠を雨らして、佛及び大衆に散じたてまつれり。

【三〇】次の四偈は位果を頌す。
【三一】第八不動地・讃請の頌。

天女は空中に於て、種種の伎樂を作して、如來、幷及び諸の菩薩を供養したてまつり。
同じく微妙の音を以て、佛の功德を歌頌すらく、「一切智慧の者、衆生の中の最尊は、世間を哀愍したまふが故に、諸の神通力を現じたまへり」と。
華香珍寶等も、皆是の如きの音を出せり。
一微塵の中に於て、各那由他の、無量數の諸佛、中に於て而も法を說きたまふことを示す。
一微塵の中に於て、無量の佛國を見るに、須彌金剛に圍まれ、世間迫迮せず。
一微塵の中に於て、三惡道、天人阿修羅、各各業報を受くる有ることを見る。
諸の佛國の中の、一切の佛の妙音を聞くに、無上の法輪を轉じて、衆生の心に隨應したまふ。
諸佛の世界の中の、衆生の身は種種なるも、國土の衆生に隨ひて、種種の身を示現したまふ。
一切諸の天人は、皆悉く同じく止住し、佛先づ觀察し已りて、然る後に爲めに法を說きたまふ。
衆生は悉く、微塵の中の佛國を知見し、亦曠大の刹を觀たてまつる、佛の威神を以ての故なり。
佛は是の如き等の、種種の神通力を現じたまふ、若し衆生の爲めに說かんも、是の事盡す可からず。
是の微妙の音を以て、世尊を稱歎したてまつり、心皆大いに歡喜し、默然として佛を觀たてまつる。
解脫月菩薩、金剛藏に請うて言はく、『佛子よ願はくは、八地に入る行を演說したまへ。』

卷の第二十七

十地品第二十二の五

(一)金剛藏菩薩の言はく、

(二)『佛子よ、菩薩摩訶薩は、已に七地の微妙の行慧を習へば、方便道淨くして、善く助道の法を集め、大願力を具へ、諸佛の神力に護られ、自の善根にて力を得、常に念じて如來の力と無所畏と、不共の法とに隨順し、直心、深心清淨にして、福德智慧を成就し、大慈大悲をもつて、衆生を捨てず、無量の智道を修行す。

(三)諸法の本來無生・無起・無相・無成・無壞・無來・無去・無初・無中・無後なるに入り、如來智に入りて、一切の心意識の憶想分別に、貪著する所無く、一切の法は虚空の性の如し。是を菩薩無生法忍を得て、第八地に入ると名く。

(四)不動地に入るを名けて深行の菩薩と爲す。一切世間の測ること能はざる所にして、一切の相を離れ、一切の相と、一切の貪著とを離れ、一切の聲聞辟支佛の壞ること能はざる所なり。深大遠離にして、而も現じて前に

【一】以下正しく本地を說く、七段あり。

【二】第一、趣地の方便を明かす。

【三】第二、清淨の無生忍を得ることを明かす、前は本地の遠方便にして、是は近方便なり。

【四】第三、勝行を得ることを明かす、卽ち初住地の行なり、中に二あり、初に深行の勝れたることを明かす。

在り。譬へば比丘の神通を得て、心自在を得、次第して乃し滅盡定に入り、一切の動心、憶想、分別は皆悉く盡滅するが如し。菩薩も亦是の如し。菩薩是の地に住すれば、諸の勤方便と、身口意の行とは、皆悉く自ら滅して、大遠離に住す。人の夢中に深水を渡らんと欲して、大精進を發し、大方便を施して、未だ度らざる間に、忽然として便ち覺むれば、諸の方便の事を皆悉く放捨するが如し。菩薩も亦是の如し。初より已來、大精進を發して、廣く道業を修するも、不動地に至れば、一切皆捨て、二心を行せず。諸の憶想する所も復た現前せず。譬へば梵世に生るる者には、欲界の煩惱現在前せざるが如し。菩薩も亦是の如く、不動地に住すれば一切の心意識現在前せず。乃至佛心・菩提心・涅槃心すら尚ほ現前せず。何に況んや、當に諸の世間の心を生ぜんをや。〔五〕佛子よ、是の菩薩、是の地に隨順するは、本願力を以ての故なり。又諸佛は爲めに其の身を現じて、諸地の法の流水の中に住在し、如來の智慧を與へて、爲めに因緣と作りたまふ。

〔五〕次に發起の勝行を明かす。

諸佛は皆是の言を作したまはく、

善い哉、善い哉、善男子よ、汝是の第一忍を得て、一切の佛法に順ず。善男子よ、我に十力、四無所畏、十八不共法有り。汝今未だ得ず。是を得んが爲めの故に、勤めて精進を加へ、亦此の忍門を捨つること莫れ◎。善男子よ、汝は此の第一甚深なる寂滅解脫を得と雖も、一切の凡夫は寂滅の法を離れ、常に煩惱覺觀の害する所と爲る。汝當に此の一切の衆生を愍むべし◎。又善男子よ、汝應に本の所

願を念ひ、衆生を利益せんことを欲し、不可思議なる智慧門を得んと欲すべし◎又善男子よ、一切法の性と、一切法の相とは、佛有すも佛無さざるも、常住にして不異なり。一切の如來は此の法を得たまひたるを以ての故に、說いて名けて佛と爲さず。聲聞辟支佛も亦此の寂滅無分別の法を得たり◎善男子よ、汝、我等の無量なる清淨の身相、無量の智慧、無量なる清淨の國土、無量の方便、無量の圓光、無量の淨音を觀ぜよ。汝今應に是の如き等の事を起すべし◎又善男子よ、汝今適此の一法明を得たり。所謂る一切の法は寂滅にして分別有ること無しと。我等の得る所は、無量無邊なり。汝應に精勤して此の諸法を起すべし◎善男子よ、十方無量の國土に、無量の衆生、無量の諸法の差別あり、汝應に實の如く是の事に通達して是の如き智に隨順すべし。

是の菩薩に、諸佛は是の如き等の無量無邊の智慧門を起す因緣を與へたまへり。此の無量の門を以ての故に、是の菩薩は、能く無量の智業を起し、皆悉く成就す◎諸の佛子よ、若し諸佛は菩薩に智慧を起すの門を與へたまはずんば、是の菩薩は、畢竟じて涅槃を取り、一切衆生を利益することを棄捨せん。諸佛は此の無量無邊の智慧を起すの門を與へたまふを以ての故に、一念の中に於て生ずる所の智慧も、初地より已來、乃至七地に比するに、百分の一にも及ばず、無量無邊の阿僧祇分の一にも及ばず、乃至算數も譬喩も及ぶ能はざる所なり。所以は何ん。先には一身を以て功德を修集せしも、今此の地の中には、無量の身を得て、菩薩の道を修し、無量の音聲、無量の智慧を以て、無量の生處、

無量の淸淨なる國土にて、無量の衆生を教化し、無量の諸佛を供養し、給侍し、無量の佛法に隨順し、無量の神通力、無量の大會の差別、無量の身口意業にて、一切の菩薩の行ずる所の道を集む。不動の法を以ての故なり。佛子よ、譬へば人の船に乘りて、大海を渡らんと欲するに、未だ大海に至らざれば、多く功力を用ゐんも、海に入れば風あるを以て復た艱礙無く、一日の行は先の功力に過ぐること、百千歲に於ても、及ぶこと能はざる所なり。菩薩も亦是の如く、多く善根を集めて、大乘の船に乘り、菩薩の行ずる所の大智慧の海に入るに、功力を施さずして能く一切諸佛の智慧に近づき、本行せし所に比するに、若しは一劫・若しは百千萬劫にも及ぶこと能はざる所なり。

(六)佛子よ、菩薩摩訶薩、第八地に至れば大方便慧よりして、無功用の心を生じ、菩薩道に在りて、諸佛の智慧の勢力を思惟し、世界の生ずること、世界の滅すること、世界の成ずること、世界の壞することを思惟す。何の業の因緣集まるを以ての故に、世界は成じ、何の業の因緣滅するが故に、世界は壞するやを知る。是の菩薩は地水火風の性・小相・中相・無量相・差別相を知り。微塵の細相を知り、微塵の差別相を知り、一世界の中に於ける所有る微塵の差別を、皆悉く能く知り。此の一世界の、所有る地水火風、若干の微塵を、皆悉く能く知り。寶物の若干微塵、衆生身の若干微塵、世界の中の萬物の微塵の差別を知り。衆生の大身小身は、若干の微塵を以て成ることを分別し。地獄身・畜生身・餓鬼身は若干の微塵を以て

【六】第四、佛國土を淨むることを明かす、三あり、初は器世間自在の別を說く。

成り、阿修羅身・天身は若干の微塵を以て成るかを、皆悉く了知す。是の菩薩は是の如き微塵を分別する智に入りて欲・色・無色界の壞を知り、欲・色・無色界の成を知り、欲・色・無色界の成壞を知り、欲・色・無色界の小相・中相・無量相を知り、欲・色・無色界の差別相を知り、是の如く三界を知る。是を菩薩の衆生を教化するに智明を助くるの分別と名く。◎ (七)善く衆生身を分別し、善く應に所生の處を觀じ、衆生の生ずる處に隨ひ、衆生の身に隨ひて爲めに身を受く。是の菩薩は身を現じて徧く三千大千世界に滿ち、衆生の身に隨ひて各各差別す。譬へば日月の一切の水に於て皆其の像を現ずるが如し。若しは二、若しは三、乃至無量無邊の思議す可からず、說く可からざる三千大千世界に、身其の中に徧く、衆生身の差別に隨ひて、而も爲めに身を受く。

【七】 次に衆生世間を明かす。

是の菩薩は是の如き智慧を成就して、一世界に於て身動搖せず、乃至、不可說の諸佛の世界に(於ても亦然り。◎) 衆生の身に隨ひ、信樂する所に隨ひ、佛の大會に於て而も身像を現ず。若しは沙門の中に於ては沙門の形色を示し。婆羅門の中には婆羅門の形色を示し。刹利の中には刹利の形色を示し。居士の中には居士の形色を示し。四天王の中、帝釋の中、魔の中、梵天の中には梵天の形色を示し。乃至、阿迦貳吒天の中には阿迦貳吒天の形色を示し。聲聞乘を以て度すべき者には、聲聞の形色を示し。辟支佛乘を以て度すべき者には辟支佛の形色を示し。菩薩乘を以て度すべき者には、菩薩の形色を示し。佛身を以て度すべき者には佛身の形色を示し。所有る不可說の諸佛の國中に、衆生身の信樂差別

に隨ひて、現じて爲めに身を受く。◎而も實には身相の差別を遠離し、常に平等に住す。◎（八）是の菩薩は善く（九）衆生身を知り、國土身を知り、業報身を知り、聲聞身を知り、辟支佛身を知り、菩薩身を知り、如來身を知り、智身を知り、法身を知り、虛空身を知る。是の菩薩は是の如く衆生の深心の樂ふ所を知り、若しは衆生身に於て、己身と作し。若しは衆生身に於て、國土身・業報身・聲聞身・辟支佛身・菩薩身・如來身・智身・法身・虛空身と作し。若しは國土身に於て、己身・業報身・乃至虛空身と作し。若しは業報身に於て、己身・乃至虛空身と作し。若しは己身に於て、衆生身・國土身・業報身・聲聞身・辟支佛身・菩薩身・如來身・智身・法身・虛空身と作す。是の菩薩は衆生の集業身・報身・煩惱身・色身・無色身、諸佛の國土の小相・中相・無量相・垢相・淨相・廣相・狹相・平等相・方圓相・差別相を知り。業報身の假名差別・聲聞身の假名差別・辟支佛身の假名差別・菩薩身の假名差別を知り。（一〇）如來身・菩提身・願身・化身・住持身・相好莊嚴身・勢力身・如意身・福德身・智身・法身を知り。智身を知り善く分別して實の如く法身平等にして不壞の相なるを知り。虛空身の無量の相、周徧の相、無形の相を知る。

（一一）是の菩薩は善く知りて是の如き諸の身を起せば、則ち命の自在・心の自在・財の自在・業の自在・生の自在・願の自在・信解の自在・如意の自在・智の自在・法の自在を得。

【八】後に智正覺世間を明かす。
【九】此の十身を解境の十佛と云ひ、又は融三世間の十佛身と稱す。
【一〇】此の十身を行境の十身と稱す。
【一一】第五、自在を明かす。

(二二)是の菩薩は、十の自在を得て不可思議智の者、無量智の者、廣智の者、不可壞智の者と爲る。菩薩は是の如き智慧に隨ひて、畢竟じて常に罪無き身業・口業・意業を起し、身業は智に隨ひて行じ、口業は智に隨ひて行じ、意業は智に隨ひて行じ、般若波羅蜜增上し、大悲を首と爲し、善く方便を修し、善く諸願を起し、善く諸佛の神通の爲めに護られ、常に利益衆生を行ずる智を捨てずして、悉く無邊の世界の中の差別の事を知る。要を擧げて之を言はば、菩薩無動地に住すれば、身口意の作す所、皆能く一切の佛法を集むるなり。是の菩薩此の地に住すれば、一切の煩惱を離るるが故に、善く淨心力に住す。心常に道を離れざるが故に、善く深心力に住す。衆生を捨てざるが故に、善く大悲力に住す。一切の世間を救ふが故に、善く大慈力に住す。聞く所の法を忘れざるが故に、善く陀羅尼力に住す。一切の佛法を分別し觀察するが故に、善く一切の樂說力に住す。無邊の差別せる世界に行くが故に、善く神通力に住す。一切の菩薩の行ずる所を捨てざるが故に、善く願力に住す。一切の佛法を修集するが故に、善く波羅蜜力に住す。善く一切種智を起すが故に、善く如來力に住す。是の菩薩は是の如き智力を得て、一切の所作を示すに過咎有ること無し。

(二三)諸の佛子よ、菩薩の此の地は壞す可からざるが故に、名けて不動地と爲す。智慧轉せざるが故に、名けて不轉地と爲す。一切の世間は測り知ること能はざるが故に、名けて威德地と爲す。色欲無

【二二】第六、智と業と功德との大勝なるを明かす。

【二三】第七、本地の名を釋す。

きが故に、童眞地と名け。意に隨ひて生を受くるが故に、自在地と名け。更に不作なるが故に、名けて成地と爲し。決定して知るが故に、名けて究竟地と爲し。善く大願を發すが故に、名けて變化地と爲し。壞す可からさるが故に、名けて住持地と爲し。先に善根を修せしが故に、名けて無功力地と爲す。菩薩は是の如き智慧を得れば、名けて佛の境界に入ると爲し。名けて佛の功德に照明せらると爲し。名けて佛の威儀に隨ひて行ずと爲し、佛法に趣向す。常に諸佛の神力の爲めに護られ、常に四天王、釋提桓因、諸の梵王等の爲めに奉迎せられ、密迹金剛神、常に隨ひて侍衞し、善能く諸禪三昧を出生し、能く無量なる諸身の差別を作し、諸身の中に於て皆勢力有りて、大果報神通力を得、無邊の三昧の中に於て、自在を得、能く無量の記を受け、衆生の成就する處に隨ひて、阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを示す。是の菩薩は是の如き大智慧に入れば、善く諸法に通達し、常に大智の光明を放ちて、無礙の法界道に度り、善く世界道の差別を知り、能く一切諸の功德を示し、意に隨ひて自在なり。善く先際後際を解り、能く魔道を轉ずる智に入り、如來の行境界に入り、能く無邊の世界に於て菩薩の道を行じ、不轉の相を以ての故に、此の地を名けて不動と爲す。

〔四〕佛子よ、菩薩不動地に在れば、善く禪定力を生ずるが故に、常に無邊の諸佛を見たてまつり、諸佛を供養し供給することを捨てず。是の菩薩は一一の劫、一一の世界の中に於て、數百千萬億那由

【四】以下位果を明かす。

他の無量無邊の阿僧祇の佛を、恭敬供養し、尊重讃歎して、諸佛に親近し、諸佛に從ひて世界の差別等の諸の法明を受く。是の菩薩は轉た深く如來の法藏に入り、世界の差別の事を問ふに、能く盡す者無し。乃至百千萬億劫に、說くとも盡す可からず。又諸の善根は轉た勝れて明淨となる。譬へば眞金の、衆寶をもつて間錯し、轉輪王の佩ぶる所の瓔珞と爲せば、一切人民の能く奪ふ者無きが如し。菩薩摩訶薩も亦是の如く、無動地に住すれば、善根轉た淨くして、一切の聲聞辟支佛、乃至、七地の菩薩の壞すること能はざる所なり。菩薩是の地に住すれば、善分別の智門を以ての故に、智慧の光明は一切衆生の惱熱を滅除す。譬へば千世界の主たる、大梵天王は、能く一時に於て慈心を流布すれば、千の世界に滿ち、亦能く光を放ちて、徧く其の中を照すが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、不動地に住すれば、能く身の光を放ちて十方の佛刹、微塵の世界を照し、衆生の諸の煩惱熱を滅除して、淸涼なることを得しむ。諸の佛子、是を菩薩の不動地を畧說すと名く。若し廣く說かば、無量億劫にも盡すこと能はざる所なり。菩薩此の地に住すれば、多く大梵天王と作り、千の世界を主り、諸根猛利にして、諸の衆生・聲聞・辟支佛・菩薩に波羅蜜道を與へ、窮盡すること有る無し。世界の差別を說くに能く壞る者無く、作す所の善業は布施・愛語・利益・同事にして、皆佛を念ずることを離れず、法を念ずることを離れず、乃至一切種智を念ずることを離れず、常に是の心を生ずらく、「我當に一切衆生に於て首と爲り、勝と爲り、乃至一切衆生に於て、依止者と爲るべし」と。是の菩薩若し勤行精

進せんと欲せば、須臾の間に於て、百萬三千大千世界の微塵數の三昧を得、乃至能く、百萬三千大千世界の微塵數の菩薩を示し、以て眷屬と爲さん。若し願力を以てせば、神通自在にして、能く是の數に過ぎ、若干百千萬億劫にも計り知る可からず。』

(一五) 時に金剛藏菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

(一六)『菩薩七地に住すれば、慧方便已に淨くして、善く助道の法を集め、大願力に繋がれ、
諸佛の神力に護られて、善根は悉く成就し、勝れたる智慧を求め、能く第八地に入る。
善く福慧を集め、而も深き慈悲有りて、諸の有量の心を離れ、心同じきこと虚空の如し。

(一七) 所說の法の中に、心決定力を得たるが如く、是の如く寂滅にして、微妙なる無生忍を得。
諸法は本來、生も無く亦起も無く、相無く成有ること無く、亦去來の義も無し。
諸法の初中後と、如とは分別無く、心意の行有ること無く、同なること虚空の若如し。

(一八) 是の如き忍を成就すれば、諸の戲論有ること無く、是の不動地の、甚深なる寂滅の行を得、
一切諸の世間は、測量することを得る能はず、一切諸の心相は、皆悉く已に滅盡す。
菩薩是の地に住すれば、心識の無分別なること、滅盡定に入りて、復た憶念の相無きが如し。

【一五】重頌。四十四偈あり。
【一六】初の三偈は方便を頌す。
【一七】次の三偈は淨忍を頌す。
【一八】次の十五偈は勝行を頌す。

猶ほ人の夢の中に、方便して水を渡らんと欲するも、覺むれば則ち意廓然として、諸の所作を休息するが如し。

是の深忍を得已れば、一切の想念を滅すること、梵天に生れて、欲界の煩惱無きが如し。

本願力に護られ、及び佛の今の勸導とを以て、是の如き第一忍は、是れ諸佛の職位なり。

我等の深智の力と、無畏不共の法とは、汝今此有ること無し、常に勤精進を加ふべし。

汝は一切の煩惱の火を、除滅することを得と雖も、當に諸の世間は、煩惱常に熾然なりと觀ずべし。

當に本の所願を念じ、諸の衆生を利せんと欲し、悉く徧く諸法を知り、廣く一切を度すべし。

諸法の實の性相は、常住にして變異無し。二乘も亦此を得るも、而も名けて佛と爲さず。

但無礙の、甚深なる微妙智を得て、三世に通達するを以ての故に、乃ち名けて佛と爲すことを得。

是の諸の無等等は、天人の恭敬する所にして、是の起智の門を開きて、諸佛の法に入らしめ、

邊底無き、無量なる妙智慧を成就すれば、先に行ぜし所の諸法は、今の一念にも及ばず。

是の如く諸の菩薩は、妙智慧地を得、能く一念の中に在りて、身は十方に徧し。

是の智慧門に入れば、道を行ずること疾くして礙ふること無く、海中を行くに、大風の力に濟さるるが如し。

【九】次の十二偈は佛國土を淨むることを頌す。

（九）諸の功用の心を離れ、但智慧のみ在りて、十方世界の、成壞と及び住とを觀ず。

能く四大の一なることを知り、亦諸の別異と、小中及び無量と、種種の差別の相とを知る。
能く三千、大千界の微塵を數へ知り、亦衆生身の、四大の微塵數をも知り。
諸天の身の衆寶も、微塵數の差別も、皆悉く徧く明了し、餘も亦是の如く知る。
智慧の因緣の故に、心轉た調柔なることを得、諸の衆生を利せんが爲めに、諸の世界に身を徧くし。
能く衆生身に於て、而も自ら己身、及び諸の佛剎、諸の餘の種種の身と作す。
日月は空に停るも、影は一切の水に現ずるが如く、菩薩も亦是の如く、徧く大千界に滿つ。
常に法身に住して、湛然として移動せず、淨心の衆生に於て、各其の身像を現ず。
諸の心の樂ふ所に隨ひて、而も現じて爲めに生を受け、諸の人天の會に於て、悉く皆其の身を示す。
菩薩は因緣の、和合の中に於て自在にして、乃至能く意に隨ひて、爲めに佛身を現ず。
衆生・國土身と、業報・賢聖身と、智身と法身と、皆同じく平等なることを知る。
是の因緣を以ての故に、如意の神通を得て、世を歡喜せしめんが爲めに、種種の身を現ず。
(一〇)能く十種の、妙なる大自在の智を得て、作す處は智に隨ひて行じ、
慈悲の心に順ず。
(一一)諸佛の所有する法は、皆能善く修習して、三淨戒の中に住して、動ぜざること須彌の如し。
能く大菩薩の、有する所の十種の力を得て、一切諸の魔衆も、皆轉ずること能はざる所なり。

【一〇】此の一偈は自在を頌す。
【一一】次の二偈は大勝を頌す。

〔三一〕常に諸佛の爲めに護られ、釋梵に敬禮せられ、密迹金剛神は、常に隨ひて侍衞す。
菩薩是の地を得れば、功德量有ること無く、百千萬億劫に、之を說くとも盡す可からず。
〔三二〕無數の佛に親近したてまつりて、諸の善根を增益するは、眞金の雜寶をもつて、王の瓔珞を莊嚴するが如し。
菩薩是の地に在れば、多く大梵王と作り、千の國土を典領して、功德量有ること無し。
能く三乘を以て敎へ、窮盡有ること無く、慈心の光は普く照して、諸の煩惱の熱を滅す。
能く須臾の閒に於て、百萬の三千、大千世界數の、微塵の諸の三昧を得、
能く十方の佛を見たてまつり、其の數も亦是の如し、若し其の願力を以てせば、是に過ぎて量有ること無けん。
今已に略して、第八地の妙相を解說せり。若し廣く演說せば、千億劫にも盡くさじ。』

〔三一〕次の二偈は釋名を頌す。
〔三二〕次の五偈は位果を頌す。
〔三三〕第九善慧地、讚請の頌。

第九善慧地。

〔三三〕佛子此の、八地の妙義を演說せし時、佛の神力を以ての故に、無量の國を震動し、
一切の智身は、無量の微妙なる光を出して、徧く十方界を照し、衆生は安樂なることを得たり。
百千萬の菩薩は、虛空の中に住して、衆の妙供養を設け、諸天も有つこと無き所なり。

自在天と梵天と、幷及び他化王とは、歡喜して妙供を、大海の如き功德ある佛に設げたてまつれり。
千萬の諸の天女は、咸恭敬し歡喜して、同じく微妙の音を以て、佛の功德を歌歎したてまつる。
佛の神力を以ての故に、是の如きの妙音を出すらく、『善く寂滅を行ずる者は、諸の惡心有ること無し。
各其の地に在りて、善く菩薩の行を修し、世間を利益せんが故に、徧く十方に遊ぶ。
衆に示すに佛道を以てし、心は空の如く無礙なり。諸の菩薩の神力と、上妙なる供養の具とは、十方の人天に勝れる、福德の致す所なり。
佛子、智を樂ふ者は、此を以て佛力を示す。
一の國に於て動せずして、而も一切の處に現じ、世間を利益すること、滿月の明淨なるが如し。
一切の音聲、語言の諸の想念を滅して、而も諸の音聲を以て、法を說くこと猶ほ響の如し。
若し衆生下劣にして、其の心厭沒せる者には、示すに聲聞の道を以てし、衆苦を出でしむ。
若し復た衆生有り、諸根少しく明利にして、因緣の法を樂ふものには、爲めに辟支佛を說く。
若し人根明利にして、衆生を饒益するの、大慈悲心有るものには、爲めに菩薩の道を說く。
若し無上心有りて、決定して大事を樂ふものには、爲めに佛身を示し、無量の佛法を說く。
譬へば幻化師の、種種の身色を示すも、是の如き諸の身相は、皆實事有ること無きが如し。

是の如く諸の佛子は、善く智慧の術を知りて、能く一切の行を示すも、心有無を離る。』
千萬の諸の天女は、同じく微妙の音を以て、是の如く歌歎し已りて、默然として佛を觀たてまつる。
解脱月又言はく『佛子の大會は淨くして、一心に、九地に入るの正行を聞かんことを願樂ふ。』

(二五)金剛藏菩薩の言はく、

(二六)『佛子よ、菩薩摩訶薩は、是の如き無量の智慧を以て、善く佛道を觀じ。轉た勝れたる寂滅の解脱を求めんと欲し。轉た勝れて如來の智慧を思惟せんと欲し。如來の深密の法藏に入らんと欲し。不可思議なる大智慧を觀察せんと欲し。諸の陀羅尼三昧を觀察して、重ねて清淨ならしめんと欲し。神通をして廣大ならしめんと欲し。世界の差別を分別せんと欲し。諸佛の力無畏、不共法の能く壞する者無きを修せんと欲し。諸佛の轉法輪の力に順行せんと欲し。受くる所の大悲大願を捨てざらんと欲す。菩薩は是の如く思惟して、第九地に入ることを得。

(二七)菩薩此の地に住すれば、實の如く、善・不善・無記の法行を知り、有漏・無漏の法行、世間・出世間の法行、思議・不思議の法行、定・不定の法行、聲聞・辟支佛の法行、菩薩道の法行、如來地の法行、有爲・無爲の法行を知る。

(二八)是の如き智慧に隨順して、菩提心の所行の難を知り、煩惱の難・業の難・諸根の難・欲の難・性の

【二五】正しく本地を説く、四段あり。
【二六】第一、法師の方便成就を明かす。
【二七】第二、智成就を明かす。
【二八】第三、入行成就を明かす。

難・直心の難・使心の難・生の難・習氣の難・三聚差別の難を知る。(二九)衆生の諸の心の差別相を知り、世を莊飾する心相、速かに轉ずるの心相、壞不壞の心相、無形の心相、無邊自在の心相、清淨差別の心相、垢無垢の心相、縛解の心相、諂曲質直の心相、道に隨ふ心相を皆實の如く知る。是の菩薩は煩惱の深相と淺相とを知り、心の伴相と、不相離の相とを知り、使纏の差別相を知り、是の心の相應と不相應の相と、道に隨ひて生ずる時に果報を得るの相とを知り、三界の中の差別相を知り、愛癡見の深く入ること箭の如きの相を知り、憍慢癡の重罪の相を知り、是の三業の因緣斷ぜざるの相を知り、乃至實の如く、八萬四千の煩惱行の差別相を知る。是の菩薩は諸業の善と不善と無記との相、(三〇)分別と不可分別との相、心の伴相と、不相離との相、(三一)自然盡の相、行道盡の相、種種の集相、果報を失はざるの相、次第の相、(三二)有報の相、無報の相、(三三)黑黑報の相、白白報の相、(三四)黑白黑白報の相、(三五)非黑非白能盡業の相を知る。業起の相と受業法の差別相とを知り、無量の因緣起業の相を知り、世閒の業と出世閒の業との差別相現報の相、(三六)生報の相、後報の相、(三七)隨諸乘の定相不定相を知り、乃至實の如く八萬四千の諸の業の差別相を知る。是の菩薩は諸

【二九】以下略して十一章を標し次に十一門に分つて別釋す。

【三〇】造業は思に依る、而るに籌慮決定の時は未だ動作に現はれざるが故に不可分別なり、既に發動すれば正しく身語に現はるゝが故に分別と名く。

【三一】有爲の作業は念念に滅壞するが故に盡といふ、然も次第に果を招くが故に集といふ、次第集果の義なり。

【三二】有報。過去の生報の業に依りて現に果を受けたるをいひ、未だ果を受けざるを無報といふ、全く果報を受けずといふに非ず。

【三三】黑黑、白白。黑白とは善惡の義なり、惡業の因、惡の

根の輭中上の差別相を知り、先後際の別異と不別異との相を知り、上中下の相を知り、煩惱の伴相・不相離の相・隨諸乘の定相・不定相・淳熟相・未淳熟相・隨根轉相・易壞相・深取相・增上相・不可壞相・轉相・不轉相・三世の差別相・久遠の共生差別相を知り、乃至實の如く、八萬四千の諸根の差別相を知る。是の菩薩は諸欲の輭中上の差別相を知り、乃至實の如く八萬四千の諸欲の差別相を知る。是の菩薩は諸性の輭中上の差別相を知り、乃至實の如く八萬四千の諸性の差別相を知る。是の菩薩は直心の輭中上の差別相を知り、乃至實の如く八萬四千の直心の差別相を知る。是の菩薩は諸使を知る、心と共に生じ、心と共に生ぜず、心と相應し、心と相應せず、無始より來衆生を惱ますの相、一切の禪定・解脫・神通と相違する相、三界繫の相、無量の心現前せざる相、煩惱門を開く相、對治を知らざるの相、無所有の相、無聖道開法門の相を、皆實の如く知る。是の菩薩は諸生の差別相を知る、所謂る地獄・畜生・餓鬼・阿修羅・人・天・色・無色界・有想・無想の差別なり。業は是れ田、愛は是れ水、無明は是れ覆、識は是れ種子、後身は是れ芽、名色共に生じて相離れず、癡愛相續して、欲生・欲作・欲愛して、涅槃を樂はず、三界差別して相續するの相を皆實の如く知る。是の菩薩は、諸の習氣を知る、起不起有り、所生の處に隨ひて習氣有り、衆生の行に隨ひて習氣有り、業煩惱に隨ひて習氣有り、

果を招くを黑黑といひ、善業の因、善果を受くるを白白といふ。

【三四】黑白とは善惡相雜はるをいふ、有漏の業なり。

【三五】非黑非白とは無漏業をいふ。

【三六】生報。次生に果を受くるをいふ。

【三七】三乘の差別に隨ひて退不退あるをいふ。

善不善無記に習氣有り、離欲に習氣有り、後身に隨ひて習氣有り、次第に趣に隨ひて習氣有り、久遠に斷せずして煩惱業を持し、離るれば則ち無法なるを、皆實の如く知る。是の菩薩は衆生の定不定の相を知る、正定の相、邪定の相、不定の相、正見の中の正定の相、邪見の中の邪定の相、此の二を離れたる不定の相、一一の逆邪定の相、五根の正定の相、此の二を離れたる不定の相、邪位の邪定の相、正位の正定の相、此の二を離れたる不定の相、深く邪聚に入りて轉じ難き相、無上道を修する因緣の相、不定の衆生守護の相を、皆實の如く知る。佛子よ、菩薩摩訶薩は是の如き智に隨ふを、名けて善慧地に安住すと爲す。

【三八】第四、說成就を明かす。

(三八)菩薩是の地に住すれば、衆生の是の如き諸行の差別相を知り、其の解脱に隨ひて因緣を與ふ。是の菩薩は衆生を化する法と、衆生を度する法とを、實の如く知りて、爲めに法を說く。聲聞乘の相、辟支佛乘の相、菩薩乘の相、如來地の相を、實の如く知りて、衆生の因緣に隨ひて爲めに法を說く。心に隨ひ、根に隨ひ、欲の差別に隨ひて、爲めに法を說き、又行處に隨ひ、智慧處に隨ひて、爲めに法を說き、一切の行處を知りて、爲めに法を說き、衆生の性に隨ひ、深く難處に入りて、爲めに法を說き、趣に隨ひ、生に隨ひ、煩惱に隨ひ、習氣に隨ひて轉ずるが故に法を說く。乘に隨ひて解脱せしむるが故に法を說く。是の菩薩此の地に住すれば、大法師と爲りて諸佛の法藏を守護し、深妙の義に入る。無量の慧方便を用ゐ、四無礙の智をもつ

て、言辭說法す。是の菩薩は常に四無礙智に隨ひて壞す可からず。何等をか四と爲す。一に法無礙、二に義無礙、三に辭無礙、四に樂說無礙なり。是の菩薩は法無礙の智を以て諸法の自相を知り。義無礙の智を以て、差別の法を知り。辭無礙の智を以て、諸法の說きて壞す可からざるを知り。樂說無礙の智を以て、諸法の說きて次第に斷ぜざるを知る。復た次に法無礙の智を以て、諸法の體性無きを知り。義無礙の智を以て、諸法の生滅の相を知り。辭無礙の智を以て、諸法は假名なるも、假名を斷ぜずして說くことを知り。樂說無礙の智を以て、假名に隨ひて、無邊の說を壞せざることを知る◎復た次に法無礙の智を以て、現在の諸法の差別相を知り。義無礙の智を以て、過去未來の諸法の差別相を知り。辭無礙の智を以て、過去未來現在の諸法の說不可壞の相を知り。樂說無礙の智を以て、一一の世に於て無邊の法明を得て說く◎復た次に法無礙の智を以て、諸法の差別を知り。義無礙の智を以て、諸法の義の差別を知り。辭無礙の智を以て、諸の言音に隨ひて、爲めに法を說き。樂說無礙の智を以て、樂ふ所の解に隨ひて、爲めに法を說く◎復た次に法無礙の智を以ては、法智方便を以て諸法の差別不可壞なるを知り。義無礙の智を以ては、比智を以て實の如く諸法の差別を知り。辭無礙の智を以ては、世智を以て諸法の差別を說き。樂說無礙の智を以ては、善く第一義を說くことを知る◎復た次に法無礙の智を以て、諸法の一相にして不壞なるを知り。義無礙の智を以て、陰・入・界・諦・因緣の法を知り。辭無礙の智を以て、微妙の音を以ての故に、一切世間の歸趣する所となり。樂說無礙の智を以ては、說

く所轉た勝れ、能く衆生をして無邊の法明を得しむ。復た次に法無礙の智を以ては、一乘は究竟じて一切の無差別を攝することを知り、義無礙の智を以ては、諸乘の差別を知り。辭無礙の智を以ては、能く諸乘の無差別を說き。樂說無礙の智を以ては、一法門を以て、無邊の法明を說く。復た次に法無礙の智を以ては、能く一切の菩薩の行・智行・法行・隨智行に入り。義無礙の智を以ては、能く分別して十地の義の差別を說き。辭無礙の智を以ては、諸地の道に隨順して壞す可からざるを說き。樂說無礙の智を以ては、一切行の無邊の相を說く。復た次に法無礙の智を以ては、一切の佛は一念の中に於て菩提を得ることを知り。義無礙の智を以ては、種種の時、種種の剎の差別を知り。辭無礙の智を以ては、諸佛の道を得たる事の差別に隨ひて說き。樂說無礙の智を以ては、一句の法に於て無邊劫に說くとも窮盡せず。復た次に法無礙の智を以ては、一切の佛語、一切の佛力、無畏、不共の法、大慈大悲、無礙の智、轉法輪の一切種智を知り。義無礙の智を以ては、如來の音聲は八萬四千を說きて、衆生心の諸根欲樂の差別の行に隨ふを知り。辭無礙の智を以ては、如來の音聲を以て一切諸行の壞す可からざるを說き。樂說無礙の智を以ては、諸佛の智力を以て、衆生の樂ふ所の音聲に隨ひて說く。

(三九) 菩薩摩訶薩は是の如く善く四無礙の智を知りて、第九地に安住するを、名けて佛の法藏を得て大法師と爲れりと爲し、衆義陀羅尼・衆法陀羅尼・起智陀羅尼・衆明陀羅尼・善慧陀羅尼・衆財陀羅尼・名

【三九】 第五に法師成就を明かす。

聞陀羅尼・威德陀羅尼・無礙陀羅尼・無邊旋陀羅尼・雜義藏陀羅尼を得たり。是の如き等の百萬阿僧祇の陀羅尼を得て、方便に隨ひて說き、是の如き無量の樂說差別門をもつて法を說く。是の菩薩は是の如き無量の陀羅尼門を得て、能く無量の佛の所に於て法を聽き、聞き已りて忘れず、聞く所の法の如く、能く無量の差別門を以て、人の爲めに演說す。◎是の菩薩は一佛の所に於て、百萬阿僧祇の陀羅尼を以て、正法を聽受し、一佛に從ふが如く、餘の無量の佛にも亦復た是の如し。是の菩薩は佛を禮敬する時に於て、聞く所の法明は、多學の聲聞の陀羅尼力を得たるもの、十萬劫に於ても能く受持する所に非ず。◎是の菩薩は、是の如き陀羅尼力と無礙智の樂說力とを得て、法を說くを以ての故に、法座に在りて、大千世界の中に滿てる衆生に、意に隨ひて法を說く。是の菩薩は法座の上に在りて、唯諸佛と及び受職の菩薩をば除き、一切の中に於て、最も爲殊勝なり。◎是の菩薩は法座に處して、或は一音を以て一切をして悉く解了を得しめんと欲せば、卽ち解了を得。或は種種の音聲を以て、一切をして各開解を得しめんと欲せば、卽ち開解を得。或は默然を以て、但光明を放つのみにて、一切をして各法を解することを得しめんと欲せば、卽ち法を解することを得。或は一切の毛孔を以て、皆法音を出し。或は三千大千世界の所有る色・無色の物より、皆法音を出し。或は一音を以て周く法界に滿して、解を得しめんと欲すれば、卽ち皆解を得。◎是の菩薩は三千大千世界の所有る衆生、無量の音聲を以て、一時に問難し、問ふ所各異るも、是の菩薩は一念の中に於て、悉く是の如き一切の問難を受け、一音

を以て答へ、皆開解せしむ。是の如く若しは二、若しは三、若しは百、若干、乃至不可說不可說の三千大千世界の中に滿てる衆生に、廣く爲めに法を說く。佛の神力を承けて、能く衆生の爲めに、廣く佛事を作し、倍復た勤めて是の如き智明を攝す。一塵の中に於て不可說不可說の世界塵數の大會有り、佛此の中に在し、衆生の心に隨ひて爲めに法を說き、一一の衆生をして心に若干無量の諸法を得しめたまふ。一佛の如く一切の諸佛も亦是の如し。一微塵の如く一切の十方世界も亦是の如し。是の中に於て大憶念力を生じ、一念の中に於て一切の佛に從ひて受くる所の法明は、一句をも失はざること上の如し。大會の中に滿てる衆生は、決定の法明を以て淸淨の法を演ぶるを以て、一念の中に於て、爾所の衆生をして皆開解を得しむ。何に況んや、若干の世界の中の衆生をや。

(四〇)是の菩薩は是の地に住すれば、善根轉た勝れ、深く諸佛の行處に入り、常に一切の佛と會し、深く菩薩の解脫に入る。菩薩は是の如き智に隨順して、常に諸佛を見たてまつること、一一の劫の中に於て無量無邊百千萬億なり、上供具を以て諸佛を供養したてまつり、諸佛の所に於て、種種に問難して、諸の陀羅尼に通達し、一切の善根轉た勝れて明淨なり。佛子よ、眞金を鍊り莊嚴を具足して轉輪王の著る所の寶冠と爲せば、一切の小王能く奪ふ者無きが如し。菩薩も亦是の如く、善慧地に住すれば、一切の善根轉た勝れて明淨となり、聲聞・辟支佛・諸地の菩薩の壞すること能はざる所なり。是の菩薩は善根轉た明かにして、能く衆生の煩惱の

【四〇】以下地果を明かす。

難處を照す。大梵王の、三千大千世界の一切の難處を皆悉く能く照すが如し。菩薩も亦是の如く、善慧地に住すれば、善根明淨にして、諸の衆生の煩惱の難處を照す。諸の佛子、是を菩薩の善慧地を略說すと名く。若し廣く說かば則ち無量無邊劫にも盡すことを得可からず。菩薩是の地に住すれば、多く大梵王と作りて、三千大千世界を典領し、能く勝るもの有る無し。實の如く義を解する者は、自在の中に於て而も自在を得、善能く聲聞・辟支佛・菩薩に波羅蜜を宣說して、衆生の問難も能く窮盡すること無し。作す所の善業は布施・愛語・利益・同事にして、皆佛を念ずることを離れず、法を念ずることを離れず、乃至一切種智を念ずることを離れず、常に是の心を生ずらく、「我當に一切衆生に於て、首と爲り勝と爲り、乃至一切衆生に於て、依止者と爲るべし」と。是の菩薩若し是の如く勤行精進せんと欲せば、一念の中に於て百萬阿僧祇の三千大千世界微塵數の三昧を得、乃至能く百萬阿僧祇の三千大千世界微塵數の菩薩を示し、以て眷屬と爲す。◎若し願力を以てせば、神通自在にして、復た是の數に過ぐること、百千萬億那由他劫にも計り知る可からず。』

〔四一〕爾の時金剛藏菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

〔四二〕『諸の菩薩は、無量なる深智の力に隨順し、第一にして最も微妙に、一切の世に知り難く、衆生を利益する者は、能く第九地に至り、諸佛の、祕密の法藏に入ることを得、

〔四一〕重頌、四十二偈半あり。
〔四二〕初の四偈は法師方便を頌す。

微妙にして最上なる、三昧と陀羅尼と、廣大の神通力とを得て、善く世間の相に入り、
智慧の力決定して、能く諸佛の法を觀じ、大願と悲心と淨ければ、第九地に入ることを得。
〔四三〕此の上地に順行して、諸佛の法藏を持すれば、卽ち能く諸法に通ず、善・不善・無記と、
有漏及び無漏と、世間・出世間と、是は思議す可き法にして、是は思議す可からずと、
法の定と不定と、三乘具足の相とを知り、此の有爲無爲の法を、思惟し分別す。
是の如きの法を起し知りて、諸の無明の暗を滅し、是の智心に隨順すれば、則ち爲第一にして妙なり。
〔四四〕悉く一切の難と、諸の心の差別の相と、世を莊飾する輕易と、無邊の自在の心と、
煩惱の深淺の相と、心の作と不離相とを知り、使纏の差別と、隨順相續の有とを知り、
業の種種雜と、各各差別の相と、因の滅と果の不失とを知り、是の如き事に通達す。
又衆生の、諸根の輭中上と、廣大の差別等と、先際後際の相とを知り、
欲の輭中上と、及び諸の性の差別とを知り、乃至能く悉く、八萬四千の種を知る。
煩惱使の難處は、無始より來滅せず、皆心と共に行じ、繫縛して斷ず可からず。
諸の結使等は、但妄想分別のみ、方處の所有ること無く、亦定れる事相も無く、

【四三】次の四偈は智成就を頌す。
【四四】次の十二偈は入行成就を頌す。

常に身を離れず、又亦知ることを得難く、禪定の力能く遮へ、金剛道能く斷ずと知る。
又能く諸生の、六道に入る差別を知り、愛は潤はし無明は覆ひ、業は田にして識は是れ種なり。
後身の芽を生じ、名色共に增長し、無始の生死より來り、相續して三界に在り。
諸の天龍の趣は、煩惱業の心に由ると知る、若し此の法を離るれば、是れ則ち所有無し。
一切諸の衆生は、皆三趣の中に在り、或は諸の邪見に沒し、或は智道に在り。

（四五）菩薩是の地に住すれば、悉く衆生の心と、諸根と及び欲樂と、種種の差別の義を知り、

【四五】次の十四偈半は說成就を頌す。

深心に善く思惟して、宜に隨ひて法を說く、無礙の智に通達して、善く言辭を以て說く。
菩薩は爲法師なり、猶ほ師子王、牛王・寶山王の如く、安住して畏るる所無し。
普く諸の世界に於て、甘露の法味を雨らすこと、猶ほ大龍王の、能く雨らして大海に滿たしむるが如し。
此の菩薩は善く、法と義と辭との無礙なるを知り、善能く隨順して行じ、樂說の力を具足す。
能く百萬の、阿僧祇の總持を得て、能く諸佛の法を受くること、海龍の雨を受くるが如し。
菩薩は是の如きの、諸の深妙にして淸淨なる、無量の陀羅尼と、諸の三昧力とを得るが故に、
能く一念の中に於て、無量の佛を見たてまつることを得、淨き梵音を聞き已りて、妙法の寶を

演說す。
是の菩薩は或は、大千界の衆生を敎へ、心根の好む所に隨ひて、法を說きて歡喜せしむ。
是の如き等の無量なる、三千大千の國に、轉た深く勤め精進して、是の思惟を作さく、
「一微塵の中に於て、無量の佛は法を說き、衆生の心相に隨ひて、妙義を演說したまふ」と。
是の菩薩は皆受くること、地の諸の種を受くるが如し。
復た是の如きの願を作さく、「十方諸の所有る、國土の中の衆生は、皆合して大會を爲すも、
我一念の中に於て、皆悉く其の心を知り、一音を以て法を說き、悉く疑網を斷せしめん」と。
菩薩是の地に住すれば、人天の中の法王にして、大說法の師と爲り、衆生の性に隨順す。

【四六】次の七偈は地果を頌す。

〔四六〕常に日夜の中に於て、諸佛と共に會し、能く甚深にして妙なる、寂滅智の解脫に住し、
無量の佛を供養したてまつりて、善根轉た明淨となる、猶ほ轉輪王の、眞金にて莊嚴せる冠の如し。
光明は衆生の、諸の煩惱の難處を照すこと、梵王の光明、大千界を照すが如し。
菩薩是の地に住すれば、三千世界に於て、大梵天王と作り、諸根悉く猛利にして、
善く三乘の法を以て、諸の衆生に示悟し、作す所の諸の善業は、皆正念に順ず。
能く一念の中に於て、而も量有ること無き、世界の微塵數の、諸の深妙なる三昧を得。

十方の佛を見たてまつることを得て、微妙の音をもつて法を說き、佛の大神力を見たてまつり、
更に無量の願を發す。
是の如きの第九地は、大智の所行の處、深妙にして知見し難し、今已に略して說き竟れり。』

卷の第二十八

十地品第二十二の六

第十法雲地。

(一)諸の大菩薩の、行ずる所の無上の事を說き、無數那由他の、(二)首陀會の諸天は、上の虛空の中に於て、心皆大いに歡喜し、咸恭敬の心を以て、衆妙をもつて佛を供養したてまつれり。

那由他の菩薩も、歡悅すること量有ること無く、諸の奇妙の香を燒きて、諸の煩惱を滅除せり。

他化自在王も、諸の天の大衆と與に、虛空の中に住在して、心皆大いに歡喜し、

咸恭敬の心を以て、種種に供養を設け、各衆寶の衣を散じ、空中より旋轉して下る。◎

無量億の天女は、諸根欣びて悅豫し、上の虛空の中に於て、敬心に佛を供養したてまつり、

同じく無量億、那由他の妓樂を作し、一切の寶器の中より、皆是の如きの音を出せり。

【一】第十法雲地、讃請の頌。

【二】首陀會(Suddhāvāsa)。譯して淨居天といふ、色界第四禪の中の一天なり。

『佛、此の處に坐したまひて、悉く一切に徧く、十方國土の中にも、皆亦佛有して現じたまひ、
無量億の種種の、相好莊嚴身は、殊妙なること比有る無く、世界に充滿せり。
一毛孔の中に於て、無量の光明を出し、一切の、世間の煩惱の火を滅除す。
十方の微塵數は、尚ほ計量することを得可くも、一毛孔の光明は、窮盡するを得可からず。
各佛身有りて、三十二相、八十好を以て莊嚴し、無上の法輪を轉じたまふことを見る。
或は佛の種種に、衆の爲めに法を說きたまふを見、或は兜率に在して、諸天を敎化したまふを見、
或は兜率より、來下し胞胎に處したまふを見、或は初生の時を見、或は夜出家したまふを見、
或は道場に坐して、無上道を成じたまふを見、或は法輪を轉じたまふを見、或は涅槃に入りたまふを見る。
無量の國土に於て、種種に示現したまふ、衆生を度せんと欲するが故に、是の如き等の事有り。
譬へば巧なる幻師の、善く幻術を知りて、多く諸の衆生に、種種異身の相を示すが如し。
是の如く佛慧の中に、善く示現を巧みにし、一切の身を變化して、諸の世界に周徧す。
一切の法は空寂にして、先より來性相無く、同なること虛空の若如し、大師も亦是の如く、
第一義の、微妙の性相にて入ることを得て、諸法の性相に隨ひて、佛の大神力を示したまふ。
一切の佛の行性と、法と及び諸の衆生とは、皆悉く同じく相無く、一切の法は空なるが故なり。

一切の佛の法は等しく、第一の、寂滅義趣の中に入在して、悉く皆相有ること無し。
若し佛智を得んと欲せば、應に諸の想念を離るべし、有無倶に通達せば、疾く天人の師と作らん。』
諸天の婇女衆は、皆是の如き等の、千萬種の妙音を出し、寂然として佛を觀たてまつる。
解脫月菩薩は、衆皆寂然たるを見て、金剛藏に請うて言はく、『大名稱の佛子よ、菩薩の第九より、第十地に至る、諸の大神通力を、願はくは今爲めに略說したまへ。』

（三）金剛藏菩薩の言はく、（四）『佛子よ、菩薩摩訶薩は、是の如き無量の智慧をもつて、善く佛道を修行し、乃し九地に至りて善く淸白の法を集め、無量の助道法を集め、大功德智慧に護られ、廣く大悲を行じ、深く世界の差別を分別することを知り、深く衆生の難處に入り、諸の如來の行處に入り、如來の寂滅の行處に隨順せんことを念じ、諸佛の力・無畏・不共の法に趣向し、堅く持して捨てざれば、一切智の位に至ることを得。

（五）菩薩摩訶薩は是の如きの智を行じて、佛位の地に近づけば、則ち菩薩の離垢三昧を得て、現在前す。又法界差別の三昧、道場を莊嚴する三昧、一切世間の華光を雨らす三昧、海藏三昧、海印三昧、虛空廣三昧、一切の法性を觀察する三昧、一切衆生の心行に隨ふ三昧、實の如く一切の法を知る三昧、如來の智信を得る三昧に入る。是の如き等の百萬阿僧祇の三昧は、皆現在前せり。是の菩薩、悉く

【三】已下正しく本地を說く、八段あり。
【四】第一、方便して本地を滿足することを明かす。
【五】第二、三昧を得ることを明かす。

此の三昧に入れば、善く其の中の功用の差別を知る。最後の三昧を益一切智位と名く。

(六)是の三昧現在前すれば、卽時に大寶蓮華王出づ、周圓は百萬の三千大千世界の如く、一切の衆寶をもつて間錯して莊嚴し、一切の人天の所有に過ぎ、出世間の善根の生ずる所なり。一切の法は幻の如く、化の如く、空慧の所成なりと知りて、光明能く一切の世界を照す。瑠璃を莖と爲し 旃檀王を臺と爲し、碼碯を鬚と爲し、閻浮檀金を葉と爲し、無量の光明と一切の妙寶とは、皆其の內に在り、寶網を以つて上に覆ひ、十三千大千世界の微塵數の蓮華を以て眷屬と爲す。爾の時に菩薩は其の身殊妙にして、(七)華座に稱可す。菩薩は益一切智位の三昧力を得たるが故に、身は大蓮華座に在り。卽時に眷屬の蓮華上に皆菩薩有り、一一の菩薩は蓮華の上に坐して、卽ち百萬の三昧を得て、皆一心に大菩薩を恭敬し瞻仰せり。是の菩薩蓮華の座に昇りし時、十方現在の一切の世界は皆大いに震動し、一切の惡道は皆悉く休息し、光明は普く十方世界を照し、一切の世界は皆悉く嚴淨して、皆諸佛の大會を見聞することを得たり。何を以ての故に。是の菩薩は大蓮華の上に坐して、卽時に足の下より百萬阿僧祇の光明を出し。十方の阿鼻地獄等を照して、衆生の苦惱を滅し。兩膝の上より若干の光明を放ち、十方一切の畜生を照して、苦惱を滅除し。臍より若干の光明を放ち、十方一切の餓鬼を照して、苦惱を滅除し。左右の脅より若干の光明を放ち、十方の人界を照して、安隱快樂ならしめ。兩手より若干の光明を放ち、

【六】第二、受位を明かす。

【七】稱可。菩薩の身量莊嚴は此の大蓮華座と相應し相稱ふの意なり。

十方の諸天阿修羅の宮を照し。兩肩より若干の光明を放ちて、十方の聲聞衆を照し。項より若干の光明を放ちて、十方の辟支佛を照し。口より若干の光明を放ちて、十方の菩薩、乃至九地に住する者を照し。白毫より若干の光明を放ちて、十方の位を得たる菩薩を照し、一切の魔宮は隱蔽せられて現せず。頂上より百萬阿僧祇の三千大千世界微塵數の光明を放ちて、十方の諸佛の大會を照し、繞ること十帀し已りて、虛空に住し、光明の網を成じ、高大明淨にして、諸佛を供養したてまつる。是の如きの供養には、初發心より、乃し九地に至るまで作せし所の供養は、百分の一にも及ばず、乃至算數も譬喩も、及ぶこと能はざる所なり。是の大光明の網は、十方世界の所有る華香、末香、塗香、衣服、旛蓋、衆寶瓔珞、摩尼寶珠の供養の具より勝れたり。出世閒の善根より生じたるが故なり。一一の諸佛の大法會の上に、皆衆寶を雨らすこと、猶ほ大雲の如し。若し衆生有りて、是の供養を覺らん者は、皆是れ無上の大道を必定せん。是の如きの諸光は大供養を雨らし已りて、大會を繞ること十帀にして、諸佛の足下に入る。爾の時に諸佛及び大菩薩は、某の世界に、某甲の菩薩摩訶薩、是の如きの道を行じて受職を成就することを知り。卽時に十方無邊の菩薩、乃至九地に住する者は、皆來りて圍繞し、大供養を設け、一心に恭敬して、各萬の三昧を得、一切のもの職を得たり。菩薩摩訶薩は金剛をもつて莊嚴せる胸より、一大光明を出し、破魔賊と名く。無量百千萬の光を以て眷屬と爲し、十方の世界を照し、無量の神力を示す。亦來りて是の大菩薩の胸に入れり。此の光明滅し已れば、是

の菩薩は、卽ち百千萬億の大勢力ある神通と智慧とを得たり。爾の時に諸佛は眉間の白毫相より光を出し、益一切智と名く。無量無邊の光明の眷屬有りて、悉く一切の十方世界を照し、圍繞し十帀して、諸佛の大神通力を示現し、無量百千萬億の諸菩薩を勸進して、十方世界は六種に震動し、一切の惡道の苦惱を滅除し、一切の魔宮は皆蔽はれて現せず。一切諸佛の得道の處を示し、一切諸佛の大會の莊嚴の事を示し、廣大なること法界の如く、究竟すること虛空の如く、一切の世界を照し已りて、虛空に集在し、大神通莊嚴の事を示して、是の菩薩の頂に入り。眷屬の光明は眷屬の蓮華上の諸菩薩の頂に入り、卽時に各先に未だ得ざりし所の十千の三昧を得たり。是の光明此の菩薩の頂に入ること、一佛の光の如く、一切の佛の光も亦皆是の如し。一切十方の諸佛の光明、是の菩薩の頂に入る時、名けて職を得たりと爲し。名けて諸佛の界に入ると爲す。佛の十力を具へて佛の數に墮在す。佛子よ、譬へば轉輪聖王の太子、王の相を成就すれば、轉輪聖王は、子をして白象寶の閻浮檀金の座に在らしめ、四大海の水を取り、上に羅幔を張り、種種に莊嚴して、幢旛妓樂あり、金鐘の香水を執りて子の頂上に灌げば、卽ち名けて灌頂の大王と爲し、具足して十善道を轉ずるが故に、轉輪聖王と名くるが如し。菩薩摩訶薩も亦是の如く、職を受くる時、諸佛は智水を以て是の菩薩の頂に灌ぎ、灌頂法王と名け、佛の十力を具足するが故に、佛の數に墮在す。是を諸の菩薩摩訶薩の大智慧の職地と名く。是の職を以ての故に、菩薩摩訶薩は、無量百千億萬の苦行難事を受く。是の菩薩是の職を得已りて法

雲地に住すれば・無量の功德智慧轉た增す。

（八）佛子よ、菩薩法雲地に住すれば、實の如く欲界の集、色界の集、無色界の集を知り。實の如く、世間性の集・衆生性の集、識性の集、有爲性の集、無爲性の集、虚空性の集、法性の集、涅槃性の集、邪見諸の煩惱性の集を知り、實の如く諸の世間法の成壞の集、聲聞道の集、辟支佛道の集、菩薩道の集、諸佛の力・無畏・不共の法・色身・法身の集。一切智の集・佛道を得、法輪を轉じ、滅度を示す集を知る。要を擧げて之を言はば、實の如く一切法の差別の集を知る。是の菩薩は是の如き智慧を以て、菩提の行に隨順し、實の如く衆生の（九）化、業の化、煩惱の化、諸見の化、世間の化、法界の化、聲聞の化、辟支佛の化、菩薩の化、如來の化、一切の化、分別・無分別の化を知る。是の菩薩は實の如く佛力の（一〇）持、法の持・業の持、煩惱の持、時の持・願の持、先世の持。行の持、劫壽の持、智の持を知る。

是の菩薩は十地に住すれば、諸佛の所有る微細の智、所謂る行の微細智、命終の微細智・受胎の微細智、出生の微細智、出家の微細智、得道の微細智、神力自在の微細智。轉法輪の微細智、壽命を保つ微細智、涅槃を示す微細地、法久住の微細智、是の如き等の微細智を皆實の如く知る。又諸佛の（一一）密處、所謂る身密、口密、意密、時・非時を知る密、菩薩に受記を與ふる密、衆生を攝伏する密・諸乘差別の密、八萬四千の諸根差別の密、業は實の如く作す所の密、行じて菩提を得る密、是の如き等の密

【八】第四、本地究竟滿足の大明を明かす（入大盡）。
【九】化とは應化の義。
【一〇】持とは加持の義。
【一一】密とは祕密の義。

を、皆實の如く知る。是の菩薩は諸佛の所有る入劫智、所謂る一劫に阿僧祇劫を攝し、阿僧祇劫に一劫を攝し、有數劫に無數劫を攝し、無數劫に有數劫を攝し。一念に劫を攝し、劫に一念を攝し。劫に非劫を攝し、非劫に劫を攝し。有佛の劫に無佛の劫を攝し、無佛の劫に有佛の劫を攝し。過去未來の劫に現在の劫を攝し、現在の劫に過去未來の劫を攝し。未來過去の劫に現在の劫を攝し、現在の劫に未來過去の劫を攝し。長劫に短劫を攝し、短劫に長劫を攝し、諸劫の攝相を皆實の如く知る。是の菩薩は諸佛の入る所の微塵智、國土智、衆生の身心智、衆生の身心の得道智、衆生の行智、一切處に至る智、徧く佛道を行ずる智、順行智、逆行智、不可思議智、一切の世間、聲聞、辟支佛、菩薩の知ること能はざる所を、皆實の如く知る。佛子よ、諸佛の智慧は廣大無量なり。菩薩是の地に住すれば、則ち能く是の如き智慧に入ることを得。菩薩摩訶薩、是の地の行に隨へば、菩薩の不可思議なる解脫、無礙の解脫、淨行の解脫、普門明の解脫、如來藏の解脫、隨無礙論の解脫、入三世の解脫、法性藏の解脫、明解脫、勝進の解脫を得。是の菩薩は十の解脫を首と爲して、是の如き等の無量無邊の百千萬億阿僧祇の解脫を得。百千萬の無量阿僧祇の三昧、百千萬の無量阿僧祇の陀羅尼、百千萬の無量阿僧祇の神通も亦復た是の如し。

(三)是の菩薩、是の如きの智慧を成就すれば、菩提に隨順し、無量の念力を成就し、能く一念の頃に於て、十方無量の佛の所に至り、無量の法明、

【三】第五、釋名を明かす。

【三】娑伽羅(Sāgara) 鹹海と譯す、海中に住する龍宮は七寶を以て飾られ天と異なる

無量の法雨を皆能く受持す。譬へば　(三)娑伽羅龍王の澍ぐ所の大雨は、唯大海を除きて餘は受くること能はざるが如し。菩薩摩訶薩も亦是の如し。如來は微密に大法の雨を雨らし、一切の衆生、聲聞、辟支佛、乃至九地の菩薩も、受くること能はざる所、唯此の菩薩法雲地に住すれば、悉く能く受持す。譬へば大海の一龍王の大雲雨を起すも、皆能く堪受し、若しは二、若しは三、乃至無量無邊の諸の大龍王の起す所の雲雨を、一時に澍ぎ下すも、皆能く受持するが如し。菩薩摩訶薩も亦是の如し。法雲地に住すれば、一佛の所に於て、能く大法明の雨を受け、二佛、三佛、乃至不可說不可說の佛、一念の中に於て、皆能く是の如きの諸佛の大法の雲雨を堪受す。是の故に此の地を法雲地と名けたり。』

解脫月の言はく、『佛子よ、是の菩薩は一念の中に於て、能く幾所の大法明の雨を受くるに堪ふるや。』

答へて言はく、『佛子よ、譬へば十方の所有る不可說の百千萬億那由他の世界の微塵の如き、爾所の微塵世界の衆生、假使皆陀羅尼を聞持することを得て、佛の侍者と爲り、大聲聞と爲り、多聞第一なること、金剛蓮華上の佛の善伏比丘の如くならん、其の一りの衆生是の如き多聞の力を成就し、餘も亦是の如し。一人の受くる所は、餘は重ねて問はず、是の如くして一切各各同じからず。意に於て云何ん。是の一切の衆生の多聞を受持する力は、多しと爲すや、不や。』答へて言はく、『甚だ多くして稱り計ふ可からず』と。『佛子よ、我今汝が爲めに說かん。是の菩薩法雲地に住すれば、一念の頃に於て、

ことなしといふ、雨を降らす神として崇敬せらる。

一佛の所に於て、三世の法藏大法明の雨を受け、上の一切衆生の多聞の力は、百分が一にも及ばず、乃至算數も譬喩も及ぶこと能はざる所なり。一佛に聞く所の如く、十方世界の微塵の諸佛にも皆能く大法明の雨を受持す。復た能く此に過ぎて無量無邊なるも、一念の頃に於て亦能く受持す。是の故に名けて法雲地と爲す。◎佛子よ、菩薩摩訶薩法雲地に住すれば、自ら願力よりして大慈悲・福德・智慧を生じ、以て密雲と爲し、種種の身を現じて、雜色の雲と爲し、通明無畏を以て電光と爲し、大雷音を震ひ、法を說きて魔を降す。一念に一時に能く上に說く所の微塵世界に於て、皆悉く周普し、以て善く善法甘露の法雨を雨らし、諸の衆生の心の樂ふ所に隨ひて、無明の起す所の煩惱の燄を滅するが故に。是の故に名けて法雲地と爲す。◎復た次に、佛子よ、菩薩摩訶薩法雲地に住すれば、一世界に於て、兜率天より來下し、乃至大涅槃を示し、一切の佛事は度する所の衆生に隨ひて、皆神力を現ず。若くは二、若くは三、乃至上の如き微塵數の世界、亦復た是に過ぎたる、百千萬億阿僧祇の世界にも、兜率天より來下し、乃至大涅槃を示し、一切の佛事は、度する所の衆生に隨ひて、皆神力を現ず。

(四)是の菩薩此の地に住すれば、智慧の中に於て、上自在力を得。或は狹國を以て廣と爲し、廣國を狹と爲し。或は垢れたる國を以て淨となし、淨き國を垢れたるものと爲す。是の如く、一切の世界に、皆神力有り。是の菩薩は或は一微塵の中に於て三千大千世界の鐵圍山川を置きて、而も迫迮せず。或は二、或は三、乃至不可

【四】第六、本地滿足し已りて妙用自在なることを明かす（神通力の無上有上）

說不可說の世界の、諸の莊嚴の事を一塵に入るることを示し、或は一世界の莊嚴の事を以て、不可說不可說の世界を示し。或は不可說不可說の世界の衆生を以て、一世界の中に置きて、而も迫迮せず。或は一世界の衆生を以て不可說不可說の世界の中に置き、或は不可說不可說の世界を以て、一塵の中に入れて、而も衆生を惱まさず。或は一塵の中に一切の佛の神通力、莊嚴の事を示す。或は一念の中に於て、不可說不可說の世界微塵數の身を現じ、一身の中に於て、無量の手を示し、一一の手を以て恒沙の蓮華を執り、以て諸佛に散じたてまつり。雜香末香、旛蓋寶物、是の如き一切の莊嚴の具を、皆手を以て執り、諸佛を供養したてまつる。一一の身に於ても亦復た是の如し。又一一の身に微塵數の頭を化し、一一の頭に於て、塵數の舌有り、是の神力を以て諸佛を讚歎したてまつる。是の如き等の事、念念の中に於て、十方に徧滿し、念念の中に於て、神通力を以て、無量の世界に、佛道を得、法輪を轉じ、乃至大般涅槃を示し、三世の中に於て神通力を以て、無量の身を示現し、自身の中に於て無量の佛、無量の佛土の莊嚴事を現じ、自身の中に於て、一切の世界の成壞の事を示す。或は一毛孔に於て、一切の風を出し、而も衆生を惱まさず。或は無量無邊の世界を以て、一海水と爲し、此の海水の中に、大蓮華を作し、形色光明は、無量無邊の世界に徧く、中に於て菩提樹の莊嚴の妙事を示し、乃至一切種智を得たることを示す。或は自身の中に、一方世界の摩尼寶珠、日月星宿の一切の光明を現じ、乃至十方の所有る光明も、亦復た是の如し。或は口より氣を噓き、能く十方無量の世界をして、悉く

大いに震動せしめて、衆生をして恐畏の想有らしめず。或は十方世界の水劫盡き、風劫火劫の盡くることを示して、衆生身を意に隨ひて莊嚴し。或は自身に於て如來身を示作し、或は如來身に於て自身を示作し。如來身を己が佛國と作し、己が佛國を如來身と爲す。佛子よ、菩薩摩訶薩は法雲地に在りて神變すること是の如し、又餘の無量の神力も自在なり。』

爾の時に、會中の諸の菩薩・天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・四天王・釋提桓因・梵天王・自在天子・淨居天等、各是の念を作さく、

『若し菩薩の神通力と智慧力と是の如く無量無邊ならば、佛は復た云何んがしたまふや。』

時に解脫月菩薩、大衆の心に念ふ所を知りて、金剛藏菩薩に問ひて言はく、

『佛子よ、今諸の大衆は、是の菩薩の神通智慧力を聞きて、疑網に墮在しぬ。汝今當に一切の疑惑を斷ち、菩薩の神通莊嚴の妙事を示したまふべし。』

時に金剛藏菩薩、卽ち一切の佛國體性三昧に入る。時に大衆・天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・四天王・釋提桓因・梵天王・自在天子・淨居天等、皆自ら金剛藏菩薩の身中に入ることを見知して、其の身内に於て、三千大千世界の莊嚴せる衆事を見る、若し一劫を滿たして說くとも、盡す可からず。中に於て、佛の道場樹を見る。其の莖の周圍は、十萬三千大千世界、高さは、百萬三千大千世界にして、三千億三千大千世界を覆ひ、樹の高廣なるに稱ふ。師子の座有り、其の座上に佛

有し、一切智王如來と號けたてまつる。一切の大衆咸く皆佛坐して座上に在すを見たてまつる。其の中の所有る莊嚴と、上妙なる供養の具とは一劫を滿たして說くも、亦盡す可からず。金剛藏菩薩、是の如き大神力を示現し已りて、還つて大衆をして、各本處に在らしむるに、一切の衆會は、希有の想を生じて、默然として一心に金剛藏を觀る。

時に解脫月菩薩、金剛藏菩薩に問うて言はく、『佛子よ、是の三昧には大勢力有り。甚だ爲希有なり。是の三昧は號くる所云何ん。』

答へて言はく、『是の三昧は一切佛國の體性と名く。』問うて言はく、『是の三昧の有つ所の勢力の境界は云何ん。』

答へて言はく、『佛子よ、若し菩薩摩訶薩、善く修して是の三昧力を成就せん者は、能く是の如き無量恒沙の世界の微塵數の三千大千世界を以て、身中に於て現じ、復た是の數に過ぎん。菩薩法雲地に在れば、是の如き無量無邊の百千萬億の諸の大三昧を得。是の故に、菩薩此の地の中に住すれば、身の業測り知る可きこと難く、口の業測り知る可きこと難く、意意の業測り知る可きこと難く、神力の自在なること測り知る可きこと難く、三世の法を觀ずることも測り知る可きこと難く、諸の三昧の行に入るも測り知る可きこと難く、智力も測り知る可きこと難く、諸の解脫に遊戲することも測り知る可きこと難く、變化の所作、神力の所作、如意の所作も測り知る可きこと難く、乃至擧足下足を

も菩薩の善慧地に住する者は測り知ること能はず。佛子よ、菩薩の法雲地は、是の如く無量なり。若し廣く說かば、無量無邊の阿僧祇劫にも盡すことを得る能はず。』

解脫月の言はく、『佛子よ、若し菩薩の行處力と神通力とにして是の如くならば、佛の行處力と神通力とは復た云何ん。』

答へて言はく、『佛子よ、譬へば人有り一塊の土を見て、是の言を作さんが如し、「無量無邊の世界の地性は此より多しと爲すや」と。汝の問ふ所の者は、我是の如しと謂ふ。如來の無量なる智慧は、云何んぞ、菩薩の智慧を以て測量することを欲せんや。佛子よ、人あり四天下の地性の少分を取らんに、餘す者極めて多きが如し。菩薩の法雲地は、無量劫に於て但說く可きのみ。何に況んや如來地をや。我今當に說きて汝をして之を知らしむべし。佛は現じて證を爲したまはん。十方無量無邊の世界の微塵に等しき諸佛の世界の如く、十地の菩薩皆其の中に滿たんに、是の諸の菩薩に、無量無邊の業有りて、菩薩の功德智慧禪定を修習せんも、如來の功德智慧力に於て、百分が一にも及ばず。百千萬億分が一にも及ばず。乃至算數も、譬喩も及ぶこと能はざる所なり◎佛子よ、是の菩薩は是の如き智慧に隨順し、如來の身口意に順じて、諸の菩薩の三昧を捨てず。勤心に一切の諸佛を供養したてまつり、一一の劫に於て、一切の供具を以て、無量無邊の諸佛を供養したてまつれば、能く悉く具さに諸佛の神力を受け、轉た復た明勝となる。是の菩薩は法性の問難に於て、能く勝る者無く、乃至無量無邊の

百千萬億劫にも窮盡す可からず。佛子よ、譬へば天金の、摩尼珠の衆寶を以て間錯して、自在天王の嚴身の具と爲さんに、其の餘の諸天は及ぶこと能はざる所、亦奪ふ者も無きが如し。菩薩十地に住すれば、智慧善根は、初地より乃し九地に至るまで及ぶこと能はざる所なり。菩薩是の地に住すれば、大智照明なることを得、一切智に隨順するが故に、其の餘の智慧は壞すること能はざる所なり。譬へば大自在天王の光明は、能く衆生の身心をして清涼ならしめ、一切の生處の衆生の光明は、及ぶこと能はざる所なるが如し。菩薩摩訶薩も亦是の如し。法雲地に住すれば智慧の光明は、一切の聲聞、辟支佛の及ぶこと能はざる所なり、乃至九地の菩薩も亦及ぶこと能はず。是の菩薩是の地の中に住すれば能く無量の衆生をして一切智道に住せしむ。佛子よ、菩薩是の地に住すれば、十方の諸佛は爲めに三世の智慧、法界の智慧、一切世界の智慧、普く照して一切の世界を住持する智慧、大慈大悲をもつて普く一切の衆生を覆ふ智慧を說きたまふ。要を擧げて之を言はば、具足して爲めに一切智道に至ることを說きたまふ。佛子よ、是を菩薩摩訶薩の第十法雲地と名く。

(一五)菩薩是の地に住すれば、多く摩醯首羅天王と作り。智慧明達し、善く聲聞・辟支佛・菩薩に波羅蜜を說き、法性の中に於て問難する者有るも、能く盡さしむる無し。作す所の善業は布施、愛語、利益、同事にして、皆佛を念ずることを離れず、法を念ずることを離れず、乃至具足一切種智を念ずることを離れず、常に是の念を作さく、「我當に一切衆

【一五】 次は地果を明かす。

生に於て首と爲り、勝と爲り、乃至一切衆生に於て依止者と爲るべし」と。若し是の如く勤行精進せんと欲せば、一念の中に於て、無量百千萬億那由他の不可說不可說の世界微塵數の三昧を得、乃至爾所の微塵數の菩薩を示し、以て眷屬と爲さん。若し願力を以てせば、神通自在にして復た是の數に過ぎん。所謂る諸行、上妙の供具、信解、起業、若しは身、若しは口、若しは光明、若しは諸根、若しは如意足、若しは音聲、若しは行處、乃至若干百千萬億劫にも稱り數ふ可からず。

(二六)佛子よ、是の菩薩は、十地次第に順行して、一切種智に趣向す、(二七)阿耨達池より四河流出して、四天下に滿足し、窮盡有ること無く、乃し大海に入るが如し。菩薩も亦是の如く、菩提より善根大願の水を出し、四攝法を以て、衆生を滿足して窮盡せず、乃し一切種智に至る。佛子よ、是の菩薩の十地は、佛智に依るが故に、而も差別有り。大地に因りて、十の大山王有るが如し。何等をか十と爲す。所謂る雪山王、香山王、軻梨羅山王、仙聖山王、由乾陀山王、馬耳山王、尼民陀羅山王、斫迦羅山王、宿慧山王、須彌山王なり。雪山王の一切の藥草を、其の中に集在して、盡す可からざるが如く、菩薩も亦是の如く、歡喜地に住すれば、一切世間の經書技藝、文頌呪術、其の中に集在して、窮盡有ること無し。香山王の、一切の諸香其の中に集在して窮盡す可か

【二六】第七、喩を以て法を顯はす。

【二七】阿耨達池。具さに阿那婆答多(Anavatapta)といふ。無熱惱池又は清涼池と譯す。周圍四百里にして四岸四口あり、四河を出す、南は恒河(Gaṅgā)、東は徙多河(Sītā)、西は信度河(Hindus)、北は縛芻河(Paśu)なり。

らざるが如く、菩薩も亦是の如く、離垢地に住すれば、持戒、頭陀、威儀、助法其の中に集在して窮盡有ること無し。（一八）軻梨羅山王は但寶のみを以て成り、諸の妙華を集め、取るとも盡す可からざるが如く、菩薩も亦是の如く、明地に住すれば、一切世間の禪定・神通・解脫三昧を集め、問ふとも盡す可からず。仙聖山王の但寶のみを以て成り、多く五通の仙人有りて、窮盡す可からざるが如く、菩薩も亦是の如く、燄地に住すれば、集めて衆生をして道の因緣に入らしめ、種種に問難すとも、窮盡す可からず。（一九）由乾陀山王の、但寶のみを以て成り、夜叉大神を集むるも窮盡す可からざるが如く、菩薩も亦是の如く、難勝地に住すれば、一切の自在如意神通を集め、說くとも盡す可からず。馬耳山王の但寶のみを以て成り、衆の妙果を集めて取るとも盡す可からざるが如く、菩薩も亦是の如く、現前地に住すれば、深き因緣の法を集め、聲聞の果を說きて窮盡す可からず。（二〇）尼民陀羅山王の但寶のみを以て成り、一切の大力の龍神を集め、窮盡す可からざるが如く、菩薩も亦是の如く遠行地に住すれば、種種の方便智慧を集め、辟支佛の道を說きて、窮盡す可からず。斫迦羅山王の但寶のみを以て成り、心自在の者を集め、窮盡す可からざるが如く、菩薩も亦是の如く、不動地に住すれば、一切菩薩の自在道を集め、世間の性を說きて、窮盡す可からず。宿慧山王の、但寶のみを以て成り、大神通の諸の阿修羅を集め、窮盡有ること無きが如く、

【一八】軻梨羅（Khadiraka）、佉陀羅木を出すを以て名く、佉陀羅は譯して苦鞭木といふ。

【一九】由乾陀。又は、踰健達羅（Yugandhara）とも云ふ。持雙山と譯す。

【二〇】尼民陀羅(Nimindhara)。持邊山と譯す。

菩薩も亦是の如く、善慧地に住すれば、轉衆生行智を集め、世閒の相を說きて、窮盡す可からず。須彌山王の但寶のみを以て成り、諸の天神を集め、窮盡有ること無きが如く、菩薩も亦是の如く、法雲地に住すれば、如來の十力四無所畏を集め、諸佛の法を說きて窮盡す可からず。是の十の寶山は同じく大海に在るも、大海の水に因りて、差別の相有り。菩薩の十地も亦是の如く、同じく佛智に在るも、一切智に因るが故に差別の相有り。◎佛子よ、譬へば大海の十相を以ての故に、名けて大海と爲し、能く壞するもの有ること無きが如し。何等をか十と爲す。一に漸次に深く、二に死屍を受けず、三に餘水本名を失ひ、四に一味、五に寶多く、六に極めて深くして入り難く、七に廣大なること量り無く、八に大身の衆生多く、九に潮時を失はず、十に能く一切の大雨を受けて盈溢有ること無し。菩薩の地も亦是の如く、十の因緣を以ての故に、能く壞するもの有ること無し。何等をか十と爲す。歡喜地の中に、漸く堅固の願を生じ。離垢地の中に、破戒と共に宿せず。明地の中に諸の假名を捨て。燄地の中に、佛に於て一心不壞の淨心を得。難勝地の中に、世閒の無量の方便神通を生じて、世閒の事を起し。現前地の中に甚深の因緣法を觀じ。遠行地の中に廣大の心を以て善く諸法を觀じ。不動地の中に能く大莊嚴を起して示現し。善慧地の中に能く深解脫を得、世閒の行に通達して實の如く失はず。法雲地の中に、能く一切の諸佛の大法明の雨を受く。◎佛子よ、譬へば大摩尼の寶珠に、十事有りて能く衆生に一切の寶物を與ふるが如し。何等をか十と爲す。一に大海より出で、二に巧匠治を加へ、三に轉た精

妙となり、四に垢穢を除き、五に火を以て錬治し、六に衆寶をもつて莊嚴し、七に貫くに寶縷を以てし、八に瑠璃の高柱に置き、九に光明四を照し、十に王の意に隨ひて衆の寶物を雨らす。菩薩の發菩提心の寶も亦十事有り。何等をか十と爲す。一に初發心に布施して慳を離れ、二に持戒、頭陀、苦行を修し、三に諸の禪定解脱三昧を以て轉た精妙ならしめ、四に道行を以て清淨に、五に錬ふに方便神通を以てし、六に深き因緣の法を以て莊嚴し、七に種種の深き方便智慧を以て貫穿し、八に神通自在の幢上に置き、九に衆生の行を觀じて多聞智慧の光明を放ち、十に諸佛は智の職を授け、一切の衆生に於て能く佛事を爲し、佛の數に墮在す。

【三】第八、地の利益を明かす。

（三）佛子よ、是の菩薩の行ずる所の、集一切智慧功德法門品は、若し深く善根を種ゑざれば、聞くことを得る能はず。問うて言はく、「佛子、若し聞くことを得ん者は、是の人爲めて幾所の福を得るや。」答へて言はく、「佛の所有る智慧勢力に隨ふ。是の如く薩婆若の心を發して、緣ずる所に福德を攝む。是の人此の法門を聞くことを得て、得る所の福德も亦復た是の如し。何を以ての故に。若し菩薩の心無ければ、是の法門を聞くとも、信解し受持する能はじ。何に況んや身を以て修習し、能く其の事を成ぜんをや。是の故に當に知るべし、是の人一切種智に隨順せば、聞きて、信解し、受持し、修行することを得ん。」と◎』

是の品を說く時、十方世界の十億の佛國微塵數の世界は、六種に十八相に動けり。佛の神力を以て、

法是の如くなるが故なり。諸天は華・末香・瓔珞・寶衣・旛蓋・莊嚴身具を雨らし、天の技樂歌頌を雨らし下だす。復た大音有りて十地の殊勝の事を讃歎せり。此の世界の四天下の他化自在天王宮に、十地を說くが如く、十方一切の世界も、皆亦是の如し。佛の神力を以ての故なり。十方の十億の佛國微塵數の刹を過ぎて、十億の佛國微塵數の菩薩有り、此の世界に詣でて徧滿し、虛空に皆是の言を作さく、『善い哉善い哉、金剛藏、善く菩薩の十地の法を說きたまへり。佛子よ、我等は皆、金剛藏と名け、金剛德世界の金剛幢佛の所を發して來り、經歷せし處には、皆是の經を說き、衆會も是の如く、言辭義趣も亦是の如くなりき。我等は佛の神力を以ての故に、來りて是の事を證す。我此に至るが如く、十方一切世界の他化自在天王宮の摩尼寶殿に、皆十億の佛國微塵數の菩薩有り、往きて爲めに證を作すことも亦復た是の如し』と。

〔二二〕時に金剛藏菩薩、十方を觀察し、一切の大衆を觀察し、法界を觀察して、初發の薩婆若の心を讃歎し、菩薩の境界を示し、菩薩の行力を淨め、一切種智を攝し、衆生に隨ひて說き、一切世間の垢穢を除き、衆生に一切種智の因緣を與へ、不可思議なる智慧莊嚴の事を示し、一切の菩薩の功德の差別相を讃歎して、諸地をして轉た勝明ならしめ、衆生に顯示せんと欲するが故に、佛の神力を承けて、偈を以て頌して曰く、

〔二三〕『諸の菩薩の行ずる所は、善寂滅を樂ひ、其の心に所著無きこと、

【二二】重頌、九十偈あり、初に說偈の意を明かす。
【二三】初の七偈は前九地の中の善擇智を頌す。

猶ほ虛空の若如し。
貪恚癡の垢を除きて、道智に安住す、是の如き無上の行を、願樂して聽聞せんと欲す。
是の如き諸の菩薩は、無量劫に在りて、勤心に常に、一切諸の善根を修習し。
無量の佛、辟支阿羅漢を供養したてまつり、衆生を利せんが爲めの故に、乃ち菩提心を生ぜり。
精勤して戒行を持ち、頭陀をもつて罪垢を除き、善忍を修して轉た妙に、慚愧の威德滿ち、
福慧の因緣の故に、勝れたる遠心明淨となり、深く佛智を樂ひ、佛と同じく菩提を生ず。
一切の、十方三世の佛を供養したてまつり、虛空に等しき如き國を、悉く皆淸淨ならしむ。(二)

〔三四〕一切法の平等に、善く悉く通達するが故に、諸の衆生を度せんが爲めに、菩提心を發す。
諸の菩薩は是の如くにして、是の無量心を生じ、歡喜地に至りて、
惡を息め布施を樂ふ。
諸の本願力を得て、慈悲心を增廣し、深く十善の道を行じて、能く離垢地に至る。
戒聞の功德備はり、慈心をもつて世間を愍み、永く諸の垢穢を離れ、深心常に淸淨なり。
普く諸の世間を觀ずるに、三毒の火熾然たり、是の如きの大士は、第三明地に入る。
三界を觀ずるに皆空にして、無常なり亦病の如く、癰の如く瘡・箭の如く、無量の苦は常に燃ゆ。

【三四】次の十四偈は各二偈を以て別して初地より七地に至るまでを頌す。

諸の有爲の過を見て、佛の功德を貪樂し、佛智の明燄を得て、第四地に入る。
念慧を成就して、道智に至ることを得、此の地に在りて、百千の諸の如來を供養したてまつる。
常に能く思惟して、諸佛の無量の德を念じ、一切、世閒の難勝地に入ることを得、
能く慧方便を以て、種種に示現し、諸の爲作する所有るは、以て世閒を利せんとす。
諸佛を供養し、衆生を益する事を行じ、無生の法前に在りて、現前地に入ることを得、
菩薩の諸の所行は、一切の世に知り難く、常に我心有ること無く、有無皆悉く離る。
諸法は先より空寂なるも、十二の緣の故に行ず、善く此の微妙なるを了りて、遠行の地に入り、
慧方便等を行じて、法の寂滅相を得たる、是の如きの大士は、知り難く及ぶ可きこと難し。

(二五) 世閒をして、善寂滅を得しめんと欲するが爲めの故に、還り起ちて諸の行と、種種の福德の事とを修し、
普く衆生の、種種なる心行處に入り、是の如くして能く、空の如き不動地に入ることを得。
大智の諸の菩薩は、善能く悉く具さに、種種 諸の智業を行じて、十の自在力を得。

(二六) 能く量有ること無く、邊際無き諸の身を以て、普く十方界に現じ、而も爲めに妙法を說き、
善く世界、及び諸の衆生 性に達す、是の如き大慈悲をもつて、能く善慧地に入る。

【二五】次の三偈は別して第八地を頌す。
【二六】次の五頌は別して第九地を頌す。

第一妙淨の智は、善く諸の世間の、纏練煩惱業の、甚深なる諸の難處を觀じ、
是等を度せんが爲めの故に、諸佛の法藏を得て、善く第一義を說き、悉く違錯する所無し。
是の如く次第に行じて、諸の善法を具足し、乃し九地に至りて、修集する所は福慧なり。
(二七)諸佛の力の、第一深妙の利を得んと欲して、乃ち一切の佛に於て、智の職位を受くることを得、
先に無數の定を得て、智行極めて廣大なり、最後に壞し難き、諸の智位三昧を得たり。
(二八)若し能く是の如き、益智位三昧を得ば、一切の寶をもつて莊嚴したる、蓮華王卽ち出でん。
菩薩は蓮華に稱ひ、身を現じて其の上に坐し、餘華の諸の菩薩、咸共に一心に視る。
爾の時に大菩薩、身より無量なる、百千億の光明を放ち、諸の世間の苦を滅し、
然して後に頂上より、百千億の光明を出し、普く十方界の、諸佛の大衆會を照す。
上の虛空の中に於て、光明の網を化成して、諸佛を供養すること已りて、諸佛の足下に入る。
時に一切の如來、及び諸の大士等は、各某の菩薩、智職を受くることを得たるを知れり。
是の如く一切の佛は、眉間より光明を放ちたまひ、益一切智と名け、此の菩薩の頂に入る。
一切の無量の佛も、此の菩薩に職を與へたまふこと、猶ほ轉輪王の、太子に位を授くるが如し。

【二七】次の二偈は三昧を得ることを頌す。
【二八】次の十偈は位を得ることを頌す。

時に十方の世界は、善く皆大いに震動し、乃至阿鼻等の、諸の苦は皆除滅せり。
菩薩一切の、智慧を具して是の職を得たる、是の如きを名けて、無上の法雲地に到れりと爲す。

(二九)是の地の中に住すれば、智慧邊限無く、善く一切の、世間を度する諸の因緣を知る。
色・無色の法と、欲・色・無色の界とに入り、能く衆生と、國土及び法性とを知る。
又能く可數、不可數の法の中に入り、乃至能く、虛空の無量性を觀察す。
又此の地には悉く、菩薩の變化の事と、諸佛の威神力と、微細智と密事とを知る。
又能く悉く、一切諸劫の數に通達し、一微塵の中に於て、諸の世界の、
一切諸の如來を觀見たてまつる。
此の無上地に於て、初生し及び出家し、道を得て法輪を轉じ、涅槃に
入ることを示し、皆智と、寂滅の妙解脫とに隨順して、悉く此の地を得たり。

(三〇)此の地の諸の大士は、憶念力大なるが故に、諸佛の大法雨を、皆悉く能く受持す。
譬へば大海の水は、能く龍王の雨を持するが如く、諸佛の廣大の法を、菩薩の受くることも亦爾なり。
若し一佛の所に於て、一時に法を聽受せんに、十方無量の土の、微塵數の衆生、
皆多く聞きて總持し、聲聞乘を成ずとも、是の菩薩には如かず、算數も及ばざる所なり。

【二九】次の七偈は究竟滿足の大行を明かす。
【三〇】次の六偈は釋名を頌す。

無量の智慧と、及び先の大願力とを以て、能く一念の中に於て、無量の國に徧滿し、
甘露の法雨を雨らして、諸の煩惱の火を滅す、是の故に諸の如來を、名けて法雲地と爲す。

(三一) 大士此の地に住すれば、諸佛を供養するの具は、諸天の所有に過ぎ、普く大神力を示す。
衆の轉勝力を示して、是の數に過ぐること無量なり、若し人思量せんと欲するも、迷悶して解ること能はじ。
大智此の地に住すれば、擧足下足の事をも、一切諸の菩薩、乃し九地に至るまで、
皆悉く知ること能はず、何に況んや餘の衆生、三世の諸の聲聞、及與辟支佛をや。
此に住すれば諸佛は、一切の智慧の事を示し、亦、三世に通達せしむる無礙の智を與ふ。
法性の寂滅なることを示し、亦種種の變を示し、一切諸の世界の、
所有る衆生の類の、
行ずる所の一切の法と、深微隱遠の事と、一切の佛の功德とを、次第に示して知らしむ。

(三二) 菩薩此の地に住すれば、能く大供具を以て、十方の佛を供養したてまつりて、一切の世界に徧し。
一切諸の世間の、所有る衆生の類の、其の餘の諸の供具は、皆及ぶこと能はざる所なり。

【三一】次の七偈は神通力の勝劣を頌す。
【三二】次の八偈は地果を頌す。

智者此の地に住すれば、皆能く一切の、無明諸の闇冥を破り、開示するに佛道を以てす。
自在天王の、光は諸の熱惱を滅するが如く、佛子の智の光明の、惡を滅することも亦是の如し。
是の地に住すれば多く、三界の自在王と作り、諸の智慧に通達して、善く三乘を以て化す。
能く一念の中に於て、無量の三昧を得、能く十方の佛を見たてまつる、其の數も亦是の如し。
金剛藏菩薩、諸の大士に告げて言はく、我今略して、十地の妙行を解說せり。
若し廣く演說せば、千億劫にも盡きじ、是れ則ち、淸淨なる諸の大菩薩の地と名く。

(三) 佛智を得んが爲めの故に、十地の中に住し、安住して移動せざること、猶ほ大山王の如し。
初地に一切の、經書と諸の技術とを具す、猶ほ雪山の中に、衆の藥草を積聚するが如し。

【三】 次の十九偈は喩を以て法を顯はすことを頌す。

持戒及び多聞は、二地の中に在ること、猶ほ香山王の、一切の香物を集むるが如し。
軻梨羅山の、多く諸の寶華を積むが如く、明地に聞智禪定を集むることも、亦是の如し。
燄地に多く、入道の法の不壞なるを積集するは、仙聖山の中に、善寂の遊止する所なるが如し。
五地の諸の神通に、能く及ぶことを得る者無きは、由乾陀山の、多く夜叉の衆を集むるが如し。
六地に能く、諸果を分別して窮盡すること無きは、猶ほ馬耳山の、妙果量有ること無きが如し。
七地の方便慧は、能く及ぶ者有ること無きは、尼民陀山の、諸の龍王盈滿するが如し。

八地の中に住すれば、自在智無量なること、斫迦羅山の、多く心自在なる者の如し。
九地には心清淨にして、法を説くに障礙無きこと、猶ほ宿慧山の、阿修羅の止る所なるが如し。
十地の諸の佛力と、功德とは窮盡すること無きは、須彌山王の、一切の天衆を集むるが如し。
又復た初地の中に、廣大の願を發し、二地に戒品を持ち、三地に假名を壞し、
第四地に專一にして、五地に衆の妙事あり、六地に甚深の相、七地に廣大の心、
八地の中に種種の、莊嚴と諸の神通とあり、九地に思妙の智、能く一切の世に過ぎ、
十地に能く、諸佛の大法の雨を受持す、菩薩の行の大海は、動じ難く盡す可からず。
發心して世間を出で、初地に入ることを得、二地に淨く戒を持ち、三地に諸の禪を修し、
四地に道行淨く、五に方便慧を錬り、六に因緣をもつて莊嚴し、七に深き方便慧あり、
八に瑠璃の幢に到り、九地に衆生の、一切の險難の處を觀じ、智慧の光普く照し、
十地に智職を受く、珠の王意に隨ふが如く、是の如く次第に、菩提心の妙寶を淨む。

〔三四〕十方諸の世界の、所有る微塵の數は、一念の中に於て、其の多少
を計り知る可くとも、
一毫末を以て、虛空を數へ知る可くとも、諸佛の大功德は、無量にして盡す可からず。』

【三四】後の二頌は無盡を結す。

卷の第二十九

十明品第二十三

爾の時に普賢菩薩摩訶薩、諸の菩薩に告げて言はく、

『佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(一)明有り。何等をか十と爲す。

(二)此の菩薩摩訶薩は、悉く三千大千世界の衆生の心念を知れり。所謂る善心、不善心、無記心、(三)廣心、狹心、(四)惡心、勝心、順生死心、背生死心、(五)聲聞心、緣覺心、菩薩心、聲聞行心、緣覺行心、菩薩行心、天心、龍心、夜叉心、乾闥婆心、阿修羅心、迦樓羅心、緊那羅心、摩睺羅伽心、人心、非人心、地獄心、畜生心、餓鬼心、閻羅處の衆生心、諸の難處の衆生心なり。是の如き等の無量なる種種の衆生心を、悉く分別して知る。是の如き等の百の世界、千の世界、百千の世界、億の世界、百億の世界、千億の世界、百千億の世界、乃至百千億那由他の世界、廣く說かば、乃至不可說不可說の、佛刹微塵數の世界の衆生を、悉く能く分別して其の

【一】佛智の妙用自在にして委しく照すを明と稱す。明用無限なるが故に滿數の十を擧げて之を表す。

【二】以下、別釋に十段あり。第一善知他心智明を明かす。

【三】廣狹の二心は善心の中に於て差別を分つ。

【四】不善に順ずるを惡心と名づけ、之に反するを勝心と爲す。

【五】以上九心は行用に約して心を明かし、以下二十一心は報に約して心を明かす。

心念を知る。佛子、是を菩薩摩訶薩の第一の善く他心を知るの智明と爲す。

(六)佛子よ、菩薩摩訶薩は、悉く無量無數の、不可說不可說の佛刹微塵數の世界の衆生、此に死し彼に生ずるを知る。(七)善惡の諸趣、若しは好、若しは醜、若しは垢、若しは淨、若しは黑、若しは白なるを知る。是の如き等の無量の種種の衆生、天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・非人・微細の衆生・小衆生・中衆生・大衆生・勝衆生、是の如き等の無量なる種種の衆生の、此に死し彼に生ずるをしる。(八)菩薩摩訶薩は障礙無き明淨の天眼を以て、悉く能く照見し、其の業報に隨ひて、受くる所の苦樂、種種の業、種種の行、種種の思願、種種の見を、業の境界の如く、囘轉する所の如く、悉く能く覩見る。佛子、是を菩薩摩訶薩の第二の無礙の天眼智明と爲す。

(九)佛子よ、菩薩摩訶薩は、宿命の事を憶す、或は自、或は他、悉く能く無量無數の、不可說不可說の佛刹微塵數の世界の衆生の、過去の無量無數の、不可說不可說の佛刹微塵數劫の事を憶念す。是の如きの生、是の如きの名生、是の如きの食、是の如きの苦樂なりしことを悉く能く了知す。(一〇)又過去の無量無數の不可說不可說の佛刹微塵數の諸佛は、是の如きの名號、是の如きの眷屬、是の如きの父母、是の如きの侍者、是の如きの聲聞、是の如きの最勝なる二大弟子、

【六】第二、天眼明を明かす。
【七】以上は總じて擧げ、以下は所見の境を出す。
【八】天眼の能く見ることを明かす。
【九】第三、宿命明を明かす。
【一〇】以上は自他の本事を憶念することを明かし、以下は過去の諸佛の因果等を憶念することを辨ず。

是の如き王都を捨離して出家求道し、是の如きの菩提樹下に結跏趺坐して、最正覺を得たまひ、是の如きの住處、是の如きの牀座、是の如きの說法、是の如きの化度、是の如きの壽命、是の如きの佛事を作し已りて、無餘涅槃に入りたまひ、佛の滅度の後には、正法は是の如く久しく住せしを憶ひ、悉く能く過去の無量無數の不可說不可說(一)佛刹微塵數の佛の、初發心より願行を出生し、無量の諸佛を恭敬し供養したてまつりて、一切衆生を敎化し調伏し、大衆眷屬のために淨法輪を轉じ、其の壽命に隨ひて神力を示現し、自在に變化して、無餘涅槃し、塔廟を莊嚴し、善根を長養し、乃至、法の住せしことを憶念す。佛子、是を菩薩摩訶薩の第三の深く過去際の劫に入る無礙の宿命智明と爲す。

(二)佛子よ、菩薩摩訶薩は深く未來際の劫、乃至無量無數の不可說不可說の佛刹微塵數の世界の衆生の、未來に生死し、三有に流轉するに入り。衆生の業を知り、衆生の報を知り、衆生の善を知り、衆生の不善を知り、衆生の(三)出を知り、衆生の不出を知り、衆生の(三)定を知り、衆生の不定を知り、衆生の(四)正定を知り、衆生の邪定を知り、衆生の(五)有使の善根を知り、衆生の無使の善根を知り、衆生の(六)具足の善根を知り、衆生の不具足の善根を知り。(七)衆生の善を攝取するを知り、衆生の不善を攝取するを知り、衆生の善を積集するを知り、衆生の不善を積集するを知り、衆生の惡

【二】第四、未來際明を明かす。
【三】善の中に於て、出離解脫の善を出と云ひ、不出世非解脫の善を不出と云ふ。
【三】解脫善の中に於て、決定出離の者を定と云ひ、不決定の者を不定と云ふ。
【四】前の不出世非解脫善の中に於て佛の種姓ある者を正定と云ひ、種姓なき者を邪定と云ふ。
【五】使は煩惱の異名なれば有

法を積集するを知り、衆生の惡法を積集せざるを知る。〔一七〕　〔一八〕未來の無量無數の不可說不可說の佛刹微塵數の世界の諸佛は、是の如きの名號、是の如きの眷屬、是の如きの父母、是の如きの侍者、是の如きの聲聞、是の如きの最勝なる二大弟子、是の如きの王都を捨離して出家求道し、是の如きの菩提樹下に結跏趺坐して最正覺を得ん、是の如きの住處、是の如きの牀座、是の如きの說法、是の如きの化度、是の如きの壽命、是の如きの佛事を作し已りて無餘涅槃に入り、佛滅度の後に正法は是の如く久住せんと知る。悉く未來の無量無數の、不可說不可說の佛刹微塵數の佛の、初發心より願行を出生して、無量の諸佛を恭敬し供養したてまつり、一切衆生を敎化し調伏し、大衆眷屬のために淨法輪を轉じ、其の壽命に隨ひて神力を示現して、自在に變化し、無餘涅槃し、塔廟を莊嚴して、善根を長養し、乃至法の住せんことを知る。佛子、是を菩薩摩訶薩の第四の深く未來際の劫に入る無礙の智明と爲す。

〔一九〕佛子よ、菩薩摩訶薩は、〔二〇〕無礙の天耳を出生して、清淨廣大にして具足し、稱量す可からず、修習して證を得、明淨にして障を離れ、了達し、決定せり。〔二一〕菩薩は、無礙の天耳を成就して、十方

使とは有漏の義、無使は無漏の義なり。
【一六】無漏善の中に於て果位の善根を具足と云ひ、因位を不具足と云ふ。
【一七】以上の八對は位に約し、以下の三對は行に約す。攝取とは初起に名づけ、積集とは造修に名づく。
【一八】前には未來の衆生の業報の相を知ることを明かし、以下は未來の佛の因果を知ることを明かす。
【一九】第五、天耳明を明かす。
【二〇】初に能聞の德を擧ぐ。
【二一】總じて所聞の自在を辨す。

遠近の一切の音聲、聞と不聞とを欲するままに、自在に意に隨ふ。(二二)東方の無量無數の不可說不可說の佛刹に於て、微塵數の諸の如來應供等正覺の說く所、(二三)發らはす所、(二四)開く所、(二五)示す所、制する所、調伏する所、敎化する所、(二六)念ずる所、分別する所、敎ふる所、深妙の善解、無量なる清淨の方便、是の如きの一切を、悉く能く聞持し、義を善くし、味を善くし、衆に隨ひ、人に隨ひ、音聲に隨ひ、智に隨ひ、識に隨ひ、化度する所の所得の功德に隨ひ、境界に隨ひ、所依に隨ひ、出道に隨ひ。悉く能く聞持して、忘失有ること無く、廣く妙法を說きて一切を度脫し、乃至一句一味をも失はず。東方の如く一切十方も亦復た是の如し。佛子、是を菩薩摩訶薩の第五の無礙清淨の天耳智明と爲す。

(二七)佛子よ、菩薩摩訶薩は、無畏神力の智明に安住して。自在無作の神力、平等の神力、廣大の神力、無量の神力、無依の神力、(二八)念至の神力、不轉の神力、不退轉の神力、無盡の神力、不可壞の神力、長養の神力、隨順行の神力を逮得せり。(二九)若し十方の無量阿僧祇の世界、無邊の世界、無分齊の世界、稱量す可からざる世界、不可思議の世界、度量す可からざる世界、乃至不可說不可說の佛刹微塵に等しき一切世界の現在の諸佛を聞かんに。聞き已りて、悉く能く彼の諸佛の所に往詣して、恭敬

【二二】別して東方を顯はす。初に佛を擧げ、次に法を顯はし、三に能く聞持することを明かす。
【二三】發とは隱れたる義理を發起するの意。
【二四】深理を開顯するの意。
【二五】宗本を示すの意。
【二六】念佛、念法等なり。
【二七】第六、神力智明を明かす。
【二八】念至とは念に應じて至るの義。
【二九】以上は名を標し、十二種の神力を擧げて其の體を顯はせり、次には其の業用を明かす。

し禮拜し、讃歎し供養して、深く如來の清淨なる佛刹の、種種の莊嚴と種種の功德とを知りて、無量の功德、皆悉く充滿し。無量の自在無量の境界を示現して一切の如來を讃歎し、恭敬し、供養して、其の身を示現し、悉く十方一切の佛の所に在り、亦此を離れずして、而も往きて彼に到り。悉く自ら了知して、諸佛の所に詣でて、恭敬し、禮拜し、讃歎し、供養し、菩薩の法を問ひたてまつりて佛智を出生し、諸の佛刹の眷屬の變化を見、說法の相を知り、佛刹の相を知りて、悉く著する所無く、一切の事に於て、皆悉く究竟じて彼岸に到り。神力を損すること無くして、速かに十方の一切世界に徧く、佛として見たてまつらざる無く、法として聞かざる無く、衆として知らざる無く、常に正法を聞きて未だ曾て斷絕せず、佛法を樂ひ求めて、勝願を成滿し、普賢菩薩の無量の諸行を具足し修習す。佛子、是を菩薩摩訶薩の第六の無畏の神力に安住する智明と爲す。

（三〇）佛子よ、菩薩摩訶薩は、無量無數の不可說不可說の佛刹微塵數世界の衆生の音聲語言に於て、悉く能く了知す。所謂る、中國の言音、邊國の言音、天の言音、龍の言音、夜叉の言音、乾闥婆の言音、阿修羅の言音、迦樓羅の言音、緊那羅の言音、摩睺羅伽の言音、人の言音、非人の言音なり。是の如き等の不可說不可說の種種の衆生の言音の同じからざるを、菩薩摩訶薩は悉く能く了知し。善く分別して知り、一切の施設に入り、深く入りて一切の世諦を解了し、悉く種種諸の言音の法を知り、諸の言音の法を分別し了知して、一切種種の言音

【三〇】第七、分別言音智明を明かす。

の大海に入る。（三一）菩薩摩訶薩は其の入る所に隨ひて、世界に遊行し、悉く能く此の世界の中の衆生の性を了知す。其の性を知り已りて、悉く一切諸の言音の法を解る。日天子出でて、一切の色を照し、眼有る者をして悉く色相を見しむるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、悉く一切諸の言音の雲に入り、善く一切諸の言音の法を知る。◎佛子、是を菩薩摩訶薩の第七の一切言音を分別する智明と爲す。

（三二）佛子よ、菩薩摩訶薩は一切の色法を知る。（三三）色を生ぜず、種種の色無く、虚妄の色無く、青黄赤白等の形色無し。◎（三四）而も菩薩摩訶薩は深法界に入りて、種種の形色を住持し變化す。無量の色、明淨の色、清淨の色、普現の色、彼に似る色、普く色の得る所を照す色、染汚無き色、具足相の色、清淨相の色、惡を離れたる色、大力の色、尊重の色、無窮の色、無盡の色、雜色、端嚴の色、稱量す可からざる色、善學の色、善く長養する色、成熟の色、隨ひて化度する色、無礙の色、明徹の色、離垢の色、澄淨の色、正身の色、不可思議なる方便の色、不可壞の色、最勝の色、離曀の色、離暗の色、牢强の色、善雜の色、功德相の色、姿好の色、大我の色、境界の色、善調伏の色、清淨正直の色、上色、勝廣の色、不可斷の色、無所依の色、無等の色、不可說の佛刹に充滿する色、長養の色、最堅固の色、勝色、惡

【三一】次は知ることを得る所由を明かす。
【三二】第八、色身莊嚴智明を明かす。
【三三】色卽無色なることを示す。
【三四】以下巧みに多色を現ずることを叙す。無色卽色なり、總別合して百十種の色あり、或は色相に從ひ、或は德用に就て名を立つ、皆是れ稱法界の實色にして、條数の變礙色に同じからず。

色、勝功德の色、希望に隨ふ色、清淨性の色、常善の色、善決定の色、無障の色、虚空明淨の色、清淨長養の色、無垢の色、離塵の色、種種の塵を離れたる色、善く示現する色、普く應現する色、隨時に示現する色、寂靜の色、離欲の色、功德福田眞實の色、安隱の色、恐怖を離れたる平等威儀の色、超越智慧の色、無礙身の色、徧く遊行する身の色、愚癡を離れたる色、大慈等起の色、大悲受持の色、正趣を出づる色、功德力を具足する色、正念に隨ふ色、無量寶の色、明淨藏の色、一切の衆生をして歡喜せしむる色、一切智門の色、歡喜眼の色、一切寶莊嚴無比の色、不著心の色、不堅固の色、住持自在の色、種種の神力自在の色、如來の家に生ずる色、無比の色、法界に充滿する色、衆に隨ひて往詣する色、種種の色、具足の色、善行の色、隨化究竟の色、見て厭足無き色、無量雜光の色、無量阿僧祇の燄光を放つ色、不可說の種種の光色、不可思議なる香光普く三界に熏ずる色、量る可からざる日光燄の色、稱る可からざる月の形像の色、無量の樂華雲を放つ色、種種の寶華鬘莊嚴雲の色、一切世閒に過ぎたる一切の香燄普く熏ずるの色、一切如來の功德藏を出生する色、無量の音聲をもつて廣く一切法を說きて顯現する色、一切種の行は普賢菩薩を具足する色なり。

佛子よ、【三五】菩薩摩訶薩は無色の法界に入りて、種種の形色を住持し變化す、所應に隨ふが故なり。所謂る見の敎化、正念の敎化、轉法輪の敎化、隨時の敎化、念念の敎化、親近の敎化、隨逐の敎化、神力の敎化、種種自在の敎化、不可思議なる大

【三五】以下無色にして色を現ずる意を明かす。即ち應機の化用を顯はすなり。

神變の敎化をもつて、悉く能く一切の衆生を度脫す。佛子、是を菩薩摩訶薩の第八の無量阿僧祇の色身莊嚴を出生する智明と爲す。

【三六】第九、眞實智明を明かす。

(三六)佛子よ、菩薩摩訶薩は、悉く、諸法の名字有ること無きを知り、一切法の悉く性有ること無きを知り、一切法の來無く去無きを知り、一切法の別異なるを知り、一切法の別異無きを知り、一切法の不二にして不二に非ざることを知り、一切法の無我なるを知り、一切法の無比なるを知り、一切法の不生なるを知り、一切法の不滅なるを知り、一切法の從來する所無く去るも至る所無きを知り、一切の法の無壞なるを知り、一切法の不實なるを知り、一切法の不實に非ざることを知り、一切法の一相と無相とを知り、一切法の有に非ざることを知り、一切法の無に非ざることを知り、一切法に非ざることを知り、一切法の非法に非ざることを知り、一切法の語言に非ざることを知り、一切法の非語言に非ざることを知り、一切法の業に非ざることを知り、一切法の非業に非ざることを知り、一切法の報に非ざることを知り、一切法の無報に非ざることを知り、一切法の作に非ざることを知り、一切法の不作に非ざることを知り、一切法の第一義に非ざることを知り、一切法の第一義ならざるに非ざることを知り、一切法の出に非ざることを知り、一切法の不出に非ざることを知り、一切法の量に非ざることを知り、一切法の無量に非ざることを知り、一切法の世間に非ざることを知り、一切法の世間を離れざることを知り、一切法の因生に非ざることを知り、

一切法の無因生に非ざることを知り、一切法の定色に非ざることを知り、一切法の不定色に非ざることを知り、一切法の具足の色に非ざることを知り、一切法の不具足の色に非ざることを知り、一切法の生死を出でざることを知り、一切法の生死を出でざるに非ざることを知り、一切法の虚妄に非ざることを知り、一切法の虚妄ならざるに非ざることを知り、一切法の方便に非ざることを知り、一切法の方便ならざるに非ざることを知る。(二七)菩薩摩訶薩は是の如きの諸法を知るが故に、世諦に著せず、第一義諦に著せず、虚妄に諸法を取せず、諸の文字を起さずして寂滅の性に隨順す。(二八)一切の願を捨てず、第一の實義を見り、決定して諸法を知り。無量の法雲を興して、普く一切の甘露の法雨を雨らし、不可說の方便に(二九)入り、不可說の方便に度り、無盡の辯才を以て、廣く如實の義を說きて、眞法に違はず。善巧の方便をもつて一切法を說き、辯才盡くること無くして、大慈悲を成就し、無文字の境界より文字の義を出生して、文字の性を壞せず。諸法は悉く緣より起ると觀察して染著する所無く。一切諸の語言の法を解了して、開發し、示導し、稱揚し、顯現し具足し、清淨にして衆の疑網を滅し、衆生を攝取して實法を捨てず、不二の法に於て而も退沒せず。無礙の法門を具足し成就して、微妙の音聲をもつて普く法雨を雨し、未だ嘗て時を失はず。佛子、是を菩薩摩訶薩の第九の一切諸法の眞實智明と爲す。

【二七】以上は二邊を遠離して中道に著せず、性相倶に泯じ有無雙べ遣るを明し、次は成智を證し著を離るる縁を辨ず。
【二八】以上一段に於て根本智證理の明を顯はし以下は後得智攝化の明を辨ず、卽ち前は法體を證し後は說法の用なり。
【二九】創めて起るを入といひ、終極するを度といふ。

【四〇】第十、滅定智明を明かす。

（四〇）佛子よ、菩薩摩訶薩は念念の中に於て、滅一切法三昧正受に入りて、退轉せず。亦菩薩の事を捨てず。大慈悲の心を捨てず。諸の波羅蜜を捨てずして善能く諸佛の刹土を分別して、厭足無く。大願を捨てずして、衆生を度脱し。轉法輪を捨てず。衆生を教化し、調伏することを捨てず。一切の諸佛を供養し、恭敬することを捨てず。一切諸法の自在の法門を捨てず。常に一切の諸佛を見ることを捨てず。常に諸佛の正法を聞くことを捨てず。悉く能く一切無礙の法を出生して、一切の法は皆悉く平等なるを知り、一切諸佛の勝法の諸願を具足し成就して、深く一切の佛刹に入り、一切諸佛の種性の彼岸を究竟し、一切の世界に於て悉く能善く一切の所學を學び、一切の法相は深く法相に入り、善く諸法は緣より起ることを知り、一切の法は眞實有ること無きを了りて世間の諸の語言の法に隨順し、一切の法に於て染著する所無く、其の所應に隨ひ方便をもつて一切の諸法を演說す。菩薩摩訶薩は一切法滅盡正受に於て、或は住すること一劫、或は住すること百劫、或は住すること百千劫、或は住すること億劫、或は住すること百億劫、或は住すること百千億劫、或は住すること億那由他劫、或は住すること百億那由他劫、或に住すること千億那由他劫、或は住すること百千億那由他劫、或は住すること無量劫、或は住すること無邊劫、或は住すること阿僧祇劫、或は住すること不可思議劫、或は住すること不可稱量劫、或は住すること無分齊劫、或は住すること不可說不可說劫なり。常に滅一切法三昧正受に在りて顏容異なること無く、體羸

損無く、亦壞散せず、燒く可からず、沒す可からず、失ふ可からず、盡く可からず、有に於ても無に於ても悉く所作無く。悉く能く諸の菩薩の事を成辦し、廣く能く一切の諸法を演說し、衆生を敎化して未だ曾て時を失はず、一切諸の如來の法を長養し、一切諸の菩薩の行を滿足し、一切の衆生を饒益することを捨てず、十方に應化して未だ曾て暫くも息まず、普く一切諸の趣を照すことを捨てず、正受の地に於て寂然として動ぜず。佛子、是を菩薩摩訶薩の第十の一切諸法滅定智明と爲す。

〔四一〕菩薩摩訶薩、此の明に安住すれば、一切の天人も思議すること能はず。一切世間も思議すること能はず。聲聞・緣覺も思議すること能はず。下地の菩薩も思議すること能はず。身口意の業も思議す可からず。一切三昧の自在も思議す可からず。智慧の境界も思議す可からず。唯如來のみ有して乃ち能く此の人の功德を演說したまふも、餘は能く說くこと無し。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の智明と爲す。此の菩薩摩訶薩此の智明に住すれば、悉く三世無礙の智明を得ん。」

【四一】上來十明別釋を了り、次に結歎して勝れたることを顯はす。

十忍品第二十四の一

爾の時に普賢菩薩摩訶薩、復た諸の菩薩に告げて言はく、

『佛子よ、菩薩摩訶薩十種の【一】忍を成就せば、能く一切無礙の忍地を得、又一切諸佛の無盡・無礙の法を得ん。何等をか十と爲す。所謂る隨順音聲忍・順忍・無生法忍・如幻忍・如燄忍・如夢忍・如響忍・如電忍・如化忍・如虛空忍なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の忍と爲す。過去の諸佛は已に說きたまひ、未來の諸佛は當に說きたまふべく、現在の諸佛は今說きたまふ。

【二】佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の【三】隨順音聲忍と爲す。若し眞實の法を聞きて、驚かず、怖れず、畏れず、信解し受持し、愛樂し順入し、修習し安住すれば、佛子、是を菩薩摩訶薩の第一の隨順音聲忍と爲す。

佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の【四】順忍と爲す。佛子よ、此の菩薩は、寂靜に隨順して、一切法の平等を觀じ、正念して諸法に違はず、隨順して深く一切諸法に入り、淸淨なる直心をもつて、諸法を分別して、平等觀を修し、深く入りて具足す。佛子、是を菩薩摩訶薩の第二の順忍と爲す。

【一】忍とは忍解印可の義にして智を以て性となす、十明所依の智體深奥無盡なることを顯はす。

【二】以上は總說、以下十段に分ちて之を別釋す、各段に牒起・釋義・結名ありて、文段自ら分明なり。

【三】音聲とは言教なり、隨順とは行なり、無生の教說に於て信順忍受して驚怖せざるを隨順音聲忍と名づく。

【四】眞理を順觀するも未だ眞に契はざるが故に順忍と名づく。

佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の（五）無生法忍と爲す。佛子よ、此の菩薩は法の生有ることを見ず、法の滅有ることを見ず。何を以ての故に。若し生ぜざれば則ち滅せず、若し不滅なれば則ち盡くること無し、若し無盡なれば則ち垢を離る、若し離垢なれば則ち壞すること無し、若し無壞なれば則ち動せず、若し不動なれば則ち寂滅地なり、若し寂滅地なれば則ち欲を離る、若し離欲なれば則ち所行無し、若し所行無ければ則ち是れ（六）大願なり、若し是れ大願ならば則ち（七）莊嚴に住す。佛子、是を菩薩摩訶薩の第三の無生法忍と爲す。

佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の（八）如幻忍と爲す。佛子よ、此の菩薩は、深く諸法は皆悉く幻の如しと入る。緣起の法を觀じて、一法の中に於て衆多の法を解し、衆多の法の中に一法を解了す。菩薩摩訶薩は彼の諸法に於て、諸刹を分別し、衆生界・法界に入りて、等しく世間を觀じ、等しく佛の（九）出入と、不出入と、出生と住持とを觀ず。譬へば幻の、象兵・馬兵・車兵・歩兵に非ず。男に非ず、女に非ず、童男童女に非ず。樹に非ず、葉に非ず、華に非ず、果に非ず、地水火風に非ず。晝に非ず、夜に非ず。半月一月に非ず、年歲に非ず、百年に非ず、月に非ず、日に非ず。劫數に非ず。定に非ず、亂に非ず、一に非ず、異に非ず、純に非ず、雜に非ず、好に非ず、惡に非

【五】順觀既に極りて眞理を證契するを無生法忍と名づく、無生とは理體なり。
【六】寂靜に沒在せずして能く機感に應ずるの願なり。
【七】理行相ひ莊嚴するの義。
【八】諸法は皆因緣生なるが故に猶ほ幻化の如く、性本空寂なりと觀じて執著すること無きを如幻忍と名づく。
【九】佛の世間に應現するを出入と云ひ、出入の化用常に寂靜なるが故に不出入と云ふ。

ず、多に非ず、少に非ず、量に非ず、無量に非ず、麤に非ず、細に非ず、種種の衆は幻に非ず、幻は種種の衆に非ず、但幻を以ての故に、衆の色像を示すが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く一切の世間は皆悉く幻の如しと觀ず。所謂る、業世間・煩惱世間・佛刹世間・法世間・三世世間・流轉世間・成世間・壞世間・行世間なり。(一〇)菩薩摩訶薩は、一切世間に悉く幻の如しと觀察する時、衆生を起さず、衆生を壞せず、諸刹を起さず、諸刹を壞せず、諸法を起さず、諸法を壞せず、過去の虛妄の相を取せず、當來に住せず、當來を轉せず、現在に住せず、亦所著無し。菩提を觀察せず、虛妄に菩提を取せず、佛の興世を取せず、亦佛の涅槃無し。大願に住せず、淸淨を取らず、離生平等にして、出無く著無し。(一一)嚴淨の佛刹を出生すれども決定して眞法を知り、衆生界を出生し分別して衆生を知り、決定して法界を知るも、正法に住して動せず、等しく三世に入りて而も亦三世を分別することを違へず。陰入を出生して所依を除滅し、衆生を度脫して、法界の差別有ること無きを等觀し、一切法は文字に非ず、言說に非ざることを知りて而も亦諸の深妙なる辯を捨てず、衆生を化することに著せずして法輪を轉じ、衆生の爲めの故に大悲を受持し一切を度脫し、過去の因緣を說きて實に諸法を知るも而も所至無し。佛子、是を菩薩摩訶薩の第四の如幻忍と爲す。

佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の(一二)如燄忍と爲す。佛子よ、此の菩薩は

【一〇】以下、忍行を成ずることを明かす、初に法に稱つて正觀することを辨ず。
【一一】次に業用を起すことを明かす。
【一二】如燄忍とは一切の境界は悉く陽燄の如く眞實性あるを無しと諦忍して執著せざるを

一切世間は皆悉く燄の如しと覺悟し、熱時の燄の如く方處有ること無し。菩薩摩訶薩は決定して一切の諸法も、亦方處無く、内に非ず、外に非ず、有に非ず、無に非ず、常に非ず、斷に非ずと了知す。一切の法は皆悉く眞實に假名の施設にして、一色に非ず。種種の色に非ず、無色の地に非ずと觀じ、一切の諸法を具足し證知す。佛子、是を菩薩摩訶薩の第五の如燄忍と爲す。

佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の【三】如夢忍と爲す。佛子、此の菩薩は、一切の世間は皆夢の如しと解る。譬へば夢は世間に非ず、世間を離るるに非ず、欲界に非ず、色界に非ず、無色界に非ず、生に非ず死に非ず、淨に非ず穢に非ず、淸に非ず濁に非ず、而も示現有るが如し。是の如く菩薩摩訶薩は、一切世間を皆悉く夢の如しと覺悟して、夢を壞らず、夢に著せず、夢の性は寂滅にして、夢に自性無し、一切法を受持するに皆悉く夢の如くして、夢を壞せず、虚妄に夢を取せず。一切世間は皆悉く夢の如しと覺悟す。佛子、是を菩薩摩訶薩の第六の如夢忍と爲す。

佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の【四】如響忍と爲す。佛子よ、此の菩薩は諸法を出生し、善く學びて、聖法を成就し究竟し、彼岸に到ることを得、一切の法は悉く皆響の如しと知る。衆の聲を分別するに猶ほ呼響の如くにして所至無し。菩薩摩訶薩は、如來の音は、内より出づるにあらず、外より出づるに

云ふ。

【三】如夢忍とは諸の世間は皆夢の如く眞實に非ずと諦忍して執著せざるを云ふ。

【四】如響忍とは一切の言語音聲は皆因緣の和合より成るが故に、猶ほ空谷の響の如く眞實あること無しと諦忍して執著せざるを云ふ。

あらず、內外より出づるにあらずと解り、彼の音を聞く者は、內に在らず、外に在らず、亦內外に在らず、而も能く巧方便の智を出生して、聲は響の如く悉く緣より起ると了り。亦法施を壞せず◎深く音聲に入りて、顚倒を遠離し、善く一切を學ぶ。帝釋の后は、一音の中に於て千の妙音を出だし、而も亦虛妄に音聲を取らざるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、虛妄を離れたる音聲に入る。菩薩摩訶薩は是の如く虛妄を離れたる法界に入り、巧妙の方便をもつて音聲を出生し。無量無邊の世界に於て、廣く衆生の爲めに淨法輪を轉じて、一切を度脫し、如來の廣長舌の相を受持し。無量なる無障礙の音を出生して、十方一切の世界に充滿し。普く衆生をして悉く開解を得、善根を發起せしめ。而も音聲は轉ずること無く、言說す可からず。音聲は語言に非ずして、而も語言に隨順することを知り。亦種種の音聲に染著せずして、一切の音聲を覺悟し了知す◎佛子、是を菩薩摩訶薩の第七の如響忍と爲す。

佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の如電忍と爲す◎佛子、此の菩薩は世閒に生れず、世閒に死せず。世閒の內にあらず、世閒の外にあらず、世閒を行せず、世閒を行せざるに非ず、世閒を壞せず、世閒を壞せざるに非ず。世閒の趣に趣かず、世閒の趣を離れず。世閒に等しからず、世閒に等しからざるに非ず、世閒に非ず、世閒を離るるに非ず。菩薩の行を行ぜずして、而も大願を捨てず。實に非ず、虛に非ず。(一五)行ずる所は眞實にして、一切如來の正法を究竟し、能く一切世閒の諸の事を辦ず、亦世

【一五】以上九對は遮詮に約して止行を成ずることを明かし、以下は表詮に約して觀行を成ずることを明かす。

閒に隨順して流轉せず、亦正法を受持して流轉せず。譬へば電の如く、或は日、或は月のごとく、山樹・男女・室宅・牆壁・大地・流水等を、皆悉く能く照して明淨ならしむるが故なり。譬へば水油・身・寶珠・明鏡の如く、是の如き等の一切清淨の色は、悉く能く一切の淨界を照明ならしむ。電は明淨を離れず、明淨は電を離れず。電能く遠く照して、而も電に遠近あらず。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、能く彼我の一切の境界を照すも、而も其の智慧は分別を作さず、彼我の一切の境界を照現すること、種子の中には根芽莖節枝葉有ること無けれども、而も能く因と爲るが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、不二の法の中に於て二相を分別し、無礙際を修す。佛子、是を菩薩摩訶薩の第八の如電忍と爲す。若し菩薩摩訶薩此の忍を成就せば、諸の如來の所に往詣せずと雖も、而も悉く普く一切の佛刹を現じ、此の世界を起たず、一切の世界に至らずして、菩薩身を現じて一切の世界に徧ずること、電光の現ずるが如く、遊行無礙にして、普く十方に至り、金剛諸山のごとき堅固の物も障ふること能はざる所、佛家の淸淨なる身口意の業を具足し成就して、無量清淨の一切の色身を得ん。

佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第九の(二六)如化忍と爲す。佛子よ、此の菩薩は一切世閒は皆悉く化の如しと知る。所謂る一切衆生の業は化なり、一切衆生の行は化なり、一切の虛妄は化なり、一切の苦樂顚倒は化なり、一切の妄取は化なり、一切世閒無實法は化なり、一切の語言道は化なり、一切煩惱は

【二六】如化忍とは世閒の諸法は無にして忽ち有、有もまた卽ち無なり、故に化の如く眞實の體なしと知りて執著せざるを云ふ。

化なり、諸想の起す所の故に。調伏衆生は化なり、離垢清淨なるが故に。三世不退轉は化なり、無生平等の故に。菩薩の願は化なり、菩薩の行を長養するが故に。如來の大悲は化なり、衆生の一切の苦を除滅するが故に。法輪の方便智は化なり、無量なる無畏の智辯を出生するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩、世間離世間の化を解知すと爲す。決定して、廣大を知り・無量無際等を知り、如如を知り、無量の自在を具足し成就して・眞實の中に於て、而も傾動せず、悉く一切眞實有ること無きを見て、而も所行を壞せず◎譬へば化の如く、心より起らず、心の中に住せず、業に由りて起らず、亦報を受けず、世間の生に非ず、世間の滅に非ず、法の所攝に非ず、法の所觸に非ず、是れ久住に非ず、須臾住に非ず、世間の行に非ず、世間を離るるに非ず。諸方に遊ぶに非ず、諸方の所攝に非ず、量に非ず無量に非ず、厭に非ず無厭に非ず、休息に非ず休息無きに非ず、凡に非ず聖に非ず、淨に非ず穢に非ず、生に非ず死に非ず、愚に非ず智に非ず、見に非ず失に非ず、世間に依らず。法界の所攝に非ず、黠慧に非ず愚癡に非ず、熾然に非ず寂滅に非ず、生死に非ず涅槃に非ず、有に非ず無に非ず◎是の如く菩薩摩訶薩も、世間に處して菩薩の行を行じ、方便を受持して、世間を觀察するに皆悉く化の如く。世間に著せず、亦化に著せず、妄りに世間を取せず、亦化を取せず。世間に住せず、世間に滅せず、正法に住せず、非法に隨はず。而も衆生を敎化することを捨てず、一向に正念して諸願を具足し・諸法を莊嚴せず、亦諸の莊嚴法を壞せず、一切の法に於て悉く所有無くして、悉く能く一切の佛法を具

足す。譬へば化の有に非ず無に非らざるが如く、菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、如化忍の中に安住して、悉く能く諸佛の菩提を具足し、衆生を饒益す。佛子、是を菩薩摩訶薩の第九の如化忍と爲す。佛子よ、若し菩薩摩訶薩此の忍を成就せば、一切の佛刹に於て依著する所無けん。譬へば化の如く。一切の世界に於て依著する所無く、一切の佛法に於て虚妄に行せず。譬へば化の如く、行ずるも所行無く、諸の顚倒を離る。譬へば化の如く、非身にして一切の身を示現す。譬へば化の如く、色に依らずして一切の色を示現す。譬へば化の如く、實際に著せず、平等滿足にして自性無性なり。譬へば化の如く、解脱の法に非ずして、悉く能く一切の法處を示現す。譬へば化の如く、處所無く、性も亦調伏に非ず、亦清淨に非ず。譬へば化の如く、一切の神力を離れて、一切諸の如來の所に往詣す。譬へば化の如く、退轉す可からず、不生不滅にして、悉く罣礙を離れ、一切の諸力、金剛の諸山も、障ふること能はざる所なり。

佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の第十の(一七)如虚空忍と爲す。佛子、此の菩薩摩訶薩は、一切の法界は猶ほ虚空の如しと解る、無性なるを以ての故に。譬へば虚空の如く、一切の世界も亦復た是の如し、一切の佛刹は所起無しと解るが故に。譬へば虚空の如く、一切諸法も亦復た是の如し、無二の法を解るが故に。譬へば虚空の如く、一切衆生の行も亦復た是の如し、行に所行無しと解るが故に。譬へば虚

【一七】如虚空忍とは世間出世間の諸法は悉く虚空の如く色相あることなしと了達して執著せざるを云ふ。

空の如く、一切の佛法も亦復た是の如し、分別無しと解るが故に。譬へば虛空の如く、一切の佛力も亦復た是の如し、異ること無しと解るが故に。譬へば虛空の如く、一切の諸禪も亦復た是の如し、三世を解るが故に。譬へば虛空の如く、一切の說法も亦復た是の如し、不可說なりと解るが故に。譬へば虛空の如く、一切の佛身も亦復た是の如し、無礙なりと解るが故に。譬へば虛空の如く、一切處に徧ず、一切の法は虛空の如しと解るが故なり。◎佛子よ、是の如く菩薩摩訶薩は、一切法は悉く虛空の如しと解り、虛空に等しき忍智を得、虛空に等しき身を得、虛空に等しき身業を得、虛空に等しき口を得、虛空に等しき口業を得、虛空に等しき心を得、虛空に等しき心業を得。譬へば虛空の不生不滅なるが如く、菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、一切の法身は生せず死せず。譬へば虛空の破壞す可からざるが如く、菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、智慧の諸力は破壞す可からず。譬へば虛空の一切世閒の依止する所にして而も所依無きが如く、菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、一切諸法の依止する所にして而も所依無し。譬へば虛空の不生不滅にして、悉く一切の生滅の所依と爲るが如く、菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、向に非ず成に非ずして、一切衆生をして皆悉く淸淨ならしむ。譬へば虛空の方に非ず、非方に非ずして、而も能く諸海の分際を示現するが如く、菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、業に非ず業報に非ずして、而も能く一切生死の大海の分際を演說す。譬へば虛空の行に非ず住に非ずして、而も能く種種の威儀を示現するが如く、菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、行に非ず住に非ずして而も能く一

切の諸行を分別す。譬へば虛空の色に非ず無色に非ずして、而も能く百千の諸色を示現するが如く、菩薩摩訶薩も、亦復た是の如く、世間の色に非ず離世間の色に非ずして、而も能く一切の諸色を示現す。譬へば虛空の久住に非ず、須臾住に非ざるが如く、菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、久しき趣向に非ず、須臾の趣向に非ずして、能く廣く一切の菩薩の住する所の行を演說す。譬へば虛空の淨に非ず穢に非ざるが如く、菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、世間の障覆に非ず、亦清淨に非ず。譬へば虛空の一切世間は皆現前すと謂ふも、實は現前するに非ざるが如く、菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、一切の諸法は菩薩の前に現ずるも、而も菩薩に於ては現前する所無し。譬へば虛空の一切處に住して、而も虛空に分齊無きが如く、菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、一切法に住して、而も菩薩の心に分齊有ること無し。何を以ての故に。〔一八〕菩薩摩訶薩は自己の善根を思惟すること、猶ほ虛空の如く、善根は清淨なり、善根は具足なり、善根は平等なり、善根は〔一九〕一分なり、善根は寂滅なり、善根は一味なり、善根は〔二〇〕一量なり、善根の清淨なること、虛空の色の如く、善根は一切道に趣く〔二一〕一切法を忘れずして一切の不壞の法を得、一切の刹に遊行して一切の身を具足し、而も諸身に於て悉く所著無く、普く十方に於て永く癡惑を離れ、不可壞の力を具足し成就して、一切の功德の境界を滿足し、一切種の法を得、深樂の法を得、虛空に等しき金剛

【一八】以下菩薩の虛空に等しき三業を得る理由を擧ぐ。
【一九】一分とは緣起二分の中の眞分を云ふ。
【二〇】一量とは理性に同ずるが故なり。
【二一】以下十句は所得の三業を明かす。

の善根を得、一切諸の妙音聲を出生して、一切の世間に、常に法輪を轉じて未だ曾て時を失はず。

佛子、是を菩薩摩訶薩の第十の如虚空忍と爲す。(三)若し菩薩摩訶薩此の忍を成就せば、無來の身を得ん、去ること無きを以ての故に。不生の身を得ん、滅せざるを以ての故に。不聚の身を得ん。散壞無きを以ての故に。具足不實の身を得ん、眞實無きを以ての故に。一相の心を得ん、無相なるを以ての故に。無量の身を得ん、佛力無量なるを以ての故に。平等の身を得ん、如の相なるを以ての故に。不可壞の身を得ん、等しく三世を觀ずるを以ての故に。一切處に至るの身を得ん、淨眼普く照して障礙無きを以ての故に。欲際を離れたる身を得ん、一切の法は合散無きを以ての故に。虚空際の功德藏を得ん、無盡なるを以ての故に。窮盡すること無き平等法の辯を得ん、一切の法は性虚空の如く一性なるを以ての故に。無量無礙の微妙なる音聲を得ん、無礙なること虚空の如きを以ての故に。清淨に一切の菩薩の行を具足する巧妙の方便を得ん、一切法の無礙清淨なること虚空の如きを以ての故に。一切の佛法海を得ん、斷ず可からざること虚空の如きを以ての故に。一切の佛刹を受持することを得ん、無量なること虚空の如く貪欲を離るるを以ての故に。一切法の示現自在にして未だ曾て休息せざることを得ん、堅固なること虚空の如きを以ての故に。壞す可からざる堅固の法身を得ん、虚空の如く能く一切の世間を持するを以ての故に。沮壞す可からざる金剛の諸根を具足し成就せん、一切世間の成敗を示現するを以ての

【三】以下忍の德用を歎ず、二十句あり、初の十は十身を得、後の十は三業に通ず。

故に。具足の力を得、能く一切の世間を持せん、智慧を受持すること虚空の如くなるを以ての故なり◎

佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の忍と爲す。』

爾の時に普賢菩薩、重ねて此の義を宣べんと欲し、諸の菩薩の爲めに、偈を以て頌して曰はく、

巻の第三十

十忍品第二十四の二

(一)『譬へば世に人有りて、寶藏の有る處を聞くが如し、聞き已りて大いに歡喜す、寶藏得可きが故なり。

是の如く大智慧の、菩薩眞の佛子は、佛の深き寂滅の法を、聞き已りて大いに歡喜す。

【一】頌に百十九偈あり、分ちて十一段となす。一、初の十偈は隨順音聲忍を頌す。

彼の深法を聞き已りて、其の心恐怖せず、又驚畏を生ぜず、退せず亦沒せず。

菩薩の菩提に向ふは、此の寂滅の音を聞きて、寂滅の法に堪忍し、彼に於て疑を生ぜず。

我は一切智ある、天人の尊き導師と作らん、甚深の法を聞き、其の心に堪忍するを以ての故に。

彼寂滅の音を聞きて、踊躍して大いに歡喜し、一心に樂ひて專ら、一切諸佛の法を求む。

調伏の心を修習して、正直に菩提を求め、諸の善根を長養して、而も法性を壞せず。

寂滅の法を堪忍し、彼の音聲に隨順して、菩薩の行を修習し、音聲の忍に安住す。

轉た勝妙の道を求め、諸の善法を出生し、精進して退轉せず、究竟じて菩提を成す。

此の妙なる音聲を聞き、菩提心淸淨にして、勇健なる善根を得、諸佛をして歡喜せしむ。

(二)譬へば功德の人、大いなる珍寶の藏を獲、身の宜しき所に隨順して、諸の莊嚴の具を造るが如し。

慧者も亦是の如く、此の深法の義を聞きて、智慧の海を增廣し、隨順して諸法を求む。

決定して法に隨順し、分別に所有無く、眞如に隨順して、彼の眞實の法を得。

淨自在の心を得、明徹して大いに歡喜し、一切の法は、悉く衆緣より起ると解了す。

平等の法を修習し、性と非性とを分別して、佛の法藏を壞せず、正しく一切の法を覺る。

正直心堅固にして、淨菩提を莊嚴し、動ぜざること須彌の如く、一向に佛道を求む。

深三昧を修習し、精進して懈怠せず、無量劫に修行して、未だ曾て退失すること有らず。

最勝なる甚深の海に、究竟じて彼岸に到り、諸法の源底を盡くして、衆の恐怖を遠離す。

等心に諸法を觀ずること、無等の所說の如く、隨順の忍を成就して、平等の智滿足す。

順忍の門を具足して、佛の所說に順ひ、眞實の智に隨順して、法相を分別せず。

(三)三十三天の中の、彼の諸の天子等は、一の寶器を共にして食するも、食する所各同じからず。

諸天の種種の食は、十方より來らず、彼の修する所の業に隨ひて、自然に食は器に在り。

【二】二、次の十偈は順忍を頌す。

【三】三、次の十偈は無生忍を頌す。

菩薩も亦是の如く、一切の法を觀察するに、悉く因緣より起り、不生にして亦不滅なり。
若し法生滅せざれば、是の法は盡す可からず。其の成敗を了達すれば、淸淨にして壞す可からず。
實際は壞す可からず、悉く寂滅にして如如なり、金剛の願をもつて饒益し、佛の無礙智を具す。
專ら寂滅の法を念じて、其の心未だ曾て、隨順世閒の行を離れず、大悲の願を長養す。
諸の願力を具足して、世閒に著せず、甚深の智を成就して、隨順して廣く法を說く。
是を無生忍と名け、諸法の無盡なるを解り、悉く如如にして、法界に所起無しと了達す。
菩薩此の忍に住すれば、一切の十方界に、現在したまふ無量の佛は、皆悉く彼に記を授けたまふ。
寂滅の法を樂觀して、諸の善根を出生し、一念に三世に達して、調伏して衆生を淨む。◎

(四)諸の世閒を觀察して、悉く幻の如く、寂滅にして所有無しと解了し、彼に於て染著すること無し。

【四】四、次の十偈は如幻忍を頌す。

諸の色は心より造られ、示現するも猶ほ幻の如く、虛妄にして眞實に非ず、一切の有は幻の如し。
譬へば工なる幻師の、四衢に衆像を現じ、衆生見て歡喜するも、而も實には所有無きが如し。
世閒も亦是の如く、一切皆幻の如く、有無等の諸法は、悉く虛妄なりと了知す。
一切の衆を度脫して、悉く幻の如しと解了せしめ、善能く平等に知れば、衆生は幻に異ること無し。
衆生と諸佛の刹と、三世の一切法と、無量なる諸の世閒とは、悉く義において幻の如しと了る。

譬へば工なる幻師の、種種の形、男女象馬牛、園林華果等を示現するも、

幻に染著する所無く、亦住處有ること無く、幻の法は眞實無く、現ずる所悉く虛妄なるが如し。

佛子も亦是の如く、諸の世間の、有無の一切法を觀察して、悉く幻の如しと了達す。

衆生と諸佛の刹と、種種の業の造る所とは。幻際の如しと覺悟して、彼に於て所著無し。

(五)菩薩摩訶薩は、常に寂靜の法を樂ひ、深く眞實際に入り、究竟じて法界に住す。

隨順して正法に向ひ、最勝の法は化生にして、善く一切の想は、群生の類を纏綱すと解る。

想は熱時の燄の如く、衆生をして顚倒せしむるも、菩薩は善く想を知りて、能く一切の倒を離る。

世間は各別異にして、形類悉く同じからず、佛子善く明達して、想を了れば眞の想に非ず。

十方諸の群生は、悉く想網の爲に覆はるるも、菩薩は慧眼淨きをもつて、善く世間の想を見る、

世間は猶ほ燄の如く、妄想をもつて世間を取るも、能く世間の想を斷てば、則ち(六)三種の倒を離る。

譬へば熱時の燄の如く、衆生遠きに於て見て、妄想して水なりと謂ふも、其の實は眞の水に非ず。

【五】五、次の十偈は如燄忍を頌す。

【六】三種の倒とは、一には心顚倒、自己の眞心を覺らずして外境に對して妄分別を起すを云ふ、二には見顚倒、外境の幻化なるを了らずして實有の見を起すを云ふ、三には想顚倒、外境の實相を了らずして妄想執著を起すを云ふ。

衆生も亦是の如く、虚妄に世間を取るも、想は熱時の燄の如く、無礙心の境界なり。
一切の想を分別して、無礙の智を成就すれば、想の羣生の類を縛するをば、勇健に能く解脱せしむ。
放逸と慢とを遠離して、世間の想を除滅し、盡と無盡とを究竟す、無盡とは方便なり◎

(七)彼能く世間を解りて、一切の法は夢の如く、夢の性に方處無し、世間も亦是の如し。

【七】六、次の十五偈は如夢忍を頌す。

法は虚妄を離ると解れば、寂滅の心に異ること無く、明かに世間の行を了れば、三世は皆夢の如し。
夢は生死の法に非ず、有に非ず亦無に非ず、三有は悉く夢の如く、寂滅の心に縛無し。
世は夢性の如しと解りて、世間に依らず、世間の寂滅なるを觀じて、諸趣に染著せず。
明かに一切の世を見るに、虚妄顛倒ならず、善く法の夢の如きを解りて、如夢忍を逮得す。
衆生は夢に於て、種種諸の異相を見るも、悉く心より造られ、實には所有無しと知る。
智者も是の如く、衆生は皆夢の如しと見る、夢の如しと曉了り已れば、一切の虚妄を離る。
菩薩は方便をもつて、一切の法は夢の如しと解り、夢の性は眞實無く、一に非ず亦異に非ず。
衆生と一切の法と、佛刹と諸の行業とを、菩薩は悉く明かに、一切皆夢の如しと了る。
一切の垢淨なるに隨ひて、悉く能く實の如く知り、世の夢の如きを解知して、虚妄の相を取らず。
菩薩の行ずる所の行と、一切諸の妙願とは、明かに悉く夢の如しと解り、彼に於て所著無し。

決定して諸法と、及び一切の世間とを解りて、菩薩は能善く、其の性皆夢の如しと知る。
世間の生滅の法と、衆生の去來の相とは、淨きこと夢の如しと解了し、其の性忘失無く、
如夢の行に隨順するも、亦世間を壞せず、諸の威儀は、(八)倏忽の如く實無しと了達す。
是を如夢忍と名け、一切の法を解了し、無礙の智を成就して、一切の衆を度脫す。◎

(九)菩薩摩訶薩は、廣く無量の行を行じ、一切の、正覺平等の法を出生し、
種種諸の方便をもつて、法の眞實相を解り、諸法に去來無ければ、
彼に於て心著すること無し。
一切衆生の類の、無量なる諸の音聲を、菩薩は深く覺悟し、之を悉く
響の如しと了る。
菩薩は音聲をば、是れ內外の法に非ずと知り、諸の音聲は、一切皆響の如しと諦了す。
一切諸の音聲は、皆悉く是れ虛妄なり、菩薩は實に非ざることを知れば、彼に於て所著無し。
菩薩は悉く、十方一切の佛を覩見たてまつり、又彼の如來の、梵音をもつて法を演說したまふを
聞く。
彼の諸の大導師は、廣く修多羅を說き、菩薩は法音を聞くも、其の心に所著無し。
聞く所の聲は響の如く、悉く從來する所無く、一切の音を分別して、善く無壞の法なりと解る。

【八】倏忽は長短等の色法の義なり。
【九】七、次の十七偈は如響忍を頌す。

諸の音聲を分別して、善く一切の法を解り、聲は是れ聲に非ずと解りて、無量の淨音を出だす。
一切の法を觀察するに、皆悉く音聲を離る、種種の語言の際を、悉く能善く了知す。
菩薩は衆生に於て、之を悉く響の如しと了る、是の如くして能く深く、一切諸の衆生を解り、
菩薩善く隨順して、語言の道に明達し、一切世間の、種種諸の音聲を解る。
音聲の性を了知して、常に寂靜の地を樂ひ、明かに諸の世間は、一切悉く響の如しと解る。
猶ほ語言の道の、種種の法を宣明するが如く、衆生は樂ひて、虛妄の音聲に染著す。
彼の音聲の相の如く、世間も亦是の如く、衆生の相も亦然り、眞の佛子は明かに、
是の如きの眞實相を覺り、明智の忍力をもつて、音聲をして微妙ならしめ、世間の寂滅なること
を解る。
彼三世の中に於て、語言の道に了達し、虛妄の聲を取らざれば、其の心に所著無し。◎

(10)寂靜なる定意は世間の爲めに、一向に專ら佛の菩提を求め、未だ
嘗て虛妄に世間を取らず、心常に寂滅の法を欣樂す。
世間を觀察して餘り有ること無く、皆悉く寂滅にして自性無く、專ら菩提を求めて衆生の爲め
にし、智力と大慈悲とを具足す。
一切世間の生を受けず、亦世間を解脫せず、一切世間に所依無く、亦復た世間に依ることを離れず。

【一〇】八、次の十頌は如電忍を頌す。

衆生と諸法の性とを解知し、彼の法性に於て染著せず、諸の衆生に於て所依無く、清淨に解脫して縛無し。

一切の趣に於て實性を知り、世間の生死流轉の法をば、菩薩は法に二有ること無しと解り、不二の法に於ても所著無し。

其の心諸の世間に住せず、又亦世間を離れず、行ずる所は世間の外に在らずして、諸法の眞實相を了知す。

譬へば水中の電光の色の如く、彼の色は内にも非ず亦外にも非ず、菩薩は衆生を饒益せんが故に、世間に眞實無しと演說す。

衆生に縛も無く解脫も無く、一切の世間は不可說なり、世間は内にも非ず亦外にも非ず、彼の水中の電光の像の如し。

是の如く淸淨なる離垢の心は、甚深微妙の行に隨順して、智慧を具足して法の燈明となり、諸願を成滿して退轉せず。

智慧成就して量る可からず、常に能く一切の衆を饒益し、衆生を無畏の法に安立して、一切諸の障礙を除滅せしむ。◎

【二】九、次の十偈は如化忍を頌す。

(二)甚深の法を修習して、一切の衆を饒益す。此の忍は妙智を增し、菩薩の行を具足せしむ。

深く寂滅の法に入りて、悉く化の如しと諦了し、無量の行を示現して、而も實には所行無し。
勝地に菩提を修し、隨順して化の如く行じ、化の如く常に寂滅なり、菩薩の行も亦然り。
衆生の類と、及び無量の行業とは、平等にして悉く化の如しと了知す、解脱も亦是の如し。
明かに三世の佛は、一切悉く化の如しと解り、無量なる本の行願にて、諸の導師を化成す。
大慈悲彌廣くして、化の衆生を清淨にす、清淨は即ち是れ化なり、化の力に持せられて應現す。
世閒は悉く虚妄にして、菩薩は化の如しと解る、化性なる諸の世閒を、種種の業をもつて莊嚴す。
變化藏をもつて嚴飾して、菩薩の行を究竟し、世の諸の行業に隨ひて、種種雜にして量無し。
化は是れ虚妄の法なり、化を出生するも虚妄なり、菩薩の行ずる所の法は、皆悉く虚妄を離る。
化の智海決定し、化の印は世閒を印す、化は生に非ず滅に非ず、智慧も亦是の如し。◎

〔三〕第十の忍明觀は、清淨なること虚空の如し、虚空と衆生法とは、等しく觀ずるに別異無し。

【三】十、次の十偈は虚空忍を頌す。

智の滿てること虚空の如くにして、諸の障礙を除滅す、虚空の性に雜無し、世閒も亦是の如し。
空忍の力を成就すれば、空の如く盡す可からず、境界も虚空の如く、虚妄の相を取らず。
虚空に自性無く、虚空は斷ず可からず、虚空に種種無し、智力も亦是の如し。
譬へば虚空の性の、初中後有ること無く、虚空に異性無きが如く、智慧も亦是の如し。

是の如く正しく諸法を觀ずるに、皆悉く虚空の如く、生も無く亦滅も無く、平等に諸法を觀ず。
虚空の法に安住して、廣く十方の爲めに、虚空の方便忍を說き、一切の魔を調伏す。
虚空に自性無く、世間も亦是の如し、有性無性の法は、平等なること虚空の如し。
一方便をもつて莊嚴して、世間の虚空なることを觀じ、悉く三世の法も、猶ほ虚空の如しと知る。
菩薩の智慧の身は、音聲虚空の如く、身性も亦虚空にして、虚空智に安住す。

〔三〕是を十種の忍と名く、佛子、具足して行ずれば、心忍力に安住し、
廣く十方の爲めに說く。

【三】十一、次の七偈は結歎顯勝を頌す。

眞の佛子は善く學び、越えて智慧力と、法力と定智力とを成じ、隨順して菩提を修す。
深く此の忍門に入れば、無礙の智を成就して、一切の惡を調伏し、無上の法輪を轉ず。
無量の法に安住して、一切能く知る莫く、調御師の智海に、菩薩は源底を盡す。
謙下して菩提を行ずれば、此の深法忍と、妙法淸淨の意とを得、悉く一切の願を滿ず。
一切衆生の類と、諸佛の刹の微塵とは、悉く其の數を算す可くとも、菩薩の德は知り難し。
若し眞の佛子有りて、此の十種の忍を成ぜば、一切諸の衆生は、能く境界を知ること無けん。」

心王菩薩問阿僧祇品第二十五

爾の時に心王菩薩・佛に白して言さく、『世尊よ、所謂る阿僧祇・不可量・無分齊・無周徧・不可數・不可稱量・不可思議・不可說・不可說不可說なるあり。世尊云何んが、阿僧祇、乃至不可說不可說なるや。』

佛、心王菩薩に告げて言はく、『善い哉、善い哉。善男子よ、衆生を饒益せんが故に乃ち能く此の如來應供等正覺佛智の境界の甚深の義を問へり。善男子、汝今諦かに聽け、我當に之を說く可し。』

爾の時に心王菩薩、佛に白して言さく、『世尊、唯然り、善く聽きたてまつらむ。』

佛、心王菩薩に告げて言はく、

『百千の百千を一（一）拘梨と名け。拘梨の拘梨を一不變と名け。不變の不變を一（二）那由他と名け。那由他の那由他を一（三）鞞婆羅と名け。鞞婆羅の鞞婆羅を一作と名け。作の作を一來と名け。來の來を一勝と名け。勝の勝を一復次と名け。復次の復次を一（四）阿婆羅と名け。阿婆羅の阿婆羅を一得勝と名け。得勝の得勝を一分界と名け。分界の分界を一充滿と名け。充滿の充滿を一量と名け。量の量を一解と名け。解の解を一此解と名け。此解の此解を一離欲と名け。離欲の離欲を一捨と名け。捨の捨を一聚と名け。聚の聚を一通と名け。通の通を一頻申と名け。頻申の頻申を一網と名け。網の網

【一】拘梨。唐經に俱胝（Koṭi）。
【二】那由他（Nayuta）。
【三】鞞婆羅。唐經に頻婆羅（Bimbara）。
【四】阿婆羅（Avara）。

を一衆流と名け。衆流の衆流を一出と名け。出の出を一分と名け。分の分を一分別と名け。分別の分別を一稱と名け。稱の稱を一持と名け。持の持を一不顚倒と名け。不顚倒の不顚倒を一不旛と名け。不旛の不旛を一正と名け。正の正を一慧と名け。慧の慧を一第一と名け。第一の第一を一覺と名け。覺の覺を一(五)毘遮妬と名け。毘遮妬の毘遮妬を一極高と名け。極高の極高を一妙と名け。妙の妙を一(六)羅婆と名け。羅婆の羅婆を一(七)訶梨婆と名け。訶梨婆の訶梨婆を一解脱と名け。解脱の解脱を一黄と名け。黄の黄を一(八)訶梨那と名け。訶梨那の訶梨那を一因と名け。因の因を一賢覺と名け。賢覺の賢覺を一明相と名け。明相の明相を一(九)摩樓陀と名け。摩樓陀の摩樓陀を一忍と名け。忍の忍を一枝と名け。枝の枝を一(一〇)摩樓摩と名け。摩樓摩の摩樓摩を一等と名け。等の等を一離疑と名け。離疑の離疑を一種と名け。種の種を一不放逸と名け。不放逸の不放逸を一(一一)摩多羅と名け。摩多羅の摩多羅を一動と名け。動の動を一到と名け。到の到を一說と名け。說の說を一白と名け。白の白を一了別と名け。了別の了別を一究竟と名け。究竟の究竟を一清涼と名け。清涼の清涼を一(一二)阿羅と名け。阿羅の阿羅を一潮と名け。潮の潮を一油と名け。油の油を一(一三)祇邏と名け。祇邏の祇邏を一味と名け。味

【五】毘遮妬(Vicasta)。
【六】羅婆。唐經に泥羅婆(Nevala)。
【七】訶梨婆。唐經に訶理婆(Hariva)。
【八】訶梨那。唐經に訶理三(Harisa)。
【九】摩樓陀。又は摩魯陀(Maluda)。
【一〇】摩樓摩。又は摩魯摩(Maluma)。
【一一】摩多羅。又は阿麼怛羅(Amātra)。
【一二】阿羅。又は翳羅(Ela)。
【一三】祇邏。又は偈羅(Gela)。

の味を一（二四）泥邏と名け。泥邏の泥邏を一（二五）戯と名け。戯の戯を一（二六）斯羅と名け。斯羅の斯羅を一聚沫と名け。聚沫の聚沫を一彌羅と名け。（二七）彌羅の彌羅を一堅固と名け。堅固の堅固を一風と名け。風の風を一滿と名け。滿の滿を一不可稱量と名け。不可稱量の不可稱量を一根と名け。根の根を一微細と名け。微細の微細を一蓮華と名け。蓮華の蓮華を一（二八）摩伽婆と名け。摩伽婆の摩伽婆を一不可度と名け。不可度の不可度を一（二九）醯樓と名け。醯樓の醯樓を一語と名け。語の語を一劫と名け。劫の劫を一（三〇）婆婆と名け。婆婆の婆婆を一閉と名け。閉の閉を一無閉と名け。無閉の無閉を一離垢と名け。離垢の離垢を一實勝と名け。實勝の實勝を一（三一）彌羅覆と名け。彌羅覆の彌羅覆を一（三二）遮摩羅と名け。遮摩羅の遮摩羅を一法と名け。法の法を一（三三）波羅摩駄と名け。波羅摩駄の波羅摩駄を一決定と名け。決定の決定を一流轉と名け。流轉の流轉を一廣說と名け。廣說の廣說を一無盡と名け。無盡の無盡を一等眞實と名け。等眞實の等眞實を一無我と名け。無我の無我を一（三四）阿槃陀と名け。阿槃陀の阿槃陀を一靑蓮華と名け。靑蓮華の靑蓮華を一數と名け。數の數を一趣と名け。趣の趣を一受と名け。受の受を一（三五）阿僧祇と名け。阿僧祇の阿僧祇

【二四】泥邏（Nela）。
【二五】戯又は計羅（Kela）。
【二六】斯羅。又は細羅（Sela）。
【二七】彌羅。又は謎羅（Mela）。
【二八】摩伽婆（Magava）。
【二九】醯樓。又は醯魯耶（Heluya）。
【三〇】婆婆。又は訶婆婆（Hāvava）。
【三一】彌羅覆。又は迷攞普（Melaphu）。
【三二】遮摩羅。又は者麼羅（Camara）。
【三三】波羅摩駄。又は鉢羅麼陀（Pramāda）。
【三四】阿槃陀。又は阿畔多（Avānta）。
【三五】阿僧祇（Asaṃkhya）。

を一阿僧祇轉と名け。阿僧祇轉の阿僧祇轉を一無量と名け。無量の無量を一無量轉と名け。無量轉の無量轉を一無分齊と名け。無分齊の無分齊を一無分齊轉と名け。無分齊轉の無分齊轉を一無周徧と名け。無周徧の無周徧を一無周徧轉と名け。無周徧轉の無周徧轉を一無數と名け。無數の無數を一無數轉と名け。無數轉の無數轉を一不可稱と名け。不可稱の不可稱を一不可稱轉と名け。不可稱轉の不可稱轉を一不可思議と名け。不可思議の不可思議を一不可思議轉と名け。不可思議轉の不可思議轉を一不可量と名け。不可量の不可量を一不可量轉と名け。不可量轉の不可量轉を一不可說と名け。不可說の不可說を一不可說轉と名け。不可說轉の不可說轉を一不可說轉の轉と名く。』

爾の時に世尊、心王菩薩の爲めに偈を以て頌して曰はく、

〔二六〕『言說す可からざる不可說は、一切に充滿して不可說なり、言說す可からざる諸劫の中に、不可說と說くとも盡す可からず。

【二六】偈に百二十三頌あり、初の七頌は能數の法を定め、後は總じて所數の德を顯はす。

言說す可からざる諸佛の刹を、皆悉盡く末として微塵と爲し、悉く一一の微塵の中に於て、一切の不可說を演說す。

悉く能善く一念の中に於て、不可說の諸の世界を說き、稱說す可からざる諸劫の中に、念念に次第して演說す、不可說の劫は猶ほ盡す可くとも、而も不可說は盡す可からず。

悉く一一の微塵の中に於て、分別して不可說を演說す、不可說の劫は猶ほ盡す可くとも、而も

不可說は盡す可からず。
言說す可からざる微塵の中に、悉く不可說の衆生有り。皆共に普賢の德を讃歎すとも、猶尙窮盡せしむること能はず。
設使一微の毛端の處に、不可說の諸の普賢有りて、彼の諸の一切の普賢等、不可說を說くとも盡すこと能はず。
一微細の毛端の處の如く、十方の世界も亦是の如し。
(二七)彼の一一の毛端の處に於て、不可說の諸佛の刹を置き、毛端は能く虛空を量り盡すとも、而も佛刹を說くことは盡す可からず。
彼の一一の毛道の中に於て、種種無量の諸佛の刹は、同類なる者有るも不可說、亦異類有るも不可說なり。
(二八)彼の一一の毛道の中に於て、不可說の淨き佛刹有り、不可說の莊嚴の具を以て、彼彼の諸佛の刹を莊嚴す。
彼の一一の毛道の中に於て、(二九)名身を演出すること不可說、彼の一一の諸の名身に於て、廣く無量の諸佛の名を宣ぶ。
一一の如來の自身の中に、變化せる毛孔は不可說、彼の一一の毛孔の中に於て、異色を出生する

【二七】以下は所數の德を明かす、中に於て先づ果德の無礙と因位の普窮とを明かす。
【二八】以上は依報の自在、以下は正報の自在。
【二九】名身とは事物の名稱なり、名句文の三身の一にして、音聲の屈曲差別に依りて事物の體を詮表するを名と云ふ。身は積聚の義にして多名の集れるを名身と名づく。

ことも不可說なり。

彼の一一の異色の中に於て、妙光明を放つこと不可說、彼の一一の光明の中に於て、寶蓮華を出だすことも不可說なり。

彼の一一の寶蓮華に於て、各寶葉有ること不可說、彼の一一の寶華葉に於て、微妙の色有ることも不可說なり。

彼の一一の妙色の中に於て、蓮華を出生すること不可說、彼の一一の蓮華の中に於て、各光明を放つことも不可說なり。

彼の一一の光明の中に於て、淨月を出生すること不可說、彼の一一の諸月の中に於て、復た淨月を出だすことも不可說なり。

彼の一一の淨月の中に於て、淨き光明を出だすこと不可說、彼の一一の光明の中に於て、不可說の明淨なる日を出だし、

彼の一一の諸日の中に於て、不可說の淨妙なる色を出だし、彼の一一の妙色の中に於て、不可說の淨き光明を出だし、

彼の淨妙の光明の中に於て、不可說の師子座を出だし、言說す可からざる莊嚴の具は、不可說の淨き光明を出だし、

彼の一一の光明の中に於て、不可說の異妙なる色を出だし、彼の一一の妙色の中に於て、不可說の明淨なる寶を出だし、

彼の一一の明淨なる寶に於て、不可說不可說の、金剛の寶藏を出だして須彌の如く、淸淨に具足して莊嚴せり。

彼の一一の須彌の中に於て、不可說不可說の、微妙にして殊特なる諸佛の刹有り、淸淨に具足して莊嚴せり。

此の一の寶の須彌山の如く、一切の須彌も亦是の如し、悉く無量の不可說有り、具足して諸佛の刹を淸淨にす。

是の不可說の不可說は、皆悉く分別するに不可說なり。

不可言說轉を攝取して、光明を出生すること不可說なり、彼の一一の光明の中に於て、諸佛を出生することも不可說なり。

彼の諸の一切如來等は、不可說なる淸淨の偈を說き、彼の偈は悉く念念の中に於て、不可說の眞實諦を說く。

一切の未來際を示現し、如來の智慧は窮盡すること無し、彼の諸の一一の如來等は、不可說の梵音聲を出だす。

彼の一一の梵音の中に於て、不可說の淨法輪を轉ず、彼の一一の法輪の中に於て、不可說の修多羅を雨らす。

彼の一一の修多羅に於て、諸法を分別すること不可說、彼の一一の諸法の中に於て、又諸法を說くことも不可說なり。

又復た彼の諸法の中に於て、衆生の依を說くこと不可說なり、又一一の毛道の中に於て、不可說の劫に正法を說く。

彼の一微の毛端の處の如く、一切十方も亦是の如し。

不可稱說の無礙の心は、諸佛を變化すること不可說、彼の諸の一一の化如來の、出だす所の變化も不可說なり。

彼の諸の一切の變化する所は、徧く佛刹に遊ぶこと不可說、不可稱說の變化身は、種種の妙色をもつて莊嚴す。

彼の不可說の佛の世界は、一切諸の衆生を分別し、一切の衆生の類を淸淨にし、一切諸の群生を度脫す。

莊嚴を莊嚴すること不可說、神力を成就すること不可說、自在を淸淨にすること不可說、衆生に應現することも不可說なり。

神力の自在なること不可説、智慧の境界も不可説にして、稱説す可からざる神力に持せられ、普く世間を轉じて清淨ならしむ。

不可説の淨き方便の法をもつて、修多羅を説くこと不可説、彼の一一の修多羅に於て、諸佛の法を攝することも不可説なり。

彼の一一の淨法の中に於て、復た淨法を説くこと不可説なり。彼の一一の諸法の中に於て、不可説の決定法を説く。

彼の一一の決定の中に於て、不可説の衆生依を説き、稱説す可からざる種類の法、稱説す可からざる種類の心、

稱説す可からざる非類の法、稱説す可からざる非類の心、稱説す可からざる非類の根、稱説す可からざる非類の語あり。

彼悉く能く念念の中に於て、衆生を調伏すること不可説、稱説す可からざる自在の力は、衆生に應現すること不可説なり。

彼の不可説の應化の時、或は同類・不同類有り、菩薩は皆悉く分別して知り、諸の明算の者も數ふること能はず。◎

〔三〇〕菩薩は一毛端の處に於て、佛刹を安置すること不可説、或は微細

【三〇】次には因位の普窮を明かす、十段あり、初に因陀羅網土を頌す、これ行を起すの處なり。

或は廣狹なる有り、淨穢無量にして不可說なり。
彼の一一の佛刹の中に於て、復た佛刹有りて不可說なり、菩薩は皆悉く分別して知る、是の如きの佛刹は不可說なり。
一毛端の處に無量の刹あり、而も其の中に於て迫迮せず、微小なる毛端も亦大ならず、悉く彌廣の諸佛の刹を容れ、佛刹をして雜亂有らしめず、形相本の如くにして異ること無し。
一佛刹に無量の刹有り、一切の佛刹も亦是の如し。
一毛端の處に悉く、虛空に等しき如き無量の刹を容受し、佛刹の形相も不可說にして、一毛端の處各殊別なり。
一毫の毛道の中に入りて、次第に悉く入ること不可說、毛道の攝取も不可說、毛道も亦究竟じて滿つること無し。
次第に劫に入ること不可說、常に能く攝取すること不可說、種種の方便不可說、衆生を度脫することも不可說なり。
是の方便を具足し攝取し、境界無量にして不可說なり、菩薩は深く不可說に入る、是を深入不可說と名く。
〔三〕意根の甚廣なること不可說、徧く諸方に遊ぶこと不可說、勇猛に

【三】二に、三業勤勇行を明かす。

精進すること不可說、具足自在なること不可說なり。

彼の諸の大願不可說、所得の功德不可說、彼の諸の境界不可說、能く究竟じて度することも不可說なり。

菩薩の身業不可說、口業の淸淨なること不可說、意業の淸淨なること不可說、淸淨の解脫も不可說なり。

淸淨の智慧不可說、微妙なる奇特不可說、方便して深く入ること不可說、疑惑を除滅することも不可說なり。

勇猛精進も不可說、深く正法に入ることも不可說、甚深の三昧も不可說、彼岸を究竟することも不可說なり。

〔三〕一切の衆生も不可說、一切の佛刹も不可說、諸の衆生身も不可說、衆生の悕望も不可說なり。

彼の諸の業報も不可說、衆生の欲を知ること不可說、衆生の性を知ること不可說、衆生を分別することも不可說なり。

彼の應化の時も不可說、所出の處に隨ふことも不可說、方便道に隨ふことも不可說、彼の諸の出づる者も不可說なり。

〔三〕三に、應機攝生の行を明かす。

無上の智慧も不可説、彼の方便道も不可説、彼の諸の所説も不可説、一切の轉時も不可説なり。是の如く大慈悲を成就して、一切の諸の世間を饒益す。

（三三）應現の色像不可説、諸の佛刹に遊ぶこと不可説、菩薩の智慧は甚だ明淨にして、十方の佛を視ることも不可説なり。

問ふ所の正法も不可説、諸佛の應答も不可説、應現の色像も不可説、諸方に遊行することも不可説なり。

佛の所に往詣することも不可説、自在を示現することも不可説、不可説の諸の色像を以て、不可説の如來の所に詣で、不可説の供養の具を以て、不可説の諸の如來に供へ、不可稱説の淸淨寶、不可稱説の衆の寶華、不可稱説の妙華鬘をもつて、不可説の諸の最勝に供へたてまつる。彼の深き信心も不可説、淸淨の解脱も不可説、正直の悕望も不可説にして、一切の佛を恭敬し供養したてまつる。

（三四）施心を成就すること不可説なり、過去の施心も不可説、布施を修行することも不可説、内外悉く施すことも不可説なり。

禁戒の淸淨なることも不可説、信心の淸淨なることも不可説、最勝を讃歎することも不可説、妙

【三三】四に、遊方供養の行を明かす。

【三四】五に、廣く十度の行を修することを明かす。

法愛を生ずることも不可說なり。
諸の忍を具足することも不可說、深く無生を解ることも不可說、寂滅を成就することも不可說、寂滅の地に住することも不可說なり。
精進を具足することも不可說、過去の妙心も不可說、不退轉の心も不可說、忍辱の心も不可說なり。
一切の禪藏も不可說、諸法を觀察することも不可說、寂靜の定意も不可說、諸禪を了知することも不可說なり。
波羅蜜の慧も不可說、三昧を成就することも不可說、決定して法を解ることも不可說、諸佛を究竟することも不可說なり。
菩薩の行門不可說、諸願を具足すること不可說、智慧の境界不可說、淸淨の法門も不可說なり。
彼の諸の法力も不可說、淸淨に法に住することも不可說、菩薩の正念も不可說、彼の諸の法界も不可說なり。
智慧を修行することも不可說、善く智慧を學ぶことも不可說、彼の智慧の身も不可說、智慧を住持することも不可說なり。
(三三) 彼の淨法輪も不可說、彼の法の智慧も不可說、彼の妙法雲も不可說、彼の妙法雨も不可說なり。

【三三】六に、攝法遊刹の行を明かす。

彼の諸の神力も不可說、方便の法を解することも不可說、彼れ悉く能く念念の中に於て、深法界を解することも不可說なり。

回向を成就することも不可說・念念の中に於て徧く、諸佛の刹海に遊行することも不可說、詣る所の諸佛も不可說なり。

佛刹を分別することも不可說、種種の莊嚴も不可說、莊嚴の淸淨なることも不可說、微妙の淨色も不可說なり。

種種の雜色も不可說、衆の莊嚴具も不可說、淸淨の佛刹も不可說、垢穢の佛刹も不可說なり。

【三六】七に、衆生を調伏する行を明かす。

(三六) 深く衆生に入ることも不可說、衆生の諸界も不可說、彼の諸の業報も不可說、衆生の行ずる所も不可說なり。

種種の諸根も不可說、衆生の虛妄も不可說、衆生の諸性も不可說、衆生の欲樂も不可說なり。

衆生の威儀も不可說、衆生の煩惱も不可說、衆生の淸淨も不可說、衆生を調伏することも不可說なり。

菩薩の神力も不可說、變化する所の身も不可說、諸行に隨順することも不可說、衆生を度脫することも不可說なり。

示現の自在なることも不可說、大光明を放つことも不可說、光明の妙色も不可說、衆生を淨な

らしむることも不可說なり。

（三七）彼の一一の毛端の中に於て、光明網を放つことも不可說、光明網の色も不可說、普く佛刹を照すことも不可說なり。

【三七】八に、三業深淨の行を明かす。

勇猛精進も不可說、無畏を成就することも不可說、寂靜の三昧も不可說、世間を調伏することも不可說なり。

清淨の身業も不可說、清淨の口業も不可說、意業の無量なることも不可說、清淨の勝行も不可說なり。

智寶を成就することも不可說、深く法界に入ることも不可說、諸の陀羅尼も不可說、菩薩の善く學ぶことも不可說なり。

音聲の清淨なることも不可說、智慧の音を知ることも不可說、眞實の正念も不可說、衆生の語を持することも不可說なり。

菩薩の行ずる所も不可說、正覺の清淨なることも不可說、衆の恐怖を離るることも不可說、世間を調伏することも不可說なり。

稱說すべからざる眞の佛子は、彼の清淨の行も不可說、佛子を讃歎することも不可說、究竟盡を欲することも不可說なり。

不可稱說の諸の導師の、菩薩を讃歎することも不可說なり。

〔三八〕彼の諸の菩薩も不可說、清淨の功德も不可說、彼の諸の分齊も不可說、彼の所住に隨ふことも不可說なり。

智慧に隨住することも不可說、不可說の劫は說くこと能はず、諸佛を樂見することも不可說、智慧を長養することも不可說なり。

永く正法に度ることも不可說、離礙の正法も不可說、正しく三世を觀ずることも不可說、三世の智慧も不可說なり。

彼の稱量する所も不可說、智慧を出生することも不可說、菩薩の勝行も不可說、種種の所願も不可說なり。

清淨の所願も不可說、菩提を具足することも不可說、諸佛の菩提も不可說、彼の智慧を起すことも不可說なり。

眞實を分別することも不可說、一切法を知ることも不可說、清淨の佛刹も不可說、行ずる所の諸力も不可說なり。

彼の修習する所も不可說、一念の開悟も不可說、廣く正法を說くことも不可說、諸佛の自在も不可說なり。

【三八】九に、願智自在の行を明かす。

踊躍歡喜することも不可說、世間に示現することも不可說、妙法輪を轉ずることも不可說、衆の怖畏を離るることも不可說なり。
說く所の正法も不可說、衆生を度脫することも不可說なり。

(三九) 稱說すべからざる一切の劫に、菩薩の諸の功德を讚歎せんに、彼の諸の大劫は猶ほ盡す可くとも、功德を讚歎することは盡す可からず。◎

(四〇) 不可稱說の諸の如來に、各無量の淸淨根有りて、不可說の劫に常に讚歎すとも、如來の功德は猶ほ盡きず。

【三九】十に、次の一頌は德の無盡なることを結す。
【四〇】以下は果德の深廣と因の能く趣入することを頌す。

一切十方の諸の衆生は、皆悉く一時に正覺を成じ、彼の諸の正覺の一一に、不可稱說の淨妙の身有り。
彼の淨妙の身の一一に、不可稱說の如來の頭有り、彼の如來の頭の一一に、不可稱說の廣長舌有り。
彼の廣長舌の一一に、無量の淸淨なる妙音聲有り、彼の一一の妙音聲を以て、不可說の劫に佛を讚歎したてまつる。
不可稱說の一切の劫に、佛の功德を宣揚し讚歎したてまつらんに、不可說の劫は猶ほ盡す可くとも、佛の功德を歎ずることは窮盡すること無し。

（四一）若しは一小微塵の中に於ても、諸の佛刹有りて不可說なり、彼の一一の佛刹の中に於て、各賢首有りて不可說なり。

彼の此の修習も不可說、一念の開悟も不可說、賢首如來の佛刹の中に、復た佛刹有りて不可說なり。

一切の法界餘り有ること無く、其の中の所有る諸の微塵は、彼の一一の微塵の中に於て、佛刹の成敗すること不可說なり。

彼の一一の微塵の中に於て、佛刹を安置すること不可說、復た刹海を置くことも不可說、方類を分別することも不可說なり。

彼の一一の佛刹の中に於て、不可稱說の諸の如來あり、彼の諸の如來の所の壽命は、不可稱說の諸の大劫なり。

諸佛の行ずる所も不可說、微妙の正法も不可說、威神の道力も不可說、障礙を離れたる智も不可說なり。

微妙の智慧も不可說、境界の甚深なることも不可說、十力の功德も不可說、佛の菩提を覺りたまふことも不可說なり。

淸淨に深く入ることも不可說、淸淨の法界も不可說、彼の智慧の藏も不可說、功德を分別することも不可說なり。

【四一】以上は總じて佛の果德を歎じ、以下は別して依報の果と正報の果とを顯はす。

〔四二〕菩薩は究竟じて正しく隨順し、回向を具足すること不可說なり、無量の諸の回向を分別して、一切諸の導師に回向す。

不可稱說の諸の大劫に、一心に諸の三昧を正受し、不可說の諸佛の所に於て、行ずる所淸淨にして不可說なり。

〔四二〕以下は因の順入を明かす、初は自分の行、後は勝進の行なり。

不可說の無礙の心を得て、悉く徧く十方界に遊行し、修行する所の業も不可說、神力の應現も不可說なり。

佛刹を分別することも不可說、諸佛の現前することも不可說、勇猛に精進することも不可說、智慧を究竟することも不可說なり。

未だ曾て一座の處を離れず、而も能く徧く十方界に遊び、不可稱說の諸の大劫に、徧く十方の諸佛の刹に遊ぶ。

智慧の方便も不可說、如實の智慧も不可說、淨智慧を轉ずることも不可說、念念に示現することも不可說なり。

諸の一一の語言の中に於て、佛の智慧を解ることも不可說なり。

或は一時に於て菩提を覺り、或は種種の時に菩提を覺り、諸の毛端に入ることも不可說、諸の微細に入ることも不可說なり。

殊特の勝れたる性も不可說、諸の如來を見たてまつることも不可說、一一の方便も不可說にして、隨順して善く諸佛の性に入る。

諸の佛刹の性も不可說にして、悉く能く隨順して菩提に入る。

不壞の法界も不可說、佛も衆生も刹も不可說なり。

三世の所攝も不可說、菩薩の究竟も不可說なり。』

巻の第三十一

壽命品第二十六

爾の時に心王菩薩摩訶薩、諸の菩薩に告げて言はく、

『佛子よ、此の娑婆世界の、釋迦牟尼佛の刹の一劫の如きは、安樂世界の阿彌陀佛の刹に於ては、一日一夜と爲す。安樂世界の一劫は、聖服幢世界の、金剛如來の佛刹に於ては、一日一夜と爲す。聖服幢世界の一劫は、不退轉音聲輪世界の、善樂光明淸淨開敷佛の刹に於ては一日一夜と爲す。不退轉音聲輪世界の一劫は、離垢世界の法幢佛の刹に於ては、一日一夜と爲す。離垢世界の一劫は、善燈世界の師子佛の刹に於ては、一日一夜と爲す。善燈世界の一劫は、善光明世界の盧舍那藏佛の刹に於ては、一日一夜と爲す。善光明世界の一劫は、超出世界の法光明淸淨開敷蓮華佛の刹に於ては一日一夜と爲す。超出世界の一劫は莊嚴慧世界の一切光明佛の刹に於ては、一日一夜と爲す。莊嚴慧世界の一劫は、鏡光明世界の覺月佛の刹に於ては、一日一夜と爲す。佛子よ、是の如く次第して、乃至百萬阿僧祇の世界あり。最後の世界の一劫は、勝蓮華世界の、賢首佛の刹に於ては一日一夜と爲す。普賢菩薩等の、諸の大菩薩は其の中に充滿せり。』

菩薩住處品第二十七

爾の時に心王菩薩摩訶薩、復た諸の菩薩に告げて言はく、

『佛子よ、東方に菩薩の住處有り、仙人起山と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。彼に現に菩薩有り、金剛勝と名け、其の中に於て止まり、三百の菩薩の眷屬有りて、常に爲めに法を說く。南方に菩薩の住處有り、勝樓閣山と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。彼に現に菩薩有り法慧と名け、五百の菩薩の眷屬有りて、常に爲めに法を說く。西方に菩薩の住處有り、金剛焰山と名け、過去の諸の菩薩常に中に於て住しき。彼に現に菩薩有り、無畏師子行と名け、三百の菩薩の眷屬有りて、常に爲めに法を說く。北方に菩薩の住處有り、香聚山と名け、過去の諸の菩薩常に中に於て住しき。彼に現に菩薩有り、香象と名け、三千の菩薩の眷屬有りて、常に爲めに法を說く。東北方に菩薩の住處有り、淸涼山と名け、過去の諸の菩薩常に中に於て住しき。彼に現に菩薩有り、文殊師利と名け、一萬の菩薩の眷屬有りて、常に爲めに法を說く。東南方に菩薩の住處有り、枝堅固と名け、過去の諸の菩薩常に中に於て住しき。彼に現に菩薩有り、天冠と名け、一千の菩薩の眷屬有りて、常に爲めに法を說く。西南方に菩薩の住處有り、樹提光明山と名け、過去の諸の菩薩常に中に於て住しき。彼に現に菩薩有り賢首と名け、三千の菩薩の眷屬有りて、常に爲めに法を說く。西北方に菩

薩の住處有り、香風山と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。彼に現に菩薩有り、香光明と名け、五千の菩薩の眷屬有りて、常に爲めに法を說く。四大海の中に菩薩の住處有り、（一）枳怛と名け、過去の諸の菩薩は、常に中に於て住しき。彼に現に菩薩有り、（二）曇無竭と名け、萬二千の菩薩の眷屬有りて、常に爲めに法を說く。海中に菩薩の住處有り、功德莊嚴窟と名け、過去の諸の菩薩は中に於て住しき。（三）毗舍離城の南に菩薩の住處有り、善住と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。（四）巴連弗邑に菩薩の住處有り、金燈僧伽藍と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。（五）摩偸羅國に菩薩の住處有り、長養功德と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。（六）拘陳那耶國に菩薩の住處有

【一】枳怛。具さに䟦枳多と云ひ、踊出と譯す。海島山の名なり。

【二】曇無竭。具さには達摩鬱伽陀（Dharmodgata）。法勇法生等と譯す。

【三】毗舍離城。又は吠舍釐、毗耶離等と記す。梵音は（Vaiśālī）。廣嚴城と譯し、摩訶陀國の北方に在りて、維摩居士の住せし所なり。

【四】巴連弗邑。又は波吒釐、波吒梨耶等と書す。梵音は（Pāṭaliputra）。華子城と譯す。恒河の南岸パトナの地なり。

【五】摩偸羅。又は秣菟羅（Mathurā）。孔雀、密善等と譯す。中印度の地名なり。

【六】拘陳那耶。又は倶珍那と云ふ。倶珍は仙人の姓にして大盆と譯し、那耶は法律と譯す。此の仙人此の國に於て行を修し法律を說きしが故に名となすと云ふ。

【七】牟眞鄰陀。又は目支隣陀、母止隣那等と書す。梵音は（Mucilinda）。解脫と譯す。もと龍王の名なり。

【八】甘菩國。又劍蒲、甘菩遮（Kambojā）。北印度に存したる國にして古の十六大國の一なり。

【九】眞旦。又は震旦と云ひ印度にて支那國を呼びし稱なり。

【一〇】那羅延。具さには那羅延那（Nārāyaṇa）。堅牢山と譯す。

【一一】邊夷。唐經には國名を擧げて疏勒國と云へり。

【一二】罽賓。正しくは迦濕彌羅（Kaśmīrā）と稱し、雪山の麓の山間に在りし大國なり。

【一三】欝提尸山（Udesin）。遶閉山と譯す。

り法座と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。清淨なる彼岸の國に菩薩の住處有り、(七)牟眞鄰陀功德と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。風地の內に菩薩の住處有り、無礙龍王の所造と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。(八)甘菩國に菩薩の住處有り、最上慈と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。(九)眞旦の國土に菩薩の住處有り、(一〇)那羅延山と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。(一一)邊夷の國土に菩薩の住處有り、牛頭山と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。(一二)罽賓の國土に菩薩の住處有り、(一三)鬱提尸山と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。(一四)難提拔檀那城に菩薩の住處有り、(一五)梯羅浮呵と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。(一六)菴浮梨摩國に菩薩の住處有り、正治那曲と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。(一七)乾陀羅國に菩薩の住處有り、寂靜窟と名け、過去の諸の菩薩は常に中に於て住しき。』

【一四】難提拔檀那。譯して歡喜增長と云ふ、南印度の境に在りしと云ふ。

【一五】梯羅浮呵（Sthavira）。上座と譯す、尊者の名なり。

【一六】菴浮梨摩。正しくは菴羅（Āmra）と云ふ、無垢と譯して美味なる菓の名なり、菴羅菓の多く產出する國なるが故に此の名あり。

【一七】乾陀羅。又健陀羅（Gandhāra）。持地國、香淨國と譯す、迦濕彌羅國の西北に在りし國にして、又は月氏國とも稱せらる。

佛不思議法品第二十八の一

爾の時に諸の菩薩の大會の中に諸の菩薩有り、是の如きの念を作さく、〔一〕『諸佛の刹土は不可思議なり。諸佛の淨願は不可思議なり。諸佛の種姓は不可思議なり。諸佛の出世は不可思議なり。諸佛の法身は不可思議なり。諸佛の音聲は不可思議なり。諸佛の智慧は不可思議なり。諸佛の神力自在なること不可思議なり。諸佛の無礙にして住すること不可思議なり。諸佛の解脫は不可思議なり』と。

爾の時に世尊、諸の菩薩の心に念ふ所を知りたまひて。即ち青蓮華菩薩に佛の神力と、佛の智と、佛の辯と、佛の功德と、佛の無畏とを與へたまひて、其の身に充滿せしめ、一切諸佛の法界を究竟せしめ、佛の神力の境界と、無障礙の行と、分別一切如來種姓とを與へ、數ふ可からざる諸佛の方便を與へたまへり。

爾の時に青蓮華菩薩摩訶薩、即ち甚深の無礙法界の一切無礙の法門に入りて、菩薩の行を修し、普賢菩薩の所願を成就し、一切の佛に隨順し、大莊嚴を以て自ら莊嚴し、大悲をもつて普く一切の衆生を觀じて淸淨ならしめんと欲し、一念の中に於て如來の無量なる大智を出生し、如來の無盡智門を

〔一〕所念に十法ありて、不可思議なる佛果の德を請問す、一は佛の出處を問ひ、二は出現の因即ち本願を問ひ、三は出生の處、種姓の家を問ひ、四は總じて應機現世を明かし、次の三は別して三輪の業用を顯はし、八は大用の體、九は大用の相、十は大用自在を問ふ。

成就して一切諸の陀羅尼を成就し、諸辯の光明は普く一切を照せり。

（二）爾の時に青蓮華菩薩、佛の神力を承けて蓮華藏菩薩に告げて言はく、

（三）「佛子よ、諸佛に無量無數の清淨なる妙住有り。諸佛は無量の自在に安住したまふ。諸佛は一切の事に於て未だ嘗て時を失はず。一切の諸佛は悉く皆平等に淨法輪を轉じ。一切諸佛の四辯の說は窮盡すること無く。一切の佛法は思議す可からず。一切の諸佛の清淨なる音聲は、至らざる所無く。一切の諸佛は悉く能く無量の法界を分別したまひ。一切の諸佛の光明は普く照し。一切の諸佛の所說は、皆甚深の法界に入る。

（四）佛子よ、一切の諸佛に十種の法界無量無邊有り。何等をか十と爲す。

（五）一切諸佛の色身は清淨にして、無量無邊に世閒を超出す。一切諸佛の無礙の眼は、無量無邊にして、清淨に平等に一切の法を覺る。一切諸佛の無礙の耳は、無量無邊にして、一切衆生の音聲を分別す。一切諸佛の鼻は、無量無邊に入り、清淨に一切の佛の自在を究竟じて、彼岸に到る。一切諸佛の廣長舌の相は無量無邊にして、妙音聲を出だし、普く法界に聞こゆ。一切諸佛の身業は、無量無邊にして、衆生に隨應して如來身を現ず。一切諸佛の意業は、無量無邊にして、三世に礙ふること無く、法身清淨にして破壞す可

【二】上來、請分、加分、證分を竟り、以下正說に入り、三百二十門を以て前の十問に答ふ。

【三】初の十門は宗を標して略答す。

【四】以下三百十門は義に隨つて廣く顯はす、大門三十一位あり、大に分つて十門と爲す。初の四門は前の第一佛刹の問に答ふ。

【五】次の十は佛の六根の依正を辨じて勝德の體を明かす。

からず。一切諸佛の無礙解脱の法門は無量無邊にして、無盡の神力自在を示現す。一切諸佛は一切の世界に於て、佛刹を莊嚴すること無量無邊にして、以て衆生に應ず。一切諸佛は無量無邊にして諸の菩薩行、及び諸の勝願と自在の神力とを、皆悉く滿足し、悉く能く諸佛の正法を覺悟す。佛子、是を一切諸佛の十種の法界無量無邊と爲す。

佛子よ、一切の諸佛は念念の中に於て、悉く能く十の無盡智を出生したまふ。何等をか十と爲す。

㊅一念の中に於て悉く一切の世界に、兜率天より命終することを現ず。一念の中に於て悉く一切の世界に、菩薩の出生を現ず。一念の中に於て悉く一切の世界に、菩薩の出家を現ず。一念の中に於て悉く一切の世界に、道場に往詣し、菩提樹下に等正覺を成ずることを現ず。一念の中に於て一切の世界に、淨法輪を轉ずることを示現す。一念の中に於て悉く一切の世界に、應に隨ひて一切の衆生を化導し、悉く解脱せしむることを現ず。一念の中に於て悉く一切の世界に於て莊嚴身を現じ、衆生に隨應す。一念の中に於て悉く一切の世界に、種種に莊嚴し、無數に莊嚴せる如來の自在なる一切の智藏を現ず。一念の中に於て、悉く一切の世界に、衆生を清淨にすることを現ず。一念の中に於て、一切の世界に徧じて、悉く三世の一切諸佛を現ず。一念の中に於て、種種の諸根、精進、欲性の爲めの故に、三世の諸佛の種姓、等正覺を成じ、衆生を開導することを顯現す。佛子、是を一切諸佛、一念の中に於て十種の智を生ずと爲す。

【六】次の十は普く諸刹に遍し機に應じて出生し、處に依りて用を起すことを明かす。

佛子よ、一切の諸佛に十種の未曾失時有り。何等をか十と爲す。(七)一切諸佛は等正覺を成ずるに、未だ曾て時を失はず。一切諸佛の善根の業報は、未だ曾て時を失はず。一切諸佛は菩薩に記を授くるに、未だ曾て時を失はず。一切の諸佛は衆生に隨應して、神力を示現するに、未だ曾て時を失はず。一切の諸佛は如來の身を現ずるに、未だ曾て時を失はず。一切の諸佛は悉く捨を行ずるに、未だ曾て時を失はず。一切の諸佛は城聚落に入るに、未だ曾て時を失はず。一切の諸佛は衆生を攝取し歡喜せしむるに、未だ曾て時を失はず。一切の諸佛は難化の衆生に於て之を放捨し、調伏せんが爲めの故に、未だ曾て時を失はず。一切の諸佛は不可思議なる自在神力を示現するに、未だ曾て時を失はず。佛子、是を一切諸佛の十種の未曾失時と爲す。

佛子よ、一切諸佛に十種の譬喩す可からず思議す可からざる境界有り。何等をか十と爲す。(八)一たび跏趺して坐して、十方一切の世界に徧滿す。一たび言音を發して、悉く能く一切の佛法を演説す。一光明を放ちて、悉く能く普く一切の世界を照す。一身悉く能く一切身を現ず。本の處を離れずして、悉く徧く一切の世間に示現す。一法を決定して、悉く諸法に於て罣礙する所無し。一念の中に於て、悉く能く無餘の世界に充滿す。一念の中に於て、悉く能く諸佛の功德を示現す。一念の中に於て、悉く能く一切三世の佛を示現す。一切の衆生を教化して、而も諸佛の寂滅無二の三昧

【七】次の十は業用機に應じて敎化時を失はざることを明かす。

【八】次の十は業用廣大にして思量を超越せることを明かす。

を捨離せず。佛子、是を一切諸佛の十種の譬喩す可からず思議す可からざる境界と爲す。

（九）佛子よ、一切諸佛に十種の（一〇）出生住持の智慧有り。何等をか十と爲す。一切の諸法は趣向する所無くして、而も能く清淨の願智を出生す。一切の諸法は無身にして、而も能く法身の智慧を出生す。一切の諸法に悉く二有ること無くして、而も正覺を生じ一切の法を悟る。一切の諸法は悉く我有ること無く、衆生有ること無くして、而も能く衆生を化する智を出生す。一切の諸法は悉く相有ること無くして、而も能く種種相の智を出生す。一切の世界は悉く成敗無くして、而も能く世の成敗の智を出生す。一切の諸法は造者有ること無くして、而も能く業報の智慧を出生す。一切の諸法は言說す可き無くして、而も能く說法界の智を出生す。一切の諸法は垢淨有ること無くして、而も能く垢淨の智慧を出生す。一切の諸法は生滅有ること無くして、而も能く緣起の智慧を出生す。佛子、是を一切諸佛の十種の出生住持の智慧と爲す。

佛子よ、一切の諸佛に十種の無量（一一）內法有り。何等をか十と爲す。一切の諸佛は內身清淨にして、三世に隨順し。一切の諸佛は悉く（一二）三輪の內法を有して衆生を敎化す。一切の諸佛は悉く內に深智慧の陀羅尼を有して、一切の佛法を分別す。一切の諸佛は皆悉く內に四辯の法輪を有して、

【九】次の三門は前の第二淨願の問に答ふ。

【一〇】證理の根本智に依りて、化他の後得智を出生し、衆生を敎化するが故に出生住持智と名づく。

【一一】德を蘊んで心に在るを內法と名づく、卽ち內心所證の法なり。

【一二】三輪とは、身業を神通輪、語業を正敎輪、意業を記心輪と云ふ。佛は三業に依りて法を說き、衆生の煩惱を摧破するが故に輪と名くるなり。

四衆の中に於て淨法輪を轉ず。一切の諸佛は皆悉く內に大慈大悲を有して、悉く能く一切衆生を捨てず。一切の諸佛は內常に寂定にして、善く衆生を觀じて未だ曾て時を失はず。一切の諸佛は皆悉く內に巧妙なる善根を有して、衆生を調伏す。一切の諸佛は皆悉く內に一切の法界を有して、無礙の住に住す。一切の諸佛は內一念の中に、悉く能く三世の諸佛世に出興することを示現す。一切の諸佛は內に、一切三世の阿僧祇劫は、卽ち是れ一日なりと分別する有り。佛子、是を一切諸佛の十種の無量內法と爲す。

佛子よ、一切の諸佛に十種の（三）甚深の大法有り。何等をか十と爲す。一切諸佛は悉く能く一切の諸魔を壞散す。一切の諸佛は、悉く能く一切の外道を降伏す。一切諸佛は悉く能く一切衆生に應化して、其をして歡喜せしむ。一切の諸佛は悉く能く一切世界に往詣して衆生を敎化す。一切の諸佛は悉く分別して甚深の法界を知る。一切の諸佛は種種の身を以て、諸の世界に徧くして、而も異身無し。一切の諸佛は一一の音聲に四種の辯を具して、未だ曾て斷絕せず。一切の諸佛は衆生の見る者を、皆歡喜せしめ利益虛しからざらしむ。一切の諸佛は一一の毛孔より、次第に一切世界の微塵に等しき佛を出生して、未だ曾て斷絕せず。一切の諸佛は一一の微塵の中に於て、一切世界の微塵に等しき佛刹を示現し、種種に莊嚴して、常に法輪を轉じ、衆生を敎化して未だ曾て斷絕せず、而も微塵大ならず、世界小ならず、決

【三】業用限り無きを大法と云ひ、無思にして理に稱ふを甚深と云ふ。

定して了知し、法界に安住す。一切の諸佛は一切の法に於て癡闇を覺悟し、十力を具足して、廣く一切衆生の爲めに如實の法を說き、癡翳を除滅せしむ。佛子、是を一切諸佛の十種の甚深の大法と爲す。◎

(四) 佛子よ、一切諸佛に十種の功德の離惡清淨なる有り。何等をか十と爲す。一切の諸佛は本より來、一切の功德を修習して、離惡清淨なり。一切の諸佛は悉く三世の如來の家に於て生れ、離惡清淨なり。一切の諸佛は未來際に於て心に所著無くして、離惡清淨なり。一切の諸佛は一切三世の諸法に著せずして、離惡清淨なり。一切の諸佛は種種の虛妄を離れ、一の莊嚴を以て自ら莊嚴し、離惡清淨なり。一切の諸佛は功德無盡にして法界等に安住し、離惡清淨なり。一切の諸佛は色身淨妙にして、量無く邊無く、普く十方一切の世界に現じて、衆生を敎化し、未だ曾て時を失はずして、離惡清淨なり。一切の諸佛は四無畏に住して、諸の恐怖を離れ、一切の天人衆の中に於て、大師子吼し、廣く諸法を說きて衆をして歡喜せしめ、離惡清淨なり。不可說不可說の劫の中に、滅度したまへる諸佛は、若し衆生有りて其の名を聞かん者は、大果報を得んこと、佛の現在したまふが如くにして、離惡清淨なり。一切の諸佛は遠く不可說不可說の世界の中に在して住す、若し衆生有りて、一心に正しく彼の諸の如來を念ぜば、即ち現じて前に在りて、離惡清淨なり。佛子よ、是を一切諸佛の十種の功德離惡清淨と爲す。

【四】 三、次の二門は前の第三種姓の問に答ふ。

・佛子よ、一切諸佛に十種の究竟清淨有り。何等をか十と爲す。一切の諸佛は諸願究竟じて清淨なり。

一切の諸佛は梵行禁戒究竟じて清淨なり。一切の諸佛は悉く〔一五〕優婆提を捨離することを得て、究竟清淨なり。一切諸佛の佛刹は究竟じて清淨なり。一切諸佛の眷屬は究竟じて清淨なり。一切諸佛の種姓は究竟じて清淨なり。一切諸佛の色身の相好は究竟じて清淨なり。一切諸佛の法身は究竟じて清淨なり。一切諸佛の無礙の一切智身は究竟じて清淨なり。一切諸佛の解脫は所作已に作して、永く彼岸に度り、究竟じて清淨なり。佛子、是を一切諸佛の十種の究竟清淨と爲す。

〔一六〕佛子よ、一切の諸佛は、一切の世界一切の時に於て、十種の佛事有り。何等をか十と爲す。〔一七〕一切の諸佛は、若し衆生の正しく憶念する者有らば、卽ち現じて前に在り。一切の諸佛は常に衆生の爲めに摩訶衍を說く。一切の諸佛は常に能く一切衆生の無量の善根を長養す。一切の諸佛は、若し衆生有りて、始めて生死を離れ正法の位に入るを悉く分別して知る。一切の諸佛は衆生敎化の時會を捨てず。一切の諸佛は常に一切の世界に遊びて障礙有ること無し。一切の諸佛は大悲をもつて常に一切の衆生を捨離せず。一切の諸佛は變化する所の身、常に斷絕せず。一切の諸佛は自在の神力未だ曾て斷絕せず。一切の諸佛は普く常に清淨の法界に安住し、悉く衆生の爲めに廣く演說す。佛子、是を一切の諸佛、一切の世界と一切の時とに於て、十種の佛事有りと爲す。

【一五】優婆提。具さに優婆提舍(Upadeśa)と云ひ、論議し分別し問答して法を說くを云ふ。然れども此には戲論の義に解すべし。唐經には世の衆惑を離るとあり。

【一六】四、次の三門は前の第七佛智慧の間に答ふ。

【一七】次の十は智用横を照すことを明かす。

佛子よ、一切の諸佛に十種の無盡の方便智慧の大海有り。何等をか十と爲す。(一八)一切の諸佛は法身の無盡なる智慧の大海なり。一切の諸佛は功德の無盡なる智慧の大海なり。一切の諸佛は佛眼の境界無盡なる智慧の大海なり。一切の諸佛は不可思議なる善根の無盡なる智慧の大海なり。一切の諸佛は一切の法を行ずる無盡なる智慧の大海なり。一切の諸佛は甘露の法を雨らす無盡なる智慧の大海なり。一切の諸佛は諸佛の功德を讃歎する無盡なる智慧の大海なり。一切の諸佛の本願の諸行は無盡なる智慧の大海なり。一切の諸佛は未來際を盡して、一切衆生の爲めに常に佛事を作し、未だ曾て休息せざるは、窮盡有ること無き智慧の大海なり。一切の諸佛は衆生の心心の所行を知る無盡なる智慧の大海なり。一切の諸佛は一切智の功德を出生する無盡なる智慧の大海なり。佛子、是を一切諸佛の十種の無盡の方便智慧の大海と爲す。

佛子よ、一切の諸佛に十種の(一九)常法有り。何等をか十と爲す。一切の諸佛は常に一切諸の波羅蜜を行ず。一切の諸佛は一切の法に於て常に愚癡を離る。一切の諸佛は常に大悲を具す。一切の諸佛は常に無量の十力を具す。一切の諸佛は常に無上の法輪を轉ず。一切の諸佛は常に一切衆生を度す。一切の諸佛は常に衆生の爲めに等正覺を成ず。一切の諸佛は常に應化して一切衆生を度す。一切の諸佛は常に正念不二の法を行ず。一切の諸佛は常に衆生を化し已りて、涅槃を示現するも、諸佛の境界に

【一八】次の十は智體の宏深なることを明かす。

【一九】常法とは、此の十位は如來常に有し常に行ずる所なるが故なり、是れ智德の無斷を明かす。

邊際有ること無し。佛子、是を一切諸佛の十種の常法と爲す。

〔二〇〕佛子よ、一切の諸佛に十種の〔二一〕無量說佛法門有り。何等をか十と爲す。一切の諸佛は悉く無量なる衆生の界門を說く。一切の諸佛は悉く無量なる衆生の種種の行門を說く。一切の諸佛は悉く衆生の無量なる諸の業報門を說く。一切の諸佛は悉く無量の方便をもつて衆生を度する門を說く。一切の諸佛は悉く無量の衆生の行を淨むる門を有す。一切の諸佛は悉く無量なる一切の菩薩を敎化し、菩薩の行を安立する門を有す。一切の諸佛は悉く無量の菩薩の勝妙なる願門を說く。一切の諸佛は悉く無量の世界の諸の成敗門を說く。一切の諸佛は悉く無量の清淨なる佛刹の一切菩薩の正希望門を說く。一切の諸佛は悉く無量の一切世界の去來現在の諸佛、無量劫の中に次第に出世し、善く此佛の智慧門を分別することを說く。佛子よ、是を一切の諸佛の十種の無量說佛法門と爲す。

佛子よ、一切の諸佛に十種の法有りて常に衆生の爲めに佛事を作す。何等をか十と爲す。〔二二〕一切諸佛の色身は常に衆生の爲めに佛事を作す。一切諸佛の音聲は常に衆生の爲めに佛事を作す。一切諸佛は施を受けて常に衆生の爲めに佛事を作す。一切諸佛は施を受けずして常に衆生の爲めに佛事を作す。一切の諸佛は常に地水火風を以て佛事を作す。一切の諸佛は神力の境界を住持して、常に衆生の爲めに佛事を作す。一切の諸佛は常に名號を以て、諸の衆生の爲めに佛事

【二〇】五、次の三門は前の第五佛音聲の問に答ふ。
【二一】初に言聲說法を明かす。
【二二】次の十は餘事の說法を明かす。

を作す。一切の諸佛は常に佛刹の境界を以て、普く衆生の爲めに佛事を作す。一切の諸佛は常に清淨の佛刹を以て諸の衆生の爲めに佛事を作す。一切の諸佛は常に默然を以て、諸の衆生の爲めに佛事を爲す。佛子、是は爲一切諸佛の十種の法にして常に衆生の爲めに佛事を爲すなり。

佛子、一切の諸佛に〔三〕十種の堅固士の法有り。何等をか十と爲す。一切諸佛の諸願は堅固にして沮壞す可からず、說の如く修行し言行相應す。一切の諸佛は未來際の劫を盡して、菩薩の行を修し、功德莊嚴して、未だ曾て恐怖せず。一切の諸佛は一切衆生を化せんが爲めの故に、悉く不可說不可說の世界に詣り、而も一切の世界に於て衆生を敎化し、留難有ること無し。一切の諸佛は信不信の衆生に於て、大悲をもつて等しく觀じて、異り有ること無し。一切の諸佛は初發心より乃し正覺に至るまで、其の中間に於て未だ曾て菩提の心を退失せず。一切の諸佛は諸の功德を修し、皆悉く一切種智に回向して、世行を求めず。一切の諸佛は諸佛の所に於て、隨順して身口意の業を修學して、永く聲聞緣覺の心を離れ、一向に專ら無上の菩提を求め、修する所の功德を、皆悉く一切種智に回向して、無上道を求め、等正覺を成ず。一切の諸佛は平等に普く無量無邊の諸佛の正法を照し、菩薩の心を淨め、究竟じて一切種智を具足す。一切の諸佛は悉く能く一切の世樂を捨離し、世間の願樂す可き所を樂はず、世間に著せず。一切衆生をして悉く諸の苦を滅し、寂滅なる平等の快樂を逮得せしむ。一切の諸佛は一切衆生の

【三】此の十は因を擧げ果を結す、此の十種の堅固の法を行ずるを堅固士と云ふ。

爲めの故に無量の苦を受け、皆諸佛の種姓を建立せしめんと欲して、悉く衆生をして菩提を樂ひ求めて、生死を超出し、十力の地を得しむ。佛子、是を一切諸佛に十種の堅固士の法有りと爲す。◎

（二四）佛子よ、一切の諸佛に十種の（二五）佛無障礙住有り。何等をか十と爲す。一切諸佛の、悉く能く偏く一切の世界に遊ぶは、無障礙の住なり。一切諸佛の、悉く能く一切の世界に安住するは無障礙の住なり。一切諸佛の、一切の世界に於て行住坐臥するは無障礙の住なり。一切諸佛の一切の世界に於て說法するは無障礙の住なり。一切諸佛の、一切の世界に於て皆悉く兜率陀天に安住するは無障礙の住なり。一切諸佛の三世の法界に於けるは無障礙の住なり。一切諸佛の、眷屬を一切の法界に充滿して、爲めに法を說くは、無障礙の住なり。一切諸佛の、一念の中に於て、悉く一切衆生の心心の所行を知り、三輪を以て教化して之を調伏するは無障礙の住なり。一切諸佛の、能く一身を以て、悉く一切諸佛の不可思議なる法門に住するは無障礙の住なり。一切諸佛の、悉く分別して一切衆生を知るは無障礙の住なり。一切諸佛の、悉く能く一切の如來を分別するは無障礙の住なり。佛子、是を一切諸佛の十種の無障礙住となす。

佛子よ、一切の諸佛に（二六）十種の最勝無上なる莊嚴有り。何等をか十と爲す。一切の諸佛は悉く色身の相好、最勝無上なる莊嚴有り、是は爲一切諸佛の最勝無上なる色身の莊嚴なり。一切の諸佛は悉

【二四】六、次の三門は前の第九佛無礙住の問に答ふ。
【二五】所住の無礙を明かす。
【二六】此の十は具德の無礙を明かす。下位に超えたるが故に最勝と云ひ、更に優勝なる者なきが故に無上と云ふ。

く八種の微妙なる音聲を有し、一一の音聲に悉く五百の妙音の眷屬有りて、稱り數ふ可からざる百千の音聲を以て莊嚴と爲し、無量無邊の妙音聲の敎は、皆悉く清淨にして、普く能く一切諸佛の正法の義味を演說し、悉く恐怖を離れ、無畏に安住して大師子吼し、悉く一切の法界の一切衆生をして、其の音聲を聞かしめ、其の本行せし種種の善根に隨ひて、皆開解せしむ。是は爲一切諸佛の最勝無上なる口業の莊嚴なり。一切の諸佛は悉く十力をもつて莊嚴せる意業を有し、諸佛の大三昧の華を開敷し、十八の不共をもつて莊嚴せる境界は罣礙する所無くして、法界地に住し、悉く諸佛の法の源底を得て餘り無き法界を皆悉く莊嚴し、一念の中に於て悉く分別して、三世の一切法界の、一切衆生の心心の所行を知りて、而も餘り有ること無し。是は爲一切諸佛の最勝無上なる意業の莊嚴なり。一切の諸佛は悉く最勝無上なる光明の莊嚴を有し、皆悉く普く大光明藏を放ち、一一の光明に悉く無數の妙光明網有り、以て眷屬と爲し、普く一切諸佛の世界を照し、一切世間の闇冥を除滅し、佛出世して、不退轉の最勝の佛事を作すことを現じ、無量なる清淨の法身を出生す。是は爲一切諸佛の最勝無上なる光明の莊嚴なり。一切の諸佛は若し微笑する時は、悉く口中に於て、數ふ可からざる阿僧祇那由他の光を放ち、各種種無量なる不可思議の色を有して、善く十方一切の世界を照し、悉く無量無數の阿僧祇の衆生に、阿耨多羅三藐三菩提の記を授く。是は爲一切諸佛の最勝無上にして普く一切を照し癡を離れて示現する莊嚴なり。一切の諸佛は悉く無量の法身を有し、癡を離れたる清淨の法界は、無量無邊

にして、世間を遠離し、世間に染せず、世間に著せず、世の眞實を解りて、出世の法を行じ、語言の道を斷ちて無言の際を攝し、陰界入を離る。是は爲一切諸佛の最勝無上なる法身の莊嚴なり。一切の諸佛は悉く無量常妙の光明を有して、普く十方一切の世界を照し、不可說不可說の諸の雜妙の色をもつて之を莊嚴し、普く世間を照して障礙する所無く。一切光明の藏を出生す。是は爲一切諸佛の最勝無上なる常光の莊嚴なり。一切の諸佛は、悉く無量の妙色・悅樂の妙色、淸淨の妙色、一切衆生に隨應する妙色、三界の光明を暎蔽する妙色、彼岸を究竟する無上の妙色を有す。是は爲一切諸佛の最勝無上なる無量の妙色の莊嚴なり。一切の諸佛は、自然に淸淨にして三世の佛の寶聖家の中に生まれ、一切の惡を離れて、一切淸淨の諸法を修行し、一切智の如來の種姓を出生し、淸淨にして無礙なり。是は爲一切諸佛の最勝無上なる淸淨種姓の莊嚴なり。一切の諸佛は大慈の諸力をもつて其の身を莊嚴して、自然に淸淨にして一切の不善の覺觀を遠離し、身行永く息み、觀る者厭くこと無く、心淨くして解脫し、大悲具足し、一切衆生の第一の福田、無上の受者となりて、衆生を哀愍し、普く一切種智に安立して、無量の功德の寶藏を出生せしめ、一切の衆生は善根智慧の功德の藏を長養す。是は爲一切諸佛の最勝無上なる大慈大悲の究竟功德の寶藏、淸淨の莊嚴なり。佛子、是を一切諸佛の最勝無上なる十種の莊嚴と爲す。

佛子よ、一切の諸佛に(三七)十種の自在の正法有り。何等をか十と爲す。一切

【三七】此の十は自在無礙を明かす。

の諸佛は一切の法に於て、意に隨ひ自在にして、句身味身の辯、究盡すること無く、一切の法を說きて而も障礙無し。是は爲一切諸佛の自在正法なり。一切の諸佛は衆生に隨應して化して時を失はず、其の所願に隨ひて爲めに法を說き、未だ曾て時を失はず。是は爲一切諸佛の自在正法なり。一切の諸佛は悉く能く六種に十方の世界を震動して、未だ曾て一りの衆生をも惱亂せず、虛空に等しき世界を、無量阿僧祇の種種に莊嚴し、或は擧げ或は下げ、或は合し或は散じ、一一の世界の一一の處所の衆生に於ても、亦衆生の心を惱亂せず。亦其をして疑惑の想を生ぜしめず。是は爲一切諸佛の自在正法なり。一切の諸佛は能く智慧を以て一切世界の種種の莊嚴を受持し、一念の中に於て一切世界の種種の莊嚴を示現し、不可數不可數の阿僧祇劫に莊嚴の具を歎ずとも、而も窮盡すること無く、永く一切世界の染汙を離れ、世間の一切の佛刹を莊嚴す。是は爲一切諸佛の自在正法なり。一切諸佛は若し一りの衆生の應に化を受くべき者を見ば、不可數不可數の阿僧祇劫に於て、結跏趺坐して、身疲厭せず、專ら彼の人を念じて、未だ曾て廢忘せず、而も時を失はず、一りの衆生の爲めに壽命を住持し、未來際劫を盡して結跏趺坐し、身に疲厭無く、彼の衆生を念じて未だ曾て廢忘せず、一りの衆生の如く、一切衆生にも亦復た是の如し。是は爲一切諸佛の自在正法なり。一切の諸佛は悉く徧く一切世界の諸の如來の所に往詣して、而も障礙無く、一一の方面に各法界に等しき世界海有り、一一の方の無量の世界網、法界に等しき一切の世界海は、一念の中に於て、悉く能く周徧して妙法輪を轉じ、而も障礙無し。

是は爲一切諸佛の自在正法なり。一切の諸佛は一切の衆生を調伏し教化せんが故に、念念の中に於て等正覺を成ずるも、先に諸佛の正法を覺らざるに非ず、亦學地に住せずして而も正覺を成じ、諸佛の法に於て罣礙無きことを得、自在の神力、無量の智慧の境界を捨てずして衆生を敎化す。是は爲一切諸佛の自在正法なり。一切諸佛は能く〔二八〕眼入を以て耳入の佛事を作し、能く耳入を以て鼻入の佛事を作し、能く鼻入を以て舌入の佛事を作し、能く舌入を以て身入の佛事を作し、能く身入を以て意入の佛事を作し、能く意入を以て一切世界、種種の境界、世閒の境界、出世閒の境界に於て、一一の境界に於て能く佛事を作す。是は爲一切諸佛の自在正法なり。一切の諸佛は一毛孔に於て悉く能く一切の衆生を安置し、一一の衆生は其の身悉く不可說不可說の諸佛の剎と等しく、彼の衆生に於て而も迫迮せず、一一の衆生は悉く壽無量阿僧祇劫にして、普く能く無量の世界に遊行し、諸の世界に於て、佛世に興りて淨法輪を轉じ、無數の法門を宣暢し演說し、廣く過去の不可數の法、未來現在の不可數の法を說き、一切の衆生は四威儀を行じて迫迮せざるを見る。是は爲一切諸佛の自在正法なり。一切の諸佛は一念の中に於て蓮華寶藏の師子の座を現じ、如來の淨身は法界と等しく、彼の寶座に處して等正覺を成じ、一念の中に於て如來の自在神力を示現し、一念の中に一如來の等正覺を示現したまふが如く、一切世界の微塵數の如來の等正覺を成ずることを示現したまふも亦復た是の如し。一念の中の如く一切念の中に於ても亦復た是の如し。蓮華寶藏師子の座

〔二八〕六根の互用自在を明かす、入とは新譯に處と云ふ。

に、成正覺を示すが如く、是の如く一切の不可說不可說の法界に等しき清淨の佛刹、不可思議の種種に莊嚴せる世界、種種の境界、不可說の佛刹に、或は同相有り、或は異相有り、不可說の阿僧祇劫に說くとも盡すこと能はず、無量の諸佛の種種の念、種種の時は思議す可からず、一念の中に於て、一切の諸佛は少方便を以て、一切衆生に示現することも亦復是の如し。佛子、是を一切諸佛の十種の自在正法と爲す。◎

(二九)佛子よ、一切の諸佛は十種の不思議の法を具足し已りて等正覺を成じたまふ。何等をか十と爲す。(三〇)一切の諸佛の一一の妙相に、百福悉く具はりて、等正覺を成ず。一切の諸佛は一切の佛法を具足して等正覺を成ず。一切の諸佛は諸の善根を具へて、等正覺を成ず。一切の諸佛は諸の功德の行を具足し修習して、等正覺を成ず。一切の諸佛は善く衆生の諸根の熟するを知り已りて、等正覺を成ず。一切の諸佛は無壞の勝法を具足し成就して、等正覺を成ず。一切の諸佛は佛刹を具足し嚴淨して、等正覺を成ず。一切の諸佛は一切種智を具足して、等正覺を成ず。一切の諸佛は色身の相好滿足し、見る者虛しからずして、等正覺を成ず。一切の諸佛は悉く諸佛の平等の正法を具へて、等正覺を成ず。一切の諸佛は悉く一切諸佛の事を具へ已りて、然る後に無餘涅槃に入る。佛子、是を一切諸佛は十種の不思議の法を滿足して、等正覺を成ずと爲す。

佛子よ、一切諸佛に十種の(三一)巧妙方便有り。何等をか十と爲す。一切の諸佛は悉く諸法に究竟有るこ

【二九】七、次の六門は前の第四佛出世の問に答ふ。
【三〇】此の十は緣を攬りて正覺を現ずることを明かす。
【三一】此の十は無の中に巧みに現ずることを明かす。

と無きを知りて、而も究竟じて諸佛の善根を説く。是は爲一切諸佛の巧妙の方便なり。一切の諸佛は一切の法は悉く所見無く、各相知らず、縛も無く、脱も無く、取も無く、集も無く、具足も無く、自在も無く、究竟も無きことを了りて、而も一切の佛は、彼の法の中に於て實に異り無きことを知り、衆の垢汚を離れ、一切の法に於て悉く自在を得、無取の法の中に於て實際を壞せず、善く究竟じて大自在地を學び、一切の法界を見、一切智を覺悟す。是は爲一切諸佛の巧妙の方便なり。一切の諸佛は諸相の際を離れて一切の相に住せず、而も分別して一切の諸相を知り、亦自性を亂さず、一切諸性は自性有ること無くして、而も能く阿僧祇の清淨の色身と、種種に嚴淨せる佛刹の妙相とを示現し、佛の一切智は智身を具足し、明淨の智燈は癡闇を除滅して、善く能く一切衆生に示現す。是は爲一切諸佛の巧妙方便なり。一切の諸佛は、衆生の際は過去に非ず、未來に非ず、現在に非ず、法界も亦去來現在に非ざることを知り、如實の性の如く、虛妄を捨離して、能く三世の諸佛を演説し、一切の佛の平等の境界を見る。是は爲一切諸佛の巧妙方便なり。一切諸佛の身口意の業は造作する所無く、究竟じて住無く、諸の數法を離れて彼岸に到り。而も無量なる功德の寶藏を出生して、世間出世間の法を分別し演説し、無礙の智慧を具足し成就して、無量の自在神力を示現し、一切の法界に等しき衆生を度脱す。是は爲一切諸佛の巧妙方便なり。一切の諸佛は、悉く一切の法は知無く、見無く、一に非ず、異に非ず、相に非ず、無相に非ず、莊嚴に非ず、莊嚴せざるに非ず、一切の諸法は皆自性無く、不生

不滅なるを知りて、而も所有る無所有の法の中に於て、亦世間の法相を壞せず、一切智の人、人を見て勝妙の智慧を示現し、自在に廣く一切諸法を說き、而も如如に於て亦永く滅せず、是は爲一切諸佛の巧妙方便なり。一切の諸佛は能く一時に於て皆悉く分別して一切時を知り、離生平等の正法を捨てず、一切時の中に皆攝せざる所、晝に非ず、夜に非ず、半月に非ず、一月に非ず、一歲に非ず、百歲に非ず、劫成に非ず、劫敗に非ず、時に非ず、時を離れず、而も無量の時に於て、淨法輪を轉じ、或は須臾の時、或は晝の初中後の時に於て、或は夜の初中後の時に於て、或は七日・一月・一歲・百歲、乃至不可思議阿僧祇劫の時に於て、乃至未來際の劫を盡して、一切時の中に、淨法輪を轉じ、未だ曾て暫くも息まず。是は爲一切諸佛の巧妙方便なり。一切の諸佛は、一切の法界は時に非ず時を離れざるを知り、一切諸佛は、無量の無畏を具足し成就し、不可數の辯、不可量の辯、不可盡の辯、不可壞の辯、無邊の辯、不共の辯、無窮盡の辯、眞實の辯、方便して一切の句身味身を分別し演說する辯、一切の法辯を具足し成就して、性に隨ひ、根に隨ひ、行に隨ひて、廣く諸法の不可說不可說億那由他の修多羅を說き、彼の諸の一一の修多羅は初中後善く、究竟じて善く說けり。是は爲一切諸佛の巧妙方便なり。一切の諸佛は正しく法界を覺りて、名無く、性無く、三世の名無く、衆生の名無く、法の名無く、非法の名無く、功德の名無く、非功德の名無く、菩薩の名無く、佛の名無く、數の名無く、非數の名無く、生の名無く、滅の名無く、有名に非ず、無名に非ず、一名に非ず、種種の名に非ず、一切諸法の

自性は言無く。方無く、處無く。音聲を捨離し、言語の道斷え、彼岸を究竟し、虚妄の境界を離れ、無形の法を修し、一切の覺觀虚妄を除滅し、一切世間の語言に著せず、而も能く一切諸法の句身味身を出生す。是は爲一切諸佛の巧妙方便なり。一切の諸佛は、一切の法は不生にして、受者有ること無きを知り、色も不生なり、受想行識も不生なり、一切諸法は皆悉く寂滅にして、入無く界無く、法界は所有無しと知りて、而も亦一切法の相を壞せず、一切諸法は起者有ること無く、悉く虚空の如く、一切法は寂滅にして業報有ること無く、所學無く、成就無く、數無く、非數無く、有に非ず無に非ず、生に非ず滅に非ず、垢に非ず淨に非ず、來無く去無く、亦住有ること無く、衆生無く、衆生無きに非ず、亦教化無く、命無く、命無きに非ず。因緣無く、因緣無きに非ず、緣起無く、緣起無きに非ず、而も善く正定・邪定・不定の衆生を分別して、十力と四無所畏と一切種智とを成就し、大衆の中に於て如來の境界を大師子吼す、是は爲一切諸佛の巧妙方便なり。是を一切諸佛の十種の巧妙方便と爲す。

卷の第三十二

佛不思議法品第二十八の二

佛子よ、一切の諸佛に(一)十種の佛事有り、無量無邊にして思議す可からず、一切の天人は稱量すること能はず、三世一切の聲聞緣覺も說くこと能はざる所なり、佛の神力をば除く。何等をか十と爲す。(二)一切の諸佛は無量無邊の虛空法界に等しき一切世界の兜率天上に於て、菩提の行を修して佛事を作し、無量の妙色・無量の功德、無量の光明、無量の音聲、無量の清淨なる音聲、無量の三昧、無量の智慧の境界をもつて、天・人・魔・梵・沙門・婆羅門・阿修羅等の一切世間を攝取し、大慈の境界、無礙の大悲安樂をもつて衆生を攝取し、或は天に生ぜしめ、或は諸の功德力を長養せしめ、或は諸根を清淨ならしめ、或は其の心を調伏して衆生を攝取し、或は淸淨の諸乘を以て衆生を攝取し、或は滿足せる大乘を以て衆生を攝取し、或は生死を離れて衆生を攝取す。是は爲一切諸佛の第一佛事なり。

(三)一切の諸佛は兜率天より神を母胎に降し、菩薩の行を修して、諸の生有るものは、幻の如く、化

【一】此の十は所現の無量なることを明かす、果現じて量り難く、皆衆生を攝して道に入らしむ、故に佛事と名づく。
【二】初に、兜率天に於ける攝生佛事を敘す。
【三】二に、降神托胎して佛事を作すことを敘す。

の如く、電の如く、夢の如く、虛空の如く、燄の如しと觀じ、一切の諍を離れて眞實の智を修し、欲を離れ清淨にして、大莊嚴藏を具足し、最後の生に於て佛事を作し、妙寶莊嚴の樓閣に安處して、佛事を作す。或は神力を以て佛事を作し、或は正念を以て佛事を作し、或は大自在藏を示現することを以て佛事を作し、或は圓滿なる慧日を以て佛事を作し、或は如來の廣大なる境界を具足するを以て佛事を作し、或は化して無量無邊の世界に滿てる諸佛を以て佛事を作し、或は無量無邊の諸の大三昧に入りて佛事を作し、或は復た彼の諸の三昧より起ちて佛事を作し、或は初發心より佛事を作し、乃至、無餘涅槃して佛事を作す。此の第二地究竟じて一切の世間に示現し、或は初生の時、一切世間にて佛事を作し、或は童子の時、一切世間にて佛事を作し、或は菩薩の時、一切世間にて佛事を作し、或は出家の時、或は成佛の時、或は轉法輪の時、一切世間にて佛事を作し、種種の方便をもつて、一切無餘の世界に於て佛事を作し、一切の方便をもつて佛事を作し、一切の佛刹にて佛事を作し、一切の業報にて佛事を作し、或は一切無餘の衆生に於て佛事を作し、一切の生死の中に於て、正念の法門を變化して佛事を作す。佛子、是は爲一切諸佛の第二の佛事なり。

㈣一切の諸佛は菩薩爲りし時、王宮の中に於て、一切清淨の勝業を成就し、善能く分別して一切の生を知り、衆生に隨順して王宮に現處し、一切の善根を具足せしめんと欲して、而も一切の色に著せ

【四】三に、王宮に於て五欲の境を受くる時の攝生佛事を叙す。

ず、一切の聲を離れ、一切の有は皆悉く寂滅なりと觀じて、甚深の智慧、一切の境界に入り、一切の戒を持して清淨に滿足し。大悲をもつて內の諸の眷屬を觀察し、大慈をもつて衆生の空寂なることを觀察し、大喜をもつて世の樂む可き無きを觀察し。大捨をもつて心に自在を得、意に隨ひて能く轉ずることを觀察して、一切の智を究竟し、諸の妙功德は法身を出生して、法界と等しく、清淨に滿足して而も染著無く、一切の眷屬をして皆悉く清淨ならしめ。廣く能く彼の爲めに應の如く法を說きて、世間を厭はしめ、能く一切世間の音聲を說き、彼の所行に隨ひて果報を示現し、無量なる種種の方便を出生し、其の所應に隨ひて、調伏し敎化し、善根未だ熟せざるものは悉く成熟せしめ、已に成熟せる者は解脫を得しめ、無量の不退の佛事を示現して、廣く種種の法門を說き、無量の衆生をして心に清淨を得しめ、大悲の重雲を興し、普く無量の甘露の法雨を雨らし、大慈平等にして、三輪示現し衆生を敎化す。王宮に處すと雖も而も普く一切の佛事を示現し、一切世界に於て、佛事を示現し、無礙なる諸佛の神通を出生し、三種の巧方便の業を具足し、身口の二業究竟じて清淨に、意業甚深にして究竟じて無礙となり、巧方便を得て衆生を饒益す。佛子、是は爲一切諸佛の第三の佛事なり。

【五】四に、出家の時の攝益を叙す。

(五)佛子よ、一切の諸佛は、世間の珍玩、種種の寶物の、悉く能く人心を眩惑し動轉せしむるものを、菩薩は悉く棄て、家を捨てて出家し、世間に示現して、衆生をして世間に著せざらしめんと欲し、磨

滅して皆悉く常に非ざることを解知せしめ、貪愛を捨離して、清淨の法を行じ、衆生を饒益して、出家の利を得しむ。世閒に示現して、俗服を捨離し、無諍の法を修し、本願を滿足し、無量の功德皆悉く圓滿し、智慧具足して、世の愚癡を除く。衆生に無上の福田を示現す、若し衆生有りて、佛の福田に於て善根を種うる者は、其の人を讃歎し、悉く已に一切の功德を具足し、甚深の智慧をもつて眞實の義を了り、悉く衆生をして清淨の樂を得、永く諸の惡を離れしめ。清淨の法門は廣く衆生の爲めに說き、正法門は生死を超出せしめ、一切智の幢を建立せんと欲するが爲めの故に、家を捨てて出家す。佛子、是は爲一切諸佛の第四の佛事なり。

【六】五に、成道の時の攝益を叙す。

(六) 一切の諸佛は、無量の行を修して、一向に專ら薩婆若を求め、道場に坐して菩提樹下に等正覺を成じ、一切の法に達して、衆魔を壞散し、破壞す可からざる法身の藏は、悉く能く一切の法界に充滿して、一切の相を離れ、究竟じて盡くること無く、無量の法門を具足し成就し、一切智の境界に於て自在に、其の義に隨順して、一切種智の功德を積集し成滿す。一切の寶座を莊嚴して一切の刹に徧く、諸の大菩薩は悉く其の座に處して、菩薩の無上なる衆行を成就し、菩薩の殊勝の大願を具足し、一切の菩薩に常に敬念せられ、諸の菩薩の爲めに深法輪を轉じ、無量の佛の境界は、諸の菩薩を攝取し、諸の菩薩の行を修習し莊嚴し、菩薩衆をして悉く一切世閒の諸佛の境界を清淨ならしむ。一切の衆生をして善根を修習せしめ、破壞す可からざ

る一切の善根は、眞實地に出でて無量の菩薩の行地に安住し、一切の勝妙の功徳を具足せしめ、悉く分別して、一切の世界・一切の衆生・一切の佛刹・一切の諸法・一切の菩薩・一切の成熟・一切の三世・一切の敎化・一切の佛自在覺・一切の衆生性を知りて佛事を作す。佛子、是は爲一切諸佛の第五の佛事なり。

(七)一切の諸佛は妙法輪を轉ず、退轉せざるが故に。無量の法輪あり、一切世閒知るが故に。一切覺の法輪あり、無畏の大師子吼なるが故に。一切の法藏を知る法輪あり、明淨の法門を開示し顯現して、癡闇を滅するが故に。無著の法輪あり、智慧虛空に等しきが故に。無礙の法輪あり、一切の法は有無に非ざることを觀ずるが故に。一切世閒燈の法輪あり、一切衆生の法眼を淨むるが故に。一切智の法輪を示現す、三世一切の世閒に充滿するが故に。一切諸佛同一の法輪あり、一切の佛法相違せざるが故に。是の如き等の無量阿僧祇の法輪を、所應に隨ひて轉じ、佛事を施作すること思議す可からず。佛子、是は爲一切諸佛の第六の佛事なり。

(八)一切の諸佛、若し聚落城邑、大王の都城に入らば、能く衆生の爲めに佛事を施作す。或は人王の都城に入り、或は天王・龍王・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・羅刹・毘舍遮王に入る。是の如き等の一切の諸王の都城に入る時、能く衆生の爲めに佛事を作す。所謂る城門に入る時、一切の大地六種に震動し、光明普く照し、盲者は視ることを得、聾者は聽くことを得、狂者は正しきを

【七】六に、轉法輪の時の攝益を叙す。

【八】七に、王城に入る等の時の攝益を叙す。

得、裸者は衣を得、苦める者は樂を得、一切の樂器は鼓せざるに自ら鳴り、諸の莊嚴具は、自然に微妙の音聲を演出す、是の如き等の物も亦自然に微妙の音聲を出だす。一切の諸佛は色身淸淨にして、見る者厭くこと無く、普く衆生の爲めに佛事を作す。一切の諸佛は相好莊嚴して、普く衆生の爲めに佛事を爲す。一切の諸佛は視瞻安庠にして曾て卒疾ならず、諸方を觀察して威儀を失はず、一切の境界に於て、諸根寂定にして心を攝めて亂れず、直に涅槃に趣き、普く衆生の爲めに佛事を作す。一切の諸佛は四威儀を行じて、普く衆生の爲めに佛事を作す。一切の諸佛は或は說法を以て、或は默然を以て、普く衆生の爲めに佛事を作す。一切の諸佛は或は神足を以て說法し教誡して、普く衆生の爲めに佛事を作す。一切の諸佛は一切世界海の中の種種の衆生海の爲めに、大善根と念佛三昧とを修し、菩薩の行を行じ、諸佛を觀察して厭足有ること無く、或は佛興りたまふには、値遇ひたてまつる可きこと難きを說き、如來を見已らば、無量なる一切の善法を出生し、功德を修習し、諸佛の行を行ぜば、佛世間に出でたまひて、衆生をして淨からしめ、諸佛の無量なる功德を讚歎し、未來の諸佛の種姓を長養し、一切の善根を修して、諸佛を歡喜せしめ、如來の無量なる妙色を解知し、應化する所に隨ひて、普く能く現前し、不可思議の衆生をして、諸佛の刹に於て、如來を見たてまつることを得しむ。一切の諸佛は是の如き等の無量の善根を以て、普く衆生の爲めに佛事を作す。彼の諸の衆生は或は佛を見たてまつりて歡喜する有り、或は禮拜する有り、或は合掌する有り、或は讚歎する有り、或

は佛に請ずる有り、或は施を受くる有り、或は佛の微笑を見たてまつり、或は佛を念ずる有り、或は佛の悦樂したまふを見て、普く衆生の爲めに佛事を作す。一切の諸佛は能く無量種種の色身を以て衆生に示現して佛事を作す。一切の諸佛は妙なる音聲を以て、普く衆生の爲めに佛事を爲す。◎一切の諸佛は是の如き等の無量無數の不可思議なる事を以て、普く衆生の爲めに佛事を作し、一切世界の中の一切の衆生に於て、悉く之を敎化して、退轉せざらしめ、大悲充滿して本願を捨てず、一切智力を具足し成就して、應に化すべき所に隨ひて、悉く調伏せしむ。佛子、是は爲一切諸佛の第七の佛事なり。

（九）一切の諸佛は或は阿練若の處、或は寂靜の處、或は離欲の處に住して佛事を作し、或は佛住に住して佛事を作し、或は大三昧に住して佛事を作し、或は獨處に住して佛事を作し、或は身を現ぜずして佛事を作し、或は深智に住して佛事を作し、或は稱量す可からざる諸佛の境界に住して佛事を作し、或は所應に隨ひて佛事を作す。或は天身の境界を以て佛事を作し、或は龍・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・羅刹・人・非人等の一切の境界を以て佛事を作し、或は聲聞・緣覺・菩薩の境界を以て佛事を作し、或は說法を以て佛事を作し、或は默然を以て佛事を作し、或は世閒に一佛有すことを說きて佛事を作し、或は世に一切の諸佛有すことを說きて佛事を作し、或は一切の菩薩の無量の願、無量の行の一と爲ることを說きて佛事を作し、或は一行一願の無量と爲ることを說きて佛事を作し、或は世閒の境界の如來の境界と爲ることを說き、或は如來の境界

【九】八に、住する處に隨つて攝益することを叙す。

の世間の境界と爲ることを說き、或は非境界の如來の境界と爲ることを說きて佛事を作す。或は一日に住し、或は一夜に住し、或は半月・一月・一歲に住し、乃至無量無數の阿僧祇劫に住して佛事を作す。

佛子、是は爲一切諸佛の第八の佛事なり。

(10) 一切の諸佛は卽ち是れ盡くること無き功德の藏にして、能く衆生をして深信の心を發し、清淨を具足せしめ、其の所應に隨ひて、悉く能く化度し、諸根具足して、衆生を調伏し、悉く歡喜せしむ。一切の衆生を化するに眞實の道を以てし、一切諸の菩薩衆を覺悟し、未だ菩提心を發さざる者は皆發心せしめ、已に發心せる者は智慧を具へ悟るに他に由らざらしむ◎或は涅槃を現じて佛事を作し。或は世間の無常を觀じて佛事を作し。或は法身の清淨なることを讚歎して佛事を作し。或は所作已に辦ぜることを說きて佛事を作し。或は一切の有を壞することを說きて佛事を爲し。或は三有の根本永く盡くることを說きて佛事を作し。或は衆生を敎へて世間を厭離し、佛の心に隨順せしめ。或は衆生の爲めに壽命の短促を說き、或は衆生の爲めに一切世間に樂む可き者無きことを說き。或は衆生の爲めに未來の一切諸佛に値ひたてまつることを說き。或は衆生の爲めに諸の如來妙法輪を轉じたまふことを說く◎或は衆生に佛境界の心を發さしめ、或は時に隨ひて清淨に佛を念じ、如來を見たてまつることを得るを說き。衆苦を滅除し、皆清淨にして專ら佛道を生ぜしめ、一切の世界に於て衆生を攝取し、如來の甚深の境界に入らしめ。如來の身を以

【一〇】九に、無盡の功德藏を以て攝益することを敍す。

て一切身と爲して、衆生を攝取し、放逸の衆生をして悉く三種の淨戒を具足せしむ。佛子、是は爲一切諸佛の第九の佛事なり。

（二）一切諸佛の般涅槃の時に、一切の衆生は悲泣して涙を雨らし、憂惱し愁毒すらく、「嗚呼、痛しい哉、如來應供等正覺は、常に大悲を以て等しく衆生を念ひ、大導師と爲りて一切の衆生を哀愍し饒益し、世間を救護したまひ、天人の歸する所、値遇したてまつる可きこと難し、無上の福田は今に於て永へに滅したまふ」と。諸佛は卽ち此等の衆生の憂苦悲惱して、諸佛を感慕することを以て佛事を作す。◎應に隨ひて彼の一切の天・人・龍神・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽等を化せんが故に、全身を碎抹して舍利を示現し、衆生をして歡喜し供養せしめんと欲す。◎淨き正直心をもつて調伏し敎化して衆生を清淨にし、衆生の功德を滿足ならしめんと欲し、衆生をして如來の塔を起し種種に供養せしめんと欲す。一切の世間・天宮・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・非人の宮に塔を起して供養せしめ、叉爪牙頭髮を以て塔を起して供養せしむ。◎衆生見已りて佛法僧を念じ、恭敬供養の心を發起せしめ、或は布施を行じ、或は功德を修し、功德を具へ已りて、或は天上に生れ、或は人中に生れ、尊貴富樂にして惡趣を除滅し、直に正道に向ひ、諸佛を見たてまつることを得、白淨の法を具へ、正道を成就して三界を超出し、彼の願ふ所に隨ひて、皆悉く滿足せしめ、常に如來を念じて、恩を知り恩に報い、諸の如來常に衆生

【二】十に、涅槃を示す時の攝生を敍す。

の爲めに救護と作るを以て、如來に歸依したてまつり、復た涅槃に入ると雖も、猶ほ衆生の爲めに無上の福田、無盡の福田と作りて、一切の衆生をして善根を長養し、一切の功德を具足し成就せしむ。佛子、是は爲一切諸佛の第十の佛事なり。

佛子よ、是の十種の佛事は無量無邊にして思議す可からず、一切の天人能く知る者莫く、三世一切の聲聞緣覺も說くこと能はざる所なり。佛の神力をば除く。

佛子よ、一切諸佛に十種の【二】法王無異の法有り。何等をか十と爲す。一切の諸佛は記を與へ授くる者には、言に異り有ること無し。一切の諸佛は、若し衆生有りて念佛を修する者には、意を滿せしめて悉く異り有ること無し。一切の諸佛は皆異身無く、諸法の義を覺りて、悉く異り有ること無し。一切の諸佛は三世の如來の智慧に於て異ること無し。一切の諸佛は念念に普く三世の諸法を知りて、悉く異り有ること無し。一切の諸佛は三世の佛刹を了知し分別して、悉く異り有ること無し。一切諸佛の一切の佛語は、悉く異り有ること無し。一切諸佛は衆生を敎化するに、悉く異り有ること無し。一切の諸佛は一切世間の法と佛法との異ること無きを解り。三世諸佛の一切の善根は同一の善根にして、悉く異り有ること無し。佛子、是を一切諸佛の十種の法王無異の法と爲す。

佛子よ、一切の諸佛に【三】十種の住に向ふ法有り。何等をか十と爲す。一切諸佛は、悉く覺一切法界

【二】此の十は果位の齊均なることを明かす。

【三】此の十は智の妙境に向ふことを明かす。

に住す。一切諸佛は悉く大悲に住す。一切諸佛は悉く本願に住す。一切諸佛は悉く不捨教化衆生に住す。一切諸佛は悉く無所依の法に住す。一切諸佛は悉く無虚妄の法に住す。一切諸佛は悉く念に失無き法に住す。一切諸佛は悉く無障礙の心に住す。一切諸佛は悉く定心に住して未だ曾て散亂せず。一切諸佛は悉く一切諸法の平等不壞の實際に住す。佛子、是を一切諸佛の十種の住に向ふ法と爲す。

佛子よ、一切の諸佛は〔一四〕十種の法を知りて悉く餘り有ること無し。何等をか十と爲す。一切の諸佛は過去の一切の法界を知りて、悉く餘り有ること無し。一切の諸佛は未來の一切の法界を知りて、悉く餘り有ること無し。一切の諸佛は現在の一切の法界を知りて、悉く餘り有ること無し。一切の諸佛は一切の語言の道を知りて、悉く餘り有ること無し。一切の諸佛は一切世間の成壞を知りて、悉く餘り有ること無し。一切の諸佛は一切の衆生と及び其の智慧とを知りて、悉く餘り有ること無し。一切の諸佛は一切菩薩の善根の上中下の相を知りて、悉く餘り有ること無し。一切の諸佛は一切の佛の滿足せる智慧を知りて、悉く餘り有ること無し。一切の諸佛は一切の法は皆緣より起ることを知りて、悉く餘り有ること無し。一切の諸佛は一切の世界を分別し了知して、悉く餘り有ること無し。一切の諸佛は智慧をもつて一切法界の因陀羅網の如きを分別して、悉く餘り有ること無し。佛子、是を一切諸佛十種の法を知りて悉く餘り有ること無しと爲す。

〔一五〕佛子よ、一切諸佛に十種の最勝力有り。大力・無量力・大功德力・尊重

〔一四〕此の十は大智無限にして照境遺餘なきことを明かす。

〔一五〕八、次には前の第八佛神力の問に答ふ。中に於て一百

力・不退轉力・堅固力・不可壞力・一切世間の思議すること能はざる力、一切衆生の壞すること能はざる力・大力なり。

佛子よ、諸佛世尊に十種の大力那羅延幢佛の住する所の法有り。(二六)何等をか十と爲す。一切の佛身は擧世の災橫も壞すること能はざる所、諸佛の命根は世間の諸毒も害すること能はざる所、一切世界の火劫起る時にも燒熱すること能はず、水劫の起る時にも浸溺すること能はず、風劫の起る時にも散壞すること能はず。一切の魔軍・天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・羅刹・毗舍遮・人・非人等の一切衆生、悉く金剛を雨らすこと須彌山・金剛圍山の如く、三千大千世界の爾の所に等しき雨を佛の上に雨らすとも、佛をして怖畏の心を生ぜしむること能はず。一毛だも竪てず、行住坐臥、威儀改まらず。諸の如來の所住の方面に隨ひて、金剛の雨滴、終に下ることを得ず、雨らさんと欲するも雨らずして、如來の意に隨ふ。佛の住持する所の衆生、及び佛の使命をも尙害す可からず。何に況んや如來をや。佛子、是は爲一切諸佛の第一の大力那羅延幢佛所住の法なり。

佛子よ、(二七)一切の諸佛は一切の法界に等しき世界の中の須彌山王・金剛圍山・大金剛圍山・一切の大海・一切の諸山、及び一切の衆生を、一毛孔に於て、悉く能く容持し、未來際劫を盡すとも、一切の衆生は、悉く自ら我何の所に住するやを知らず。佛の神力をば除く。一毛に悉く一切の衆生を持して

門あり、初めに十門を列す、是れ總標なり、後別釋には一一の總門に十の別門を具し、一一の別門に十の總門を攝す故に百門を成す。

【二六】初めに身命無損力を說いて、最勝の大力を釋す。

【二七】毛孔容持力を說いて、無量力を釋す。

偏く十方無量の世界に遊び、行住坐臥するも、而も諸の如來は苦惱厭倦の心を生ぜず、威儀異ること無し。佛子よ、譬へば虛空の一切法界に等しき世界を容持して、苦惱厭倦の心を生ぜざるが如し。一切諸佛も亦復た是の如く、一毛孔に於て無餘の世界の一切衆生を容持して、苦惱厭倦の心を生ぜず。佛子よ、是は爲一切諸佛の第二の大力那羅延幢佛所住の法なり。

佛子よ、(一八)一切の諸佛は、一步に能く不可說不可說の世界微塵等の佛刹を過ぎ、一念の中に於て、能く不可說不可說の世界微塵等の步を行く。是の如きの步を以て、一切の世界微塵等の劫を經、念念の中に於て能く一切の世界微塵等の劫を經ん。一金剛圍山は、上の諸劫に經し所の世界微塵の佛刹と等し、是の如き等の不可說不可說の世界微塵數の諸の金剛圍山を一毛孔に內る。一切の毛孔も亦復た是の如し。如來の毛孔は悉く一切衆生の毛孔の數と等し。是の如きの毛孔を以て、是の如く遠く步み、是の如く速疾に、十方一切の世界、一切の虛空界を遊行し、過去未來際の一切の諸劫を盡す。是の如きの諸劫は猶ほ窮盡す可くとも、而も諸の如來身は贏弊すること無く、心退沒せず。三昧と一切の佛事とを捨てず。佛子、是は爲一切諸佛の第三の大力那羅延幢佛所住の法なり。

佛子よ、(一九)一切の諸佛は一坐に食し已りて、結跏趺坐し、過去未來際の不可說不可說の一切劫を盡して身傾動せず。不可思議なる佛住に住して、寂滅の樂を受け、乃至一りの衆生をも化することを失

【一八】毛持圍山遠步力を說いて大功德力を釋す。
【一九】定用自在力を說いて、尊重力を釋す。

はず。一切の世界及び一切の衆生を以て、如來の一指端の上に安置して、未來際劫を盡す。彼の一一の衆生は其の身悉く不可說不可說の佛刹微塵等の世界の如く、彼の一一の衆生は其の身重きこと一切の世界の如く、而も諸の如來は身に疲倦無く、心に苦惱無し。一指端の如く一切の指端も亦復た是の如し。一一の世界に入り、虛空界に入り、一切の方網に入る。是の如き一切の處、虛空界は、悉く餘り有ること無く、法界を究竟し、一毛端を以て一切の世界を量り、一一の毛端の處に結跏趺坐して、過去未來際の劫を盡す。佛子、是は爲一切諸佛の第四の大力那羅延幢佛所住の法なり。

佛子よ、(一〇)一切の諸佛は一身に於て、不可說不可說の佛刹微塵等の頭を化し、一一の頭は不可說不可說の佛刹微塵等の舌を化し、一一の舌は、不可說不可說の佛刹微塵等の音聲を出だし、一切の法界の衆生は聞かざる者無し。一一の音聲は、不可說不可說の佛刹微塵等の修多羅を說き、一一の修多羅は、不可說不可說の佛刹微塵等の法を說き、一一の法の中に、不可說不可說の佛刹微塵等の句身味身を說く。是の如く法を說きて、乃至不可說不可說の佛刹微塵等の劫を盡す。復た不可說不可說の佛刹微塵等の劫に、異れる句身味身を說きて、一切世界微塵等の劫、一切の衆生の念に等しき劫を盡し、未來際の一切の劫を盡す。此の諸の劫數は、猶ほ盡すことを得可くとも、如來の化身の說法は一切の法を轉ずること、猶ほ火輪の如く、自在の智慧をもつて一切の法を說く、正法輪を轉じて、一切衆生の疑惑を除滅し、正法輪を轉じて一切の法を

【一〇】普通の常轉法輪力を說いて不退轉力を釋す。

照し、正法輪を轉じて皆悉く一切の法藏を開發し、正法輪を轉じて一切の衆生を歡喜し調伏し莊嚴し、正法輪を轉じて諸の菩薩の莊嚴法行を說き、正法輪を轉じて、大乘の智日をして圓滿莊嚴ならしめ、正法輪を轉じて一切無餘の衆生をして、大乘の智を以て自ら莊嚴せしめ、正法輪を轉じて一切の諸辯無畏をもつて自ら莊嚴せしむ。一如來の一化身、是の如き等の譬喩す可からざる法輪雲を轉ずるが如く、一切の法界虛空等の世界を、悉く毛端を以て周徧して度量し、一一の毛端の處に、念念の中に於て不可說不可說の佛刹微塵等の身を化し、乃至未來際劫を盡して、一一の化佛の身に、不可說不可說の佛刹微塵等の頭有り、一一の頭に、不可說不可說の佛刹微塵等の舌有り、一一の舌より、不可說不可說の佛刹微塵等の音聲を出だし、一一の音聲は不可說不可說の佛刹微塵等の修多羅を說き、一一の修多羅は、不可說不可說の佛刹微塵等の法を說き、一一の法の中に、不可說不可說の佛刹微塵等の句身味身を說く。復た不可說不可說の佛刹微塵等の劫に、異れる句身味身を說き、音聲法界に充滿して、一切の衆生聞かざる者無し。一切未來際の劫を盡して、常に法輪を轉じ、如來の音聲異ること無く、斷ゆること無く、窮盡す可からず。佛子、是は爲一切諸佛の第五の大力那羅延幢佛所住の法なり。

佛子よ、(三二)一切諸佛は勝妙の大莊嚴を成就して、胷の(三三)德字の相は、猶は金剛の如く破壞す可か

【三二】德字の相の降魔力を說いて堅固力を釋す。

【三三】德字とは卍なり、吉祥萬德の相なるが故に德字又は萬字と稱す。

らず。如來、彼の菩提樹下に坐したまふに、無量の魔王の軍衆有り、悉く一切の衆生數と等しく、雜惡なる形色は、甚だ怖畏す可く、衆生の見る者、能く狂亂を發し、悉く能く一切世間を恐怖せしむ。是の如き等の衆、虛空法界に等しき一切の世界に充滿し、雜惡なる形色は甚だ怖畏す可く、能く狂亂を發し、能く一切の衆生をして怖畏せしめ、能く一切の世間を壞し、能く一切の衆生を害す。如來見已りたまひて、心に恐怖無く、一毛だも竪てず、顏に異容無く、乃至一念微畏の相を生ぜず、心安くして動ぜず、形色異ること無く、覺觀を遠離し、心常に寂靜にして、究竟じて一切の恐怖を遠離し、一切愛恚の煩惱を除滅して、佛住に安住し、無礙の大慈の力を具足し、大悲の住に住し、諸根寂靜にして永く恐怖を離れ、胸の德字の相は破壞す可からず、堅固眞實にして、一切の諸魔と、魔天の眷屬とは如來を見已りて、皆悉く歸依したてまつり、如來は彼の三輪に於て敎化し、皆調伏して菩提心を發し、悉く退轉せざらしめ、乃至無上菩提を得しむ。佛子、是は爲一切諸佛の第六の大力那羅延幢佛所住の法なり。

佛子よ、(三三)一切諸佛は無障礙の微妙なる音聲を出だし、皆悉く一切の世界に充滿し、所應に隨ひて度したまひ、聞かざる者無し。彼の諸の如來の出だしたまふ所の音聲は、一切の衆山も障ふること能はざる所、須彌山王・寶山・小金剛圍山・大金剛圍山も障ふること能はざる所、天宮・龍宮・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・非人等の一切の宮殿も障ふること能はざる所、一切世界の廣

【三三】音聲通徹力を說いて、不可壞力を釋す。

大なる音聲も亦障ふること能はず。其の所應に隨ひて皆悉く之を聞きて障礙する所無し。佛子、是は爲一切諸佛の第七の大力那羅延幢佛所住の法なり。

佛子よ、（四）一切の諸佛は、心に障礙無く、不可說不可說の億那由他劫に於て、心常に淸淨に、三世の諸佛も、離垢淸淨にして、同一に莊嚴し、我我所を離れ、一切の法に於ても、亦所依無く、内に非ず外に非ず。生に非ず不生に非ず、一切の境界を離れ、寂滅にして處無く、造作する所無く、種種の相を離れ、一切の虛妄なる取相を除滅し、自然に淸淨にして諸の境界を離れ、憶念する所無く、境界無諍の法に隨順し、離欲淸淨にして眞實際に住し、法界の際を說き、法界平等にして盡くること有ること無し。一切の衆生能く知る者無く、永く一切の有爲無爲を離れ、一切言語道の境界を捨離し、無礙無盡の法界を究竟す。◎智慧に隨ひて、十力を轉じ、莊嚴して一切の法を淨め、巧方便を行じて種種の法相を說く、卽ち一法の相と一切法の相と相違背せず、三世を壞せず、一切の法界に於て、究竟自在にして彼岸に到り、甚深なる自在の法藏を具足し、一切の方便は癡を離れて正念し、十方一切の佛刹に安住して、動轉すること無く、不死の智を具へ、一切の漏を盡し、諸法を究竟じて無漏を證し、心慧解脫して、實際を究竟し、無礙の住に住して常に定まりて亂るること無く、三世の法に於て障礙有ること無く、一念の中に於て、悉く三世一切の衆生の心心の所行を了る。佛子、是は爲一切諸佛の第八の大力那羅延

【四】證理現事の無礙力を說いて、一切世間不能思議力を釋す。

明を放ちて、無量なる佛法の大海を演說し、一切の諸佛の刹海を莊嚴す。如來に大人の相有り、覺佛種姓雲と名け、瑠璃華、金の寶蓮華に於て、無量の寶正法光明雲を放ちて、一切如來の光明を嚴淨し、普く一切の清淨法界を現じ、衆寶の光明は無壞解脫にして、徧く甚深なる諸の法界海に入り、普く無量の自在力海を現ず。如來に大人の相有り、無量寶光明輪と名け、過去の清淨なる善根を示現し、清淨の智日を出生して、普く十方の智慧法界を照す。如來に大人の相有り、普照自在雲と名け、如來の頂の寶妙の解脫華、瑠璃の光明は、普く一切の法界海の佛を照し、悉く一切の諸佛刹海を現じ、如來の智慧を具足し圓滿す。如來に大人の相有り、入一切普照光明と名け、如來の寶相は清淨に莊嚴し、普く一切無量無邊の如來と、菩薩の妙智慧藏と、一切の法界とを照す。如來に大人の相有り、明淨雲と名け、寶華、瑠璃の月は、無量百千の光明を放ち、普く一切の法界、虛空界、一切の佛刹を照し、普く十方の一切如來を現ず。如來に大人の相有り、覺光明雲と名け、一切寶の光明は普く一切の法界を照し、諸佛は淨法輪を轉じて、悉く如來の妙光明雲を放ち、普く一切の十方世界を照す。如來に大人の相有り、普現一切莊嚴雲と名け、無量の寶光明は一念の中に於て、一切の法界に、普く一切の菩薩の道場の菩提樹下に坐して、等正覺を成ずることを現じ、又能く普く一切の諸佛を現ず。如來に大人の相有り、法界因雲と名け、如意妙寶をもつて莊嚴し、見るに厭き足ること無く、大寶光明網を放ちて、普く一切衆生の諸の業報海を現ず。如來に大人の相有り、名けて普照淨法輪雲と曰ひ、能

く如來の正法を清淨ならしめ、普く照して一切の佛刹を莊嚴し、深く一切不思議の法海を解り、普く過去未來現在の諸佛の法界を照し、無量の如來の化身を出生す。如來に大人の相有り、普照諸佛海雲と名け、十方の一切世界海の中に、悉く障礙を離れ、普く一切の如來海雲を現ず。如來に大人の相有り、淨燈雲と名け、方便をもつて深く一切の衆生、一切の菩薩、一切の如來の不可思議なる法界海雲に入り、普く一切の法界覺雲を照す。如來に大人の相有り、分別法界雲と名け、如來の智慧は、廣く佛地と、一切の菩薩衆と、無量の法海と無量の佛刹とを照し、一切の衆生をして佛の境界に入り、普賢菩薩の願行と、佛の平等智と、一切の諸明とを具足せしむ。如來に大人の相有り、一切世界海安住普照雲と名け、一切の法界虛空界の寶光明雲は、見るに厭き足ること無く、普く道場の一切の菩薩と、諸の如來身とを現じ、無量の普功德雲を出生す。如來に大人の相有り、一切寶光燄雲と名け、佛の眉間の相の中に於て無量の淨寶光明を出生し、普く一切十方世界を照し、淨く一切の諸佛菩薩の行を照し、法王の光明は普く法界を照し、悉く能く一切の光明を長養し、一切の法界の光明をもつて莊嚴し、普く一切諸の菩薩海を照し、如來の力雲は、普く一切十方の佛刹を照す。如來に大人の相有り、一切法界莊嚴雲と名け、如來の頂相は隨次に漸く起り、閻浮檀金の衆寶をもつて莊嚴し、種種の金色の光明を放ち、念念の中に於て、普く一切世界の諸佛を現じ、悉く能く普く一切の佛刹を照し、一切の菩薩の諸の功德藏を莊嚴す。如來の頂相は悉く能く三十二相を莊嚴し、又能く一切の法界を莊嚴す。

の無邊なる、世界の無邊なる、法界の無邊なる、三世の無邊なる、一切諸佛の自在の無邊なる、是の如き等のことを覺りて障礙有ること無し。諸佛の智慧、諸佛の自在は、無量無邊の諸佛の所住を轉じて、無礙の住、無礙心の住に住し、大悲住に住して、廣く深法を說きて衆生を教化し、心に休息無し。是は爲一切諸佛の第十の大力那羅延幢佛所住の住なり。

佛子よ、是を一切諸佛の十種の大力那羅延幢佛所住の法と爲す。無量無邊にして思議す可からず。三世の一切衆生・聲聞・緣覺は皆知ること能はず、佛の神力をば除く。

(二七)佛子よ、一切の諸佛に十種の(二八)定法有り。何等をか十と爲す。一切の諸佛は定んで兜率天に於て其の壽命を盡す。一切の諸佛は定んで胎に處する、十月に滿ちて生ることを示現す。一切の諸佛は定んで宮館を捨て、樂ひて出家を行ず。一切の諸佛は定んで菩提樹下に坐して一切の法を覺る。一切の諸佛は定んで一念の中に一切の佛法を覺り、一切の世界に於て、普く如來の神力自在なることを現ず。一切の諸佛は定んで時に隨ひて敎化し正法輪を轉ず。一切の諸佛は定んで時に隨ひて諸の善根を種ゑ、彼の爲めに記を授くることを知る。一切の諸佛は定んで應時に隨ひて佛事を失はず。一切の諸佛は定んで菩薩の功德具足せることを知りて爲めに記を授く。一切の諸佛は定んで衆生の一切の問難に隨ひて、一念の中に於て悉く能善く答ふ。佛子、是を一切諸佛の十種の定法と爲す。

【二七】次の三門は前の第五法身の問を答ふ。
【二八】初門は身業の指定を明かす、化身の八相は諸佛決定して等しく有する所なるが故に定法と云ふ。

佛子よ、一切の諸佛に十種の法有り、若し衆生有りて如來を見たてまつらん者は、皆悉く疾かに十種の果報を得ん。(二九)何等をか十と爲す。若し衆生有りて如來を見たてまつらん者は、疾かに一切の惡道を遠離することを得ん。若し衆生有りて如來を見たてまつらん者は、疾かに一切の善根を長養することを得ん。若し衆生有りて如來を見たてまつらん者は、疾かに一切の善根を滿足することを得ん。若し衆生有りて如來を見たてまつらん者は、疾かに淨妙なる天上に往生することを得ん。若し衆生有りて如來を見たてまつらん者は、速かに一切の疑惑を除滅することを得ん。若し衆生有りて如來を見たてまつらん者は、已に菩提心を發せる者は疾かに不退轉を得、未だ發心せざる者は速かに阿耨多羅三藐三菩提の心を發さん。若し衆生有りて如來を見たてまつらん者は、未だ離生聖道を得て有見を除滅せざるものは、速かに正しく離生聖道を取らしめ。若し衆生有りて如來を見たてまつらん者は、速かに世間離世間の一切の諸根を清淨ならしめん。若し衆生有りて如來を見たてまつらん者は、疾かに一切の障礙を除滅することを得ん。若し衆生有りて如來を見たてまつる者は、疾かに無畏不斷の辯才を得ん佛子、是を一切諸佛を衆生の見たてまつる者は、皆悉く疾かに十種の果報を得と爲す。

佛子よ、一切の諸佛に十種の清淨法の、一切菩薩の應に常に正念すべき有り。(三〇)何等をか十と爲す。一切諸佛の過去の方便を、一切の菩薩は應に常に正念すべし。一切諸佛の清淨の妙行を、一切の

【二九】見佛の益を明かす。
【三〇】觀の勝徳を勸むることを顯はす。卽ち因を念じては倣學し、果を念じては善を增さしむるなり。

菩薩は應に常に正念すべし。一切諸佛の波羅蜜を滿足せることを、一切の菩薩は應に常に正念すべし。一切諸佛の大願を滿足せることを、一切の菩薩は應に常に正念すべし。一切諸佛の功德の積聚を、一切の菩薩は應に常に正念すべし。一切諸佛の過去の梵行を、一切の菩薩は應に常に正念すべし。一切諸佛の等正覺を成せしことを、一切の菩薩は應に常に正念すべし。一切諸佛の色身の無量無邊なることを、一切の菩薩は應に常に正念すべし。一切諸佛の無量無邊なる神力の境界を、一切の菩薩は應に常に正念すべし。一切諸佛の十力無畏を、一切の菩薩は應に常に正念すべし。佛子、是を一切諸佛の十種の淸淨法と爲す。一切の菩薩は應に常に正念すべし。

〔三一〕佛子よ、一切の諸佛に十種の一切智住有り。〔三二〕何等をか十と爲す。

一切の諸佛は一念の中に於て、悉く一切法界の三世の一切衆生の心心の所行を知る。一切の諸佛は一念の中に於て、悉く善く三世の一切衆生の種種の業報を分別す。一切諸佛は一念の中に於て、一切衆生の應に度す可き所の者に隨ひ、或は神足を以て、或は敎誡を以て、或は說法を以て之を敎化す。一切の諸佛は一念の中に於て、悉く能善く一切法界の十方の衆生の諸心の心相を取り。一切の世間に如來の出世を示現す。一切の諸佛は一念の中に於て、一切法界の中の一切衆生の、希望欲性の、應に化度すべき所に隨ひて、如來を見たてまつらしむ。一切の諸佛は一念の中に於て、一切法界の中の一切衆生

【三一】十、次の三門は前の第十無礙解脫の問に答ふ。

【三二】初門は後得智の業用を明かす。

に、如來の住持の神力自在なることを示現す。一切の諸佛は一切法界の中の一切衆生の爲めに、一切の佛の諸の熾然を離れたることを說き、其の所應に隨ひて衆生を化度す。一切諸佛は一念の中に於て、一切至處の道を以て、悉く一切法界の中の一切衆生の彼彼の諸趣を知る。一切諸佛は一念の中に於て、一切法界の中の一切の方處の、一切の衆生にして如來を念ずる者には、悉く見ることを得しむ。一切諸佛は一念の中に於て一切法界の中の衆生の、心の樂ふ所に隨ひて、如來の形色を悉く見たてまつることを得しむ。佛子、是を一切諸佛の十種の一切智住と爲す。

佛子よ、一切諸佛に十種の無量不可思議なる三昧有り。〔三〕何等をか十と爲す。一切の諸佛は、一切法に於て常に定まりて亂れず、一念の中に於て一切衆生の爲めに一切の法を說く。一切の諸佛は一切法界の一切衆生に於て、常に定まりて亂れず、一念の中に於て悉く衆生の爲めに、無我の實際を分別し演說す。一切の諸佛は一切法界の三世の諸法に於て、常に定まりて亂れず、一念の中に於て億の三昧に入る。一切の諸佛は一切法界の十方の佛剎に於て、常に定まりて亂れず、一念の中に於て悉く徧く一切の佛剎に遊行す。一切諸佛は一切法界に於て普く無量無邊の佛の種種の身を現じ、常に定まりて亂れず、一念の中に於て一切の世界に徧く現ぜざること無し。一切諸佛の身口意の業は一切の法界に充滿して、常に定まりて亂れず、一念の中に於て一切衆生の心藏の欲性を分別し演說す。一切諸佛は一切法界の一切の法性に於て、常に定まりて

【三】此の十は妙定の自在を明かす。

亂れず、一念の中に於て悉く能く離欲の實際を究竟す。一切諸佛は一切法界の一切世界の緣起に於て、常に定まりて亂れず、一念の中に於て一切の因緣を分別し演說す。一切諸佛は一切法界の一切の世間と離世間との法に於て、常に定まりて亂れず、一念の中に於て無量に莊嚴し、一切衆生の爲めに普く諸佛を現じて窮盡有ること無し。一切諸佛は一切の衆生と一切の法界とに於て、正受して礙ふること無く、常に定まりて亂れず、一念の中に於て諸佛の趣に至り、無量の解脫彼岸を究竟す。佛子、是を一切諸佛の十種の無量無邊の不可思議三昧と爲す。

佛子よ、一切の諸佛に十種の（二四）無礙の解脫有り。何等をか十と爲す。一切の諸佛は一微塵の中に於て、悉く能く普く不可說不可說の諸佛の出世を現ず。一切の諸佛は一微塵の中に於て、悉く能く普く不可說不可說の諸佛の淨法輪を轉ずることを現ず。一切の諸佛は一微塵の中に於て、不可說不可說の衆生を敎化し調伏す。一切の諸佛は一微塵の中に於て、普く不可說不可說の佛刹を現ず。一切の諸佛は一微塵の中に於て、不可說不可說の菩薩に記を授く。一切の諸佛は一微塵の中に於て、普く三世諸佛の出世を現ず。一切の諸佛は一微塵の中に於て、普く三世一切の佛刹を現ず。一切の諸佛は一微塵の中に於て、普く三世の諸佛の自在神力を現ず。一切の諸佛は一微塵の中に於て、普く三世の一切衆生を現ず。一切の諸佛は一微塵の中に於て、普く三世一切の諸佛の佛事を現ず。佛子、是を一切諸佛の十種の無礙の解脫と爲す。（二）

【二四】此の十は正しく無礙の解脫を明かす。障礙既に盡きて作用自在なるを無礙解脫と名づく。

卷の第三十三

如來相海品第二十九

爾の時に普賢菩薩摩訶薩、諸の菩薩に告げて言はく、

『佛子よ、諦聽し諦聽して、善く之を思念せよ。當に汝が爲めに如來の相海を說くべし。

(一)如來の頂上に大人の相有り、名けて(二)明淨と曰ひ、三十二の寶を以て莊嚴と爲し、普く無量の大光明網を放ち、偏く一切の十方世界を照す。如來の頂上に大人の相有り、名けて普照佛方便海と曰ひ、圓滿なる雜寶を以て莊嚴と爲し、種種の摩尼寶王にて莊嚴し、金剛光明世界の起す所にして、普く一切法界を照す。如來の頂上に大人の相有り、充滿法界雲と名け、妙寶の光明は、普く一切の法界、一切の世界、如來の功德智慧、十方の世界海雲と、菩薩の功德海雲とを照す。如來の頂上に大人の相有り、名けて普照と曰ひ、悉く不可思議なる諸佛世界の金剛摩尼の妙寶の光明を現じ、觀るに厭足無く、衆寶華聚の如く、奮迅して普く一切法界の佛の寶光明を放つ。如來の頂上に大人の

【一】略して九十四相を說き、所依の十九處を明かす。初に頂相に三十相を擧ぐ、一一の釋相に四義あり、一に相の名を擧げ、二に相の體莊嚴を顯はし、三に相光の業用を明かし、四に業用の成益を辨ず、但し中には四義具備せざるもあり、文に依て知るべし。

【二】明淨とは光明遍照の義なり。

相有り、瑠璃寶と名け、普く一切法界の大自在雲を照す、摩尼寶王の相をもつて種種に莊嚴し、普く一切の十方世界を照す、過去の時に佛の功德を歎ぜし因緣の起す所にして、悉く如來の大寶光雲を放ち、普く菩薩の道場樹に於て結跏趺坐するを照し、普く菩薩の自在神力を現じ、如來の力を覺り、普く一切十方の佛刹を照して六種に震動し、大法界の虛空の中に於て、普く無量自在の一切智雲を現ず。如來の頂上に大人の相有り、名けて平等なる如來の音聲燈雲離垢寶海と曰ひ、諸の光明を放ちて、普く一切の法界。十方の世界。菩薩の功德海を照し、三世の佛の智幢海を安立す。如來の頂上に大人の相有り、佛光廣雲と名け、㊂伊那羅寶、如意王寶、摩尼王寶を以て莊嚴と爲し、普く一切世界の法界の菩薩を照し光燄燈雲は、普く一切如來の好色音聲海、及び世界海、淨佛力海を照す。

㊃如來に大人の相有り、圓滿光明雲と名け、種種の寶華をもつて莊嚴す、瑠璃摩尼寶王の光明は、法身及び諸の菩薩を讚歎し、一切十方の世界海の中に如來地を歎じて、一切の衆生をして如來の諸力の境界に趣向せしめ、普く無量無邊なる如來の淨地を現じ、離垢清淨にして大光明を放ち、普く一切諸佛の世界を照す。如來に大人の相有り、菩薩の行藏光明雲と名け、無量の世界の中の如來は、無量種種の色寶の光明を放ちて、普く一切法界の佛刹を照し、無量なる如來の妙音を出生して、皆悉く如來の甚深なる大法を分別し演說す。如來

【三】伊那羅。唐經には因陀羅寶と云ふ、具さに因陀羅尼羅(Indranīla)と云ひ、帝釋の青珠と譯す。

【四】以上の七は頂相を明かし、以下廿五種有りて頂相を莊嚴す。

に大人の相有り、普照雲と名け、瑠璃、伊陀羅金剛寶、無量の色、清淨の摩尼寶をもつて莊嚴し、瑠璃色の光明を放ちて、皆悉く徧く一切諸海を照し、佛の無量なる微妙の音聲を出して、一切の十方世界に充滿し、普く一切の佛の智慧海と無量の化身とを現ず。如來に大人の相有り。名けて覺雲と曰ひ、佛の頂の右面は、雜寶華燄を以て莊嚴し、一切の世界に於て道場を莊嚴し、一切の法界の世界を清淨にし、一切の虛妄をして皆悉く解脫して、淨法界を覺らしむ。如來に大人の相有り、光明雲と名け、心海王如意法の寶を以て莊嚴す。如來の頂相は普く十方世界の、諸菩薩雲を照し、最上の智身法身を長養し、一切如來の相海を行じ、一切菩薩の法界雲を滿足す。如來に大人の相有り、一切莊嚴雲と名け、金剛瑠璃の華、普く照して、一切法界海の世界を莊嚴し、衆寶の蓮華を以て莊嚴と爲し、皆悉く一切法界に充滿し、(五)四種の菩薩の行を、自在に師子吼して、一切の法界海に充滿す。如來に大人の相有り、佛三昧海行雲と名け、一切の法界海を莊嚴し、念念の中に於て、普く無量なる如來の莊嚴を現じ、一切の不可思議なる法界の世界に充滿す。如來に大人の相有り、化海普照雲と名け、妙寶の蓮華は須彌山王の如く、無量寶の光明海を出生す、佛意の起す所、盧舍那の化する所にして、無量なる一切の化海を出生す。如來に大人の相有り、一切如來解脫雲と名け、離垢の勝寶を以て莊嚴と爲し、普く照して一切如來の師子座を莊嚴す、其の座の內に於て、悉く一切如來の色像を現じ、大寶光

【五】菩薩の行に略して四種あり、一は波羅蜜の行、二は菩提分法の行、三は神通の行、四は成熟有情の行なり。

明を放ちて、無量なる佛法の大海を演說し、一切の諸佛の刹海を莊嚴す。如來に大人の相有り、覺佛種姓雲と名け、瑠璃華、金の寶蓮華に於て、無量の寶正法光明雲を放ちて、一切如來の光明を嚴淨し、普く一切の淸淨法界を現じ、衆寶の光明は無壞解脫にして、徧く甚深なる諸の法界海に入り、普く無量の自在力海を現ず。如來に大人の相有り、無量寶光明輪と名け、過去の淸淨なる善根を示現し、淸淨の智日を出生して、普く十方の智慧法界を照す。如來に大人の相有り、普照自在雲と名け、如來の頂の寶妙の解脫華、瑠璃の光明は、普く一切の法界海の佛を照し、悉く一切の諸佛刹海を現じ、如來の智慧を具足し圓滿す。如來に大人の相有り、入一切普照光明と名け、如來の寶相は淸淨に莊嚴し、普く一切無量無邊の如來と、菩薩の妙智慧藏と、一切の法界とを照す。如來に大人の相有り、明淨雲と名け、寶華、瑠璃の月は、無量百千の光明を放ち、普く一切の法界、虛空界、一切の佛刹を照し、普く十方の一切如來を現ず。如來に大人の相有り、覺光明雲と名け、一切寶の光明は普く一切の法界を照し、諸佛は淨法輪を轉じて、悉く如來の妙光明雲を放ち、普く一切の十方世界を照す。如來に大人の相有り、普現一切莊嚴雲と名け、無量の寶光明は一念の中に於て、一切の法界に、普く一切の菩薩の道場の菩提樹下に坐して、等正覺を成ずることを現じ、又能く普く一切の諸佛を現ず。如來に大人の相有り、法界因雲と名け、如意妙寶をもつて莊嚴し、見るに厭き足ること無く、大寶光明網を放ちて、普く一切衆生の諸の業報海を現ず。如來に大人の相有り、名けて普照淨法輪雲と曰ひ、能

く如來の正法を清淨ならしめ、普く照して一切の佛刹を莊嚴し、深く一切不思議の法海を解り、普く過去未來現在の諸佛の法界を照し、無量の如來の化身を出生す。如來に大人の相有り、普照諸佛海雲と名け、十方の一切世界海の中に、悉く障礙を離れ、普く一切の如來海雲を現ず。如來に大人の相有り、淨燈雲と名け、方便をもつて深く一切の衆生、一切の菩薩、一切の如來の不可思議なる法界海雲に入り、普く一切の法界覺雲を照す。如來に大人の相有り、分別法界雲と名け、如來の智慧は、廣く佛地と、一切の菩薩衆と、無量の法海と無量の佛刹とを照し、一切の衆生をして佛の境界に入り、普賢菩薩の願行と、佛の平等智と、一切の諸明とを具足せしむ。如來に大人の相有り、一切世界海安住普照雲と名け、一切の法界虛空界の寶光明雲は、見るに厭き足ること無く、普く道場の一切の菩薩と、諸の如來身とを現じ、無量の普功德雲を出生す。如來に大人の相有り、一切寶光燄雲と名け、佛の眉間の相の中に於て無量の淨寶光明を出生し、普く一切十方世界を照し、淨く一切の諸佛菩薩の行を照し、法王の光明は普く法界を照し、悉く能く一切の光明を長養し、一切の法界の光明をもつて莊嚴し、普く一切諸の菩薩海を照し、如來の力雲は、普く一切十方の佛刹を照す。如來に大人の相有り、一切法界莊嚴雲と名け、如來の頂相は隨次に漸く起り、閻浮檀金の衆寶をもつて莊嚴し、種種の金色の光明を放ち、念念の中に於て、普く一切世界の諸佛を現じ、悉く能く普く一切の佛刹を照し、一切の菩薩の諸の功德藏を莊嚴す。如來の頂相は悉く能く三十二相を莊嚴し、又能く一切の法界を莊嚴す。

(六)如來に大人の相有り、普照法界徧光明雲と名け、佛の眉間の相は悉く能く普く一切の妙寶、一切の衆色、一切の日月、一切の佛海を照し、十方無量の光明海を出生して、一切諸の如來身を莊嚴し、一切如來の法海を演說す。

(七)如來に大人の相有り、自在雲と名く、佛の淸淨眼は、衆寶莊嚴し、慧眼淸淨にして、諸の法界に於て障礙する所無く、吉光明雲は一切を示現す。

(八)如來に大人の勝妙なる鼻相有り、淸淨の衆寶を以て莊嚴と爲し、一切衆寶の妙色を覆と爲し、佛の寶華雲は一切の菩薩も能く思議すること無く、悉く一切の衆生と諸佛の法海とを知る。

(九)如來に大人の廣長舌相有り、悉く能く徧く十方世界の一切海雲を覆ひ、過去に善根を修習して得る所、一切の寶王淸淨の光明は、普く一切法界の(一〇)尸羅の心を照し、又一切三世の諸佛を照し、悉く能く一切の法界を莊嚴し、無量なる微妙の音聲を出生し、不思議の寶を以て莊嚴と爲し、普く無量なる諸の光明海を照し、佛の妙なる音聲は悉く徧く一切の法界と、諸の世界海とに充滿す。如來に大人の相有り、法界地雲と名く、舌掌安住して、一切の衆寶を以て莊嚴と爲し、一切法を安住し、十方の諸佛の具足せる音聲を出生し、悉く能く一切の佛刹を淸淨にし、一切諸佛の不可思議なる音聲海雲を分別す。如

【六】次に眉相に一を擧ぐ。
【七】次に眼相に一を擧ぐ。
【八】次に鼻相に一を擧ぐ。
【九】舌相に四を擧ぐ。
【一〇】尸羅(Śīla)淸涼又は戒と譯す。持戒に依りて煩惱を淸涼ならしむの義。

來に大人の相有り、順法界雲と名く、舌端の妙相は金色の淨寶を以て莊嚴と爲し、無量の金色の光明を出生して、普く一切諸の如來海を照し、大師子吼して妙なる音聲を震ひ、悉く皆徧く一切の世界に至り、一切の衆生聞かざる者無し、不可思議劫に於て修行して得し所、普く一切諸の音聲海を現じ、普く一切を照し、衆生樂聞して厭足有ること無し。如來に大人の相有り、平等法門雲と名く、佛の舌端の相は無量の佛刹をして皆悉く淸淨ならしめ、如意の妙寶を以て莊嚴と爲し、無量なる種種の音聲を出生して、一切諸佛の法界を讃歎し、普く一切菩薩の法界の妙功德雲を現じ、普く一切の諸佛菩薩を覆ひ、深く一切の諸佛菩薩の法に入り、悉く一切離垢の衆寶と、淸淨の佛刹とを現じ、悉く能く普く一切の佛刹を照す。

（二）如來に大人の斷齶の相有り、伊陀尼羅、淨瑠璃の寶を以て莊嚴と爲し、諸の法界地は悉く其の內に在り、諸の菩薩雲は皆悉く充滿し、離垢妙寶の光明を出生して、普く十方を照し、種種の香雲と種種の燈雲とは、普く菩薩の內の諸の樓閣を照し、一切諸佛の刹海を分別し、方便して自在神力に安住し、普く不可思議なる諸の法界雲を現ず。

（三）如來に大人の相有り、佛の大牙雲と名く、如來の右面の下の大牙の相なり、衆寶莊嚴して、大光明輪を放ちて、普く法界及び諸佛の身を照し、普く光明網を放ちて、十方の世界海及び衆生海を照し、妙安隱輪を以て莊嚴と爲す。如來に大

【二】斷齶の相に一を擧ぐ。
【三】次に大牙相に四を擧ぐ。

人の相有り寶燄須彌藏と名け、如來の右面の上の大牙の相なり、如意寶王藏、勝香燄雲は、照して以て莊嚴し、寶光明を放つこと法界と等しく、一一の光明の中に、普く一切諸佛の自在と、一切の佛刹の、莊嚴せる道場とを現ず。如來に大人の相有り、照一切寶須彌山燈雲と名け、如來の左面の下の大牙の相なり、一切の諸相を分別し解說し、香華、衆寶、妙方便輪を以て莊嚴と爲し、寶光明雲を放ちて、普く一切の世界海を照し、普く一切の佛の蓮華藏の師子の座を現じ、離垢の菩薩海雲の、眷屬に圍繞せらる。如來に大人の相有り、普照佛雲と名け、如來の左面の上の大牙の相なり、淸淨の衆寶、及び閻浮檀の寶網輪の華を以て莊嚴と爲し、不可思議なる微妙の音聲を出生し、普く一切如來の自在神力を現じ、一切の菩薩の功德を成就し、普く一切の虛空、及び語言の法、無盡の法雲、一切の法海、諸佛の音聲、及び一切の寶を照し、一切の諸佛を分別する衆妙の音聲出生して法界に充滿す。

〔一三〕如來に大人の相有り、〔一四〕金幕耆婆と名く、如來の一一の齒間に、無量の相海門雲を出だし、種種の色寶は大光明海を放ち、閻浮檀金の色は、普く法界の一切世界・一切如來を照す。

〔一五〕如來に大人の相有り、一切寶地雲と名け、如來の右肩の相なり、一切の寶色、淨蓮華の色、明淨の寶色の光燄は、普く一切菩薩の內法藏雲を照し、悉く一切如來の法海を照す。如來の右肩は平滿

〔一三〕次に齒相に一を擧ぐ。
〔一四〕金幕耆婆。譯して頂旋螺文と云ふ、佛の齒の形狀なり。
〔一五〕次に肩相に五を擧ぐ。

なる大人の相にして、清淨なる閻浮檀金の色は、普く菩薩の法輪法界を照し、及び一切の如意寶王を照す。如來に大人左肩の相有り、閻浮檀の蓮華の色と如來の圓滿なる諸の功德海とを以て莊嚴と爲し、普く無量の諸の光明網を放ちて、悉く一切世界の法界を照し、如來の無量の自在と、諸の神力雲とを示現す。如來に大人の相有り、周徧普照雲と名け、如來の左肩の相なり、衆寶をもつて莊嚴し、閻浮檀金色の光明を放ちて、悉く能く一切の法界に充滿し、普く一切諸の如來海を照し、種種の寶香をもつて一切諸佛の刹海を莊嚴す。如來に大人の相有り、普照莊嚴雲と名け、如來の右肩に動轉有ること無く、無量なる佛の燈光明を出生し、法界雲を垂れて菩薩の衆を充滿し、普く照して一切の法界を莊嚴す。

(一六) 如來に大人の相有り、海頂雲と名け、如來の胸に勝妙の相海有り、以て莊嚴と爲す、柔輭にして細滑、種種の衆寶の燄輪をもつて莊嚴し、周徧淸淨にして甚深なる法海の音聲を開發す。

(一七) 如來に大人の相有り、勝妙相續普現雲と名け、如來の右脇は勝妙淸淨なる法界の輪地を以て莊嚴と爲し、淸淨の寶網をもつて之を彌覆し、無量なる如來の化雲を出生して、普く一切の十方法界を照す。

(一八) 如來に大人の相有り、普現如來雲と名け、勝妙の功德藏と、菩薩の功德寶の天冠とは、普く極

【一六】次に胸相一。
【一七】次に脇相一。
【一八】次に腹藏に七を擧ぐ。

高雲を照し、離垢清淨にして、普く十方無量の諸佛の自在神力を現じ、三世の一切諸佛の法海の淨行を開示し、道場の菩提樹下に坐して等正覺を成ず。如來に大人の相有り、開敷華雲と名け、如來の勝妙なる功德相續し、衆の妙寶華寶の輪をもつて莊嚴し、香焰光明を放ちて、普く一切の蓮華の形色の世界を現ず。如來に大人の相有り、可悅樂金色雲と名け、一切寶王藏の勝妙なる功德相續し、一切寶の心王藏は摩尼寶の光明輪を放ち、離垢清淨にして極大高顯なり、普く一切諸佛の內方便の功德藏を照し、普く一切の法界を照す。如來に大人の相有り、勝海雲と名け、勝上の虛空寶、香の光明を放ちて普く十方一切の道場を照し、圓滿なる瑠璃の寶・香・燈・鬘は十方に充滿す。如來に大人の相有り、電光雲と名け、下の第二の勝功德平等の地相なり、蓮華右に旋り、淨き菩薩衆は寶蓮華に坐して、佛藏の光明を放ち、普く法界海を照す。如來に大人の相有り、普現法界雲と名け、第三の勝相海なり、一切の寶海刹を具足し成滿して、普く照して無量なる菩薩の法界を開現す。如來に大人の相有り、普照最高雲と名け、第四の勝相海なり、離垢の衆寶光明海を放ちて、普く一切の法界、一切の如來、一切の世界を照し、一切の衆生海を莊嚴す。

（一九）如來に大人の相有り、轉一切法輪妙音聲雲と名け、下分の勝相なり、離垢清淨にして一切の正法道の香焰の光明は一切の佛の內心の相海と、一切の法界とを照す。如來に大人の相有り、莊嚴雲と名け、第十の勝相なり、十方の一切の諸佛菩薩の

【一九】次に下分相に二を擧ぐ。

淨行を宣暢し、離垢清淨の光明を覺悟し、三世の諸佛の一切智海は一切諸佛の刹海を莊嚴す。

【三〇】次に、手相十二を擧ぐ。

（一〇）如來に大人の手掌の相有り、千輻の寶輪を具足し、種種の衆寶を以て莊嚴と爲し、大光明を放ちて、普く法界を照し、正法輪を轉じて普く一切諸の如來海を照し、一切の佛の功德海を充滿し、種種の妙寶をもつて法界を莊嚴す。如來に大人の相有り、海照雲と名け、如來の寶手は衆寶莊嚴して、普く淨月の光明燄雲を放ち、虛空の如來と、菩薩との諸の世界海を莊嚴し、菩薩の行海を讃歎す。如來に大人の相有り、普莊嚴雲と名け、如來の妙手は因陀尼羅、瑠璃寶の華を以て莊嚴と爲し、普く一切法界一切の世界の蓮華藏菩薩の安住する寶藏を照し、十方一切の道場を莊嚴し、普く一切諸佛の海雲の清淨法身を照す。如來に大人の相有り、離垢燈普照雲と名く、淨寶の光明は淨光網を放ちて普く十方を照し、皆悉く變化の網雲を出生して、菩薩の淨寶の光明を莊嚴し、一切諸法の行海を究竟じて彼岸に到る。如來に大人の相有り、普現一切衆寶雲と名け、寶藏海雲をもつて莊嚴し、如來の蓮華は一切衆寶の蓮華を充滿して、寶光明雲を放ち、普く一切の法界を照す。如來に大人の相有り、普照明淨雲と名け、寶燄の光明海を放ちて法界を照し、一切の衆香の光燄をもつて莊嚴し、普く寶華の燄光を現じ、一切の佛の世界網をして悉く淨く莊嚴せしめ、普く一切の道場を照す。如來に大人の相有り、瑠璃燈雲と名け、一切世界の衆寶色の地、普く照して莊嚴し、皆諸佛の金色の光明を放ち、

一切の莊嚴を以て之を莊校し、一念の中に於て皆悉く一切の法門を示現す。如來に大人の相有り、智慧燈雲と名け、金剛の寶華を以て莊嚴と爲し、閻浮檀金色の光明を放ちて、普く一切の世界を照す。如來に大人の相有り、安住蓮華光明雲と名け、衆寶妙華を以て莊嚴と爲し、大光明網を放ちて一切世界の諸の須彌山を覆ふ。如來に大人の相有り、充滿法界如來雲と名け、離垢の淨寶を以て莊嚴と爲し、大光明を放ちて普く一切諸佛の世界を照し、悉く如來の蓮華藏の師子座に坐したまふを見る。又復た普く一切の法界を照して一切の相を現じ、如來の妙手は普く一切の自在の相を現じ、千輻相輪は清淨にして具足し、種種の衆寶を以て莊嚴と爲し、佛の手は一切の刹雲に充滿し、普く一切諸の法界雲を照す。如來に大人の相有り、名けて成就佛刹海雲と曰ひ、佛の右手の指の寶相なり。清淨の法界の、清淨の光燄は普く照すこと、淨水の月の如く、衆の寶華を出だし、一切妙寶の音聲を出生し、普く一切諸佛の刹海を現ず。如來に大人の相有り、安住一切寶雲と名け、普く諸佛の寶藏法界を照し、佛の指相に於て如意妙寶王雲を出生し、衆寶をもつて莊嚴し、大光明網を放ちて普く一切の法界雲と及び諸佛雲とを照し、普く照して一切菩薩諸の功德海を莊嚴し、普賢菩薩の淨行妙音聲海を出生して、一切の佛刹に聞かざる者無く、又諸の菩薩の心を開發し普照して、皆悉く無量の大願を滿足し、摩尼寶王を以て莊嚴と爲し、種種の日光輪は、皆悉く普く一切の法界を照す。

(三)　如來に大人の寶馬藏の相有り、右に隱密し、衆寶莊嚴して、普く一切の法界及び虚空界を照し、

一切の衆寶は法界海を莊嚴し、一切如來の莊嚴せる微妙の音聲を出生す。如來に大人の相有り、名けて一相現一切相海雲と曰ひ、如來は福田の座に安處したまひ、一切の衆寶を以て莊嚴と爲し、無量不可思議なる妙寶の光明を出生して、普く十方一切の法界を照し、普く分別一切衆相現一相雲を現じて、一切諸佛の自在神力を照現す。如來に大人の相有り、一切法界海雲と名け、普く十方の諸の如來の座と及び一切法界の法輪法界とを照し、悉く能く一切相雲を示現す。

(二二)如來に大人の相有り、普示現雲と名く、如來の右脞は衆寶をもつて莊嚴し、妙法種種の香光を放ち、隨順し安住し、諸の音聲を出だし、一切の寶王を以て莊嚴と爲し、念念の中に於て悉く能く心王海雲を示現す。如來に大人の相有り、普照一切回向海雲と名け、如來の左脞は悉く徧く一切の寶海に充滿し、隨順し、法海の莊嚴に安住し、一切の光明海を放ちて、悉く能く普く一切の衆生と無量の佛海とを照す。

(二三)如來に大人の相有り、(二四)伊尼延の右腨に閻浮檀金色の光明を放ちて、普く一切の世界を照し、無量の諸佛の刹土を震動し、佛の音聲を出だして一切普く聞き、無量の菩薩の化身を出生して、一切諸佛の世界、及び虛空界に充滿し、明淨の光明を放ちて莊嚴し、普く一切を照して、諸佛の刹をして皆悉く淸淨ならしめ、菩薩の變化の諸の法界雲を藏すること猶ほ虛空の如し。如來に大人の

【二一】次に馬王相に三を擧ぐ。
【二二】次に脞相に二を擧ぐ。
【二三】次に腨相に二を擧ぐ。
【二四】伊尼延(Eṇeyajangha)。腨如鹿王相と譯す、足の腨の漸次に纖く圓くして鹿王の腨の如くなるを云ふ。

相有り、伊尼延の左腨は鍊金の色の如く、常に一切妙寶の光明を放ちて、無量の諸佛の世界に充滿し、一切諸佛の法化を開發して無量の諸佛の法海を莊嚴す。

(二五)如來に大人の相有り、毛端と名け、內に一切の佛刹を現じ、一毛孔に於て、悉く一切寶の光明藏を放ち、普く十方一切の法界を照し、一毛孔に於て一切如來の自在と諸佛界雲とを示現す。

(二六)如來に大人の相有り、菩薩海莊嚴雲と名く、如來の金剛の足の下は、閻浮檀金の色、一切寶の光明網を放ち、十方の諸佛刹雲に充滿し、一切の菩薩の法化を開發し、無量の菩薩の變化を出生し、一切寶香の光明を放ち、菩薩海に住し、能く一歩に於て諸佛の刹に徧ず。如來に大人の相有り、明淨雲と名く、佛の足趺の上は一切の衆寶を以て莊嚴と爲し、妙寶の光明を放ちて、一切の諸佛菩薩の大光明藏を示現し、普く無量の諸の如來雲を照す。如來に大人の相有り、名けて覺雲と曰ひ、普く一切如來の指間を覆ひ、衆の寶王をもつて莊嚴し、諸の寶光を放ち、念念の中に於て、一切諸佛の自在を示現し、普く無量の諸佛の法海を照し、一切の道場を示現して、悉く未來無量際の劫を照す。如來に大人の相有り、名けて徧照法界海雲と曰ふ、如來の足下は千輻相輪にして、種種に莊嚴し、百千の衆寶の光明を放ちて、普く一切の法界の諸の世界海を照し、衆寶の燈燄、妙莊嚴の藏は、普く十方の一切諸佛を照し、無量の香光を以て莊嚴と爲し、普く一切の淨法界海を照す。如來に大人の相有り、示現一切諸佛海雲と名け、

【二五】次に、毛端相に一を擧ぐ。

【二六】次に、足相に十三相を擧ぐ。

淸淨なること空の如く、諸の法海を照して十方に充滿し、一切諸の菩薩雲を發起し、妙音聲を出だし、衆寶の華雲を以て莊嚴と爲し、香燈の光燄示現して、普く一切の世界を照す。如來に大人の相有り、自在光明雲と名け、衆寶莊嚴し、一切諸佛の光明を示現して、法界海、及び諸の道場を淨め、常に如來の智慧光明を放ち、一切の衆相は悉く一相と爲り、法界無雜にして、種種に莊嚴す。如來に大人の相有り、法界海音聲雲と名け、如來の足下の後分は衆寶莊嚴して、普く一切諸の法界海を照し、一切諸佛自在に莊嚴して、普く化輪に入りて、一切法界を覆ひ、一一の身に於て法界の妙音聲雲を出生す。如來に大人の相有り、深寶源底と名け、衆寶をもつて莊嚴し、閻浮檀金の色、圓滿なる光明を放ちて、普く十方世界の法界を照し、一切莊嚴の道場を顯現す。如來に大人の相有り、一切寶月光明と名け、伊那尼羅寶藏をもつて莊嚴して法界雲を照し、念念の中に於て悉く能く如來の法海を示現す。如來に大人の相有り、普雲藏右虛空寶雲と名け、最高の寶光明は一切の佛の道場座藏を照し、金剛伊那尼羅寶顯現して莊嚴す。如來に大人の相有り、平等光雲と名け、衆寶妙華を以て莊嚴と爲し、甚深なる法界の音聲を出生し、一切の法界、及び虛空界に徧く、一一の相に於て、普く一切諸の如來海を照し、佛の甚深なる自在と、菩薩の法界海とに入り、說くとも盡す可からず。如來に大人の相有り、示現莊嚴雲と名け、淸淨なる閻浮檀金の色、衆寶莊嚴し、普く種種の妙色の光明を放ち、徧く一切莊嚴の佛刹を照し、佛雲は無量の世界に充滿し、菩薩の自在法海を莊嚴し、普く一切諸佛の功德、及び

諸の菩薩の解脫の藏を照して法界を莊嚴す。如來に大人の相有り、諸佛自在普示現雲と名け、諸の寶輪を轉じ、衆寶莊嚴して、不思議なる如來の光明を放ち、妙香普く一切の世界、無量の佛海に聞え、一切の佛の音聲海を演出し、諸の世界に於て菩薩の門、佛の自在雲を現ず。

（二七）佛子よ、佛身の中に於て、是の如き等の十蓮華藏世界海微塵數の佛の大人の相有り、諸の支節に於て種種の妙寶を以て莊嚴と爲す。』

【二七】廣く大相を結び、無盡を顯はす。

佛小相光明功德品第三十

爾の時に佛、寶手菩薩に告げて言はく、

(一)『如來應供等正覺に隨形好有り、名けて海王と曰ふ、彼光明を出だす、名けて明淨と曰ひ、七百萬阿僧祇の光を以て眷屬と爲す。◎又菩薩摩訶薩は兜率天に於て大光明を放つ、名けて幢王と曰ひ、普く十世界微塵數の刹を照し、偏く彼の處の地獄の衆生を照して、苦痛を滅除し、彼の衆生の十種の眼耳鼻舌身意の諸根の行業をして、皆悉く清淨ならしむ、彼の諸の衆生は光明を見已りて、皆大いに歡喜し、命終して皆兜率天上に生る。天上に生れ已りて、天の妙音を聞くを、可愛樂と名く、此の音聲は諸の天子の言を語る。不放逸を以ての故に、諸佛の所に於て善根を種ゑたるが故に、善知識に遇ひしが故に、盧舍那佛の威神力の故に、地獄に於て命終し此の天上に生ぜしなり。

(二)如來の足下の千輻輪の中に妙光明有り、普照王と名く、彼の海王の隨形好處に於て、悉く四十の廣大の光明を放つ、一をば清淨功德と名く。普く六十億那由他の佛刹微塵數の世界を照し、衆生の境界に隨ひ、衆の善根に隨ひ、衆生の意に隨ひ、乃至普く阿鼻地獄を照し、其の中の衆生命終して、

【一】此の中に大段二あり、初めに略して果用の攝益と因用の攝益とを明かす。

【二】以下第二に廣く釋する中に於て先づ前の光惡道を救ふことを明かす。

皆兜率天上に生る。

(三)天上に生れ已りて、天の妙音を聞き、是の如きの言を作さく、「善い哉善い哉、諸の天子よ、盧舍那菩薩は、今離垢三昧に住したまふ、應當に敬念すべし」と。

爾の時に諸の天子は、天の勸化の微妙の音を聞きて、便ち是の念を作さく、「奇なる哉奇なる哉、何に由りてか此の微妙の音聲を出だす」と。爾の時に音聲は諸の天子に語りて言はく、「我が此の天音は諸善の功德の成就する所なり。諸の天子よ、我れ我を說きて而も我に著せず、我所に著せざるが如く、一切諸佛も亦復た是の如く、自ら是れ佛なりと說きて而も我に著せず、我所に著せず。諸の天子よ、我が音聲は東方、南西北方、四維上下より來らざるが如く、諸の天子よ、業報の成佛も、亦復た是の如く、十方より來るに非ず。諸の天子よ、猶は汝等の昔地獄に在りしときの如し、十方より來らず、但顚倒愚癡に纏はるるを以ての故に、地獄の身を得たるも、本來處無し。普照王の光明の十方より來らざるが如く、我が天の音聲も亦復た是の如く、十方より來るに非ず、但三昧の善根力を以ての故に、是の如きの微妙の音聲を出生す、般若波羅蜜力の故に、是の如きの自在神力を示現す。諸の天子よ、譬へば須彌山王に三十三天の淨妙の宮殿、種種の樂具有るも、十方より來らざるが如く、我が天の音聲も、亦復た是の如し。諸の天子よ、譬へば億那由他の佛剎微塵數の世界を、末して微塵と爲し、

【三】次に前の聲の天處を饒益することを明かす、中に六段あり、初に勸化に因りて疑を釋す。

是の如き微塵數の衆生に、我爲めに法を說きて、彼の所應に隨ひて、大いに歡喜せしむ、然も我彼に於て厭惡の心を生ぜず、疲倦の心を生ぜず、放逸の心を生ぜず、憍慢の心を生ぜざるが如し。諸の天子よ、盧舍那菩薩離垢三昧に住するも、亦復た是の如く、右手の掌の隨形好の中に於て、一光明を放ちて無量の自在神力を出生し、一切の衆生、聲聞、緣覺の知ること能はざる所なり。

〔四〕汝等應當に盧舍那菩薩に往詣して恭敬し禮拜すべし、五欲に著して諸の善根を障ふること莫れ。諸の天子よ、譬へば劫盡に須彌山を燒き悉く消滅せしむるが如し。諸の天子よ、五欲の纏心は、念佛三昧を修して皆悉く除滅せらる、是の故に諸の天子よ、當に報恩を知りて、一向に盧舍那菩薩を敬念すべし。諸の天子よ、其れ衆生有りて恩を報ゆることを知らざれば、是の身を捨て已りて、三惡道に入らん。諸の天子よ、汝昔地獄に在りしとき、光明の恩を蒙りて、地獄を捨て已りて、此の天に來生せり、應當に彼の諸の善根を長養すべし。諸の天子よ、譬へば我が天は男に非ず女に非ず、而も能く百千萬億の不思議なる法を出生するが如し。諸の天子よ、天子天女の五欲の樂具、宮殿園林の如きは、皆悉く我の如く不生不滅なり。色受想行識も亦復た是の如し。若し是の如く知らば、是を能く無著甚深の三昧海に入ると名くるなり。」

〔五〕時に諸の天子は、是の音聲を聞きて、歡喜すること無量にして、皆悉く一萬の華雲、一萬の香

【四】二に正しく報恩を勸むることを明かす。

【五】三に勸化に由りて供養を興すことを明かす。

雲、一萬の樂雲、一萬の幢雲、一萬の蓋雲、一萬の讃歎雲を化作せり。是の化を作し已りて、盧舍那菩薩の住したまふ所の宮殿に往詣し、恭敬し供養して一面に於て住し、而も盧舍那菩薩を見たてまつらず。時に天子有り、是の如きの言を作さく、「此の菩薩は今已に命終せば、淨飯王の家に生れ、栴檀樓閣に乘じ、摩耶夫人の胎に處せん」と。

爾の時に諸の天子は天眼を以て、盧舍那菩薩摩訶薩を觀ずるに、梵身天、欲界の諸天の恭敬供養したてまつるを見る。時に諸の天子、是の如きの言を作さく、「我等若し先に往きて盧舍那菩薩を恭敬し供養せず、乃至一念の頃も兜率天に住して樂著の心を起さば、我は則ち不可ならん」と。爾の時に一一の天子は十那由他の天子の眷屬と、天より下りて閻浮提に至り、菩薩の所に詣でんと欲へり。時に天の妙音、天子に語りて言はく、「菩薩摩訶薩も亦命終して、彼の閒に生れず、應化する所に隨ひて悉く彼をして見せしめん。諸の天子よ、譬へば我は今、眼の見る所に非ずして、能く音聲を出だすが如し。菩薩摩訶薩離垢三昧に住するも亦復た是の如く、眼の見る所に非ずして而も處處に命終受生を示現し・虛妄を捨離し、憍慢を滅除して染著する所無し。（六）是故に諸の天子よ、應當に速かに阿耨多羅三藐三菩提心を發して、意を清淨ならしめ、威儀戒に住して一切の業障・煩惱障・報障・邪見障を悔過し、法界・虛空界・衆生界に等しき善の身口意業を以て、衆生界に等しき身、衆生界に等しき頭、衆生界に等しき舌を以て四障を悔過すべし」と。

【六】四に正しく發心悔過の法を教ふ。

時に諸の天子は、是の聲を聞き已りて、皆大いに歡喜し、心意柔輭にして天の聲に問うて曰はく、「菩薩摩訶薩は云何んが悔過したまふや。」

爾の時に天の聲、菩薩摩訶薩の三昧力を以ての故に、天の善根力の故に、諸の天子に答へて言はく、「業障等の罪は、東方南西北方四維上下より來りて心に積聚せず、菩薩摩訶薩は、此の業等は顚倒に因りて起りしことを知りて、疑惑を生ぜず。諸の天子よ、我が天の聲の隨業報行・隨戒・隨喜・隨定は寂滅なりと說しが如く、諸佛菩薩も我が衆生の貪恚癡の業を說きて、而も實に我無く我所有ること無く、亦復た是の如き所作の諸業は十方に於て求むるに悉く不可得なり。諸の天子よ、我が天の聲は小福の衆生の聞くこと能はざる所なるが如し、地獄の衆生の應に化を受くべき者をば除く。諸の天子よ、聲は生滅に非ず、一切の諸業も亦復た是の如く、生に非ず、滅に非ず、但業行に隨ひて果報を受く。諸の天子よ、我が出だす所の音聲は無量劫に於ても窮盡す可からざるが如し。諸の天子よ、若し音聲に來去有りと謂はば、卽ち邊見に墮せん、一切の諸佛は斷常を說きたまはず、衆生の爲めに方便して法を說きたまふをば除く。諸の天子よ、我が天の聲は十方世界の應化する所に隨ひて、皆悉く聞くことを得るが如し。一切諸佛も亦復た是の如く、應に度すべき者に隨ひて、皆悉く見たてまつることを得しむ。諸の天子よ、譬へば明淨にして光を發する金の玻瓈鏡の十世界と等しきものの如し、彼の鏡の中に於て無量の刹を見る、一切の山川、一切の衆生、地獄餓鬼、若しは好、若しは醜、形類の若干は、

悉く中に於て現ず。諸の天子よ、意に於て云何ん、彼の諸の影像は來りて鏡に入るや、不や。答へて言はく、「入らざるなり。」諸の天子よ、一切の業報も亦復た是の如く、來去の處無くして而も能く善根の果報を出生す。譬へば幻師の能く人の目を幻すが如し。當に知るべし諸業も亦復た是の如し。若し是の如く知らば、是を淸淨にして眞實なる悔過と名けん。」

(七)是の法を說きし時に、百千萬億那由他の佛刹微塵數の諸の世界の中の兜率天子は、皆無生法忍を得。無量無邊の不可思議なる阿僧祇の欲界の諸の天子は、皆阿耨多羅三藐三菩提心を發し。六欲天の中の一切の天女は、皆女身を捨てて悉く男子と爲り、不退轉の菩提の心を得たり。爾の時に諸の天子は廣く普賢の回向善根を聞きて、悉く十地の諸力莊嚴を得て三昧を具足し。皆悉く衆生界に等しき善の身口意の業を成就し、一切の障を滅して、皆淸淨なることを得。百千萬億那由他の佛刹微塵數の七寶蓮華を見、一一の華上に皆菩薩結跏趺坐して、大光明を放つを見る。彼の諸の菩薩の一一の隨形好の中より、衆生界に等しき光明を放つ、彼の光明の中に、衆生界に等しき諸佛、結跏趺坐したまひ、應に度すべき所に隨ひて、爲めに法を說きたまふを見る。しかも(八)猶ほ未だ離垢三昧の少分をも見ること能はざるなり。

(九)爾の時に諸の天子は、一一の毛孔に於て、衆生界に等しき妙香華雲を化作して、盧舍那佛を供養

【七】五に法を聞きて益を獲しことを明かす。
【八】十地の圓滿することを得たるも、猶ほ果位に同じからざることを辨ず。
【九】次に得益傳通して無盡の行を成ずることを明かす。

したてまつれり◎香華を散じ已りて、一一の華の中に、諸の如來を見たてまつる◎時に彼の香雲は、普く無量の佛刹微塵數世界の衆生に熏じ、其の香を蒙る者は、身心快樂なり。譬へば比丘の第四禪に入るが如し。若し衆生有りて此の香を聞ぐことを得ば、諸の罪業障は皆悉く除滅せん。色聲香味觸に於て、内に五百の煩惱有り、其の外にも亦五百の煩惱有り、二萬一千の欲行煩惱、二萬一千の恚行煩惱、二萬一千の癡行煩惱、二萬一千の〔一〇〕等行煩惱、此の諸の煩惱は皆悉く除滅し、彼の諸の衆生は種種の淨香自在の光明善根を具足せん◎若し衆生有りて此の蓋雲を見ん者は、彼の諸の衆生、一恒沙の轉輪聖王の植うる所の善根を種ゑん、所謂る白淨寶網轉輪王等なり。菩薩摩訶薩は是の如きの轉輪王の處に安住して、百千億那由他の佛刹微塵數の、諸の世界の中に於て衆生を教化す。譬へば明鏡世界の月王如來は、十方無量刹の中の、比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷の、乃至一念にも化身と作りて、來りて佛の所に詣でて、法を聽かざる者有ること無く、彼の佛は常に爲めに廣く經法を說き、乃至廣く爲めに本生經を說き、彼の佛名を聞き、命終の後は皆其の國に生るるが如し。菩薩摩訶薩、白淨寶網轉輪王の處に安住するも、亦復た是の如し。曼陀羅自在の光明を放つ、若し衆生有りて斯の光に遇はん者は、皆菩薩の十地を得ん、當に知るべし、此の衆生は悉く是れ先世に善根を修せし力なり。初禪を得ば、未だ命終らずと雖も、梵天の處を見、梵天の樂を得ん、是の如く次第して諸禪を得る者は、未だ命終らずと雖も、而も彼の樂を得るが如

【一〇】欲、恚、癡の三毒等分なるを等行と云ふ。

し。是の如く菩薩摩訶薩も、白淨寶網轉輪王の處に安住して、大光明を放ち、(二)周羅摩尼と名く。若し衆生有りて斯の光に遇はん者は、皆菩薩の十地を得、悉く無量なる智慧の光明を得、十種の眼の清淨なる行業、乃至十種の意の清淨なる業を得、淨力の三昧を具足し成就せん。◎是の如くして清淨の肉眼を成就す、譬へば菩薩摩訶薩、左の手を以て億那由他の佛刹微塵を持して、東に行きて、億那由他の佛刹微塵數の世界を過ぎて、乃ち一塵を下し、是の如くして東に行き、此の微塵を盡すが如し。是の如く菩薩摩訶薩は、悉く能く彼の微塵の數を了知し、亦諸塵の本刹の來處、及び塵を下す刹をも識る、乃至十方も亦復た是の如し。菩薩摩訶薩は復た能く還つて此の諸の微塵を集めて一佛刹と爲し、此の佛刹に於ても亦分別して知る。』

佛、寶手菩薩に告げて言はく、

『意に於て云何ん、是の如きの佛刹の廣大なること思議す可きや、不や。』

寶手菩薩、佛に白して言さく、

『世尊よ、是の如き佛刹は無量無邊にして思議す可からず。世尊よ、奇なる哉、奇なる哉、若し是の喩を聞かんは此の人得難し、聞きて信ずる者も亦復た得難し。』

佛、寶手菩薩に告げて言はく、

『是の如し、是の如し。若し善男子善女人有りて、聞きて而も信ぜん者には、我彼に記を授け、速か

【二】周羅は梵に(Kṣudra)譯して小寶と云ひ、摩尼(Maṇi)は如意珠と譯す。

に阿耨多羅三藐三菩提を成じ、一切種智を得しめん。』

佛、寶手菩薩に告げて言はく、

『譬へば千億の佛刹微塵數の世界の如きを、上の喩說の如く、此の一切刹を末して微塵と爲し、彼の諸の世界の一一の微塵は、悉く一切の佛刹の微塵數と等し。菩薩摩訶薩は、此の微塵を取りて、展轉して更に種ゑ、乃し八十に至る、彼の一一の微塵の果を生ずることは、悉く一切世界の微塵數と等しきも、菩薩摩訶薩の業報の淸淨なる肉眼は、悉く分別して見る。亦念念の中に於て百千萬億那由他の佛刹微塵に等しき如來を見たてまつる。』

佛、寶手菩薩に告げて言はく、

『譬へば錠光玻瓈珠の十佛刹微塵に等しき世界を照すが如し、此の珠は白淨寶網轉輪聖王の善根の成ずる所なり。』

卷の第三十四

普賢菩薩行品第三十一

爾の時に普賢菩薩摩訶薩、諸の菩薩に告げて言はく、

〔一〕佛子よ、向に說く所の如きは是れ微少の說なり。何を以ての故に。一切の如來應供等正覺は、化を受くる者の爲めに應に隨ひて法を說きたまへばなり。愚癡の衆生は、諸纏に纏はれ、我我所を計し、吾我の見に著し、常に顚倒に隨ひ、邪見の惑を生じ、邪なる虛妄を起し、縛の爲めに縛せられて、生死に流轉し、如來の道に遠ざかる。是の如き等の諸の衆生の爲めの故に、如來應供等正覺は世に出興したまふ。

〔二〕佛子よ、若し菩薩摩訶薩、一の瞋恚の心を起さば、一切の惡の中にて此の惡に過ぐるもの無けん。何を以ての故に。佛子よ、菩薩摩訶薩、瞋恚の心を起さば、則ち百千の障礙の法門を受けん。何等をか百千と爲す。〔三〕所謂る菩提を見ざる障、正法を聞かざる障、不淨の國に生るる障、惡道に生るる障、八難處に生るる障、疾病多き障、多く謗毀

【一】初めに當品正說の所因を叙す。

【二】次に廣く普賢の行を明かす。大段二あり。初めに所治廣大にして、百千の障あることを辨ず。

【三】以下別して百門を辨ず。之を位に寄せて分つに五あり、初めは十信行の障。

せらるる障、闇鈍の趣に生るる障、正念を失ふ障、智慧少き障、眼耳鼻舌身意等の障、惡知識に近づく障、惡伴黨に近づく障、惡人に近づく障、惡人と同止する障、賢善と事を共にするを樂はざる障、正見に遠かる障、外道の家に生るる障、佛の正敎を離るる障、魔の境界に入る障、善知識を見ざる障、諸の善根を生せざる障、不善の法を增す障、惡家に生るる障、邊地に生るる障、惡人の中に生るる障、天の貧窮に生るる障、諸の龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・羅刹の中に生るる障。㊃佛法を樂はざる障、童蒙の法を習ふ障、小乘を樂ふ障、大乘を樂はざる障、多く驚怖を生ずる障、生死を樂ふ障、三界に著する障、佛法を護らざる障、佛の自在神力を聞くことを樂はざる障。㊄菩薩の淸淨なる諸根を離るる障、菩薩の行を離るる障、菩薩の深心希望を離るる障、正念を攝せざる障、一切智心を發起せざる障、施行を淨めざる障、業を淨めざる障、報を淨めざる障、諸力を成長せざる障、智慧の根を斷つ障、菩薩の諸行を受持せざる障。㊅佛法を誹謗する障、菩提を遠離する障、佛の境に入らざる障、諸の魔界に墮する障、佛法を求むること能はざる障、諸の菩薩の大莊嚴の事を聞きて恐怖を生ずるの障、㊆菩薩と共に住することを樂はざる障、菩薩の善根の業を求むることを樂はざる障、邪見蓋疑の障、愚癡を增益する障、菩薩の戒を捨てて破戒に隨順する障、如來の戒を信ぜざる障、佛の諸の持戒の者を讚歎したまふを聞きて瞋恚の心を生ずる障、忍辱を離れ常に懈怠せんこと

【四】次は十住行の障。
【五】次は十行の障。
【六】次は十廻向大願行の障。
【七】次は十地眞證行の障。

を樂ふ障、諸の菩薩の不退の精進を謗る障、三昧の慧を捨つる障、般若波羅蜜の巧方便を誹謗する障、是處非處の方便を知らざる障、衆生を度脱する方便を知らざる障、菩薩の諸の深智に入らざる障、菩薩の諸道を出生せざる障、菩薩の十種の眼に於て生盲なる障、菩薩の法に於て無礙の法流を出生すること能はざる障、無礙の耳鼻の障、相好を具へざる障、無礙の舌障、衆生の音聲を別知すること能はざる障、衆生の中に於て懈怠の心を生ずる障、狂亂業の障、三種の戒を離るる障、無礙諸入の障、口の四過の障、意の惡業の障、增上の貪恚邪見を生ずる障、正法を求めざる障、菩薩の法に於て懈怠する心の障、菩薩の精進の法の中にて疑惑する心の障、菩薩の決定法を捨離する障、菩薩の智慧門を損減する障、正念を損減する障、佛法を遠離する障、菩薩の離生法を習はざる障、菩薩の謙下心の障、聲聞緣覺の離生法を遠離する障、三世の諸佛菩薩に順せざる障を受けん。佛子よ、菩薩摩訶薩は、一の瞋恚心を起さば、是の如き等の百の障法門、乃至百千の障礙の法門を受けん。何を以ての故に。佛子よ、我、一の惡法も菩薩の一瞋恚の心に出過せること有るを見ざればなり。

(八)佛子よ、是の故に菩薩摩訶薩は、疾かに菩薩の行を具足せんと欲せば、應當に十種の正法を修すべし。何等をか十と爲す。所謂る一切の衆生を捨てず、諸の菩薩に於て如來の想を生じ、常に一切の佛法を誹謗せず、諸佛の刹に於て無盡の智を得、菩薩の所行を恭敬し信樂して、虛空法界に等しき菩

【八】第二に普賢能治の行を明かす。初め正顯に六位の別あり、一に正法、二に清淨、三に正智、四に巧隨順入、五に直心、六に巧方便、是れなり。

提の心を捨てず、菩提を分別し佛力を究竟じて彼岸に到り、菩薩の一切諸辯を修習し、衆生を教化して心に疲厭無く、一切の世界に於て受生を示現して而も樂著せず。

佛子よ、菩薩摩訶薩は是の如き十種の正法に安住すれば、則ち能く十種の清淨法を攝取す。何等をか十と爲す。所謂る甚深の法に於て究竟すること清淨、善知識に親近すること清淨、能く諸佛の正法を護ること清淨、悉く空界を分別すること清淨、善く法界に入ること清淨、智慧をもつて諸の菩薩の心行を了ること清淨、諸の菩薩の善根をして清淨ならしめ、心常に諸劫に著せずして清淨に、智慧をもつて三世を觀察すること清淨、諸佛の種姓を成就すること清淨なり。

佛子よ、菩薩摩訶薩は、是の如き清淨の正法に安住すれば、則ち能く十種の正智を具足す。何等をか十と爲す。所謂る衆生の心心行を分別する智、衆生の諸の業報を分別する智、普く一切諸佛の法を照す智、諸佛の法に於て方便次第を得る智、一切の總持門を具足する智、一切の文字辯を成就する智、善く衆生の一切語を知る智、一切世界の身を示現する智、具足して普く一切衆生を照す智、一切趣に於て一切を得る智なり。

佛子よ、菩薩摩訶薩は、是の如き十種の正智に安住すれば、則ち十種の(九)巧隨順入に入る。何等をか十と爲す。所謂る一切の世界は一毛道に入り、一毛道は不可思議の刹を出だす。一切衆生の身は悉く一身に入り、一身

【九】正智を得て能く所知の境を廻轉し、相互に順入するが故に巧隨順入と云ふ。

に於て無量の諸身を出だす。不可說の劫は悉く一念に入り、一念をして不可說劫に入らしむ。一切の佛法は悉く一法に入り、一法をして一切の佛法に入らしむ。一切の諸入は一入に入り、一入をして一切の諸入に入らしむ。一切の諸根は一根に入り、一根をして一切の諸根に入らしむ。一切の諸根は非根の法に入り、非根の法は一切の諸根に入る。一切の諸相は悉く一相に入り、一相は一切の諸相に入る。一切の語音は一語音に入り、一語音は一切の語音に入る。一切の三世は悉く一世に入り、一世をして一切の三世に入らしむ。

佛子よ、菩薩摩訶薩は、是の如き十種の入法を分別すれば、則ち能く十種の(一〇)直心に安住す。何等をか十と爲す。所謂る一切世界の語言・非語言の法の直心に安住し。正念一切衆生の直心に安住し。虛空界の直心に安住し。法界無量無邊の直心に安住し。一切の佛の頓正法の直心に安住し。甚深の善法不壞の正法の直心に安住し。一切の疑惑を除滅する直心に安住し。三世の法を等觀する直心に安住し。三世諸佛の平等の直心に安住し。諸佛の無量力の直心に安住す。

佛子よ、菩薩摩訶薩は是の如き十種の直心に安住すれば、則ち諸佛の十種の巧方便法を得。何等をか十と爲す。所謂る巧方便を得て普く諸佛の深法を照し、巧方便を得て諸佛の甚深なる勝法を出生し、巧方便を得て一切諸佛の莊嚴の法を分別し演說し、巧方便を得て深く一切の佛の平等法に入り、巧方

【一〇】廻轉自在にして正しく眞實に趣入せしむるを以て直心と云ふ。

便を得て別相の一切の佛法を分別し、巧方便を得て不可壞の諸佛の正法に入り、巧方便を得て一切の佛の諸の莊嚴法に入り、巧方便を得て一方便を以て一切の佛法に入り、巧方便を得て佛の無量なる諸の方便法に入り、巧方便を得て一切の佛法に於て心に自在を得て而も退轉せず。佛子よ、是を十種の巧方便法と爲す。

佛子よ、是の故に菩薩摩訶薩は、應當に一心に恭敬して是の法を聽受すべし。何を以ての故に。菩薩摩訶薩、是の法を聞くことを得ば、少しの方便を以て、疾かに阿耨多羅三藐三菩提を得、三世の諸佛と等しからん。』

(二)爾の時に佛の神力の故に、法是の如くなるが故に、十不可說億那由他の佛刹の微塵に等しき世界は六種に震動し、諸天に出過せる一切華の雲雨、妙香の雲雨、末香の雲雨、衣蓋幢旛、衆寶莊嚴具の雲雨、妓樂の雲雨、諸の菩薩の雲雨、不可說に佛を讃歎したてまつる雲雨、不可說の讃歎善哉の雲雨、佛の音聲法界に滿てる雲雨、不可說の世界を淨むる雲雨、不可說の菩薩の功德を長養する雲雨、不可說の光明の雲雨、不可說の種種の神力自在の雲雨を雨らせり。此の世界の四天下に、佛道場に坐したまひて、是の如き等の種種の雲雨を雨らし、諸法を演說したまひしが如く、十方の世界も亦復た是の如し。

爾の時に佛の神力の故に、法是の如くなるが故に、十不可說世界の微塵に等しき刹を過ぎて、十佛

【二】以下、感瑞と證成とを叙す。

世界微塵數の菩薩摩訶薩有り、此の土に來詣して十方に充滿し、是の如きの言を作さく、『善い哉、善い哉、佛子よ、能く是の如き諸佛如來の最大の誓願、授記の深法を說けり。我等も同號にして皆普賢と名け、諸の普勝世界の諸の普幢自在如來の所より此の土に來詣し、一切の世界にも亦此の法を說けり。是の如き句身味身一切の諸行は、增減有ること無し。是の故に此に來りて汝が爲めに證を作す』と。是の如く十佛世界微塵數の菩薩摩訶薩、此に來りて、爲めに證を爲せしが如く、一切十方の諸の如來の所にも亦復た是の如し。

爾の時に普賢菩薩摩訶薩は、佛の神力と自らの善根力とを以て、十方及び諸の法界を觀察し、諸の菩薩の行と、諸佛の菩提とを明さんと欲し、大願を說かんと欲し、一切世界の諸劫を分別せんと欲し、時に隨ひて佛の世間に出づることを示現したまふを明さんと欲し、衆生の根に隨ひて悉く化を受けしめんと欲し、如來の諸の所說の法に虛妄有ること無きを明さんと欲し、善根を種うるに隨ひて果報の虛しからざるを明さんと欲し、菩薩の淸淨なる法身は妙なる音聲を出して衆生を覺悟し菩提心を起さしむることを明さんと欲するが故に、偈を以て頌して曰はく、

(三)『一切の衆歡喜して、諸の陰蓋を除滅し、一心に恭敬して、菩薩の
諸の願行を聽け。
三世の菩薩の、行ずる所の諸の願行に隨ひて、我當に次第に、菩薩の勝妙の法を說くべし。

【三】偈に百廿一頌あり、大に分つて二段となす、第一に初めの二十二偈は說の分齊を頌す。

（一三）一切諸劫の數、及び世界の業數に、我は說きつ「無等等の、應化世に興りたまひし」と。
過去の諸佛を見たてまつりて、彼に於て大願を發し、衆生の類を饒益して、一切の苦を除滅せり。
菩薩論師の王は、行ずる所斷絕すること無く、無等等の法と、一切智の境界とを得たり。
菩薩は過去の、一切諸の導師の、大光明網を放ちて、普く十方界を照したまひしことを見て、
是の如きの大願を發しき、「我世閒の燈と爲り、功德をもつて身を莊嚴し、十力智を具足せん。
一切諸の群生は、貪恚癡熾然なり、我當に爲めに、無量の惡道の苦を除滅すべし」と。
是の如き誓願を發して、堅固にして退轉せず、具さに菩薩の行を修して、無礙力を究竟せん。
是の如く誓願し已りて、世閒の行に轉ぜられず、行ずる所虛妄無く、論王の法を究竟せり。

（一四）一賢劫の中に於て、千佛世に出でたまふ、彼の佛の正法に隨ひて、次第に分別して說かん。
此の賢劫の佛の如く、無量劫も亦然り、未來の諸佛の法も、我當に次第して說くべし。
一佛刹の中の如く、無量の刹も亦然り、一切の佛國の性を、我悉く分別して說かん。
諸佛次に世に興りたまひ、願に隨ひ名號に隨ひ、彼の所得の記に隨ひ、其の壽命する所に隨ひ、

【一三】次の八偈は此の菩薩の過去佛の所に於ける弘誓願行を明かす。

【一四】次の十一偈は現在未來の佛に於て三輪の行を修することを明かす。

修する所の正法に隨ひて、專ら無礙の道を求めしめ、所化の衆生に隨ひて、正法世に住せん。
所淨の佛刹と、衆生及び法輪と、說法の時と非時とに隨ひ、次第に群生を淨めん。
彼の衆生の行の、種種諸の業性は、上中下の差別に隨ひ、化を受くる所に隨應せん。
是の如きの甚深の智をもつて、菩薩は是の行に入り、普賢の業を修習して、智慧輪を具足す。
身業障礙無く、口業悉く清淨に、意業も亦無礙にして、三世の法に通達す。
菩薩は是の如く行じて、普賢の道を究竟し、淨智の日を出生して、普く諸の法界を照す。
不可說の劫と、及び一切の佛刹とに於て、菩薩は一念に知り、彼に於て著する所無し。
行者は是の如きの、奇特甚深の地、菩薩の妙法の中に入る、我當に少分を說くべし。

〔一五〕智慧邊際無くして、佛の境界を究竟し、善く一切處に入りて、不退轉を成就す。
普賢の淨慧を具へ、普賢の願を滿足したる、菩薩の究竟の行は、深く無等の智に入る。
一微塵の中に於て、悉く一切の刹を內れ、彼の無量の佛を見、具さに法を演說したまふを聞く。
一微塵の中の如く、一切の塵も亦然り、刹及び諸佛を見る、是れ不思議の智なり。

【一五】第二に正しく普賢の行用を頌す、總じて九十九偈あり。中に於て初めの六十九頌は自德大智の行を明かす。中に十門あり、初めの七偈は善く帝網の大智に入る行を明かす。

一一の微塵の中に、普く三世の法を現じ、五趣生死の道を、皆悉く分別して知る。
一一の微塵の中に、無量の佛刹有り、一の中に無量を知り、無量の中に一を知る。
是の如く法界に等しき、一切諸の佛土の、同性と及び異性とを、皆悉く能く了知す。
(二六) 深く微細の智に入りて、諸の世界を分別し、一切劫の成壞を、悉く能く分別して說く。
諸劫の修短を知るに、三世は卽ち一念にして、同行と不同行とを、皆悉く分別して知る。
深く諸の世界の、清淨と不清淨とに入り、身中に無量の刹あり、一刹に無量の身あり。
一切十方の中の、無量なる諸の世界の、種種無數の性を、一切悉く能く知る。
一切三世の中の、無量の佛國土を、甚深の智を具足して、悉く彼の成敗を了る。

【二六】次の十七偈は深く時處の微細智に入る行を明かす。

十方諸の世界に、成有り或は敗有り、普賢は悉く深く入りて、一切能く了知す。
淨き慧眼を以て、無量なる諸佛の土を見、分別して諸業を知り、隨ひて行ずるが故に清淨なり。
菩薩摩訶薩は、善く衆生の行を知る、諸の惡業を以ての故に、不淨の土を得たり。
無量無邊の刹は、卽ち爲一刹なることを知り、是の如くして諸刹に入り、一切能く知る莫し。
一切諸の世界を、一刹の中に入らしめ、世界積聚せず、亦復た離散せず。
或は伏し或は仰ぐ有り、或は高く或は復た下く、世界の衆生の相をも、菩薩は皆悉く知る。

或は翻覆の刹有り、無量なる諸佛の土は、種種も是れ一なることを知り、一も是れ種種なることを知る。

普賢は眞の佛子にして、不思議の智を以て、難思議の刹を知り、無邊の際を了達す。
諸の世閒の化と、刹化の衆生化とを知り、諸法の化を了知し、諸佛の化を究竟す。
甚深なる世閒の法と、種種莊嚴の事と、衆生の無量の報とは、皆心業の莊嚴なり。
眞の佛子は善く、甚深の妙法界を學び、自在の神力を具へて、十方の刹に充滿す。
衆生に等しき諸劫に、常に世界の法を説き、一切能く知る莫し、唯等正覺のみを除く。

(一七)世界及び如來の、種種なる諸の名號は、無量劫に演説すとも、猶ほ究竟すること能はじ。
何に況んや心の境界なる、三世諸佛の法と、眞實なる妙法界と、諸佛の一切地をや。
淸淨なる無礙の念は、無礙の智を具足し、分別して法界を説き、智慧彼岸に到る。
是の如きの諸の世界は、無量の業の莊嚴にして、菩薩は一念の中に、悉く三世の刹を知る。
彼の世界の中に於て、諸の最勝の行を行じ、等正覺を究竟して、自在力を顯現す。

(一八)是の如く未來世の、一切世界の中に、諸佛次いで世に興りたまはんも、菩薩は悉く能く知る。

【一七】次の五偈は三世の佛心の祕要を了る行を明かす。
【一八】次の四偈は未來攝化の業用を了る行を明かす。

彼の行と諸の妙願と、境界に功徳を修め、劫に隨ひて正覺を成ずるとを、菩薩は分別して知る。
亦彼の壽量と、及び所化の衆生とを知り、方便の法門に隨ひて、衆の爲めに法輪を轉ず。
菩薩は是の如く知りて、普賢の行地を具へ、一切智を成就して、諸の如來と等し。

(一九) 十方界の、無量の諸佛の土を現在し、深く此の世界に入りて、諸の法界に通達す。
彼の世界の中に於て、現在の無數の佛と、無礙の論山王とは、自在の法を究竟す。
淨土及び衆を知り、應化の自在力をもつて、無量億劫を盡して、當に是の事を思惟すべし。
調御世間の尊は、自在力を成就し、菩薩は究竟じて度り、深く智慧藏に入る。

(二〇) 菩薩は具さに、無礙の眼耳鼻と、無礙の廣長舌とを出生して、衆をして悉く歡喜せしむ。
最勝無礙の心は、無量にして普く清淨なり、甚深なる無礙の智は、悉く三世の法を了る。
善く一切の化と、刹化と衆生化と、能化と世間化とを學び、化の彼岸を究竟す。
種種の業莊嚴をもつて、諸の世間を嚴飾し、佛の智慧を成就して、善く一切の相を知る。

(二一) 一一の如來身は、無量の方便を以て、其の應化する所に隨ひて、無量の衆を度脱す。

【一九】次の四偈は現在の佛の境界に通達する行を明かす。
【二〇】次の五偈は六根化用の行を明かす。
【二一】次の十偈は器世間自在の行を明かす。

(二一) 深く智の境界に入れる、出世間の慧日は、所行退轉せずして、徧く一切の刹に遊ぶ。
深く諸の世間の、夢の如く幻化の如きを解り、一切の衆生界は、悉く電の如しと了達す。
虛妄の劫と、及び一切の世間とを取せず、善く眞實に非ざることを解り、彼に於て著する所無し。
無量無數の劫も、之を解るに卽ち一念なり、念を知れば亦念に非ず、世間に實の念無し。
本座を動ぜずして、一念に十方に遊び、無量無邊の劫に、常に諸の衆生を化す。
不可說の諸劫は、卽ち是れ一念の頃、亦劫を短ならしめずして、刹那の法を究竟す。
一切諸の世間と、及び諸の衆生心とは、一に非ず亦二に非ざるを、菩薩は悉く了知す。
衆生と世界と劫と、諸佛及び佛法とは、皆悉く幻化の如くして、法界に二有ること無し。
普く十方の刹に於て、無量の身を示現し、虛妄の身を取せず、法界に著する所無し。
無二の智慧の中より、人師子を出生して、不二の法に著せず、一二無きことを知るが故なり。

(二二) 菩薩は諸法の、燄の如く電光の如く、響の如く亦夢の如く、幻の如く變化の如きを知る。
是の如く隨順して、一切の佛の境界に入り、平等智を成就して、普く深法界を照す。
無量の大悲を以て、諸の衆生を觀察し、染著の心を遠離して、淸淨に世間を觀ず。
廣淨なる無盡の身は、深く方便地に入り、菩薩は常に、論師子の妙法を正念す。

【二二】次の六偈は智正覺世間の自在行を明かす。

世の衆の苦惱を見て、無量の大願を發し、行ずる所皆清淨にして、普く諸の法界に徧し。
諸佛及び菩薩と、佛法と世間とを、菩薩の方便觀にて、通達するに差別無し。

(三) 清淨の法身藏と、一切諸の世間と、世間及び法身は、二倶に著する所無し。
譬へば淨水の中に、影を見るも所有無きが如く、法身十方に至るも、而も亦所至無し。
此の如く所著無ければ、世間の清淨身は、身と雖も而も身に非ず、諸法は生ずること無きが故なり。
深く無盡の身に入れば、生に非ず亦滅に非ず、常に非ず無常に非ずして、諸の世間に示現す。
惡邪見を除滅して、正見を成就し、平等に諸法を觀じて、我我所に著せず。

(四) 譬へば工みなる幻師の、種種の幻を示現するも、本從來する所無く、去るも亦所至無く、
幻も亦有量に非ず、亦復た無量に非ずして、彼の大衆の中に於て、量と無量とを示現するが如し。
此の寂滅の心を以て、諸の善根を修習し、諸佛の法を出生するも、量に非ず無量に非ず。
有量と無量と有るは、皆悉く是れ妄想なり、一切の趣を分別して、量と無量とに著せず。
諸佛の甚深の法は、寂滅にして最も勝妙なり、甚深の無量智は、甚深の諸趣を知る。

【三】 次の五偈は非身不身の法身行を明かす。
【四】 後の六偈は非量不量の淨心行を明かす。

菩薩は愚癡を離れ、心意淨くして量無く、諸の善根を修習して、無量の願を具足す。◎

(三五)無量の衆生を度して、安隱の處に至らしめ、平等に法界を觀じて、彼に於て著する所無し。

深く眞實際を解れば、諸法に所有無し、諸の世間を覺悟すれば、諸法に生滅無し。

深く一切の法を知り、應化の衆生に隨ひて、普く甘露の法を雨らし、諸の世間に充滿せしむ。

無量の衆生を化して、菩提心を發さしめ、菩薩の行を捨てずして、皆不退轉を得しむ。

佛の正法に隨順して、究竟じて法身を得、悉く世間の、一切の衆生身を了知す。

諸の衆生と、及び一切の佛刹とを分別して、深く智慧海に入り、十方海に通達す。

如來の淨身の中に、普く衆生の身を現じ、菩薩の明淨の眼は、悉く皆能く觀見る。

無量億劫の中に、如來の身を讚歎せんに、一切劫を窮盡すとも、猶尚究竟せじ。

菩薩摩訶薩は、佛の涅槃の後に於て、能く念念の中に於て、諸の舍利を分布す。

是の如く未來世に、佛道を求むる者有らば、無量の菩提心の、決定智をもつて能く知らん。

是の如く三世の中に、諸佛世に出で、普賢の行に安住したまふを、皆悉く分別して知る。

是の如く分別して、無量なる諸行の地を知り、堅固の智を成就して、能く不退の輪を轉ず。

【三五】第二に後の三十偈は外化大悲の行を明かす、また十門あり。

無量の深智慧は、如來の境を究竟し、普賢の明淨智は、深く不退轉に入る。
一切の最勝尊は、深く妙境界に入り、不退轉を究竟して、無上の菩提を得。
無量無邊の心と、一切種種の業とは、諸の想行を修習じ、能く一念に於て知る。
染汚と不染汚と、學心と無學心と、菩薩は一念の中に、無量の心を覺悟す。
一二に非ず、穢に非ず亦淨に非ず、亦復た積集に非ず、皆因緣より起ることを了知す。
是の如く分別して、一切衆生の心を知れば、世間と諸佛の刹とは、悉く皆是れ虛妄なり。
是の如き妙方便をもつて、深く菩薩の行に入らば、皆普賢と等しく、如來の法より化生せん。
一切の衆生類は、善惡の想同じからず、或は天上に生る有り、諸の惡道に墮する有り。
菩薩は世間を見るに、皆業緣より起り、常に虛妄の想に著して、生死に流轉せり。
十方の諸の衆生は、虛誑の網に覆はるるも、菩薩は一念の中に、方便をもつて解脫せしむ。
是の如き諸の根入と、眼耳鼻舌身と、分別して意業を知るに、世間の想同じからず。
一一の眼の境界は、無量の眼を出生して、種種に相同じからず、無量にして邊有ること無し。
衆生の行ずる所の、一切の善惡業に隨ひ、彼に於て果報を得、像類悉く同じからず。
普賢の清淨眼は、深く諸地力に入り、一一の眼の境界は、無量の智を出生す。
是の如き諸の世間を、悉く能く分別して知り、一切の行を究竟じて、不退轉を逮得す。

佛説と菩薩説と、刹説と衆生説と、三世一切の説とを、菩薩は分別して知る。
過去は是れ未來、未來は是れ過去、現在は是れ去來なりと、菩薩は悉く了知す。
是の如き無量の世に、覺悟の相同じからず、方便究竟の行は、諸佛の智を具足す。』

寶王如來性起品第三十二の一

(一)爾の時に如來、眉間の白毫相の中より、大光明を放つ、名けて明如來法と曰ひ、無量億那由他阿僧祇の光を以て眷屬と爲し、普く十方一切の世界を照し、圍繞すること十帀して、如來の無量なる自在を顯現し、無數億那由他の諸の菩薩衆を覺悟し、一切の世界六種に震動して、一切諸の惡道の苦を除滅し、一切諸魔の光明を映蔽して、猶ほ聚墨の如くし、一切如來の菩提を顯現し、一切諸佛の大衆を顯現し、究竟莊嚴して、普く法界虛空界に等しき一切の世界を照し、復た還つて一切の菩薩と諸の大衆とを圍繞し已りて、如來性起妙德菩薩の頂に入りぬ。

爾の時に一切の大衆は、心大いに歡喜し、身意柔軟となり、是の如きの念を作さく、『甚だ奇なり、希有なり、如來は、今、大光明を放ちたまふ、必ずや當に甚深の正法を演説したまふべし』と。爾の時に如來性起妙德菩薩、蓮華の座より起ち、偏に右の肩を袒ぬぎ、右の膝を蓮華臺上に著け、一心に合掌して、正しく如來に向ひたてまつり、偈を以て頌して曰さく、

(二)『正しく一切の法を覺り、諸の境界を究竟したまひて、三世の大仙に等し、是の故に恭敬して禮したてまつる。

【一】初め當品の序説として、請主と説主とに光加ありしことを叙す。
【二】讃請の頌、十偈あり、初の一は佛を歎じて禮す。
【三】次の五は佛の放光を歎す。

(三) 無相の境を究竟したる、相好莊嚴の身は、普く離垢の光を放ち、一切の魔を除滅したまふ。
十方界の、一切の諸佛の刹を震動して、衆生恐怖せず、是れ佛の威神力なり。
虛空の如き、淸淨の法界等に安住して、一切の惡を除滅し、衆をして淸淨を得しめたまふ。
無量劫に苦行して、一心に佛道を求め、無礙の境智を得て、諸の如來と等し。
普く無量の光を放ちて、一切の刹を震動し、自在力を顯現して、來りて我が身中に入れり。

(四) 善學の諸の菩薩は、皆悉く來りて集會す、是の故に我發心すらく、「應に法王の事有るべし」と。

(五) 大衆は皆淸淨にして、菩薩の行を究竟し、智慧染著無く、無所畏を成就せり。

(六) 大仙の行は無量にして、智慧力精進し、菩薩の心に、如來の甚深の法を開發せしめたまふ。

(七) 正覺の微妙の義を、誰か能く演說する者ぞ、我今請問せんと欲す、願はくは佛爲めに顯示したまへ。』

是の偈を說き已りし時に、如來の口中より大光明を放ち、無礙無畏と名く。無量億那由他阿僧祇の光を以て眷屬と爲し、普く十方の一切世界を照し、圍繞すること十帀して、如來の無量なる自在を顯

【四】此の一頌は前の光益を歎す。
【五】此の一頌は衆に堪聞の德有ることを歎す。
【六】此の一頌は佛に開示の德あることを歎す。
【七】後の一頌は佛に說主を示さんことを請ふ。

現し、無數億那由他の諸の菩薩衆を覺悟し、一切の世界六種に震動して、一切諸の惡道の苦を除滅し、一切諸魔の光明を映蔽して、猶ほ聚墨の若くし、一切如來の菩提を顯現し、一切諸佛の大衆を顯現し、究竟莊嚴して、普く法界虛空界に等しき一切の世界を照し、復た還つて一切の菩薩と諸の大衆とを圍繞し已りて、普賢菩薩摩訶薩の口に入りぬ。爾の時に普賢菩薩摩訶薩の身、及び師子座は殊に勝れ、諸の菩薩の身及び師子座に百倍せり、唯如來の處したまふ所の座をば除く。

爾の時に如來性起妙德菩薩、普賢菩薩摩訶薩に問うて言はく、

『佛子よ、佛の顯現したまふ所の大威神力は、不可思議なり、是れ何の瑞相ぞや。』

爾の時に普賢菩薩摩訶薩、如來性起妙德菩薩に答へて言はく、

『佛子よ、我惟忖するが如くんば、我が見たてまつりし所の過去の如來應供等正覺の如きは、大光明を放ちたまひては、必ず如來性起の正法を說きたまひき。是の故に、今、佛、大光明を放ちて、自在力を顯はしたまふは、必ずや如來性起の正法を說きたまふなるべし。』

時に如來性起妙德菩薩、如來性起の正法の名を聞き已りて、一切の大地六種に震動し、無量の論難の光明を出生せり。

（八）爾の時に如來性起妙德菩薩、普賢菩薩摩訶薩に問うて言はく、

『佛子よ、云何んが菩薩摩訶薩は、如來應供等正覺の性起の正法を知る

【八】次に請問を叙し、說者の德を歎じて、說法せんことを請ふ。

や、佛子よ、無數億那由他の菩薩摩訶薩の清淨なる衆會は、善學して清淨の諸行を修行し、念慧成就し、諸佛莊嚴して彼岸を究竟し、佛の威儀に住し、如來の行を具へ、諸佛を正念して未だ曾て散亂せず、大悲をもつて一切の衆生を觀察し、決定の智慧をもつて菩薩の諸の妙神通を分別し、佛の神力を得、一切諸佛の功德に安住せり。是の如き無量の功德を成就したる諸の大菩薩は、皆來りて集會せり。㊇仁者は、曾て無量億那由他の佛の所に於て恭敬し供養して諸の善根を種ゑ、菩薩の無上なる妙行を成就し、諸の三昧門は皆自在なることを得、深く一切如來の祕密に入り、諸佛の法に於て衆の疑惑を除き、深く佛法に入り、善く一切衆生の諸根を知り、衆生の性に隨ひて爲めに法を說き、佛智に隨順して一切の佛法を分別し演說し、彼岸を究竟せり。是の如き等の無量の功德を成就せり。善い哉、佛子よ、願はくは爲めに如來性起の正法を說きたまへ。」

爾の時に如來性起妙德菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、普賢菩薩に向ひ、偈を以て頌して曰はく、

「善い哉無礙の智をもつて、一切の法を覺悟し、平等の慧を具足して、
佛の無量の境を說きたまへ、諸の佛子聞き已らば、心皆大いに歡喜せん。

㊈願はくは時に爲めに、如來性起の法を敷演したまへ。

【九】次に正しく十門の性起を請問す、初めの二句は總じて性起の正法を請問し、以下別して、身業、語業、意業、所知の境界、所行の行、所得の果、轉法輪、所入の涅槃、及び見聞敬養の益を請問す。

何等か如來身なる、清淨なる妙音聲なる、云何んが如來心、及び無量の境界なる、何等の法を修習してか、速かに等正覺を成じたまへる、何等か如來の行、及び諸佛の菩提なる、云何んが法輪を轉ずる、清淨妙勝の法なる、願はくは爲めに分別して、善逝の涅槃の法を說きたまへ。

(一〇) 佛子等聞き已りて、歡喜の心無量にして、十方の衆生類は、皆諸の法王を見て、佛を恭敬し供養したてまつり、彼に於て善根を種ゑん。

若し諸佛を見たてまつりて、恭敬して善根を種うること有らば、功德の藏無量ならん、願はくは爲めに分別して說きたまへ。

若し一切、如來の名號と、十方の現在佛と、及び已に涅槃したまへる、無盡の功德藏とを聞くこと有らんに、名を聞きて歡喜せん者は、彼何等の利をか得る、哀愍をたれ分別して說きたまへ。

(一一) 清淨なる眞の佛子よ、願はくは爲めに廣く敷演して、深境界と、無量の功德海とを分別したまへ。

一切諸の菩薩は、皆一心に合掌し、恭敬して善逝を見たてまつり、仁と兼ねては我をも瞻ん。

巧なる語と微妙の音とをもつて、願はくは眞實の義を說き、諸の疑惑を除滅したまはば、清淨な

【一〇】次の四頌半は第十の見聞敬養の益を請問す。
【一一】以下は德を歎じ說を勸むることを明かす。

ること虛空の如くならん。
因緣及び譬喩をもつて、我が爲めに分別して說きたまへ、無量の衆聞き已りて、皆菩提心を發さん。
一切諸の如來の、相好莊嚴の身も、十方の國に充滿して、方便をもつて衆生を度し、
微妙の音聲を出だして、無量の法を演說し、因喩は應化に隨ひて、佛の菩提を示悟したまへり。
十方一切界の、無量の佛刹の中に、稱說す可からざる劫にも、是の會は甚だ見難し。
此の如き大衆の集れる、淸淨なる諸の佛子は、無量億劫の中にも、見難く亦聞き難し。
是の故に眞の佛子よ、願はくは微妙の義を說きて、廣くして無量なる、如來の性起の法を顯現したまへ。
一切諸の菩薩は、皆一心に合掌して、大乘を渴仰す、願はくは甘露の法を雨らしたまへ。』

〔二二〕爾の時に普賢菩薩摩訶薩、如來性起妙德菩薩等の諸大衆に告げて言はく、

〔二三〕『佛子よ、如來應供等正覺の性起の正法は思議す可からず。所以は何ん。小因緣にて等正覺を成じ世に出興したまふに非ざればなり。佛子よ、十種の無量無數なる百千阿僧祇の因緣を以て、等正覺を成じ世に出興したまへり。何等をか十と爲す。一には無量の菩提心を發して一切の衆生を捨てず。

【二二】以下當品の正說にして、前の十問に答ふるに十段あり、各段に長行と偈頌とあり。
【二三】第一、性起の正法を答ふ、是れ即ち總門にして餘の九は別門なり。

二には過去無數劫に諸の善根を修したる正直の深心なり。三には無量の慈悲をもつて衆生を救護す。四には無量の行を行じて大願を退かず。五には無量の功德を積みて心に厭足無し。六には無量の諸佛を恭敬し供養して衆生を敎化す。七には無量の方便智慧を出生す。八には無量の諸の功德藏を成就す。九には無量の莊嚴智慧を具足す。十には無量なる諸法の實義を分別し演說す。佛子、是の如き等の十種の無量無數なる、百千阿僧祇の法門をもつて等正覺を成じ、世に出現したまへり。

（二四）佛子よ、譬へば三千大千世界の、少因緣にて成るに非ず、無量の因緣を以て、乃ち能く成ずることを得たるが如し。所謂る大雲は雨を興し、大雨に因るが故に四の風輪を起す。何等をか四と爲す。一に名けて持と曰ひ、能く大水を持す。二に漸消と名け、漸く大水を消す。三に名けて起と曰ひ、諸の處所を起す。四に莊嚴と名け、三千大千世界の衆生の業報を莊嚴す。是の如きの四種は皆衆生の業報、及び諸の菩薩の善根の起す所なり。佛子よ、是の如き等の無量の因緣にて、乃ち三千大千世界を成ず。法是の如くなるが故に、作者有ること無く、亦成者も無し。如來應供等正覺も亦復た是の如く、少因緣にて成るに非ず。無量の因緣を以て等正覺を成じ世に出興したまふ。所謂る、菩薩摩訶薩は、曾て過去の無量の佛の所に於て、正法の甘露の大雨を聞受し、是に因りて能く如來の四種の智慧風輪を起せり。何等をか四と爲す。一には正念、陀羅尼を持して、未だ曾て如來の大智の風輪を忘失

【二四】以上は法に約して略說し以下譬喩に就て廣陳す、一に大千界興造の喩、佛の業緣合して起る性起の德を顯はす。

せず、能く如來の一切法雨を持す。二には止觀、如來の大智の風輪は、悉く能く一切の煩惱を消滅す。三には善回向、如來の大智の風輪は一切の功德の善根を成就す。四には離垢の諸の莊嚴法を出生す。如來の大智の風輪は、皆衆生の諸根をして淸淨にして相好莊嚴ならしむ。如來の無漏の善根の成ぜし所は、法是の如くなるが故に、作者有ること無く、亦成者も無し。◎佛子、是は爲第一最勝の法門にして、等正覺を成じ、世に出興したまふ。菩薩摩訶薩は應に是の如く知るべし。

（二五）復た次に佛子よ、譬へば三千大千世界の成る時に、大雲雨を降らすを名けて洪澍と曰ひ、一切の世界も容持すること能はざるが如し。大千世界の初始めて成ずる時をば除く。◎如來應供等正覺も亦復た是の如し。世に出興して如來の性起の法雨を演說したまひ、一切の聲聞緣覺も受持すること能はざるなり。諸力を成就せる菩薩摩訶薩をば除く。◎佛子、是は爲第二の因緣にして等正覺を成じ、世に出興したまふ。菩薩摩訶薩は應に是の如く知るべし。

（二六）復た次に佛子よ、譬へば衆生の業報にて、大雲雨を降らすも、從來する所無く、去るも所至無きが如し。◎如來應供等正覺も亦復た是の如く、諸の菩薩の善根力を以ての故に、如來の性起の法雨を演說するも、從來する所無く、去るも所至無し。佛子是は爲第三の因緣にして等正覺を成じ、世に出興したまふ。菩薩摩訶薩は應に是の如く知るべし。

【二五】二に、洪澍大千の喩、佛の深廣難知の德を顯はす。
【二六】三に、大雨無從の喩、性起は緣によりて去來なきことを顯はす。

（一七）復た次に佛子よ、譬へば大雲の雨を降らすに、大千世界の一切衆生も、能く數を知る無きが如し。若し算計せんと欲せば、心を狂亂せしめん。大千世界の主なる摩醯首羅天の、乃至一滴をも知らざること無き者をば除く。本の善根の果報の力を以ての故なり。◎如來應供等正覺も亦復た是の如し。世に出興して、如來の性起の甘露の法雨を説きたまふも、一切の衆生、聲聞緣覺の知ること能はざる所なり。若し思量せんと欲せば、心を狂亂せしめん。一切の世界の主たる菩薩摩訶薩の、乃至一句一味をも悉く分別して知るものをば除く。過去の佛の所に於て地力を修せしが故なり。佛子、是は爲第四の因緣にして等正覺を成じ、世に出興したまふ。菩薩摩訶薩は應に是の如く知るべし。

（一八）復た次に佛子よ、譬へば大雲の雨を降らし、滅熾然と名け、或は能起と名け、或は能壞と名け、或は成寶と名け、或は分別大千世界と名くるが如し。◎如來應供等正覺も亦復た是の如し。世に出興して正法の雨を雨らす。名けて除滅と曰ひ、衆生の煩惱の盛火を除滅す。或は法雨有り、名けて能起と曰ひ、能く衆生の一切の善根を起す。或は法雨有り、名けて能壞と曰ひ、能く衆生の諸の惡邪見を壞す。或は法雨有り、名けて成寶と曰ひ、能く衆生の一切の智寶を成ず。或は法雨有り、名けて分別と曰ひ、衆生の心心の所行を分別す。◎佛子、是は爲第五の因緣にして等正覺を成じ、世に出興したまふ。菩薩摩訶薩は應に是の如く知るべし。

【一七】四に、大雨難知の喩、佛の性起は大機のみ能く堪受する德を顯はす。

【一八】五に、大雨成敗の喩、佛の惑を滅し智德を成ずることを顯はす。

（一九）復た次に佛子よ、譬へば大雲の一味水を雨らすも、其の雨ふる所に隨ひて、差別有るが如し。如來應供等正覺も亦復た是の如し。大悲一味の法雨を雨らすも、應化する所に隨ひて種種の不同あり。佛子よ、是は爲第六の因緣にして等正覺を成じ、世に出興したまふ。菩薩摩訶薩は應に是の如く知るべし。

（二〇）復た次に佛子よ、譬へば、三千大千世界の初始めて成ずる時に、先づ色界の諸天宮殿を成じ、次に欲界の諸天宮殿を成じ、次に人處及び餘の衆生の所住の處を成ずるが如し。如來應供等正覺も亦復た是の如し。世に出興したまひて、先づ菩薩の諸行智慧を起し、次に緣覺聲聞、及び餘の衆生の一切の善根を起す。佛子よ、譬へば大雲は一味水を雨らすも、諸の衆生の善根力に隨ふが故に、種種の宮殿を起すが如し。如來の大悲一味の法水も、衆生の器根の不同なるに隨ふが故に、法雨に差別あり　佛子、是は爲第七の因緣にして等正覺を成じ、世に出興したまふ。菩薩摩訶薩は應に是の如く知るべし。

（二一）復た次に佛子よ、譬へば世界初始めて成ずる時の如し。大水輪有りて三千大千世界に徧滿す。世界に滿ち已りて大蓮華を生じ、如來性起と名け、諸の功德の寶を以て莊嚴と爲し、徧く三千大千世界を覆ひ、光、十方一切の國土を照す。時に摩醯首羅、淨居天等、蓮華を見已りて、卽ち決定して蓮

【一九】六に、一雨隨別の喩、佛の一味隨器の德を顯はす。
【二〇】七に、二喩あり、初は先成色界の喩、これ佛の勝緣先濟の德を顯はす。後の喩は疑を釋す。
【二一】八に、二喩あり、一は蓮華表佛の喩、二は風輪起處の喩、佛の大事を成辦する德を顯はす。

華の敷くが如く、諸佛世に出興したまふことを知る。佛子よ、爾の時に風輪の起る有りて淨光明と名け、能く色界の諸天宮殿を成ず。又風輪の起るを、淨莊嚴と名け、能く欲界の諸天宮殿を成ず。又風輪の起るを不可壞と名け、能く大小の圍山、及び金剛山を成ず。又風輪の起るを名けて勝高と曰ひ、能く須彌山王を成ず。又風輪の起るを、名けて不動と曰ひ、能く十種の大山を成ず。何等をか十と爲す。所謂る・芭蕉山・仙人山・伏魔山・大伏魔山・持劫山・黑山・目眞鄰陀山・摩訶目眞鄰陀山・香山・雪山なり。又風輪の起るを、名けて安住と曰ひ、能く大地を成ず。又風輪の起るを、名けて莊嚴と曰ひ、能く地天の宮殿、乾闥婆の宮殿を成ず。又風輪の起るを、無盡藏と名け、能く三千大千世界海を成ず。又風輪の起るを、明淨藏と名け、能く大千世界の珍寶を成ず。又風輪の起るを、堅固根と名け、能く一切の如意珠を成ず。佛子、是は爲大雲一味水を雨らすも、衆生の善根果報力を以ての故に、法是の如くなるが故に、種種の風輪を起す。風輪に差別あるが故に、大千世界の形類同じからず。如來應供等正覺も亦復た是の如く、世に出興したまふに、諸の善根を具ふ。光明有り、無上大智と名け、如來の性起不思議の智を斷たず、普く十方の世界を照し。一切の菩薩に如來の記號を授け、等正覺を成じて世に出興したまふ、又能善く一一の佛の所に幾くの菩薩の功德を成就するもの有るやを知りたまふ。復た光明有り、離垢淨如來の大智と名け、能く如來の無漏の無生智を成ず。復た光明有り、名けて普照如來の大智と曰ひ、能く如來の不可思議なる法界智を成ず。復た光明有り、持佛性如來の大智と名け、

能く如來の不動なる諸力を成ず。復た光明有り、無壞最勝如來の大智と名け、能く如來の無所畏智を成ず。復た光明有り、一切明如來の大智と名け、能く如來の堅固にして不退なる一切種智を成ず。復た光明有り、出生變化如來の大智と名け、能く諸の如來を見聞し恭敬し供養する者をして、善根を虛しからざらしむ。復た光明有り、善隨順至如來の大智と名け、能く如來の無盡の功德智慧・清淨の法身を成じて、衆生を饒益す。復た光明有り、不可究竟如來の大智と名け、能く如來甚深の妙智を成じて三寶を斷せず。復た光明有り、種種莊嚴如來の大智と名け、能く如來の相好嚴身を成じ、一切の衆生をして皆悉く歡喜して一切智を得せしむ。復た光明有り、不可壞如來の大智と名け、能く如來の法界虛空界に等しき、窮盡有ること無き殊勝の壽命を成ず。佛子よ、如來の大悲一味の水は、諸の菩薩の善根力を以ての故に、及び餘の衆生の根に差別あるが故に、法是の如くなるが故に、如來の智慧は應化同じからず。佛子よ、如來性起の正法は、一切如來の平等なる智慧の光明の起す所、一切如來の一味の智慧は、無量無邊の功德を出生す。衆生念言へらく「此の諸の功德は如來の造りたまふ所なり」と。佛子、此れ如來の神力の造る所に非ず。佛子よ、乃至一りの菩薩も、佛の所に於て曾て善根を種ゑずして、能く如來の少分の智慧を得んは、是の處有ること無し。但諸佛は一切の群生の爲めに、善知識と作るを以て、衆生此に依りて大智慧を得、作法有ること無く、亦作者無し。佛子、是は爲第八の因緣にして等正覺を成じ、世に出興したまふ。菩薩摩訶薩は應に是の如く知るべし。

（三一）復た次に佛子よ、譬へば四の風輪有り虚空に依りて住し、能く水輪を持す。何等をか四と爲す。所謂る、安住と、不動と、常住と、堅固と、是を名けて四と爲し、能く水輪を持す。水輪は能く大地を持して敗壞せざらしむ。是の故に大地は水輪に依り、水輪は風輪に依り、風輪は虚空に依ると說けり。虚空には所依無し、虚空は所依無しと雖も、能く三千大千世界をして、而も安住することを得しむるが如し。◎如來應供等正覺も亦復た是の如し。如來は四種の無礙大智の風輪を起すに依りて、能く一切衆生の善根を持す。何等をか四と爲す。所謂る衆生を攝取して皆歡喜せしむる大智の風輪、諸法を分別して、衆生をして樂ひ求めしむる大智の風輪、衆生の一切の善根を守護する大智の風輪、決定して無漏の法界を了知する大智の風輪なり。是を四種の大智の風輪と名く。大慈は衆生の歸依と爲り、大悲は衆生を度脫し、大慈大悲は衆生を饒益す、大慈大悲は方便智に依り、大方便の智は如來に依る、如來には所依無くして、無礙の慧光は普く十方一切の世界を照す。佛子、是は爲第九の因緣にして等正覺を成じ、世に出興したまふ。菩薩摩訶薩は應に是の如く知るべし。

（三二）復た次に佛子よ、譬へば大千世界成じ已りて、種種に無量の衆生を饒益し、水性の衆生は水の安樂を得、陸地の衆生は地の安樂を得、宮殿の衆生は宮殿の安樂を得、空中の衆生は空の安樂を得るが如し。◎如來應供等正覺も亦復た是の如し、世に出興して、種種に一切の衆生を饒益したまふ。如來を

【三一】 九に、四輪相依の喩、佛の體用依持の德を顯はす。

【三二】 十に、大千饒益の喩、佛世に興りて衆生を利益することを顯はす。

見聞して踊躍歡喜し、諸の善根を修し、尸羅に住する者は、佛戒の樂を得。四禪四無量に住する者は、聖無上智明の樂を得。法門に住する者は、眞實の樂を得。照明に住する者は淨智の樂を得。是の如き等の無量の法門は、種種に一切衆生を饒益す。佛子よ、是は爲第十の因緣にして等正覺を成じ、世に出興したまふ。菩薩摩訶薩は應に是の如く知るべし。

〔二四〕佛子よ、菩薩摩訶薩は、又復た應に知るべし、如來の性起の正法は、功德無量なり、行無量なるが故に。十方に充滿す、來去無きが故に。生住滅を離る、行有ること無きが故に。心意識を離る、身有ること無きが故に。性虛空の如し、悉く平等なるが故に。一切の衆生には我我所無し、盡くること有ること無きが故に。一切の刹は無盡なり、轉ずること有ること無きが故に。未來際を斷せず、退有ること無きが故に。如來の智は無礙にして無二なり、平等に有爲無爲を觀察するが故に。平等に正覺して衆生を饒益す、本行を回向して自在滿足するが故なり。』

爾の時に普賢菩薩、重ねて此の義を明かさんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

〔二五〕『一切の衆諦かに聽け、如來の十力の法は、一切諸の世間にて、最勝にして上有ること無く、

悉く無等と等しく、亦虛空と等しく、功德等しき者無く、境界は量

【二四】此の一段は法に據りて通結す。

【二五】總じて六十五頌あり、前の二十八頌は甚深なることを歎じて說を許し、初めの總答を頌す、中に於て初めの二偈は總じて佛德の深廣にして量り

る可からず。

(一)一切諸の如來の、功德は量有ること無く、諸の餘の衆生類は、能く思議する者無し。
如來の一法門は、一切諸の群生、無量億劫の中に、思量すとも盡すこと能はず。

(二)十方の諸佛の刹を、盡く抹して微塵と爲し、人有り能く計算して、悉く其の數を了知すとも、
彼の人無量劫に、諸の如來の、一毛の功德を算數せんに、能く少分をも知ること莫けん。

(三)譬へば一士夫の、能く虛空界を量り、又第二の士夫、隨ひ算して量數を知るが如し。
億無數劫に於て、空を算量せば盡す可くとも、如來の諸の功德は、窮盡することを得可からず。

(四)譬へば士夫有りて、能く一念の中に於て、三世の衆生の、心心の所行を數ふるが如し。
衆生數に等しき劫に、之を數へば猶ほ盡す可くとも、如來の無量の德は、其の數盡す可からず。

(五)譬へば諸の法界の、分際不可得にして、一切も一切に非ず、見に非ず取る可からざるが如し。
是の如く諸の如來の、境界は盡す可からず、一切も一切に非ず、法界に窮盡無し。

(六)譬へば如如の性の、虛妄を離れ寂滅にして、亦生有る者無く、亦滅有る者無きが如し。

難きことを顯はし、次の二十偈は二偈各一德を顯はし、初は喩後は法なり、一は難思の德、二は無限德、三は廣大の德、四は無量の德、五は甚深の德、六は離相の德、七は無礙の德、八は性淨の德、九は無比の德、十は體用の德なり。或は又此の十義は前の結文十句を頌すと云ふ。

是の如く諸の如來、及び一切の境界は、亦如如の性に同じく、不增にして亦不滅なり。
（七）譬へば未來際は、眞實の際に際無く、三世の性自ら離れ、眞實に不可得なるが如し。
等正覺も是の如く、境界も亦復た然なり、一切三世の中に、通達して障礙無し。
（八）諸法に變易無し、性空にして無作なるが故に、垢を離れて染汚無く、其の性虛空の如し。
（九）一切諸の如來の、清淨の性も亦然なり、一切の性は無性にして、有に非ず亦無に非ず。
正法の性は、一切の語言道を遠離し、一切の趣は趣に非ず、皆悉く寂滅の性なり。
一切諸の如來の、境界も亦是の如く、語言の道を遠離し、譬喩を爲す可からず。
（十）諸佛の覺悟したまふ法は、性相皆寂滅なり、鳥の空中を飛びて、足跡を得可からざるが如し。
無量の大願の果は、淨き色身を成就し、十力の功德を具へ、大神變を示現す◎

（二六）如來の甚深の法を、若し知らんと欲する者有らば、應當に其の意を淨くすること、猶は虛空の如くすべし。
虛妄の想と、及び邪見顚倒とを遠離し、清淨の道を修習せば、究竟じて淨意を得ん。
（二七）是の故に諸の佛子よ、一心に善く諦聽せよ、諸の善逝の境界をば、我當に少分を說くべし。
一切諸の十力の、功德は數ふ可からず、群生を覺悟せんが故に、我今少しく演說せん。

【二六】次の二偈は能知の淨を顯はす。
【二七】次の四偈は聽を誡め說を許す。

一切諸の導師の、清淨の身業と、口業及び意業とを起し、境界悉く清淨なると、
如來の深境界と、清淨の妙法輪と、涅槃と諸の善根とを、我當に分別して說くべし。
(二八)(一)譬へば大千界の、國土初めて成ずる時、是れ少因緣の、能く世界を成ずるに非ず。
無量の方便力と、一切の因緣とは、三千大千世界を起して、諸の群生を安置するが如し。
是の如く諸の最勝の、如來性起の法は、無量の功德藏にして、一切能く知る莫し。
十方諸の世界を、皆抹して微塵と爲し、諸の微塵を算數し、及び衆生の心を知らんに、
微塵の衆生心は、猶尙數を知る可くとも、一切諸の十力の、功德は知る可からず。
譬へば重雲に因りて、能く大雨を澍ぎ降らし、四種の風輪起りて、能く三千界を成じ、
衆生の諸の善根と、菩薩の功德力とにて、三千世界起り、衆生類を安置するが如し。
如來も亦是の如く、因緣の法雲にて、大智慧の風輪と、離垢清淨の意とを起し、
一切諸佛の所にて、諸の善根を修習し、回向して衆生に與へ、速かに等正覺を成ぜしむ。
(二)譬へば虛空の中の、雲雨を洪澍と名け、一切諸の世界に、受持するに堪ふる者無きが如し。
三千大千、世界の初めて成ずる時、動かす可からざる風輪の、虛空界に依止するをば除く。
如來も亦是の如く、初め等正覺を成じ、十方の一切界に、法雲の大雨を降らし、

【二八】以下三十七偈は別して次第の如く前の十喩を頌す。

勝法界に充滿するも、能く持するもの有ること無し、唯諸の大菩薩の、無量の德を成就せるもののみ(能く之を受持す)。

(三)空中に雲雨を興すも、無作にして造者無く、本より從來する所無く、去るも亦所至無し。
如來も亦是の如く、法雲甘露を雨らすも、本より從來する所無く、去るも亦所至無し。

(四)譬へば大雲雨の、能く數ふる者有ること無く、唯摩醯首羅のみ、悉く能く分別して知るが如し。
一切諸の菩薩は、無量の行を修習し、應に化を受くべき所に隨ひて、彼の爲めに正法を雨らす。
善逝も亦是の如く、無量の法雨を雨らして、諸の佛刹に充滿するも、能く數ふる者有ること無し。
唯無上の法王なる、一切世界の主のみ、悉く能く分別して知り、掌中の寶を觀るが如し。

(五)應に滅すべきは能く寂滅し、應に起るべきは能く起らしめ、諸の邪見を除滅して、功德の寶を長養す。
如來は正法を雨らして、諸の煩惱を除滅し、數ふ可からざる、無量の諸善根を出生し、

(六)正見を修習して、諸の顚倒を遠離し、一切諸の最勝は、深く功德の寶を解る。
譬へば虛空の中に、普く一味の水を雨らすも、衆生の果報力にて、起す所の物同じからざるが如し。
如來は正法を雨らすに、大悲の一味水なるも、應に化を受くべきに隨ふが故に、種種に差別して說く。

(七)世界初めて成ずる時は、先づ色界の宮を起し、復た欲界天に於て、次第に宮殿を起し、

次に復た人間に於て、各各住處を造り、然る後に次第に、乾闥諸龍の處を起す。
如來も亦是の如く、始めて等正覺を成じ、初めに菩薩の行を起し、次に緣覺乘を成じ、
又心自在の、一切諸の聲聞を化し、然る後に衆生をして、諸の善根を修習せしむ。
（八）清淨の蓮華を見て、諸天は佛の出でたまふことを知り、雨に因りて能く風を起し、風は能く世界を起す。
如來は光明を放ちて、佛菩薩を分別し、能く智慧輪を起して、諸佛の法に通達せしむ。
（九）水は風輪に依りて住し、地は水輪に依り、衆の寶樹は地に依るも、虛空には依る所無し。
智輪は如來に依り、慈悲は智慧に依り、功德は方便に依るも、法身は依る所無し。
（十）譬へば大地起りて、諸の衆生を饒益し、水陸の群萠の類は、各各安樂を得、
虛空に依る衆生、及び欲色の諸天、二足四足等の、一切悉く饒益せらるるが如し。
法王も亦是の如く、世間に出興したまひて、一切の衆生をして、皆悉く饒益を得しむ。◎
（三九）若し人見聞し、恭敬し供養する者有らば、諸の煩惱を除滅し、深く
如來の法を解らん。
如來性起の法は、世間能く知る莫し、我が說く所の少分は、衆生を饒益せんが故なり。」

【三九】後の二偈は利益を歎じて說を結す。

卷の第三十五

寶王如來性起品第三十二の二

(一)爾の時、普賢菩薩摩訶薩、諸の菩薩に告げて言はく、

『佛子よ、云何んが菩薩摩訶薩は、如來應供等正覺を知見せん。此の菩薩摩訶薩は如來の具足し成就せる無量の功德を知見す。何を以ての故に。如來應供等正覺は、一法、一行、一身、一刹にて、一衆生を化するに非ざるが故なり。此の菩薩摩訶薩は、如來の具足し成就せる無量の法と、無量の行と、無量の身と、無量の刹と、一切の衆生を教化するとを知見するが故なり。

(二)佛子よ、譬へば虛空の一切の色處、非色處に、處として至らざること無く、而も至るに非ず至らざるに非ざるが如し。何を以ての故に。虛空には形色無きが故なり。如來の法身も亦復た是の如く、一切處、一切刹、一切法、一切衆生に至るも、而も所至無し。何を以ての故に。諸の如來の身は、是れ身に非ざるが故に、應化する所に隨ひて其の身を示現す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の初入の勝行門にして如來を知見す。

【一】第二、性起の身業を明かす。

【二】以上は法に約して總顯し以下別して十喩を擧げ、如來性起の十身を辨ず。一に虛空周遍の喩、是れ佛の無邊周普身を顯はす。

㊂復た次に佛子よ、譬へば虛空の彌廣くして、悉く能く一切の衆生を容受し、而も染著無きが如し◎如來の法身も亦復た是の如く、一切衆生の世間の善根と離世間の善根とを照すも、亦染著無し。何を以ての故に。如來の法身は、一切の染著に於て悉く已に斷じたるが故なり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第二の勝行にして如來を知見す。

㊃復た次に佛子よ、譬へば日の世間に出でて無量の事を以て、衆生を饒益するが如し。所謂る闇冥を滅除し、一切の山林・藥草・百穀・卉木を長養し、冷濕を消除し、空を照して虛空の衆生を饒益し、池を照せば則ち能く蓮華を開敷し、普く悉く一切の色像を照現し、世間の事業皆究竟することを得。何を以ての故に。日は能く普く無量の光を放つが故なり◎如來身の日も亦復た是の如く、無量の事を以て普く能く一切の衆生を饒益す。所謂る衆惡を除滅して善法を長養し、慧光普く照して一切衆生の闇冥を除滅し、大慈の饒益は衆生を救護し、大悲の饒益は一切を度脫し、正法の饒益は一切の根力覺意を長養し、堅信の饒益は心の垢濁を除き、見法の饒益は因緣を壞せず、天眼の饒益は悉く衆生の此に死し彼に生ることを見、離害の饒益は衆生の一切の善根を壞せず、慧光の饒益は一切衆生の心華を開敷し、發心の饒益は一切の菩薩の所行を究竟す。何を以ての故に。如來身の日は普く一切の慧の光明を放つが故なり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第三の勝行にして如來を知見す。

【三】二に虛空離染の喩、如來の周遍無著の身を顯はす。

【四】三に日光饒益の喩、如來の大用成盛の身を顯はす。

(五)復た次に佛子よ、譬へば日出でて先づ一切の諸大山王を照し、次に一切の大山を照し、次に金剛寶山を照し、然して後に普く一切の大地を照すも、日光は是の念を作さず、「我當に先づ諸大山王を照し、次第して乃至、普く大地を照すべし」と、但彼の山地に高下有るが故に、照すに先後有るが如し。如來應供等正覺も亦復た是の如く、無量無邊の法界の智慧日輪を成就して、常に無量無礙の智慧の光明を放ち、先づ普賢菩薩摩訶薩等の諸大山王を照し、次に緣覺を照し、次に聲聞を照し、次に決定善根の衆生を照し、應に隨ひて化を受けしめ、然して後に悉く一切の衆生を照して、乃し邪定に至り、爲めに未來の饒益の因緣を作す。如來の智慧の日光は是の念を作さず、「我當に先づ菩薩を照し、乃し邪定に至るべし」と、但大智の光を放ちて普く一切を照すのみ。佛子、(六)譬へば日月の世間に出現して、乃し深山幽谷に至るまでも、普く照さざること無きが如し。如來の智慧の日月も亦復た是の如く、普く一切を照して明了ならざること無し。但衆生の希望・善根に不同あるが故に、如來の智光は種種に差別せり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第四の勝行にして如來を知見す。

(七)復た次に佛子よ、譬へば日世間に出づるも、生盲の衆生は未だ曾て覩見せず。何を以ての故に。肉眼無きが故なり。佛子よ、此の生盲の衆生は日を見ずと雖も、亦日光の饒益する所と爲る。日光に因るが故に、飲食資生の衆具を得、冷濕を消除し、體を輕輭ならしめ、風寒痰癊の諸患は悉く除こり

【五】四に二喩あり、初は日光等照の喩、佛の平等應機の身を顯はす。

【六】此の喩は疑を釋す。

【七】五に日照生盲の喩、如來の潛光密用身を顯はす。

て、安隱快樂なるが如し。如來の慧日の世間に出現するも亦復た是の如し、一切の邪見・犯戒・無智・邪命の生盲の衆生は、未だ曾て佛の智慧日の光を覩ず。何を以ての故に。信心の眼無きが故なり。佛子よ、生盲の衆生は如來の智慧日の光を見ずと雖も、然も此の衆生も亦如來の智慧日の光の饒益する所と爲り、四大の一切諸苦を除滅し、身體安樂にして、一切の煩惱毒痛の根本を斷つ。佛子よ、如來に光有り、名けて一切功德の積聚と曰ふ。復た光明有り、普く一切を照すと名く。復た光明有り、名けて清淨にして自在に普く照すと曰ふ。復た光明有り、大妙音を出すと名く。復た光明有り、普く一切諸の語言の法を照すと名く。復た光明有り、自在に一切の疑惑を除滅すと名く。復た光明有り、無依にして普く照すと名く。復た光明有り、智慧自在にして一切境界の虛妄を除滅すと名く。復た光明有り、諸乘を分別して其の所應に隨ひて大妙音を出だすと名く。復た光明有り、名けて圓滿にして自在なる音聲は諸刹を莊嚴し、悉く衆生をして皆清淨なるを得しむと曰ふ。佛子よ、如來の一一の毛孔より、是の如き等の千種の光明を放ち、五百の光明は普く下方を照し、五百の光明は普く上方を照す。菩薩摩訶薩は各其の刹の諸の如來の所に於て、此の光を見已りて、彼の諸の菩薩は、卽時に清淨の十頭・十眼・十耳・十鼻・十舌・十身・十手・十足・十地・十智を具足せり。彼の諸の菩薩は、菩薩の行地に因りて得し所の諸入は、皆悉く清淨にして、善根と一切種智とを成就せり。聲聞緣覺も皆悉く一切の煩惱を除滅し。少智の生盲の衆生も、身體柔輭にして安隱快樂となり、離垢清淨にして諸根を調伏し、四

念處の法を具足し成就せり。地獄・餓鬼・畜生の惡道の衆生も、衆苦悉く除こりて皆安隱なることを得、身壞し命終りては、人天の中に生る。彼の諸の衆生は何の因緣、何の威神力を以て、來りて此の閒に生れしやを知らず覺らず。彼の生盲の者は、唯是の念を作すのみ、「我は是れ梵天なり、我は是れ梵化なり」と。爾の時に如來は、普自在三昧に安住し、八種の如來の妙音を演出して衆生に告げて言はく、「汝等衆生は、是れ梵天に非ず、亦梵化に非ず、佛の神力を蒙るが故に、此の閒に生るることを得たり」と。彼の諸の衆生は、佛の神力の故に、卽ち宿命に經し所の惡道より來りて、此の閒に生れたることを識り、皆大いに歡喜せり。大いに歡喜し已りて、各優曇華雲・香雲・娛樂雲・一切衣雲・蓋雲・幢雲・末香雲・妙寶雲・師子幢雲・半月樓閣雲・讚歎莊嚴具雲を持して、如來の所に詣り、奉獻し供養したてまつれり。何を以ての故に。佛の神力を蒙りて、慧眼開明したればなり。如來は卽ち彼の諸の衆生に、阿耨多羅三藐三菩提の記を授けたまへり。佛子、當に知るべし、如來の慧日に生盲の衆生を饒益し、善根を長養し具足し成就す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第五の勝行にして如來を知見す。

〔八〕復た次に佛子よ、譬へば滿月に、四の奇特未曾有の法有り。何等をか四と爲す。一切の星宿の光明を映蔽し。增減を示現し。閻浮提の一切の淨水に於て、影現せざること無く。一切の衆生觀見する者有れば、皆悉く面に對するが如し。如來の法身も亦復た是の如く、四の奇特未曾有なる法有り。何等をか四と爲す。一切の聲聞緣覺、學無學

【八】六に月光奇特の喩。如來の圓融自在の身を顯はす。

の法・功德の星宿を映蔽し、其の所應に隨ひて壽命の修短同じからざることを示現し。法身常に住して、未だ曾て增減せず。影は一切世界の淨心の衆生の菩提器の中に現じ。所聞の法に隨ひ、解脫地に隨ひ、應に化を受くべき者は、一切皆、如來前に現じたまふと謂ふ。其の實、法身には彼此有ること無くして、佛事を究竟す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩第六の勝行にして如來を知見す。

(九)復た次に佛子よ、譬へば三千大千世界の大梵天王は、少しく方便を以てすれば大千世界の一切の衆生は、各梵王は己が前に現在することを見るも、亦分身せず、種種の身無きが如し。佛子よ、如來も亦復た是の如く、亦身を分たず、種種の身無くして、一切の衆生に於て、應化する所に隨ひて其の身を示現し、未だ曾て彼此の若干の衆生に示現せりとの念を生ぜず。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第七の勝行にして如來を知見す。

(一〇)復た次に佛子よ、譬へば大醫王の善く衆藥と、對治の法とを知り、一切の方論を、皆悉く明練す。彼の大醫王は閻浮提の中の一切の藥草にして、若し其の前に現せば、悉く能く識別せん。彼の大醫王の宿善根の力なり。又能く明かに諸の方論を了るが故に、悉く能く一切の衆病を療治す。彼の大醫王の命終の時に臨んで、是の如きの念を作さく、「我命終の後は、一切衆生歸依する所無けん、是の故に我應に巧方便を現ずべし」と。爾の時に醫王は藥を以て身に塗り、呪術にて自ら持し、我命終の後

【九】七に梵身普應の喩、佛の一多無礙の身を顯はす。

【一〇】八に醫王巧術の喩、佛の無思成事の身を顯はす。

も、身乾燥せず又散壞せずして、猶ほ能く身の四威儀を具足し、行住坐臥に醫王の事を行じて、衆病を療治し、本と異ること無からしめんが如し。如來應供等正覺の無上の醫王も、亦復た是の如く、善能く諸の對治法を明了し、悉く能く一切衆生の諸の煩惱の病を除滅し、無量億那由他劫に善根を修習し、般若波羅蜜を究竟じて彼岸に到る。善く方便の藥塗呪持を擧し、如來、昔に於て先づ善く菩薩の行地に安住し、般若波羅蜜の巧妙なる方便の藥呪の力にて、壽命を住持す。如來は少しの方便を以て、佛事を施作し、衆生を救護して煩惱を除滅す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第八の勝行にして如來を知見す。

（二）復た次に佛子よ、譬へば大海に摩尼寶有り、普照明淨藏と名け、此の寶の光明、衆生の身に觸るれば、悉く同一の色と爲る。若し見る者有らば、眼即ち淸淨とならん。彼の光明の所照の處に隨ひて（三）日佉の寶を雨らし、皆悉く徧滿して無量の衆生を饒益し、安樂にするが如し。如來の法身も亦復た是の如く、大寶王の功德積聚したる大智慧藏と爲る。如來に光有り、寶身智と名く、若し衆生有りて斯の光に觸れん者は、皆悉く佛身と同色なることを得ん。若し衆生有りて斯の光を見ん者は、皆悉く淸淨の法眼を逮得せん。若し衆生有りて斯の光に觸れん者は、貧賤の苦を除き、尊貴にして富樂となり、乃至無上菩提の快樂あらん。佛子よ、當に知るべし如來の法身は彼此有ること無くして、悉く能く一切の衆生を究竟じて、而も佛事を作す。佛子、是は爲れ菩薩摩訶薩の第九の勝行

> 【二】九に摩尼利益の喩、佛の體用成益の身を顯はす。
> 【三】日佉（Mukha）。面と譯す。此には寶の名なり、唐經には摩尼寶とあり。

にして如來を知見するなり。

〔三三〕復た次に佛子よ、譬へば大海に寶有り、名けて一切世間莊嚴如意摩尼寶王と曰ひ、百萬の功德を具足し成就す。彼の寶王の所住の處に隨ひて、一切の衆生の所有る苦患は皆除滅することを得、其の所願に隨ひて悉く能く充滿す。彼の摩尼寶王は小福の衆生の能く見ることを得る所に非ざるが如し。如來の法身の摩尼寶王も亦復た是の如し。若し衆生有りて聞見することを得ん者は、皆悉く生死の苦を除滅せん。若し一切の衆生、一時に專ら念じて如來を見たてまつらんと欲せば、皆悉く覩見し、能く歡喜せしめ、願ふ所悉く滿せん。如來の法身は少福の衆生の能く見る所に非ず、佛の神力をば除く。其の所應に隨ひて而も身を示現したまふ。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第十の勝行にして如來を知見するなり。

〔三四〕菩薩摩訶薩は、無量の淨心を具足し成就して、十方に充滿し、深く法界に入り、眞實際に住して、生も無く滅も無く、三世平等にして、悉く能く一切の虛妄を除滅し、未來際に入りて、正法は一切の世間、一切の法界に充滿し、一切の佛身は無量に莊嚴す。』

爾の時に普賢菩薩摩訶薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

〔三五〕(一)『譬へば虛空の性の、處として至らざる無く、十方世界の中の、一切諸佛の刹、

【三三】十に寶王稱念の喩、佛の如意滿願の身を顯はす。
【三四】次は結歎。
【三五】頌に四十二偈あり、前の十身を頌す、中に於て第四と第八とは各五頌あり、餘は各四頌なり。

色の處非色の處、一切衆生の類、去來今現在に、至るに非ず至らざるに非ざるが如し。
一切諸の最勝の、清淨なる妙法身も、處として至らざる無く、諸の法界に充滿す。
最勝の妙法身は、一切能く見る莫し、衆生を教化せんが故に、導師爲めに示現したまふ。
(二)譬へば虚空の性の如し、能く執持する者無く、普く諸の群生をして、無礙に衆業を造らしむ。
虚空に是の念無し、「我今何の作す所ぞ、云何んが造作し、誰が爲めに造作せるや」と。
是の如く諸の最勝も、此の淨き身業に因りて、普く群生の類をして、白淨の法を成就せしむ。
如來の淨法身は、無量の衆を饒益するも、法身も亦、「我諸の群萠を利せり」と念ふこと無し。
(三)譬へば明淨の日の、閻浮提に出現して、一切の闇を除滅し、普く照して悉く餘すこと無く、
一切の衆寶山と、大地と諸華の池と、事に隨ひて長養し、一切の衆を饒益するが如し。
最勝の日も是の如く、一切の衆を饒益し、悉く群生の類をして、諸の善根を長養し、
慧の光明を成就して、一切の闇を除滅し、諸の導師を覩見して、一切の樂を具足せしむ。
(四)譬へば日の出づる時、先づ大山王を照し、又復た次第に、一切の諸大山を照し、
次に諸の小山、及び餘の高顯の處を照し、然して後に乃し普く、世界の諸大地を照すが如し。
善逝も亦是の如く、清淨なる慧日の光は、先づ諸の菩薩の、功德の大山王を照し、
爾して乃し次第に、一切諸の緣覺を照し、又復た次第に、聲聞・學・無學を照し、

然して後に次第に、一切諸の衆生を照す、法身に是の念無し「我照明する所有り」と。
(五)譬へば明淨の日の、世間に出現するが如し、生盲は見ずと雖も、而も能く饒益を作し、
飢渇の患を除滅して、身を柔輭にして樂ならしむ、當に知るべし明淨の日は、饒益せざる所無し。
佛日も亦是の如く、世間に出現して、信心の眼無きものと雖も、而も爲めに饒益を作す。
或は如來の聲を聞き、或は導師の光に觸れなば、彼が爲めに因縁と作りて、究竟じて菩提を成ぜん。
(六)譬へば盛滿月の、諸の星宿を映蔽し、一切の衆を示現し、增有り或は減有り、
一切の澄淨の水に、月影現ぜざること無く、世間の群生の類、皆悉く對すれば自ら見るが如し。
最勝の淨滿月も、二乘を映蔽し、其の化を受くる者に隨ひて、壽の修短を示現し、
影は諸の人天の、淨心の菩提の器に現じ、各各皆自ら謂へらく、「我天人の尊に對せり」と。
(七)譬へば大梵王の、梵天の宮に安住して、悉く大千界に於て、普く梵王の身を現じ、
自在力を具足して、無量の身を變現し、處として見ざること無けれども、其の身亦分たざるが如し。
導師も亦是の如く、自在力を具足して、一切の十方刹に、普く無量の身を現ず。
稱量す可からざる身は、一切能く見る莫くして、普く衆生に應現すれども。而も亦身を分たず。
(八)譬へば大醫王の如し、善く對治の法を知り、若し見ることを得る者有らば、病として除かれざる無し。

命終らんと欲する時に臨んで、是の如きの念を生ずらく、「我が身終沒の後は、一切のもの歸依無けん。

藥を以て其の身に塗り、呪術して自ら持し、我が命終の後も、本の如く變異無からしめん」と。

是の如く諸の最勝、無上の大醫王も、善く方便慧を學し、一切智を具足し、

過去の無量行にて、淨法身を示現し、衆生の若し見たてまつらん者は、煩惱の患を除滅せん。

(九)譬へば大海の中の、摩尼の衆寶王は、無量衆の、清淨なる妙光明を出生し、

衆生斯の光に觸れなば、皆悉く寶色に同じく、若し覩ることを得る者有らば、彼清淨の眼を開くが如し。

最勝の寶も是の如く、普く慧の光明を放つ、若し斯の光に觸るる有らば、悉く佛と色を同うせん。

衆生若し見ん者は、五の淨眼を具足して、諸の闇冥を除滅し、如來の地に安住せん。

(十)譬へば如意寶の、隨ひて一切の願を滿じ、若し求むる所有らん者には、皆悉く其の意を滿し、

寶王は、「我世間を饒益せり」との念を生ぜず、少功德の衆生は、此の寶王を見ざるが如し。

善逝も亦是の如く、一切の願を滿せしめ、若し求願する者有らば、皆悉く滿足することを得ん。

善逝は、「我衆生を利益せり」との念を生ぜず、其の惡心を懷く者は、如來の身を觀たてまつらず。』

『(二六)佛子よ、菩薩摩訶薩は云何んが如來應供等正覺の微妙なる音聲を知見せん。此の菩薩摩訶薩は如來の音聲は處として至らざること無しと知見す。如來の種種微妙の音聲は、一切の衆生をして皆大いに歡喜せしめ。無量の諸佛の正法を演說し。應に化すべき者に隨ひて悉く解了を得しめ。衆生を敎化して未だ嘗て時を失はず。身を清涼にし。心定まりて亂れざらしめ。觀察平等にして。生も無く滅も無し。譬へば呼響の主無きが如し。出生すと知見す、諸の善根を長養するが故に。甚深なりと知見す、邊底無きが故に。正直なりと知見す、究竟じて法界に度るが故に。斷ゆること無しと知見す、法界を攝るが故に。壞すべからずと知見す、法界を究竟するが故なり。

(二七)菩薩摩訶薩は、如來の音聲は、量に非ず量無きに非ず、主に非ず主無きに非ず、智に非ず智無きに非ざるを知る。何を以ての故に。譬へば世界の將に壞せんとする時の如し、法是の如くなるが故に、自然に四種の音聲を演出す。何等をか四と爲す。一に曰はく、「汝等當に知るべし、初禪は安樂にして、欲瞋恚を離れ、欲界を遠離す」と。衆生聞き已りて自然に皆初禪を成就することを得。欲界の身を捨てて、梵天の處に生る。二に曰はく、「汝等當に知るべし、二禪は安樂にして、覺觀を離れ、無覺無觀にして、梵身を遠離す」と。衆生聞き已りて自然に皆二禪を成就することを得、梵世の身を捨て

【二六】第三、性起の語業を明かす。

【二七】以上は法に約して略說し以下廣く十喩を擧げて、如來の十種の音聲を明かす。一に劫盡唱聲の喩、佛の平等說法の聲を顯はす。

て光音天に生る。三に曰はく、「汝等當に知るべし、三禪は安樂にして喜愛を離る」と。衆生聞き已りて、自然に皆三禪を成就することを得、光音の身を捨てて徧淨天に生る。四に曰はく、「汝等當に知るべし、四禪は安樂にして衆苦を遠離す」と。衆生聞き已りて自然に皆四禪を成就することを得、徧淨の身を捨てて果實天に生る。佛子、是は爲、世界將に壞せんとする時に、法是の如くなるが故に、自然に四種の音聲を出生す。彼の聲に主無く、亦作者無し。如來の妙音も亦復た是の如く、亦主有ること無く、自然に四種の妙音を出生して佛法に隨順す。何等をか四と爲す。一に曰はく、「汝等當に知るべし、一切の行は苦なり、地獄・畜生・餓鬼の中の苦、閻羅王の苦、惡行者の苦、功德無き苦、我我所に著する苦なり、人天に生れんと欲せば、當に善根を種ゑ、諸の功德を修し、八難を遠離して無難の處を得べし」と。衆生聞き已りて、顚倒を捨離し、善根を修習し、八難を遠離して人天の中に生る。二に曰はく、「汝等當に知るべし、一切の行は苦なり、皆悉く、熾んに然え燒くる鐵丸の如し、一切の衆生は悉く磨滅の法なり、寂滅の涅槃は、熾然を遠離して淸涼安樂なり」と。衆生聞き已りて、皆善根を修す、善根を修し已りて、音聲忍を得、音聲忍を得已りて、聲聞乘を學ぶ。三に曰はく、「汝等當に知るべし、聲聞乘を學ぶ者は、爲小智を學び、他に因りて覺悟するなり、更に勝道有り、緣覺乘と名け、悟るに師に由らず、汝等應に學すべし」と。若し衆生有りて勝道を樂ふ者は、此の音聲を聞きて緣覺乘を學ぶ。四に曰はく、「汝等當に知るべし、聲聞緣覺に過ぎて更に勝道有り、名けて大

乘と曰ふ、菩薩の行を修して六波羅蜜を究竟し、菩薩の行を具へて、不退轉を得、菩薩の心を捨てずして永く生死を離れ、無上の菩提に向ふ」と。若し衆生有り、諸根猛利にして過去に無量の善根を修習し、又復た佛の威神力を承くるが故に、此の音を聞くことを得て、菩提心を發す。◎諸佛如來の微妙の音聲は、身より出でず、心より出でず、而も能く無量の衆生を饒益す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の初の勝妙行にして如來の微妙なる音聲を知見す。

(一八)復た次に佛子よ、譬へば呼響の山聲に因りて起り、積聚有ること無く、覩見す可からず、種種の聲に隨ひて悉く能く應對するも、實には所應無きが如し。◎如來の妙音も亦復た是の如く、方處有ること無し。但所應に隨ひて音聲を出だす。音聲は實に非ず、覺知す可からず、言說す可からず。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第二の勝行にして如來の微妙なる音聲を知見す。

(一九)復た次に佛子よ、譬へば天の妙なる音聲の如し、虛空の中に於て自然に出で、悉く能く放逸の天子を覺悟せんとて、之に告げて言はく、「汝等當に知るべし、五欲は無常にして、虛妄顚倒なり、須臾にして變異すること、逆風に火を執るが如し、愚夫の習ふ所なり、汝放逸なる莫れ、若し放逸なる者は、身壞し命終らば、三惡道に墮せん」と。放逸の諸天は此の音聲を聞きて恐怖の心を生じ、五欲を遠離し、各宮殿を捨てて正法の堂に詣で、善法を修習し、正道を愛樂せ

【一八】二に響聲隨應の喩、佛の無方應現の聲を顯はす。

【一九】三に空聲開覺の喩、佛の放逸を教誡する聲を顯はす。

り。佛子よ、天の妙音聲も亦主有ること無く、亦作者無く、不起不滅にして、而も能く放逸の諸天を利益す。◎如來の妙音も亦復た是の如く、普く放逸の諸の衆生の爲めの故に、無量なる正法の音聲を出生して之を覺悟す。謂ゆる無著の聲、不放逸の聲、無常・苦・空・非我の聲、寂滅涅槃の聲なり。皆悉く一切の法界に充滿し、其の所應に隨ひて悉く歡喜せしめ、各樂ふ所に隨ひて、諸乘を修學し、無量なる大智の音聲、不退轉の聲、菩薩の諸行を具足する音聲、如來の一切智慧地の聲を出生す。衆生此の諸の音聲を聞き已りて、無量無數の阿僧祇の衆生、善法を修習せり。或は聲聞辟支佛乘を學び、或は無上の摩訶衍乘を學ぶ。如來の妙音は衆相を超絶し、言語の道斷ゆ。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第三の勝行にして、如來の微妙なる音聲を知見す。

(三〇)復た次に佛子よ、譬へば自在天王に、天の寶女有り、名けて善口と曰ひ、一語の中に於て百千の娛樂の音聲を演出し、彼の一一の娛樂の音の中に於て、復た百千の娛樂の音聲を出だす。佛子、當に知るべし、一りの善口の聲は、無量の微妙なる音聲を出生するが如く、如來の音聲も亦復た是の如く、一音の中に於て無量の聲を出だし、其の所應に隨ひて、悉く開解せしむ。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第四の勝行にして、如來の微妙なる音聲を知見す。

(三一)復た次に佛子よ、譬へば大梵天王の如し、梵衆の中に於て梵の音聲を出だし、一切の大衆聞かざ

【三〇】四に寶女妙聲の喩、佛の法螺圓音の聲を顯はす。
【三一】五に梵聲各聞の喩、佛の根熟獨聞の聲を顯はす。

る者無く、彼の梵の音聲は、衆の外に出でず。時に梵身の諸天、各是の念を作さく、「大梵天王は唯我と語りて餘天に對せず」と。◎如來應供等正覺も亦復た是の如く、無量なる無上の妙音を出生して、應に化を受くべき者は、皆悉く聞くことを得て、衆の外に出でず。何を以ての故に。彼の諸の衆生は、根未だ熟せざるが故なり。佛の音を聞く者は各是の念を作さく、「今日如來は唯我が爲めに說きて、餘人の爲めにしたまはず」と。如來の出だしたまふ所の音聲も、亦所出無く、佛の音を聞く者も亦所聞無くして、能く衆生の爲めに佛事を施作す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第五の勝行にして、如來の微妙なる音聲を知見す。

(三)復た次に佛子よ、譬へば水性の如し、皆同じく一味なるも、器の異なるに隨ふが故に、味に差別有り、しかも水に是の念無し、「我衆味と作らん」と。◎如來の妙音も亦復た是の如く、皆悉く一味なり、謂ゆる解脫味なるに、諸の衆生の受化の器異なるに隨ひ、應じて差別有り。如來の音聲は是の知を作さず、是の念を作さず、「我種種別異の音聲を作さん」と。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第六の勝行にして、如來の微妙なる音聲を知見す。

(三)復た次に佛子よ、譬へば阿耨達龍王の如し、大重雲を興して閻浮提に滿ち、普く大雨を降らし、百穀・草木、皆悉く滋り長じ、江河池泉一切に盈滿するも、此の大雨の水は龍王の身心の中より出でず、

【三】六に水の器に隨って別異なる喩、佛の一異無礙の聲を顯はす。

【三】七に龍王降雨の喩、佛の善根を長養する聲を顯はす。

而も能く無量の衆生を饒益す。如來應供等正覺も亦復た是の如し。大悲の雲を興して世間に徧滿し、普く無上の甘露の正法を雨らし、一切の衆生をして皆大いに歡喜し、善根を出生し、正法を長養し、諸乘を具足せしむるも、如來の音聲は外より來らず、亦內より出でず。而も能く一切の衆生を饒益す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第七の勝行にして、如來の微妙なる音聲を知見す。

(二四)復た次に佛子よ、譬へば摩那斯龍王の如し、將に雨を降らさんと欲して、先づ重雲を興して虛空に彌覆し、凝停すること七日にして、而も未だ雨を降らさず、先づ衆生をして諸業を究竟せしむ。何を以ての故に。彼の大龍王の慈悲心の故なり。七日を過ぎ已りて漸く微雨を降らし、普く大地を潤ほす。如來應供等正覺も、亦復た是の如し。將に法雨を雨らさんとして、先づ法雲を興して普く衆生を覆ひ、未だ便卽ち甘露の正法を雨らさずして、先づ衆生をして諸根を成就せしむ。諸根熟し已りて、然る後に漸く甘露の法雨を降らす。若し卽ち深法を說かば、衆生恐怖せん。是の故に如來は漸漸に微かに一切種智の甘露の法味を雨らしたまふ。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第八の勝行にして、如來の微妙なる音聲を知見す。

(二五)復た次に佛子よ、譬へば海中に大龍王有り、大莊嚴と名け、或は連雨十日、或は二十日、或は百日、或は千日、或は百千日なるも、佛子よ、雨は是の念を作さず、「我雨ること十日、乃至百千日

【二四】八に龍王漸降の喩、佛の漸次說法の聲を顯はす。

【二五】九に龍王漸注の喩、佛の種種差別の功を顯はす。

ならん」と。但彼の龍王に不可思議なる自在力有るが故に、或は十日雨り、乃至百千日雨るが如し◎如來應供等正覺も亦復た是の如し。微妙なる甘露の正法を雨らさんと欲し、或は十種の音聲、或は二十日、或は百、或は千、或は百千、或は八萬四千行の種種の音聲、乃至無量億那由他の聲をもつて、分別して法を說き、一切の衆生をして皆悉く歡喜せしめたまふも、如來の妙音は是の念を作さず、「我能く種種の諸法を演說す」と。又法界清淨にして差別有ること無きも、衆生を化せんが故に、所說同じからざるなり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第九の勝行にして、如來の微妙なる音聲を知見す。

【三六】十に龍王遍降の喩。佛の普く法界に遍ずる聲を顯はす。

(三六)復た次に佛子よ、譬へば娑伽羅龍王の、龍王の大自在力を現ぜんと欲するが如し。群生の類を饒益せんと欲するが爲めの故に、四天下より、乃し他化自在天の處に至るまで、大重雲を興し、徧く六天を覆ひて種種の色有り。或は處有り閻浮檀金の色の如く、或は處有り琉璃の色の如く、或は處有り白銀の色の如く、或は處有り玻瓈の色の如く、或は處有り玫瑰の色の如く、或は處有り瑪瑙の色の如く、或は處有り勝寶藏の色の如く、或は處有り赤眞珠の色の如く、或は處有り妙香の色の如く、或に處有り種種の衣色の如く、或は處有り清淨水の色の如く、或は處有り種種雜色の如し。是の如き等の無量の色雲、四天下を覆ひて、乃し六天に至る。覆ひ已りて諸の電光を出す。所謂る、閻浮檀金色の雲は琉璃の電光を出し、琉璃色の雲は閻浮檀金の電光を出し、白銀色の雲は玻瓈の電光を出し、玻瓈色の雲は白銀の電

光を出だし、玫瑰色の雲は瑪瑙の電光を出し、瑪瑙色の雲は玫瑰の電光を出し、勝寶藏色の雲は赤眞珠の電光を出し、赤眞珠色の雲は勝寶藏の電光を出し、妙香色の雲は種種の衣色の電光を出し、種種の衣色の雲は妙香色の電光を出し、淨水色の雲は種種の雜色の電光を出し、種種の雜色の雲は淨水の電光を出す。廣く說かば、乃至、一種色の雲は種種色の電光を出し、種種色の雲は一種色の電光を出す。又種種の大雷の音聲を震はし、衆生をして歡喜せしむ。所謂る、天女の歌音、天の娛樂の音、龍女の歌音、乾闥婆の歌音、緊那羅女の歌音、大地の音、大海の音、鹿王の音なり、或は異類の奇妙なる種種の鳥音、或は種種の歌音有り。爾の時に龍王は若干の風を起して微細の雨を降らし、無量の衆生を饒益し安樂にす。四天の下より上は六天に至るまで、普く種種無量の異雨を雨らす。所謂る、大海の中に於て雨るを洪澍と名け斷絕有ること無く、他化自在天に於て普く歌頌娛樂の音聲を雨らし、化自在天に於て普く解脫の明淨光寶を雨らし、兜率陀天に於て普く頂髻明月神珠を雨らし、夜摩天に於て普く種種衆の莊嚴具を雨らし、三十三天に於て普く妙香を雨らし、四天王天に於て普く寶衣を雨らし、龍王宮に於て普く赤明眞珠を雨らし、阿修羅の處に於て普く兵杖の怨敵を伏すと名くるを雨らし、鬱單越に於て普く衆華を雨らす。是の如く廣く說かば、徧く四天下に種種の雨を雨らす。然れども彼の龍王は其の心平等にして、彼此有ること無し。但衆生の根不同なるを以ての故に、雨に差別有り。如來應供等正覺の無上の法王も、亦復た是の如し。將に無量の大法を應現せんと欲して、先づ

淸淨の身雲を以て、普く一切の法界を覆ひ、其の所應に隨ひて身雲を示現したまふ。或は衆生有りて應に如來の生身の雲を見るべし、或は衆生有りて應に如來の神力の住持身の雲を見るべし、或は衆生有りて應に如來の色身の雲を見るべし、或は衆生有りて應に如來の種種身の雲を見るべし、或は衆生有りて應に如來の功德身の雲を見るべし、或は衆生有りて應に如來の智慧身の雲を見るべし、或は衆生有りて應に如來の不壞身の雲を見るべし、或は衆生有りて、應に如來の無畏身の雲を見るべし、或は衆生有りて應に如來の法界身の雲を見るべし。佛子、如來は是の如き等の無邊の身雲を以て、普く一切の世界を覆ひ、其の所應に隨ひて光明の電光を示現す。或は衆生有りて如來の光明電光の無所不至と名くるを見ることを得、或は衆生有りて如來の光明電光の照無量無邊と名くるを見ることを得、或は衆生有りて如來の光明電光の名けて入佛微密の教と曰ふを見ることを得、或は衆生有りて如來の光明電光の明淨普照と名くるを見ることを得、或は衆生有りて如來の光明電光の名けて淨照と曰ふを見ることを得、或は衆生有りて如來の光明電光の入無盡藏陀羅尼門と名くるを見ることを得、或は衆生有りて如來の光明電光の不亂正念と名くるを見ることを得、或は衆生有りて如來の光明電光の不退智慧と名くるを見ることを得、或は衆生有りて如來の光明電光の順入諸趣と名くるを見ることを得、或は衆生有りて如來の光明電光の普令衆生滿足諸願と名くるを見ることを得。佛子、是の如く如來應供等正覺は、普く衆生の爲めに如來の光明電光を示現したまふ。電光を現じ

已りて、無量諸の大三昧の雷震の音聲を出生す。所謂る、正覺三昧の雷聲、離垢寂靜海三昧の雷聲、一切法自在三昧の雷聲、金剛圓滿三昧の雷聲、須彌山王幢三昧の雷聲、海印三昧の雷聲、日光三昧の雷聲、普令衆生歡喜三昧の雷聲、無盡功德藏三昧の雷聲、不壞解脫阿羅漢三昧の雷聲を出す。佛子、如來應供等正覺は佛の身雲に於て、無量なる種種の三昧の雷聲を出生したまふ。雷聲を出だし已りて、甘露の法を說かんと欲する時に、先づ如來の大智風輪の瑞相を現じ、無障礙の大慈悲より起りて、先づ一切の衆生、及び諸の菩薩の身心をして柔輭にし、皆大いに歡喜せしめたまふ。如來は是の如く正法の雲、大慈悲の雲、不可思議の雲を以て、一切の衆生の身心を柔輭ならしめ、然る後に乃ち不可思議なる大法の雲雨を雨らす。所謂る、道場に坐する一切の菩薩の爲めには、不可壞の法界の大法雲雨を雨らし、最後身の菩薩の爲めには、如來の密敎、菩薩の娛樂自在の大法雲雨を雨らし。一生補處の菩薩の爲めには、清淨普照の大法雲雨を雨らし。記を得たる菩薩の爲めには、如來の莊嚴の大法雲雨を雨らし。忍を得たる菩薩の爲めには、功德の寶と智の華とを斷たざる菩薩行の大法雲雨を雨らし。向行の菩薩の爲めには、不退の行にて化門の甚深門に入り、疲厭有ること無き大法雲雨を雨らし。初發心の菩薩の爲めには、如來の定行大慈大悲をもつて、衆生を救護する大法雲雨を雨らし。緣覺を樂ふ者の爲めには、深く緣起を知り斷常の見を離れたる無壞解脫果の法雲雨を雨らし　聲聞を求むる者の爲めには、煩惱の怨敵を降伏する智藏の法雲雨を雨らし。善根を修習し長養する衆生及び決

定不決定の衆生の爲めには、種種なる歡喜の法門雲雨を雨らす。佛子、諸佛如來は衆生の心に隨ひて是の如き等の十種の無量無邊の大法雲雨を雨らし、法界に充滿したまふ。佛子、如來應供等正覺は、其の心平等にして彼此有ること無し、但衆生の根不同なるを以ての故に、如來の法雨に差別有ることを現ず。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第十の勝行にして、如來の微妙なる音聲を知見す。

(二七)復た次に佛子よ、菩薩摩訶薩は如來の音聲の十種の無量を知見す。何等をか十と爲す。所謂る、虚空に等しく無量なることを知見す、處として至らざる無きが故に。法界に等しく無量なることを知見す、處として徹せざること無きが故に。衆生界に等しく無量なることを知見す、一切衆生をして悉く歡喜せしむるが故に。行業に等しく無量なることを知見す、廣く一切の果報を説くが故に。煩惱に等しく無量なることを知見す、究竟寂滅の故に。種種の音聲に等しく無量なることを知見す、應に化を受くべきに隨ひて聞かざること無きが故に。欲樂に等しく無量なることを知見す、悉く分別して諸の解脱を説くが故に。三世に等しく無量なることを知見す、分際無きが故に。智慧に等しく無量なることを知見す、深く一切の法に入るが故に。佛の境界の不退に等しく無量なることを知見す、如來の法界に隨順するが故なり。佛子、菩薩摩訶薩は如來應供等正覺の音聲には、是の如き等の十種の無量阿僧祇有ることを知見す。』

【二七】次には通じて以上の十聲を結ぶ。

爾の時に普賢菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

〔三八〕(一)『世界壞せんとする時、彼の虛空の中に於て、衆生の福報の力は、自然に四聲を出だすらく、「彼の四禪の中に於て、寂樂にして衆苦を離れよ」と、衆生是を聞き已りて、欲界の身を厭離す。

十力も亦是の如く、自然に四聲を出だして、法界に充滿し、處として聞かざること無し。衆生の因緣力は、佛の四種の聲に應じ、其の音を聞く者有らば、永く生死の海を度らん。

(二)譬へば山谷に因りて、呼聲の響を出生するが如し、外の一切の音に從ひて、響聲隨つて應對し、種種の因緣より起り、聞く者亦同じからず、響は是の念を作さず、「我種種の音を出す」と。

如來の聲も是の如く、無量の音を出生して、應に化を受くべき者に隨ひて、一切聞かざること無く、皆悉く歡喜せしめ、諸の衆生を調伏す、音聲も亦、「我種種の音を出だす」と念ふこと無し。

(三)譬へば天の妙音の、彼の虛空の中に於て、自然に演出して、諸の天子を覺悟し、諸の天子は此の、正法の妙音聲を聞き、不放逸を修習して、五欲を遠離するが如し。

十力も亦是の如く、微妙の聲を出生して、法雲の音は、一切諸の世界に充滿し、衆生をして覺悟せしむるも、彼の音に生滅無し、若し聞くことを得る者有らば、皆悉く菩提を證せん。

【三八】頌に四十偈あり、前の十段を頌す、一一に各四頌あり、次第の如く知るべし。

(四)自在天王の、寶女を善口と名け、一の音聲の中に於て、百千の聲を出生し、
復た一一の音に於て、百千の聲を出生す、諸天若し聞かば、一切皆悦樂するが如し。
十力も亦是の如く、彼の一音の中に於て、應に隨ひて一時に、衆生の數に等しき音を演ぶ。
(五)衆生は音聲を聞きて、諸の煩惱を除滅す、音聲は念を作さず「我能く滅する所有り」と。
譬へば大梵王の、清淨の梵音を出だして、一切の梵天の衆、聞かざる者有ること無く、
一一の梵音聲は、梵衆をして歡喜せしめ、梵天の衆に徧滿して、音聲は外に出でざるが如し。
功德ある大梵王は、如來の座に安處し、一妙音を演出して、諸の法界に充滿し、
應に化を受くべき者に隨ひて、一切聞かざること無し、聲は衆の外に出でず、信心無きを以ての故なり。
(六)譬へば諸の水性は、皆悉く同一味にして、清淨にして垢濁を離れ、(二九)八功德を具足す。
因る所の地同じからず、衆器各別異なれば、彼の因緣に隨ふが故に、水味に差別有るが如し。
佛子應當に知るべし、一切智の音聲と、如來の微妙の音とは、悉く同じく解脱味なるも、
衆生の造る所の行に、若干の差別有るが故に、善逝は隨ひて應化し、聞く所各同じからず。

【二九】水の八功德とは淨澄・清冷・甘美・輕輭・潤澤・安和・除患・增益是なり。

(七)譬へば阿耨達の、自在大龍王、雲を興して世間を覆ひ、普く雨らして大地を潤ほし、諸の叢林、百穀藥草等を長養するに、彼の降す所の雨水は、身心より出でざるが如し。如來も亦是の如く、初めに大法の雲を興して、普く諸の法界を覆ひ、大甘露の法を雨らして、衆をして善根を增し、煩惱の熱を除滅せしめたまふ、而も彼の甘露の法は、身心より出でず。

(八)譬へば大龍王の、名けて摩那斯と曰ふは、七日重雲を起し、凝停して雨を降らさず。普く一切の衆をして、諸の事業を究竟せしめ、漸く微雨を降らして澤ほし、然して後乃ち大いに雨らすが如し。

十力は法雲を興して、普く諸の法界を覆ひ、大甘露の法を雨らして、諸の群生を饒益し、應に化を受くべき者に隨ひ、彼が爲めに深法を說き、聞く者恐怖せず、究竟じて菩提を成ず。

(九)譬へば大龍王の、名けて大莊嚴と曰ふは、先づ密なる重雲を布きて、然して後に大雨を降らし、或は十・二十日、乃至百千日なるも、雨水は等しく一味なり、衆生の故に同じからざるが如し。究竟じて如來の、大辯の彼岸に至り、或は十の法門、乃至百千の門を說き、或は八萬四、乃至無量の行を說きたまふも、如來は、「我法界を分別す」との念を生じたまはず。

(十)譬へば海龍王の、名けて娑伽羅と曰ふは、先づ密なる重雲を興して、四天下を彌覆し、

普く一切處に雨らし、各各悉く同じからざるも、龍王の心は平等にして、亦憎愛有ること無きが如し。

最勝も亦是の如く、無上法の龍王にして、大悲の雲を興起して、普く一切を覆ひ、道場の菩薩の爲めに、大甘露の法を雨らし、其の應化する所に隨ふも、如來の心は平等なり。』

卷の第三十六

寶王如來性起品第三十二の三

〔一〕『佛子よ、云何んが菩薩摩訶薩は、如來應供等正覺の心を知見せん。此の菩薩摩訶薩は、心意識は卽ち如來に非ざることを知る。但如來の智は無量なるが故に、心も亦無量なりと知る。

〔二〕佛子よ、〔三〕譬へば虛空は悉く一切萬物の所依と爲るも、而も彼の虛空には依止する所無きが如し。如來の智慧も亦復た是の如く、悉く一切世間の智慧、離世間の智の依止する所と爲るも、而も如來の智は依止する所無し。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の最初の勝行にして、如來應供等正覺の心を知見す。

〔四〕復た次に佛子よ、譬へば清淨の法界は悉く一切の聲聞・緣覺・菩薩の解脫の依止する所と爲るも、而も清淨の法界には、增無く減無きが如し。如來の智慧も亦復た是の如く、一切の世間、出世間の智、算數巧術の一切衆智の依止する所と爲るも、而も如來の智には增無く減無し。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第二の勝行にして、如來應供等正覺の

〔一〕第四、性起の意業を明かす。
〔二〕以下十種の喩を擧げて、如來性起の十種の大智を明かす。
〔三〕一に、虛空無依の喩、佛の平等無依の智を顯はす。
〔四〕二に、法界無改の喩、佛性增減無き智を顯はす。

心を知見す。

(五)復た次に佛子よ、譬へば四大海水の如し、悉く能く四天下の地、八十億の小洲を澤潤す。若し衆生有りて彼の諸の處に於て、方便をもつて水を求むるに、往くとして得ざる無し。而も彼の大海は是の念を作さず、「我能く諸の衆生に水を資給す」と。◎如來の智慧の大海も亦復た是の如く、悉く能く一切の衆生の心を澤潤す。彼の諸の衆生は各法門に於て、善根を修習すれば、皆智慧の光明を得。而も如來は是の念を作したまはず、「我能く悉く衆生に智慧を與ふ」と。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第三の勝行にして、如來應供等正覺の心を知見す。

(六)復た次に佛子よ、譬へば大海に四種の寶珠有るが如し、此の四種の寶は悉く海中の一切の衆寶を生ず。若し此の寶無ければ、海中の衆寶は、悉く皆滅失せん。何等をか四と爲す。一に衆寶積聚と名く、二に無盡寶藏と名く、三に遠離熾然と名く、四に一切莊嚴聚と名く、是を四寶と爲す。佛子、此の四種の寶は一切の阿修羅・迦樓羅・諸の龍神等は悉く見ることを得ず。何を以ての故に。娑伽羅龍王は密かに深き寶藏に置けるが故なり。此の四種の寶は端嚴にして方正なり。◎如來應供等正覺の海にも、亦四種の大智の寶珠有りて、一切の聲聞・緣覺・學・無學の智、及び諸の菩薩の智慧の大寶を出生す。何等をか四と爲す。一に染無き巧妙方便の清淨智寶と名く、二に有爲無爲を分別し演說する清淨智寶と名く、三に一切諸法を分別し演說して法

【五】三に、大海潤益の喩、佛の益生無念の智を顯はす。
【六】四に、大寶出生の喩、佛の用興るも體は密なる智を顯はす。

界を壞せざる清淨智寶と名く、四に衆生に應化して未だ曾て時を失はざる清淨智寶と名く、是を如來の大海の四種の清淨智寶と爲す。佛子、此の如來の四種の清淨智寶は、一切の衆生能く見る者無し。何を以ての故に。此の四種の智慧の大寶は、如來の微密なる法寶の藏に安置せらるるが故なり。菩薩の慧光は端嚴にして殊特なり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第四の勝行にして、如來應供等正覺の心を知見す。

(七)復た次に佛子よ、譬へば大海に四の熾然たる光明の大寶有るが如し、此の四種の寶は悉く能く大海の極み無き水を消竭す。何等をか四と爲す。一に日藏光明の大寶と名く、二に離潤光明の大寶と名く、三に火珠光明の大寶と名く、四に究竟無餘光明の大寶と名く。佛子、若し大海の中に此の四寶無くんば、四域の天下の金剛圍山、乃至非想非非想處は、皆悉く漂沒せん。佛子、此の日藏光明の大寶は、能く海水を變じて悉く酪と成爲す。離潤光明の大寶は、能く酪海を變じて悉く酥と成爲す。火珠光明の大寶は、能く悉く酥海を熾然す。究竟無餘光明の大寶は、悉く酥海を然して永く盡して餘すこと無し。如來應供等正覺の海にも、亦四種の智光摩尼の大寶有りて、諸の菩薩を照し、一切の衆行を具足し修習し、乃至佛の平等智慧を成ぜしむ。何等をか四と爲す。一には永く一切不善の波浪を息むる智光の大寶、二には一切法愛を滅する智光の大寶、三には大慧智光の大寶、四には如來と等しき無量智光の大寶なり　佛子、彼の菩薩摩訶

【七】五に、寶珠消海の喩。佛の滅惑成德の智を顯はす。

薩は菩提を修習する時、無量なる生死不善の波浪を起し、一切の諸天・阿修羅等、悉く能く止むること無し。如來は一切不善の波浪を息むる智光の大寶を以て、菩薩を照曜し、不善の波浪を永く止息せしめ、堅固に無上の三昧に安住せしむ。一切の順法愛を滅する智光の大寶を以て、一切の三昧の捨て難き味著を滅す。大慧智光の大寶を以て、一切の無明を滅し、淨慧通達す。如來と等しき無量智光の大寶を以て、少しの方便を以て、如來の智慧の地を出生す。佛子、若し如來の四種の智光大寶無くんば、乃至一りの菩薩も如來地を得んこと、是の處有ること無し。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第五の勝行にして、如來應供等正覺の心を知見す。

(八)復た次に佛子よ、譬へば水輪際より、上は非想非非想天に至る、一切の三千大千世界は、虚空に依りて住す。謂ゆる無色界の衆生の處、色界の衆生の處、欲界の衆生の處、此の三界の處は悉く虚空に依る。而も彼の虚空は迫迮有ること無きが如し。◎如來の智慧も亦復た是の如く、一切の聲聞・緣覺・菩薩の、有爲法を知るの智慧、無爲法を知るの智慧、是の如き等の一切智慧は、悉く如來の智慧に依りて起り、悉く如來の智慧に依りて住するも、如來の智慧に迫迮有ること無し。何を以ての故に如來の智慧は至らざる所無きが故なり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第六の勝行にして、如來應供等正覺の心を知見す。

(九)復た次に佛子よ、譬へば雪山の頂に藥王樹有りて 非從根生非不從根生と名くるものの如し。彼

【八】六に、虚空含受の喩、佛の依持無礙の智を顯はす。

【九】七に、藥王生長の喩、佛の種姓深廣の智を顯はす。

の藥王樹は六百八十萬由旬より、下は金剛地水輪際を極めて生ず。佛子、此の藥王樹は若し根を生ずる時には、閻浮提の樹の一切の根生ず。若し莖を生ずる時には、閻浮提の樹は皆悉く莖を生ず。若し枝葉華果を生ずる時には、閻浮提の樹は一切悉く枝葉華果を生ず。此の藥王樹は、根能く莖を生じ、莖能く根を生ず、是の故に名けて不從根生非不從根生と曰ふ。佛子よ、此の藥王樹は一切諸の處に皆悉く生長す、唯二處をば除く。所謂る、地獄の深坑と、及び水輪の中とには、生長することを得ず。而も大藥王樹は亦生性を捨てず。如來の智慧の大藥王樹も亦復た是の如し。一切如來の種姓の中より生じ、過去世に於て大慈悲等の無量無邊の功德を修習せしをもつて、堅固に正住して、傾動す可からず、三世の無量なる善根の智慧は、皆悉く普く一切の世間を覆ひ、一切の惡道の衆難を除滅し、巧方便の莖、淨法界の枝、諸禪三昧解脫の葉、七覺意の華、無上解脫の果は、陀羅尼に持せられて初めより增減無し。佛子よ、如來の智慧の大藥王樹には、復た異名有りて、根堅固不壞と名く。何を以ての故に。菩薩の衆行を捨てず斷せず、是の故に其の根を名けて不壞と曰ふ。彼の如來の智慧の大藥王樹は、初め根を生ずる時に、一切の菩薩は悉く大慈悲の根を生じ、未だ曾て一切衆生を捨離せず。初め莖を生ずる時、一切の菩薩は、皆悉く堅固なる精進正直心の莖を生ず。初め枝を生ずる時、一切の菩薩は一切の波羅蜜の枝を生長す。初め葉を生ずる時、一切の菩薩は一切の淨戒・威儀・頭陀の功德の葉を生長す。初め華を生ずる時、一切の菩薩は善根をもつて莊嚴せる相好の華を

敷く。初め果を生ずる時、一切の菩薩は無生忍を得て、佛記の果を受く。佛子よ、如來の智慧の大藥王樹は、唯二處の生長することを得ざるをば除く、所謂る聲聞・緣覺の涅槃と、地獄の深坑、及び諸の犯戒・邪見・貪著の法器に非ざる等となり。而も如來の樹は生長せざるに非ず。其の餘の一切の應に化を受くべき者には皆悉く生長し、而も如來の智慧の大藥王樹は、增せず減せざるなり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第七の勝行にして、如來應供等正覺の心を知見す。

(一〇)復た次に佛子よ、譬へば火劫の起る時の如し。三千大千世界の、一切の所有る大地の草木・金剛圍山は、皆悉く熾然として燒き盡くし餘すこと無し。設ひ一人有り、若し乾草を以て彼の火中に投せば、寧ろ然えざることを得るや。答へて言はく、「不らざるなり、燒盡せざること無し。」佛子、彼の投ぐる所の草は、猶ほ盡さざる可くとも、如來の智慧は、一切の衆生、一切の佛刹、一切の劫數、一切の諸法に於て、悉く知らざること無し。若し知らざること有らんは、是の處り有ること無し。何を以ての故に。如來の智慧は破壞す可からずして悉く明達するが故なり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第八の勝行にして、如來應供等正覺の心を知見す。

(一一)復た次に佛子よ、譬へば風災の世界を壞する時の如し。大風有りて起るを、名けて壞散と曰ひ、悉く能く大千世界の金剛圍山、一切の萬物を壞散し磨滅せしむ。爾の時に三千大千世界の外に、復

【一〇】八に、劫火燒盡の喩・佛の知は盡くさざる無き智を顯はす。

【一一】九に、劫風持壞の喩、佛の巧方便留惑の智を顯はす。

た風有りて起るを、障壞散風災と名け、風災をして餘方に至ることを得しめず。佛子、若し此の障風無ければ、十方の無量無邊阿僧祇の世界は散滅せざること無し。如來應供等正覺も亦復た是の如く、大智風有り、名けて散滅一切煩惱と曰ひ、悉く能く一切の菩薩の煩惱習氣を散滅す。如來に復た巧方便智風有りて、能く一切の菩薩を持して、究竟じて盡滅し、聲聞辟支佛の地に墮せしめず。菩薩摩訶薩は此の巧方便智の風力を得るが故に、能く聲聞辟支佛の地を過ぎ、佛地を究竟す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第九の勝行にして、如來應供等正覺の心を知見す。

(三)復た次に佛子よ、如來の智慧は處として至らざること無し。何を以ての故に、衆生に衆生の身無く、如來の智慧の具足せざる者有ること無ければなり。但衆生顚倒して如來の智を知らざるのみ。顚倒を遠離すれば、一切智・無師智・無礙智を起さん。佛子、譬ば一經卷有りて、三千大千世界の如くなれば、大千世界の一切所有ることを、記錄せざること無く。若し二千世界に等しければ、悉く二千世界の中の事を記し。小千世界に等しければ、小千世界の中の事を記し。四天下に等しければ、悉く四天下の事を記し。須彌山王に等しければ、悉く須彌山王の事を記し。地天の宮に等しければ、悉く地天の宮殿中の事を記し。欲天の宮に等しければ、悉く欲界天の宮殿の中の事を記し。色天の宮に等しければ、悉く色界天の宮殿の中の事を記し。若し無色天の宮に等しければ、悉く無色界天の宮殿の中の事を記

【三】十に、塵含經卷の喩。佛性は通じて平等なる智を顯はす。

す。彼の三千大千世界に等しき經卷は、一微塵の中に在り。一切の微塵も亦復た是の如し。時に一人有りて世に出興し、智慧聰達にして、淸淨の天眼を具足し成就し、此の經卷の微塵の內に在ることを見て、是の如きの念を作さく、「云何んが此の如き廣大の經卷は、微塵の內に在りて而も衆生を饒益せざるや。我當に勤めて方便を作し、彼の微塵を破りて、此の經卷を出だし、衆生を饒益すべし」と。爾の時に彼の人卽ち方便を作し、微塵を破壞して此の經卷を出だし、衆生を饒益するが如し。

佛子よ、如來の智慧・無相の智慧・無礙の智慧は、具足して衆生の身中に在るも、但愚癡の衆生は顚倒の想に覆はれて、知らず、見ず、信心を生ぜざるのみ。爾の時に如來は障礙無き淸淨の天眼を以て、一切の衆生を觀察したまひ、觀じ已りて、是の如きの言を作したまはく、「奇なる哉、奇なる哉、云何んぞ如來の具足せる智慧は、身中に在りて而かも知見せざる。我當に彼の衆生を敎へて聖道を覺悟せしめ、悉く永く妄想顚倒の垢縛を離れしめ、具さに如來の智慧其の身內に在りて、佛と異ること無きを見らしめん」と。如來は卽時に彼の衆生を敎へて、八聖道を修し、虛妄顚倒を捨離せしめたまふ。顚倒を離れ已れば、如來の智を具へ、如來と等しく、衆生を饒益す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の第十の勝行にして、如來應供等正覺の心を知見す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に是の如き等の無量無數の諸の勝妙行有りて、如來應供等正覺の心を知見す。」

爾の時に普賢菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

【三】頌に三十七偈あり、初めの一偈は前の總說を頌し、餘は次第の如く十喩を頌す。頌數の不同は傍註の數字を以て之を分つ。

(三)『如來の心を知らんと欲せば、應に最勝の智を解るべし、如來の智は無量なり、最勝の心も亦然なり。

(一)十方諸の世界の、一切衆生の類は、皆悉く虛空に依るも、虛空には所依無し。

一切法界の中の、衆生の種種なる樂と、方便巧智の術とは、最勝の智に依りて起る。

一切諸の智慧は、悉く善逝の智に依るも、如來の最勝智は、寂然として所依無し。

(二)聲聞緣覺乘の、解脫の智慧の果は、悉く法界より起るも、法界に增減無し。

最勝の智も是の如く、能く一切智、學智・無學智、有無に了達するの智を起す。

善逝と無上智は、一切智を出生するも、生ずるに非ず生ぜざるに非ず、皆悉く增減無し。

(三)譬へば大海の水は、一切の地を澤潤す、衆生善方便をもつて、水を求むれば得ざること無し。

大海と地とは、「我衆生に水を與ふ」と念ふこと無し、大海に增減無く、方便をもつて求むれば悉く得るが如し。

十方諸の世界の、一切群生の類を、善逝の智慧海は、皆悉く能く潤澤す。

(四)各各勤めて方便して、諸の法門を修習せば、一切修行の者、疾かに智慧の光を得ん。

娑伽龍王に、四の妙寶珠有り、密かに深寶藏に置きて、衆生の能く見る無し。

端嚴にして方正、常に大海に住す、此の四摩尼に因りて、一切の寶を出生するが如く。
最勝の四種の智も、無量にして稱る可からず、一切の衆に、無量諸の智慧を出生して、
大乘藏に安住せしめ、無量の德をもつて莊嚴す、受記の菩薩をば除き、一切能く見る莫し。
(五)譬へば大海の中に、四の摩尼寶有り、光燄甚だ猛熱にして、能く大海の水を消す。
若し此の四寶無くんば、天地悉く漂沒せん、大海に增減無くして、四域皆安住するが如く、
如來の四種の智も、無量にして稱る可からず、能く諸の菩薩の、不善根の波浪を止む。
(六)一切の三世間、欲・色・無色界は、我及び我所を離れ、虛空に安住す。
善逝の智も亦然なり、一切智の根本なり、聲聞・學・無學、及び諸の緣覺の智、
菩薩の普く饒益する、無量甚深の智は、悉く如來の智に依るも、如來の智には依無し。
(七)彼の雪山の頂に、大藥王樹有りて、根より生ぜず、根より生ぜざるに非ずと名く。
此の藥王樹の、生長の因緣に由るが故に、悉く閻浮提の、一切諸の樹林を生ず。
彼の樹の根を生ずる時は、一切の樹根生じ、莖・枝・葉・華・實も、一切亦是の如くなるが如く。
清淨なる甚深の智も、如來性の中より生ず、如來の智に依因りて、修行の智を出生す。
一切の菩薩の行と、無量なる諸の功德とは、如來智の樹王、平等の心地より生ず。
(八)譬へば劫盡くる時、猛盛なる大火災あり、設ひ人乾草を投げて、猶ほ燒きて盡さざる可けんも、

善逝の清淨智は、無量にして邊有ること無く、悉く能く分別して、三世の衆生類を知り、又一切の劫と、一切の諸佛の刹とを知るが如く、是の如く無量の法を、如來は悉く了知したまふ。

(九)譬へば劫盡くる時、風災あり壞散と名け、能く諸の大地と、金剛及び須彌とを壞す。刹の外に風有りて起る。名けて障散壞と曰ふ、若し此の風無くんば、十方悉く磨滅するが如し。十力も亦是の如く、智慧の風無量にして、皆悉く能く、菩薩の諸の煩惱を散滅す。如來の方便智は、諸の菩薩を攝取し、聲聞緣覺を過ぎて、如來の地に安住せしむ。

(十)譬へば微塵の內に、一大經卷有り、三千世界に等しけれども、衆生の類を益すること無し。爾の時に一人有りて、世間に出興し、塵を破りて經卷を出だし、一切世を饒益するが如し。如來の智も是の如く、衆生悉く具有するも、顚倒妄想に覆はれて、衆生知見せず。如來は衆生を敎へ、八聖道を修習して、一切の障を除滅し、究竟じて菩提を成ぜしめたまふ。』

(一四)『佛子よ、云何んが菩薩摩訶薩は、如來應供等正覺の境界を知見せん。此の菩薩摩訶薩は、無量無邊の無礙の智慧を成就して。一切衆生は是れ如來の境界なり、一切の世間、一切の刹、一切の法、一切衆生の行、如如不壞の境界、無礙法界の境界、實際無際の境界、無量虛空の境界、(一五)非境界の境界は、是れ如來の境界なりと知る。◎佛子よ、一切の衆生無量なるが故に、如來の境界も無量なり。

【一四】第五、性起の境界を明かす。

【一五】境智不二なるを**非境界**と名づく。

一切の世間無量なるが故に、如來の境界も無量なり。乃至非境界の境界無量なるが故に、如來の境界も無量なり。非境界は一切處に至るも而も至る所無し。如來の境界も亦復た是の如し。

(一六)佛子よ、菩薩摩訶薩は、心の境界は是れ如來の境界なりと知る。心の境界の無量なるが如くなる故に、如來の境界も無量なり。何を以ての故に。心の無量なるに隨ひて、智慧を出生することも亦復た是の如くなればなり。

(一七)佛子よ、譬へば大龍の心に隨ひて雨を降すも、雨內よりせず、亦外よりせざるが如し。如來の境界も亦復た是の如く、心の所念に隨ひて念念の中に於て、無量不思議の智を出生するも、彼の諸の智慧は悉く來處無し◎

(一八)佛子よ、一切の大海の水は皆龍王の心願より起る所なり。如來の智海も亦復た是の如く悉く大願力より起る◎佛子よ、如來の智海は無量無邊にして言說す可からず。思議す可からず。我小喩を說かん。汝今諦かに聽け◎

(一九)佛子よ、此の閻浮提の內より、二千五百の河水を流出して、悉く大海に入る。倶耶尼の內より、五千の河水を流出して悉く大海に入る。弗婆提の內より、八千四百の河水を流出して悉く大海に入る。鬱單越の內より、一萬の河水を流出して、悉く大海に入る。佛子、此の四天下の內よりして、是の如く二萬五千九百の河水は、悉く大海に入る。佛子、意に於て云何ん、此

【一六】以上は所知の境界を擧げ其の廣大なることを顯はし、以下は智に約して境の深廣なることを示す。
【一七】龍王心雨の喩、佛の依心無本の智を顯はす。
【一八】海は龍の願より起る喩、佛智は大願より起ることを顯はす。
【一九】海水宏深の喩、佛の深廣無限の智を顯はす。

の水は多きやはた少きや。答へて言はく、「甚だ多し」と◎佛子よ、復た十の光明龍王有り、大海の中に雨らして、悉く前の水に過ぎたり。百の光明龍王、大海の中に雨らして、復た悉く前に過ぎたり。大莊嚴龍王、大海の中に雨らして、復た悉く前に過ぎたり。摩那斯龍王、大海の中に雨らして、復た悉く前に過ぎたり。大雷龍王、大海の中に雨らして、復た悉く前に過ぎたり。難陀跋難陀龍王、大海の中に雨らして、復た悉く前に過ぎたり。無量の光明龍王、大海の中に雨らして、復た悉く前に、過ぎたり。流注不斷龍王、大海の中に雨らして、復た悉く前に過ぎたり。大勝龍王、大海の中に雨らして、復た悉く前に過ぎたり。金剛光明龍王、大海の中に雨らして、復た悉く前に過ぎたり。佛子よ、是の如き等の八十億の龍王、各大海に雨らし、展轉して前に過ぎたり。娑伽羅龍王の太子を、名けて佛生と曰ひ、大海の中に雨らして復た悉く前に過ぎたり。佛子、彼の十の光明龍王の住する所の淵池は、大海に流入して復た悉く前に過ぎたり。百の光明龍王の住する所の淵池は、大海に流入して、復た悉く前に過ぎたり。大莊嚴龍王の住する所の淵池は、大海に流入して、復た悉く前に過ぎたり。摩那斯龍王の住する所の淵池は、大海に流入して復た悉く前に過ぎたり。大雷龍王の住する所の淵池は、大海に流入して復た悉く前に過ぎたり。難陀跋難陀龍王の住する所の淵池は、大海に流入して復た悉く前に過ぎたり。無量光明龍王の住する所の淵池は、大海に流入して復た悉く前に過ぎたり。流注不斷龍王の住する所の淵池は、大海に流入して復た悉く前に過ぎたり。大勝龍王の住する所

の淵池は、大海に流入して、復た悉く前に過ぎたり。金剛光明龍王の住する所の淵池は、大海に流入して復た悉く前に過ぎたり。是の如き等廣く說かば、乃至娑伽羅龍王の太子の住する所の淵池は、大海に流入して、復た悉く前に過ぎたり。佛子、彼の十龍王、及び八十億龍王、乃至娑伽羅龍王の太子の大海の中、及び其の淵池に雨らすが如きは、皆悉く娑伽羅龍王の雨らす所の大海に及ばず。娑伽羅龍王の住する所の淵池は、涌出して大海に流入するは、倍して復た前に過ぎたり。彼の涌きて流れたる水は、青瑠璃の色にして、大海に盈滿せり。涌出するに時有り、是の故に海潮は常に時を失はず。佛子よ、是の如きの大海は其の水無量にして、珍寶も無量、衆生も無量、大地も無量なり。佛子よ、意に於て云何ん。彼の大海の水は無量と爲すや、否や。答へて言はく、「實に爾り、其の水の深廣なることは喩を爲す可からず」と。佛子よ、是の如く海水の深廣にして無量なるも、如來の無量なる智海に於ては、百分が其の一にも及ばず。乃至譬を爲す可からず。但應化する所に隨ひて、爲めに譬喩を爲すのみ。佛子よ、菩薩摩訶薩は、如來の智海の深廣にして無量なることを知見す、初發心より乃至菩薩の無量の行を斷ぜざるが故なり。道品の寶無量なることを知見す、三寶を斷ぜざるが故なり。無量の衆生の歡喜を知見す、一切の聲聞・學・無學・及び緣覺を長養するが故なり。大地の無量なることを知見す、歡喜地より乃し究竟無礙の智地に至るが故なり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩、如來應供等正覺の境界の無量なることを知見するなり。一切衆生を饒益する無量の智慧の故に。」

爾の時に普賢菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

(一〇)『離垢の淨き境界は、無量にして稱る可からず、殊勝なる願力の故に、一切量有ること無し。

譬へば心の境界の、無量にして邊有ること無きが如く、一切諸の十力の、境界も亦是の如し。

譬へば大龍王の、本處を離れずして、心の願力を以ての故に、其の雨に量有ること無く、

雨水從來する所無く、亦去處有ること無く、龍王の願力の故に、心に隨ひて雨無量なるが如し。

一切十方の刹の、十力も亦是の如く、本より從來する所無く、去るも亦至る所無く、

無量なる諸の境界は、悉く心より緣起し、一切諸の法界は、皆一毛道に入る。

譬へば大海の水は、無量にして邊有ること無く、衆生及び珍寶、大地も亦無量なり。

海水は常に湛然として、皆悉く同一味なるも、衆生の受用に隨ひて、其の味各同じからざるが如し。

最勝も亦是の如く、智慧の海無量なり、三寶最も勝るるが故に、是の故に寶も無量なり。

聲聞・學・無學、辟支佛無量にして、具さに無上道を修す、この故に地も無量なりと說く。』

(一一)『佛子よ、云何んが菩薩摩訶薩は、如來應供等正覺の行を知見せん。此の菩薩摩訶薩は如來の無礙の行を知見す。如如の行は、是れ如來の行なり。

【一〇】頌に十偈あり、初めの二は法說を頌し、次の四は初めの二喩を頌し、後の四は第三喩を頌す。

【一一】第六、性起の行を明かす。

(三二)如は過去に滅せず、未來に至らず、現在に起らざるが如く、如來の行も亦是の如く、滅せず至らず起らざるなり。佛子よ、(三三)譬へば法界の無量無縛なるが如し。何を以ての故に。法界は無身の故なり。如來の行も亦是の如く、無量にして無縛なり。何を以ての故に。如來の行は無身なるが故なり。佛子よ、(三四)譬へば鳥の虛空を飛ぶに、百千年を經て遊行せし處は、度量す可からず、未だ遊行せざる處も亦、量る可からざるが如し。何を以ての故に。虛空には分齊無きが故なり。如來應供等正覺の行も、亦復た是の如し。若使人有りて、百千億那由他劫に於て、如來の行を分別し解說せんも、已に解說せし者は限量す可からず、未だ解說せざる者も亦量る可からず。何を以ての故に。如來の行には分齊無きが故なり。佛子よ、如來應供等正覺は如來の住に住す、所住無きが故なり。而も能く普く一切衆生の爲めに、如來の行を示現し開導したまふ。衆生見已りて、一切諸の障礙道を出過す。佛子よ、(三五)譬へば金翅鳥王の虛空に飛行し、虛空に安住して、清淨眼を以て大海の龍王の宮殿を觀察し、勇猛の力を奮ひ、左右の翅を以て海水を搏ち開きて、悉く兩に闢かしめ、龍の男女の命の盡なんとする者有るを知りて、之を撮取するが如し。如來應供等正覺の金翅鳥王も、亦復た是の如く、無礙の虛空の中に安住し、清淨の眼を以て法界の諸の宮殿の中の一切衆

【三二】以下五喩を擧げて廣く釋す。一に、眞に變遷無き喩、佛の至絕三際の行を顯はして如如の行を釋す。

【三三】二に、以下は無礙の行を釋す、法界無形の喩、佛體無限礙の行を顯はす。

【三四】三に、飛鳥翔空の喩、佛の圓滿にして分齊無き行を顯はす。

【三五】四に、金翅搏海の喩、如來の勝用濟生の行を顯はす。

生を觀察したまひ。若し善根已に成熟せる者有らば、勇猛の大力を奮ひ、止觀の兩翅をもつて、生死大愛の海水を搏ち開き、其の所應に隨ひて生死の海を出で、一切の妄想顚倒を除滅し、如來の無礙の行に安立せしむ。佛子よ、(二六)譬へば日月の虛空を周行するも、是の念を作さざるが如し、「我虛空を行くに何の所より來り、去りて何の所に至る」と。如來も亦復た是の如く、無礙解脫の虛空を周行して、一切の法界を分別し、一切の衆生を饒益し、廣く佛事を作すも、如來は是の念を作したまはず、「我去來すること有り」と。佛子よ、菩薩摩訶薩は是の如き等の無量無邊の勝行を以て、如來應供等正覺の行を知見す。」

爾の時に普賢菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰く、

(二七)「譬へば如の盡くること無く、生無く亦滅も無く、亦方處有ること無く、之を求むるも見る可からざるが如し。

如來も亦是の如く、境界は量る可からず。三世を遠離し、其の性悉く如如なり。

譬へば諸の法界の、界に非ず不界に非ず、有に非ず亦無に非ず、量に非ず無量に非ざるが如し。

功德を持てるものも是の如く、所行量る可からず、有に非ず亦無に非ず、其の身本より無なるが故なり。

鳥の虛空を飛ぶに、百千年を經由すれば、行處と未行處とは、皆悉く量る可からざるが如く、

【二六】五に、日月行空の喩、佛の無功成事の行を顯はす。

【二七】頌に十偈あり、前の五喩を頌す。

若し人百千劫に、如來の行を演說せんも、已說及び未說、皆悉く量る可からざるなり。
譬へば金翅鳥の、虛空に安住して、龍王の宮を觀察し、其の男女を撮取するが如し。
十力も亦是の如く、如來の行に安住し、善根純熟の者は、煩惱の海を出でしむ。
譬へば淨き日月の、虛空を周行して、一切の衆を安樂ならしむるも、我能く爾すと念はざるが如し。
如來も亦是の如く、諸の法界に遊行して、一切の衆を度脫し給ふも、我能く度すと念ひたまはず。』

(二八)『佛子よ、云何んが菩薩摩訶薩は、如來應供等正覺の菩提を知見せん。此の菩薩摩訶薩は、菩提を知見するに、(二九)一切の義を解り、疑惑を滅除し、不二等しく覺り、無相・無行・無退・無量・無邊・無縛・無脫にして二邊を遠離す。處非處を知り、一切の字、一切の語言の法を知り、一切衆生の心心の所行を知り、一切の根と、煩惱の習と、性とを知り、一念の中に於て悉く三世一切の諸法を知る。佛子よ、譬へば大海は一切衆生の色像の印を爲す。是の故に大海を說いて名けて印と爲すが如し。如來應供等正覺の菩提も亦復た是の如く、一切衆生の心念と諸根とは、菩提の中に現じて而も所現無し。故に如來を說きて一切覺と爲す。
佛子よ、一切諸佛の菩提は、一切の文字の記すること能はざる所、一切の語言の說くこと能はざる

【二八】第七、性起の菩提を明かす。
【二九】廣く釋するに十門あり、一に菩提の體性、二に業用、三に甚深、四に廣大、五に顯現因果・六に體虧盈を離る、七に用增減無し、八に定に依りて用を起し・九に法界に周遍し、十に心中に遍ずること是れなり。重圓點を以つて文段を分つ。

所、譬を爲す可からざるなり。但所應に隨ひて如來之が爲めに分別し演説したまふのみ。

佛子よ、如來應供等正覺は、菩提を成じたまふ時に、佛の方便に住して一切の衆生に等しき身を得、一切の法に等しき身を得、一切の刹に等しき身を得、一切の三世に等しき身を得、一切の如來に等しき身を得、一切の諸佛に等しき身を得、一切の語言に等しき身を得、一切の法界に等しき身を得、虚空界に等しき身を得、無礙の法界に等しき身を得、出生無量界に等しき身を得、一切の行界に等しき身を得、寂滅の涅槃界に等しき身を得たまふ。佛子、如來の得たまふ所の身に隨ひて、當に知るべし、音聲及び無礙の心も、亦復た是の如し。如來は是の如き等の三種の清淨無量を具足したまふ。

佛子よ。如來の身中に、悉く一切衆生の菩提心を發し、菩薩の行を修し、等正覺を成ずることを見たまふ、乃至一切衆生の寂滅涅槃を見たまふことも、亦復た是の如し。皆悉く一性にして無性なるを以ての故に、無相・無盡・無生・無滅なるが故に、我も我性に非ざるが故に、衆生も衆生の性に非ざるが故に、覺も所覺無きが故に、法界も自性無きが故に、虚空界も自性無きが故なり。是の如く等しく一切の無性を覺り、無盡智と、自然智と。一切如來の無極の大悲とをもつて衆生を度脱したまふ。

佛子よ、譬へば虚空界の世界若しは成り、若しは敗るるも、常に増減無きが如し。何を以ての故に。虚空には生滅無きが故なり。如來應供等正覺の菩提も、若しは成未成あるも、常に増減無し、一性無性にして衆性を捨離すればなり。

佛子よ、設ひ一人有りて、世に出興し、彼能く恒沙に等しき心を化作し、彼の一一の心は、悉く能く恒沙の如來を化作して、色も無く形も無し。是の如く恒沙に等しき劫に、常に化して絶えざらんに、意に於て云何ん、彼の化する如來は寧ろ多しと爲すや不や。答へて曰はく、「我仁の意を知る、若しは化・不化あらんも、等しくして異り有ること無し」と。善い哉、善い哉、佛子よ、誠に言ふ所の如し。佛子よ、設使、一切の衆生、一念の中に於て悉く正覺を成じ、若しは成じ、もしは未だ成ぜざるも、皆悉く平等なり。何を以ての故に。菩提は無性なるが故に、增も無く減も無ければなり。如來の菩提は皆悉く一性にして、所謂る無性なり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩、如來應供等正覺の菩提を知見するなり。◎

佛子よ、如來應供等正覺は、正覺を成じ已りて正受三昧したまふ、名けて善覺と曰ふ。正受三昧し已りて菩提の身を得、數は一切衆生の身と等し。一三昧の如く、一切の三昧、一切の法門も亦復た是の如し。佛子よ、是は爲菩薩摩訶薩、如來應供等正覺の菩提身を知見するなり。◎

復た次に佛子よ、菩薩摩訶薩は、一毛道に於て、悉く一切衆生に等しき如來の身を知る。一毛道の如く一切の毛道、一切法界の處にも、亦復た是の如し。何を以ての故に、如來の菩提身は、處として至らざること無く、處として有らざること無きが故なり。如來應供等正覺は、本より菩提を求め、勤修し精進して、道場の菩提樹下に往詣し、師子の座に處して最正覺を成じ、菩提を究竟したまふ。◎

復た次に佛子よ、此菩薩摩訶薩は、自ら身中に悉く一切諸佛の菩提有ることを知る。何を以ての故に。彼の菩薩の心は、一切如來の菩提を離れざるが故なり。自の心中の如く、一切衆生の心中も亦復た是の如く、無量無邊にして、處として有らざること無く、破壞す可からず、思議す可からざるなり。佛子よ、菩薩摩訶薩は、是の如き等の無量無邊の不可思議なる方便の法門を以て、如來應供等正覺の菩提を知見す。」

爾の時に普賢菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

〔三〇〕「菩提は二法に非ず、二邊を遠離し、一切の惡を除滅し、平等に諸法を覺る。

一切の法は、皆悉く虛空の如く、我に非ず無我に非ずと了達して、等しく一切の法を覺る。

譬へば諸の大海は、一切衆生の類の、色像を悉く現ず、この故に一切印と說くが如し。

十方世界の中の、一切衆生の類は、無上菩提の海に、法として現せざる無し。

譬へば虛空の性の、世界の成壞の時、若しは成り若しは未だ成らざるも、虛空に增減無きが如し。

最勝も亦是の如く、無上菩提の道を、若しは覺り若しは未だ覺らざるも、二性も亦無性なり。

譬へば無量劫に、念念に諸佛を化するに、若しは化し若しは化せざるも、皆悉く等しくして異

〔三〇〕頌に十二偈あり、前の十門の中、第一・第二・第六・第七・第八・第五の六門を頌す、次第の如く各二偈あり、餘門は略して頌せず。

ること無きが如く、
設ひ一切の衆生、一時に正覺を成じ、若しは成じ若しは未だ成ぜざるも、菩提に增減無し。
最勝に三昧有り、名曰けて善覺と爲す、道場に菩提を成じ、此の三昧を逮得したまひ、
普く無量の光を放つこと、一切の衆生に等しく、一切の闇を除滅して、諸の群生を開悟したまふ。
三世の一切劫に、佛刹と及び諸法と、諸根と心心の法と、一切虛妄の法とは、
一の如來身に於て、此の法皆悉く現ず、是の故に菩提は、無量にして邊有ること無しと說く。』

〔三一〕『佛子よ、云何んが菩薩摩訶薩は、如來應供等正覺の轉法輪を知見せん。◎〔三二〕此の菩薩摩訶薩は、如來の〔三三〕一切の願と、一切の法と、轉に所轉無きとを知見す、本より所起無く、〔三四〕三轉圓滿にして、皆悉く淸淨に、悉く能く一切の邪見を遠離し、欲の際と非際とを離れ、一切の諸法は虛空際の如く言說す可からず。一切の法は寂滅涅槃の性なるが故なり。◎菩薩摩訶薩は、一切の文字、一切の語言法は、悉く法輪を轉ずと知見す。如來の音聲は至らざる所無きが故なり。法輪は響の如しと知見す、眞實の法性なるが故なり。一切の音聲は皆是れ一聲なりと知見す、如來は此を以て法輪を轉じ、佛の轉法輪に主有ること無きが故なり。轉法輪は無漏無盡なりと知

〔三一〕第八、性起の轉法輪を明かす。
〔三二〕以下轉法輪の義を釋するに七門あり、一に體相、二に深廣の相、三に無盡、四に無住、五に分齊、六に出生、七に知益これなり、重圈を以つて文段を分つ。
〔三三〕願は法輪の所依なり、法は所轉の法なり。
〔三四〕三轉圓滿とは德相の圓滿を云ふ、三とは示相・勸知・引證なり。

見す、內外所有無きが故なり。

佛子よ、譬へば文字は無量無數劫に於て說くとも盡す可からざるが如し。如來應供等正覺の正法輪を轉ずるも、亦復た是の如く、一切の文字、一切の語言をもつて說くとも盡す可からず。如來の法輪は悉く一切の語言文字に入りて、而も所住無し。佛子よ、譬へば字章は、悉く一切の字數、一切の事數、一切の語言數、一切の算數、一切の世閒出世閒に入りて、而も所住無きが如し。如來の音聲も亦復た是の如く、一切處に於て入らざる所無し。一切の衆生、一切の法、一切の業、一切の報、一切の心に於ても亦所住無し。一切衆生の諸の語言法は、皆是れ法輪の音聲の攝する所なり。何を以ての故に。一切の音聲は法輪の音聲を離れざるが故なり。

復た次に佛子よ、此の菩薩摩訶薩は如來應供等正覺の出生法門の轉法輪を知見す。何等をか如來の出生法門の轉法輪と爲す。如來は一切衆生の念念心心の行に等しき音聲を以て一切衆生の爲めに法輪を轉ず。何を以ての故に。佛子、如來應供等正覺に三昧有り、名けて究竟無礙無畏と曰ふ。如來正受三昧して法輪を轉ず。如來此の三昧に入り已りて、一切衆生に等しき音を出生したまひ、一一の音の中に於て、復た一切衆生に等しき音を生じて法輪を轉じ、悉く衆生をして、皆大に歡喜せしめたまふ。

佛子よ、若し是の如く轉法輪を知る者は、當に知るべし、是の人は則ち爲一切の佛家に隨順するなり。是の如く知らざれば、則ち諸の如來家に隨順せざるなり。

佛子よ、是は爲菩薩摩訶薩、如來應供等正覺の轉法輪を知見するなり。』

爾の時に普賢菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

〔三五〕『如來の轉法輪は、三世に至らざる無く、所轉に所轉無く、之を求むるも不可得なり。

譬へば諸の文字の、之を說くとも盡す可からざるが如し、十力も亦是の如く、轉法輪は無盡なり。

譬へば章の文字の如し、悉く一切の數に入りて、所入に所入無きが如く、法輪も亦是の如く、普く一切の音に入りて、所入に所入無し、彼も亦自性無く、能く一切を喜ばしめ、一切の數を出過し、究竟じて菩提を成ず。

眞實の義を說かんと欲す、是の故に三昧に入る、彼の三昧の力を以て、妙なる音聲を出生して、悉く衆生と等しく、而も淨法輪を轉ず。

又復た悉く彼の、一一の諸の音聲に於て、無量の音を出生す、衆生の語言の法は、大自在にして無念なり、我彼の衆の音を出だし、其の受化の者に隨ひて、一切聞かざること無し。

譬へば諸の文字の、內ならず亦外ならず、無漏にして盡す可からず、亦復た積聚も無きが如し。

十力も亦是の如く、淸淨の法輪を轉じ、無漏にして盡す可からず、諸佛の大神力なり。』

〔三五〕 頌に十偈あり、初の一偈は體相、次の一は無盡、次の二半は無作、次の三半は出生、末後の二偈は深廣を頌す。

卷の第三十七

寶王如來性起品第三十二の四

(一)「佛子よ、云何んが菩薩摩訶薩は、如來應供等正覺の大般涅槃を知見せん。

此の菩薩摩訶薩は如來應供等正覺の大般涅槃を知見せんと欲せば、當に是の如く知るべし。如の般涅槃の如く、如來の大般涅槃も、亦復た是の如し。實際の如く、法界の如く、虛空界の如く、實性の如く、離欲際の如く、無相際の如く、我性際の如く、一切の法性際の如く、眞實際の般涅槃の如く、如來の大般涅槃も亦復た是の如し。何を以ての故に。涅槃は生滅の法に非らざればなり。若し法生ぜざれば當に知るべし、不滅にして、去るも至る所無し。

佛子よ、如來應供等正覺は、菩薩の爲めに如來の究竟涅槃を演說し顯現したまはず。何を以ての故に。諸の菩薩をして一念の中に於て、普く三世一切の諸佛悉く現前することを見せしめんと欲するが故なり。一切如來の妙色を出生するも、亦復た二不二の想を起さず。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は諸想を遠離して、染著無きが故なり。

【一】第九、性起の涅槃を明かす八門あり、一に體質の眞常、二に灰斷を簡異し、三に出沒を礙へず、四に器の虧盈に隨ひ、五に起盡緣に隨ひ、六に存亡常に湛然、七に用來際を窮むることを明かし、八に總じて所知を結す。

佛子よ、但如來は衆生をして歡喜せしめんと欲するが故に、世に出現したまふ。衆生をして憂悲感慕せしめんと欲するが故に、涅槃を示現したまふ。其の實は如來に出世有ること無く、亦涅槃も無し。何を以ての故に。如來は常住なること、法界の如くなるが故なり。衆生を化せんが爲めに、涅槃を示現したまふ。

佛子よ、設ひ日の出づる有りて世間を照現し、圓滿明淨なること法界と等しく、一切世界の淨水の器の中に於て、影現ぜざること無からんも、日には是の念無し、「我能く普く一切の淨水に現ず」と。佛子よ、彼の時に、或は一水器の破るる有らば、日影現ぜず。意に於て云何ん、彼の影の現ぜざるは豈に日の過ならんや。答へて曰はく「不らず、水器破るるが故に、日影現ぜざるなり」と。佛子よ、如來の智慧の圓滿なる淨日は、一念に出現して、悉く能く一切の世界、一切の法界、一切の衆生を照明して垢濁を滅除し、淨心の水器に、影顯はれざること無く、常に現じて前に在り。但破器濁心の衆生は、如來の法身の影像を見ず。應に涅槃を見て得度すべき者なり。是の故に如來は般涅槃を現じたまふも、其の實、如來は不生不滅にして、永く滅度したまふこと無し。

佛子よ、譬へば大火は、一切の世界に於て能く火事を爲し、草木を焚燒して盡さざる者無し。時有りて彼の火、草木・城邑・聚落無きに至らば、自然に滅するが如し。意に於て云何ん、一切世間の火は悉く滅するや不や。答へて曰はく「不らず」と。如來應供等正覺も亦復た是の如く、一切世界に於て、

佛事を施作し、或は一佛刹を化度し已りて、周く涅槃を示現したまふ。意に於て云何ん、一切世界の如來は悉く滅度したまふや。答へて曰はく「不らず。」佛子、是は爲菩薩摩訶薩、如來應供等正覺の大涅槃を知見するなり。

復た次に佛子よ、大幻師は、善く幻術を知り、此の術に安住し、三千大千世界の一切の城邑・聚落・大王都に於て、普く幻身を現じ、幻身を住持し、壽命盡くること無し。時に此の幻師、彼の城邑・聚落・大王都に於て、事の訖る處に隨ひて、便ち幻身を捨つるが如し。意に於て云何ん、三千大千世界の幻身は悉く捨滅せりと爲すや。答へて曰はく「不らず。」如來應供等正覺も亦復た是の如く、善く大慧の幻術を知りて、巧方便の慧を具足し出生して、一切の法界に於て、普く能く如來の幻身を示現したまひ、常住なること法界の如く、究竟すること虛空の如く、諸佛の刹に隨ひて、教化度脫し、已に周く訖りし處に涅槃を示現したまふ。當に知るべし、一佛刹に涅槃を示現したまふを以ての故に、如來は究竟じて永く滅度したまはざるなり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩、如來の大般涅槃を知見するなり。

復た次に佛子よ、如來般涅槃を示現したまふ時、先づ不動三昧に入りたまふ。三昧に入り已りて、一一の身に於て、各各無量億千那由他の大光を放ち、一一の光明は各各無量阿僧祇の妙寶蓮華を出だし。一一の蓮華に、各各不可說不可說の妙寶の華鬚有り、一一の華鬚に各各寶師子の座有り、一一の座上に各各如來有して結跏趺坐したまふ。彼の時に現ずる諸の如來身は、悉く一切衆生の數と等し

く。功德具足し相好莊嚴して、本願を究竟せり。時に衆生有り、善根の熟する者は如來の身を見たてまつりて、心皆調伏して道化を禀受す。彼の如來身は、究竟じて盡未來際に安住し、一切衆生の應に化を受くべき所に隨ひて、未だ曾て時を失はず。彼の如來身は處所有ること無く、實に非ず虛に非ず。如來は但過去の諸大願を究竟せんと欲したまふが故に、衆生をして諸の善根を長養せしめんと欲したまふが故に、其の身を應現し、常に住して滅せざるなり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩、如來應供等正覺の大般涅槃を知見するなり。

復た次に佛子よ、此の菩薩摩訶薩は、如來の涅槃を知見するに、無量無邊にして、法界を究竟じて、障礙する所無く、不生不滅にして、淨きこと虛空の如く、實際に安住し、其の所應に隨ひて而も之を示現し、本願に持せられ、一切の衆生、一切の佛刹、一切の諸法を捨てず。』

【二】頌に十二偈あり、初めの二は前の第四、次の二は第五、次の二は第六、次の四は第七、後の二は第一の法を頌す、餘の三門は略して頌せず。

爾の時に、普賢菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

【三】『譬へば圓滿の日の、一切の法界に等しく、影は一切の水に現ずるが如し、唯諸の破器をば除く。最勝も亦是の如く、普く一切の世に現じたまふ、衆生の信心無きものは、佛涅槃に入りたまふと謂へり。

譬へば猛盛の火の、一切の物を焚燒するも、草木聚落無ければ、火は則ち自然に滅するが如し。

最勝も亦是の如く、法界に充滿して、諸の佛事を究竟し、涅槃に入ることを示現したまふ。
譬へば大幻師の、無量の身を示現するが如し、如來も亦是の如く、普く一切の身を現じて、
諸の佛事を究竟し、般涅槃を示現したまふ、應に化を受くべき者に隨ひ、此を以て示現したまふ。
最勝に三昧有り、名けて不可動と曰ふ、佛事を究竟し已りて、然して後に此の定に入りたまひ、
念に無數の佛を出だし、又無量の光を放ちたまふ。光に無量の華有り、華に無量の佛有す。
最勝の無量身は、諸の法界に充滿したまひ、功德を積集する者は、一切見たてまつらざること無し。
善逝の淨法身は、無量なること法界と等しく、壽命は淨く莊嚴せられ、一切悉く具足す。
猶ほ無生の性の如く、如來の興りたまふも亦然なり、猶ほ無滅の性の如く、涅槃したまふも亦是の如し。
悉く語言の道を離れ、譬喩を爲す可からず、天中の天にして勝れ難く、一切の德を具足したまふ。』

㈢『佛子よ、云何んが菩薩摩訶薩は、如來應供等正覺の所に於て、見聞し、恭敬し、供養して、種ゑし所の善根を知見せん。此の菩薩摩訶薩は如來の所に於て、見聞し、恭敬し、供養して、種ゑし所の善根を知見するに、皆悉く虚しからずして、功德無盡なり。一切の愛を離れて、解脫を究竟し、果報虚しからずして、諸願を滿足し。一切の有爲

【三】第十、性起の見聞敬養善根を明かす。

法の中に於て、窮盡す可からず、而も能く無爲の智慧に隨順し。諸佛の智を起し、未來際を究竟じて一切諸の如來地を具足す。

㈣佛子よ。譬へば丈夫の少金剛を食せんに、終竟に消えずして、要ず身より過ぎて、金剛輪際に至り、然して後に乃ち住するが如し。所以は何ん。彼の金剛は消す可からざるを以ての故なり。是の如く、佛子よ、如來の所に於て少しく善根を植ゑなば、能く一切有爲の煩惱を壞り、乃至如來の涅槃の智慧を究竟し、然して後に乃ち住す。所以は何ん。如來の所に於て植ゑし諸の善根は、盡す可からざるが故なり。

㈤佛子よ、譬へば須彌山に等しき大乾草聚まらば、若し人有りて芥子の如き火を持せば、悉く能く燒き盡すが如し。何を以ての故に。火性は悉く能く燒くが故なり。佛子よ、如來の所に於て少しの善根を種うるも、亦復た是の如く、悉く能く一切の煩惱を燒滅して遺餘有ること無く、涅槃を究竟せん。何を以ての故に。如來の所に於て種ゑし諸の善根の性は、究竟するが故なり。

㈥佛子よ、譬へば雪山に大藥王有り、名けて善現と曰ふ。若し見る者有らば、眼清淨なることを得ん。若し聞く者有らば、耳清淨なることを得ん。若し香を聞がん者は、鼻清淨なることを得ん。若し味を嘗めん者は、舌清淨なることを得ん。若し觸るる者有らば、身清淨なることを得ん。若し

【四】 以上は法に約して釋し、以下三喩を擧げて三果を明かす、一は少金剛を呑む喩、德未來際を窮むる果を顯はす。
【五】 二に小火能燒の喩、惑障を斷滅する果を顯はす。
【六】 三に藥王多益の喩、大菩提を成する果を顯はす。

彼の地の土を取らば、悉く能く無量の衆病を除滅し、安隱快樂ならしめんが如し。如來應供等正覺の無上の藥王も、亦復た是の如く、常に一切諸の方便行を以て、衆生を饒益す。若し如來の色身を見ることを得る有らば、眼清淨なることを得ん。若し如來の名號を聞くことを得る有らば、耳清淨なることを得ん。若し如來の戒香を聞ぐことを得る有らば、鼻清淨なることを得ん。若し如來の法味を味ふことを得る有らば、舌清淨なることを得、金剛の廣長、清淨の舌根を得て、悉く能く一切の言音を演說せん。若し如來の光に觸ることを得る者有らば、彼の人は卽ち清淨の色身を得て、究竟じて無上の法身を逮得せん。若し如來を念ずる者有らば、念佛三昧を得て正念にして亂れざらん。若し經行の地、如來の塔廟を得て、禮拜し供養する有らば、彼の衆生は等しく善根を具足し、煩惱の患を滅して、賢聖の樂を得ん。佛子よ、乃至不信邪見の衆生にして、佛を見聞したてまつらんには、彼の諸の衆生、見聞の中に於て種ゑし所の善根の果報は虛しからず、乃至究竟涅槃して、一切の惡と諸の不善根とを斷ち、善根を具足せん。

佛子よ、如來の所に於て、見聞し、供養し、恭敬して種ゑし所の善根は、言說す可からず、喩を爲す可からず。何を以ての故に。如來は不可思議にして、思議を過ぎたるが故なり。但所應に隨ひて佛爲めに喩を爲したまふのみ。佛子、是は爲菩薩摩訶薩、如來の所に於て、見聞し、恭敬し、供養して、諸の善根を種ゑしことを知見するなり。』

（七）爾の時に諸の菩薩摩訶薩、普賢菩薩に白して言さく、

『佛子よ、當に何かに此の經を名け、云何んが奉持したてまつるべき。』

『佛子よ、此の經を名けて、一切諸佛の微密法藏と爲す、一切の世間は思議すること能はず、如來の印する所にして、大智の光明、如來の種性を開發し示現して、一切菩薩の功德を長養し、一切の世間は能く破壞すること無く、一切如來の境界に隨順して、一切の衆生をして皆悉く清淨ならしめ、佛の究竟法を分別し演說するなり。

（八）佛子よ、是の如きの經典は但不思議乘に乘ずる菩薩摩訶薩の、一向專心に菩提を求むる者の爲めにのみ、分別し解說して、餘人の爲めにせず。何を以ての故に。此の經は一切衆生の手に入らず、唯菩薩をば除く。佛子よ、譬へば轉輪聖王の有する所の七寶の如し。此の寶に因るが故に、轉輪王の法を行ず。聖王の七寶を持するに堪へたる者無し。唯第一夫人の生む所の太子にして、聖王の相を具足し、成就せる者をば除く。佛子よ、若し轉輪王にして此の太子の衆德を具ふる者無くんば、王命終の後、此の諸寶等は自然に散滅せん。佛子よ、此の經も是の如く一切衆生の手に入らず。唯如來の法王の眞子にして、諸の如來種姓の家より生れ、如來の相の、諸の善根を種ゑたる者をば除く。若し此等の佛の眞子無くんば、斯の經は則ち滅せ

【七】以上は十門性起の正說を竟り、次に經名と受持とを明かす。

【八】次に受持を明かす中に四段あり、一に法器を辨じ、二に益を擧げて信を勸め、三に信受の利益を示し、四に修行の益を明かす。

ん。何を以ての故に、一切の聲聞緣覺は此の經を聞かず、何に況んや、受持し、書寫し、解說せんこと、是の處有ること無きをや。唯菩薩摩訶薩の能く自ら經卷を誦持し、書寫するものをば除く。佛子よ、是の故に菩薩摩訶薩の此の經を聞かん者は、歡喜し、恭敬し、頂戴し、受持せん。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は此の經を信樂し、少しく方便を作せば、必ず決定して無上菩提を得ればなり。佛子、菩薩摩訶薩は無量億那由他劫に、六波羅蜜を行じ、道品の善根を修習すと雖も、未だ此の經を聞かず、聞くと雖も信じ、受持し、隨順せず。是等は猶ほ爲れ假名の菩薩にして、如來種姓の家より生れざるなり。

佛子よ、若し菩薩摩訶薩にして、此の經を聞くことを得、聞き已りて信向し、受持し、隨順せば、當に知るべし。此等は爲眞の佛子にして佛家より生れ、一切如來の境界に隨順し、一切の菩薩の正法を具足し、一切種智の境界に安住し、一切世間の諸法を遠離し、如來の所行を出生し長養し、一切の菩薩の諸法の彼岸に到り、如來の自在に於て心に疑惑無く、究竟じて無師の地に安住し、深く一切如來の境界に入らん。

佛子よ、菩薩摩訶薩、此の經を聞き已りて、應當に平等の意行、無量の心を發し、一切虛妄の想を遠離し、直心を究竟し、面に對して一切の如來を正念し、修習平等にして清淨なること、猶ほ虛空の如く、一切の菩薩の行業を分別し觀察して、法界と等しく、一切智智を具足し成就し、一切世間の垢

濁を遠離して、清淨の心を發し、一切の十方世界に充滿し、深く一切の菩薩の法門に入り。平等に三世の諸佛を觀察し、善根功德智慧を具足し、深く此等の一切諸法に入りて、而も所入無く、一法を念せず、二法を念せず、悉く平等に無量の諸法を觀ずべし。佛子よ、菩薩摩訶薩は是の如き等の功德を成就し、少しの方便を作せば、無師智を得ん。」

爾の時に普賢菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

(九)『若し如來を見聞して、恭敬し及び供養したてまつらば、植うる所の諸の善根は、無量にして稱る可からず。

一切有爲の中に、窮盡することを得可からず、諸の煩惱を寂滅し、苦を離れて涅槃を得ん。

譬へば一人有り、小金剛を呑み服せば、究竟じて消す可からず、下りて金剛際に至るが如し。

是の如く十力の所にて、見聞し供養したる福は、金剛の智を具足し、煩惱滅して餘り無し。

譬へば乾草を積みて、彼の須彌山に等しきも、火の芥子の如きを投ずれば、燒き盡して悉く餘り無きが如し。

是の如く善逝の所にて、若し少しの功德をも植ゑなば、諸の煩惱を燒き滅して、正しく趣きて涅

【九】頌に八偈あり、初めの二は前の法說を頌し、後の六は三喩を頌す。

槃に到らん。

譬へば雪山の中に、大藥王樹有り、見るも聞くも嗅ぐも味ふも觸るるも、一切の患を除滅するが如し。

十力も亦是の如く、若し見聞する者有らば、勝功德を修習し、究竟じて菩提を成せん。」

〔10〕爾の時に、十方不可說不可說の、百千億那由他の佛刹微塵に等しき世界は、六種に震動し、東に涌きて西に沒し、西に涌きて東に沒し、南に涌きて北に沒し、北に涌きて南に沒し、邊に涌きて中に沒し、中に涌きて邊に沒し、及び十八相に動けり。

【10】次は瑞を表はし、證を成ぜしことを敍す。

所謂る、動・徧動・等徧動・起・徧起・等徧起・覺・徧覺・等徧覺・震・徧震・等徧震・吼・徧吼・等徧吼・涌・徧涌・等徧涌なり。爾の時に、佛の神力の故に、法是の如くなるが故に、衆の華雲を雨らして、諸天に勝過し、寶衣の雲・蓋雲・幢雲・旛雲・香雲・塗香雲・鬘雲・莊嚴雲・衆寶雲・菩薩讃歎雲・菩薩身雲・三藐三菩提雲を雨らし、普く不可思議の世界をして、皆悉く清淨ならしめ、如來の妙音聲雲を雨らして、無量無邊の法界に充滿せり。此の四天下に、佛の神力の故に、諸の菩薩をして皆大いに歡喜せしめたるが如く、一切の十方も亦復た是の如し。

爾の時に、十方各八十不可說の百千億那由他の佛刹の、微塵に等しき世界の外を過ぎて、各各八十不可說の百千億那由他の、世界の微塵に等しき如來有して、悉く其の身を現じたまひ、若しは近く面

に對し、同じく普賢と號せり、現じ已りて咸く是の言を作したまはく、

『善い哉善い哉、佛子よ、乃し能く佛の神力を承け、深法に隨順して、不可思議なる如來性起の正法を解說せり。佛子、我等諸佛も亦此の法を說き、十方一切の諸佛、及び、諸の菩薩も、亦復た是の如し。此の經を說く時に、百千の佛刹微塵に等しき菩薩は、菩薩の一切の明と、一切の三昧とを得、一生の記を受けて、當に阿耨多羅三藐三菩提を成ずべし。一佛刹の微塵に等しき衆生も、菩提心を發し、我等悉く記を與へ授け、未來世に於て、當に佛道を成じ、悉く同一の號にして、佛の勝境界と號すべし。是の故に我等は普く未來の諸の菩薩の爲めの故に、此の經を護持して、久しく世に住せしむ。此の四天下の所度の衆生の如く、十方無量阿僧祇の不可思議・不可稱・不可量・不可說の法界・虛空界に等しき、一切世界の所度の衆生も、亦復た是の如し。盧舍那佛の本願力の故に、法是の如くなるが故に、善根力の故に、如來の無盡智の故に。如來時を失はざるが故に、其の所應に隨ひて菩薩を化するが故に、廣く普賢菩薩の行を行ずるが故に、一切種智を示現するが故なり。』

爾の時に十方各十不可說百千億那由他の、佛刹の微塵に等しき世界の外を過ぎて、各十不可說百千億那由他の、佛刹の微塵に等しき菩薩有り、此の土に來詣して、一切の法界に充滿し、菩薩の大妙莊嚴を示現し、大光明網を放ち、一切の世界を震動し、一切諸魔の宮殿を壞散し、一切惡道の諸難を除滅し、一切如來の功德を照明し、一切如來の正法を讚歎し、普く無量無邊の供養雲雨を雨らし、無

量なる種種の異身を示現し、己身は是れ無量なる諸佛の法門の器なることを現ぜり。時に彼の諸の菩薩、佛の神力を承けて各是の言を作さく、

『善い哉善い哉、佛子よ、乃し能く是の如來の不可壞の法を說けり。佛子よ、我等は一切悉く普賢と名け、普光明世界の普勝如來の所に於て、梵行を淨修せり。彼の諸佛の所にも亦是の經の是の如き句・是の如き味・是の如き行・是の如き相貌を說けり。佛子よ、我等は佛の神力を承くるが故に、法是の如くなるが故に、彼の世界より此の土に來詣し、汝が爲めに證を作す。一切十方の盡法界・虛空界に等しき一切の世界も亦復た是の如し。』

爾の時に普賢菩薩、佛の神力を承けて、一切諸の菩薩衆を觀察し、重ねて如來性起の正法を明さんと欲し、如來の無量の功德を說かんと欲し。如來の正法の沮壞す可からざるを明さんと欲し、一切の菩薩の無量智慧の法明を生ぜんと欲し、一切の具足せる佛法を說かんと欲し、一切の群生類の心を觀察せんと欲し、所應に隨ひて化して時を失はざらんと欲し、一切無量無邊の菩薩の正法を分別せんと欲し、一切如來の變化自在なる莊嚴を顯現せんと欲し、一切の如來は一身にして異ること無きを明さんと欲し、一切の菩薩の無量の本行を出生せんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

(二)『一切諸の如來の、成就したまふ所の威儀は、世を擧げて悉く稱譽

【二】頌に七偈あり、初めの二は前の說分を頌し、次の三は顯名受持分を頌し、後の二は勝を歎じ受持を勸む。

するも、能く譬喩を爲すこと無し。
衆生を饒益して、悉く開悟せしめんが爲めの故に、喩に非ざるを以て喩と爲し、眞實の義を顯現したまへり。
是の如きの微密の法は、無量劫にも聞くこと難く、精進智慧の者は、乃ち如來藏を聞かん。
若し此の經を聞きて、歡喜し恭敬する者有らば、此等は已に過去に、無量の佛を供養したてまつりしなり。
當に知るべし此の如きの人は、諸天常に讚歎し、一切諸の善逝も、攝取して常に守護したまふ。
一切諸の善逝は、世・出世間に勝れたまひ、最勝は衆を歡喜せしめ、此の經を內藏と爲したまふ。
能く無量なる、一切白淨の道を出生す、是の故に放逸を離れ、一心に常に奉持したてまつるべし。』

離世間品第三十三の一

（一）爾の時に世尊、摩竭提國の寂滅道場の普光法堂に在して、蓮華藏の寶師子の座に坐し、等正覺を成じたまひ、不二の念・無相の念を念じ、佛の所住に住して、一切の佛に等しく、無礙の趣に到り、不退轉の法を得、無礙の境界にして、不思議に住し、三世を遠離し、一切の世界に於て普く其の身を現じ、一切の法を知り、一切の妙行を具足し成就し、永く疑惑を滅し、虚妄を離れたる身にて、能く一切の菩薩に無量の智慧を與へ、佛の無二の法に住し究竟じて彼岸に到り、如來の沮壞す可からざる智慧の法門を具足し、無量無邊の虚空・法界に等しき如來の諸地を究竟したまひ、百千億那由他の不可說の、一切の佛刹の微塵に等しき菩薩摩訶薩と倶なりき。悉く是れ一生にて、當に阿耨多羅三藐三菩提を成ずべし。各十方の世界より來集し、一切の菩薩の方便智慧を具足し成就し、善巧方便をもつて衆生を調伏し、悉く菩薩の正法に安住せしめ、一切の世界を分別し了知し、明達せる解脫の境界を觀察し、悉く已に一切の虚妄を除滅し、一切の妙行を具足し成就し、善く衆生を攝して、深く無量の巧方便法に入り、善く一切衆生の果報を知り、善く一切衆生の心使・諸根・境界・方便を知り、三世一切諸佛の說きたまふ所の、句味と及び義とを善く聞きて受持し、廣く人の爲めに說き、善く無量無邊の世間に入りて、世間の法を離れ、善能く諸の

【一】第七會の序分、三世間の圓滿を叙す。

有爲法は皆悉く無二なりと解了せり。一念の中に於て一切の佛の智を得、念念の中に於て善能く等正覺を成ずることを示現し、一切衆生をして菩提心を發して等正覺を成ぜしめ、一衆生の境界に入りて善く一切の衆生心の境界を知り。如來地を捨てずして菩薩身を現じ、不退轉の一切智地を得て菩薩の行を捨てず。深く無行智に入り、一切衆生の爲めの故に無量無數劫に於て菩薩の行を修し、無量無數劫に於ても菩薩の寶に値遇することを得難く、淨法輪を轉じて衆生を調伏し悉く明淨の法眼を逮得せしめ、三世の一切諸佛の淨住行願を成就せり。是の如き等の無量無邊の功德を具足し、一切の諸佛未來劫を盡して說くとも盡す可からず。其の名を普賢菩薩・普正法菩薩・普化菩薩・普慧菩薩・普眼菩薩・普光菩薩・普觀察菩薩・普照菩薩・普幢菩薩・普覺菩薩と曰ふ。是の如き等の、百萬億那由他の不可說の佛刹微塵に等しき菩薩摩訶薩は。皆悉く普賢の行願を具足し、諸の世界に隨ひて、佛有して世に興りたまはば、悉く能く往詣して、轉法輪を請ひ、悉く能く諸佛の正法を受持して一切の佛種姓を斷せざらしめ、悉く能く一切諸佛の次第の授記に了達し、諸の世界に隨ひて等正覺を成じて、淨法輪を轉じ、無佛世界に於て身を現じ、佛と爲りて世に出興し、有染の者をして悉く淸淨なることを得しめ、一切の菩薩の業障を除滅して無礙の法界に入らしむ。

爾の時に普賢菩薩、正受三昧せり。其の三昧を佛華嚴と名く。三昧に入り已りて、十方の一切世界は、六種十八相に震動し、微妙の音を出だして、一切の世界に聞かざる者無し。然して後に、安詳として

三昧より起てり。

爾の時に普慧菩薩、諸の菩薩大衆の雲のごとく集れるを知り、普賢菩薩に問うて言はく、

〔二〕『佛子よ、何等をか諸の菩薩摩訶薩の依果と爲し、何等をか奇特の想と爲し、何等をか行と爲し、何等をか善知識となし、何等をか勤修精進と爲し、何等をか正希望と爲し、何等をか成就衆生と爲し、何等をか戒と爲し、何等をか自知受記法と爲し、何等をか入と爲し、何等をか入如來と爲し、何等をか入衆生心行と爲し、何等をか入世界と爲し、何等をか入劫と爲し、何等をか說三世と爲し、何等をか入三世閒と爲し、何等をか憂惱の心を離れて厭悔無しと爲し、何等をか無壞智と爲し、何等をか陀羅尼と爲し、何等をか分別して佛を說くことを知ると爲す。

何等をか普賢の心を發すと爲し、何等をか普賢の願行法と爲し、何等をか大悲と爲し、何等をか發菩提心の因緣と爲し、何等をか善知識に於て恭敬心を起すと爲し、何等をか清淨と爲し、何等をか波羅蜜と爲し、何等をか隨順覺知と爲し、何等をか決定智と爲し、何等をか力と爲し、何等をか平等と爲し、何等をか佛法句と爲し、何等をか說法と爲し、何等をか受持と爲し、何等をか辯と爲し、何等をか勝法と爲し、何等をか無著と爲し、何等をか平等心と爲し、何等をか出生智慧と爲し、何等をか變化と爲す。

〔二〕請問に二百句あり、分つて六段と爲す。初の二十句は十信の行を問ひ、次の二十句は十住の行を問ひ、次の三十句は十行の行を問ひ、次の廿九句は十廻向の行を問ひ、次の五十句は十地の證行を問ひ、後の五十一句は因果圓滿の究竟位の行を問ふ。

何等をか持と爲し、何等をか大正希望と爲し、何等をか深入佛法と爲し、何等をか依止と爲し、何等をか無畏心を發すと爲し、何等をか一切の疑惑を除滅して無疑心を發すと爲し、何等をか不思議と爲し、何等をか巧方便微密の語と爲し、何等をか巧方便分別智と爲し、何等をか正受三昧と爲し、何等をか一切處と爲し、何等をか法門と爲し、何等をか通と爲し、何等をか明と爲し、何等をか解脫と爲し、何等をか園林と爲し、何等をか宮殿と爲し、何等をか樂と爲し、何等をか莊嚴と爲し、何等をか不動心を發すと爲し、何等をか深心を捨てずと爲し、何等をか智觀察と爲し、何等をか分別法と爲し、何等をか無垢と爲し、何等をか智印と爲し、何等をか智慧の光明と爲し、何等をか不可稱量の住と爲し、何等をか無懈怠の心と爲し、何等をか須彌山王正直の心と爲し、何等をか深く智慧の大海に入りて無上菩提を成ずと爲す。

何等をか寶住と爲し、何等をか金剛心を發して大乘を莊嚴すと爲し、何等をか發大事と爲し、何等をか究竟大事と爲し、何等をか不壞信と爲し、何等をか受記と爲し、何等をか善根回向と爲し、何等をか智慧を得と爲し、何等をか無量無邊の廣心を發すと爲し、何等をか藏と爲し、何等をか調順と爲し、何等をか自在と爲し、何等をか衆生自在と爲し、何等をか刹自在と爲し、何等をか法自在と爲し、何等をか身自在と爲し、何等をか願自在と爲し、何等をか境界自在と爲し、何等をか智慧自在と爲し、何等をか通自在と爲し、何等をか神力自在と爲し、何等をか力自在と爲し、何等をか遊戲神通と爲し、

何等をか勝行と爲し、何等をか力と爲し、何等をか無畏と爲し、何等をか不共法と爲し、何等をか業と爲し、何等をか身と爲す。

何等をか身業と爲し、何等をか淨身業と爲し、何等をか口と爲し、何等をか淨口業と爲し、何等をか淨口業にて諸の守護を得と爲し、何等をか口業成辦大事と爲し、何等をか心と爲し、何等をか發心と爲し、何等をか心滿と爲し、何等をか根と爲し、何等をか直心と爲し、何等をか深心と爲し、何等をか方便と爲し、何等をか樂修と爲し、何等をか解脫深入世界と爲し、何等をか衆生性に入ると爲し、何等をか習氣と爲し、何等をか熾然と爲し、何等をか趣と爲し、何等をか佛法を具足すと爲し、何等をか佛法を退失すと爲し、何等をか離生と爲し、何等をか決定と爲し、何等をか佛道法を出生すと爲し、何等をか善男子の名號を得と爲し、何等をか道と爲し、何等をか無量道と爲し、何等をか道具と爲し、何等をか修道と爲し、何等をか莊嚴道と爲し、何等をか足と爲し、何等をか手と爲し、何等をか腹と爲し、何等をか藏と爲し、何等をか心と爲し、何等をか莊嚴と爲し、何等をか器仗と爲し、何等をか頭と爲し、何等をか眼と爲し、何等をか耳と爲し、何等をか鼻と爲し、何等をか舌と爲し、何等をか身と爲し、何等をか意と爲し、何等をか行と爲し、何等をか住と爲し、何等をか坐と爲し、何等をか臥と爲し、何等をか住と爲し、何等をか行と爲す。

何等をか觀察と爲し、何等をか周徧觀察と爲し、何等をか奮迅と爲し、何等をか師子吼と爲し、何

等をか淨施と爲し、何等をか淨戒と爲し、何等をか淨忍と爲し、何等をか淨精進と爲し、何等をか淨禪と爲し、何等をか淨慧と爲し、何等をか淨慈と爲し、何等をか淨悲と爲し、何等をか淨喜と爲し、何等をか淨捨と爲し、何等をか義と爲し、何等をか法と爲し、何等をか功德具と爲し、何等をか智具と爲し、何等をか明足と爲し、何等をか求法と爲し、何等をか明了法と爲し、何等をか向法と爲し、何等をか魔と爲し、何等をか魔業と爲し、何等をか魔業を捨離すと爲し、何等をか見佛と爲し、何等をか佛業と爲し、何等をか慢業と爲し、何等をか智業と爲し、何等をか魔の攝持と爲し、何等をか佛の攝持と爲し、何等をか法の攝持と爲し、何等をか兜率天に住する所行の事業と爲し、何等をか兜率天にて命終を示現すと爲し、何等をか神を母胎に降す事を示現すと爲し、何等をか微細の趣を示現すと爲し、何等をか生と爲し、何等をか大莊嚴と爲し、何等をか遊行七歩と爲し、何等をか童子を示現すと爲し、何等をか婇女眷屬を示現すと爲し、何等をか捨家出家を示現すと爲し、何等をか苦行を示現すと爲し、何等をか道場に往詣すと爲し、何等をか道場に坐すと爲し、何等をか道場に坐する時奇特の相を顯はすと爲し、何等をか降魔を示現すと爲し、何等をか等正覺成ずと爲し、何等をか轉法輪と爲し、何等をか轉法輪に因りて白淨法を得と爲す。佛子よ、何等をか如來應供等正覺の大般涅槃を示現したまふと爲す。善い哉、佛子よ、向の所問の如く、願はくは具さに演說したまへ。』

㊂爾の時に普賢菩薩、普慧等の諸菩薩に告げて言はく、『佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の㊃依果有り、

何等をか十と爲す。所謂る、菩提心の依果、究竟じて忘失せざるが故に。善知識の依果、隨順して和合するが故に。善根の依果、諸の善根を長養するが故に。諸の波羅蜜の依果、究竟じて修行するが故に。一切法の依果、永く生死を出づるが故に。諸願の依果、菩提を長養するが故に。諸行の依果、廣く修習するが故に。菩薩の依果、一生補處の故に。佛を供養する依果、信心不壞なるが故に。一切如來の依果、正教は顚倒を離るるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の依果と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の依果に住せば、則ち如來の無上智の依果を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（五）奇特想有り。何等をか十と爲す。所謂る一切の善根に於て、自の善根の想を生ず。一切の善根に於て、菩提の種子の想を生ず。一切の衆生に於て、（六）菩提器の想を生ず。一切の願に於て、自の願の想を生ず。一切法に於て、出生死の想を生ず。一切の行に於て、自の行の想を生ず。一切の法に於て、佛法の想を生ず。一切の語言に於て、（七）語言道の想を生ず。一切の佛に於て、慈父の想を生ず。一切の如來に於て、無二の想を生ず。佛子よ、是を菩薩摩訶薩の十種の奇特想と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の想に安住せば、則ち無上巧妙の方便を得て、一切の想を轉ぜん。

【三】以下前の二百門に答ふ、一門に各十句を開くが故に總じて二千の法行を明かす、初めに十信の行を答ふるに二百句あり、分つて三となす、初の九十句は自分の行滿を明かす。

【四】依果とは行の起る所依なるが故に最初に之を擧ぐ。

【五】前の依果は因緣に依りて諸行を成ずることを明かし、今は勝想に依りて善根を攝することを明かす。

【六】一切衆生は悉く佛性を具有すとの想なり。

【七】一切の言語は皆法輪となるに堪ふるが故に道と云ふ。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（八）行有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切衆生をして專ら正法を求めしむる行。善根淳熟の行。善く一切の戒を學ぶ行。一切の善根を長養するの行。一心不亂に三昧を修する行。一切を分別する諸の智慧行。一切の所修を修習する行。一切の世界を莊嚴する行。善知識を恭敬し供養する行。諸の如來を恭敬し供養する行なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の行と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の行に安住せば、則ち如來の無上なる大智の行を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（九）善知識有り。何等をか十と爲す。所謂る、能く菩提心に安住せしむる善知識。能く善根を修習せしむる善知識。能く諸の波羅蜜を究竟せしむる善知識。能く一切法を分別し解說せしむる善知識。能く一切衆生を安住し、成就せしむる善知識。能く辯才を具足し、問に隨つて能く答へしむる善知識。能く一切の生死に著せざらしむる善知識。能く一切劫に於て菩薩の行を行じ、心に厭倦無からしむる善知識。能く普賢の行に安住せしむる善知識。能く深く一切の佛智に入らしむる善知識なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の善知識と爲す。

【八】前の勝想の解に依りて大行を起すを以て次に行を明かす。

【九】行の起るは必ず善友に依るが故に次に之を明かす。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の勤修精進有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切衆生を敎化する勤修精進。一切の法に入る勤修精進。一切世界をして淸淨ならしむる勤修精進。一切の菩薩の所學を究竟する勤修精進。一切衆生をして一切の惡を滅せしむる勤修精進。一切の地獄・餓鬼・畜生・閻羅王の苦

を除滅する勤修精進。一切の魔を降す勤修精進。一切衆生の爲めに淸淨眼と作る勤修精進、一切の諸佛を恭敬し供養する勤修精進。一切の如來をして皆悉く歡喜せしむる勤修精進なり。佛子よ、是を菩薩摩訶薩の十種の勤修精進と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の精進に住せば、則ち如來の無上なる精進波羅蜜を具へん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の【一〇】正希望有り。何等をか十と爲す。所謂る自ら菩提心に住し、亦衆生をして菩提心に住せしむる正希望。自ら忿諍を離れ、亦一切衆生をして忿諍を離れしむる正希望。自ら愚癡を離れて佛法に安住し、亦衆生をして愚癡を捨離して、佛法に安住せしむる正希望。自ら善根を修して專ら正法を求め、亦衆生をして善根を修習して專ら正法を求めしむる正希望。自ら諸の波羅蜜を究竟じて彼岸に到ることを得、亦衆生をして諸の波羅蜜を究竟し、彼岸に到ることを得しむる正希望。自ら如來種姓の家に生れ、亦衆生をして如來種姓の家に生れしむる正希望。自ら深く入りて一切法の無盡性を觀じ、亦衆生をして深く入りて一切法の無盡性を觀ぜしむる正希望。自ら一切の佛法を誹謗せず、亦衆生をして一切の佛法を誹謗せざらしむる正希望。自ら一切智願を滿じ、亦衆生をして一切智願を滿せしむる正希望。自ら深く一切如來の無盡の智藏に入り、亦衆生をして深く一切如來の無盡の智藏に入らしむる正希望なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の正希望と爲す。若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則

【一〇】前の精進に由りて自他行を究竟せしめんと希望するなり。

ち如來の無上なる平等大智の正希望を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の法の衆生を成就する有り。何等をか十と爲す。所謂る、布施をもつて衆生を成就し。色身の端嚴をもつて衆生を成就し。説法をもつて衆生を成就し。同意をもつて衆生を成就し。無染著をもつて衆生を成就し。菩薩の行を歎じて衆生を成就し。一切世界の熾然なることを示現して衆生を成就し。如來の功德を歎じて衆生を成就し。神力の自在なることを示現して、衆生を成就し。種種の巧方便をもつて、微密に世間の行に隨順して衆生を成就するなり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の成就衆生と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち能く一切の衆生を成就せん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(二)戒有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩提心を壞せざる戒。聲聞緣覺地を離るる戒。一切衆生を饒益し觀察する戒。一切衆生をして佛法に住せしむる戒。一切の菩薩戒を學ぶ戒。一切所有無き戒。一切の善根を菩提に回向する戒。一切の如來身に著せざる戒なり。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(三)自ら受記を知る法有りて、彼の菩薩をして自ら受記を知らしむ。何等をか十と爲す。所謂る、一向に菩提心を發す菩薩の受記。菩薩の行を厭はざる菩薩の受記。一切劫に於て、諸の苦行を修する菩薩の受記。一切の佛法に隨順する菩薩の受記。一切の如來の所説に於て、決定して信向する菩薩の受記。一切の善根を具足し修習する菩薩

【二】十戒に八を擧げて二を缺き、且つ結文なし。唐經に依るに、一切の法を思惟して取著を離るる戒と、諸根律儀戒と加へて十と爲せり。探玄記に依るに此の經にも十戒具はれること明かなれば、後世傳

の受記。一切の衆生をして、菩提に安住せしむる菩薩の受記。一切の善知識に於て、和合し隨順する菩薩の受記。一切の善知識に於て、如來の想を生ずる菩薩の受記。菩提の本願を守護する菩薩の受記なり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の十種の自ら受記を知る法にして、彼の菩薩をして自ら受記を知らしむるなり(一二)。

(一三)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(一四)入有り。何等をか十と爲す。所謂る願に入り。行に入り。聚に入り。波羅蜜に入り。具足に入り。分別願に入り。性に入り。莊嚴刹に入り。神力自在に入り。示現出生に入るなり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の十種の入にして、亦三世一切の菩薩の所入に入るなり。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(一五)深入如來有り。何等をか十と爲す。所謂る、深く無量無邊の諸佛の菩提に入り。深く無量無邊の轉淨法輪に入り。深く無量無邊の諸の方便法に入り。深く無量無邊の微妙の音聲に入り。深く無量無邊の調伏衆生に入り。深く無量無邊の神力自在に入り。深く無量無邊の種種異身に入り。深く無量無邊の三昧に入り。深く無量無邊の無所畏に入り。深く無量無邊の示現涅槃に入る。佛子よ、是を菩薩摩訶薩の十種の深入如來と爲す。此の十種の深入法には、三世の諸佛も悉く亦共に入りたまふ。

寫の時脱せしものなるべし。

【一二】既に戒に依りて離過の德成ずるが故に、自ら己が行を驗するに、當に果を得べきこと必定なるを以て自知受記と云ふ。

【一三】以下八十句は勝進行を辨す。

【一四】既に自分行を成じて次に勝進して諸の所入の處に入るが故に、先づ十入を明かす、入とは得又は證と同意なり。

【一五】前は因位の境に入ることを明かし、今は轉勝して果位の境に入ることを明かす。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（一六）衆生心行に入る有り。何等をか十と爲す。所謂る、過去の一切衆生の心行に入り。未來の一切衆生の心行に入り。現在の一切衆生の心行に入り。一切衆生の諸の善根行に入り。一切衆生の不善根の行に入り。一切衆生の心心の所行に入り。一切衆生の諸根の行に入り。一切衆生の種性の行に入り。一切衆生の煩惱・使・習氣の行に入り。一切衆生の時・非時の調伏行に入る。佛子、是を十種の入衆生の心行と爲す。是の十種の入衆生の心行に因れば、則ち能く普く一切衆生の心行に入るなり。

佛子よ、菩薩摩訶薩に（一七）十種の世界に入る有り。何等をか十と爲す。所謂る、不淨の世界に入り。清淨の世界に入り。小世界に入り。中世界に入り。微塵世界に入り。微細世界に入り。伏せる世界に入り。仰げる世界に入り。有佛の世界に入り。無佛の世界に入る。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の入世界と爲す。此の十種の入世界に因れば、則ち能く普く一切の世界に入るなり。

佛子よ、菩薩摩訶薩に（一八）十種の劫に入る有り。何等をか十と爲す。所謂る、過去の劫に入り。未來の劫に入り。現在の劫に入り。可數の劫に入り。不可數の劫に入り。可數不可數の劫に入り。不可數可數の劫に入り。一切劫非劫に入り。非劫一切劫に入り。一切劫卽ち是れ一念なるに入る。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の入劫と爲す。此の十種の入劫に因れば、則ち能く普く一切の諸劫に入るなり。

【一六】前は上、佛の境界に入り、此は下・衆生の心に入る。
【一七】前は衆生の正報を知り、今は其の依報の國土を知る。
【一八】前は入處を明かし、今は入時を明かす。

卷の第三十八

離世閒品第三十三の二

(一)佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の三世を說く有り。何等をか十と爲す。所謂る、過去世に過去世を說き。過去世に未來世を說き。過去世に現在世を說き。未來世に過去世を說き。未來世に現在世を說き。未來世に無盡を說き。現在世に未來世を說き。現在世に過去世を說き。現在世に平等を說き。現在世に三世卽ち一念なることを說く。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の說三世と爲す。此の十種の說三世に因れば、則ち能く普く一切の三世を說くなり。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の(二)三世閒に入る有り。何等をか十と爲す。所謂る、世閒に入り。語言道に入り。性に入り。施設に入り。想に入り。名字に入り。語言に入り。無盡に入り。離欲に入り。寂滅に入る。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の入三世閒と爲す。此の十種の入三世閒に因れば、則ち能く普く一切の三世閒に入るなり。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の(三)憂惱を捨離して心に厭悔無き有り。何

【一】時に就て明かす中に、前は劫に約し、今は世に約す。

【二】前に既に時劫無礙に達したるを以て、今は三世の中の法に入ることを明かす。

【三】既に時法に通達して起行擇心するが故に此の法を得。憂惱を捨離すとは行成じ志を

等をか十と爲す。所謂る、一切の佛を供養して、憂惱を捨離し心に厭悔無し。一切の善知識に親近して、憂惱を捨離し心に厭悔無し。專ら一切の法を求めて、憂惱を捨離し心に厭悔無し。常に正法を聞きて、憂惱を捨離し心に厭悔無し。常に正法を說きて、憂惱を捨離し心に厭悔無し。一切衆生を敎化し調伏して、憂惱を捨離し心に厭悔無し。一切の衆生をして佛道に安住せしめて、憂惱を捨離し心に厭悔無し。一一の世界の中に於て、不可說不可說の菩薩行を行じて、憂惱を捨離し心に厭悔無し。一切の世界に遊行して衆生を敎化し、憂惱を捨離して心に厭悔無し。一切の佛法を出生して、憂惱を捨離し心に厭悔無し。佛子よ、是を菩薩摩訶薩の十種の憂惱を捨離して心に厭悔無しと爲す。若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則ち如來の無上智慧を得て、永く厭悔を離れん。

㈣佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の㈤壞す可からざる智有り。何等をか十と爲す。所謂る、衆生を知る智不可壞。諸根を知る智不可壞。受生を知る智不可壞。世界を知る智不可壞。法界を知る智不可壞。佛を知る智不可壞。法を知る智不可壞。僧を知る智不可壞。三世を知る智不可壞。一切の語言道を知る智不可壞なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の不可壞智と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の智に安住せば、則ち如來の無上なる不可壞智を得ん。

遂げたるを云ひ、心に厭悔無しとは時空しく過ぐること無きが故なり。

【四】以下三十句は、自分勝進の二行を究竟することを明かす。

【五】不可壞の智とは、法性に稱ひ、更に改易無きが故なり。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の(六)陀羅尼有り。何等をか十と爲す。所謂る、聞持陀羅尼、一切の法を忘れざるが故に。正法を持する陀羅尼、巧方便をもつて一切法の如實を分別するが故に。一切の法を生ぜざる陀羅尼、一切法の無自性なるを覺るが故に。法明陀羅尼、普く不可思議なる諸佛の法を照すが故に。三昧陀羅尼、現在の一切の佛の所に於て法を聞きて亂れざるが故に。音聲圓滿の陀羅尼、究竟じて不可思議なる語言の法を解了するが故に。三世陀羅尼、分別して一切の三世佛の不思議の法を説くが故に。種種の辯才陀羅尼、無量無邊の諸佛の法を分別し解説するが故に。無礙の耳を出生する陀羅尼、不可説の佛の説きたまふ所の諸法を、悉く能く聞くが故に。一切の佛法を持する陀羅尼、如來の十力四無畏に安住するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の陀羅尼と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法を得んと欲せば、應に勤めて修學すべし。

佛子よ、菩薩摩訶薩は、分別して十種の佛を説くことを知る。何等をか十と爲す。所謂る、(七)正覺佛・願佛・業報佛・住持佛・化佛・法界佛・心佛・三昧佛・性佛・如意佛なり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩、分別して十種の佛を説くことを知るなり◎

(八)佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の普賢の心を發す有り。何等をか十と爲

【六】既に法の不壞を知るが故に今は法を持して失はざるを明かす、蓋し陀羅尼には多義あるも、正しくは總持と譯し、能く種種の善法を持して、散失せざらしむるの義なり。

【七】自然に開悟するが故に正覺佛と云ひ、無礙の大願成滿したるが故に願佛と云ひ、萬行の因に感招せらるるが故に業報佛と云ひ、萬徳を積集し住持するが故に住持佛と云ひ、機に應じて化身を現ずるが故に化佛と云ひ、稱理普周の故に法界佛と云ひ、唯心の

す。所謂る、大慈心を發す、一切衆生を救護するが故に。大悲心を發す、一切衆生に代りて一切の苦毒を受くるが故に。一切の施を首と爲すの心を發す、悉く一切諸の有する所を捨つるが故に。一切智を正念するを首と爲す心を發す、一切の佛法を樂ひ求むるが故に。功德莊嚴の心を發す、一切の菩薩の所行を學ぶが故に。金剛の心を發す、一切の受生に忘失せざるが故に。大海の心を發す、一切の白淨法悉く流入するが故に。須彌山王の心を發す、一切の誹謗と苦言とを悉く堪忍するが故に。安隱の心を發す、一切衆生に無畏を施すが故に。般若波羅蜜を究竟じて彼岸に到るの心を發す、巧に一切法の所有無きことを分別するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の普賢の心を發すと爲す。若し菩薩摩訶薩、此の心に安住せば、少しの方便を以て、則ち能く普賢の巧方便の智を具足せん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の普賢の願行法有り。何等をか十と爲す。所謂る、未來劫を盡して菩薩の行を行ずる普賢の願行法。未來の一切の佛を恭敬し供養する普賢の願行法。一切の衆生を普賢菩薩の願行に立つる普賢の願行法。一切の善根を積集する普賢の願行法。一切の波羅蜜に入る普賢の願行法。一切の菩薩の願行を滿足する普賢の願行法。一切の世界を莊嚴する普賢の願行法。一切の佛

所現なるが故に心佛と云ひ、常に定中に在るが故に三昧佛と云ひ、眞性不變の故に性佛と云ひ、無功の大用意の如くなるが故に如意佛と云ふ、此の十佛は一佛の德相に依つて分ちたるのみなれば本是れ一體なり、之を行境の十佛と名づく、信成滿して佛果を得るが故に此に之を明かすなり。

【八】第二、十住行の二十問を答ふるに二百句あり、大いに分つて四となす。初めの六十句は別して十解の中の初發心住の義を明かす。

の所に往生する普賢の願行法。善巧の方便をもつて一切の法を求むる普賢の願行法。一切十方の佛刹に於て無上菩提を成ずる普賢の願行法なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の普賢の願行法と爲す。若し菩薩摩訶薩此の願行を修せば、疾かに普賢の願行を具足することを得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の〔九〕大悲有りて常に衆生を觀ず。何等をか十と爲す。所謂る、衆生の歸依する所無きことを觀察して、大悲を起し。衆生の邪道に隨逐することを觀察して、大悲を起し。衆生貧くして善根無きことを觀察して、大悲を起し。衆生の長く生死に寢むることを觀察して、大悲を起し。衆生の不善の法を行ずることを觀察して、大悲を起し。衆生の欲縛に縛せらるることを觀察して、大悲を起し。衆生の生死の海に在ることを觀察して、大悲を起し。衆生の久遠に長く病めることを觀察して、大悲を起し。衆生の善法を欲すること無きを觀察して、大悲を起し。衆生の諸佛の法を失ふことを觀察して、大悲を起す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩、十種の大悲をもつて常に衆生を觀ずるなり。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の〔一〇〕發菩提心の因緣有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切衆生を敎化し成就するは發菩提心の因緣なり。一切衆生の苦を除滅するは發菩提心の因緣なり。一切衆生に種種の快樂を與ふるは發菩提心の因緣なり。一切衆生の愚闇を除滅するは發菩提心の因緣なり。一切

【九】普賢の願行法の中にて特に深要なる大悲を擧ぐ。蓋し菩薩は大悲を以て本となすが故なり。

【一〇】悲願の行起こるは必ず所依なかる可らず、故に今之を明かす。

衆生に佛智を與ふるは發菩提心の因緣なり。一切の諸佛を恭敬し供養するは發菩提心の因緣なり。如來の敎に隨ひて佛を歡喜せしむるは發菩提心の因緣なり。佛の色身の相好を見るは發菩提心の因緣なり。一切の佛智に入るは發菩提心の因緣なり。佛の力無畏を顯現するは發菩提心の因緣なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の發菩提心の因緣と爲す。若し菩薩摩訶薩、菩提心を發さば、應當に、善知識を恭敬し供養し親近すべし。何を以ての故に。速かに一切智を覺らんと欲するが故なり。

彼の菩薩摩訶薩は、〔一〕善知識を恭敬し供養し親近して十種の心を起す。何等をか十と爲す。所謂る、善知識に於て、給侍の心、不違の心、隨順の心、歡喜の心、利を求めざるの心、〔二〕一向の心、善根を同うせんとの心、願を同うせんとの心、〔三〕如來の心、滿行を同うせんとの心を起す。佛子、是を菩薩摩訶薩、善知識に於て、十種の心を起すと爲す。

佛子よ、菩薩摩訶薩、是の如き十種の心を發さば、則ち〔四〕十種の清淨を得ん。何等をか十と爲す。所謂る、正直心淸淨なり、究竟じて失はざるが故に。色身淸淨なり、應化する所に隨ひて見さざること無きが故に。音聲圓滿にして淸淨なり、一切の語言の法を究竟するが故に。辯才淸淨なり、巧方便をもつて不可思議なる諸佛の法を說くが故に。智慧淸淨なり、一切愚癡の闇を除滅するが故に。

【一】既に發心し已れば、善知識に親近して其の教導を仰がざる可らず、故に今之を明かす。
【二】唯出道を期するのみなるが故に一向と云ふ。
【三】師を敬すること佛の如くするが故に如來の心と云ふ。
【四】前の發心に依りて得る所の淨報なり。

受生清淨なり、菩薩の自在力を具足するが故に。眷屬清淨なり、過去の同行の衆生の諸の善根を成就するが故に。果報清淨なり、一切の業障を除滅するが故に。諸願清淨なり、一切の菩薩に同ずるが故に。諸行清淨なり、普賢菩薩の行を究竟ずるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の清淨と爲す。

〔一五〕佛子よ、菩薩摩訶薩の十種の波羅蜜有り。何等をか十と爲す。所謂る、檀波羅蜜、一切の有を捨つるが故に。尸波羅蜜、佛戒を淨むるが故に。羼提波羅蜜、佛の忍を具足するが故に。精進波羅蜜、一切の時に於て退轉せざるが故に。禪波羅蜜、正念にして亂れざるが故に。般若波羅蜜、一切の法は悉く如如なりと觀ずるが故に。智波羅蜜、深く佛力に入るが故に。願波羅蜜、普賢菩薩の願行滿ずるが故に。神力波羅蜜、一切の神通力を示現するが故に。法波羅蜜、一切の法を攝取するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の波羅蜜と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち如來の無上なる究竟の智波羅蜜を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の〔一六〕隨順覺知有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の世界を隨順覺知し。一切衆生の不可思議なることを隨順覺知し。一切諸法の不一不異なることを隨順覺知し。一切の法界を隨順覺知し。一切の虛空界を隨順覺知し。一切の世界、過去世に入ることを隨順覺知し。

【一五】次の六十句は第二住以下九住の中に成ずる所の内德の行を明かす。

【一六】前の十度の行を感ずるに依り、所知の境に於て無倒に了達するを隨順覺知と云ふ。

一切の世界、未來世に入ることを隨順覺知し。一切の世界、現在世に入ることを隨順覺知し。一切の如來は、一念の中に於て願行を具足することを隨順覺知し。三世の諸佛は悉く同一行なることを隨順覺知す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の隨順覺知と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切法の自在普照を得、意に隨ひて願を滿し、一念の中に於て無上道を覺し、一切の佛法悉く現じて前に在らん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(一七)決定智有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の諸法を一念の中に於て決定了知し。一切の諸法を決定了知するに、無礙智を以てし。一切衆生の心心の所行を決定了知し。一切衆生皆悉く同根なることを決定了知し。一切衆生の煩惱習氣の諸行を決定了知し。一切衆生の諸の心使の行を決定了知し。一切衆生の善不善の行を決定了知し。一切の菩薩の願行を決定了知し。神力自在にして變化住持することを決定了知し。一切如來の成就せる十力を決定了知す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の決定智と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸法の巧妙方便を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、(一八)十種の力有り。何等をか十と爲す。所謂る、深く一切の法に入る力。一切の法は猶ほ化の如しと解る力。一切の法は猶ほ幻の如しと解る力。一切法をして佛法に入らしむる

【一七】前の隨順覺知に依りて決定無疑の智を成ずるなり。

【一八】智既に決定するが故に、力用を起す。

力。一切の法に於て染著すること無き力。專ら一切の善妙の法を求むる力。一向に一切の善知識を恭敬し供養する力。一切の善根悉く究竟じて無上智を得しむる力。深心に一切の佛法を信解して誹謗せざる力。究竟じて一切の智心を退かざる力なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の力と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の力に安住せば、則ち如來の無上なる十力を具足せん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の(一九)平等有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の(二〇)衆生平等なり。一切の(二一)法平等なり。一切の佛刹平等なり。一切の(二二)佛乘平等なり。一切の(二三)善根平等なり。一切の菩提平等なり。一切の願平等なり。一切の(二四)波羅蜜平等なり。一切の(二五)行平等なり。一切の佛平等なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の平等と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の平等に任せば、則ち一切諸佛の無上なる平等を具足せん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の(二六)方便佛法句有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の法を說く言說の方便佛法句。一切の法は幻の如く。一切の法は電の如く。一切の法は緣より起る。一切の法は淨業なり。一切の法は文字なり。一切の法は實際なり。一切の法は無相なり。一切の法は眞實義なり。一切の法は法界なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の

【一九】既に智力に堪能あるが故に能く諸事に於て平等の眞觀を作す。
【二〇】怨親の情を絕つが故に眞俗一味の義。
【二一】染淨の二相を泯す。
【二二】唯一乘道にして無二なり。
【二三】諸の善根は同一性なり。
【二四】十度齊しく備はるの義。
【二五】諸行は理源に契ふの義。
【二六】前に正しく理を證す、此の正體智は後得の巧便說教を起す、故に今之を明かす。

十種の方便佛法句と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち無上の方便一切智を得ん。◎

(三七)佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の說法有り。何等をか十と爲す。所謂る、甚深の法を說き。勝妙の法を說き。種種なる莊嚴の法を說き。一切智の法を說き。隨順波羅蜜の法を說き。如來力を出生する法を說き。分別して三世の法を說き。不退の菩薩の法を說き。一切の佛の功德を讃歎する法を說き。一切の菩薩の、一切の佛の平等を行ずる一切如來の境界の法を說く。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の說法と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の說法に住せば、則ち如來の無上なる說法を得ん。

【三七】以上內德を竟り、次の三十句は外化攝生の行を明かす。

【三八】前の說法は口に宣ぶるなり、今は心に明記して受持することを明かす。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の(三八)受持有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の善根の功德を受持し。一切の佛の所說の法を受持し。一切の譬喩を受持し。一切の方便の法門を受持し。一切の出生陀羅尼門を受持し。一切の疑惑を除く法を受持し。一切の菩薩の具足の法を受持し。一切如來の所說の平等なる三昧の法門を受持し。一切の普照の法門を受持し。一切諸佛の自在神力を受持す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の受持と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち如來の無上なる智慧の持法を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の辯有り。何等をか十と爲す。所謂る、虛妄に一切の法を取らざる辯。一切の法に於て所行無き辯。一切の法に於て所著無き辯。一切の法に於て悉く空無なる辯。一切の法

に於て闇障無き辯。一切の法に於て佛の持したまふ所の辯。一切の法に於て他に由りて悟らざる辯。一切の法に於て巧方便をもつて句味身を說く辯。一切の法に於て衆生を說く辯。一切衆生に於て等心に觀察して歡喜せしむる辯なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の辯と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の辯に安住せば、則ち如來の無上なる巧方便の辯を得ん。

(二九)佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の(三〇)勝法有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の衆生を成就する勝法。普く一切の諸法を照す勝法。一切の善根と、一切の行とを修習する勝法。大乘智慧の勝法。無著の淨戒を具足する勝法。一切の善根を悉く菩提に回向する勝法。勤修し精進して退かざる勝法。一切の衆魔を降伏する勝法。菩提心を發して自在に遊行する勝法。時に隨ひて應化し成菩提を現ずる勝法なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の勝法と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち如來の無上なる大智の勝法を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の無著有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の世界に於て著すること無く。一切の衆生に於て著すること無く。一切の法に於て著すること無く。一切の所作に於て著すること無く。一切の善根に於て著すること無く。一切の生處に於て著すること無く。一切の願に於て著すること無く。一切の行に於て著すること無く。一切の菩薩に於て著すること無く。一切の佛に於て

【二九】次の四十句は無礙殊勝の行を明かす。

【三〇】既に辨才滯りなきが故に、其の德相は凡夫二乘に超過せることを顯はして勝法と云ふ。

著すること無し。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の無著と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち能く速かに一切の衆想を轉じて、清淨にして無上なる無所著の智を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の（三一）平等心有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の功德を長養する平等心。一切の語言法の平等心。一切の衆生に於ける平等心。一切衆生の業報に於ける平等心。一切の法に入る平等心。一切淨穢の佛刹に於ける平等心。一切衆生の性、若しは好、若しは醜に於ける平等心。一切の行に於て選擇する所無き平等心。一切如來の力無所畏に入る平等心。一切如來の智慧に入る平等心なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の平等心と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の心に安住せば、則ち如來の無上なる平等心を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、（三二）十種の智慧を出生する有り。何等をか十と爲す。所謂る、（三三）一切衆生の性に入りて智慧を出生し。一切の佛刹の無一無異なるに入りて智慧を出生し。十方の一切世界網を分別するに入りて智慧を出生し。一切の俯・仰・翻覆の世界等に入りて智慧を出生し。巧方便をもつて一切諸法の無一無異なるに入りて智慧を出生し。一切種種の異身に入りて智慧を出生し。一切世間の顚倒惑網悉く所著無きに入りて智慧を出生し。一切法の究竟一乘に入りて智慧を出生し。一切法界の自在神力に入りて智慧を出生し。三世の一切衆

（三一）既に無著の智を成じたるを以て、諸法の中に於て分別の念なし、故に平等心と云ふ、前に明かせる十平等は法辯に約し、今は心辯に約す。

（三二）前の平等心に依りて後得の勝智を出生するなり。

（三三）衆生の眞實性に證入するの義。

生は、諸佛の種姓を常に斷絶せざるに入りて智慧を出生す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の智慧を出生すと爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち無盡の法藏を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の〔三四〕變化有り。何等をか十と爲す。所謂る、〔三五〕衆生の變化、〔三六〕身の變化、〔三七〕佛刹の變化、供養の變化、音聲の變化、行願の變化、衆生を調伏し成就する變化、菩提の變化、說法の變化、〔三八〕住持の變化なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の變化と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切の無上なる變化の法を得ん。

〔三九〕佛子よ、〔四〇〕菩薩摩訶薩に十種の〔四一〕持有り。何等をか十と爲す。所謂る、佛持・法持・衆生持・業持・願持・行持・境界持・妙持・善持・智持なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の持と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の持に安住せば、則ち一切の法に於て自在の持を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の〔四二〕大正希望有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は、是の如きの心を發すらく、「未來世を盡して一切の諸佛世に出興したまはば、我當に隨順し奉行して悉く歡喜せしむべし」との大正希望を得。彼の一切如來應供等正覺をば、我當に無上の恭敬供養を以て、

〔三四〕前は正證に依りて後得智を起し、今は後得智に依りて自在の妙用を起すを變化と云ふ。

〔三五〕他の衆生身に變化するを云ふ。

〔三六〕自身を變じて異類の身と爲すを云ふ。

〔三七〕染刹を變じて淨土と爲すが如きを云ふ。

〔三八〕佛法を住持する爲めに舍利等を變化するを云ふ。

〔三九〕以上十住行を竟り、以下第三、十行位の行法、三十問に答ふ、三百句あり、三に分つ。

〔四〇〕初めの六十句は大志曠遠の行を明かす。

之を供養したてまつるべし」との大正希望を得。「彼の諸佛を恭敬し供養し已らば、必ず當に具足して我に正法を誨へたまふべし、正法を聞き已りて、三世の菩薩の一切諸地に生ずる所の功徳を、我に悉く得しめん」との大正希望を得。菩薩摩訶薩は是の如きの心を發すらく、「我當に不可説不可説の劫に於て、菩薩の行を修し、常に佛及び諸の菩薩を離れざるべし」との大正希望を得。菩薩摩訶薩は是の如きの心を發すらく、「我當に正しく菩提に向ひ、一切の畏を離るべし、所謂る、不活の畏・惡名の畏・死の畏・惡道の畏・大衆の畏なり。是の如き等の畏をば、我當に遠離し、休息し、除滅し、一切の衆魔外道も、我を壞ること能はざるべし」との大正希望を得。菩薩摩訶薩は是の如きの心を發すらく、「一切衆生をして、無上の菩提を究竟成就して、菩提に安住せしめ、菩提を成じ已りて、我當に彼の佛の所に於て、其の形壽を盡して菩薩の行を修し、彼の諸の如來を恭敬し供養したてまつるべし、彼の諸の如來の滅度の後は、我當に悉く舍利を取りて、無量の塔を起し、之を供養して、彼の諸佛の法を受持し守護すべし」との大正希望を得。菩薩摩訶薩は、是の如きの心を發すらく、「十方一切の世界をして、悉く無上の莊嚴を以て之を莊嚴し、平等清淨に住持し、神力自在を出生して、六種に震動せしめん」との大正希望を得。菩薩摩訶薩は是の如きの心を發すらく、「一切衆生をして悉く疑惑を除き、清淨の直心をもつて、煩惱を除滅し、永く惡道を閉ぢ、善趣の門を開き、慧

【四一】持とは加持又は依持の義なり。

【四二】前の持力に依りて、廣大無邊の欲樂を起すが故に、大正希望と云ふ、行は之に由りて成ずるなり。

光を成就して、癡闇を照除し、衆魔を降伏して、安隱の處に置かしめん」との大正希望を得。菩薩摩訶薩は是の如きの心を發すらく、「無量無數劫にも、如來に値ひたてまつること難く、正法は聞くこと難し、譬へば優曇鉢華の如し、我佛を見たてまつりて、正法を聽受せんと欲せば、應に念じ見聞すべし、彼の佛の所に於て、直心清淨にして、衆の諂曲を離れ、幻僞の法を捨て、常に諸佛を見たてまつり、一心に恭敬せん」との大正希望を得。菩薩摩訶薩は是の如きの心を發すらく、「我當に大法鼓を撃ち、甘露の法を雨らして、大法施を作し、清淨無畏の大師子吼をなし、大願を滿足し、法界に安住し、無量無數劫に於て、常に衆生の爲めに正法を講說して、大悲の身口意の業に安住し、未だ曾て疲厭せざるべし」との大正希望を得。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の大正希望と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち無上なる智慧の大正希望を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、(四三)十種の深く佛法に入る有り。何等をか十と爲す。所謂る一切の世界は過去世に入る、是を第一の深入佛法と爲す。一切の世界は未來世に入る、是を第二の深入佛法と爲す。一切の世界は現在世に入り、所有る世界の數・世界の行・世界の說・世界の清淨・世界の智は、悉く現在の世界に入る、是を第三の深入佛法と爲す。一切の世界は悉く分別して一切の世界に入る、是を第四の深入佛法と爲す。悉く分別して一切衆生の業報に入る、是を第五の深入佛法と爲す。悉く分別して

〔四三〕 希望の念已まざれば便ち能く深く入りて、佛法深遠の邊際を盡くす。

一切菩薩の行に入る、是を第六の深入佛法と爲す。悉く次第して、過去の一切如來を知る、是を第七の深入佛法と爲す。悉く次第して、未來の一切諸佛世に出興したまふことを知る。是を第八の深入佛法と爲す。悉く現在の十方世界の、一切佛刹の佛及び眷屬は、說法して法界虛空界に等しき衆生を敎化することを知る、是を第九の深入佛法と爲す。世間の法を知り、聲聞・緣覺・菩薩の法を知り、如來の法を知り、彼の諸法の無一無異なるに於て、而も一異を說き、彼の諸法に於て、悉く法界に入りて所入無きが故に、法相の如く說きて染著する所無し、是を第十の深入佛法と爲す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の深入佛法と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち能く深く阿耨多羅三藐三菩提の甚深なる智慧に入らん。

【四】前は行の深入を顯はし、今は所託の外緣を辯ず。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の（四）依止有り、菩薩は此に依りて菩薩の行を行ず。何等をか十と爲す。所謂る、一切の諸佛を供養するに依りて、菩薩の行を行ず。一切衆生を調伏するに依りて、菩薩の行を行ず。善知識に依りて、菩薩の行を行ず。一切の善根に依りて、菩薩の行を行ず。淸淨の佛刹に依りて、菩薩の行を行ず。一切衆生を捨てざるに依りて、菩薩の行を行ず。深く一切の波羅蜜に入ることに依りて、菩薩の行を行ず。一切の菩薩の滿足する諸願に依りて、菩薩の行を行ず。無量の菩提心に依りて、菩薩の行を行ず。一切諸佛の菩提に依りて、菩薩の行を行ず。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の依止と爲す。菩薩は此に依りて菩薩の行を行ず。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の（四五）無畏心を發す有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の業障を滅して、無畏心を發し。佛滅度の後、正法を受持し守護して無畏心を發し。一切の魔を降して無畏心を發し。身命を惜まずして無畏心を發し。法の如く一切の外道を調伏して無畏心を發し。一切衆生を皆悉く歡喜せしめて、無畏心を發し。一切の大衆を皆悉く歡喜せしめて、無畏心を發し。一切の天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽を調伏して無畏心を發し。聲聞緣覺の地を遠離し、甚深の法に入りて無畏心を發し。不可說不可說の劫に於て、菩薩の行を修して心に疲厭無くして、無畏心を發す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の無畏心を發すと爲す。若し菩薩摩訶薩、此の心に安住せば、則ち如來の大智　無所畏の心を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の一切の疑惑を除滅して（四六）無疑の心を發す有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は、是の如きの心を發すらく、「布施をもつて一切衆生を攝取し、戒・忍・精進・定・慧・慈・悲・喜・捨をもつて一切衆生を攝取せん」と、(彼に於て)疑惑を生ぜず。若し疑惑を生ぜば、是の處有ること無し。是は爲第一の一切の疑惑を除滅して無疑の心を發すなり。菩薩摩訶薩は、是の如きの心を發すらく、「未來の一切諸佛世に出興したまはば、我當に奉持し恭敬し供養したてまつるべし」と。彼に於て疑惑を生ぜず。若し疑惑を生ぜば、

【四五】前の所依に依りて遂に心行を深勝ならしむれば、畏る可き事に於て能く無所畏なるを得、如何なる難事をも成辦せざることなし。

【四六】難に於て懼るる所無きを以て、自ら所作皆易きことを知る、故に無疑と云ふ。

是の處有ること無し。是は爲第二の一切の疑惑を除滅して無疑の心を發すなり◎菩薩摩訶薩は、是の如きの心を發すらく、「一切の世界を種種に莊嚴し、大光明網を放ちて、皆悉く普く照さしめん」と。彼に於て疑惑を生ぜず。若し疑惑を生ぜば、是の處有ること無し。是は爲第三の一切の疑惑を除滅して、無疑の心を發すなり◎菩薩摩訶薩は、是の如きの心を發すらく、「我當に未來際劫を盡して、菩薩の行を修し、無量無數にして思議す可からず、稱量す可からず、分齊す可からず、不可說不可說にして、一切の算數の及ぶこと能はざる所の、法界虛空界に等しき衆生をば、悉く無上の教化を以て、彼の諸の衆生を調伏し成就して心に疲厭無かるべし」と。彼に於て疑惑を生ぜず。若し疑心を生ぜば、是の處有ること無し。是は爲第四の一切の疑惑を除滅して無疑の心を發すなり◎菩薩摩訶薩は、是の如きの心を發すらく、「我當に諸願を成滿し、菩薩の行を行じ、一切智を出生し、一切智に安住すべし」と、彼に於て疑惑を生ぜず。若し疑惑を生ぜば、是の處有ること無し。是は爲第五の一切の疑惑を除滅して無疑の心を發すなり◎菩薩摩訶薩は、是の如きの心を發すらく、「我當に一切世間の爲めに菩薩の行を行じ、大燈明と作りて普く佛法を照すべし」と。彼に於て疑惑を生ぜず。若し疑惑を生ぜば是の處有ること無し。是は爲第六の一切疑惑を除滅して、無疑の心を發すなり◎菩薩摩訶薩は、是の如きの心を發すらく、「我當に一切の法は悉く是れ佛法なりと說くべし、其の所應に隨ひて一切を化する故に」と。彼に於て疑惑を生ぜず。若し疑惑を生ぜば、是の處有ること無し。是は爲第七の一切の疑惑を除滅して

無疑の心を發すなり。菩薩摩訶薩は是の如きの心を發すらく、「我當に無礙の法門を得て、一切の障礙を除滅し、究竟じて無上正覺を逮得すべし」と。彼に於て疑惑を生せず。若し疑惑を生せば、是の處有ること無し。是は爲第八の一切の疑惑を除滅して無疑の心を發すなり。菩薩摩訶薩は、是の如きの心を發すらく、「我當に一切世間の法は、即ち是れ出世間の法なりと知りて、一切の顛倒を斷ち、一莊嚴を以て自ら莊嚴して、莊嚴する所無く、他に由りて悟らざるべし」と。彼に於て疑惑を生せず。若し疑惑を生せば是の處有ること無し。是は爲第九の一切の疑惑を除滅して、無疑の心を發すなり。菩薩摩訶薩は、是の如きの心を發すらく、「我當に等正覺を成じて一切智を得、永く一切の顛倒疑惑を滅して、一念の智・無二の智・無所有の智・無礙の智・無爲の智・無著の智・不可說の實際境界の智を成ずべし」と。彼に於て疑惑を生せず。若し疑惑を生せば、是の處有ること無し。是は爲第十の一切の疑惑を除滅して、無疑の心を發すなり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の十種の一切の疑惑を除滅して、無疑の心を發すなり。若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則ち一切の佛法に於て無疑の心を得ん。

（四七）佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（四八）不可思議有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の善根は思議す可からず、是を第一の不可思議と爲す。一切の願は思議す可からず、是を第二の不可思議と爲す。

【四七】次の九十句は定慧の業用行を明かす、中に於て、初の三十句は融慧超情の行を明かし、次の二十句は深定普周の行を明かし、後の四十句は業用自在の行を明かす。

【四八】心決定して疑ふ所なければ、其の修する所測り知ること難し、故に不可思議と云ふ。

一切の法は幻の如しと解るは思議す可からず。是を第三の不可思議と爲す。菩提心を發して、菩薩の行を修し、善根依住する所無くして而も亦失はず、染著する所無し、是を第四の不可思議と爲す。深く一切の法を解り亦滅度せず、一切の諸願未だ成滿せざるが故に、是を第五の不可思議と爲す。菩薩の行を行じて、受胎し出生し、出家し苦行して、道場に往詣し、衆魔を降伏し、最正覺を成じ、正法輪を轉じ、一切の法に於て自在を得ることを示現し、大般涅槃を示現し、而も亦大願大慈をもつて衆生を救護することを捨てず、是を第六の不可思議と爲す。如來の十力の自在なることを示現して、而も亦法界に等しき心を捨てず、一切衆生を敎化し成就す、是を第七の不可思議と爲す。一切の法は無相にして有相、有相にして無相、非劫は是れ劫、劫は是れ非劫、非有は是れ有、有は是れ非有、非行は是れ行、行は是れ非行、非説は是れ説、説は是れ非説なりと解る、是を第八の不可思議と爲す。發菩提心と菩提と等しきことを解り、菩提と發菩提心と等しきことを解り、初發の菩提心、及び菩提と一切の衆生と等しきことを解り、亦心の顚倒・想の顚倒・見の顚倒を生ぜず、是を第九の不可思議と爲す。念念の中に於て滅盡三昧正受に入りて、一切の漏を滅して、實際を證らず、又亦有漏の善根を盡さずして、一切法の無漏を知り、亦漏の滅盡を知り、一切の佛法は是れ世間の法なりと知るも、佛法の中に於て、世間の相を取らず、世間の法の中に於て佛法の相を取らず、一切の諸法は悉く法界に入る、所入無きが故に、一切の法は悉く無二なりと解る、變易せざるが故なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の第

十の不可思議と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち如來の不可思議なる法を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の〔四九〕巧方便微密の語有り。何等かを十と爲す。所謂る、一切の經典に於ける、巧方便微密の語なり。一切の受生の處に於ける、巧方便微密の語なり。一切の菩薩の神力自在なることを覺る、巧方便微密の語なり。一切衆生の業報に於ける、巧方便微密の語なり。一切衆生の垢淨起に於ける、巧方便微密の語なり。一切法の究竟無礙門に於ける、巧方便微密の語なり。一切虛空界の一一の方面に於て、世界の成壞は、處として現せざること無き、巧方便微密の語なり。一切法界の一切の諸方、乃至微細の處に於て、等正覺を成ずる如來は一切の法界に充滿することを現じ、乃至大般涅槃を示現するを、悉く分別して見る、巧方便微密の語なり。一切衆生は悉く涅槃に同じと解る、變易無きが故なり。而も大願を捨てず、乃至一切の智願を究竟し滿足する、巧方便微密の語なり。一切の法を解るに他に由りて悟らず、而も亦諸の善知識を離れず、如來を恭敬し、善知識に隨順して、諸の善根を修し、善根を回向し、善根に安住し、善根を相續し、同一の善根、一道の善根、一成就の善根の方便微密の語なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の巧方便微密語と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち如來の無上なる巧方便微密語を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の〔五〇〕巧方便の分別智有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切佛刹に入

〔四九〕內行測り難きが故に之を言に發するに微密なり。
〔五〇〕前には巧みに深祕隱密の義を說くことを明かし、今は智慧通達して明了なることを示す。

る巧方便分別智。一切衆生の處に入る巧方便分別智。一切衆生の心心の所行に入る巧方便分別智。一切衆生の根に入る巧方便分別智、一切衆生の諸の行業の報に入る巧方便分別智。一切の聲聞の行に入る巧方便分別智。一切の緣覺の行に入る巧方便分別智、一切の菩薩の行に入る巧方便分別智。一切の世間の法に入る巧方便分別智。一切の佛法に入る巧方便分別智なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の巧方便分別智と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる巧方便分別智を得ん◎

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の（五一）正受三昧有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切世界の正受三昧。一切衆生身の正受三昧。一切法の正受三昧。一切の諸佛を見たてまつる正受三昧。善巧に一切劫を住持する正受三昧。巧方便をもつて不可思議の身を出生する正受三昧。一切の如來身の正受三昧。巧に隨順して一切衆生の平等なるを覺る正受三昧。一念の中に於て一切の菩薩の三昧を正受し。一念の中に於て無礙智を以て、一切の菩薩の行を具足し成就して、大願を捨てざる善巧智慧の正受三昧なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の正受三昧と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の三昧に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる巧方便智の正受三昧を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（五二）一切處有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切衆生の處。一切佛刹

【五一】以下二十句は深定普周行を明かす。
【五二】前は定體を明かし、今は定用一切處に遍きことを明かす。

の處。一切衆生性の處。一切火災の處。一切水災の處。一切佛の處。一切出生莊嚴の處。一切如來の無量の功德の處。一切分別說法の處、一切如來の種種供養の處なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の一切處と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の處に安住せば、則ち如來の無上なる一切の大智の處を得ん。

〔五三〕佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の法門有り。何等をか十と爲す。所謂る、一身にて一切の世界に充滿する法門。一切世界の種種無量なる色を示現する法門。一切の世界は一佛刹に入る法門。一切の衆生を住持する法門。如來の莊嚴身は一切の世界に充滿する法門。徧く一切の世界に至る法門。一念の中に於て一切の世界に遊行する法門。一佛刹に於て一切如來の出世を示現する法門。一身、一切の法界に充滿する法門。一念の中に於て一切諸佛の神力を示現する法門なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の法門と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法門に住せば、則ち如來の無上なる法門を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の〔五四〕神通有り。何等をか十と爲す。所謂る、宿命を念ずる方便智通を出生し。無礙の天耳の方便智通を出生し。一切衆生の不可思議なる心心の數法を知る方便智通を出生し。無礙の天眼をもつて、衆生を觀察する方便智通を出生し。不可思議なる自在の神力をもつて、衆生に示現する方便智通を出生し。一身にて不可思議なる世界に示現する方便智通を出生し。一念の

【五三】以下三十句は業用自在を明かす、中に於て初の十句は自在現の法門を顯はす。

【五四】身に法門を現ずるが故に、其の業用無限なるを神通と云ふ。

中に於て、不可説不可説の世界に往詣する方便智通を出生し。不可思議なる莊嚴具をもつて、一切の世界を莊嚴する方便智通を出生し。不可説不可説の化身をもつて、衆生に示現する方便智通を出生し。不可説の世界に阿耨多羅三藐三菩提を成じて、不可思議に衆生に示現する方便智通を出生す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の神通と爲す。若し菩薩摩訶薩此の通に安住せば、則ち無上なる大方便の智通を得・諸佛の自在神力を顯現せん。

卷の第三十九

離世間品第三十三の三

「佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(一)明有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切衆生の業報を知る方便智明を出生し◎、一切衆生の境界・解脱・寂滅の淨心を知る方便智明を出生し◎、一切の境界と、一切の衆生とに入りて、種種に一切の法は所有無しと決定する金剛の方便智明を出生し◎、不可思議なる淨妙の音聲は、無量の世界に普く聞かざること無き方便智明を出生し◎、智慧をもつて一切の毀害染著を除滅する方便智明を出生し◎、受生の方便、受生せざる方便の、方便智明を出生し◎、一切の境界に於て諸の受想を轉ずる方便智明◎、一切の法は性無く、非性無く、相無く非相無きことを知る、一性にして無性なるが故なり。而も無量劫に於て種種に說法して、善根を修習し、阿耨多羅三藐三菩提を成ずる方便智明◎、一切衆生の生を知り、亦無生を知り、一切衆生の滅を知り、亦無滅を知り、因を知り緣を知り、事を知り、境界を知り、行を知り、生を知り、滅を知り、衆生の說を知り、愚癡を知り、愚癡を離るるを知り、顚倒を知り、顚倒に非ざるを知り、垢濁を知り、清淨を知り、生死を知り、涅槃を知り、有を知り、無を知り、著を知

【一】前の神通は業用自用なる義、今は智用の委顯を明と云ふ。

り、不著を知り、堅固を知り、離を知り、轉を知り、不轉を知り、起を知り、不起を知り、壞を知り、道を知り、成就を知り、根を知り、衆生の受化を知る、器に隨ひて應ずるが故に。衆生を敎化して、未だ曾て菩薩の所行を忘失せず。何を以ての故に。菩薩摩訶薩の阿耨多羅三藐三菩提心を發すは、衆生を敎化せんが爲めの故なり。是の故に菩薩摩訶薩は常に衆生を化して菩薩の行を失はず、身疲倦無く、一切衆生に違はず、緣起を觀察する方便智明◎諸刹に著せず、著心を起さず、諸佛に著せず、著心を起さず。一切の法に著せず、著心を起さず。世界に著せず、著心を起さず、衆生に著せず、著心を起さず。衆生を見ず、衆生を化せず、衆生を調伏せず、衆生の爲めに法を說かず、而も亦菩薩の行願を捨てずして大悲を長養し。一切の佛を見たてまつり、正法を聽受して未だ曾て忘失せず、佛の依果を得、諸の善根を種ゑ、如來の所に於て、恭敬し供養するの心を捨てず、恭敬し供養するの心を增長し、法界に等しき心を具足し成就し。自在の神力をもつて、六種に不可思議なる無量の世界を震動し。種種の說法を知り。衆生の數を知り。種種の衆生を知り、苦の起るを知り、苦の滅するを知り、一切行の苦を知り、一切の行は悉く電光の如きを知りて。菩薩の行を行じ。永く一切生死の根本を斷ち、悉く能く一切の衆生を救護し。菩薩の行を行じて、汚染する所無く、一切如來の種性を斷たず、須彌山王の心を發して傾動す可からず。一切顚倒の衆想を除滅して、一切の智門は悉く現在前して動せず壞せず、等正覺を成じて、生死の海に於て悉く能く一切の衆生を濟度する方便智明なり◎佛子、是を菩

薩摩訶薩の十種の明と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の明に安住せば如來の無上なる巧方便の智明を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の㈡解脫有り。何等をか十と爲す。所謂る、煩惱の解脫。邪見の解脫。熾然の解脫。陰界入の解脫。聲聞緣覺の地を超出する解脫。無生法忍の解脫。一切の佛刹、一切の衆生、一切の諸法に著せざる解脫。無量無邊の諸の菩薩の住に住する解脫。一切の菩薩の行を離れて如來の地に住する解脫。一念の中に於て悉く能く一切の三世の諸法を了知する解脫なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の解脫と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の解脫に住せば、則ち能く普く一切衆生の爲めに無上の佛事を作さん。

㈢佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の㈣園林有り。何等をか十と爲す。所謂る、生死の園林、菩薩の行を行じて憂惱を起さざるが故に。衆生を敎化する園林、衆生を厭はざるが故に。一切劫の園林、菩薩の一切の大行を攝取するが故に。清淨なる世界の園林、性無著の故に。一切の魔の宮殿の園林、魔の境界を降すが故に。正法を聽受する園林、正念に觀察するが故に。六波羅蜜・四攝法・三十七道品の園林、慈父の境界を修習するが故に。十力・四無所畏、乃至一切の佛法の園林、異法を念せざるが故に。菩薩の一切の無量無邊の功德神力を示現する園林、淨法輪を轉じて衆生を調伏するが故に。念念

【二】前には大智明の起ることを說けり、今は無明の障滅盡するが故に解脫と云ふ。

【三】以下百五十句は德備る成滿の行を明かす。中に於て四あり、初の四十句は報德圓滿の行、次の二十句は心住堅深の行、次の五十句は智德殊勝の行、後の四十句は德重高深の行を明かす。

【四】以下、事に託して法を顯はす。園林とは遊觀適悅の義を表はす。

の中に於て一切衆生の爲めに成正覺を現ずる園林、法身は虛空の如く、一切の世界に充滿して平等に覺るが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の園林と爲す。若し菩薩摩訶薩此の園林に住せば、則ち如來の無上なる離憂快樂の園林を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(五)宮殿有り。何等をか十と爲す。所謂る、發菩提心の宮殿、忘失せざるが故に。十善の業跡功德智慧の宮殿、欲界の衆生を敎化し成就するが故に。四梵の住する處の宮殿、色界の衆生を敎化し成就するが故に。淨居天の生を受くる宮殿、一切の煩惱も染すること能はざるが故に。無色界天の生を受くる宮殿、衆生の障難の處を除滅するが故に。不淨の世界に降生する宮殿、衆生をして一切の煩惱を斷ぜしめんと欲するが故に。現じて深宮の婇女妻子の色味に處する宮殿、本の同行の衆生を敎化し成就せんが故に。現じて四天下の王、四大天王・帝釋、梵王と爲る宮殿、自在心の衆生を調伏せんが爲めの故に。一切菩薩の神力自在に行かしむる宮殿、一切の諸禪解脫三昧智慧自在なるが故に。諸佛の所に於て、無上自在なる一切智王の記を受くる宮殿、十力莊嚴して一切法の自在法王の事を行ずるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の宮殿と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切法王の受記自在の法を得ん。

【五】前は外に遊ぶことを示し今は内に安んずることを明かすが故に宮殿と云ふ。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の樂有り。何等をか十と爲す。所謂る、寂靜を樂ふ、散亂せざるが故

に。明慧を樂ふ、善く法を分別するが故に。一切の佛の所に往詣せんことを樂ふ、現前に法を聞きて受持するが故に。一切の佛を樂ふ、十方に充滿するが故に。菩薩の自在神力の無量の法門を樂ふ、衆生身を示現するが故に。三昧を樂ふ、一の三昧門に於て一切の三昧門を出生するが故に。陀羅尼門を樂ふ、一切の法を持して衆生を教化し忘失せざるが故に。辯才を樂ふ、一の句身味身に於て不可說劫に說くとも窮盡すること無きが故に。菩提を樂ふ、無量の法門を以て衆生に等しき身を現じて正覺を成ずるが故に。轉法輪を樂ふ、法の如く一切の外道を調伏するが故なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の樂と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の樂に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる法樂を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（六）莊嚴有り。何等をか十と爲す。所謂る、力莊嚴、壞す可からざるが故に。無畏莊嚴、恐怖を生ぜざるが故に。義莊嚴、不可說の義法門を說きて窮盡すること無きが故に。法莊嚴、八萬四千の法藏を說きて忘失せざるが故に。願莊嚴、一切の菩薩の願事退轉せざるが故に。行莊嚴、普賢菩薩の行を究竟するが故に。佛刹莊嚴、一切の佛刹を受持して一佛刹と爲すが故に。妙音莊嚴、大甘露の法を雨らして一切の佛刹に充滿するが故に。受持莊嚴、一切劫に於て菩薩の行を行じて斷絕せざるが故に。變化莊嚴、一りの衆生身に於て一切衆生に等しき身を示現して、一切の衆生知見せざる無く、專ら十力一切智を求めて退轉せざるが故なり。佛子、是を菩薩

【六】既に樂心を成ずるが故に勝德を以て、自ら莊嚴するなり。

摩訶薩の十種の莊嚴と爲す。若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上の莊嚴を得ん。

(七)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の不動心を發す有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切有する所を皆悉く能く捨てて、不動の心を發し。一切諸佛の正法を出生して、不動の心を發し。一切諸佛を恭敬し供養して、不動の心を發し。等心に一切衆生を觀察して、不動の心を發し。一切衆生を攝取して、不動の心を發し。一向に專ら一切の佛法を求めて未だ曾て休息せずして、不動の心を發し。一切衆生に、等しき劫に菩薩の行を修して、不動の心を發し。(八)有根の信、(九)不濁の信、離垢の信、明淨の信、一切の佛を恭敬し供養する信、(一〇)不退轉の信、不壞の信を成就して、不動の心を發し。究竟一切智を具足し成就して、不動の心を發し。一切の菩薩の諸行を成就して、不動の心を發す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の發不動心と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち無上なる一切智の不動心を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の(一一)深心を捨てざる有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の佛の菩提を覺りて、深心を捨てず。一切衆生を敎化し成就して、深心を捨てず。一切諸佛の種性を斷せずして深心を捨てず。善知識に親近して、深心を捨てず。一切の佛刹に於て、一切の諸佛を恭敬し供養して、深心を捨てず。專ら大乘と及び一切の功德とを求めて、深心を捨てず。

【七】次の二十句は心住堅深を明かす。
【八】此の信能く佛果を生ずるが故に有根の信と云ふ。
【九】無明を雜へざるを不濁と云ふ。
【一〇】因行堅固なるを不退轉と云ひ、外緣に動ぜざるを不壞と云ふ。
【一一】行堅固にして動ぜざるが故に深理に窮達するなり。

一切の佛の所に於て、梵行を修行し、淨戒を護持して、深心を捨てず。一切の菩薩を攝取して、深心を捨てず。一切の佛法を聞持して、深心を捨てず。一切の菩薩の行願を修習して、一向に專ら一切の佛法を求めて、深心を捨てず。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の不捨深心と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切の佛の深心を捨てざる正法を得ん。

(二)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の智觀察有り。何等をか十と爲す。所謂る、智慧をもつて善巧に一切諸法を分別することを觀察し。智慧をもつて三世の一切菩薩の行、神力自在を觀察し。智慧をもつて一切の諸法の巧方便門を觀察し。智慧をもつて一切の佛持を觀察し。智慧をもつて一切の陀羅尼門を觀察し。智慧をもつて一切の世界の常に正法を説くことを觀察し。智慧をもつて深く一切の法界に入ることを觀察し。智慧をもつて十方一切の世界の不可思議なることを觀察し。智慧をもつて一切の佛法を觀察し。智慧をもつて無障礙の智を觀察す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の智觀察と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち如來の無上なる大智の觀察を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の(三)法を分別する有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の法は悉く縁より起ると分別し。一切の法は皆悉く幻の如しと分別し。一切の法は皆悉く無諍なりと分別し。一切の法は無量無邊なりと分別し。一切の法は依止する所無しと分別し。一切の法は悉く金剛の如し

【二】次の五十句は智德殊勝の行を明かす。

【三】既に能く所作を觀察したるを以て、次に能く諸法を簡擇するを分別と云ふ。

と分別し。一切の法は悉く是れ如來なりと分別し。一切の法は皆悉く寂靜なりと分別し。一切の法は悉く是れ正道なりと分別し。一切の法は悉く是れ一相一義なりと分別す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の分別法と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち巧方便を得て悉く能く一切の諸法を分別せん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の【一四】無垢有り。何等をか十と爲す。所謂る、深心の無垢。疑惑を除滅する無垢。邪見を遠離する無垢。境界の無垢。一切智を得んと欲する無垢。諸辯の無垢。無畏の無垢。一切の菩薩の住する所の無垢。一切の菩薩の正受三昧の無垢。三十二相・百福をもつて莊嚴し、一切諸の白淨法を成就し、究竟じて無上菩提を逮得する無垢なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の無垢と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切の佛の無上なる無垢を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の【一五】智印有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は【一六】苦苦、【一七】變易苦、【一八】行苦を知りて、懈怠を生ぜず、菩薩の行を修して一向に專ら無上菩提を求め、恐れず、怖ぢず、驚かず、畏れず、大願を捨てず、菩提の心堅固不退にして阿耨多羅三藐三菩提を究竟す。是を第一の印と爲す。一

【一四】深法を簡擇するに由りて障を除き、垢を離るるが故に無垢を明かす。

【一五】垢障を離るるに由りて、其の德は堅固となり、決定して變動せざるが故に智印と云ふ。

【一六】苦苦とは疾病、飢餓等の苦の緣より生ずる心身の苦惱を云ふ。

【一七】變易苦とは又は壞苦と稱し、樂事去り愛者と離るる等の時に感ずる苦を云ふ。

【一八】行苦とは行は遷流の義にして世間の無常轉變より生ずる苦を云ふ。以上を三苦と稱す。

切の凡夫衆生には、悉く煩惱、顚倒、惑亂あり。彼の諸の衆生は、魔部の惡言をもつて菩薩を訶罵し、或は刀杖瓦石を以て之を加害するも、菩薩、爾の時に心に憂惱無く、菩薩の行を修して、正しく菩提に向ひ、忍法を修習して受識し、離生す。是を第二の印と爲す。菩薩摩訶薩は、甚深の佛法の一切智を讃ずるを聞き、聞き已りて一向に信解す。是を第三の印と爲す。菩薩摩訶薩は、是の如きの念を作さく、「我菩提心を發し、究竟じて阿耨多羅三藐三菩提を成就し、一切衆生の五道に流轉し、無量の苦を受くるをば、我當に彼をして皆大いに歡喜し、勤行精進して、善根を修習し、生死の流を度り、永く安樂を得しむべし」と。是を第四の印と爲す。菩薩摩訶薩は、如來智の無量無邊なるを解りて、而も未だ如來と等しからず。如來の所に於て、無量無邊の智を聞き、文字の中に於て、分別し解了して、如來と等し。是を第五の印と爲す。菩薩摩訶薩は、善欲、不可壞の欲、甚深の欲、勝欲、功德の欲、莊嚴の欲、無比の欲、無上の欲、堅固の欲、究竟じて正しく無上菩提を求め一切の衆魔外道及び其の眷屬も壞すること能はざる欲、無上菩提を退かざる欲を成就す。是を第六の印と爲す。菩薩摩訶薩は身命を惜まず、怖畏する所無く、菩薩の行を修し、菩提心を發し、一切智に趣き、一切の佛の智慧光明を得、佛の菩提を捨てず、善知識を捨てず。是を第七の印と爲す。菩薩摩訶薩、若し善男子善女人の大乘を學ばん者は、諸佛の善根を長養し、善根に安住し、一切智心を攝取して、菩提を退かず。是を第八の印となす。菩薩摩訶薩は、一切衆生をして、平等心に住して、一切智を修せしめ、衆生の爲めに

法を說きて、悉く無上菩提を退かしめずして、大悲を長養す。是を第九の印と爲す◎菩薩摩訶薩は、三世の諸佛の一切善根に隨順して、佛種を紹繼し、一切智を生ず。是を第十の印と爲す◎佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の智印と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の印を成就せば、疾かに阿耨多羅三藐三菩提を得、如來の無上なる智印を具足せん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の智慧光明有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は、阿耨多羅三藐三菩提に於て決定する智慧の光明。一切の佛を見たてまつる智慧光明。一切衆生の此に死し彼に生ずることを見る智慧光明。一切衆生を開悟して、悉く正しく修多羅の法を求めしむる智慧光明。善知識に依りて菩提心を發し、善根を長養する智慧光明。一切諸佛を示現する智慧光明。一切衆生を化して、悉く佛地に安住せしむることを成就する智慧光明。不思議の法を分別し解說する智慧光明。一切の佛の神力に於て住持する善巧方便の智慧光明。一切の波羅蜜を滿足する智慧光明なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の智慧光明と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切の佛法の無上なる智慧光明を得ん◎

(一九)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(二〇)不可稱量住有り。一切の衆生、及び聲聞緣覺は稱量すること能はず。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は、實際住に住して而も證を受けず、一切の所願未だ成

【一九】次の四十句は德重高深行を明かす。

【二〇】行用測り難く、凡夫の窺ひ知る所にあらざるが故に、不可稱量住と云ふ。

滿せざるが故なり。是は爲第一の菩薩住にして稱量す可からず。菩薩摩訶薩は、法界に等しき如き清淨の善根を種ゑ、彼の善根に於て染著する所無し。是は爲第二の菩薩住にして稱量す可からず。菩薩摩訶薩は、菩薩の行は猶ほ變化の如く、一切の諸法は皆悉く寂滅なりと解り、諸佛の法に於て疑惑を生ぜず。是は爲第三の菩薩住にして稱量す可からず。菩薩摩訶薩は、生死の心を離れ、不可說の劫に於て菩薩の行を修し、一切の大願を滿じて、而も中にて厭怠の心を起さず。是は爲第四の菩薩住にして稱量す可からず。菩薩摩訶薩は、一切の法に住して、依止する所無く、皆悉く寂滅にして而も涅槃を證せず、一切の智道未だ成滿せざるが故なり。是は爲第五の菩薩住にして稱量す可からず。菩薩摩訶薩は、一切の劫は劫に非ざるを知りて、而も實には一切の劫を說く。是は爲第六の菩薩住にして稱量す可からず。菩薩摩訶薩は、一切行は行に非ざることを知りて、而も道行を捨てず、正しく佛の法を求む。是は爲第七の菩薩住にして稱量す可からず。菩薩摩訶薩は、心は是れ三界なり、心は是れ三世なりと解り、彼の心の無量無邊なることを了知す。是は爲第八の菩薩住にして稱量す可からず。菩薩摩訶薩は、一りの衆生の爲めの故に、不可說の劫に於て菩薩の行を修し、一切智地に安住せしめんと欲す、一りの衆生の如く、一切の衆生も亦復た是の如くして厭心を生ぜず。是は爲第九の菩薩住にして稱量す可からず。菩薩摩訶薩は、具足して菩薩の諸行を滿ずと雖も、而も正覺を取らず。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は是の如きの念を作せばなり、「我正覺を受けざるが故に、菩薩の行を行じて無

量劫の中に於て無量の衆生を悉く無上菩提に安住せしめん」と。是は爲第十の菩薩住にして稱量す可からず。◎若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則ち一切の佛法の無上なる大智の不可稱量住を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の（三）懈怠無き心を發す有り。何等をか十と爲す。所謂る菩薩摩訶薩は是の如きの念を作さく、「我一切の魔、及び其の眷屬を降伏せん」とて、無懈怠の心を發す。「法の如く一切の外道を調伏せん」とて、無懈怠の心を發す。「深妙の法を說きて一切衆生をして皆悉く歡喜せしめん」とて、無懈怠の心を發す。「一切の法界に等しき諸の波羅蜜を滿足せん」とて、無懈怠の心を發す。「一切衆生をして、一切の功德藏を積集し成滿せしめん」とて、無懈怠の心を發す。「一切如來の無上菩提は、彌彌廣き大事にして、甚だ成滿し難し、我當に菩薩の行を修して具足し成就すべし」とて、無懈怠の心を發す。「無上の法を以て、一切衆生を敎化し調伏して、悉く成就せしめん」とて無懈怠の心を發す。「一切の世界に於て、種種の異色をもつて無量に莊嚴し、正覺を成就せん」とて無懈怠の心を發す。菩薩摩訶薩は是の如きの心を發すらく、「我菩薩の行を修する時、若し衆生有り、來りて我が身を求め、或は手足・耳鼻・血肉骨髓・妻子象馬・國土を求めんに、是の如き等の類を皆悉く能く捨てて、乃至、一念の悔心をも生ぜず、悉く能く惠み施して、一切衆生を饒益し安樂にして、果報を求めず、大慈悲心を以て上首と爲さん」とて、無懈怠の心を發す。◎菩薩摩訶薩、是の如きの念を作さく、「一念の

【三】既に行用殊勝にして、凡夫の及ぶ能はざる所なるが故に勇猛無間ならしむるなり。

中に於て、三世の一切の佛、一切の佛法、一切の衆生、一切の刹、一切の世界、一切の空界、一切の法界、一切の施設語界、一切の寂滅涅槃界。是の如き等の一切諸法は、一念相應の慧を以て、悉く別相を覺知し、明了に修し、分別して修し、智の斷證を知りて。一切の法に於て虚妄を取らず、無一無異にして分別する所無く、修習する所無く、境界無く、所有無く。無二の智慧は、一切の無二を覺り。無相の智慧は、一切の相を覺り。無劫の智慧は、一切の劫を覺り。無異の智慧は、一切の異を覺り。光明の智慧は、一切世間の光明界を覺り。趣の智慧は、一切の世界を覺り。非世界の智慧は、一切の世界を覺り。衆生地の智慧は、一切の衆生界を覺り。無著の智慧は、無著の行を究竟し。無堅固の智慧は、一切の堅固を覺り。無染の智慧は、一切の煩惱を覺り。無盡際の智慧は一切の盡を覺り。法界に等しき智慧は、一切の世界に於て其の身を示現し。一切の言音を離れたる智慧は、一切の微妙なる言音を出生し、一性の智慧は、無性の法を說き。一境の智慧は、種種の諸の異る境界を示現し。不可說の諸法を覺る智慧は、無量の大自在の神變を示現し。一切地を覺る智慧は、大自在の神變を顯現し。一切智の自在神變をもつて、一切の衆生を敎化し、成就せん」とて、無懈怠の心を發す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の無懈怠の心を發すと爲す。若し菩薩摩訶薩、此の心に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる無懈怠の法を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(三)須彌山王のごとき正直の心有り。何等

【三】勇猛の行を以て大心を成じ決定して菩提に向ふが故に、須彌山王正直心と云ふ。

をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は、常に正念一切智の法を修す。是は爲第一の阿耨多羅三藐三菩提を決定する須彌山王正直の心なり◎菩薩摩訶薩は、一切の法は空なり、一切の法は所有無しと觀察す。是は爲第二の阿耨多羅三藐三菩提を決定する須彌山王正直の心なり◎菩薩摩訶薩は、無量無數の劫に於て、菩薩の行を行じ、一切の具足せる白淨の法を以て發心し、決定して如來の無量智の法を了知し、諸の白淨法に趣向し積聚す。是は爲第三の阿耨多羅三藐三菩提を決定する須彌山王正直の心なり◎菩薩摩訶薩は、一切の佛法の爲めに、等心に諸の善知識を恭敬し供養して、疑心を起さず、利養を求めず、又復た盜法の心を遠離し、但無上なる恭敬、供養、一切施の心を起す。是は爲第四の阿耨多羅三藐三菩提を決定する須彌山王正直の心なり◎菩薩摩訶薩は、若し一切の衆生、訶責し罵辱して、一切の苦を生じ、乃至命を奪はんとするも、菩薩摩訶薩は、此に因るが故に菩提心を捨てず、心亦散せず、恚りの心を生ぜず、一切衆生に於て、大悲の莊嚴を捨てずして、大悲を長養す。何を以ての故に、菩薩摩訶薩は、一切法の如如の捨を成就するが故に、決定して如來の大忍の法を了知するが故なり。是は爲第五の阿耨多羅三藐三菩提を決定する須彌山王正直の心なり◎菩薩摩訶薩は、增上の功德、天增上の功德、人增上の功德。色增上の功德、力增上の功德、眷屬增上の功德、欲增上の功德、王法增上の功德、自在增上の功德、智慧增上の功德を成就し。彼の菩薩は味樂に著せず、欲樂に著せず、財樂に著せず、眷屬樂に著せず。但專ら正法を求め、正法を諦滿し、正法を諦辨し、正法を究竟

し、正法の燈明に向ひ、正法の救護に向ひ、正法の歸依に向ひ、正法の道に向ひ、正法の義に向ひ、正法を樂ひ求め、寂靜の法に樂ひ住す。菩薩摩訶薩は、是の如きの一切の快樂を成就すと雖も、而も悉く衆魔の境界を遠離す。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は過去世に於て、是の如き心を發しき、「一切衆生をして、皆悉く衆魔の境界を遠離して、佛の境界に住せしめん」と。是は爲第六の阿耨多羅三藐三菩提を決定する須彌山王正直の心なり◎菩薩摩訶薩は、精進を勤修して、正しく阿耨多羅三藐三菩提を求め、阿僧祇劫に於て菩薩の行を修し、猶ほ我は今初めて阿耨多羅三藐三菩提心を發せりと謂へり。亦驚かず怖れず畏れずして、菩薩の行を行じ、能く速かに正覺を成ずと雖も、衆生を化せんが爲めの故に、無量劫に於て菩薩の行を修す。是は爲第七の阿耨多羅三藐三菩提を決定する須彌山王正直の心なり◎菩薩摩訶薩は、一切衆生の伏し難く、度し難く、恩を知らず、恩を報ゆることを知らざるを知り、彼の衆生の爲めの故に、大莊嚴を發して自ら莊嚴し、一切衆生をして心に自在を得、隨意の境界に惡心を生ぜず、他所に於て煩惱の心を生ぜざらしめんと欲す。是は爲第八の阿耨多羅三藐三菩提を決定する須彌山王正直の心なり◎菩薩摩訶薩は是の如きの念を作さく、「我他に依りて菩提心を發し菩薩の行を修せず、都て人の助有ること無くして、我は菩薩の行を修習せん。但我が一身にて、未來際劫を盡して菩薩の苦行を修し、一切諸佛の正法を積集して、阿耨多羅三藐三菩提を成じ、身自ら清淨となり、亦一切衆生を清淨ならしめ、自ら境界を知り、他の境界を知りて、我當に悉く三世の諸佛の境界に同

じうすべし」と。是は爲第九の阿耨多羅三藐三菩提を決定する須彌山王正直の心なり。菩薩摩訶薩は是の如く知見すらく、「一法として菩薩の行を修するもの有ること無く、一法として菩薩の行を滿ずるもの有ること無く、一法として衆生を調伏するもの有ること無く、一法として衆生を化度するもの有ること無く、法として一切の諸佛を恭敬し供養すること有るを見ず、法として過去に阿耨多羅三藐三菩提を成ぜしもの有ることを見ず。法として未來に阿耨多羅三藐三菩提を成ぜんもの有るを見ず。法として現在に阿耨多羅三藐三菩提を成ずるもの有ることを見ず。一法として過去に法を說き、未來に法を說き、現在に法を說くもの有ること無く、一法として能く法を說く者有ること無く、亦法の說く可きも無し。而も菩薩摩訶薩は阿耨多羅三藐三菩提の大願の心を捨てず。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は是の如くして阿耨多羅三藐三菩提を出生し、深く一切甚深の諸法に入りて、無所有の行を行ずればなり。而も此の菩薩摩訶薩は、善業菩提を修習し積聚し、一切諸の對治法を淸淨にし、智慧成滿して、念念の中に於て悉く能く一切諸の善根の法を積集し長養す。若し一切の法所有無くんば、我何の義有りてか無上道を求めん、是の故に恐怖驚畏の心を生ぜず」と。是は爲第十の阿耨多羅三藐三菩提を決定する須彌山王正直の心なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の須彌山王のごとき正直の心と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の心に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる智慧の須彌山王正直の心を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(三)深く智慧の大海に入る有りて、阿耨多羅三藐三菩提を成ず。何等を

か十と爲す。所謂る、無量の一切衆生界に入る。是は爲第一の智慧の大海に入りて、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり。菩薩摩訶薩は、一切世界に入りて虛妄を取せず。是は爲第二の深く智慧の大海に入りて、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり。菩薩摩訶薩は、一切の虛空界は等しく、十方一切の世界に入りて障礙する所無きを知る。是は爲第三の深く智慧の大海に入りて、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり。菩薩摩訶薩は、善く法界に入り、無礙に入り、不斷に入り、不常に入り、無量に入り、不生に入り、不滅に入り、知一切に入る。是は爲第四の深く智慧の大海に入りて、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり。菩薩摩訶薩は、過去未來現在の諸佛・菩薩・法師・聲聞・緣覺・及び一切衆生の所に於て、善根を種ゑ、過去の諸佛は已に無上菩提の善根を成じ、未來の諸佛は當に無上菩提の善根を成ずべく、現在の諸佛は今無上菩提の善根を成ず。過去の諸佛は法を說きて、敎化し調伏して衆生の善根を成就し。未來の諸佛も法を說きて、敎化し調伏して衆生の善根を成就すべく。現在の諸佛も法を說きて、敎化し調伏して衆生の善根を成就す。菩薩摩訶薩は、皆悉く隨喜して、是の如き等の一切の善根を長養し積集して、心に厭き足ること無し。是は爲第五の深く智慧の大海に入りて、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり。菩薩摩訶薩は、念念の中に於て、過去世に入りて不可說の劫を觀察するに、一切の中に於て、或は百億の佛世に出興したまひ、或は千億の佛、百千億の佛、無量の佛、阿僧祇の佛、不可思議

【三】前は菩提を求むるの志樂山の如く高く且つ不動なることを明かし、今は大海の如き深宏なる智慧を得て、無上菩提を成ずることを明かす。

の佛、不可稱量の佛、無分齊の佛、無邊際の佛、不可說不可說の佛、算數譬喩も及ばざる所の佛、世に出興したまひ、彼の諸の如來、及び其眷屬の菩薩の大衆、諸の聲聞僧は、法を說きて敎化し、壽命住持し、種種の法住し。一劫の中の如く、一切諸劫も亦復た是の如し。若し無佛の劫の中に、諸の衆生有りて、阿耨多羅三藐三菩提の爲めに、種ゑし所の善根をも亦悉く了知し、又衆生の見佛の善根を種ゑて、未來の無量の諸佛に値ひたてまつることを得るを觀る。是の如く過去の一切劫を觀察して、厭き足ること無し。是は爲第六の深く智慧の大海に入りて、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり⑥菩薩摩訶薩は、未來世に入りて、一切劫を觀察し、劫に佛有るを知り、劫に佛無きを知り、彼の諸劫に各幾の佛有りて世に出興したまひ、世界と如來の名號とは何等なるかを知り、又度する所の衆生の多少を知り、亦如來の壽命の長短を知る。是の如く未來世の一切諸劫に入りて、分別し了知して厭き足ること無し。是は爲第七の深く智慧の大海に入りて、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり⑦菩薩摩訶薩は現在世に入りて、十方の一切世界を觀察し、無量無邊の不可說不可說の、諸の世界の中の一切の如來は、家を捨てて道を學び、道場に往詣して、菩提樹の下に菩提草を藉き、結跏趺坐したまひて、魔の官屬を降し、阿耨多羅三藐三菩提を成じ已りて、起ちて城邑に入り、天の宮殿に昇りて微妙の法を說き、正法輪を轉じて、無量の衆生を調伏し敎化し、如來の無量なる自在神力を現じて、阿耨多羅三藐三菩提を付囑し、乃至壽を捨てて無餘涅槃に入りたまひ、如來の滅後に大衆普く會して經藏を結集し、正

法を護持して久しく世に住せしむ。舍利の爲めの故に、無量の塔を起し、種種に莊嚴し、恭敬し供養し、又衆生を化して諸佛を見、正法を聽受し、憶念し護持せしむ、是の如く智慧觀察して、勝趣の深心を長養し、無量の法界に充滿して、一切の佛法に於て錯謬無し。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は、一切の如來は皆悉く夢の如しと知りて、而も能く一切の佛の所に往詣して、恭敬し供養し、自身に著せず、佛身に著せず、世界に著せず、大衆に著せず、聞法に著せず、諸劫に著せず、佛を見、法を聞き、世界を觀察して一切劫を解りて厭足無し。是は爲第八の深く智慧の大海に入りて、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり。◎菩薩摩訶薩は不可說不可說不可說劫に於て、無量の諸佛を恭敬し供養したてまつり、一一の劫の中に於て、不可說不可說の佛を恭敬し供養したてまつり、此に沒し彼に生じ、以て三界を出づることを示現し、衆の供養の具をもつて諸佛菩薩の大衆、及び聲聞の僧を供養し、諸佛の滅後に、無上の供具を以て舍利を供養し、廣く大施を行じて一切衆生の意願を滿足し、行ずる所の大施は不可思議にして果報を求めず、衆生を哀愍し饒益し攝取せんが爲めに、不可說不可說の劫に於て、一切の諸佛を恭敬し供養したてまつり、正法を護持し、衆生を化度して、阿耨多羅三藐三菩提を成じて、而も厭足無し。是は爲第九の深く智慧の大海に入りて、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり。◎菩薩摩訶薩は一切の佛の所、一切の菩薩の所、一切の法師の所に於て、一向に專ら教菩薩法、菩薩の威儀、菩薩の隨順法、菩薩の清淨法、菩薩の長養法、菩薩の調伏法、菩薩の平等法、菩薩の出生道を求め、菩薩

の陀羅尼門を受持し、一切衆生を攝取して爲めに法を説き、調伏し成就して、不可説不可説の衆生をして、一切智を發して、心に不退轉を得、阿耨多羅三藐三菩提に住せしめ、一切の佛法に隨順し修習して、衆生を敎化して厭足無し。是は爲第十の深く智慧の大海に入りて阿耨多羅三藐三菩提を成するなり◎佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の深入智慧の大海と爲し、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり。若し菩薩摩訶薩、此法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる智慧大海を得ん◎

〔二四〕佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の〔二五〕寶住有りて、阿耨多羅三藐三菩提を成ず。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は、悉く能く無量阿僧祇の世界の、諸の如來の所に往詣して、恭敬し、禮拜し、親近し、供養す。是は爲菩薩摩訶薩の第一の寶住にして、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり◎菩薩摩訶薩は、不可思議なる諸の如來の所に於て、法を聞きて受持し、正念して忘れず、智慧をもつて分別し、勝趣を長養し。智慧を出生して十方に充滿す。是は爲菩薩摩訶薩の第二の寶住にして、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり◎菩薩摩訶薩は、此の土を離れずして、而も異刹に於て受生を示現し、一切の佛法に於て心惑亂せず。是は爲菩薩摩訶薩の第三の寶住にして、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり。菩薩摩訶薩は一法を出生し、別相分別して一切の法を知る。一切の諸法は、究竟じて無一無異の義なるが故なり。

〔二四〕第四、十回向位の廿九問に答へ、行相の差別を明かす、三百句あり、大いに分つて三となす、初の百十句は回向位の中の行體堅固の義を明かす是れに二あり、初の四十門は行體成就して高く彼岸に栖むことを明かす。

〔二五〕正法の貴ぶべき所に住するが故に寶住と云ふ、或は又無住を以て住と爲すの義。

是は爲菩薩摩訶薩の第四の寶住にして、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり◎菩薩摩訶薩は煩惱を息むることを知り、煩惱を離るることを知り、煩惱を斷ずることを知り、善く住して菩薩の諸行を修習し、實際を證せず、究竟じて實際の彼岸に到り、善く學びて巧妙の方便を成就し、本願成滿して心に疲厭無し。是は爲菩薩摩訶薩の第五の寶住にして、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり◎菩薩摩訶薩は、一切衆生の心に處所無きを知り、而も衆生の心に處所有りと說き、無著無行にして、菩薩の行を修して衆生を化度す。是は爲菩薩摩訶薩の第六の寶住にして、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり◎菩薩摩訶薩は、一切の法は一性なることを知る。所謂る、無性にして一無く異無く、來無く去無く、稱量す可からず、讃歎す可からず、悉く實性無ければ、一異を以て求むるに皆得可からず、而も菩薩摩訶薩は決定して、此は是れ佛の法なり、是れ菩薩の法なり、是れ緣覺の法なり、是れ聲聞の法なり、是れ凡夫の法なり、是れ善法なり、是れ不善の法なり、是れ世閒の法なり、是れ出世閒の法なり、是れ染汚の法なり、是れ不染汚の法なり、是れ有漏の法なり、是れ無漏の法なり、乃至是れ有爲の法なり、是れ無爲の法なりと了知す。是は爲菩薩摩訶薩の第七の寶住にして、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり◎菩薩摩訶薩は、佛を求むるに得可からず、菩薩を求むるに得可からず、法を求むるに得可からず、衆生を求むるに得可からず、而も亦本願を捨てずして、一切衆生を敎化し、無上道を成ぜしむ。何を以ての故に。菩薩の修する所の善根は、一切をして無上道を成ぜしめんと欲し。善く衆生の善根を知

り、善く衆生の境界を知り、善く衆生を敎化することを知り、善く一切衆生の涅槃を知りて、菩薩の行を修し、一切の大願を成滿せしめんと欲すればなり。是は爲菩薩摩訶薩の第八の寶住にして、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり◎菩薩摩訶薩は、其の所應に隨ひて、善巧に法を說きて之を調伏し、巧妙の方便をもつて涅槃を示現し、實にして虛に非ず、亦顚倒に非ざるを知り。而も三世の菩薩の正法に安住し、如如を離れず、實際に住せず、亦衆生を見ず、亦衆生の已に化を受け、今化を受け、當に化を受くべきを見ず。我が所行は爲虛妄に非ざるを解り、乃至一法として求め得可き者有ること無きを解了す。生滅無きが故なり。而も菩薩の所願は皆悉く虛しからずして依止する所無し。是は爲菩薩摩訶薩の第九の寶住にして、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり◎菩薩摩訶薩は、不可思議なる諸佛の一一の佛の所に於て、不可說不可說の受記の法、名號各異り、劫數同じからざるを聞き、一劫の中より次第に法を聞き、乃至不可說不可說の劫に、受記の法を聞く。是の法を聞き已りて、驚かず、怖ぢず、畏れず、菩薩の行を行じて、心に疑惑無し。如來の智は不可思議にして、如來の說きたまふ所の言には二有ること無きを解り、本願滿足して、應に化を受くべきに隨ひて、阿耨多羅三藐三菩提を成ぜしめ、一切の願を滿じて、法界に了達すればなり。是は爲菩薩摩訶薩の第十の寶住にして、阿耨多羅三藐三菩提を成ずるなり。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の阿耨多羅三藐三菩提の大智慧の寶を得ん。

大方廣佛華嚴經卷第十七

三本俱第十七為第十八卷

〔麗坐〕〔宋朝〕〔元朝〕〔明坐〕

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅　譯

金剛幢菩薩十迴向品第二十一之四

蔭三本俱作護

菩薩摩訶薩.施種種蓋.所謂尊重人蓋.種種妙寶而莊嚴之.於無量無邊嚴飾蓋中.最為第一.衆寶為竿.金網羅覆.雜寶瓔珞周帀垂下.懸衆寶鈴.淨瑠璃珠.微動相扣出和雅音.白淨寶網而絞絡之.百千清淨衆雜寶網羅覆其上.無量百千億雜寶莊嚴.無量億那由他沈水栴檀堅固香熏.閻浮檀金清淨莊嚴.如是等無量阿僧祇那由他蓋.以離惡心廣大心放捨心.而行布施.或以奉獻現在諸佛.及涅槃後供養塔廟.為求法故.奉施菩薩諸善知識.或施法師.或施父母.或施衆僧.或復奉施一切佛法.或施種種福伽羅福田.或施師長及諸尊重.或施初發菩提心者.或施一切貧窮下劣.諸有所求皆悉施與.菩薩摩訶薩.布施蓋時.如是迴向.以此善根.令一切衆生.為善根所覆.又為一切諸佛蔭護.令一切衆生.為智慧功德之所覆護.除滅世間諸煩惱垢.令一切衆生.覆以淨法.除滅一切塵勞熱惱.令一切衆生.悉得如來內智慧藏.一切衆生.樂觀無厭.令一切衆生.以寂靜白法而自覆蔭.悉得究竟不壞佛法.令一切衆生.得善覆身.究竟如來清淨法身.令一切衆生.悉為一切而作覆蓋.十力智慧普覆世間.令一切衆生.得隨樂智慧.皆悉出過一切世間.清淨明達無所染著.令一切衆生得應供蓋.成勝福田受一切供.令一切衆生得最上蓋.自然覺悟無上智蓋.是為菩薩摩訶薩布施蓋時善根迴向.令一切衆生.受持法自在蓋.以一功德蓋.普覆一切法界虛空界等一切世界.示現諸佛神力自在.以一功德蓋莊嚴法界.供養諸佛妙幡幢蓋.普覆十方一切如來.令一切佛剎種種寶蓋而以莊嚴.令一切衆生.皆悉樂求無上菩提.以無上蓋普覆衆生.令一切衆生.以不可說不可說一切衆寶莊嚴妙蓋.供養一佛.供養一切諸佛亦復如是.令一切衆生.自然覺悟得最正覺功德高廣微妙之蓋.普覆諸佛.令一切衆生.以種種寶.蓋供養法界虛空界等一切世界諸佛.令

帀上周明本缺
礙下智明本缺
滿三本俱作遍
建下同有立字
次亦同
莊上同無寶字

一切衆生。以種種摩尼寶蓋。諸寶瓔珞周帀垂下以爲莊嚴。一切堅固香蓋。清淨雜寶而以莊嚴。極大高廣。以白淨寶網羅覆其上。以金鈴網周帀懸之。自然演出微妙音聲。以如是等無量不可數蓋。供養諸佛。令一切衆生。得無礙智蓋。普覆十方一切諸佛。令一切衆生。得最勝智蓋。普覆衆生。令一切衆生。得佛功德莊嚴寶蓋。普覆衆生。令一切衆生。皆悉具足清淨大願諸佛功德。令一切衆生。得不思議清淨心寶。令一切衆生。滿足諸法自在之智。令一切衆生。以諸善根普覆衆生。令一切衆生。得無上智蓋。普覆衆生。令一切衆生。得十力蓋。普覆衆生。令一切衆生。以一佛刹。悉能普覆一切法界。令一切衆生。悉於諸法而得自在。令一切衆生。得心自在。令一切衆生。智慧勝廣。令一切衆生。以無量功德。悉能普覆一切衆生。令一切衆生。以諸功德而覆其心。令一切衆生。以平等心普覆一切。令一切衆生。以大智慧等覆一切。令一切衆生。具大迴向。令一切衆生。滿足清淨正直之心。令一切衆生。意根清淨。是爲菩薩摩訶薩施種種蓋時善根迴向。令一切衆生。皆悉成就最大迴向。普覆攝取一切衆生。菩薩摩訶薩。布施種種清淨幢幡。無量雜寶以爲其竿。種種寶繒以爲垂幡。種種雜綵周帀垂下。白淨寶網羅覆其上。金鈴寶網以爲莊嚴。微風吹動出和雅音。無量無數億那由他諸妙幢幡。以爲眷屬。雜寶繒綵懸以爲飾。半月寶像。閻浮檀金。出大光明如日普照。嚴飾寶幢周滿大地。以一切世界隨樂業報。莊嚴彼幢。安住一切虛空法界等諸如來刹。菩薩摩訶薩。於諸世界。隨其所樂。普施妙幢。令發正直菩提之心。或施現在一切諸佛。或施塔廟。或施法寶。或施僧寶。或施善知識。或施菩薩。或施聲聞。或施緣覺。或施大衆。或施福伽羅。或施貧人。諸來求者普施無遺。菩薩摩訶薩。施幢幡時。如是迴向。以此善根。令一切衆生。建立一切善根。功德幢幡不可毀壞。令一切衆生。建立一切諸法自在幢幡。守護正法。令一切衆生。護正法寶。守持諸佛菩薩深法。令一切衆生。建立高顯功德寶幢。然智慧燈普照衆生。令一切衆生。成不壞幢幡。降伏一切諸魔惡業。令一切衆生。皆悉建立智力幢幡。一切諸魔所不能壞。令一切衆生。得大智慧那羅延殊勝幢幡。摧滅一切世間幢幡。令一切衆生。建解脫慧光圓滿日幢。智慧具足普照法界。令一切衆生。得智慧寶莊嚴幢幡。充滿一切諸佛世界。建不可說勝妙幢幡。供養十方一切諸佛。令一切衆生。得如來幢。摧滅一切九十六種諸邪見幢。是爲菩薩摩訶薩施幢幡時善根迴向。令一切衆生。建

明下同有照字
度明作廣
天人三本俱作人天
嚴同作飾
髻下同有中字
皆下同無悉字
寶明作慧

高廣甚深菩薩行幢。建一切菩薩自在行幢。得清淨道。菩薩摩訶薩。開衆寶藏行布施時。如是廻向以此善根。令一切衆生。常見佛寶。捨離愚癡修行正念。令一切衆生。得法寶明。護持一切諸佛法藏。令一切衆生。攝取僧寶。離慳行施充滿其意。令一切衆生。得薩婆若心寶。於清淨菩提心不退轉。令一切衆生。度智慧寶。永離愚癡究竟佛法。令一切衆生。成就菩薩諸功德寶。演說無量智慧妙寶。令一切衆生。讚歎無量功德之寶。修十力智得正覺寶。令一切衆生。得十六智寶三昧正受。究竟增廣智慧之寶。令一切衆生。成就第一福田之寶。覺悟如來無上智寶。令一切衆生。成增上寶。無盡辯藏演說法寶。是爲菩薩摩訶薩施衆寶時善根廻向。令一切衆生。具足究竟無上智寶。得佛無礙清淨眼寶。菩薩摩訶薩。捨莊嚴具惠施衆生。所謂一切身莊嚴具。肢節莊嚴具。令身清淨莊嚴具。無厭足莊嚴。具雜寶絞飾莊嚴具。如是等種種無量億那由他莊嚴之具。布施一切善根廻向。令一切衆生。身淨莊嚴。等觀一切猶如一子。超出世間得佛智樂。調伏衆生使樂深法。安住一切諸佛法中。令一切衆生。莊嚴天人悉以清淨智慧。而自嚴飾。令一切衆生。身淨莊嚴功德相門清淨具足。令一切衆生。妙相嚴身百福具好以自莊嚴。令一切衆生。身相具足以諸相好。而自莊嚴。令一切衆生。言辭莊嚴。皆悉具足無盡辯藏。令一切衆生。以諸功德莊嚴音聲。梵音清淨微妙具足。令一切衆生。皆悉志樂佛法莊嚴。聲受正法諸佛歡喜。令一切衆生。以心莊嚴而自莊嚴。念佛三昧普見諸佛。令一切衆生。以諸陀羅尼莊嚴。而自莊嚴。得佛法明見諸佛法。令一切衆生。以平等智莊嚴其心。以如來智莊嚴法身。是爲菩薩摩訶薩惠施一切莊嚴具時善根廻向。令一切衆生。於無量佛法功德智慧莊嚴滿足。令一切衆生。捨離自大憍慢放逸。菩薩摩訶薩。爲灌頂大王。威力自在。布施天冠髻中明珠。給施一切。攝取衆生。長養施心。以施熏心。向增上施。以施修慧。施修捨根。施修廣覺。菩薩摩訶薩。施髻明珠時如是廻向。以此善根令一切衆生。善受一切智灌頂法王。令一切衆生。具足頂相。獲勝智頂得到彼岸。令一切衆生。得勝智寶。究竟一切功德之頂。令一切衆生。悉得安住智慧寶頂。堪受一切敬心頂禮。令一切衆生。皆悉冠冕智慧天冠。於一切法而得自在。令一切衆生。以智慧明珠而繫其頂。一切世間無能見頂。令一切衆生。皆悉堪受敬心頂禮。具足慧頂照明佛法。令一切衆生。成十力冠以冠其頂。智寶海藏清淨具足。令一切衆生。安住最上大地

主三本俱作王

鎖宋元俱作鏁

別三本俱作莂

佛同作値

帝主。摧諸魔頂成最正覺。究竟具足如來十力。令一切衆生。成勝頂王。得一切智頂最勝光明。是爲菩薩摩訶薩
捨天冠明珠善根迴向。令一切衆生。勝妙智慧皆悉清淨。得淨智慧摩尼寶冠。菩薩摩訶薩。見牢獄衆生。受諸楚
毒。或縛或打。閉在囹圄。杻械枷鎖。拷掠流血。飢渴難忍。裸形羸瘦。被髮覆身。受無量苦。無能救者。菩薩摩訶薩。見
如是等苦衆生已。或捨財寶妻子眷屬。或捨己身。於彼獄中救苦衆生。如大悲菩薩善眼王菩薩摩訶薩。於彼獄
中出衆生已。隨其所須而給施之。並以種藥呪術。令彼安隱。先令歡喜。復爲說法。皆悉安立不放逸善根。於正覺
法心不退轉。菩薩摩訶薩。救獄人時。如是迴向。以此善根。令一切衆生。解脫愛縛。令一切衆生。斷生死流到智慧
彼岸。令一切衆生。滅除癡冥得明淨智。拔衆使根離諸塵垢。令一切衆生。斷三界縛得一切智。令一切衆生。永滅
結漏。得離煩惱地。無礙智慧皆悉究竟到於彼岸。令一切衆生。離愛慢縛。究竟成就離愛慢慧。令一切衆生。脫諸
欲縛。永離一切世間貪欲。作諸世間無所染著。令一切衆生。得清淨深心。常爲諸佛之所守護。令一切衆生住。得無
著無縛心。廣大如法界。究竟如虛空。令一切衆生。得菩薩神足。徧遊諸刹。調伏衆生。捨離世間安住大乘。是爲菩
薩摩訶薩救苦衆生善根迴向。令一切衆生。究竟如來智慧之地。菩薩摩訶薩。見送獄囚趣於死地。五種繫縛。憂
惱切心。命在須臾。衆人圍遶。捨閻浮提一切樂具。永離親愛漸之死地。或以木貫置高標上。或以刀割。或以火焚。
或纏身油灌以火燒之。受如是等無量諸苦。菩薩摩訶薩。見如是已。自身捨命救彼苦難。猶如持來菩薩勝進王
菩薩等諸大菩薩。自捨己身受衆楚毒。以救衆生。作如是言。我當捨身以代彼命。設使苦痛過彼無量。悉當代受
令其解脫。復作是念。見如是苦而不代受。爲失大利。何以故。我爲衆生故。救護衆生故。發一切智菩提之心。是故
捨身以代彼命。菩薩摩訶薩。救苦人時。如是迴向。以此善根。令一切衆生。得無盡身命。永離熾然憂悲苦惱。令一
切衆生。依諸佛住。受一切智力菩提記別。令一切衆生。救諸怖畏永離惡道。令一切衆生。得一切命。永入不死智
慧境界。令一切衆生。遠離怨敵。佛善知識常共攝護。令一切衆生。捨離刀杖修行淨業。令一切衆生。離諸恐怖。坐
菩提樹下降伏魔軍。令一切衆生。離大衆恐怖。於無上法中。得淨無畏大師子吼。令一切衆生。得無障礙師子智
慧行清淨業。令一切衆生。到無畏處。救護一切苦惱衆生。是爲菩薩摩訶薩自捨身命救彼死囚善根迴向。令一

髻下同有中字

合同作及

髻下三本俱有中字

瞪同作翳

切衆生。離生死苦究竟佛樂。菩薩摩訶薩。見人來乞連膚頂髮及髻明珠。菩薩是時歡喜施與。如周羅寶王菩薩。勝趣菩薩等諸大菩薩。有人從乞連膚頂髮及明珠時。正心思惟不念餘業。離諸世間專樂寂靜。清淨正念一切種智。修正直心。菩薩爾時手執利刀。卽割膚髮合髻明珠。右膝著地。敬心合掌。正念三世諸佛菩薩所行。發大歡喜直心清淨。一切正法充滿意根。心不計苦。苦者是生滅法。是無常法。作是念已。除滅衆苦。歡喜布施善根迴向。令一切衆生。得無見頂相。成就菩薩周羅尊塔。令一切衆生。得紺青髮。得金剛髮。得柔輭髮。悉能除滅諸煩惱患。令一切衆生。得不亂髮。得光澤髮。令一切衆生。得柔輭旋螺髮。令一切衆生。得右旋髮。令一切衆生。得佛相髮。煩惱結習皆悉除滅。令一切衆生。髮出大光明普照十方。令一切衆生。得佛清淨不亂之髮。令一切衆生。得應供塔髮。除滅惡心見如來髮。令一切衆生。髮離諸塵垢。悉得如來無染著髮。是爲菩薩摩訶薩布施頂髮及髻明珠善根迴向。令一切衆生。悉得究竟一切陀羅尼諸三昧門一切種智及佛十力。菩薩摩訶薩。布施眼時。如歡喜菩薩滿月王菩薩等無量諸大菩薩。布施眼時。修施眼心。修慧眼心。得佛法眼心。向無上道心。究竟諸通心。專求智慧心。等三世菩薩。修惠施心。於乞眼者以愛眼觀。以無壞信心而施彼眼。因生佛眼。增廣菩提摩訶衍心。大慈大悲調伏六根。菩薩摩訶薩。修如是心。以眼惠施。常樂施與。建立正法。捨離世間歡樂放逸。厭離五欲。樂菩提心。隨彼所求悉滿其願。長養平等無二布施。隨彼所須悉能施與。善根迴向。令一切衆生。眼得開明爲世作眼。令一切衆生。得無障眼開廣智藏。令一切衆生得淨肉眼。一切世間無能壞者。令一切衆生。得淨天眼。悉見衆生死此生彼。令一切衆生。得淨法眼。能隨順入如來境界。令一切衆生。得淨慧眼。分別了知一切世間。令一切衆生。得淨佛眼。悉能覺悟一切諸法。令一切衆生。得普淨眼。究竟境界無所障礙。令一切衆生。除滅癡瞪得清淨眼。了衆生界空無所有。令一切衆生。得無障眼。得到如來十力勝處。是爲菩薩摩訶薩布施眼時善根迴向。令一切衆生。得一切智眼。菩薩摩訶薩。布施耳時。如勝王菩薩勝無怨菩薩布施耳時。修菩薩行生如來家。修習諸佛所行布施。正念一切菩薩淨行。隨順諸佛菩提。出生清淨諸根智慧功德。觀察世間無堅固者。令一切衆生。常見一切諸佛菩薩。自於己身無所染著。隨順正念一切佛法。菩薩摩訶薩。布施耳時。其心寂靜調伏諸根。免濟衆生嶮難曠野。生智

施上同無布字

相三本俱作根

身同作鼻

寶重明作重寶

妙下三本俱有智字

迴明作過

慧燈功德。成就檀波羅蜜海。施心成滿。知義知法。明識諸道。得智慧行。於法自在。以不堅固身。易堅固身。菩薩摩訶薩。布施耳時。如是迴向。以此善根。令一切衆生。得無礙耳。悉能普聞無量法音。了達無礙。令一切衆生。得無礙耳。分別了知無量音聲。令一切衆生。得無對耳。得佛淨耳。令一切衆生。得清淨耳。解了耳根空無所有。令一切衆生。得廣大耳。皆悉寂靜識無所起。令一切衆生。得法界等耳。能善聞持一切佛法。令一切衆生。得無著耳。悉能分別無礙諸法。令一切衆生。得無壞耳。一切異論無能壞者。令一切衆生。得周普耳。廣大清淨。令一切衆生。得天耳佛耳。是爲菩薩摩訶薩布施耳時善根迴向。令一切衆生。得清淨耳。菩薩摩訶薩布施鼻時。清淨如是迴向。以此善根。令一切衆生。得如來鼻相。得善相鼻。得愛樂鼻。得清淨鼻。得隨順鼻。得高好鼻。得伏怨鼻。得如來鼻。令一切衆生。得端正面門。得一切法門。得無礙門。得善現門。得無厭門。得清淨門。得離惡門。得諸如來圓滿面門。得一切門。得善樂無量門。是爲菩薩摩訶薩布施鼻時善根迴向。令一切衆生。究竟得入諸佛法中。令一切衆生。攝取十方諸佛正法。令一切衆生。分別深解諸佛妙法。令一切衆生。於諸佛法得到彼岸。令一切衆生。常見諸佛。令一切衆生。得諸如來無量法門。令一切衆生。得究竟清淨。令一切衆生。得佛法明普照諸法。令一切衆生。得嚴淨佛刹。令一切衆生。得佛堅固不可壞身。是爲菩薩摩訶薩布施鼻時善根迴向。菩薩摩訶薩。安住自在大王地時。能以牙齒布施衆生。如華齒王菩薩六牙白象王菩薩。布施齒時。獲難得心。如優曇華。清淨施心。無盡施心。不濁施心。無著施心。無量施心。調伏捨諸根心。一切施心。一切智願心。安隱衆生心。成就施心。大施心。勝施心。身之要用牙齒爲最。己所寶重。衆所歎惜。而能惠施諸乞求者。菩薩摩訶薩。安住此法。捨牙齒時。如是迴向。以此善根。令一切衆生。得白淨利牙。成最勝塔受天人供。令一切衆生。得佛齊密無間齒相。令一切衆生。行調伏心。進趣菩薩諸波羅蜜。令一切衆生。口齒清淨顯現明白。令一切衆生。念莊嚴口牙相成就開現鮮潔。令一切衆生。含齒四十。常出無量清淨妙香。令一切衆生。得安住旋牙。華色莊嚴能調伏心。令一切衆生。得清淨牙。能放無量億千光明。鮮潔圓滿普照十方。令一切衆生。得徐應牙。飯入口迴。粒粒皆碎。無所味著。爲上福田。令一切衆生。得勝妙牙。放無量色光。授菩提記。是爲菩薩摩訶薩施牙齒時善根迴向。令一切衆生。得無礙嚴淨諸法智慧。菩薩摩訶薩。若有人

得下同有柔字

見三本俱作具次亦同

畏下同有王字

首同作手

來從乞舌時。於乞求者柔輭語。愛語。慈愍心語。生撫慰心如善口王菩薩不退轉菩薩。及餘無量菩薩摩訶薩等。於諸趣中受無量生時。有乞舌者。先安乞人處師子座捨己舌時。以歡喜心。不壞心。無嫌恨心。大心。生佛家心。建立菩薩家心。不濁心。勇猛精進心。不著自身心。無怨敵心。以右膝著地。出舌示已。作柔輭語。愛語。慈愍心語。謂乞者言。汝取我舌。隨意所用充滿汝意。菩薩摩訶薩。布施舌時如普迴向。以此善根。令一切衆生。得廣長舌相。能出一切具足音聲。令一切衆生。得覆面舌相。所言無二皆悉誠實。令一切衆生舌能徧覆一切佛剎。示現諸佛自在神力。令一切衆生。得輭薄舌。宣通清淨第一上味。令一切衆生。得正語舌有所言說。一切歎喜疑網悉除。令一切衆生。得淨光舌。能放不可說百千億那由他光明。令一切衆生。得決定語。善能分別無盡法藏。令一切衆生。得淨勝舌。善衆言音究竟敎化。令一切衆生。得音聲智。善能隨順入語言海。令一切衆生。善能演說一切諸法。於諸語言出生智慧。得到彼岸。是爲菩薩摩訶薩布施舌時善根迴向。令一切衆生。得無礙智諸願滿足。菩薩摩訶薩。若有衆生來乞頭時。如無上智菩薩。善男子。迦葉王菩薩。如是等無量諸大菩薩。布施頭時。欲得一切妙智慧首。欲得無上菩提之首。救護衆生。欲見一切諸妙法首。欲見一切淨智慧首。欲具一切無礙法首。欲見最勝妙首之地。欲得勝智慧首。一切衆生皆悉愛念。欲具智慧正法藏首。一切衆生所不能覩。欲得十力大智慧王。欲得滿足一切諸法自在之首。一切世間所不能壞。菩薩摩訶薩。住是法住。則學一切諸佛所學。深信諸佛長養善根。有來求者充滿其意悉令歡喜。菩薩心淨歡喜施與。愛樂佛法。得清淨明。安住菩提。心不退轉。能行大捨。諸根歡悅。增長妙法。正直善心能廣大施。菩薩布施頭時。如是迴向。以此善根。令一切衆生。得如來首。一切世間無能見頂。於一切處所不能壞。出過一切諸世界上。頂相具足旋髮莊嚴。一切世間所未曾有。得佛首相嚴勝殊特。令一切衆生。得智慧首。最勝首清淨首。具智慧首。是爲菩薩摩訶薩布施頭時善根迴向。令一切衆生。具足勝法。逮得無上大智慧首。菩薩摩訶薩。施衆生手足。如勇猛王菩薩。無畏菩薩。如是等無量菩薩摩訶薩。於諸趣中無量生處。布施手足。修信心手。常行正法饒益衆生。威儀庠序。寶手爲首。無著施手。菩薩所行眞實不虛。施心廣大建立善根。遠離慳貪具菩薩行。於如來所得不壞信。除滅惡道成就菩提。菩薩摩訶薩。施手足時。以無量無邊曠大之心。開淨

慊明作嫌

間三本俱作界

厭下同有足字

法門．入諸佛海．見一切佛．成就施手．滿衆生意．悉能受持一切種智菩提諸願．修淸淨心．離煩惱纏．得智身法身．無斷無壞．不可磨滅．一切魔衆不能傾動．親近善知識．修習一切菩薩布施之所出生．菩薩摩訶薩一切智境界．施手足時．如是迴向．以此善根．令一切衆生．悉得寶手具神通力．成寶手已．各相敬重生福田心．以種種寶更相供養．又以衆寶莊嚴．供一切佛．興妙寶雲徧諸佛剎．令一切衆生．修習慈悲不相惱害．遊諸佛剎安住無畏．以少方便究竟神足．以寶手．香手．衣手．蓋手．鬘手．華手．末香手．莊嚴具手．無量華手．無量香手．普手．以神通力詣諸佛剎．供養諸佛．能以一手徧摩一切諸佛世界．能以神足自在之手．持一切衆生．手相成就放無量光．能以一手普覆衆生．得佛縵網手足相好．是爲菩薩摩訶薩大迴向手．普覆衆生．令一切衆生．志常樂求無上菩提．令一切衆生．出生無量功德大海．得忍辱心．見來求者皆大歡喜．觀無厭足．入深法海．逮得諸佛所共善根．是爲菩薩摩訶薩施手足時善根迴向．菩薩摩訶薩．壞身出血布施衆生．如法手菩薩喜心王菩薩等．無量菩薩摩訶薩．於諸趣中無量生處．於乞求者壞身出血．而布施之．以薩婆若心施．喜菩提心施．樂修菩薩行心施．不計苦痛心施．於來乞者無慊恨心施．迴向一切菩薩心施．長養一切菩薩心施．增廣菩薩善心施．以不退轉心施．不休息心施．不惜己心施．菩薩摩訶薩壞身出血布施時．如是迴向．以此善根．令一切衆生．具足菩薩法身智身．令一切衆生．成就微密金剛之身．令一切衆生．得無盡身淸淨不壞．令一切衆生．得現化身．徧滿十方一切世間．令一切衆生．得可樂身．明淨鮮潔不可沮壞．令一切衆生．得法界生身．於如來身無所染著．令一切衆生．得寶光明身無能壞者．令一切衆生．得智藏身．於不死法而得自在．令一切衆生．得寶海身．一切衆生所見不虛．令一切衆生．得虛空等身．於諸世間．無所染著．是爲菩薩摩訶薩壞身出血布施善根．大乘心迴向．淸淨心迴向．大心迴向．歡喜心迴向．大歡喜心迴向．無厭心迴向．安樂心迴向．不濁心善根迴向菩薩摩訶薩．見有人來乞髓肉時．歡喜軟語．謂乞者言．我身髓肉隨意取用．如饒益菩薩一切施王菩薩等．無量菩薩摩訶薩．於諸趣中無量生處．捨髓肉時心大歡喜．施心深廣不可測量．一切菩薩所修習心．無上大乘妙善根心．捨離塵垢正直勝心．於來求者施無盡心．能捨自己愛重身心．一向專求無量善根妙功德寶所覆之心．菩薩所行無厭足心·大布施心·離疑惑心·於來乞者所布

於三本俱作捨

施物無中悔心。分別布施不求報心。平等布施無選擇心。菩薩摩訶薩。施髓肉時。於諸佛所生尊父心。令一切衆生。清淨安住。嚴淨現在諸世界中一切佛刹。大悲現前救護衆生。菩提現前十力明觀三世。菩薩現前滿足善根。無畏現前大師子吼。三世現前智慧平等。一切世間現前盡未來際修菩薩願。無憂現前修習無數諸菩薩行。菩薩摩訶薩。施髓肉時。是如迴向。以此善根。令一切衆生。得金剛藏不可壞身。令一切衆生。得微密身無有踈漏。令一切衆生。得佛清淨莊嚴如意法身。令一切衆生。得百福德身。三十二相而自莊嚴。令一切衆生。得八十種好妙莊嚴身。具足十力不可斷壞。令一切衆生。逮得如來常住妙身。不可測量。令一切衆生。得最勝身。一切諸魔所不能壞。令一切衆生。悉得一身等三世佛。令一切衆生。得無礙身。微妙清淨滿虛空界。令一切衆生。得菩薩藏身。悉能含受一切衆生。是爲菩薩摩訶薩布施髓肉一切智境界心善根迴向。令一切衆生。得佛常住無量法身。菩薩摩訶薩。見有衆生來從乞心如無憂厭菩薩不動王菩薩。如是等無量菩薩摩訶薩。見有人來從乞心時。歡喜施與。學不斷施心。一切無盡施心。大檀波羅蜜心。到檀波羅蜜彼岸心。學一切菩薩行布施心。於一切施得無盡心。修習一切大布施心。建立一切菩薩施心。現前正念諸佛施心。充滿一切來求施心。菩薩摩訶薩。布施心時。以清淨心施。以度脫一切衆生心施。以十力菩提境界心施。以滿足大願心施。以修習菩薩行心施。以得薩婆若心施。以不捨本願心施。以此善根迴向衆生。令一切衆生。得金剛藏心。一切金剛圍山所不能壞。得金剛莊嚴心。離恐怖心。不可勝心。一切世間無能盡心。勇健勝幢智慧藏心。大那羅延高勝幢心。衆生大海不可盡心。不可沮壞那羅延藏心。悉能壞散諸魔魔業魔軍衆心。威武勇健大丈夫心。無恐怖心。大誓莊嚴勝堅固心。最勝生菩薩心。具諸佛法菩提莊嚴心。坐菩提樹成就一切如來正法離諸愚癡一切種智正覺之心。具十力心。是爲菩薩摩訶薩施心善根迴向衆生。令一切衆生。具足無著十力之心。菩薩摩訶薩。見有人來乞腸腎肝肺時。如難勝菩薩滅惡自在王菩薩。如是等無量菩薩摩訶薩。見有人來乞腸腎肝肺。見已歡喜。以愛眼觀。起菩提愛。隨彼所樂悉滿其意。歡喜施與心不中悔。正念觀察。於不堅固身取堅固身。我此穢身虎狼狐狗衆獸所食。此身無常可棄捨物。菩薩摩訶薩。如是觀已。敬心諦視來乞求者。復作是念。我若不施。不得不堅固中堅固。無常中常。不淨中淨。菩薩摩

慊明作嫌

間三本俱作界

厭下同有足字

法門。入諸佛海。見一切佛。成就施手。滿衆生意。悉能受持一切種智菩提諸願。修淸淨心。離煩惱纏。得智身法身。無斷無壞。不可磨滅。一切魔業不能傾動。親近善知識。修習一切菩薩布施之所出生。菩薩摩訶薩一切智境界。施手足時。如是廻向。以此善根。令一切衆生。悉得寶手具神通力。成寶手已。各相敬重。生福田心。以種種寶更相供養。又以衆寶莊嚴。供一切佛。興妙寶雲。徧諸佛剎。令一切衆生。修習慈悲不相惱害。遊諸佛剎。安住無畏。以少方便究竟神足。以寶手。香手。衣手。蓋手。鬘手。華手。末香手。莊嚴具手。無量華手。無量香手。普手。以神通力詣諸佛剎。供養諸佛。能以一手徧摩一切諸佛世界。能以神足自在之手。持一切衆生。手相成就放無量光。能以一手普覆衆生。得佛縵網手足相好。是爲菩薩摩訶薩大廻向手。普覆衆生。令一切衆生。志常樂求無上菩提。令一切衆生。出生無量功德大海。得忍辱心。見來求者皆大歡喜。觀無厭足。入深法海。逮得諸佛所共善根。是爲菩薩摩訶薩施手足時善根廻向。菩薩摩訶薩。壞身出血布施衆生。如法手菩薩喜心王菩薩等。無量菩薩摩訶薩。於諸趣中無量生處。於乞求者壞身出血而布施之。以薩婆若心施。喜菩提心施。樂修菩薩行心施。不計苦痛心施。於來乞者無慊恨心施。趣向一切菩薩心施。長養一切菩薩心施。增廣菩薩善心施。以不退轉心施。不休息心施。不惜己心施。菩薩摩訶薩壞身出血布施時。如是廻向。以此善根。令一切衆生。具足菩薩法身智身。令一切衆生。成就微密金剛之身。令一切衆生。得無盡身淸淨不壞。令一切衆生。得現化身。徧滿十方一切世間。令一切衆生。得可樂身。明淨鮮潔不可沮壞。令一切衆生。得法界生身。於如來身無所染著。令一切衆生。得寶光明身無能壞者。令一切衆生。得智藏身。於不死法而得自在。令一切衆生。得寶海身。一切衆生所見不虛。令一切衆生。得虛空等身。於諸世間。無所染著。是爲菩薩摩訶薩壞身出血布施善根。大乘心廻向。淸淨心廻向。大心廻向。歡喜心廻向。大歡喜心廻向。無厭心廻向。安樂心廻向。不濁心善根。廻向菩薩摩訶薩。見有人來乞髓肉時。歡喜輭語。謂乞者言。我身髓肉隨意取用。如饒益菩薩一切施王菩薩等。無量菩薩摩訶薩。於諸趣中無量生處。捨髓肉時心大歡喜。施心深廣不可測量。一切菩薩所修習心。無上大乘妙善根心。捨離塵垢正直勝心。於來求者施無盡心。能捨自己愛重身心。一向專求無量善根妙功德寶所覆之心。菩薩所行無厭足心。大布施心。離疑惑心。於來乞者所布

於三本俱作捨

施物無中悔心．分別布施不求報心．平等布施無選擇心．菩薩摩訶薩．施髓肉時．於諸佛所生尊父心．令一切衆生．清淨安住．嚴淨現在諸世界中一切佛刹．大悲現前救護衆生．菩提現前十力明觀三世．菩薩現前滿足善根．無畏現前大師子吼．三世現前智慧平等．一切世間現前盡未來際修菩薩願．無憂現前修習無數諸菩薩行．菩薩摩訶薩．施髓肉時．是如迴向．以此善根．令一切衆生．得金剛藏不可壞身．令一切衆生．得微密身無有踈漏．令一切衆生．得佛清淨莊嚴如意法身．令一切衆生．得百福德身．三十二相而自莊嚴．令一切衆生．得八十種好妙莊嚴身．具足十力不可斷壞．令一切衆生．逮得如來常住妙身．不可測量．令一切衆生．得最勝身．一切諸魔所不能壞．令一切衆生．悉得一身等三世佛．令一切衆生．得無礙身．微妙清淨滿虛空界．令一切衆生．得菩薩藏身．悉能含受一切衆生．是爲菩薩摩訶薩布施髓肉一切智境界心善根迴向．令一切衆生．得佛常住無量法身．菩薩摩訶薩．見有衆生來從乞心如無憂厭菩薩不動王菩薩．如是等無量菩薩摩訶薩．見有人來從乞心時．歡喜施與．學不斷施心．一切無盡施心．大檀波羅蜜心．到檀波羅蜜彼岸心．學一切菩薩行布施心．於一切施得無盡心．修習一切大布施心．建立一切菩薩施心．現前正念諸佛施心．充滿一切來求施心．菩薩摩訶薩．布施心時．以清淨心施．以度脫一切衆生心施．以十力菩提境界心施．以滿足大願心施．以修習菩薩行心施．以得薩婆若心施．以不捨本願心施．以此善根迴向衆生．令一切衆生．得金剛藏心．一切金剛圍山所不能壞．得金剛莊嚴心．離恐怖心．不可勝心．一切世間無能盡心．勇健勝幢智慧藏心．大那羅延高勝幢心．衆生大海不可盡心．不可沮壞那羅延藏心．悉能壞散諸魔魔業魔軍衆心．威武勇健大丈夫心．無恐怖心．大誓莊嚴勝堅固心．最勝生菩薩心．具諸佛法菩提莊嚴心．坐菩提樹成就一切如來正法離諸愚癡一切種智正覺之心．具十力心．是爲菩薩摩訶薩施心善根迴向衆生．令一切衆生．具足無著十力之心．菩薩摩訶薩．見有人來乞腸腎肝肺時．如難勝菩薩滅惡自在王菩薩．如是等無量菩薩摩訶薩．見有人來乞腸腎肝肺．見已歡喜．以愛眼觀．起菩提愛．隨彼所樂悉滿其意．歡喜施與心不中悔．正念觀察．|於不堅固身取堅固身．我此穢身虎狼狐狗衆獸所食．此身無常可棄捨物．菩薩摩訶薩．如是觀已．敬心諦視來乞求者．復作是念．我若不施．不得不堅固中堅固．無常中常．不淨中淨．菩薩摩

訶薩。如是正念。則能開發淸淨直心。解眞實法。於來乞者。生善知識心。能教化。我不堅固中而取堅固。菩薩摩訶薩。作是念已。以此善根迴向衆生。令一切衆生。得內外淸淨智慧藏身。令一切衆生。得智慧藏腹。悉能受持一切智願。令一切衆生。得淸淨身。見者無厭。演放堅固妙香光明。普熏十方。令一切衆生。逮得如來腹不現相。身宜相稱肢節具足。令一切衆生。得法味食長養智身。具佛法愛柔輭充滿。令一切衆生。得無盡身安住法身。令一切衆生。得內淸淨摠持藏身。一切辯明普照諸法。令一切衆生。得淸淨身。內外悉淨。令一切衆生。得如來智修習行身。普雨甘露智慧法雨。令一切衆生。悉得內身淸淨寂靜外身。能爲衆生作智慧幢王。照明一切。是爲菩薩摩訶薩施腸腎肝肺善根迴向衆生。令一切衆生。悉得內外淸淨之身。安住堅固無障礙智。菩薩摩訶薩。見有來乞肢節諸骨。如法藏菩薩夜光菩薩。如是等無量菩薩摩訶薩。施肢節骨。見來求者。生大歡喜心。明淨心。寂靜心。慈心。安樂心。無所著心。淸淨心。於來乞者生滿願心。菩薩摩訶薩。以施肢節所攝善根迴向衆生。令一切衆生。得如化身。永離世間骨血肉身。令一切衆生。得金剛力身。無能壞者。無能勝者。令一切衆生。得薩婆若力。具足法身。從無縛無著法界出生。令一切衆生。得智力身。諸根堅固不可斷壞。令一切衆生。得法力身。智力自在到於彼岸。令一切衆生。得堅固身不可壞散。令一切衆生。得隨應化身。善能調伏成熟衆生。令一切衆生。得智熏身。具那羅延肢節莊嚴。令一切衆生。得堅固流注不斷絕身。究竟永離一切疲倦。令一切衆生。得安住力身悉皆具足勇猛精進。令一切衆生。得淨法身。悉能分別一切衆生。入於無量智身境界。令一切衆生。得功德力身。除滅衆惡。見者不虛。令一切衆生。得無礙身。皆悉究竟。無染著智。令一切衆生。得佛所攝身。常爲一切佛所守護。令一切衆生。得普饒益衆生之身。悉能徧入一切諸道。令一切衆生。得圓應身。十方衆生悉見其面。無背佛法。淸淨照明常現在前。令一切衆生。得具足精進身。修習究竟大乘智慧。令一切衆生。捨離我慢自大放逸之身。得淸淨身。智慧安住不可傾動。令一切衆生。得堅持戒身。成就大乘一切智業。令一切衆生。得生佛家身。永離世間生死穢身。是爲菩薩摩訶薩施肢節諸骨善根迴向。令一切衆生。皆悉淸淨得薩婆若。菩薩摩訶薩。見有人來手執利刀乞厚薄皮。以愛眼視。歡喜恭敬爲敷座處。卽作是念。福田難遇。而今自來滿我本願。決定究竟一切種智。作如是言。取我身皮隨汝

宜明作直

三本俱菩薩摩訶薩以下爲卷第十九金剛幢菩薩迴向品第二十一之五

座三本俱作坐

意用.如清淨藏菩薩金剛脇鹿王菩薩.如是等無量菩薩摩訶薩.布施乞人厚薄皮時.如是廻向.以此善根.令一切衆生.得如來薄皮相金色清淨.令一切衆生.得金剛堅固不壞薄皮.令一切衆生.得金色皮.如閻浮檀金藏.令一切衆生.得無量色皮.隨應現色悉令清淨.令一切衆生.得明淨皮不受塵垢.如樂沙門如來淨色.令一切衆生.得第一色皮.自然清淨.令一切衆生.逮得如來清淨色皮.微妙相好而自莊嚴.令一切衆生.得明淨皮.放大光明普覆一切.令一切衆生.得明網皮.無量光明圓滿具足普覆世間.令一切衆生.得潤澤皮.衆色清淨.是爲菩薩摩訶薩布施自身厚薄皮時善根廻向.令一切衆生.逮得無上最勝菩提.皆悉具足如來功德

大方廣佛華嚴經卷第十八

〔麗坐〕〔宋朝〕〔元朝〕〔明坐〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅譯

金剛幢菩薩十迴向品第二十一之五

菩薩摩訶薩。見有人來乞手足指。如堅固精進菩薩。閻浮提自在王金光菩薩等。無量菩薩摩訶薩。施手足指時。心大歡喜顏色無異。乘大乘施。不求五欲施。不求名聞施。建立檀波羅蜜施。大施心施。離慳垢施。離嫉妒施。隨順佛施。以是施手足指所攝善根迴向衆生。令一切衆生。得佛長指相。令一切衆生。得指密相間纖直。令一切衆生。得赤銅甲相筒密清淨。令一切衆生。得大人指相。悉能攝持一切諸法。令一切衆生。得具足隨好十力相指。令一切衆生。得大人指相纖𦟛緊密。令一切衆生。手足指端輪相莊嚴。指節平滿文相明顯。令一切衆生。得蓮華色指十力業報相好莊嚴。令一切衆生。得光明指放光明網普照十方諸佛世界。令一切衆生。得淨妙指。以諸相好具足莊嚴。是爲菩薩摩訶薩施指善根迴向衆生。令一切衆生。心皆清淨。復次菩薩摩訶薩。請求法時。若有人言。汝能施我連肉爪者。當與汝法。菩薩答言。但與我法。隨汝所須恣意取用。如求法王菩薩。無盡菩薩。如是等無量菩薩摩訶薩。爲求法故。欲令一切衆生具正法故。以是善根迴向衆生。令一切衆生。悉得赤銅如來相爪。令一切衆生。得潤澤爪。令一切衆生。得佛具足清淨光爪。令一切衆生。得具足大人一切智爪。令一切衆生。得無比爪。於諸世間無所染著。令一切衆生。得莊嚴爪。普照衆生。令一切衆生。得細妙爪。微密清淨不可破壞。令一切衆生。得佛具足方便相好大智清淨。令一切衆生。得善生爪。菩薩清淨行業果報。令一切衆生。得薩婆若善方便爪。放無量色妙光明藏。是爲菩薩摩訶薩施爪肉善根迴向衆生。令一切衆生。得一切智爪。具足莊嚴如來法身。皆悉滿足無障礙力。菩薩摩訶薩。爲求法故。爲難得法故。能施法者。作如是言。若能投身七仞火阬。當與汝法。菩薩聞此歡喜無量。作是思惟。我爲法故。尚於阿鼻地獄諸惡趣中。受無量苦。況入人間微小火阬。而得聞法。奇哉正法甚

筒元明俱作筩
緊同作堅
爪肉三本俱作肉爪

道三本俱作益

貪同作食

為易得。免於地獄無量楚毒。入小火阬而聞正法。汝但說法我入火阬。如求善法王菩薩金剛思惟菩薩。為法歡喜入火善根迴向衆生。令一切衆生。得佛所在一切智法。於無上道堅固不退。令一切衆生。皆悉除滅惡趣火阬。受如來樂。令一切衆生。得無畏心離衆恐怖。令一切衆生。常樂求法。皆得歡喜佛法莊嚴。令一切衆生。離諸惡道。悉能除滅三毒熾火。令一切衆生。悉得快樂。成就如來最勝妙樂。令一切衆生。得菩薩心。悉能除滅貪恚癡火。令一切衆生。悉得菩薩諸三昧樂。普見諸佛心大歡喜。令一切衆生。常聞正法。究竟佛道未曾忘失。令一切衆生。悉得菩薩自在諸通快樂。究竟具足薩婆若智。是為菩薩摩訶薩為求法故。赴火善根迴向衆生。令一切衆生。具智慧火。遠離一切諸不善業。菩薩摩訶薩。為求法故。舉身具受無量諸苦。為正法故為廣說正法故。建立菩薩道故。開無上菩提故。具足無上智故。修習十力故。增廣一切智心故。得無礙智故。令一切衆生清淨故。入一切菩薩境界故。守護大乘佛菩提故。如求正法菩薩勇健王菩薩。如是等無量菩薩摩訶薩。為求法故受無量苦乃至謗正法人。極大惡人。惡業障人。持魔業人。為正法故。代彼惡人具受諸苦。菩薩摩訶薩。為求法故。代諸衆生受苦。善根迴向衆生。令一切衆生。離一切苦得安樂利道。令一切衆生。離諸苦受成就妙樂。令一切衆生。永滅苦陰得如電光樂。令一切衆生。超出苦獄。具足究竟智慧之行。令一切衆生。見安隱道離苦惱趣。令一切衆生。得法愛樂充滿具足。究竟寂滅一切衆苦。令一切衆生。發大悲心。悉欲濟度一切苦海。令一切衆生。得諸佛樂斷生死苦。令一切衆生。得無比淨樂。其身永離一切苦受。令一切衆生。得一切勝樂。究竟具足佛無礙樂。是為菩薩摩訶薩為求法故悉受衆苦善根迴向救護衆生。令一切衆生。安住薩婆若無礙解脫。菩薩摩訶薩。為求法故。為法難得故。能捨大地四海國土。大小諸城村邑丘聚。國土豐樂人民熾盛。園林浴池華果繁茂。如是種種無量莊嚴。天下太平無有怨敵。金銀寶藏妻子眷屬皆悉能捨。於不堅固中求堅固法。饒益一切諸衆生故。令一切衆生。得佛無礙清淨解脫薩婆若道。如大勢妙德菩薩勝趣王菩薩。如是等無量菩薩摩訶薩。為求正法故。乃至一句一味。五體投地。敬禮頂受。正念三世諸佛。勤求正法。於正法中心常欣樂。修習諸願。求離貪法。捨離世間帝王自在之法。樂求無上法王自在勝法。不念不著一切世間。以離世法自長養心。遠離一切世間惡語。寂靜安立諸佛所住。菩薩摩訶

政三本俱作正

量同作盡

薩.爲求世法.以施四天下大地國土.所攝善根迴向衆生.令一切衆生.悉能捨離內外所有.令一切衆生.能捨一切心無中悔.令一切衆生.不惜身命資生之具.常求正法.令一切衆生.悉得法利.斷除無量衆生疑惑.令一切衆生.常樂正法.於諸佛法得深法愛.令一切衆生.能捨身命世間自在樂.求佛法大心.修習無上菩提.令一切衆生.恭敬尊重諸佛正法.能捨身命究竟正法.令一切衆生.護持佛法.修習如來難得聞法.令一切衆生.悉得諸佛菩提明照.畢菩薩行不由他悟.令一切衆生.於諸佛法而得自在.拔出疑刺心常清淨.是爲菩薩摩訶薩爲求難得法故布施國土善根迴向.令一切衆生知見滿足.復次菩薩摩訶薩.行法自在時.悉教斷除閻浮提內城邑聚落一切屠殺二足四足.普施無畏離怨敵心.修菩薩行以政治國.滅除衆生一切苦難.發起一切衆生安隱心寶.具足正直勝妙心寶.能自具足三種戒法.亦令衆生具三種戒.菩薩摩訶薩.以不殺等五戒善根.迴向衆生.令一切衆生.得長壽慧.具菩提心.命根無量.令一切衆生.得無量壽.恭敬供養一切諸佛.令一切衆生.具足修習離老死法.一切衆難不能害命.令一切衆生.逮得無量離病苦身.命根自在能隨意住.令一切衆生.得無盡命.盡未來劫悉具修習菩薩所行.調伏化度一切衆生.令一切衆生.得淨命門.十力善根皆悉來入.令一切衆生.善根具足.壽命無量諸願成滿.令一切衆生.悉見諸佛.修習無盡長壽善根.令一切衆生.於如來家學諸所學.具足成就無盡命根.於聖法中得歡喜心.令一切衆生.得無老病不死命根.無盡精進安住佛智.是爲菩薩摩訶薩以離殺等五戒善根迴向衆生.令一切衆生.安住如來三種淨戒.具足究竟十力智慧.菩薩摩訶薩.若見衆生殘害不仁.若人若獸毀其男形.令身殘闕受諸楚毒.見此苦已.起大慈悲而救度之.悉令貫樂珍寶具足.菩薩摩訶薩.謂惡人言.汝爲何利造此惡業.隨汝所須盡相資給.汝今便可捨是惡業.不能正念肆其貪欲.害彼自利以求己樂.無有是處.如此惡行諸不善法.一切如來所不讚歎.菩薩摩訶薩.悉能捨離一切所有.令彼衆生不行惡業.又爲彼人說微妙法.謂寂靜法.長養淨行除滅不善.修習慈心不惱衆生.時彼惡人聞此法言.即捨惡行修清淨業.菩薩摩訶薩.以慈救善根迴向衆生.令一切衆生.得佛大人陰藏之相.令一切衆生.具足男形.得丈夫意清淨梵行.令一切衆生.成就丈夫無欲之身.乘無礙智究竟不退.令一切衆生.得大人身.永離欲心無所染著.令一切衆生.皆悉成

興出三本俱作出興

就善男子法。諸佛讚歎智慧具足。令一切衆生。得大人力。具足成就十力善根。令一切衆生。常得成就男子之形。堅固安住未曾有法。令一切衆生。於五欲中。無著無縛。心得解脫。厭離三界。修菩薩行。令一切衆生。皆得成就第一智人。一切信伏皆受道化。令一切衆生。成就菩薩丈夫深智。究竟一切大乘佛趣。是爲菩薩摩訶薩救毀形者善根迴向。令一切衆生。皆悉救護諸善男子。生賢聖家。智慧具足。修習履行男子勝智。善能示現七丈夫趣。具足無上丈夫正法。常能化度一切衆生善根迴向。令一切衆生。得佛淸淨丈夫勝法。復次菩薩摩訶薩。若有如來興出於世。以大音聲普告一切。如來出世如來出世。令一切衆生得聞佛音。聞佛音已。捨離自大憍慢放逸。得見諸佛。堅固安住念佛三昧。修佛境界。未曾廢忘。恭敬供養一切諸佛。常樂見佛。以百千劫難値遇故。廣爲衆生說佛難遇。衆生聞已。常欲樂見一切諸佛。心大歡喜。恭敬供養。尊重讚歎。於如來所。聞諸佛名。於無量佛所。種諸善根。修習增長。無量衆生。因如來故。悉皆淸淨。無量衆生。因如來故。悉淨調伏。彼諸衆生。於菩薩所。生善知識心。因菩薩故。諸衆生等悉具佛法。彼諸衆生。無量劫中所修善根。悉作佛事。菩薩摩訶薩。以歎佛善根。迴向衆生。令一切衆生。常見諸佛。初不失時。如應受化。令佛歡喜。令一切衆生。常樂見佛未曾廢忘。令一切衆生。修習智慧。能持一切諸佛法藏。令一切衆生。不離佛法。於無量劫修菩薩行。常聞正法。令一切衆生。得不忘念。悉持一切諸如來智。令一切衆生。不念異業。正念諸佛修習十力。令一切衆生。隨方見佛盡虛空界。一切如來悉得奉見。令一切衆生。得佛身自在。於一切世界現成佛道。令一切衆生。於善知識所。聞佛正法。於諸如來得不壞信。令一切衆生。讚佛出世皆悉不虛。化度衆生普令淸淨。是爲菩薩摩訶薩歎佛出世善根迴向。令一切衆生。悉見諸佛如應受化。於無上道一切佛法究竟淸淨。復次菩薩摩訶薩。布施大地。或布施佛。起立殿堂。或施菩薩及善知識。隨意所用。或施聖僧。造立坊舍。或奉父母。興建屋宅。或施餘人。聲聞緣覺。一切福田。諸乞求者。或施四衆隨意受用。令無所乏。或奉如來造立塔廟。如是等施隨彼受用悉離怨敵一切恐怖。菩薩摩訶薩。以施大地菩薩迴向。令一切衆生。得薩婆若淸淨佛地。究竟得到普賢菩薩所行彼岸。令一切衆生。得大地陀羅尼離癡正念。悉能受持諸佛妙法。令一切衆生。持一切法守護佛法。令一切衆生。得大地等心。於衆生所。淸淨正直不生惡念。令一切衆生。持佛族姓

使同作僕下同○薩下同有善字

現三本俱作覲

不斷佛種．次第成立一切菩薩諸地善根．令一切衆生．普爲一切作安隱依．悉令調伏成就清淨．令一切衆生．與如來等饒益衆生安立佛力．令一切衆生．悉爲一切之所愛樂．安住諸佛所愛樂處．令一切衆生．堅固安主如來諸力無畏法中．令一切衆生．得薩婆若地．於諸佛法自在究竟．是爲菩薩摩訶薩布施大地善根迴向．令一切衆生界．究竟如來清淨道地．復次菩薩摩訶薩．布施僮使．或奉諸佛菩薩知識．爲欲增長如來法故．或施僧寶．或奉給父母尊重福田．或復給施諸病瘦者．全濟其命．一切貧窮．諸乞求者皆悉施與．或施塔廟供給灑掃．若有人能書寫佛經．爲護法故．以無量億僮僕淨人．給其使令．此諸給使皆悉聰達．明了黠慧揉輭調伏．常勤精進未曾懈怠．成正直心．饒益心．安樂心．慈心．離怨敵心．此諸僮僕以如是心奉給於彼．菩薩摩訶薩．隨其受者方俗所宜才能技術．以此僮僕而施與之．悉是菩薩淨業所起．能令僮僕悅可彼意．菩薩摩訶薩．以施僮使善根迴向．令一切衆生．得調伏心．奉給諸佛．修習善根．令一切衆生．隨順奉給一切諸佛．悉能聞持諸佛所說．令一切衆生．隨意自在進現如來．常修正念無餘惡心．令一切衆生．紹繼佛種．隨順如來所攝善根．令一切衆生．奉給如來．常不失時．所見諸佛．皆悉不虛．令一切衆生．悉攝一切諸佛妙義．言辭清淨遊行無畏．令一切衆生．悉覩諸佛．樂觀無厭．於諸如來．不惜身命．令一切衆生．得見諸佛．心無染著離世所依．令一切衆生．依止諸佛．遠離一切世間吉祥．令一切衆生．隨順佛趣．一向樂求無上菩提．是爲菩薩摩訶薩布施僮使善根迴向．令一切衆生．永離垢染．得佛淨地．如來法身自在無礙．菩薩摩訶薩．以身布施爲給使時．捨離憍慢謙下心．給使心．如大地心．忍一切苦心．供給一切無厭足心．無懈怠心．與一切貧賤衆生．諸善根心．一切尊貴富樂．乃至童蒙愚小皆悉恭敬供養心．堅固安住最勝法門．正念修習一切善根心．菩薩摩訶薩．以身布施善根迴向．令一切衆生．僮使無乏．修菩薩行．心不退轉．未曾違失菩薩正義一心專求菩薩之道．了達菩薩平等正法．得在如來種姓之數．修眞實法．增菩薩行．令諸世間得淨佛法．深心解脫．究竟菩提．令一切衆生．增長清淨勝大善根．令一切衆生．向大功德．究竟一切智．菩薩摩訶薩．復作是念．以身供給．所攝善根．令一切衆生．善能給侍一切諸佛．其心調柔．常聞正法．受持法．守護法．不忘法．不壞法．不選擇法．不離法．善調伏法．善能調伏不調伏法．調伏寂滅法．令彼衆生．於諸佛所善能隨順．以隨順

功德。令一切衆生。作第一塔。悉能堪受衆生供養。令一切衆生。作第一福田。自然正覺無上菩提。令一切衆生。作最勝福田。普能饒益一切衆生。令一切衆生。悉作殊勝功德義藏。皆能窮盡善根源底。令一切衆生。作淨妙福田。悉能出生果報無量。令一切衆生。得勝出道。悉能超出一切世間。令一切衆生。作第一調御。隨其所應悉能示導。令一切衆生。得最勝陀羅尼。悉能受持諸如來法。令一切衆生。逮得無量最勝法界。具足虛空無礙正道。是爲菩薩摩訶薩布施已身善根迴向。令一切衆生。逮得如來應供智身。菩薩摩訶薩。悉得法愛清淨喜心。能以自身。普覆諸佛。常樂修習無上法寶。於諸佛所。生父母心。欲得究竟無礙道法。成就無數那由他智慧妙寶。諸善根門。於諸如來無量法門正念不忘。深解如來諸境界義。能以如來微密梵音。普雨一切諸佛法雨。如來法雲。徧覆一切。而無所畏。能分別說一切智入地。具足究竟薩婆若乘。以無量無邊大法。成滿諸根。菩薩摩訶薩。於諸佛所。聞甚深法。歡喜無量。修習正道。自能除滅一切疑惑。又令衆生歡喜無量。疑網悉除。功德成滿。善根具足。修習無量法門。普行大願。饒益衆生安住不動。金剛藏智。正心專求無上菩提。悉能嚴淨一切佛刹。恭敬親近無量如來。菩薩摩訶薩。安住此法。自身普覆一切諸佛。以此善根。迴向衆生。令一切衆生。妙身具足。悉能普覆一切諸佛。令一切衆生。依如來住。常見諸佛。未曾遠離。令一切衆生。得最勝身。具足一切功德智慧。令一切衆生。行離有梵行。能令一切諸佛歡喜。令一切衆生。得無我所身。於我我所心無所著。令一切衆生。悉能分身徧一切刹。於諸世界而無來去。令一切衆生。得自在身。離我我所自在遊方。令一切衆生。出生佛身。處在如來無上身家。令一切衆生。得法力身。安住法座。忍力成就。心不可壞。令一切衆生。得無比身。具足如來清淨法身。令一切衆生。得出世間功德之身。於空法界。而得出生。是爲菩薩摩訶薩自身覆佛所攝善根迴向衆生。令一切衆生。成三世佛勝妙功德。菩薩摩訶薩。以身布施一切衆生時。作如是念。令一切衆生。成就善根。令一切衆生。常念善根。令一切衆生。能爲明燈。令一切衆生。安隱樂住。令一切衆生。法得藏腹。悉能含受一切衆生。令一切衆生。作世間明。滅除衆闇。令一切衆生。悉作一切善根因緣。爲善知識展轉相成。開示正道。得無上樂。令一切衆生。作明淨日。菩薩摩訶薩。以身布施一切衆生所攝善根。迴向衆生。令一切衆生。究竟諸佛智慧道地。令一切衆生。隨順正道。悉令究竟無上菩提。令

明本爲曰自法
疑作正法

一切衆生.常處佛會.悉受正化.令一切衆生.威儀具足.成就諸佛清淨威儀.令一切衆生.悉得涅槃深解法義.令一切衆生.悉得勝法.而無厭足.常遇勝法.生如來家.令一切衆生.捨世希望.逮得如來眞實希望.令一切衆生.坐菩提樹.出生無量清淨善根.令一切衆生.摧滅一切煩惱怨敵.發無害心.令一切衆生.得無畏法.悉能護持一切佛法.是爲菩薩摩訶薩布施自身善根迴向.令一切衆生.饒益安隱.得無上法.菩薩摩訶薩.自以己身.奉給諸佛.於一切如來.生報恩心.生父母心.於諸佛所.生清淨深心.以明淨心.受持菩提.得諸佛法.捨世間法.生如來家.隨順諸佛.守護自法.遠離一切衆魔境界.修佛境界.自以己身.成就一切諸佛法器.菩薩摩訶薩.修如是法.自身奉給一切諸佛.所攝善根.迴向衆生.令一切衆生.安住淨心.一切智寶而自莊嚴.令一切衆生.得調伏衆法與其同事.遠離一切諸不善業.令一切衆生.得不壞眷屬.悉能攝持諸佛正法.令一切衆生.悉爲如來清淨弟子.成就灌頂菩薩之地.令一切衆生.悉爲諸佛之所攝護.遠離一切諸惡知識.令一切衆生.隨順諸佛.修習最勝生地菩薩法行.令一切衆生.入佛境界.悉皆得受一切智記.令一切衆生.與如來等.於諸佛法.而得自在.令一切衆生.悉爲諸佛之所攝取.行無著業.令一切衆生.悉爲諸佛第一侍者.智慧具足.悅可諸佛.是爲菩薩摩訶薩身奉事佛善根迴向.無上菩提迴向救護一切衆生迴向.衆生超出三界迴向.自心悉令清淨迴向.無量廣大菩提迴向.諸佛照明智慧迴向.己身爲佛所攝迴向.受持一切佛法迴向.樂求一切佛法迴向.善根悉與三世諸如來等迴向.清涼心得一切佛法.菩薩摩訶薩.布施國土時.捨世帝王自在之心.無著無縛.不求自在.遠離惡業.普於衆生.悉起饒益安樂之心.菩薩摩訶薩.以施國土善根迴向.令一切衆生.遠離愚癡.明識業報.令一切衆生.不樂世法.令一切衆生.不著一切世間生處.令一切衆生.不取世界堅固之相.令一切衆生.心不染著陰界諸入.令一切衆生.心不染著我我所法.令一切衆生.心不忘失諸菩薩行.令一切衆生.未曾捨離諸善知識.令一切衆生.能悉受持菩薩願行.令一切衆生.諸善知識.皆悉歡喜.菩薩摩訶薩.以施國土善根迴向.令一切衆生.得法王處.於自在法.得到彼岸.令一切衆生.得法王法.調伏一切結王怨敵.令一切衆生.與法王同止.讚歎佛法如來智慧.令一切衆生.住佛境界法王之家.能自在轉無上法輪.令一切衆生.出生如來巧妙方便.得法自在.護持佛法永使不絕.令一

涼三本俱作淨
心下同有故字

寶三本俱作實

切衆生。護持無量法王正法。皆悉成就勝大菩薩。令一切衆生。於淨法界。得爲法王。出興於世。相繼不絕。令一切衆生。於諸世界作智慧王。調伏成熟一切衆生。令一切衆生。普爲法界虛空界等世界衆生。作法施主。建立一切諸衆生界於摩訶衍。令一切衆生。得法王法。與三世佛善根齊等。是爲菩薩摩訶薩布施王位善根迴向。令一切衆生皆悉究竟安隱之處。菩薩摩訶薩。見有人來乞王京都嚴飾大城。以歡喜心施。不亂心施。一向正求菩提心施。無量願心施。大慈心施。大悲心施。清涼心施。爲利一切衆生故施。自安立摩訶衍故施。以諸佛法平等心施。行善法心施。欲一切智王心施。求法王自在意故施。欲增上智慧心施。欲一切清淨功德心施。堅固廣大心施。長養一切善根故施。遠離衆魔恐怖具足佛智故施。安住菩薩心力故施。究竟一切境界一切智菩薩所行及諸大願故施。菩薩摩訶薩。布施京都嚴飾大城。所攝善根。迴向衆生。令一切衆生。淨一切剎施佛令住。令一切衆生。常樂阿蘭若處。安住寂靜。令一切衆生。不著一切國土都邑聚落大小諸城。究竟離欲。得上寂靜。令一切衆生。不心親近一切世間。悉皆永離世間語言。令一切衆生。得離欲心。布施所有心不中悔。令一切衆生。不著家業。得淨直心。令一切衆生。悉捨一切。無所縛著。善施成就。令一切衆生。不著住處。捨離一切居家貪著。令一切衆生。捨諸苦惱。除滅一切恐怖憂慼。令一切衆生。以一切世界爲嚴淨剎奉施諸佛。是爲菩薩摩訶薩布施京都嚴飾大城善根迴向。令一切衆生。嚴淨佛住。菩薩摩訶薩。布施寶女侍人眷屬。技術悉備。才能巧妙。善於言戲。威儀具足。奉給恭順。能感人心。世間功德。無不備舉。莊嚴綺麗。迴動天人。言音和雅。而無麁陋。侍主盡禮。不失其意。姿容殊妙。見者無厭。千億技直供侍寶女。皆是菩薩淨業果報。而用布施。以無著心施。離虛妄心施。不縛一切欲施。於一切色無所著施。不貪欲樂施。離欲覺觀施。於寶女形色不生想施。菩薩摩訶薩。布施寶女眷屬善根迴向迴向。一切衆生出離生死迴向。悉得諸佛喜樂迴向。不堅固中而得堅固迴向。金剛界智不可壞心迴向。如來圓滿大衆迴向。攝取堅固眞實迴向。無上菩提之心迴向。智慧分別諸法迴向。出生一切善根迴向。不違三世佛教。菩薩摩訶薩住如是法。生如來家。出生一切智道。深入一切菩薩智業。捨離一切世間塵垢。調伏寶心功德。圓滿無上福田。廣說妙法。安立衆生。令一切衆生。皆悉清淨。修習攝取一切善根。菩薩摩訶薩。布施寶女眷屬所攝善根迴向衆生。令

壞下同有三昧二字

門願三本俱作願門○係元明俱作繫

一切衆生。逮得無量三昧眷屬。又得菩薩不壞三昧。令一切衆生。悉入諸佛莊嚴三昧。常樂觀佛。令一切衆生。悉行菩薩不可思議自在遊戲三昧。安住無量自在三昧。令一切衆生。入如實三昧。不壞其心。令一切悉生。衆得菩薩甚深三昧。於一切三昧。皆得自在。令一切衆生。皆得成就三昧眷屬。心得解脫。令一切衆生。善能分別種種三昧。悉能善取諸三昧相。令一切衆生。得勝智三昧。修習一切諸三昧門。令一切衆生。得無礙三昧。能決定入不壞正受。令一切衆生。得無著三昧。心常念行不二三昧。令一切衆生。得不可壞清淨眷屬。菩薩眷屬。令一切衆生。普發清淨菩提之心。滿足佛法。令一切衆生。薩婆若力清淨滿足。得無上智。令一切衆生。得隨順眷屬。悉與衆生同意安住。令一切衆生。悉得滿足一切智功德。成就一切勝妙善根。令一切衆生。得眞實眷屬。成就如來清淨法身。令一切衆生。成就諸辯無縛無著。廣說諸佛無盡法藏。令一切衆生。各爲一切作善知識。成就一切勝妙善根。令一切衆生。淨業滿足。成就一切諸清淨法。令一切衆生。滿足諸佛淨妙法門。以諸淨法。莊嚴世間。是爲菩薩摩訶薩布施寶女眷屬善根廻向。復次菩薩摩訶薩。布施妻妾男女。如須達拏太子。現莊嚴王菩薩如是等無量菩薩摩訶薩。乘薩婆若乘。行一切施。具足成滿檀波羅蜜。嚴淨菩薩布施之道。長養清淨不悔施心。入一切施寶薩婆若心。令一切衆生。皆悉清淨。具正直心。具足清淨正直心已。一切菩提。皆悉滿足。志常樂求菩薩淨道。受持諸佛菩提門願。修習一切如來家心。如是菩薩摩訶薩。意力成就。求如來處。自知己身係屬一切不得自在隨彼走使。普於衆生。行一切施。於未滿足者。悉令滿足。護持安慰一切衆生。欲令自身普爲世間作第一塔。令一切衆生皆悉歡喜。欲於一切具平等心。欲爲世間作清涼池。欲爲世間作施樂主。欲爲一切作大施主。智慧爲首。習菩薩行。如說修行。欲成一切種智。大誓莊嚴。欲常專求智慧福田。悉請衆生。長養善根。建立己身。崇順正教。普爲一切。作智慧明。正念菩薩一切施心。一切諸佛常現在前。菩薩摩訶薩。以布施妻妾男女所攝善根。無著無縛解脫心。廻向衆生。令一切衆生。普出無量變化之身。充滿十方一切世界。轉不退法輪。安立一切衆生於無上道。令一切衆生。不貪著身。諸願具足。悉詣十方諸佛世界。令一切衆生。得離惜愛心。斷愛恚結。令一切衆生。爲佛眞子。行如來家。令一切衆生。於諸佛所。生自己心。不可沮壞。令一切衆生。常爲佛子。從法化生。令一切衆生。得正希望成薩婆

三本俱菩薩摩訶薩以下爲卷第二十金剛幢菩薩迴向品第二十一之六

切下三本俱有衆生二字

若。令一切衆生。修習善根。究竟具足無上菩提。令一切衆生。成就諸佛菩提解脫。施無上法。令一切衆生。得無生心。不壞因緣。令一切衆生。坐菩提樹。得最正覺。成無上道。化生無量眞法男女。是爲菩薩摩訶薩布施妻妾男女善根迴向。令一切衆生。得無著解脫無礙智慧。菩薩摩訶摩。見有人來從乞家者。以家莊嚴具。具足莊嚴。而布施之。修習威儀。於家無著。遠離居家。一切覺觀。厭惡家業資生之具。於家珍妙玩好之物。不生貪心。無所味著。於家衆具無染縛心。解家磨滅須臾變易。出家求道。究竟佛法。安住菩薩住。佛法莊嚴。心能捨一切。而不中悔。常爲諸佛之所稱歎。於資生物一切住處心無染著。見來求者。歡喜無量。能決定施。菩薩摩訶薩。以家布施所攝善根如是迴向衆生。令一切衆生。捨離妻子常樂出家。令一切衆生。信家非家。捨家求道。於佛法中。淨修梵行。令一切衆生。樂一切施。心不中退。安住離慳。令一切衆生。永離家法。少欲知足。無所藏積。令一切衆生。不樂俗家。常樂佛家。令一切衆生。悉皆永離障礙之法。滅除一切諸障礙道。令一切衆生。不染家屬。雖現在家。心無所著。令一切衆生。善化一切。雖現在家。說正覺智。令一切衆生。示現在家。住佛所住。心常隨順如來智慧。令一切衆生。在家悉能悅喜衆生住佛所住。是爲菩薩摩訶薩以施家善根迴向。令一切衆生。悉行菩薩種種諸行。滿足諸願智慧自在。菩薩摩訶薩布施莊嚴遊戲園林時。作如是念。我當爲一切衆生作愛樂法林。我當爲一切衆生示現悅樂之處。我當與一切衆生無量歡喜。我當爲一切衆生開淨法門超出三界。我當與一切衆生無上菩提滿足諸願。我當爲一切衆生而作慈父。智慧觀察一切三界。我當惠施一切衆生資生之具令無所乏。我當爲一切衆生而作慈母。出生善根滿足諸願。菩薩摩訶薩。善根迴向無厭足心。遠離一切衆生諸惡迴向。正心安隱一切衆生迴向。不求報恩迴向。不求衆生利養迴向。不求讚歎迴向。除滅一切衆生無量苦惱迴向。一切衆生其心淸淨猶如虛空迴向。一切善根爲首觀察一切諸法眞實迴向。一切衆生以大莊嚴而自莊嚴永離苦陰迴向。於摩訶衍願而無厭足永離邪見具足修習菩薩所行及諸大願迴向。菩薩摩訶薩。以施莊嚴遊戲園林所攝善根。迴向衆生。令一切衆生。得轉勝善根。究竟成就無上菩提園林之心。令一切衆生。得不動法。普見諸佛。皆悉歡喜。令一切衆生。常樂法林。逮得佛刹娛樂園林。令一切衆生。得淨妙心。常見如來大神足林。令一切衆生。悉樂如來自在遊戲。智慧自

在徧遊十方。令一切衆生。修習法戲。詣諸佛刹。諮受道化。令一切衆生。樂菩薩戲。盡未來劫。修菩薩行。心無疲惓。安住解脫。令一切衆生。見一切佛充滿法界。樂佛大心淸淨園林。令一切衆生。詣諸佛刹。其心欣樂。供養諸佛。令一切衆生。樂離欲心。淸淨莊嚴一切佛刹。是爲菩薩摩訶薩布施莊嚴遊戲園林善根迴向。令一切衆生。遊戲一切諸佛園林。見一切佛。

大方廣佛華嚴經卷第十八

大方廣佛華嚴經卷第十九

(麗坐)(宋朝)(元朝)(明坐)

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅譯

金剛幢菩薩十迴向品第二十一之六

復次菩薩摩訶薩作無量億那由他阿僧祇大衆施會．離惡清淨諸佛所歎．普淨衆生．永離衆惡．淨三業迹．生薩婆若．無量境界皆悉清淨．無量百千億那由他布施之具．皆悉莊嚴而以惠施．菩薩摩訶薩．以大施會所攝善根．迴向衆生．令一切衆生．悉得無上菩提之心．行無量施皆悉清淨．令一切衆生．皆悉究竟無量無邊清淨之道．令一切衆生．行無量慈．隨衆所須．悉令滿足．令一切衆生．行無量悲．悉能救護一切衆生．令一切衆生．隨順三世如來正教．令佛歡喜．令一切衆生．於諸佛所．修行布施．心不中悔．令一切衆生．皆悉長養勝妙信根．於念念中．修行增進無量布施．令一切衆生．得摩訶衍心．皆悉成就大乘施會．令一切衆生．成大善會施．究竟施．善施．勝施．隨施願施．第一施．上施．無上施．無等施．出世間施．一切諸佛所讃歎施．令一切衆生．成第一施主．於諸惡道拔出衆生．安置無礙清淨智道．修平等願眞實善根．得無等等如來智慧．令一切衆生．安住寂靜諸禮定智．趣不死道．究竟一切通明智慧．勇猛精進．具足諸地．莊嚴佛法．究竟彼岸永不退轉．令一切衆生．得不退轉大乘之會．給施衆生而無休息．究竟無上一切種智．令一切衆生．種諸善根．悉到無量功德彼岸．令一切衆生．諸佛所歎．普為一切作大施主．功德具足充滿法界．普照十方．施無上樂．令一切衆生．悉為平等大布施主．究竟善根等攝衆生．令一切衆生．為勝施主．建立一切於無上乘．令一切衆生．為應時施主．悉離非時究竟時會．令一切衆生．為善施主．具大人施法到於彼岸．令一切衆生．為嚴淨施主．至一切佛薩婆若處．令一切衆生．為一切淨施主．出生積聚法界等功德．令一切衆生．為出過一切施主．滿足大願度脫衆生．安住如來處非處力．是為菩薩摩訶薩大施善根迴向．令一切衆生．行無上捨．究竟佛施．成就善施．不可壞施．諸佛法施．愛眼心施．救衆生施．薩婆若施．見諸佛施．具威儀

若下三本俱有心字〇千下同有萬字

地明作施

施。具足菩薩所行功德佛智慧施。復次菩薩摩訶薩。悉捨一切資生之具。心無貪著。不求果報。世間富樂無所希望。捨離愚癡。深解諸法。饒益安立一切衆生。眞實相心解一切法。種種莊嚴諸資生具。無量境界種種莊嚴。資生之具。饒益衆生。究竟施。一切施。內外施。增長直心。令一切衆生具功德寶心。善能饒益無量衆生。令一切衆生。成就寶心。令一切衆生。清淨善根等三世佛具一切智。菩薩摩訶薩。以施資生之具。所攝善根。迴向衆生。令一切衆生清淨調伏。令一切衆生。皆悉嚴淨一切佛刹。除滅煩惱。令一切衆生。以淸淨心於念念中充滿法界。令一切衆生。智慧充滿虛空法界。令一切衆生。得一切智了達三世。於一切時轉不退法輪。令一切衆生。悉皆示現一切種智。巧妙方便饒益衆生。令一切衆生。悉悟一切諸如來道盡未來劫於一切刹。廣說佛法未曾休息。令一切衆生。於無量劫修菩薩行心無厭倦。令一切衆生。於一切世界淨世界。不淨世界。小世界。中世界。大世界。微細世界。廣世界。細覆世界。伏世界。如是等一切世界皆悉嚴淨。菩薩充滿行大乘行。令一切衆生。於念念中。悉作三世一切佛事。調伏衆生。立薩婆若。此菩薩摩訶薩。以如是等無量阿僧祇劫饒益衆生。令佛法不斷。以大悲心救護衆生。修習大慈具菩薩行。建立一切諸如來論。令一切衆生。皆悉不斷諸佛善根。有來求者悉滿其意而無患厭。能施一切心無有悔。捨一切物資生之具。隨所來方無不欣悅。於諸衆生如一子想。見來求者心大歡喜作是念言。是我善知識。爾時菩薩長養大悲心。歡喜心。不可壞心。大施心菩薩摩訶薩。見來求者隨其所須悉資給之。充滿其意。令無所乏。皆令歡喜。斷其貧苦。具足富樂。同聲稱美歎德而歸。菩薩爾時心大歡喜。於百千億那由他劫受帝釋樂所不能及。須夜摩天王。兜率陀天王。化自在天王。他化自在天王。百千億那由他劫所受喜樂所不能及。梵天王樂。乃至淨居天無量無邊阿僧祇劫禪定快樂亦所不及。無量無數不可稱說阿僧祇劫轉輪王樂亦不能及。菩薩摩訶薩。如是大喜無量。信心增長。直心清淨。諸根柔輭。定心增廣。生菩提心堅固不轉。菩薩摩訶薩。善根迴向。令一切衆生。離毒害心。令一切衆生。安隱快樂。令一切衆生。得眞實義。令一切衆生。悉得清淨無上菩提。令一切衆生。悉得平等。令一切衆生。得賢善心。令一切衆生。逮得賢善摩訶衍心。令一切衆生。所行悉善。令一切衆生。具普賢菩薩所修願行。令一切衆生。覺十力乘。菩薩摩訶薩。以此善根迴向時。於身口意業無著無解脫迴向。

賢善三本俱作
普賢菩薩〔 〕脫
下同有心字

因下同有緣字

頌下三本俱有曰字

無衆生想迴向。無命想。無人想。無福伽羅想。無男子想。無年少想。無禪頭想。無造想。無受想。無有想。無無想。無今世後世想。無死此生彼想。無有無常。無無常想。非三有想。非無三有想。非想。非無想。無縛無著解脫心迴向。無業迴向。無業報迴向。無虛妄迴向。無眞實迴向。無思迴向。無思報迴向。無心迴向。無無心迴向。菩薩摩訶薩。如是迴向時。不著內。不著外。不著緣。不著境界。不著因。不著因和合。不著法。不著非法。不著思。不著思果。不著色。不著色取。不著色滅。不著受想行識。不著受想行識取。不著受想行識滅。菩薩摩訶薩。若於此法中心不著者。則不縛色。不縛色取。不縛色滅。不縛受想行識。不縛受想行識取。不縛受想行識滅。若於此法而不縛者。則於諸法亦無有解。何以故。一切諸法不生不滅。無有自性。無一無二。無多無少。無有量無無量。無善無惡。無深無淺。無靜無亂。無著無離。無法無非法。無性無非性。無有無無故。菩薩如是見法。則是非法言語道斷故。非法爲法而亦不壞一切業迹。具修菩薩行不退一切智。解知業緣如夢如響。如鏡中像。一切法如幻。而亦不違因緣業報。入甚深業。解法眞實。無行無作。亦復不違業行之道。菩薩摩訶薩。以一切善根如是迴向一切種智。普遊十方教化衆生。迴向者何義。永度世間生死彼岸故說迴向。度諸陰彼岸故說迴向。度語言道彼岸故說迴向。度衆生相彼岸故說迴向。度身見彼岸故說迴向。度不堅固彼岸故說迴向。度諸行彼岸故說迴向。度諸有彼岸故說迴向。度諸取彼岸故說迴向。度諸世間法彼岸故說迴向。菩薩摩訶薩。若能以此善根迴向。則皆隨順一切諸佛。隨順法。隨順智。隨順菩提。隨順善。隨順迴向。隨順行。隨順眞實。隨順清淨。菩薩摩訶薩。如是迴向已。令一切衆生。得如來法。諸佛歡喜。無佛不値。無法不了。於一切法無違無失。悉能分別一切佛法。不捨正法。不違因緣。內外諸法。法力具足。無有休息。佛子。是爲菩薩摩訶薩第六隨順一切堅固善根迴向。菩薩摩訶薩。住此迴向。無量諸佛皆悉守護。得堅固法修一切智。解隨順義。解一切法。隨順眞性。得一切法。隨順堅固善根。隨順滿足諸願。得隨順堅固法。一切金剛所不能壞。得隨順堅固願。於一切法中而得自在。爾時金剛幢菩薩。承佛神力。觀察十方。觀察一切大衆。觀察法界。深入諸法句味之義。修無量心。大悲普覆一切衆生。覺悟三世如來家法。入於一切諸佛功德。逮得諸佛自在之身。分別一切諸衆生心。隨所種善根。應受化時。隨順法身示現色身。以偈頌

一切世間諸大王　菩薩現身於彼生　處彼尊豪大王位　悉能調伏諸群生　其心柔輭常清淨
於一切衆得自在　常以正法治天下　方便隨順樂世間　菩薩清淨王家生　常能如應轉法輪
遠離諸惡正治國　十方衆生無違敎　菩薩色相功德滿　具足甚深妙智慧　堅固安住不退轉
悉能降伏一切魔　常能具持清淨戒　決定安住忍辱力　除滅一切瞋恚毒　常能修習最勝法
菩薩具行布施法　飲食華鬘乘衣服　塗香房舍明淨燈　如是等施無有量　菩薩所施益衆生
常能開發廣大心　其意清淨大歡喜　布施尊勝及世間　菩薩悉能捨無量　內外所有一切物
所行布施常歡喜　未曾暫有中悔心　菩薩悉能施頭目　手足肌肉及骨髓　一切身分盡惠施
其心未曾生中悔　菩薩處在大王位　清淨豪貴人中尊　大悲以舌施群生　楚毒無量不中悔
菩薩施舌淨善根　迴向一切諸群生　悉令此等衆生類　具足成就廣長舌　菩薩歡喜施妻子
其心未曾生憂悔　又復欣悅施國土　亦能捨身無所吝　隨所樂求盡施與　應時惠施無嫌恨
一切所有能悉捨　諸來求者皆滿足　爲法捨身無央數　修諸苦行求菩提　又爲衆生受諸苦
求無上智不退轉　聽受如來正法故　以身布施無疲厭　內心歡喜無有量　救護一切衆生故
菩薩得見諸佛已　慈心恭敬設供養　饒益歡喜悉具足　皆能聞持諸佛法　迴向一切衆生類
悉令世間得安樂　普能救護一切衆　永使究竟得解脫　菩薩具足諸眷屬　色身端嚴順敎命
妙莊嚴具爲校飾　聰叡仁賢巧智慧　以饒益故悉布施　而未曾有微吝心　不爲世間資生利
饒益衆生求菩提　具足修習淨功德　履行無量諸勝業　迴向一切衆生類　亦不取業堅固相
菩薩能捨大王位　嚴飾京都諸城邑　宮殿內外一切物　遊觀園林諸池流　無量無數百千劫
以無上心行布施　開悟世間示彼岸　隨順化導群生類　菩薩見有來求者　悉從他方世界至
隨彼所須滿其願　菩薩大喜充遍身　菩薩迴向施功德　三世一切諸如來　所學究竟到彼岸
無上導師之境界　菩薩觀察一切法　誰爲度脫衆生者　爲度脫誰至何處　解空不捨布施心

行三本俱作得

菩薩廻向智慧故　菩薩廻向求正法　菩薩廻向甚深義　於一切法無所著　心不分別一切業
於諸業報不染著　了達菩提從緣起　於法眞性無所壞　解了己身不染著　其心寂滅無所依
智慧分別無業性　善解因緣非無業　不虛妄取過去法　亦復不取未來法　了達現在無所有
觀察三世悉空寂　菩薩究竟色彼岸　受想行識亦如是　永度一切到彼岸　其心謙順常淸淨
觀察五陰十八界　分別諸入及己身　於此諸法求菩提　皆悉空寂不可得　不取諸法常住相
於斷滅相亦不受　一切諸法非有無　諸業因緣和合生　無有衆生得菩提　一切諸法悉寂滅
心不染著諸佛刹　了達三世無所有　若能如是解正法　亦如一切諸最勝　雖復推求無所得
菩薩所行亦不虛　是故緣中求諸法　不違一切因緣道　分別解說諸業迹　欲令衆生悉淸淨
是爲智者所修行　一切諸佛之所說　隨順思惟入正義　自然覺悟無上道　諸法無生亦無滅
亦復無來亦無去　不於此死而彼生　深解一切諸佛法　了達諸法眞實性　於法性中無所著
永離諸法虛妄相　彼人得見諸佛智　分別解了諸法趣　衆生諸趣佛國趣　一切三世所有法
皆悉了知無有餘　三世諸佛所覺法　悉能具足聞受持　所說三世一切法　如是等法悉非法
隨順修行一切法　而亦不壞諸法相　菩薩廻向諸衆生　令彼疾得一切智

佛子.何等爲菩薩摩訶薩第七等心隨順一切衆生廻向.佛子.此菩薩摩訶薩增長下品善根.中品善根.上品善根.無量善根.廣善根.種種善根.不可測量善根.不可思議善根.阿僧祇善根.無邊善根.佛境界善根.法境界善根.僧境界善根.善知識境界善根.一切衆生境界善根.方便境界善根.修習微妙境界善根.內境界善根.外境界善根.無量別異功德境界善根.修習一切施境界善根.淸淨戒境界善根.菩薩內自專正於一切捨忍辱境界善根.精進不退轉境界善根.入種種禪定境界善根.修行諸地智慧境界善根.分別一切衆生心心境界善根.積集無量淸淨功德善根.修習正念菩薩業境界善根.普覆一切衆生境界善根.菩薩摩訶薩.行如是等無量善根.修習究竟積集長養廣開解已.則能安住忍力閉惡趣門.善調諸根威儀具足.永離顚倒決定正趣.堪爲一切諸佛法

貪明作生
切下三本俱有衆生二字
若同作所
成元明俱作充
首同作日
座三本俱作坐

器。普爲衆生作無上福田。常爲諸佛之所守護。出生長養一切諸佛淸淨善根。隨順具滿如來大願。深樂佛業心得自在。悉與三世諸如來等。普能供養一切諸佛。究竟一切諸如來力。常爲諸佛之所讚歎。不求生天。不貪利養。不著諸行。一切善根皆悉迴向。爲一切衆生作功德藏。具足諸道普覆一切。於生死中拔出衆生。教令修習一切善根迴向。一切境界而不斷絕。開一切智菩提之門。建立智幢嚴淨大道。普示衆生。捨離一切世間塵垢。施心功德生如來家。淸淨功德皆悉滿足。無上福田不著衆生。不依世間。令一切衆生皆悉淸淨。修習攝取一切善根。菩薩摩訶薩。離垢淸淨菩提心攝取善根。作如是念。此菩提心所起善根。菩提思惟善根。菩提心所得善根。菩提心正希望善根。一向菩提心善根。憐愍一切衆生。攝取一切種智境界。究竟十力境界。積集十力境界。不壞法界善根。不退轉善根。菩薩摩訶薩。復作是念。如此善根若有果報。我當盡未來際行菩薩行。不捨衆生故修行大捨。迴向一切衆生悉無有餘。令無數世界珍寶充滿。令無數世界寶衣充滿。令無數世界妙香充滿。令無數世界莊嚴具充滿。令無數世界摩尼寶充滿。令無數世界勝摩尼寶充滿。令無數世界妙色雜華充滿。令無數世界上味充滿。令無數世界金銀充滿。令無數世界天牀充滿。妙寶莊嚴敷以天衣。令無數世界雜寶莊嚴天冠充滿。若有一人盡未來劫常來求索。以此寶物而惠施之未曾厭倦。如一衆生一切衆生亦復如是。菩薩摩訶薩。如是施時。以平等心。無偏愛心。不求名心。無熱惱心。無中悔心。專求一切智心。淸淨道心。一向施心。憐愍心。調伏心。安住一切智心。菩薩摩訶薩。善根如是迴向。盡未來劫常行布施。復次菩薩摩訶薩。善根如是迴向。一切衆生悉無有餘。我當以寶象充滿無數世界。七支具足。六瘤成滿。建大寶幢。眞金莊嚴。白寶網覆。一切雜寶而莊嚴之。以用布施。我當以淸淨寶馬。婆羅馬王等充滿無數世界。以一切馬寶莊嚴具而莊嚴之。以用布施。無數世界寶女充滿。娛樂具足。以用布施。無數世界男女充滿。以用布施。無數世界己身充滿。以用布施。無數世界己身頭首充滿。不放逸心。以用布施。無數世界己目充滿。以用布施。無數世界己身充滿。堪忍楚毒。破骨出髓。以用布施。無數世界大王座處。皆悉充滿。以用布施。無數世界給使僮僕。皆悉充滿。以用布施。修習平等一切施心。於一世界中盡未來劫修菩薩行。爲一衆生。於一切世界中盡未來劫修菩薩行。爲一衆生。爲一切衆生。亦復如是。具足大悲。遠離衆

智下三本俱有慧字

禪下同有波羅蜜三字

惡善念一切。令我布施究竟不退。行布施時。乃至不生一念憂悔之心。菩薩摩訶薩。復作是念。我行如是無量布施。以無著心。無縛心。解脫心。大心。甚深心。攝取心。離憎愛心。離壽命心。善調伏心。不亂心。無害心。安住一切智心。慧光普照一切法心。入一切智心。菩薩摩訶薩。以此善根念念迴向。令一切衆生。財寶滿足。令一切衆生。具足無盡大功德藏。令一切衆生。得安隱樂。令一切衆生。長養菩薩摩訶衍業。令一切衆生。滿足深法。令一切衆生。得不退轉一切智乘。令一切衆生。見一切佛。令一切衆生。普於衆生無所選擇。令一切衆生。悉得清淨平等之心。令一切衆生。離諸難處得一切智。令一切衆生。饒益安樂無量衆生。令一切衆生。普於一切得平等心。令一切衆生。得柔輭施心。令一切衆生。攝取眞實惠施之心。令一切衆生。不失施心。令一切衆生。具足施心。永滅貧窮。令一切衆生。悉攝世間諸妙財寶無所乏短。令一切衆生。行無量施。令一切衆生。行一切施。令一切衆生。盡未來劫修行布施心無退轉。令一切衆生。悉捨一切心不中悔。令一切衆生。隨順行施饒益衆生。令一切衆生。行勝廣施。令一切衆生。行種種莊嚴施。令一切衆生。行無著施。令一切衆生。行平等施。令一切衆生。行大力金剛施。令一切衆生。行如日光明施。令一切衆生。得如來智。令一切衆生。善根眷屬具足成滿。令一切衆生。善根智慧悉現在前。令一切衆生。得不可壞正直之心。令一切衆生。具見成就清淨善根。令一切衆生。於煩惱睡眠智慧覺悟。令一切衆生。疑惑悉除。令一切衆生。得平等智清淨功德。令一切衆生。功德悉備無能壞者令一切衆生。具足清淨不動三昧。令一切衆生。具不可壞薩婆若智。令一切衆生。具足菩薩無量清淨。自在正行。令一切衆生修習無著清淨善根。令一切衆生。淨修正念三世諸佛。令一切衆生。出生勝妙清淨善根。令一切衆生。除滅一切諸魔魔業障礙道法。令一切衆生。皆悉履行無量功德。生諸三昧清淨滿足。令一切衆生。常念諸佛未曾廢忘。令一切衆生。常見諸佛悉令歡喜初不遠離。令一切衆生。開淨法門出生善根。諸白淨法平等具足。令一切衆生。悉得無量平等正直之心。令一切衆生。成就清淨平等施心。令一切衆生。滿足諸佛尸波羅蜜。平等清淨。令一切衆生。具大精進波羅蜜。未曾慳怠。令一切衆生。得大羼提波羅蜜。令一切衆生。得無量禪智慧。分別滿足諸通。令一切衆生。於一切法得離身般若波羅蜜。平等滿足。令一切衆生。得清淨法界平等滿足。令一切衆生。悉具淨妙諸通善根。令一切衆生。修

平等行具諸善法。令一切衆生。究竟永度諸佛境界。令一切衆生。身口意業平等淸淨。令一切衆生。諸業行報平等淸淨。令一切衆生。悉得諸法平等淸淨。令一切衆生。悉得諸法淸淨平等實義。令一切衆生。悉得淸淨諸勝妙行。令一切衆生。悉得菩薩諸淸淨願。令一切衆生。普得平等淨功德智。令一切衆生。以諸善根廻向薩婆若乘平等滿足。令一切衆生。顯現一切嚴淨佛刹平等滿足。令一切衆生。得見諸佛除滅一切諸煩惱患。令一切衆生。具諸相好功德莊嚴平等滿足。令一切衆生。得八種聲百千妙聲而莊嚴之。如來無量功德淸淨梵音皆悉具足。令一切衆生。十力莊嚴成就無礙平等之心。令一切衆生。得一切佛無盡法明。無量諸辯平等滿足。令一切衆生。得無上無畏人中之雄大師子吼。令一切衆生。得一切智轉不退法輪。令一切衆生。出生諸法平等滿足。令一切衆生。善根淸淨應不失時平等滿足。令一切衆生。成就淸淨調御師法平等滿足。令一切衆生。於淳一莊嚴。無量莊嚴。大莊嚴。諸佛誦嚴。平等滿足。令一切衆生。觀察三世分別平等。令一切衆生詣諸佛所。聞法受持解了平等圓滿具足。令一切衆生。慚媿智慧與諸佛等。令一切衆生。得平等智觀察諸法。令一切衆生。得不動業報離諸障礙平等滿足。令一切衆生。入甚深智悉分別知衆生諸根平等滿足。令一切衆生。得無分別平等智慧皆悉等一淸淨滿足。令一切衆生。隨順無厭善根平等分別皆悉滿足。令一切衆生。於大神足而得自在。菩薩神力平等滿足。令一切衆生。悉得諸佛無盡功德智慧之藏。究竟功德皆悉等一。令一切衆生。於諸法中得離虛妄隨順平等。入一切法知菩提心。令一切衆生。勝妙福田平等滿足。令一切衆生。得淸淨大悲。普爲世間最上福田。令一切衆生。堅固無壞平等滿足。令一切衆生。見眞實法不可破壞平等滿足。令一切衆生。得最勝心。思惟正觀平等滿足。令一切衆生。離諸恐怖。入甚深法到於彼岸。令一切衆生。放一光明。普照十方等度一切。令一切衆生。悉得菩薩不退精進。同行同願平等滿足。令一切衆生。出一言音平等滿足。令一切衆生。於菩薩直心平等滿足。令一切衆生。悉得親見諸善知識心大歡喜。令一切衆生。皆悉具足菩薩諸行。調伏衆生未曾休息平等滿足。令一切衆生。得不斷辯。普入諸音平等滿足。令一切衆生。能以一心知一切心一切善根平等滿足。令一切衆生。修諸善根而不退轉。安立衆生於淸淨智。令一切衆生。得一切智平等功德淸淨法身。令一切衆生。悉捨愚癡。觀察善根平等滿

智下同有慧字

知三本俱作智

信同作惱

智同作習

是下同有善根二字

足。令一切衆生。得一薩婆若。成等正覺平等滿足。令一切衆生。離諸惡趣出生一道。一切種智平等滿足。令一切衆生。得一衆清淨。悉能普淨一切大衆。平等智慧。而莊嚴之。令一切衆生。於一佛刹普見一切諸如來刹平等滿足。令一切衆生。一切莊嚴。不可說莊嚴。不可量莊嚴。無盡莊嚴。莊嚴一切佛刹平等滿足。令一切衆生。分別解了無量諸法。見甚深義平等滿足。令一切衆生。得諸聖行。諸佛自在平等滿足。令一切衆生。非一非異。諸神通力平等滿足。令一切衆生。隨順善根。普爲諸佛甘露灌頂。令一切衆生。清淨智身平等具足。如是菩薩摩訶薩。憐愍饒益衆生。大悲哀念衆生。令一切衆生。皆悉清淨。離慳嫉結。具足無量無邊善妙功德。常樂勝法。離瞋恚濁。及諸障礙。其心柔輭。離癡正直而無邪曲。所行堅實不可沮壞。得不退轉平等之心。白淨法力皆悉成就。不信不失。善解迴向。修習功德。調伏衆生。除滅一切諸不善業。專精苦行。普敎一切具足修習苦行善根。爲諸衆生具受衆苦。慧眼清淨觀察善根。智慧聖行善根迴向一切衆生。令一切衆生。安住清淨微妙功德。遠離熾然成就等心善根迴向。令一切衆生。得薩婆若修習迴向。攝取衆生。一切善根平等具足。具足成就等心迴向。以如是等無量善根。迴向衆生。令一切衆生。常得安隱。令一切衆生。常得清淨。令一切衆生。常得安樂。令一切衆生。得究竟解脫。令一切衆生。得究竟平等。令一切衆生。得自在神力。令一切衆生。安住白法。令一切衆生。得無障眼。令一切衆生。調伏諸根。令一切衆生。具足十力。敎化衆生。菩薩摩訶薩。修行如是迴向時。不著業迴向。不著報迴向。不著身迴向。不著利養迴向。不著諸刹迴向。不著諸方迴向。不著衆生迴向。亦不離衆生迴向。不著一切迴向。不著法迴向。菩薩摩訶薩。如是迴向時。作如是念。令一切衆生。滿足佛智。得清淨心。智慧分別內心寂靜。外緣不亂。得在三世諸佛家生。菩薩摩訶薩。行如是迴向。勝出一切無能壞者。一切衆生悉共讚歎所不能盡。普行一切諸菩薩行。以少方便遍詣諸刹。悉見諸佛無所障礙。又見諸刹一切菩薩。修習衆行。悉得一切巧妙方便。分別一切法陀羅尼。演說妙法。敎化衆生。盡未來劫未曾斷絕。於念念中。不可說不可說諸佛世界悉現受生猶如電光。於念念中。悉能嚴淨不可說不可說諸佛世界。修行嚴淨佛刹智慧而無厭足。令不可說不可說衆生。清淨成就平等滿足。隨其所住善根悉能具足諸波羅蜜攝取衆生。除滅垢穢成就淨業。得無礙淨耳。於不可說不可說世界。佛轉法輪悉聞受

緣不違業三本俱作不違業緣

平明作不滿下三本俱有足字

持。於彼諸佛不生遠想。乃至未曾一彈指頃不聞正法。住無所有。無依無染。無著無行。堅固不壞菩薩神力。於念念中。不可說不可說一切佛剎。隨其所應。悉現其身。修菩薩行。常與同見從事不相違背。菩薩摩訶薩。修菩薩行時。成就如是無量無邊清淨功德。說不可盡。況成無上菩提。得最正覺。所謂一切佛剎清淨平等。一切衆生清淨平等。一切身清淨平等。一切根清淨平等。一切業報清淨平等。一切眷屬清淨平等。滿足諸行清淨平等。方便入一切法清淨平等。滿足一切如來諸願迴向清淨平等。示現一切諸佛境界自在清淨平等。菩薩摩訶薩。如是善根迴向已。得一切清淨功德法門。以諸功德而莊嚴之。菩薩摩訶薩。如是行迴向。不違一切剎。剎不違衆生。剎不違衆生業。衆生業不違剎。思不違心。心不違思。思不違心境界。心境界不違思業。緣不違報。報緣不違業。業不違業迹。業迹不違業。法不違相。相不違法。法生不違性。性不違法生。剎平等不違衆生平等。衆生平等不違剎平等。一切衆生平等不違一切法平等。一切法平等不違一切衆生平等。離欲際平等不違一切衆生安住平等。一切衆生安住平等不違離欲際平等。過去不違未來。未來不違過去。過去不違未來現在。未來現在不違過去。世平等。不違佛平等。佛平等不違世平等。菩薩行不違薩婆若。薩婆若不違菩薩行。菩薩摩訶薩。行如是迴向。得平等業。得平等報。得平等身。得平等道。得平等願。得平等一切衆生心。得平等一切剎。得平等一切行。得平等一切智。得三世諸佛平等。得見諸佛。及諸菩薩。得一切善根。得滿一切願。得成就一切衆生。得善分別一切諸業。得見一切諸善知識。悉令歡喜。得清淨大衆。得究竟諸佛正教。得究竟一切白淨法迴向。佛子。是爲菩薩摩訶薩第七等心隨順一切衆生迴向。菩薩摩訶薩。成就此迴向已。則能摧伏一切怨敵。悉能拔出一切欲刺。得無生道。到無二處。得無量自在功德之王。救護衆生。神足無礙徧遊諸剎。常樂寂靜。於一切身而得自在。悉能出生菩薩大行。於諸行願得自在智。分別了知一切諸法。悉能徧生一切佛剎。得無礙耳。聞一切剎所有音聲。得淨慧眼。見一切佛。修諸善根未曾休息。具足成就一切諸法。菩薩摩訶薩。以此等心隨順一切衆生迴向。迴向諸善根。爾時金剛幢菩薩。承佛神力。普觀十方。以偈頌曰

菩薩具行諸功德　深遠清淨甚微妙　所行功德雖微小　悉能迴向廣無量　菩薩一切資生具

珍妙奇特貴無價　象馬寶王諸輦輿　種種寶衣及衆珍　己身頭目幷手足　破骨出髓割肌肉
充滿無量諸世界　悉以惠施無貪吝　如是無量無邊劫　一切普施不退轉　以此功德悉迴向
救度無量衆生故　菩薩饒益一切衆　清淨功德諸妙願　安樂三有群生類　悉令究竟證菩提
菩薩平等發大願　隨順修習清淨業　令一切衆得平等　於彼願中無所著　普於世間無嫌恨
悉能隨順行諸願　悉能迴向群生類　不違一切諸賢聖　一切世間智慧日　斯從布施淨戒生
勤修精進無懈怠　於一切願不退轉　菩薩迴向到彼岸　能開清淨妙法門　得兩足尊勝智慧
分別實義到彼岸　菩薩梵音悉究竟　具足堅固妙智慧　深入正法離障礙　菩薩於彼意無著
菩薩心淨不作二　亦復不作不二法　捨離二法不二法　覺悟衆生語言道　菩薩覺悟世平等
諸心音聲一切業　一切衆生猶如化　悉從因緣業報轉　一切世間所造作　十方無量業音聲
悉從業緣之所起　應滅彼業令無餘　菩薩觀察一切衆　身口意業悉平等　普令衆生得平等
猶如一切無等等　菩薩善根悉迴向　普令衆生色清淨　具足一切諸功德　悉同無上調御士
一切衆中最殊勝　具足功德妙法身　功德大海悉迴向　饒益安樂諸群生　我所修行諸功德
普令一切悉清淨　諸佛清淨無倫匹　普令世間亦如是　平等善根悉迴向　令一切衆知實義
微妙智慧功德滿　悉與一切如來等　菩薩觀察一切法　世間寂滅空無餘　無有造作無造者
亦復不壞諸業報　於彼靜亂無有二　悉以等心正觀察　菩薩眞實解世間　遠離一切諸虛妄
如是眞實佛子等　從諸如來法化生　無量功德悉迴向　一切疑惑悉除滅

大方廣佛華嚴經卷第二十

〔麗坐〕〔宋朝〕〔元朝〕〔明朝〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅譯

金剛幢菩薩十廻向品第二十一之七

佛子。何等爲菩薩摩訶薩第八如相廻向。佛子。此菩薩摩訶薩。成就念智。安住不動。離癡正念。直心不動。成就堅固不可壞業。一切智境界得不退轉。得大乘勇猛無畏之心。修習無盡善根。積集勝妙善根。修白淨法。增長大悲。得正直實。常能正念一切諸佛白淨法。廻向心不退轉。樂求菩薩道巧妙方便。出生清淨堅固善根。正念修習智慧功德。爲調御師。具足出生一切善根。智慧方便廻向衆生。慧眼清淨。悉能觀察一切善根。長養無量種種善根。分別境界善根。具足善根。清淨善根。一切善根。修習善根。行善根。思惟善根。平等廣說善根。菩薩摩訶薩。如是善根。有種種門。種種境界。種種相。種種事。種種分別。無量行。無量語言道。出生無量分別修行。種種莊嚴善根。悉能正持十力諸乘。菩薩摩訶薩。修習如是種種善根。一觀無二一切智境。菩薩摩訶薩。以如是等善根廻向。欲令具滿無礙身修菩薩行。欲令口業清淨無礙修菩薩行。欲令具足無礙心業。安住大乘。具無礙心。令菩薩行皆悉清淨。得無量大施心。充滿一切衆生。得法自在心。照一切法。普示世間。得最勝不可壞心。得清淨一切種智。發菩薩心。普照一切。正念三世一切諸佛。念佛三昧悉得具足。滿足離害正直之心。遠離怨敵。任持衆生。充滿一切。而無休息。於十力智悉得安住。得深三昧。悉能徧遊一切世界。無所染著。悉住一切剎。而無厭足。化度衆生。未曾休息。出生無量巧便思慧。具足成就一切菩薩不思議慧。得離癡智。悉能分別一切世界。於一念中悉能嚴淨一切佛剎。於諸通慧而得自在。入一切法眞實之相。示現嚴淨一切世間。於一剎中見一切剎。究竟不壞智能持一切剎。以菩薩莊嚴具而莊嚴之。應現一切。悉能調伏無量衆生。一佛世界廣大如法界。一切世界亦復如是。得究竟智詣一切剎一切普持。菩薩摩訶薩。以此善根廻向佛剎。令衆生充滿廻向。分別受持智慧。如爲己身爲衆生廻向

三本俱第二十卷爲第二十一卷

境下元明俱有界字

令下三本俱有一切二字

癡同作礙

亦復如是。令一切衆生。永離地獄餓鬼畜生閻羅王處。令一切衆生。悉能除滅諸障礙業。令一切衆生。悉得等心平等智慧。令諸怨敵具慈心樂淸淨智慧。令一切衆生。智慧現前圓滿具足普照一切。令一切衆生。具眞實智離垢正直菩提心無量智慧滿足。令一切衆生。示現平等安隱善趣。菩薩摩訶薩。如是迴向。修習善根。及一切題。如大雲雨。令一切衆生。皆悉淸淨。令一切衆生。爲功德福田。令一切衆生。守護受持菩提內藏。令一切衆生。離諸障礙安住無礙淸淨法界。令一切衆生。滿足無礙諸通智慧。令一切衆生。得自在身。遊行十方。如應示現。令一切衆生。得無癡善根一切種智。令一切衆生。攝取一切。悉令淸淨。令一切衆生。遠離障礙瞋恚之心。究竟成就一切種智。復次菩薩摩訶薩。若見可樂國土。林樹華果。或見可樂名香上服。珍寶財物。諸莊嚴具。或見可樂園觀村邑。聚落王都。或見可樂自在帝王。或見可樂阿練若處。菩薩摩訶薩。見如是已。修巧方便。出生無量淨妙功德。樂求實義。爲衆生故。而不放逸。善能修習一切善根。猶如大海難可測量。具足善根不可窮盡。一切功德皆悉滿足。亦不分別種種善根。巧妙方便淸淨迴向。示現無量諸行善根。常念一切未曾忘失衆生境界。如善根。平等善根。菩薩摩訶薩。善根如是迴向。令一切衆生。志常樂見無量諸佛。如法不取法性。無數衆生平等淸淨。亦復如是。令一切衆生。悉得諸佛隨意愛樂供給侍者。令一切佛國。除滅煩惱淸淨可樂。令一切衆生。悉得見聞無量佛法。心常愛樂。常樂守護諸菩薩行。樂以愛眼觀善知識。令一切衆生。見可樂法。令一切衆生。樂持正法。令一切衆生。於佛法中得可樂明。令一切菩薩。悉得可樂大施之心。於諸法中得無所畏樂。爲衆生分別廣說。得菩薩可樂三昧諸陀羅尼。得一切菩薩授記智慧。得一切菩薩甚可愛樂自在示現。具足諸佛圓滿說法。得可樂方便分別說法。得可樂大悲。發菩薩心。諸根悅豫。得可愛樂諸如來家。敎化衆生心不休息。得菩薩可樂無盡法藏。於無量劫一一世界化度衆生。於現在佛所得可愛樂巧妙方便。得可愛樂深妙方便。無所障礙。永離愚癡。具足可樂平等離欲一切諸法斷諸障礙。決定深解不二法界。具足可樂離欲際等一切諸法入眞實際。得菩薩可樂無諍滿足之法。具足可樂金剛藏心一切種智。勇猛精進淸淨成滿。具足可樂淸淨善根摧伏怨敵滅障道法。具足可樂無上菩提一切種智。常現在前充滿衆生。如是菩薩摩訶薩長養善根。得淨慧明。常爲善知識之所攝護。如來慧日明照其

原元明俱作源

解下三本俱有了字

心。滅除癡闇。淨修正法。入諸智業。善學智地分別法界。一切善根善能迴向。一切菩薩諸善根海。盡其原底。成就智慧深入堅固明解善根。了達諸度菩薩摩訶薩善根如是迴向。不著世界。不著衆生界。心無所依。寂然不亂。正念諸法具足諸佛無選擇智。不違三世一切諸佛正迴向門。不違一切平等正法。不壞佛相。等觀三世。了衆生空無所依住。順如來道。普照諸法。解眞實義。漸至諸地。如實分別一切諸法。智慧周滿。具足堅固。未曾忘失。修習正業。常樂寂靜。正趣離生。了一切法猶如幻化。解一切法無有自體。觀一切義及種種行。於語言道而無所著。所有諸法皆從緣起。觀甚深法生實智迴向。觀察寂滅一切諸法皆入一觀。不違諸法種種異相。善解迴向。修菩薩道善根迴向。攝取衆生。長養三世菩薩一切迴向。如是菩薩摩訶薩以無恐怖心善根迴向。一切佛法以無量心善根迴向。一切衆生皆悉淸淨以無我無我所心善根迴向。於十方界無所染著以無餘心善根迴向。於一切境界世界無所染著。行離世間法善根迴向。得出世法不著衆生善根迴向。見諸勝道善根迴向。離虛妄法。出生眞實善根迴向。如法門至一切道。無量無邊善根迴向。如如善根亦爾。迴向衆生解了諸法。如性如善根亦爾。迴向一切法自性無有自性。如相如善根亦爾。迴向一切法無相眞實相。如法如善根亦爾。迴向佛法不退轉。如行如善根亦爾。迴向一切如來所行。如境界如善根亦爾。迴向三世諸佛滿足境界。如安立如善根亦爾。迴向安立一切衆生。如隨順如善根亦爾。迴向盡未來劫隨順不斷。如量如善根亦爾。迴向衆生心與虛空等。如充滿如善根亦爾。迴向一念滿一切世界。如久住如善根亦爾。迴向離一切世間住住究竟住。如不生如善根亦爾。迴向不生滿足一切佛法。如堅固如善根亦爾。迴向壞散一切煩惱。如不壞如善根亦爾。迴向一切衆生不可破壞。如明如善根亦爾。迴向普照一切。如一切處如善根亦爾。迴向至一切處道。如一切時如善根亦爾。迴向隨順一切時。如一切如善根亦爾。迴向一切衆生隨順淸淨。如一切平等如善根亦爾。迴向一切行平等。如一切法眼如善根亦爾。迴向一切衆生悉得法眼。如不倦如善根亦爾。迴向一切行菩薩道而無疲倦。如甚深如善根亦爾。迴向一切第一深法。如無所有如善根亦爾。迴向知一切無所有。如不出如善根亦爾。迴向一切無所顯現。如離瞪如善根亦爾。迴向明眼離瞪淸淨。如無比如善根亦爾。迴向菩薩無比之行。如寂靜如善根亦爾。迴向一切常樂寂靜。如無

根如善根亦爾.廻向究竟無根之法.如無量無邊如善根亦爾.廻向一切無量無邊衆生皆悉清淨.如無著如善根亦爾.廻向究竟無所著際.如無礙如善根亦爾.廻向滅除一切障礙.如非世間行如善根亦爾.廻向遠離一切世間行法.如不繫如善根亦爾.廻向不繫一切生死.如無行如善根亦爾.廻向遠離一切諸行.如住如善根亦爾.廻向一切住於如住.如一切法成如善根亦爾.廻向衆生所學成就.如一切法平等如善根亦爾.廻向一切具平等行.如一切法不捨如善根亦爾.廻向不捨盡未來際一切衆生.如一切法不盡如善根亦爾.廻向一切無盡衆生.如不違一切法如善根亦爾.廻向一切衆生不違三世諸佛.如攝一切法如善根亦爾.廻向一切衆生悉攝善根令無有餘.如一切法同如善根亦爾.廻向悉同三世諸佛.如一切法不離如善根亦爾.廻向悉攝世間及離世間.如不可壞如善根亦爾.廻向一切衆生不可沮壞.如無恚如善根亦爾.廻向一切衆生一切魔業所不能動.如不濁如善根亦爾.廻向一切菩薩行無有垢濁.如不亂如善根亦爾.廻向一切衆生離諸塵亂.如不可盡如善根亦爾.廻向一切世間法所不能盡.如菩提如善根亦爾.廻向覺悟一切諸法.如不失如善根亦爾.廻向一切衆生不失直心.如照如善根亦爾.廻向一切衆生悉以大智光明普照一切.如不可說如善根亦爾.廻向一切不可說智.如持一切衆生如善根亦爾.廻向一切持菩薩行.如隨順一切語言如善根亦爾.廻向一切無言智慧.如離一切種種法如善根亦爾.廻向示現一切佛刹及諸如來成最正覺示現無量神力自在.如離虛妄如善根亦爾.廻向世間悉離虛妄.如一切身徧至如善根亦爾.廻向無量身徧一切刹.如不受生如善根亦爾.廻向無生巧妙方便示現受生.如無不有如善根亦爾.廻向三世一切諸佛自在神力及一切刹在身內現.如夜如善根亦爾.廻向一切夜施作佛事得無上明.如晝如善根亦爾.廻向一切在晝衆生.悉令善覺見諸如來自在示力住不退法輪離癡清淨.如半月及一月如善根亦爾.廻向一切衆生住一切時巧妙方便.於一念中悉能分別一切時節.如年歲如善根亦爾.廻向受持種種諸劫嚴淨諸根了達諸根.如一切劫成敗如善根亦爾.廻向一切劫淨住無染一切衆生清淨調伏衆生.如未來如善根亦爾.廻向盡一切未來際修習菩薩清淨妙行.悉能滿足無量大願.如世如善根亦爾.廻向一切衆生.於一念中見一切佛乃至未曾一念遠離.如至一切處道如善根亦爾.廻向一切衆

行下三本俱有法字

提明作薩

量下三本俱有無邊二字

及下同無一字

知同作如

衆元明俱作界

生得不壞道超出三界.如有無如善根亦爾.迴向一切諸有清淨知無所有.如淨如善根亦爾.迴向一切菩薩淨行出生無上菩提之具.如明淨如善根亦爾.迴向得菩薩一切三昧明淨之心.如離垢如善根亦爾.迴向離一切垢淨心滿足.如無我所如善根亦爾.迴向攝取無我我所清淨之心充滿十方一切佛刹.如平等如善根亦爾.迴向得無盡一切智永離癡愛普照一切.如無數如善根亦爾.迴向一切善乘力住巧方便法雲普覆一切世界.如平等住如善根亦爾.迴向一切衆生具菩薩行住一切智.如分別一切衆生界如善根亦爾.迴向一切善根現前滿無礙智.如一切衆生語言如善根亦爾.迴向解了一切諸語言法.如不離一切衆生如善根亦爾.迴向攝取一切衆生具足善根遠離生死.如實如善根亦爾.迴向受持三世佛所說法修習菩薩離癡之行.如不休息如善根亦爾.迴向一切劫修菩薩行未曾休息.安處衆生於摩訶衍.如一切法第一如善根亦爾.迴向開淨法門無礙淨念攝一切法.如無量讚歎如善根亦爾.迴向得無量讚歎智慧菩薩實行.如離熾然如善根亦爾.迴向離熾然法滅除衆生熾然令得清淨.如不動如善根亦爾.迴向善根安住不動滿足普賢菩薩願行.如諸佛境界如善根亦爾.迴向一切衆生智慧境界皆悉滿足.除滅一切煩惱境界.如不可壞如善根亦爾.迴向善根一切魔業所不能壞悉能調伏衆邪外道.如非可修非不可修如善根亦爾.迴向離一切修非修虛妄斷一切虛妄.如不退如善根亦爾.迴向常見一切諸佛未曾中退修習莊嚴菩提之心.如一切語言如善根亦爾.迴向分別一切語言.如不著一切法如善根亦爾.迴向一切衆生悉無所著.令一切衆生行普賢行.如一切地如善根亦爾.迴向一切衆生悉得隨順智慧之地普賢莊嚴.如不可斷如善根亦爾.迴向一切法中得無毀無斷一切語言周滿具足能廣演說.如無漏如善根亦爾.迴向一切衆生皆令具足無漏善根菩提之心.逮得法智解了分別.如無有覺法無有滅法如善根亦爾.迴向覺悟一切諸法.於一念頃皆悉充滿無量法界.如過去非同未來非故現在非異如善根亦爾.迴向發起新新菩提心.願除滅生死清淨衆生.如三世中取不虛妄如善根亦爾.迴向過去未來皆悉清淨現在念念現成正覺.如一切諸佛菩薩具足如善根亦爾.迴向一切衆生具足佛智大願方便.如常淨無染汙如善根亦爾.迴向一切衆生悉除煩惱.一切種智清淨滿足.菩薩摩訶薩.如是迴向時.等一切佛刹.淨一切世界故.等一

足下三本俱有勝衆生法示現一切得佛無量無邊滿足十六字

飾元明俱作嚴

礙三本俱作癡　○御同作伏

切世間。轉不可壞清淨法輪故。等一切菩薩。出生一切智願故。等觀諸佛無有二故。等觀諸法不壞自性故。等觀三世巧方便智解語言道故。一切菩薩行等所種善根悉能迴向故。知一切時。隨時修習。不捨佛事故。一切業報平等不著世間。出生離生善根故。神力自在與諸佛等。隨順世間等現佛事故。佛子。是名菩薩摩訶薩第八如相迴向。菩薩摩訶薩。安住此迴向。得無量無邊清淨法門。爲大中雄而無所畏。大師子吼。成就無量無數菩薩。於一切時未曾休息。得佛無量無邊滿足身。一身充滿一切世界。得佛無量無邊滿足音聲。發一音聲。一切衆生無不聞者。得佛無量無邊滿足力。於一毛道。安置一切世界。得佛無量無邊滿足自在神力。置一切衆生於一微塵。得一切佛無量無邊滿足解脫。於一衆生身中。現一切佛刹。一切如來成最正覺。得一切佛無量無數滿足三昧正受。善方便力。於一三昧中。悉能出生一切三昧。得一切佛無量無邊滿足辯才。說一句法。盡未來劫。而不窮盡。悉除一切衆生疑惑。得一切佛無量無邊滿足勝衆生法。示現一切衆生薩婆若十力等覺。佛子。是爲菩薩摩訶薩以一切善根隨順如相迴向。爾時金剛幢菩薩。承佛神力。普觀十方。以偈頌曰

菩薩心安住　離癡常正念　忍辱離惱害　修集無量德　其心無慊恨　正直常清淨　諸業莊飾世
悉能善分別　菩薩思惟業　種種無有量　若益衆生業　修習常履行　善能順世間　普令一切喜
隨應衆生業　菩薩分別行　永離諸恚礙　知法亦知義　安住調御地　饒益一切衆　覺悟諸善法
無量不可數　悉能分別知　迴向益衆生　以此深方便　具足諸地智　滅除衆煩惱　如如善迴向
普攝一切趣　安住如實法　如是業迴向　悉令無所著　深樂至處道　修習眞如法　無性無所有
明德者迴向　日夜及半月　一月年數劫　一切皆悉如　功德亦如是　如世及諸刹　衆生一切法
趣非趣如實　迴向悉無餘　如如性如實　思惟如是性　諸功德迴向　悉皆順眞如　如如性如是
諸法無所有　如如離自性　智者業迴向　如諸相如實　諸生亦如是　如如自性實　諸業亦如是
如如無有量　一切業如是　無縛亦無解　諸業悉清淨　如是眞佛子　安住不可動　成就智慧力
入佛方便藏　覺悟法王法　無縛亦無著　無礙無轉心　亦復無所轉　法身所攝業　隨順衆生相

深入眞實相　相亦非是相　如是不思議　思議不可盡　深入不思議　思非思寂滅　如是思惟法
分別一切業　除滅諸煩惱　是名功德王　菩薩一切報　無盡智所印　盡法無盡性　無盡方便滅
心不在內外　心亦無所有　妄取故有法　不取則寂滅　佛子如是知　法空無自性　諸法無自在
最勝覺無我　如如等衆生　覺法性如是　彼見不思議　無相智不惑　如是深修習　一向求菩提
所願不退轉　饒益衆生故　菩薩捨此身　無死虛妄想　解了心如化　調伏一切衆　觀彼順正念
世間業報起　菩薩悉救護　三界無有餘　了知衆想行　皆悉是虛妄　菩薩知非實　亦不壞法性
彼如是迴向　智慧妙善根　憐愍一切衆　令入深方便

佛子。何等爲菩薩摩訶薩第九無縛無著解脫心迴向。此菩薩摩訶薩。於一切善根。不生輕心。不輕出生死心。不輕攝善根心。不輕專求一切善根心。不輕悔過心。不輕隨喜善根心。不輕禮他方佛。心不輕恭敬合掌業心。不輕禮拜塔廟尊重業心。不輕勸請他方諸佛轉法輪業心。菩薩摩訶薩。常樂攝受彼諸善根。堅固不壞彼善根。安住彼善根。思惟彼善根。長養彼善根。不著彼善根。具正直心具彼善根。不選擇彼善根。隨順彼諸佛境界善根。見彼善根得自在力。菩薩摩訶薩。以無縛無著解脫心。彼善根迴向具足普賢身口意業。以無縛無著解脫心。修習普賢勇猛精進。以無縛無著解脫心。具足普賢無礙音聲陀羅尼門。充滿十方。以無縛無著解脫心。具足普賢得見一切佛諸陀羅尼。以無縛無著解脫心。具足普賢妙音陀羅尼。分別一切音聲。悉能演說無量法雲。以無縛無著解脫心。得持普賢一切劫行陀羅尼。於一切世界。具足修習諸菩薩行。以無縛無著解脫心。於一衆生身。盡未來劫。示現普賢菩薩一切自在神力。如一衆生身。一切衆生身。亦復如是。以無縛無著解脫心。悉得普賢自在神力。示現現在一切諸佛菩薩衆中。修菩薩行。以無縛無著解脫心。得普賢一法門。於無量無數劫。示現諸佛無盡自在。悉能度脫一切衆生。以無縛無著解脫心。得普賢種種法門自在。於無量無數劫。示現諸佛無盡自在。悉能度脫一切衆生。以無縛無著解脫心。得普賢自在。於念念中。令無量衆生。安住十力必無厭足。以無縛無著解脫心。得普賢菩薩自在。於一切衆生身。皆悉得見諸佛自在。修普賢行。以無縛無著解脫心。得普賢自在。於一言中。悉

王同作生

在三本俱作性

彼下三本俱有諸字

身下同有中字

原三本俱作源

能分別一切衆生音聲語言．調伏一切衆生．安住薩婆若地．以無縛無著解脫心．得普賢自在．於一衆生身中．悉能容受一切衆生．彼悉自謂逮得佛身．以無縛無著解脫心．得普賢自在．於一華中．令一切嚴淨世界皆悉安住．菩薩摩訶薩．復作是念．以此無縛無著解脫心善根．出生普賢微妙音聲．充滿法界十方佛剎．隨其所應皆悉得聞．以此普賢無縛無著解脫心善根．如普賢於念念中見盡過去際無量無邊世界諸佛．聞所說法受持不忘．莊嚴佛家．以此無縛無著解脫心善根．如普賢盡未來劫．於一切世界中．演說諸法皆悉究竟．以此無縛無著解脫心善根．於一切世界成最正覺出興于世．以此無縛無著解脫心善根．能以一光普照虛空等一切世界．修習普賢菩薩所行．以此無縛無著解脫心善根．得無量無邊智慧．皆能隨順諸地神通．成就普賢菩薩所行．以此無縛無著解脫心善根．悉得究竟如來智慧．於一切劫．說如來智．諸劫悉盡．而智無窮盡．具足普賢菩薩所行．以此無縛無著解脫心善根．於法界等一切如來菩薩所行．悉能修習身口意業．而無懈怠猶如普賢．以此無縛無著解脫心善根．得一切佛無上菩提．義身不違法身．辭辯淨地而不可壞樂說辯才無盡之藏．調伏一切衆生具普賢願．以此無縛無著解脫心善根．入一一法門．普照無量不可思議世界．於一切法門．盡其原底．修習普賢菩薩所行．逮得究竟薩婆若地．以此無縛無著解脫心善根．於一一境界中．悉以一切種智．分別了知一切種智．猶無窮盡．究竟普賢莊嚴彼岸．修菩薩行．具足成就方便大王．以此無縛無著解縛心善根．從此生盡未來際生．具足普賢菩薩所行．及一切種智離癡法王．以此無縛無著解脫心善根．得無礙法明．普照一切諸菩薩行．常修正業．具足普賢自在方便．以此無縛無著解脫心善根．悉得無量方便．不可思議方便．菩薩方便．一切智方便．調伏菩薩方便．轉無量法輪方便．不可說不可說時方便．種種說法方便．無分際無畏方便．說一切法無餘方便．得如是等一切隨順方便智．修習普賢菩薩所行．以此無縛無著解脫心善根．具足身業．令一切衆生．皆悉歡喜．得菩薩不退轉清淨善根．究竟安住普賢諸業．以此無縛無著解脫心善根．得清淨智．悉能分別衆生語言．一切口業清淨莊嚴．音辭微妙言無能及．修習受持普賢所行．以此無縛無著解脫心善根．悉能分別一切佛剎．一切衆生．一切諸法．一切莊嚴．其心清淨出生一切如來法藏．究竟一切智．善能隨順普賢所行．以此無縛無著解脫心善根．清

切下同有諸字○根同作住燄宋元俱作炎○根下三本俱有力字

心下明有究竟此無縛無著解脫心十字

解脫明作脫解

因那網明作因陀羅網

淨直心得一切佛無礙法身．具足解脫．修如來法．攝佛功德．住佛境界．大智普照．修習菩薩清淨之行．隨順方便．悉能分別一切法藏．出生無量大乘自在．悉能示現無量無邊一切衆生無上大道．具足普賢行願迴向．以此無縛無著解脫心善根．得明利根．善調伏根．於一切法自在根．無窮盡根．修習一切善根．一切佛境界平等根．授一切菩薩不退轉記大精進根．分別一切佛法金剛界根．一切如來智慧光照金剛燄根．分別一切諸根自在根．令一切衆生安住一切智根．無量根．滿足一切根．無礙清淨根．平等修習諸願根．以此無縛無著解脫心善根．得一切菩薩神力．住持無量身神力．無量智慧境界神力．不離一處悉能示現一切佛剎神力．菩薩無礙不可制持自在神力．示現攝取一切佛剎安置一處自在神力．一身充滿一切佛剎自在神力．菩薩無礙解脫自在神力．少方便一念自在神力．依無所有自在神力．以一毛悉縛無量世界．悉持遊行法界等佛剎示現衆生．令得究竟妙智慧門自在神力．修習普賢菩薩所行．以此無縛無著解脫心善根．於一念頃．悉能往詣無量佛剎．於一身中．悉能容受無量佛剎．逮得甚深微妙智地．善能分別諸佛世界．得無生心．悉入普賢菩薩法門．生菩薩行．以此無縛無著解脫心善根．生如來家．修菩薩行．具足無量無數不思議法．無量大願皆悉成滿．分別一切法界．及三世法界．而無懈怠．隨順普賢菩薩諸行．究竟智界．以此無縛無著解脫心善根．於一毛道．分別無量無數佛剎．悉能包容一切法界究竟空界．如一毛道．一切法界虛空界等．一切毛道亦復如是．以普賢菩薩清淨法門．開智慧眼．以此無縛無著解脫心善根．能以無量無數阿僧祇劫．以爲一念．能以一切衆生諸念．以爲一念．此諸方便．皆由普賢菩薩深心究竟．以此無縛無著解脫心善根．於一心內．悉能容受無量諸身．如一身．一切身亦復如是．具足普賢菩薩迴向．以此無縛無著解脫心善根．悉入一切諸佛境界．常見諸佛虛空界等清淨法身．相好莊嚴．神力自在．梵音微妙．具足廣說無礙正法．聞彼佛法悉能受持．於彼佛身了無所有．悉得普賢菩薩無量大願．永離衆生心想見倒．以此無縛無著解脫心善根．入一切世界．入飜覆世界．入伏世界．於一念中．悉能徧入十方世界一切佛剎．分別因那網世界．分別一切平等法界．令雜世界悉爲一形．無量種種世界無量方便入深法界．皆如虛空．而亦不壞世界之性．修普賢行住菩薩地．以此無縛無著解脫心善根．悉而分別一切諸想衆生想．法想．佛剎想．

方想、佛想、世想、業想、行想、解脫想、根想、時想、受持想、煩惱想、淸淨想、成熟想、見諸佛想、轉法輪想、聞法解想、調伏想、種種方便出生想、種種地想、入菩薩想、修習菩薩功德想、菩薩三昧正受想、菩薩三昧起想、菩薩境界想、劫成壞想、明想、闇想、晝想、夜想、半月一月年歲時變想、去想、來想、坐想、立想、覺想、睡想、如是等一切諸想、於一念中悉能了知、心無虛妄、悉離諸想、心無所著、遠離障礙、一切如來智慧充滿、一切佛法長養善根、以一切佛身以熏其身、常爲諸佛之所攝取、於白淨法未曾退失、善能修學等正覺法、究竟彼岸、修行諸佛普賢所行、具足諸願、受如來記、於一念中、得入方便地、究竟智滿足安住、以此無縛無著解脫心善根、以一一心觀無量心、離諸虛妄而無所依、心不一故、所行各異、業相不同、令一切衆生勇猛精進、出生普賢智慧之寶、猶如普賢、以此無縛無著解脫心善根、於一處悉能分別無量諸處、如一處、一切處亦復如是、悉決定知滿足普賢大願智寶

大方廣佛華嚴經卷第二十

金剛幢菩薩十廻向品第二十一之七

知明作智

修下三本俱有習字○三本俱以此無縛以下爲卷第二十二金剛幢菩薩迴向品第二十一之八

生同作性

念下明有境字

大方廣佛華嚴經卷第二十一

〔麗坐〕〔宋朝〕〔元朝〕〔明朝〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅譯

金剛幢菩薩十迴向品第二十一之八

以此無縛無著解脫心善根.於一業分別知無量諸業種種緣造.如一業.一切諸業亦復如是.修習普賢菩薩行業智地.以此無縛無著解脫心善根.於一法中.悉分別知一切諸法.於一切法中.亦知一法.分別諸法而不違不著.以此無縛無著解脫心善根.於一語中.悉分別知無量言音.猶如呼響.如一語中.一切語言亦復如是.於彼言音無所依著.住菩薩行智慧成就.逮得普賢無礙淨耳.以此無縛無著解脫心善根.於一一法中.悉能演說不可說不可說諸法.長養善根.不可思議.應時說法一切時解脫.決定了知衆生諸根.隨其所應聞佛音聲.佛一妙音悅無量衆.一如來所菩薩大衆充滿法界.究竟了知一切諸行.住普賢地.於念念中.如說入法.長養不可說妙智慧身.盡未來劫.於一切世界一切佛所.悉能修習虛空等行.勇猛如普賢.修習大智慧.具足一切行.安住普賢地以此無縛無著解脫心善根.於一一根中.皆悉了知無量諸根.不可數意不思議境界.修普賢行法門諸根.以此無縛無著解脫心善根.具菩薩行.生眞實妙智.知色微細.知身微細.知剎微細.知劫微細.知世間微細.知方微細.知時微細.知數法微細.知業微細.知報微細.知淸淨微細.如是等一切微細.於一念中.皆悉了知.隨順普賢菩薩所行.成就普賢眞實智慧.離恐怖心.離愚癡心.離散心.離亂心.調伏諸根心.一心.正受心.善分別諸法心.善安住智慧心.行普賢行.隨順普賢菩薩迴向心.以此無縛無著解脫心善根.知衆生趣微細.知衆生死微細.知衆生生微細.知衆生處微細.知衆生生微細.知衆生種類微細.知衆生界微細.知衆生行微細.知衆生取微細.知衆生境界微細.如是等一切微細.於一念中.悉能了知.修普賢行.而無懈倦.以此無縛無著解脫心善根.悉分別知初發意菩薩等.一切菩薩諸行微細.菩薩處微細.菩薩自在微細.菩薩遊行無量佛剎微細.菩薩法明微細.菩薩淨眼

辯下三本俱有才字

明下三本俱有綱字

具下同無足字

微細。菩薩具足深心微細。菩薩往詣諸如來大衆微細。菩薩諸陀羅尼智門微細。菩薩無量無邊無所畏地一切諸辯方便演說微細。菩薩無量無邊三昧相微細。菩薩見一切佛三昧微細。菩薩莊嚴三昧微細。菩薩法界三昧智慧微細。菩薩自在三昧智慧微細。菩薩三昧智慧微細。菩薩受持盡未來際三昧智慧微細。菩薩勝妙智慧分別一切菩薩三昧微細。菩薩無量無邊一切菩薩出生三昧分別了知微細。菩薩出生三昧智慧往詣一切諸如來所微細。修習一切菩薩廣大甚深無礙三昧。究竟一切種智。得方便地。一切通地。分別實義地。菩薩離癡智。修習普賢無量諸行微細。以此無縛無著解脫心善根。於一念中。悉知菩薩一切住微細。悉知菩薩地微細。菩薩種種行微細。菩薩出生廻向微細。菩薩得一切諸佛藏微細。菩薩分別智慧微細。菩薩大願神力自在微細。演說菩薩三昧微細。菩薩神力方便微細。菩薩印微細。菩薩一生補處微細。菩薩生兜率天微細。菩薩處天宮微細。菩薩嚴淨佛剎微細。菩薩觀察人中微細。菩薩放大光明微細。菩薩了達家法微細。菩薩眷屬法微細。菩薩一切世界受生法微細。菩薩一身示一切身命終微細。菩薩身入母胎微細。菩薩處母胎微細。菩薩在胎中顯現法界等大衆自在神力微細。菩薩在母胎顯現一切佛自在微細。菩薩生法微細。菩薩遊行七步無畏智微細。菩薩現在王宮方便法微細。菩薩出家求道調伏諸根修法微細。菩薩菩提樹下坐道場法微細。菩薩降魔成最正覺法微細。如來端坐道場放光明微細。普照十方一切世界微細。顯現如來無量無邊自在神力微細。如來師子吼大般涅槃微細。如來教化一切衆生未曾有失微細。知如來金剛菩提心微細。顯現如來住持一切世界微細。於一切世界盡未來劫施作佛事而無休息微細。究竟受持一切法界微細。虛空界等一切世界爲化衆生故。普現佛身出興於世微細。一如來身現無量身微細。去來現在一切諸佛智慧眷屬微細。如是一切功德微細。我當悉知具足究竟得到彼岸。淸淨示現一切衆生。於念念中。智慧周滿得不退轉。修菩薩行。具足普賢廻向功德之地。受持一切如來菩薩所行。不離菩薩諸智慧門。一切方便皆悉淸淨。普能安隱一切衆生。修菩薩行。具足菩薩諸地功德。得金剛幢廻向之門。出生無量法界諸功德藏。常爲諸佛之所護念。入諸菩薩深淨法門。演說一切微妙法義。無所違失。悉能慈愍一切衆生。於念念中。究竟了知思議不思議地諸功德藏。於不思議出生思議。示諸法門離語

一下三字俱有切字
諸元明俱作願
不下三本俱無可字

言道。得智慧地。一切菩薩皆悉同等。盡未來際。修菩薩行。未曾休息。具普賢行。遠離世間一切妄想。及語言道。具
足受持大願自在。修菩薩行。未曾斷絕。以此無縛無著解脫心善根。入一切衆生性智微細。分別衆生性智微細。
具足演說衆生性智微細。染著衆生性智微細。衆生不動性智微細。衆生動性智微細。無量無邊趣趣衆生性智
微細。不可思議衆生種種行性智微細。衆生無量煩惱性智微細。衆生無量清淨性智微細。如是等一切衆生性
境界智微細。於一念中。如實了知。調伏安隱一切衆生。如應說法而不失時。常轉法輪攝取衆生。說諸法門。修菩
薩道。智慧具足。化身無量。安隱衆生。悉令歡喜。慧日普照。深入菩提。心得菩薩自在智覺悟。安住菩薩智境界。修
習大乘智。究竟普賢行。以此無縛無著解脫心善根。悉能分別虛空法界等一切世界智微細。小世界智微細。中
世界智微細。不淨世界智微細。清淨世界智微細。無比世界智微細。雜世界智微細。廣世界智微細。狹世界智微
細。無礙莊嚴世界智微細。一切世界諸佛出世示現一切智微細。演說一切世界智微細。一身充滿一切世界智
微細。放無量光普照一切世界智微細。一切世界一切諸佛顯現自在神力智微細。一妙音聲普聞十方一切世
界智微細。一切世界現在諸佛大衆圍遶智微細。一切法界作一佛刹智微細。一佛刹作一切佛刹智微細。一切
世界如夢智微細。一切世界如電智微細。如是等一切世界智微細。悉分別知。究竟了達菩薩諸行皆悉如幻。究
竟普賢菩薩行自在智。得普賢菩薩明觀。行一切菩薩行無有休息。悉離顚倒。見一切佛。及佛自在。得無礙身智
無所依。諸善根法無所染著。心之所行悉無所有。捨離諸方堅固之相。嚴淨菩薩所行之相。而未曾取一切智相。
不著衆生三昧莊嚴智慧。隨順一切法界。於一切世界。修菩薩行。以此無縛無著解脫心善根。深入無量法界智
微細。演說一切法界智微細。度廣法界智微細。分別不可思議法界智微細。分別一切法界智微細。於一念中。充
滿一切法界智微細。等觀一切法界智微細。一切法界境界無所有智微細。觀察一切法界無礙智微細。解一切
法界不生智微細。身持一切法界自在智微細。如是等一切法界智微細。皆悉究竟。成普賢行。受持智慧。得法自
在。令衆生歡喜。不捨義身。不見法身。出生無礙平等之智。得無礙行。不著諸法。離一切有。眞實無染。隨順世間。行
語言法。常樂寂靜。不捨實義。智慧清淨。滅除虛妄。一切所有悉非堅固。覺悟無量一切法界。一切世間平等不二。

王同作正○界下三本俱無網字而有微細二字以同作際

微細法同作法微細

出上同無知字

一切諸法亦復不二。無所依止。得入普賢菩薩行門。究竟成就平等智慧。以此無縛無著解脫心善根。悉能分別一切諸劫智微細。無量劫即是一念智微細。一念即無量劫智微細。阿僧祇劫即是一劫智微細一劫即是阿僧祇劫智微細。長劫即是短劫智微細。短劫即是長劫智微細。入有佛劫無佛劫智微細。數知一切劫無餘智微細。說一切劫非劫智微細。一念中覺過去未來現在際一切諸劫無餘智微細。如是等一切諸劫。一念中以如來智知。得一切菩薩行圓滿王心。得普賢菩薩究竟行心。得一切離虛妄心。得不退大願心。得示現無量無邊世界網中一切如來徧充滿心。得聞持諸佛善根菩薩行心。得與一切衆生大無畏心。得一切劫中示現諸佛出興世心。得一一世界中盡未來以行菩薩道無休息心。得一切世界中如來身業充滿菩薩身心。以此無縛無著解脫心善根、知無量甚深法智微細。勝法智微細。雜法智微細。莊嚴法智微細。廣說一切諸法智微細。一切法即是一法智微細。一法即是一切法智微細。一切法悉入非法智微細。非法入一切法亦不違法智微細。入一切佛法方便無有餘智微細。如是一切諸微細法。以無礙智悉能了知。得一切行同一行心。得究竟無量無邊法界心。得無畏力。分別法心。決定安住諸無礙行。以一切智充滿諸根。一切佛智。正念方便。皆悉現前。成就諸佛廣大功德。充滿世界。普入一切諸如來身。示現一切菩薩身業。出妙音聲普徧世界。一切佛所。得威神力智慧意業。出生無量分別方便一切種智。修普賢行。得不退轉智。以此無縛無著解脫心善根。知出生一切佛剎無餘智微細。出生一切衆生諸通智慧無餘智微細。出生諸法業報無餘智微細。出生一切衆生心無餘智微細。出生隨時說法無餘智微細。出生分別一切法界無餘智微細。出生虛空界等三世智慧無餘智微細。出生一切語言道法無餘智微細。出生一切世間諸法無餘智微細。出生離世間行法無餘智微細。如是等一切出生智微細。一切如來道。一切菩薩道。一切衆生道。出生智微細。修菩薩行。安住普賢行。隨義隨味。皆如實知。如夢如電如幻如響如化寂滅。一切法界無有眞實。無所染著。出生諸佛平等智慧。皆悉究竟。修普賢行。出生微細智。菩薩摩訶薩。以如此無縛無著解脫心善根。皆悉迴向。不妄取世間及世間法。不妄取菩提及菩薩。不妄取菩薩行及出生死道。不妄取一切佛及佛法。不妄取調伏不調伏衆生。不妄取善根及迴向。不妄取自己及他人。不妄取施物及受者。不妄取菩薩行

及菩提。不妄取法及解法者。如是菩薩摩訶薩。無縛無著解脫心善根迴向。無縛無著解脫身。無縛無著解脫口。無縛無著解脫業。無縛無著解脫報。無縛無著解脫世間。無縛無著解脫佛刹。無縛無著解脫衆生。無縛無著解脫法。無縛無著解脫智。菩薩摩訶薩。如是迴向時。則與三世諸佛一切菩薩迴向同等。成就安住三世諸佛一切菩薩迴向。於三世諸佛菩薩迴向。得不退轉。隨順過去一切佛教。具足未來一切佛教。得現在一切佛教。滿足過去諸佛平等正法。成未來諸佛平等正法。迴向現在諸佛平等正法。與行過去一切佛境界。住未來一切佛境界。等現在一切佛境界。與三世諸佛善根無異。住三世諸佛所住。與三世諸佛同一境界。不違三世諸佛。佛子。是爲菩薩摩訶薩第九無縛無著解脫心善根迴向。菩薩摩訶薩。安住此迴向。一切善根迴向。一切金剛山所不能壞。於一切衆生。第一殊勝。一切衆魔所不能壞。悉能摧滅衆魔邪業。普現一切世界。行菩薩行。以善方便。廣爲衆生。說諸佛法。捨離愚癡。隨順一切佛法智慧。菩薩摩訶薩。隨所生處。行住坐臥。一切常得不壞眷屬。得清淨念。悉能聞持三世一切諸如來法。盡未來際劫。行菩薩行。未曾休息。而無染著。得普賢行。諸願滿足。得一切智施作佛事。悉得諸佛菩薩無量自在。爾等金剛幢菩薩。承佛神力。普觀十方。以偈頌曰

菩薩未曾有慢心　一切諸方無比尊　隨本所修功德業　亦復不起輕慢心　所修一切諸功德
不爲自己及他人　以無縛著解脫心　迴向饒益一切衆　永離一切自高顯　亦復棄捨憍慢心
於最勝所起身業　勸請說法種種行　所作無量諸功德　饒益一切衆生類　安住無著解脫心
迴向一切諸如來　世間無量群生類　種種方便諸技術　勝妙甚深微細事　悉能具足分別知
世間所有種種身　斯由身業之所得　覺悟無量生死行　逮得不退智慧門　十方一切無量刹
微細勝妙伏世界　菩薩深入智慧門　於一毛孔悉了知　一切衆生無量心　明者了知卽一心
菩薩覺悟智慧門　不捨增長諸業行　一切衆生種種根　上中下品各不同　所有甚深諸功德
菩薩隨性悉了知　一切衆生種種業　上中下品差別相　菩薩深入如來力　悉能具足分別知
不可思議無量劫　悉能了知卽一念　一切十方所行業　菩薩覺悟清淨知　悉能逆順知三世

薩下元明俱有以字
縛無著三本俱作著無縛次亦同
向下同有迴字
魔下三本俱有邪業二字
智下同有地字
顯元明俱作顯

分別其相各不同　而亦不違平等相　是卽離癡菩薩行　一切衆生無量行　愛慢諸結各不同
菩薩別相分別知　亦復不捨無相觀　十方世界諸如來　具足示現大自在　難見難得難思議
菩薩悉能分別知　兜率陀天大導師　無比最勝人師子　功德甚深廣清淨　一切如實見其性
示現降神處母胎　無量自在大神變　成佛涅槃轉法輪　一切世間莫能轉　人中師子初生時
一切諸勝悉奉敬　天王帝釋梵天王　諸有智者悉敬侍　十方一切無有餘　無量無數諸法界
無始無末無中間　示現無量自在力　人中尊導現生已　遊行諸方各七步　觀察一切衆生類
無礙法門覺一切　觀見衆生沒五欲　人中師子現微笑　衆生盲冥愚癡覆　我當度脫三有苦
大師子吼出妙音　我爲世間第一尊　顯現明淨智慧燈　永滅生死愚癡闇　人中師子出世間
放大光明無有量　斷除一切諸惡道　無量衆苦究竟滅　或時示現處宮殿　或現捨家行學道
人中師子現自在　饒益一切衆生故　菩薩初坐道場時　六反震動諸大地　普放無量大光明
徧照五道衆生類　震動一切魔宮殿　開發十方衆生心　昔於菩薩有緣者　皆悉覺悟眞實義
一毛道中無量乘　十方一切諸佛刹　衆生道乘無有量　彼現最勝大神變　如是方便隨順覺
如一切佛所演說　若諸如來所不說　亦悉解了分別知　除滅一切衆魔怨　普覆三千大千界
深入一切無礙門　能壞一切諸魔道　如來或在諸佛刹　或復現處諸天宮　或復現身梵宮殿
菩薩悉見無障礙　轉於淸淨妙法輪　如來法身無邊際　悉於三世一切劫　最勝演說無窮盡
諸佛無等師子座　悉皆充滿十方界　種種妙相而莊嚴　佛處彼座難思議　眞佛子等悉圍遶
充滿法界無有餘　說菩薩行無邊際　隨順諸佛出要道　智者能以一方便　攝諸佛法無有餘
種種莊嚴最勝法　皆悉充滿於法界　無等無量妙自在　示現一切種種身　又現諸趣無量生
或現采女衆圍遶　示現出家行學道　欲令衆生諸根利　乃至示現般涅槃　分布舍利起塔廟
如是種種無量行　如來演說佛所住　一切如來諸功德　究竟徧知到彼岸　如是種種無量行

於一切劫無休息　亦未曾生憂感心　菩薩皆悉善迴向　一切諸佛自在力　及佛無量諸功德
菩薩隨順悉了知　普爲一切衆生說　如是一切諸法王　隨彼無量諸境界　於一念中悉覺悟
而亦不捨菩薩行　一切最勝甚深法　及諸佛剎正法道　隨順覺悟殊勝行　究竟迴向到彼岸
有數無數一切劫　菩薩深解即一念　具足修習菩薩行　於彼勝道不退轉　十方無量一切剎
或有淨妙或垢穢　及彼一切諸如來　菩薩皆悉分別知　於念念中悉明了　不可思議無量劫
如是了知三世劫　具足安住究竟行　深入了達心所行　善方便行一切法　一切佛剎菩薩行
悉能明了分別知　出生智慧無有量　出生衆生及諸法　出生菩提力自在　一切皆悉無邊際
深入一切無有餘　分別一切諸妙法　悉分別知同異相　具足廣修菩薩行　十方一切諸佛剎
彼有無量無數衆　彼彼諸性各不同　菩薩皆能分別知　過去一切諸如來　未來現在諸導師
若能如是知迴向　則與三世諸佛等　若能如是知迴向　則與最勝功德等　則與最勝智慧等
則與最勝所行等　一切世間莫能壞　諸所學者悉成就　隨順一切諸最勝　善能觀察於世間
菩薩所行不可量　無量功德悉具足　堅固安住如來行　具足分別自在力

佛子。何等爲菩薩摩訶薩第十法界等無量迴向。佛子。此菩薩摩訶薩。離垢繒繫頂。受大法師記。能廣法施。成大慈悲。安立衆生於菩提心。饒益衆生。未曾休息。以菩提心長養善根。爲一切衆生作調御師。示諸衆生一切智道。爲一切衆生作法藏日。善根淨光普照一切。等心普觀一切衆生。欲令衆生常行善根。未曾休息。增長清淨微妙智慧。不捨一切善根道業。爲一切衆生作大智慧採寶導師。開示一切安隱正道。以一切衆生爲首修行諸法。令一切衆生。得不可壞眞善知識。長養善根。菩薩摩訶薩。行法施等一切善法。攝取薩婆若心。究竟正力到於彼岸。修行堅固難壞菩提之心。常樂大願。修習菩提。依善知識。離諂曲心。專求菩提。分別無量一切智門境界。菩薩摩訶薩。於彼善根迴向廣大而無限礙。乃至一句一味。佛所說法。若有能聞。若持若說。以此善根如是迴向。一心正念無量無邊虛空等世界中三世諸佛。行菩薩行。以此善根迴向。令一切佛。常守護念。於一世界。盡未來劫。爲一

薩上三本俱有受字
法元明俱作根
若下三本俱無有能二字

行下同無如我行梵行五字○曀同作翳

衆生.修菩薩行.如一世界.乃至虛空法界等.一切世界盡未來劫.爲一切生.修菩薩行.爲一切衆生.亦復如是.爲一切衆生.以大莊嚴.而自莊嚴.不生離佛善知識想.得是想故.常見現在一切諸佛.乃至未曾違離一佛.諸佛菩薩.所讚梵行.皆悉滿足.行不缺梵行.具足不破梵行.不濁梵行.無垢梵行.不退梵行.不壞梵行.諸佛所讚梵行.無依梵行.無所有梵行.離倒淸淨順行三世諸佛菩薩梵行.無礙梵行.無取梵行.無諍梵行.無擇梵行.安住梵行.無比梵行.不動梵行.不亂梵行.無恚梵行.如我行梵行.令一切衆生.皆悉安住.此諸梵行修習梵行.具足梵行.淸淨梵行.離垢梵行.明照梵行.離塵梵行.離曀梵行離熱梵行離纏梵行.離一切疑梵行.離一切惱害梵行.得到彼岸.何以故.菩薩若自不修梵行.令他淨修梵行.無有是處.菩薩自退梵行.令他具足梵行.無有是處.菩薩自破梵行.令他安立梵行.無有是處.菩薩自離梵行.令他立梵行道.無有是處.菩薩自滅梵行.令他修習梵行.無有是處.菩薩不樂梵行.令他樂修梵行.無有是處.菩薩不住梵行.令他安住梵行.無有是處.菩薩不究竟梵行.令他究竟梵行.無有是處.菩薩自捨梵行.令他不捨安住梵行.無有是處.菩薩壞散梵行.令他攝取梵行.無有是處.何以故.菩薩摩訶薩.如說修行遠離顚倒.又能廣說離顚倒法.實語實行.修習淸淨身口意業.離諸染汙.行無礙處.滅一切障.菩薩摩訶薩.自正直心.令他正直心法.菩薩修習忍辱.以諸善根.調伏其心.令他修忍.以諸善根調伏其心.菩薩自離疑悔.令他離諸疑悔.菩薩自得歡喜信心.令他得不壞信.菩薩自行堅法.令他行堅法.菩薩摩訶薩.善根如是廻向.復次菩薩摩訶薩.以法施等諸善根門.如是廻向.以此善根.令一切衆生悉得諸佛無盡法門.分利解說諸佛法門.摧滅一切外道邪論.令辭理窮屈.悉得三世一切諸佛所說法海.於一一生法.一一方便法.一一語言法.一一施設法.一一教法.一一說法.一一法門.一一入法.一一決定法.一一住法.悉得無量無邊無盡法藏.得無畏法.深入四辯.廣爲衆生.說微妙法.盡未來際.而無窮盡.成正直心.離諸顚倒.生無礙道.言無謬失.衆生聞法.悉皆歡喜.解了衆生一切言音.得不退轉一切法明.一切衆生歡喜無量.悉皆安住一切種智.具足離癡明淨法辯.聞持諸法.悉能分別一切世界.得法界等無量身.於一念中悉能充滿一切法界.微妙音聲.徧滿無量無邊法界.示現眷屬.充滿法界.修法界等菩薩淨業.得法界等無量菩薩所住.得法界等無量決定法.學法界等無量諸

薩下三本俱有諸字

諸同作詣

令諸三本俱作迴向

生同作主

法究竟住法界等無量菩薩行。迴向法界等無量菩薩內法。菩薩摩訶薩。善根如是迴向。令一切衆生。具足薩婆若。安住薩婆若。復次菩薩摩訶薩。善根如是迴向。見法界等無量一切佛。調伏法界等無量衆生。嚴淨法界等無量佛刹。得法界等無量菩薩智。得法界等無量無所畏。得法界等無量深妙辯。得法界等無量一切菩薩陀羅尼。得法界等無量不可思議菩薩住。具足法界等無量功德藏。具足法界等無量實義善根。菩薩摩訶薩。復作是念。以此善根。令一切衆生。悉得是法。具足成滿。如我無異。一切行等。功德等。智慧等。力等。無畏等。自在等。正覺等。說法等。如實義等。論議等。諸通等。菩薩摩訶薩。善根如是迴向。復次菩薩摩訶薩。以此善根如是迴向。如法界無量出生智慧。亦復如是。如法界無量所見諸佛。亦復如是。如法界無量往諸佛刹。亦復如是。如法界無量菩薩所行。亦復如是。如法界不可斷得一切智。亦復如是。如法界等一得一切智。亦復如是。如法界自然清淨。令一切衆生清淨。亦復如是。如法界隨順悉至一切。令一切衆生。行普賢菩薩行。亦復如是。如法界莊嚴一切衆生。令一切衆生。得普賢菩薩莊嚴。亦復如是。如法界不可壞。令一切衆生。得不壞善根。亦復如是。復次菩薩摩訶薩。以此善根如是迴向。令一切諸佛菩薩。皆悉歡喜。令諸善根。趣薩婆若。令諸善根。趣一切智。至一切道。令一切衆生。常見諸佛。菩薩摩訶薩。以此善根。如是迴向。見一切佛。能作佛事故迴向。見一切佛。不於佛事生住著心故迴向。見一切佛。悉令衆生。普得清淨故迴向。見一切佛。悉能了知故迴向。見一切佛。悉無所著故迴向。見一切佛。悉能分別無礙法故迴向。見一切佛。具普賢行故迴向。見一切佛。未曾失時故迴向。見一切佛。出生菩薩無量諸力故迴向。見一切佛。不忘其法故迴向。以此善根如是迴向。解法界無生。解法界無自性。解法界如如。解法界無依。解法界無妄。解法界離相。解法界寂靜。解法界無處所。解法界無去無集。解法界無壞。復次菩薩摩訶薩。善根如是迴向。以此法施所攝善根。令一切衆生。成大法師。住一切佛無量自在。令一切衆生。作無上法師。安立衆生於一切智。令一切衆生。成無壞法師。一切問難無能窮盡。令一切衆生。作無礙法師。具足諸法無礙照明。令一切衆生。作智藏法師。巧方便說一切佛法。令一切衆生。成就如來自在法師。能善巧說諸如來智。令一切衆生。作淨眼法師。廣說實法。不由他教。令一切衆生。作正持佛法法師。具足說法。不失一味。令一切衆生。作離相法師。以諸妙相。而自莊

嚴。放無量光。廣說諸法。令一切衆生。作大身法師。一充身滿無數佛刹。興大法雲。普雨佛法。令一切衆生作不失佛法大海法師。一切世間無能壞者。令一切衆生。作具足圓滿日光法師。放佛慧光。悉能顯照一切諸法。令一切衆生。作隨順問答法師。善巧方便慮說諸法。令一切衆生。作究竟衆行到彼岸法師。善巧方便開無量法藏。令一切衆生。作建立正法法師。分別演說如來道智。令一切衆生。作了達諸法法師。讚歎功德不可窮盡。令一切衆生。作不虛誑法師。入深眞妙諸方便際。令一切衆生。作善覺魔事法師。悉能壞散一切諸魔。令一切衆生。作諸佛攝護法師。未曾暫起我我所心。令一切衆生。作安隱正法法師。悉得菩薩一切願力。菩薩摩訶薩。以此善根如是迴向。不選擇業故迴向。不選擇報故迴向。不選擇願故迴向。不選擇法故迴向。不選擇事故迴向。不選擇因故迴向。不選擇成法故迴向。不選擇名身味身句身故迴向。不選擇迴向故迴向。不選擇義故迴向

大方廣佛華嚴經卷第二十一

金剛幢菩薩十迴向品第二十一之八

姓明作姓次亦同

普賢三本俱作菩薩

大方廣佛華嚴經卷第二十二

〔麗坐〕〔宋朝〕〔元朝〕〔明朝〕

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅　譯

金剛幢菩薩十迴向品第二十一之九

菩薩摩訶薩。以此善根如是迴向。不著色故迴向。不著聲香味觸法故迴向。不求生天故迴向。不求欲樂故迴向。不著欲境界故迴向。不求眷屬故迴向。不求自在故迴向。不求生死樂故迴向。不著生死故迴向。不著死此生彼故迴向。不求三有樂故迴向。不求欲相應故迴向。不求樂處故迴向。不毒心故迴向。不壞善根故迴向。不依三界故迴向。不味著諸禪解脫三昧正受故迴向。不求住聲聞緣覺乘故迴向。但欲調伏一切衆生滿足薩婆若究竟無礙智故迴向。欲令一切善根清淨無礙故迴向。欲令一切衆生。超出生死得大乘智故迴向。欲滿足金剛菩提心故迴向。欲究竟成就不死法故迴向。欲無量莊嚴諸佛種姓。示現一切智自在故迴向。欲具足菩薩一切法明神力自在故迴向。欲於法界虛空界等一切佛剎。行普賢行而不退轉。以離癡金剛大莊嚴而自莊嚴。安住普賢菩薩地故迴向。欲盡未來劫行普賢行度脫衆生。示現一切諸佛莊嚴行地。安住不斷故迴向。菩薩摩訶薩如是平等心迴向。平等法心迴向。一切衆生無量心迴向。無諍心迴向。無所有心迴向。不亂心迴向。等入三世心迴向。於三世諸佛種姓心迴向。得不死神通心迴向。得如來涅槃心迴向。令一切衆生離地獄餓鬼畜生閻羅王處故迴向。令一切衆生。除滅障道法故迴向。令一切衆生。悉具善根歡喜故迴向。欲不失轉法輪時故迴向。欲令一切衆生。成十力輪。到彼岸故迴向。欲令滿足無量無邊菩薩清淨法願故迴向。欲令成就善知識器。隨順一切善知識敎。具菩提心寶故迴向。欲令一切住佛深法。正直修習一切佛法。具足無上智慧光明故迴向。欲令一切菩薩。無礙慧明常現在前故迴向。欲令一切常見諸佛現在前故迴向。欲令一切得明淨法門故迴向。欲令一切離諸恐怖。具無所畏菩提心門故迴向。欲令一切得菩薩不可思議諸住智門故迴向。欲令一切大悲救護悉得清淨

姓明作性

三本倶復次以下爲第二十三卷金剛幢菩薩廻向品第二十一之九〇音智明作智音〇智元明倶作音

故廻向。欲令一切。無餘佛刹皆悉莊嚴故廻向。欲令一切。除滅一切魔業鉤餌。及魔巧術故廻向。欲令一切。修菩薩行。不著一切佛刹故廻向。欲令一切。度一切佛法。得一切智廣大心故廻向。菩薩摩訶薩以此善根。欲令正念清淨故廻向。欲決定故廻向。欲攝取一切佛法分別了知故廻向。欲得無量無邊無礙智故廻向。欲得清淨正直心故廻向。欲令一切衆生。修習大慈心故廻向。修習大悲心故廻向。修習喜心故廻向。修習捨心故廻向。得二種無礙解脫。安住善根故廻向。欲分別一切緣起法故廻向。欲分別緣起法。得法化生心故廻向。欲得勇猛幢心故廻向。欲得不壞幢藏故廻向。欲壞一切魔故廻向。欲得一切清淨無礙法心故廻向。欲行一切菩薩行。得不退轉心故廻向。欲得樂求勝妙心故廻向。欲得一切功德法。自在智樂求一切智故廻向。欲滿一切願。滅一切惡。受離垢記。得佛自在。爲一切衆生。轉不退法輪故廻向。欲令如來諸妙勝法。無量智慧日光。莊嚴大智光明。普照一切衆生法界故廻向。欲調伏一切衆生皆悉歡喜。成就大願。盡未來劫。行菩薩行。滅諸煩惱。離垢清淨。壞裂愛網。除愚癡闇。具足離垢無礙之法。修行菩薩不退轉行。得一切種智故廻向。欲令一切衆生得無礙無上妙智慧身。示現無量諸佛身故廻向。菩薩摩訶薩。善根如是廻向。不著五欲。不依三界。何以故。菩薩摩訶薩。以無染汚善根廻向。遠離瞋恚善根廻向。捨離愚癡善根廻向。不可沮壞善根廻向。遠離憍慢善根廻向。除滅諂曲善根廻向。以正直心善根廻向。精勤修習善根廻向。菩薩摩訶薩。如是廻向時。得大歡喜。於菩薩行。得正希望。趣摩訶薩道。具佛種姓。得佛智慧。離一切惡。降伏衆魔。悉能調伏一切衆生。令善知識皆悉歡喜。已所修願。皆悉成滿。請一切衆生。設大施會。復次菩薩摩訶薩。以此法施善根。如是廻向。令一切衆生。皆悉具足清淨法音。得柔輭音。得和悅音。得不可思議音。得可愛樂音。得充滿一切佛刹音。得不可思議功德莊嚴音。得滅高大散亂音。得充滿法界淨妙音。得攝一切衆生音。令一切衆生。無得量音智。令一切衆生。得清淨妙音。令一切衆生。悉得音聲妙自在智。令一切衆生。得一切莊嚴音。令一切衆生。悉得妙音。衆生樂聞。無有厭足。令一切衆生。得解脫音。悉到彼岸。令一切衆生。得歡喜音。令一令衆生。得佛清淨語言音。令一切衆生。得佛音聲。具妙辭辯。遠離愚癡。令一切衆生。得莊嚴諸法妙陀羅尼。於一一法。說無量行。眷屬無數充滿法界。悉能聞持不可思議金剛正法。廣分別說。能以無量句身味

心下三本俱無令一切衆生五字

身。具足演說無量法藏。種種法相住無著處。得諸法明。令一切衆生。究竟薩婆若。攝一切法。以句身味身。於諸法義。得自在音。於無礙音。具足自在。得到彼岸。令一切衆生。得無憂音聲。得無畏音聲。得無染汙音聲。得功德音聲。得令眷屬歡喜音聲。得如法音聲。得諸佛法語言音聲。得疾除滅一切衆生疑網音聲。得具足辯才不斷音聲。得勝覺悟衆生音聲。復次菩薩摩訶薩。以此善根。如是廻向。令一切衆生。得淨法身。令一切衆生。得淨妙功德。令一切衆生。具諸相好。令一切衆生。得淨業報。令一切衆生。得清淨薩婆若心。令一切衆生。得無量清淨菩提之心。令一切衆生。得淨方便。悉能分便別衆生諸根。令一切衆生。得清淨性。令一切衆生。得清淨無礙行。滿足諸願。令一切衆生。得清淨正念智慧。不斷辯才。菩薩摩訶薩。以此善根。如是廻向。令一切衆生。得如是等清淨妙身。所謂明淨身。離濁身。究竟淨身。清淨身。離塵身。離種種摩身。離垢身。光明身。可愛樂身。無礙身。以如是身。普應十方一切世界。示一切業。示現衆生。普照一切。示現一切。猶如鏡像淨水之月。令一切衆生。悉得如是淨妙之身。示現衆生菩薩諸行。示現衆生諸深妙法。示現衆生無量功德。示現衆生眞實正道。示現衆生具足諸法。示現衆生一切大願。住於一刹。示現一切世界如來出世。示現一切諸佛神足自在。現自受持菩薩不思議解脫。示現普賢諸行一切願智。菩薩摩訶薩。善根如是廻向。令一切衆生。成就一切功德智身。復次菩薩摩訶薩。以此法施所攝善根。如是廻向。令一身徧一切世界。行菩薩行。衆生見者。皆悉不空。得不退轉菩提之心。令一切衆生。隨順眞實。得不壞心。令一切衆生。於一切世界。盡未來劫。行菩薩道。而無厭足。具法界等大慈悲心。教化衆生。未曾失時。分別諸根。念善知識。於一念中。悉見現在一切諸佛。正念如來。未曾暫捨。修諸善根。無有虛欺。安立衆生於一切智。悉得不退清淨法輪。悉得一切諸佛法明。受持一切諸佛法雨。行菩薩行。入一切衆生。入一切刹。入一切法。入一切世間。入一切三世。入一切衆生諸業報智。入一切菩薩巧方便智。入一切菩薩出生智。入一切菩薩淨境界智。入一切佛住持境界。入一切無量無邊法界。修菩薩行。安住諸住。是爲菩薩摩訶薩法施善根廻向。復次菩薩摩訶薩。諸善根業。如是廻向。令一切佛刹。皆悉清淨。以無量莊嚴具而莊嚴之。令一佛刹。廣大如法界。如一佛刹。一切佛刹。亦復如是。得最正覺。於一佛刹。皆悉顯現一切佛刹。如一佛刹。一切佛刹。亦復如是。彼一一刹。以法界等諸莊嚴

帳同作懸

具、而莊嚴之。無量阿僧祇衆寶莊嚴。無量阿僧祇清淨衆寶高座。諸妙寶衣。以敷其上。無量阿僧祇衆妙寶帳。一切寶鈴。諸寶垂帶。以爲莊嚴。無量寶蓋。以帳其上。無量寶雲。雨一切寶。散衆寶華。見者無厭。無量妙寶。以爲欄楯。妙寶樓閣。而莊嚴之。無量寶鈴。自然演暢諸佛妙法。無量寶華。周徧充滿。衆妙寶色。以爲莊嚴。無量寶樹。充滿其剎。出生無量妙寶華果。無量妙寶。以爲宮殿。妙寶樓觀。徧遊諸剎。無量妙寶。以爲欄楯。大寶莊嚴。無量妙寶。爲徧樓閣。一切淨寶。而莊嚴之。無量寶門。種種寶鬘。而嚴飾之。無量珍寶半月形像。悉以衆寶而莊嚴之。無量無數不可思議珍寶莊嚴。諸佛淨業善根所足。無量寶藏莊嚴。又以衆寶。而莊嚴之。流出無量清淨寶河。常流正法。未曾斷絕。無量法海。周徧其剎。正法淨水。湛然充滿。無量阿僧祇寶分陀利華。皆悉充滿。自然演出正法華音。無量阿僧祇須彌寶山莊嚴。智慧須彌皆悉具足。無量阿僧祇八楞妙寶莊嚴。諸寶瓔珞以爲垂帶。無量阿僧祇明淨寶莊嚴。放大慧光。普照法界。無量阿僧祇寶鈴莊嚴。自然演出微妙音聲。無量阿僧祇衆寶階道。以爲莊嚴。菩薩妙寶皆悉充滿。無量阿僧祇寶繒莊嚴。不可思議寶色清淨。建立無量阿僧祇寶幢莊嚴。半月寶像而嚴飾之。無量阿僧祇寶幡莊嚴。悉能普雨無量寶幡。無量阿僧祇寶繒莊嚴。充滿世界莊飾虛空。敷無量立僧祇細輭寶衣。以爲莊嚴。無量阿僧祇衆寶放流。以爲莊嚴。示現菩薩清淨一切智眼。無量阿僧祇寶鬘莊嚴。一一寶鬘百千菩薩。以爲嚴飾。無量阿僧祇衆寶宮殿莊嚴。悉能除滅諸處所愛。無量阿僧祇衆寶莊嚴金剛摩尼。以爲嚴飾。無量阿僧祇雜寶莊嚴。示現無量清淨妙色。無量阿僧祇金剛圍山莊嚴。清淨明徹無所障礙。無量阿僧祇妙香莊嚴。其香普熏一切世界。出生無量阿僧祇諸變化身。一一化身與法界等。各放無量阿僧祇妙寶光明。一一光明。出一切光無量阿僧祇明淨寶光。以爲照耀。能發衆生淨智慧光。放無量阿僧祇無礙寶光。一一光明。普照法界。無量阿僧祇衆寶莊嚴。一一寶中。具一切寶。無量阿僧祇寶藏莊嚴。自然演說諸法寶藏。無量阿僧祇寶幢莊嚴。建立如來妙智慧幢。無量阿僧祇賢寶莊嚴。具足清淨大乘賢寶。無量阿僧祇寶園莊嚴。菩薩三昧清涼悅樂。無量阿僧祇諸妙寶音自然演出。一一音中。出如來音。充滿十方。無不聞者。無量阿僧祇寶像莊嚴。一一像身普放無量法寶光明。無量阿僧祇悉相莊嚴。一切衆相無相莊嚴。無量阿僧祇寶威儀莊嚴。見者樂求菩薩威儀。無量阿僧

祇長養衆寶莊嚴。出生一切妙寶華蓋。無量阿僧祇衆寶安住莊嚴。一切衆寶。而嚴飾之。無量阿僧祇寶衣莊嚴。皆悉普覆。具足菩薩無量三昧。無量阿僧祇妙衣莊嚴。其發心者。即得菩薩善現等諸陀羅尼。無量阿僧祇修寶莊嚴。悉能分利業寶報應決定清淨。無量阿僧祇無礙知見妙寶莊嚴。若有見者。悉得諸法清淨法眼。無量阿僧祇寶天冠莊嚴。具足成就智慧天冠。無量阿僧祇寶座莊嚴。成佛清淨寶師子座。然無量阿僧祇明淨寶燈。具足明淨妙智慧燈。無量阿僧祇寶多羅樹莊嚴。一一多羅樹。以寶瓔珞。而嚴飾之。無量阿僧祇衆寶涼臺。以爲莊嚴。無量阿僧祇寶樹莊嚴。不思議鳥棲集其上。出妙音聲。無量阿僧祇妙寶化華莊嚴。一一華上無量菩薩。結跏趺坐。徧遊法界。無量阿僧祇菓實莊嚴。具薩婆若大智慧果。無量阿僧祇衆寶聚落莊嚴。皆悉修習清淨正法。無量阿僧祇寶宅莊嚴。衆寶街巷人民充滿。無量阿僧祇大王寶都莊嚴。彼諸大王勇猛精進被大法鎧。於無上道。堅固不退。無量阿僧祇寶舍莊嚴。除滅一切房室貪愛。無量阿僧祇寶衣莊嚴。隨意受用無所貪著。無量阿僧祇寶家莊嚴。捨家出家菩薩充滿其中。無量阿僧祇無厭足寶莊嚴。見者能生無量歡喜。無量阿僧祇寶輪莊嚴。放不思議智慧光明。轉不退輪。無量阿僧祇妙寶行樹莊嚴。以清淨因挪尼羅寶。而莊校之。無量阿僧祇寶地莊嚴。分別示現不思議寶。無量阿僧祇樂器莊嚴。出自然音。充滿法界。無量阿僧祇樂器莊嚴。盡未來際。常出法音。未曾斷絕。無量阿僧祇寶身莊嚴。充滿其刹。悉能受持一切法寶。無量阿僧祇清淨寶口莊嚴。具足一切功德藏寶。出無量阿僧祇淨寶言音。常說無量淨妙法寶。無量阿僧祇清淨寶心莊嚴。得正直寶。一切智願皆悉充滿。無量阿僧祇清淨寶念莊嚴。除滅愚癡。得一切智無上寶王。無量阿僧祇清淨寶趣莊嚴。悉能攝受一切諸佛正法之寶。無量阿僧祇菩薩寶慧莊嚴、決定善知一切佛法。無量阿僧祇不放逸寶智慧莊嚴。一切智寶皆悉充滿。無量阿僧祇清淨寶眼莊嚴。於一切十力寶。無所障礙。無量阿僧祇清淨寶耳莊嚴。善能聽聞一切法界微妙音聲。而無障礙。無量阿僧祇清淨寶鼻莊嚴。聞淨寶香。而無厭足。無量阿僧祇清淨寶廣長舌莊嚴。善說一切諸語言法。無量阿僧祇清淨寶身莊嚴。遊行十方。而無罣礙。無量阿僧祇清淨寶意莊嚴。悉能修習普賢菩薩一切大願。無量阿僧祇清淨寶音莊嚴。微妙音聲。皆悉充滿一切世界。無量阿僧祇寶身業莊嚴。具足一切智慧寶業。無量阿僧

棲三本俱作栖
菓同作菓

復下同有次字

淨上同有清字

恚及法下明故有改廻向三字○德下三本俱無力字而有故廻向令一切衆生力不可壞故廻向十五字

祇寶口業莊嚴。廣說無量智慧妙寶。無量阿僧祇清淨寶意業莊嚴。究竟一切無礙寶智。菩薩摩訶薩復如是念。於彼一切諸如來剎。於一佛剎一方一毛道中。成就無量無數不可思議清淨智慧。諸大菩薩皆悉充滿。如一佛剎一方一毛道。盡虛空法界等一切佛剎一切方一切毛道。亦復如是。是爲菩薩摩訶薩廻向妙寶莊嚴一切佛剎。如寶莊嚴一切佛剎。廣說香莊嚴。乃至究竟無量清淨妙香意業無礙寶智。亦復如是。廣說華莊嚴。乃至究竟淨華意業無礙寶智。亦復如是。廣說鬘塗香。末香。衣蓋幢幡。乃至百事莊嚴。亦復如是。如是菩薩摩訶薩。以此法施等所攝善根廻向。長養善根故廻向。嚴淨佛剎故廻向。令一切衆生。清淨平等故廻向。令一切衆生。除滅瞋恚。令一切衆生。具足平等甚深佛法。令一切衆生。具足平等不可壞清淨功德力。令一切衆生。悉得平等無盡智慧。度諸佛法。令一切衆生。悉得平等清淨梵音。令一切衆生。悉得平等無礙淨眼。究竟虛空法界等無礙智。令一切衆生。悉得清淨平等正念。盡過去劫。令一切衆生。悉得平等無礙智。決定了知一切諸法。令一切衆生。悉得平等菩提。充滿法界。無所障礙。令一切衆生。悉得平等諸妙善根。令一切衆生。悉得平等身口意業。具足功德莊嚴清淨。令一切衆生。悉得平等普賢菩薩一切所行。令一切衆生。悉得平等清淨佛剎。令一切衆生。悉得平等具足。深入一切智行。令一切衆生。離一切惡。悉得平等善根廻向。令一切衆生。悉得平等一切知見。皆能分別他人心念。令一切衆生。悉得平等。安住白法。令一切衆生。悉得平等。於一念中。具一切智。究竟滿足無上菩提。令一切衆生。成就一切平等道行。清淨具足。菩薩摩訶薩。以此善根。普爲一切平等廻向。令一切衆生。悉得清淨分別諸法之力。廣爲衆生解脫廻向。菩薩摩訶薩。復作是念。以此善根。令一切衆生。修菩薩淨行。得無量法海。於一一法海無量法界等。清淨智慧。普照法界。令一切衆生。分別解說一切句義。令一切衆生。悉得一切法明三昧。普照諸法。令一切衆生。皆悉具足隨順三世諸佛辯才。令一切衆生。得三世佛自在之身。令一切衆生。得無礙善根。起佛法愛。不退大悲。救護衆生。令一切衆生。得無礙智不思議法。能淨歡喜一切衆會。令一切衆生。於一切佛剎。飜覆佛剎。俯伏佛剎。微細佛剎。廣大佛剎。清淨佛剎。穢濁佛剎。於如是等諸佛剎中。悉轉清淨不退法輪。令一切衆生。於念念中。悉得無盡無所畏辯。廣說佛法不可窮盡。令一切衆生。常樂一向專求勝法。於一切法。得智慧自在。令一切

圓下宋無滿字〇向下三本俱有法界二字

佛同作法

衆生、皆悉歡喜、廣說一切法、復次菩薩摩訶薩、安住法界無量善根迴向、法界無量身業迴向、法界無量口業迴向、法界無量意業迴向、法界無量妙色迴向、法界無量妙受想行識迴向、法界無量平等陰迴向、法界無量平等界迴向、法界無量平等入迴向、法界無量內平等迴向、法界無量外平等迴向、法界無量勇猛精進平等迴向、法界無量正直心平等迴向、法界無量方便平等迴向、法界無量性平等迴向、法界無量諸根平等迴向、法界無量三世平等迴向、法界無量業報平等迴向、法界無量離諸煩惱清淨平等迴向、法界無量一切衆生平等迴向、法界無量一切佛刹平等迴向、法界無量一切諸法平等迴向、法界無量一切世間平等迴向、法界無量一切諸佛菩薩平等迴向、法界無量一切菩薩行願平等迴向、法界無量一切菩薩平等道迴向、法界無量一切菩薩成就一切善根迴向、法界無量一切諸法平等無二迴向、法界無量一切如來眷屬圓滿平等迴向、菩薩摩訶薩、如是迴向時、安住法界等無量清淨身業、安住法界等無量清淨口業、安住法界等無量清淨意業、安住法界等無量清淨行願、安住法界等無量清淨眷屬、安住法界等無量一切菩薩清淨智慧、廣說諸法、安住法界等無量清淨身充滿一切世界法界、得一切法明清淨無畏、以一言音、悉除一切衆生疑惑、皆令歡喜、調伏諸根、安立無上智、諸力無畏、一切自在力、佛無量功德、上妙法中、佛子、是爲菩薩摩訶薩第十法界等無量迴向、菩薩摩訶薩、以此法施等一切善根、悉迴向已、成就普賢菩薩無量無邊一切行願、悉能嚴淨無量無邊虛空法界等一切佛刹、令一切衆生亦復如是、具足成就無量無邊智慧、深入一切法、於念念中、示現無量無數一切世界諸佛出世、悉得無量無邊諸佛自在、悉得無量無邊如來自在、悉得無量無邊廣大自在、悉得無量無邊無礙自在、悉得無量無邊無障自在、悉得無量無邊不可思議自在、悉得無量無邊令一切衆生清淨自在、悉得無量無邊一切世界住持自在、悉得無量無邊一切不可言說自在、悉得無量無邊一切時自在、悉得無量無邊一切諸通無礙智自在、悉得無量無邊廣說諸法充滿法界自在、悉得無量無邊滿足普賢菩薩淨眼、悉得菩薩無量無邊淨耳、聞持諸佛所說正法、能以一身結跏趺坐、充滿十方一切世界而不迫迮、一切衆生、悉得無量無邊具足深入三世智慧、悉得無量無邊清淨菩提、清淨衆生清淨佛刹、清淨諸佛、清淨諸入、悉得無量無邊虛空法界等清淨智慧、悉得

揵同作乾

知其三本俱作皆知

礙同作疑

無量無邊衆生語言音聲清淨智慧。放大光明。普照十方一切世界。出生三世諸菩薩行。清淨智慧。於一念中。皆悉究竟三世如來清淨智慧。令一切衆生。皆悉清淨。具足成就平等正觀。決定智慧。究竟到彼岸。爾時佛神力故。十方各百萬佛刹微塵等世界。六種震動。佛神力故。法如是故。雨天華雲。雨天鬘。天末香。天寶衣。天莊嚴。天香。天摩尼寶。天沈水香。天阿伽樓香。天婆羅揵馱香。天堅固香。天栴檀香。天雜色幡蓋。無量阿僧祇天身。不可思議微妙法音。不可思議諸天。妙音讚歎如來。無量阿僧祇諸天。讚歎善哉雲雨。無量阿僧祇那由他諸天。恭敬禮拜。無量阿僧祇那由他諸天。歡喜念佛。修習不可思議諸佛功德。無量阿僧祇諸天。出娛樂音。供養如來。放無量阿僧祇廣大光明。出過諸天。普照虛空法界等一切佛刹。示現無量阿僧祇如來化身。自在威力。出過諸天。如此世界。一切四天下。兜率陀天。刪兜率陀天王宮。說如是法。一切十方世界。刪兜率陀天王宮。亦復如是。爾時佛神力故。十方各過百萬佛刹微塵等世界。各有百萬佛刹微塵等菩薩。悉來雲集。咸作是言。善哉善哉。佛子。乃能說此諸大迴向。我等悉同一號。名金剛幢。於金剛光世界金剛幢佛所。來詣此土。彼諸世界。佛神力故。亦說是法。大會眷屬。說法句味。皆悉同等。我等承佛神力。從彼土來。爲汝作證。如我來此世界爲汝作證。一切十方一切四天下。刪兜率陀天王宮。摩尼寶殿上。說如是法。往爲作證。亦復如是。爾時金剛幢菩薩。承佛神力。觀察十方。及諸眷屬。一切法界諸義句味。修習無量廣大之心。無上大悲普覆一切。其心安住三世一切諸佛種性。悉究竟度諸佛功德。成就諸佛自在寶身。悉能分別一切衆生希望心行。隨彼所種善根。悉知其時。隨順法身。示現色身。如是觀已。以偈頌曰

菩薩受此　無量法寶　自然正覺　大法師記　爲調御師　普照諸法　善悟無礙　最正覺道　菩薩爲法
調御大師　能廣演說　難得深法　十方一切　無量大衆　皆悉安立　諸正法門　菩薩悉飲　無量法海
興大法雲　普雨法雨　耀明法日　普照世間　說微妙法　饒益衆生　此法施主　甚難値遇　具足成就
諸法方便　以智慧明　普照其心　爲世無畏　廣說深法　善能修習　變化之心　廣能開發　諸正法門
成就諸門　最勝法海　普爲世間　擊甘露鼓　能具足說　難得妙法　以法長養　一切功德　清淨正法

眞直之法　示現衆生　甚深法藏　最勝授彼　灌頂法王　具足成就　智慧藏身　無相妙智　觀法眞相
菩薩善法　而得安住　菩薩法施　最爲殊勝　一切諸佛　咸共讚歎　隨順一切　天中之天　彼能出生
一切諸佛　菩薩清淨　微妙法身　悉從諸佛　眞法化生　明淨法燈　饒益衆生　說無量法　除滅憂惱
菩薩布施　清淨妙法　隨順思惟　一切善根　無量世界　所作功德　清淨智慧　皆悉迴向　一切諸佛
所得功德　悉令衆生　具足成就　分別一切　清淨功德　究竟諸佛　莊嚴彼岸　十方一切　無量無數
諸如來等　嚴淨佛刹　如是一切　無餘佛土　衆生莊嚴　不可思議　一切如來　所有智慧　悉令衆生
清淨具足　猶如普賢　菩薩莊嚴　悉令衆生　亦復如是　具足成就　無量自在　充滿無餘　一切世界
一切十方　無餘衆生　皆悉安住　彼清淨行　十方無量　一切佛刹　彼諸如來　行菩薩行　悉令十方
一切衆生　究竟成就　無上勝行　一切佛子　行佛功德　無量無邊　不可稱數　諸佛如來　悉分別知
皆令衆生　具足成就　菩薩具足　諸神通力　悉能善學　一切所學　遊行十方　一切世界　示現無量
自在神力　菩薩能於　一念之中　悉見諸佛　與衆生等　菩薩能於　一毛道中　悉見一切　諸佛正法
一切衆生　無量諸行　一切最勝　悉分別知　常平等心　恭敬供養　一切十方　無量諸佛　種種衆香
諸雜寶華　無量寶衣　及諸幡蓋　悉皆充滿　無量法界　以用供養　一切諸佛　菩薩能於　一毛道中
悉見諸佛　數不可議　普能供養　世間明燈　其所聞法　悉能受持　恭敬禮拜　五體投地　擧身自歸
一切最勝　盡未來際　無量諸劫　讚歎十方　一切最勝　於一佛所　諸供養具　數與一切　衆生類等
如一佛所　諸供養具　一切佛所　亦復如是　無量無邊　一切諸劫　菩薩恭敬　一切導師　窮盡無量
一切諸劫　恭敬供養　而無厭足　一切衆生　無量諸劫　於此劫中　修菩薩行　恭敬供養　一一如來
盡一切劫　而無厭足　一切最勝　所說大劫　悉皆有能　稱量數者　爾所一切　諸大劫中　修菩薩行
而無厭足　悉能覺悟　一切法界　廣大無邊　無有分際　衆妙寶華　充滿其中　以用供養　衆生等佛
諸妙寶華　色香具足　清淨鮮潔　無量莊嚴　一切世間　無可爲譬　而以供養　一切最勝　衆生數等

無量佛刹　諸妙寶蓋　彌滿其中　悉以此蓋　奉一如來　供一切佛　亦復如是　微妙最勝　奇特塗香
一切世間　無有倫匹　以此塗香　盡衆生劫　供養一切　諸佛如來　如是末香　種種雜華　微妙香熏
無量寶衣　無數妙寶　諸莊嚴具　以供如來　而無厭足　衆生數等　一切諸佛　於一念中　悉成正覺
以無量偈　讚歎宣揚　恭敬供養　天人導師　衆生數等　世間明智　菩薩無上　殊勝供養　衆生數等
一切諸劫　如來歎德　猶不能盡　如是供養　一切諸佛　具足成就　如來自在　安住普賢　菩薩所行
悉能覩見　一切諸佛　已作未作　及現所作　無量無數　一切善根　修習普賢　菩薩所行　安住普賢
菩薩諸地　一切世間　悉無有餘　諸佛所知　衆生種類　悉令成就　智慧明達　猶如普賢　菩薩所得
如佛所說　一切諸行　菩薩悉能　具足修習　悉以迴向　一切衆生　普令成就　無上迴向　一切十方
諸如來刹　悉能覺悟　了達其因　悉令一切　無餘衆生　皆與普賢　菩薩齊等　成就布施　悉如迴向
持戒具足　如普賢力　勇猛精進　而不退轉　成就忍辱　不可沮壞　善入甚深　諸禪正受　分別了知
一切三昧　清淨智慧　了達三世　一切世間　所不能知　身口諸業　及與意業　音聲語言　皆悉清淨
究竟成就　菩薩諸行　悉與普賢　菩薩齊等　譬如如如　一切法界　捨離憍慢　諸散亂心　永滅障礙
普皆清淨　悉令衆生　亦復如是　如是殊妙　最勝迴向　一切如來　之所演說　以此無量　善根迴向
具足成就　菩薩所行　一切無餘　諸佛眞子　善修行此　深迴向法　攝取一切　微妙法界　深入安住
諸善逝力　若有樂求　此殊勝行　如來所說　甚深彌廣　此諸佛子　皆悉安住　具足成就　猶如普賢
一切衆生　尚可知數　一切三世　心猶可知　普賢菩薩　功德深廣　無量無邊　不可了知　一毛可量
十方虛空　一切刹塵　悉可知數　殊勝大仙　眞佛子等　所住功德　不可稱量

大方廣佛華嚴經卷第二十二

大方廣佛華嚴經卷第二十三

〔麗坐〕〔宋朝〕〔元朝〕〔明朝〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

十地品第二十二之一

爾時世尊。在他化自在天王宮。摩尼寶殿上。與大菩薩衆俱。於阿耨多羅三藐三菩提。皆不退轉。從他方世界。俱來集會。此諸菩薩。一切菩薩智慧行處。悉得自在。諸佛如來智慧入處。悉皆得入。善能教化一切世間。於念念中。善能示現神通等事。具足一切菩薩所願。於一切世一切劫一切國土。常修一切諸菩薩行。具足菩薩福德智慧。而無窮盡。能爲一切而作饒益。能到一切菩薩智慧方便彼岸。能令善生。背生死道。向涅槃門。不斷一切菩薩所行。善遊一切菩薩禪定。解脫三昧。神通明慧。諸所施爲。善能示現一切菩薩無作神足。皆悉已得。於一念頃。能至十方諸佛大會。勸發諸請。受持法輪。常以大心供養諸佛。常能修習諸大菩薩所行事業。其身普現無量世界。其音徧聞。無所不至。其心通達。明見三世。一切菩薩所有功德。具足修習。如是諸菩薩摩訶薩。功德無量無邊。於無數劫。說不可盡。其名曰金剛藏菩薩。寶藏菩薩。蓮華藏菩薩。德藏菩薩。蓮華德藏菩薩。日藏菩薩。月藏菩薩。淨月藏菩薩。照一切世間莊嚴藏菩薩。智慧照明藏菩薩。妙德藏菩薩。栴檀德藏菩薩。華德藏菩薩。優鉢羅華德藏菩薩。天德藏菩薩。福德藏菩薩。無礙清淨智德藏菩薩。功德藏菩薩。那羅延德藏菩薩。無垢藏菩薩。離垢藏菩薩。種種樂說莊嚴藏菩薩。大光明網藏菩薩。淨明威德王藏菩薩。大金山光明威德王藏菩薩。一切相莊嚴淨德藏菩薩。金剛|燄德相莊嚴藏菩薩。|燄熾藏菩薩。宿王光照藏菩薩。虛空無礙妙音藏菩薩。陀羅尼功德持一切世間願藏菩薩。海莊嚴藏菩薩。須彌德藏菩薩。淨一切功德藏菩薩。如來藏菩薩。佛德藏菩薩。解脫月菩薩。如是等菩薩摩訶薩。無量無邊。不可思議。不可稱說。金剛藏菩薩。而爲上首。爾時金剛藏菩薩摩訶薩。承佛威神。入菩薩大智慧光明三昧。即時十方世界。於一方|過億佛土微塵數世界。有十億佛土微塵|數佛。皆現其身。名金剛藏。十方世

過下三本俱有十字〇數下元明俱有諸字

慧下三本俱有力字

辯下同有才字

中明作仲

時上三本俱有爾字

界皆亦如是。同聲讚言。善哉善哉。金剛藏。乃能入是菩薩大智慧光明三昧。如是十方世界微塵數等諸佛。皆同一號。加汝威神。所謂盧舍那佛本願力故。大威神力故。汝有大智慧故。欲宣一切菩薩不可思議諸佛法明故。所謂入智慧地故。攝一切善根故。善分別一切佛法故。廣法智故。決定說諸法故。無分別智善分別故。一切世間法不能染故。出世間善根清淨故。得不可思議智力故。得一切智人智境界故。所謂如實說菩薩十地差別故。菩薩安住十地故。分別說無漏法故。大智慧光明善分別以自莊嚴故。入具足智門故。隨所應住次第說故。得無礙樂說光明故。具足大無礙智地故。不忘失菩薩心故。教化成熟一切衆生界故。得至一切處決定智故。金剛藏。汝當說此法門差別。所謂諸佛神力故。汝能堪受如來智慧神力故。自善根清淨故。清淨法界故。饒益衆生故。入法身智身故。於一切佛。得授記故。得一切世間高大身故。過一切世間道故。淨出世間善根故。卽時十方諸佛與金剛藏眞實無上身。與無障礙樂說辯。與善分別清淨智慧。與善憶念不忘。與善決定慧。與至一切智處。與諸佛無壞力。與諸佛無所畏。與諸佛無礙智分別諸法善開法門。與一切諸佛上妙身口意業。何以故以得菩薩大智慧光明三昧故。亦是菩薩本願力故。直心清淨故。智慧明白故。善集助道法故。善修本業故。念持無量法故。信解清淨光明法故。善得陀羅尼門不可壞故。法界智印善印故。爾時十方諸佛。皆申右手。摩金剛藏菩薩頂。金剛藏菩薩卽從三昧起。告諸菩薩言。諸佛子。是諸菩薩願決定。無有過。不可壞。廣大如法界。究竟如虛空。徧覆一切十方諸佛世界衆生。爲救度一切世間。爲一切諸佛神力所護。何以故。諸菩薩摩訶薩。入過去諸佛智地。亦入未來現在諸佛智地。何等是諸菩薩摩訶薩智地。菩薩摩訶薩智地有十過去未來現在諸佛已說今說當說。爲是地故。我如是說。何等爲十。一曰歡喜。二曰離垢。三曰明。四曰燄。五曰難勝。六曰現前。七曰遠行。八曰不動。九曰善慧。十曰法雲。是十地者。三世諸佛已說今說當說。我不見有諸佛國土。不說是十地者。何以故。此十地是菩薩最上妙道。最上明淨法門。所謂分別十地事。諸佛子。是事不可思議。所謂菩薩隨順諸地智慧。金剛藏菩薩。說諸菩薩十地名已。默然而住。不復分別。時一切菩薩聞說菩薩十地名已。咸皆渴仰。欲聞解釋。各作是念。何因何緣。金剛藏菩薩。說十地名已。默然而住。時大菩薩衆中有菩薩。名解脫月。知諸菩薩心之所念。以偈問曰

時上同有爾字

沒同作悶

善下同有能字

佛下同有神字

無明作於

墮惡道三本俱作墜惡趣

佛下同有神字

淨念智慧人　何故說菩薩　諸地名號已　默然不解釋　今諸大菩薩　心皆懷猶豫　何故說是名
而不演其義　大智諸菩薩　咸皆欲聽聞　如是諸地義　願爲分別說　是諸菩薩衆　淸淨無瑕穢
安住堅實中　具足智功德　皆以恭敬心　瞻仰於仁者　願欲聞所說　如渴思甘露

時。金剛藏菩薩。聞說是已。欲令衆悅。以偈答曰

諸菩薩所行　第一難思議　分別是十地　諸佛之根本　微妙甚難見　非心所能及　從佛智慧出
若聞則迷沒　持心如金剛　深信佛智慧　以爲第一妙　心無有疑難　遠離計我心　及心所行地
如是諸菩薩　爾乃能聽聞　寂滅無漏智　分別說甚難　如畫於虛空　如執於疾風　我念佛智慧
第一難思議　衆生少能信　是故我默然

解脫月菩薩。聞說此已。語金剛藏菩薩言。佛子。是大菩薩衆直心淸淨。善行菩薩道。善集助道法。善恭敬供養諸佛。於無量佛。多種善根。成就無量深厚功德。離癡疑悔。無有貪著。及諸結礙。深心信解。安住不動。於是法中。不隨他教。是故佛子。當承佛力。敷演此義。是諸菩薩。於是深法。皆能證知。時解脫月菩薩。欲重宣此義。以偈頌曰

願說安隱法　菩薩無上行　分別於諸地　令智慧淸淨　衆智淨無垢　安住深信解　於諸無量佛
證知十地義

金剛藏菩薩言。佛子。是諸大衆。雖皆淸淨離癡疑悔。於是法中。不隨他教。其餘樂小法者。聞是甚深難思議事。或生疑悔。是人長夜受諸衰惱。我愍此等。是故默然。時金剛藏菩薩。欲重宣此義。以偈頌曰

是衆雖淸淨　深智離疑悔　其心已決定　不復隨他教　無動如須彌　不亂如大海　其餘不久行
智慧未明了　隨識不隨智　聞已生疑悔　彼將墮惡道　愍念故不說

解脫月菩薩言。佛子。願承佛力。善分別此不可思議法。佛所護念事。令易信解。所以者何。善說十地義。十方諸佛法應護念。一切菩薩護是事故。勤行精進。何以故。是菩薩最上所行。得至一切諸佛法故。譬如一切文字皆初章所攝。初章爲本。無有一字不入初章者。如是佛子。十地者是一切佛法之根本。菩薩具足行是十地。能得一切智

三本俱爾時以下爲卷第二十四十地品第二十二之二

慧。是故佛子。願說此義。諸佛護念。加以神力。令人信受。不可破壞。時解脫月菩薩。欲明顯此義。以偈頌曰

善哉智慧子　清淨行具足　願說十地行　所入十地方　具足於智慧　得以成菩提　所有十方佛
最勝人中尊　皆共護念汝　說是十地義　十地爲根本　是名智行處　亦爲究竟道　佛無量法衆
譬如諸文字　皆攝在初章　諸佛功德智　十地爲根本

爾時諸菩薩。一時同聲以偈請金剛藏菩薩言

上妙智慧人　樂說無有量　德重如山王　哀愍說十地　戒念慧清淨　說是十地義　十力之根本
無礙智本行　戒定慧功德　集在仁者心　憍慢諸邪見　皆悉已滅盡　是衆無疑心　唯願聞善說
譬病思良醫　如飢思美膳　我等亦如是　聞甘露法味　是故曠大意　願開初地門　乃至第十地
次第爲我說

爾時釋迦牟尼佛。從眉間白毫相。放菩薩力光明。百千阿僧祇光。以爲眷屬。普照十方諸佛世界。靡不周徧。三惡道苦。皆得休息。悉照十方諸佛大會說法之衆。顯現如來不思議力。是光明徧照十方諸佛大會諸菩薩身已。於上虛空中。成大光明雲臺。十方諸佛亦復如是。從眉間白毫。俱放菩薩力光明。百千阿僧祇光。以爲眷屬。普現如來不思議力。悉照一切諸佛大會。及娑婆世界釋迦牟尼佛一切大衆。幷金剛藏菩薩。及師子座。照已。上於虛空中。成大光明雲臺。時諸大光明雲臺中。諸佛神力故。而說頌曰

無等等諸佛　功德如虛空　十方無畏等　最尊世間主　於釋迦佛前　而現此神力　以佛力開現
法王無畏藏　說諸地所行　諸地義差別　承諸佛神力　無有能壞者　若人聞法寶　則爲諸佛護
漸次具諸地　得以成佛道　若人堪任聞　雖在於大海　及劫盡火中　必得聞此經　若人癡疑悔
終不能得聞　是故今佛子　說諸地智道　入勢力觀法　次第而修行　得至於餘地　各得所利益
利一切世間　願說勿令斷

爾時金剛藏菩薩。觀察十方。欲令大衆。增益信敬。以偈頌曰

諸佛聖主道　微妙甚難解　非思量所得　唯智者行處　其性從本來　寂然無生滅　從本已來空
滅除諸苦惱　遠離於諸趣　等同涅槃相　無中亦無後　非言辭所說　出過於三世　其相如虛空
諸佛所行處　清淨深寂滅　言說所難及　地行亦如是　說之猶尚難　何況以示人　諸佛之智慧
離諸心數道　不可得思議　非有陰界入　但以智可知　非識之所及　如空迹難說　何可示其相
十地義如是　非心意所行　是事雖爲難　發願行慈悲　漸次具諸地　智者所能及　如是諸地行
微妙甚難見　不可以心知　當承佛力說　汝等當恭敬　咸共一心聽　智慧所隨順　諸地相入行
於無量億劫　說之不可盡　今如實略說　其義無有餘　一心恭敬待　今承佛力說　大音唱因諭
義名不相違　佛神力無量　今皆在我身　我之所說者　如大海一渧

金剛藏菩薩。說此偈已。告於大衆。諸佛子。若衆生厚集善根。修諸善行。善集助道法。供養諸佛。集諸清白法。爲善知識所護。入深廣心。信樂大法。心多向慈悲。好求佛智慧。如是衆生。乃能發阿耨多羅三藐三菩提心。爲得一切種智故。爲得十力故。爲得大無畏故。爲得具足佛法故。爲救一切世間故。爲淨大慈悲心故。爲向十方無餘無礙智故。爲淨一切佛國令無餘故。爲於一念中知三世事故。爲自在轉大法輪廣示現佛神力故。菩薩摩訶薩生如是心。諸佛子。是心以大悲爲首。智慧增上。方便所護。直心深心淳至。量同佛力。善決定衆生力佛力。趣向無礙智。隨順自然智。能受一切佛法。以智慧教化。廣大如法界。究竟如虛空。盡未來際。菩薩發如是心。卽時過凡夫地。入菩薩位。生在佛家。種姓尊貴。無可譏嫌。過一切世間道。入出世間道。住菩薩法中。在諸菩薩數。等入三世如來種中。畢定究竟阿耨多羅三藐三菩提。菩薩住如是法。名住歡喜地。以不動法故。諸佛子。菩薩摩訶薩。住歡喜地。多喜。多信。多清淨。多踊悅。多調柔。多堪受。不好鬪諍。不好惱亂衆生。不好瞋恨。諸佛子。諸菩薩住。是歡喜地。念諸佛故。生歡喜心。念諸佛法故。生歡喜心。念諸菩薩摩訶薩故。生歡喜心。念諸菩薩所行故。生歡喜心。念諸波羅蜜清淨相故。生歡喜心。念諸菩薩與衆殊勝故。生歡喜心。念諸菩薩力不可壞故。生歡喜心。念諸如來教化法故。生歡喜心。念能爲利益衆生故。生歡喜心。念一切佛一切菩薩所入智慧方便門故。生歡喜心。菩薩復作是念。我轉離

寶三本俱作實○無下同有所字○助上同無善字

具下三本俱有足字

轉明作諸

一切世間境界。生歡喜心。入一切佛平等中。生歡喜心。遠離凡夫地。生歡喜心。近智慧地。生歡喜心。斷一切惡道。生歡喜心。與一切衆生作依止。生歡喜心。近見一切諸佛。生歡喜心。生諸佛境界。生歡喜心。入一切諸菩薩數。生歡喜心。離一切恐怖。生歡喜心。所以者何。是菩薩得歡喜地。所有怖畏。卽皆遠離。所謂不活畏。惡名畏。死畏。墮惡道畏。大衆威德畏。離如是等一切諸畏。何以故。是菩薩離我相故。尙不貪身。況所用物。是故菩薩無不活畏。心不希望恭敬供養。我應供養衆生。供給所須。是故菩薩無惡名畏。遠離我見。無我相故。無有死畏。又作是念。我若死已。所生必見諸佛菩薩。是故無有墮惡道畏。我所志樂。無與等者。何況有勝。是故無有大衆威德畏。如是菩薩永離一切諸恐怖事。諸佛子。是菩薩以大悲爲首。於一切衆生。心無嫌恨。直心堅固自然淸淨。轉復勤修一切善根。所謂信心增上。多行淨心。解心淸淨。多以信心分別。出生大悲。成就大慈心。不疲懈。以慙愧莊嚴。成就忍辱柔和。敬順諸佛敎法。信重善知識。日夜常修一切善根。常愛樂法。求多聞無厭。如所聞法正念觀察。心不貪著。不求名聞。不求利養資生之物。常生寶心無有厭足。樂一切智地。欲得諸佛。力無畏。不共法。求助諸波羅蜜法。離諸諂曲。如說能行。常行實語。不汙諸佛家。不捨菩薩戒。生薩婆若。心不動如山王。不樂世間事。成就出世間善根。集善助菩提法無有厭足。常求勝中勝道。菩薩成就如是淨地法。名爲安住歡喜地。菩薩如是安住歡喜地。發諸大願。生如是定心。所謂我當以淸淨心。供養一切諸佛。皆無有餘。一切供具隨意供養。發如是大願。廣大如法界。究竟如虛空。盡未來際。盡供養一切劫中所有諸佛。以大供養具。無有休息。又一切諸佛所說經法。皆悉受持。攝一切諸佛阿耨多羅三藐三菩提。一切諸佛所敎化法。悉皆隨順。一切諸佛法皆能守護。發如是大願。廣大如法界。究竟如虛空。盡未來際。盡皆守護一切劫中一切佛法。無有休息。又一切世界。一切諸佛。從兜率天下。入胎處胎。初生出家。成佛道時。勸請轉大法輪。示入大涅槃。我於爾時。盡往供養。攝法爲首。三時轉故。發如是大願。廣大如法界。究竟如虛空。盡未來際。盡一切劫。奉迎供養一切諸佛。無有休息。又一切菩薩所行廣大無量不可壞。無分別諸波羅蜜所攝。諸地所淨生諸助道法。總相別相。有相無相。有成有壞。一切菩薩所行諸地道。及諸波羅蜜本行。敎化一切。令其受行。心得增長。發如是大願。廣大如法界。究竟如虛空。盡未來際。盡一切劫中菩薩所行。以諸敎化。

神下三本俱有通字

薩下同有摩訶薩三字

轉同作輪

成熟衆生.無有休息.又一切衆生.若有色.若無色.有想.無想.非有想.非無想.卵生.胎生.溼生.化生.三界所繫.入於六道一切生處.名色所攝.教化成熟.斷一切世間道.令住佛法.一切智慧.使無有餘.發如是大願.廣大如法界.究竟如虛空.盡未來際.盡一切劫.教化一切衆生.無有休息.又一切世界廣狹.及中無數無量.不可分別.不可壞.不可動.不可說.麁細正住倒住.平坦方圓.隨入如是世界智.如因陀羅網差別.如是十方世界差別.皆現前知.發如是大願.廣大如法界.究竟如虛空.盡未來際.盡一切劫.如是世界.皆現前知.無有休息.又一切佛土入一佛土.一佛土入一切佛土.一一佛土無量莊嚴.離諸垢穢.具足清淨智慧.衆生悉滿其中.常有諸佛大神通力.隨衆生心.而爲示現.發如是大願.廣大如法界.究竟如虛空.盡未來際.盡一切劫.淨如是國土.無有休息.又一切菩薩同心同學.共集諸善.無有怨嫉.同一境界.等心和合.常不相離.隨其所應.能現佛身.自於心中.悉能解知諸佛境界.神通智力.常得隨意神通.悉能遊行一切國土.一切佛會皆現身相.一切生處普生其中.有如是不可思議.大智慧.具足菩薩行.發如是大願.廣大如法界.究竟如虛空.盡未來際.盡一切劫.行如是大智慧道.無有休息.又乘不退輪.行菩薩道.身口意業所作不空.衆生見者.即必定佛法.聞我音聲.即得眞實智慧.有見我者.心即歡喜.離諸煩惱.如藥樹王.爲得如是行菩薩道.發如是大願.廣大如法界.究竟如虛空.盡未來際.盡一切劫.行不退道.所作不空.無有休息.又於一切世界.皆得阿耨多羅三藐三菩提.於一毛端.示現入胎出家.坐道場.成佛道.轉法輪.度衆生.示大涅槃.現諸如來大神智力.隨一切衆生所應度者.念念中得佛道.知一切法如涅槃相.以一音聲.令一切衆生.皆發歡喜.示大涅槃.而不斷菩薩所行.示衆生大智地.使知一切法皆是假僞.以大智慧神通自在.出生變化充滿法界.發如是大願.廣大如法界.究竟如虛空.盡未來際.盡一切劫.得佛道事.求大智慧.大神通等.無有休息.諸佛子.菩薩住歡喜地.以十願爲首.生如是等百萬阿僧祇大願.以十不可盡法.而生是願.爲滿此願.勤行精進.何等爲十.一衆生不可盡.二世界不可盡.三虛空不可盡.四法界不可盡.五涅槃不可盡.六佛出世不可盡.七諸佛智慧不可盡.八心所緣不可盡.九起智不可盡.十世間轉法轉智轉不可盡.若衆生盡.我願乃盡.若世界.虛空.法界.涅槃.佛出世.諸佛智慧.心所緣.起智諸轉盡.我願乃盡.而衆生實不可盡.世界.虛空.法界.涅槃.佛出世.諸

種下同有子字
老下同有病字
智下明有慧字
不下三本俱有應字

佛智慧。心所緣。起智。諸轉。實不可盡。我諸願善根亦不可盡。諸佛子。菩薩決定發是大願。則得利安心。柔輭心。調順心。寂靜心。不放逸心。寂滅心。直心。和潤心。不恚心。不濁心。如是則成信者。樂以信分別功德。信諸佛本所行道。行信諸波羅蜜。而得增長。信善入諸地得殊勝功德。信得成佛十力。信具足四無所畏。信不共法不可壞。信諸佛法不可思議。信諸佛自在神力無量無邊。信諸如來無量行門。信從因緣以成果報。舉要言之。信諸菩薩善行。諸佛功德智慧。威神力等。諸佛子。菩薩作是念。諸佛正法如是甚深。如是離相。如是寂滅。如是空。如是無相。如是無作。如是無染。如是無量。如是廣大。如是難壞。而諸凡夫。心墮邪見。無明癡冥。蔽其慧眼。常立憍慢幢。墮在渴愛網。隨順諂曲。常懷慳嫉。而作後身生處因緣。多集貪欲瞋恚愚癡。起諸重業。嫌恨猛風吹罪。心火常令熾然。有所施作。皆與顛倒相應。欲流。有流。見流。無明流。相續起心意識|種於三界地。生苦惱芽。所謂名色。名色和合。增長六入。根塵相對生觸。觸故生受。貪樂受故。生愛。愛增長故。生取。取因緣故。復起後有。有因緣故。有生|老死憂悲苦惱。如是因緣。集諸苦聚。受惱苦惱。是中無我。無我所。無作者。無受者。無知者。如草木瓦石。又如影響。凡夫可愍。不知不覺。而受苦惱。菩薩於此見諸衆生不免諸苦。卽生大悲智慧。是諸衆生我應救護。令住畢竟佛道之樂。卽生大慈智慧。菩薩摩訶薩。隨順如是大慈悲法。以深妙心。住在初地。於一切物。無所貪惜。尊重諸佛大妙|智故。學行大施。卽時所有盡能施與。金銀摩尼。硨磲碼碯。瑠璃珊瑚。琥珀珂貝。珍寶瓔珞。嚴身之具。及象馬輦輿。人民奴婢。國土城邑。園林遊觀。妻妾男女。一切所愛。皆悉施與。頭目耳鼻。肢節手足。深重佛故。而不貪惜。菩薩摩訶薩住於初地。能行大施。是菩薩以大悲心。大施心。救一切衆生故。勤求世間出世間利益之事。心無疲懈。是故菩薩生無疲倦功德。於諸經書。能自開解。是故生知經書功德。得如是知經書智慧。善能籌量應作|不作。於上中下衆生。隨宜利益。是故菩薩生世智功德。得世智功德。則知時知量。慚愧莊嚴。修習自利利彼之道。是故則生慚愧功德。如是功德精勤修行。心不懈退。是精進不退功德。卽得堪受力。得堪受力已。勤行供養一切諸佛。隨佛所說。如說修行。諸佛子。是菩薩悉知生起。如是淨地法。所謂信慈悲施。無有疲倦。知諸經書。善解世法。慚愧堪受。供養諸佛。如所說行。又是菩薩住歡喜地。少見諸佛。以願力故。廣見數百千萬億那由他諸佛世尊。心大歡喜。深心愛敬。以上樂具。

知明作至

供養諸佛。及一切僧。以是福德。皆迴向阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩因供養諸佛故。生教化衆生法。多以二攝
攝取衆生。所謂布施愛語。後二攝法。以信解力行未善通達。是菩薩隨所供養諸佛。教化衆生。皆能受行諸淨地
法。如是諸功德。皆迴向薩婆若。轉益明顯。堪任有用。譬如金師鍊金。隨以火力。調柔可用。增益光色。如是菩薩供
養諸佛。教化衆生。行淨地法。此諸功德。皆迴向薩婆若。轉益明顯。隨意所用。諸佛子。是菩薩摩訶薩於初地中。行
果相貌。從諸佛菩薩善知識所。諮受請問成地之法。無有厭廢。是菩薩住初地中。於諸佛菩薩善知識所。諮受請
問第二地中行果相貌。無有厭足。如是第三。第四。第五。第六。第七。第八。第九。第十地中。行果相貌。從諸佛菩薩善
知識所。諮受請問。成十地法。無有厭廢。是菩薩善知諸地對治法。善知諸地成壞。善知諸地行果。善知分別得諸
地。善知諸地淸淨行。善知諸地從一地至一地行。善知諸地是處非是處。善知諸地轉所住處。善知諸地勝進業。
善知諸地得不退轉。乃至善知一切菩薩淨地法入如來智地。諸佛子。如是菩薩善知諸地行。未發初地。乃知十
地。無有障礙。得諸地智慧光明。乃至知諸佛智慧光明。如大商主。多將賈人。欲至大城。先問道路。退還過咎在道
利害。未發初處。知道宿時。乃至善知到彼城事。能以智慧。思惟籌量。具諸資用。令無所乏。正導人衆。得至大城。於
險道中。免諸患難。身及衆人。皆無憂惱。菩薩摩訶薩亦復如是。住於初地。而善知諸地對治法。乃至善知一切菩
薩淨地法。入如來智地。爾時菩薩集大福德智慧資糧。爲衆生商主。隨宜教化。令出生死險難惡處。示安隱道。乃
至令住薩婆若智慧大城。無諸衰惱。是故菩薩常應心不疲倦。勤修諸地本行。乃至善知入如來智地。諸佛子。是
名略說菩薩入歡喜地。廣說則有無量百千萬億阿僧祇事。菩薩住歡喜地。多作閻浮提王。豪貴自在。常護正法。
能以大施攝取衆生。善除衆生慳貪之垢。常行大施。而無窮盡。所作善業。布施。愛語。利益。同事。是諸福德。皆不離
念佛。不離念法。不離念諸同行菩薩。不離念菩薩所行道。不離念諸波羅蜜。不離念十地。不離念諸力。無畏。不共
法。乃至不離念具足一切種智。常生是心。我當於一切衆生中。爲首。爲勝。爲大。爲妙。爲上。爲無上。爲導。爲將。爲師。
爲尊。乃至於一切衆生中。爲依止者。諸佛子。是菩薩若欲捨家勤行精進。於佛法中。便能捨家妻子五欲。得出家
已。勤行精進。須臾之間。得百三昧。得見百佛。知百佛神力。能動百佛世界。能飛過百佛世界。能照百佛世界。能教

百下三本俱有佛字

合元明俱作念

實三本俱作實

訟元明俱作靜

化百世界衆生．能住壽百劫．能知過去未來世各百劫事．能善入百法門．能變身爲百．於一一身．能示百菩薩以爲眷屬．若以願力．自在示現．過於此數．百千萬億那由他劫．不可計知．時金剛藏菩薩．欲重明此義．以偈頌曰

若有諸衆生　厚修集善根　成就淸白法　親近於諸佛　淸淨信樂力　隨順慈悲心　如是人能發

無量之佛智　諸佛一切智　無量力淸淨　堪受力堅牢　成就諸佛法　悲心救世間　淨修諸佛國

敷演轉法輪　發此無上願　一念知三世　而無有別異　種種時差別　以示於世間　略說則盡求

諸佛之功德　發於廣大心　猶若如虛空　悲心智慧首　方便合修行　深直心淳至　其力無有量

心向無障礙　而不隨他敎　同諸佛平等　而生於大心　諸佛子發生　如是之寶心　卽離凡夫地

入於佛所行　卽生如來家　無有可譏嫌　則同於諸佛　必成無上道　生如是心時　卽便得初地

其心不可動　猶如大山王　是菩薩便有　大喜相顯現　其心常淸淨　堪受於大事　心不樂鬪訟

不好惱衆生　無有瞋恨心　樂慙媿恭敬　又習行直心　守護於諸根　常念救世間　念求諸佛智

心生於歡喜　我當得此事　得於歡喜地　卽過五恐怖　不活死惡名　惡道衆威德　以不貪著我

及與我所故　是諸佛子等　遠離諸怖畏　常行慈悲心　恒有信恭敬　慙媿功德備　晝夜增善法

樂功德實利　不樂於諸欲　如有所聞法　能常善思惟　無有貪著身　斷諸利養心　常樂於菩提

一心求佛智　行諸波羅蜜　離於諂曲心　隨說而能行　安住實語中　不汙諸佛家　不捨菩薩學

遠世間事願　樂出於世間　求善法無厭　精進轉增益　諸菩薩如是　好樂諸功德　而發於大願

求欲見諸佛　護法至佛所　行菩薩妙行　化一切衆生　淨一切佛土　我佛國土中　滿諸大菩薩

諸菩薩同心　見聞皆不空　一切微塵中　諸佛成佛道　發於如是等　無量無邊願　是願無窮盡

如虛空衆生　法界世涅槃　諸佛出智慧　心緣起智轉　我願如是住　如是發大願　心柔輭調順

能信佛功德　而觀於衆生　知從因緣起　則生慈悲心　卽於苦衆生　我當救度之　爲是衆生故

而行種種施　所謂妙國土　一切諸珍寶　象馬及車乘　眷屬與人民　頭目及手足　肌肉施無悔

而三本俱作所

求種種經書　心無有疲倦　得解其義趣　能隨世而行　慚愧堪受力　漸令得增長　能以恭敬心
供養無量佛　智者於日夜　如是常修行　善根轉明淨　猶若成鍊金　菩薩住是地　能了知十住
展轉修行時　無有諸障礙　譬如賈客主　欲利諸商人　先問道路中　諸險艱難事　菩薩住初地
善知諸地行　而無有障礙　能至於佛地　住是初地中　多作閻浮王　善知於諸法　常行慈悲心
如法而化導　一切皆信敬　勸令行布施　以求佛智慧　菩薩若捨國　佛法中出家　勤行於精進
卽得百三昧　能見百諸佛　震動百國土　光明照百國　飛行亦如是　化百土衆生　入於百法門
念知百劫事　示現於百身　能以百菩薩　眷屬而示現　若以其願力　過是數無量　今明初地義
但以略解說　若欲廣說者　億劫不能盡　是初菩薩地　名之爲歡喜　利益衆生者　今已分別覺

大方廣佛華嚴經卷第二十三

大方廣佛華嚴經卷第二十四 〔麗坐〕〔宋朝〕〔元朝〕〔明朝〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

十地品第二十二之二

一切菩薩衆　聞說上地義　其心皆清淨　歡喜無有量　各於所坐處　踊住虛空中　以諸上妙華
散於金剛藏　咸皆儞讚言　善哉金剛藏　大智無所畏　善說菩薩地　解脫月大士　知衆心清淨
欲聞第二地　行相之諸說　卽請金剛藏　大智願解說　第二地行相　一切皆欲聞

金剛藏菩薩。語解脫月菩薩言。佛子。菩薩摩訶薩。已具足初地。欲得第二地者。當生十種直心。何等爲十。一柔輭心。二調和心。三堪受心。四不放逸心。五寂滅心。六眞心。七不雜心。八不貪吝心。九勝心。十大心。菩薩以是十心。得入第二地。菩薩住離垢地。自然遠離一切殺生。捨棄刀仗。無瞋恨心。有慚有媿。於一切衆生。起慈悲心。常求樂事。尙不惡心惱於衆生。何況加害。離諸劫盜。資生之物。常知止足。若物屬他。他所受用。於是物中。不與不取。離於邪婬。自足妻色。於他女人。不生一念。離於妄語。常眞實語。諦語隨語。乃至夢中。尙不妄語。何況故作。離於兩舌。無破壞心。於鬪諍離散人中。常好和合。離於惡口。所有言語麁獷苦惡。自壞其身。亦壞於他。如是等語。皆悉捨離。離無義語。常自守護所可言說。應作不作。常知時語。利益語。順法語。籌量語。乃至戲笑尙無所犯。何況故作。不貪他物。若物屬他。他所攝用。不作是念。我當取之。離瞋害心。常於衆生。求愛潤心。慈悲心。離於占相。習行正見。決定深信罪福因緣。離於諂曲。誠信三寶。生決定心。菩薩如是常護善道。作是思惟。一切衆生墮惡道者。皆由十不善道。我當自住善法。亦當爲人說諸善法。示正行處。何以故。若人自不行善。爲他說法。令住善者。無有是處。又深思惟。行十不善道。則墮地獄。畜生。餓鬼。行十善道。則生人處。乃至有頂。又是十善道。與智慧和合修行。若心劣弱。樂少功德。厭畏三界。大悲心薄。從他聞法。至聲聞乘。若行是十善道。不從他聞。自然得知。不能具足大悲方便。而能深入

一切前行宋元俱有第二地三字明有第二離垢地五字

眞三本俱作直

語下元明俱有不作增惡四字

衆因緣法。至辟支拂乘。若行是十善道。淸淨具足。其心廣大無量無邊。於衆生中。起大慈悲。有方便力。志願堅固。不捨一切衆生。求佛大智慧。淨菩薩諸地。淨諸波羅蜜。入深廣大行。則能得佛十力。四無所畏。四無礙智。大慈大悲。乃至具足一切種智。集諸佛法。是故我應行十善道。求一切智。是菩薩復作是思惟。此十不善道。上者地獄因緣。中者畜生因緣。下者餓鬼因緣。於中殺生之罪。能令衆生。墮於地獄。畜生。餓鬼。若生人中。得二種果報。一者短命。二者多病。劫盜之罪。亦令衆生。墮三惡道。若生人中。得二種果報。一者貧窮。二者共財不得自在。邪婬之罪。亦令衆生。墮三惡道。若生人中。得二種果報。一者婦不貞潔。二者得不隨意眷屬。妄語之罪。亦令衆生。墮三惡道。若生人中。得二種果報。一者多被誹謗。二者爲人所誑。兩舌之罪。亦令衆生。墮三惡道。若生人中。得二種果報。一者得弊惡眷屬。二者得不和眷屬。惡口之罪。亦令衆生。墮三惡道。若生人中。得二種果報。一者常聞惡音。二者所可言說恒有諍訟。無義語罪。亦令衆生。墮三惡道。若生人中。得二種果報。一者所有言語人不信受。二者有所言說不能明了。貪欲之罪。亦令衆生。墮三惡道。若生人中。得二種果報。一者多欲。二者無有厭足。瞋惱之罪。亦令衆生。墮三惡道。若生人中。得二種果報。一者常爲一切。求其長短。二者常爲衆人之所惱害。邪見之罪。亦令衆生。墮三惡道。若生人中。得二種果報。一者生邪見家。二者其心諂曲。諸佛子。如是十不善道。皆是衆苦大聚因緣。菩薩復作是念。我何故不離是十不善道。行十善道。亦令他人。行此善道。如是念已。卽離十不善道。安住十善道。亦令他人。住於善道。是菩薩爾時於一切衆生。生安隱心。樂心。慈心。悲心。哀愍心。利益心。守護心。師心。大師心。自己心。作是念。是諸衆生。墮於邪見。隨逐邪心。行邪險道。甚可哀愍。我應令彼住正見道如實法中。是諸衆生。常共鬪諍。分別彼我。我應令彼。住於大慈。是諸衆生。常貪財物。無有厭足。恒以邪命。而自生活。我應令彼。住於淸淨身口意業。是諸衆生。隨逐貪欲。瞋恚。愚癡。常爲種種煩惱大火之所燒然。不能志求出要方便。我應令彼。滅煩惱火。置淸涼處。是諸衆生。常爲無明所覆。入大黑闇。離慧光明。入於生死大險道中。隨逐種種無量邪見。我應令彼。得無障礙淸淨慧眼。以是眼故。知一切法如實相。得不隨他一切如實無障礙智。是諸衆生。墮生死道。將墜地獄。畜生餓鬼。入邪見網。爲種種愚癡叢林所覆。隨逐虛妄邪道徑路。常爲愚癡之所盲冥。遠離導師。非出要要謂爲出要。隨順

復三本俱作澓

樔同作巢

亦下三本俱有復字

時上同有爾字

魔心。遠離佛意。我應令彼。度於生死險道艱難。安處令住一切智人。無畏大城。無諸衰惱。是諸衆生。爲諸煩惱纂水所沒。欲。有。見。無明四流所漂。隨生死流。入大愛河。爲諸煩惱勢力所食。不能得求出要之道。常爲欲覺。恚覺。惱覺。惡蟲所害。又爲水中身見羅剎所執。入於五欲深流洄復。喜愛淤泥之所沒溺。我慢陸地之所燋枯。無所歸趣。於十二入怨賊聚落。不能得出。不遇導師能正度者。我應於彼生大慈悲。以善根力而拔濟之。得安隱處。離諸恐怖。住於一切智慧寶洲。是諸衆生。深心貪著。多有憂悲。苦惱患難。憎愛所縛。欲械所繫。入於三界無明稠林。我應令彼。遠離一切三界所著。令住離相無礙涅槃。是諸衆生。深著我我所。於五陰樔窟。不能自出。常隨四倒。依六入空聚。爲四大毒蛇之所侵害。爲諸煩惱衆賊所殺。受此一切無量苦惱。我應令彼。離諸貪著。住於寂靜。所謂斷一切障礙。安隱涅槃。是諸衆生。其心狹劣。樂於小法。遠離無上一切智慧。貪著小乘。不能志求大乘出法。我應令彼。住廣大心無量無邊諸佛道法。所謂無上大乘。諸佛子。是菩薩如是隨順持戒力。善能廣生大慈悲心。是菩薩住離垢地。得見數百千萬億那由他諸佛世尊。以衣被飲食。臥具醫藥。資生之物。而供養之。於諸佛所。生恭敬心。復受十善道。乃至得阿耨多羅三藐三菩提。終不中失。是菩薩若干百千萬億劫。遠離慳貪破戒垢故。淨修布施持戒功德。譬如眞金。錬之以火。一切垢盡。轉復明淨。菩薩亦如是。住離垢地。若干百千。乃至無量百千萬劫。遠離慳貪破戒垢故。淨修布施持戒功德。菩薩爾時於四攝法。愛語偏多。十波羅蜜。戒波羅蜜偏勝。餘波羅蜜。亦皆修集。隨地增長。佛子。是名菩薩摩訶薩第二離垢地。菩薩住是地。多作轉輪聖王。爲大法王。廣得法力。七寶成就。有力自在。能除一切衆生慳貪破戒之垢。以善方便。令衆生住十善道。爲大布施。而不窮盡。所作善業。布施愛語。利益同事。是諸福德。皆不離念佛。不離念法。乃至不離念具足一切種智。常生是心。我當於一切衆生中。爲首爲勝。乃至於一切衆生中。爲依止者。佛子。是菩薩若欲捨家勤行精進。於佛法中。便能捨家妻子五欲。得出家已。勤行精進。須臾之間。得千三昧。得見千佛。知千佛神力。能動千佛世界。能飛過千佛世界。能照千佛世界。能敎化千世界衆生。能住壽千劫。能知過去未來世各千劫事。能善入千法門。能變身爲千。於一一身。能示千菩薩。以爲眷屬。若以願力自在示現。過於此數。百千萬億那由他劫。不可計知。時金剛藏菩薩。欲重明此義。以偈頌曰

獄明作畜

欖三本俱作集

明無第三地三字 三本俱諸菩薩以下爲卷第二十五十地品第二十二之三

菩薩入二地 柔輭調和心 堪受不放逸 寂滅眞不雜 亦無有貪吝 勝大悉具足 得是十心已
入於第二地 菩薩住是地 成就諸功德 常離於殺生 不惱害一切 常離於劫盜 亦無有邪婬
不兩舌妄語 惡口無義言 他所有財物 不生於貪著 不惱於衆生 直心行正見 無有憍慢心
亦無諂曲意 柔輭不放逸 護持諸佛教 所有劇苦惱 地獄與畜生 餓鬼熾然身 皆從惡心有
我今已永離 如是諸惡事 行於眞實道 寂滅之善法 從人至有頂 所有受樂處 禪定三乘樂
皆從十善生 如是思惟已 心常不放逸 身自持淨戒 亦教人令持 徧觀諸衆生 種種受苦惱
如是愍念已 轉生深悲心 凡夫甚可愍 墮在諸邪見 心多懷瞋恨 常好起諍訟 常樂於五欲
貪求無有厭 起三毒因緣 我應度此等 深覆愚癡闇 墜生死險道 入大邪見網 墮於世籠檻
常爲諸魔賊 煩惱之所壞 此等甚可愍 我應度脫之 沒深煩惱水 四流所漂轉 具受於三界
無量諸苦毒 住五陰深欖 生我我所心 我爲度此苦 當勤修行道 捨無上佛慧 生於下劣心
令住佛大智 發無量精進 菩薩住此地 集無量功德 得值遇諸佛 承事而供養 以是因緣故
善根轉明淨 猶如好眞金 鍊之以火力 佛子住此地 多作轉輪王 令諸衆生等 住於十善道
從初始發心 修集諸福德 願以救世間 令得佛十力 若欲捨王位 出家行學道 勤心行精進
得入千三昧 得見於千佛 供養聽受法 菩薩住此地 能示如是事 若以其願力 示諸神通事
度脫於衆生 過此數無量 常爲諸世間 勤求好事者 具足解說此 第二地已竟

第三地

諸菩薩聞是 不可思議行 心皆大歡喜 恭敬無有量 卽時虛空中 雨衆名華香 如雲而散下
供養金剛藏 咸讚言善哉 善哉金剛藏 善說諸大人 護持淨戒行 於一切衆生 深有哀愍心
敷演解說是 二地之行相 菩薩微妙行 眞實無有異 是諸菩薩等 清淨之行足 爲一切衆生
常求好事者 已爲具演說 第二離垢地 天人恭敬者 願說第三地 善示智所作 菩薩之所行

願說諸大人　所行布施德　持戒及忍辱　精進行禪定　智慧巧方便　并及慈悲心　云何行是法
淨於諸佛行　解脫月菩薩　請金剛藏言　菩薩入三地　當以何等心

金剛藏菩薩語解脫月菩薩言。佛子。諸菩薩摩訶薩淨第二地已。欲得第三地。當以十種深心。何等爲十。一淨心。二猛利心。三厭心。四離欲心。五不退心。六堅心。七明盛心。八無足心。九勝心。十大心。菩薩以是十心。得入第三地。菩薩住明地。能觀一切有爲法如實相。所謂無常。苦。無我。不淨。不久敗壞。不可信相。不生不滅。不從前際來。不去至後際。現在不住。菩薩如是觀一切有爲法眞實相。知諸法無作無起。無來無去。而諸衆生。憂悲苦惱。憎愛所繫。無有停積。無定生處。但爲貪恚癡火所然。增長後世苦惱大聚。無有實性。猶如幻化。見如是已。於一切有爲法。轉復厭離。趣佛智慧。是菩薩知如來智慧不可思議。不可稱量。有大勢力。無能勝者。無有離相。無有衰惱。能至無畏安隱大城。能救無量苦惱衆生。如是見知佛智無量。見有爲法無量苦惱。於一切衆生。轉生殊勝十心。何等爲十。衆生可愍。孤獨無救。貧無依止。三毒之火熾然不息。閉在三有牢固之獄。常住煩惱諸惡刺林。無正觀力。於善法中。欲樂心薄。失佛妙法。而常隨順生死水流。怖畏涅槃。是菩薩見諸衆生如是衰惱。發大精進。是衆生等我應救。我應解。應令清淨。應令得脫。應著善處。應令安住。應令歡喜。應令知所宜。應令得度。應使滅苦。菩薩如是厭離一切有爲法。深念衆生。見一切智無量利益。卽時欲具佛智慧。救度衆生。勤行菩薩道。作是思惟。此諸衆生。墮在大苦諸煩惱中。以何方便。而拔濟之。使得永住畢竟之樂。卽時知住無礙解脫智慧中者。乃可得此。是無礙解脫智慧。不離通達諸法如實智。無行行慧。如是慧明從何而得。當知不離多聞決定智慧。復作是念。一切佛法以何爲本。不離聞法爲本。菩薩如是知已。一切求法。轉加精勤。日夜聽受。無有厭足。喜法。愛法。依法。順法。滿法。辯法。究竟法。歸法。救法。隨順行法。菩薩如是方便求法。所有珍寶無所遺惜。於此物中。不生難想。但於說法者。生難遭想。爲求法故。於內外物。無不能捨。國土人民。摩尼七寶。象馬輦輿。衆寶瓔珞。嚴身之具。妻妾男女。肢節手足。舉身施與。無所愛惜。又爲求法故。於說法者。盡心恭敬。供養給侍。破除憍慢。我慢大慢。諸惡苦惱。悉能忍受。深求法故。若得一句未曾聞法。勝得三千大千世界滿中珍寶。得聞一偈。勝得轉輪聖王。釋提桓因。梵天王處。無量劫住。是菩薩

是下三本俱無是字

若有人來作如是言。我有佛所說法一句。能淨菩薩道。汝今若能入大火阬。受大苦者。當以相與。是菩薩作是念。我受一句法故。設令三千大千世界大火滿中。尚從梵天而自投下。何況小火。我盡受一切諸地獄苦。猶應求法。何況人中諸小苦惱。爲求法故。發如是心。又如所聞法。心常喜樂。悉能正觀。是菩薩聞諸法已。降伏其心。於空閑處。心作是念。如說行者。乃得佛法。但以口言。無有是處。菩薩如是則離欲惡不善法。有覺有觀。離生喜樂。入初禪。滅覺觀。內清淨。心一處無覺無觀。定生喜樂。入二禪。離喜行捨。成就念慧。身受樂。諸賢聖能說能捨。常念受樂。入三禪。斷棄苦樂。憂喜已滅。不苦不樂。行捨念淨。入四禪。是菩薩過一切色相。滅一切有對相。不念一切別異相。故知無邊虛空。卽入虛空無色定處。過一切虛空相。知無邊識。卽入識無色定處。過一切識相。知無所有。卽入無所有無色定處。過一切無所有處。知非有想非無想安隱。卽入非有想非無想無色定處。頓諸法行。而不樂著。是菩薩以悲心廣大無量。無瞋恨。無惱害。以信解力。徧滿十方。悲喜捨心亦復如是。是菩薩有神通力。能動大地。一身爲多身。多身爲一身。現沒還出。石壁皆過。如行虛空。於虛空中。跏趺而去。猶如飛鳥。入水如地。入地如水。身出煙燄。如大火聚。日月威德。而能以手捫摸之。身力自在。乃至梵世。是菩薩天耳清淨。過天人耳。悉聞人天音聲遠近。是菩薩以他心智。如實知他心欲心。如實知欲心。離欲心。如實知離欲心。瞋心。離瞋心。癡心。離癡心。垢心。離垢心。小心。大心。廣心。狹心。亂心。無亂心。定心。不定心。縛心。解心。有上心。無上心。如實知有上心。無上心。是菩薩念知宿命諸所生處。一世二世。乃至百千萬億那由他世。一劫二劫。乃至百千萬億那由他劫。其中諸劫。無量成壞。於諸劫中。所經因緣。悉能念知。我生彼處如是種族。如是姓名。如是飲食。如是苦樂。如是久住。我於彼死。生於此間。於此間死。生於彼間。如是種種。悉能念知。是菩薩天眼清淨。過天人眼。見諸衆生死此生彼。形色好惡。貧賤富貴。趣善惡道。隨業受報。皆如實知。所謂是諸衆生。成就身惡業。口惡業。意惡業。拒逆賢聖。受邪見教。起罪業因緣故。身壞命終。墮於惡道。是諸衆生。成就身善業。口善業。意善業。不逆賢聖。信受正見。行善業因緣故。身壞命終。生於善處。是菩薩於諸禪定解脫三昧。能入能出。而不隨生。有助菩提法處。以願力故。能生其中。是菩薩住於明地。見數百千萬億那由他諸佛世尊。恭敬供養。尊重讚歎。衣服飲食。臥具醫藥。親近諸佛。聽受經法。如說修行。是菩薩

於下明有萬字

觀諸法不生不滅。衆緣而有。於百千億劫所集欲縛。有縛。無明縛。皆悉微薄。不復積集。不積集故。斷於邪貪。邪瞋。邪癡。譬如眞金。巧師鍊治。轉更精好。光明倍勝。菩薩亦如是。住在明地。不集三縛故。斷於邪貪。邪瞋。邪癡。一切善根。轉增明淨。是菩薩忍辱心。美妙心。不壞心。不動心。不濁心。不高下心。一切所作不望報心。他少有所作當生報心。不諂曲心。不染亂心。轉勝明淨。菩薩爾時於四攝法。愛語利益偏多。十波羅蜜。忍辱波羅蜜。精進波羅蜜偏勝。餘助菩提法。皆轉明淨。諸佛子。是名略說菩薩第三明地。菩薩住是地中。多作釋提桓因。智慧猛利。能以方便。轉諸衆生。令離婬欲。所作善業。布施愛語。利益同事。皆不離念佛。不離念法。乃至不離念具一足切種智。常生是心。我當於一切衆生。爲首爲勝。乃至於一切衆生。爲依止者。是菩薩若欲勤行精進。於須臾間。能得十萬三昧。乃至能示十萬菩薩。以爲眷屬。若以願力神通自在。過於此數。若干百千萬億那由他劫。不可計知。時金剛藏菩薩。欲重明此義。以偈頌曰

菩薩深信心　能得第三地　清淨猛利心　厭離欲不退　堅堪受無厭　勝大悉具足　以如是等心
得入於三地　智者住明地　觀有爲作法　不淨無常苦　無我壞敗相　無有牢固性　不久念念滅
如是思惟知　無有來去相　見諸有爲法　如病如癰瘡　愛心所纏縛　生諸憂悲苦　但爲貪恚癡
猛火所焚燒　從無始世來　熾然常不息　卽時於一切　三界生厭離　惡賤有爲法　心無所貪著
但求諸佛智　無量無邊限　甚深難思議　清淨無諸苦　如是見佛智　無諸苦惱已　哀愍諸衆生
貧窮無福慧　三毒火常然　無有救護者　墮在地獄中　無量苦所切　放逸凡夫人　沒諸煩惱海
盲冥無所見　失諸佛法寶　常隨生死流　無怖客怖畏　我於是衆生　當勤度脫之　精進求智慧
爲作饒益者　思惟何方便　可以得救護　唯有諸如來　深妙無礙智　此智何爲因　無行行慧生
思惟是智慧　從於多聞起　如是籌量已　勤求多聞法　日夜常精進　聽受無厭倦　讀誦愛樂法
唯法以爲貴　爲欲求法故　以諸珍寶等　所親愛妻子　隨意諸眷屬　國土及城邑　養生諸寶物
歡喜而施與　心無所戀惜　頭目耳鼻舌　牙齒及手足　肢節身血肉　心肝及髓腦　以此等施人

下三本俱作界
四下明有餘慧二字
上元明俱作正
珠寶明作寶珠

猶不以爲難　若得聞正法　是爲甚希有　假令有一人　語此菩薩言　汝今若能入　是大猛火聚
然後當與汝　諸佛所說法　聞已卽歡喜　自投無有疑　設使三千界　大火滿其中　須彌梵世下
不足以爲難　若爲求一句　諸佛所說法　救諸苦惱者　得之爲甚難　從初始發心　乃至成佛道
我於其中間　盡此諸劫數　爲欲求法故　備受阿鼻苦　何況於人間　小小諸苦惱　以聽法因緣
能得正憶念　正憶念因緣　能生諸禪定　深妙等三昧　及五神通事　次第皆能起　自在不隨生
菩薩住是地　能以決定心　多供養諸佛　聽受所說法　斷邪愛恚癡　諸縛悉微薄　猶如成鍊金
調和得其所　菩薩住是地　福德藏充滿　多作忉利王　自在化婬欲　愛佛功德故　化導無量衆
悉能令得住　無上佛道中　菩薩住是地　能以柔輭心　勤行於精進　得百千三昧　見百千諸佛
相好莊嚴身　其心轉猛利　願力者殊勝　常爲諸衆生　勤求好事者　分別解說此　第三明地竟

第四地

諸佛子聞說　如是地行義　深妙無有量　心皆大歡喜　散衆名華香　供養於如來　地及大海水
悉皆大震動　天諸采女等　於上虛空中　同以微妙音　歌頌此上法　他化自在王　聞已大歡喜
雨摩尼珠寶　以散於佛上　踊躍偁讚言　善哉佛出世　功德藏流布　利益於我等　我今聞說此
菩薩地行義　是事百千劫　難聞而得聞　願更說後地　利益諸天人　僉皆喜欲聞　得地諸行義
解脫月菩薩　重請金剛藏　願爲諸菩薩　說至四地行

金剛藏菩薩語解脫月菩薩言.佛子.諸菩薩摩訶薩淨三地已.欲得第四地.當以十法明門.何等爲十.一觀察衆生界.二觀察法界.三觀察世界.四觀察虛空界.五觀察識界.六觀察欲界.七觀察色界.八觀察無色界.九觀察勝信解界.十觀察大心界.菩薩以此十法明門.得入第四地.菩薩住餘地.卽於如來家.轉有勢力.得內法故.有十種智.何等爲十.一心不退轉.二於三寶中.得不壞心.清淨畢竟.三修習觀生滅.四修習諸法本來不生.五常修習世間成壞.六修習業因緣故有生.七修習分別生死涅槃門差別.八修習衆生業差別.九修習前際後際差別.十修

合行故元明俱作念故行

申明作伸〇行下三本俱有處字

輭上三本俱有柔字

等下同無等字

如上同無譬字

習現在常滅不住行。是十智心。則生佛家。轉得勢力。佛子。菩薩摩訶薩住是第四地。觀內身循身觀。精勤一心。除世間貪憂。觀外身循身觀。精勤一心。除世間貪憂。觀內外身循身觀。精勤一心。除世間貪憂。觀內受外受內外受。內心外心內外心。內法外法內外法循法觀。精勤一心除世間貪憂。是菩薩未生惡不善法。爲不生故。勤精進發心正斷。已生諸惡不善法爲斷故。勤精進發心正斷。未生諸善法爲生故。勤精進發心正行。已生諸善法爲住不失修滿增廣故。勤精進發心正行。是菩薩修行四如意足。欲定斷行成就。修如意足。依止厭依止。離依止滅。迴向涅槃。精進定。心定。慧定。斷行成就。修如意足。依止厭離滅。迴向涅槃。是菩薩修行信根。精進根。念根。定根。慧根。依止厭離滅。迴向涅槃。是菩薩修行信力。精進力。念力。定力。慧力。依止厭離滅。迴向涅槃。是菩薩修行念覺分。擇法覺分。精進覺分。喜覺分。猗覺分。定覺分。捨覺分。依止厭離滅。迴向涅槃。是菩薩修行正見。正思惟。正語。正業。正命。正精進。正念。正定。依止厭離滅。迴向涅槃。是菩薩以不捨衆生心故。行以本願助故。大悲爲首故。大慈合行故。爲攝一切智。爲莊嚴佛國。爲具佛諸力。無畏。不共法。三十二相。八十種好。爲具足音聲。爲隨順佛深解脫。爲思惟大智慧方便故行。諸佛子。菩薩住餤地。所有身見等。著我。著衆生。著人。壽者。知者。見者。著五陰。十二入。十八界。所起屈申卷舒出沒。推求心所行愛著。寶重所見。爲歸爲洲。皆悉斷滅。是菩薩轉倍精進。智慧方便所生助道法。隨所修行。心轉柔和。堪任有用。無有疲倦。轉求上法。增益智慧。救一切世間。隨順諸師。恭敬受教。如所說行。是菩薩爾時。知恩知報恩。心轉和善。同止安樂。直心輭心。無有邪曲。行正定行。無有憍慢。隨順教誨。得說者意。如是具足善心。輭心。寂滅心。忍辱心。淨地諸法思惟修行。是菩薩爾時成不轉精進。不捨精進。不染精進。不壞精進。不厭倦精進。廣大精進。無邊精進。猛利精進。無等等精進。救一切衆生精進。是菩薩修習如是精進。直心淸淨。不失深心信解明利。善根增長。遠離世間垢濁不信。皆已滅盡。無疑無悔。現前具足於一切佛大信解事。不厭不捨。自然習樂無量之心。常現在前。菩薩住第四餤地。能見數百千萬億那由他諸佛世尊。恭敬供養。尊重讚歎。衣服飲食。臥具醫藥親近諸佛。一心聽法。能信奉持。多於佛所。出家修道。是菩薩樂心。深心。淸淨信解平等。轉更明了。住壽多劫。若干百千萬億那由他劫。善根轉勝。譬如上眞金。爲莊嚴具。餘金不及。如是菩薩住此餤地善根轉增。下地菩薩

澆漬同作潰澆
○地下同有中
字

法同作勤

所不能及。譬如摩尼珠。光明淸淨能照四方。餘寶不及。水雨澆漬。光明不滅。菩薩住焰地。下地菩薩所不能及。一切諸魔。及諸煩惱。皆不能壞。諸佛子。是名略說菩薩第四焰地。菩薩住是地中。多作須夜摩天王。教化衆生。破於我心。所作善業。布施愛語。利益同事。皆不離念佛。不離念法。乃至不離念具足一切種智。常生是心。我當於一切衆生。爲首爲勝。乃至於一切衆生。爲依止者。是菩薩若欲勤行精進。須臾之間。得百億三昧。乃至示現百億菩薩。以爲眷屬。若以願力自在示現。過於此數。若干百千萬億那由他劫。不可計知。爾時金剛藏菩薩。欲重明此義。以偈頌曰

諸菩薩具足　修治明地已　積集諸衆生　法及於世界　虛空識欲色　無色勝信解　大心淸淨故
得入第四地　即於如來家　增長得勢力　不退於佛道　三寶不壞信　觀諸法生滅　一切本來空
知世間成敗　從業而有生　衆生業差別　生死涅槃異　觀法先後際　常滅不住相　諸大菩薩等
得如是法已　哀愍諸衆生　習身受心法　內外四念處　依止於厭離　亦依止寂滅　迴向於涅槃
除滅惡法故　善法得增長　習行四正法　修四如意足　習行於五根　及以修五力　修習七覺意
行於八聖道　修習如是法　皆爲衆生故　本願之所助　慈悲心爲首　爲攝一切智　莊嚴諸佛土
成就十種力　無畏不共法　諸音聲言說　甚深妙道法　及無礙解脫　大智慧方便　從身見爲首
六十二見等　衆生及我人　壽命知見者　於諸陰界入　之所貪著處　得是第四地　皆悉已遠離
斷諸煩惱業　其必轉明淨　諸所作善業　皆爲救世間　菩薩柔輭心　常不爲放逸　畢用正直意
求利於衆生　如此所求事　皆爲無上道　大智慧職位　利益世間故　深心敬養師　如說樂修行
知恩報恩者　易化無瞋恨　無有邪曲心　柔和同止樂　修習如是法　精進不退轉　菩薩住是地
不失深直心　淨心與信解　增長諸善根　世間諸垢濁　不信疑悔事　如是等諸法　皆悉得除滅
諸菩薩住是　第四焰地中　得値無量佛　諸受所說法　於是諸佛所　出家難沮壞　如眞金莊嚴
餘金所不及　菩薩住是地　諸功德深心　智慧及方便　所行淸淨道　乃至千億魔　皆所不能壞

如眞妙明珠　不爲水雨敗　菩薩住是地　天人所供養　多作夜摩王　能轉諸邪見　所作諸善業
皆爲佛智慧　其心常堅固　不可得動轉　若勤行精進　得百億三昧　能見百億佛　願力則過是
如是第四地　淸淨名爲燄　無量福慧者　今已解說竟

大方廣佛華嚴經卷第二十四

諸菩薩聞是前行宋元俱有第五地三字明有第五難勝地五字

已三本俱作以

大方廣佛華嚴經卷第二十五

〔麗朝〕〔宋問〕〔元問〕〔明朝〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

十地品第二十二之三

諸菩薩聞是　第四地行法　心皆懷喜悅　踊躍無有量　雨天衆寶華　雰雰如雪下　咸讚言善哉
金剛藏大士　他化自在王　與諸眷屬等　於上虛空中　心皆大歡喜　放衆妙光明　作天諸妓樂
歌歎佛功德　及諸菩薩衆　天諸采女等　各以清妙音　同聲偕讚佛　而說如是言　世尊久遠來
勤苦所求願　無上正眞道　於今始乃得　利益天人者　久乃得奉見　釋迦牟尼佛　今至於天宮
從久遠已來　大海相始動　久遠無量世　今乃放妙光　衆生從久遠　今始得安樂　久乃方得聞
大慈悲德音　度諸功德岸　久遠今乃値　聖王能悉破　憍慢我心等　無比可恭敬　而今得供養
能開諸天道　使得一切智　世尊甚清淨　無量如虛空　不染於世法　如蓮華在水　處世最高大
猶如巨海中　須彌大山王　是故歡喜禮　如是諸天女　各以衆妙音　敬心歌頌已　默然而觀佛
解脫月菩薩　請金剛藏言　願說得五地　行相之因緣

金剛藏菩薩語解脫月菩薩言。佛子。菩薩摩訶薩已具足第四地。欲得第五地。當以十平等心。何等爲十。一過去佛法平等。二未來佛法平等。三現在佛法平等。四戒淨平等。五心淨平等。六除見疑悔淨平等。七道非道淨平等。八行知見淨平等。九諸菩提分法轉勝淨平等。十化衆生淨平等。菩薩以是十平等心。得入第五地。菩薩住難勝地。善修菩提法故。深心清淨故。求轉勝道故。則能得佛。是菩薩得大願力故。慈悲心不捨一切故。得念慧道力故。修習福慧不捨故。出生方便故。欲得轉勝道上地明觀法故。受諸佛神力所護故。生定不退心故。如實知是苦聖諦。是苦集諦。是苦滅諦。是苦滅道諦。是菩薩善知世諦。善知第一義諦。善知相諦。善知差別諦。善知說諦。善知事

灊三本俱作漂　○返同作反

令三本俱作念

諦。善知生起諦。善知盡無生諦。善知入道諦。善知一切菩薩次第成就諸地起如來智諦。菩薩隨衆生意。令歡喜故。知世諦究竟一乘故。知第一義諦。分別諸法自相故。知相諦諸法各異故。知差別諦。分別陰界入故。知說諦以身心苦惱故。知苦諦諸趣生相續故。知集諦畢竟滅一切惱故。知滅諦至不二法故。知道諦以一切種智。知一切法。次第成一切菩薩地故。知如來智諦以信解力故。知非得無盡諦智。菩薩如是以此諸諦智。如實知一切有爲法。虛僞誑詐。假住須臾。誑惑凡夫。菩薩爾時於衆生中。大悲轉勝。生大慈光明。得如是智慧力。不捨一切衆生。常求佛智慧。如實觀一切有爲法先際後際。知衆生從先際無明有愛故生。流轉生死。於五陰歸處。不能動發。增苦惱聚。是中無我。無我所。無衆生。無人。無知者。無壽命者。後際亦如是。如是無所有。而愚癡貪著。不知究竟有出無出。又作是念。凡夫衆生甚爲可怪。無明癡故。有無量身。已滅今滅當滅。如是生死。不能於身生厭離想。轉更增長五道苦輪。生死水灊不能得返。歸五陰舍不能捨離。不知不畏四大毒蛇。不能拔出憍慢見箭。不能滅除貪恚癡火。不能破壞無明愚闇。不能乾竭愛著大海。不求十力大聖導師。常隨魔意。於生死城。常爲諸惡覺觀所轉。如是苦惱。孤窮衆生無有救者。無有舍者。無有究竟道者。唯我一人獨無等侶。修習福慧。以是資糧。令此衆生。住畢竟淨。乃至得一切法中無礙智力。如是思惟。從正觀生於智力發願。所作一切善根。皆爲度衆生故。爲一切衆生求安樂故。爲利益一切衆生故。爲解脫一切衆生故。爲一切衆生無苦惱故。爲一切衆生無危惡故。爲一切衆生心清淨故。爲調伏一切衆生故。爲滅一切衆生諸憂惱苦。滿其願故。是菩薩住難勝地。不忘諸法故。名爲念者。決定智慧故。名爲智者。知經書意次第故。名爲有道者。自護護彼故。名爲有慚愧者。不捨持戒故。名爲堅心者。善思惟是處非處故。名爲覺者。不隨他故。名爲隨智者。善分別諸法章句義故。名爲隨慧者。善修禪定故。名爲得神通者。隨世間法行故。名爲方便者。善集福德資糧故。名爲無厭足者。常求智慧因緣故。名爲不捨者。集大慈大悲因緣故。名爲無疲倦者。常正憶念故。名爲遠離破戒者。深心求佛十力。四無所畏。十八不共法故。名爲常念佛法者。常令衆生離惡修善故。名爲莊嚴佛國者。種諸福德。莊嚴三十二相八十種好故。名爲行種種善業者。求莊嚴佛身口意故。名爲常行精進者。供養一切說法菩薩故。名爲樂大恭敬者。一切菩薩方便中心無礙故。名爲心無礙者。

世下同有間字

哀下同有愍字

得上三本俱有能字

常樂教化衆生故.名爲晝夜遠離餘心者.菩薩如是行時.以布施教化衆生.愛語利益同事.亦教化衆生.又以色身示現.教化衆生.亦以說法.教化衆生.亦示諸菩薩行事.教化衆生.亦示諸佛大事.教化衆生.亦示生死過惡.教化衆生.亦示諸佛智慧利益.教化衆生.菩薩如是修習.以大神力種種因緣方便道.教化衆生.是菩薩種種因緣方便.心常在佛.不失善根.又復常求轉勝利益衆生法.是菩薩利益衆生故.知世所有經書技藝.文章算數.金石諸性.治病醫方.乾消癩病.鬼著蠱毒等.伎樂歌舞.戲笑歡娛.國土城郭.聚落室宅.園林池觀.華果藥草.金銀瑠璃.珊瑚琥珀.硨磲碼碯.示諸寶聚.日月五星.二十八宿.占相吉凶.地動夢怪.身中諸相.布施持戒.攝伏其心.禪定神通.四無量心.四無色定.諸不惱亂.安衆生事.哀衆生故.出如此法.令入諸佛無上之法.菩薩住難勝地.值數百千萬億佛.恭敬供養.尊重讚歎.衣服飲食.臥具醫藥.親近聽法.聞法出家.而爲法師.說法利益.得轉勝多聞三昧.乃至過百千萬億劫.而不忘失.一切福德善根.轉勝明淨.譬如成鍊眞金.硨磲磨瑩.其光轉勝.菩薩住是地中.方便智慧力故.功德善根.轉淨明勝.下地不及.又如日月星宿.諸天宮殿.風持令去.不失法度.如是菩薩住難勝地.以方便思惟故.福德善根.轉倍明淨.而不取證.亦不疾成於無上道.佛子.是名略說菩薩難勝地.菩薩住是地中.多作兜率陀天王.諸根猛利.悉能摧伏一切外道.有所作業.布施愛語.利益同事.皆不離念佛.不離念法.乃至不離念具足一切種智.常生是心.我當於一切衆生.爲首爲勝.乃至於一切衆生.爲依止者.佛子.是菩薩若欲勤行精進.須臾之間.得千億三昧.乃至能示千億菩薩.以爲眷屬.若以願力神通自在.復過是數.若干百千萬億劫.不可計知.時金剛藏菩薩.欲重明此義.以偈頌曰

諸菩薩具足　四地行法已　思惟三世佛　戒心除疑悔　道非道知見　菩提化衆生　如是平等觀
得入第五地　四念處爲弓　信五根爲箭　四正勤爲馬　四如意爲車　五力以爲鎧　破諸煩惱賊
勇健不退轉　直入第五地　慚愧無垢衣　淨戒以爲香　七覺爲華鬘　禪定爲塗香　智慧與方便
種種念莊嚴　如是則得入　陀羅尼園林　四如意爲足　正念爲頭項　慈悲明淨眼　利智慧爲牙
以空無我吼　破諸煩惱賊　如是人師子　能入第五地　是菩薩已得　住於第五地　轉修勝淨法

止同作正

邊同作道

令同作念

皆悉三本俱作悉皆

業同作根○畏同作量

三本俱第六地以下爲卷第六十六十地品第二十二之四○六下明有現前二字

皆爲佛道故　常行慈悲心　未曾有厭倦　常爲修習此　第五地行法　深集二資糧　福德及智慧
種種方便力　上地明觀法　常爲佛所護　得成於念慧　次第能善觀　如實知諸諦　苦集滅止道
世相第一事　說生起差別　無生如來智　如是觀諸諦　心微妙淸淨　雖未能速得　無障礙解脫
以能有智慧　及與信力故　得勝於一切　世間諸智慧　如是觀諸諦　悉知有爲法　虛僞不眞實
無一堅固相　能得於諸佛　慈悲光明分　爲諸衆生故　專心求佛慧　知有爲先後　衆生甚可愍
墮在無明闇　愛因緣所繫　是菩薩能滅　世間之苦惱　知法無壽者　猶如草木等　衆生常以二
煩惱因緣故　從於先世來　後世亦如是　相續不斷絕　不能盡苦邊　於此生愍傷　我當度脫之
不能出五陰　不畏四大害　不拔諸邪箭　不滅三毒火　不除無明闇　墮在大愛海　無有智慧眼
離大導師故　知如是事已　轉加勤精進　有所作起業　皆爲度衆生　常住正念慧　有道有慚媿
堅心覺隨智　轉更令增益　修福慧無厭　持戒不羸弱　求多聞無倦　正修淨佛土　種相好音聲
因緣無厭足　所作諸善業　皆爲利衆生　爲利世間故　造立經書等　金石性醫方　歌舞戲笑事
堂閣及園林　衣服諸飲食　示種種寶聚　令衆得歡喜　占日月五星　及二十八宿　地動吉凶相
夢書諸怪事　布施淨戒等　離欲修禪定　四無量神通　安樂世間故　大智慧菩薩　得此難勝地
供養萬億佛　從佛而聽法　所修諸善根　皆悉得明淨　猶如硨磲寶　瑩磨於眞金　譬如寶宮殿
風持不失法　世法所不染　如蓮華在水　菩薩住是地　多作兜率王　諸根轉猛利　破諸外道見
所作諸善業　皆爲佛智慧　得佛力無畏　能度諸衆生　是菩薩勤修　轉勝精進力　即能得千億
深妙諸三昧　供養千億佛　動千億世界　隨其所願力　過是數無量　如是第五地　種種諸方便
上智慧大人　如法解說竟

第六地

諸菩薩聞說　上地之行相　在於虛空中　雨衆妙珍寶　放淸淨光明　供養於世尊　咸讚言善哉

善哉金剛藏　無量億諸天　心皆大歡喜　於上虛空中　雨種種珍寶　光明相綺錯　微妙甚可樂
香華諸瓔珞　幢蓋散佛上　他化自在王　與諸眷屬等　雨衆妙法物　雰雰如雪下　歌頌供養佛
偁歎金剛藏　咸讃言善哉　快說諸地行　千萬億天女　於上虛空中　作天衆妓樂　歌歎佛功德
咸作如是言　如來之所說　微妙無有量　能滅諸煩惱　諸法本性空　無有毫末相　空無有分別
同若如虛空　無有去住相　亦無有戲論　本來常清淨　如如無分別　若人能通達　一切諸法性
於有於無中　其心不動搖　但以大悲心　爲度諸衆生　是名諸佛子　從佛口法生　常行於布施
利益諸衆生　本來雖清淨　持戒而堅心　雖本心無傷　而行於忍辱　雖知法性離　而行於精進
雖先滅煩惱　而入於諸禪　雖先解法空　而分別諸法　寂滅智雖多　而求利世間　能滅諸惡者
名之爲大人　如是諸天女　百千種妙音　偁讃歌頌已　默然而觀佛　解脫月菩薩　請金剛藏言
當以何行相　得成第六地

金剛藏菩薩言。佛子。菩薩摩訶薩已具足五地。欲入六地。當以十平等法。何等爲十。一以無性故。一切法平等。二以無相故。一切法平等。三以無生故。一切法平等。四以無成故。一切法平等。五以本來清淨故。一切法平等。六以無戲論故。一切法平等。七以不取不捨故。一切法平等。八以離故。一切法平等。九以幻夢影響水中月故。一切法平等。十以有無不二故。一切法平等。菩薩以是十平等法。得入第六地。菩薩如是觀一切法性。能忍隨順得第六地。無生法忍雖未現前。心已成就明利順忍。是菩薩觀一切法如是相。大悲爲首。增長大悲故。觀世間生滅相。作是念。世間所有受身生處。皆以貪著我故。若離著我。則無生處。一切凡夫常隨邪念。行邪妄道。愚癡所盲。貪著於我。習起三行。罪行福行不動行。以是行故。起有漏心種子。有漏有取心故。起生死身。所謂業爲地。識爲種子。無明覆蔽。愛水爲潤。我心溉灌。種種諸見。令得增長。生名色芽。因名色故生諸根。諸根合故有觸。從觸生受。樂受故生愛。愛增長故有取。取因緣故有有。於有起五陰身名爲生。五陰變名爲老。五陰滅名爲死。老死因緣。有憂悲熱惱。衆苦聚集。是十二因緣。無有集者。無有散者。緣合則有。緣散則無。菩薩如是。於六地中。隨順觀十二因緣。又作是

法性元明俱作性相

六上三本俱有第字

成同作滅

地明作田

陰下三本俱有衰字

嗁同作啼
心上同有一字
識起同作諸趣
去下三本俱有世字在及來下亦同
生下同無老字
緣同作續

念。不如實知第一義故有無明。無明起業是名行。依行有初識。與識共生有四取陰。依止取陰有名色。名色成就有六入。根塵合故有觸。觸因緣生受。貪樂受名為愛。愛增長名為取。從取起業名為有。業報五陰名為生。五陰變名為老。五陰壞名為死。死別離時。貪著心熱名為悲。發聲嗁哭。五識為苦。意識為憂。憂苦轉多名為惱。如是但生大苦積聚。是十二因緣。無我無我所。無作者。無使作者。若有作者。則有作事。若無作者。則無作事。第一義中。無作者。無作事。又作是念。三界虛妄。但是心作。十二緣分。是皆依心。所以者何。隨事生欲心。是心即是識。事是行。行誑心故名無明。識所依處名名色。名色增長名六入。三事和合有觸。觸共生名受。貪著所受名為愛。愛不捨名為取。彼和合故名為有。有所起名為生。生變名為老。老壞名為死。又無明有二種作。一者緣中癡。二者為行作因。行亦有二種作。一者生未來世果報。二者與識作因。識亦有二種作。一者能受生。二者與名色作因。名色亦有二種作。一者令識起相續。二者與六入作因。六入亦有二種作。一者能緣六塵。二者能與觸作因。觸亦有二種作。一者能觸所緣。二者能與受作因。受亦有二種作。一者覺憎愛事。二者與愛作因。愛亦有二種作。一者於可染中生貪心。二者與取作因。取亦有二種作。一者能增長煩惱。二者與有作因。有亦有二種作。一者能於餘道中生。二者與生作因。生亦有二種作。一者能起五陰。二者與老作因。老亦有二種作。一者令諸根熟。二者與死作因。死亦有二種作。一者壞五陰身。二者以不見知故。而令相續不絕。又無明緣諸行者。無明令行不斷。助成行故。行緣識者。令識不斷助成識故。識緣名色者。令名色不斷助成名色故。乃至生緣老死憂悲苦惱者。令死不斷助成死故。無明滅故則諸行滅。乃至生滅故老死憂悲苦惱滅。因滅故果亦滅。又無明愛取是三分。不斷煩惱道。行有二分。不斷業道。餘因緣分。不斷苦道。先後際相續故。是三道不斷。是三道離我我所而有生滅。又無明及行是過去事。識名色六入觸受是現在事。愛受有生老死是未來事。於是有三世轉。無明滅故諸行滅。名為斷三世相續說。又十二因緣說名三苦。無明行識名色六入名為行。苦觸受名為苦苦。愛取有生老死憂悲苦惱名為壞苦。無明滅故諸行滅。乃至生滅故老死滅。名為斷三苦相續說。又因無明諸行生。無明滅諸行滅。以諸行性空故。餘亦如是。無明因緣諸行生。以生縛說。無明滅故諸行滅。以滅縛說。餘亦如是。又無明因緣諸行生。是隨順無所有觀說。無明滅諸

主同作生

滅同作滅次亦同

集同作習下同

念下三本俱無具足二字〇生下同有中字

行滅。是隨順盡觀說。餘亦如是。如是逆順十種觀十二因緣法。所謂因緣分次第。心所攝。自助成法。不相捨離。隨三道行。分別先後際。三苦差別。從因緣起。生滅縛。無所有盡觀。是菩薩隨十二因緣。無我無人。無眾生。無壽命者。離作者使作者。無主屬眾因緣。如是觀時。空解脫門現在前。滅此事故不相續故。無相解脫門現在前。知此二種更不樂有。唯大悲心教化眾生。無願解脫門現在前。菩薩修行三解脫門。離彼我相。離作者受者相。離有無相。悲心轉增。以悲心故。勤行精進。未滿菩提法欲令滿足。菩薩作是念。有為法和合故增。離散則滅。緣具故增。不具則滅。我知有為法過故。不應和合具諸因緣。化眾生故。亦不畢竟滅有為法。菩薩如是知有為法無性。離堅固相。無生無滅。與大慈悲和合。不捨眾生。即得無障礙般若波羅蜜光明現在前。得是智慧具足修集阿耨多羅三藐三菩提因緣。而不住有為法。觀有為法性寂滅相。亦不住其中。欲具足無上菩提法故。菩薩住現前地。得勝空三昧。性空三昧。第一義空三昧。究竟空三昧。大空三昧。合空三昧。生空三昧。如實離虛妄空三昧。離空三昧。離分別不分別空三昧。如是等萬空三昧門現在前。無相無願三昧亦如是。是菩薩住現前地。深心。決定心。真心。甚深心。不轉心。不捨心。廣心。無邊心。樂智心。慧方便和合心。如是等心轉勝增長。隨順阿耨多羅三藐三菩提。一切論師不能傾動。入於智地。轉聲聞辟支佛地。決定向佛智。一切眾魔及諸煩惱所不能壞。安住菩薩智慧明中。修空無相無願解脫門。專以智慧方便行。助菩提法。是菩薩住現前地。於般若波羅蜜偏勝。得第三順忍。以順是法無有違逆。菩薩住現前地。得見數百千萬億佛。恭敬供養。尊重讚歎。衣服飲食。臥具醫藥。親近諸佛。於諸佛所。聽受正法。如說修行。令佛歡喜。是人轉勝。知佛法藏。乃至無量百千萬億劫。一切善根轉妙明淨。譬如真金。以瑠璃磨瑩。光色轉勝。菩薩住現前地。以慧方便故。一切善根轉勝明淨。餘地不及。譬如月明。能令眾生身得清涼。四種風吹不能過絕。菩薩住現前地。善根轉勝。能滅眾生煩惱之火。四種惡魔所不能壞。諸佛子。是名略說菩薩現前地。菩薩住是地。多作善化自在天王。智慧猛利。能破一切增上慢者。聲聞問難不能窮盡。有所施作。布施愛語。利益同事。皆不離念佛。不離念法。乃至不離念具足一切種智。常生是心。我當於一切眾生。為首為勝。乃至於一切眾生。為依止者。是菩薩若欲勤行精進。於須臾間得百千億三昧。乃至能示百千億菩薩。以為眷屬。若以願力。能過是數。

是明作事

於同作餘

知三本俱作如

若干百千萬億劫.不可計知.時金剛藏菩薩.欲重明此義.以偈頌曰

諸菩薩已得 具足五地行 知諸法無性 無相無生滅 本來常清淨 無有諸戲論 諸法常離相
不取亦不捨 性空猶如幻 離二無分別 隨順如是行 得入第六地 住明利順忍 以智慧力故
觀察於一切 世間生滅相 悉知諸世間 皆從無明有 無明若滅者 則無有世間 觀察因緣法
隨順第一義 而不壞緣報 所作及假名 如實無作者 亦無有受者 如是觀有爲 如雲無實事
不知眞諦義 名之爲無明 從是則生思 身口業行果 從行故有識 卽生於名色 如是次第起
生死苦惱聚 了達於三界 但從貪心有 知十二因緣 在於一心中 如是則生死 但從心而起
心若得滅者 生死則亦盡 無明二種作 緣癡作於業 乃至於老死 壞散五陰聚 從於此事邊
具出於苦惱 是事若盡者 苦惱則亦滅 無明若具足 相續則不滅 因緣若盡者 相續則亦斷
無明及愛取 卽是煩惱道 行及有是業 餘分則是苦 癡行爲過去 識名色六入 觸受是現在
餘則未來世 癡業識名色 六入名爲行 觸受是苦苦 餘分則是壞 癡從衆緣生 則有於諸縛
衆緣若滅者 諸縛則亦斷 從因而生果 因滅則果滅 如是觀諸法 自性則皆空 隨順於無明
則有諸世間 若能不隨順 是則斷於有 從是則有是 是無則無是 如是十種觀 甚深因緣法
因緣分次第 去來及現在 作不捨一心 分別有三道 三種苦差別 生滅於縛法 無所有及盡
能行逆順觀 菩薩如是入 十二因緣法 知空如夢幻 無作者受者 如是觀因緣 智者修於空
事滅不相續 入於無相行 知此二虛假 於中無所願 但以大悲心 愍度於衆生 如是諸大士
修習解脫門 悲心愛樂佛 無量諸功德 知諸有爲法 皆從和合有 得萬空三昧 無相無願定
智慧轉增進 入於上順忍 得於諸菩薩 無礙智解脫 如是諸善根 轉勝利明淨 供養無量佛
諸佛所偁讚 於諸如來所 出家學佛道 入諸佛法藏 善根轉增長 猶以瑠璃寶 瑩磨於眞金
光明轉清淨 餘所不能及 如月行虛空 清涼被一切 四種風所吹 不能令過絕 菩薩智慧光

七下同有遠行二字

知明作智

滅諸煩惱火　四魔不能壞　其義亦如是　菩薩住是地　多作善化王　諸根悉猛利　能破增上慢
所作諸善業　皆悉隨智慧　聲聞諸問題　不能得窮盡　是佛子若欲　如是勤精進　須臾即能得
百千億三昧　見於百千億　十方世界佛　如秋清涼時　月光明淨好　如是第六地　深妙難知見
聲聞所不了　大士略說竟

第七地

爾時諸天衆　在於虛空中　雨香華珍寶　如雲散佛上　踊躍發妙音　咸讚言善哉　善哉金剛藏
善知第一義　無量功德聚　人中之蓮華　說此上妙行　利益諸世間　他化自在王　雨光明寶華
雰霏而供養　除憂煩惱者　諸天及天王　咸發如是言　若聞此地義　則爲得大利　時作百千種
上妙諸妓樂　諸天女偈讚　承佛神力故　諸佛最寂滅　能轉惡爲善　一切諸世間　皆所共恭敬
雖出過世間　而示世間法　知身同實相　而示種種身　雖以諸言音　演說寂滅法　而知於語言
無有音聲相　能過百千土　上妙供諸佛　知身佛國土　離相智自在　雖教化衆生　而無彼我想
廣集大功德　不於中起著　以見取相故　三毒火然世　不取一切相　慈悲起精進　諸天及天女
歡喜設供養　如是讚歎已　默然而觀佛　解脫月菩薩　請金剛藏言　大衆皆清淨　願說七地行

金剛藏菩薩言。佛子。菩薩摩訶薩已具足第六地。欲入第七地。從方便慧起十妙行。何等爲十。善修空無相無願。而以慈悲心處在衆生。隨諸佛平等法。而不捨供養諸佛。常樂思惟空智門。而廣修集福德資糧。遠離三界。而莊嚴三界。畢竟寂滅諸煩惱燄。而爲衆生起滅貪恚癡煩惱燄法。隨順諸法如幻如夢如水中月不二相。而起分別種種煩惱。及不失業果報。知一切佛國土空如虛空皆是離相。而起淨國土行。知一切佛法身無身。而起色身三十二相八十種好。以自莊嚴。知諸佛音聲不可說寂滅相。而隨一切。起種種莊嚴音聲。知諸佛於一念中通達三世。而知種種相。種種時。種種劫。得阿耨多羅三藐三菩提。隨衆生信解。作如是說。是名從慧方便生十妙行。菩薩摩訶薩修此妙行。如是方便慧現前故。名爲入七地。是菩薩住七地。入無量衆生界。入無量諸佛教化衆生法。入

無量世界。入諸佛無量清淨國土。入無量諸法差別。入無量諸佛智得無上道。入無量諸劫數。入無量諸佛通達三世。入無量衆生欲樂差別。入無量諸佛色身別異。入無量諸佛知衆生志行諸根差別。入無量諸佛音聲語言令衆生歡喜。入無量衆生心心所行差別。入無量諸佛隨智慧行。入示無量聲聞乘信解。入諸佛無量說道因緣令衆生信解。入無量辟支佛智慧習成。入諸佛無量甚深智慧所說。入諸菩薩無量所行道。入諸佛無量諸說大乘。集成事。令衆生得入。菩薩作是念。如是諸佛。有無無量邊大勢力·如是勢力·我應修集得此勢力·不以分別·菩薩如是智慧思惟。修習大方便慧。安住佛智。以不動法故。常起種種度衆生道。無有障礙。行住坐臥。皆悉能起度衆生法。離諸陰蓋。住諸威儀。常不遠離如是想念。是菩薩於念念中。具足十波羅蜜。及十地行。何以故。是菩薩。於念念中。大悲爲首。修習佛法。一切迴向大智慧故。十波羅蜜者。菩薩以求佛道所修善根。與一切衆生。是檀波羅蜜。能滅一切煩惱熱。是尸波羅蜜。慈悲爲首。於一切衆生。心無所傷。是羼提波羅蜜。求善根無厭足。是毗梨耶波羅蜜。修道心不散。常向一切智。是禪波羅蜜。忍諸法不生門。是般若波羅蜜。能起無量智門。是方便波羅蜜。求轉勝智慧。是願波羅蜜。諸魔外道不能沮壞。是力波羅蜜。於一切法相如實說。是智波羅蜜。如是念念中。具足十波羅蜜。是菩薩具足十波羅蜜時。四攝法。三十七品。三解脫門。一切助阿耨多羅三藐三菩提法。於念念中。皆悉具足。解脫月菩薩問金剛藏菩薩言。佛子。菩薩摩訶薩但七地具足助菩提法。一切諸地亦能具足。金剛藏言。佛子。菩薩摩訶薩於諸地中。皆悉具足助菩提法。遠行勝故。於此地說。何以故。諸菩薩摩訶薩。於七地中。功行具足。入智慧神通道故。佛子。菩薩於初地發願緣一切佛法故。具足助菩提法。二地除心惡垢故。具足助菩提法。三地願轉增長。得法明故。具足助菩提法。四地入道故。具足助菩提法。五地隨順行世間法故。具足助菩提法。六地入甚深法門故。具足助菩提法。此第七地起一切佛法故。具足助菩提法。何以故。菩薩摩訶薩。於此地中。得諸智慧所行道。以是力故。第八地自然得成。佛子。譬如二世界。一定清淨。一定垢穢。是二中間。難可得過。欲過此界。當以神通。及大願力。菩薩亦如是。行於雜道。難可得過。以大願力。大智慧力。大方便力故。爾乃得過。解脫月言。第七菩薩。爲是淨行。爲是垢行。金剛藏言。從歡喜地菩薩所行皆離罪業。何以故。迴向阿耨多羅三藐三菩提故。隨地所行

惱三本俱作苦
薩明作提
勝同作乘
害元明俱作災

清淨不名爲過．佛子．譬如轉輪聖王．乘大寶象．遊四天下．見諸衆生．貧窮困惱．王雖無苦．而未離人．若捨王身．生於梵世．遊千世界．現大威力．爾時乃名離於人身．菩薩亦如是．從初地在諸波羅蜜乘．知一切衆生心所行事．及煩惱垢．不爲煩惱垢之所汚．雖乘菩道不名爲過．若捨一切所修功行．入於八地．爾時名爲乘淸淨乘．悉知一切諸煩惱垢．不爲煩惱垢之所汚．乃名爲過．諸佛子．菩薩住七地．過貪欲等諸煩惱垢．在此七地．不名有煩惱．不名無煩惱．何以故．一切煩惱不起故．不名有煩惱．貪求如來智慧．未滿願故．不名無煩惱．菩薩住七地．成就深淨身口意業．是菩薩所有不善業隨煩惱者．悉已捨離．所有善業常修習行．又世間經書．如五地說自然而得．於三千大千世界．最爲希有．得爲大師．唯除如來八地菩薩．無有衆生深心妙行能與等者．是菩薩所有禪定神通解脫三昧．不隨禪生．所欲自在．菩薩住遠行地．於念念中．具足修集方便慧力．及一切助菩提法．轉勝具足．能入菩薩善伏三昧．善思義三昧．進慧三昧．分別義藏三昧．如實分別法三昧．堅固安住三昧．智神通門三昧．淨法界三昧．順佛教三昧．種種義藏三昧．背生死向涅槃三昧．如是具足百萬三昧．淨治此地．是菩薩得是三昧．智慧方便善淸淨故．深得大悲力故．名爲過聲聞辟支佛地．趣佛智地．是菩薩住是地．無量身業無相行．無量口意業無相行．是菩薩淸淨行故．得無生法忍．照明諸法．解脫月菩薩言．佛子．菩薩住初地．有無量身業．無量口意業．已能過聲聞辟支佛地．金剛藏菩薩言．緣大法故過．非實行力．第七地實行力故．一切聲聞辟支佛所不能壞．譬如生在王家．即勝一切．何以故．地尊貴故．其身長大．智慧成就．爾乃眞實．勝於一切．菩薩亦如是．初發心時．勝於二乘．以發大願深心淸淨故．今住此地．以智慧力．勝於聲聞及辟支佛．佛子．菩薩住七地．得甚深遠離無行．身口意業轉求勝法而不捨離．轉以勝心故．雖行實際．而不證實際．解脫月言．佛子．菩薩從何地來．能入寂滅．金剛藏言．從六地來．能入寂滅．今住此地．於念念中．能入寂滅．而不證寂滅．是菩薩成就不可思議身口意業．行實際．而不證實際．譬如有人乘船入海．善爲行法．善知水相．不爲水害之所淪沒．如是菩薩住此七地．乘諸波羅蜜船．能行實際．而不證實際．菩薩如是以大願力故．得智慧力故．從禪定智慧生大方便力故．雖深愛涅槃．而現身生死．雖眷屬圍遶．而心常遠離．以願力故．受生三界．不爲世法之所汙染．心常善寂．以方便力故．而還熾然．隨行佛智．轉聲聞辟

濟三本倶作法
闥明作達〇睺同作喉〇人下三本倶有等字
好同作妙〇嚴同作飾
汙同作淤
時上同有爾字
生元明倶作行

支佛地。至佛法藏。而現魔界。雖過四魔。而現魔行。雖現外道行。而不捨佛濟。雖現身一切世間。而心常在出世間法。一切所有莊嚴之事。勝諸天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽。人非人。四天王。釋提桓因。梵天王。而不捨樂法愛法。菩薩成就如是智慧。住遠行地。値百千萬億那由他佛。恭敬供養。尊重讃歎。衣服飲食。臥具醫藥。供養諸佛。護持佛法。諸聲聞辟支佛智慧問難所不能壞。是菩薩哀愍衆生故。法忍轉淨。是菩薩無量百千萬億那由他劫。善根轉勝。譬如眞金。以諸好寶莊嚴間錯。轉勝明淨。餘金不及。菩薩亦如是。住遠行地。一切善根。從方便智慧生。轉勝明淨。無能壞者。譬如日光。星宿月光所不能及。一切泥水悉能乾竭。菩薩亦如是。住遠行地。善根轉勝。一生聲聞辟支佛所不能及。又能乾竭煩惱汙泥。諸佛子。是名略說菩薩摩訶薩遠行地。菩薩住是地。多作他化自在天王。諸根猛利。能發衆生悟道因緣。所作善業。布施愛語。利益同事。皆不離念佛。不離念法。乃至不離念具足一切種智。常生是心。我當於一切衆生。爲首爲勝。乃至於一切衆生。爲依止者。是菩薩若欲如是勤行精進。於須臾間。得百千億那由他三昧。乃至能現百千億那由他菩薩。以爲眷屬。若以願力。自在示現。過於此數。百千萬億那由他劫。不可計知。時金剛藏菩薩。欲重明此義。以偈頌曰

深智慧定心　具行六地已　一時生方便　智慧入七地　行空無相願　而修慈悲心　順佛平等法
而供養諸佛　雖以智觀空　而修福無厭　雖能嚴三界　而心樂遠離　雖心常寂滅　而起滅惡法
行空不二相　而行慈悲心　雖觀一切土　空若如虛空　而能善莊嚴　淸淨諸佛土　雖知諸佛身
同法相無相　而種三十二　八十諸相好　雖知音聲法　不可言說相　而歎佛音聲　令一切歡喜
雖知於諸佛　一念中成道　而示時劫刹　引導諸衆生　如是知諸方　則得法照明　菩薩如是者
即入第七地　往是地能觀　無量衆生行　亦知於諸佛　教化衆生法　世界及劫數　諸法差別相
又知諸衆生　種種之欲樂　知說三乘法　令衆生信解　我應修教化　成就是衆生　以如是思惟
方便慧和合　於四威儀中　常行如是道　於一一念中　能具菩提法　所謂施戒等　十種波羅蜜
如是諸菩薩　所修之福德　皆與諸衆生　名檀波羅蜜　滅除心惡垢　名尸波羅蜜　不爲六塵傷

羼提波羅蜜　能起轉勝法　精進波羅蜜　於是道不動　名禪波羅蜜　無生忍照明　般若波羅蜜
迴向於佛道　方便波羅蜜　求於轉勝法　名願波羅蜜　無有能壞者　名力波羅蜜　能解如實說
名智波羅蜜　是助菩提法　念念皆能攝　發於廣大願　緣於大法故　初地中功德　名之爲具足
第二地名爲　除諸心垢惡　第三願增明　第四地入道　第五隨世行　第六入深法　得無生相分
漸漸而增長　第七集一切　具菩提分法　能起諸功德　及以一切願　如是諸功德　令後八地中
一切諸所行　自然得清淨　遠行地難過　大智力所能　如二國中間　難可得過度　在於七地中
不汚如聖王　雖住於此道　不名一切過　若到於第八　菩薩智慧地　爾時過意界　住於智業中
如梵王觀世　不得名爲人　菩薩雖不汚　如蓮華在水　菩薩住是地　過諸貪欲等　不名有煩惱
亦不名滅盡　入是正道中　無有諸煩惱　願求佛道故　不得名盡者　於諸世間中　經書技藝事
文頌呪術等　自然能明了　修習諸禪定　及諸神通等　無量心利世　是事皆能起　爾時此菩薩
過於二乘行　安住第七地　菩薩諸行中　以初發心時　大願力故勝　今於此地中　自以智慧力
猶如國王子　生時姓尊貴　後以功行成　於諸人中尊　住此得深智　轉發勝精進　念念入寂滅
而亦不取證　如人善乘船　入於大海中　雖行深水難　而不爲所害　菩薩行轉勝　方便智慧故
功德悉備足　非世所能知　供養無量佛　其心轉清淨　如眞金雜寶　間錯而莊嚴　得佛智慧光
乾諸愛潤水　猶如日光明　消涸於泥澇　住是地多作　他化自在王　諸根悉猛利　通達諸道果
若欲勸精進　得見百千億　那由他諸佛　願力復過是　七地智慧淨　入天及二乘　皆非其境界
今已略說竟

大方廣佛華嚴經卷第二十五

澇三本俱作潦

大方廣佛華嚴經卷第二十六

〔麗朝〕〔宋問〕〔元問〕〔明朝〕

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅　譯

十地品第二十二之四

他化自在王　諸天及菩薩　聞說此上行　心皆大歡喜　雨上妙華香　幡蓋寶瓔珞　眞妙摩尼珠
散佛及大衆　天女於空中　作種種妓樂　供養於如來　幷及諸菩薩　同以微妙音　歌頌佛功德
一切智慧者　衆生中最尊　哀愍世間故　現諸神通力　華香珍寶等　皆出如是音　於一微塵中
各示那由他　無量數諸佛　於中而說法　於一微塵中　見無量佛國　須彌金剛圍　世間不迫迮
於一微塵中　見有三惡道　天人阿修羅　各各受業報　聞諸佛國中　一切佛妙音　轉無上法輪
隨應衆生心　諸佛世界中　衆生身種種　隨國土衆生　示現種種身　一切諸天人　皆悉同止住
佛先觀察已　然後爲說法　衆生悉知見　微塵中佛國　亦觀曠大剎　以佛威神故　佛現如是等
種種神通力　若爲衆生說　是事不可盡　以是微妙音　稱歎於世尊　心皆大歡喜　默然而觀佛
解脫月菩薩　諸金剛藏言　佛子願演說　入於八地行

金剛藏菩薩言。佛子。菩薩摩訶薩。已習七地微妙行慧。方便道淨。善集助道法。具大願力。諸佛神力所護。自善根得力。常念隨順如來力。無畏。不共法。直心深心淸淨。成就福德智慧。大慈大悲不捨衆生。修行無量智道。入諸法本來無生。無起無相。無成無壞。無來無去。無初無中無後。入如來智。一切心意識。憶想分別。無所貪著。一切法如虛空性。是名菩薩得無生法忍入第八地。入不動地名爲深行菩薩。一切世間所不能測。離一切相。離一切想。一切貪著。一切聲聞辟支佛所不能壞。深大遠離。而現在前。譬如比丘得於神通。心得自在。次第乃入滅盡定。一切動心。憶想分別。皆悉盡滅。菩薩亦如是。菩薩住是地。諸勤方便身口意行。皆悉息滅。住大遠離。是人夢中欲渡深

他化自在王前行三本俱有第八不動地五字○妙同作珠

故同作力

三本俱金剛藏菩薩言以下爲卷第二十七十地品第二十二之五○畏上同

有所字

息三本俱作自○渡同作度次同

音明作意

菩同作薩

水。發大精進。施大方便。未渡之間。忽然便覺。諸方便事。皆悉放捨。菩薩亦如是。從初已來。發大精進。廣修道行。至不地動。一切皆捨。不行二心。諸所憶想。不復現前。譬如生梵世者。欲界煩惱不現在前。菩薩亦如是。住不動地。一切心意識不現在前。乃至佛心。菩提心。涅槃心。尚不現前。何況當生諸世間心。佛子。是菩薩隨順是地。本以願力故。又諸佛爲現其身。住在諸地法流水中。與如來智慧爲作因緣。諸佛皆作是言。善哉善哉。善男子。汝得是第一忍。順一切佛法。善男子。我有十力。四無所畏。十八不共法。汝今未得爲得。是故勤加精進。亦莫捨此忍門。善男子。汝雖得此第一甚深寂滅解脫。一切凡夫離寂滅法。常爲煩惱覺觀所害。汝當愍此一切衆生。又善男子。汝應念本所願。欲利益衆生。欲得不可思議智慧門。又善男子。一切法性。一切法相。有佛無佛。常住不異。一切如來不以得此法故說名爲佛。聲聞辟支佛亦得此寂滅無分別法。善男子。汝觀我等無量清淨身相。無量智慧。無量清淨國土。無量方便。無量圓光。無量淨音。汝今應起如是等事。又善男子。汝今適得此一法明。所謂一切法寂滅無有分別。我等所得無量無邊。汝應精勤起此諸法。善男子。十方無量國土。無量衆生。無量諸法差別。汝應如實通達是事。隨順如是智。是菩薩諸佛與如是等無量無邊起智慧門因緣。以此無量門故。是菩薩能起無量智業。皆悉成就。諸佛子。若諸佛不與菩薩起智慧門者。是菩薩畢竟取於涅槃。棄捨利益一切衆生。以諸佛與此無量無邊起智慧門故。於一念中。所生智慧。比從初地已來乃至七地。百分不及一。無量無邊阿僧祇分不及一。乃至算數譬諭所不能及。所以者何。先以一身修集功德。今此地中。得無量身修菩薩道。以無量音聲。無量智慧。無量生處。無量清淨國土。無量教化衆生。供養給侍無量諸佛。隨順無量佛法。無量神通力。無量大會差別。無量身口意業。集一切菩薩所行道。以不動法故。佛子。譬人乘船欲渡大海。未至大海。多用功力。入海以風。無復艱礙。一日之行過先功力。於百千歲。所不能及。菩薩亦如是。多集善根。乘大乘船。入菩薩所行大智慧海。不施功力。能近一切諸佛智慧。比本所行。若一劫。若百千萬劫。所不能及。佛子。菩薩摩訶薩。至第八地。從大方便慧生。無功用心。在菩薩道。思惟諸佛智慧勢力。知世界生。世界滅。世界成。世界壞。知以何業因緣集故世界成。何業因緣滅故世界壞。是菩薩知地水火風性小相。中相。無量相。差別相。知微塵細相。知微塵差別相。於一世界中。所有微塵差別。皆悉能

善上元明俱有別字

膩明作貳〇吒下三本俱有天字

薩下同有善字

倒同作狹〇平下同有等字〇方下同有圓相二字

知此一世界所有地水火風。若干微塵。皆悉能知。知實物若干微塵。衆生身若干微塵世界中萬物微塵差別。分別衆生大身小身。以若干微塵。成地獄身。畜生身。餓鬼身。以若干微塵。成阿修羅身。天身。以若干微塵成。皆悉了知。是菩薩入如是分別微塵智。知欲色無色界壞。知欲色無色界成。知欲色無色界成壞。知欲色無色界小相。中相。無量相。知欲色無色界差別相。如是知三界。是名菩薩敎化衆生。助智明分。善分別衆生身。善觀所應生處。隨衆生生處。隨衆生身。而爲受身。是菩薩現身徧滿三千大千世界。隨衆生身。各各差別譬如日月於一切水皆現其像。若二若三。乃至無量無邊不可思議不可說三千大千世界身徧其中。隨衆生身差別。而爲受身。是菩薩成就如是智慧。於一世界。身不動搖。乃至不可說諸佛世界。隨衆生身。隨所信樂。於佛大會。而現身像。若於沙門中。示沙門形色。婆羅門中。示婆羅門形色。刹利中。示刹利形色。居士中。示居士形色。四天王中。帝釋中。魔中。梵天中。示梵天形色。乃至阿迦膩吒天中。示阿迦膩吒形色。以聲聞乘度者。示聲聞形色。以辟支佛乘度者。示辟支佛形色。以菩薩乘度者。示菩薩形色。以佛身度者。示佛身形色。所有不可說諸佛國中。隨衆生身信樂差別。現物受身。而實遠離身相差別。常住平等。是菩薩知衆生身。知國土身。知業報身。知聲聞身。知辟支佛身。知菩薩身。知如來身。知智身。知法身。知虛空身。是菩薩如是知衆生深心所樂。若於衆生身作己身。若於衆生身作國土身。業報身。聲聞身。辟支佛身。菩薩身。如來身。智身。法身。虛空身。若於國土身。作己身。業報身。乃至虛空身。若於業報身。作己身。乃至虛空身。若於己身。作衆生身。國土身。業報身。聲聞身。辟支佛身。菩薩身。如來身。智身。法身。虛空身。是菩薩知衆生集業身。報身。煩惱身。色身。無色身。諸佛國土小相。中相。無量相。垢相。淨相。廣相。倒相。平相。方差別相。知業報身假名差別。聲聞身假名差別。辟支佛身假名差別。菩薩身假名差別。知如來身。菩提身。願身。化身。住持身。相好莊嚴身。勢力身。如意身。福德身。智身。法身。知智身善分別如實。知法身平等不壞相。知虛空身無量相。周徧相。無形知。是菩薩善知起如是諸身。則得妙自在。心自在。財自在。業自在。生自在。願自在。信解自在。如意自在。智自在。法自在。是菩薩得十自在。爲不可思議智者。無量智者。廣智者。不可壞智者。菩薩隨如是智慧。畢竟常起無罪身業口業意業。身業隨智行。口業隨智行。意業隨智行。般若波羅蜜增上。大悲爲首。善修方便善起諸願。善爲諸

名下三本俱有爲字

亦下同有復字　○萬明作方

佛神通所護。常不捨行利益衆生智。悉知無邊世界中差別事。舉要言之。菩薩住無動地。身口意所作。皆能集一切佛法。是菩薩住此地。離一切煩惱故。善住淨心力。心常不離道故。善住深心力。不捨衆生故。善住大悲力。救一切世間故。善住大慈力。不忘所聞法故。善住陀羅尼力。分別觀察一切佛法故。善住一切樂說力。行無邊差別世界故。善住神通力。不捨一切菩薩所行故。善住願力。修集一切佛法故。善住波羅蜜力。善起一切種智。故善住如來力。是菩薩得如是智力。示一切所作。無有過咎。諸佛子。菩薩此地不可壞故。名爲不動地。智慧不轉故。名爲不轉地。一切世間不能測知故。名威德地。無色欲故。名童眞地。隨意受生故。名自在地。更不作故。名爲成地。決定知故。名爲究竟地。善發大願故。名爲變化地。不可壞故。名爲住持地。先修善根故。名爲無功力地。菩薩得如是智慧。名爲入佛境界。名爲佛功德所照明。名爲隨佛威儀行趣向佛法。常爲諸佛神力所護。常爲四天王。釋提桓因。諸梵王等之所奉迎。密迹金剛神。常隨侍衞。善能出生諸禪三昧。能作無量諸身差別。於諸身中。皆有勢力。得大果報神通力。於無邊三昧中得自在。能受無量記。隨衆生成就處。示成阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩入如是大智慧。善通達諸法。常放大智光明。度無礙法界道。善知世界道差別。能示一切諸功德。隨意自在。善解先際後際。能入轉魔道智。入如來行境界。能於無邊世界。行菩薩道。以不轉相故。此地名爲不動。佛子。菩薩在不動地。善生禪定力故。常見無邊諸佛。不捨供養供給諸佛。是菩薩於一一劫。一一世界中。數百千萬億那由他無量無邊阿僧祇佛。恭敬供養。尊重讃歎。親近諸佛。從諸佛受世界差別等諸法明。是菩薩轉深入如來法藏。問世界差別事。無能盡者。乃至百千萬億劫。說不可盡。又諸善根。轉勝明淨。譬如眞金。衆寶間錯。爲轉輪王。所佩瓔珞。一切人民。無能奪者。菩薩摩訶薩亦如是。住無動地。善根轉淨。一切聲聞辟支佛。乃至七地菩薩所不能壞。菩薩住是地。以善分別智門故。智慧光明。滅除一切衆生惱熱。譬如千世界主大梵天王。能於一時。流布慈心。滿千世界。亦能放光。徧照其中。菩薩摩訶薩亦如是。住不動地。能放身光。照十萬佛刹微塵世界。滅除衆生諸煩惱熱。令得淸涼。諸佛子。是名略說菩薩不動地。若廣說者。無量億劫所不能盡。菩薩住是地。多作大梵天王。主千世界。諸根猛利。與諸衆生聲聞辟支佛菩薩波羅蜜道。無有窮盡。說世界差別。無能壞者。所作善業。布施愛語。利益同事。皆不離念佛。

於下三本俱有一切二字

渡明作度○深明作身故三本俱作護

業元明俱作慧世界三本俱作界微

天人同作人天

不離念法。乃至不離念一切種智。常生是心。我當於衆生。爲首爲勝。乃至於一切衆生。爲依止者。是菩薩若欲勤行精進。於須臾間。得百萬三千大千世界微塵數三昧。乃至能示百萬三千大千世界微塵數菩薩。以爲眷屬。若以願力。神通自在。能過是數若干。百千萬億劫。不可計知。時金剛藏菩薩。欲重明此義。以偈頌曰

菩薩住七地　慧方便已淨　善集助道法　大願力所繫　諸佛神力護　善根悉成就　求於勝智慧
能入第八地　善集於福慧　而有深慈悲　離諸有量心　心同如虛空　如所說法中　心得決定力
如是得寂滅　微妙無生忍　諸法從本來　無生亦無起　無相無有成　亦無去來義　諸法初中後
與如無分別　無有心意行　同若如虛空　成就如是忍　無有諸戲論　得是不動地　甚深寂滅行
一切諸世間　不能得測量　一切諸心相　皆悉已滅盡　菩薩住是地　心識無分別　如入滅盡定
無復憶念想　猶如人夢中　方便欲渡水　覺則意廓然　休息諸所作　得是深忍已　一切想念滅
如生於梵天　無欲界煩惱　以本願力故　及佛今勸導　如是第一忍　是諸佛職位　我等深智力
無畏不共法　汝今無有此　當加勤精進　汝雖得除滅　一切煩惱火　當觀諸世間　煩惱常熾然
當念本所願　欲利諸衆生　悉徧知諸法　廣度於一切　諸法實性相　常住無變異　二乘亦得此
而不名爲佛　但以得無礙　甚深微妙智　通達三世故　乃得名爲佛　是諸無等等　天人所恭敬
開是起智門　令入諸佛法　成就無邊底　無量妙智慧　先所行諸法　不及今一念　如是諸菩薩
得妙智慧地　能在一念中　身徧於十方　入是智慧門　行道疾無礙　如行於海中　大風力所濟
離諸功用心　但在於智業　觀十方世界　成壞及與住　能知四大一　亦知諸別異　小中及無量
種種差別相　能數知三千　大千世界塵　亦知衆生身　四大微塵數　諸天身衆寶　微塵數差別
皆悉徧明了　餘亦如是知　智慧因緣故　心轉得調柔　爲利諸衆生　徧諸世界身　能於衆生身
而自作己身　及以諸佛剎　諸餘種種身　如日月停空　影現一切水　菩薩亦如是　徧滿大千界
常住於法身　湛然不移動　於淨心衆生　各現其身像　隨諸心所樂　而現爲受生　於諸天人會

悉皆示其身　菩薩於因緣　和合中自在　乃至能隨意　爲現於佛身　衆生國土身　業報賢聖身
智身與法身　知皆同平等　以是因緣故　得如意神通　爲令世歡喜　而現種種身　能得於十種
妙大自在智　所作隨智行　願於慈悲心　諸偈所有法　皆能善修習　住三淨戒中　不動如須彌
能得大菩薩　所有十種力　一切諸魔衆　皆所不能轉　常爲諸佛護　釋梵所敬禮　密迹金剛神
常隨而侍衞　菩薩得是地　功德無有量　百千萬億劫　說之不可盡　親近無數佛　增益諸善根
如眞金雜寶　莊嚴王瓔珞　菩薩在是地　多作大梵王　典領千國土　功德無有量　能以三乘教
而無有窮盡　慈心光普照　滅諸煩惱熱　能於須臾間　得百萬三千　大千世界數　微塵諸三昧
能見十方佛　其數亦如是　若以其願力　過是無有量　今已略解說　第八地妙相　若廣演說者
千億劫不盡

第九地

佛子演說此　八地妙義時　以佛神力故　震動無量國　一切智身出　無量微妙光　徧照十方界
衆生得安樂　百千萬菩薩　住於虛空中　設衆妙供養　諸天所無有　自在大梵天　并及他化王
歡喜說妙供　大海功德佛　千萬諸天女　咸恭敬歡喜　同以微妙音　歌歎佛功德　以佛神力故
出如是妙法　善行寂滅者　無有諸惡心　各在於其地　善修菩薩行　利益世間故　徧遊於十方
示衆以佛道　心如空無礙　諸菩薩神力　上妙供養具　勝十方人天　福德之所致　佛子樂智者
以此示佛力　於一國不動　而現一切處　利益於世間　如滿月明淨　滅一切音聲　語言諸想念
而以諸音聲　說法皆如響　若衆生下劣　其心厭沒者　示以聲聞道　令出於衆苦　若復有衆生
諸根少明利　樂於因緣法　爲說辟支佛　若人根明利　饒益於衆生　有大慈悲心　爲說菩薩道
若有無上心　決定樂大事　爲示於佛身　說無量佛法　譬如幻化師　示種種身色　如是諸身相
皆無有實事　如是諸佛子　善知智慧術　能示一切行　心離於有無　千萬諸天女　同以微妙音

而三本俱作所
九下同有善慧二字
法元明俱作音

無下三本俱無所字　不下同有可字

是元明俱作道

相下三本俱無相字

如是歌歎已　默然而觀佛　解脫月又言　佛子大會淨　一心願樂聞　入九地正行

金剛藏菩薩言。佛子。菩薩摩訶薩。以如是無量智慧。善觀佛道。欲求轉勝寂滅解脫。欲轉勝思惟如來智慧。欲入如來深密法藏。欲觀察不可思議大智慧。欲觀察諸陀羅尼三昧重令清淨。欲令神通廣大。欲分別世界差別。欲修諸佛力無所畏不共法。無能壞者。欲順行諸佛轉法輪力。欲不捨所受大悲大願。菩薩如是思惟。得入第九地。菩薩住此地。如實知善不善無記法行。知有漏無漏法行。世間出世間法行。思議不思議法行。定不定法行。聲聞辟支佛法行。菩薩道法行。如來地法行。有爲無爲法行。隨順如是智慧。知菩提心所行難。知煩惱難。業難。諸根難。欲難。性難。直心難。使心難。生難。習氣難。三聚差別難。知衆生諸心差別相。莊飾世心相。速轉心相。壞不壞心相。無形心相。無邊自在心相。清淨差別心相。垢無垢心相。縛解心相。諂曲質直心相。隨道心相。皆如實知。是菩薩知煩惱深相。淺相。知心伴相。不相離相。知使纏差別相。知是心相應不相應相。隨是生時得果報相。知三界中差別相。知愛癡見深入如箭相。知憍慢癡重罪相。知是三業因緣不斷相。乃至如實知八萬四千煩惱行差別相。是菩薩知諸業善不善無記相。分別不可分別相。心伴相。不相離相。自然盡相。行道盡相。種種集相。不失果報相次第相。有報相。無報相。黑黑報相。白白報相。黑白黑白報相。非黑非白能盡業相。知業起相。受業法差別相。知無量因緣起業相。知世間業出世間業差別相。現報相。生報相。後報相。隨諸乘定相。不定相。乃至如實知八萬四千諸業差別相。是菩薩知諸根輭中上差別相。知先後際別異不別異相。知上中下相。知煩惱伴相。不相離相。隨諸乘定相。不定相。淳熟相。未淳熟相。隨根轉相。易壞相。深取相相。增上相。不可壞相。轉相。不轉相。三世差別相。久遠共生差別相。乃至如實知八萬四千諸根差別相。是菩薩知諸欲輭中上差別相。乃至如實知八萬四千諸欲差別相。是菩薩知諸性輭中上差別相。乃至如實知八萬四千諸性差別相。是菩薩知直心輭中上差別相。乃至如實知八萬四千直心差別相。是菩薩知諸使共心生不共心生。心相應心不相應。無始來惱衆生相。與一切禪定解脫神通相違相。三界繫相。無量心不現前相。開煩惱門相。不知對治相。無所有相。無學道開法門相。皆如實知。是菩薩知諸生差別相。所謂地獄。畜生餓鬼。阿修羅人天。色無色界。有想無想差別。業是田。愛是水。無明是覆。識是種子。

受同作愛

壞下三本俱有相字

後身是芽.名色共生而不相離.癡愛相續.欲生欲作欲受.不樂涅槃三界差別相續相.皆如實知.是菩薩知諸習氣有起不起.隨所生處有習氣.隨衆生行有習氣.隨業煩惱有習氣.善不善無記有習氣.離欲有習氣.隨後身有習氣次第隨越有習氣.久遠不斷持煩惱業.離則無法.皆如實知.是菩薩知衆生定不定相.正定相.邪定相.不定相.正見中正定相.邪見中邪定相.離此二不定相.一一逆邪定相.五根正定相.離此二不定相.邪位邪定相.正位正定相.離此二不定相.深入邪聚難轉相.修無上道因緣相.不定衆生守護相.皆如實知.佛子.菩薩摩訶薩.隨如是智.名爲安住善慧地.菩薩住是地.知衆生如是諸行差別相.隨其解脫而與因緣.是菩薩化衆生法.度衆生法.如實知而爲說法.聲聞乘相.辟支佛乘相.菩薩乘相.如來地.相如實知.隨衆生因緣.而爲說法.隨心隨根.隨欲差別.而爲說法.又隨行處.隨智慧處.而爲說法.知一切行.處而爲說法.隨衆生性.深入難處.而爲說法.隨趣隨生.隨煩惱.隨習氣轉故說法.隨乘令解脫故說法.是菩薩住此地.爲大法師.守護諸佛法藏.入深妙義.用無量慧方便.四無礙智言辭說法.是菩薩常隨四無礙智.而不可壞.何等爲四.一法無礙.二義無礙.三辭無礙.四樂說無礙.是菩薩以法無礙智.知諸法自相.以義無礙智.知差別法.以辭無礙智.知說諸法不可壞.以樂說無礙智.知說諸法次第不斷.復次以法無礙智.知諸法無體性.以義無礙智.知諸法生滅相.以辭無礙智.知諸法假名不斷假名說.以樂說無礙智.知隨假名不壞無邊說.復次以法無礙智.知現在諸法差別相.以義無礙智.知過去未來諸法差別相.以辭無礙智.知過去未來現在諸法說不可壞.以樂說無礙智.於一一世.得無邊法明說.復次以法無礙智.知諸法差別.以義無礙智.知諸法義差別.以辭無礙智.隨諸言音.而爲說法.以樂說無礙智.隨所樂解.而爲說法.復次以法無礙智.以法智方便.知諸法差別不可壞.以義無礙智.以比智如實知諸法差別.以辭無礙智.以世智.說諸法差別.以樂說無礙智.知善說第一義.復次以法無礙智.知諸法一相不壞.以義無礙智.知陰入界諦因緣法.以辭無礙智.以微妙音故.一切世間之所歸趣.以樂說無礙智.所說轉勝.能令衆生.得無邊法明.復次以法無礙智.知一乘究竟.攝一切無差別.以義無礙智.知諸乘差別.以辭無礙智.能說諸乘無差別.以樂說無礙智.以一法門說無邊法明.復次以法無礙智.能入一切菩薩行智行法行隨智行.以義無礙智.能分別說十地義差別.以

無上元明俱有四字

或下三本俱有以字

亦下同無復字

干明作千

辭無礙智。說隨順諸地道不可壞。以樂說無礙智。說一切行無邊相。復次以法無礙智。知一切佛。於一念中得菩提。以義無礙智。知種種時。種種剎差別。以辭無礙智。隨諸佛得道事差別說。以樂說無礙智。於一句法。無邊劫說。而不窮盡。復次以法無礙智。知一切佛語。一切佛力。無畏。不共法。大慈大悲。無礙智。轉法輪。一切種智。以義無礙智。知如來音聲。說八萬四千隨衆生心諸根欲樂差別行。以辭無礙智。以如來音聲。說一切諸行不可壞。以樂說無礙智。以諸佛智力。隨衆生所樂音聲說。菩薩摩訶薩。如是善知無礙智。安住第九地。名爲得佛法藏。爲大法師。得衆義陀羅尼。衆法陀羅尼。起智陀羅尼。衆明陀羅尼。善慧陀羅尼。衆財陀羅尼。名聞陀羅尼。威德陀羅尼。無礙陀羅尼。無邊旋陀羅尼。雜義藏陀羅尼。得如是等百萬阿僧祇陀羅尼。隨方便說。如是無量樂說差別門說法。是菩薩得如是無量陀羅尼門。能於無量佛所聽法。聞已不忘。如所聞法。能以無量差別門。爲人演說。是菩薩於一佛所。以百萬阿僧祇陀羅尼。聽受正法。如從一佛。餘無量佛。亦復如是。是菩薩於禮敬佛時。所聞法明。非多學聲聞得陀羅尼力。於十萬劫。所能受持。是菩薩得如是陀羅尼力。無礙智樂說力。以說法故。在於法座。大千世界滿中衆生。隨意說法。是菩薩在法座上。唯除諸佛。及受職菩薩。於一切中。最爲殊勝。是菩薩處於法座。或以一音。欲令一切悉得解了。即得解了。或以種種音聲。欲令一切各得開解。即得開解。或以默然但放光明。欲令一切各得解法。即得解法。或一切毛孔。皆出法音。或三千大千世界所有色無色物。皆出法音。或以一音。周滿法界。欲令得解。即皆得解。是菩薩三千大千世界所有衆生。以無量音聲。一時問難。所問各異。是菩薩於一念中。悉受如是一切問難。以一音答。皆令開解。如是若二若三。若百若千。乃至不可說不可說三千大千世界滿中衆生廣爲說法。承佛神力。能爲衆生廣作佛事。倍復勤攝。如是智明。於一塵中。有不可說不可說世界塵數大會。佛在此中。隨衆生心。而爲說法。令一一衆生。心得若干無量諸法。如一佛。一切諸佛。亦如是。如一微塵。一切十方世界。亦復如是。於是中生大憶念力。於一念中。從一切佛所受法明。不失一句。如上大會滿中衆生。以決定法明。演淸淨法。於一念中。令爾所衆生。皆得開解。何況若干世界中衆生。是菩薩住是地。善根轉勝。深入諸佛行處。常與一切佛會。深入菩薩解脫。菩薩隨順。如是智常見諸佛。於一一劫中。無量無邊百千萬億以上供具。供養諸佛。於諸佛所。種種

千下三本俱有大千二字

問難。通達諸陀羅尼。一切善根。轉勝明淨。佛子。如鍊眞金。具足莊嚴。爲轉輪王所著寶冠。一切小王無能奪者。菩薩亦如是。住善慧地。一切善根。轉勝明淨。聲聞辟支佛。諸地菩薩所不能壞。是菩薩善根轉明。能照衆生煩惱難處。如大梵王。三千世界一切難處。皆悉能照。菩薩亦如是。住善慧地。善根明淨。照諸衆生煩惱難處。諸佛子。是名略說菩薩善慧地。若廣說者。則無量無邊劫。不可得盡。菩薩住是地。多作大梵王。典領三千大千世界。無有能勝。如實解義者。於自在中。而得自在。善能宣說聲聞辟支佛。菩薩波羅蜜。衆生問難。無能窮盡。所作善業。布施愛語。利益同事。皆不離念佛。不離念法。乃至不離念一切種智。常生是心。彼當於一切衆生。爲首爲勝。乃至於一切衆生。爲依止者。是菩薩若欲如是勤行精進。於一念中。得百萬阿僧祇三千大千世界微塵數三昧。乃至能示百萬阿僧祇三千大千世界微塵數菩薩。以爲眷屬。若以願力。神通自在。復過是數。百千萬億那由他劫。不可計知。爾時金剛藏菩薩。欲重明此義。以偈頌曰

諸菩薩隨順　無量深智力　第一最微妙　一切世難知　利益衆生者　能至第九地　得入於諸佛
祕密之法藏　得微妙最上　三昧陀羅尼　廣大神通力　善入世界相　智慧力決定　能觀諸佛法
大願悲心淨　得入第九地　順行此上地　持諸佛法藏　卽能通諸法　善不善無記　有漏及無漏
世間出世間　是可思議法　是不可思議　知法定不定　三乘具足相　思惟分別此　有爲無爲法
起知如是法　滅諸無明闇　隨順是智心　則爲第一妙　悉知一切難　諸心差別相　莊飾世輕易
無邊自在心　煩惱深淺相　心伴不離相　知使纏差別　隨順相續有　知業種種雜　各各差別相
因滅果不失　通達如是事　又知於衆生　諸根軟中上　廣大差別等　先際後際相　知欲軟中上
及諸性差別　乃至能悉知　八萬四千種　煩惱使難處　無始來不滅　皆與心共行　繫縛不可斷
知諸結使等　但妄想分別　無有方處所　亦無定事相　常不離於身　又亦難得知　禪定力能遮
金剛道能斷　又能知諸生　入六道差別　愛潤無明覆　業田識是種　生於後身芽　名色共增長
無始生死來　相續在三界　知諸天龍趣　由煩惱業心　若離於此法　是則無所有　一切諸衆生

趣三本俱作聚　一元明俱作六　六三本俱作七

皆在三趣中　或沒諸邪見　或在於智道　菩薩住是地　悉知衆生心　諸根及欲樂　種種差別義
深心善思惟　隨宜而說法　通達無礙智　善以言辭說　菩薩爲法師　猶如師子王　牛王寶山王
安住無所畏　普於諸世界　雨甘露法味　猶如大龍王　能雨滿大海　是菩薩善知　法義辭無礙
善能隨順行　具足樂說力　能得於百萬　阿僧祇總持　能受諸佛法　如海受龍雨　菩薩得如是
諸深妙清淨　無量陀羅尼　諸三昧力故　能於一念中　得見無量佛　聞已淨梵音　演說妙法寶
是菩薩或教　大千界衆生　隨心根所好　說法令歡喜　如是等無量　三千大千國　轉深勤精進
而作是思惟　於一微塵中　無量佛說法　隨衆生心相　演說於妙義　是菩薩皆受　如地受諸種
復作如是願　十方諸所有　國土中衆生　皆合爲一會　我於一念中　皆悉知其心　以一音說法
悉令斷疑網　菩薩住是地　人天中法王　爲大說法師　隨順衆生性　常於日夜中　與諸佛共會
能住甚深妙　寂滅智解脫　供養無量佛　善根轉明淨　猶如轉輪王　眞金莊嚴冠　光明照衆生
諸煩惱難處　如梵王光明　照於大千界　菩薩住是地　於三千世界　作大梵天王　善根悉猛利
善以三乘法　示悟諸衆生　所作諸善業　皆順於正念　能於一念中　而得無有量　世界微塵數
諸深妙三昧　得見十方佛　微妙音說法　見佛大神力　更發無量願　如是第九地　大智所行處
深妙難知見　今已略說竟

大方廣佛華嚴經卷第二十六

七同作八

品目五同作六

說諸大菩薩前行宋元俱有第十地三字明有第十法雲地五字

故下元明俱有一切佛法等入在於第一寂滅義趣中悉皆無有相四句二十字

大方廣佛華嚴經卷第二十七

〔麗朝，宋問三元問三明朝〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

十地品第二十二之五

說諸大菩薩　所行無上事　無數那由他　首陀會諸天　於上虛空中　心皆大歡喜　咸以恭敬心
衆妙供養佛　那由他菩薩　歡悅無有量　燒諸奇妙香　滅除諸煩惱　他化自在王　與諸天大衆
住在虛空中　心皆大歡喜　咸以恭敬心　種種設供養　各散衆寶衣　空中旋轉下　無量億天女
諸根欣悅豫　於上虛空中　敬心供養佛　同作無量億　那由他妓樂　一切寶器中　皆出如是音
佛坐於此處　悉徧於一切　十方國土中　皆亦有佛現　無量億種種　相好莊嚴身　殊妙無有比
充滿於世界　於一毛孔中　出無量光明　滅除於一切　世間煩惱火　十方微塵數　尚可得計量
一毛孔光明　不可得窮盡　各見有佛身　以三十二相　八十好莊嚴　轉無上法輪　或見佛種種
爲衆而說法　或見在兜率　教化於諸天　或見從兜率　來下處胞胎　或見初生時　或見夜出家
或見坐道場　而成無上道　或見轉法輪　或見入涅槃　於無量國土　種種而示現　欲度衆生故
有如是等事　譬如巧幻師　善知於幻術　多示諸衆生　種種異身相　如是佛慧中　善巧於示現
變化一切身　周徧諸世界　一切法空寂　先來無性相　同若如虛空　大師亦如是　得入第一義
微妙之性相　隨諸法性相　示佛大神力　一切佛行性　法及諸佛生　皆悉同無相　一切法空故
若欲得佛智　應離諸想念　有無俱通達　疾作天人師　諸天采女衆　皆出如是等　千萬種妙音
寂然而觀佛　解脫月菩薩　見衆皆寂然　請金剛藏言　大名稱佛子　菩薩從第九　至於第十地
諸大神通力　願今爲略說

勝下三本俱有於字

金剛藏菩薩言。佛子。菩薩摩訶薩如是無量智慧。善修行佛道。乃至九地善集清白法。集無量助道法。大功德智慧所護。廣行大悲。深知分別世界差別。深入衆生難處。入諸如來行處。念隨順如來寂滅行處。趣向諸佛力無畏。不共法。堅持不捨。得至一切智位。菩薩摩訶薩行如是智近佛位地。則得菩薩離垢三昧而現在前。又入法界差別三昧。莊嚴道場三昧。雨一切世間華光三昧。海藏三昧。海印三昧。虛空廣三昧。觀察一切法性三昧。隨一切衆生心行三昧。如實知一切法三昧。得如來智信三昧。如是等百萬阿僧祇三昧現在前。是菩薩悉入此三昧。善知其中功用差別。最後三昧名益一切智位。是三昧現在前。卽時大寶蓮華王出。周圓如百萬三千大千世界。一切衆寶間錯莊嚴。過於一切人天所有。出世間善根所生。知一切法。如幻如化。空慧所成。光明能照一切世界。瑠璃爲莖。栴檀王爲臺。碼碯爲鬚。閻浮檀金爲葉。無量光明。一切妙寶。皆在其內。寶網覆上。十三千大千世界微塵數蓮華。以爲眷屬。爾時菩薩。其身姝妙。稱可華座。菩薩得益一切智位三昧力故。身在大蓮華座。卽時眷屬蓮華上皆有菩薩。一一菩薩坐蓮華上。卽得百萬三昧。皆一心恭敬瞻仰大菩薩。是菩薩昇蓮華座時。十方現在一切世界皆大震動。一切惡道皆悉休息。光明普照十方世界。一切世界皆悉嚴淨。皆得見聞諸佛大會。何以故。是菩薩坐大蓮華上。卽時足下出百萬阿僧祇光明。照十方阿鼻地獄等。滅衆生苦惱。兩膝上放若干光明。照十方一切畜生。滅除苦惱。臍放若干光明。照十方一切餓鬼。滅除苦惱。左右脇放若干光明。照十方人。安隱快樂。兩手放若干光明。照十方諸天。阿修羅宮。兩肩放若干光明。照十方聲聞衆。項放若干光明。照十方辟支佛。口放若干光明。照十方菩薩。乃至住九地者。白毫放若干光明。照十方得位菩薩。一切魔宮隱蔽不現。頂上放百萬阿僧祇三千大千世界微塵數光明。照於十方諸佛大會。遶十帀已。住於虛空。成光明網。高大明淨。供養諸佛。如是供養。從初發心乃至九地所作供養。百分不及一。乃至算數譬諭不所能及。是大光明網。|勝十方世界所有華香。末香。塗香。衣服。幡蓋。衆寶瓔珞。摩尼寶珠。供養之具。從出世間善根生故。一一諸佛大法會上。皆雨衆寶。猶如大雲。若有衆生覺是供養者。皆是必定無上大道。如是諸光雨大供養已。遶大會十帀。入諸佛足下。爾時諸佛。及大菩薩。知某世界。某甲菩薩摩訶薩。行如是道。成就受職。卽時十方無邊菩薩。乃至住九地者。皆來圍遶。設大供養。一心恭

光下元明俱有明字　華下三本俱有上字　大同作太　鐘同作鍾　授三本俱作受

敬。各得萬三昧。一切得職菩薩摩訶薩。於金剛莊嚴胸出一大光。名破魔賊。無量百千萬光。以爲眷屬。照十方世界。示無量神力。亦來入是大菩薩胸。此光明滅已。是菩薩即得百千萬億大勢力神通智慧。爾時諸佛。出眉間白毫相光。名益一切智。有無量無邊光明眷屬。悉照一切十方世界。圍遶十帀。示現諸佛大神通力。勸進無量百千萬億諸菩薩。十方世界六種震動。滅除一切惡道苦惱。一切魔宮皆蔽不現。示一切諸佛得道之處。示一切諸佛大會莊嚴事。廣大如法界。究竟如虛空。照一切世界已。集在虛空。示大神通莊嚴之事。入是菩薩頂。眷屬光明。入眷屬蓮華諸菩薩頂。即時各得先所未得十千三昧。是光明入此菩薩頂。如一佛光。一切佛光皆亦如是。一切十方諸佛光明入是菩薩頂時。名爲得職。名爲入諸佛界。具佛十力。墮在佛數。佛子。譬如轉輪聖王太子成就王相。轉輪聖王令子在白象寶閻浮檀金座。取四大海水。上張羅幔。種種莊嚴幢幡妓樂。執金鐘香水。灌子頂上。即名爲灌頂大王。具足轉十善道故。名轉輪聖王。菩薩摩訶薩亦如是。受職時。諸佛以智水灌是菩薩頂。名灌頂法王。具足佛十力故。墮在佛數。是名諸菩薩摩訶薩大智慧職地。以是職故。菩薩摩訶薩受無量百千億萬苦行難事。是菩薩得是職已。住法雲地。無量功德智慧轉增。佛子。菩薩住法雲地。如實知欲界集。色界集。無色界集。如實知世間性集。衆生性集。識性集。有爲性集。無爲性集。虛空性集。法性集。涅槃性集。邪見諸煩惱性集。如實知諸世間法成壞集。聲聞道集。辟支佛道集。菩薩道集。諸佛力無畏不共法色身法身集。一切智集。得佛道轉法輪示滅度集。舉要言之。如實知一切法差別集。是菩薩以如是智慧。隨順菩提行。如實知衆生化。業化。煩惱化。諸見化。世界化。法界化。聲聞化。辟支佛化。菩薩化。如來化。一切化。分別無分別化。是菩薩如實知佛力持。法持。業持。煩惱持。時持。願持。先世持。行持。劫壽持。智持。是菩薩住十地。諸佛所有微細智。所謂行微細智。命終微細智。受胎微細智。出生微細智。出家微細智。得道微細智。神力自在微細智。轉法輪微細智。持壽命微細智。示涅槃微細智。法久住微細智。如是等微細智。皆如實知。又諸佛密處。所謂身密。口密。意密。知時非時密。與菩薩授記密。攝伏衆生密。諸乘差別密。八萬四千諸根差別密。業如實所作密。行得菩提密。如是等密。皆如實知。是菩薩諸佛所有入劫智。所謂一劫攝阿僧祇劫。阿僧祇劫攝一劫。有數劫攝無數劫。無數劫攝有數劫。一念攝劫。劫攝一念。劫攝非劫。非劫攝

菩上同無是字

亦下同無復字

劫。有佛劫攝無佛劫。無佛劫攝有佛劫。過去未來劫攝現在劫。現在劫攝過去未來劫。未來過去劫攝現在劫。現在劫攝未來過去劫。長劫攝短劫。短劫攝長劫。諸劫攝相。皆如實知。是菩薩諸佛所入微塵智。國土智。衆生身心智。衆生身心得道智。衆生行智至一切處智。徧行佛道智。順行智。逆行智。不可思議智。一切世間聲聞辟支佛菩薩所不能知。皆如實知。佛子。諸佛智慧廣大無量。菩薩住是地。則能得入如是智慧。是菩薩摩訶薩。隨是地行。得菩薩不可思議解脫。無礙解脫。淨行解脫。普門明解脫。如來藏解脫。隨無礙論解脫。入三世解脫。法性藏解脫。明解脫。勝進解脫。是菩薩十解脫爲首。得如是等無量無邊百千萬億阿僧祇解脫。百千萬無量阿僧祇三昧。百千萬無量阿僧祇陀羅尼。百千萬無量阿僧祇神通。亦復如是。是菩薩成就如是智慧。隨順菩提。成就無量念力。能於一念頃。至十方無量佛所。無量法明。無量法雨。皆能受持。譬如娑伽羅龍王所澍大雨。唯除大海。餘不能受。菩薩摩訶薩亦復如是。如來微密雨大法雨。一切衆生聲聞辟支佛。乃至九地菩薩所不能受。唯此菩薩住法雲地。悉能受持。譬如大海一龍王起大雲雨。皆能堪受。若二若三。乃至無量無邊諸大龍王所起雲雨。一時澍下。皆能受持。菩薩摩訶薩亦如是。住法雲地。於一佛所。能受大法明雨。二佛三佛乃至不可說不可說佛。於一念中。皆能堪受如是諸佛大法雲雨。是故此地名法雲地。解脫月言。佛子。是菩薩。於一念中。能堪受幾所大法明雨。答言。佛子。譬如十方所有不可說百千萬億那由他世界微塵。爾所微塵世界衆生。假使皆得聞持陀羅尼。爲佛侍者。爲大聲聞多聞第一。如金剛蓮華上佛。善伏比丘。其一衆生成就如是多聞之力。餘亦如是。一人所受。餘不重聞。如是一切各各不同。於意云何。是一切衆生受持多聞力爲多不。答言甚多。不可稱計。佛子。我今爲汝說。是菩薩住法雲地。於一念頃。於一佛所。受三世法藏大法明雨。上一切衆生多聞之力。百分不及一。乃至算數譬諭所不能及。如一佛所聞。十方世界微塵諸佛。皆能受持大法明雨。復能過此無量無邊。於一念頃。亦能受持。是故名爲法雲地。佛子。菩薩摩訶薩。住法雲地。自從願力生大慈悲。福德智慧。以爲密雲。現種種身。爲雜色雲。通明無畏。以爲電光。震大雷音。說法降魔。一念一時。能於上所說微塵世界。皆悉周普。以雨善法甘露法雨。滅諸衆生隨心所樂無明所起煩惱燄故。是故名爲法雲地。復次佛子。菩薩摩訶薩。住法雲地。於一世界。從兜率天來下。乃至示大涅

化下三本俱有微字

如上同有或於二字○作上同有示字○在下同無示現二字

槃。一切佛事。隨所度衆生。皆現神力。若二若三。乃至如上微塵數世界。又復過是百千萬億阿僧祇世界。從兜率天來下。乃至示大涅槃。一切佛事。隨所度衆生。皆現神力。是菩薩住此地。於智慧中。得上自在力。或以狹國爲廣。廣國爲狹。或以垢國爲淨。淨國爲垢。如是一切世界。皆有神力。是菩薩或於一微塵中。置三千大千世界鐵圍山川。而不迫迮。或二或三。乃至不可說不可說世界諸莊嚴事。示入一塵。或以一世界莊嚴事。示不可說不可說世界。或以不可說不可說世界衆生。置一世界中。而不迫迮。或以一世界衆生。置不可說不可說世界中。或以不可說不可說世界。入一塵中。而不惱衆生。或於一塵中。示一切佛神通力莊嚴之事。或於一念中。現不可說不可說世界微塵數身。於一身中。示無量手。以一一手。執恒沙蓮華。以散諸佛。雜香末香。幡蓋寶物。如是一切莊嚴之具。皆以手執。供養諸佛。於一一身。亦復如是。又一一身化塵數頭。於一一頭。有塵數舌。以是神力。讚歎諸佛。如是等事。於念念中。徧滿十方。於念念中。以神通力。無量世界。示得佛道轉法輪。乃至大般涅槃。於三世中。以神通力。示現無量身。於自身中。現無量佛。無量佛土莊嚴事。於自身中。示一切世界成壞事。或於一毛孔。出一切風。而不惱衆生。或以無量無邊世界。爲一海水。此海水中。作大蓮華形。色光明徧無量無邊世界。於中示菩提樹莊嚴妙事。乃至示得一切種智。或自身中。現一方世界摩尼寶珠。日月星宿。一切光明。乃至十方所有光明。亦復如是。或口噓氣。能令十方無量世界悉大震動。不令衆生有恐畏想。或示十方世界水劫盡。風劫火劫盡。而衆生身隨意莊嚴。或於自身示作如來身。如來身作自身。如來身作己佛國。己佛國作如來身。佛子。菩薩摩訶薩。在法雲地。神變如是。又餘無量神力自在示現。爾時會中諸菩薩。天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽。四天王。釋提桓因。梵天王。自在天子。淨居天等。各作是念。若菩薩神通力。智慧力。如是無量無邊。佛復云何。時解脫月菩薩。知大衆心所念。問金剛藏菩薩言。佛子。今諸大衆。聞是菩薩神通智慧力。墮在疑網。汝今當斷一切疑惑。示菩薩神通莊嚴妙事。時金剛藏菩薩。即入一切佛國體性三昧。時諸大衆天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅迦。四天王。釋提桓因。梵天王。自在天子。淨居天等。皆自見知。入金剛藏菩薩身中。於其身內。見三千大千世界莊嚴衆事。若滿一劫。說不可盡。於中見佛道場樹。其莖周圍十萬三千大千世界。高百萬三千大千世界。覆三

成下三本俱有就字
無上同有無量二字
耳同作聞
隨下同有順字
涼三本俱作淨

千億三千大千世界。稱樹高廣有師子座。其座上有佛。號一切智王如來。一切大衆。咸皆見佛坐在座上。其中所有莊嚴。上妙供養之具滿一劫說亦不可盡。金剛藏菩薩。示現如是大神力已。還令大衆各在本處。一切衆會生希有想。默然一心觀金剛藏。時解脫月菩薩問金剛藏菩薩言。佛子。是三昧有大勢力甚爲希有。是三昧者所號云何。答言。是三昧名一切佛國體性。問言。是三昧所有勢力境界云何。答言。佛子。若菩薩摩訶薩。善修|成是三昧力者。能以如是無量恒沙世界微塵數三千大千世界。於身中現。復過是數。菩薩在法雲地。得如是無量無邊百千萬億諸大三昧。是故菩薩住此地中。身身業難可測知。口口業難可測知。意意業難可測知。神力自在難可測知。觀三世法難可測知。諸三昧行入難可測知。智力難可測知。遊戲諸解脫難可測知。變化所作神力所作如意所作難可測知。乃至擧足下足菩薩住善慧地者不能測知。佛子。菩薩法雲地如是無量。若廣說者。無量無邊阿僧祇劫。不能得盡。解脫月言。佛子。若菩薩行處力神通力如是者。佛行處力神通力復云何。答言。佛子。譬如有人見一塊土。而作是言。|無邊世界地性爲多此耶。汝諸問者我謂如是。如來無量智慧。云何以菩薩智慧。而欲測量。佛子。如人取四天下地性少分餘者極多。菩薩法雲地。於無量劫但可說|耳何況如來地。我今當說令汝知之。佛現爲證。如十方無量無邊世界微塵等諸佛世界。十地菩薩。皆滿其中。是諸菩薩有無量無邊業。修習菩薩功德智慧禪定。於如來功德智慧力百分不及一。百千萬億分不及一。乃至算數譬諭所不能及。佛子。是菩薩|隨如是智慧。順如來身口意。不捨諸菩薩三昧。勤心供養一切諸佛。於一一劫。以一切供具。供養無量無邊諸佛。能悉具受諸佛神力。轉復明勝。是菩薩於法性問難。無能勝者。乃至無量無邊百千萬億劫不可窮盡。佛子。譬如天金。以摩尼珠衆寶間錯。爲自在天王嚴身之具。其餘諸天所不能及。亦無奪者。菩薩住十地。智慧善根。從初地乃至九地所不能及。菩薩住是地。得大智照明。隨順一切智故。其餘智慧所不能壞。譬如大自在天王光明。能令衆生。身心清|涼。一切生處衆生光明所不能及。菩薩摩訶薩亦如是。住法雲地智慧光明。一切聲聞辟支佛所不能及。乃至九地菩薩亦不能及。是菩薩住是地中。能令無量衆生。住一切智道。佛子。菩薩住是地。十方諸佛爲說三世智慧。法界智慧。一切世界智慧。普照住持一切世界智慧。大慈大悲普覆一切衆生智慧。擧要言之。具足爲說至一

可下同有窮字
聖元明俱作仙
力三本俱作通

切智道。佛子。是名菩薩摩訶薩第十法雲地。菩薩住是地。多作摩醯首羅天王。智慧明達。善說聲聞辟支佛菩薩波羅蜜。於法性中。有問難者。無能令盡。所作善業。布施愛語。利益同事。皆不離念佛。不離念法。乃至不離念具足一切種智。常作是念。我當於一切衆生。爲首爲勝。乃至於一切衆生。爲依止者。若欲如是勤行精進。於一念中。得無量百千萬億那由他不可說不可說世界微塵數三昧。乃至示爾所微塵數菩薩。以爲眷屬。若以願力神通自在。復過是數。所謂諸行上妙供具。信解起業。若身若口若光明。若諸根。若如意足。若音聲。若行處。乃至若干百千萬億劫。不可稱數。佛子。是菩薩十地次第順行。趣向一切種智。如從阿耨達池四河流出。滿足四天下無有窮盡。乃入大海。菩薩亦如是。從菩薩出於善根大願之水。以四攝法。滿足衆生。而不窮盡。乃至一切種智。佛子。是菩薩十地。因佛智故。而有差別。如因大地有十大山王。何等爲十。所謂雪山王。香山王。軻梨羅山王。仙聖山王。由乾陀山王。馬耳山王。尼民陀羅山王。斫迦羅山王。宿慧山王。須彌山王。如雪山王。一切藥草集在其中。而不可盡。菩薩亦如是。住歡喜地。一切世間經書技藝文頌呪術。集在其中。無有窮盡。如香山王一切諸香集在其中。而不可盡。菩薩亦如是。住離垢地。持戒頭陀威儀助法集在其中。無有窮盡。如軻梨羅山王。但以寶成。集諸妙華。取不可盡。菩薩亦如是。住於明地。集一切世間禪定神通解脫三昧。問不可盡。如仙聖山王。但以寶成。多有五通聖人。不可窮盡。菩薩亦如是。住於燄地。集令衆生。入道因緣。種種問難。不可窮盡。如由乾陀山王。但以寶成。集夜叉大神。不可窮盡。菩薩亦如是。住難勝地。集一切自在如意神通。說不可盡。如馬耳山王。但以寶成。集衆妙果。取不可盡。菩薩亦如是。住現前地。集深因緣法。說聲聞果。不可窮盡。如尼民陀羅山王。但以寶成。集一切大力龍神。不可窮盡。菩薩亦如是。住遠行地。集種種方便智慧。說辟支佛道。不可窮盡。如斫迦羅山王。但以寶成。集心自在者。不可窮盡。菩薩亦如是。住不動地。集一切菩薩自在道。說世間性。不可窮盡。如宿慧山王。但以寶成。集大神力。諸阿修羅。無有窮盡。菩薩亦如是。住善慧地。集轉衆生行智。說世間相。不可窮盡。如須彌山王。但以寶成。集諸天神。無有窮盡。菩薩亦如是。住法雲地。集如來十力四無所畏。說諸佛法。不可窮盡。是十寶山同在大海。因大海水。有差別相。菩薩十地亦如是。同在佛智。因一切智故。有差別相。佛子。譬如大海以十相故。名爲大海。無有能壞。何等爲十。一

放同作施

漸次深。二不受死屍。三餘水失本名。四一味。五多寶。六極深難入。七廣大無量。八多大身衆生。九潮不失時。十能受一切大雨。無有盈溢。菩薩地亦如是。以十因緣故。無有能壞。何等爲十。歡喜地中。漸生堅固願。離垢地中。不與破戒共宿。明地中。捨諸假名。燄地中。於佛得一心不壞淨信。難勝地中。生世間無量方便神通。起世間事。現前地中。觀甚深因緣法。遠行地中。以廣大心。善觀諸法。不動地中。能起大莊嚴示現。善慧地中。能得深解脫。通達世間行。如實不失。法雲地中。能受一切諸佛大法明雨。佛子。譬如大摩尼寶珠。有十事能與衆生一切寶物。何等爲十。一出大海。二巧匠加治。三轉精妙。四餘垢穢。五以火鍊治。六衆寶莊嚴。七貫以寶縷。八置瑠璃高柱。九光明四照。十隨王意雨衆寶物。菩薩發菩提心寶。亦有十事。何等爲十。一初發心布施離慳。二修持戒頭陀苦行。三以諸禪定解脫三昧令轉精妙。四以道行淸淨。五鍊以方便神通。六以深因緣法莊嚴。七以種種深方便智慧貫穿。八置神通自在幢上。九觀衆生行。放多聞智慧光明。十諸佛授智職。於一切衆生。能爲佛事。墮在佛數。佛子。是菩薩所行集一切智慧功德法門品。若不深種善根。不能得聞。問言。佛子。若得聞者。是人爲得幾所福。答言。隨佛所有智慧勢力。如是發薩婆若心所緣攝福德。是人得聞此法門。所得福德亦復如是。何以故。若無菩薩心。聞是法門。不能信解受持。何況以身修習能成其事。是故當知。是人隨順一切種智。得聞信解。受持修行。說是品時。十方世界。十億佛國。微塵數世界。六種十八相動。以佛神力法如是故。諸天雨華。末香。瓔珞。寶衣。幡蓋。莊嚴身具。雨天妓樂歌頌而下。復有大音。讚歎十地殊勝之事。如此世界四天下他化自在天王宮說十地。十方一切世界皆亦如是。以佛神力故。十方過十億佛國。微塵數剎。有十億佛國。微塵數菩薩。詣此世界。徧滿虛空。皆作是言。善哉善哉。金剛藏。善說菩薩十地之法。佛子。我等皆名金剛藏。發金剛德世界。金剛幢佛所來。所經歷處。皆說是經。衆會如是。言辭義趣亦如是。我等以佛神力故。來證是時。如我至此。十方一切世界。他化自在天王宮摩尼寶殿。皆有十億佛國。微塵數菩薩。往爲作證。亦復如是。時金剛藏菩薩。觀察十方。觀察一切大衆。觀察法界。讚歎初發薩婆若心。示菩薩境界。淨菩薩行力。攝一切種智。隨衆生說。除一切世間垢穢。與衆生一切種智因緣。示不可思議智慧莊嚴事。讚歎一切菩薩功德差別相。欲令諸地轉勝明。顯示衆生故。承佛神力。以偈頌曰

進三本俱作勤 ○罪同作離
至同作智
間同作難
練元明俱作線
集同作習

諸菩薩所行　樂於善寂滅　其心無所著　猶若如虛空　除貪恚癡垢　安住於道智　如是無上行
願樂欲聽聞　如是諸菩薩　在於無量劫　勤心常修習　一切諸善根　供養無量佛　辟支阿羅漢
爲利衆生故　乃生菩提心　精進持戒行　頭陀除罪垢　修善忍轉妙　慚愧威德滿　福慧因緣故
勝遠心明淨　深樂於佛智　同佛諸菩提　供養於一切　十方三世佛　如虛空等國　悉皆令清淨
一切法平等　善悉通達故　爲度諸衆生　發於菩提心　諸菩薩如是　生是無量心　至於歡喜地
息惡樂布施　得諸本願力　增廣慈悲心　深行十善道　能到離垢地　戒聞功德備　慈心愍世間
永離諸垢穢　深心常清淨　普觀諸世間　三毒火燒然　如是之大士　入第三明地　觀三界皆空
無常亦如病　如癰如瘡箭　無量苦常然　見諸有爲過　貪樂佛功德　得佛智明餤　入於第四地
成就於念慧　得至於道智　在此地供養　百千諸如來　常能思惟念　諸佛無量德　得入於一切
世間難勝地　能以慧方便　種種而示現　諸有所爲作　以利於世間　供養於諸佛　行益衆生事
無生法在前　得入現前地　菩薩諸所行　一切世間知　常無有我心　有無皆悉離　諸法先空寂
十二緣故行　善了此微妙　入於遠行地　行慧方便等　得法寂滅相　法是之大士　難知難可及
爲欲令世間　得善寂滅故　還起修諸行　種種福德事　普入於衆生　種種心行處　如是能得入
如空不動地　大智諸菩薩　善能悉具行　種種諸智業　得十自在力　能以無有量　無量限諸身
普現十方界　而爲說妙法　善達於世界　及諸衆生性　如是大慈悲　能入善慧地　第一妙淨智
善觀諸世間　纏練煩惱業　甚深諸難處　爲度是等故　得諸佛法藏　善說第一義　悉無所違錯
如是次第行　具足諸善法　乃至於九地　所修集福慧　欲得諸佛力　第一深妙利　乃一切佛於
得受智職位　先得無數定　智行極廣大　最後得難壞　諸智位三昧　若能得如是　益智位三昧
一切寶莊嚴　蓮華王卽出　菩薩稱蓮華　現身坐其上　餘華諸菩薩　咸共一心視　爾時大菩薩
從身放無量　百千億光明　滅諸世間苦　然後頂上出　百千億光明　普照十方界　諸佛大衆會

於上虛空中　化成光明網　供養諸佛已　入諸佛足下　時一切如來　及諸大士等　各知某菩薩
得受於智職　如是一切佛　放眉間光明　名益一切智　入此菩薩頂　一切無量佛　與此菩薩職
猶如轉輪王　授於太子位　時十方世界　普皆大震動　乃至阿鼻等　諸苦皆除滅　菩薩具一切
智慧得是職　如是名爲到　無上法雲地　住於是地中　智慧無邊限　善知度一切　世間諸因緣
入色無色法　欲色無色界　能知於衆生　國土及法性　又能入可數　不可數法中　乃至能觀察
虛空無量性　又此地悉知　菩薩變化事　諸佛威神力　微細智密事　又能悉通達　一切諸劫數
於一微塵中　觀見諸世界　一切諸如來　於此無上地　初生及出家　得道轉法輪　示入於涅槃
皆隨順於智　寂滅妙解脫　悉得於此地　此地諸大士　憶念力大故　諸佛大法雨　皆悉能受持
譬如大海水　能持龍王雨　諸佛廣大法　菩薩受亦爾　若於一佛所　一時聽受法　十方無量土
微塵數衆生　皆多聞總持　成於聲聞乘　不如是菩薩　算數所不及　以無量智慧　及先大願力
能於一念中　徧滿無量國　雨甘露法雨　滅諸煩惱火　是故諸如來　各爲法雲地　大士住此地
供養諸佛具　過諸天所有　普示大神力　示衆轉勝力　過是數無量　若人欲思量　迷悶不能解
大智住此地　擧足下足事　一切諸菩薩　乃至於九地　皆悉不能知　何況餘衆生　三世諸聲聞
及與辟支佛　住此諸佛示　一切智慧事　亦與令通達　三世無礙智　示法性寂滅　亦示種種變
一切諸世界　所有衆生類　所行一切法　深微隱遠事　一切佛功德　次第示令知　菩薩住此地
能以大供具　供養十方佛　徧一切世界　一切諸世間　所有衆生類　其餘諸供具　皆所不能及
智者住此地　皆能破一切　無明諸闇冥　開示以佛道　如自在天王　光滅衆熱惱　佛子智光明
滅惡亦如是　住是地多作　三界自在王　通達諸智慧　善以三乘化　能於一念中　得無量三昧
能見十方佛　其數亦如是　金剛藏菩薩　告諸大士言　我今略解說　十地之妙行　若廣演說者
千億劫不盡　是則名清淨　諸大菩薩地　爲得佛智故　住於十地中　安住不移動　猶如大山王

初地具一切　經書諸技術　猶如雪山中　積聚衆藥草　持戒及多聞　在於二地中　猶如香山王
集一切香物　如軻梨羅山　多積諸寶華　明地集聞智　禪定亦如是　燄地多積聚　入道法不壞
如仙聖山中　善寂所遊止　五地諸神通　無能得及者　如由乾陀山　多集夜叉衆　六地善分別
諸果無窮盡　猶如馬耳山　妙果無有量　七地方便慧　無有能及者　如尼民陀羅　諸龍王盈滿
住於八地中　自在智無量　如斫迦羅山　多心自在者　九地心清淨　說法無障礙　猶如宿慧山
阿修羅所止　十地諸佛力　功德無窮盡　如須彌山王　集一切天衆　又復初地中　發於廣大願
二地持戒品　三地假名壞　第四地專一　五地衆妙事　六地甚深相　七地廣大心　八地中種種
莊嚴諸神通　九地思妙智　能過一切世　十地能受持　諸佛大法雨　菩薩行大海　難動不可盡
發心出世間　得入於初地　二地淨持戒　三地修諸禪　四地道行淨　五鍊方便慧　六因緣莊嚴
七深方便慧　八到瑠璃幢　九地觀衆生　一切險難處　智慧光普照　十地受智藏　如珠隨王意
如是次第淨　菩提心妙寶　十方諸世界　所有微塵數　可於一念中　計知其多小　可以一毫末
數知於虛空　諸佛大功德　無量不可盡

大方廣佛華嚴經卷第二十七

聚三本俱作集
羅同作山
小同作少

大方廣佛華嚴經卷第二十八 〔麗朝〕〔宋問〕〔元問〕〔明朝〕

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅譯

十明品第二十三

爾時普賢菩薩摩訶薩告諸菩薩言。佛子。菩薩摩訶薩有十種明。何等爲十。此菩薩摩訶薩。悉知三千大千世界衆生心念。所謂善心。不善心。無記心。廣心。狹心。惡心。勝心。順生死心。背生死心。聲聞心。緣覺心。菩薩心。聲聞行心。緣覺行心。菩薩行心。天心。龍心。夜叉心。乹闥婆心。阿修羅心。迦樓羅心。緊那羅心。摩睺羅伽心。人心。非人心。地獄心。畜生心。餓鬼心。閻羅處衆生心。諸難處衆生心。如是等無量種種衆生心。悉分別知。如是等百世界。千世界。百千世界。億世界。百億世界。千億世界。百千億世界。乃至百千億那由他世界。廣說乃至不可說不可說佛剎微塵數世界衆生。悉能分別知其心念。佛子。是爲菩薩摩訶薩第一善知他心智明。佛子。菩薩摩訶薩。悉知無量無數不可說不可說佛剎微塵數世界衆生。死此生彼。善惡諸趣。若好若醜。若垢若淨。若黑若白。如是等無量種種衆生。天龍夜叉乹闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人。微細衆生。小衆生。中衆生。大衆生。勝衆生。如是等無量種種衆生死此生彼。菩薩摩訶薩。以無障礙明淨天眼。悉能照見。隨其業報所受苦樂。種種業。種種行。種種思願。種種見。如業境界。如所廻轉。悉能覩見。佛子。是爲菩薩摩訶薩第二無礙天眼智明。佛子。菩薩摩訶薩。憶宿命事。或自或他。悉能憶念。無量無數不可說不可說佛剎。微塵數世界衆生。過去無量無數不可說不可說佛剎。微塵數劫事。如是生。如是名姓。如是食。如是苦樂。悉能了知。又憶過去無量無數不可說不可說佛剎。微塵數諸佛。如是名號。如是眷屬。如是父母。如是侍者。如是聲聞。如是最勝二大弟子。如是捨離王都。出家求道。如是菩提樹下結跏趺坐得最正覺。如是住處。如是牀座。如是說法。如是化度。如是壽命。如是作佛事已入無餘涅槃。佛滅度後。正法如是久住。悉能憶念。過去無量無數不可說不可說佛剎。微塵數佛。從初發心出生願行。恭敬供養無

量諸佛.教化調伏一切衆生.大衆眷屬.轉淨法輪.隨其壽命.示現神力.自在變化.無餘涅槃.莊嚴塔廟.長養善根.乃至法住.佛子.是爲菩薩摩訶薩第三深入過去際劫無礙宿命智明.佛子.菩薩摩訶薩.深入未來際劫.乃至無量無數不可說不可說佛刹.微塵數世界衆生.未來生死.流轉三有.知衆生業.知衆生報.知衆生善.知衆生不善.知衆生出.知衆生不出.知衆生定.知衆生不定.知衆生正定.知衆生邪定.知衆生有使善根.知衆生無使善根.知衆生具足善根.知衆生不具足善根.知衆生攝取善.知衆生攝取不善.知衆生積集善.知衆生積集不善.知衆生積集惡法.知衆生不積集惡法.知未來無量無數不可說不可說佛刹.微塵數世界諸佛.如是名號.如是眷屬.如是父母.如是侍者.如是聲聞.如是最勝二大弟子.如是捨離王都.出家求道.如是菩提樹下結跏趺坐得最正覺.如是住處.如是牀座.如是說法.如是化度.如是壽命.如是作佛事已.入無餘涅槃.佛滅度後.正法如是久住.悉知未來無量無數不可說不可說佛刹.微塵數佛.從初發心出生願行.恭敬供養無量諸佛.教化調伏一切衆生.大衆眷屬.轉淨法輪.隨其壽命.示現神力自在變化.無餘涅槃.莊嚴塔廟.長養善根.乃至法住.佛子.是爲菩薩摩訶薩第四深入未來際劫無礙智明.佛子.菩薩摩訶薩.出生無礙天耳.清淨廣大具足.不可稱量.修習得證.明淨離障.了達決定.菩薩成就無礙天耳.十方遠近一切音聲.欲聞不聞自在隨意.於東方無量無數不可說不可說佛刹.微塵數諸如來.應供等正覺所說.所發.所開.所示.所制.所調伏.所教化.所念.所分別.所教.深妙善解.無量清淨方便.如是一切悉能聞持.善義善味.隨衆.隨人.隨音聲.隨智.隨識.隨所化度所得功德.隨境界.隨所依.隨出道.悉能聞持.無有忘失.廣說妙法.度脫一切.乃至不失一句一味.如東方.一切十方亦復如是.佛子.是爲菩薩摩訶薩第五無礙清淨天耳智明.佛子.菩薩摩訶薩.安住無畏神力智明.逮得自在無作神力.平等神力.廣大神力.無量神力.無依神力.念至神力.不轉神力.不退轉神力.無盡神力.不可壞神力.長養神力.隨順行神力.若聞十方無量阿僧祇世界.無邊世界.無分齊世界.不可稱量世界.不可思議世界.不可度量世界.乃至不可說不可說佛刹.微塵等一切世界現在諸佛.聞已悉能往詣彼諸佛所.恭敬禮拜.讚歎供養.深知如來清淨佛刹.種種莊嚴.種種功德.無量功德.皆悉充滿.示現無量自在.無量境界.讚歎一切如來恭敬供養.示現其身.悉在十方一切佛所.亦不

種下三本俱有種字

淨同作靜

離此。而往到彼。悉自了知。詣諸佛所。恭敬禮拜。讚歎供養。問菩薩法。出生佛智。見諸佛剎眷屬變化。知說法相。知佛剎相。悉無所著。於一切事。皆悉究竟。到於彼岸。無損神力。速徧十方一切世界。無佛不見。無法不聞。無衆不知。常聞正法。未曾斷絕。樂求佛法。勝願成滿。具足修習普賢菩薩無量諸行。佛子。是爲菩薩摩訶薩第六安住無畏神力智明。佛子。菩薩摩訶薩。於無量無數不可說不可說佛剎微塵數世界衆生音聲語言。悉能了知。所謂中國言音。邊國言音。天言音。龍言音。夜叉言音。乾闥婆言音。阿修羅言音。迦樓羅言音。緊那羅言音。摩睺羅伽言音。人言音。非人言音。如是等不可說不可說種種衆生言音不同。菩薩摩訶薩悉能了知。善分別知。入一切施設。深入解了一切世諦。悉知種種諸言音法。分別了知諸言音法。入一切種言音大海。菩薩摩訶薩隨其所入。遊行世界。悉能了知此世界中衆生之性。知其性已。悉解一切諸言音法。如日天子出照一切色。令有眼者。悉見色相。菩薩摩訶薩亦復如是。悉入一切諸言音雲。善知一切諸言音法。佛子。是爲菩薩摩訶薩第七分別一切言音智明。佛子。菩薩摩訶薩知一切色。法不生色。無種種色。無虛妄色。無青黃赤白等形色。而菩薩摩訶薩入深法界。住持變化種種形色。無量色。明淨色。淸淨色。普現色。似彼色。普照色。所得色。無染汙色。具足相色。淸淨相色。離惡色。大力色。尊重色。無窮色。無盡色。雜色。端嚴色。不可稱量色。善學色。善長養色。成熟色。隨化度色。無礙色。明徹色。離垢色。澄淨色。正身色。不可思議方便色。不可壞色。最勝色。離隥色。離闇色。牢强色。善雜色。功德相色。姿好色。大我色。境界色。善調伏色。淸淨正直色。上色。勝廣色。不可斷色。無所依色。無等色。充滿不可說佛剎色。長養色。最堅固色。勝色。惡色。勝功德色。隨希望色。淸淨性色。常善色。善決定色。無障色。虛空明淨色。淸淨長養色。無垢色。離塵色。離種種塵色。善示現色。普應現色。隨時示現色。寂靜色。離欲色。功德福田眞實色。安隱色。離恐怖平等威儀色。超越智慧色。無礙身色。徧遊行身色。離愚癡色。大慈等起色。大悲受持色。出正趣色。具足功德力色。隨正念色。無量寶色。明淨藏色。令一切衆生歡喜色。一切智門色。歡喜眼色。一切寶莊嚴無比色。不著心色。不堅固色。住持自在色。種種神力自在色。如來家生色。無比色。充滿法界色。隨衆往詣色。種種色。具足色。善行色。隨化究竟色。見無厭足色。無量雜光色。放無量阿僧祇燄光色。不可說種種光色。不可思議香光普熏三界色。不可量日光燄色。不可稱月

作下三本俱有知一切法非第一義八字○非下同有不字

便下同有知一切法四字

形像色。放無量樂華雲色。種種寶華鬘莊嚴雲色。過一切世間一切香燄普熏色。出生一切如來功德藏色。無量音聲廣說一切法顯現色。一切種行具足普賢菩薩色。佛子。菩薩摩訶薩。入無色法界。住持變化種種形色。隨所應故。所謂見教化。正念教化。轉法輪教化。隨時教化。念念教化。親近教化。隨逐教化。神力教化。種種自在教化。不可思議大神變教化。悉能度脫一切衆生。佛子。是爲菩薩摩訶薩第八出生無量阿僧祇色身莊嚴智明。佛子。菩薩摩訶薩。悉知諸法然有名字。知一切法悉無有性。知一切法無來無去。知一切法別異。知一切法無別異。知一切法不二非不二。知一切法無我。知一切法無比。知一切法不生。知一切法不滅。知一切法無所從來去無所至。知一切法無壞。知一切法不實。知一切法非不實。知一切法一相無相。知一切法非有。知一切法非無。知一切法非法。知一切法非非法。知一切法非語言。知一切法非非語言。知一切法非業。知一切法非非業。知一切法非報。知一切法非無報。知一切法非作。知一切法非不作。知一切法非第一義。知一切法非出。知一切法非不出。知一切法非量。知一切法非無量。知一切法非世間。知一切法不離世間。知一切法非因生。知一切法非無因生。知一切法非定色。知一切法非不定色。知一切法不具足色。知一切法非不具足色。知一切法不出生死。知一切法非不出生死。知一切法非虛妄。知一切法非不虛妄。知一切法非方便非不方便。菩薩摩訶薩。知如是諸法故。不著世諦。不著第一義諦。不虛妄取諸法。不起諸文字。隨順寂滅性。不捨一切願。見第一實義。決定知諸法。興無量法雲。普雨一切甘露法雨。入不可說方便。度不可說方便。以無盡辯才。廣說如實義。不違眞法。善巧方便說一切法。辯才無盡。成就大慈悲。無文字境界。出生文字。義不壞文字性。觀察諸法悉從緣起。無所染著。解了一切諸語言法。開發示導。偏揭顯現。具足清淨。滅衆疑網。攝取衆生。不捨實法。於不二法。而不退沒。具足成就無礙法門微妙音聲。普雨法雨。未曾失時。佛子。是爲菩薩摩訶薩第九一切諸法眞實智明。佛子。菩薩摩訶薩。於念念中入滅一切法三昧正受。而不退轉。亦不捨菩薩事。不捨大慈悲心。不捨諸波羅蜜。善能分別諸佛刹土。而無厭足。不捨大願。度脫衆生。不捨轉法輪。不捨教化調伏衆生。不捨供養恭敬一切諸佛。不捨一切諸法自在法門。不捨常見一切諸佛。不捨常聞諸佛正法。悉能出生一切無礙法。知一切法皆悉平等。具足成就一切諸佛勝法諸願。深入一

切佛刹。究竟一切諸佛種性彼岸。於一切世界。悉能善學一切所學。一切法相深入法相。善知諸法悉從緣起。了一切法無有眞實。隨順世間諸語言法。於一切法無所染著。隨其所應。方便演說一切諸法。菩薩摩訶薩。於一切法滅盡正受。或住一劫。或住百劫。或住百千劫。或住億劫。或住百億劫。或住百千億劫。或住億那由他劫。或住百億那由他劫。或住千億那由他劫。或住百千億那由他劫。或住無量劫。或住無邊劫。或住阿僧祇劫。或住不可思議劫。或住不可稱量劫。或住無分齊劫。或住不可說不可說劫。常在滅一切法三昧正受。顏容無異。體無羸損。亦不壞散。不可燒。不可沒。不可失。不可盡。於有於無。悉無所作。悉能成辦諸菩薩事。廣能演說一切諸法。教化衆生。未曾失時。長養一切諸如來法。滿足一切諸菩薩行。不捨饒益一切衆生。應化十方。未曾暫息。不捨普照一切諸趣。於正受地。寂然不動。佛子。是爲菩薩摩訶薩第十一切諸法滅定智明。菩薩摩訶薩安住此明。一切天人不能思議。一切世間不能思議。聲聞緣覺不能思議。下地菩薩不能思議。身口意業不可思議。一切三昧自在不可思議。智慧境界不可思議。唯有如來乃能演說此人功德。餘無能說。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種智明。此菩薩摩訶薩住此智明。悉得三世無礙智明。

四下三本俱有之一二字

大方廣佛華嚴經十忍品第二十四

爾時普賢菩薩摩訶薩。復告諸菩薩言。佛子。菩薩摩訶薩成就十種忍。能得一切無礙忍地。又得一切諸佛無盡無礙之法。何等爲十。所謂隨順音聲忍。順忍。無生法忍。如幻忍。如燄忍。如夢忍。如響忍。如電忍。如化忍。如虛空忍。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種忍。過去諸佛已說。未來諸佛當說。現在諸佛今說。佛子。何等爲菩薩摩訶薩隨順音聲忍。若聞眞實法。不驚。不怖。不畏。信解受持。愛樂順入。修習安住。佛子。是爲菩薩摩訶薩第一隨順音聲忍。佛子。何等爲菩薩摩訶薩順忍。佛子。此菩薩隨順寂靜。觀一切法。平等正念。不違諸法。隨順深入一切諸法。淸淨直心。分別諸法。修平等觀。深入具足。佛子。是爲菩薩摩訶薩第二順忍。佛子。何等爲菩薩摩訶薩無生法忍。佛子。此菩薩不見有法生。不見有法滅。何以故。若不生則不滅。若不滅則無盡。若無盡則離垢。若離垢則無壞。若無壞則不

二明作出

小三本俱作少

作明作住

皆悉三本俱作悉皆

動。若不動則寂滅地。若寂滅地則離欲。若離欲則無所行。若無所行則是大願。若是大願則住莊嚴。佛子。是爲菩薩摩訶薩第三無生法忍。佛子。何等爲菩薩摩訶薩如幻忍。佛子。此菩薩深入諸法皆悉如幻。觀緣起法。於一法中解衆多法。衆多法中解了一法。菩薩摩訶薩於彼諸法。分別諸刹。入衆生界法界。等觀世間。等觀佛出入不二入出生住持。譬若如幻。非象兵馬兵車兵步兵。非男非女。非童男童女。非樹非葉。非華非果。非地水火風。非晝非夜。非半月一月。非年歲。非百年。非月非日。非劫數。非定非亂。非一非異。非純非雜。非好非惡。非多非小。非量。非無量。非麁非細。種種衆非幻。幻非種種衆。但以幻故。示衆色像。菩薩摩訶薩亦復如是。觀一切世間皆悉如幻。所謂業世間。煩惱世間。佛刹世間。法世間。三世世間。流轉世間。成世間。壞世間。行世間。菩薩摩訶薩。觀察一切世間悉如幻時。不起衆生。不壞衆生。不起諸刹。不壞諸刹。不起諸法。不壞諸法。不取過去虛妄相。不作當來。不轉當來。現在不住。亦無所著。不觀察菩提。不虛妄取菩提。不取佛興世。亦無佛涅槃。不住大願。不取清淨離生平等。無出無著。出生嚴淨佛刹。決定知眞法。出生衆生界。分別知衆生。決定知法界。住正法不動。等入三世。而亦不違。分別三世。出生陰入。除滅所依。度脫衆生。等觀法界無有差別。知一切法非文字。非言說。而亦不捨諸深妙辯。不著化衆生。而轉法輪。爲衆生故。受持大悲。度脫一切。說過去因緣。實知諸法。而無所至。佛子。是爲菩薩摩訶薩第四如幻忍。佛子。何等爲菩薩摩訶薩如燄忍。佛子。此菩薩覺悟一切世間皆悉如燄。如熱時燄。無有方處。菩薩摩訶薩。決定了知一切諸法。亦無方處。非內非外。非有非無。非常非斷。觀一切法。皆悉眞實假名施設。非一色。非種種色。非無色地。具足證知一切諸法。佛子。是爲菩薩摩訶薩第五如燄忍。佛子。何等爲菩薩摩訶薩如夢忍。佛子。此菩薩解一切世間皆悉如夢。譬如夢非世間。非離世間。非欲界。非色界。非無色界。非生非死。非淨非穢。非淸非濁。而有示現。如是菩薩摩訶薩。覺悟一切世間皆悉如夢。不壞夢。不著夢。夢性寂滅。夢無自性。受持一切法。皆悉如夢。不壞夢。不虛妄取夢。覺悟一切世間皆悉如夢。佛子。是爲菩薩摩訶薩第六如夢忍。佛子。何等爲菩薩摩訶薩如響忍。佛子。此菩薩出生諸法。善學成就。究竟聖法。得到彼岸。知一切法皆悉如響。分別衆聲。猶如呼響。而無所至。菩薩摩訶薩解如來音。不從內出。不從外出。不從內外出。彼聞音者。不在內。不在外。亦不在內外。而能出生巧方便

是下同有入離虛妄音聲菩薩摩訶薩如是十三字

起同作趣

譬下元明俱有如字

中下三本俱無生字

智。了聲如響悉從緣起。亦不壞法施。深入音聲。遠離顚倒。善學一切。如帝釋后。於一音中。出千妙音。而亦不取虛妄音聲。菩薩摩訶薩亦復如是。入離虛妄法界。出生巧妙方便音聲。於無量無邊世界。廣爲衆生轉淨法輪。度脫一切。受持如來廣長舌相。出生無量無障礙音。充滿十方一切世界。普令衆生。悉得開解。發起善根。而音聲無轉。不可言說。知音聲非語言。而隨順語言。亦不染著種種音聲。覺悟了知一切音聲。佛子。是爲菩薩摩訶薩第七如響忍。佛子。何等爲菩薩摩訶薩如電忍。佛子。此菩薩不生世間。不死世間。不內世間。不外世間。不行世間。非不行世間。不壞世間。非不壞世間。不起世間趣。不離世間趣。不等世間。非不等世間。非世間。非離世間。不行菩薩行。而不捨大願。非實非虛。所行眞實。究竟一切如來正法。能辦一切世間諸事。亦不隨順世間流轉。亦不受持正法流轉。譬如電或日。或月。山樹男女。室宅牆壁。大地流水等。皆悉能照。令明淨故。譬水油身寶珠明鏡。如是等一切清淨色。悉能照明一切淨界。電不離明淨。明淨不離電。電能遠照。而電非遠近。菩薩摩訶薩亦復如是。能照彼我一切境界。而其智慧不作分別。照現彼我一切境界。如種子中無有根。芽莖節枝葉。而能爲因。菩薩摩訶薩亦復如是。於不二法中。分別二相。修無礙際。佛子。是爲菩薩摩訶薩第八如電忍。若菩薩摩訶薩成就此忍。雖不往詣諸如來所。而悉普現一切佛剎。不起此世界。不至一切世界。菩薩現身徧一切世界。如電光現。遊行無礙。普至十方。金剛諸山堅固之物所不能障。具足成就佛家清淨身口意業。得無量清淨一切色身。佛子。何等爲菩薩摩訶薩第九如化忍。佛子。此菩薩知一切世間皆悉如化。所謂一切衆生業化。一切衆生行化。一切虛妄化。一切苦樂顚倒化。一切妄取化。一切世間無實法化。一切語言道化。一切煩惱化。諸想所起故。調伏衆生化。離垢清淨故。三世不退轉化。無生平等故。菩薩願化。長養菩薩行故。如來大悲化。除滅衆生一切苦故。法輪方便智化。出生無量無畏智辯故。佛子。是爲菩薩摩訶薩解知世間離世間化。決定知廣大。知無量無際等。知如如。具足成就無量自在。於眞實中。而不傾動。悉見一切無有眞實。而不壞所行。譬如化不從心起。不住心中。生不由業起。亦不受報。非世間生。非世間滅。非法所攝。非法所觸。非是久住。非須臾住。非世間行。非離世間。非遊諸方。非諸方所攝。非量。非無量。非厭。非無厭。非休息。非無休息。非凡非聖。非淨非穢。非生非死。非愚非智。非見非失。不依世間。非法界所攝。非

蒙明作懞

依同作倚

薩下同有摩訶薩三字

黠慧。非愚[蒙。非熾然。非寂滅。非生死。非涅槃。非有非無。如是菩薩摩訶薩處於世間。行菩薩行。受持方便。觀察世間皆悉如化。不著世間。亦不著化。不妄取世間。亦不取化。不住世間。不滅世間。不住正法。不隨非法。而不捨敎化衆生。一向正念。具足諸願。不莊嚴諸法。亦復不壞諸莊嚴法。於一切法。悉無所有。悉能具足一切佛法。譬如化非有非無。菩薩摩訶薩亦復如是。安住如化忍中。悉能具足諸佛菩提。饒益衆生。佛子。是爲菩薩摩訶薩第九如化忍。佛子。若菩薩摩訶薩成就此忍。於一切佛剎。無所依著。譬如化於一切世界。無所[依著。於一切佛法。不虛妄行。譬如化行無所行。離諸顚倒。譬如化非身示現一切身。譬如化。不依色。示現一切色。譬如化不著實際。平等滿足自性無性。譬如化非解脫法。悉能示現一切法處。譬如化無處所性。亦非調伏。亦非淸淨。譬如化離一切神力。往詣一切諸如來所。譬如化不可退轉。不生不滅。悉離罣礙。一切諸力金剛諸山所不能障。佛子。何等爲菩薩摩訶薩第十如虛空忍。佛子。此菩[薩解一切法界。猶如虛空。以無性故。譬如虛空。一切世界亦復如是。解一切佛剎無所起故。譬如虛空。一切諸法亦復如是。解無二法故。譬如虛空。一切衆生行亦復如是。解行無所行故。譬如虛空。一切佛法亦復如是。解無分別故。譬如虛空。一切佛力亦復如是。解無異故。譬如虛空。一切諸禪亦復如是。解三世故。譬如虛空。一切說法亦復如是。解不可說故。譬如虛空。一切佛身亦復如是。解無礙故。譬如虛空。徧一切處。解一切法。如虛空故。佛子。如是菩薩摩訶薩。解一切法悉如虛空。得虛空等忍。智得虛空等身。得虛空等身業。得虛空等口。得虛空等口業。得虛空等心。得虛空等心業。譬如虛空不生不死。菩薩摩訶薩亦復如是。一切法身。不生不死。譬如虛空不可破壞。菩薩摩訶薩亦復如是。智慧諸力不可破壞。譬如虛空一切世間之所依止。而無所依。菩薩摩訶薩亦復如是。一切諸法之所依止。而無所依。譬如虛空不生不滅。悉爲一切生滅所依。菩薩摩訶薩亦復如是。非向非成。令一切衆生。皆悉淸淨。譬如虛空非方非非方。而能示現諸海分際。菩薩摩訶薩亦復如是。非業非業報。而能演說一切生死大海分際。譬如虛空非行非住。而能示現種種威儀。菩薩摩訶薩亦復如是。非行非住。而能分別一切諸行。譬如虛空非色非無色。而能示現百千諸色。菩薩摩訶薩亦復如是。非世間色。非離世間色。而能示現一切諸色。譬如虛空非久住非須臾住。菩薩摩訶薩亦復如是。非久趣向非須臾趣向。能廣演

具上三本俱有得字　不下同有可字

三本俱譬如世有人以下爲卷第三十十忍品第二十四之二

說一切菩薩之所住行。譬如虛空非淨非穢。菩薩摩訶薩亦復如是。非世間障覆。亦非清淨。譬如虛空一切世間皆謂現前實非現前。菩薩摩訶薩亦復如是。一切諸法現菩薩前。而於菩薩無所現前。譬如虛空住一切處。而虛空無分齊。菩薩摩訶薩亦復如是。住一切法。而菩薩心無有分齊。何以故。菩薩摩訶薩。思惟自己善根。猶如虛空。善根清淨。善根具足。善根平等。善根一分。善根寂滅。善根一味。善根一量。善根清淨。如虛空色善根。趣一切道。不忘一切法。得一切不壞法。遊行一切剎。具足一切身。而於諸身。悉無所著。普於十方。永離癡惑。具足成就不可壞力。滿足一切功德境界。得一切種法。得深樂法。得虛空等金剛善根。出生一切諸妙音聲一切世間常轉法輪。未曾失時。佛子。是爲菩薩摩訶薩第十如虛空忍。若菩薩摩訶薩成就此忍。得無來身。以無去故。得不生身。以不滅故。得不聚身。以無散壞故。具足不實身。以無眞實故。得一相身。以無相故。得無量身。以佛力無量故。得平等身。以如相故。得不壞身。以等觀三世故。得至一切處身。以淨眼普照無障礙故。得離欲際身。以一切法無合散故。得虛空際功德藏。以無盡故。得無窮盡平等法辯。以一切法性如虛空一性故。得無量無礙微妙音聲。以無礙如虛空故。得清淨具足一切菩薩行巧妙方便。以一切法無礙清淨如虛空故。得一切佛法海。以不可斷如虛空故。得受持一切佛剎。以無量如虛空離貪欲故。得一切法示現自在未曾休息。以堅固如虛空故。得不可壞堅固法身。以如虛空能持一切世間故。具足成就不可沮壞金剛諸根。以示現一切世間成敗故。得具足力能持一切世間。以受持智慧如虛空故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種忍。爾時普賢菩薩。欲重宣此義。爲諸菩薩。以偈頌曰

譬如世有人　聞有寶藏處　聞已大歡喜　寶藏可得故　如是大智慧　菩薩眞佛子　佛深寂滅法
聞已大歡喜　聞彼深法已　其心不恐怖　亦不生驚畏　不退亦不沒　菩薩向菩提　聞此寂滅音
堪忍寂滅法　於彼不生疑　我作一切智　天人尊導師　以聞甚深法　其心堪忍故　彼聞寂滅音
踊躍大歡喜　一心樂專求　一切諸佛法　修習調伏心　正直求菩提　長養諸善根　而不壞法性
堪忍寂滅法　隨順彼音聲　修習菩薩行　安住音聲忍　轉求勝妙道　出生諸善法　精進不退轉
究竟成菩提　聞此妙音聲　菩提心清淨　得勇健善根　令諸佛歡喜　譬如功德人　獲大珍寶藏

原同作源

空三本俱作妄

於彼無所著一句元明俱在究竟住法界下於彼無所著下宋無菩薩乃至法界二十字其文中地明作際

隨順身所宜　造諸莊嚴具　慧者亦如是　聞此深法義　增廣智慧海　隨順求諸法　決定隨順法
分別無所有　隨順於眞如　得彼眞實法　得淨自在心　明徹大歡喜　解了一切法　悉從衆緣起
修習平等法　分別性非性　不壞佛法藏　正覺一切法　正直心堅固　莊嚴淨菩提　不動如須彌
一向求佛道　修習深三昧　精進不懈怠　無量劫修行　未曾有退失　最勝甚深海　究竟到彼岸
盡諸法原底　遠離衆恐怖　等心觀諸法　如無等所說　成就隨順忍　平等智滿足　具足順忍門
順佛之所說　隨順眞實智　不分別法相　三十三天中　彼諸天子等　共一寶器食　所食各不同
諸天種種食　不從十方來　隨彼所修業　自然食在器　菩薩亦如是　觀察一切法　悉從因緣起
不生亦不滅　若法不生滅　是法不可盡　了達其成敗　淸淨不可壞　實際不可壞　悉寂滅如如
金剛願饒益　具佛無礙智　專念寂滅法　其心未曾離　隨順世間行　長養大悲願　具足諸願力
不著於世間　成就甚深智　隨順廣說法　是名無生忍　解諸法無盡　了達悉如如　法界無所起
菩薩住此忍　一切十方界　現在無量佛　皆悉授彼記　樂觀寂滅法　出生諸善根　一念達三世
調伏淨衆生　觀察諸世間　解了悉如幻　寂滅無所有　於彼無染著　諸色從心造　示現猶如幻
虛空非眞實　一切有如幻　譬如工幻師　四衢現衆像　衆生見歡喜　而實無所有　世間亦如是
一切皆如幻　有無等諸法　了知悉虛妄　度脫一切衆　解了悉如幻　善能平等知　衆生幻無異
衆生諸佛剎　三世一切法　無量諸世間　悉了義如幻　譬如工幻師　示現種種形　男女象馬牛
園林花果等　幻無所染著　亦無有住處　幻法無眞實　所現悉虛妄　佛子亦如是　觀察諸世間
有無一切法　了達悉如幻　衆生諸佛剎　種種業所造　覺悟如幻際　於彼無所著　菩薩摩訶薩
常樂寂靜法　深入眞實地　究竟住法界　隨順向正法　最勝法化生　善解一切想　纏網群生類
想如熱時燄　令衆生顛倒　菩薩善知想　能離一切倒　世間各別異　形類悉不同　佛子善明達
了相非眞相　十方諸群生　悉爲想網覆　菩薩慧眼淨　善見世間想　世間猶如燄　妄想取世間

不起虛妄倒三本俱作不虛妄顚倒○月元明俱作者

音元明俱作智

解了一切世三本俱作解一切世間

能斷世間想　則離三種倒　譬如熱時燄　衆生於遠見　妄想謂爲水　其實非眞水　衆生亦如是
虛妄取世間　想如熱時燄　無礙心境界　分別一切想　成就無礙智　想縛群生類　勇健能解脫
遠離放逸慢　除滅世間想　究竟盡無盡　無盡者方便　彼能解世間　一切法如夢　夢性無方處
世間亦如是　解法離虛妄　寂滅心無異　明了世間行　三世皆如夢　夢非生死法　非有亦非無
三有悉如夢　寂滅心無縛　解世如夢性　不依於世間　觀世間寂滅　不染著諸趣　明見一切世
不起虛妄倒　善解法如夢　逮得如夢忍　衆生於夢見　種種諸異相　悉知從心造　而實無所有
智月如是見　衆生皆如夢　曉了如夢已　離一切虛妄　菩薩方便解　一切法如夢　夢性無眞實
非一亦非異　衆生一切法　佛剎諸行業　菩薩悉明了　一切皆如夢　隨一切垢淨　悉能如實知
解知世如夢　不取虛妄相　菩薩所行行　一切諸妙願　明解悉如夢　於彼無所著　決定解諸法
及一切世間　菩薩能善知　其性皆如夢　世間生滅法　衆生去來相　解了淨如夢　其性無忘失
隨順如夢行　亦不壞世間　了達諸威儀　如倏短無實　是名如夢忍　解了一切法　成就無礙智
度脫一切衆　菩薩摩訶薩　廣行無量行　出生於一切　正覺平等法　種種諸方便　解法眞實相
諸法無去來　於彼心無著　一切衆生類　無量諸音聲　菩薩深覺悟　了之悉如響　菩薩知音聲
非是內外法　諦了諸音聲　一切皆如響　一切諸音聲　皆悉是虛妄　菩薩知非實　於彼無所著
菩薩悉覩見　十方一切佛　又聞彼如來　梵音演說法　彼諸大導師　廣說修多羅　菩薩聞法音
其心無所著　所聞聲如響　悉無所從來　分別一切音　善解無壞法　分別諸音聲　善解一切法
解聲非是聲　出無量淨音　觀察一切法　皆悉離音聲　種種語言際　悉能善了知　菩薩於衆生
了之悉如響　如是能深解　一切諸衆生　菩薩善隨順　明達語言道　解了一切世　種種諸音聲
了知音聲性　常樂寂靜地　明解諸世間　一切悉如響　猶如語言道　宣明種種法　衆生樂染著
虛妄之音聲　如彼音聲相　世間亦如是　衆生相亦然　眞佛子明覺　如此眞實相　明智之忍力

淨微同作聲淨
○皆同作間

化明作解

滅法三本俱作非滅

令音淨微妙　解世皆寂滅　彼於三世中　了達語言道　不取虛妄聲　其心無所著
寂靜定意為世間　一向專求佛菩提　未曾虛妄取世間　心常欣樂寂滅法　觀察世間無有餘
皆悉寂滅無自性　專求菩提為衆生　具足智力大慈悲　不受一切世間生　亦不解脫於世間
一切世間無所依　亦復不離依世間　解知衆生諸法性　於彼法性不染著　於諸衆生無所依
清淨解脫而無縛　於一切趣知實性　世間生死流轉法　菩薩解法無有二　於不二法無所著
其心不住諸世間　又亦不離於世間　所行不在世間外　了知諸法眞實相　譬如水中電光色
彼色非內亦非外　菩薩饒益衆生故　演說世間無眞實　衆生無縛無解脫　一切世間不可說
世間非內亦非外　如彼水中電光像　如是清淨離垢心　隨順甚深微妙行　具足智慧法燈明
成滿諸願不退轉　智慧成就不可量　常能饒益一切衆　安立衆生無畏法　除滅一切諸障礙
修習甚深法　饒益一切衆　此忍增妙智　具足菩薩行　深入寂滅法　諦了悉如化　示現無量行
而實無所行　勝地修菩提　隨順如化行　如化常寂滅　菩薩行亦然　了知衆生類　及無量行業
平等悉如化　解脫亦如是　明解三世佛　一切悉如化　無量本行願　化成諸導師　大慈悲彌廣
化衆生清淨　清淨即是化　化力持應現　世間悉虛妄　菩薩解如化　化性諸世間　種種業莊嚴
變化藏嚴飾　究竟菩薩行　隨世諸行業　種種雜無量　化是虛妄法　出生化虛妄　菩薩所行法
皆悉離虛妄　化智海決定　化印印世間　化非生滅法　智慧亦如是　第十忍明觀　清淨如虛空
虛空衆生法　等觀無別異　智滿如虛空　除滅諸障礙　虛空性無雜　世間亦如是　成就空忍力
如空不可盡　境界如虛空　不取虛妄相　虛空無自性　虛空不可斷　虛空無種種　智力亦如是
譬如虛空性　無有初中後　虛空無異性　智慧亦如是　如是正觀法　皆悉如虛空　無生亦無滅
平等觀諸法　安住虛空法　廣為十方說　虛空方便忍　調伏一切魔　虛空無自性　世間亦如是
有性無性法　平等如虛空　一方便莊嚴　觀世間虛空　悉知三世法　猶如虛空性　菩薩智慧身

法明作住○原三本俱作源

音聲如虛空　身性亦虛空　安住虛空智　是名十種忍　佛子具足行　心安住忍力　廣爲十方說
眞佛子善學　超成智慧力　法力定智力　隨順修菩提　深入此忍門　成就無礙智　調伏一切惡
轉無上法輪　安住無量法　一切莫能知　調御師智海　菩薩盡原底　謙下行菩提　得此深法忍
妙法淸淨意　悉滿一切願　一切衆生類　諸佛剎微塵　悉可算其數　菩薩德難知　若有眞佛子
成此十種忍　一切諸衆生　無能知境界

大方廣佛華嚴經卷第二十八

大方廣佛華嚴經卷第二十九

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅 譯

麗朝〔宋關〕〔元關〕〔明朝〕

心王菩薩問阿僧祇品第二十五

爾時心王菩薩白佛言.世尊.所謂阿僧祇.不可量.無分齊.無周徧.不可數.不可稱量.不可思議.不可說.不可說不可說.世尊.云何阿僧祇.乃至不可說不可說耶.佛告心王菩薩言.善哉善哉.善男子.饒益衆生.故乃能問此如來應供等正覺佛智境界甚深之義.善男子.汝今諦聽.我當說之.爾時心王菩薩白佛言.世尊.唯然善聽.佛告心王菩薩言.百千百千名一拘梨.拘梨拘梨名一不變.不變不變名一那由他.那由他那由他名一鞞婆羅.鞞婆羅鞞婆羅名一作.作作名一來.來來名一勝.勝勝名一復次.復次復次名一阿婆羅.阿婆羅阿婆羅名一得勝.得勝得勝名一分界.分界分界名一充滿.充滿充滿名一量.量量名一解.解解名一此解.此解此解名一離欲.離欲離欲名一捨.捨捨名一聚.聚聚名一通.通通名一頻申.頻申頻申名一綱.綱綱名一衆流.衆流衆流名一出.出出名一分.分分名一分別.分別分別名一稱.稱稱名一持.持持名一不顚倒.不顚倒不顚倒名一不幡.不幡不幡名一正.正正名一慧.慧慧名一第一.第一第一名一覺.覺覺名一毗遮妒.毗遮妒毗遮妒名一極高.極高極高名一妙.妙妙名一邏婆.邏婆邏婆名一訶梨婆.訶梨婆訶梨婆名一解脫.解脫解脫名一黃.黃黃名一訶梨那.訶梨那訶梨那名一因.因因名一賢覺.賢覺賢覺名一明相.明相明相名一摩樓陀.摩樓陀摩樓陀名一忍.不可名一枝.枝枝名一摩樓摩.摩樓摩摩樓摩名一等.等等名一離疑.離疑離疑名一種.種種名一不放逸.不放逸不放逸名一摩多羅.摩多羅摩多羅名一動.動動名一到.到到名一說.說說名一白.白白名一了別.了別了別名一究竟.究竟究竟名一清涼.清涼清涼名一阿羅.阿羅阿羅名一潮.潮潮名一沺.油油名一祇邏.祇邏祇邏名一味.味味名一泥邏.泥邏泥邏名一戲.戲戲名一斯羅.斯羅斯羅名一聚沫.聚沫聚沫名一彌羅.彌羅彌羅名一堅固.堅固

邏明作羅次同

堅固名一風。風風名一滿。滿滿名一不可稱量。不可稱量不可稱量名一根。根根名一微細。微細微細名一蓮華。蓮華蓮名華一摩伽婆。摩伽婆摩伽婆名一不可度。不可度不可度名一薩樓。薩樓薩樓名一語。語語名一劫。劫劫名一婆婆。婆婆婆婆名一閻。閻閻名一無間。無間無間名一離垢。離垢離垢名一實勝。實勝實勝名一彌羅覆。彌羅覆彌羅覆名一遮摩羅。遮摩羅遮摩羅名一法。法法名一波羅摩馱。波羅摩馱波羅摩馱名一決定。決定決定名一流轉。流轉流轉名一廣說。廣說廣說名一無盡。無盡無盡名一等眞實。等眞實等眞實名一無我。無我無我名一阿槃陀。阿槃陀阿槃陀名一青蓮華。青蓮華青蓮華名一數。數數名一趣。趣趣名一受。受受名一阿僧祇。阿僧祇阿僧祇名一阿僧祇轉。阿僧祇轉阿僧祇轉名一無量。無量無量名一無量轉。無量轉無量轉名一無分齊。無分齊無分齊名一無分齊轉。無分齊轉無分齊轉名一無周徧。無周徧無周徧名一無周徧轉。無周徧轉無周徧轉名一無數。無數無數名一無數轉。無數轉無數轉名一不可稱。不可稱不可稱名一不可稱轉。不可稱轉不可稱轉名一不可思議。不可思議不可思議名一不可思議轉。不可思議轉不可思議轉名一不可量。不可量不可量名一不可量轉。不可量轉不可量轉名一不可說。不可說不可說名一不可說轉。不可說轉不可說轉名一不可說轉轉。爾時世尊。爲心王菩薩。以偈頌曰

不可言說不可說　充滿一切不可說　不可言說諸劫中　說不可說不可盡　不可言說諸佛刹
皆悉盡末爲微塵　悉於一一微塵中　演說一切不可說　悉能善於一念中　說不可說諸世界
不可稱說諸劫中　念念次第而演說　不可說劫猶可盡　而不可說不可盡　悉於一一微塵中
分別演說不可說　不可說劫猶可盡　而不可說不可盡　不可言說微塵中　悉有不可說衆生
皆共讚歎普賢德　猶尚不能令窮盡　設設一微毛端處　有不可說諸普賢　彼諸一切普賢等
說不可說不能盡　如一微細毛端處　十方世界亦如是　於彼一一毛端處　置不可說諸佛刹
毛端能量虛空盡　而說佛刹不可盡　於彼一一毛道中　種種無量諸佛刹　有同類者不可說
亦有異類不可說　於彼一一毛道中　有不可說淨佛刹　以不可說莊嚴具　莊嚴彼彼諸佛刹

於彼一一道毛中　演出名身不可說　於彼一一諸名身　廣宣無量諸佛名　一一如來自身中
變化毛孔不可說　於彼一一毛孔中　出生異色不可說　於彼一一異色中　放妙光明不可說
於彼一一光明中　出寶蓮華不可說　於彼一一寶蓮華　各有寶葉不可說　於彼一一寶蓮葉
有微妙色不可說　於彼一一妙色中　出生蓮華不可說　於彼一一蓮華中　各放光明不可說
於彼一一光明中　出生淨月不可說　於彼一一諸月中　復出淨月不可說　於彼一一淨月中
出淨光明不可說　於彼一一光明中　出不可說明淨日　於彼一一諸日中　出不可說淨妙色
於彼一一妙色中　出不可說淨光明　於彼淨妙光明中　出不可說師子座　不可言說莊嚴具
出不可說淨光明　於彼一一光明中　出不可說異妙色　於彼一一妙色中　出不可說明淨寶
於彼一一明淨寶　出不可說不可說　金網寶藏如須彌　清淨具足而莊嚴　於彼一寶須彌中
有不可說不可說　微妙殊特諸佛剎　清淨具足而莊嚴　如此一寶須彌山　一切須彌亦如是
悉有無量不可說　具足清淨諸佛剎　是不可說不可說　皆悉分別不可說　攝取不可言說轉
出生光明不可說　於彼一一光明中　出生諸佛不可說　彼諸一切如來等　說不可說清淨偈
彼偈悉於念念中　說不可說眞實諦　示現一切未來際　如來智慧無窮盡　彼諸一一如來等
出不可說梵音聲　於彼一一梵音中　轉不可說淨法輪　於彼一一法輪中　雨不可說修多羅
於彼一一修多羅　分別諸法不可說　於彼一一諸法中　又說諸法不可說　又復於彼諸法中
說衆生依不可說　又於一一毛道中　不可說劫說正法　如彼一微毛端處　一切十方亦如是
不可稱說無礙心　變化諸佛不可說　彼諸一一化如來　所出變化不可說　彼諸一切所變化
徧遊佛剎不可說　不可稱說變化身　種種妙色而莊嚴　彼不可說佛世界　分別一切諸衆生
清淨一切衆生類　度脫一切諸群生　莊嚴莊嚴不可說　成就神力不可說　清淨自在不可說
應現衆生不可說　神力自在不可說　智慧境界不可說　不可稱說神力持　普轉世間令清淨

蓮三本俱作華
寶三本俱作一
示明作小

正三本俱作淨

不可說淨方便法　說修多羅不可說　於彼一一修多羅　攝諸佛法不可說　於彼一一淨法中
復說正法不可說　於彼一一諸法中　說不可說決定法　於彼一一決定中　說不可說衆生依
不可稱說種類法　不可稱說種類心　不可稱說非類法　不可稱說非類心　不可稱說非類根
不可稱說非類語　彼悉能於念念中　調伏衆生不可說　不可稱說自在力　應現衆生不可說
彼不可說應化時　或有同類不同類　菩薩皆悉分別知　諸明算者不能數　菩薩於一毛端處
安置佛刹不可說　或有微細或廣狹　淨穢無量不可說　於彼一一佛刹中　復有佛刹不可說
菩薩皆悉分別知　如是佛刹不可說　一毛端處無量刹　而於其中不迫迮　微小毛端亦不大
悉容彌廣諸佛刹　不令佛刹有雜亂　形相如本而無異　一佛刹有無量刹　一切佛刹亦如是
一毛端處悉容受　如虛空等無量刹　佛刹形相不可說　一毛端處各殊別　入於一毫毛道中
次第悉入不可說　毛道攝取不可說　毛道亦無究竟滿　次第劫入不可說　常能攝取不可說
種種方便不可說　度脫衆生不可說　具足攝取是方便　境界無量不可說　菩薩深入不可說
是名深入不可說　意根深廣不可說　徧遊諸方不可說　勇猛精進不可說　具足自在不可說
彼諸大願不可說　所得功德不可說　彼諸境界不可說　能究竟度不可說　菩薩身業不可說
口業清淨不可說　意業清淨不可說　清淨解脫不可說　清淨智慧不可說　微妙奇特不可說
方便深入不可說　除滅疑惑不可說　勇猛精進不可說　深入正法不可說　甚深三昧不可說
究竟彼岸不可說　一切衆生不可說　一切佛刹不可說　諸衆生身不可說　衆生希望不可說
彼諸業報不可說　知衆生欲不可說　知衆生性不可說　分別衆生不可說　彼應化時不可說
隨所出處不可說　隨方便道不可說　彼諸出者不可說　無上智慧不可說　彼方便道不可說
彼諸所說不可說　一切轉時不可說　如是成就大慈悲　饒益一切諸世間　應現色像不可說
遊諸佛刹不可說　菩薩智慧甚明淨　覲十方佛不可說　所問正法不可說　諸佛應答不可說

應現色像不可說　遊行諸方不可說　住詣佛所不可說　示現自在不可說　以不可說諸色像
詣不可說如來所　以不可說供養具　供不可說諸如來　不可稱說淸淨寶　不可稱說衆寶華
不可稱說妙華鬘　供不可說諸最勝　彼深信心不可說　淸淨解脫不可說　正直希望不可說
恭敬供養一切佛　成就施心不可說　過去施心不可說　修行布施不可說　內外悉施不可說
禁戒淸淨不可說　信心淸淨不可說　讚歎最勝不可說　生妙法愛不可說　具足諸忍不可說
深解無生不可說　成就寂滅不可說　住寂滅地不可說　具足精進不可說　過去妙心不可說
不退轉心不可說　忍辱之心不可說　一切禪藏不可說　觀察諸法不可說　寂靜定意不可說
了知諸禪不可說　波羅蜜慧不可說　成就三昧不可說　決定解法不可說　究竟諸佛不可說
菩薩行門不可說　具足諸願不可說　智慧境界不可說　淸淨法門不可說　彼諸法力不可說
淸淨住法不可說　菩薩正念不可說　彼諸法界不可說　修行智慧不可說　善學智慧不可說
彼智慧身不可說　住持智慧不可說　彼淨法輪不可說　彼法智慧不可說　彼妙法雲不可說
彼妙法雨不可說　彼諸神力不可說　解方便法不可說　彼悉能於念念中　解深法界不可說
成就廻向不可說　於念念中徧遊行　諸佛刹海不可說　所詣諸佛不可說　分別佛刹不可說
種種莊嚴不可說　莊嚴淸淨不可說　微妙淨色不可說　種種雜色不可說　衆莊嚴具不可說
淸淨佛刹不可說　垢穢佛刹不可說　深入衆生不可說　衆生諸界不可說　彼諸業報不可說
衆生所行不可說　種種諸根不可說　衆生虛妄不可說　衆生諸性不可說　衆生欲樂不可說
衆生威儀不可說　衆生煩惱不可說　衆生淸淨不可說　調伏衆生不可說　菩薩神力不可說
所變化身不可說　隨順諸行不可說　度脫衆生不可說　示現自在不可說　放大光明不可說
光明妙色不可說　令衆生淨不可說　彼於一一毛端中　放光明網不可說　光明網色不可說
普照佛刹不可說　勇猛精進不可說　成就無畏不可說　寂靜三昧不可說　調伏世間不可說

出三本俱作有

說下元明俱有彼此修習不可說一念開悟不可說二句十四字〇世界三本俱作佛刹

清淨身業不可說　清淨口業不可說　意業無量不可說　清淨勝行不可說　成就智寶不可說
深入法界不可說　諸陀羅尼不可說　菩薩善學不可說　音聲清淨不可說　智慧知音不可說
眞實正念不可說　持衆生語不可說　菩薩所行不可說　正覺清淨不可說　離衆恐怖不可說
調伏世間不可說　不可稱說眞佛子　彼清淨行不可說　讚歎佛子不可說　欲究竟盡不可說
不可稱說諸導師　讚歎菩薩不可說　彼諸菩薩不可說　清淨功德不可說　彼諸分齊不可說
隨彼所住不可說　隨住智慧不可說　不可說劫不能說　樂見諸佛不可說　長養智慧不可說
永度正法不可說　離礙正法不可說　正觀三世不可說　三世智慧不可說　彼所稱量不可說
出生智慧不可說　菩薩勝行不可說　種種所願不可說　清淨所願不可說　具足菩提不可說
諸佛菩提不可說　彼起智慧不可說　分別眞實不可說　知一切法不可說　清淨佛刹不可說
所行諸力不可說　彼所修習不可說　一念開悟不可說　廣說正法不可說　諸佛自在不可說
踴躍歡喜不可說　元現世間不可說　轉妙法輪不可說　離衆怖畏不可說　所說正法不可說
度脫衆生不可說　不可稱說一切劫　讚歎菩薩諸功德　彼諸大劫猶可盡　讚歎功德不可盡
不可稱說諸如來　各有無量清淨根　不可說劫常讚歎　如來功德猶不盡　一切十方諸衆生
皆悉一時成正覺　彼諸正覺一一有　不可稱說淨妙身　彼淨妙身一一有　不可稱說如來頭
彼如來頭一一有　不可稱說廣長舌　彼廣長舌一一出　無量清淨妙音聲　以彼一一妙音聲
不可說劫讚歎佛　不可稱說一切劫　宣揚讚歎佛功德　不可說劫猶可盡　歎佛功德無窮盡
若於一小微塵中　有諸佛刹不可說　於彼一一佛刹中　各有賢首不可說　賢首如來世界中
復有佛刹不可說　一切法界無有餘　其中所有諸微塵　於彼一一微塵中　佛刹成敗不可說
於彼一一微塵中　安置佛刹不可說　復置刹海不可說　分別方類不可說　於彼一一佛刹中
不可稱說諸如來　彼諸如來所壽命　不可稱說諸大劫　諸佛所行不可說　微妙正法不可說

威神道力不可說　離障礙智不可說　微妙智慧不可說　境界甚深不可說　十方功德不可說
佛覺菩提不可說　清淨深入不可說　清淨法界不可說　彼智慧藏不可說　分別功德不可說
菩薩究竟正隨順　具足廻向不可說　分別無量諸廻向　廻向一切諸導師　不可稱說諸大劫
一心正受諸三昧　於不可說諸佛所　所行清淨不可說　得不可說無礙心　悉徧遊行十方界
所修行業不可說　神力應現不可說　分別佛刹不可說　諸佛現前不可說　勇猛精進不可說
究竟智慧不可說　未曾離於一坐處　而能徧遊十方界　不可稱說諸大劫　徧遊十方諸佛刹
智慧方便不可說　如實智慧不可說　轉淨智慧不可說　念念示現不可說　於諸一一語言中
解佛智慧不可說　或於一時覺菩提　或種種時覺菩提　入諸毛端不可說　入諸微細不可說
殊特勝性不可說　見諸如來不可說　一一方便不可說　隨順善入諸佛性　諸佛刹性不可說
悉能隨順入菩提　不壞法界不可說　佛衆生刹不可說　三世所攝不可說　菩薩究竟不可說

大方廣佛華嚴經壽命品第二十六

爾時心王菩薩摩訶薩。告諸菩薩言。佛子。如此娑婆世界釋迦牟尼佛刹一劫。於安樂世界阿彌陀佛刹爲一日一夜。安樂世界一劫。於聖服幢世界金剛佛刹爲一日一夜。聖服幢世界一劫。於不退轉音聲輪世界善樂光明清淨開敷佛刹爲一日一夜。不退轉音聲輪世界一劫。於離垢世界法幢佛刹爲一日一夜。離垢世界一劫。於善燈世界師子佛刹爲一日一夜。善燈世界一劫。於善光明世界盧舍那藏佛刹爲一日一夜。善光明世界一劫。於超出世界法光明清淨開敷蓮華佛刹爲一日一夜。超出世界一劫。於莊嚴慧世界一切光明佛刹爲一日一夜。莊嚴慧世界一劫。於鏡光明世界覺月佛刹爲一日一夜。佛子。如是次第。乃至百萬阿僧祇世界。最後世界一劫。於勝蓮華世界賢首佛刹爲一日一夜。普賢菩薩等諸大菩薩充滿其中

大方廣佛華嚴經菩薩住處品第二十七

坐明作座

三本俱以壽命品爲卷第三十一首

剛下元明俱有如來二字

切下三本俱無明字

燄明作光

瑜三本俱作踰

爾時心王菩薩摩訶薩。復告諸菩薩言。佛子。東方有菩薩住處。名仙人起山。過去諸菩薩常於中住。彼現有菩薩。名金剛勝。於其中止。有三百菩薩眷屬。常爲說治。南方有菩薩住處。名勝樓閣山。過去諸菩薩常於中住。彼現有菩薩。名法慧。有五百菩薩眷屬。常爲說法。西方有菩薩住處。名金剛燄山。過去諸菩薩常於中住。彼現有菩薩。名無畏師子行。有三百菩薩眷屬。常爲說法。北方有菩薩住處。名香聚山。過去諸菩薩常於中住。彼現有菩薩。名香象。有三千菩薩眷屬。常爲說法。東北方有菩薩住處。名淸涼山。過去諸菩薩常於中住。彼現有菩薩。名文殊師利。有一萬菩薩眷屬。常爲說法。東南方有菩薩住處。名枝堅固。過去諸菩薩常於中住。彼現有菩薩。名天冠。有一千菩薩眷屬。常爲說法。西南方有菩薩住處。名樹提光明山。過去諸菩薩常於中住。彼現有菩薩。名賢首。有三千菩薩眷屬。常爲說法。西北方有菩薩住處。名香風山。過去諸菩薩常於中住。彼現有菩薩。名香光明。有五千菩薩眷屬。常爲說法。四大海中有菩薩住處。名枳怛。過去諸菩薩常於中住。彼現有菩薩。名曇無竭。有萬二千菩薩眷屬。常爲說法。海中有菩薩住處。名功德莊嚴窟。過去諸菩薩常於中住。毗舍離城南有菩薩住處。名善住。過去諸菩薩常於中住。巴連弗邑有菩薩住處。名金燈僧伽藍。過去諸菩薩常於中住。摩瑜羅國有菩薩住處。名長養功德。過去諸菩薩常於中住。拘陳那耶國有菩薩住處。名法座。過去諸菩薩常於中住。淸淨彼岸國有菩薩住處。名牟眞隣陀功德。過去諸菩薩常於中住。風地內有菩薩住處。名無礙龍王所造。過去諸菩薩常於中住。甘菩國有菩薩住處。名最上慈。過去諸菩薩常於中住。眞旦國土有菩薩住處。名那羅延山過去諸菩薩常於中住。邊夷國土有菩薩住處。名牛頭山。過去諸菩薩常於中住罽賓國土有菩薩住處。名鬱提尸山。過去諸菩薩常於中住。難提拔檀那城有菩薩住處。名梯羅浮訶。過去諸菩薩常於中住。菴浮梨摩國有菩薩住處。名亙治邪曲。過去諸菩薩常於中住。乾陀羅國有菩薩住處。名寂靜窟。過去諸菩薩常於中住

大方廣佛華嚴經卷第二十九

姓明作性

法下元明俱有門字

大方廣佛華嚴經卷第三十

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅　譯

〔麗朝〕〔宋問〕〔元問〕〔明問〕

佛不思議法品第二十八之一

爾時諸菩薩大會中.有諸菩薩.作如是念.諸佛刹土不可思議.諸佛淨願不可思議.諸佛種姓不可思議.諸佛出世不可思議.諸佛法身不可思議.諸佛音聲不可思議.諸佛智慧不可思議.諸佛神力自在不可思議.諸佛無礙住不可思議.諸佛解脫不可思議.爾時世尊.知諸菩薩心之所念.卽與青蓮華菩薩佛神力.佛智佛辯.佛功德佛無畏.充滿其身.究竟一切諸佛法界.與佛神力境界.無障礙行.分別一切如來種姓.與不可數諸佛方便.爾時青蓮華菩薩摩訶薩.卽入甚深無礙法界一切無礙法.修菩薩行.成就普賢菩薩所願.隨順一切佛.以大莊嚴而自莊嚴.大悲普觀一切衆生欲令清淨.於一念中出生如來無量大智.成就如來無盡智門.成就一切諸陀羅尼諸辯光明普照一切.爾時青蓮華菩薩.承佛神力.告蓮華藏菩薩言.佛子.諸佛有無量無數清淨妙住.諸佛安住無量自在.諸佛於一切事未曾失時.一切諸佛.悉皆平等轉淨法輪.諸佛四辯說無窮盡.一切佛法不可思議.一切諸佛.清淨音聲無所不至.一切諸佛.悉能分別無量法界.一切諸佛.光明普照.一切諸佛.所說皆入甚深法界.佛子.一切諸佛.有十種法界無量無邊.何等爲十.一切諸佛.色身清淨無量無邊.超出世間.一切諸佛.無礙眼無量無邊.清淨平等覺一切法.一切諸佛.無礙耳無量無邊.分別一切衆生音聲.一切諸佛.鼻入無量無邊.清淨究竟一切佛自在到於彼岸.一切諸佛.廣長舌相無量無邊.出妙音聲普聞法界.一切諸佛.身業無量無邊.隨應衆生現如來身.一切諸佛.意業無量無邊.三世無礙法身清淨不可破壞.一切諸佛.無礙解脫法門無量無邊.示現無盡神力自在.一切諸佛.於一切世界莊嚴佛刹無量無邊.以應衆生.一切諸佛.無量無邊諸菩薩行.及諸勝願.自在神力皆悉滿足.悉能覺悟諸佛正法.佛子.是爲一切諸佛十種法界無量無邊.佛子.一切諸佛.於念念中.悉能

悉三本俱作示

姓明作性

一三本俱作念

出生十無盡智。何等爲十。於一念中悉現一切世界從兜率天命終。於一念中。悉現一切世界菩薩出生。於一念中。悉現一切世界菩薩出家。於一念中。悉現一切世界往詣道場菩提樹下成等正覺。於一念中|悉現一切世界轉淨法輪。於一念中悉現一切世界隨應化導一切衆生悉令解脫。於一念中。悉於一切世界現莊嚴身隨應衆生。於一念中。悉現一切世界種種莊嚴無數莊嚴如來自在一切智藏。於一念中。悉現一切世界清淨衆生。於一念中偏一切世界。悉現三世一切世界。於一念中。爲種種諸根精進欲性故。顯現三世諸佛種|姓。成等正覺。開導衆生。佛子。是爲一切諸佛於|一念中生十種智。佛子。一切諸佛。有十種未曾失時。何等爲十。一切諸佛。成等正覺未曾失時。一切諸佛。善根業報未曾失時。一切諸佛。授菩薩記未曾失時。一切諸佛。隨應衆生示現神力未曾失時。一切諸佛。現如來身未曾失時。一切諸佛。悉行於捨未曾失時。一切諸佛。入城聚落未曾失時。一切諸佛。攝取歡喜衆生未曾失時。一切諸佛。於難化衆生而放捨之。爲調伏故未曾失時。一切諸佛。示現不可思議自在神力未曾失時。佛子。是爲一切諸佛十種未曾失時。佛子。一切諸佛。有十種不可譬喻不可思議境界。何等爲十。一跏趺坐徧滿十方一切世界。一發言音。悉能演說一切佛法。放一光明。悉能普照一切世界。一身悉能現一切身。不離本處。悉徧示現一切世間。決定一法。悉於諸法無所罣礙。於一念中。悉能充滿無餘世界。於一念中。悉能示現諸佛功德。於一念中。悉能示現一切三世佛。教化一切衆生。而不捨離諸佛寂滅無二三昧。佛子。是爲一切諸佛十種不可譬喻不可思議境界。佛子。一切諸佛。有十種出生住持智慧。何等爲十。一切諸法無所趣向。而能出生清淨願智。一切諸法無身。而能出生法身智慧。一切諸法悉無有二。而生正覺悟一切法。一切諸法悉無有我無有衆生。而能出生化衆生智。一切諸法悉無有相。而能出生種種相智。一切世界悉無成敗。而能出生世成敗智。一切諸法無有造者。而能出生業報智慧。一切諸法無可言說。而能出生說法界智。一切諸法無有垢淨。而能出生垢淨智慧。一切諸法無有生滅。而能出生緣起智慧。佛子。是爲一切諸佛十種出生住持智慧。佛子。一切諸佛。有十種無量內法。何等爲十。一切諸佛。內身清淨隨順三世。一切諸佛。悉有三輪內法教化衆生。一切諸佛。悉有內深智慧陀羅尼。分別一切佛法。一切諸佛。皆悉內有四辯法輪。於四衆中轉淨法輪。一切諸佛。皆悉內有大慈

大悲。悉能不捨一切衆生。一切諸佛。內常寂定。善觀衆生未曾失時。一切諸佛。皆悉內有巧妙善根。調伏衆生。一切諸佛。皆悉內有一切法界。住無礙住。一切諸佛內一念中。悉能示現三世諸佛出興於世。一切諸佛內有分別一切三世阿僧祇劫即是一日。佛子。是爲一切諸佛十種無量內法。佛子。一切諸佛。有十種甚深大法。何等爲十。一切諸佛。悉能壞散一切諸魔。一切諸佛。悉能降伏一切外道。一切諸佛。悉能應化一切衆生。令其歡喜。一切諸佛。悉能往詣一切世界。教化衆生。一切諸佛。悉分別知甚深法界。一切諸佛。以種種身徧諸世界而無異身。一切諸佛。一一音聲。具四種辯未曾斷絕。一切諸佛。衆生見者。皆令歡喜利益不虛。一切諸佛。一一毛孔次第出生一切世界微塵等佛。未曾斷絕。一切諸佛。於一一微塵中。示現一切世界微塵等佛剎種種莊嚴。常轉法輪教化衆生未曾斷絕。而微塵不大。世界不小。決定了知安住法界。一切諸佛。於一切法。覺悟癡闇。具足十力。廣爲一切衆生說如實法。除滅疑噎。佛子。是爲一切諸佛十種甚深大法。佛子。一切諸佛。有十種功德。離惡清淨。何等爲十。一切諸佛。本來修習一切功德離惡清淨。一切諸佛。悉於三世如來家生。離惡清淨。一切諸佛。於未來際心無所著。離惡清淨。一切諸佛。不著一切三世諸法。離惡清淨。一切諸佛。離種種虛妄。以一莊嚴而自莊嚴。離惡清淨。一切諸佛。功德無盡安住法界等。離惡清淨。一切諸佛。色身淨妙無量無邊。普現十方一切世界。教化衆生未曾失時。離惡清淨。一切諸佛。住四無畏離諸恐怖。於一切天人衆中大師子吼。廣說諸法令衆歡喜。離惡清淨。不可說不可說劫中滅度諸佛。若有衆生。聞其名者。得大果報如佛現在。離惡清淨。一切諸佛遠在不可說不可說世界中住。若有衆生。一心正念彼諸如來。即現在前。離惡清淨。佛子。是爲一切諸佛十種功德離惡清淨。佛子。一切諸佛。有十種究竟清淨。何等爲十。一切諸佛。諸願究竟清淨。一切諸佛。梵行禁戒究竟清淨。一切諸佛。悉得捨離優婆提究竟清淨。一切諸佛。佛剎究竟清淨。一切諸佛。眷屬究竟清淨。一切諸佛。種姓究竟清淨。一切諸佛。色身相好究竟清淨。一切諸佛。法身究竟清淨。一切諸佛。無礙一切智身究竟清淨。一切諸佛。解脫所作已作永度彼岸究竟清淨。佛子。是爲一切諸佛十種究竟清淨。佛子。一切諸佛。於一切世界一切時。有十種佛事。何等爲十。一切諸佛。若有衆生。正憶念者即現在前。一切諸佛。常爲衆生說摩訶衍。一切諸佛。常能長養一切衆生無量善根。一切

噎三本俱作翳

姓明作性

說三本俱作諸

諸佛。若有衆生。始離生死入正法位。悉分別知。一切諸佛。不捨衆生敎化時會。一切諸佛。常遊一切世界。無有障礙。一切諸佛。大悲常不捨離一切衆生。一切諸佛。所變化身常不斷絕。一切諸佛。自在神力未曾斷絕。一切諸佛。普常安住淸淨法界。悉爲衆生而廣演說。佛子。是爲一切諸佛於一切世界一切時有十種佛事。佛子。一切諸佛。有十種無盡方便智慧大海。何等爲十。一切諸佛。法身無盡智慧大海。一切諸佛。功德無盡智慧大海。一切諸佛。佛眼境界無盡智慧大海。一切諸佛。不可思議善根無盡智慧大海。一切諸佛。行一切法無盡智慧大海。一切諸佛。雨甘露法無盡智慧大海。一切諸佛。讚歎諸佛功德無盡智慧大海。一切諸佛。本願諸行無盡智慧大海。一切諸佛。盡未來際。爲一切衆生常作佛事。未曾休息無有窮盡智慧大海。一切諸佛。知衆生心心所行無盡智慧大海。一切諸佛。出生一切智功德無盡智慧大海。佛子。是爲一切諸佛十種無盡方便智慧大海。佛子。一切諸佛。有十種常法。何等爲十。一切諸佛。常行一切諸波羅蜜。一行諸佛。於一切法常離愚癡。一切諸佛。常具大悲。一切諸佛。常具無量十力。一切諸佛。常轉無上法輪。一切諸佛。常度一切衆生。一切諸佛。常爲衆生成等正覺。一切諸佛。常應化度一切衆生。一切諸佛。常行正念不二之法。一切諸佛。常化衆生已示現涅槃。諸佛境界無有邊際。佛子。是爲一切諸佛。十種常法。佛子。一切諸佛。有十種無量說佛法門。何等爲十。一切諸佛。悉說無量衆生界門。一切諸佛。悉說無量衆生種種行門。一切諸佛。悉說衆生無量諸業報門。一切諸佛。悉說無量方便度衆生門。一切諸佛。悉有無量淨衆生行門。一切諸佛。悉有無量敎化一切菩薩安立菩薩行門。一切諸佛。悉說無量菩薩勝妙願門。一切諸佛。悉說無量世界諸成敗門。一切諸佛。悉說無量淸淨佛刹一切菩薩正希望門。一切諸佛。悉說無量一切世界去來現在諸佛。無量劫中次第出世。善分別此佛智慧門。佛子。是爲一切諸佛十種無量說佛法門。佛子。一切諸佛。有十種法。常爲衆生而作佛事。何等爲十。一切諸佛色身。常爲衆生而作佛事。一切諸佛音聲。常爲衆生而作佛事。一切諸佛受施。常爲衆生而作佛事。一切諸佛不受施。常爲衆生而作佛事。一切諸佛。常以地水火風而作佛事。一切諸佛。神力住持境界。常爲衆生而作佛事。一切諸佛。常以名號。爲諸衆生而作佛事。一切諸佛。常以佛刹境界。普爲衆生而作佛事。一切諸佛常以淸淨佛刹。爲諸衆生而作佛事。一切諸佛。常以默然。爲諸

一下同無切字

十上同有有字

技三本俱作敎

開明作闓

原元明俱作源

衆生而作佛事。佛子。是爲一切諸佛十種法常爲衆生而作佛事。佛子。一切諸佛。有十種堅固士法。何等爲十。一切諸佛。諸願堅固不可沮壞。如說修行言行相應。一切諸佛。盡未來際劫修菩薩行。功德莊嚴。未曾恐怖。一切諸佛。爲化一切衆生故。悉詣不可說不可說世界。而於一切世界。敎化衆生無有留難。一切諸佛。於信不信衆生。大悲等觀而無有異。一切諸佛。從初發心乃至正覺。於其中間。未曾退失菩提之心。一切諸佛。修諸功德。皆悉迴向一切種智。不求世行。一切諸佛。於諸佛所。隨順修學身口意業。永離聲聞緣覺之心。一向專求無上菩提。所修功德。皆悉迴向一切種智。求無上道成等正覺。一切諸佛。平等普照無量無邊諸佛正法淨菩薩心。究竟具足一切種智。一切諸佛。悉能捨離一切世樂。不樂世間所可願樂。不著世間。令一切衆生悉滅諸苦。逮得寂滅平等快樂。一切諸佛。爲一切衆生故。受無量苦。皆欲建立諸佛種性。悉令衆生樂求菩提。超出生死得十力地。佛子。是爲一切諸佛。十種堅固士法。佛子。一切諸佛。有十種佛無障礙住。何等爲十。一切諸佛悉能徧遊一切世界。無障礙住。一切諸佛。悉能安住一切世界。無障礙住。一切諸佛。於一切世界。行住坐臥。無障礙住。一切諸佛。於一切世界說法。無障礙住。一切諸佛。於一切世界皆悉安住兜率陀天。無障礙住。一切諸佛。於三世法界。無障礙住。一切諸佛。眷屬充滿一切法界。而爲說法。無障礙住。一切諸佛。於一念中。悉知一切衆生心心所行。以三輪敎化而調伏之。無障礙住。一切諸佛。能以一身悉住一切諸佛不可思議法門。無障礙住。一切諸佛悉分別知一切衆生。無障礙住。一切諸佛。悉能分別一切如來。無障礙住。佛子。是爲一切諸佛十種無障礙住。佛子。一切諸佛。有十種最勝無上莊嚴。何等爲十。一切諸佛。悉有色身相好最勝無上莊嚴。是爲一切諸佛最勝無上色身莊嚴。一切諸佛。悉有八種微妙音聲。一一音聲。悉有五百妙音眷屬。不可稱數百千音聲以爲莊嚴。無量無邊妙音聲技。皆悉清淨。普能演說一切諸佛正法義味。悉離恐怖。安住無畏大師子吼。悉令一切法界一切衆生聞其音聲。隨其本行種種善根。皆令開解。是爲一切諸佛最勝無上口業莊嚴。一切諸佛。悉有十力莊嚴意業。開敷諸佛大三昧華。十八不共莊嚴境界無所罣礙。住法界地。悉得諸佛法之原底。無餘法界皆悉莊嚴。於一念中悉分別知三世一切法界一切衆生心心所行。而無有餘。是爲一切諸佛最勝無上意業莊嚴。一切諸佛。悉有最勝無上光明莊嚴。皆悉普

十方三本俱作一切

礙同作礙

姓明作性次同

放大光明藏。一一光明。悉有無數妙光明網。以為眷屬。普照十方諸佛世界。除滅一切世間闇冥。現佛出世。作不退轉最勝佛事。出生無量清淨法身。是為一切諸佛最勝無上光明莊嚴。一切諸佛。若微笑時。悉於口中。放不可數阿僧祇億那由他光。各有種種無量不可思議色。普照十方一切世界。悉授無量無數阿僧祇衆生。阿耨多羅三藐三菩提記。是為一切諸佛最勝無上普照一切離癡示現莊嚴。一切諸佛。悉有無量法身離礙。清淨法界無量無邊。遠離世間。不染世間。不著世間。解世眞實。行出世法。斷語言道。攝無言際。離陰界入。是為一切諸佛最勝無上法身莊嚴。一切諸佛。悉有無量常妙光明。普照十方一切世界。不可說不可說諸雜妙色。而莊嚴之。普照世間無所障礙。出生一切光明之藏。是為一切諸佛最勝無上常光莊嚴。一切諸佛。悉有無量妙色。悅樂妙色。清淨妙色。隨應一切衆生妙色。映蔽三界光明妙色。究竟彼岸無上妙色。是為一切諸佛最勝無上無量妙色莊嚴。一切諸佛。自然清淨三世佛寶聖家中生。離一切惡。修行一切清淨勝法。出生一切智。如來種姓清淨無礙。是為一切諸佛最勝無上清淨種姓莊嚴。一切諸佛。大慈諸力莊嚴其身。自然清淨。遠離一切不善覺觀。身行永息觀者無厭。心淨解脫大悲具足。一切衆生第一福田無上受者。哀愍衆生。普令安立一切種智。出生無量功德寶藏。一切衆生。長養善根智慧功德之藏。是為一切諸佛最勝無上大慈大悲究竟功德寶藏清淨莊嚴。佛子。是為一切諸佛最勝無上十種莊嚴。佛子。一切諸佛。有十種自在正法。何等為十。一切諸佛。於一切法隨意自在。句身味身辯無窮盡。說一切法而無障礙。是為一切諸佛自在正法。一切諸佛。隨應衆生化不失時。隨其所願而為說法未曾失時。是為一切諸佛自在正法。一切諸佛。悉能六種震動十方世界。未曾惱亂於一衆生。虛空等世界無量阿僧祇種種莊嚴。或舉或下。或合或散。於一一世界。一一處所衆生。亦不惱亂衆生之心。亦不令其生疑惑想。是為一切諸佛自在正法。一切諸佛。能以智慧。受持一切世界種種莊嚴。於一念中。示現一切世界種種莊嚴。不可數不可數阿僧祇劫。歎莊嚴具而無窮盡。永離一切世界染汚。莊嚴世間一切佛刹。是為一切諸佛自在正法。一切諸佛。若見一衆生應受化者。於不可數不可數阿僧祇劫。結跏趺坐身不疲厭。專念彼人未曾廢忘而不失時。為一衆生。住持壽命。盡未來際劫。結跏趺坐身無疲厭。念彼衆生未曾廢忘。如一衆生。一切衆生亦復如是。是為一

佛下三本俱無十種二字

切諸佛自在正法.一切諸佛.悉徧往詣一切世界諸如來所.而無障礙.一一方面.各有法界等世界海.一一方無量世界網.世界等一切世界海.於一念中悉能周徧.轉妙法輪而無障礙.是爲一切諸佛自在正法.一切諸佛.調伏敎化一切衆生故.於念念中.成等正覺.非不先覺諸佛正法.亦不住學地.而成正覺.於諸佛法得無罣礙.不捨自在神力.無量智慧境界.敎化衆生.是爲一切諸佛自在正法.一切諸佛.能以眼入作耳入佛事.能以耳入作鼻入佛事.能以鼻入作舌入佛事.能以舌入作身入佛事.能以身入作意入佛事.能以意入.於一切世界.種種境界.世間境界.出世間境界.於一一境界能作佛事.是爲一切諸佛自在正法.一切諸佛.於一毛孔.悉能安置一切衆生.一一衆生.其身悉與不可說不可說諸佛剎等.於彼衆生而不迫迮.一一衆生.悉壽無量阿僧祇劫.普能遊行無量世界.放諸世界.見佛興世轉淨法輪.宣暢演說無數法門.廣說過去不可數法.未來現在不可數法.一切衆生.行四威儀而不迫迮.是爲一切諸佛自在正法.一切諸佛.於一念中.現蓮華寶藏師子之座.如來淨身與法界等.處彼寶座成等正覺.示現如來自在神力.如一念中.示現一如來成等正覺.於一念中.示現一切世界微塵數如來成等正覺.亦復如是.如一念中.於一切念中亦復如是.如蓮華寶藏師子之座示成正覺.如是一切不可說不可說法界等淸淨佛剎.不可思議種種莊嚴世界.種種世界.不可說佛剎.或有同相或有異相.不可說阿僧祇劫.說不能盡.無量諸佛.種種念.種種時.不可思議.於一念中.一切諸佛.以少方便.示現一切衆生.亦復如是.佛子.是爲一切諸佛十種自在正法.佛子.一切諸佛.具足十種不思議法已.成等正覺.何等爲十.一切諸佛.一一妙相.百福悉具.成等正覺.一切諸佛.具足一切佛法.成等正覺.一切諸佛.具諸善根.成等正覺.一切諸佛.具足修習諸功德行.成等正覺.一切諸佛.善知衆生諸根熟已.成等正覺.一切諸佛.具足成就無壞勝法.成等正覺.一切諸佛.具足嚴淨佛剎.成等正覺.一切諸佛.具足一切種智.成等正覺.一切諸佛.色身相好滿足.見者不虛.成等正覺.一切諸佛.悉具諸佛平等正法.成等正覺.一切諸佛.悉具一切諸佛事已.然後入於無餘涅槃.佛子.是爲一切諸佛滿足十種不思議法.成等正覺.佛子.一切諸佛.有十種巧妙方便.何等爲十.一切諸佛.悉知諸法無有究竟.而究竟說諸佛善根.是爲一切諸佛巧妙方便.一切諸佛了一切法.悉無所見.各不相知.無縛無脫.無取無集.無具足

智三本俱作知次亦同

於一切時同作一切時中

入下三本俱無無字

無自在無究竟。而一切佛於彼法中。實知無異離衆垢汙。於一切法悉得自在。於無取法中不壞實際。善究竟學大自在地見一切法界。覺悟一切智。是爲一切諸佛巧妙方便。一切諸佛。離諸相際。不住一切相。而分別知一切諸相。亦不亂自性。一切諸性無有自性。而能示現阿僧祇淸淨色身。種種嚴淨佛刹妙相。佛一切智。具足智身。明淨智燈除滅癡闇。普能示現一切衆生。是爲一切諸佛巧妙方便。一切諸佛。知衆生際非過去非未來非現在。法界亦非去來現在。如如實性捨離虛妄。而能演說三世諸佛。見一切佛平等境界。是爲一切諸佛巧妙方便。一切諸佛。身口意業無所造作。究竟無住。離諸數法。到於彼岸。而出生無量功德寶藏。分別演說世間出世間法。具足成就無礙智慧。示現無量自在神力。度脫一切法界等衆生。是爲一切諸佛巧妙方便。一切諸佛。悉知一切法無知無見。非一非異。非相非無相。非莊嚴非不莊嚴。一切諸法皆無自性不生不滅。而於所有無所有法中。亦不壞世間法相。一切智人見人示現勝妙智慧。自在廣說一切諸法。而於如如亦不永滅。是爲一切諸佛巧妙方便。一切諸佛。能於一時。皆悉分別知一切時。不捨離生平等正法。一切時中皆所不攝。非晝非夜。非半月非一月。非一歲非百歲。非劫成非劫敗。非時不離時。而於無量時轉淨法輪。或須臾時。或於晝初中後時。或於夜初中後時。或於七日一月一歲百歲。乃至不可思議阿僧祇劫時。乃至盡未來際劫。於一切時轉淨法輪。未曾暫息。是爲一切諸佛巧妙方便。一切諸佛。知一切法界非時不離時。一切諸佛。具足成就無量無畏。具足成就不可數辯。不可量辯。不可盡辯。不可壞辯。無邊辯。不共辯無窮盡辯。眞實辯。方便分別演說一切句身味身辯。一切法辯。隨性隨根隨行。廣說諸法。不可說不可說億那由他修多羅。彼諸一一修多羅。初中後善究竟善說。是爲一切諸佛巧妙方便。一切諸佛正覺法界。無名無性。無三世名無衆生名。無法名無非法名。無功德名無非功德名。無菩薩名無佛名。無數名無非數名。無生名無滅名。非有名非無名。非一名非種種名。一切諸法自性無言。無方無處捨離音聲。言語道斷究竟彼岸。離虛妄境界。修無形法。除滅一切覺觀虛妄。不著一切世間語言。而能出生一切諸法句身味身。是爲一切諸佛巧妙方便。一切諸佛。知一切法不生。無有受者。知色不生受想行識不生。一切諸法皆悉寂滅。無入無界。法界無所有。而亦不壞一切法相。一切諸法無有起者。悉如虛空。一切法寂滅。無有業報。無所學。無

成就。無數無非數。非有非無。非生非滅。非垢非淨。無來無去。亦無有住。無衆生非無衆生。亦無教化。無命非無命。無因緣非無因緣。無緣起非無緣起而善分別正定邪定不定衆生。成就十力四無所畏一切種智。於大衆中大師子吼如來境界。是爲一切諸佛巧妙方便。佛子。是爲一切諸佛十種巧妙方便

大方廣佛華嚴經卷第三十

大方廣佛華嚴經卷第三十一

〔麗朝〕〔宋問〕〔元問〕〔明問〕

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅 譯

佛不思議法品第二十八之二

佛子。一切諸佛。有十種佛事無量無邊不可思議。一切天人不能稱量。三世一切聲聞緣覺所不能說。除佛神力。何等爲十。一切諸佛。於無量無邊虛空法界等一切世界兜率天上。修菩提行而作佛事。無量妙色。無量功德。無量光明。無量音聲。無量清淨音聲。無量三昧。無量智慧境界。攝取天人魔梵沙門婆羅門阿修羅等一切世間。大慈境界無礙。大悲安樂攝取衆生。或令生天。或令長養諸功德力。或令諸根清淨。或調伏其心攝取衆生。或以清淨諸乘攝取衆生。或以滿足大乘攝取衆生。或離生死攝取衆生。是爲一切諸佛第一佛事。一切諸佛。從兜率天降神母胎。修菩薩行。觀諸有生如幻如化如電如夢如虛空如燄。離一切諍。修眞實智。離欲清淨。具足大莊嚴藏。於最後生而作佛事。安處妙寶莊嚴樓閣而作佛事。或以神力而作佛事。或以正念而作佛事。或以示現大自在藏而作佛事。或以圓滿慧日而作佛事。或以具足如來廣大境界而作佛事。或以化滿無量無邊世界諸佛而作佛事。或入無量無邊諸大三昧正受而作佛事。或復從彼諸三昧起而作佛事。或從初發心而作佛事。乃至無餘涅槃而作佛事。此第二地究竟示現一切世間。或初生時。一切世間而作佛事。或童子時。一切世間而作佛事。或菩薩時。一切世間而作佛事。或出家時。或成佛時。或轉法輪時。一切世間而作佛事。種種方便。於一切無餘世界而作佛事。一切方網而作佛事。一切佛刹而作佛事。一切業報而作佛事。或於一切無餘衆生而作佛事。或於一切生死中變化正念法門而作佛事。佛子。是爲一切諸佛第二佛事。一切諸佛。爲菩薩時。於王宮中。成就一切清淨勝業。善能分別知一切生。隨順衆生現處王宮。欲令一切善根具足。而不著一切色。離一切聲。觀一切有皆悉寂滅。甚深智慧。入一切境界。持一切戒。清淨滿足。大悲觀察內諸眷屬。大慈觀察衆生空寂。大喜觀察世無可樂。

大捨觀察心得自在．隨意能轉．究竟一切智．諸妙功德．出生法身．與法界等．清淨滿足而無染著．令一切眷屬皆悉清淨．廣能爲彼如應說法令厭世間．能說一切世間音聲．隨彼所行示現果報．出生無量種種方便．隨其所應調伏教化．善根未熟悉令成熟．已成熟者令得解脫．示現無量不退佛事．廣說種種法門．令無量衆生心得清淨．興大悲重雲．普雨無量甘露法雨．大慈平等．三輪示現教化衆生．雖處王宮．而普示現一切佛事．於一切世界示現佛事．出生無礙諸佛神通．具足三種巧方便業．身口二業究竟清淨．意業甚深究竟無礙．得巧方便饒益衆生．佛子．是爲一切諸佛第三佛事．佛子．一切諸佛世間珍玩種種寶物．悉能眩惑動轉人心．菩薩悉棄．捨家出家．示現世間．欲令衆生不著世間．解知磨滅皆悉非常．捨離貪愛行清淨法．饒益衆生得出家利．示現世間捨離俗服．修無諍法滿足本願．無量功德皆悉圓滿．智慧具足除世愚癡．示現衆生無上福田．若有衆生．於佛福田種善根者．讚歎其人．悉已具足一切功德．甚深智慧．了眞實義．悉令衆生得清淨業．永離諸惡．清淨法門．廣爲衆生說正法門．超出生死．爲欲建立一切智幢故．捨家出家．佛子．是爲一切諸佛第四佛事．一切諸佛修無量行．一向專求薩婆若．坐於道場菩提樹下．成等正覺．達一切法．壞散衆魔．不可破壞法身之藏．悉能充滿一切法界．離一切相究竟無盡．具足成就無量法門．於一切智境界自在．隨順其義．積集成滿一切種智．功德莊嚴．一切寶座徧一切剎．諸大菩薩悉處其座．成就菩薩無上衆行．具足菩薩殊勝大願．一切菩薩常所敬念．爲諸菩薩轉深法輪．無量佛境界．攝取諸菩薩．修習莊嚴諸菩薩行．令菩薩衆皆悉清淨．一切世間諸佛境界．令一切衆生修習善根．不可破壞一切善根．出眞實地．安住無量菩薩行地．具足一切勝妙功德．悉分別知一切世界．一切衆生．一切佛剎．一切諸法．一切菩薩．一切成熟．一切三世．一切教化．一切佛自在覺．一切衆生性而作佛事．佛子．是爲一切諸佛第五佛事．一切諸佛．轉妙法輪．不退轉故．無量法輪．一切世間知故．一切覺法輪．無畏大師子吼故．知一切法藏法輪．開示顯現明淨法門．滅癡闇故．無著法輪．智慧等虛空故．無礙法輪．觀一切法非有無故．一切世間燈法輪．淨一切衆生法眼故．示現一切智法輪．充滿三世一切世間故．一切諸佛同一法輪．一切佛法不相違故．如是等無量阿僧祇法輪．隨所應轉．施作佛事不可思議．佛子．是爲一切諸佛第六佛事．一切諸佛．若入聚落城邑大王都

止三本俱作正　詳同作庠○未元明俱作不　誡三本俱作戒　姓明作性　切三本俱作一　以下三本俱無天字　世下同無間字

城能爲衆生施作佛事。或入人王都城。或入天王龍王夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽羅刹毗舍遮王。入如是等一切諸王都城時。能爲衆生而作佛事。所謂入城門時。一切大地六種震動。光明普照。盲者得視。聾者得聽。狂者得止。裸者得衣。苦者得樂。一切樂器不鼓自鳴。諸莊嚴具。自然演出微妙音聲。如是等物亦自然出微妙音聲。一切諸佛色身淸淨見者無厭。普爲衆生而作佛事。一切諸佛相好莊嚴。普爲衆生而作佛事。一切諸佛視瞻安詳。未曾卒疾觀察諸方。不失威儀。於一切境界諸根寂定攝心不亂直趣涅槃。普爲衆生而作佛事。一切諸佛行四威儀。普爲衆生而作佛事。一切諸佛。或以說法或以默然。普爲衆生而作佛事。一切諸佛。或以神足說法敎誡。普爲衆生而作佛事。一切諸佛。爲一切世界海中種種衆生海。修大善根念佛三昧。行菩薩行。觀察諸佛無有厭足。或說佛興難可値遇。見如來已。出生無量一切善法。修習功德。行諸佛行。佛出世間。令衆生淨讚歎諸佛無量功德。長養未來諸佛種姓。修一切善根。令諸佛歡喜。解知如來無量妙色。隨所應化普能現前。令不可思議衆生。於諸佛刹得見如來。一切諸佛。以如是等無量善根。普爲衆生而作佛事。彼諸衆生。或有見佛歡喜。或有禮拜。或有合掌。或有讚歎。或有請佛。或有受施。或見佛微笑。或有念佛。或見佛悅樂。普爲衆生而作佛事。一切諸佛。能以無量種種色身。示現衆生而作佛事。一切諸佛以妙音聲。普爲衆生而作佛事。一切諸佛。以如是等無量無數不思議事。普爲衆生而作佛事。於一切世界中。一切衆生悉敎化之。令不退轉。大悲充滿不捨本願。具足成就一切智力。隨所應化悉令調伏。佛子。是爲一切諸佛第七佛事。一切諸佛。或住阿練若處。或寂靜處。或離欲處而作佛事。或住佛住而作佛事。或住大三昧而作佛事。或住獨處而作佛事。或不現身而作佛事。或住深智而作佛事。或住不可稱量諸佛境界而作佛事。或隨所應而作佛事。或以天身境界。而作佛事。或以天龍迦樓羅緊那羅摩睺羅伽羅刹人非人等一切境界而作佛事。或以聲聞緣覺菩薩境界。而作佛事。或以說法而作佛事。或以默然而作佛事。或說世間有一佛而作佛事。或說世間有一切諸佛而作佛事。或說一切菩薩無量願無量行爲一而作佛事。或說一行一願爲無量而作佛事。或說世間境界爲如來境界。或說如來境界爲世間境界。或說非境界爲如來境界而作佛事。或住一日或住一夜。或住半月一月一歲。乃至住無量無數阿僧祇劫而作佛

念同作命

末明作抹

授明作受

事.佛子.是爲一切諸佛第八佛事.一切諸佛.卽是無盡功德之藏.能令衆生發深信心.具足清淨.隨其所應悉能化度.諸根具足.調伏衆生悉令歡喜.化一切衆生以眞實道.覺悟一切諸菩薩衆.未發菩提心者皆令發心.已發心者令具智慧.悟不由他.或現涅槃而作佛事.或現世間無常而作佛事.或讚歎法身清淨而作佛事.或說所作已辦而作佛事.或說壞一切有而作佛事.或說三有根本永盡而作佛事.或教衆生厭離世間隨順佛心.或爲衆生說壽命短促.或爲衆生說一切世間無可樂者.或爲衆生說値未來一切諸佛.或爲衆生說諸如來轉妙法輪.或發衆生佛境界心.或說隨時清淨|念佛得見如來.滅除衆苦皆令清淨.專求佛道.於一切世界攝取衆生.令入如來甚深境界.以如來身爲一切身.攝取衆生.放逸衆生.悉令具足三種淨戒.佛子.是爲一切諸佛第九佛事.一切諸佛般涅槃時.一切衆生悲泣雨淚憂惱愁毒.嗚呼痛哉.如來應供等正覺.常以大悲等念衆生.爲大導師.哀愍饒益一切衆生.救護世間.天人所歸.難可値遇.無上福田於今永滅.諸佛卽以此等衆生憂苦悲惱感慕諸佛.而作佛事.隨應化彼一切天人龍神夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽等故.碎|末全身示現舍利.欲令衆生歡喜供養.淨正直心.調伏教化.清淨衆生.欲令衆生功德滿足.欲令衆生起如來塔種種供養.一切世間天宮龍宮夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人宮.起塔供養.又以爪牙頭髮.起塔供養.衆生見已念佛法僧.發起恭敬供養之心.或行布施.或修功德.具功德已.或生天上.或生人中.尊貴富樂.除滅惡趣.直向正道.得見諸佛具白淨法.成就正道.超出三界.隨彼所願皆悉滿足.常念如來知恩報恩.以諸如來常爲衆生作救護歸依.如來雖復入於涅槃.猶爲衆生作無上福田無盡福田.令一切衆生長養善根.具足成就一切功德.佛子.是爲一切諸佛第十佛事.佛子.此十種佛事.無量無邊不可思議.一切天人莫能知者.三世一切聲聞緣覺所不能說.除佛神力.佛子.一切諸佛.有十種法王無異之法.何等爲十.一切諸佛.與|授記者言無有異.一切諸佛.若有衆生修念佛者.皆令意滿悉無有異.一切諸佛皆無異身.覺諸法義悉無有異.一切諸佛.於三世如來智慧無異.一切諸佛.念念普知三世諸法.悉無有異.一切諸佛.了知分別三世佛刹悉無有異.一切諸佛.一切佛語悉無有異.一切諸佛.教化衆生悉無有異.一切諸佛.解一切世間法與佛法無異.三世諸佛一切善根同一善根悉無

那上三本俱有佛子諸佛世尊有十種大力十一字

有異佛子。是爲一切諸佛十種法王無異之法。佛子。一切諸佛。有向十種住法。何等爲十。一切諸佛。悉住覺一切法界。一切諸佛。悉住大悲。一切諸佛。悉住本願一切諸佛。悉住不捨教化衆生。一切諸佛。悉住無所依法。一切諸佛。悉住無虛妄法。一切諸佛。悉住念無失法。一切諸佛。悉住無障礙心。一切諸佛。悉住定心未曾散亂。一切諸佛。悉住一切諸法平等不壞實際。佛子。是爲一切諸佛向十種住法。佛子。一切諸佛。知十種法悉無有餘。何等爲十。一切諸佛。知過去一切法界。悉無有餘。一切諸佛。知未來一切法界。悉無有餘。一切諸佛。知現在一切法界。悉無有餘。一切諸佛。知一切語言道。悉無有餘。一切諸佛。知一切世間成壞。悉無有餘。一切諸佛。知一切衆生及其智慧。悉無有餘。一切諸佛。知一切菩薩善根上中下相。悉無有餘。一切諸佛。知一切佛滿足智慧。悉無有餘。一切諸佛。知一切法皆從緣起。悉無有餘。一切諸佛。分別了知一切世界。悉無有餘。一切諸佛。智慧分別一切法界如因陀羅網。悉無有餘。佛子。是爲一切諸佛知十種法悉無有餘。佛子。一切諸佛。有十種最勝力大力無量力大功德力尊重力不退轉力堅固力。不可壞力。一切世間不能思議力。一切衆生不能壞力。大力。|那羅延幢佛所住法。何等爲十。一切佛身。擧世烖横所不能壞。諸佛命根。世間諸毒所不能害。一切世界火劫起時不能燒熱。水劫起時不能浸溺。風劫起時不能散壞。一切魔軍天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽羅刹毗舍遮人非人等一切衆生悉雨金剛。如須彌山金剛圍山。三千大千世界。爾所等雨。雨於佛上。不能令佛生怖畏心。一毛不竪。行住坐臥威儀不改。隨諸如來所住方面。金剛雨渧終不得下。欲雨不雨。隨如來意。佛所住持衆生及佛使命尙不可害。何況如來。佛子。是爲一切諸佛第一大力那羅延幢佛所住法。佛子。一切諸佛。一切法界等世界中。須彌山王金剛圍山大金剛圍山。一切大海一切諸山及一切衆生。於一毛孔悉能容持。盡未來際劫。一切衆生。悉不自知我住何所。除佛神力。一毛悉持一切衆生。徧遊十方無量世界。行住坐臥。而諸如來。不生苦惱厭倦之心。威儀無異。佛子。譬如虛空容持一切法界等世界。不生苦惱厭倦之心。一切諸佛亦復如是。於一毛孔。容持無餘世界一切衆生。不生苦惱厭倦之心。佛子。是爲一切諸佛第二大力那羅延幢佛所住法。佛子。一切諸佛。一步能過不可說不可說世界微塵等佛刹。於一念中。能行不可說不可說世界微塵等步。以如是步。經一切世界微塵

一食三本俱作一坐食已不下同有可字

諸元明俱作論

空下三本俱無界字

等劫.於念念中.能經一切世界微塵等劫.一金剛圍山與上諸劫所經世界微塵佛刹等.如是等不可說不可說世界微塵數諸金剛圍山.內一毛孔.一切毛孔.亦復如是.如來毛孔悉與一切衆生毛孔數等.以如是毛孔.如是遠步如是速疾.遊行十方一切世界.一切虛空界.盡過去未來際一切諸劫.如是諸劫猶可窮盡.而諸如來身無羸弊.心不退沒.不捨三昧.一切佛事.佛子.是爲一切諸佛第三大力那羅延幢佛所住法.佛子.一切諸佛.一食結跏趺坐.盡過去未來際不可說不可說一切劫.身不傾動.住不思議佛住.受寂滅樂.乃至不失化一衆生.以一切世界及一切衆生.安置如來一指端上.盡未來際劫.彼一一衆生.其身悉如不可說不可說佛刹微塵等世界.彼一一衆生.其身重如一切世界.而諸如來.身無疲倦.心無苦惱.如一指端.一切指端.亦復如是.入一一世界.入虛空界.入一切方網.如是一切處虛空界.悉無有餘.究竟法界.以一毛端.量一切世界.一一毛端處結跏趺坐.盡過去未來際劫.佛子.是爲一切諸佛第四大力那羅延幢佛所住法.佛子.一切諸佛.於一身化不可說不可說佛刹微塵等頭.一一頭.化不可說不可說佛刹微塵等舌.一一舌.出不可說不可說佛刹微塵等音聲.一切法界衆生無不聞者.一一音聲.說不可說不可說佛刹微塵等修多羅.一一修多羅.說不可說不可說佛刹微塵等法.一一法中.說不可說不可說佛刹微塵等句身味身.如是說法.乃至盡不可說不可說佛刹微塵等劫.復不可說不可說佛刹微塵等劫.說異句身味身.盡一切世界微塵等劫.一切衆生念等劫.盡未來際一切劫.此諸劫數猶可得盡.如來化身說法.轉一切法.猶如火輪.自在智慧說一切法.轉正法輪.除滅一切衆生疑惑.轉正法輪.照一切法.轉正法輪.皆悉開發一切法藏.轉正法輪.歡喜調伏莊嚴一切衆生.轉正法輪.說諸菩薩莊嚴法行.轉正法輪.令大乘智日圓滿莊嚴.轉正法輪.令一切無餘衆生.以大乘智而自莊嚴.轉正法輪.一切諸辯無畏而自莊嚴.如一如來一化身.轉如是等不可譬諭法輪雲.一切法界虛空界等世界.悉以毛端周徧度量.一一毛端處.於念念中化不可說不可說佛刹微塵等身.乃至盡未來際劫.一一化佛身.有不可說不可說佛刹微塵等頭.一一頭.有不可說不可說佛刹微塵等舌.一一舌.出不可說不可說佛刹微塵等音聲.一一音聲.說不可說不可說佛刹微塵等修多羅.一一修多羅.說不可說不可說佛刹微塵等法.一一法中.說不可說不可說佛刹微塵等句身味身.復

量下三本俱無化字畏下同有衆生見者四字

境下同無界字

不可說不可說佛刹微塵等劫.說異句身味身音聲充滿法界.一切衆生無不聞者.盡一切未來際劫常轉法輪.如來音聲無異無斷不可窮盡.佛子.是爲一切諸佛第五大力那羅延幢佛所住法.佛子.一切諸佛.成就勝妙大莊嚴胸德字相.猶如金剛不可破壞.如來坐彼菩提樹下.有無量化魔王軍衆.悉與一切衆生數等.雜惡形色甚可怖畏.能發狂亂.悉能恐怖一切世間.如是等衆.充滿虛空法界等一切世界.雜惡形色甚可怖畏.能發狂亂.能令一切衆生怖畏.能壞一切世間.能害一切衆生.如來見已心無恐怖.一毛不竪顏無異容.乃至不生一念微畏之相.心安不動形色無異.遠離覺觀心常寂靜.究竟遠離一切恐怖.除滅一切愛恚煩惱.安住佛住.具足無礙大慈之力.住大悲住.諸根寂靜永離恐怖.胸德字相不可破壞.堅固眞實.一切諸魔魔天眷屬.見如來已皆悉歸依.如來於彼三輪敎化.皆令調伏發菩提心悉不退轉.乃至今得無上菩提.佛子.是爲一切諸佛第六大力那羅延幢佛所住法.佛子.一切諸佛.出無障礙微妙音聲.皆悉充滿一切世界.隨所應度無不聞者.彼諸如來所出音聲.一切衆山所不能障.須彌山王寶山.小金剛圍山大金剛圍山.所不能障.天宮龍宮夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等一切宮殿.所不能障.一切世界高大音聲.亦不能障.隨其所應皆悉聞之.無所障礙.佛子.是爲一切諸佛第七大力那羅延幢佛所住法.佛子.一切諸佛心無障礙.於不可說不可說億那由他劫.心常清淨.三世諸佛離垢清淨.同一莊嚴離我我所.於一切法亦無所依.非內非外.非生非不生.離一切境界.寂滅無處.無所造作.離種種相.除滅一切虛妄取相.自然清淨離諸境界無所憶念.隨順境界無諍之法.離欲清淨.住眞實際.說法界際.法界平等而無有盡.一切衆生莫能知者.永離一切有爲無爲.捨離一切言語道境界.究竟無礙無盡法界.隨智慧轉.十力莊嚴.淨一切法行巧方便說種種法相.即一法相一切法相不相違背.不壞三世.於一切法界.究竟自在到於彼岸.具足甚深自在法藏.一切方便離癡正念.安住十方一切佛刹.而無動轉.具不死智盡一切漏.究竟諸法證於無漏心慧解脫究竟實際.住無礙住常定無亂.於三世法無有障礙.於一念中.悉了三世一切衆生心心所行.佛子.是爲一切諸佛第八大力那羅延幢佛所住法.佛子.一切諸佛.具足成就細密法身.諸佛法身.境界無量.一切世間所不能知.於三界中無所染汙.隨因緣應一切普現.非實非虛平等清淨.非去

生下三本俱無一切乃至如如十七字

姓明作性

子同作力

非來無爲無壞.清淨常住.一相無相.是法身相.非處非方.一切身身.自在無量.妙色無量.攝一切身.作種種身.隨方便身普照一切.具足智藏.而無種種分別.其身充滿無餘世界.說一切法界雖動非動.清淨法身.非有非無.非方便.非不方便.隨衆生所應.悉能示現.非滅非不滅.亦非不現.而化衆生一切功德寶所起之身.一切法佛法起.如如法身自然寂靜.於一切法無所障礙.隨順一切法界.清淨一切世間.分別一切世間.無有動轉.無有境界.如來解脫攝一切智.隨順一切身.佛子.是爲一切諸佛第九大力那羅延幢佛所住法.佛子.一切諸佛.正覺悉等.出生一切諸菩薩行.所行不虛.滿足深願淨菩薩行.具足一切菩薩行智.一切諸佛.修菩薩行悉無有異.善分別知一切菩薩行.滿足菩薩諸大願海.離一切惡生諸善行.修菩薩行皆悉清淨.隨順一切佛.寂然不放逸.住一切三昧無量境界.能教一切勝道.遠離一切惡道.究竟彼岸.具足成就第一智力.雨無畏法雨.隨其所問悉能善答.方便說法.智慧平等周徧清淨.身口意業皆悉清淨.住諸佛住.諸佛種姓.佛智所作.悉不退轉.一切種智.分別無量無邊諸住.一切智明.隨順智慧.不可思議.一切世間所不能解.智慧明淨知一切法.微細智慧無量無邊.善能分別一切三世.智慧微妙.覺悟一切世界.具足了知無上道義.於一切世間作不可說佛事.智慧不退.成就一切諸如來身.入算數智.決定了知一切諸法.捨離文字言語道斷.而善能說一切文字.行淨善法滿普賢智.於一念中.悉能覺了一切諸法.隨淨衆生隨所應乘悉能法施.以明淨智.解一切法境界.一切世界境界.一切衆生境界.於一念中悉能知見三世法界.一切如來出世境界.一切教化境界.未曾失時.至於一切清淨境界.覺一切境界.皆悉究竟.於一念中.覺悟三世衆生心意識行.諸佛平等.衆生無邊.世界無邊.法界無邊.三世無邊.一切諸佛自在無邊覺如是等無有障礙.諸佛智慧.諸佛自在轉.無量無邊諸佛所住.住無礙住.無礙心住.住大悲住.廣說深法教化衆生心無休息.是爲一切諸佛第十大力那羅延幢佛所住法.佛子.是爲一切諸佛十種大力那羅延幢佛所住法.無量無邊不可思議三世一切衆生.聲聞緣覺皆不能知.除佛神力.佛子.一切諸佛.有十種定法.何等爲十.一切諸佛.定於兜率天盡其壽命.一切諸佛.定示現處胎滿十月生.一切諸佛.定捨宮館樂行出家.一切諸佛.定坐菩提樹下覺一切法.一切諸佛.定一念中覺一切佛法.於一切世界.普現如來神力自在.一切諸佛.定隨時

授明作受次同

誡三本俱作戒

敎化轉正法輪。一切諸佛。定知隨時種諸善根爲彼授記。一切諸佛。定隨應時不失佛事。一切諸佛。定知菩薩功德具足而爲授記。一切諸佛。定隨衆生一切問難。於一念中悉能善答。佛子。是爲一切諸佛十種定法。佛子。一切諸佛。有十種法。若有衆生見如來者。皆悉疾得十種果報。何等爲十。若有衆生見如來者。疾得遠離一切惡道。若有衆生見如來者。疾得長養一切善根。若有衆生見如來者。疾得滿足一切善根。若有衆生見如來者。疾得往生淨妙天上。若有衆生見如來者。疾得除滅一切疑惑。若有衆生見如來者。已發菩提心者。疾得不退轉。未發心者。速發阿耨多羅三藐三菩提心。若有衆生見如來者。未得離生聖道。除滅有見。速令正取離生聖道。若有衆生見如來者。速令清淨世間離世間。一切諸根。若有衆生見如來者。疾得除滅一切障礙。若有衆生見如來者。疾得無畏不斷辯才。佛子。是爲一切諸佛衆生見者皆悉疾得十種果報。佛子。一切諸佛。有十種清淨法。一切菩薩應常正念。何等爲十。一切諸佛過去方便一切菩薩應常正念。一切諸佛清淨妙行。一切菩薩應常正念。一切諸佛滿足波羅蜜。一切菩薩應常正念。一切諸佛滿足大願。一切菩薩應常正念。一切諸佛功德積聚。一切菩薩應常正念。一切諸佛過去梵行。一切菩薩應常正念。一切諸佛成等正覺。一切菩薩應常正念。一切諸佛色身無量無邊。一切菩薩應常正念。一切諸佛無量無邊神力境界。一切菩薩應常正念。一切諸佛十力無畏。一切菩薩應常正念。佛子。是爲一切諸佛十種清淨法一切菩薩應常正念。佛子。一切諸佛。有十種一切智住。何等爲十。一切諸佛。於一念中。悉知一切法界三世一切衆生心心所行。一切諸佛。於一念中。悉善分別三世一切衆生種種業報。一切諸佛。於一念中。隨一切衆生所應度者。或以神足或以敎誡。或以說法而敎化之。一切諸佛。於一念中。悉能善取一切法界十方衆生諸心心相。示現一切世間如來出世。一切諸佛。於一念中。隨一切法界中一切衆生希望欲性。所應化度令見如來。一切諸佛。於一念中。示現一切法界中一切衆生如來住持神力自在。一切諸佛。爲一切法界中一切衆生。說一切佛離諸熾然。隨其所應化度衆生。一切諸佛。於一念中。以一切至處道。悉知一切法界中一切衆生彼彼諸趣。一切諸佛。於一念中。一切法界中一切方處一切衆生。念如來者悉令得見。一切諸佛。於一念中。隨一切法界中衆生心之所樂。如來形色悉令得見。佛子。是爲一切諸佛十種一切智住。佛子。一切諸

佛。有十種無量不可思議三昧。何等爲十。一切諸佛。於一切法常定不亂。於一念中。爲一切衆生說一切法。一切諸佛。於一切法界一切衆生。常定不亂。於一念中。悉爲衆生分別演說無我實際。一切諸佛。於一切法界三世諸法。常定不亂。於一念中入億三昧。一切諸佛。於一切法界十方佛刹。常定不亂。於一念中。悉徧遊行一切佛刹。一切諸佛。於一切法界普現無量無邊佛種種身。常定不亂。於一念中。一切世界無不徧現。一切諸佛。身口意業充滿一切法界。常定不亂。於一念中。分別演說一切衆生心藏欲性。一切諸佛。於一切法界一切法性常定不亂。於一念中。悉能究竟離欲實際。一切諸佛。於一切法界一切世界緣起。常定不亂。於一念中。分別演說一切因緣。一切諸佛。於一切法界一切世間離世間法。常定不亂。於一念中。無量莊嚴。爲一切衆生普現諸佛無有窮盡。一切諸佛。於一切衆生一切法界。正受無礙。常定不亂。於一念中。至諸佛趣無量解脫究竟彼岸。佛子。是爲一切諸佛十種無量無邊不可思議三昧。佛子。一切諸佛。有十種無礙解脫。何等爲十。一切諸佛。於一微塵中悉能普現不可說不可說諸佛出世。一切諸佛。於一微塵中。悉能普現不可說不可說諸佛轉淨法輪。一切諸佛。於一微塵中。教化調伏不可說不可說衆生。一切諸佛。於一微塵中。普現不可說不可說佛刹。一切諸佛。於一微塵中。授不可說不可說菩薩記。一切諸佛。於一微塵中普現三世諸佛出世。一切諸佛。於一微塵中。普現三世一切佛刹。一切諸佛。於一微塵中。普現三世諸佛自在神力。一切諸佛。於一微塵中。普現三世一切衆生。一切諸佛。於一微塵中。普現三世一切諸佛佛事。佛子。是爲一切諸佛十種無礙解脫。

大方廣佛華嚴經卷第三十一

三十二三本俱作三十三

二下元明俱有相字

照三本俱作放

界下元明俱有過去時三字

大方廣佛華嚴經卷第三十二

〔麗朝〕〔宋問〕〔元問〕〔明問〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

如來相海品第二十九

爾時普賢菩薩摩訶薩。告諸菩薩言。佛子。諦聽諦聽善思念之。當爲汝說如來相海。如來頂上有大人相。名曰明淨。三十二寶以爲莊嚴。普放無量大光明網。徧照一切十方世界。如來頂上有大人相。名曰普照佛方便海。圓滿雜寶以爲莊嚴。種種摩尼寶王莊嚴。金剛光明世界所起。普照一切法界。如來頂上有大人相。名充滿法界雲。妙寶光明。普照一切法界一切世界。如來功德智慧十方世界海雲。菩薩功德海雲。如來頂上有大人相。名曰普照悉現不可思議諸佛世界。金剛摩尼妙寶光明。觀無厭足。如衆寶華聚奮迅。普照一切法界佛寶光明。如來頂上有大人相。名瑠璃寶。普照一切法界大自在雲。摩尼寶王相種種莊嚴。普照一切十方世界。歎佛功德因緣所起。悉放如來大寶光雲。普照菩薩於道場樹結跏趺坐。普現菩薩自在神力覺如來力。普照一切十方佛刹六種震動。於大法界虛空中。普現無量自在一切智雲。如來頂上有大人相。名曰平等。如來音聲燈雲離垢寶海。放諸光明。普照一切法界十方世界菩薩功德海。安立三世佛智幢海。如來頂上有大人相。名佛光廣雲。伊那羅寶如意王寶摩尼王寶。以爲莊嚴。普照一切世界法界菩薩光燄燈雲。普照一切如來妙色音聲海。及世界海淨佛力海。如來有大人相。名圓滿光明雲。種種寶華莊嚴。瑠璃摩尼寶王光明。讚歎法身及諸菩薩。一切十方世界海中。歎如來地。令一切衆生趣向如來諸力境界。普現無量無邊如來淨地離垢清淨。放大光明。普照一切諸佛世界。如來有大人相。名菩薩行藏光明雲。無量世界中如來。放無量種種色寶光明。普照一切法界佛刹。出生無量如來妙音。皆悉分別演說如來甚深大法。如來有大人相。名普照雲。瑠璃伊陀羅金剛寶無量色淸淨摩尼寶莊嚴。放瑠璃色光明。皆悉徧照一切諸海。出佛無量微妙音聲。充滿一切十方世界。普現一切佛智慧海無量化身。如來

姓明作性

見同作現

有大人相.名曰覺雲.佛頂右面以雜寶華鬘莊嚴.於一切世界莊嚴道場.淸淨一切法界世界.令一切虛妄皆悉解脫.覺淨法界.如來有大人相.名光明雲.以心海王如意法寶莊嚴.如來頂相.普照十方世界諸菩薩雲.長養最上智身法身.行於一切如來相海.滿足一切菩薩法界雲.如來有大人相.名一切莊嚴雲.金剛瑠璃華普照莊嚴.一切法界海.世界衆寶蓮華.以爲莊嚴.皆悉充滿一切法界.四種菩薩行.自在師子吼.充滿一切法界海.如來有大人相.名佛三昧海行雲.莊嚴一切法界海.於念念中.普現無量如來莊嚴.充滿一切不可思議法界世界.如來有大人相.名化海普照雲.妙寶蓮華如須彌山王.出生無量寶光明海.佛意所起.盧舍那所化.出生無量一切化海.如來有大人相名一切如來解脫雲.離垢勝寶以爲莊嚴.普照莊嚴一切如來師子之座.於其座內.悉現一切如來色像.放大寶光明.演說無量佛法大海.莊嚴一切諸佛剎海.如來有大人相.名覺佛種姓雲.於瑠璃華金寶蓮華.放無量寶正法光明雲.嚴淨一切如來光明.普現一切淸淨法界.衆寶光明無壞解脫.徧入甚深諸法界海.普現無量自在力海.如來有大人相.名無量寶光明輪.示現過去淸淨善根.出生淸淨智日.普照十方智慧法海.如來有大人相.名普照自在雲.如來頂寶妙解脫華瑠璃光明.普照一切法界海.佛悉現一切諸佛剎海.具足圓滿如來智慧.如來有大人相.名入一切普照光明.如來寶相淸淨莊嚴.普照一切無量無邊如來菩薩妙智慧藏一切法界.如來有大人相.名明淨雲.寶華瑠璃月.放無量百千光明.普照一切法界虛空界一切佛剎.普現十方一切如來.如來有大人相.名覺光明雲.一切寶光明.普照一切法界諸佛轉淨法輪.悉放如來妙光明雲.普照一切十方世界.如來有大人相.名普現一切莊嚴雲.無量寶光明.於一念中一切法界.普現一切菩薩坐於道場菩提樹下成等正覺.又能普現一切諸佛.如來有大人相.名法界因雲.如意妙寶莊嚴.見無厭足.放大寶光明網普現一切衆生諸業報海.如來有大人相.名曰普照淨法輪雲.能令如來正法淸淨.普照莊嚴一切佛剎.深解一切不思議法海.普照過去未來現在諸佛法界.出生無量如來化身.如來有大人相.名普照諸佛海雲.十方一切世界海中.悉離障礙普見一切.如來海雲.如來有大人相.名淨燈雲.方便深入一切衆生一切菩薩一切如來不可思議法界海雲.普照一切法界覺雲.如來有大人相.名分別法界雲.如來智慧廣照佛地一切菩薩衆無量法海

明三本俱作佛

掌明作常

震同作振○不下三本俱無可字

無量佛刹。令一切衆生入佛境界。具足普賢菩薩願行佛平等智一切諸明。如來有大人相。名一切世界海安住普照雲。一切法界虛空界寶光明雲。見無厭足。普現道場一切菩薩諸如來身。出生無量普功德雲。如來有大人相。名一切寶光燄雲。於佛眉間相中。出生無量淨寶光明。普照一切十方世界。淨照一切諸佛菩薩行。法王光明普照法界。悉能長養一切光明。一切法界光明莊嚴。普照一切諸菩薩海。如來力雲。普照一切十方佛刹。如來有大人相。名一切法界莊嚴雲。如來頂相隨次漸起。閻浮檀金衆寶莊嚴。放種種金色光明。於念念中。普現一切世界諸佛。悉能普照一切佛刹。莊嚴一切菩薩諸功德藏。如來頂相。悉能莊嚴三十二相。又能莊嚴一切法界。如來有大人相。名普照法界徧光明雲。佛眉間相。悉能普照一切妙寶一切衆色一切日月一切佛海。出生十方無量光明海。莊嚴一切諸如來身。演說一切如來法海。如來有大人相。名自在雲。佛淸淨眼。衆寶莊嚴慧眼淸淨。於諸法界無所障礙。吉光明雲示現一切。如來有大人勝妙鼻相。淸淨衆寶以爲莊嚴。一切衆寶妙色爲覆。佛寶華雲。一切菩薩無能思議。悉知一切衆生諸佛法界。如來有大人廣長舌相。悉能徧覆十方世界一切海雲。過去修習善根所得。一切寶王淸淨光明。普照一切法界尸羅之心。又照一切三世諸佛。悉能莊嚴一切法界。出生無量微妙音聲。不思議寶以爲莊嚴。普照無量諸光明海。佛妙音聲。悉徧充滿一切法界諸世界海。如來有大人相。名法界地雲。舌掌安住。一切衆寶以爲莊嚴。安住一切法。出生十方諸佛具足音聲。悉能淸淨一切佛刹。分別一切諸佛不可思議音聲海雲。如來有大人相。名順法界雲。舌端妙相。金色淨寶以爲莊嚴。出生無量金色光明。普照一切諸如來海。大師子吼震妙音聲。悉皆徧至一切世界。一切衆生無不聞者。於不可思議劫修行所得。普現一切諸音聲海。普照一切衆生。樂聞無有厭足。如來有大人相。名平等法門雲。佛舌端相。令無量佛刹皆悉淸淨。如意妙寶以爲莊嚴。出生無量種種音聲。讚歎一切諸佛法界。普現一切菩薩法界。妙功德雲。普覆一切諸佛菩薩。深入一切諸佛菩薩法。悉現一切離垢衆寶淸淨佛刹。悉能普照一切佛刹。如來有大人斷齶相。伊陀尼羅淨瑠璃寶。以爲莊嚴。諸法界地悉在其內。諸菩薩雲皆悉充滿。出生離垢妙寶光明。普照十方種種香雲種種燈雲。普照菩薩內諸樓閣。分別一切諸佛刹海。方便安住自在神力。普現不可思議諸法界雲。如來有大人相。名佛大牙雲。

慕同作暮

如來右面下大牙相．衆寶莊嚴．放大光明輪．普照法界及諸佛身．普放光明網．照十方世界海及衆生海．妙安隱輪以爲莊嚴．如來有大人相．名寶餤須彌藏．如來右面上大牙相．如意寶王藏勝香餤雲．照以莊嚴．放寶光明與法界等．一一光明內．普現一切諸佛自在．一切佛剎莊嚴道場．如來有大人相．名照一切寶須彌山燈雲．如來左面下大牙相．分別解說一切諸相．香華衆寶妙方便輪以爲莊嚴．放寶光明雲．普照一切世界海．普現一切佛蓮華藏師子之座．離垢菩薩海雲眷屬圍遶．如來有大人相．名普照佛雲．如來在面上大牙相．淸淨衆寶．及閻浮檀寶網輪華．以爲莊嚴．出生不可思議微妙音聲．普現一切如來自在神力、成就一切菩薩功德．普照一切虛空．及語言法．無盡法雲．一切法海．諸佛音聲．及一切寶．出生分別一切諸佛衆妙音聲．充滿法界．如來有大人相．名金慕耆婆．如來一一齒間．出無量相海門雲．種種色寶．放大光明海．閻浮檀金色．普照法界一切世界一切如來．如來有大人相．名一切寶地雲．如來右肩相．一切寶色．淨道華色．明淨寶色．光餤普照一切菩薩內法藏雲．悉照一切如來法海．如來右肩平滿大人相．淸淨閻浮檀金色．普照菩薩法輪法界．及照一切如意寶王．如來有大人左肩相．閻浮檀蓮華色．如來圓滿諸功德海．以爲莊嚴．普放無量諸光明網．悉照一切世界法界．示現如來無量自在諸神力雲．如來有大人相．名周徧普照雲．如來左肩相．衆寶莊嚴．放閻浮檀金色光明．悉能充滿一切法界．普照一切諸如來海．種種寶香．莊嚴一切諸佛剎海．如來有大人相．名普照莊嚴雲．如來右肩無有動轉．出生無量佛燈光明．垂法界雲．充滿菩薩衆普無莊嚴一切法界．如來有大人相．名海頂雲．如來胸有勝妙相海．以爲莊嚴．柔輭細滑．種種衆寶．餤輪莊嚴．周徧淸淨．開發甚深法海音聲．如來有大人相．名勝妙相續普現雲．如來右脇勝妙淸淨．法界輪地以爲莊嚴．淸淨寶網而彌覆之．出生無量如來化雲．普照一切十方法界．如來有大人相．名普現如來雲．勝妙功德藏菩薩功德寶天冠．普照極高雲．離垢淸淨．普現十方無量諸佛自在神力．開示三世一切諸佛法海淨行．坐於道場菩提樹下成等正覺．如來有大人相．名開敷華雲．如來勝妙功德相續．衆妙寶華寶輪莊嚴．放香餤光明．普現一切蓮華形色世界．如來有大人相．名可悅樂金色雲．一切寶王藏勝妙功德相續．一切寶心王藏．放摩尼寶光明輪．離垢淸淨極大高顯．普照一切諸佛內方便功德藏．普照一切法界．如來有大人相．

名勝海雲.勝上虛空寶.放香光明.普照十方一切道場.圓滿瑠璃寶香燈鬘.充滿十方.如來有大人相.名電光雲.下第二勝功德.平等地相蓮華右旋.淨菩薩衆坐寶蓮華.放佛藏光明.普照法界海.如來有大人相.名普現法界雲.前三勝相海.具足成滿一切寶海剎.普照開現無量菩薩法界.如來有大人相.名普照最高雲.第四勝相海.放離垢衆寶光明海.普照一切法界.一切如來.一切世界莊嚴.一切衆生海.如來有大人相.名轉一切法輪妙音聲雲.下分勝相離垢清淨.一切正法道香燄光明.照一切佛內心相海一切法界.如來有大人相.名莊嚴雲.第十勝相.宣暢十方一切諸佛菩薩淨行.覺悟離垢清淨光明.三世諸佛一切智海.莊嚴一切諸佛剎海.如來有大人手掌相.具足千幅寶輪.種種衆寶以爲莊嚴.放大光明普照法界.轉正法輪.普照一切諸如來海.充滿一切佛功德海.種種妙寶莊嚴法界.如來有大人相.名海照雲.如來寶手衆寶莊嚴.普放淨月光明燄雲.莊嚴虛空如來菩薩諸世界海.讚歎菩薩行海.如來有大人相.名普莊嚴雲.如來妙手因陀尼羅.瑠璃寶華以爲莊嚴.普照一切法界一切世界蓮華藏菩薩安住寶藏.莊嚴十方一切道場.普照一切諸佛海雲清淨法身.如來有大人相.名離垢燈普照雲.淨寶光明放淨光網普照十方.皆悉出生變化網雲.莊嚴菩薩淨寶光明.究竟一切諸法行海.到於彼岸.如來有大人相.名普現一切衆寶雲.寶藏海雲.莊嚴如來蓮華.充滿一切衆寶蓮華.放寶光明雲.普照一切法界.如來有大人相.名普照明淨雲.放寶燄光明海.照於法界.一切衆香光燄莊嚴.普現寶華燄光.令一切佛世界網悉淨莊嚴.普照一切道場.如來有大人相.名瑠璃燈雲.一切世界衆寶色地普照莊嚴.皆放諸佛金色光明.以一切莊嚴而莊校之.於一念中.皆悉示現一切法門.如來有大人相.名智慧燈雲.金剛寶華以爲莊嚴.放閻浮檀金色光明.普照一切世界.如來有大人相.名安住蓮華光明雲.衆寶妙華以爲莊嚴.放大光明網.覆一切世界諸須彌山.如來有大人相.名充滿法界如來雲.離垢淨寶以爲莊嚴.放大光明.普照一切諸佛世界.悉見如來坐蓮華藏師子之座.又復普照一切法界.現一切相如來妙手.普現一切自在之相.千輻相輪清淨具足.種種衆寶以爲莊嚴.佛手充滿一切剎雲.普照一切諸法界雲.如來有大人相.名曰成就佛剎海雲.佛右手指寶相.清淨法界.清淨光燄.普照如淨水月.出衆寶華.出生一切妙寶音聲.普現一切諸佛剎海.如來有大人相.名安住一切寶雲.普

照諸佛寶藏法界。於佛指相。出生如意妙寶王雲。衆寶莊嚴。放大光明網。普照一切法界雲及諸佛雲。普照莊嚴一切菩薩諸功德海。出生普賢菩薩淨行妙音聲海。一切佛刹無不開者。又開發普照諸菩薩心。皆悉滿足無量大願。摩尼寶王以爲莊嚴。種種日光輪。皆悉普照一切法界。如來有大人寶馬藏相。隱密於右。衆寶莊嚴。普照一切法界及虛空界。一切衆寶莊嚴法界海。出生一切如來莊嚴微妙音聲。如來有大人相。名曰一相現一切相海雲。如來安處福田之座。一切衆寶以爲莊嚴。出生無量不可思議妙寶光明。普照十方一切法界。普現分別一切衆相。現一相雲。照現一切諸佛自在神力。如來有大人相。名一切法界海雲。普照十方諸如來座及一切法界法輪法海。悉能示現一切相雲。如來有大人相。名普示現雲。如來右髀衆寶莊嚴。放於妙法種種香光。隨順安住出諸音聲。一切寶王以爲莊嚴。於念念中。悉能示現心王海雲。如來有大人相。名普照一切迴向海雲。如來左䏶。悉徧充滿一切寶海。隨順安住法海莊嚴。放一切光明海。悉能普照一切衆生無量佛海。如來有大人相。伊尼延右腨。放閻浮檀金色光明。普照一切世界。震動無量諸佛刹土。出佛音聲一切普聞。出生無量菩薩化身。充滿一切諸佛世界及虛空界。放明淨光明莊嚴普照一切。令諸佛刹皆悉清淨。菩薩變化藏諸法界雲猶若虛空。如來有大人相。伊尼延左腨。如鍊金色。常放一切妙寶光明。充滿無量諸佛世界。開發一切諸佛法化。莊嚴無量諸佛法海。如來有大人相。名毛端內現一切佛刹。於一毛孔。悉放一切寶光明藏。普照十方一切法界。於一毛孔。示現一切如來自在諸法界雲。如來有大人相。名菩薩海莊嚴雲。如來金剛足下。閻浮檀金色。放一切寶光明網。充滿十方諸佛刹雲。開發一切菩薩法化。出生無量菩薩變化。放一切寶香光明。住菩薩海。能於一步徧諸佛刹。如來有大人相。名明淨雲。佛足趺上。一切衆寶以爲莊嚴。放妙寶光明。示現一切諸佛菩薩大光明藏。普照無量諸如來雲。如來有大人相。名曰覺雲。普覆一切如來指間。衆寶王莊嚴。放諸寶光。於念念中。示現一切諸佛自在。普照無量諸佛法海。示現一切道場。悉照未來無量際劫。如來有大人相。名曰徧照法界海雲。如來足下千輻相輪。種種莊嚴。放百千衆寶光明。普照一切法界諸世界海。衆寶燈燄妙莊嚴藏。普照十方一切諸佛。無量香光以爲莊嚴。普照一切淨法界海。如來有大人相。名示現一切諸佛海雲。清淨如空。照諸法海。充滿十方。發起一切諸菩薩雲。

髀三本俱作䏶

法三本俱作佛

出妙音聲雲．衆寶華雲以爲莊嚴．香燈光燄．示現普照一切世界．如來有大人相．名自在光明雲．衆寶莊嚴．示現一切諸佛光明淨法界海及諸道場．常放如來智慧光明．一切衆相悉爲一相．法界無雜種種莊嚴．如來有大人相．名法界海音聲雲．如來足下後分．衆寶莊嚴．普照一切諸法界海．一切諸佛自在莊嚴．普入化輪．覆一切法界．於一一身．出生法界妙音聲雲．如來此大人相．名深寶源底衆寶莊嚴．放閻浮檀金色圓滿光明．普照十方世界法界．顯現一切莊嚴道場．如來有大人相．名一切寶月光明伊那尼羅寶藏莊嚴照法界雲．於念念中．悉能示現如來法海．如來有大人相．名普雲藏．右虛空寶雲最高寶．光明照一切佛道場座藏．金剛伊那尼羅寶顯現莊嚴．如來有大人相．名年等光雲．衆寶妙華以爲莊嚴．世生甚深法界音聲．徧一切法界及虛空界．於一一相．普照一切諸如來海．入佛甚深自在．菩薩法界海．說不可盡．如來有大人相．名示現莊嚴雲．淸淨閻浮檀金色衆寶莊嚴．普放種種妙色光明．徧照一切莊嚴佛刹．佛雲充滿無量世界．莊嚴菩薩自在法界．普照一切諸佛功德及諸菩薩解脫之藏．莊嚴法界．如來有大人相．名諸佛．自在普示現雲．轉諸寶輪．衆寶莊嚴．放不思議如來光明．妙香普聞一切世界無量佛海．演出一切佛音聲海．於諸世界．現菩薩門佛自在雲．佛子．於佛身中．有如是等十蓮華藏世界海微塵數佛大人相．於諸肢節．種種妙寶以爲莊嚴

大方廣佛華嚴經佛小相光明功德品第三十

爾時佛告寶手菩薩言．如來應供等正覺．有隨形好名曰海王．彼出光明名曰明淨．七百萬阿僧祇光以爲眷屬．又菩薩摩訶薩．於兜率天．放大光明名曰幢王．普照十世界微塵數刹．徧照彼處地獄衆生．滅除苦痛．令彼衆生十種眼耳鼻舌身意諸根行業皆悉淸淨．彼諸衆生．見光明已皆大歡喜．命終皆生兜率天上．生天上已．聞天妙音．名不可樂．此音聲語諸天子言．以不放逸故．於諸佛所種善根故．過善知識故．盧舍那佛威神力故．於地獄命終生此天上．如來足下千輻輪中有妙光明．名普照王．於彼海王隨形好處．悉放四十廣大光明．一名淸淨功德．普照六十億那由他佛刹微塵數世界．隨衆生境界．隨種善根．隨衆生意．乃至普照阿鼻地獄．其中衆生．命終皆

不可三本俱作可愛

種明作衆

憍三本俱作高

生兜率天上。生天上已。聞天妙音。作如是言。善哉善哉。諸天子盧舍那菩薩。今住離垢三昧。應當敬念。爾時諸天子。聞天勸化微妙之音。便作是念。奇哉奇哉。何由出此微妙音聲。爾時音聲。語諸天子言。我此天音。諸善功德之所成就。諸天子。如我說我。而不著我不著我所。一切諸佛亦復如是。自說是佛。而不著我不著我所。諸天子。如我音聲。不從東方南西北方四維上下來。諸天子。業報成佛亦復如是。非十方來。諸天子。猶如汝等昔在地獄。不從十方來。但以顛倒愚癡纏故得地獄身。本無來處。如普照王光明。不從十方來。我天音聲亦復如是。非十方來。但以三昧善根力故。出生如是微妙音聲。般若波羅蜜力故。示現如是自在神力。諸天子。譬如須彌山王。有三十三天淨妙宮殿種種樂具。不從十方來。我天音聲亦復如是。諸天子。譬如億那由他佛剎微塵數世界末爲微塵。如是微塵數衆生。我爲說法。隨彼所應令大歡喜。然我於彼不生厭惡心。不生疲倦心。不生放逸心。不生憍慢心。諸天子。盧舍那菩薩。住離垢三昧亦復如是。於右手掌隨形好中。放一光明。出生無量自在神力。一切衆生聲聞緣覺所不能知。汝等應當往詣盧舍那菩薩恭敬禮拜。莫著五欲障諸善根。諸天子。譬如劫盡燒須彌山悉令消滅。諸天子。五欲纏心。修念佛三昧。皆悉除滅。是故諸天子。當知報恩。一向敬念盧舍那菩薩。諸天子。其有衆生不知報恩。捨是身已入三惡道。諸天子。汝昔在地獄。蒙光明恩。捨地獄已來生此天。應當長養彼諸善根。諸天子。譬如我天。非男非女。而能出生百千萬億不思議法。諸天子。如天子天女五欲樂具宮殿園林。皆悉如我不生不滅。色受想行識亦復如是。若如是知。是名能入無著甚深三昧海。時諸天子。聞是音聲歡喜無量。皆悉化作一萬華雲。一萬香雲。一萬樂雲。一萬幢雲。一萬蓋雲。一萬讚歎雲。作是化已。往詣盧舍那菩薩所住宮殿。恭敬供養於一面住。而不見盧舍那菩薩。時有天子。作如是言。此菩薩者。今已命終。生淨飯王家。乘栴檀樓閣。處摩耶夫人胎。爾時諸天子。以天眼觀盧舍那菩薩摩訶薩。見梵身天欲界諸天恭敬供養。時諸天子。作如是言。我等若不先往恭敬供養盧舍那菩薩。乃至一念頃住兜率天起樂著心者。我則不可。爾時一一天子。與十那由他天子眷屬。欲從天下至閻浮提。詣菩薩所。時天妙音語天子言。菩薩摩訶薩。亦不命終生於彼間。隨所應化悉令彼見。諸天子。譬如我今非眼所見能出音聲。菩薩摩訶薩。住離垢三昧亦復如是。非眼所見。而處處示現命終受生。捨離虛妄滅除

錠明作鋌
目同作自
刹下三本俱無徵字

憍慢無所染著。是故諸天子。應當速發阿耨多羅三藐三菩提心。令意清淨住威儀戒。悔過一切業障煩惱障報障邪見障。以法界虛空界衆生界等善身口意業。以衆生界等身。衆生界等頭。衆生界等舌。悔過四障。時諸天子聞是聲已。皆大歡喜心意柔輭。問天聲曰。菩薩摩訶薩。云何悔過。爾時天聲。以菩薩摩訶薩三昧力故。天善根力故。答諸天子言。業障等罪。不從東方南西北方四維上下來積聚於心。菩薩摩訶薩。知此業等因顚倒起。不生疑惑。諸天子。如我天聲。說隨業報行。隨戒隨喜。隨定寂滅。諸佛菩薩說我衆生貪恚癡業。而實無我無有我所亦復如是。所作諸業於十方求悉不可得。諸天子。如我天聲。少福衆生所不能聞。除地獄衆生應受化者。諸天子。聲非生滅。一切諸業亦復如是。非生非滅。但隨業行而受果報。諸天子。如我所出音聲。於無量劫不可窮盡。諸天子。若謂音聲有來去者。即墮邊見。一切諸佛不說斷常。除爲衆生方便說法。諸天子。如我天聲。十方世界隨所應化。皆悉得聞。一切諸佛亦復如是。隨應度者皆悉得見。諸天子。譬如明淨錠光金玻瓈鏡。與十世界等。於彼鏡中見無量刹。一切山川一切衆生。地獄餓鬼若好若醜。形類若干悉於中現。諸天子。於意云何。彼諸影像來入鏡不。答言不也。諸天子。一切業報亦復如是。無來去處。而能出生善根果報。譬如幻師能幻人目。當知。諸業亦復如是。若如是知。是名清淨眞實悔過。說是法時。百千萬億那由他佛刹微塵數諸世界中兜率天子。皆得無生法忍。無量無邊不可思議阿僧祇欲界諸天子。皆發阿耨多羅三藐三菩提心。六欲天中一切天女。皆捨女身悉爲男子。得不退轉菩提之心。爾時諸天子。廣聞普賢迴向善根。悉得十地諸力莊嚴。具足三昧。皆悉成就衆生界等善身口意業。滅一切障皆得清淨。見百千萬億那由他佛刹微塵數七寶蓮華。一一華上。皆見菩薩結跏趺坐放大光明。彼諸菩薩。一一隨形好中。放衆生界等光明。彼光明中。見衆生界等諸佛結跏趺坐。隨所應度而爲說法。猶未能見離垢三昧之少分也。爾時諸天子。於一一毛孔。化作衆生界等妙香華雲。供養盧舍那佛。散香華已。一一華中見諸如來。時彼香雲。普熏無量佛刹微塵數世界。衆生其蒙香者身心快樂。譬如比丘入第四禪。若有衆生得聞此香。諸罪業障皆悉除滅。於色聲香味觸。內有五百煩惱。其外亦有五百煩惱。二萬一千欲行煩惱。二萬一千恚行煩惱。二萬一千癡行煩惱。二萬一千等行煩惱。此諸煩惱皆悉除滅。彼諸衆生。具足種種淨香自在光明善根。若

此下同無等字

有衆生。見此蓋雲者。彼諸衆生。種一恒沙轉輪聖王所植善根。所謂白淨寶網轉輪王等。菩薩摩訶薩。安住如是轉輪王處。於百千億那由他佛刹微塵數諸世界中。教化衆生。譬如明鏡世界月王如來。十方無量刹中。比丘比丘尼優婆塞優婆夷。無有乃至一念不作化身來詣佛所而聽法者。彼佛常爲廣說經法。乃至廣爲說本生經。聞彼佛名。命終之後。皆生其國。菩薩摩訶薩。安住白淨寶網轉輪王處。亦復如是。放曼陀羅自在光明。若有衆生。遇斯光者。皆得菩薩十地。當知此等衆生。悉是先世修善根力。如得初禪。雖未命終見梵天處得梵天樂。如是次第。得諸禪者。雖未命終而得彼樂。如是菩薩摩訶薩。安住白淨寶網轉輪王處。放大光明名周羅摩尼。若有衆生。遇斯光者。皆得菩薩十地。悉得無量智慧光明。得十種眼清淨行業。乃至十種意清淨業。具足成就淨力三昧。如是成就清淨肉眼。譬如菩薩摩訶薩。以左手持億那由他佛刹微塵。東行過億那由他佛刹微塵數世界。乃下一塵。如是東行盡此微塵。如是菩薩摩訶薩。悉能了知彼微塵數。亦識諸塵本刹來處及下塵之刹。乃至十方亦復如是。菩薩摩訶薩。復能還集此諸微塵。作一佛刹。於此佛刹亦分別知。佛告寶手菩薩言。於意云何。如是佛刹廣大可思議不。寶手菩薩。白佛言。世尊。如是佛刹無量無邊不可思議。世尊。奇哉奇哉。若聞是諭此人難得。聞而信者亦復難得。佛告寶手菩薩言。如是如是。若有善男子善女人。聞而信者我授彼記。速成阿耨多羅三藐三菩提。得一切種智。佛告寶手菩薩言。譬如千億佛刹微塵數世界。如上諭說。此一切刹末爲微塵。彼諸世界一一微塵。悉與一切佛刹微塵數等。菩薩摩訶薩。取此微塵。展轉更末。乃至八十。彼一一微塵生果。悉與一切世界微塵數等。菩薩摩訶薩。業報清淨肉眼悉分別見。亦於念念中。見百千萬億那由他佛刹微塵等如來。佛告寶手菩薩言。譬如錠光玻瓈珠照十佛刹微塵等世界。此珠白淨寶網轉輪聖王善根所成。

大方廣佛華嚴經卷第三十二

大方廣佛華嚴經卷第三十三

〔麗朝〕〔宋問〕〔元問〕〔明問〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅 譯

三本俱第三十三爲第三十四

少同作妙

等下同有爲字

疾同作疫

諸上同有不生二字

菩上四有離字

普賢菩薩行品第三十一

爾時普賢菩薩摩訶薩。告諸菩薩言。佛子。如向所說是微少說。何以故。一切如來應供等正覺。爲受化者隨應說法。愚癡衆生諸纏所纏。計我我所。著吾我見。常隨顚倒。生邪見惑。起邪虛妄。爲縛所縛。流轉生死。遠如來道。爲如是等諸衆生故。如來應供等正覺。出興于世。佛子。若菩薩摩訶薩。起一瞋恚心者。一切惡中無過此惡。何以故。佛子。菩薩摩訶薩。起瞋恚心。則受百千障礙法門。何等百千。所謂受不見菩提障。不聞正法障。生不淨國障。生惡道障。生八難處障。多疾病障。多被謗毀障。生闇鈍趣障。失正念障。少智慧障。眼耳鼻舌身意等障。近惡知識障。近惡伴黨障。近惡人障。與惡人同止障。不樂賢善共事障。遠正見障。生外道家障。離佛正教障。入魔境界障。不見善知識障。諸善根障。增不善法障。生惡家障。生邊地障。生惡人中障。生天貧窮障。生諸龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽羅刹中障。不樂佛法障。習童蒙法障。樂小乘障。不樂大乘障。多生驚怖障。樂生死障。著三界障。不護佛法障。不樂聞佛自在神力障。菩薩淸淨諸根障。離菩薩行障。離菩薩深心希望障。不攝正念障。不發起一切智心障。不淨施行障。不淨業障。不淨報障。不成長諸力障。斷智慧根障。不受持菩薩諸行障。誹謗佛法障。遠離菩提障。不入佛境障。墮諸魔界障。不能求佛法障。聞諸菩薩大莊嚴事生恐怖障。不樂菩薩共住障。不樂求菩薩善根業障。邪見蓋疑障。增益愚癡障。捨菩薩戒隨順破戒障。不信如來戒障。聞佛讚歎諸持戒者生瞋恚心障。離忍辱樂常懈怠障。謗諸菩薩不退精進障。捨三昧慧障。誹謗般若波羅蜜巧方便障。不知是處非處方便障。不知度脫衆生方便障。不入菩薩諸深智障。不出生菩薩諸道障。於菩薩十種眼生盲障。於菩薩法不能出生無礙法流障。無礙耳鼻障。不具相好障。無礙舌障。不能別知衆生音聲障。於衆生中生懈怠心障。狂亂業障。雖三種戒障。

過下同有障字
念三本俱作命

姓明作性

根三本俱作相
入下同無於字

無礙諸人障．口四過意惡業障．生增上貪恚邪見障．不求正法障．於菩薩法懈怠心障．菩薩精進法中疑惑心障．捨離菩薩決定法障．損滅菩薩智慧門障．損滅正念障．遠離佛法障．不習菩薩離生法障．菩薩業下心障．遠離聲聞緣覺離生法障．不願三世諸佛菩薩障．佛子．菩薩摩訶薩起一瞋恚心．受如是等百障法門．乃至百千障礙法門．何以故．佛子．我不見有一惡法出過菩薩一瞋恚心．佛子．是故菩薩摩訶薩．欲疾具足菩薩行者．應當修習十種正法．何等為十．所謂不捨一切衆生．於諸菩薩生如來想．常不誹謗一切佛法．於諸佛刹得無盡智．恭敬信樂菩薩所行．不捨虛空法界等菩提之心．分別菩提究竟佛力到於彼岸．修習菩薩一切諸辯．教化衆生心無疲厭．於一切世界示現受生而不樂著．佛子．菩薩摩訶薩．安住如是十種正法．則能攝取十種清淨之法．何等為十．所謂於甚深法究竟清淨．親近善知識清淨．能護諸佛正法清淨．悉能分別虛空界清淨．善入法界清淨．智慧了諸心行清淨．令諸菩薩善根清淨．心常不著諸劫清淨．智慧觀察三世清淨．成就諸佛種姓清淨．佛子．菩薩摩訶薩．安住如是清淨正法．則能具足十種正智．何等為十．所謂分別衆生心心行智．分別衆生諸業報智．普照一切諸佛法智．於諸佛法得方便次第智．具足一切總持門智．成就一切文字辯智．善知衆生一切語智．示現一切世界身智．具足普照一切衆生智．於一切趣得一切智．佛子．菩薩摩訶薩．安住如是十種正智．則入十種巧隨順入．何等為十．所謂一切世界入一毛道．一毛道出不可思議刹．一切衆生身悉入一身．於一身出無量諸身．不可說劫悉入一念．令一念入不可說劫．一切佛法悉入一法．令一法入一切佛法．一切諸入入於一入．令一入入一切諸入．一切諸根入於一根．令一根入一切諸根．一切諸根入非根法．非根法入一切諸根．一切諸相悉入一相．一相入於一切諸相．一切語音入一語音．一語音入一切語音．一切三世悉入一世．令一世入一切三世．佛子．菩薩摩訶薩．分別如是十種入法．則能安住十種直心．何等為十．所謂安住一切世界語言非語言法直心．安住正念一切衆生直心．安住虛空界直心．安住法界無量無邊直心．安住一切佛順正法直心．安住甚深善法不壞正法直心．安住除滅一切疑惑直心．安住等觀三世法直心．安住三世諸佛平等直心．安住諸佛無量力直心．佛子．菩薩摩訶薩．安住如是十種直心．則得諸佛十種巧方便法．何等為十．所謂得巧方便普照一切諸佛深法．得巧方便出

世下三本俱有諸字

此同作爲

然同作盛 」衆同作行

王法同作法王

生諸佛甚深勝法。得巧方便。分別演說一切諸佛莊嚴之法。得巧方便。深入一切佛平等法。得巧方便。分別別相一切佛法。得巧方便。入不可壞諸佛正法。得巧方便。入一切諸佛莊嚴法。得巧方便。以一方便入一切佛法。得巧方便。入佛無量諸方便法。得巧方便。於一切佛法心得自在而不退轉。佛子。是爲十種巧方便法。佛子。是故菩薩摩訶薩。應當一心恭敬聽受是法。何以故。菩薩摩訶薩。得聞是法。以少方便。疾得阿耨多羅三藐三菩提。與三世佛等。爾時佛神力故。法如是故。十不可說億那由他佛刹微塵等世界六種震動。雨出過諸天一切華雲雨。妙香雲雨。末香雲雨。衣蓋幢幡衆寶莊嚴具雲雨。妓樂雲雨。諸菩薩雲雨。不可說讚歎佛雲雨。不可說讚歎善哉雲雨。佛音聲滿法界雲雨。不可說淨世界雲雨。不可說長養菩薩功德雲雨。不可說光明雲雨。不可說種種神力自在雲雨。如此世界四天下佛坐道場雨如是等種種雲雨演說諸法。十方世界亦復如是。爾時佛神力故。法如是故。過十不可說世界微塵等刹。有十佛世界微塵數菩薩摩訶薩。來詣此土充滿十方。作如是言。善哉善哉。佛子。能說如是諸佛如來最大誓願授記深法。我等同號皆名普賢。於諸普勝世界諸普幢自在如來所。來詣此土。一切世界亦說此法。如是句身味身一切諸行無有增減。是故來此爲汝作證。如是十佛世界微塵數菩薩摩訶薩。來此作證。一切十方諸如來所亦復如是。爾時普賢菩薩摩訶薩。以佛神力自善根力。觀察十方及諸法界。欲明諸菩薩行諸佛菩提。欲說大願。欲分別一切世界諸劫。欲明隨時示現佛出世間。欲隨衆生根悉令受化。欲明如來諸所說法無有虛妄。欲隨種善根果報不虛。欲明菩薩淸淨法身。出妙音聲。覺悟衆生。起菩提心故。以偈頌曰

一切衆歡喜　除滅諸陰蓋　一心恭敬聽　菩薩諸願行　隨三世菩薩　所行諸願行　我當次第說
菩薩勝妙法　一切諸劫數　及世界業數　我說無等等　應化興于世　見過去諸佛　於彼發大願
饒益衆生類　除滅一切苦　菩薩論師王　所行無斷絕　得無等等法　一切智境界　菩薩見過去
一切諸導師　放大光明網　普照十方界　發如是大願　我爲世間燈　功德莊嚴身　具足十力智
一切諸群生　貪恚癡熾然　我當爲除滅　無量惡道苦　發如是誓願　堅固不退轉　具修菩薩衆
究竟無礙力　如是誓願已　世間行不轉　所行無虛妄　究竟論王法　於一賢劫中　千佛出于世

性同作中
現三本俱作見
復不明作不復
界三本俱作闇

隨彼佛正法　次第分別說　如此賢劫佛　無量劫亦然　未來諸佛法　我當次第說　如一佛剎性
無量剎亦然　一切佛國性　我悉分別說　諸佛次興世　隨順隨名號　隨彼所得記　隨其所壽命
隨所修正法　專求無礙道　隨所化衆生　正法住於世　隨所淨佛剎　衆生及法輪　說法時非時
次第淨群生　隨彼衆生行　種種諸業性　上中下差別　隨應所受化　如是甚深智　菩薩入是行
修習普賢業　具足智慧輪　身業無障礙　口業悉清淨　意業亦無礙　通達三世法　菩薩如是行
究竟普賢道　出生淨智日　普照諸法界　於不可說劫　及一切佛剎　菩薩一念知　於彼無所著
行者入如是　奇特甚深地　菩薩妙法中　我當說少分　智慧無邊際　究竟佛境界　善入一切處
成就不退轉　具普賢淨慧　滿足普賢願　菩薩究竟行　深入無等智　於一微塵中　悉內一切剎
見彼無量佛　具聞演說法　如一微塵中　一切塵亦然　見剎及諸佛　是不思議智　一一微塵中
普現三世法　五趣生死道　皆悉分別知　一一微塵中　有無量佛剎　一中知無量　無量中知一
如是法界等　一切諸佛土　同性及異性　皆悉能了知　深入微細智　分別諸世界　一切劫成壞
悉能分別說　知諸劫修短　三世即一念　同行不同行　皆悉分別知　深入諸世界　清淨不清淨
身中無量剎　一剎無量身　一切十方中　無量諸世界　種種無數性　一切悉能知　一切三世中
無量佛國土　具足甚深智　悉了彼成敗　十方諸世界　有成或有敗　普賢悉深入　一切能了知
以淨慧眼見　無量諸佛土　分別知諸業　隨行故清淨　菩薩摩訶薩　善知衆生行　以諸惡業故
而得不淨土　無量無邊剎　即知爲一剎　如是入諸剎　一切莫能知　一切諸世界　令入一剎中
世界不積聚　亦復不離散　或伏或有仰　或高或復下　世界衆生相　菩薩皆悉知　或有飜覆剎
無量諸佛土　知種種是一　知一是種種　普賢眞佛子　以不思議智　知難思議剎　了達無邊際
知諸世界化　剎化衆生化　了知諸法化　究竟諸佛化　甚深世間法　種種莊嚴事　衆生無量報
皆心業莊嚴　眞佛子善學　甚深妙法界　具自在神力　充滿十方剎　衆生等諸劫　常說世界法

身三本俱作鼻

與同作輿

一切莫能知　唯除等正覺　世界及如來　種種諸名號　無量劫演說　猶不能究竟　何況心境界
三世諸佛法　眞實妙法界　諸佛一切地　清淨無礙念　具足無礙智　分別說法界　智慧到彼岸
如是諸世界　無量業莊嚴　菩薩一念中　悉知三世剎　於彼世界中　行諸最勝行　究竟等正覺
顯現自在力　如是未來世　一切世界中　諸佛次興世　菩薩悉能知　彼行諸妙願　境界修功德
隨劫成正覺　菩薩分別知　亦知彼壽量　及所化衆生　隨方便法門　爲衆轉法輪　菩薩如是知
具普賢行地　成就一切智　與諸如來等　現在十方界　無量諸佛土　深入此世界　通達諸法界
於彼世界中　現在無數佛　無礙論山王　究竟自在法　知淨土及衆　應化自在力　盡無量億劫
常思惟是事　調御世間尊　成就自在力　菩薩究竟度　深入智慧藏　菩薩具出生　無礙眼耳身
無礙廣長舌　令衆悉歡喜　最勝無礙心　無量普清淨　甚深無礙智　悉了三世智　善學一切化
剎化衆生化　能化世間化　究竟化彼岸　種種業莊嚴　嚴飾諸世間　成就佛智慧　善知一切相
一一如來身　以無量方便　隨其所應化　度脫無量衆　深入智境界　出世間慧日　所行不退轉
徧遊一切剎　深解諸世間　如夢如幻化　一切衆生界　了達悉如電　不取虛妄劫　及一切世間
善解非眞實　於彼無所著　無量無數劫　解之卽一念　知念亦非念　世間無實念　不動於本座
一念遊十方　無量無邊劫　常化諸衆生　不可說諸劫　卽是一念頃　亦不令劫短　究竟剎那法
一切諸世間　及諸衆生心　非一亦非二　菩薩悉了知　衆生世界劫　諸佛及佛法　皆悉如幻化
法界無有二　普於十方剎　示現無量身　不取虛妄身　法界無所著　無二智慧中　出生人師子
不著不二法　知無一二故　菩薩知諸法　如燄如電光　如響亦如夢　如幻如變化　如是隨順入
一切佛境界　成就平等智　普照深法界　以無量大悲　觀察諸衆生　遠離染著心　清淨觀世間
廣淨無盡身　深入方便地　菩薩常正念　論師子妙法　見世衆苦惱　發無量大願　所行皆清淨
普徧諸法界　諸佛及菩薩　佛法與世間　菩薩方便觀　通達無差別　清淨法身藏　一切諸世間

世間及法身　二俱無所著　譬如淨水中　見影無所有　法身至十方　而亦無所至　如此無所著
世間淸淨身　雖身而非身　諸身無生故　深入無盡身　非生亦非滅　非常非無常　示現諸世間
除滅惡邪見　成就於正見　平等觀諸法　不著我我所　譬如工幻師　示現種種幻　本無所從來
去亦無所至　幻亦非有量　亦復非無量　於彼大衆中　示現量無量　以此寂滅心　修習諸善根
出生諸佛法　非量非無量　有量有無量　皆悉是妄想　分別一切趣　不著量無量　諸得甚深法
寂滅最深妙　甚深無量智　知甚深諸趣　菩薩離愚癡　心意淨無量　修習諸善根　具足無量願
度無量衆生　令至安隱處　平等觀法界　於彼無所著　深解眞實際　諸法無所有　覺悟諸世間
諸法無生滅　深知一切法　隨應化衆生　普雨甘露法　充滿諸世間　化無量衆生　令發菩提心
不捨菩薩行　皆得不退轉　隨順佛正法　究竟得法身　悉了知世間　一切衆生身　分別諸衆生
及一切佛刹　深入智慧海　通達十方海　如來淨身中　普現衆生身　菩薩明淨眼　悉皆能覩見
無量億劫中　讚歎如來身　窮盡一切劫　猶尚不究竟　菩薩摩訶薩　於佛涅槃後　能於念念中
分布諸舍利　如是未來世　有求佛道者　無量菩提心　決定智能知　如是三世中　諸佛出於世
安住普賢行　皆悉分別知　如是分別知　無量諸行地　成就堅固智　能轉不退轉　無量深智慧
究竟如來境　普賢明淨智　深入不退轉　一切最勝尊　深入妙境界　究竟不退轉　得無上菩提
無量無邊心　一切種種業　修習諸想行　能於一念知　染汙不染汙　學心無學心　菩薩一念中
覺悟無量心　了知非一二　非穢亦非淨　亦復非積集　皆從因緣起　如是分別知　一切衆生心
世間諸佛刹　悉皆是虛妄　如是妙方便　深入菩薩行　皆與普賢等　如來法化生　一切衆生類
善惡想不同　或有生天上　或墮諸惡道　菩薩見世間　皆從業緣起　常著虛妄想　流轉於生死
十方諸衆生　虛誑網所覆　菩薩一念中　方便令解脫　如是諸根入　眼耳鼻舌身　分別知意業
世間想不同　一一眼境界　出生無量眼　種種相不同　無量無有邊　隨衆生所行　一切善惡業

或三本俱作有

顯三本俱作現
○悉同作曉

肩下同無以字

於彼得果報　像類悉不同　普賢清淨眼　深入諸地方　一一眼境界　出生無量智　如是諸世間
悉能分別知　究竟一切行　逮得不退轉　佛說菩薩說　刹說衆生說　三世一切說　菩薩分別知
過去是未來　未來是過去　顯在是去來　菩薩悉了知　如是無量世　覺悟相不同　方便究竟行
具足諸佛智

大方廣佛華嚴經寶王如來性起品第三十二之一

爾時如來眉間白毫相中.放大光明.名曰明如來法.無量億那由他阿僧祇光以爲眷屬.普照十方一切世界.圍遶十帀顯現如來無量自在.覺悟無數億那由他諸菩薩衆.一切世界六種震動.除滅一切諸惡道苦.映蔽一切諸魔光明猶若聚墨.顯現一切如來菩提.顯現一切諸佛大衆.究竟莊嚴.普照法界虛空界等一切世界.復還圍遶一切菩薩諸大衆已.入如來性起妙德菩薩頂.爾時一切大衆.心大歡喜身意柔輭.作如是念.甚奇希有.如來今者放大光網.必當演說甚深正法.爾時如來性起妙德菩薩.於蓮華座起.偏袒右肩.以右膝著蓮華臺上.一心合掌正向如來.以偈頌曰

正覺一切法　究竟諸境界　三世大仙等　是故恭敬禮　究竟無相境　相好莊嚴身　普放離垢光
除滅一切魔　震動十方界　一切諸佛刹　衆生不恐怖　是佛威神力　安住如虛空　清淨法界等
除滅一切惡　令衆得清淨　無量劫苦行　一心求佛道　得無礙境智　與諸如來等　普放無量光
震動一切刹　顯現自在力　來入我身中　善學諸菩薩　皆悉來集會　是故我發心　應有法王事
大衆皆清淨　究竟菩薩行　智慧無染著　成就無所畏　大仙行無量　智慧力精進　開發菩薩心
如來甚深法　正覺微妙義　誰能演說者　我今欲請問　願佛爲顯示

說是偈已.時如來口中放大光明.名無礙無畏.無量億那由他阿僧祇光以爲眷屬.普照十方一切世界.圍遶十帀.顯現如來無量自在.覺悟無數億那由他諸菩薩衆.一切世界六種震動.除滅一切諸惡道苦.映蔽一切諸魔

光明猶若衆雲.顯現一切如來菩提.顯現一切諸佛大衆.究竟莊嚴.普照法界虛空界等一切世界.復還圍遶一切菩薩諸大衆已.入普賢菩薩摩訶薩口.爾時普賢菩薩摩訶薩身及師子座.殊勝百倍諸菩薩身及師子座.唯除如來所處之座.爾時如來性起妙德菩薩.問普賢菩薩摩訶薩言.佛子.佛所顯現大威神力不可思議.是何瑞相.爾時普賢菩薩摩訶薩.答如來性起妙德菩薩言.佛子.如我惟忖.如我所見.過去如來應供等正覺.放大光明必說如來性起正法.是故今佛放大光明.顯自在力.必說如來性起正法.時如來性起妙德菩薩.聞如來性起正法名已.一切大地六種震動.出生無量論難光明.爾時如來性起妙德菩薩.問普賢菩薩摩訶薩言.佛子.云何菩薩摩訶薩.知如來應供等正覺性起正法.佛子.無數億那由他菩薩摩訶薩清淨衆會.善學修行清淨諸業.念慧成就.諸佛莊嚴.究竟彼岸.住佛威儀具如來行.正念諸佛未曾散亂.大悲觀察一切衆生.決定智慧.分別菩薩諸妙神通.得佛神力.安住一切諸佛功德.成就如是無量功德.諸大菩薩皆來集會.仁者.曾於無量億那由他佛所.恭敬供養種諸善根.成就菩薩無上妙行.諸三昧門.皆得自在.深入一切如來祕密.於諸佛法除衆疑惑.深入佛法.善知一切衆生諸根.隨衆生性而爲說法.隨順佛智.分別演說一切佛法.究竟彼岸.成就如是等無量功德.善哉佛子.願說如來性起正法.爾時如來性起妙德菩薩.欲重明此義.向普賢菩薩.以偈頌曰

善哉無礙智　覺悟一切法　具足平等慧　說佛無量境　諸佛子聞已　心皆大歡喜　願時爲敷演
如來性起法　何等如來身　清淨妙音聲　云何如來心　及無量境界　何等如來行　及諸佛菩提
修習何等法　逮成等正覺　云何轉法輪　清淨妙勝法　願爲分別說　善逝涅槃法　佛子等聞已
歡喜心無量　十方衆生類　皆見諸法王　恭敬供養佛　於彼種善根　若有見諸佛　恭敬種善根
功德藏無量　願爲分別說　若有聞一切　如來之名號　十方現在佛　及已般涅槃　無盡功德藏
聞名歡喜者　彼得何等利　哀愍分別說　清淨眞佛子　願爲廣敷演　分別深境界　無量功德海
一切諸菩薩　皆一心合掌　恭敬觀善逝　瞻仁兼及我　巧語微妙音　願說眞實義　除滅諸疑惑
清淨如虛空　因緣及譬諭　爲我分別說　無量衆聞已　皆發菩提心　一切諸如來　相好莊嚴身

通元明俱作道
願下三本俱有爲字
修習乃至正覺十字同在何等如來行上
提明作善

提下三本俱無之字

與同作現

止同作正

充滿十方國　方便度衆生　出微妙音聲　演說無量法　因諭隨應化　示悟佛菩提　十方一切界
無量佛刹中　不可稱說劫　是會甚難見　如此大衆集　淸淨諸佛子　無量億劫中　難見亦難聞
是故眞佛子　願說微妙義　顯現廣無量　如來性起法　一切諸菩薩　皆一心合掌　渴仰於大乘
願雨甘露法

爾時普賢菩薩摩訶薩。告如來性起妙德菩薩等諸大衆言。佛子。如來應供等正覺性起正法不可思議。所以者何。非少因緣。成等正覺出興于世。佛子。以十種無量無數百千阿僧祇因緣。成等正覺出興于世。何等爲十。一者發無量菩提之心不捨一切衆生。二者過去無數劫修諸善根正直深心。三者無量慈悲救護衆生。四者行無量行不退大願。五者積無量功德心無厭足。六者恭敬供養無量諸佛敎化衆生。七者出生無量方便智慧。八者成就無量諸功德藏。九者具足無量莊嚴智慧。十者分別演說無量諸法實義。佛子。如是等十種無量無數百千阿僧祇法門。成等正覺出興于世。佛子。譬如三千大千世界。非少因緣成。以無量因緣乃能得成。所謂興大雲雨。因大雨故起四風輪。何等爲四。一名曰持。能持大水。二名漸消。漸消大水。三名曰起。起諸處所。四名莊嚴。莊嚴三千大千世界衆生業報。如是四種。皆衆生業報及諸菩薩善根所起。佛子。如是等無量因緣。乃成三千大千世界。法如是故。無有作者亦無成者。如來應供等正覺亦復如是。非小因緣成。以無量因緣。成等正覺出興于世。所謂菩薩摩訶薩。曾於過去無量佛所。聞受正法甘露大雨。因是能起如來四種智慧風輪。何等爲四。一者正念持陀羅尼未曾忘失。如來大智風輪。能持如來一切法雨。二者止觀如來大智風輪。悉能消滅一切煩惱。三者善廻向如來大智風輪。成就一切功德善根。四者出生離垢諸莊嚴法如來大智風輪。皆令衆生諸根淸淨相好莊嚴。如來無漏善根所成。法如是故。無有作者亦無成者。佛子。是爲第一最勝法門成等正覺出興于世。菩薩摩訶薩應如是知。復次佛子。譬如三千大千世界成時。大雲降雨名曰洪澍。一切世界不能容持。除大千世界初始成時。如來應供等正覺亦復如是。出興于世。演說如來性起法雨。一切聲聞緣覺不能受持。除成就諸力菩薩摩訶薩。佛子。是爲第二因緣成等正覺出興于世。菩薩摩訶薩應如是知。復次佛子。譬如衆生業報大雲降雨。無所從來去無

來下三本俱有性字　數同作藪〇佛下同有出字

所至。如來應供等正覺。亦復如是。以諸菩薩善根力故。演說如來性起法雨。無所從來去無所至。佛子。是爲第三因緣成等正覺出興于世。菩薩摩訶薩應如是知。復次佛子。譬如大雲降雨。大千世界一切衆生無能知數。若欲算計令心狂亂。除大千世界主摩醯首羅天王。乃至一滴無不知者。以本善根果報力故。如來應供等正覺。亦復如是。出興于世。說如來性起甘露法雨。一切衆生聲聞緣覺所不能知。若欲思量令心狂亂。除一切世界主。菩薩摩訶薩乃至一句一義悉分別知。於過去佛所修地力故。佛子。是爲第四因緣成等正覺出興于世。菩薩摩訶薩應如是知。復次佛子。譬如大雲降雨。名滅熾然。或名能起。或名能壞。或名成寶。或名分別大千世界。如來應供等正覺。亦復如是。出興于世。雨正法雨。名曰除滅。除滅衆生煩惱熾火。或有法雨名曰能起。能起衆生一切善根。或有法雨名曰能壞。能壞衆生諸惡邪見。或有法雨名曰成寶。能成衆生一切智寶。或有法雨名曰分別。分別衆生心心所行。佛子。是爲第五因緣成等正覺出興于世。菩薩摩訶薩應如是知。復次佛子。譬如大雲雨一味水。隨其所雨而有差別。如來應供等正覺。亦復如是。雨於大悲一味法雨。隨所應化種種不同。佛子。是爲第六因緣成等正覺出興于世。菩薩摩訶薩應如是知。復次佛子。譬如三千大千世界初始成時。先成色界諸天宮殿。次成欲界諸天宮殿。次成人處及餘衆生諸所住處。如來應供等正覺。亦復如是。出興于世。先起菩薩諸行智慧。次起緣覺聲聞及餘衆生一切善根。佛子。譬如大雲雨一味水。隨諸衆生善根力故。起種種宮殿。如來大悲一味法水。隨衆生器根不同故。法雨差別。佛子。是爲第七因緣成等正覺出興于世。菩薩摩訶薩應如是知。復次佛子。譬如世界初始成時。有大水輪。徧滿三千大千世界。滿世界已。生大蓮華名如來起。諸功德寶以爲莊嚴。徧覆三千大千世界。光照十方一切國土。時摩醯首羅淨居天等。見蓮華已。卽決定知如蓮華數諸佛興世。佛子。爾時有風輪起名淨光明。能成色界諸天宮殿。又風輪起名淨莊嚴。能成欲界諸天宮殿。又風輪起名不可壞。能成大小圍山及金剛山。又風輪起名曰勝高。能成須彌山王。又風輪起名曰不動。能成十種大山。何等爲十。所謂芭蕉山。仙人山。伏魔山。大伏魔山。持劫山。黑山。日眞隣陀山。摩訶目眞隣陀山。香山。雪山。又風輪起名曰安住。能成大地。又風輪起名曰莊嚴。能成地天宮殿乾闥婆宮殿。又風輪起名無盡藏。能成三千大千世界海。又風輪起名明淨藏。能成大

所元明俱作然

成無上道言佛造者八字三本俱作不於佛所曾會種善根能得如來少分智慧十六字○諸上同有但以二字○散元明俱作敗

千世界珍寶.又風輪起名堅固根.能成一切如意樹.佛子.是爲大雲雨一味水.以衆生善根果報力故.法如是故.
起種種風輪.風輪差別故.大千世界形類不同.如來應供等正覺.亦復如是.出興于世.具諸善根.有光明.名無上
大智不斷.如來性起不思議智.普照十方世界.授一切菩薩如來記.號成等正覺出興于世.又能善知一一佛所
有幾菩薩成就功德.復有光明.名離垢淨如來大智.能成如來無漏無生智.復有光明.名曰普照如來大智.能成
如來不可思議法界智.復有光明.名持佛性如來大智.能成如來不動諸力.復有光明.名無壞最勝如來大智.能
成如來無所畏智.復有光明.名一切明如來大智.能成如來堅固不退一切種智.復有光明.名出生變化如來大
智.能令見聞恭敬供養諸如來者.善根不虛.復有光明.名普隨順至如來大智.能成如來無盡功德智慧清淨法
身.饒益衆生.復有光明.名不可究竟如來大智.能成如來甚深妙智.不斷三寶.復有光明.名種種莊嚴如來大智.
能成如來相好嚴身.令一切衆生皆悉歡喜得一切智.復有光明.名不可壞如來大智.能成如來法界虛空界等
無有窮盡殊勝壽命.佛子.如來大悲一味之水.以諸菩薩善根力故.及餘衆生根差別故.法如是故.如來智慧應
化不同.佛子.如來性起正法.一切如來平等智慧光明所起.一切如來一味智慧.出生無量無邊功德.衆生念言.
此諸功德如來所造.佛子.此非如來神力所造.佛子.乃至一菩薩成無上道言佛造者無有是處.諸佛爲一切群
生作善知識.衆生依此得大智慧.無有作法亦無作者.佛子.是爲第八因緣成等正覺出興于世.菩薩摩訶薩.應
如是知.復次佛子.譬如有四風輪依虛空住能持水輪.何等爲四.所謂安住.不動.常住.堅固.是名爲四.能持水輪.
水輪能持大地令不散壞.是故說大地依水輪.水輪依風輪.風輪依虛空.虛空無所依.虛空雖無所依.能令三千
大千世界而得安住.如來應供等正覺亦復如是.依如來起四種無礙大智風輪.能持一切衆生善根.何等爲四.
所謂攝取衆生皆令歡喜大智風輪.分別諸法令衆生樂求大智風輪.守護衆生一切善根大智風輪.決定了知
無漏法界大智風輪.是名四種大智風輪.大慈爲衆生歸依.大悲度脫衆生.大慈大悲饒益衆生.大慈大悲依方
便智.大方便智依於如來.如來無所依.無礙慧光普照十方一切世界.佛子.是爲第九因緣成等正覺出興于世.
菩薩摩訶薩應如是知.復次佛子.譬如大千世界成已種種饒益無量衆生.水性衆生得水安樂.陸地衆生得地

安樂。宮殿衆生得宮殿安樂。空中衆生得虛空安樂。如來應供等正覺亦復如是。出興于世。種種饒益一切衆生。見聞如來踴躍歡喜修諸善根。住尸羅者得佛戒樂。住四禪四無量者。得聖無上智明之樂。住法門者。得眞實樂。住照明者。得淨智樂。如是等無量法門。種種饒益一切衆生。佛子。是爲第十四因緣成等正覺出興于世。菩薩摩訶薩應如是知

得下三本俱無虛字

大方廣佛華嚴經卷第三十三

大方廣佛華嚴經卷第三十四

〔麗朝〕〔宋問〕〔元問〕〔明問〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅 譯

寶王如來性起品第三十二之二

佛子.菩薩摩訶薩.又復應知.如來性起正法.功德無量.行無量故.充滿十方.無來去故.離生住滅.無有行故.離心意識.無有身故.性如虛空.悉平等故.一切衆生無我我所.無有盡故.一切刹無盡.無有轉故.不斷未來際.無有退故.如來智無疑.無二平等.觀察有爲無爲故.成等正覺饒益衆生.本行迴向自在滿足故.爾時普賢菩薩.欲重明此義.以偈頌曰

一切衆諦聽　如來十力法　一切諸世間　最勝無有上　悉與無等等　亦與虛空等　功德無等者
境界不可量　一切諸如來　功德無有量　諸餘衆生類　無能思議者　如來一法門　一切諸群生
無量億劫中　思量不能盡　十方諸佛刹　盡末爲微塵　有人能計算　悉了知其數　彼人無量劫
算數諸如來　一毛之功德　莫能知少分　譬如一士夫　能量虛空界　又第二士夫　隨算知量數
於億無數劫　算量空可盡　如來諸功德　不可得窮盡　譬如有士夫　能於一念中　數三世衆生
心心之所行　衆生數等劫　數之猶可盡　如來無量德　其數不可盡　譬如諸法界　分際不可得
一切非一切　非見不可取　如是諸如來　境界不可量　一切非一切　法界無窮盡　譬如如如性
離虛妄寂滅　亦無有生者　亦無有滅者　如是諸如來　及一切境界　亦同如如性　不增亦不滅
譬如未來際　眞實際無際　三世性自離　眞實不可得　等正覺如是　境界亦復然　一切三世中
通達無障礙　諸法無變易　性空無作故　離垢無染汙　其性如虛空　一切諸如來　淸淨性亦然
一切性無性　非有亦非無　正法性遠離　一切語言道　一切趣非趣　皆悉寂滅性　一切諸如來

疑三本俱作礙　○成明作平
量元明俱作監

境界亦如是　遠離語言道　不可爲譬諭　諸佛覺悟法　性相皆寂滅　如鳥飛空中　足迹不可得
無量大願果　成熟淨色身　具十力功德　示現大神變　如來甚深法　若有欲知者　應當淨其意
猶若如虛空　遠離虛妄想　及邪見顚倒　修習淸淨道　究竟得淨意　是故諸佛子　一心善諦聽
諸善逝境界　我當說少分　一切諸十力　功德不可知　覺悟群生故　我今少演說　一切諸導師
起淸淨身業　口業及意業　境界悉淸淨　如來深境界　淸淨妙法輪　涅槃諸善根　我當分別說
譬如大千界　國土初成時　非是少因緣　能成於世界　無量方便力　一切因緣起　三千大千界
安置諸群生　如來諸最勝　如是性起法　無量功德藏　一切莫能知　十方諸世界　皆末爲微塵
算數諸微塵　及知衆生心　微塵衆生心　猶尙可知數　一切諸十力　功德不可知　譬如因重雲
能澍降大雨　四種風輪起　能成三千界　衆生諸善根　菩薩功德力　三千世界起　安置衆生類
如來亦如是　因緣法雲起　大智慧風輪　離垢淸淨意　一切諸佛所　修習諸善根　廻向與衆生
速成等正覺　譬如虛空中　雲雨名洪澍　一切除世界　無堪受持者　除三千大千　世界初成時
不可動風輪　依止虛空界　如來亦如是　初成等正覺　十方一切界　法雲降大雨　充滿勝法界
無有能持者　唯諸大菩薩　成就無量德　空中興雲雨　無作無造者　本無所從來　去亦無所至
如來亦如是　法雲雨甘露　本無所從來　去亦無所至　一切諸菩薩　修習無量行　隨所應受化
爲彼雨正法　譬如大雲雨　無有能數者　唯摩醯首羅　悉能分別知　善逝亦如是　雨無量法雨
充滿諸佛刹　無有能數者　唯無上法王　一切世界主　悉能分別知　如觀掌中寶　應滅能寂滅
應起能令起　除滅諸邪見　長養功德寶　如來雨正法　除滅諸煩惱　出生不可數　無量諸善根
修習於正見　遠離諸顚倒　一切諸最勝　深解功德寶　譬如虛空中　普雨一味水　衆生果報力
所起物不同　如來雨正法　大悲一味水　隨應受化故　種種差別說　世界初成時　先起色界宮
復於欲界天　次第起宮殿　次復於人間　各各造住處　然後次第起　乾闥諸龍處　如來亦如是

離明作如
力三本俱作方〇知明作數
末明作抹
餘三本俱作諸

始成等正覺　初起菩薩行　次成緣覺乘　又化心自在　一切諸聲聞　然後令衆生　修習諸善根
見清淨蓮華　諸天知佛出　因雨能起風　風能起世界　如來放光明　分別佛菩薩　能起智慧輪
通達諸佛法　水依風輪住　地依於水輪　衆寶樹依地　虛空無所依　智輪依如來　慈悲依智慧
功德依方便　法身無所依　譬如大地起　饒益諸衆生　水陸群萌類　各各得安樂　依虛空衆生
及欲色諸天　二足四足等　一切悉饒益　法王亦如是　出興于世間　令一切衆生　皆悉得饒益
若人有見聞　恭敬供養者　除滅諸煩惱　深解如來法　如來性起法　世間莫能知　我所說少分
饒益衆生故

爾時普賢菩薩摩訶薩。告諸菩薩言。佛子。云何菩薩摩訶薩。知見如來應供等正覺。此菩薩摩訶薩。知見如來具足成就無量功德。何以故。如來應供等正覺。非一法一行一身一剎化一衆生故。此菩薩摩訶薩。知見如來具足成就無量法無量行無量身無量剎。平等敎化一切衆生故。佛子。譬如虛空。一切色處非色處。無處不至。而非至非不至。何以故。虛空無形色故。如來法身亦復如是。至一切處一切剎一切法一切衆生。而無所至。何以故。諸如來身非是身故。隨所應化示現其身。佛子。是爲菩薩摩訶薩初入勝行門知見如來。復次佛子。譬如虛空彌廣。悉能容受一切衆生。而無染著。如來法身亦復如是。照一切衆生世間善根離世間善根。亦無染著。何以故。如來法身。於一切染著。悉已斷故。佛子。是爲菩薩摩訶薩第二勝行知見如來。復次佛子。譬如日出世間。以無量事饒益衆生。所謂滅除闇冥。長養一切山林藥草百穀卉木。消除冷溼。照空饒益虛空衆生。照池則能開敷蓮華。普悉照現一切色像。世間事業皆得究竟。何以故。日能普放無量光故。如來身日亦復如是。以無量事。普能饒益一切衆生。所謂滅惡饒益。長養善法。普照饒益。除滅一切衆生闇冥。大慈饒益。救護衆生。大悲饒益。度脫一切。正法饒益。長養一切根力覺意。堅信饒益。除心垢濁。見法饒益。不壞因緣。天眼饒益。悉見衆生死此生彼。離害饒益。不壞衆生一切善根。慧光饒益。開敷一切衆生心華。發心饒益。究竟一切菩薩所行。何以故。如來身日。普放一切慧光明故。佛子。是爲菩薩摩訶薩第三勝行知見如來。復次佛子。譬如日出。先照一切諸大山王。次照一切大山。次照金

照下同有普賢二字

樂三本俱作隱

剛寶山.然後普照一切大地.日光不作是念.我當先照諸大山王.次第乃至普照大地.但彼山地有高下.故照有先後.如來應供等正覺.亦復如是.成就無量無邊法界智慧日輪.常放無量無礙智慧光明.先照菩薩摩訶薩等諸大山王.次照緣覺.次照聲聞.次照決定善根衆生.隨應受化.然後悉照一切衆生.乃至邪定.爲作未來饒益因緣.如來智慧日光不作是念.我當先照菩薩.乃至邪定.但放大智光普照一切.佛子.譬如日月出現世間.乃至深山幽谷無不普照.如來智慧日月.亦復如是.普照一切無不明了.但衆生希望善根不同.故.如來智光種種差別.佛子.是爲菩薩摩訶薩第四勝行知見如來.復次佛子.譬如日出世間.生盲衆生未曾覩見.何以故.無肉眼故.佛子.此生盲衆生雖不見日.亦爲日光之所饒益.因日光故.而得飲食資生衆具.消除冷溼令體輕輭.風寒痰瘡諸患悉除安隱快樂.如來慧日出現世間.亦復如是.一切邪見犯戒無智邪命生盲衆生.未曾覩佛智慧日光.何以故.無信心眼故.佛子.生盲衆生.雖不見如來智慧日光.然此衆生.亦爲如來智慧日光之所饒益.除滅四大一切諸苦.身體安樂.斷一切煩惱毒痛根本.佛子.如來有光.名曰一切功德積聚.復有光明.名普照一切.復有光明.名曰清淨自在普照.復有光明.名出大妙音.復有光明.名普照一切諸語言法.復有光明.名自在.除滅一切疑惑.復有光明.名無依普照.復有光明.名智慧自在.除滅一切境界虛妄.復有光明.名分別諸乘.隨其所應出大妙音.復有光明.名曰圓滿自在音聲.莊嚴諸剎.悉令衆生皆得清淨.佛子.如來一一毛孔.放如是等千種光明.五百光明普照下方.五百光明普照上方.菩薩摩訶薩.各於其剎諸如來所.見此光已.彼諸菩薩.即時具足清淨十頭十眼十耳十鼻十舌十身十手十足十地十智.彼諸菩薩.因菩薩行地所得諸入皆悉清淨.成就善根一切種智.聲聞緣覺.皆悉除滅一切煩惱.少智生盲衆生.身體柔輭安隱快樂.離垢清淨調伏諸根.具足成就四念處法.地獄餓鬼畜生惡道衆生.衆苦悉除.皆得安樂.身壞命終生人天中.彼諸衆生不知不覺.以何因緣何威神力來生此間.彼生盲者.唯作是念.我是梵天.我是梵化.爾時如來.安住普自在三昧.演出八種如來妙音.告衆生言.汝等衆生.非是梵天.亦非梵化.蒙佛神力故.得生此間.彼諸衆生.佛神力故.即識宿命所經惡道.來生此間.皆大歡喜.大歡喜已.各持優曇華雲.香雲.娛樂雲.一切衣雲.蓋雲幢雲.末香雲.妙寶雲.師子幢雲.半月樓閣雲.讚歎莊嚴具雲.諸

如來所奉獻供養。何以故。蒙佛神力慧眼開明。如來卽授彼諸衆生阿耨多羅三藐三菩提記。佛子當知。如來慧日饒益生盲衆生。長養具足成就善根。佛子。是爲菩薩摩訶薩第五勝行知見如來。復次佛子。譬如滿月。有四奇特未曾有法。何等爲四。映蔽一切星宿光明。示現增減。於閻浮提。一切淨水影無不現。一切衆生有覩見者皆悉對面。如來法身亦復如是。有四奇特未曾有法。可等爲四。映蔽一切聲聞緣覺學無學法功德星宿。隨其所應示現壽命脩短不同。法身常住未曾增減。影現一切世界淨心衆生菩提器中。隨所聞法隨解脫地應受化者。一切皆謂如來現前。其實法身無有彼此。究竟佛事。佛子。是爲菩薩摩訶薩第六勝行知見如來。復次佛子。譬如三千大千世界大梵天王。以少方便。大千世界一切衆生。各見梵王現在已前。亦不分身無種種身。佛子。如來亦復如是。亦不分身無種種身。於一切衆法。隨所應化示現其身。未曾生念。示現彼此若干衆生。佛子。是爲菩薩摩訶薩第七勝行知見如來。復次佛子。譬如大醫王。善知衆藥對治之法。一切方論皆悉明練。彼大醫王。閻浮提中一切藥草。若現其前悉能識別。彼大醫王。宿善根力。又能明了諸方論故。悉能療治一切衆病。彼大醫王。臨命終時作如是念。我命終後。一切衆生無所歸依。是故我應現巧方便。爾時醫王。以藥塗身。咒術自持。令我命終之後身不乾燥又不散壞。猶能具足身四威儀。行住坐臥行醫王事。療治衆病與本無異。如來應供等正覺無上醫王。亦復如是。善能明了諸對治法。悉能除滅一切衆生諸煩惱病。無量億那由他劫修習善根。究竟般若波羅蜜。到於彼岸。善學方便藥塗咒持如來於昔。先善安住菩薩行地。般若波羅蜜。巧妙方便藥咒之力。住持壽命。如來以少方便施作佛事。救護衆生除滅煩惱。佛子。是爲菩薩摩訶薩第八勝行知見如來。復次佛子。譬如大海有摩尼寶。名普照明淨藏。此寶光明觸衆生身。悉同一色。若有見者眼卽清淨。隨彼光明所照之處。雨日佉寶。皆悉徧滿。饒益安樂無量衆生。如來法身亦復如是。爲大寶王功德積聚大智慧藏。如來有光名寶身智。若有衆生觸斯光者。皆悉得與佛身同色。若有衆生見斯光者。皆悉逮得淸淨法眼。若有衆生觸斯光者。除貧賤苦尊貴富樂。乃至無上菩提快樂。佛子當知。如來法身無有彼此。悉能究竟一切衆生而作佛事。佛子。是爲菩薩摩訶薩第九勝行知見如來。復次佛子。譬如大海有寶。名曰一切世間莊嚴如意摩尼寶王。具足成就百萬功德。隨彼寶王所住之處。一

切衆生所有苦患皆得除滅。隨其所願悉能充滿。彼摩尼寶王。非少福衆生所能得見。如來法身摩尼寶王。亦復如是。若有衆生得聞見者。皆悉除滅生死之苦。若一切衆生。一時專念。欲見如來皆悉覩見。能令歡喜所願悉滿。如來法身、非少福衆生之所能見。除佛神力。隨其所應而示現身。佛子。是爲菩薩摩訶薩第十勝行知見如來。菩薩摩訶薩。具足成就無量淨心。充滿十方。深入法界住眞實際。無生無滅三世平等。悉能除滅一切虛妄。入未來際。正法充滿一切世間一切法界。一切佛身無量莊嚴。爾時普賢菩薩摩訶薩。欲重明此義。以偈頌曰

譬如虛空性　無處而不至　十方世界中　一切諸佛刹　色處非色處　一切衆生類　去來今現在
非至非不至　一切諸最勝　清淨妙法身　無處而不至　充滿諸法界　最勝妙法身　一切莫能見
教化衆生故　導師爲示現　譬如虛空性　無能執持者　普令諸群生　無礙造衆業　虛空無是念
我今何所作　云何而造作　爲誰而造作　如是諸最勝　因此淨身業　普令群生類　成就白淨法
如來淨法身　饒益無量衆　法身亦無念　我利諸群萠　譬如明淨日　出現閻浮提　除滅一切闇
普照悉無餘　一切衆寶山　大地諸華池　隨事而長養　饒益一切衆　最勝日如是　饒益一切衆
悉令群生類　長養諸善根　成就慧光明　除滅一切闇　覩見諸導師　具足一切樂　譬如日出時
先照大山王　又復次第照　一切諸大山　次照諸小山　及餘高顯處　然後乃普照　世界諸大地
善逝亦如是　清淨慧日光　先照諸菩薩　功德大山王　爾乃次第照　一切諸緣覺　又復次第照
聲聞學無學　然後次第照　一切諸衆生　法身無是念　我有所照明　譬如明淨日　出現於世間
生盲雖不見　而能作饒益　除滅饑渴患　令身柔輭樂　當知明淨日　無所不饒益　佛日亦如是
出現於世間　雖無信心眼　而爲作饒益　或聞如來聲　或觸導師光　爲彼作因緣　究竟成菩提
譬如盛滿月　映蔽諸星宿　示現一切衆　有增或有減　一切澄淨水　月影無不現　世間群生類
皆悉對目見　最勝淨滿月　映蔽於二乘　隨其受化者　示現壽脩短　影現諸人天　淨心菩提器
各各皆自謂　我對天人尊　譬如大梵王　安住梵天宮　悉於大千界　普現梵王身　具足自在力

提明作是

見三本倶作者

變現無量身　無處而不見　其身亦不分　導師亦如是　具足自在力　一切十方刹　普現無量身
不可稱量身　一切莫能見　普應現衆生　而亦不分身　譬如大醫王　善知對治法　若有得見者
無病而不除　臨欲命終時　而生如是念　我身終沒後　一切無歸依　以藥塗其身　呪術而自持
令我命終後　如本無變異　如是諸最勝　無上大醫王　善學方便慧　具足一切智　過去無量行
示現淨法身　衆生若見者　除滅煩惱患　譬如大海中　摩尼衆寶王　出生無量種　清淨妙光明
衆生觸斯光　皆悉同寶色　若有得覩見　彼開淸淨眼　最勝寶如是　普放慧光明　若有觸斯光
悉與佛同色　衆生若見者　具足五淨眼　除滅諸闇冥　安住如來地　譬如如意寶　隨滿一切願
若有所求者　皆悉滿其意　寶王不生念　我饒益世間　少功德衆生　不見此寶王　善逝亦如是
令一切願滿　若有求願者　皆悉得滿足　善逝不生念　我利益衆生　其懷惡心者　不覩如來身

佛子.菩薩摩訶薩.云何知見如來應供等正覺微妙音聲.此菩薩摩訶薩.知見如來音聲無處不至.如來種種微妙音聲.令一切衆生皆大歡喜.演說無量諸佛正法.隨應化者悉得解了.敎化衆生未曾失時.令身淸涼心定不亂.觀察平等無生無滅.譬如呼響無主.知見出生長養諸善根故.知見甚深無邊底故.知見正直究竟度法界故.知見無斷攝法界故.知見不可壞究竟法界故.菩薩摩訶薩.知如來音聲非量非無量.非主非無主.非智非無智.何以故.譬如世界將欲壞時.法如是故.自然演出四種音聲.何等爲四.一曰汝等當地.初禪安樂離欲瞋恚.遠離欲界.衆生聞已.自然皆得成就初禪.捨欲界身生梵天處.二曰汝等當知.二禪安樂離於覺觀.無覺無觀遠離梵身.衆生聞已.自然皆得成就二禪.捨梵世身生光音天.三曰汝等當知.三禪安樂離於喜愛.衆生聞已.自然皆得成就三禪.捨光音身生徧淨天.四曰汝等當知.四禪安樂遠離衆苦.衆生聞已.自然皆得成就四禪.捨徧淨身生果實天.佛子.是爲世界將欲壞時.法如是故.自然出生四種音聲.彼聲無主亦無作者.如來妙音亦復如是.亦無有主無有作者.自然出生四種妙音.隨順佛法.何等爲四.一曰汝等當知.一切行苦.地獄畜生餓鬼中苦.閻羅王苦.惡行者苦.無功德苦.著我我所苦.欲生人天.當種善根修諸功德.遠離八難得無難處.衆生聞已.捨離顚倒修

切衆生所有苦患皆得除滅。隨其所願悉能充滿。彼摩尼寶王。非少福衆生所能得見。如來法身摩尼寶王。亦復如是。若有衆生得聞見者。皆悉除滅生死之苦。若一切衆生。一時專念。欲見如來皆悉覩見。能令歡喜所願悉滿。如來法身。非少福衆生之所能見。除佛神力。隨其所應而示現身。佛子。是爲菩薩摩訶薩第十勝行知見如來。菩薩摩訶薩。具足成就無量淨心。充滿十方。深入法界住眞實際。無生無滅三世平等。悉能除滅一切虛妄。入未來際。正法充滿一切世間一切法界。一切佛身無量莊嚴。爾時普賢菩薩摩訶薩。欲重明此義。以偈頌曰

譬如虛空性　無處而不至　十方世界中　一切諸佛剎　色處非色處　一切衆生類　去來今現在
非至非不至　一切諸最勝　清淨妙法身　無處而不至　充滿諸法界　最勝妙法身　一切莫能見
教化衆生故　導師爲示現　譬如虛空性　無能執持者　普令諸群生　無礙造衆業　虛空無是念
我今何所作　云何而造作　爲誰而造作　如是諸最勝　因此淨身業　普令群生類　成就白淨法
如來淨法身　饒益無量衆　法身亦無念　我利諸群萌　譬如明淨日　出現閻浮提　除滅一切闇
普照悉無餘　一切衆寶山　大地諸華池　隨事而長養　饒益一切衆　最勝日如是　饒益一切衆
悉令群生類　長養諸善根　成就慧光明　除滅一切闇　覩見諸導師　具足一切樂　譬如日出時
先照大山王　又復次第照　一切諸大山　次照諸小山　及餘高顯處　然後乃普照　世界諸大地
善逝亦如是　清淨慧日光　先照諸菩薩　功德大山王　爾乃次第照　一切諸緣覺　又復次第照
聲聞學無學　然後次第照　一切諸衆生　法身無是念　我有所照明　譬如明淨日　出現於世間
生盲雖不見　而能作饒益　除滅饑渴患　令身柔輭樂　當知明淨日　無所不饒益　佛日亦如是
出現於世間　雖無信心眼　而爲作饒益　或聞如來聲　或觸導師光　爲彼作因緣　究竟成菩提
譬如盛滿月　映蔽諸星宿　示現一切衆　有增或有減　一切澄淨水　月影無不現　世間群生類
皆悉對目見　最勝淨滿月　映蔽於二乘　隨其受化者　示現壽脩短　影現諸人天　淨心菩提器
各各皆自謂　我對天人尊　譬如大梵王　安住梵天宮　悉於大千界　普現梵王身　具足自在力

提明作是

見三本俱作者

變現無量身　無處而不見　其身亦不分　導師亦如是　具足自在力　一切十方剎　普現無量身
不可稱量身　一切莫能見　普應現衆生　而亦不分身　譬如大醫王　善知對治法　若有得見者
無病而不除　臨欲命終時　而生如是念　我身終沒後　一切無歸依　以藥塗其身　咒術而自持
令我命終後　如本無變異　如是諸最勝　無上大醫王　善學方便慧　具足一切智　過去無量行
示現淨法身　衆生若見者　除滅煩惱患　譬如大海中　摩尼衆寶王　出生無量種　清淨妙光明
衆生觸斯光　皆悉同寶色　若有得覩見　彼開清淨眼　最勝寶如是　普放慧光明　若有觸斯光
悉與佛同色　衆生若見者　具足五淨眼　除滅諸闇冥　安住如來地　譬如如意寶　隨滿一切願
若有所求者　皆悉滿其意　寶王不生念　我饒益世間　少功德衆生　不見此寶王　善逝亦如是
令一切願滿　若有求願者　皆悉得滿足　善逝不生念　我利益衆生　其懷惡心者　不覩如來身

佛子。菩薩摩訶薩。云何知見如來應供等正覺微妙音聲。此菩薩摩訶薩。知見如來音聲無處不至。如來種種微妙音聲。令一切衆生皆大歡喜。演說無量諸佛正法。隨應化者悉得解了。教化衆生未曾失時。令身清涼心定不亂。觀察平等無生無滅。譬如呼響無主。知見出生長養諸善根故。知見甚深無邊底故。知見正直究竟度法界故。知見無斷攝法界故。知見不可壞究竟法界故。菩薩摩訶薩。知如來音聲非量非無量。非主非無主。非智非無智。何以故。譬如世界將欲壞時。法如是故。自然演出四種音聲。何等爲四。一曰汝等當地。初禪安樂離欲瞋恚。遠離欲界。衆生聞已。自然皆得成就初禪。捨欲界身生梵天處。二曰汝等當知。二禪安樂離於覺觀。無覺無觀遠離梵身。衆生聞已。自然皆得成就二禪。捨梵世身生光音天。三曰汝等當知。三禪安樂離於喜愛。衆生聞已。自然皆得成就三禪。捨光音身生徧淨天。四曰汝等當知。四禪安樂遠離衆苦。衆生聞已。自然皆得成就四禪。捨徧淨身生果實天。佛子。是爲世界將欲壞時。法如是故。自然出生四種音聲。彼聲無主亦無作者。如來妙音亦復如是。亦無有主無有作者。自然出生四種妙音。隨順佛法。何等爲四。一曰汝等當知。一切行苦。地獄畜生餓鬼中苦。閻羅王苦。惡行者苦。無功德苦。著我我所苦。欲生人天。當種善根修諸功德。遠離八難得無難處。衆生聞已。捨離顚倒修

緣明作圓
捨同作舍

習善根。遠離八難生人天中。二曰汝等當知。一切行苦皆悉熾然如燒鐵丸。一切衆行悉磨滅法。寂滅涅槃遠離熾然清涼安樂。衆生聞已皆修善根。修善根已得音聲忍。得音聲忍已學聲聞乘。三曰汝等當知學聲聞乘者。爲學小智。因他覺悟。更有勝道名緣覺乘。悟不由師。汝等應學。若有衆生樂勝道者。聞此音聲學緣覺乘。四曰汝等當知。過聲聞緣覺。更有勝道。名曰大乘。修菩薩行。究竟六波羅蜜。具菩薩行得不退轉。不捨菩薩心。永離生死。向無上菩提。若有衆生諸根猛利。過去修習無量善根。又復承佛威神力故。得聞此音發菩提心。諸佛如來微妙音聲。不從身出不從心出。而能饒益無量衆生。佛子。是爲菩薩摩訶薩初勝妙行知見如來微妙音聲。復次佛子。譬如呼響因山聲起。無有積聚不可覩見。隨種種聲悉能應對。實無所應。如來妙音亦復如是。無有方處。但隨所應而出音聲。音聲非實。不可覺知不可言說。佛子。是爲菩薩摩訶薩第二勝行知見如來微妙音聲。復次佛子。譬如天妙音聲。於虛空中自然而出。悉能覺悟放逸天子。而告之言。汝等當知。五欲無常。虛妄顛倒須臾變異。如逆風執火。愚夫所習。汝莫放逸。若放逸者。身壞命終墮三惡道。放逸諸天聞此音聲。生恐怖心厭離五欲。各捨宮殿詣正法堂。修習善法愛樂正道。佛子。天妙音聲。亦無有主亦無作者。不起不滅。而能利益放逸諸天。如來妙音亦復如是。普爲放逸諸衆生故。出生無量正法音聲。而覺悟之。謂無著聲。不放逸聲。無常苦空非我之聲。寂滅涅槃聲。皆悉充滿一切法界。隨其所應悉令歡喜。各隨所樂修學諸乘。出生無量大智音聲。不退轉聲。具足菩薩。諸行音聲。如來一切智慧地聲。衆生聞此諸音聲已。無量無數阿僧祇衆生。修習善法。或學聲聞辟支佛乘。或學無上摩訶衍乘。如來妙音超絕衆相。言語道斷。佛子。是爲菩薩摩訶薩第三勝行知見如來微妙音聲。復次佛子。譬如自在天王有天寶女。名曰善口。於一語中。演出百千娛樂音聲。於彼一一娛樂音中。復出百千娛樂音聲。佛子當知。一善口聲。出生無量微妙音聲。如來音聲亦復如是。於一音中出無量聲。隨其所應悉令開解。佛子。是爲菩薩摩訶薩第四勝行知見如來微妙音聲。復次佛子。譬如大梵天王。於梵衆中出梵音聲。一切大衆無不聞者。彼梵音聲不出衆外。時梵身諸天。各作是念。大梵天王唯與我語不對餘天。如來應供等正覺。亦復如是。出生無量無上妙音。應受化者皆悉得聞。不出衆外。何以故。彼諸衆生根未熟故。聞佛音者各作是念。今日如來唯爲我說。不爲

異元明俱作用

作下三本俱無是字

檀明作壇

餘人。如來所出音聲亦無所出。聞佛音者亦無所聞。能爲衆生施作佛事。佛子。是爲菩薩摩訶薩第五勝行知見如來微妙音聲。復次佛子。譬如水性皆同一味。隨器[異故味有差別。水無是念我作衆味。如來妙音亦復如是。皆悉一味。謂解脫味。隨諸衆生受化器異。應有差別。如來音聲。不作是知不作是念。我作種種別異音聲。佛子。是爲菩薩摩訶薩第六勝行知見如來微妙音聲。復次佛子。譬如阿耨達龍王。興大重雲。滿閻浮提普降大雨。百穀草木皆悉滋長。江河池泉一切盈滿。此大雨水。不從龍王身心中出。而能饒益無量衆生。如來應供等正覺。亦復如是。興大悲雲徧滿世間。普雨無上甘露正法。令一切衆生皆大歡喜。出生善根。長養正法。具足諸乘。如來音聲不從外來亦不內出。而能饒益一切衆生。佛子。是爲菩薩摩訶薩第七勝行知見如來微妙音聲。復次佛子。譬如摩那斯龍王。將欲降雨。先興重雲彌覆虛空。凝停七日而未降雨。先令衆生究竟諸業。何以故。彼大龍王。慈悲心故。過七日已。漸降微雨普潤大地。如來應供等正覺。亦復如是。將雨法雨。先興法雲普覆衆生。未便卽雨甘露正法。先令衆生成熟諸根。諸根熟已。然後漸降甘露法雨。若卽說深法。衆生恐怖。是故如來漸漸微雨一切種智甘露法味。佛子。是爲菩薩摩訶薩第八勝行知見如來微妙音聲。復次佛子。譬如海中有大龍王。名大莊嚴。或連雨十日或二十日或百日或千日或百千日。佛子雨不作[是念。我雨十日乃至百千日。但彼龍王。有不可思議自在力故。或十日雨。乃至百千日雨。如來應供等正覺。亦復如是。欲雨微妙甘露正法。或十種音聲。或二十或百或千或百千。或八萬四千行種種音聲。乃至無量億那由他聲分別說法。令一切衆生皆悉歡喜。如來妙音不作是念。我能演說種種諸法。又法界淸淨無有差別。化衆生故所說不同。佛子。是爲菩薩摩訶薩第九勝行知見如來微妙音聲。復次佛子。譬如娑伽羅龍王。欲現龍王大自在力。爲欲饒益群生類故。從四天下乃至他化自在天處。興大重雲徧覆六天。有種種色。或有處如閻浮[檀金色。或有處如瑠璃色。或有處如白銀色。或有處如玻瓈色。或有處如玫瑰色。或有處如碼碯色。或有處如勝寶藏色。或有處如赤眞珠色。或有處如妙香色。或有處如種種衣色。或有處如淸淨水色。或有處如種種雜色。如是等無量色雲。覆四天下乃至六天。覆已出諸電光。所謂閻浮檀金色雲。出瑠璃電光。瑠璃色雲。出閻浮檀金電光。白銀色雲。出玻瓈電光。玻瓈色雲。出白銀電光。玫瑰色雲。出碼碯電

王下三本俱有天字

量三本俱作邊

光。碼碯色雲。出玫瑰電光。勝寶藏色雲。出赤眞珠電光。赤眞珠色雲。出勝寶藏電光。妙香色雲。出種種衣色電光。種種衣色雲。出妙香色電光。淨水色雲。出種種雜色電光。種種雜色雲。出淨水電光。廣說乃至一種色雲。出種種色電光。種種色雲。出一種色電光。又震種種大雷音聲。令衆生歡喜。所謂天女歌音。天娛樂音。龍女歌音。乾闥婆女歌音。緊那羅女歌音。大地音。大海音。鹿王音。或有異類奇妙種種鳥音。或種種歌音。爾時龍王。起若干風降微細雨。饒益安樂無量衆生。從四天下上至六天。普雨種種無量異雨。所謂於大海中雨名洪澍。無有斷絕。於他化自在天。普雨歌頌娛樂音聲。於化自在天。普雨解脫明淨光寶。於兜率陀天。普雨頂髻明月神珠。於夜摩天。普雨種種衆莊嚴具。於三十三天。普雨妙香。於四天王。普雨寶衣。於龍王宮。普雨赤明眞珠。於阿修羅處。普雨兵仗。名伏怨敵。於鬱單越。普雨衆華。如是廣說。徧四天下。雨種種雨。然彼龍王。其心平等無有彼此。但以衆生根。不同故。雨有差別。如來應供等正覺無上法王。亦復如是。將欲應現無量大法。先以淸淨身雲。普覆一切法界。隨其所應示現身雲。或有衆生。應見如來生身之雲。或有衆生。應見如來神力住持身雲。或有衆生。應見如來色身之雲。或有衆生。應見如來種種身雲。或有衆生。應見如來功德身雲。或有衆生。應見如來智慧身雲。或有衆生。應見如來不壞身雲。或有衆生。應見如來無畏身雲。或有衆生。應見如來法界身雲。佛子。如來以如是等無量身雲。普覆一切世界。隨其所應示現光明電光。或有衆生。得見如來光明電光。名無所不至。或有衆生。得見如來光明電光。名照無量無邊。或有衆生。得見如來光明電光。名曰入佛微密之教。或有衆生。得見如來光明電光。名明淨普照。或有衆生。得見如來光明電光。名曰淨照。或有衆生。得見如來光明電光。名入無盡藏陀羅尼門。或有衆生。得見如來光明電光。名不亂正念。或有衆生。得見如來光明電光。名不退智慧。或有衆生。得見如來光明電光。名順入諸趣。或有衆生。得見如光來明電光。名普令衆生滿足諸願。佛子。如是如來應供等正覺。普爲衆生。示現如來光明電光。現電光已。出生無量諸大三昧雷震音聲。所謂出正覺三昧雷聲。離垢寂靜海三昧雷聲。一切法自在三昧雷聲。金剛圓滿三昧雷聲。須彌山王幢三昧雷聲。海印三昧雷聲。日光三昧雷聲。普令衆生歡喜三昧雷聲。無盡功德藏三昧雷聲。不壞解脫阿羅漢三昧雷聲。佛子。如來應供等正覺。於佛身雲。出生無量種種三昧雷聲。出雷

子下同有諸佛如來隨衆生心八字

聲已。欲說甘露法時。先現如來大智風輪瑞相。從無障礙大慈悲起。先令一切衆生及諸菩薩身心柔輭皆大歡喜。如來如是。以正法雲大慈悲雲不可思議雲。令一切衆生身心柔輭。然後乃雨不可思議大法雲雨。所謂爲坐道場一切菩薩。雨不可壞法界大法雲雨。爲最後身菩薩。雨如來密敎菩薩娛樂自在大法雲雨。爲一生補處菩薩。雨清淨普照大法雲雨。爲得記菩薩。雨如來莊嚴大法雲雨。爲得忍菩薩。雨功德寶智華不斷菩薩行大法雲雨。爲向行菩薩。雨不退行入化門甚深門無有疲厭大法雲雨。爲初發心菩薩。雨如來定行大慈大悲救護衆生大法雲雨。爲樂緣覺者。雨深知緣起離斷常見無壞解脫果法雲雨。爲求聲聞者。雨降伏煩惱怨敵智藏法雲雨。爲修習長養善根衆生及決定不決定衆生。雨種種歡喜法門雲雨。佛子。雨如是等十種無量無邊大法雲雨。充滿法界。佛子。如來應供等正覺。其心平等無有彼此。但以衆生根不同故。如來法雨現有差別。佛子。是爲菩薩摩訶薩第十勝行知見如來微妙音聲

大方廣佛華嚴經卷第三十四

大方廣佛華嚴經卷第三十五

〔麗朝〕〔宋間〕〔元間〕〔明間〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅 譯

已三本俱作聲

寶王如來性起品第三十二之三

復次佛子.菩薩摩訶薩.知見如來音聲十種無量.何等爲十.所謂知見虛空等無量.無處不至故。知見法界等無量.無處不徹故.知見衆生界等無量.令一切衆生悉歡喜故.知見行業等無量.廣說一切果報故.知見煩惱等無量.究竟寂滅故.知見種種音聲等無量.隨應受化無以聞故.知見欲樂等無量.悉分別說諸解脫故.知見三世等無量.無分際故.知見智慧等無量.深入一切法故.知見佛境界不退等無量.隨順如如法界故.佛子.菩薩摩訶薩.知見如來應供等正覺音聲.有如是等十種無量阿僧祇.爾時普賢菩薩.欲重明此義.以偈頌曰

世界欲壞時 於彼虛空中 衆生福報力 自然出四聲 於彼四禪中 寂樂離衆苦 衆生聞是已
厭離欲界身 十力亦如是 自然出四聲 充滿於法界 無處而不聞 衆生因緣力 佛應四種聲
其有聞音者 永度生死海 譬如因山谷 出生呼聲響 從外一切音 響聲隨應對 種種因緣起
聞者亦不同 響不作是念 我出種種音 如來聲如是 出生無量音 隨應受化者 一切無不聞
皆悉令歡喜 調伏諸衆生 音聲亦無念 我出種種音 譬如天妙音 於彼虛空中 自然而演出
覺悟諸天子 諸天子聞此 正法妙音聲 修習不放逸 厭離於五欲 十力亦如是 出生微妙聲
法雲音充滿 一切諸世界 令衆生覺悟 彼音無生滅 若有得聞者 皆悉證菩提 如自在天王
寶女名善口 於一音聲中 出生百千聲 復於一一音 衆生百千聲 諸天若聞者 一切皆悅樂
十力亦如是 於彼一音中 隨應一時演 衆生數等音 衆生聞音已 除滅諸煩惱 音聲不作念
我能有所滅 譬如大梵王 出清淨梵音 一切梵天衆 無有不聞者 一一梵音聲 令梵衆歡喜

座三本俱作坐○法明作世味同作性

那同作耶

三本俱佛子以下爲卷第三十六寶王如來性起品第三十二之三

徧滿梵天衆　音聲不出外　功德大梵王　安處如來座　演出一妙音　充滿諸法界　隨應受化者
一切無不聞　聲不出衆外　以無信心故　譬如諸水性　皆悉同一味　淸淨離垢濁　具足八功德
所因地不同　衆器各別異　隨彼因緣故　水味有差別　佛子應當知　一切智音聲　如來微妙音
悉同解脫味　衆生所造行　若干差別故　善逝隨應化　所聞各不同　譬如阿耨達　自在大龍王
興雲覆世間　普雨潤大地　長養諸叢林　百穀藥草等　彼所降雨水　不從身心出　如來亦如是
初興大法雲　普覆諸法界　雨大甘露法　令衆增善根　除滅煩惱熱　而彼甘露法　不從身心出
譬如大龍王　名曰摩那斯　七日起重雲　凝停不降雨　普令一切衆　究竟諸事業　漸降微雨澤
然後乃大雨　十力興法雲　普覆諸法界　雨大甘露法　饒益諸群生　隨應受化者　爲彼說深法
聞者不恐怖　究竟成菩提　譬如大龍王　名曰大莊嚴　先布密重雲　然後降大雨　或十二十日
乃至百千日　雨水等一味　衆生故不同　究竟至如來　大辯之彼岸　或說十法門　乃至百千門
或說八萬四　乃至無量行　如來不生念　我分別法界　譬如海龍王　名曰娑伽羅　先興密重雲
彌覆四天下　普雨一切處　各各悉不同　龍王心平等　亦無有憎愛　最勝亦如是　無上法龍王
興起大悲雲　普覆於一切　爲道場菩薩　雨大甘露法　隨其所應化　如來心平等

佛子。云何菩薩摩訶薩。知見如來應供等正覺心。此菩薩摩訶薩。知心意識非卽如來。但知如來智無量故。心亦無量。佛子。譬如虛空。悉爲一切萬物所依。而彼虛空無所依止。如來智慧亦復如是。悉爲一切世間智慧。離世間智之所依止。而如來智無所依止。佛子。是爲菩薩摩訶薩最初勝行知見如來應供等正覺心。復次佛子。譬如淸淨法界。悉爲一切聲聞緣覺菩薩解脫之所依止。而淸淨法界無增無減。如來智慧亦復如是。爲一切世間出世間智。算數巧術一切衆智之所依止。而如來智無增無減。佛子。是爲菩薩摩訶薩第二勝行知見如來應供等正覺心。復次佛子。譬如四大海水。悉能澤潤四天下地八十億小洲。若有衆生。於彼諸處。方便求水無不得。而彼大海不作是念。我能資給諸衆生水。如來智慧大海亦復如是。悉能澤潤一切衆生心。彼諸衆生。各於法門修習

以元明俱作已
○不三本俱作
○安淨元明俱
作淨

善根.皆得智慧光明.而如來不作是念.我能悉與衆生智慧.佛子.是爲菩薩摩訶薩第三勝行知見如來應供等正覺心.復次.佛子.譬如大海有四種寶珠.此四種寶.悉生海中一切衆寶.若無此寶.海中衆寶悉皆滅失.何等爲四.一名衆寶積聚.二名無盡寶藏.三名遠離熾然.四名一切莊嚴聚.是爲四寶.佛子.此四種寶.一切阿修羅迦樓羅諸龍神等.悉不得見.何以故.娑伽羅龍王密置深寶藏故.此四種寶端嚴方正.如來應供等正覺海.亦有四種大智寶珠.出生一切聲聞緣覺學無學智.及諸菩薩智慧大寶.何等爲四.一名無染巧妙方便清淨智寶.二名分別演說有爲無爲清淨智寶.三名分別演說一切諸法而不壞法界清淨智寶.四名應化衆生未曾失時清淨智寶.是爲如來大海四種清淨智寶.佛子.此如來四種清淨智寶.一切衆生無能見者.何以故.此四種智慧大寶.安置如來微密法寶藏故.菩薩慧光端嚴殊特.佛子.是爲菩薩摩訶薩第四勝行知見如來應供等正覺心.復次.佛子.譬如大海有四熾然光明大寶.此四種寶.悉能消竭大海無極之水.何等爲四.一名日藏光明大寶.二名離潤光明大寶.三名火球光明大寶.四名究竟無餘光明大寶.佛子.若大海中無此四寶.四域天下金剛圍山.乃至非想非非想處.皆悉漂沒.佛子.此日藏光明大寶.能變海水.悉成爲酪.離潤光明大寶.能變酪海.悉成爲酥.火球光明大寶.能悉熾然酥海.究竟無餘光明大寶.悉然酥海.永盡無餘.如來應供等正覺海.亦有四種智光摩尼大寶.照諸菩薩.具足修習一切衆行.乃至成佛平等智慧.何等爲四.一者永息一切不善波浪智光大寶.二者滅一切法愛智光大寶.三者大慧智光大寶.四者與如來等無量智光大寶.佛子.彼菩薩摩訶薩修集菩提時.起無量生死不善波浪.一切諸天阿修羅等.悉無能止.如來以息一切不善波浪智光大寶.照耀菩薩.不善波浪.令永止息.堅固安住無上三昧.以滅一切順法愛智光大寶.滅一切三昧難捨味著.以大慧智光大寶.滅一切無明.淨慧通達.以與如來等無量智光大寶.以少方便.出生如來智慧之地.佛子.若無如來四種智光大寶.乃至一菩薩得如來地.無有是處.佛子.是爲菩薩摩訶薩第五勝行知見如來應供等正覺心.復次佛子.譬如復水輪際.上至非想非非想天.一切三千大千世界依虛空住.謂無色界衆生處.色界衆生處.欲界衆生處.此三界處悉依虛空.而彼虛空無有迫迮.如來智慧亦復如是.一切聲聞緣覺菩薩.知有爲法智慧.知無爲法智慧.如是等一切智慧.悉依

姓三本俱作性

如來智慧而起。悉依如來知慧而往。如來智慧無有迫迮。何以故。如來智慧無所不至故。佛子。是爲菩薩摩訶薩第六勝行知見如來應供等正覺心。復次佛子。譬知雪山頂有藥王樹。名非從根生非不從根生。彼藥王樹。從六百八十萬由旬下極金剛地水輪際生。佛子。此藥王樹。若生根時。閻浮提樹一切根生。若生莖時。閻浮提樹皆悉生莖。若生枝葉華果時。閻浮提樹一切悉生枝葉華果。此藥王樹根能生莖。莖能生根。是故名曰不從根生非不從根。佛子。此藥王樹。一切諸處皆悉生長。唯除二藏。所謂地獄深阬及水輪中不得生長。而大藥王樹亦不捨生性。如來智慧大藥王樹亦復如是。從一切如來種姓中生。於過去世。修習大慈悲等無量無邊功德。堅固正住不可傾動。三世無量善根智慧。皆悉普覆一切世間。除滅一切惡道衆難。巧方便莖。淨法界枝。諸禪三昧解脫之葉。七覺意華。無上解脫果。陀羅尼持初無增減。佛子。如來智慧大藥王樹。復有異名。名根堅固不壞。何以故。不捨不斷菩薩衆行。是故其根名曰不壞。彼如來智慧大藥王樹。初生根時。一切菩薩。悉生大慈悲根。未曾捨離一切衆生。初生莖時。一切菩薩。皆悉生長堅固精進正直心莖。初生枝時。一切菩薩。生長一切波羅蜜枝。初生葉時。一切菩薩。生長一切淨戒威儀頭陀功德之葉。初生華時。一切菩薩。善根莊嚴相好華敷。初生果時。一切菩薩。得無生忍受佛記果。佛子。如來智慧大藥王樹。唯除二處。不得生長。所謂聲聞緣覺涅槃。地獄深阬。及諸犯戒。邪見貪著。非法器等。而如來樹非不生長。其餘一切應受化者。皆悉生長。而如來智慧大藥王樹。不增不減。佛子。是爲菩薩摩訶薩第七勝行知見如來應供等正覺心。復次佛子。譬如火劫起時。三千大千世界一切所有大地草木金剛圍山皆悉然熾燒盡無餘。設有一人。若以乾草投彼火中。寧得不然。答言不也。無不燒盡。佛子。彼所投草。猶可不盡。如來智慧。於一切衆生。一切佛剎。一切劫數。一切諸法。無不悉知。若有不知。無有是處。何以故。如來智慧不可破壞。悉明達故。佛子。是爲菩薩摩訶薩第八勝行知見如來應供等正覺心。復次佛子。譬如風烖壞世界時。有大風起。名曰壞散。悉能壞散磨滅大千世界金剛圍山一切萬物。爾時三千大千世界外。復有風起。名障壞散風烖。不令風烖得至餘方。佛子。若無此障風。十方無量無邊阿僧祇世界。無不散滅。如來應供等正覺亦復如是。有大智風。名曰散滅一切煩惱。悉能散滅一切菩薩煩惱習氣。如來復有巧方便智風。能持一切菩薩。不令究竟盡滅。

於三本俱作于

具同作見

墮於聲聞辟支佛地、菩薩摩訶薩．得此巧方便智風力故．能過聲聞辟支佛地．究竟佛地．佛子．是爲菩薩摩訶薩第九勝行知見如來應供等正覺心．復次佛子．如來智慧無處不至．何以故．無有衆生無衆生身如來智慧不具足者．但衆生顚倒不知如來智．遠離顚倒．起一切智無師智無礙智．佛子．譬如有一經卷．如一三千大千世界．大千世界一切所有無不記錄．若二千世界等悉記二千世界中事．小千世界等悉記小千世界中事．四天下等悉記四天下事．須彌山王等悉記須彌山王事．地天宮等悉記地天宮殿中事．欲天宮等悉記欲界天宮殿中事．色天宮等悉記色界天宮殿中事．若無色天宮等悉記無色界天宮殿中事．彼三千大千世界等經卷．在一微塵內．一切微塵亦復如是．時有一人．出興於世．智慧聰達．具足成就淸淨天眼．見此經卷在微塵內．作如是念．云何如此廣大經卷在微塵內．而不饒益衆生耶．我當勤作方便．破彼微塵．出此經卷饒益衆生．爾時彼人．卽作方便．破壞微塵．出此經卷．饒益衆生．佛子．如來智慧．無相智慧．無礙智慧．具足在於衆生身中．但愚癡衆生顚倒想覆．不知不見．不生信心．爾時如來．以無障礙淸淨天眼．觀察一切衆生．觀已作如是言．奇哉奇哉．云何如來具足智慧在於身中．而不知見．我當敎彼衆生．覺悟聖道．悉令永離妄想顚倒垢縛．具見如來智慧在其身內．與佛無異．如來卽時敎彼衆生．修八聖道．捨離虛妄顚倒．離顚倒已．具如來智．與如來等饒益衆生．佛子．是爲菩薩摩訶薩第十勝行知見如來應供等正覺心．佛子．菩薩摩訶薩．有如是等無量無數諸勝妙行知見如來應供等正覺心．爾時普賢菩薩．欲重明此義．以偈頌曰

欲知如來心　應解最勝智　如來智無量　最勝心亦然　十方諸世界　一切衆生類　皆悉依虛空
虛空無所依　一切法界中　衆生種種樂　方便巧智術　依最勝智起　一切諸智慧　悉依善逝智
如來最勝智　寂然無所依　聲聞緣覺乘　解脫智慧果　悉從法界起　法界無增減　最勝智如是
能起一切智　學智無學智　了達有無智　善逝無上智　出生一切智　非生非不生　皆悉無增減
譬如大海水　澤潤一切地　衆生善方便　求水無不得　大海地無念　我與衆生水　大海無增減
方便求悉得　十方諸世界　一切群生類　善逝智慧海　皆悉能潤澤　各各勤方便　修習諸法門

生出同作出生

根生三本俱作生根〇華同作果

一切修行者　疾得智慧光　如娑伽龍王　有四妙寶珠　密置深寶藏　衆生無能見　端嚴而方正
常住於大海　因此四摩尼　生出一切寶　最勝四種智　無量不可稱　出生一切衆　無量諸智慧
安住大乘藏　無量德莊嚴　除受記菩薩　一切莫能見　譬如大海中　有四摩尼寶　光燄甚猛熱
能消大海水　若無此四寶　天地悉漂沒　大海無增減　四域皆安住　如來四種智　無量不可稱
能止諸菩薩　不善根波浪　一切三世間　欲色無色界　離我及我所　安住於虛空　善逝智亦然
一切智根本　聲聞學無學　及諸緣覺智　菩薩普饒益　無量甚深智　悉依如來智　如來智無依
如彼雪山頂　有大藥王樹　名不從根生　非不從根生　由此藥王樹　生長因緣故　悉生閻浮提
一切諸樹林　彼樹根生時　一切樹根生　莖枝葉華實　一切亦如是　清淨甚深智　如來性中生
依因如來智　山生修行智　一切菩薩行　無量諸功德　如來智樹王　平等心地生　譬如劫盡時
猛盛大火𦦨　設人投乾草　猶可燒不盡　善逝清淨智　無量無有邊　悉能分別知　三世衆生類
又知一切劫　一切諸佛剎　如是無量法　如來悉了知　誓如劫盡時　風災名壞散　能壞諸大地
金剛及須彌　剎外有風起　名曰障散壞　若無此風者　十方悉磨滅　十力亦如是　智慧風無量
皆悉能散滅　菩薩諸煩惱　如來方便智　攝取諸菩薩　過聲聞緣覺　安住如來地　譬如微塵內
有一大經卷　三千世界等　無益衆生類　爾時有一人　出興於世間　破塵出經卷　饒益一切世
如來智如來　衆生悉具有　顚倒妄想覆　衆生不知見　如來教衆生　修習八聖道　除滅一切障
究竟成菩提

佛子。云何菩薩摩訶薩。知見如來應供等正覺境界。此菩薩摩訶薩。成就無量無邊無礙智慧。知一切衆生是如來境界。一切世間。一切剎。一切法。一切衆生行。如如不壞境界。無礙法界境界。實際無際境界。無量虛空境界。非境界境界。是如來境界。佛子。一切衆生無量故。如來境界無量。一切世間無量故。如來境界無量。乃至非境界境界無量故。如來境界無量。非境界至一切處。而無所至。如來境界亦復如是。佛子。菩薩摩訶薩。知心境界是如來

境界。如心境界無量故。如來境界無量。何以故。隨心無量。出生智慧亦復如是。佛子。譬如大龍隨心降雨。雨不從內亦不從外。如來境界亦復如是。隨心所念。於念念中出生無量不思議智。彼諸智慧悉無來處。佛子。一切大海水。皆從龍王心願所起。如來智海亦復如是。悉從大願力起。佛子。如來智海無量無邊。不可見說。不可思議。我說小諭。汝今諦聽。佛子。此閻浮提內。流出二千五百河水。悉入大海。俱耶尼內。流出五千河水。悉入大海。弗婆提內。流出八千四百河水。悉入大海。鬱單越內。流出一萬河水。悉入大海。佛子。此四天下內。如是二萬五千九百河水。悉入大海。佛子。於意云何。此水多少。答言甚多。佛子。復有十光明龍王。雨大海中悉過前水。百光明龍王。雨大海中復悉過前。大莊嚴龍王。雨大海中復悉過前。摩那斯龍王。雨大海中復悉過前。大雷龍王。雨大海中復悉過前。難陀。跋難陀龍王。雨大海中復悉過。前無量光明龍。王雨大海中復悉過前。流注不斷龍王。雨大海中復悉過前。大勝龍王。雨大海中復悉過前。金剛光明龍王。雨大海中復悉過前。佛子。如是等八十億龍王。各雨大海展轉過前。娑伽羅龍王太子名曰佛生。雨大海中復悉過前佛子。彼十光明龍王所住淵池。流入大海復悉過前百光明龍王所住淵池。流入大海復悉過前。大莊嚴龍王所住淵。池流入大海復悉過前。摩那斯龍王所住淵池。流入大海復悉過前。大雷龍王所住淵池。流入大海復悉過。前難陀。跋難陀龍王所住淵池。流入大海復悉過前。無量光明龍王所住淵池。流入大海復悉過前。流注不斷龍王所住淵池。流入大海復悉過前。大勝龍王所住淵池。流入大海復悉過前。金剛光明龍王所住淵池。流入大海復悉過前。如是等廣說。乃至娑伽羅龍王太子所住淵池。流入大海復悉過前。佛子。如彼十龍王。及八十億龍王。乃至娑伽羅龍王太子。雨大海中及其淵池。皆悉不及娑伽羅龍王所雨大海。娑伽羅龍王所住淵池。涌出流入大海倍復過前。彼涌流水。青瑠璃色。盈滿大海。涌出有時。是故海潮常不失時。佛子。如是大海。其水無量。珍寶無量。衆生無量。大地無量。佛子於意云何。彼大海水。爲無量不。答言實爾。其水深廣不可爲諭。佛子。如是海水深廣無量。於如來無量智海。百分不及其一。乃至不可爲譬。但隨所應化。爲作譬諭。佛子。菩薩摩訶薩。知見如來智海。深廣無量。從初發心。乃至不斷菩薩無量行故。知見道品寶無量。不斷三寶故。知見無量衆生歡喜。長養一切聲聞學無學及緣覺故。知見大地無量。從歡喜地乃至究竟無

博三本俱作搏次亦同

礙智地故。佛子。是爲菩薩摩訶薩知見如來應供等正覺。境界無量。饒益一切衆生。無量智慧故。爾時普賢菩薩。欲重明此義。以偈頌曰

離垢淨境界　無量不可稱　殊勝願力故　一切無有量　譬如心境界　無量無有邊　一切諸十力
境界亦如是　譬如大龍王　不離於本處　以心願力故　其雨無有量　雨水無從來　亦無有去處
龍王願力故　隨心雨無量　一切十方刹　十力亦如是　本無所從來　去亦無所至　無量諸境界
悉從心緣起　一切諸法界　皆入一毛道　譬如大海水　無量無有邊　衆生及珍寶　大地亦無量
海水常湛然　皆悉同一味　隨衆生受用　其味各不同　最勝亦如是　智慧海無量　三寶最勝故
是故寶無量　聲聞學無學　辟支佛無量　具修無上道　故說地無量

佛子。云何菩薩摩訶薩。知見如來應供等正覺行。此菩薩摩訶薩。知見如來無礙行。如如行。是如來行如如。過去不滅。未來不至。現在不起。如來行亦如是。不滅不至不起。佛子。譬如法界無量無縛。何以故。法界無身故。如來行亦如是。無量無縛。何以故。如來行無身故。佛子。譬如鳥飛虛空。經百千年。所遊行處不可度量。未遊行處亦不可量。何以故。虛空無分齊故。如來應供等正覺行。亦復如是。若使有人。於百千億那由他劫。分別解說如來之行。已解說者不可限量。未解說者亦不可量。何以故。如來行無分齊故。佛子。如來應供等正覺。住如來住。無所住故。而能普爲一切衆生。示現開導如來之行。諸生見已。出過一切諸障礙道。佛子。譬如金翅鳥王飛行虛空。安住虛空。以淸淨眼。觀察大海龍王宮殿。奮勇猛力。以左右翅博開海水。悉令兩闢。知龍男女有命盡者。而撮取之。如來應供等正覺金翅鳥王。亦復如是。安住無礙虛空之中。以淸淨眼。觀察法界諸宮殿中。一切衆生。若有善根已成熟者。奮勇猛大力。止觀兩翅。博開生死大愛海水。隨其所應。出生死海。除滅一切妄想顚倒。安立如來無礙之行。佛子。譬如日月周行虛空。不作是念。我行虛空。從何所來。去至何所。如來亦復如是。周行無礙解脫虛空。分別一切法界。饒益一切衆生。廣作佛事。如來不作是念。我有去來。佛子。菩薩摩訶薩。以如是等無量無邊勝行。知見如來應供等正覺行。爾時普賢菩薩。欲重明此義。以偈頌曰

量同作盡
不明作非
性三本俱作切

譬如如無盡　無生亦無滅　亦無有方處　求之不可見　如來亦如是　境界不可[量　遠離於三世
其性悉如如　譬如諸法界　非界非[不界　非有亦非無　非量非無量　功德將如是　所行不可量
非有亦非無　其身本無故　如鳥飛虛空　經由百千年　行處未行處　皆悉不可量　若人百千劫
演說如來行　已說及未說　皆悉不可量　譬如金翅鳥　安住於虛空　觀察龍王宮　撮取其男女
十力亦如是　安住如來行　善根純熟者　令出煩惱海　譬如淨日月　周行於虛空　安樂一切衆
不念我能爾　如來亦如是　遊行諸法界　度脫一切衆　不念我能度

佛子。云何菩薩摩訶薩。知見如來應供等正覺菩提。此菩薩摩訶薩。知見菩提。解一切義。滅除疑惑。不二等覺。無相。無行。無退。無量無邊。無縛無脫。遠離二邊。知處非處。知一切字一切語言法。知一切衆生心心所行。知一切根煩惱習性。於一念中。悉知三世一切諸法。佛子。譬如大海。爲一切衆生色像之印。是故大海說名爲印。如來應供等正覺菩提。亦復如是。一切衆生心念諸根。現菩提中而無所現。故說如來爲一切覺。佛子。一切諸佛菩提。一切文字所不能記。一切語言所不能說。不可爲譬。但隨所應。如來爲之分別演說。佛子。如來應供等正覺成菩提時。住佛方便。得一切衆生等身。得一切法等身。得一切剎等身。得一切三世等身。得一切如來等身。得一切諸佛等身。得一切語言等身。得一切法界等身。得虛空界等身。得無礙法界等身。得出生無量界等身。得一切行界等身。得寂滅涅槃界等身。佛子。隨如來所得身。當知音聲及無礙心。亦復如是。如來具足如是等三種清淨無量。佛子。如來身中。悉見一切衆生發菩提心。修菩薩行成等正覺。乃至見一切衆生寂滅涅槃。亦復如是。皆悉一[性以無性故。無相無盡。無生無滅故。我非我性故。衆生非衆生性故。覺無所覺故。法界無自性故。虛空界無自性故如是等覺一切無性。無盡智。自然智。一切如來無極大悲。度脫衆生。佛子。譬如虛空界。世界若成若敗。常無增減。何以故。虛空無生滅故。如來應供等正覺菩提若成未成。常無增減。一性無性捨離衆性。佛子。設有一人出興於世。彼能化作恒沙等心。彼一一心。悉能化作恒沙如來。無色無形。如是恒沙等劫。常化不絕。於意云何。彼化如來寧爲多不。答曰。我知仁意。若化不化等無有異。善哉善哉。佛子。誠如所言。佛子。設使一切衆生。於一念中悉成正覺。若

知元明俱作如

邊三本俱作道

佛身中同作如來身

轉同作輪

成未成皆悉平等。何以故。菩提無性故。無增無減。如來菩提皆悉一性。所謂無性。佛子是爲菩薩摩訶薩知見如來應供等正覺菩提。佛子。如來應供等正覺成正覺已。正受三昧。名曰善覺。正受三昧已。得菩提身。數與一切衆生身等。如一三昧。一切三昧。一切法門。亦復如是。佛子。是爲菩薩摩訶薩知見如來應供等正覺菩提身。復次佛子。菩薩摩訶薩。於一毛道。悉知一切衆生等如來之身。如一毛道。一切毛道。一切法界處。亦復如是。何以故。如來菩提身。無處不至。無處不有故。如來應供等正覺。本求菩提勤修精進。往詣道場菩提樹下。處師子座。成最正覺。究竟菩提。復次佛子。此菩薩摩訶薩。自知身中。悉有一切諸佛菩提。何以故。彼菩薩心。不離一切如來菩提故。如自心中。一切衆生心中。亦復如是。無量無邊。無處不有。不可破壞。不可思議。佛子。菩薩摩訶薩。以如是等無量無邊不可思議方便法門知見如來應供等正覺菩提。爾時普賢菩薩。欲重明此義。以偈頌曰

菩提非二法　遠離於二邊　除滅一切惡　平等覺諸法　了達一切法　皆悉如虛空　非我非無我
等覺一切法　譬如諸大海　一切衆生類　色像悉顯現　故說一切印　十方世界中　一切衆生類
無上菩提海　無法而不現　譬如虛空性　世界成壞時　若成若未成　虛空無增減　最勝亦如是
無上菩提道　若覺若未覺　二性亦無性　譬如無量劫　念念化諸佛　若化若不化　皆悉等無異
設一切衆生　一時成正覺　若成若未成　菩提無增減　最勝有三昧　名曰爲善覺　道場成菩提
逮得此三昧　普放無量光　一切衆生等　除滅一切闇　開悟諸群生　三世一切劫　佛剎及諸法
諸根心心法　一切虛妄法　於一佛身中　此法皆悉現　是故說菩提　無量無有邊

佛子。云何菩薩摩訶薩知見如來應供等正覺轉法輪。此菩薩摩訶薩。知見如來一切願。一切法轉無所轉。本無所起。三轉圓滿皆悉淸淨。悉能遠離一切邪見。離欲際非際。一切諸法。如虛空際。不可言說。一切法寂滅。涅槃性故。菩薩摩訶薩。知見一切文字。一切語言法。悉轉法輪。如來音聲無所不至故。知見法輪如響。眞實法性故。知見一切音聲皆是一聲。如來以此而轉法輪。佛轉法輪無有主故。知見轉法輪無漏無盡。內外無所有故。佛子。譬如文字。於無量無數劫。說不可盡。如來應供等正覺轉正法輪。亦復如是。一切文字一切語言。說不可盡。如來法輪。

若下三本俱無如字

章明作諸

正三本俱作淨

悉入一切語言文字。而無所住。佛子。譬如字章。悉入一切字數。一切事數。一切語言數。一切算數。一切世間出世間。而無所住。如來音聲亦復如是。於一切處無所不入。於一切衆生。一切法。一切業。一切報一切心。亦無所住。一切衆生諸語言法。皆爲法輪音聲所攝。何以故。一切音聲不離法輪音聲故。復次佛子。此菩薩摩訶薩。知見如來應供等正覺出生法門轉法輪。何爲爲如來出生法門轉法輪。如來以一切衆生念念心心行等音聲。爲一切衆生而轉法輪。何以故。佛子。如來應供等正覺有三昧。名曰究竟無礙無畏如來正受三昧。而轉法輪。如來入此三昧已。出生一切衆生等音。於一一音中。復生一切衆生等音。而轉法輪。悉令衆生皆大歡喜。佛子。若如是知轉法輪者。當知是人則爲隨順一切佛家。不如是知。則不隨順諸如來家。佛子。是爲菩薩摩訶薩知見如來應供等正覺轉法輪。爾時普賢菩薩。欲重明此義。以偈頌曰

如來轉法輪　三世無不至　所轉無所轉　求之不可得　譬如諸文字　說之不可盡　十力亦如是
轉法輪無盡　譬如章文字　悉入一切數　所入無所入　法輪亦如是　普入一切音　所入無所入
彼亦無自在　能令一切喜　出過一切數　究竟成菩提　欲說眞實義　是故入三昧　以彼三昧力
出生妙音聲　悉與衆生等　而轉正法輪　又復悉於彼　一一諸音聲　出生無量音　衆生語言法
大自在無念　我出彼衆音　隨其受化者　一切無不聞　譬如諸文字　不內亦不外　無漏不可盡
亦復無積聚　十力亦如是　轉淸淨法輪　無漏不可盡　諸佛大神力

大方廣佛華嚴經卷第三十五

大方廣佛華嚴經卷第三十六

(麗朝)(宋問)(元問)(明問)

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

寶王如來性起品第三十二之四

佛子。云何菩薩摩訶薩。知見如來應供等正覺大般涅槃。此菩薩摩訶薩。欲知見如來應供等正覺大般涅槃者。當如是知如如般涅槃如來大般涅槃亦復如是。如實際。如法界。如虛空界。如實性。如離欲際。如無相際。如我性際。如一切法性際。如眞實際般涅槃。如來大般涅槃亦復如是。何以故。涅槃非生滅法。若法不生。當知不滅去無所至。佛子。如來應供等正覺不爲菩薩演說顯現如來究竟涅槃。何以故。欲令諸菩薩於一念中。普見三世一切諸佛悉現前故。出生一切如來妙色。亦復不起二不二想。何以故。菩薩摩訶薩。遠離諸想。無染著故。佛子。但如來欲令衆生歡喜故。出現於世。欲令衆生憂悲感慕故。示現涅槃。其實如來無有出世。亦無涅槃。何以故。如來常住如法界故。爲化衆生示現涅槃。佛子。設有日出照現世間。圓滿明淨與法界等。於一切世界淨水器中。影無不現。日無是念。我能普現一切淨水。佛子。彼時或有一水器破。日影不現。於意云何。彼影不現。豈日過耶。答曰不也。水器破故日影不現。佛子。如來智慧圓滿淨日一念出現。悉能照明一切世界一切法界一切衆生。滅除垢濁。淨心水器影無不顯。常現在前。但破器濁心衆生。不見如來法身影像。應見涅槃而得度者。是故如來現般涅槃。其實如來不生不滅。永無滅度。佛子。譬如大火於一切世界能爲火事。焚燒草木無不盡者。有時彼火至無草木城邑聚落。自然而滅。於意云何。一切世間火悉滅不。答曰不也。如來應供等正覺亦復如是。於一切世界。施作佛事。或一佛刹化度已周。示現涅槃。於意云何。一切世界如來悉滅度耶。答曰不也。佛子。是爲菩薩摩訶薩知見如來應供等正覺大般涅槃。復次佛子。如大幻師善知幻術。安住此術。於三千大千世界一切城邑聚落大王之都。普現幻身。住持幻身。壽命無盡。時此幻師於彼城邑聚落大王之都。隨事訖處。便捨幻身。於意云何。爲三千大千世界

一下三本俱無佛字

身三本俱作界

生同作滅

幻身悉捨滅耶．答曰不也．如來應供等正覺．亦復如是．善知大慧幻術．具足出生巧方便慧．於一切法界．普能示現如來幻身．常住如法界．究竟如虛空．隨諸佛刹．教化度脫已周訖處．示現涅槃．當知不以一佛刹示現涅槃故．如來究竟永滅度也．佛子．是爲菩薩摩訶薩知見如來大般涅槃．復次佛子．如來示現般涅槃時．先入不動三昧．入三昧已．於一一身．各放無量億千那由他大光．一一光明．各出無量阿僧祇妙寶蓮華．一一蓮華．各有不可說不可說妙寶華鬚．一一華鬚．各有寶師子座．一一座上．各有如來結跏趺坐．彼時所現諸如來身．悉與一切衆生數等．功德具足．相好莊嚴．究竟本願．時有衆生善根熟者．見如來身．心皆調伏．稟受道化．彼如來身究竟安住．盡未來際隨一切衆生．所應受化未曾失時．彼如來身．無有處所．非實非虛．如來但欲究竟過去諸大願故．欲令衆生長養諸善根故．應現其身常住不滅．佛子．是爲菩薩摩訶薩知見如來應供等正覺大般涅槃．復次佛子．此菩薩摩訶薩．知見如來涅槃無量無邊．究竟法界．無所障礙．不生不滅．淨如虛空．安住實際．隨其所應而示現之．本願所持．不捨一切衆生一切佛刹一切諸法．爾時普賢菩薩．欲重明此義．以偈頌曰

譬如圓滿日　一切法界等　影現一切水　唯除諸破器　最勝亦如是　普現一切世　衆生無信心
謂佛入涅槃　譬如猛盛火　焚燒一切物　無草木聚落　火則自然滅　最勝亦如是　充滿於法界
究竟諸佛事　示現入涅槃　譬如大幻師　示現無量身　如來亦如是　普現一切身　究竟諸佛事
示現般涅槃　隨應受化者　以此而示現　最勝有三昧　名曰不可動　究竟佛事已　然後入此定
念出無數佛　又放無量光　光有無量華　華有無量佛　最勝無量身　充滿諸法界　積集功德者
一切無不見　善逝淨法身　無量法界等　壽命淨莊嚴　一切悉具身　猶如無生性　如來與亦然
猶如無生性　涅槃亦如是　悉離語言道　不可爲譬諭　天中天難勝　具足一切德

佛子．云何菩薩摩訶薩知見於如來應供等正覺所見聞恭敬供養所種善根．此菩薩摩訶薩．知見於如來所見聞恭敬供養所種善根．皆悉不虛．功德無盡．離一切愛．究竟解脫．果報不虛．滿足諸願．於一切有爲法中．不可窮盡．而能隨順無爲智慧．起諸佛智．究竟未來際．具足一切諸如來地．佛子．譬如丈夫食少金剛．終竟不消．要從身

卷同作行

姓三本俱作性
次亦同

過。至金剛輪際。然後乃住。所以者何。以彼金剛不可消故。如是佛子。於如來所。少植善根。能壞一切有爲煩惱乃至究竟如來涅槃智慧。然後乃住。所以者何。於如來所。植諸善根。不可盡故。佛子。譬如須彌山等大乾草聚。若有人持如芥子火。悉能燒盡。何以故。火性悉能燒故。佛子。於如來所。種少善根。亦復如是。悉能燒滅一切煩惱。無有遺餘。究竟涅槃。何以故。於如來所。種諸善根。性究竟故。佛子。譬如雪山有大藥王。名曰善現。若有見者眼得清淨。若有聞者耳得清淨。若聞香者鼻得清淨。若嘗味者舌得清淨。若有觸者身得清淨。若取彼地土。悉能除滅無量衆病。安隱快樂。如來應供等正覺無上藥王。亦復如是。常以一切諸方便行。饒益衆生。若有得見如來色身。眼得清淨。若有得聞如來名號。耳得清淨。若有得聞如來戒香。鼻得清淨。若有得味如來法味。舌得清淨。得金剛廣長清淨舌根。悉能演說一切言音。若有得觸如來光者。彼人即得清淨色身。究竟逮得無上法身。若有念如來者。得念佛三昧。正念不亂若有得經卷地。如來塔廟禮拜供養。彼衆生等具足善根。滅煩惱患得賢聖樂。佛子。乃至不信邪見衆生。見聞佛者。彼諸衆生。於見聞中。所種善根果報不虛。乃至究竟涅槃。斷一切惡諸不善根。具足善根。佛子。於如來所。見聞供養恭敬。所種善根不可言說。不可爲諭。何以故。如來不可思議過思議故。但隨所應佛爲作諭。佛子。是爲菩薩摩訶薩知見於如來所見聞恭敬供養種諸善根。爾時諸菩薩摩訶薩。白普賢菩薩言。佛子。當何名此經。云何奉持。佛子。此經名爲一切諸佛微密法藏。一切世間不能思議。如來所印。大智光明。開發示現如來種性。長養一切菩薩功德。一切世間無能破壞。隨順一切如來境界。令一切衆生皆悉清淨。分別演說佛究竟法。佛子。如是經典。但爲乘不思議乘。菩薩摩訶薩。一向專心求菩提者。分別解說不爲餘人。何以故。此經不入一切衆生之手。唯除菩薩。佛子。譬如轉輪聖王所有七寶。因此寶故。行轉輪王法。聖王七寶無堪持者。唯除第一夫人所生太子。具足成就聖王相者。佛子。若轉輪王無此太子具衆德者。王命終後。此諸寶等自然散滅。佛子。此經如是。不入一切衆生之手。唯除如來法王眞子。從諸如來種姓家生。種如來相諸善根者。若無此等佛之眞子。此斯經則滅。何以故。一切聲聞緣覺不聞此經。何況受持書寫解說。無有是處。唯除菩薩摩訶薩能自誦持書寫經卷。佛子。是故菩薩摩訶薩。聞此經者。歡喜恭敬頂戴受持。何以故。菩薩摩訶薩。信樂此經。少作方便。必決定得無

少同作小

上菩提。佛子。菩薩摩訶薩。雖無量億那由他劫。行六波羅蜜。修習道品善根。未聞此經。雖聞不信受持隨順。是等猶爲假名菩薩。不從如來種姓家生。佛子。若菩薩摩訶薩。得聞此經。聞已信向受持隨順。當知此等爲眞佛子。從佛家生。隨順一切如來境界。具足一切菩薩正法。安住一切種智境界。遠離一切世間諸法。出生長養如來所行。到一切菩薩諸法彼岸。於如來自在正法。心無疑惑。究竟安住無師之地。深入一切如來境界。佛子。菩薩摩訶薩。聞此經已。應當發平等意行無量心。遠離一切虛妄之想。究竟直心面對正念一切如來。修習平等淸淨猶如虛空。分別觀察一切菩薩行業與法界等。具足成就一切智智。遠離一切世間垢濁。發淸淨心。充滿一切十方世界。深入一切菩薩法門。平等觀察三世諸佛。具足善根功德智慧。深入此等一切諸法而無所入。不念一法不念二法。悉平等觀無量諸法。佛子。菩薩摩訶薩。成就如是等功德。少作方便得無師智。爾時普賢菩薩。欲重明此義以偈頌曰

若見聞如來　恭敬及供養　所植諸善根　無量不可稱　一切有爲中　不可得窮盡　寂滅諸煩惱
離苦得涅槃　譬如有一人　呑服少金剛　究竟不可消　下至金剛際　如是十力所　見聞供養福
具足金剛智　煩惱滅無餘　譬如乾草積　等彼須彌山　投火如芥子　燒盡悉無餘　如是善逝所
若植少功德　燒滅諸煩惱　正趣到涅槃　譬如雪山中　有大藥王樹　見聞齅味觸　除滅一切患
十力亦如是　若有見聞者　修習勝功德　究竟成菩提

爾時十方不可說不可說百千億那由他佛刹微塵等世界六種震動。東涌西沒。西涌東沒。南涌北沒。北涌南沒。邊涌中沒。中涌邊沒。及十八相動。所謂動。徧動。等徧動。起。徧起。等徧起。覺。徧覺。等徧覺。震。徧震。等徧震。吼。徧吼。等徧吼。涌。徧涌。等徧涌。爾時佛神力故。法如是故。雨衆華雲。勝過諸天。雨寶衣雲。蓋雲。幢雲。幡雲。香雲。塗香雲。鬘雲。莊嚴雲。衆寶雲。菩薩讚歎雲。菩薩身雲。三藐三菩提雲。普令不可思議世界皆悉淸淨。雨如來妙音聲雲。充滿無量無邊法界。如此四天下佛神力故。令諸菩薩皆大歡喜。一切十方亦復如是。爾時十方各過八十不可說百千億那由他佛刹微塵等世界之外。各有八十不可說百千億那由他世界微塵等如來。悉現其身。若近對面。同號

授明作受次同

生上同有一字

上明作出

普賢．現已咸作是言．善哉善哉．佛子．乃能承佛神力．隨順深法．解說不可思議如來性起正法．佛子．我等諸佛亦說此法．十方一切諸佛．及諸菩薩亦復如是．說此經時．百千佛剎微塵等菩薩．得菩薩一切明．一切三昧．授一生記．當成阿耨多羅三藐三菩提．一佛剎微塵等衆生發菩提心．我等悉與授記．於未來世當成佛道．悉同一號號佛勝境界．是故我等普爲未來諸菩薩故．護持此經令久住世．如此四天下所度衆生．十方無量阿僧祇不可思議不可稱不可量不可說法界虛空界等．一切世界所度衆生．亦復如是．盧舍那佛本願力故．法如是故．善根力故．如來無盡智故．如來不失時故．隨其所應化菩薩故．廣行普賢菩薩行故．示現一切種智故．爾時十方各過十不可說百千億那由他佛剎微塵等世界之外．各有十不可說百千億那由他佛剎微塵等菩薩．來詣此土．充滿一切法界．示現菩薩大妙莊嚴．放大光明網．震動一切世界．壞散一切諸魔宮殿．除滅一切惡道諸難．照明一切如來功德．讚歎一切如來正法．普雨無量無邊供養雲雨．示現無量種種異身．示現己身是無量諸佛法門之器．時彼諸菩薩承佛神力．各作是言．善哉善哉．佛子．乃能說是如來不可壞法．佛子．我等一切悉名普賢．於普光明世界普勝如來所．淨修梵行．彼諸佛所亦說是經．如是句．如是味．如是行．如是相貌．佛子．我等承佛神力故．法如是故．於彼世界來詣此土．爲汝作證．一切十方盡法界虛空界等一切世界．亦復如是．爾時普賢菩薩．承佛神力．觀察一切諸菩薩衆．欲重明如來性起正法．欲說如來無量功德．欲明如來正法不可沮壞．欲生一切菩薩無量智慧法明．欲說一切具足佛法．欲觀察一切群生類心．欲隨所應化不失時．欲分別一切無量無邊菩薩正法．欲顯現一切如來變化自在莊嚴．欲明一切如來一身無異．欲出生一切菩薩無量本行．以偈頌曰

一切諸如來　所成就威儀　譬世悉稱譽　無能爲譬諭　爲饒益衆生　令悉開解故　以非諭爲諭

顯現眞實義　如是微密法　無量劫難聞　精進智慧者　乃聞如來藏　若有聞此經　歡喜恭敬者

此等已過去　供養無量佛　當知如此人　諸天常讚歎　一切諸善逝　攝取常守護　一切諸善逝

世上世間勝　最勝歡喜衆　此經爲內藏　能出生無量　一切白淨道　是故離放逸　一心常奉持

還宋明俱作退

正三本俱作淨

大方廣佛華嚴經離世間品第三十三之一

爾時世尊.在摩竭提國寂滅道場普光法堂.坐蓮華藏寶師子座.成等正覺.念不二念.無相念.住佛所住.等一切佛到無礙趣.得不還法無礙境界.住不思議遠離三世.於一切世界普現其身.知一切法.具足成就一切妙行.永滅疑惑離虛妄身.能與一切菩薩無量智慧.住佛無二法.究竟到彼岸.具足如來不可沮壞智慧法門.究竟無量無邊虛空法界等如來諸地.與百千億那由他不可說一切佛剎微塵等菩薩摩訶薩.俱悉是一生當成阿耨多羅三藐三菩提.各從十方世界來集.具足成就一切菩薩方便智慧.善巧方便調伏衆生.悉令安住菩薩正法.分別了知一切世界.觀察明達解脫境界.悉已除滅一切虛妄.具足成就一切妙行.善攝衆生.深入無量巧方便法.善知一切衆生果報.善知一切衆生心使諸根境界方便.三世一切諸佛所說句味及義.善聞受持廣爲人說.善入無量無邊世間離世間法.善能解了諸有爲法皆悉無二.於一念中得一切佛智.於念念中善能示現成等正覺.令一切衆生.發菩提心成等正覺.入一衆生境界.善知一切衆生心之境界.不捨如來地.現菩薩身.得不退轉一切智地.不捨菩薩行.深入無行智.爲一切衆生故.於無量無數劫.修菩薩行.於無量無數劫.難得値遇菩薩之寶.轉正法輪調伏衆生.悉令逮得明淨法眼.成就三世一切諸佛淨住行願.具足如是等無量無邊功德.一切諸佛.盡未來劫說不可盡.其名曰普賢菩薩.普正法菩薩.普化菩薩.普慧菩薩.普眼菩薩.普光菩薩.普觀察菩薩.普照菩薩.普幢菩薩.普覺菩薩.如是等百萬億那由他不可說佛剎微塵等菩薩摩訶薩.皆悉具足普賢行願.隨諸世界有佛興世.悉能往詣請轉法輪.悉能受持諸佛正法.令一切佛種姓不斷.悉能了達一切諸佛次第授記.隨諸世界成等正覺轉淨法輪.於無佛世界現身爲佛出興于世.令有染者悉得清淨.除滅一切菩薩業障.入無礙法界.爾時普賢菩薩正受三昧.其三昧名佛華嚴.入三昧已.十方一切世界六種十八相震動.出微妙音.一切世界無不聞者.然後安詳從三昧起.爾時普慧菩薩.知諸菩薩大衆雲集.問普賢菩薩言.佛子.何等爲諸菩薩摩訶薩依果.何等爲奇特想.何等爲行.何等爲善知識.何等爲勤修精進.何等爲正希望.何等爲成就衆生.何等爲戒.

心上元明俱有惱字○知明作智

口上元明俱無淨字

法上同有佛字

何等爲自知授記法。何等爲入。何等爲入如來。何等爲入衆生心行。何等爲入世界。何等爲入劫。何等爲說三世。何等爲入三世間。何等爲離憂心無厭悔。何等爲無壞智。何等爲陀羅尼。何等爲知分別說佛。何等爲發普賢心。何等爲普賢願行法。何等爲大悲。何等爲發菩提心因緣。何等爲於善知識起恭敬心。何等爲清淨。何等爲波羅蜜。何等爲隨順覺知。何等爲決定智。何等爲力。何等爲平等。惑等爲佛法句。何等爲說法。何等爲受持。何等爲辯。何等爲勝法。何等爲無著。何等爲平等心。何等爲出生智慧。何等爲變化。何等爲持。何等爲大正希望。何等爲深入佛法。何等爲依止。何等爲發無畏心。何等爲除滅一切疑惑發無疑心。何等爲不思議。何等爲巧方何微密語。何等爲巧方便分別智。何等爲正受三昧。何等爲一切處。何等爲法門。何等爲通。何等爲明。何等爲解脫。何等爲園林。何等爲宮殿。何等爲樂。何等爲莊嚴。何等爲發不動心。何等爲不捨深心。何等爲智觀察。何等爲分別法。何等爲無垢。何等爲智印。何等爲智慧光明。何等爲不可稱量住。何等爲無懈怠心。何等爲須彌山王正直之心。何等爲深入智慧大海成無上菩提。何等爲寶住。何等爲發金剛心莊嚴大乘。何等爲發大事。何等爲究竟大事。何等爲不壞信。何等爲授記。何等爲善根迴向。何等爲得智慧。何等爲發無量無邊廣心。何等爲藏。何等爲調順。何等爲自在。何等爲衆生自在。何等爲刹自在。何等爲法自在。何等爲身自在。何等爲願自在。何等爲境界自在。何等爲智自在。何等爲通自在。何等爲神力自在。何等爲力自在。何等爲遊戲神通。何等爲勝行。何等爲力。何等爲無畏。何等爲不共法。何等爲業。何等爲身。何等爲身業。何等爲淨身業。何等爲口。何等爲淨口業。何等爲淨口業得諸守護。何等爲口業成辦大事。何等爲心。何等爲發心。何等爲心滿。何等爲根。何等爲直心。何等爲深心。何等爲方便。何等爲樂修。何等爲解脫深入世界。何等爲入衆生性。何等爲習氣。何等爲熾然。何等爲趣。何等爲具足法。何等爲退失佛法。何等爲離生。何等爲決定法。何等爲出生佛道法。何等爲得善男子名號。何等爲道。何等爲無量道。何等爲道具。何等爲修道。何等爲莊嚴道。何等爲足。何等爲手。何等爲腹。何等爲藏。何等爲心。何等爲莊嚴。何等爲器杖。何等爲頭。何等爲眼。何等爲耳。何等爲鼻。何等爲舌。何等爲身。何等爲意。何等爲行。何等爲住。何等爲坐。何等爲臥。何等爲住。何等爲行。何等爲觀察。何等爲周徧觀察。何等爲奮迅。何等爲師子吼。何等爲淨施。

何等爲淨戒.何等爲淨忍.何等爲淨精進.何等爲淨禪.何等爲淨慧.何等爲淨慈.何等爲淨悲.何等爲淨喜.何等爲淨捨.何等爲義.何等爲法.何等爲功德具.何等爲智具.何等爲明足.何等爲求法.何等爲明了法.何等爲向法.何等爲魔.何等爲魔業.何等爲捨離魔業.何等爲見佛.何等爲佛業.何等爲慢業.何等爲智業.何等爲魔攝持.何等爲佛攝持.何等爲法攝持.何等爲住兜率天所行事業.何等爲兜率天示現命終.何等爲示現降神母胎事.何等爲示現微細趣.何等爲生.何等爲大莊嚴.何等爲遊行七步.何等爲示現童子地.何等爲示現采女眷屬.何等爲示現捨家出家.何等爲示現苦行.何等爲往詣道場.何等爲坐道場.何等爲坐道場時顯奇特相.何等爲示現降魔.何等爲成等正覺.何等爲轉法輪.何等爲因轉法輪得白淨法.佛子.何等爲如來應供等正覺示現大般涅槃.善哉佛子.如向所問願具演說.爾時普賢菩薩摩訶薩.告普慧等諸菩薩言.佛子.菩薩摩訶薩.有十種依果.何等爲十.所謂菩提心依果.究竟不忘失故.善知識依果.隨順和合故.善根依果.長養諸善根故.諸波羅蜜依果.究竟修行故.一切法依果.永出生死故.諸願依果.長養菩提故.諸行依果.廣修習故.菩薩依果.一生補處故.供養佛依果.信心不壞故.一切如來依果.正教離顚倒故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種依果.若菩薩摩訶薩.住此依果.則得如來無上智依果.佛子.菩薩摩訶薩.有十種奇特想.何等爲十.所謂於一切善根生自善根想.於一切善根生菩提種子想.於一切衆生生菩提器想.於一切願生自願想.於一切法生出生死想.於一切行生自行想.於一切法生佛法想.於一切語言生語言道想.於一切佛生慈父想.於一切如來生無二想.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種奇特想.若菩薩摩訶薩.安住此想.則得無上巧妙方便轉一切想.佛子.菩薩摩訶薩.有十種行.何等爲十.所謂令一切衆生專求正法行.善根淳熟行.善學一切戒行.長養一切善根行.一心不亂修三昧行.分別一切諸智慧行.修習一切所修行.莊嚴一切世界行.恭敬供養善知識行.恭敬供養諸如來行.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種行.若菩薩摩訶薩.安住此行.則得如來無上大智行.佛子.菩薩摩訶薩.有十種善知識.何等爲十.所謂能令安住菩提心善知識.能令修習善根善知識.能令究竟諸波羅蜜善知識.能令分別解說一切法善知識.能令安住成熟一切衆生善知識.能令具足辯才隨問能答善知識.能令不著一切生死善知識.能令於一切劫行菩薩行心無厭

成下宋無熟字
熟元明俱作就

姓明作性次亦同

倦善知識。能令安住普賢行善知識。能令深入一切佛智善知識。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種善知識。佛子。菩薩摩訶薩。有十種勤修精進。何等爲十。所謂教化一切衆生勤修精進。入一切法勤修精進。令一切世界淸淨勤修精進。究竟一切菩薩所學勤修精進。令一切衆生。滅一切惡勤修精進。除滅一切地獄餓鬼畜生閻羅王苦勤修精進。降一切魔勤修精進。爲一切衆生作淸淨眼勤修精進。恭敬供養一切諸佛勤修精進。令一切如來皆悉歡喜勤修精進。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種勤修精進。若菩薩摩訶薩。住此精進。則具如來無上精進波羅蜜。佛子。菩薩摩訶薩。有十種正希望。何等爲十。所謂自住菩提心亦令衆生住菩提心正希望。自離忿諍亦令一切衆生離於忿諍正希望。自離愚癡安住佛法亦令衆生捨離愚癡安住佛法正希望。自修善根專求正法亦令衆生修習善根專求正法正希望。自究竟諸波羅蜜得到彼岸亦令衆生究竟諸波羅蜜得到彼岸正希望。自生如來種姓家亦令衆生生如來種姓家正希望。自深入觀一切法無盡性亦令衆生深入觀一切法無盡性正希望。自不誹謗一切佛法亦令衆生不誹謗一切佛法正希望。自滿一切智願亦令衆生滿一切智願正希望。自深入一切如來無盡智藏亦令衆生深入一切如來無盡智藏正希望。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種正希望。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得如來無上平等大智正希望。佛子。菩薩摩訶薩。有十種法成就衆生。何等爲十。所謂布施成就衆生。色身端嚴成就衆生。說法成就衆生。同意成就衆生。無染著成就衆生。歎菩薩行成就衆生。示現一切世界熾然成就衆生。歎如來功德成就衆生。示現神力自在成就衆生。種種巧方便微密隨順世間行成就衆生。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種成就衆生。若菩薩摩訶薩。安住此法。則能成就一切衆生

大方廣佛華嚴經卷第三十七

〔麗問〕〔宋道〕〔元道〕〔明問〕

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅　譯

離世間品第三十三之二

佛子．菩薩摩訶薩．有十種戒．何等爲十．所謂不壞菩提心戒．離聲聞緣覺地戒．饒益觀察一切衆生戒．令一切衆生住佛法戒．一切菩薩學戒戒．一切無所有戒．一切善根廻向菩提戒．不著一切如來身戒．佛子．菩薩摩訶薩．有十種自知授記法．令彼菩薩自知授記．何等爲十．所謂一向發菩提心菩薩授記．不厭菩薩行菩薩授記．於一切劫修諸苦行菩薩授記．隨順一切佛法菩薩授記．於一切如來所說決定信向菩薩授記．具足修習一切善根菩薩授記．令一切衆生安住菩提菩薩授記．於一切善知識和合隨順菩薩授記．於一切善知識生如來想菩薩授記．守護菩提本願菩薩授記．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種自知授記法．令彼菩薩自知授記．佛子．菩薩摩訶薩有十種入．何等爲十．所謂入願．入行．入聚．入波羅蜜．入具足．入分別願．入性．入莊嚴刹．入神力自在．入示現出生．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種入．亦入三世一切菩薩所入．佛子．菩薩摩訶薩．有十種深入如來．何等爲十．所謂深入無量無邊諸佛菩提．深入無量無邊轉淨法輪．深入無量無邊諸方便法．深入無量無邊微妙音聲．深入無量無邊調伏衆生．深入無量無邊神力自在．深入無量無邊種種異身．深入無量無邊三昧．深入無量無邊力無所畏．深入無量無邊示現涅槃．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種深入如來．此十種深入法．三世諸佛悉亦共入．佛子．菩薩摩訶薩．有十種入衆生心行．何等爲十．所謂入過去一切衆生心行．入未來一切衆生心行．入現在一切衆生心行．入一切衆生諸善根行．入一切衆生不善根行．入一切衆生心心所行．入一切衆生諸根行．入一切衆生種性行．入一切衆生煩惱使習氣行．入一切衆生時非時調伏行．佛子．是爲十種入衆生心行．因是十種入衆生心行．則能普入一切衆生心行．佛子．菩薩摩訶薩．有十種入世界．何等爲十．所謂入不淨世界．入清淨世界．入小世界．

伏三本俱作覆

三本俱佛子以下爲卷第三十八離世間品第三十三之二

入中世界。入微塵世界。入微細世界。入伏世界。入仰世界。入有佛世界。入無佛世界。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種入世界。因此十種入世界。則能普入一切世界。佛子。菩薩摩訶薩。有十種入劫。何等爲十。所謂入過去劫。入未來劫。入現在劫。入可數劫。入不可數劫。入可數不可數劫。入不可數可數劫。入一切劫非劫。入非劫一切劫。入一切劫卽是一念。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種入劫。因此十種入劫。則能普入一切諸劫

佛子。菩薩摩訶薩。有十種說三世。何等爲十。所謂過去世說過去世。過去世說未來世。過去世說現在世。未來世說過去世。未來世說現在世。未來世說無盡。現在世說未來世。現在世說過去世。現在世說平等。現在世說三世卽一念。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種說三世。因此十種說三世。則能普說一切三世。佛子。菩薩摩訶薩。有十種入三世間。何等爲十。所謂入世間。入語言道。入性。入施設。入想。入名字。入語言。入無盡。入離欲。入寂滅。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種入三世間。因此十種入三世間。則能普入一切三世間。佛子。菩薩摩訶薩。有十種捨離憂惱心無厭悔。何等爲十。所謂供養一切佛捨離憂惱心無厭悔。親近一切善知識捨離憂惱心無厭悔。專求一切法捨離憂惱心無厭悔。常聞正法捨離憂惱心無厭悔。常說正法捨離憂惱心無厭悔。教化調伏一切衆生捨離憂惱心無厭悔。令一切衆生安住佛道捨離憂惱心無厭悔。於一一世界中行不可說不可說菩薩行捨離憂惱心無厭悔。遊行一切世界教化衆生捨離憂惱心無厭悔。出生一切佛法捨離憂惱心無厭悔。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種捨離憂惱心無厭悔。若菩薩摩訶薩安住此法。則得如來無上智慧。永離厭悔。佛子。菩薩摩訶薩。有十種不可壞智。何等爲十。所謂知衆生智不可壞。知諸根智不可壞。知受生智不可壞。知世界智不可壞。知法界智不可壞。知佛智不可壞。知法智不可壞。知僧智不可壞。知三世智不可壞。知一切語言道智不可壞。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種不可壞智。若菩薩摩訶薩安住此智。則得如來無上不可壞智。佛子。菩薩摩訶薩。有十種陀羅尼。何等爲十。所謂聞持陀羅尼。不忘一切法故。持正法陀羅尼。巧方便分別一切法如實故。不生一切法陀羅尼。覺一切法無自性故。法明陀羅尼。普照不可思議諸佛法故。三昧陀羅尼。於現在一切佛所聞法不亂故。音聲圓滿陀羅尼。究竟解了不可思議語言法故。三世陀羅尼。分別說一切三世佛不思議法故。種種辯才陀羅尼。分別解說無量

力下元明俱有四字

則下同有能字

無邊諸佛法故.出生無礙耳陀羅尼.不可說佛所說諸法悉能聞故.持一切佛法陀羅尼.安住如來十力無畏故.
佛子.是爲菩薩摩訶薩十種陀羅尼.若菩薩摩訶薩欲得此法應勤修學.佛子.菩薩摩訶薩.知分別說十種佛.何
等爲十.所謂正覺佛.願佛.業報佛.住持佛.化佛.法界佛.心佛.三昧佛.性佛.如意佛.佛子.是爲菩薩摩訶薩知分別
說十種佛.佛子.菩薩摩訶薩.有十種發普賢心.何等爲十.所謂發大慈心.救護一切衆生故.發大悲心.代一切衆
生受一切苦毒故.發一切施爲首心.悉捨一切諸所有故.發正念一切智爲首心.樂求一切佛法故.發功德莊嚴
心.學一切菩薩諸行故.發金剛心.一切受生不忘失故.發大海心.一切白淨法悉流入故.發須彌山王心.一切誹
謗苦言悉堪忍故.發安隱心.施一切衆生無畏故.發究竟般若波羅蜜到彼岸心.巧分別一切法無所有故.佛子.
是爲菩薩摩訶薩十種發普賢心.若菩薩摩訶薩安住此心.以少方便則具足普賢巧方便智.佛子.菩薩摩訶薩.
有十種普賢願行法.何等爲十.所謂盡未來劫行菩薩行普賢願行法.恭敬供養未來一切佛普賢願行法.立一
切衆生於普賢菩薩願行普賢願行法.積集一切善根普賢願行法.入一切波羅蜜普賢願行法.滿足一切菩薩
願行普賢願行法.莊嚴一切世界普賢願行法.往生一切佛所普賢願行法.善巧方便求一切法普賢願行法.於
一切十方佛刹成無上菩提普賢願行法.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種普賢願行法.若菩薩摩訶薩修此願行.疾
得具足普賢願行.佛子.菩薩摩訶薩.有十種大悲常觀衆生.何等爲十.所謂觀察衆生無所歸依而起大悲.觀察
衆生隨逐邪道而起大悲.觀察衆生貧無善根而起大悲.觀察衆生長寢生死而起大悲.觀察衆生行不善法而
起大悲.觀察衆生欲縛所縛而起大悲.觀察衆生在生死海而起大悲.觀察衆生久遠長病而起大悲.觀察衆生
無欲善法而起大悲.觀察衆生失諸佛法而起大悲.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種大悲常觀衆生.佛子.菩薩摩訶
薩.有十種發菩提心因緣.何等爲十.所謂教化成熟一切衆生發菩提心因緣.除滅一切衆生苦發菩提心因緣.
與一切衆生種種快樂發菩提心因緣.除滅一切衆生愚闇發菩提心因緣.與一切衆生佛智發菩提心因緣.恭
敬供養一切諸佛發菩提心因緣.隨如來教令佛歡喜發菩提心因緣.見佛色身相好發菩提心因緣.入一切佛
智發菩提心因緣.顯現佛力無畏發菩提心因緣.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種發菩提心因緣.若菩薩摩訶薩發

行下三本俱無法定了知四字

菩提心應當恭敬供養親近善知識。何以故。欲速覺一切智故。彼菩薩摩訶薩恭敬供養親近善知識。起十種心。何等爲十。所謂於善知識。起給侍心。不違心。隨順心。歡喜心。不求利心。一向心。同善根心。同願心。如來心。同滿行心。佛子。是爲菩薩摩訶薩於善知識起十種心。佛子。若菩薩摩訶薩發如是十種心。則得十種清淨。何等爲十。所謂正直心清淨。究竟不失故。色身清淨。隨所應化無不見故。音聲圓滿清淨。究竟一切語言法故。辯才清淨。巧方便說不可思議諸佛法故。智慧清淨。除滅一切愚癡闇故。受生清淨。具足菩薩自在力故。眷屬清淨。成就過去同行衆生諸善根故。果報清淨。除滅一切業障故。諸願清淨。同一切菩薩故。諸行清淨。究竟普賢菩薩行故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種清淨。佛子。菩薩摩訶薩。有十種波羅蜜。何等爲十。所謂檀波羅蜜。捨一切有故。尸波羅蜜。淨佛戒故。羼提波羅蜜。具足佛忍故。精進波羅蜜。於一切時不退轉故。禪波羅蜜。正念不亂故。般若波羅蜜。觀一切法悉如如故。智波羅蜜。深入佛力故。願波羅蜜。普賢菩薩願行滿故。神力波羅蜜。示現一切神通力故。法波羅蜜。攝取一切法故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種波羅蜜。若菩薩摩訶薩安住此法。則得如來無上究竟智波羅蜜。佛子。菩薩摩訶薩。有十種隨順覺知。何等爲十。所謂隨順覺知一切世界。隨順覺知一切衆生不可思議。隨順覺知一切諸法不一不異。隨順覺知一切法界。隨順覺知一切虛空界。隨順覺知一切世界入過去世。隨順覺知一切世界入未來世。隨順覺知一切世界入現在世。隨順覺知一切如來於一念中具足願行。隨順覺知三世諸佛悉同一行。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種隨順覺知。若菩薩摩訶薩安住此法。則得一切法自在。普照隨意滿願。於一念中覺無上道。一切佛法悉現在前。佛子。菩薩摩訶薩。有十種決定智。何等爲十。所謂決定了知一切諸法。於一念中。決定了知一切諸法以無礙智。決定了知一切衆生心心所行。決定了知一切衆生皆悉同根。決定了知一切衆生煩惱習氣諸行。決定了知一切衆生諸心使行。決定了知一切衆生善不善行。決定了知一切菩薩願行。決定了知神力自在變化住持。決定了知一切如來成就十力。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種決定智。若菩薩摩訶薩安住此法。則得一切諸法巧妙方便。佛子。菩薩摩訶薩。有十種力。何等爲十。所謂深入一切法力。解一切法猶如化力。解一切法猶如幻力。令一切法入佛法力。於一切法無染著力。專求一切善妙法力。一向恭敬供養一切

則下同無能字

善知識力.令一切善根悉究竟得無上智力.深心信解一切佛法不誹謗力.究竟不退一切智心力.佛子.是爲菩
薩摩訶薩十種力.若菩薩摩訶薩安住此力.則能具足如來無上十力.佛子.菩薩摩訶薩.有十種平等.何等爲十.
所謂一切衆生平等.一切法平等.一切佛刹平等.一切佛乘平等.一切善根平等.一切菩提平等.一切願平等.一
切波羅蜜平等.一切行平等.一切佛平等.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種平等.若菩薩摩訶薩住此平等.則具足一
切諸佛無上平等.佛子.菩薩摩訶薩.有十種方便佛法句.何等爲十.所謂說一切法言說方便佛法句.一切法如
幻.一切法如電.一切法緣起.一切法淨業.一切法文字.一切法實際.一切法無相.一切法眞實義.一切法法界.佛
子.是爲菩薩摩訶薩十種方便佛法句.若菩薩摩訶薩安住此法.則得無上方便一切智.佛子.菩薩摩訶薩有十
種說法.何等爲十.所謂說甚深法.說勝妙法.說種種莊嚴法.說一切智法.說隨順波羅蜜法.說出生如來力法.分
別說三世法.說不退菩薩法.說讚歎一切佛功德法.說一切菩薩行一切佛平等一切如來境界法.佛子.是爲菩
薩摩訶薩十種說法.若菩薩摩訶薩住此說法.則得如來無上說法.佛子.菩薩摩訶薩.有十種受持.何等爲十.所
謂受持一切善根功德.受持一切佛所說法.受持一切譬諭.受持一切方便法門.受持一切出生陀羅尼門.受持
一切除疑惑法.受持一切菩薩具足法.受持一切如來所說平等三昧法門.受持一切普照法門.受持一切諸佛
自在神力.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種受持.若菩薩摩訶薩安住此法.則得如來無上智慧持法.佛子.菩薩摩訶
薩.有十種辯.何等爲十.所謂不虛妄取一切法辯.於一切法無所行辯.於一切法無所著辯.於一切法悉空無辯.
於一切法無闇障辯.於一切法佛所持辯.於一切法不由他悟辯.於一切法巧方便說句味身辯.於一切法說衆
生辯.於一切衆生等心觀察令歡喜辯.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種辯.若菩薩摩訶薩安住此辯.則得如來無上
巧方便辯.佛子.菩薩摩訶薩.有十種勝法.何等爲十.所謂成熟一切衆生勝法.普照一切諸法勝法.修習一切善
根一切行勝法.大乘智慧勝法.具足無著淨戒勝法.一切善根悉迴向菩提勝法.勤修精進不退勝法.降伏一切
衆魔勝法.發菩提心自在遊行勝法.隨時應化現成菩提勝法.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種勝法.若菩薩摩訶薩
安住此法.則得如來無上大智勝法.佛子.菩薩摩訶薩.有十種無著.何等爲十.所謂於一切世界無著.於一切衆

化上三本俱有變字

生無著。於一切法無著。於一切所作無著。於一切善根無著。於一切生處無著。於一切願無著。於一切行無著。於一切菩薩無著。於一切佛無著。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種無著。若菩薩摩訶薩安住此法。則能速轉一切衆想。得淸淨無上無所著智。佛子。菩薩摩訶薩。有十種平等心。何等爲十。所謂長養一切功德平等心。一切語言法平等心。於一切衆生平等心。於一切衆生業報平等心。入一切法平等心。於一切淨穢佛刹平等心。於一切衆生性若好若醜平等心。於一切行無所選擇平等心。入一切如來力無所畏平等心。入一切如來智慧平等心。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種平等心。若菩薩摩訶薩安住此心。則得如來無上平等心。佛子。菩薩摩訶薩。有十種出生智慧。何等爲十。所謂入一切衆生性出生智慧。入一切佛刹無一無異出生智慧。入分別十方一切世界網出生智慧。入一切仰俯翻覆世界等出生智慧。巧方便入一切諸法無一無異出生智慧。入一切種種異身出生智慧。入一切世間顚倒惑網悉無所著出生智慧。入一切法究竟一乘出生智慧。入一切法界自在神力出生智慧。入三世一切衆生諸佛種性常不斷絶出生智慧。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種出生智慧。若菩薩摩訶薩安住此法。則得無盡法藏。佛子。菩薩摩訶薩。有十種變化。何等爲十。所謂衆生變化。身變化。佛刹變化。供養變化。音聲變化。行願變化。調伏成熟衆生變化。菩提變化。說法變化。住持變化。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種變化。若菩薩摩訶薩安住此法。則得一切無上化法。佛子。菩薩摩訶薩。有十種持。何等爲十。所謂佛持。法持。衆生持。業持。願持。行持。境界持。妙持。善持。智持。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種持。若菩薩摩訶薩安住此持。則於一切法得自在持。佛子。菩薩摩訶薩。有十種大正希望。何等爲十。所謂菩薩摩訶薩發如是心。盡未來世一切諸佛出興于世。我當隨順奉行悉令歡喜。得大正希望。彼一切如來應供等正覺。我當以無上恭敬供養而供養之。得大正希望。恭敬供養彼諸佛已。必當具足誨我正法。聞正法已。三世菩薩一切諸地所生功德。令我悉得。得大正希望。菩薩摩訶薩發如是心。我當於不可說不可說劫修菩薩行。常不離佛及諸菩薩。得大正希望。菩薩摩訶薩發如是心。我當正向菩提離一切畏。所謂不活畏。惡名畏。死畏。惡道畏。大衆畏。如是等畏我當遠離休息除滅。一切衆魔外道不能壞我。得大正希望。菩薩摩訶薩發如是心。令一切衆生究竟成就無上菩提。安住菩提。成菩提已。我當於彼佛所。盡其形壽

是上元明俱有界字　別下三本俱無入字

謂下三本俱有依供養一切諸佛行菩薩行依調伏一切衆生行菩薩行二十二字

修菩薩行。恭敬供養彼諸如來。彼諸如來滅度之後。我當悉取舍利起無量塔而供養之。受持守護彼諸佛法。得大正希望。菩薩摩訶薩佛如是心。令十方一切世界悉以無上莊嚴而莊嚴之。平等清淨住持出生。神力自在六種震動。得大正希望。菩薩摩訶薩發如是心。令一切衆生悉除疑惑。清淨直心除滅煩惱。永閉惡道開善趣門。成就慧光照除癡闇。降伏衆魔置安隱處。得大正希望。菩薩摩訶薩發如是心。無量無數劫。如來難値正法難聞。譬如優曇鉢華。我欲見佛聽受正法應念見聞。於彼佛所直心清淨。離衆諂曲捨幻僞法。常見諸佛一心恭敬。得大正希望。菩薩摩訶薩發如是心。我當擊大法鼓。雨甘露法。作大法施。清淨無畏大師子吼。滿足大願安住法界。於無量無數劫。常爲衆生講説正法。安住大悲身口意業未曾疲厭。得大正希望。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種大正希望。若菩薩摩訶薩安住此法。則得無上智慧大正希望。佛子。菩薩摩訶薩有十種深入佛法。何等爲十。所謂一切世界入過去世。是爲第一深入佛法。一切世界入未來世。是爲第二深入佛法。一切世界入現在世。所有世界數。世界行。世界説。世界清淨。世界智。悉入現在世。是爲第三深入佛法。一切世界悉分別入一切世界。是爲第四深入佛法。悉分別入一切衆生業報。是爲第五深入佛法。悉分別入一切菩薩行。是爲第六深入佛法。悉次第知過去一切如來。是爲第七深入佛法。悉次第知未來一切諸佛出興于世。是爲第八深入發法。悉知現在十方世界一切佛刹。佛及眷屬説法教化。法界虚空界等衆生。是爲第九深入佛法。知世間法。知聲聞縁覺菩薩法。知如來法。於彼諸法。無一無異。而説一異。於彼諸法悉入法界。無所入故。如法相説。無所染著。是爲第十深入佛法。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種深入佛法。若菩薩摩訶薩安住此法。則能深入阿耨多羅三藐三菩提甚深智慧。佛子。菩薩摩訶薩。有十種依止。菩薩依此行菩薩行。何等爲十。所謂依善知識行菩薩行。依一切善根行菩薩行。依清淨佛刹行菩薩行。依不捨一切衆生行菩薩行。依深入一切波羅蜜行菩薩行。依一切菩薩滿足諸願行菩薩行。依無量菩提心行菩薩行。依一切諸佛菩提行菩薩行。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種依止。菩薩依此行菩薩行。佛子。菩薩摩訶薩有十種發無畏心。何等爲十。所謂滅一切業障發無畏心。佛滅度後受持守護正法發無畏心。降一切魔發無畏心。不惜身命發無畏心。如法調伏一切外道發無畏心。令一切衆生皆悉歡喜發無畏心。令一切

議下元明俱有是爲第一不可思議八字

大衆皆悉歡喜發無畏心。調伏一切天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽發無畏心。遠離聲聞緣覺地入甚深法發無畏心。於不可說不可說劫修菩薩行心無疲厭發無畏心。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種發無畏心。若菩薩摩訶薩安住此心。則得如來大智無所畏心。佛子。菩薩摩訶薩有十種除滅一切疑惑發無疑心。何等爲十。所謂菩薩摩訶薩發如是心。布施攝取一切衆生。戒忍精進定慧慈悲喜捨攝取一切衆生。不生疑惑。若生疑惑無有是處。是爲第一除滅一切疑惑發無疑心。菩薩摩訶薩發如是心。未來一切諸佛出興于世。我當奉給恭敬供養。於彼不生疑惑。若生疑惑無有是處。是爲第二除滅一切疑惑發無疑心。菩薩摩訶薩發如是心。令一切世界種種莊嚴。放大光明網。皆悉普照。於彼不生疑惑。若生疑惑無有是處。是爲第三除滅一切疑惑發無疑心。菩薩摩訶薩發如是心。我當盡未來際劫修菩薩行。無量無數。不可思議。不可稱量。不可分齊。不可說不可說。一切算數所不能及。法界虛空界等衆生。悉以無上教化調伏。成熟彼諸衆生心無疲厭。於彼不生疑惑。若生疑心無有是處。是爲第四除滅一切疑惑發無疑心。菩薩摩訶薩發如是心。我當成滿諸願。行菩薩行。出生一切智。安住一切智。於彼不生疑惑。若生疑惑無有是處。是爲第五除滅一切疑惑發無疑心。菩薩摩訶薩發如是心。我當爲一切世間行菩薩行。作大燈明普照佛法。於彼不生疑惑。若生疑惑無有是處。是爲第六除滅一切疑惑發無疑心。菩薩摩訶薩發如是心。我當說一切法悉是佛法。隨其所應化一切故。於彼不生疑惑。若生疑惑無有是處。是爲第七除滅一切疑惑發無疑心。菩薩摩訶薩發如是心。我當得無礙法門。除滅一切障礙。究竟逮得無上正覺。於彼不生疑惑。若生疑惑無有是處。是爲第八除滅一切疑惑發無疑心。菩薩摩訶薩發如是心。我當知一切世間法卽是出世間法。斷一切顚倒。以一莊嚴而自莊嚴。無所莊嚴。不由他悟。於彼不生疑惑。若生疑惑無有是處。是爲第九除滅一切疑惑發無疑心。菩薩摩訶薩發如是心。我當成等正覺。得一切智。永滅一切顚倒疑惑。成一念智。無二智。無所有智。無礙智。無爲智。無著智。不可說實際境界智。於彼不生疑惑。若生疑惑無有是處。是爲第十除滅一切疑惑發無疑心。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種除滅一切疑惑發無疑心。若菩薩摩訶薩安住此法。則於一切佛法得無疑心。佛子。菩薩摩訶薩有十種不可思議。何等爲十。所謂一切善根不可思議。一切願

解上同有是爲第二不可思議八字○發上同有是爲第三不可思議八字

無上宋明俱無悉字

淨下同無起字

不可思議．解一切法如幻不可思議．發菩提心修菩薩行．善根無所依住．而亦不失無所染著．是爲第四不可思議．深解一切法亦不滅度．一切諸願未成滿故．是爲第五不可思議．行菩薩行．示現受胎出生．出家苦行．往詣道場．降伏衆魔．成最正覺．轉正法輪．於一切法而得自在．示現大般涅槃．而亦不捨大願．大慈救護衆生．是爲第六不可思議．示現如來十力自在．而亦不捨法界等心．教化成熟一切衆生．是爲第七不可思議．解一切法無相有相．有相無相．非劫是劫．劫是非劫．非有是有．有是非有．非行是行．行是非行．非說是說．說是非說．是爲第八不可思議．解發菩提心與菩提等．解菩提與發菩提心等．解初發菩提心及菩提與一切衆生等．亦不生心顚倒．想顚倒．見顚倒．是爲第九不可思議．於念念中入滅盡三昧正受．滅一切漏而不證實際．又亦不盡有漏善根．知一切法無漏．亦知漏滅盡．知一切佛法是世間法．於佛法中不取世間相．於世間法中不取佛法相．一切諸法悉入法界．無所入故．解一切法悉無二．不變易故．佛子．是爲菩薩摩訶薩第十不可思議．若菩薩摩訶薩安住此法．則得如來不可思議法．佛子．菩薩摩訶薩．有十種巧方便微密語．何等爲十．所謂於一切經典巧方便微密語．於一切受生處巧方便微密語．覺一切菩薩神力自在巧方便微密語．於一切衆生業報巧方便微密語．於一切衆生垢淨起巧方便微密語．於一切法究竟無礙門巧方便微密語．於一切虛空界一一方面世界成壞無處不現巧方便微密語．於一切法界一切諸方乃至微細處現成等正覺如來充滿一切法界乃至示現大般涅槃悉分別見巧方便微密語．解一切衆生悉同涅槃無變易故而不捨大願乃至究竟滿足一切智願巧方便微密語．解一切法不由他悟而亦不離諸善知識恭敬如來隨順善知識修諸善根迴向善根善根安住善根相續善根同一善根一道善根一成就善根巧方便微密語．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種巧方便微密語．若菩薩摩訶薩安住此法．則得如來無上巧方便微密語

大方廣佛華嚴經卷第三十七

謂下三本俱無入字

住上同無安字

大方廣佛華嚴經卷第三十八

〔麗間〕〔宋道〕〔元道〕〔明間〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

離世間品第三十三之三

佛子.菩薩摩訶薩有十種巧方便分別智.何等爲十.所謂入一切佛刹巧方便分別智.入一切衆生處巧方便分別智.入一切衆生心心所行巧方便分別智.入一切衆生根巧方便分別智.入一切衆生諸行業報巧方便分別智.入一切聲聞行巧方便分別智.入一切緣覺行巧方便分別智.入一切菩薩行巧方便分別智.入一切世間法巧方便分別智.入一切佛法巧方便分別智.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種巧方便分別智.若菩薩摩訶薩.安住此法.則得一切諸佛無上巧方便分別智.佛子.菩薩摩訶薩有十種正受三昧.何等爲十.所謂一切世界正受三昧.一切衆生身正受三昧.一切法正受三昧.見一切諸佛正受三昧.善巧住持一切劫正受三昧.巧方便出生不可思議身正受三昧.一切如來身正受三昧.巧隨順覺一切衆生平等正受三昧.於一念中正受一切菩薩三昧.於一念中以無礙智具足成就一切菩薩行不捨大願善巧智慧正受三昧.佛子是爲菩薩摩訶薩十種正受三昧.若菩薩摩訶薩.安住此三昧.則得一切諸佛無上巧方便智正受三昧.佛子.菩薩摩訶薩.有十種一切處.何等爲十.所謂一切衆生處.一切佛刹處.一切衆生性處.一切火災處.一切水災處.一切佛處.一切出生莊嚴處.一切如來無量功德處.一切分別說法處.一切如來種種供養處.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種一切處.若菩薩摩訶薩安住此處.則得如來無上一切大智處.佛子.菩薩摩訶薩.有十種法門.何等爲十.所謂一身充滿一切世界法門.示現一切世界種種無量色法門.一切世界入一佛刹法門.住持一切衆生法門.如來莊嚴身充滿一切世界法門.徧至一切世界法門.於一念中遊行一切世界法門.於一佛刹示現一切如來出世法門.一身充滿一切法界法門.於一念中示現一切諸佛神力法門.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種法門.若菩薩摩訶薩住此法門.則得如來無

不上三本俱有不可說三字

三本俱佛子以下爲卷第三十九離世間品第三十三之三

說同作成就

染汙同作汙染

渡三本俱作度

上法門.佛子.菩薩摩訶薩有十種神通.何等爲十.所謂出生念宿命方便智通.出生無礙天耳方便智通.出生知一切衆生不可思議心心數法方便智通.出生無礙天眼觀察衆生方便智通.出生不可思議自在神力示現衆生方便智通.出生一身示現不可思議世界方便智通.出生於一念中往詣不可說世界方便智通.出生不可思議莊嚴具莊嚴一切世界方便智通.出生不可說不可說化身示現衆生方便智通.出生不可說世界成阿耨多羅三藐三菩提不可思議示現衆生方便智通.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種神通.若菩薩摩訶薩.安住此通.則得無上大方便智通.顯現諸佛自在神力.佛子.菩薩摩訶薩.有十種明.何等爲十.所謂出生知一切衆生業報方便智明.出生知一切衆生境界解脫寂滅淨心方便智明.出生入一切境界一切衆生種種決定一切法無所有金剛方便智明.出生不可思議淨妙音聲無量世界無不普聞方便智明.出生智慧除滅一切毀害染著方便智明.出生受生方便不受生方便方便智明.於一切境界轉諸受想方便智明.知一切法無性無非性.無相無非相.一性無性故.而於無量劫種種說法.修習善根成阿耨多羅三藐三菩提方便智明.知一切衆生生.亦知無生.知一切衆生滅.亦知無滅.知因知緣.知事知境界知行.知生知滅.知衆生說.知愚癡知離愚癡.知顛倒知非顛倒.知垢濁知清淨.知生死知涅槃.知有知無.知著知不著.知堅固知離.知轉知不轉.知起知不起.知壞知道知成就知根.知衆生受化.隨器應故.教化衆生.未曾忘失菩薩所行.何以故.菩薩摩訶薩發阿耨多羅三藐三菩提心.爲教化衆生故.是故菩薩摩訶薩.常化衆生.而不失菩薩行.身無疲倦.不違一切衆生.觀察緣起方便智明.不著諸刹不起著心.不著諸佛不起著心.不著一切法不起著心.不著世界不起著心.不著衆生不起著心.不見衆生.不化衆生.不調伏衆生.不爲衆生說法.而亦不捨菩薩行願.長養大悲.見一切佛.聽受正法未曾忘失.得佛依果種諸善根.於如來所不捨恭敬供養之心.增長恭敬供養之心.具足成就法界等心.自在神力六種震動不可思議無量世界.知種種說法.知衆生數.知種種衆生.知苦起知苦滅.知一切行苦.知一切行悉如電光.行菩薩行永斷一切生死根本.悉能救護一切衆生.行菩薩行無所染汙.不斷一切如來種性.發須彌山王心.不可傾動.除滅一切顛倒衆想.一懸智門悉現在前.不動不壞成等正覺.於生死海悉能濟渡一切衆生.方便智明.佛子.是爲菩薩摩訶

法及住下同有
解脫二字
作上同無而字

記宋明俱作說
十上三本俱無
有字

薩十種明。若菩薩摩訶薩安住此明。則得如來無上巧方便智明。佛子。菩薩摩訶薩。有十種解脫。何等爲十。所謂煩惱解脫。邪見解脫。熾然解脫。陰界入解脫。超出聲聞緣覺地解脫。無生法忍解脫。不著一切佛刹一切衆生一切諸法。住無量無邊諸菩薩住。離一切菩薩行。住如來地解脫。於一念中悉能了知一切三世諸法解脫。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種解脫。若菩薩摩訶薩住此解脫。則能普爲一切衆生。而作無上佛事。佛子。菩薩摩訶薩。有十種園林。何等爲十。所謂生死園林。行菩薩行不起憂惱故。教化衆生園林。不厭衆生故。一切劫園林。攝取菩薩一切大行故。淸淨世界園林。性無著故。一切魔宮殿園林。降魔境界故。聽受正法園林。正念觀察故。六波羅蜜四攝法三十七道品園林。修習慈父境界故。十力四無所畏乃至一切佛法園林。不念異法故。菩薩示現一切無量無邊功德神力園林。轉淨法輪調伏衆生故。於念念中爲一切衆生現成正覺園村。法身如虛空充滿一切世界平等覺故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種園林。若菩薩摩訶薩住此園林。則得如來無上離憂快樂園林。佛子。菩薩摩訶薩。有十種宮殿。何等爲十。所謂發菩薩心宮殿。不忘失故。十善業跡功德智慧宮殿。教化成熟欲界衆生。放四梵住處宮殿。教化成熟色界衆生故。淨居天受生宮殿。一切煩惱不能染故。無色界天受生宮殿。除滅衆生障難處故。降生不淨世界宮殿。欲令衆生斷一切煩惱故。現處深宮采女妻子色味宮殿。教化成熟本同行衆生故。現爲四天下王四大天王帝釋梵王宮殿。爲調伏自在心衆生故。一切菩薩神力自在令行宮殿。一切諸禪解脫三昧智慧自在故。於諸佛所受無上自在一切智王記宮殿。十力莊嚴行一切法自在法王事故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種宮殿。若菩薩摩訶薩安住此法。則得一切法王受記自在法。佛子。菩薩摩訶薩。有十種樂。何等爲十。所謂樂寂靜。不散亂故。樂明慧。善分別法故。樂往詣一切佛所。現前聞法受持故。樂一切佛。充滿十方故。樂菩薩自在神力。無量法門示現衆生身故。樂三昧。於一三昧門。生生一切三昧門故。樂陀羅尼門。持一切法。教化衆生。不忘失故。樂辯才。於一句身味身不可說劫說無窮盡故。樂菩薩。以無量法門。現衆生等身。成正覺故。樂轉法輪。如法調伏一切外道故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種樂。若菩薩摩訶薩。安住此樂。則得一切諸佛無上法樂。佛子。菩薩摩訶薩。有十種莊嚴。何等爲十。所謂力莊嚴。不可壞故。無畏莊嚴。不生恐怖故。義莊嚴。說不可說義法門無窮

切下三本俱無諸字

盡故。法莊嚴。說八萬四千法藏不忘失故。願莊嚴。一切菩薩願事不退轉故。行莊嚴。究竟普賢菩薩行故。佛剎莊嚴。受持一切佛剎爲一佛剎故。妙音莊嚴。雨大甘露法。充滿一切佛剎故。受持莊嚴。於一切劫。行菩薩行。不斷絕故。變化莊嚴。於一衆生身。示現一切衆生等身。一切衆生無不知見。專求十力一切智不退轉故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種莊嚴。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切諸佛無上莊嚴。佛子。菩薩摩訶薩有十種發不動心。何等爲十。所謂一切所有皆悉能捨發不動心。出生一切諸佛正法發不動心。恭敬供養一切諸佛發不動心。等心觀察一切衆生發不動心。攝取一切衆生發不動心。一向專求一切佛法未曾休息發不動心。一切衆生等劫修菩薩行發不動心。成就有根信不濁信離垢信明淨信恭敬供養一切佛信不退轉信不壞信發不動心。具足成就究竟一切智發不動心。成就一切菩薩諸行發不動心。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種發不動心。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得無上一切智不動心。佛子。菩薩摩訶薩。有十種不捨深心。何等爲十。所謂覺一切佛菩提不捨深心。教化成熟一切衆生不捨深心。不斷一切諸佛種性不捨深心。親近善知識不捨深心。於一切佛剎恭敬供養一切諸佛不捨深心。專求大乘及一切功德不捨深心。於一切佛所修行梵行護持淨戒不捨深心。攝取一切菩薩不捨深心。聞持一切佛法不捨深心。修習一切菩薩行願一向專求一切佛法不捨深心。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種不捨深心。若菩薩摩訶薩安住此法。則得一切諸佛不捨深心正法。佛子。菩薩摩訶薩有十種智觀察。何等爲十。所謂智慧觀察善巧分別一切諸法。智慧觀察三世一切善根。智慧觀察一切菩薩行神力自在。智慧觀察一切諸法巧方便門。智慧觀察一切佛持。智慧觀察一切陀羅尼門。智慧觀察一切世界常說正法。智慧觀察深入一切法界。智慧觀察十方一切世界不可思議。智慧觀察一切佛法。智慧觀察無障礙智。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種智觀察。若菩薩摩訶薩安住此法。則得如來無上大智觀察。佛子。菩薩摩訶薩有十種分別法。何等爲十。所謂分別一切法悉從緣起。分別一切法皆悉如幻。分別一切法皆悉無諍。分別一切法無量無邊。分別一切法無所依止。分別一切法悉如金剛。分別一切法悉是如來。分別一切法皆悉寂靜。分別一切法悉是正道。分別一切法悉是一相一義。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種分別法。若菩薩摩訶薩。安住此法則得巧方便悉能分別一切

諸法。佛子。菩薩摩訶薩有十種無垢。何等爲十。所謂深心無垢。除滅疑惑無垢。遠離邪見無垢。境界無垢。欲得一切智無垢。諸辯無垢。無畏無垢。一切菩薩所住無垢。一切菩薩正受三昧無垢。三十二相百福莊嚴成就一切諸白淨法究竟逮得無上菩提無垢。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種無垢。若菩薩摩訶薩安住此法。則得一切佛無上無垢法。佛子。菩薩摩訶薩有十種智印。何等爲十。所謂菩薩摩訶薩知苦苦。變易苦。行苦。不生懈怠修菩薩行。一向專求無上菩提。不恐不怖不驚不畏。不捨大願菩提之心。堅固不退究竟阿耨多羅三藐三菩提。是爲第一印。一切凡夫衆生悉有煩惱顚倒惑亂。彼諸衆生麁鄙惡言訶罵菩薩。或以刀杖瓦石而加害之。菩薩爾時心無憂惱。修菩薩行正向菩提。修習忍法受證離生。是爲第二印。菩薩摩訶薩。聞甚深佛法讚一切智。聞已一向信解。是爲第三印。菩薩摩訶薩。作如是念。我發菩提心。究竟成就阿耨多羅三藐三菩提。一切衆生流轉五道受無量苦。我當令彼皆大歡喜。勤行精進修習善根。度生死流永得安樂。是爲第四印。菩薩摩訶薩。解如來智無量無邊。而未與如來等。於如來所聞無量無邊智。於文字中分別解了與如來等。是爲第五印。菩薩摩訶薩成就善欲。不可壞欲。甚深欲。勝欲。功德欲。莊嚴欲。無比欲。無上欲。堅固欲。究竟正求無上菩提一切衆魔外道及其眷屬不能壞欲。不退無上菩提欲。是爲第六印。菩薩摩訶薩不惜身命無所怖畏。修菩薩行發菩提心趣一切智。得一切佛智慧光明。不捨佛菩提。不捨善知識。是爲第七印。菩薩摩訶薩。若善男子善女人。學大乘者。長養諸佛善根。安住善根。攝取一切智。心不退菩提。是爲第八印。菩薩摩訶薩令一切衆生。住平等心。修一切智。爲衆生說法。悉令不退無上菩提。長養大悲。是爲第九印。菩薩摩訶薩。隨順三世諸佛一切善根。紹繼佛種生一切智。是爲第十印。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種智印。若菩薩摩訶薩。成就此印。疾得阿耨多羅三藐三菩提。具足如來無上智印。佛子。菩薩摩訶薩。有十種智慧光明。何等爲十。所謂菩薩摩訶薩。於阿耨多羅三藐三菩提決定智慧光明。見一切佛智慧光明。見一切衆生死此生彼智慧光明。開悟一切衆生。悉令正求修多羅法智慧光明。依善知識。發菩提心。長養善根智慧光明。示現一切諸佛智慧光明。化一切衆生。悉令成熟安住佛地智慧光明。分別解說不思議法智慧光明。於一切佛神力住持善巧方便智慧光明。滿足一切波羅蜜智慧光明。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種智慧

法三本俱作行

光明。若菩薩摩訶薩安住此法。則得一切佛法無上智慧光明。佛子。菩薩摩訶薩。有十種不可稱量住。一切衆生及聲聞緣覺不能稱量。何等爲十。所謂菩薩摩訶薩。住實際住至不受證一切所願未成滿故。是爲第一菩薩住不可稱量。菩薩摩訶薩。種如法界等淸淨善根。於彼善根無所染著。是爲第二菩薩住不可稱量。菩薩摩訶薩。解菩薩行猶如變化。一切諸法皆悉寂滅。於諸佛法不生疑惑。是爲第三菩薩住不可稱量。菩薩摩訶薩。離生死心。於不可說劫修菩薩行。滿一切大願。而不中起厭怠之心。是爲第四菩薩住不可稱量。菩薩摩訶薩。住一切法無所依止。皆悉寂滅而不證涅槃。一切智道未成滿故。是爲第五菩薩住不可稱量。菩薩摩訶薩。知一切劫非劫而實說一切劫。是爲第六菩薩住不可稱量。菩薩摩訶薩。知一切法非行。而不捨道行正求佛法。是爲第七菩薩住不可稱量。菩薩摩訶薩。解心是三界心是三世。了知彼心無量無邊。是爲第八菩薩住不可稱量。菩薩摩訶薩。爲一衆生故。於不可說劫修菩薩行。欲令安住一切智地。如一衆生。一切衆生亦復如是。不生厭心。是爲第九菩薩住不可稱量。菩薩摩訶薩。雖具足滿菩薩諸行。而不取正覺。何以故。菩薩摩訶薩。作如是念。我不受正覺故行菩薩行。於無量劫中。無量衆生。悉令安住無上菩提。是爲第十菩薩住不可稱量。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切佛法無上大智不可稱量住。佛子。菩薩摩訶薩。有十種發無懈怠心。何等爲十。所謂菩薩摩訶薩。作如是念。我降伏一切魔及其眷屬。發無懈怠心。如法調伏一切外道。發無懈怠心。說深妙法令一切衆生皆悉歡喜。發無懈怠心。滿足一切法界等諸波羅蜜。發無懈怠心。令一切衆生積集成滿一切功德藏。發無懈怠心。一切如來無上菩提。彌廣大事甚難成滿。我當修菩薩行具足成就。發無懈怠心。以無上法敎化調伏一切衆生。悉令成就。發無懈怠心。於一切世界種種異色無量莊嚴成熟正覺。發無懈怠心。菩薩摩訶薩。發如是心。我修菩薩行時。若有衆生來求我身。或求手足耳鼻血肉骨髓妻子象馬國土。如是等類皆悉能捨。乃至不生一念悔心。悉能惠施。饒益安樂一切衆生。不求果報。大慈悲心以爲上首。發無懈怠心。菩薩摩訶薩。作如是念。於一念中。三世一切佛。一切佛法。一切衆生。一切刹。一切世界。一切空界。一切法界。一切施設語界。一切寂滅涅槃界。如是等一切諸法。以一念相應慧。悉別相覺知。明了修。分別修。知智斷證。於一切法不取虛空。無一無異無所分別無所修習。無境界無

切下元明俱有無字　智及衆上三本俱有界字　五上下三本俱有功德二字○慧下同有增上功德四字　悉明作切

所有。無二智慧。覺一切二。無相智慧。覺一切相。無劫智慧。覺一切劫。無異智慧。覺一切異。光明智慧。覺一切世間光明界。趣智慧。覺一切世界。非世智慧。覺一切世。衆生地智慧。覺一切衆生界。無著智慧。究竟無著行。無堅固智慧。覺一切堅固無染智慧。覺一切煩惱。無盡際智慧。覺一切盡。法界等智慧。於一切世界示現其身。離一切言音智慧。出生一切微妙言音。一性智慧。說無性法。一境智慧。示現種種諸異境界。覺不可說諸法智慧。示現無量大自在神變。覺一切地智慧。顯現大自在神變。一切智自在神變。敎化成熟一切衆生。發無懈怠心。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種發無懈怠心。若菩薩摩訶薩安住此心。則得一切諸佛無上無懈怠法。佛子。菩薩摩訶薩。有十種須彌山王正直之心。何等爲十。所謂菩薩摩訶薩。常修正念一切智法。是爲第一決定阿耨多羅三藐三菩提須彌山王正直之心。菩薩摩訶薩。觀察一切法空。一切法無所有。是爲第二決定阿耨多羅三藐三菩提須彌山王正直之心。菩薩摩訶薩。於無量無數劫。行菩薩行。以一切具足白淨法。發心決定。了知如來無量智法。趣向積聚諸白淨法。是爲第三決定阿耨多羅三藐三菩提須彌山王正直之心。菩薩摩訶薩。爲一切佛法等心恭敬供養諸善知識。不起疑心不求利養。又復遠離盜法之心。但起無上恭敬供養一切施心。是爲第四決定阿耨多羅三藐三菩提須彌山王正直之心。菩薩摩訶薩。若一切衆生訶責罵辱。生一切苦。乃至奪命。菩薩摩訶薩。不因此故捨菩提心。心亦不散。不生恚心。於一切衆生不捨大悲。莊嚴長養大悲。何以故。菩薩摩訶薩。成就一切法如如捨故。決定了知如來大忍法故。是爲第五決定阿耨多羅三藐三菩提須彌山王正直之心。菩薩摩訶薩。成就增上功德。天增上功德。人增上功德。色增上功德。力增上。眷屬增上。欲增上。王法增上。自在增上。智慧。彼菩薩不著味樂。不著欲樂。不著財樂。不著眷屬樂。但專求正法諦。滿正法諦。辯正法。究竟正法。向正法燈明。向正法救護。向正法歸依。向正法道。向正法義。樂求正法樂。住寂靜法。菩薩摩訶薩。雖成就如是一切快樂。而悉遠離衆魔境界。何以故。菩薩摩訶薩。於過去世發如是心。令一切衆生。皆悉遠離衆魔境界。住佛境界。是爲第六決定阿耨多羅三藐三菩提須彌山王正直之心。菩薩摩訶薩。勤修精進。正求阿耨多羅三藐三菩提。於阿僧祇劫修菩薩行。猶謂我今初發阿耨多羅三藐三菩提心。亦不驚不怖不畏。行菩薩行。雖能速成正覺。爲化衆生故。於無量劫修菩薩行。

是爲第七決定阿耨多羅三藐三菩提須彌山王正直之心。菩薩摩訶薩。知一切衆生難伏難度。不知恩不知報恩。爲彼衆生故。發大莊嚴而自莊嚴。欲令一切衆生。心得自在隨意境界。不生惡心。不於他所生煩惱心。是爲第八決定阿耨多羅三藐三菩提須彌山王正直之心。菩薩摩訶薩。作如是念。我不依他發菩提心修菩薩行。都無有人助我修習菩薩之行。但我一身盡未來際劫修菩薩苦行。積集一切諸佛正法。成阿耨多羅三藐三菩提。身自清淨。亦令一切衆生清淨。自知境界知他境界。我當悉同三世諸佛境界。是爲第九決定阿耨多羅三藐三菩提須彌山王正直之心。菩薩摩訶薩。如是知見。無有一法修菩薩行。無有一法滿菩薩行。無有一法調伏衆生。無有一法化度衆生。不見有法恭敬供養一切諸佛。不見有法過去成阿耨多羅三藐三菩提。不見有法未來成阿耨多羅三藐三菩提。不見有法現在成阿耨多羅三藐三菩提。無有一法過去說法未來說法現在說法。無有一法能說法者亦無法可說。而菩薩摩訶薩。不捨阿耨多羅三藐三菩提大願之心。何以故。菩薩摩訶薩。如是出生阿耨多羅三藐三菩提。深入一切甚深諸法行。無所有行。而此菩薩摩訶薩。修習積聚善業善根。清淨一切諸對治法。智慧成滿。於念念中悉能積集。長養一切諸善根法。若一切法無所有者。我有何義求無上道。是故不生恐怖驚畏之心。是爲第十決定阿耨多羅三藐三菩提須彌山王正直之心。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種須彌山王正直之心。若菩薩摩訶薩。安住此心。則得一切諸佛無上智慧須彌山王正直之心。佛子。菩薩摩訶薩。有十種深入智慧大海。成阿耨多羅三藐三菩提。何等爲十。所謂入無量一切衆生界。是爲第一深入智慧大海成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。入一切世界不取虛妄。是爲第二深入智慧大海成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。知一切虛空界等入十方一切世界。無所障礙。是爲第三深入智慧大海成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。善入法界。入無礙。入不斷。入不常。入無量。入不生。入不滅。入知一切。是爲第四深入智慧大海成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。於過去未來現在諸佛菩提法師聲聞緣覺。及一切衆生所種善根。過去諸佛已成無上菩提善根。未來諸佛當成無上菩提善根。現在諸佛今成無上菩提善根。過去諸佛說法教化調伏成熟衆生善根。未來諸佛說法教化調伏成熟衆生善根。現在諸佛說法教化調伏成熟衆生善根。菩薩摩訶薩。皆悉隨喜。

長養積集如是等一切善根。心無厭足。是爲第五深入智慧大海成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。於念念中入過去世。觀察不可說劫。於一劫中。或百億佛出興于世。或千億佛。百千億佛。無量佛。阿僧祇佛。不可思議佛。不可稱量佛。無分齊佛。無邊際佛。不可說。不可說佛。算數譬諭所不及佛。出興于世。彼諸如來。及其眷屬菩薩大衆。諸聲聞僧說法敎化。壽命住持。種種法住。如一劫中。一切諸劫亦復如是。若無佛劫中。有諸衆生。爲阿耨多羅三藐三菩提所種善根。亦悉了知。又覩衆生種見佛善根得値未來無量諸佛。如是觀察過去一切劫而無厭足。是爲第六深入智慧大海。成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。入未來世觀察一切劫。知劫有佛知劫無佛。知彼諸劫各有幾佛出興于世。世界如來名號何等。又知所度衆生多少。亦知如來壽命長短。如是入未來世一切諸劫。分別了知而無厭足。是爲第七深入智慧大海成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。入現在世。觀察十方一切世界。無量無邊不可說不可說諸世界中。一切如來捨家學道往詣道場。菩提樹下藉菩提草結跏趺坐。降魔官屬。成阿耨多羅三藐三菩提已。起入城邑昇天宮殿。說微波法轉正法輪。調伏敎化無量衆生。現如來無量自在神力付囑阿耨多羅三藐三菩提。乃至捨壽入無餘涅槃。如來滅後。大衆普會結集經藏。護持正法令久住世。爲舍利故起無量塔。種種莊嚴恭敬供養。又化衆生。令見諸佛聽受正法。憶念護持智慧觀察。長養勝趣深心充滿無量法界。於一切佛法而無錯謬。何以故。菩薩摩訶薩。知一切如來皆悉如夢。而能往詣一切佛所。恭敬供養。不著自身不著佛身。不著世界不著大衆。不著聞法不著諸劫。見佛聞法觀察世界。解一切劫而無厭足。是爲第八深入智慧大海成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。於不可說不可說劫。恭敬供養無量諸佛。於一一劫中。恭敬供養不可說不可說佛。示現沒此生彼。以出三界衆供養具。供養諸佛菩薩大衆及聲聞僧。諸佛滅後。以無上供具供養舍利。廣行大施。滿足一切衆生意願。所行大施不可思議。不求果報。爲哀愍饒益攝取衆生。於不可說不可說劫。恭敬供養一切諸佛。護持正法化度衆生。成阿耨多羅三藐三菩提。而無厭足。是爲第八深入智慧大海成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。於一切佛所。一切菩薩所。一切法師所。一向專求敎菩薩法。菩薩威儀。菩薩隨順法。菩薩淸淨法。菩薩長養法。菩薩調伏法。菩薩平等法。菩薩出生道。受持菩薩陀羅尼門。攝取一

切衆生。而爲說法調伏成熟。令不可說不可說衆生。發一切智心。得不退轉。住阿耨多羅三藐三菩提。隨順修習一切佛法。教化衆生而無厭足。是爲第十深入智慧大海成阿耨多羅三藐三菩提。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種深入智慧大海成阿耨多羅三藐三菩提。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切諸佛無上智慧大海

大方廣佛華嚴經卷第三十八

大方廣佛華嚴經卷第三十九

〔麗問〕〔宋道〕〔元道〕〔明問〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅 譯

離世間品第三十三之四

佛子。菩薩摩訶薩。有十種寶住成阿耨多羅三藐三菩提。何等爲十。所謂菩薩摩訶薩。悉能往詣無量阿僧祇世界諸如來所。恭敬禮拜親近供養。是爲菩薩摩訶薩第一寶住成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。於不可思議諸如來所。聞法受持正念不忘。智慧分別長養勝趣。出生智慧充滿十方。是爲菩薩摩訶薩第二寶住成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。不離此土而於異刹示現受生。於一切佛法心不惑亂。是爲菩薩摩訶薩第三寶住成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。出生一法別相分別知一切法。一切諸法究竟無一無異義故。是爲菩薩摩訶薩第四寶住成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。知息煩惱知離煩惱知斷煩惱。而善住修習菩薩諸行。不證實際。竟究到於實際彼岸。善學成就巧妙方便。本願成滿心無疲厭。是爲菩薩摩訶薩第五寶住成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。知一切衆生心無處所。而說衆生心有處所。無著無行。修菩薩行化度衆生。是爲菩薩摩訶薩第六寶住成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。知一切法一性。所謂無性。無一無異無來無去。不可稱量不可讚歎。悉無實性。以一異求皆不可得。而菩薩摩訶薩。決定了知此是佛法。是菩薩法是緣覺法是聲聞法是凡夫法。是善法是不善法。是世間法是出世間法。是染汙法是不染汙法。是有漏法是無漏法。乃至是有爲法是無爲法。是爲菩薩摩訶薩第七寶住成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。求佛不可得。求菩薩不可得。求法不可得。求衆生不可得。而亦不捨本願。教化一切衆生。成無上道。何以故。菩薩所修善根。欲令一切成無上道。善知衆生善根。善知衆生境界。善知教化衆生。善知一切衆生涅槃。修菩薩行。欲令一切大願成滿。是爲菩薩摩訶薩第八寶住成阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩。隨其所應。善巧說法而調伏之。巧妙方便示現涅槃。知

三本俱佛子以下爲卷第四十離世間品第三十三之四

實非虛亦非顚倒.而安住三世菩薩正法.不離如如不住實際.亦不見衆生.亦不見衆生已受化今受化當受化.解我所行非爲虛妄.解了無有乃至一法可求得者.無生滅故.而菩薩所願皆悉不虛.無所依止.是爲菩薩摩訶薩第九寶住成阿耨多羅三藐三菩提.菩薩摩訶薩.於不可思議諸佛.一一佛所聞.不可說不可說授記法.名號各異劫數不同.從一劫中次第聞法.乃至不可說不可說劫聞受記法.聞是法已.不驚不怖不畏.行菩薩行心無疑惑.解如來智不可思議.如來所說言無有二.本願滿足隨應受化.令成阿耨多羅三藐三菩提.滿一切願了達法界.是爲菩薩摩訶薩第十寶住成阿耨多羅三藐三菩提.若菩薩摩訶薩.安住此法.則得一切諸佛阿耨多羅三藐三菩提大智慧寶.佛子.菩薩摩訶薩.有十種發金剛心莊嚴大乘.何等爲十.所謂菩薩摩訶薩.作如是念.一切諸法無有分際.不可究竟.菩薩發如是心.我當覺了三世一切諸法.悉無有餘.是爲菩薩摩訶薩第一發金剛心莊嚴大乘.菩薩摩訶薩.作如是念.於一毛端處.有無量無邊不可數菩薩.何況一切法界耶.菩薩發如是心.我當發大莊嚴而自莊嚴.化度衆生.皆令我阿耨多羅三藐三菩提.以大般涅槃而般涅槃.是爲菩薩摩訶薩第二發金剛心莊嚴大乘.菩薩摩訶薩.作如是念.十方世界無量無邊無有分際.菩薩發如是大願.我當以無上清淨莊嚴.莊嚴此等一切世界.彼諸莊嚴皆實不虛.是爲菩薩摩訶薩第三發金剛心莊嚴大乘.菩薩摩訶薩.作如是念.衆生無量無邊無有分際.不可窮盡.菩薩發如是心.我當以諸善根廻向一切衆生.以無上大智慧光.普照一切衆生.是爲菩薩摩訶薩第四發金剛心莊嚴大乘.菩薩摩訶薩.作如是念.一切諸佛無量無邊不可窮盡.菩薩發如是心.我所種善根廻向.奉給供養一切諸佛.然後我乃成等正覺.是爲菩薩摩訶薩第五發金剛心莊嚴大乘.菩薩摩訶薩.見一切佛.聞所說法.發大歡喜心.不著自身及如來身.解知佛身非實非虛.非有非無.非有性非無性.非色非無色.非相非無相.非生非滅.解知如來實無所有.亦不壞有相.何以故.一切攝取故.是爲菩薩摩訶薩第六發金剛心莊嚴大乘.菩薩摩訶薩.若有衆生訶罵毀辱.或截手足耳鼻.或挑其目或級其頭.菩薩不因此故生恚害心.於不可說不可說劫.修菩薩行.攝取衆生心不廢捨.何以故.菩薩摩訶薩.住不二法.善學菩薩所學清淨直心.於一切衆生無瞋恚心.忍住衆苦心無加報.自身堪受一切衆苦.是爲菩薩摩訶薩第七發金剛心莊

言三本俱作得

善上同有菩薩二字

姓明作性

所下三本俱有生字

嚴大乘。菩薩摩訶薩。作如是念。未來世劫無量無邊。無有分際不可窮盡。菩薩發如是心。我當盡一切未來世法界虛空界等劫。於一世界行菩薩道教化衆生。如一世界。盡法界虛空界等一切世界。亦復如是。心亦不驚不怖不畏。行菩薩行。何以故。菩薩法應如是。爲一切衆生修菩薩行。是爲菩薩摩訶薩第八發金剛心莊嚴大乘。菩薩摩訶薩。作如是念。阿耨多羅三藐三菩提。以心爲本。心淸淨故。能積集成滿一切善根。若心得自在。則能成就無上菩提。行菩薩行滿足諸願。究竟教化一切衆生。是爲菩薩摩訶薩第九發金剛心莊嚴大乘。菩薩摩訶薩。知佛不可得。菩提不可得。菩薩不可得。一切法不可得。衆生不可得。心不可得。行不可得。過去不可得。未來現在不可得。一切衆生不可得。有爲無爲不可得。菩薩摩訶薩。如是住寂靜。住甚深。住寂滅。住無諍。住不可言。住無二。住無等。住眞實。住成就。住解脫。住涅槃。住實際。而亦不捨一切大願。不捨發一切智心。不捨修菩薩行。不捨教化衆生。不捨恭敬供養諸佛。不捨說法。不捨莊嚴一切世界。何以故。菩薩摩訶薩。出生大願故。善知如是法相。長養大悲無量功德。攝取衆生。不捨衆生。一切諸法無有眞實。凡愚衆生不知不覺。一切諸佛安住寂滅。演說正法教化衆生。不捨大悲。一切衆生。未得菩提。佛法未足。大願未滿。我本請一切衆生。爲無上大法施主。唱實語不虛語。一切諸佛種姓語。發大願門心。發饒益一切衆生心。發長養一切善根心。發安住善巧方便心。發內身含受一切衆生心。發一切衆生所平等心。令一切衆生所願成滿。我當云何未度衆生而捨大悲。是爲菩薩摩訶薩第十發金剛心莊嚴大乘。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種發金剛心莊嚴大乘。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切諸佛無上金剛智明。佛子。菩薩摩訶薩。有十種發大事。何等爲十。所謂恭敬供養一切諸佛。是爲菩薩摩訶薩第一發大事。長養一切菩薩善根。是爲菩薩摩訶薩第二發大事。一切如來滅度之後。悉取舍利起無量塔。種種妙寶以爲莊嚴。以一切華一切鬘一切香一切塗香一切末香一切衣一切蓋一切幢一切幡。而供養之。受持守護諸佛正法。是爲菩薩摩訶薩第三發大事。教化成熟一切衆生。令得阿耨多羅三藐三菩提。是爲菩薩摩訶薩第四發大事。以諸佛剎無上淸淨莊嚴。莊嚴一切世界。是爲菩薩摩訶薩第五發大事。菩薩摩訶薩。作如是念。我當爲一衆生。於一一世界盡未來際阿僧祇劫修菩薩行。如爲一衆生。爲一切衆生。亦復如是。出生大悲。令一切衆生安住菩提。

授明作受下同

乃至不生一念疲厭之心。是爲菩薩摩訶薩第六發大事。我當於不可思議阿僧祇劫。恭敬供養彼諸如來。是爲菩薩摩訶薩第七發大事。彼諸如來滅度之後。我當悉取舍利而起塔廟。其塔高廣。能不可說諸世界等。造如來像。巍巍高大。如不可思議世界。於不可思議劫。以衆妙寶幢幡繒蓋華香而供養之。乃至不生一念休息之心。敎化衆生。受持守護讚歎正法。亦無一念休息之心。是爲菩薩摩訶薩第八發大事。修習彼諸善根。成阿耨多羅三藐三菩提。悉與一切諸如來等。逮得一切諸如來地。是爲菩薩摩訶薩第九發大事。我成菩提已。於一切世界不可說劫。說微妙法。示現如來不可思議自在神變。其身口意未曾暫生疲厭之想。但發專念正法之心。如來力心。充滿一切衆生願心。大慈悲心。觀察諸法眞實之心。安住實語證寂滅法。一切衆生悉不可得。而亦不違一切諸業。隨順三世一切諸佛。究竟一切法界虛空界。觀察諸法無所有相。不生不滅。具足成就一切諸佛無上大願。施作一切諸佛大事。悉能化度一切衆生。是爲菩薩摩訶薩第十發大事。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種發大事。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切諸佛無上智慧。不斷一切菩薩所行。佛子。菩薩摩訶薩。有十種究竟大事。何等爲十。所謂恭敬供養一切如來。究竟大事。隨所請衆生皆悉度脫。究竟大事。專求一切諸佛正法。究竟大事。長養一切善根。究竟大事。出生一切諸如來法。究竟大事。成滿一切淸淨大願。究竟大事。行一切菩薩行。究竟大事。恭敬奉事一切善知識。究竟大事。往詣一切世界佛所。究竟大事。聞持一切諸佛正法。深入一切諸佛大衆。究竟大事。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種究竟大事。若菩薩摩訶薩。安住此法則得阿耨多羅三藐三菩提究竟智慧大事。佛子。菩薩摩訶薩。有十種不壞信。何等爲十。所謂於一切佛不壞信。於一切佛法不壞信。於一切聖僧不壞信。於一切菩薩不壞信。於一切善知識不壞信。於一切衆生不壞信。於一切菩薩大願不壞信。於一切菩薩行不壞信。恭敬供養一切諸佛不壞信。敎化一切衆生成就菩薩巧妙方便不壞信。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種不壞信。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切諸佛無上智慧不可壞信。佛子。菩薩摩訶薩。有十種授記。何等爲十。所謂專求解脫菩薩授記。諦滿諦辯菩薩善根菩薩授記。廣行菩薩無量諸行菩薩授記。現前菩薩授記。祕密菩薩授記。因自心得菩提菩薩授記。得法忍菩薩授記。敎化成熟衆生菩薩授記。究竟一切劫菩薩授記。一切菩薩自在修行菩

佛法三本俱作諸佛

生下宋有出生二字

薩授記佛子．是爲菩薩摩訶薩十種授記．若菩薩摩訶薩．安住此法．則於一切佛所而得授記．佛子．菩薩摩訶薩．有十種善根迴向．何等爲十．所謂一切善根迴向同善知識願．一切善根迴向同善知識正直心．一切善根迴向同善知識行．一切善根迴向同善知識善根．一切善根迴向隨順善知識善根．一切善根迴向同善知識正念．一切善根迴行同善知識淸淨．一切善根迴向同善知識住．一切善根迴向同善知識入成滿平等．一切善根迴向同善知識不壞深心．若如是同則無異同．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種善根迴向．若菩薩摩訶薩．安住此法．則得一切無上善根迴向．佛子．菩薩摩訶薩．有十種得智慧．何等爲十．所謂於一切施自在智慧．樂一切佛法解脫自在智慧．深入一切如來無量無邊自在智慧．隨問能答滅一切疑自在智慧．深解實義自在智慧．解一切如來巧妙方便深入一切諸佛解脫自在智慧．解一切佛所種少善根．必能滿足一切白淨善根出生如來一切智自在智慧．具足成就菩薩不思議住自在智慧．於一念中悉能往詣不可說佛所自在智慧．覺悟一切諸佛菩提深入一切法界聞持一切佛法深入一切如來莊嚴語言自在智慧．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種得智慧．若菩薩摩訶薩．安住此法．則得一切如來無上自在智慧．佛子．菩薩摩訶薩．有十種發無量無邊廣心．何等爲十．所謂發無量無邊廣心於一切佛．發無量無邊廣心度脫一切衆生．發無量無邊廣心令一切衆生一切世一切刹悉入法界．發無量無邊廣心觀一切法悉如虛空．發無量無邊廣心觀察一切菩薩諸行．發無量無邊廣心正念三世一切諸佛發無量無邊廣心了達不可思議諸業果報．發無量無邊廣心嚴淨一切諸如來刹．發無量無邊廣心深入一切如來大衆發無量無邊廣心觀察一切如來妙音．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種發無量無邊廣心．若菩薩摩訶薩．安住此心．則得一切佛法無量無邊智慧大海．佛子．菩薩摩訶薩．有十種藏．何等爲十．所謂分別數知一切法藏．出生一切法藏．普照一切陀羅尼法藏．分別解脫一切法辯藏．於一切法覺不可說巧方便藏．示現一切佛自在力大神變藏．於一切法出生平等巧方便藏．不離常見一切佛藏．入不思議劫皆悉如幻巧方便藏．於一切諸佛菩薩歡喜恭敬藏．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種藏．若菩薩摩訶薩．安住此藏．則得一切諸佛大智慧藏．悉能度脫一切衆生．佛子．菩薩摩訶薩．有十種調順．何等爲十．所謂不謗一切佛法調順．於一切佛信不可壞調順．尊

界下同有一切二字
莊明作端
震同作振
想元明俱作相

重恭敬一切菩薩調順.親近一切善知識調順.遠離一切聲聞緣覺調順.長養菩薩一切三昧調順.平等觀察一
切衆生調順.究竟成滿一切善根調順.悉能降伏一切諸魔調順.成滿一切波羅蜜調順.佛子.是爲菩薩摩訶薩
十種調順.若菩薩摩訶薩.安住此法.則得無上大智調順.佛子.菩薩摩訶薩.有十種自在.何等爲十.所謂壽命自
在.無量無邊不可說劫住持壽命故.心自在.出生阿僧祇三昧入深智故.莊嚴自在.以大莊嚴悉能莊嚴一切刹
故.業自在.隨時受報故.受生自在.於一切刹示現生故.解脫自在.見一切世界諸佛充滿故.願自在.隨時隨刹成
菩提故.神力自在.示現一切大神變故.法自在.示現無量無邊法門故.智自在.於念念中示現覺悟如來十力無
所畏故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種自在.若菩薩摩訶薩.安住此法.則得一切諸佛菩薩究竟成滿一切智自在.
佛子.菩薩摩訶薩.有十種自在.何等爲十.所謂衆生自在.刹自在.法自在.身自在.願自在.境界自在.智自在.通自
在.神力自在.力自在.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種自在.佛子.何等爲菩薩摩訶薩衆生自在.佛子.菩薩摩訶薩.有
十種衆生自在.何等爲十.所謂度脫一切衆生自在.持一切衆生想自在.爲一切衆生說法未曾失時自在.變化
一切衆生自在.安置一切衆生於一毛道而不迫迮自在.於一切世界一切衆生中示現爲王自在.於一切衆生
中示現帝釋梵王自在.於一切衆生中示現聲聞緣覺不轉威儀自在.於一切衆生中示現行菩薩行自在.於一
切衆生中示現佛身相好莊嚴覺悟一切智力自在.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種衆生自在.佛子.菩薩摩訶薩.有
十種刹自在.何等爲十.所謂令一切刹爲一刹自在.令一切刹入一毛道自在.於一切刹深入無盡方便自在.於
一切刹示現一身結跏趺坐充滿自在.令一切刹現入己身自在.神力震動一切佛刹不令衆生恐怖自在.以一
切刹莊嚴莊嚴一刹示現自在.以一刹莊嚴莊嚴一切刹示現自在.一如來身及其眷屬皆悉充滿一切佛刹示
現衆生自在.一切刹小刹中刹大刹廣刹深刹翻覆刹俯刹仰刹平正刹以此等刹示現衆生自在.佛子.是爲菩
薩摩訶薩.十種刹自在.佛子.菩薩摩訶薩.有十種法自在.何等爲十.所謂一切法卽是一法.一法卽是一切法.而
不違衆生法相自在.般若波羅蜜出生一切法.覺悟一切衆生.無不了知自在.於一切法悉離法想.普令衆生入
勝法自在.一切諸法入一方便.分別解說無量方便自在.一切諸法言語道斷.而能演說無量法門自在.於一切

毛上三本俱有切字
雷下同有音字○澍同作注
生下同有境界二字
法同作決

法巧方便.轉普門法輪無盡自在.一切諸法入一法門.於不可說劫.分別解說不可窮盡自在.一切法悉入佛法殊勝衆生自在.一切法示現無量無邊自在.一切法無礙實際無量無邊猶如幻網.於無量劫爲衆生說不可窮盡自在.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種法自在.佛子.菩薩摩訶薩.有十種身自在.何等爲十.所謂令一切衆生入己身自在.己身示現一切衆生身自在.一切佛身示現一佛身自在.一佛身示現一切佛身自在.一切剎置己身內自在.一法身充滿三世示現衆生自在.一身入三昧無量身起三昧自在.一身成最正覺示現衆生等身自在.一切衆生身作一衆生身示現一切衆生身自在.一切衆生身示現法身法身示現一切衆生身自在.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種身自在.佛子.菩薩摩訶薩.有十種願自在.何等爲十.所謂一切菩薩願卽是己願願自在.以一切佛願力菩提示現衆生願自在.隨其所應悉令成就阿耨多羅三藐三菩提願自在.於不可數阿僧祇劫大願不斷願自在.遠離識身不著智身而示現一切身願自在.不捨己事而能成滿一切他事願自在.教化成熟一切衆生令不退轉願自在.於一切阿僧祇劫修菩薩行未曾斷絕願自在.於一毛道成等正覺願力充滿一切佛剎.爲一一衆生示現不可說不可說世界願自在.說一句法.法雲普覆一切法界.震實法雷耀明解脫電光澍甘露法雨.充滿一切衆生心願願自在.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種願自在.佛子.菩薩摩訶薩.有十種境界自在.何等爲十.所謂菩薩在法界境界而示現在衆生境界.在佛境界而示現在衆魔境界.在涅槃境界而不離生死境界.在一切智境界而不離菩薩境界.在寂滅境界而不捨散亂衆生境界.在離一切虛妄境界而不離虛妄境界.在莊嚴力境界而示現非一切智境界.在無衆生實際境界而不捨化度一切衆生境界.在諸禪三昧解脫通明智離欲境界而示現一切世界受生在如來行菩提莊嚴境界而示現聲聞緣覺寂靜威儀境界.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種境界自在.佛子.菩薩摩訶薩.有十種智自在.何等爲十.所謂無盡辯智自在.不惑一切陀羅尼智自在.法定知一切衆生諸根智自在.於一念中以無礙心智悉知一切衆生心心數法智自在.知一切衆生心心使煩惱習氣隨病對治法智自在.於一念中深入如來十力智自在.無礙智知三世衆生隨時度脫智自在.於一念中成等正覺示現一切衆生智自在.於一衆生想了達一切衆生業行智自在.於一衆生音聲示現一切衆生音聲智

成下元明俱有就字

帝上同有四王二字

自在。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種智自在。佛子。菩薩摩訶薩。有十種通自在。何等爲十。所謂一切世界示現身一身境界通自在。於一如來大衆中坐聽受正法。悉能聞持一切諸佛大衆會法通自在。於一衆生一念境界成不可說無上菩提。一切衆生無不知者通自在。出一妙音皆能充徧一切世界。出生一切音聲各各別異。一切衆生無不開解通自在。於一念中示現盡過去際劫。一切衆生諸業果報無不知者通自在。令一切世界皆悉莊嚴通自在。觀察三世平等通自在。出生一切諸佛菩提及衆生願。放大法光明通自在。一切天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽帝釋梵王及一切聲聞緣覺諸菩薩等悉恭敬尊重善能護持諸如來力一切善根通自在。佛子。略說菩薩平等觀察一切諸法通自在。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種通自在。佛子。菩薩摩訶薩。有十種神力自在。何等爲十。所謂以不可說世界入一微塵神力自在。於一微塵中顯現一切法界等一切佛刹神力自在。於一毛孔皆悉容受一切大海。能持遊行一切世界。不令衆生有恐怖心神力自在。以一切世界內己身中。悉能顯現一切衆事神力自在。以一毛繫不可思議金剛圍山。悉持遊行一切世界。不令衆生有恐怖心神力自在。不可說劫示現一劫。一劫示現不可說諸成敗劫。不令衆生有恐怖心神力自在。於一切世界示現水火風災成敗。不令衆生有恐怖心神力自在。一切世界水火風災壞時。悉能住持一切衆生資生之具神力自在。以不可思議世界置於掌中。遠擲他方過不可說世界。不令衆生有恐怖心神力自在。令一切衆生解一切佛刹猶如虛空神力自在。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種神力自在。佛子。菩薩摩訶薩。有十種力自在。何等爲十。所謂衆生力自在。不捨衆生敎化調伏故。佛刹力自在。以不可說莊嚴具莊嚴顯現諸佛刹故。法力自在。令一切身入無身故。劫力自在。不斷一切菩薩行故。佛力自在覺悟生死長寢衆生故。行力自在。攝取一切菩薩行故。如來力自在。度脫一切衆生故。無師智力自在。自然覺悟一切法故。一切智力自在。一切智人智覺悟故。大悲力自在。不捨一切衆生故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種力自在。佛子。是爲菩薩摩訶薩衆生自在等十種自在。若菩薩摩訶薩。成就此十種自在者。欲成無上菩提不成無上菩提自在隨意。雖成菩薩而亦不斷菩薩諸行。何以故。菩薩摩訶薩。出生諸大願故。善巧方便示現無量自在法門。佛子。菩薩摩訶薩。有十種遊戲神通。何等爲十。所謂菩薩摩訶薩。於衆生

亦元明俱作示

出上三本俱無界字

身作佛刹身．而不壞衆生身．是爲第一遊戲神通．菩薩摩訶薩．於佛刹身作衆生身．而不離佛刹身．是爲第二遊戲神通．菩薩摩訶薩．於佛身示現聲聞緣覺身．而不減如來身．是爲第三遊戲神通．菩薩摩訶薩．於聲聞緣覺身示現如來身．而不增長聲聞緣覺身是爲第四遊戲神通．菩薩摩訶薩．於菩薩身．示現無上菩提身．而不捨菩薩行．是爲第五遊戲神通．菩薩摩訶薩．於無上菩提身示現菩薩身．而不減菩提身．是無第六遊戲神通．菩薩摩訶薩．於涅槃界示現生死相續不絕．而不著涅槃界．是爲第七遊戲神通．菩薩摩訶薩．於生死界．示現涅槃界．[亦不究竟無餘涅槃．是爲第八遊戲神通．菩薩摩訶薩．正受三昧行住坐臥現諸威儀．而不捨於正受三昧是．爲第九遊戲神通．菩薩摩訶薩．於一佛所聞法受持．悉能往詣不可說佛所．聽受正法而不離本坐．亦不分身不起三昧．念念於一一三昧身門．出生不可說不可說三昧身門．一切諸劫猶可窮盡．菩薩出生三昧身門．不可窮盡．是爲第十遊戲神通．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種遊戲神通．若菩薩摩訶薩．安住此法．則得一切諸佛無上大智遊戲神通．佛子．菩薩摩訶薩．有十種勝行．何等爲十．所謂一切法界以無量方便門普現衆生勝行．以無量莊嚴莊嚴一切世界普現衆生勝行．知出生一切衆生界皆悉如化勝行．於如來身出生菩薩身於菩薩身出生如來身勝行．於虛空界出生世界於世界出生虛空界勝行．於生死界出生涅槃界於涅槃[界出生生死界勝行．於一衆生音聲出生一切佛法音聲勝行．於無量身門示現一身於一身門示現分別一切諸身勝行．以一身充徧一切世界勝行．於一念中令一切衆生出生無量無邊法門成等正覺勝行．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種勝行．若菩薩摩訶薩．安住此行．則得一切諸佛無上大智勝行．佛子．菩薩摩訶薩．有十種力．何等爲十．所謂直心力．於一切世界無染著故．深心力．不壞一切諸佛法故．方便力．究竟菩薩一切行故．智慧力．知一切衆生諸心行故．願力．令一切衆生願滿足故．行力．盡一切未來際劫不斷絕故．乘力．出生普現一切諸乘不轉大乘故．遊戲神通力．於一毛道示現一切清淨世界一切如來出興世故．菩提力．覺悟菩提與一切衆生念等故．轉法輪力．於一句法說一切衆生希望諸根故．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種力．若菩薩摩訶薩．安住此力．則得一切諸佛一切智無上十力．佛子．菩薩摩訶薩．有十種無畏．何等爲十．所謂菩薩摩訶薩．悉能聞持一切問難．作如是念．十方一切世界有來問．我

授明作受○才
三本俱作等

若不能答.無有是處.乃至不見微畏之相.不見微畏相故.菩薩究竟一切無畏.安住無畏.一切衆生隨其所問.悉斷疑惑.是爲第一無畏.菩薩摩訶薩.一切語言音聲.一切文字如來授記無礙辯才.究竟彼岸.作如是念.十方世界一切衆生來問難.我若不能答.無有是處.乃至不見微畏之相.不見微畏相故.悉能除滅一切疑惑.安住無畏.是爲第二無畏.菩薩摩訶薩.知一切法空.離我我所.無造無造者.無知者無命者.無長養者無福伽羅.離陰界入.離諸邪見.心如虛空.作如是念.一切衆生若能令我起身口意惡.無有是處.何以故.菩薩常離我我所故.若生怖畏無有是處.乃至不見微畏之相.不見微畏相故.行菩薩行不可沮壞.是名第三無畏.菩薩摩訶薩.爲諸佛所護.成如來力行如來行.如來威儀未曾轉易.作如是念.若有能來訶我威儀.無有是處.乃至不見微畏之相.不見微畏相故.於大衆中說微妙法.是爲第四無畏.菩薩摩訶薩.身口意淨遠離衆惡.作如是念.若有能來訶我身口意惡.無有是處.乃至不見微畏之相.不見微畏相故.悉能教化一切衆生.是爲第五無畏.菩薩摩訶薩.金剛力士常隨侍衛.一切天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽帝釋梵王等.常隨侍衛尊敬供養.一切諸佛常護念之.菩薩作如是念.一切衆魔眷屬及諸外道.有見衆生來詣我所.能障礙我無上菩提.無有是處.乃至不見微畏之相.不見微畏相故.安住無畏.歡喜修行菩薩行業.是爲第六無畏.菩薩摩訶薩.離癡正念隨如來生.成就第一意根.作如是念.一切諸佛所說正法.句身味身隨順菩提.我若不能如法受持.無有是處.乃至不見微畏之相.不見微畏相故.受持守護如來正法.是爲第七無畏.菩薩摩訶薩.具足成就巧方便智慧.究竟菩薩諸力彼岸.清淨直心教化衆生.發大菩提願.於衆生所起大悲故.於煩惱濁世而現受生.現受五欲畜養妻子及諸眷屬.爲化衆生故.菩薩復作是念.我雖在此.不生惑亂障於菩提解脫三昧法門辯才.若能障礙無有是處.何以故.菩薩於一切法而得自在.究竟彼岸修菩薩行安住菩提.一切世間受生惑亂所不能亂.若能惑亂無有是處.乃至不見微畏之相.不見微畏相故.於一切世界.示現受生.是爲第八無畏.菩薩摩訶薩.捨離愚癡.知一切智.住菩薩道乘於大乘住一切智.心力示現聲聞緣覺不改威儀.菩薩作如是念.我終不證聲聞辟支佛道.我若受證無有是處.乃至不見微畏之相.不見微畏相故.安住無畏.悉能示現一切諸乘.具足究竟平等大乘.是爲第九無畏.菩薩

摩訶薩．成就一切諸白淨法．積集善根．成滿一切諸願通明．堅住菩提．具足成滿菩薩諸行．於一切佛所．頂受如來一切智記．敎化衆生不捨菩薩行．作如是念．其有衆生應受化者．若不能應時示現如來境界．無有是處．乃至不見微畏之相．不見微畏相故．安住無畏．隨受化者．普爲應現如來境界．而亦不斷菩薩願行．是爲第十無畏．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種無畏．若菩薩摩訶薩．安住此法．則得一切諸佛無上無畏．而亦不捨菩薩無畏．

大方廣佛華嚴經卷第三十九

離世間品第三十三之四

（岡山製本）

大正六年十月十九日印刷
大正六年十月二十二日發行
大正七年九月二十九日再版發行
昭和三年一月二十日三版發行

國譯大藏經 經部 第六卷

【非賣品】

編輯兼發行者 國民文庫刊行會
東京市神田區小川町一番地

右代表者 鶴田久作
東京市本郷區西片町十番地

印刷者 君島潔
東京市小石川區久堅町百八番地

印刷所 共同印刷株式會社
東京市小石川區久堅町百八番地

發行所 國民文庫刊行會
電話神田 一五三五番
　　　　 一八三八番
振替東京一八五七二番

國民文庫刊行會